



講義內容 2012

全学共通科目

宗教教育科目・教養教育科目
保健体育科目

「日本語」・「日本事情」科目

随意科目

教職課程・資格講座科目

講 義 内 容

目次案内

I. 全学共通科目	
1. 宗教教育科目	… (2)
2. 教養教育科目	
(1) 人文分野	… (4)
(2) 社会分野	… (7)
(3) 自然分野	… (8)
(4) 総合分野	… (11)
3. 保健体育科目	… (12)
II. 「日本語」・「日本事情」科目	… (16)
III. 随意科目	… (17)
IV. 教職課程・資格講座科目	… (18)

※科目の並び順は、科目名の 50 音順、担当教員氏名の 50 音順でソートされています。

※全学共通科目の外国語科目、専門教育科目は別冊になっています。

(この冊子は平成 24 年 3 月 1 日現在の情報を元に作成しています。)

I. 全学共通科目

1. 宗教教育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
坐禅	熊本 英人 池上 光洋	206451	5
坐禅	熊本 英人 池上 光洋	206551	6
坐禅	角田 泰隆 池上 光洋	206401	6
坐禅	角田 泰隆 池上 光洋	206501	7
自然と宗教	小川 順敬	206101	8
社会と宗教	矢野 秀武	206201	9
仏教と人間	新井 一光	205101	10
仏教と人間	栗谷 良道	203001	10
仏教と人間	飯塚 大展	204001	11
仏教と人間	池上 光洋	205001	11
仏教と人間	池上 光洋	205121	12
仏教と人間	池上 良正	202801	13
仏教と人間	池田 練太郎	204401	13
仏教と人間〔再クラス〕	石井 公成	206001	14
仏教と人間	石井 修道	203801	14
仏教と人間〔再クラス〕	伊藤 良久	205801	15
仏教と人間	岩永 正晴	203501	15
仏教と人間	岡部 雅明	204701	16
仏教と人間	小川 順敬	202701	17
仏教と人間〔再クラス〕	奥野 光賢	205701	18
仏教と人間	片山 一良	203901	18
仏教と人間	金沢 篤	203401	19
仏教と人間〔再クラス〕	木村 誠司	341601	19
仏教と人間	熊本 英人	202501	20
仏教と人間	熊本 英人	205601	20
仏教と人間	佐藤 秀孝	204301	21
仏教と人間	佐藤 憲昭	203201	22
仏教と人間	菅原 壽清	204501	23
仏教と人間	須藤 寛人	203301	23
仏教と人間	清野 宏道	205401	24
仏教と人間	竹内 弘道	203101	25
仏教と人間	角田 泰隆	205501	25
仏教と人間	程 正	204011	26
仏教と人間	徳野 崇行	203601	26
仏教と人間	永井 政之	203701	27
仏教と人間	長谷部 八朗	202601	28
仏教と人間	藤井 淳	205201	29
仏教と人間	藤井 淳	205301	30
仏教と人間	松田 陽志	204021	31
仏教と人間	松本 史朗	341801	32
仏教と人間	村松 哲文	204801	32

宗教教育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
仏教と人間	村松 哲文	205111	33
仏教と人間	矢野 秀武	202901	34
仏教と人間	山本 元隆	204201	35
仏教と人間〔再クラス〕	吉津 宣英	205901	35
仏教と人間	吉村 誠	204901	36
仏教と人間	四津谷 孝道	341901	37
仏教と人間	渡部 正英	204601	38
仏教と人間	渡邊 幸江	204101	39
文化と宗教	長谷部 八朗	206301	39

2. 教 養 教 育 科 目

(1) 人 文 分 野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
科学史〔科学と技術〕	高橋 秀裕	210401	45
科学史〔近代科学の成立と展開〕	高橋 秀裕	210501	45
キャリアを考えるⅠ	岡崎 洋	169611	46
キャリアを考えるⅠ	岡崎 洋	169621	47
キャリアを考えるⅠ	岡崎 洋	169631	48
キャリアを考えるⅡ	岡崎 洋	169661	49
キャリアを考えるⅡ	岡崎 洋	169671	50
キャリアを考えるⅡ	岡崎 洋	169681	51
芸術学〔音楽〕	浦本 裕子	208601	52
芸術学〔日本美術〕	北野 良枝	208401	52
芸術学〔西洋美術〕	矢野 陽子	208501	53
実務表現	内藤 寿子	360801	54
実務表現	萩原 義雄	360901	55
実務表現	湯浅 陽子	361001	56
宗教学〔比較宗教文化〕	池上 良正	211201	57
宗教学〔世界観と儀礼〕	小川 順敬	211401	58
宗教学〔生活と宗教〕	菅原 壽清	211511	59
宗教学〔聖と俗〕	田中 かの子	211301	60
宗教学〔比較宗教文化〕	田中 かの子	342401	60
宗教学〔民俗宗教の諸相〕	宮田 義矢	211521	61
宗教学〔日本人の宗教〕	矢野 秀武	211501	62
人文地理学〔空間と行動〕	伊藤 修一	211901	63
人文地理学〔空間と行動〕	伊藤 慎悟	211801	64
人文地理学〔風土と文化〕	櫻井 明久	211701	65
人文地理学〔風土と文化〕	山口 太郎	211601	66
哲学〔西洋思想の源流〕	河谷 淳	208901	67
哲学〔現代文明と人間〕	久保 陽一	209501	68
哲学〔現代文明と人間〕	黒崎 剛	209301	69
哲学〔近代の人間観と世界観〕	小島 優子	209201	69
哲学〔西洋思想の源流〕	佐藤 暁	208801	70
哲学〔近代の人間観と世界観〕	佐藤 暁	209101	70
哲学〔近代の人間観と世界観〕	佐藤 暁	343201	70
哲学〔現代文明と人間〕	鈴木 聡	343301	71
哲学〔西洋思想の源流〕	滝口 清栄	208701	71
哲学〔現代文明と人間〕	滝沢 正之	209401	72
哲学〔西洋思想の源流〕	滝沢 正之	343101	73
哲学〔近代の人間観と世界観〕	古田 知章	209001	74
日本語文化基礎	萩原 義雄	358901	75
日本語文化基礎	湯浅 陽子	358911	76
日本語文化研究Ⅰ	萩原 義雄	170901	77
日本語文化研究Ⅰ	湯浅 陽子	215721	78
日本語文化研究Ⅱ	萩原 義雄	360601	79
日本語文化研究Ⅱ	湯浅 陽子	360701	80
日本文化基礎	小林 治	358401	81
日本文化基礎	坂口 博規	358101	81

教養教育科目 人文分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
日本文化基礎	鈴木 裕子	358001	82
日本文化基礎	藺部 幹生	357901	82
日本文化基礎	藺部 幹生	358201	83
日本文化基礎	松田 直行	358501	84
日本文化基礎	湯浅 陽子	358301	85
日本文化基礎	湯浅 陽子	358601	86
日本文化研究ⅠA	坂口 博規	169701	87
日本文化研究ⅠA	坂口 博規	171101	87
日本文化研究ⅠA	鈴木 裕子	171201	88
日本文化研究ⅠA	藺部 幹生	172001	88
日本文化研究ⅠB	小林 治	170201	89
日本文化研究ⅠB	小林 治	175501	89
日本文化研究ⅠB	内藤 寿子	215731	90
日本文化研究ⅠB	松田 直行	215711	91
日本文化研究ⅡA	坂口 博規	359201	92
日本文化研究ⅡA	鈴木 裕子	359101	93
日本文化研究ⅡA	藺部 幹生	359301	94
日本文化研究ⅡB	小林 治	359801	94
日本文化研究ⅡB	内藤 寿子	359951	95
日本文化研究ⅡB	松田 直行	359701	96
日本文化研究ⅡB	松田 直行	359901	97
日本文化テーマ研究A	鈴木 裕子	168911	98
日本文化テーマ研究A	萩原 義雄	168901	99
日本文化テーマ研究B	鈴木 裕子	169011	100
日本文化テーマ研究B	萩原 義雄	169001	101
日本文化テーマ研究C	坂口 博規	169101	102
日本文化テーマ研究C	藺部 幹生	169111	102
日本文化テーマ研究D	坂口 博規	169201	103
日本文化テーマ研究D	藺部 幹生	169211	103
日本文化テーマ研究E	小林 治	169311	104
日本文化テーマ研究E	内藤 寿子	169301	104
日本文化テーマ研究F	小林 治	169411	105
日本文化テーマ研究F	内藤 寿子	169401	105
日本文化テーマ研究G	松田 直行	169501	106
日本文化テーマ研究H	松田 直行	169601	107
フレッシュマンセミナー	小林 治	357701	107
フレッシュマンセミナー	坂口 博規	357401	108
フレッシュマンセミナー	鈴木 裕子	357301	108
フレッシュマンセミナー	藺部 幹生	357501	109
フレッシュマンセミナー	内藤 寿子	357001	110
フレッシュマンセミナー	萩原 義雄	357101	111
フレッシュマンセミナー	松田 直行	357801	112
フレッシュマンセミナー	湯浅 陽子	357201	113
フレッシュマンセミナー	湯浅 陽子	357601	114
フレッシュマンセミナー	湯浅 陽子	357811	115
文学〔日本文学〕	阿部 昌子	342601	116
文学〔日本文学〕	池田 大輔	342501	117
文学〔日本文学〕	伊藤 達氏	342701	117
文学〔日本文学〕	川島 淳史	206701	118
文学〔日本文学〕	坂口 博規	206901	119

教養教育科目 人文分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
文学〔日本文学〕	塩崎 真理子	206601	119
文学〔日本文学〕	鈴木 裕子	207001	120
文学〔英語文学〕	高野 秀夫	207301	120
文学〔日本文学〕	内藤 寿子	207701	121
文学〔日本のことば〕	萩原 義雄	207201	122
文学〔ラテンアメリカ文学〕	真下 祐一	207401	123
倫理学〔価値観〕	麻生 享志	210801	124
倫理学〔応用倫理学〕	黒崎 剛	210701	124
倫理学〔応用倫理学〕	黒崎 剛	211111	125
倫理学〔東洋倫理〕	末木 恭彦	211101	126
倫理学〔人生と倫理〕	末木 恭彦	343701	127
倫理学〔制度とモラル〕	滝口 清栄	211001	128
倫理学〔応用倫理学〕	滝沢 正之	210901	128
倫理学〔人間観〕	古田 知章	210601	129
倫理学〔現代と倫理〕	古田 知章	343601	130
歴史学〔日本近世史〕	小高 昭一	208201	131
歴史学〔日本史〕	小松 寿治	208301	131
歴史学〔日本中世史〕	鈴木 将典	207801	132
歴史学〔中国史概観〕	高橋 康浩	342901	133
歴史学〔東アジア考古学〕	千葉 基次	207901	134
歴史学〔アジア史概観〕	奈良 修一	343001	134
歴史学〔日本史〕	林 彰	342801	135
歴史学〔西洋近代史〕	土方 史織	208101	135
歴史学〔禅の歴史と地域社会〕	廣瀬 良弘	208001	136
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	麻生 享志	343501	136
論理学〔知の技法〕	伊古田 理	210001	137
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	伊古田 理	343401	137
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	河谷 淳	210101	138
論理学〔知の技法〕	小島 優子	210201	139
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	鈴木 聡	209601	139
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	鈴木 聡	209801	140
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	滝口 清栄	209901	140
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	山口 祐弘	209701	141

(2) 社会分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
教育学〔アス・エデュケーション〕	柳堀 素雅子	219501	145
教育心理〔大学生の心理〕	石橋 達也	219601	146
経済学〔現代経済と人間〕	貝塚 亨	219101	147
経済学〔現代経済と人間〕	貝塚 亨	345001	147
経済学〔現代社会と市場経済〕	畠中 貴	219001	148
経済学〔現代経済理解へのガイド〕	福田 慎	219201	149
社会科学論〔社会認識の思想〕	枝松 正行	345101	150
社会科学論〔社会認識の思想〕	大石 雄爾	219401	151
社会学〔現代社会を考える〕	呉 炳三	215901	152
社会学〔現代文化を考える〕	呉 炳三	216001	153
社会学〔社会生活を考える〕	呉 炳三	216301	154
社会学〔現代文化を考える〕	武山 梅乗	216101	155
社会学〔社会生活を考える〕	武山 梅乗	216201	155
社会学〔現代文化を考える〕	橋爪 敏	344301	156
社会学〔現代社会を考える〕	藤本 隆史	215801	156
社会学〔現代社会を考える〕	藤本 隆史	344201	157
政治学〔社会生活とデモクラシー〕	白鳥 浩	218701	157
政治学〔政治システムと政治参加〕	富崎 隆	218801	158
政治学〔政治システムと政治参加〕	真下 英二	344801	159
政治学〔国際社会と日本〕	山崎 望	218901	160
政治学〔国際社会と日本〕	山村 恒雄	344901	161
統計学〔社会現象の統計的決定〕	新行内 康慈	216501	162
統計学〔社会現象の統計的決定〕	新行内 康慈	345201	163
統計学〔社会現象の統計的分析〕	松田 慎一	216401	164
文化人類学〔社会変化と価値観〕	内山 明子	217301	164
文化人類学〔社会変化と価値観〕	内山 明子	217401	165
文化人類学〔社会変化と価値観〕	小川 順敬	217201	166
文化人類学〔文化と人間〕	加藤 之晴	216801	167
文化人類学〔文化と人間〕	川上 新二	344401	167
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	杉井 純一	216901	168
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	杉井 純一	344501	168
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	鈴木 一馨	217101	169
文化人類学〔文化と人間〕	森 雅文	216701	170
文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕	森 雅文	217001	171
法学・憲法〔法と権利〕	天野 聖悦	218501	172
法学・憲法〔法と権利〕	池田 実	218601	172
法学・憲法〔法と社会生活〕	鷄徳 啓登	217701	173
法学・憲法〔法と国家〕	新田 浩司	218101	173
法学・憲法〔法と国家〕	新田 浩司	218201	174
法学・憲法〔法と社会生活〕	長谷川 日出世	217501	174
法学・憲法〔法と権利〕	長谷川 日出世	217901	175
法学・憲法〔法と社会生活〕	長谷川 日出世	344701	175
法学・憲法〔法と社会生活〕	山下 愛仁	217801	176
法学・憲法〔法と国家〕	山中 倫太郎	218401	177
法学・憲法〔法と社会生活〕	和知 恵一	217601	178

(3) 自然分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
宇宙科学〔星と銀河〕	篠原 正雄	223201	181
宇宙科学〔星と銀河〕	篠原 正雄	223301	181
化学〔衣食住の化学〕	持丸 真里	223001	182
化学〔衣食住の化学〕	持丸 真里	223101	183
科学基礎論	奥山 康男	220111	184
科学基礎論	熊坂 さつき	219701	185
科学基礎論	佐藤 昌憲	219801	185
科学基礎論	名古 安伸	220101	186
科学基礎論	原田 和正	220001	187
科学基礎論	森口 央基	219901	187
化学序論	山本 裕右	228001	188
基礎化学	原田 和正	227501	188
基礎数学	森口 央基	227701	189
基礎物理学	佐藤 昌憲 小川 雅生	227401	189
コンピュータ応用〔コンピュータの原理〕	坂野井 和代	225801	190
コンピュータ応用〔コンピュータの原理〕	坂野井 和代	225901	191
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小川 健次郎	223601	191
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小川 健次郎	224101	192
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小川 健次郎	224801	192
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小川 健次郎	224901	192
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小沢 誠	223701	193
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小沢 誠	224201	193
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	小沢 誠	225001	194
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	金尾 美穂	223801	194
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	金尾 美穂	224301	195
コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕	金尾 美穂	345701	196
コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕	金尾 美穂	345901	197
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	坂野井 和代	225201	198
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	坂野井 和代	225601	198
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	坂野井 和代	225701	199
コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕	坂野井 和代	345801	199
コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕	坂野井 和代	346001	200
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	谷本 玲大	223401	201
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	谷本 玲大	223901	203
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	谷本 玲大	224401	205
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	谷本 玲大	224601	207
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	長坂 浩史	224701	209
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	山本 博信	223501	210
コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕	山本 博信	224001	211
自然環境論〔地球・太陽系環境〕	坂野井 和代	221501	212
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	221801	212
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	221901	213
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	222001	213
自然環境論〔宇宙から見た地球環境〕	篠原 正雄	346301	214
自然環境論〔生命と環境〕	中村 敏枝	221701	215
自然環境論〔生命と環境〕	持丸 真里	221301	216
自然環境論〔生命と環境〕	持丸 真里	221401	217

教養教育科目 自然分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
自然環境論〔生命と環境〕	持丸 真里	221601	218
自然環境論〔生命と環境〕	山縣 毅	221101	219
自然環境論〔生命と環境〕	山縣 毅	221201	220
自然環境論〔生命と環境〕	山縣 毅	346401	221
自然誌〔現代の自然像〕	篠原 正雄 山縣 毅 持丸 真里	222201	222
自然誌〔現代の自然像〕	篠原 正雄 山縣 毅 持丸 真里	222301	222
情報処理技術	近藤 啓介	227601	223
情報処理技術	近藤 啓介	227621	223
情報数学〔情報と論理〕	小沢 誠	222701	224
情報数学〔情報と論理〕	小沢 誠	346501	225
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	加藤 博己	226401	226
心理学〔人間関係を考える〕	加藤 博己	226801	227
心理学〔人間関係を考える〕	小室 央允	226601	228
心理学〔人間関係を考える〕	小室 央允	226901	228
心理学〔心を科学する〕	小室 央允	227301	228
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	杉山 雅美	226501	229
心理学〔人間関係を考える〕	鈴木 順一	226701	229
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	鈴木 順一	345301	230
心理学〔人間関係を考える〕	鈴木 順一	345401	231
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	高橋 良博	226201	232
心理学〔心を科学する〕	高橋 良博	227001	232
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	桑原 正修	226301	233
心理学〔心を科学する〕	堀内 正彦	227101	233
心理学〔心を科学する〕	堀内 正彦	227201	234
人類学〔人類の進化〕	馬場 悠男	226001	234
人類学〔人類の進化〕	馬場 悠男	226101	235
数学〔微積分学入門〕	小沢 誠	222401	236
数学〔線型代数学入門〕	小沢 誠	222501	237
数学〔現代数学入門〕	福田 賢一	222601	238
数学序論	森口 央基	227851	238
生物学〔生態と進化〕	大槻 涼	220301	239
生物学〔生態と進化〕	大槻 涼	345501	240
生物学〔生態と進化〕	中村 敏枝	220201	241
生物学〔生物と環境〕	中村 敏枝	220401	242
生物学〔生物と環境〕	中村 敏枝	345601	243
生命科学	持丸 真里	227901	244
地球科学〔自然景観の成り立ち〕	市川 清士	220901	244
地球科学〔自然景観の成り立ち〕	市川 清士	221001	245
地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕	加藤 潔	220501	245
地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕	加藤 潔	346101	246
地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕	加藤 潔	346201	246
地球科学〔地球システムと人間圏〕	守屋 和佳	220701	247
地球科学〔地球の変遷・生命の進化〕	山縣 毅	220601	248
地球科学〔地球の変遷・生命の進化〕	山縣 毅	220801	249
物理学〔光と物質〕	篠原 正雄	222801	250
物理学〔光と物質〕	篠原 正雄	222901	250

教養教育科目 自然分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
物理学序論Ⅰ 物理学序論	鳥山 保	227801・227802	251
物理学序論Ⅱ	佐藤 昌憲	227811	252

(4) 総合分野

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
総合Ⅰ〔仏教と社会〕	熊本 英人	228201	255
総合Ⅰ〔仏教と芸術〕	村松 哲文	228301	255
総合Ⅱ〔駒澤大学の歴史〕	熊本 史雄 皆川 義孝 廣瀬 良弘 佐々木 真 中村 淳 大城 道則 小泉 雅弘	228401	256
総合Ⅲ〔フランスとフランコフォニー〕	東 辰之介	228901	257
総合Ⅲ〔人権と社会問題〕	ピアス, D. M.	228701	258
総合Ⅳ〔新市民社会論〕	西村 祐子	229101	259
総合Ⅳ〔現代アメリカ事情〕	林 明人	229001	260
総合Ⅴ〔イギリスの歴史と文化〕	石原 孝哉	229301	260
総合Ⅵ〔民族とは何か〕	大野 祐二	229601	261
総合Ⅵ〔フェミニズム・ジェンダー〕	大橋 史恵	229801	261
総合Ⅶ〔都市論〕	内海 麻利 中西 正彦 早川 純貴 村上 暁信 真鍋 陸太郎	230001	262

3. 保健体育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
健康・スポーツ実習(ジョギング)	内山 雅博	194501	265
健康・スポーツ実習(サッカー)	大森 酉三郎	194501	266
健康・スポーツ実習(卓球)	下谷内 勝利	194501	267
健康・スポーツ実習(ダブルダッチ)	末次 美樹	194501	268
健康・スポーツ実習(室内球技)	鈴木 淳平	194501	269
健康・スポーツ実習(空手道)	高橋 俊介	194501	270
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	舘岡 儀秋	194501	271
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	194501	272
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	194501	273
健康・スポーツ実習(ジョギング)	内山 雅博	194601	274
健康・スポーツ実習(テニス)	江口 淳一	194601	275
健康・スポーツ実習(サッカー)	大森 酉三郎	194601	276
健康・スポーツ実習(簡化太極拳)	末次 美樹	194601	277
健康・スポーツ実習(室内球技)	鈴木 淳平	194601	278
健康・スポーツ実習(空手道)	高橋 俊介	194601	279
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	舘岡 儀秋	194601	280
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	194601	281
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	194601	282
健康・スポーツ実習(ソフトボール)	内山 雅博	194701	283
健康・スポーツ実習(テニス)	江口 淳一	194701	284
健康・スポーツ実習(サッカー)	大森 酉三郎	194701	285
健康・スポーツ実習(卓球)	下谷内 勝利	194701	286
健康・スポーツ実習(キックボクササイズ)	末次 美樹	194701	287
健康・スポーツ実習(室内球技)	鈴木 淳平	194701	288
健康・スポーツ実習(空手道)	高橋 俊介	194701	289
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	194701	290
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	194701	291
健康・スポーツ実習(卓球)	秋田 浩一	194801	292
健康・スポーツ実習(ミニサッカー)	岩本 哲也	194801	293
健康・スポーツ実習(テニス)	江口 淳一	194801	294
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	鈴木 淳平	194801	295
健康・スポーツ実習(空手道)	高橋 俊介	194801	296
健康・スポーツ実習(室内球技)	高島 瑠依	194801	297
健康・スポーツ実習(ソフトボール)	山口 良博	194801	298
健康・スポーツ実習(サッカー)	岩本 哲也	194901	299
健康・スポーツ実習(テニス)	江口 淳一	194901	300
健康・スポーツ実習(室内球技)	高島 瑠依	194901	301
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	舘岡 儀秋	194901	302
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	194901	303
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	194901	304
健康・スポーツ実習(卓球)	秋田 浩一	195001	305
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	鈴木 淳平	195001	306
健康・スポーツ実習(室内球技)	高島 瑠依	195001	307
健康・スポーツ実習(トレーニング)	光永 吉輝	195001	308
健康・スポーツ実習(体操・トランポリン)	柳 浩二郎	195001	309
健康・スポーツ実習(ソフトボール)	山口 良博	195001	310
健康・スポーツ実習(卓球)	秋田 浩一	195011	311
健康・スポーツ実習(ゴルフ)	鈴木 淳平	195011	312

保健体育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
健康・スポーツ実習 (空手道)	高橋 俊介	195011	313
健康・スポーツ実習 (ソフトボール)	館岡 儀秋	195011	314
健康・スポーツ実習 (室内球技)	山口 良博	195011	315
健康・スポーツ実習 (卓球)	秋田 浩一	195101	316
健康・スポーツ実習 (室内球技)	坂尾 知昭	195101	317
健康・スポーツ実習 (トレーニング)	柳 浩二郎	195101	318
健康・スポーツ実習 (卓球)	秋田 浩一	195201	319
健康・スポーツ実習 (ミニサッカー)	岩本 哲也	195201	320
健康・スポーツ実習 (室内球技)	坂尾 知昭	195201	321
健康・スポーツ実習 (室内球技)	岩本 哲也	195301	322
健康・スポーツ実習 (卓球)	坂尾 知昭	195301	323
健康・スポーツ実習 (ゴルフ)	館岡 儀秋	195301	324
健康・スポーツ実習 (トレーニング)	柳 浩二郎	195301	325
健康・スポーツ実習 (サッカー)	秋田 浩一	195401	326
健康・スポーツ実習 (テニス)	江口 淳一	195401	327
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195401	328
健康・スポーツ実習 (体操・トランポリン)	竹田 幸夫	195401	329
健康・スポーツ実習 (室内球技)	椿原 徹也	195401	330
健康・スポーツ実習 (トレーニング)	光永 吉輝	195401	331
健康・スポーツ実習 (テニス)	江口 淳一	195501	332
健康・スポーツ実習 (卓球)	末次 美樹	195501	333
健康・スポーツ実習 (空手道)	高橋 俊介	195501	334
健康・スポーツ実習 (体操・トランポリン)	竹田 幸夫	195501	335
健康・スポーツ実習 (室内球技)	椿原 徹也	195501	336
健康・スポーツ実習 (トレーニング)	光永 吉輝	195501	337
健康・スポーツ実習 (サッカー)	秋田 浩一	195511	338
健康・スポーツ実習 (テニス)	江口 淳一	195511	339
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195511	340
健康・スポーツ実習 (ソフトボール)	末次 美樹	195511	341
健康・スポーツ実習 (空手道)	高橋 俊介	195511	342
健康・スポーツ実習 (体操・トランポリン)	竹田 幸夫	195511	343
健康・スポーツ実習 (室内球技)	椿原 徹也	195511	344
健康・スポーツ実習 (室内球技)	猪越 悠介	195601	345
健康・スポーツ実習 (サッカー)	岩本 哲也	195601	346
健康・スポーツ実習 (テニス)	平田 大輔	195601	347
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195601	348
健康・スポーツ実習 (空手道)	末次 美樹	195601	349
健康・スポーツ実習 (ソフトボール)	柳 浩二郎	195601	350
健康・スポーツ実習 (屋外球技)	猪越 悠介	195701	351
健康・スポーツ実習 (テニス)	平田 大輔	195701	352
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195701	353
健康・スポーツ実習 (体操・トランポリン)	柳 浩二郎	195701	354
健康・スポーツ実習 (室内球技)	山口 良博	195701	355
健康・スポーツ実習 (屋外球技)	岩本 哲也	195801	356
健康・スポーツ実習 (テニス)	平田 大輔	195801	357
健康・スポーツ実習 (卓球)	下谷内 勝利	195801	358
健康・スポーツ実習 (ダブルダッチ)	末次 美樹	195801	359
健康・スポーツ実習 (室内球技)	山口 良博	195801	360
健康・スポーツ実習 (屋外球技)	猪越 悠介	195811	361
健康・スポーツ実習 (屋内球技)	山口 良博	195811	362

保健体育科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	岩本 哲也	340201	363
健康・スポーツ実習	岩本 哲也	340301	364
健康・スポーツ実習	山口 良博	340501	364
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	竹田 幸夫	195901	365
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	竹田 幸夫	196001	365
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	岩本 哲也	196101	366
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	竹田 幸夫	196201	366
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	山口 良博	196301	367
健康・スポーツ実習〔再クラス〕	村松 誠	196311	367
健康・スポーツ論	村松 誠	341201	368
健康・スポーツ論	山口 良博	341301	368
健康・スポーツ論 1	館岡 儀秋	199901	369
健康・スポーツ論 1	江口 淳一	200101	369
健康・スポーツ論 1	高橋 俊介	200201	370
健康・スポーツ論 1	江口 淳一	200401	371
健康・スポーツ論 1	秋田 浩一	200501	372
健康・スポーツ論 1	岩本 哲也	200601	372
健康・スポーツ論 1	下谷内 勝利	200801	373
健康・スポーツ論 1	光永 吉輝	200901	373
健康・スポーツ論 1	柳 浩二郎	201111	374
健康・スポーツ論 2	竹田 幸夫	201201	374
健康・スポーツ論 2	村松 誠	201301	375
健康・スポーツ論 2	末次 美樹	201401	376
健康・スポーツ論 2	鈴木 淳平	201501	376
生涯スポーツ演習Ⅰ（シーズン基礎） 生涯スポーツ演習Ⅰ（シーズン応用）	村松 誠 原田 沙織 光永 吉輝 館岡 儀秋 竹田 幸夫 下谷内 勝利 柳 浩二郎 末次 美樹	199301・199302	377
生涯スポーツ演習Ⅱ（シーズン基礎） 生涯スポーツ演習Ⅱ（シーズン応用）	末次 美樹 秋田 浩一 竹田 幸夫 江口 淳一 鈴木 淳平 山口 良博 下谷内 勝利 岩本 哲也 柳 浩二郎	199401・199402	378
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	渡辺 一郎	196801・196802・	379
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		196803・196804	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	渡辺 一郎	197001・197002・	379
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		197003・197004	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	村松 誠	197201・197202・	380
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		197203・197204	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	鈴木 淳平	198001・198002・	380
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		198003・198004	

保健体育科目

科目名		教員氏名	履修コード	ページ
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	村松 誠	198401・198402・	381
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		198403・198404	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	村松 誠	198801・198802・	381
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）		198803・198804	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	渡辺 一郎	196601・196602・	382
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）		196603・196604	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	村松 誠	197401・197402・	382
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）		197403・197404	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	末次 美樹	197601・197602・	383
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）		197603・197604	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	末次 美樹	197801・197802・	383
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）		197803・197804	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	鈴木 淳平	198201・198202・	384
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）		198203・198204	
生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	村松 誠	199001・199002・	384
生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）		199003・199004	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	渡辺 一郎	196701・196702・	385
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）		196703・196704	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	渡辺 一郎	196901・196902・	385
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）		196903・196904	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	村松 誠	197101・197102・	386
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）		197103・197104	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	鈴木 淳平	197901・197902・	386
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）		197903・197904	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	村松 誠	198301・198302・	387
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）		198303・198304	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	村松 誠	198701・198702・	387
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）		198703・198704	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	渡辺 一郎	196501・196502・	388
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）		196503・196504	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	村松 誠	197301・197302・	388
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）		197303・197304	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	末次 美樹	197501・197502・	389
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）		197503・197504	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	末次 美樹	197701・197702・	389
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）		197703・197704	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	鈴木 淳平	198101・198102・	390
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）		198103・198104	
生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	村松 誠	198901・198902・	390
生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）	生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）		198903・198904	
保健理論		黒子 幸一	202401	391
余暇学		竹田 幸夫	202001	391
余暇学		竹田 幸夫	202201	392
生涯スポーツ実習（集中後期・基礎）		休講		
生涯スポーツ実習（集中前期・基礎）		休講		

Ⅱ. 「日本語」・「日本事情」科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
日本語入門Ⅰ a	鈴木 美希	230511・230512	395
日本語入門Ⅰ b	鈴木 美希	230521・230522	395
日本語入門Ⅱ a	鈴木 美希	230531・230532	396
日本語入門Ⅱ b	鈴木 美希	230541・230542	396
日本語Ⅰ a	佐野 典子	230611・230612	397
日本語Ⅰ a	長崎 清美	230631・230632	397
日本語Ⅰ b	佐野 典子	230621・230622	397
日本語Ⅰ b	長崎 清美	230641・230642	398
日本語Ⅱ a	佐野 典子	230711・230712	398
日本語Ⅱ a	長崎 清美	230721・230722	398
日本語Ⅱ b	佐野 典子	230811・230812	399
日本語Ⅱ b	長崎 清美	230821・230822	399
日本語Ⅲ a	長崎 清美	230911・230912	399
日本語Ⅲ a	湯村 礼子	230921・230922	400
日本語Ⅲ b	長崎 清美	231011・231012	400
日本語Ⅲ b	湯村 礼子	231021・231022	401
日本語Ⅳ a	鈴木 美希	231111・231112	401
日本語Ⅳ a	湯村 礼子	231121・231122	402
日本語Ⅳ b	鈴木 美希	231211・231212	402
日本語Ⅳ b	湯村 礼子	231221・231222	403
日本語Ⅴ a	湯村 礼子	231311・231312	403
日本語Ⅴ a	長崎 清美	231321・231322	404
日本語Ⅴ b	湯村 礼子	231411・231412	404
日本語Ⅴ b	長崎 清美	231421・231422	405
日本語Ⅵ a	鈴木 美希	231511・231512	405
日本語Ⅵ a	長崎 清美	231521・231522	406
日本語Ⅵ b	鈴木 美希	231611・231612	406
日本語Ⅵ b	長崎 清美	231621・231622	406
日本事情Ⅰ〔地理〕	高橋 健太郎	231701・231702	407
日本事情Ⅱ〔自然〕	山縣 毅	231801・231802	408
日本事情Ⅲ〔歴史〕	井上 桂子	231901・231902	408
日本事情Ⅳ〔思想〕	佐藤 美奈子	232001・232002	409
日本事情Ⅴ〔社会〕	片岡 栄美	232101・232102	410
日本事情Ⅵ〔政治・法律〕	三竹 直哉	232201・232202	410
日本事情Ⅶ〔文学〕	内藤 寿子	232301・232302	411
日本事情Ⅷ〔文化・芸術〕	佐藤 美奈子	232401・232402	412
日本事情Ⅸ〔経済〕	瀬戸岡 紘	232501・232502	413
日本事情Ⅹ〔経営〕	中川 淳平	232601・232602	413

Ⅲ. 随意科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
宗教学概説	池上 良正	232901・232902	417
宗教学概説	川上 新二	233101・233102	417
宗教学概説	矢野 秀武	233001・233002	418
宗教人類学	佐藤 憲昭	075001・075002・ 075003	419
書道史	那須 隆吉	017301・017302	420
哲学概説	久保 陽一	233301・233302	420
哲学概説	末木 恭彦	233201・233202	421
東洋思想史	末木 恭彦	016801・016802・ 016803	422
日本宗教文化史	小川 順敬	232701・232702	423
日本仏教史	松本 信道	046601・046602	424
日本民俗学	谷口 貢	017101・017102・ 017103	424
比較思想特講	末木 恭彦	233501	425
美術史概説	北野 良枝	017801・017802・ 017803	426
編集実務	小檜山 範男	017201・017202	427
民間信仰論	谷口 貢	017901・017902・ 017903	428
民衆宗教成立史	鈴木 一馨	232801・232802	429
倫理学概説	河谷 淳	233401・233402	430
歴史哲学	久保 陽一	233551	431
英語（海外演習）			432
フランス語（海外演習）			433
中国語（海外演習）			434

Ⅳ. 教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
医療福祉論	宮本 博司	065821・065822	437
インド仏教文化史	金沢 篤	003801・003802	437
英語科教育法Ⅰ	佐藤 真二	031311	438
英語科教育法Ⅰa	町田 尚子	438801	439
英語科教育法Ⅰb	町田 尚子	438911	440
英語科教育法Ⅱ	佐藤 真二	031401	441
英語科教育法Ⅱa	町田 尚子	439001	442
英語科教育法Ⅱb	町田 尚子	439111	443
外国考古学概説	飯島 武次	044401・044402	444
介護等体験	北村 三子	089121	445
介護等体験	萩原 建次郎	089131	446
介護等体験指導	伊藤 茂樹	087951	446
介護等体験指導	遠藤 司	087921	447
介護等体験指導	大浜 幾久子	087931	447
介護等体験指導	北村 三子	087941	448
介護等体験指導	豊田 千代子	087911	448
介護等体験指導	萩原 建次郎	087961	449
介護等体験指導	山本 敏子	087971	449
学習・発達論	飯田 都	214201	450
学習・発達論	飯田 都	214601	451
学習・発達論	大浜 幾久子	213901	452
学習・発達論	大浜 幾久子	214001	452
学習・発達論	川原 誠司	213801	453
学習・発達論	角野 善司	214301	454
学習・発達論	角野 善司	214401	455
学習・発達論	角野 善司	214501	456
学習・発達論	藤原 善美	214101	457
学習・発達論	藤原 善美	344001	457
学習指導と学校図書館	松尾 不二夫	088101	458
学習指導と学校図書館	松尾 不二夫	088201	459
学校経営と学校図書館	松尾 不二夫	086901	460
学校経営と学校図書館	松尾 不二夫	087001	461
学校図書館メディアの構成	笠川 昭治	087601	462
学校図書館メディアの構成	源 昌久	087501	462
家庭福祉論	武山 梅乗	065101・065102	463
教育課程論	大浜 幾久子	214901	463
教育課程論	大浜 幾久子	215001	464
教育課程論	川原 誠司	214801	465
教育課程論	杉山 二季	215201	466
教育課程論	杉山 二季	215601	467
教育課程論	角野 善司	215301	468
教育課程論	角野 善司	215401	469
教育課程論	角野 善司	215501	470
教育課程論	藤原 善美	215101	471
教育課程論	藤原 善美	344101	471
教育関係法規	村元 宏行	085101	472
教育関係法規	村元 宏行	085201	473
教育基礎論	伊藤 茂樹	212301	474

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
教育基礎論	伊藤 茂樹	212401	474
教育基礎論	伊藤 茂樹	212701	475
教育基礎論	北村 三子	212101	475
教育基礎論	北村 三子	212201	476
教育基礎論	豊田 千代子	212001	476
教育基礎論	萩原 建次郎	212501	477
教育基礎論	山本 敏子	212601	477
教育基礎論	山本 敏子	343801	478
教育史	山本 敏子	085801	479
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	伊藤 茂樹	083601・083602	479
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	伊藤 茂樹	306201・306202	480
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	遠藤 司	083201・083202	480
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	遠藤 司	083901・083902	481
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	大浜 幾久子	084151・084152	481
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	北村 三子	083501・083502	482
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	北村 三子	084101・084102	482
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	豊田 千代子	083101・083102	483
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	豊田 千代子	083801・083802	483
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	萩原 建次郎	083401・083402	484
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	山本 敏子	083701・083702	485
教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	山本 敏子	084001・084002	485
教育実習指導	伊藤 茂樹	088051	486
教育実習指導	遠藤 司	088021	486
教育実習指導	大浜 幾久子	088031	486
教育実習指導	北村 三子	088041	487
教育実習指導	豊田 千代子	088011	487
教育実習指導	萩原 建次郎	088061	487
教育実習指導	山本 敏子	088071	488
教育社会学	伊藤 茂樹	085701・085702	488
教育情報学	石橋 達也	085501	489
教育制度・環境論	伊藤 茂樹	213201	490
教育制度・環境論	伊藤 茂樹	213301	490
教育制度・環境論	伊藤 茂樹	213601	491
教育制度・環境論	北村 三子	213001	492
教育制度・環境論	北村 三子	213101	493
教育制度・環境論	豊田 千代子	212901	494
教育制度・環境論	萩原 建次郎	213401	494
教育制度・環境論	山本 敏子	213501	495
教育制度・環境論	山本 敏子	343901	496
教育調査	須藤 康介	086001	497
教育哲学	北村 三子	085401	498
教育とメディア	石橋 達也	076801	499
教育とメディア	石橋 達也	076901	500
教育とメディア	石橋 達也	077001	501
教育とメディア	石橋 達也	077101	502
教育とメディア	石橋 達也	077201	503
教育とメディア	石橋 達也	077301	504
教育とメディア	石橋 達也	305501	505
教育とメディア	芝崎 順司	077401	505
教育とメディア	芝崎 順司	077501	506

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
教育とメディア	芝崎 順司	077601	506
教育とメディア	芝崎 順司	077701	506
教育評価	大浜 幾久子	085301	507
教育臨床	遠藤 司	080401	507
教育臨床	遠藤 司	080901	508
教育臨床	遠藤 司	081001	509
教育臨床	川原 誠司	081101	510
教育臨床	佐藤 尚人	080301	511
教育臨床	佐藤 尚人	080701	512
教育臨床	佐藤 尚人	080801	513
教育臨床	目良 秋子	080501	513
教育臨床	目良 秋子	080601	514
教育臨床	目良 秋子	305901	514
教育臨床心理学	牟田 隆郎	085601	515
教職入門	天井 勝海	076711	516
教職入門	天井 勝海	305401	517
教職入門	藤木 篤典	076701	518
経済原論	浅野 克巳	114001	519
経済原論	藤原 碩宣	324401・324402	520
現代社会の諸問題と教育Ⅰ	鈴木 朋実	082901	521
現代社会の諸問題と教育Ⅱ	鈴木 朋実	086201	521
現代商業論	辰馬 信男	152651	522
現代美術	矢野 陽子	028601・028602	523
考古学特講Ⅰ	酒井 清治	052711・052712	524
考古学特講Ⅲ	小林 謙一	052911・052912	525
考古学特講Ⅴ	寺前 直人	053011・053012	526
考古学特講Ⅶ	矢野 和之	053031・053032	526
公的扶助論	伊藤 秀一	065321・065322	527
国語科教育法Ⅰ	久保田 實	022811	528
国語科教育法Ⅱ	久保田 實	022911	529
西域美術史	松平 美和子	053101・053102	530
ジェンダーと教育Ⅰ	高井 葉子	082511	530
ジェンダーと教育Ⅱ	高井 葉子	082521	531
自然地理学概説 自然地理学概論	鈴木 秀和	043101・043102	532
自然地理学概説	角田 清美	304501	533
自然地理学概説 自然地理学概論	高木 正博	043201・043202	533
視聴覚教育	佐野 博彦	084901	534
視聴覚教育	佐野 博彦	085001	534
児童福祉論	村田 一昭	065621・065622	535
社会科教育法Ⅰ	小川 光夫	088601	536
社会科教育法Ⅰ	小川 光夫	088801	537
社会科教育法Ⅰ	天井 勝海	306301	538
社会科教育法Ⅰ	二井 正浩	089001	539
社会科教育法Ⅰ	藤木 正国	088401	540
社会科教育法Ⅱ	小川 光夫	088701	541
社会科教育法Ⅱ	小川 光夫	088901	541
社会科教育法Ⅱ	天井 勝海	306401	542
社会科教育法Ⅱ	二井 正浩	089101	543
社会科教育法Ⅱ	藤木 正国	088501	544
社会科教育法Ⅲ (地理歴史)	生田 清人	042701	545

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
社会科教育法Ⅲ（地理歴史）	櫻井 明久	042901	546
社会科教育法Ⅲ（地理歴史）	藤木 正国	057301	547
社会科教育法Ⅳ（地理歴史）	生田 清人	042801	548
社会科教育法Ⅳ（地理歴史）	櫻井 明久	043001	549
社会科教育法Ⅳ（地理歴史）	藤木 正国	057401	550
社会科教育法Ⅴ（公民）	小川 光夫	134501	551
社会科教育法Ⅴ（公民）	橋爪 敏	062401	552
社会科教育法Ⅴ（公民）	橋爪 敏	062601	552
社会科教育法Ⅴ（公民）	谷敷 正光	113401	553
社会科教育法Ⅵ（公民）	小川 光夫	134601	554
社会科教育法Ⅵ（公民）	橋爪 敏	062501	554
社会科教育法Ⅵ（公民）	橋爪 敏	062701	555
社会科教育法Ⅵ（公民）	谷敷 正光	113501	556
社会学（福祉）	武山 梅乗	066151・066152	557
社会学原理 社会学原論	呉 炳三	133901・133902	557
社会学原論	橋爪 敏	060001・060002	558
社会教育行政	荒井 隆	086301	558
社会教育計画	萩原 建次郎	084401	559
社会教育施設	萩原 建次郎	085901	560
社会教育実習	豊田 千代子	084701	560
社会教育実習	萩原 建次郎	084801	561
社会心理学A	坪井 健	058331・058332	561
社会心理学B	坪井 健	058341・058342	562
社会体育Ⅰ	吉田 実生	086501	562
社会体育Ⅱ	吉田 実生	086601	563
社会福祉原論	伊藤 秀一	062801・062802	564
社会福祉原論	船水 浩行	070701	565
社会福祉発達史	堀 千鶴子	063901・063902	565
社会保障論	長尾 譲治	065001・065002	566
宗教科教育法Ⅰ	小山 一乗	011911	567
宗教科教育法Ⅱ	小山 一乗	012001	569
宗教学概説	池上 良正	232901・232902	571
宗教学概説	川上 新二	233101・233102	571
宗教学概説	須藤 寛人	305101	572
宗教学概説	須藤 寛人	305201	572
宗教学概説	矢野 秀武	233001・233002	573
宗教教育	小山 一乗	007101・007102	574
宗教人類学	佐藤 憲昭	075001・075002・075003	575
生涯学習概論Ⅰ	豊田 千代子	084501	576
生涯学習概論Ⅱ	豊田 千代子	084601	576
障害者福祉論	桐原 宏行	065421・065422	577
商業科教育法	黒葛原 正展	113301	578
情報メディアの活用	笠川 昭治	087901	579
情報メディアの活用	源 昌久	087801	579
職業教育Ⅰ	久田 邦明	086701	580
職業教育Ⅱ	久田 邦明	086801	581
職業指導	洪 利志生	113801	581
女性福祉論	堀 千鶴子	065701・065702	582
書道科教育法	那須 隆吉	023001	583

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
人文地理学概説 人文地理学概論	中村 剛	036901・036902・036903	584
人文地理学概説 人文地理学概論	中村 剛	037001・037002・037003	585
人文地理学概説	渡邊 盾夫	304401	586
心理学(福祉)	高橋 良博	066521・066522	586
政治学原論	大塚 桂	324301・324302	587
政治学原論	真下 英二	134801	588
政治学原論	山崎 望	134701	589
青少年指導演習	渡邊 浩司	006701・006702	590
青少年文化	古閑 すま子	086101	590
青少年問題研究	讃岐 真佐子	006601・006602	591
成人学習論	荒井 隆	086401	592
生徒指導論(進路指導を含む)	遠藤 司	079401	592
生徒指導論(進路指導を含む)	遠藤 司	079901	593
生徒指導論(進路指導を含む)	遠藤 司	080001	594
生徒指導論(進路指導を含む)	川原 誠司	080101	595
生徒指導論(進路指導を含む)	佐藤 尚人	079301	596
生徒指導論(進路指導を含む)	佐藤 尚人	079701	596
生徒指導論(進路指導を含む)	佐藤 尚人	079801	597
生徒指導論(進路指導を含む)	目良 秋子	079501	597
生徒指導論(進路指導を含む)	目良 秋子	079601	598
生徒指導論(進路指導を含む)	目良 秋子	305801	598
西洋文化史	田中 佳	046911・046912	599
世界史概説	井村 行子	044201・044202	600
世界史概説	見城 光威	305001	601
世界史概説	小林 惣八	056501・056502	601
禅美術	村松 哲文	006101・006102	602
総合演習Ⅰ(環境・地域)	北村 和夫	081501	602
総合演習Ⅰ(環境・地域)	北村 和夫	306001	603
総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)	野中 弘敏	081901	603
総合演習Ⅲ(福祉・ボランティア)	野中 弘敏	082001	604
総合演習Ⅴ(国際理解・情報)	大浜 幾久子	082811	604
第四紀学	鈴木 毅彦	041101・041102	605
地域福祉論	川上 富雄	065901・065902	606
地形学	大上 隆史	039901・039902	607
地誌学概説 地誌学	川元 豊和	037101・037102	607
地誌学概説	川元 豊和	304201	608
地誌学概説 地誌学	山口 太郎	037301・037302	608
地誌学概説 地誌学	湯田 ミノリ	037201・037202	609
地誌学概説	渡邊 盾夫	304301	609
中国仏教文化史	程 正	003901・003902	610
哲学概説	河谷 淳	305301	610
哲学概説	久保 陽一	233301・233302	611
哲学概説	末木 恭彦	233201・233202	612
道德教育の研究	井上 勝	078301	613
道德教育の研究	井上 勝	078401	614
道德教育の研究	井上 勝	305601	615
道德教育の研究	杉崎 洋一郎	078101	616
道德教育の研究	杉崎 洋一郎	078201	616

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
道徳教育の研究	藤木 篤典	077901	617
道徳教育の研究	藤木 篤典	078001	617
東洋思想史	末木 恭彦	016801・016802・ 016803	618
読書と豊かな人間性	松尾 不二夫	087201	619
読書と豊かな人間性	松尾 不二夫	087301	620
特別活動論	井上 勝	079011	621
特別活動論	井上 勝	079111	622
特別活動論	井上 勝	305711	623
特別活動論	杉崎 洋一郎	078811	624
特別活動論	杉崎 洋一郎	078911	624
特別活動論	藤木 篤典	078611	625
特別活動論	藤木 篤典	078711	626
日本考古学概説	酒井 清治	044301・044302	626
日本史概説	菅野 洋介	304801	627
日本史概説	小泉 雅弘	056401・056402	628
日本史概説	鈴木 雅晴	304901	628
日本史概説	野尻 かおる	056301・056302	629
日本宗教文化史	小川 順敬	232701・232702	630
日本仏教文化史	藤井 淳	004001・004002	631
日本文化史	廣瀬 良弘	047111・047112	631
日本民俗学	谷口 貢	017101・017102・ 017103	632
博物館概論 博物館学Ⅰ（概論）	湯淺 隆 太田 喜美子	056701・056702	632
博物館学Ⅱ（資料論） 博物館資料論	岸上 興一郎	056801・056802	633
博物館学Ⅲ（経営論・情報論）	岸上 興一郎	056901	634
博物館実習Ⅰ（館務）	湯淺 隆 寺前 直人 太田 喜美子	057001	634
博物館実習Ⅱ（収集）	太田 喜美子 久保田 昌希 佐々木 真 中野 達哉 瀧音 能之 國見 徹 熊本 史雄	057101	635
博物館実習Ⅲ（見学）	太田 喜美子 松本 信道 酒井 清治	057201	635
美術史概説	北野 良枝	017801・017802・ 017803	636
福祉科教育法	桐原 宏行	070801	637
仏教美術	村松 哲文	006201・006202	638
仏教民俗学	佐藤 憲昭	006301・006302	639
保健福祉論	山本 哲也	065201・065202	640
民間信仰論	谷口 貢	017901・017902・ 017903	640
民衆宗教成立史	鈴木 一馨	232801・232802	641

教職課程・資格講座科目

科目名	教員氏名	履修コード	ページ
民法（総則・物権法） 民法Ⅰ（総則・物権法） 民法Ⅰ	熊谷 芝青	127801・127802・ 127803	642
民法一部 民法Ⅰ	和知 恵一	098301・098302	643
リハビリテーション論	佐藤 将朗	064901・064902	644
倫理学概説	河谷 淳	233401・233402	645
老人福祉論	東條 光雅	065521・065522	646
経済原論	休講		
考古学特講Ⅱ	休講		
考古学特講Ⅳ	休講		
考古学特講Ⅵ	休講		
考古学特講Ⅷ	休講		
国際社会福祉論	休講		

I. 全学共通科目

1. 宗 教 教 育 科 目

履修コード	206451
科目名	坐禅
担当者名	熊本 英人 池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。</p> <p>この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。</p> <p>(ねらい)</p> <p>今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考えたいものです。</p> <p>坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしよう。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>半期単位ですので、全体で15回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。</p> <p>1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得)</p> <p>4～「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です)</p> <p>(前半は黙々と坐禅を行い、後半は道元禅師が坐禅の意義と作法について書かれた『正法眼蔵』「坐禅儀」の講義を聞きます)</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	<p>実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。抽選登録ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。</p>
成績評価の方法	平常点(90%)、レポート(10%)を総合して成績評価とします。
教科書/テキスト	適宜、プリントにて配布します。
参考書	『坐禅—講本—』(更生社)2,226円

履修コード	206551
科目名	坐禅
担当者名	熊本 英人 池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。</p> <p>この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。</p> <p>(ねらい) 今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。</p>
---------------------	--

坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしよう。

授業スケジュール	<p>半期単位ですので、全体で15回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。</p> <p>1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得) 4～「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です) (前半は黙々と坐禅を行い、後半は道元禪師が坐禅の意義と作法について書かれた『正法眼蔵』「坐禅儀」の講義を聞きます)</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。抽選登録ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。
成績評価の方法	平常点(90%)、レポート(10%)を総合して成績評価とします。
教科書/テキスト	適宜、プリントにて配布します。
参考書	『坐禅—講本—』(更生社)2,226円

履修コード	206401
科目名	坐禅
担当者名	角田 泰隆 池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。</p> <p>この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。</p> <p>(ねらい) 今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。</p> <p>坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしよう。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>半期単位ですので、全体で13回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。</p> <p>1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得) 4～「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です) (前半は黙々と坐禅を行い、後半は道元禪師が坐禅の意義と作法について書かれた『正法眼蔵』「坐禅儀」の講義を聞きます)</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。抽選登録ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。
成績評価の方法	平常点(90%)、レポート(10%)を総合して成績評価とします。
教科書/テキスト	適宜、プリントにて配布します。
参考書	『坐禅—講本—』(更生社)2,226円

履修コード	206501
科目名	坐禅
担当者名	角田 泰隆 池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思い、この授業を進めるものです。 この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。 (ねらい) 今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしよう。
---------------------	---

授業スケジュール	半期単位ですので、全体で13回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。 1～3「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得) 4～「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です) (前半は黙々と坐禅を行い、後半は道元禅師が坐禅の意義と作法について書かれた『正法眼蔵』「坐禅儀」の講義を聞きます)
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。抽選登録ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。
---------	--

成績評価の方法	平常点(90%)、レポート(10%)を総合して成績評価とします。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	適宜、プリントにて配布します。
----------	-----------------

参考書	『坐禅-講本-』(更生社)2,226円
-----	---------------------

履修コード	206101
科目名	自然と宗教
担当者名	小川 順敬

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 人間は古来から、自然のいとなみの背後に説明のつかない大きな力を感じ、自然の事物や、自然現象を崇拜の対象としてきたと言われます。それでは、人間は自然の背後にどのような「説明のつかない力」をみたのでしょうか。あるいは、自然を人間とのつながりでどのようにとらえ、考えてきたのでしょうか。この講義では、宗教と自然との関わりという角度から、これらの問題を考えてゆくことにしたいと思います。</p> <p>(到達目標) 最初に、宗教現象を考えていくための宗教学、宗教人類学の基本的な概念を概説、紹介します。その後、山と宗教、海と宗教、森と宗教、また仏教と自然、キリスト教と自然などのテーマを立て、具体的事例をあげながら人間と自然との宗教的な関わりを紹介していくことにしたいと思います。また、人間も自然の一部です。人間そのものをどの様にとらえようとしてきたのか、仏教、キリスト教や伝統宗教などから事例を取り上げて紹介してゆきたいと考えています。宗教と自然を外なる自然と、内なる自然の2つの側面から考えてみることにしたいと思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目標・進め方・約束事について 2. 宗教と宗教研究について 3. アニミズムとは何か 4. タイラーのアニミズム説 5. 環境とアニミズム説 6. アニミズム説批判 7. 日本の民俗宗教 靈魂観をめぐって 8. 自然と生命の更新 9. 来訪神信仰 10. 日本の来訪神信仰 11. まれびと 12. 異人 13. 災害と宗教 その1 14. 災害と宗教 その2 15. 前期のまとめ 16. いのちとアニミズム 17. 生命観と靈魂観 18. からだ・性 男性と女性 19. からだ・性 逸脱する性 その1 20. からだ・性 逸脱する性 その2 21. 生殖 いのちはいつから宿るのか 22. 生殖 民俗生殖観をめぐって 23. ころの所在 24. ころとからだ その1 25. ころとからだ その2 26. 原始心性について 27. レヴィ・ブリュルとレーナルト 28. 人格概念考 29. アニミズム再考 30. 後期のまとめ
----------	---

準備学習	授業準備として次回授業で取り上げる内容について、関連資料のコピーに眼を通しておくこと。また、授業で行う小テストの内容は必ず復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点

成績評価の方法	原則として、年8回の「小テスト」(平常点)が2割、夏期レポート(前期試験に相当)が4割、年度末の筆記試験が4割として評価します。成績評価の具体的な方法、レポート課題の内容、年度末試験の方針、小テストの評価の仕方などは最初の授業で詳しく説明します。
---------	---

教科書/テキスト	関連資料のコピーを配布します。原則として教科書は用いません。
----------	--------------------------------

参考書	講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。
-----	------------------------

履修コード	206201
科目名	社会と宗教
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本講義では、社会と宗教との様々な関わりについて学ぶ。前期では、宗教の社会的な機能や集団形態、宗教形態の時代的変遷、宗教と紛争・経済・文化等との関わりを学習し、後期では宗教と政治・教育との関わりを中心に学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>宗教の思想や活動は、時に社会に大きな影響を及ぼすことがある。さらに宗教は社会一般の制度と関わる公的側面を持つこともある。こういった点からすれば、宗教を信じていない人でも、宗教に関する確かな知識を持って自分の意見を紡ぎあげていくことは重要であろう。そのような点を学ぶことが本講義の目標となる。具体的には、宗教が社会にプラスとマイナス双方の影響を与える力を持っていることを具体的な事例から理解すること、また近現代社会における政治・教育と宗教との様々な関係を理解し、我々にとって自明な政教分離という考え方の形成過程とその意味について考察することが目標となる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教を外から見る 2. 宗教の様々な機能 3. 様々なタイプの宗教集団 4. 宗教は衰退するのか 世俗化論 5. 現代における宗教の変容 6. 宗教と紛争1 ナショナリズム 7. 宗教と紛争2 テロリズム 8. カルト問題1 9. カルト問題2 10. 戦後日本の宗教法 11. 宗教と福祉 12. 映像メディアと宗教 13. 宗教と経済1 会社と宗教 14. 宗教と経済2 イスラーム 15. 前期まとめ 16. 政教関係 概論 17. 政教分離の歴史1 西洋 18. 政教分離の歴史2 日本 19. 宗教と政治1 国家神道 20. 宗教と政治2 靖国神社と戦没者慰霊 21. 宗教と政治3 アメリカ合衆国 22. 宗教と政治4 フランス 23. 宗教と政治5 イギリスとドイツ 24. 宗教と政治6 タイ 25. 宗教と政治7 政教関係の比較 26. 宗教と教育1 フランスとアメリカ合衆国 27. 宗教と教育2 イギリスとドイツ 28. 宗教と教育3 日本の教育と宗教 29. 宗教と教育4 日本の倫理道徳教育 30. まとめ
----------	--

準備学習	宗教学や社会学の基礎知識は必須ではないが、そのような知識を持っていると比較的理解しやすい。
------	---

履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ YeStudyを利用した課題20%、 ・ 前期レポート（夏休み前に課題を提示・後期初回に提出）30%、 ・ 後期の定期試験期間における筆記試験50%
---------	--

教科書／テキスト	なし
----------	----

参考書	<p>櫻井義秀・三木英 『よくわかる宗教社会学』 ミネルヴァ書房、2007年。</p> <p>中野実 『宗教と政治』 新評論、1998年。</p> <p>その他にも授業時に随時紹介する。ただし、いずれも授業時に使用するものではない。</p>
-----	--

その他	なし
-----	----

履修コード	205101
科目名	仏教と人間
担当者名	新井 一光
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インド仏教の歴史と基本思想を概観する。仏教の基本的教義に関する知識を得るとともに、仏典及び古典インド文献の読解を通じて、仏教が何を真に主張するのか考察する。
授業スケジュール	仏教以前のインド及びインド仏教の歴史と基本思想を概観する。1-4 イントロダクション：「仏教学」について、5-7 仏教以前のインド（ヴェーダ、ウパニシャッド）、8-11 釈尊の伝記、12-16 原始仏教の思想（縁起説、無我説等）、17-20 部派仏教、21-24 大乘仏教、25～ 大乘仏教の展開。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業は講義形式で進めるが、参加者に資料、テキストを読んでもらい質問を当てるので、積極的な取り組みが要求される。
成績評価の方法	年度末の試験及び数度のレポート、しばしば行う小テストによって総合的に評価する。
教科書／テキスト	最初の授業において指示する。
参考書	

履修コード	203001
科目名	仏教と人間
担当者名	粟谷 良道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本に伝承された仏教は、日本の文化と深く関わりながら、先祖供養や祈願祈祷などを行うことによって受け継がれてきました。お盆やお彼岸の先祖供養、お正月のご祈祷など、日本の仏教は人びとの暮らしの中に定着している宗教と言えます。そのような日本の仏教を理解するには、日本の文化である習俗や慣習などの民俗を学ぶと同時に、インドから伝わる仏教の理念としての教義を学ぶ必要があります。 (到達目標) まず、日本の仏教を理解するために、その基層となっている宗教文化について学びます。そして、日本の文化と交流しながら伝承されてきた日本の仏教について学びます。さらに、より深く仏教を理解するために、仏教の理念として伝承されてきた仏教の教義についても学びます。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに——授業の概要、建学の理念について—— 2. 宗教について——なぜ宗教が必要なのか—— 3. 宗教について——宗教の定義、宗教の分類—— 4. 宗教について——宗教的基層としてのアニミズム—— 5. 宗教について——シャーマニズム—— 6. 宗教について——民俗宗教—— 7. 日本の宗教——日本人の宗教感覚—— 8. 日本の宗教——山岳信仰—— 9. 日本の宗教——日本人の靈魂観—— 10. 日本の仏教——祖霊信仰—— 11. 日本の仏教——お盆とお彼岸—— 12. 日本の仏教——葬祭仏教—— 13. 神仏習合——神身離脱と護法善神—— 14. 神仏習合——本地垂迹—— 15. 神仏習合——御霊信仰—— <ol style="list-style-type: none"> 16. 釈尊の生涯——出家と求道と悟り—— 17. 釈尊の生涯——精舎の建立と遊行—— 18. 釈尊の教え——縁起説と四諦説—— 19. 釈尊の教え——三法印と無常偈—— 20. 釈尊滅後の仏教——經典編纂と部派仏教—— 21. 大乘仏教——成立と展開—— 22. 禪宗の成立——達摩禪師の渡来と坐禪の受容—— 23. 禪宗の展開——曹洞宗や臨済宗などへの展開—— 24. 禪宗の教え——禪宗祖師たちの教え—— 25. 道元禪師の生涯——出家修行—— 26. 道元禪師の生涯——入宋求法—— 27. 道元禪師の生涯——弘法救生—— 28. 道元禪師の生涯——北越入山—— 29. 道元禪師の教え——典座教訓—— 30. 道元禪師の教え——坐禪弁道——
----------	---

準備学習	準備学習が必要な場合、授業の中で前もって知らせます。
履修上の留意点	授業中は静かにすること。私語は厳禁。真摯な態度で受講すること。
成績評価の方法	定期試験の成績で評価します。
教科書／テキスト	その都度、プリントを配布します。
参考書	授業の中で適宜紹介します。
その他	場合によって、小テストを行う。

履修コード	204001
科目名	仏教と人間
担当者名	飯塚 大展
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教について基本的な概念の理解に主眼を置く。
授業スケジュール	概説(1)、釈尊の生涯(2～5)、インドにおける仏教の展開(原始仏教、部派仏教、大乘仏教、6～10)、仏教の伝播(南伝仏教、北伝仏教、東アジア圏における仏教受容、11～15)、日本仏教史(古代仏教史、中世仏教史、近世仏教史、近代仏教史を順次講義、16～23、日本禅宗史24～30)。
準備学習	松尾剛次『仏教入門』(岩波ジュニア新書)を読了していることが望ましい。
履修上の留意点	本講義専用のノートを準備すること。
成績評価の方法	三分の二以上の出席を前提とする。平常点及び小テスト(50点配分)と期末試験(50点)を以て評価する。
教科書/テキスト	教科書は用いない。適宜プリントを配布する。
参考書	参考書は随時紹介する。

履修コード	205001
科目名	仏教と人間
担当者名	池上 光洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 前期は宗教について概観した後、仏教を開いた釈尊の教えとその後のインド仏教史を学んでいく。後期は中国への仏教伝来から宋代禅までの歴史と展開、そして日本の道元禅やその後の展開について学習していきたい。 (到達目標) 現在の日本社会には「宗教」を毛嫌いする傾向が見られ、自身を「無宗教」と規定する人が多数存在する。しかし安易な宗教批判や宗教否定は、無批判な宗教肯定同様、実はそれ自体が「宗教的」であることが多い。皆さんの学舎である本学は曹洞宗系の私学であり、「建学の理念」も仏教思想を背景としたものである。講義を通して建学の精神を理解するとともに、仏教を学ぶことによって「正しくものを見る」ことを身につけていただきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	1. 前期導入 2～3. 宗教と科学、日本人と宗教 4. 古代インド史①—ヴェーダー— 5. 古代インド史②—自由思想家— 6～7. 釈尊の生涯 8～9. 釈尊の思想 10. インド仏教史①—結集、根本・枝末分裂(上座部仏教)— 11. インド仏教史②—大乘仏教の成立と展開— 12. インド仏教思想史①—上座部仏教— 13～14. インド仏教思想史②—大乘仏教— 15. 理解度の確認 16. 後期導入 17. 中国仏教史①—伝道時代、研究時代— 18. 中国仏教史②—独立時代、実践時代— 19. 中国禅の歴史と展開 20. 中国禅思想史①—初期禅、唐代禅— 21. 中国禅思想史②—宋代禅— 22. 日本仏教史①—仏教と禅の伝来— 23. 日本仏教史②—古代仏教— 24. 日本禅宗史①—道元禅師の生涯— 25. 日本禅宗史②—道元禅師の思想— 26. 日本禅宗史③—曹洞宗の展開— 27. 日本禅宗史④—臨済宗の展開— 28. 禅と日本文化 29. 坐禅の科学的研究 30. まとめ
----------	--

準備学習	“宗教”に対する思い込みや偏見を捨て、“批判的な態度”で授業にのぞんで欲しい。 授業は人文科学系の教義仏教を中心に進めていくが、我々に身近な社会科学系の民俗仏教については各自で関心を持ち、その異同について思いを巡らせて欲しい。
履修上の留意点	専用のノートを用意すること。
成績評価の方法	定期試験70%、小テスト(不定期)30%。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	プリントを配布。また、講義中に随時紹介する予定である。
その他	私語・携帯電話・メール等厳禁、ひどい場合は退室を要請する。講義開始後30分以降は、特別の事情が無い限り入室禁止。

履修コード	205121
科目名	仏教と人間
担当者名	池上 光洋

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>(授業概要) 前期は宗教について概観した後、仏教を開いた釈尊の教えとその後のインド仏教史を学んでいく。後期は中国への仏教伝来から宋代禅までの歴史と展開、そして日本の道元禅やその後の展開について学習していきたい。</p> <p>(到達目標) 現在の日本社会には「宗教」を毛嫌にする傾向が見られ、自身を「無宗教」と規定する人が多数存在する。しかし安易な宗教批判や宗教否定は、無批判な宗教肯定同様、実はそれ自体が“宗教的”であることが多い。皆さんの学舎である本学は曹洞宗系の私学であり、「建学の理念」も仏教思想を背景としたものである。講義を通して建学の精神を理解するとともに、仏教を学ぶことによって「正しくものを見る」ことを身につけていただきたい。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期導入 2～3. 宗教と科学、日本人と宗教 4. 古代インド史①—ヴェーダ— 5. 古代インド史②—自由思想家— 6～7. 釈尊の生涯 8～9. 釈尊の思想 10. インド仏教史①—結集、根本・枝末分裂(上座部仏教)— 11. インド仏教史②—大乘仏教の成立と展開— 12. インド仏教思想史①—上座部仏教— 13～14. インド仏教思想史②—大乘仏教— 15. 理解度の確認 16. 後期導入 17. 中国仏教史①—伝道時代、研究時代— 18. 中国仏教史②—独立時代、実践時代— 19. 中国禅の歴史と展開 20. 中国禅思想史①—初期禅、唐代禅— 21. 中国禅思想史②—宋代禅— 22. 日本仏教史①—仏教と禅の伝来— 23. 日本仏教史②—古代仏教— 24. 日本禅宗史①—道元禅師の生涯— 25. 日本禅宗史②—道元禅師の思想— 26. 日本禅宗史③—曹洞宗の展開— 27. 日本禅宗史④—臨済宗の展開— 28. 禅と日本文化 29. 坐禅の科学的研究 30. まとめ
----------	---

準備学習	<p>“宗教”に対する思い込みや偏見を捨て、“批判的な態度”で授業にのぞんで欲しい。 授業は人文科学系の教義仏教を中心に進めていくが、我々に身近な社会科学系の民俗仏教については各自で関心を持ち、その異同について思いを巡らせて欲しい。</p>
履修上の留意点	専用ノートを用意すること。
成績評価の方法	定期試験70%、小テスト(不定期)30%。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	プリントを配布。また、講義中に随時紹介する予定である。
その他	私語・携帯電話・メール等厳禁、ひどい場合は退室を要請する。講義開始後30分以降は、特別の事情が無い限り入室禁止。

履修コード	202801
科目名	仏教と人間
担当者名	池上 良正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「仏教」には高度な救済思想から、生活に根づいた風俗・習慣まで、多様な幅がある。この講義では、そもそも仏教は人類史のどういう段階で、どのようにして生まれたのかという問題を概説する。さらに、それらが現代の日本に生きている私たちの生活と、どのように関わっているのかを、「死者供養」というトピックから考えてみたい。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は、「世界宗教」の発生・展開という人類史の大きな流れのなかで、仏教の成立過程とその意義を考察する。(1) 導入。(2~5) 世界宗教としての仏教の誕生。(6~10) 部派仏教と大乘仏教。(11~15) 大乘経典の成立と思想。 後期は、「死者供養」という実践に焦点を合わせ、東アジアの民衆文化のなかで、仏教がどのような影響を及ぼしたのかを考察する。さらに一神教文化圏との比較を扱う。(16~20) 死者供養の形成。(21~25) 日本における仏教の葬祭化。(26~28) 一神教文化における「死者供養」。(29~30) 死者供養と世界宗教。
----------	--

準備学習	とくに求めないが、前回の講義についてよく復習してから講義に臨むこと。
履修上の留意点	私語は厳禁。欠席した分のノート、プリントについては自己責任で対処すること。
成績評価の方法	毎回出席を取る。前期と後期の最後にそれぞれ筆記試験を行なう。 評価は、試験70%、平常点30%。
教科書／テキスト	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	

履修コード	204401
科目名	仏教と人間
担当者名	池田 練太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義は、駒澤大学の建学の理念に基づいておこなわれるものである。この講義を通して、人間がかかえるさまざまな問題について考えながら、宗教全般についての理解を深め、仏教や禅に関する基本的な思想や文化についての知識を身につける。
---------------------	---

到達目標	複雑・多岐にわたる現代社会の諸問題に対して、仏教や禅はどのような意味を持ち、またいかなる役割を果たせるか、理性的に考える力を養うことを目指す。
------	---

授業スケジュール	第1回：宗教とは何か 第2~3回：世界の宗教 第4回：仏教の基本的な立場 第5~6回：仏教の起こり 第7~9回：ブッダの生涯 第10~13回：ブッダの思想 第14~16回：インドにおける仏教の展開 第17~20回：世界に広がった仏教（東南アジア、中国、チベット等） 第21~23回：日本仏教の歴史と特質 第24~25回：禅の歴史 第26~27回：禅の思想 第28~29回：道元禪師・瑩山禪師と曹洞宗 第30回：現代社会と仏教
----------	--

準備学習	日ごろから新聞・ラジオ・テレビ・インターネット等にみられる報道に注意をはらい、宗教・仏教・禅に関する情報や、世界で起きているさまざまな出来事に意識を向けて生活する。
履修上の留意点	自分の専門領域と無関係だと決めつけず、自らの日常生活や社会問題との関わりをつねに意識しながら受講する姿勢で臨んでほしい。
成績評価の方法	年度末におこなう定期試験（70%）および平常点（30%）によって評価する。
教科書／テキスト	教科書は特に用いない。必要に応じて資料等を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修コード	206001
科目名	仏教と人間 [再クラス]
担当者名	石井 公成

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏教には宗教としての側面と、西洋流の宗教という枠組みにおさまらない側面がある。その仏教がいかに生まれ、どのように変容していったかを、様々な時代・国の宗教や思想と比較しながら検討していく。その際、インド→中国→朝鮮→日本といった直線的な伝来の図式にとらわれず、諸国・諸地域間の相互興隆、相互影響に注意しながら見てゆく。仏教の基礎知識をわきまえ、その考え方を踏まえたくうえで自分なりに物事を判断できるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1段階：仏教を研究するための資料・研究書・辞典・ネット上のサイトなどの紹介。 第2段階：釈尊の生涯とその教え 第2段階：釈尊の生涯とその教え 第3段階：インドの諸思想 第4段階：仏教教理の進展と教団の分裂 第5段階：大乘仏教の成立 第6段階：中国仏教の特色と禅宗の成立 第7段階：朝鮮仏教の特色 第8段階：ベトナム仏教の特色 第9段階：日本の仏教受容 第10段階：日本における仏教の変容 第11段階：近代のアジア諸国と欧米における仏教 第12段階：仏教研究の課題 * 以上の内容を扱うが、諸国の宗教・思想や仏教に関連する文学なども取り上げて検討する。</p>
----------	--

準備学習	漢文や古文の資料を多く用いるため、教科書や入門書、あるいは辞典にふされている簡単な文法の説明などを読み、慣れておくことが望ましい。
履修上の留意点	次々に当てていくため、積極的に参加する姿勢が要求される。
成績評価の方法	年間に10回以上、授業の途中で不定期におこなう小レポートによって評価する。質問への回答など、授業に進んで取り組む姿勢が見られれば考慮する。中間試験・期末試験はおこなわない。
教科書/テキスト	毎回、コピー資料を配布する。
参考書	最初の授業の際、リストを配布する。

履修コード	203801
科目名	仏教と人間
担当者名	石井 修道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>「仏教と人間」は、本学の宗教教育科目である。宗教、特に仏教は何を説き、その教えが一人一人とどうかかわるかを学びたい。 仏教の教えを基本に、道元禅師の教えとそれらがどのように関連をもつのか。また、道元禅師は、中国の禅者をどのように取り上げ、自己の主張にどのように継承されているかを具体的に明らかにしていきたい。 特に道元禅師の説かれる「坐禅」は、如何なる特色があるか、それがわれわれの生き方に何を教えているかを述べたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 宗教と自己との関係。(2) 釈尊の伝記と教え(七回)。(3) 中国禅者の個性と特色(六回)。(4) 日中交流と仏教(三回)。(5) 道元の伝記と思想(五回)。(6) 坐禅。(7) 曹洞宗(二回)。
準備学習	今までに仏教はあまり関心のなかった人も多いため、これを機会に関心をもち、いろんな機会が与えられると思われる。
履修上の留意点	「仏道をなろうとは、自己をなろうなり」(道元)をいかに主体的に考えるかを常に心がけて欲しい。
成績評価の方法	教科書の感想文のレポート(夏休み後に提出)20点と学期末試験80点満点で評価し、出席数も考慮する。
教科書/テキスト	鎌田茂雄『仏陀の観たもの』(講談社学術文庫)693円
参考書	

履修コード	205801
科目名	仏教と人間〔再クラス〕
担当者名	伊藤 良久
授業概要/ 到達目標（ねらい）	本学建学の理念である「仏教の教義と曹洞宗立宗の精神」について理解を深め、仏教や禅に関する基本的な知識を身に付けてもらうことを講義のねらいとする。特に、一仏両祖、つまり仏教を開かれた釈尊、日本曹洞宗の祖道元禪師、曹洞宗を広められた瑩山禪師について、その伝記と教え・思想を学ぶ。その上で、現代に生きる私たちにとって仏教がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たせるか考えていきたい。
授業スケジュール	第1～2回：宗教・仏教とは何か、第3～9回：釈尊の生涯と思想、第10～13回：釈尊滅後の展開（原始仏教、部派仏教、大乘仏教）、第14～15回：仏教の中国伝来、第16～17回：中国禅宗の成立と展開、第18～22回：道元禪師の生涯と思想、第23～27回：瑩山禪師の生涯と思想、第28～29回：曹洞宗の展開、第30回：現代社会と仏教。
準備学習	建学の理念をよく理解し、また仏教や禅関係の入門書を読んでおくことが望ましい。
履修上の留意点	自らの日常生活との関わりを意識しながら主体的に授業に参加してほしい。
成績評価の方法	年度末におこなう筆記試験と出席などの平常点によって評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修コード	203501
科目名	仏教と人間
担当者名	岩永 正晴
授業概要/ 到達目標（ねらい）	仏教および曹洞宗の教えに親しんで貰うことを、本講義の目的とします。仏教について冷静に考察するための材料を提供したい、と考えています。
授業スケジュール	本講義の目的を達成するため、本講義では以下のことを行いたいと思います。 まず、仏教の教主である釈尊と曹洞宗の両祖（道元禪師・瑩山禪師）のご生涯を紹介する。その後、曹洞宗の読誦経典である『修証義』を講読して、仏教の考え方や歴史を説明します。 第1回 授業の概要 第2回～第4回 釈尊の生涯 第5回～第10回 両祖（道元禪師・瑩山禪師）の生涯 第11回～第30回 『修証義』の講読（仏教及び曹洞宗の歴史と教え）
準備学習	高校生の頃に学んだ古文や漢文の復習をしておくことが望ましいかと思えます。また紹介する参考書を1冊でも2冊でも読んで貰いたいと思います。
履修上の留意点	必修科目であるので、安易に欠席することなく、積極的に参加して貰いたい。
成績評価の方法	学年末に実施する試験（定期試験・70点満点）と平常点（30点満点）によって成績評価を行う。
教科書／テキスト	配布資料と『修証義』の経本を配布して教科書とします。特に購入する必要はありません。
参考書	・松尾剛次『仏教入門』、岩波ジュニア新書322、820円 ISBN4-00-500322-2 ・平川彰『仏教入門』、春秋社、1800円 ISBN4-393-13525-3 ・角田泰隆『坐禅ひとすじー永平寺の礎をつくった禅僧たち』、角川文庫15037、ISBN978-4-04-407901-7

履修コード	204701
科目名	仏教と人間
担当者名	岡部 雅明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 仏教は、教義としての仏教や、人びとが実際に信仰として行っている仏教などさまざまなレベルの仏教があります。また、信仰に基づいた仏教として行われている活動にも、時代や地域によるバリエーションが存在します。このような多様性に富む仏教について、宗教一般についての理論も含めて学びます。</p> <p>(到達目標) 仏教についての基本的知識を習得し、またその多様性を理解することです。さらに、宗教が文化などに及ぼす影響などを考察するための知識の習得です。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「仏教と人間」について、アンケート 2. 日本人の宗教意識 3. 日本仏教の現況 4. 仏教儀礼 5. 日本人の霊魂観 6. 宗教起源の諸説 7. 呪術—宗教論 8. 社会的学説と心理学的学説 9. 聖の観念 10. 大伝統と小伝統 11. シャーマニズム 12. 民俗宗教の諸相 13. 日本における仏教の諸相 14. 世界における仏教の諸相 15. 宗教多元主義 16. 仏教成立の背景 17. ゴータマ・シッダールタの生涯 18. ゴータマ・シッダールタの教説 19. 初期仏教 20. 部派仏教 21. 大乘仏教の成立 22. 大乘仏教の思想的特質 23. 大乘仏教の発展 24. 仏教の伝播 25. 日本の仏教受容～奈良仏教 26. 平安仏教 27. 鎌倉仏教 28. 近世の仏教 29. 近代の仏教 30. 写経の実践
----------	---

準備学習	日本史および世界史に関する基礎的知識を修得しておいて下さい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	定期試験の成績80%、平常点20%場合を基準に、総合的に判断して評価します。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

履修コード	202701
科目名	仏教と人間
担当者名	小川 順敬

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日本人は仏教や寺院と深い関わりをもって生活しています。お彼岸やお盆といった年中行事、葬儀や年忌などの人生儀礼、また時には寺院で「祈願」を行なうなど、仏教は生活の中の宗教として定着してきたといっても良いでしょう。授業ではこうした仏教と私たちとの関わりについて考えていきたいと思ひます。</p> <p>(到達目標) 寺院や家庭、地域共同体で行なわれている行事の意味について私たちは十分に理解しているでしょうか。多くの場合、これらの行事は仏教本来の教えとは異なっています。教義で説く仏教と、私たちが普通に考えている仏教には大きな違いがあるのです。日本仏教は本来の仏教から大きく変容していると考えられているのです。この講義では、私たちがとりまく仏教の現状から初めて、その変容の意味を考えたいと思ひます。変容を考えるためには、本来の仏教の教えについて学ばなくてはなりません。仏教がどの様にして生まれ、発展してきたのか、この点について理解を深めたいと思ひます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目標・進め方・約束事について 2. 日本の民俗宗教と仏教 3. カミとホトケ 4. 仏教伝来と仏教受容 5. 日本人の生死観 6. 日本の人生儀礼 7. 日本の年中行事 8. 日本の霊魂観と仏教 9. お彼岸とお盆 10. 盂蘭盆会とお盆 11. 布施と功德 12. 菩薩の誕生 13. 菩薩の思想 14. 説話の仏教世界 15. 前期のまとめ 16. 釈迦の生涯 17. 釈迦の教え その1 18. 釈迦の教え その2 19. 仏教の伝播 スリランカ 20. 仏教の伝播 ミャンマー 21. 仏教の伝播 タイ 22. 仏教の伝播 中国 23. 仏教の伝播 日本の仏教 24. 神仏習合と本地垂迹説 25. 日本仏教のあゆみ その1 26. 日本仏教のあゆみ その2 27. 日本の仏教宗派 28. 仏像の世界 仏・菩薩 29. 仏像の世界 明王・天 30. 後期のまとめ
----------	---

準備学習	授業準備として次回授業で取り上げる内容について教科書の該当箇所、もしくは事前に関連資料のコピーに眼を通しておくこと。また、小テストの内容は必ず復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	原則として、年8回の「小テスト」(平常点)が2割、夏期レポート(前期試験に相当)が4割、年度末の筆記試験が4割として評価します。成績評価の具体的な方法、レポート課題の内容、年度末試験の方針、小テストの評価の仕方などは最初の授業で詳しく説明します。
---------	---

教科書/テキスト	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』(世界書院)2,100円、および関連資料のコピーを配布します。
----------	---

参考書	講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。
-----	------------------------

履修コード	205701
科目名	仏教と人間 [再クラス]
担当者名	奥野 光賢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学は仏教の教義、中でも曹洞宗の教えを建学の理念とする私立大学である。したがって、この講義が開講されている意義をまずしっかりと認識してもらいたい。講義は、仏教の基本的教義とその歴史の解説を中心とする。
---------------------	--

授業スケジュール	講義は、下記に指定する教科書によって進める。ただし、教科書のすべてを取り上げるのではなく、内容にしたがって重点的に解説するので、その点あらかじめお断りしておきたい。なお、教科書に入る前に、信教の自由といった問題や宗教学上における仏教の位置などを概説する。 (前期) (1～2) 序論、信教の自由について (3～4) 宗教の分類 (5～6) さまざまな宗教 (7～9) 仏教の誕生—釈尊の伝記 (10～12) 釈尊の説いた道—四諦・八正道 (13～15) 縁起・三法印・四法印・いろは歌・三学 (後期) (16～17) 仏教の流れ—原始仏教・部派仏教・大乘仏教 (18～19) 小乗仏教と大乘仏教 (20～21) 大乘仏教の教え—六波羅蜜 (22～23) 四摂法・四無量心について (24～25) 曹洞宗の歴史と教え (26～28) 尊厳死・安楽死について (DVD鑑賞を含む) (29～30) まとめ
----------	---

準備学習	準備学習は特に必要としない。興味の向いた仏教関係に関する書籍を読んでもらえば十分である。
------	--

履修上の留意点	講義形式ではあるものの、どんどん質問して答えてもらうため、積極的に参加する意欲が必要である。
---------	--

成績評価の方法	学年末試験に出席状況を加味して評価する。出席状況が極端に悪い場合は成績評価できない場合もあり得る。
---------	---

教科書/テキスト	松本史朗『仏教への道』(東京書籍)を教科書とする。その他、プリントを適宜配布する。
----------	---

参考書	適宜指示する。
-----	---------

履修コード	203901
科目名	仏教と人間
担当者名	片山 一良

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間にとって宗教とは何かを考え、宗教としての仏教とは何かを考えたい。
---------------------	------------------------------------

授業スケジュール	前半は宗教一般について、 1. 価値観、2. 科学と宗教、3. 文化、4. 宗教学、5. 宗教、6. 聖と俗、 7. 呪術、8. 神話、9. 儀礼、10. 民族宗教と世界宗教、などについて講じる。 また、その各々について仏教の基本的な捉え方、見方を考える。 後半は仏教の基本的な考え方について、 1. 仏教の歴史と文化、2. 仏教の背景、3. 仏伝、4. 三宝、5. 四法印、6. 縁起、 7. 四諦、8. 業と輪廻、9. 八正道と中道、10. 慈悲などについて講じる。 また、大乘仏教、禅の教えと実践について触れる。 いずれも現代の我々に身近な問題の中で取り上げ、人間、自己について考えたい。
----------	---

準備学習	心を静かに調えること。
------	-------------

履修上の留意点	「人間学」として把握し、学ぶことが望まれる。
---------	------------------------

成績評価の方法	レポート(夏期)、および年度末テストによる。
---------	------------------------

教科書/テキスト	とくに使用しない。随時、資料プリントを配布する。
----------	--------------------------

参考書	片山一良『ブッダのことば パーリ仏典入門』(大法輪閣)など。
-----	--------------------------------

履修コード	203401
科目名	仏教と人間
担当者名	金沢 篤

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、学生諸君に本学の建学の理念である「行学一如」を身をもって体得してもらうことをそのねらいとする。2500年と言われる長き歴史を有する仏教の思想や歴史などを学ぶことは、いうまでもなく、その「学」の一環である。こうした仏教に対する勉学を通して、宗教としての仏教とは何か、現代社会においていかなる意義をもつかを考えながら、自分自身を見つめ直し、自己の存在する意義を見出すことは、仏教の実践の重要な課題であり、まさしく「行」の具現なのである。そして、学び得たものを生かし、仏教的立場から現実の社会を考える視点を持つことが、「行学一如」の理念の具体化ということなのである。
---------------------	--

授業スケジュール	この講義においては、下記のテーマを順次に説明していききたい。 宗教について (5回) ・世界の三大宗教 (3～4回) ・ブッダの生涯 (2～3回) ブッダの悟りと教え (2～3回) ・インド仏教の展開 (2～3回) 仏教東漸 (インドから中国へ) (1回) ・中国仏教の展開 (3～4回) 中国禅宗の成立と展開 (3～4回) ・日本への仏教伝来とその展開 (1～2回) 道元禅の成立と展開 (1～2回)
----------	--

準備学習	自分の生活の身近に仏教的要素を探り、その意味について自分なりに考えておきたい。通常の漢字や日本語の言い回しなど、日本人としてはずかしくない最低限の日本語力を補完しておきたい。寺院と神社の相違などについて思いをいたし、仏教がインドに起源をもつ外来の宗教であることを改めて想起しておきたい。教科書を早い時期に入手して、通読しておくことが望ましい。
------	---

履修上の留意点	講義内容を必ずノートすること。出席点を評価に入れるので、欠席しないこと。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	夏休みの課題レポート (20点)、期末テスト (60点)、出席点 (20点) の三つを総合的に評価する。
---------	--

教科書/テキスト	プリント配布。
----------	---------

参考書	適宜に紹介する。
-----	----------

履修コード	341601
科目名	仏教と人間 [再クラス]
担当者名	木村 誠司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学の建学の理念は、仏教である。仏教の如何なる考えが、建学の理念に反映されているのかを、示し、合わせて、現代における仏教のあり方、近代史における仏教の諸相、インド以来の仏教史を概説する。仏教に対する誤解や通念を払拭することがねらいである。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建学の理念 1 2. 建学の理念 2 3. 現代の仏教 1 4. 現代の仏教 2 5. 現代の仏教 3 6. 近代の仏教 1 7. 近代の仏教 2 8. 近代の仏教 3 9. 釈迦の生涯 1 10. 釈迦の生涯 2 11. 釈迦の生涯 3 12. インド仏教の諸相 1 13. インド仏教の諸相 2 14. インド仏教の諸相 3 15. インド仏教の諸相 4 16. 中国仏教の諸相 1 17. 中国仏教の諸相 2 18. 中国仏教の諸相 3 19. 中国仏教の諸相 4 20. チベット仏教の諸相 1 21. チベット仏教の諸相 2 22. チベット仏教の諸相 3 23. チベット仏教の諸相 4 24. 日本仏教の諸相 1 25. 日本仏教の諸相 2 26. 日本仏教の諸相 3 27. 日本仏教の諸相 4 28. その他の仏教 1 29. その他の仏教 2 30. その他の仏教 3
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	特になし。
---------	-------

成績評価の方法	授業中、小テストやレポートを課すので、平常点100%で評価する。
---------	----------------------------------

教科書/テキスト	すべてコピーで配布する。
----------	--------------

参考書	適宜指示する。
-----	---------

履修コード	202501
科目名	仏教と人間
担当者名	熊本 英人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「仏教と人間」は、仏教や禅の教えについての理解を深め宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする全学部共通の必修科目である。特に、これから仏教を専門として研究する仏教学部禅学科1年次生にとっては、この講座は、仏教の基礎を学ぶだけでなく、仏教に対する自分の問題意識とその研究方法を習得するための講座である。 (ねらい) 宗教について学ぶことの意味を考え、仏教と禅に関する諸問題や、文化や社会への影響を見ていくことで、本格的に仏教と禅について研究していくうえでこの課題を発見してもらいたい。
---------------------	--

授業スケジュール	次の6つのテーマについて、順次講義する。 1～3. 宗教を学ぶとは 4～8. 民族宗教と世界宗教 9～15. 仏教の起源とその特質 16～22. 仏教の歴史とその特質 23～27. 禅仏教の歴史とその特質 28～30. 曹洞宗の歴史とその特質
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	年度末の筆記試験(80%)と平常点(20%)。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	テキストおよび参考資料は、必要に応じてコピーで配布する。
----------	------------------------------

参考書	講義の中で随時紹介する。
-----	--------------

履修コード	205601
科目名	仏教と人間
担当者名	熊本 英人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「仏教と人間」は、仏教や禅の教えについての理解を深め宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする全学部共通の必修科目である。日本人は、なぜ宗教に無関心なのか。実は、意識していないだけで、日常生活の中で宗教的要素に囲まれて生きている。仏教について、知識として憶えるのではなく、自分の身の回りの問題として考えるような材料を提供する。 (ねらい) 仏教を学ぶことによって、宗教に関心を持ち、自分にとって宗教とは何かをあらためて考えてもらいたい。
---------------------	--

授業スケジュール	仏教に限らず、宗教は、社会の変容と相互関係をもって展開してきた。インドにおける仏教の開祖ブッダの伝記や、仏教の歴史や人物などを取り上げながら、現代社会につながる話題として解説していく。 1～3 宗教を学ぶとは 4～12 ブッダの生涯と仏教の歴史 13～21 禅の歴史とその特質 22～30 日本仏教の歴史とその特質
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	年度末の筆記試験(80%)と平常点(20%)。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	テキストおよび参考資料は、必要に応じてコピーで配布する。
----------	------------------------------

参考書	講義の中で随時紹介する。
-----	--------------

履修コード	204301
科目名	仏教と人間
担当者名	佐藤 秀孝
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏教はインドのゴータマ・シッタッタ（釈迦牟尼仏）を開祖とする宗教であり、すでに2500年の歴史を有している。世間一般の仏教に関する理解は、おおむね葬式仏教というイメージが中心であろう。しかし、実際には仏教の思想は生きた人間そのものを見つめるきわめて現代的なものである。仏教が他の諸宗教ときわめて相違する点は、神を持ち出さず、あくまで人間（自己）の苦悩や生死の問題に正面から立ち向かっているところにある。その面で仏教はまさに人間学なのであって、「人（人生）とは如何にあるか」「人（人生）とは如何にあるべきか」を課題にしているわけである。</p>
授業スケジュール	<p>講義では人間学としての仏教の基本的なものの考え方（無常・縁起など）を諸方面から窺い、仏教の現代的意義を探ってみたい。また合わせて本学の建学の理念でもある禅のものの考え方についても、その実践性から禅の人間観・修行観・生活観などの諸方面から説明したい。</p> <p>具体的には、前期に宗教一般の中における仏教の特徴、仏教の開祖ゴータマ・ブッタの生涯に触れ、さらに四諦八正道や三法印など仏教の基本的なものの見方について論じる。</p> <p>後期には仏教の中から特に禅宗について触れ、達磨（ダルマ）に始まる中国禅宗の特徴、中国・日本における禅宗の歴史の変遷について述べ、さらに仏教・禅宗における人間観・修行観・自然観などについて論じる。</p>
準備学習	<p>高校時代に習った日本史や世界史、あるいは倫理に載っている仏教の知識を前もって復習しておくこと。</p>
履修上の留意点	
成績評価の方法	<p>年度末試験およびレポート提出などを中心とするが、さらに出席を重視するのでそのつもりで臨んでもらいたい。</p>
教科書／テキスト	<p>廣澤隆之『図解雑学・仏教』（ナツメ社）1,400円を使用したい。</p>
参考書	<p>奈良康明『仏教と人間』（東京書籍・東書選書）や松本史朗『仏教への道』（東京書籍・東書選書）及び中尾良信『図解雑学・禅』（ナツメ社）などが有益であろう。</p>

履修コード	203201
科目名	仏教と人間
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 生活に合った形で展開している仏教は「民俗仏教」と呼ばれるが、これは縁起や空を説く「教義仏教」とは大きく異なっている。この講座では、日本人の宗教観について考察した後に、仏教文化には教義仏教と民俗仏教との異なる2つのレベルがあることを学習し、さらに教義仏教の思想と行動について考えてみたい。 (到達目標) 受講生は、仏教が人間・社会にとってどのような意味と役割をもっているか、他の諸宗教との比較において説明することができる。そして、仏教文化に見られる教義仏教と民俗仏教との2つのレベルの内容について、それぞれ解説することができるとともに、両者の関係についても説明することができる。
---------------------	--

授業スケジュール	1 はじめに 2 価値中立的立場 3 人間の捉え方 4 家構造と人間の思考 5 風土と人間の思考 6 大震災と宗教 7 一神教の世界観 8 多神教の世界観 9 アニミズム 10 マナイズム 11 呪術・邪術・妖術 12 呪術の心理と論理 13 宗教的エリートとマス 14 教義仏教と民俗仏教 15 前期の総括 16 仏教興起時代のインド文化 17 釈尊の生涯 18 縁起説 19 四諦説 20 法印説 21 原始仏教と部派仏教 22 部派仏教と大乘仏教 23 大乘仏教と禪仏教 24 禪仏教と曹洞宗 25 日本の宗派仏教 26 教義仏教から見た日本仏教 27 民俗仏教から見た日本仏教 28 一仏両祖 29 三宝 30 総括
----------	---

準備学習	授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「教科書」「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。
履修上の留意点	出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。
成績評価の方法	定期試験の成績70%、平常点30%とする。なお、追試験は実施する。
教科書／テキスト	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』世界書院。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	204501
科目名	仏教と人間
担当者名	菅原 壽清

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間の精神世界の根源にあって人びとの生活を支える宗教・仏教文化の理解は、現代社会においても不可欠であると思われます。そこで、本講義では「人間と宗教」という視点から、人間と宗教・仏教について、その営みをとらえてゆきます。 授業は講義形式とし、前半は宗教をとらえてゆくための基礎的な講義を、後半では激動するアジアの今を宗教、仏陀の教え、その展開や伝播と変容、禪のころなどを中心に、DVDやプロジェクターを用いて、ビジュアルな授業を進めてゆきます。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>〈宗教へのアプローチ〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教と宗教学 (宗教をとらえる視点) 2. 宗教学の研究領域 (多様なアプローチ) <p>〈宗教の多様性〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. さまざまな宗教形態 (アジアの宗教、その多様な形態) 4. 宗教の分類方法 (現代の分類方法) <p>〈人びとの暮らしと仏教〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 仏陀の教え (仏陀の生涯と教え) 6. 仏教の伝播と変容 (中国・チベット仏教) 7. " (日本の仏教) 8. " (神仏習合と分離) 9. 禪のころ (道元禪師の教え) <p>(配付資料、講義中の映像などを全てYeStudyで公開します。また、国内や海外調査などで撮影した多数の写真を、ホームページで公開しています。インターネットなどができれば、なお可です。)</p>
----------	--

準備学習	YeStudyで講義に関する、配付資料、授業ノート、映像を全て公開します。YeStudyに積極的に登録して利用し、予習復習をして下さい。
------	--

履修上の留意点	必須科目なので、毎回出欠の確認を行います。
---------	-----------------------

成績評価の方法	試験 + α + β (詳細は、講義の時説明) α = 出席点 (ABCで付け、積極的な授業参加を評価します) β = レポート点 (課題や参考書に基づいて提出したレポート、授業中に見たDVDの感想など、積極的な授業参加を評価します)
---------	---

教科書/テキスト	特には指定しません。講義資料をプリントして配布します。 また、YeStudyでも、講義ノート、映像、参考図書などを掲載します。 講義において、そのつど参考書や文献を紹介します。 『宗教学ハンドブック』(世界書院)を持っていれば、なお可です。
----------	---

参考書	YeStudyでも、講義ノート、映像、参考図書などを掲載します。 講義において、そのつど参考書や文献を紹介します。
-----	--

その他	特になし。
-----	-------

履修コード	203301
科目名	仏教と人間
担当者名	須藤 寛人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、仏教をひとひととの関わりのなかでとらえます。つまりこの講義での仏教とは、ひとひととが実際に生きた仏教、ひとひとの暮らしのなかの仏教です。そこで、インド亜大陸で生まれた仏教がどのように大きくなり、私たちの住む日本に伝えられてきたのかをこの講義では学んでいただきたいと思います。ひとひとがなにを仏教に求め、また仏教はひとひとに何を与えてきたのでしょうか。それは時代と場所によっては、生きる力であったり、ころの安らかさであったり、時には生活を規制するものであったかもしれません。仏教の全体的な歴史を学びながら現在の私たちの暮らしを見直していくといった姿勢が、本講義を通して養われることを期待します。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 授業の評価と概要、(2) 仏教以前のインド、(3) 仏教誕生、(4) 仏弟子と仏教の広がり、(5、6) 中国の宗教と仏教、(7) 日本：仏教公伝とテラの発生、(8、9) 聖武天皇と神仏習合(10、11)、密教の成立と御霊信仰、(12) 末世と浄土・地獄、(13) 鎌倉以降、(14) 江戸時代の仏教と檀家制度、(15) 明治時代の仏教：開国と神仏分離、(16) 日本人は宗教的か？仏教的か？、(17、18、19) 葬儀とその問題点、(20) 日本文化における供養、(21) 日本人と先祖崇拝、(22、23、24) 宗教的職能者と仏教、(25～) まとめ。
----------	---

準備学習	とくに必要はありません。
------	--------------

履修上の留意点	この科目専用のノートを用意し、講義を筆記することを望みます。またレポートの提出をお願いしますが、ネット上の内容のコピーなどにならないように、自分自身で考えたレポートを作成してください。
---------	--

成績評価の方法	毎回出席を取ります。レポートの提出を依頼します。最後に期末試験を行います。それらを総合して成績評価を行います。目安として、試験70%、レポート20%、出席10%になります。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配布します。
----------	-------------

参考書	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』(世界書院)
-----	------------------------------

その他	私語は厳禁です。欠席した分のノート、プリントについては自己責任で対処するように。
-----	--

履修コード	205401
科目名	仏教と人間
担当者名	清野 宏道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【講義概要】 各宗教の考え方や特徴を概観しながら、仏教とはどういう宗教なのか、どういう経緯で成立したのか、その特徴は何か、中でも禅は何を教えるのか、それは一体どういう意義があるのか、なぜ仏教は存在し続けるのか、といった問題を通して仏教の大綱を把握します。</p> <p>【到達目標】 人によって「仏教」の捉え方は様々です。現代の日本には曹洞宗を始め様々な宗派が存在しますが、本来、仏教とは「人間が人間らしく、今ここにある人生を正しく生き抜くための教え」と言えます。すなわち、仏教とは「人間学」なのです。したがって、仏教は「前近代的なもの」ではなく、「怪しげなもの」「おどろおどろしいもの」などでも決してありません。仏教の実態をしっかりと理解することを第一の目標とします。 第二は、釈尊に始まる仏教の歴史を把握し、仏教に生きた人々の在り方を通して今までの自分を見つめ直すことを目標とします。 そして、自分はこれからの大学生活をどう生きていくべきか、本当に大切なものは何か、自分はこのままで良いのか、などと自らに問いかける感性を身につけ、大学生活や今後の人生を思慮深く生きていくための人格的な成熟を目指して頂きたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>〔前期〕</p> <p>第1回 宗教の意義 第2、3回 各宗教の特徴 第4、5回 釈尊の生涯 第6回～第15回 仏の十大弟子</p> <p>〔後期〕</p> <p>第16回～第18回 仏教の成立と伝播 第19回～第21回 中国の仏教 第22回～第24回 仏教の日本伝来 第25回～第27回 曹洞宗の教え 第28回～第30回 現代社会における仏教の意義</p>
----------	--

準備学習	入学時に配られたパンフレットの「建学の理念」を読み、駒澤大学が曹洞宗の大学であることを各自銘記して下さい。また、可能であれば自分の家の宗教は何であるか、あるいは何宗に属するのかを確認しておいて下さい。
------	--

履修上の留意点	「仏教と人間」専用のノートを準備し、講義内容をしっかり書き取って下さい。また、講義ごとに自分の意見や感想などを記し、年間を通して自分の思考の足跡がわかるようにして下さい。講義には真剣に臨んで下さい。私語厳禁。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (40%) ・夏期休業中のレポート (20%) ・学期末試験 (40%) を総合して評価します。
教科書/テキスト	本講義では『仏教概論—わかりやすい仏教—』(曹洞宗宗務庁、1992年4月)を基本テキストとします。 講義時にプリントを配布する場合があります。

参考書	講義中に告知します。
-----	------------

履修コード	203101
科目名	仏教と人間
担当者名	竹内 弘道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>あなたは今、自分を取り巻く社会事象や世界の動きをどれだけ把握していますか？ 周囲のさまざまな問題に関心を寄せ、現代社会が抱える先端的なテーマに対しても自分なりの考えを持っているようになることが大学生としてのあるべき姿と考えます。</p> <p>しかし、いざ自分の考えを表明しようにも、判断の指標となる自己の依って立つ「思想」がなければ、何の見解も導き出すことができません。</p> <p>残念ながら高校までの日本の教育制度は、若者が政治や社会に対して意見を持ち、積極的に関わっていくと芽を育てようとはしていないように思われます。とりわけ、病的なまでに宗教を排除した戦後の教育のなかで形成された知性に、大きく欠けているものは、宗教に関する諸知識と宗教観であると思われます。</p> <p>宗教が我々の文化に深くかつ広汎に関わってきたことは、歴史を振り返ればすぐに分かることです。それは世界の歴史も同様です。現代の日本もまた、宗教の百貨店といわれるほど、世界にも希な豊かな宗教文化を内包しながら、そのことを自覚している人は決して多くはありません。</p> <p>現代に固有と思われる、脳死・臓器移植・尊厳死などの問題も、自らの根底にあるべき宗教観が問われる場合が多く、自己の宗教的視点が定まっていないと、問題の本質が見えないばかりか、意見を述べることもむずかしくなります。</p> <p>歴史学とは、過去と現代の対話といわれています。単に歴史的事実や年号を覚えることが歴史学ではなく、過去の歴史的事実から現代に生きる我々が何を学ぶかということがテーマとなります。</p> <p>授業では、仏教と禅に関する基本的知識を学び、それらが深く社会に浸透し展開した歴史を学ぶなかで、これまで自らに欠落していた宗教に関する視点を補い、併せて現代社会のさまざまな問題についても考えていきたいと思えます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1、釈尊の生涯 2、仏教の基本理念 3、大乘仏教と部派仏教 4、大乘仏教の思想と代表的な経典 5、仏教の伝播 6、中国仏教の特徴 7、仏教の日本伝来と飛鳥仏教 8、古代日本仏教の謎 9、聖徳太子と飛鳥仏教 10、大化改新と飛鳥仏教 11、奈良仏教 12、奈良(南都)仏教の矛盾 13、行基と民間仏教 14、平安仏教…最澄と空海 15、平安仏教の特徴と変質 16、鎌倉仏教 17、鎌倉仏教論の問題点 18、仏教の屈辱 19、禅の起源発生 20、禅宗の初祖、菩提達磨 21、達磨の虚像と実像 22、敦煌文献の発見と達磨の実像 23、達磨の思想 24、東山法門…集団化のはじまり 25、南宗と北宗…『六祖壇経』の世界 26、南宗の陰の立て役者…荷沢神会 27、中国禅の展開と五家七宗 28、宋代の禅 29、日本の禅…日本曹洞宗の祖、道元禪師 30、仏教と現代…仏教と生命倫理</p>
----------	---

準備学習	前回に配布したプリントに目を通し、授業内容を復習しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	試験は、講義内容から指定したテーマについて、レポートを提出させ理解度を評価する。
教科書／テキスト	板書・プリント配布
参考書	参考書はその都度授業で紹介する。

履修コード	205501
科目名	仏教と人間
担当者名	角田 泰隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏教の歴史や教えについて講義し、仏教についての正しい認識を身につけることを目標とする。この講義では、便宜的に「人間」「世界」「環境」「自己」「現在」「生死」「教育」などの言葉を順次取り上げ、これらと関係させながら仏教を概説したい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1～3 宗教とは何か 4～5 仏教の歴史 6～7 禅の歴史 8～9 日本の仏教 10～12 仏教の世界観 13～15 仏教の人生観 16～17 仏教と生死 18～19 仏教と環境 20～21 仏教と自己 22～22 仏教と現在 23～24 仏教と教育 25～26 禅の教え 27～30 道元禅と現代</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	教科書は用いないので、筆記用具を調べ、講義の内容をしっかりと記録すること。(定期試験には自筆ノートの持ち込みを許可する)
成績評価の方法	定期試験の成績60%、レポート(年1回出題)10%、平常点30%とする。
教科書／テキスト	教科書はない。必要に応じて資料を配布する。
参考書	講義の中で随時紹介する。

履修コード	204011
科目名	仏教と人間
担当者名	程 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、学生諸君に本学の建学の理念である「行学一如」を身をもって体得してもらうことをそのねらいとする。2500年と言われる長き歴史を有する仏教の思想や歴史などを学ぶことは、いうまでもなく、その「学」の一環である。こうした仏教に対する勉学を通して、宗教としての仏教とは何か、現代社会においていかなる意義をもつかを考えながら、自分自身を見つめ直し、自己の存在する意義を見出すことは、仏教の実践の重要な課題であり、まさしく「行」の具現なのである。そして、学び得たものを生かし、仏教的立場から現実の社会を考える視点を持つことが、「行学一如」の理念の具体化ということなのである。
---------------------	--

授業スケジュール	この講義においては、下記のテーマを順次に説明していきたい。 宗教について (1~2回) ・ブッダの生涯 (2~3回) ・ブッダの悟りと教え (3~4回) ・インド仏教の展開 (2~3回) ・仏教東漸 (インドから中国へ) (1回) ・中国における仏教の受容 (5~6回) ・中国禪宗の成立と展開 (5~6回) ・日本への仏教伝来とその展開 (1~2回) ・道元禪の成立と展開 (2~3回)
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	講義内容を必ずノートすること。 配付資料、ノートに基づいて復習すること。 出席点を評価に入れるので、欠席しないこと。

成績評価の方法	期末試験 (60%)、授業中の小レポート (20%)、出席点 (20%) の三つを総合的に評価する。但し、場合によって点数配分の割合を変更することもあり得る。
---------	---

教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	適宜に紹介する。

履修コード	203601
科目名	仏教と人間
担当者名	徳野 崇行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義では、まず現代日本における宗教や仏教の状況、日本人の宗教観について概観する。次いで、仏教の歴史の変遷をインド・中国・日本に分け、伝播の経路にそって仏教の歴史に関する理解を深めていく。とくに講義では釈尊や中国仏教・日本仏教の祖師の生涯を紹介しつつ、当時の宗教的・社会的状況について見ていきたい。
---------------------	---

(到達目標)	本講義の到達目標は、仏教の歴史の変遷を、高僧の生涯や近世の檀家制度、明治時代の神仏分離などを取り上げることによって、現代の仏教を理解する基礎的な知識を習得することである。
--------	---

授業スケジュール	1. オリエンテーション (講義の進め方、スケジュール、評価方法など) 2~4. 現代社会と仏教・宗教 5~10. 釈尊の生涯・思想とインド仏教の展開 11~14. 中国への仏教伝来と仏教諸宗派の興隆 15~18. 日本への仏教伝来と古代仏教の発展 19~24. 鎌倉新仏教の祖師たちの生涯と思想 25~26. 檀家制度の成立と近世仏教 27~28. 明治維新と仏教 29~30. 現代日本の仏教
----------	--

準備学習	紹介された参考書を読むことが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点 (30%) と学期末試験 (70%) を総合して評価する。
教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	203701
科目名	仏教と人間
担当者名	永井 政之

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>入学式ではじめて知った方もあろうが、駒澤大学は日本仏教の宗派の一つである曹洞宗が設立の母体になっている。したがって4年間の大学での生活の中では、さまざまな機会に「宗教的」なものに触れるであろう。</p> <p>ところで学生諸君は、「宗教」とか、「仏教」という言葉を聞いたとたん、「辛気くさいもの」「前近代的なもの」「怪しげなもの」などの、漠然とした感想を持たれるものと想像する。実際、宗教、特に「仏教」をとりまくさまざまな要件は、興味の対象とはなっても、そのイメージを好転させる方向にはないようである。</p> <p>現代人の多くが、宗教に関心を失った原因の過半は、既成の教団にその責任があるように私は考えている。したがって若者が宗教に無関心であったり、あるいは過度の期待を抱くことを批判することはできない。</p> <p>ただ今から2,500年前にシャカによって総称された「仏教」は、けっして「おどろおどろしい」ものではないし、前近代的なものでもない。きわめて理性的な教えといってよいであろう。そんなオーソドックスな「仏教」そして「禪」の立場を考えてみたい。</p> <p>なお、「宗教教育科目」という名称ではあるが、「個人の信仰」の領域にまで踏み込んで信仰を強制するものではない。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>そもそも「宗教」とは何なのか。人間にとってどのような意味があるのかを考えます。駒澤大学の「建学の理念」についても考えてみましょう（1～4）。そして、そもそもブッダによって説かれた「仏教」とはどんな教えなのか考えます（4～15）。その後、ダルマによって中国に伝えられたという禪とはどんな風に人間を捉えるのかを紹介しつつ（15～25）、道元の禪にまで論及したいと思います（26～30）。</p>
----------	--

準備学習	<p>入学式当日に、駒澤大学の「建学の理念」が書かれたパンフレットが配られます。最初の授業で言及紹介しますので必ず持参してください。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>まじめに授業をうけ、私語をつつしむこと。</p>
---------	-----------------------------

成績評価の方法	<p>初めの授業で課題図書を出すので、所定の期限にレポートを提出すること。期末には試験を行い、普段の授業態度などをふくめて、総合的に評価して成績とする。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布したり、参考文献を指示する。課題図書は購入することが望ましい。</p>
----------	---

参考書	<p>とくにありません。授業中に適宜指示します。</p>
-----	------------------------------

履修コード	202601
科目名	仏教と人間
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教の起源と伝播を概観した上で、仏教と他宗教との比較を行い、さらには、日本における歴史上の主要な仏教者の思想や行動を通して、人間の精神生活に果たす仏教・宗教の意義を考える。 (到達目標) 2年次以降、仏教、宗教を学ぶ上での基礎的な知識を習得する。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、宗教の分類(1) 2、宗教の分類(2) 3、無神論と有神論 4、宗教的人格 5、宗教的指導者のタイプ 6、世界宗教の諸相(1) 7、世界宗教の諸相(2) 8、宗教集団の構成条件 9、宗教集団の形態 10、仏教の起源と初期形態(1) 11、仏教の起源と初期形態(2) 12、釈尊の教え 13、大乘仏教運動の形成と展開(1) 14、大乘仏教運動の形成と展開(2) 15、大乘経典の特徴 16、ヒンドゥー教 17、仏教の伝播 18、西域の仏教 19、中国への仏教伝来 20、格義仏教 21、南北朝時代の仏教 22、隋唐時代の仏教 23、宋代の仏教 24、朝鮮仏教史(1) 25、朝鮮仏教史(2) 26、日本への仏教伝来(1) 27、日本への仏教伝来(2) 28、神祇信仰と仏教 29、国家仏教の曙 30、総括
----------	--

準備学習	前回の授業内容を復習して臨む。
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末試験の成績80%、レポート10%、平常点10%とする。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	授業時に適宜紹介する。

履修コード	205201
科目名	仏教と人間
担当者名	藤井 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>生きる上での苦しみの原因を探索し、それから解放される道を見出した釈尊とその流れをくむ高僧たちの教えについて大学生時代に本格的に触れておくことは、これからさまざまな出来事に会う可能性のある学生にとって有意義である。前期は仏教の開祖である釈尊（お釈迦様、仏陀、釈迦牟尼）の伝記とその教え、および日本の仏教と関係の深いお経について講義する。後期は本学の建学の理念となっている曹洞宗の教えについて理解を深めるために、日本の仏教について講義する。</p> <p>仏教はその始まりより人の生死の問題を正面から直視してきた。現代の医療現場では、つい五十年前とは違い、患者およびその家族が突然に人の死に直面するために多くの課題を抱えている。積極的な態度で授業に参加することによって将来に役立つ多くのものを得てほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <p>1 インTRODクシヨン 2～9 釈尊の伝記（八相成道） 2 誕生, 3 青年期, 4 出家と修行, 5 降魔と成道, 6 転法輪, 7 釈尊の弟子, 8 涅槃, 9 三蔵</p> <p>10～12 釈尊の教え 10 四諦・縁起, 11 無我 業と輪廻, 12 戒・定・慧 八正道</p> <p>13～15 大乘経典（法華経・維摩経・勝鬘経）</p> <p>(後期)</p> <p>16～18 道元禅師の生涯 19～20 曹洞宗の流れ 21～28 日本の仏教 21 聖徳太子と奈良時代の仏教, 22 伝教大師最澄と弘法大師空海 23 天台宗と真言宗, 24 法華経信仰と浄土信仰 25 法然上人と親鸞聖人, 26 日蓮聖人と一遍上人 27 日本の禅宗, 28 現代日本と仏教 29～30 宗教と医療をめぐる問題、後期のまとめ</p> <p>以上は目安です。進行状況によって適宜前後します。</p>
----------	---

準備学習	<p>今回の授業について、教科書・参考書はいうまでもなく、ネットを含めて積極的に調べて予習しておくことにより、授業の理解が数倍も深まる。また予習の段階で疑問となることがあり、授業でも理解できなければ質問してほしい。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>受講者の人数の関係上、授業は講義方式で進める。但し、自分の疑問点を整理して人前で発表する質問は、積極的に授業に参加する本人にとっても、他の受講者にとっても理解を深める上で有益であるので大いに歓迎する。</p> <p>なお、授業中の私語、携帯電話の受信、スマートフォンの使用等は他の受講者への多大な迷惑行為となるので厳禁とする。指示を守れない人は退出させるので、あらかじめ留意しておいて欲しい。</p> <p>Yestudyを用いて課題の提出・資料の配布等を行うのでYestudyを使えるようになっておくこと。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>レポートと学年末試験によって評価する。出席状況等も評価の対象とするがあくまで基本は学年末試験である。休暇中の課題として適宜、指定する映像資料を見たり、実際に寺院を訪れた上でレポートを提出してもらう。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>中村元、田辺和子『ブツダ物語』（岩波ジュニア新書）819円、ISBN:978-4005001712</p>
----------	--

参考書	<p>松尾剛次『仏教入門』（岩波ジュニア新書）861円</p>
-----	---------------------------------

その他	<p>「医療健康科学部」という性格に鑑み、時間的余裕があれば、「安楽死」「尊厳死」といった問題等についても考察してみたいと思う。</p>
-----	--

履修コード	205301
科目名	仏教と人間
担当者名	藤井 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>生きる上での苦しみの原因を探求し、それから解放される道を見出した釈尊とその流れをくむ高僧たちの教えについて大学生時代に本格的に触れておくことは、これからさまざまな出来事に会う可能性のある学生にとって有意義である。前期は仏教の開祖である釈尊（お釈迦様、仏陀、釈迦牟尼）の伝記とその教え、および日本の仏教と関係の深いお経について講義する。後期は本学の建学の理念となっている曹洞宗の教えについて理解するために、日本の仏教について講義する。</p> <p>仏教はいずれの時代も最先端のメディアと関わりをもってきた。また日本の文化を海外に発信する上でその基礎となった仏教を理解することは必要不可欠である。積極的な態度で授業に参加することによって将来に役立つ多くのものを得てほしい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <p>1 イントロダクション 2～9 釈尊の伝記(八相成道) 2 誕生, 3 青年期, 4 出家と修行, 5 降魔と成道, 6 転法輪, 7 釈尊の弟子, 8 涅槃, 9 三蔵 10～12 釈尊の教え 10 四諦・縁起, 11 無我 業と輪廻, 12 戒・定・慧 八正道 13～15 大乘経典 (法華経・維摩経・勝鬘経) (後期) 16～18 道元禅師の生涯 19～20 曹洞宗の流れ 21～28 日本の仏教 21 聖徳太子と奈良時代の仏教, 22 伝教大師最澄と弘法大師空海 23 天台宗と真言宗, 24 法華経信仰と浄土信仰 25 法然上人と親鸞聖人, 26 日蓮聖人と一遍上人 27 日本の禅宗, 28 現代日本と仏教 29～30 仏教とメディア、後期のまとめ 以上は目安です。進行状況によって適宜前後します。</p>
----------	--

準備学習	予習しておくことにより、授業の理解が数倍も深まる。また予習の段階で疑問となることがあり、授業でも理解できなければ質問してほしい。
------	--

履修上の留意点	<p>受講者の人数の関係上、授業は講義方式で進める。但し、自分の疑問点を整理して人前で発表する質問は、積極的に授業に参加する本人にとっても、他の受講者にとっても理解を深める上で有益であるので大いに歓迎する。</p> <p>なお、授業中の私語、携帯電話の受信、スマートフォンの使用等は他の受講者への多大な迷惑行為となるので厳禁とする。指示を守れない人は退出させるので、あらかじめ留意しておいて欲しい。パソコンの持ち込み使用は許可を必要とする。</p> <p>Yestudyを用いて課題の提出・資料の配布等を行うのでYestudyを使えるようになっておくこと。</p>
---------	--

成績評価の方法	レポートと学年末試験によって評価する。出席状況等も評価の対象とするがあくまで基本は学年末試験である。休暇中の課題として適宜、指定する映像資料を見たり、実際に寺院を訪れた上でレポートを提出してもらおう。
---------	--

教科書/テキスト	中村元、田辺和子『ブツダ物語』（岩波ジュニア新書）819円、ISBN:978-4005001712
----------	---

参考書	松尾剛次『仏教入門』（岩波ジュニア新書）861円
-----	--------------------------

その他	仏教の伝統が長くはない欧米における仏教入門書は生活と仏教との関連性が薄くなっている現代の日本人にはかえって理解しやすいこともある。関心のあるものには英文の入門書も勧めるので質問してほしい。
-----	--

履修コード	204021
科目名	仏教と人間
担当者名	松田 陽志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>釈迦(釈迦牟尼世尊・釈尊)の生き方と教えを仏伝(釈尊の伝記)及び初期仏典の記述によって学ぶ。特にヒンドゥー文化圏の中での釈尊の教えの独自性を、仏教教団が仏伝の中で、どのように表わそうとしたのかを、具体的に理解する。また中国人が受け容れた禪という仏教思想の持つ基本的性格を知り、それが現在の自分の生き方や社会にどのような意味を持つものかを考える。</p> <p>(到達目標)</p> <p>現在もインドの大多数の人々が信仰するヒンドゥー教の考え方に対して提示された、初期仏教の立場を理解し、中国・日本に展開する大乘仏教との性格との違いについて考える。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：(ヒンドゥー教と仏教)インドの仏教を学ぶこと 第3回：ヒンドゥー教の性格—輪廻思想— 第4回：ヒンドゥー教の性格—因果の道理と出家— 第5回：カースト制度と仏教①—ヴァルナとジャーティ— 第6回：カースト制度と仏教②—ガンジーとアンベードカル— 第7回：大乘仏教の性格—護仏運動— 第8回：大乘仏教の性格—供養と救済— 第9回：初期仏教と大乘仏教—中国の死生観— 第10回：初期仏教と大乘仏教—日本の死生観— 第11回：(釈尊の生き方)釈尊の誕生①—誕生まで— 第12回：釈尊の誕生②—天上天下唯我独尊— 第13回：青年時代—出家の要因— 第14回：出家するまで—結婚とラーフラの誕生— 第15回：予備</p> <p>(後期)</p> <p>第16回：禪定体験 第17回：苦行と悪魔の誘惑 第18回：輪廻の主体について—五蘊非我說— 第19回：『般若心経』と五蘊皆空 第20回：成道 第21回：成道の内容①—さとりととは何か— 第22回：梵天勧請と初転法輪 第23回：成道の内容②—十二縁起と無明— 第24回：涅槃・入滅 第25回：(禪とは何か)ボダイダルマとは誰か 第26回：禪の立場—達磨の教え— 第27回：禪の理解—荷沢神会の北宗禪批判— 第28回：禪の伝灯—弘忍と慧能— 第29回：禪の修行—平常心是道— 第30回：予備</p>
----------	---

準備学習	<p>授業の前に、前回の内容を思い出ししておくこと。 また授業内容に限らず、宗教、特に仏教に関するニュース報道に注意しておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>毎回出席し、配布資料を整理保存すること。何が重要なことかを考えながら、講義を聞くこと。受講票に書かれている設問に対する答えを考えながら、授業を聞くこと。配布資料の余白などに、自分が重要だと思った事柄や興味・関心を持った内容を、自分の言葉・文章で簡潔にまとめておくこと。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>授業内容を簡潔にまとめた受講票による平常点(30%)と年度末試験(70%)によって評価する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>配布資料にしたがって講義する。</p>
----------	------------------------

参考書	<p>随時紹介する。</p>
-----	----------------

履修コード	341801
科目名	仏教と人間
担当者名	松本 史朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本学の建学の理念である「仏教の教義と曹洞宗立宗の精神」を学生諸君に理解してもらうことが、この講義のねらいである。従って、仏教とは何か、それは人生において如何なる意味をもつのかを、分かりやすく説明したい。仏教の基本的知識を習得することが、この講義の到達目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義の内容は、ほぼ次の通りである。</p> <p>(第1回) 仏教思想とヒンドゥー教の違い (第2回) 仏教以前のインド思想 (第3回) 釈尊の生涯 (第4回) 原始仏教の思想1 (縁起説の概要) (第5回) 原始仏教の思想2 (縁起説のポイント) (第6回) 原始仏教の思想3 (四諦・八正道) (第7回) 原始仏教の思想4 (法の分類) (第8回) 原始仏教の思想5 (禅定思想) (第9回) 原始仏教の思想6 (解脱と涅槃) (第10回) 部派仏教の展開 (第11回) 大乘仏教の成立 (第12回) 『般若経』の空思想 (第13-15回) 『法華経』の一乗思想 (第16-17回) 『法華経』の久遠実成の仏 (第18-20回) 『法華経』の菩薩思想 (第21回) 『華嚴経』の唯心思想 (第22回) 『性起経』の思想 (第23回) 『如来蔵経』の如来蔵思想 (第24回) 『涅槃経』の仏性思想 (第25回) 仏性思想の展開 (第26回) 中国禅宗の思想 (第27回) 道元禅師と曹洞宗 (第28回) 浄土教の思想 (第29回) チベット仏教の思想 (第30回) まとめ/復習</p>
----------	---

準備学習	特に必要ないが、仏教に関する書物を岩波文庫で1冊は読んでもらいたい。
履修上の留意点	教科書や配布資料を授業で音読してもらうことが多い。
成績評価の方法	年度末の試験によって、成績を評価する。
教科書/テキスト	松本史朗『仏教への道』(東京書籍)1,400円 ISBN 4-487-72234-9
参考書	

履修コード	204801
科目名	仏教と人間
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>東洋世界で生きている我々にとって、仏教は身近な宗教のはずである。ところが案外と知らないことが多いのではないだろうか。いうまでもなく駒沢大学は、仏教精神により建てられた大学である。本学に在籍していることも何かの縁であり、これを機会に仏教を知り、深遠な仏教世界を理解してもらいたい。本講義では、釈尊の生涯、仏教の伝播などについて考察し、宗教の存在意義や宗教と人間との関わりについて考えを深めてゆきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>釈尊の生涯 (1~3)、釈尊の教え (4~8)、経典の内容 (9~12)、仏教的世界観 (13~14)、大乘仏教と小乗仏教 (15・16)、中国の仏教受容 (17)、中国仏教の展開 (18)、日本の仏教受容 (19)、日本仏教の展開 (20)、仏像と仏画で見る仏教 (21~30)</p>
準備学習	図書館等で仏教関係の本を見ておくと良い。
履修上の留意点	仏教が日常の社会・生活に如何に関わっているのか考えながら講義に臨むこと。
成績評価の方法	定期試験、レポート、授業態度、出席率などを総合的に評価する。
教科書/テキスト	適宜プリントを配布する。
参考書	講義中に紹介する。

履修コード	205111
科目名	仏教と人間
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東洋世界で生きている我々にとって、仏教は身近な宗教のはずである。ところが案外と知らないことが多いのではないだろうか。いうまでもなく駒沢大学は、仏教精神により建てられた大学である。本学に在籍していることも何かの縁であり、これを機会に仏教を知り、深遠な仏教世界を理解してもらいたい。本講義では、釈尊の生涯、仏教の伝播などについて考察し、宗教の存在意義や宗教と人間との関わりについて考えを深めてゆきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	釈尊の生涯 (1~3)、釈尊の教え (4~8)、経典の内容 (9~12)、仏教的世界観 (13~14)、大乘仏教と小乗仏教 (15・16)、中国の仏教受容 (17)、中国仏教の展開 (18)、日本の仏教受容 (19)、日本仏教の展開 (20)、仏像と仏画で見る仏教 (21~30)
----------	--

準備学習	図書館等で仏教関係の本を見ておくと良い。
------	----------------------

履修上の留意点	仏教が日常の社会・生活に如何に関わっているのか考えながら講義に臨むこと。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	定期試験、レポート、授業態度、出席率などを総合的に評価する。
---------	--------------------------------

教科書／テキスト	適宜プリントを配布する。
----------	--------------

参考書	講義中に紹介する。
-----	-----------

履修コード	202901
科目名	仏教と人間
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義では仏教についての基礎知識を学習する。まずは仏教の文化的側面を幅広く学び、次いで仏教の歴史や思想について基礎知識を習得する。さらに仏教と現代社会との接点についての知見を広める。</p> <p>(到達目標) 本講義の目標は、仏教が日本やその他のアジアにおける歴史・社会・文化に大きな影響を与えてきた点を理解し、またそのような歴史・社会・文化に少なからぬ影響を受けている自分自身をより深く理解することにある。そのために、第1に我々の身の回りにある仏教文化や日本仏教についての基礎知識を習得すること、第2に諸外国の仏教について学び仏教の多様性や地域的特質を理解すること、第3に仏教と社会との様々な関わり方を学び、自分と社会との関わり方を考察する力をつけることを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 概説：仏教 本講義に関するオリエンテーション。日常生活への仏教の影響。 2. お寺の見方1 寺院内の配置、各建物の意味 3. お寺の見方2 建築の特色 4. 寺院と地理 伝統社会の都市設計と寺院の関係 5. 仏像の見方 多様な種類の仏像を見分ける方法 6. ワークショップ1 仏像を見分ける 7. 仏像の見方 美術的な視点から見た仏像の特色 8. 世界遺産と仏教 アジア編 9. 世界遺産と仏教 日本編 10. ワークショップ2 世界遺産 11. 仏教習俗 お盆とお彼岸、七福神とだるま 12. 仏教と文学 現代文学と仏教の接点 13. 仏教と食文化 茶文化と精進料理 14. 駒大と仏教 駒澤大学の歴史と曹洞宗 15. 前期まとめ 16. 仏教のはじまり ブッダと古代インド 17. ブッダの思想 四諦八正道 18. 上座仏教 スリランカ・東南アジアの仏教 19. 大乘仏教1 大乘仏教の形成 20. 大乘仏教2 チベット・中国の仏教 21. 日本仏教1 歴史概要と主要な経典 22. 日本仏教2 平安の宗祖 23. 日本仏教3 鎌倉の宗祖 24. ワークショップ3 仏教の言葉・有名寺院 25. いのちと関わる仏教1 葬儀と檀家制度 26. いのちと関わる仏教2 戒名と戒律 27. いのちと関わる仏教3 看取りの仏教 28. 社会と関わる仏教1 外国 29. 社会と関わる仏教2 日本 30. まとめ・質疑応答
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し解説するので、必ず出席すること。またグループで課題に挑むワークショップを何度か行うので、他の学生と積極的に意見交換を行ってほしい。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（授業時のコメントシートの内容・授業への参加意欲等）20%、 ・夏休みの課題30%、 ・後期の定期試験期間における筆記試験50%、とする。
教科書／テキスト	なし
参考書	水野弘元・柴田道賢監修 『宗教学ハンドブック』（世界書院） その他については、授業時に随時紹介する。
その他	なし

履修コード	204201
科目名	仏教と人間
担当者名	山本 元隆
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	駒澤大学の建学理念である「仏教」について理解を深めてもらうことを講義のねらいとする。「仏教と人間」は本学独自の宗教教育科目であり、講義を通して仏教や禪に関する基本的な知識を身に付け、その生き方を主体的に学び取ってほしい。その上で現代に生きる私たちにとって仏教がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たせるか考えていきたい。
授業スケジュール	<p>ブッダの教えと日本をはじめ世界各地に伝わった仏教の歴史的・思想的・文化的な展開を概観し、それらが現代に生きる私たちにとって如何なる意味があるのか、ともに考えていきたい。</p> <p>(1) 世界の宗教と仏教 (2) ブッダとその教え (3) インド仏教の展開 (4) 様々な経典 (5) 中国仏教の展開 (6) 中国禪宗の成立と展開 (7) 日本仏教の展開 (8) 道元禪の成立と展開 (9) 現代社会と仏教</p>
準備学習	毎回の授業で次のテーマについて告知するので、基礎的な知識は各自で予習しておくこと。
履修上の留意点	自らの日常生活との関わりを意識しながら主体的に授業に参加してほしい。なお、欠席の多い者には評価を与えない。
成績評価の方法	出席点と簡単な課題の提出、学年末の定期試験によって評価を行う。
教科書／テキスト	特に使用しない。毎回プリントを配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修コード	205901
科目名	仏教と人間〔再クラス〕
担当者名	吉津 宜英
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この科目名は「仏教と人間」となっていますが、私は「宗教と社会」というぐらいに広く考えてゆきます。仏教など宗教に対して、みなさんはどんなイメージを抱き、どんな意見をお持ちでしょうか。すでに特定の宗教を信じている方もありましょう。これまで宗教に無関心な方や、宗教への批判者もありましょう。私は宗教に肯定的な人にも、否定的な方にも、宗教や仏教への正しい知識を獲得してもらいたいと思います。宗教は政治、経済、科学技術、教育、芸術などと並んで文化の一翼を担っています。太古から様々な宗教が存在します。一神や多神を信じる宗教があり、仏教のように神や神々を信仰するのではなく、仏の教えを中心にした宗教もあります。なぜ人間は宗教を求めたのでしょうか。この講義では宗教の多様性の認識から始めます。そして宗教が社会の中でどのような機能を果たしているかを考えます。また宗教をめぐるいろいろな問題点を取り上げます。宗教は人間を幸福にする目的を持っているのに、民族戦争などと絡んで宗教戦争が起こり、多くの不幸な人たちが出ています。宗教は個人的に何かを信じ、他の人に迷惑をかけなければ良いと思いますが、教団を形成すると他の宗教を批判したり、目的のためには手段を選ばない行動を取り、公共の福祉を害することもあります。講義の全体を通じて、仏教を含めた宗教の功罪両面を考えていくことをねらいとします。
授業スケジュール	第1回目は自己紹介も兼ねて、この講義の目的、進め方、注意事項などを説明します。前期は特に仏教以外の諸宗教の概説を行います。宗教類型論(2, 3, 4回)、ゾラスター教(5, 6回)、ユダヤ教(7, 8回)、キリスト教(9, 10, 11回)、イスラム教(12, 13回)、パラムン教(14, 15回)。後期は仏教から現代日本の社会の宗教状況にまで言及します。釈尊の伝記と教え(16, 17, 18回)、釈尊滅後の仏教の展開(19回)、大乗仏教(20, 21回)、中国仏教(22, 23)、朝鮮仏教(24回)、日本仏教(25, 26, 27, 28回)、現代の世界と日本の宗教の問題点(29, 30回)。講義の順序はこの通りですが、回数については短縮、延長のあることをご了解ください。
準備学習	新聞などで宗教関係の記事に関心を払うようにして下さい。
履修上の留意点	この科目専用のノートを用意し、私の講義を書き込みながら、疑問点なども提起し、しっかり質問して下さい。
成績評価の方法	出席点と期末テストを勘案して評価します。
教科書／テキスト	教科書は使用しません。必要な資料は適宜配布します。
参考書	授業において随時紹介します。

履修コード	204901
科目名	仏教と人間
担当者名	吉村 誠
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 駒澤大学の建学の理念である「仏教」について学習する。仏教が現代に生きる私たちにとっていかなる意味を持ち、いかなる役割を果たすのかということ、学問的見地から考察したい。</p> <p>(到達目標) 仏教に関する基礎的教養を身につけ、自己を深く内省し、他者(世界)との関係を洞察する知性と感性を養い、それを学生生活や社会生活で生かすことができるようになること。</p>
授業スケジュール	<p>(前期) (1) 仏教とは何か (2~8) ブッダとその教え (9~14) 大乘仏教の展開 (15) まとめ</p> <p>(後期) (1) 東アジアへの仏教伝播 (2~7) 密教の宇宙観 (8~14) 禅の人間観 (15) まとめ</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業は講義形式である。講義内容は各自ノートにまとめること。 ・ 講義内容は、仏教に対する理解が次第に深まるように構成してあるため、遅刻や欠席をしないようにすること。
成績評価の方法	平常点50%、テスト等の成績50%を原則とする。
教科書/テキスト	プリントを使用する。
参考書	

履修コード	341901
科目名	仏教と人間
担当者名	四津谷 孝道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 宗教とは、一般に「人間と聖なるもの或いは超越的なものとの関係」を意味する。この授業では、そうした宗教のひとつとしての仏教ではなく、哲学、文学、美術、音楽等の様々な文化現象を包括するものとしての仏教を扱っていく。この授業においては、仏教の基本的な形態を説明することから始め、仏教が如何に我々の世界に深く関わっているかを明らかにしていきたい。</p> <p>(到達目標) 受講生諸君には、今後の大学生活における様々な機会に仏教というものに接することとなるであろう。そのような機会のひとつであるこの授業において、「仏教と自分との接点を探る」という営みの端緒を見出してもらいたい。そして、その営みを通して、我々日本人の精神文化に大きな影響を与えてきた仏教に関する理解を深めてもらいたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 仏教が誕生するまで (古代インドの社会と宗教) 第3回 宗教とは、仏教とは 第4回 インドの宗教思想の基本概念 — 輪廻と解脱 第5回 仏陀の生涯 (1) : 概観 (人間仏陀と神格化された仏陀) 第6回 仏陀の生涯 (2) : 誕生 / 出家 — 四住期との関係で 第7回 仏陀の生涯 (3) : 成道 — 仏陀の悟りの内容 第8回 仏陀の生涯 (4) : 仏陀の最後の食事 第9回 仏陀の生涯 (5) : 仏陀の死 (涅槃) — 仏陀の葬儀を中心に 第10回 仏教史の概観 — インド仏教から日本仏教まで 第11回 経典について — 原始経典と大乘経典とは何か 第12回 原始仏教の経典 : スッタニパータ, ダンマパダ等 第13回 大乘仏教の経典 : 維摩経 第14回 大乘仏教の経典 : 法華経 第15回 第2回～第14回までの授業内容に関する小テスト 第16回 大乘仏教の経典 : 如来蔵経 第17回 大乘仏教の経典 : 涅槃経 第18回 日本仏教について — 葬式仏教とは 第19回 仏教と神道 (1) — 仏教の伝来 第20回 仏教と神道 (2) — 神仏習合 第21回 奈良仏教 (1) — 国家仏教の成立 第22回 奈良仏教 (2) — 表の仏教 (官僧) と裏の仏教 (聖) 第23回 平安仏教 (1) — 密教と浄土仏教 第24回 平安仏教 (2) — 最澄 第25回 平安仏教 (3) — 空海 第26回 鎌倉仏教 (1) — 親鸞 第27回 鎌倉仏教 (2) — 道元 第28回 鎌倉仏教 (3) — 日蓮 第29回 明治期以降の仏教 第30回 第16回～第29回までの授業内容に関する小テスト</p>
----------	---

準備学習	仏教の歴史と仏教の開祖であるブッダの伝記について基本的な知識を身につけておいてもらいたい。
------	---

履修上の留意点	授業内容は一続きのものなので、継続的に出席すること。
---------	----------------------------

成績評価の方法	定期試験の成績50%、小テストの成績20%、平常点30%
---------	------------------------------

教科書/テキスト	最初の授業において指示する。
----------	----------------

参考書	特になし
-----	------

その他	特になし
-----	------

履修コード	204601
科目名	仏教と人間
担当者名	渡部 正英

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>宗教教育としての仏教をさぐる。日本人に馴染み深い仏教を、現代の人間生活と関連付けて、仏教の歴史、儀礼などを考察していく。さらに、人々の生活に宗教として仏教がどの様に関わってきたかを知る。</p> <p>(到達目標)</p> <p>宗教としての仏教を理解する。宗教学的な手法を持って仏教を分析して我々の今までの仏教理解との違いを認識し、さらに、仏教を開いた釈尊の伝記や各祖師の業績、仏教行事などを通して、日常生活の中に浸透している仏教を再認識して理解を深めていくことを求める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、宗教理解の文章作成 2、作成文章から仏教理解の必要性を示す 3、仏教を文化としてとらえる 4、仏教の宗学的な視点 5、仏教の哲学的に視点 6、仏教の歴史的な視点 7、仏教の宗教学的な視点 8、政治と仏教の関係 9、釈尊伝、誕生まで 10、釈尊伝、修行時代 11、釈尊伝、悟りと経典 12、釈尊伝、涅槃と死 13、釈尊以後の仏教1 14、釈尊以後の仏教2 15、理解度確認の小テスト <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、仏教と行事 1 2、仏教と行事 2 3、仏教と行事 3 4、仏教と行事 4 5、仏教と行事 5 6、仏教と行事 6 7、理解度の小テスト 8、仏教と祈り 1 9、仏教と祈り 2 10、仏教と祈り 3 11、仏教と祈り 4 12、仏教と祈り 5 13、仏教と祈り 6 14、仏教と祈り 7 15、理解度の小テスト
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	プリント等での確認を取りながら進めるがノートはしっかり記録する必要あり。また後期までに仏教関連の本を読んで感想文を提出する。
---------	--

成績評価の方法	年三回の理解度の小テストの評価を70パーセント。感想文と平常点を30パーセント。をもって総合評価とする。
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）
-----	------------------------------

履修コード	204101
科目名	仏教と人間
担当者名	渡邊 幸江

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	仏教は今から約二千六百年前にインドで興った宗教である。仏教の開祖、釈尊（ゴータマ・ブツダ）は、命ある者の幸福・安穩を、「教え」として説いている。そして、その教えは、アジアの広範な地域に伝わった。本講義は、仏の教えを学び、人が幸福に生きるとは何か？心の安らぎとはどのようなことなのかを自らに問い、さらに現代社会における仏教の意義を考える時間である。
授業スケジュール	前半期は、仏教開祖である釈尊の生涯と教説、次いで釈尊入滅後の仏教の歴史を概論する。後半期は、印度伝来の仏教が日本に伝播し、道元に至るまでを概論する。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	仏の教えは、自らへの問いと答えである。自らに引き寄せて、毎回の授業を受講すること。
成績評価の方法	出席、レポート、期末試験による評価。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	初回の授業で指示する。
その他	初回の授業で受講と成績評価についての説明をおこなうので必ず出席すること。また、レポートは期日を守り提出すること。

履修コード	206301
科目名	文化と宗教
担当者名	長谷部 八朗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 西歐文化の劇的な到来を見た明治期を中心に、日本の近代化がどのように志向されたのかを、仏教、神道、キリスト教、新宗教などの諸宗教の動向を通して探る。 (授業概要) 文化と宗教の関連をどのように把握したらよいかを知る。それを踏まえて、我が国の近代以降、宗教が社会といかにかかわり、近・現代の精神文化の形成に影響を与えてきたかについての理解を深める。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、「文化」概念の捉え方(1) 2、「文化」概念の捉え方(2) 3、「文化」としての宗教 4、従来の文化史研究における宗教の扱い 5、「近代」概念の捉え方(1) 6、「近代」概念の捉え方(2) 7、明治維新と文明開化 8、神仏分離令と廃仏毀釈運動 9、国家神道政策の模索(1) 10、国家神道政策の模索(2) 11、教派神道の諸形態(1) 12、教派神道の諸形態(2) 13、教派神道に対する国家の姿勢 14、仏教近代化への道(1) 15、仏教近代化への道(2) 16、仏教とナショナリズム 17、還俗者の活動(1) 18、還俗者の活動(2) 19、キリスト教宣教の諸形態(1) 20、キリスト教宣教の諸形態(2) 21、新宗教の台頭(1) 22、新宗教の台頭(2) 23、宗教に対する法的規制の具体例(1) 24、宗教に対する法的規制の具体例(2) 25、社会変革と宗教 26、メディアと宗教 27、民衆と宗教 28、近代化と文化・宗教教育(1) 29、近代化と文化・宗教教育(2) 30、総括
準備学習	前回の授業内容を復習して臨むこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末試験の成績80%、レポート10%、平常点10%とする。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	授業の中で適宜紹介する。

2. 教 養 教 育 科 目

(1) 人文分野

履修コード	210401
科目名	科学史〔科学と技術〕
担当者名	高橋 秀裕

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日、我々は高度に発達した科学とその科学に基づいた技術の受益者になりうるだけでなく、その反対に被害者にもなる可能性がある。近代自然科学をどのように捉え、それに如何に対処するかという問題が近年しきりに議論されている所以でもある。本講義では、古代から現代に至る科学の歴史的展開を、「方法」や「思想」そして「宗教との関係」にも眼を向けつつ総合的に学び、科学がいかに広範な文化的背景をもって発展してゆく知的営為であるかを理解するとともに、科学と技術に関して今後思索する際の信頼できる知的道具の習得を目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1~4回：近代日本の科学技術の性格を歴史的に考察する。第5~15回：近代日本が導入を図った西欧近代科学の長い歴史をたどる中から、その成立の由来を探る。第16~20回：近代科学に裏付けられた技術の強力さの秘密とそれが抱える問題点について講義する。第21~25回：科学の三つの典型として、数学、自然科学、医学を議論の俎上にのせ、科学がいかなる構造と射程をもつ知的営為であるのかを考察する。第26~30回：高度な科学・技術が制度化された現代社会の抱えている諸問題について、具体的事例をとりあげながら、科学と技術の歴史的展望をも含めて講義する。
----------	---

準備学習	世界史の知識が多少要求されるので、事前に全体的な流れを復習しておくこと。また各回の授業で使用するプリントを事前に配付するので、目をとおしておくこと。はじめて見る用語などがあれば調べておくこと。
------	--

履修上の留意点	いわゆる自然科学に関する素養はとくに要求しないが、講義の中に出てくる諸概念を必要に応じて自ら調べ理解する積極的な態度は受講の最低要件である。また、毎回講義内にコメントカードを配布するので、講義内容に関する感想や不明な点などを書いてほしい。
---------	---

成績評価の方法	随時レポートによる平常点 (40%) および定期試験 (60%) の総合成績で評価を行う。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	講義の際に適宜紹介する。
その他	講義形式、随時プリント配布。YeStudyを活用する。

履修コード	210501
科目名	科学史〔近代科学の成立と展開〕
担当者名	高橋 秀裕

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日、我々は高度に発達した科学とその科学に基づいた技術の受益者になりうるだけでなく、その反対に被害者にもなる可能性がある。近代自然科学をどのように捉え、それに如何に対処するかという問題が近年しきりに議論されている所以でもある。本講義では、古代から現代に至る科学の歴史的展開を、「方法」や「思想」そして「宗教との関係」にも眼を向けつつ総合的に学び、科学がいかに広範な文化的背景をもって発展してゆく知的営為であるかを理解するとともに、科学と技術に関して今後思索する際の信頼できる知的道具の習得を目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1~4回：近代日本の科学技術の性格を歴史的に考察する。第5~15回：近代日本が導入を図った西欧近代科学の長い歴史をたどる中から、その成立の由来を探る。第16~20回：近代科学に裏付けられた技術の強力さの秘密とそれが抱える問題点について講義する。第21~25回：科学の三つの典型として、数学、自然科学、医学を議論の俎上にのせ、科学がいかなる構造と射程をもつ知的営為であるのかを考察する。第26~30回：高度な科学・技術が制度化された現代社会の抱えている諸問題について、具体的事例をとりあげながら、科学と技術の歴史的展望をも含めて講義する。
----------	---

準備学習	世界史の知識が多少要求されるので、事前に全体的な流れを復習しておくこと。また各回の授業で使用するプリントを事前に配付するので、目をとおしておくこと。はじめて見る用語などがあれば調べておくこと。
------	--

履修上の留意点	いわゆる自然科学に関する素養はとくに要求しないが、講義の中に出てくる諸概念を必要に応じて自ら調べ理解する積極的な態度は受講の最低要件である。また、毎回講義内にコメントカードを配布するので、講義内容に関する感想や不明な点などを書いてほしい。
---------	---

成績評価の方法	随時レポートによる平常点 (40%) および定期試験 (60%) の総合成績で評価を行う。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	講義の際に適宜紹介する。
その他	講義形式、随時プリント配布。YeStudyを活用する。

履修コード	169611
科目名	キャリアを考える I
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 本講座では2年生という大切な節目に、卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p> <p>・到達目標 講義前半は「自己理解」に始まり「働く意義」「社会環境変化と職業理解」を学びます。次に自分はその職業に向いているのか、さまざまな職業を比較研究しながら、適職候補を模索していきます。講義後半は社会から求められている能力、特に文部科学省提唱の「就業力」の中でも①対人基礎力と②対課題基礎力③就業観の基本を身につけていきます。 卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにはどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 「キャリアを考える視点」</p> <p>第2回 「自分のキャリアをデザインする」</p> <p>第3回 「自己理解の意義と方法」</p> <p>第4回 「社会で働くとは、卒業後の進路を考える」</p> <p>第5回 「社会が求める能力と発揮したい能力を考える」</p> <p>第6回 「さまざまな職種を知り、適職を考える」</p> <p>第7回 「対人コミュニケーションの基本」</p> <p>第8回 「一方通行と双方向コミュニケーション」</p> <p>第9回 「質問力により、アイデアを引き出す」</p> <p>第10回 「話す力をつける」</p> <p>第11回 「アサーションによる自己表現」</p> <p>第12回 「文章による自己表現法」</p> <p>第13回 「プレゼンテーションスキルを磨く」</p> <p>第14回 「ファシリテーションによる問題解決」</p> <p>第15回 「キャリアデザインと行動計画作成」</p>
----------	---

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。 この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
---------	--

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	--

教科書/テキスト	「キャリアを考える I, キャリア形成のススメ」岡崎洋著(株)岡崎人事コンサルタント¥1100+税 授業では教科書のワークシートを使いますので必ず購入してください。
----------	--

参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6
-----	---

関連リンク	http://www.okazakijinji.jp/
-------	---

履修コード	169621
科目名	キャリアを考える I
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 本講座では2年生という大切な節目に、卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにはどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p> <p>・到達目標 講義前半は「自己理解」に始まり「働く意義」「社会環境変化と職業理解」を学びます。次に自分は何の職業に向いているのか、さまざまな職業を比較研究しながら、適職候補を模索していきます。講義後半は社会から求められている能力、特に文部科学省提唱の「就業力」の中でも①対人基礎力と②対課題基礎力③就業観の基本を身につけていきます。卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにはどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 「キャリアを考える視点」</p> <p>第2回 「自分のキャリアをデザインする」</p> <p>第3回 「自己理解の意義と方法」</p> <p>第4回 「社会で働くとは、卒業後の進路を考える」</p> <p>第5回 「社会が求める能力と発揮したい能力を考える」</p> <p>第6回 「さまざまな職種を知り、適職を考える」</p> <p>第7回 「対人コミュニケーションの基本」</p> <p>第8回 「一方通行と双方向コミュニケーション」</p> <p>第9回 「質問力により、アイデアを引き出す」</p> <p>第10回 「話す力をつける」</p> <p>第11回 「アサーションによる自己表現」</p> <p>第12回 「文章による自己表現法」</p> <p>第13回 「プレゼンテーションスキルを磨く」</p> <p>第14回 「ファシリテーションによる問題解決」</p> <p>第15回 「キャリアデザインと行動計画作成」</p>
----------	---

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
---------	--

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	--

教科書/テキスト	「キャリアを考える I, キャリア形成のススメ」岡崎洋著(株)岡崎人事コンサルタント¥1100+税 授業では教科書のワークシートを使いますので必ず購入してください。
----------	--

参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6
-----	---

関連リンク	http://www.okazaki.jinji.jp/
-------	---

履修コード	169631
科目名	キャリアを考える I
担当者名	岡崎 洋
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 本講座では2年生という大切な節目に、卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p> <p>・到達目標 講義前半は「自己理解」に始まり「働く意義」「社会環境変化と職業理解」を学びます。次に自分はどの職業に向いているのか、さまざまな職業を比較研究しながら、適職候補を模索していきます。講義後半は社会から求められている能力、特に文部科学省提唱の「就業力」の中でも①対人基礎力と②対課題基礎力③就業観の基本を身につけていきます。卒業後の進路について考え、自分の夢・目標を実現するためにどう学生時代を過ごすかをテーマにキャリア形成のための考え方と実践を学びます。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 「キャリアを考える視点」 第2回 「自分のキャリアをデザインする」 第3回 「自己理解の意義と方法」 第4回 「社会で働くとは、卒業後の進路を考える」 第5回 「社会が求める能力と発揮したい能力を考える」 第6回 「さまざまな職種を知り、適職を考える」 第7回 「対人コミュニケーションの基本」 第8回 「一方通行と双方向コミュニケーション」 第9回 「質問力により、アイデアを引き出す」 第10回 「話す力をつける」 第11回 「アサーションによる自己表現」 第12回 「文章による自己表現法」 第13回 「プレゼンテーションスキルを磨く」 第14回 「ファシリテーションによる問題解決」 第15回 「キャリアデザインと行動計画作成」</p>
準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。 この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
教科書/テキスト	「キャリアを考えるI, キャリア形成のススメ」岡崎洋著(株)岡崎人事コンサルタント¥1100+税 授業では教科書のワークシートを使いますので必ず購入してください。
参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6
関連リンク	http://www.okazakijinji.jp/

履修コード	169661
科目名	キャリアを考えるⅠⅠ
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 前期に立てた卒業後の進路を見直して、自己のキャリア形成を進展させる科目です。さまざまな業種や職種を紹介するだけでなく、自分に合った仕事は何かを模索していきます。適職に就くための、就業力、自己表現力、面接対応力を磨いていきます。</p> <p>・到達目標 多様な進路情報の中から自分に合った職業を選択するために仕事の種類と内容を紹介し、各職種について正しく理解します。そのうえで適職に就くための考え方や情報収集の具体的方法を学びます。グループワークを通じて、将来の方向性を考え、キャリアビジョン(目標)を実現するために行動化していきます。同時に自己表現力を高めるための文章表現、プレゼンテーション力を磨きます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 豊かな人生・キャリアの方向性について考えよう</p> <p>第2回 業界・企業情報の集め方と分析法</p> <p>第3回 業界・企業研究①金融関係</p> <p>第4回 業界・企業研究②商社・流通・小売業界</p> <p>第5回 業界・企業研究③IT・マスコミ・出版関係</p> <p>第6回 業界・企業研究④ホスピタリティ・ツーリズム(冠婚葬祭・ホテル・旅行・病院・福祉)</p> <p>第7回 業界・企業研究⑤メーカー(食住・医薬・家電・自動車)</p> <p>第8回 業界・企業研究⑥ファッション、ビューティ(アパレル・化粧品・インテリア雑貨)</p> <p>第9回 業界・企業研究⑦運輸・物流・インフラ・不動産</p> <p>第10回 職種研究 営業・販売・サービス・コンサルティング、公務員</p> <p>第11回 求められる能力と適性を調べる</p> <p>第12回 履歴書、エントリーシートでの自己表現法</p> <p>第13回 インターンシップで効果を上げるには</p> <p>第14回 面接対応力の基本</p> <p>第15回 総合演習</p>
----------	--

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	<p>日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。</p> <p>この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。</p>
---------	---

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	--

教科書/テキスト	<p>「キャリアを考えるⅡ学びがキャリアを開く」 (株)岡崎人事コンサルタント ¥1100+税 授業</p> <p>「面接試験に成功する鉄則10」 岡崎 洋著 ¥1100+税 以上2冊を必ず購入してください。</p>
----------	--

参考書	<p>岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6</p> <p>岡崎洋他共著「ベテラン人事マンが書いた面接力をつける本」東洋経済新報社 ¥1500+税 ISBN4-492-22239-1</p>
-----	---

関連リンク	http://www.okazakijinji.jp/
-------	---

履修コード	169671
科目名	キャリアを考えるⅠⅠ
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 前期に立てた卒業後の進路を見直し、自己のキャリア形成を進展させる科目です。さまざまな業種や職種を紹介するだけでなく、自分に合った仕事は何かを模索していきます。適職に就くための、就業力、自己表現力、面接対応力を磨いていきます。</p> <p>・到達目標 多様な進路情報の中から自分に合った職業を選択するために仕事の種類と内容を紹介し、各職種について正しく理解します。そのうえで適職に就くための考え方や情報収集の具体的方法を学びます。グループワークを通じて、将来の方向性を考え、キャリアビジョン(目標)を実現するために行動化していきます。同時に自己表現力を高めるための文章表現、プレゼンテーション力を磨きます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 豊かな人生・キャリアの方向性について考えよう</p> <p>第2回 業界・企業情報の集め方と分析法</p> <p>第3回 業界・企業研究①金融関係</p> <p>第4回 業界・企業研究②商社・流通・小売業界</p> <p>第5回 業界・企業研究③IT・マスコミ・出版関係</p> <p>第6回 業界・企業研究④ホスピタリティ・ツーリズム(冠婚葬祭・ホテル・旅行・病院・福祉)</p> <p>第7回 業界・企業研究⑤メーカー(食住・医薬・家電・自動車)</p> <p>第8回 業界・企業研究⑥ファッション、ビューティ(アパレル・化粧品・インテリア雑貨)</p> <p>第9回 業界・企業研究⑦運輸・物流・インフラ・不動産</p> <p>第10回 職種研究 営業・販売・サービス・コンサルティング、公務員</p> <p>第11回 求められる能力と適性を調べる</p> <p>第12回 履歴書、エントリーシートでの自己表現法</p> <p>第13回 インターンシップで効果を上げるには</p> <p>第14回 面接対応力の基本</p> <p>第15回 総合演習</p>
----------	--

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	<p>日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。</p> <p>この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。</p>
---------	---

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出をを求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	---

教科書/テキスト	<p>「キャリアを考えるⅡ学びがキャリアを開く」 (株)岡崎人事コンサルタント ¥1100+税 授業</p> <p>「面接試験に成功する鉄則10」 岡崎 洋著 ¥1100+税 以上2冊を必ず購入してください。</p>
----------	--

参考書	<p>岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6</p> <p>岡崎洋他共著「ベテラン人事マンが書いた面接力をつける本」東洋経済新報社 ¥1500+税 ISBN4-492-22239-1</p>
-----	---

関連リンク	http://www.okazakijinji.jp/
-------	---

履修コード	169681
科目名	キャリアを考えるⅠⅠ
担当者名	岡崎 洋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・狙い 前期に立てた卒業後の進路を見直して、自己のキャリア形成を進展させる科目です。さまざまな業種や職種を紹介するだけでなく、自分に合った仕事は何かを模索していきます。適職に就くための、就業力、自己表現力、面接対応力を磨いていきます。</p> <p>・到達目標 多様な進路情報の中から自分に合った職業を選択するために仕事の種類と内容を紹介し、各職種について正しく理解します。そのうえで適職に就くための考え方や情報収集の具体的方法を学びます。グループワークを通じて、将来の方向性を考え、キャリアビジョン(目標)を実現するために行動化していきます。同時に自己表現力を高めるための文章表現、プレゼンテーション力を磨きます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 豊かな人生・キャリアの方向性について考えよう</p> <p>第2回 業界・企業情報の集め方と分析法</p> <p>第3回 業界・企業研究①金融関係</p> <p>第4回 業界・企業研究②商社・流通・小売業界</p> <p>第5回 業界・企業研究③IT・マスコミ・出版関係</p> <p>第6回 業界・企業研究④ホスピタリティ・ツーリズム(冠婚葬祭・ホテル・旅行・病院・福祉)</p> <p>第7回 業界・企業研究⑤メーカー(食住・医薬・家電・自動車)</p> <p>第8回 業界・企業研究⑥ファッション、ビューティ(アパレル・化粧品・インテリア雑貨)</p> <p>第9回 業界・企業研究⑦運輸・物流・インフラ・不動産</p> <p>第10回 職種研究 営業・販売・サービス・コンサルティング、公務員</p> <p>第11回 求められる能力と適性を調べる</p> <p>第12回 履歴書、エントリーシートでの自己表現法</p> <p>第13回 インターンシップで効果を上げるには</p> <p>第14回 面接対応力の基本</p> <p>第15回 総合演習</p>
----------	--

準備学習	過去1週間の新聞から、将来の希望進路に関連する記事を収集し、整理する作業が有益、効果的な事前学習になります。さらに予定されている授業のテーマに関連した質問を用意して出席すれば、授業をより深く理解できるようになります。
------	--

履修上の留意点	日頃から、新聞、雑誌、インターネット、TV番組などで、社会環境や経済動向について関心を持つ。この授業は「なりたい自分になるための知識や技能」を身につけるようワークショップを盛り込んだ体験型授業です。教員と受講者相互が切磋琢磨し合いながら進めていきますので、ワークには積極的に参加してください。
---------	--

成績評価の方法	レポート評価(5割)及び授業内で提出を求める課題(5割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も重視します。
---------	--

教科書/テキスト	「キャリアを考えるⅡ学びがキャリアを開く」 (株)岡崎人事コンサルタント ¥1100+税 授業 「面接試験に成功する鉄則10」 岡崎 洋著 ¥1100+税 以上2冊を必ず購入してください。
----------	---

参考書	岡崎洋他共著「楽しいキャリアデザイン」八千代出版社 ¥1400+税 ISBN978-4-8429-1491-6 岡崎洋他共著「ベテラン人事マンが書いた面接力をつける本」東洋経済新報社 ¥1500+税 ISBN4-492-22239-1
-----	--

関連リンク	http://www.okazakiijinji.jp/
-------	---

履修コード	208601
科目名	芸術学〔音楽〕
担当者名	浦本 裕子
授業概要/ 到達目標（ねらい）	音楽は私たちの回りに溢れている。さまざまなメディアから音楽が流れ、カラオケも今や世界共通語にまでなった。社会のグローバル化が進み、音楽も世界のものに聴かれるようになり、ジャンルもボーダーレスになってきた。日本では、演歌など一部のものを除けば、流れている音楽のほとんどがヨーロッパとアフリカの音楽に基づいたものである。音楽理論はヨーロッパで生まれたクラシック音楽に由来し、ポップスにはアフリカ的な要素も多く入り込んでいる。そもそもどのように音楽が生まれてきたのだろうか、そしてどのように享受されてきたのだろうか。 元来、音楽は折りや子守歌など生活の中で「必要なもの」として生まれてきた。そして世界各地の環境や生活形態が異なる中で、楽器や発声法、形式などそれぞれ独自の音楽文化を長い時間をかけて形成してきたのである。 この授業では、そのような多様な諸民族の音楽やヨーロッパのクラシック音楽を学ぶことにより、多様な文化の一つとして音楽を理解することを目指したい。
授業スケジュール	前期：諸民族の音楽・・1-3概論 4-8ヨーロッパ 9-15アジア 後期：西洋音楽史・・1-2楽器 3-4中世・ルネサンス 5-7バロック 8-10古典派 11-13ロマン派 14-15近代
準備学習	機会があれば、生演奏やテレビ番組などでさまざまな音楽を聞いて欲しい。図書館にも資料があるので活用して下さい。
履修上の留意点	・音資料や映像資料を鑑賞するので、できるだけ出席するように。 ・授業中に簡単なレポートを書いてもらうことがあるかも知れません。
成績評価の方法	前期：試験またはレポート 後期：試験
教科書／テキスト	なし
参考書	柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社） 藤井知昭 他 編『民族音楽概論』（東京書籍） 久保田慶一 他 『はじめての音楽史』（音楽之友社） 岡田暁生 『西洋音楽史』

履修コード	208401
科目名	芸術学〔日本美術〕
担当者名	北野 良枝
授業概要/ 到達目標（ねらい）	(授業概要) 室町時代から江戸時代に至る日本絵画の流れを、中国およびヨーロッパとの関係に留意しつつ概観する。絵画の歴史を理解するにあたって、作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。 (到達目標) 日頃接する機会の少ない日本の近世以前の絵画に対する理解を深めることを目標とする。
授業スケジュール	前期 室町から桃山時代の絵画 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識 (3) ～ (7) 禅林の水墨画 (8) 阿弥派 (9) 関東水墨画 (10) 土佐派 (11) ～ (12) 狩野正信・元信 (13) ～ (15) 狩野永徳と桃山画壇 後期 江戸時代の絵画 (16) 江戸時代の狩野派 (17) ～ (20) 琳派 (21) ～ (22) 浮世絵 (23) 南蘋派 (24) 文人画 (25) ～ (26) 秋田蘭画と司馬江漢 (27) 伊藤若冲と曾我蕭白 (28) 円山四条派 (29) ～ (30) 江戸から明治へ
準備学習	授業で使用する資料をYeStudyに掲載するので、各自ダウンロードして持参すること。
履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。
成績評価の方法	学年末に試験を実施し、その得点によって評価する。
教科書／テキスト	
参考書	
その他	YeStudyを活用する。

履修コード	208501
科目名	芸術学〔西洋美術〕
担当者名	矢野 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>ひとつの美術作品が制作されるにあたっては、芸術家の個性や技術のみならず、その時代と地域の宗教・文化・政治状況などさまざまな要因も関係している。この講義では、15世紀から18世紀末19世紀初頭まで、つまりイタリア・ルネサンス期からフランス革命期頃までの西洋絵画を主な対象とする。前期は、時代の流れに沿って、毎回主要な作品を1点取り上げ、さまざまな角度から見ていく。後期は、西洋絵画のジャンルや主題別に講義を進める。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業では、特に伝統的な西洋絵画に数多く描かれてきた神話・宗教の主題を理解できるようになることを目指す。代表的な作品を分析し、表現様式や受容のされ方などに意識を向けることによって、私たちとは異なる文化から生まれてきた西洋美術をより深く理解することを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 初期イタリア・ルネサンス 1 3. 初期イタリア・ルネサンス 2 4. 北方ルネサンス 5. 盛期イタリア・ルネサンス 1 6. 盛期イタリア・ルネサンス 2 7. ドイツ・ルネサンス 8. マニエリスム 1 9. マニエリスム 2 10. バロック 11. 17世紀オランダ絵画 1 12. 17世紀オランダ絵画 2 13. 17世紀スペイン絵画 14. 17世紀フランス絵画 15. ロココ 16. 新古典主義 17. 神話画 オリュンポスの神々 18. 神話画 ウェヌス 19. 神話画 アポロンとディアナ 20. 神話画 変身物語 21. 宗教画 旧約聖書 22. 宗教画 キリスト 23. 宗教画 聖母マリア 24. 宗教画 諸聖人 25. 歴史画 26. 肖像画 27. 風俗画 28. 静物画 29. 風景画 30. まとめ
----------	--

準備学習	前回の授業内容をよく復習して、次の授業に出席するようにすること。
履修上の留意点	作品の画像をスクリーンに映してそれを見ながら講義を進めるので、授業にはなるべく遅刻欠席をせず続けて出席すること。
成績評価の方法	夏休み後に提出するレポート20%、学年末の定期試験60%、平常点20%とする。
教科書／テキスト	教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する。
参考書	高階秀爾(監修) カラー版『西洋美術史』美術出版社 ジェームズ・ホール『西洋美術解説事典』河出書房新社 その他、授業中に適宜紹介する。
その他	授業内容と関連するものに限らず、開催されるさまざまな美術展覧会を随時紹介するので、積極的に見に行くようにすること。

履修コード	360801
科目名	実務表現
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ「メディアを読み解き、言語化する」 メディアを読み解き分析する力と、その分析を言語化する力は、大学生活においても、社会に出てからも必要とされるものです。この授業では、新聞などの活字メディアをおもな分析対象とします。メディアを分析しながら、文章表現演習を積み重ね、実践的な日本語表現力を身につけることを目指します。 到達目標は、多角的な視点からメディアを分析し、自らの意見を深め、言語化できるようになることです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>新聞やニュースなどを題材に、メディアを分析する力と日本語表現力を磨きます。</p> <p>(1) オリエンテーション (2) 「メディアを読む」とは、どのような行為か? その1 (3) 「メディアを読む」とは、どのような行為か? その2 (4) 「メディアを読む」とは、どのような行為か? その3 (5) 新聞の実践的分析 その1 (新聞紙面の構成ほか) (6) 新聞の実践的分析 その2 (7) 新聞の実践的分析 その3 (8) 新聞の実践的分析 その4 (9) 新聞の実践的分析 その5 (10) 新聞記事の比較 その1 (全国紙と地方紙ほか) (11) 新聞記事の比較 その2 (12) 新聞記事の比較 その3 (13) 新聞記事の比較 その4 (14) 新聞記事の比較 その5 (15) 活字メディアと映像メディアの比較 その1 (ニュース番組ほか) (16) 活字メディアと映像メディアの比較 その2 (17) 活字メディアと映像メディアの比較 その3 (18) 活字メディアと映像メディアの比較 その4 (19) 活字メディアと映像メディアの比較 その5 (20) 「視点の転換」について学ぶ その1 (物語化の効果ほか) (21) 「視点の転換」について学ぶ その2 (22) 「視点の転換」について学ぶ その3 (23) 「視点の転換」について学ぶ その4 (24) 「視点の転換」について学ぶ その5 (25) 多メディア時代の可能性と問題点 その1 (写真の功罪ほか) (26) 多メディア時代の可能性と問題点 その2 (27) 多メディア時代の可能性と問題点 その3 (28) 多メディア時代の可能性と問題点 その4 (29) 多メディア時代の可能性と問題点 その5 (30) まとめ</p> <p>なお、最新のニュースを取り入れながら、講義をすすめます。その都度、進度や授業内容も調整していきます。</p>
----------	---

準備学習	課題作成のためのメモ作りや資料の選択などに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします
------	---

履修上の留意点	前期末課題及び学年末課題のほか、授業内課題をおこないます。授業内課題の分量は、通年で16000字程度(400字づつめ原稿用紙換算、40枚程度、手書き)になります。継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。また、担当者の一方的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。
---------	---

成績評価の方法	授業中に課題をおこないます。A:授業への参加度・授業内課題(50%)、B:前期末のレポート(25%)、C:学年末のレポート(25%)をあわせて、総合的に評価をします。
---------	---

教科書/テキスト	指定なし。適宜プリントを配布します。
----------	--------------------

参考書	適宜授業中に指示します。
-----	--------------

履修コード	360901
科目名	実務表現
担当者名	萩原 義雄

授業概要/
到達目標 (ねらい)

広く日本語の特徴についてを学ぶことで、学習者自身が修得してきた国語全般に涉る教養を再度この講義を通して確認していくことにより、自分が気づいていたこと、気づかずにいたことを含めて、自身の教養をより高めていくことを目標に進めていきます。

★駒澤大学 e-Education : YeStudy にログインし、「全学共通科目」のなかの「教養教育」に入ってから「実務表現 (萩原)」にアクセスします。ここに休暇中における課題提出ができるようにしてありますので御利用願います。

授業スケジュール	<p>01の講義内容 鳥の眼 蟲の眼の世界—熊田千佳慕「わたしは虫である」に学ぶ—</p> <p>02の講義内容 サウンド・スケープ&エスケープ表現 —都会のなかの世田谷駒沢公園周辺をゆるゆる散策—</p> <p>03の講義内容 匂いの地図—香くわしき匂いの力とは—</p> <p>04の講義内容 あなたが印象に残った(感動した)明かり(現象)とは</p> <p>05の講義内容 「あじわい」というおもてなし—味覚の世界は、作り手と戴き手との心違い—</p> <p>06の講義内容 手触り肌触り歯触り足触り</p> <p>07の講義内容 「しぐさ」というたちいふるまい</p> <p>08の講義内容 身に纏う衣裳という「もの」</p> <p>09の講義内容 まるでつくる絵本 —その1「基礎編」絵本の世界—</p> <p>10の講義内容 まるでつくる絵本 —その2「導入編」絵本の世界— 公開資料『Oで創る絵本』2009版、2010版についてを見ておこう!!</p> <p>11の講義内容 異文化そして価値観 —その3「対応編」—</p> <p>12の講義内容 まるでつくる絵本 —その4「実践編」—</p> <p>13の講義内容 前期のまとめ —夏休みの出来事録— 文章のすすめ—「明晰」に始まって「含蓄」に終わる—</p> <p>14の講義内容 漫画・アニメのこぼれ表現</p> <p>15の講義内容 花は花に訊け—引用とアンソロジー—</p> <p>16の講義内容 旅人は地図それとも辞書を携える—吾無一物の世界—</p> <p>17の講義内容 本年度製作「まるで創る絵本」作品集一覧</p> <p>18の講義内容 映画は総合芸術である —その1喜劇王チャーリー・チャップリン編—</p> <p>19の講義内容 映画は総合芸術である —その2喜劇王チャーリー・チャップリン編—</p> <p>20の講義内容 「奇跡のりんご」に学ぶ—ファイル—</p> <p>21の講義内容 『人はなぜ生きるのか』に学ぶ</p> <p>22の講義内容 象徴語表現を活用する—エクセルでオノマトペア—覧づくり—</p> <p>23の講義内容 日本語の音表現を学ぶ—芭蕉が聴いた音の世界—</p> <p>24の講義内容 漫画に学ぶ絵本づくり</p> <p>25の講義内容 書物に絵をいかに描くのか—表現の秘密—</p> <p>26の講義内容 日本の伝統芸能にねざす—歌舞音曲の世界—</p> <p>27の講義内容 本を出版するための準備—「本のタイトルを命名する方法」—</p> <p>28の講義内容 本を出版するための準備—手書き文字は、どうすれば巧く書けるようになるのか?—</p> <p>29の講義内容 本を出版するための準備—「レイアウトの基本」の継続と応用理論・本の表紙をデザイン—</p> <p>30の講義内容 パワーポイントの使用法— 提出作品の公開セレモニー—</p>
----------	--

準備学習

★駒澤大学 e-Education : YeStudy にログインし、「全学共通科目」のなかの「教養教育」に入ってから「実務表現 (萩原)」にアクセスします。ここに休暇中における課題提出ができるようにしてありますので御利用願います。

履修上の留意点

※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう!また、IDチェックを忘れたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。

※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可能とします。

成績評価の方法

週毎に上記項目を常にふまえた上で、提出作文を書いてもらいます。個人が年間提出する上記作文は添削を受けながら再度提出を求めていきます。その仕上がりが度合いを許しに評価を五段階にして提示します。

提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。

ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。

また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させていきますのでご承知願います。

教科書/テキスト

URL <http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi> を使用する。

参考書

随時お知らせ致します。

その他

“YeStudy”による講義実習活動を実施! 情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

関連リンク	http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
履修コード	361001
科目名	実務表現
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、各自がこれまでに習得したWord、Excel、Power Pointの基礎的なスキルが実践で役に立つかどうかを課題作成の中で確認しつつ、更にスキルアップを図ることにより、実社会において要求されるICT:情報コミュニケーション力(収集した情報を整理し他者に分かりやすく伝える能力)を養うことを目的とした実践型科目である。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>I オリエンテーション</p> <p>1回 PC操作基礎力判定</p> <p>2回 Introduction</p> <p>II WORD</p> <p>3-9回Word活用術</p> <p>・文書の編集・表の作成と編集・グラフィックスの利用・書式設定・長文作成機能</p> <p>10-11回WORD理解度確認</p> <p>III EXCEL</p> <p>12-18回Excel活用術</p> <p>・表の作成・表の編集・子息演算と関数・グラフ・印刷機能・関数利用入力サポート・データのビジュアル化</p> <p>19-20回EXCEL理解度確認</p> <p>IV POWER POINT</p> <p>21-25回Power Point活用術</p> <p>・プレゼンテーションの作成と編集・図解の作成・オブジェクトの挿入・特殊効果の設定・資料の作成と印刷</p> <p>26-27回POWER POINT理解度確認</p> <p>V まとめ</p> <p>28-30回KT2000測定と総合理解度確認</p>
----------	---

準備学習	タッチタイピング【キーボードを見ないで入力】(目標1500字/10分)練習をしておくこと。
履修上の留意点	<p>この授業を受講する条件として、以下の項目を満たすことが要求される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Word・Excel・PowerPointを使用したことがある 2. タッチタイピング(手元を見ないで入力)完全習得の意欲がある(最終的に習得できなかったときは単位習得に必要な点数に達しない場合がある) 3. 第1回目の授業に必ず参加する <p>第1回目の授業参加者が定員(64名)を超えた場合は、KT2000テスト測定結果の上位者から受講許可者を決定し、YeStudyエントリー資格として「登録キー」を与える。 ついては、第1回目の授業を欠席すると、受講の許可を得られない可能性が高く、Web履修登録していても訂正期間に「取消」することになるので、注意が必要である。</p>

成績評価の方法	出席点(20%)、KT2000点(30%)、提出された課題点(20%)および理解度確認平均点(30%)の合計
教科書/テキスト	担当者が用意する。教材はYeStudy上にアップロードされているので、必要に応じてそれをダウンロードし、使用する。

参考書	
その他	<p>当科目はYeStudyを利用して、授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロード及び課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので、頻繁にYeStudyを見ること。受講者が就職活動などで授業を欠席する場合は、自分でその欠席分を補う必要があるため、特に課題提出について自己責任の下に管理していただきたい。</p> <p>なお、欠席する場合は、事前に担当者へメールにて連絡しておくこと。</p> <p>メールの宛先: yuasa@komazawa-u.ac.jp</p>

履修コード	211201
科目名	宗教学〔比較宗教文化〕
担当者名	池上 良正

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>宗教学という学問は、そもそもの出発点から「諸宗教を比較する」という性格をもっていた。ここでは「ひとつの宗教しか知らない者は、いかなる宗教も知らない」（マックス・ミュラー）という信念が前提になっていた。こうした「宗教」の比較を試みる場合、教典などに記され、それぞれの宗教が理想として掲げる「教え」や「思想」の比較だけでは不十分であり、具体的な社会に生きる人々のなかで、それらがどのように実践されているかという、「宗教文化」の比較が重要になる。「国際化」「グローバル化」が進むとされる今日の世界において、異なる社会に育った人々の生活の基盤を形づくってきた「宗教文化」の相互理解は、ますます重要な課題になっている。</p> <p>本講義では、宗教学の基本的な視点を紹介しながら、いくつかの具体的な成果を学ぶことにする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は、西欧近代に生まれた宗教学の成果を批判的に検証しながら、私たちの身近な日常生活のなかに生き続けている「宗教」を理解する視点を提示してみたい。ここでは、明治時代以降の日本人が当然のように使ってきた「宗教」という言葉が、キリスト教をベースにした西欧近代という特殊な歴史のなかで作られたものであるという反省も必要になる。(1~3) 導入。(4~8) 近代における「宗教」の発見。(9~12) 聖なる時間と空間。身体化された宗教。神話の力。(13~15) グローバル化のなかの「宗教」。</p> <p>後期は、多くの日本人には馴染みの薄いものの、世界の宗教文化を理解するうえでは欠くことのできない「一神教」という特異な宗教が成立した過程を考察し、その特性に迫ってみたい。もちろん、一神教は他の宗教よりもすぐれているのか劣っているのかといった価値判断ではなく、歴史的な文脈に即した理解をめざす。(16~20) 一神教としてのユダヤ教の誕生。(21~25) キリスト教の誕生と展開。(26~30) イスラームの誕生と展開。</p>
----------	---

準備学習	とくに求めないが、前回の講義についてよく復習してから講義に臨むこと。
------	------------------------------------

履修上の留意点	<p>私語は厳禁。欠席した分のノート、プリントについては自己責任で対処すること。</p> <p>「宗教」を理解するには、偏見にとらわれない幅広く柔軟な姿勢が必要になる。また、「理想」にあこがれつつも、具体的な歴史や社会に目を向けた現実的な視点も大切である。積極的に「学ぶ」意欲を失うことなく、一年間の授業に臨んでほしい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席を取る。年度末に筆記試験を行なう。</p> <p>評価は、試験70%、平常点30%。</p>
---------	---

教科書／テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	『岩波講座・宗教』全10巻（岩波書店）。『宗教学事典』（丸善）。『宗教学文献辞典』（弘文堂）。その他、授業のなかで適宜紹介する。
-----	--

履修コード	211401
科目名	宗教学〔世界観と儀礼〕
担当者名	小川 順敬
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要）人間の「宗教行動」を理解することはなかなか困難な作業です。目に見えぬものに語りかけたり、その声に耳をそばだてたり、時としてその声を代弁したりすることを一体どのよう理解すれば良いと言うのでしょうか。祈りやお告げといった「宗教行動」は、信仰を持たぬものにとっては全く理解不可能な事なのでしょうか。宗教学は、そういった行動を信仰者の立場からではなく、「人間の行動」として、その背後の考え方を探ることによって理解しようと努めてきました。この講義では、宗教学の立場から儀礼（宗教行動）とその世界観について考えていこうと思います。</p> <p>（到達目標）最初に、宗教学の基本的な考え方や方法論、いくつかの基本概念などを具体事例にそって概説、紹介します。この際、儀礼に関する議論や理論を、宗教学や宗教人類学、あるいはもう少し広く社会科学や人文学の中から紹介する予定です。ついで、様々な儀礼の諸相を具体例をあげて紹介し、その事例の検討を通して、思想や世界観、神話との関係について考えてゆくことにしたいと考えています。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目標・進め方・約束事について 2. 宗教と宗教学について－見えないものとの関係 3. アニミズムとシャーマニズム 4. 奄美のシャーマニズム 5. シャーマニズムと幻覚 6. 幻覚体験の文化的利用をめぐって 7. 靈魂観とシャーマニズム 8. 宗教的職能者の類型と社会 9. 呪術と人間の合理性について 10. 呪術の類型 11. 妖術と災因論 12. 現代の呪術的思考 13. 呪術論 14. 呪術と宗教について 15. 前期のまとめ 16. 儀礼とは何か 宗教の定義 17. 儀礼と世界観 18. 宗教行動を考える 19. 日常行動と儀礼的行動 20. 宗教行動と模倣 21. 演技と儀礼 22. 儀礼の諸相 23. 通過儀礼 定義と理論 24. 通過儀礼 人生儀礼 25. さまざまな通過儀礼 26. リミナリティとコミュニタス 27. タブーとは何か 28. 神話と儀礼 神話とはなにか 29. 神話と儀礼 事例から考える 30. 後期のまとめ
準備学習	授業準備として、次回授業で取り上げる内容について配布した関連資料に眼を通しておくこと。また、授業で行う小テストの内容は必ず復習しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	原則として、年8回の「小テスト」（平常点）が2割、夏期レポート（前期試験に相当）が4割、年度末の筆記試験が4割として評価します。成績評価の具体的な方法、レポート課題の内容、年度末試験の方針、小テストの評価の仕方などは最初の授業で詳しく説明します。
教科書／テキスト	関連資料のコピーを配布します。原則として教科書は用いません。
参考書	講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。

履修コード	211511
科目名	宗教学〔生活と宗教〕
担当者名	菅原 壽清

授業概要/ 到達目標（ねらい）	人間の精神世界の根源にあって、人びとの生活を支える宗教文化の理解は、現代社会においても不可欠な問題であると思われます。そこで、本講義では宗教人類学の視点から、「生活と宗教」というテーマで、日本やアジアの人びとの宗教的営みについてとらえてみたいと思います。授業は講義形式とし、はじめに宗教学・宗教人類学について、その基礎的な概説を行います。次に、「日本のなかのアジア」「アジアのなかの日本」という視点から、日本と東南アジア、および中国の西南地域の人々の暮らしなどを事例として、「生活と宗教」について展開します。特に、アジアの山地社会における人々の宗教的営み、日本の山岳信仰などに注目して、仏教と民俗宗教との関係や、その展開過程について、それぞれの地域の具体的な事例を取り上げながら、展開します。
授業スケジュール	1. 宗教学・宗教人類学とは 2. 日本とアジア、その多様な姿 3. アジアの人々の生活と宗教 4. 日本の人々の生活と宗教 (1と2は前期授業、3と4は隔年で後期授業、と内容を変えています。今年度は「日本の人々の生活と宗教」として、日本の山岳宗教を取り上げ、次年度は「アジアの人々の生活と宗教」として、中国雲南の山地社会を取り上げます。勿論、呪術と宗教、シャーマニズムなど宗教学の理論も押さえながら、私たちの身近にある暮らしの中の宗教を捉えてみたいと思っています。)
準備学習	YeStudyで、授業中の配付資料、講義ノート、パワーポイントで作成した映像、動画など、全てを公開しますので、予習や復習に利用して下さい。
履修上の留意点	講義では、国内や海外調査で写した写真やビデオなどを、プロジェクターを用いて映しながら授業を行います。また、学内のホームページ、YeStudyには、授業中の配付資料、講義ノート、パワーポイントで作成した映像、動画など、全てを公開しますので、予習や復習に利用して下さい。 さらに、授業に関連した写真を私のホームページでも公開しています。インターネットなどができれば、なお可です。さらに、DVDを用いて、授業に関連した映像も写します。広く、アジアの人々の暮らしや日本の山岳信仰に関心のある方は是非どうぞ。
成績評価の方法	試験 $\alpha + \beta$ （詳細は、講義の時説明） α = 座席点（ABCで付け、積極的な授業参加を評価します） β = レポート点（課題や参考書に基づいて提出したレポートなど、積極的な授業参加を評価します）
教科書／テキスト	特には、指定しません。講義資料をプリントして配布します。
参考書	講義資料をプリントして配布します。また、YeStudyでも公開します。 講義において、そのつど参考書や文献を紹介します。 『宗教学ハンドブック』（世界書院）
その他	授業の方法—講義、ビデオ・DVD、プロジェクターを用いてスライドや動画を写しながら、ビジュアルな授業を展開します。国内や海外調査Field Workに関心のある方（社会・文化人類学、宗教人類学）は是非どうぞ。

履修コード	211301
科目名	宗教学【聖と俗】
担当者名	田中 かの子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ありのままの世界には「聖」も「俗」もなく、あるがままに続けられてゆくその営みがみられるばかりである。そこにあえて「聖と俗」といった対立概念をみるのは、変化し続ける多様な現象の動きを把握しきれない人間の焦燥感が、二分法という遠心分離機を欲するから、ともいえる。人類の精神史において展開してきた各宗教の分立を観るにつけても、深く知れば知るほど、「～教」と「～教」を隔てる壁の存在に疑問を抱かずにはいられなくなる。一見、相違するようにはみえる諸宗教の教義・儀礼・生活共同体の掟にも、歴史的な相関性があり、言語や民族の絆は、信仰の違いを超えて、多様な文化圏を形成している。さらに「いのち」の尊厳を守るための真摯な祈りはどれも、学問的に定義された「宗教」概念では捉えきれない、普遍的で深遠な思想を内に秘めている。ゆえに本講では、従来の宗教学が呪縛されてきた既存の宗教分類（例：「一神教と多神教」「世界宗教と民族宗教」）から出発せずに、最も根源的で身近な「いのち」をめぐる人間の畏れ・感謝・願いをテーマにしながら、「宗教」を考える。
--------------------	--

授業スケジュール	前期（1～15）は、ほかならぬ自らの「いのち」に気づき、その表現・解釈・ゆくえ・価値観などについて考えることに重点を置き、後期（16～30）は、ゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、シーク教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、仏教、儒教、道教、神道の歴史・思想・文化における「いのち」について、教科書を縦横に駆使しながら探究する。
----------	---

準備学習	教科書を通読し、関心のある語句や段落などを赤や青（あるいは眼の負担にならないグリーン）などの蛍光ペンや色鉛筆でチェックしておくこと、受講にも、課題や試験の準備にも、さらには、卒業後の読書にも役立ちます。疑問や思索の軌跡を余白に書き込むのも、教養を深めるうえ、お勧めの作業です。
------	--

履修上の留意点	既存の知識で示せる情報の範囲をはるかに凌駕した、真実の豊かさに眼を開きましょう。
---------	--

成績評価の方法	独創性と応用力を発揮できる、論述式の課題（締め切り：12月最後の授業日）と学年末試験。
---------	---

教科書／テキスト	田中かの子著『比較宗教学―「いのち」の探究―』新装改訂版、北樹出版、新学季（4月以降）に、学内の書店で販売予定の、最新版（試験内容にも関連）を使用する。
----------	--

参考書	物事を多方面から捉えた柔軟な視点の著作（文学としても味読できるもの）を適宜、ご紹介しします。
-----	--

その他	講義担当者の現地調査によるスライドや録音テープを活用します。
-----	--------------------------------

履修コード	342401
科目名	宗教学【比較宗教文化】
担当者名	田中 かの子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	人間には実に様々な生き方・見方・考え方・信じ方があり、「いのち」あるうちに為しうることに、限らない可能性があるということ、諸宗教の比較は教えてくれる。わたくしたち自身も、そのなかの、かけがえのない一通りの人生を歩んでいる。「～教」や「～教徒」などという、他の人々と区別しうる特徴をもっているかのように錯覚してしまうが、言うまでもなく、信仰者としての彼らが目指すのは、より善い「人間」としてこの一生を全うすることにほかならない。各宗教が人間にどのような有り方を望んでいるのかを、その伝統的な生活文化をとおして俯瞰し、いま、この世界のどこかで生きている、いまだ出会うことのない人々への共感を呼び覚ましてみたい。それが、誤解や偏見のない「人間」理解に繋がれば幸いである。
--------------------	--

授業スケジュール	講義担当者の生活体験をとまなう地域（インド・ヨーロッパ）を中心に、机上では知りえない、かならずしも教義一辺倒ではない信仰生活の多様性について解説する。前期（1～15）は諸宗教に共通する人間文化の特徴、後期（16～30）は各宗教の個性と他宗教との関係を念頭に置きながら、その時々の世界情勢を踏まえたトピックを臨機応変に選んでいく。
----------	--

準備学習	教科書を通読し、関心のある箇所をチェックしておくこと、受講するのが、より楽しくなります。
------	--

履修上の留意点	板書は、即興の覚え書きや、テーマの骨子を素描したものにすぎません。むしろ、講義の言葉や自分の考えに耳を傾けて、積極的にノートしましょう。仏教と他宗教との関連性に注目。様々なページを開いて比較し、視野を広げる機会が多いので、教科書は必携です。授業中に参照するページのなかで、注目したい語句や行には、目的に応じて色分けした下線や印などを付けておくと、課題や試験の準備に有効ですし、卒業後の読書にあたって、自分なりの読み方を深めやすくなります。
---------	---

成績評価の方法	受講の成果、創意工夫、日本語の表現力などを評価する課題（締め切り：12月最後の授業日）、学年末試験、平常点。
---------	--

教科書／テキスト	田中かの子著『比較宗教学―「いのち」の探究―』新装改訂版、北樹出版、新学季（4月以降）に、学内の書店で販売予定の、最新版（試験内容にも関連）を使用する。
----------	--

参考書	「いのち」の尊さや、異文化間の交流を扱ったもの（書物、映画など）なら何でも。
-----	--

履修コード	211521
科目名	宗教学〔民俗宗教の諸相〕
担当者名	宮田 義矢

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>授業概要：信じない人は信じる人の気持ち、信じる人は信じない人や別の宗教を信じる人の気持ちがわからないといいます。しかし、現在もなお、様々な宗教が多くの人々や社会と関わりあっていることを知れば、「わからない」で済ませて見ようとしていなかった、のっぴきならない人間・他者の姿が見えてきます。</p> <p>そのための「目」を養うため、前期では世界の大宗教、宗教学の様々なアプローチ、宗教の関わる事件などを取り上げ、また後期は、中国と日本の民俗宗教をメインに紹介していきます。</p>
--------------------	--

到達目標：本講義は、「宗教」というものが、どのようなものであったか、また現在どのようなものとしてあるかを理解し記述しようとする試み、すなわち宗教学について紹介するものです。宗教を理解するための様々な切り口に触れ、宗教学的な考え方について理解を深めていくことが本講義のねらいです。

授業スケジュール	<p>みなさんの興味にあわせて若干変更する場合があります。</p> <p>[01] はじめに。</p> <p>[02～05] 宗教学の考え方について、「メディアと宗教」、「宗教心理学」などを題材に説明します。</p> <p>[05～10] キリスト教やイスラーム教に共通する「聖典」、「契約の概念」などをテーマに世界の宗教を概観します。</p> <p>[11～15] 「原理主義」や「スピリチュアリティ」を手がかりに、現代社会の諸問題と宗教の関わりを考えていきます。</p> <p>[16～19] 「民俗宗教」という考え方について、中国の宗教を事例に論じます。</p> <p>[20～24] 日本や中国の「民俗宗教」に関わるトピックをあげ、考察を加えていきます。</p> <p>[25～29] 「民俗宗教の実践」をテーマに、「養生法(氣功)」や「シャーマニズム(扶乩)」などを題材にして考えていきます。</p> <p>[30] おわりに。</p>
----------	---

準備学習	特に求めません。
------	----------

履修上の留意点	リアクションペーパーを適宜提出してもらいます。
---------	-------------------------

成績評価の方法	小レポート（30点）を一回、期末レポート（50点）を一回課します。これにリアクションペーパー・平常点（20点）を合わせ、総合的に評価します。レポートの内容および執筆の要領については講義中に指示します。
---------	--

教科書／テキスト	特に使用しません。資料を適宜配布します。
----------	----------------------

参考書	<p>近年の宗教学入門書として、次の2冊をあげておきます。</p> <p>島蘭進[ほか]編『宗教学キーワード』有斐閣、2006年</p> <p>岡田典夫[ほか]著『はじめて学ぶ宗教：自分で考えたい人のため』有斐閣、2011年</p> <p>そのほか、適宜授業時に紹介します。</p>
-----	---

その他	詳細については、初回講義時に説明します。受講を考えている方は必ず出席してください。
-----	---

履修コード	211501
科目名	宗教学〔日本人の宗教〕
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 本講義は、日本人の宗教について幅広く紹介し、また宗教学による見方も紹介する。前期は、神道・仏教・修験道・民俗宗教を中心に取り上げ、後期は、近代以降における日本への宗教の移入と日本からの移出、思想的変容などを中心に論じる。</p> <p>(到達目標) 宗教というものを語り理解するには様々な方法がある。宗教学はその1つである。また宗教学の中にも宗教に対しての異なる見方がある。本講義では、日本人の宗教を紹介する事とともに、宗教学における多様な見方、特に宗教人類学や宗教社会学、宗教思想研究といった見方を適宜取り上げて紹介する。日本の宗教の歴史的概要の基礎知識を学ぶことと、それらの事例を宗教学の視点から考察できるようになることを目標とする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 概説・宗教学概論と日本人の宗教 3. 神道1 神道の教え 4. 神道2 神道の歴史 5. 神道3 神道の現在 6. 日本仏教史1 宗派と經典 7. 日本仏教史2 歴史的変容 8. 修験道 9. 伝統的な民俗宗教 誕生から結婚 10. 現代の結婚 11. 伝統的な民俗宗教 葬儀と先祖供養 12. 現代の葬儀 13. 現代の民俗宗教 14. 占い 15. まとめ 16. 復習と後期概説 17. 寺院建築 18. 神社建築 19. 日本のキリスト教1 20. 日本のキリスト教2 21. キリスト教思想 内村鑑三 22. 仏教思想1 清沢満之 23. 仏教思想2 田中智学 24. 新宗教 25. 新宗教の思想・出口なお 26. 日本のイスラーム 27. 海外の日本宗教1 アメリカ 28. 海外の日本宗教2 アジア 29. 日本人の現代宗教・若者アンケート概要 30. まとめ
準備学習	宗教学の入門書（以下の参考書欄を参照）などを読んでおくと、本講義がより分かりやすくなる。
履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・前期レポート40%（夏休み前に課題を提示・後期初回に提出）、 ・後期の定期試験期間における筆記試験60%
教科書／テキスト	なし
参考書	<p>宗教学の入門書（いずれも授業時に使用するものではない）。</p> <p>石井研士『プレステップ宗教学』弘文堂、1890円、2010年。</p> <p>井上順孝『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる宗教学』日本実業出版社、1575円、2011年。</p> <p>末木文美士『日本宗教史』岩波書店、780円、2006年。</p>
その他	なし

履修コード	211901
科目名	人文地理学〔空間と行動〕
担当者名	伊藤 修一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) われわれの日常生活の拠点は都市にある。われわれはその環境に影響を受けて行動する一方で、その行動が都市に特徴をつけていくこともある。この授業では、とくに都市に注目して、地理学的な見方で都市をとらえて、説明していく方法を具体例を挙げながら説明する。</p> <p>(到達目標) この講義では、地理学の基本的な道具である地図の特性や空間的表現を活かして、都市に関する古典的な立地法則とその実際、都市の空間的構造や余暇活動圏の特徴と形成過程を理解して、空間や距離と、諸産業・経済とが相互にどのような影響を与えてあっているかを具体的に説明できることを到達目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 地図とは？</p> <p>第3回 地図の表現方法</p> <p>第4回 都市とは？</p> <p>第5回 都市の分布と立地—都市の数と規模の関係</p> <p>第6回 都市の分布と立地—商業の立地論 (1)</p> <p>第7回 都市の分布と立地—商業の立地論 (2)</p> <p>第8回 都市の分布と立地—商業の立地論の実際</p> <p>第9回 都市の分布と立地—工業の立地論 (1)</p> <p>第10回 都市の分布と立地—工業の立地論 (2)</p> <p>第11回 都市の分布と立地—工業の立地論の実際</p> <p>第12回 都市の分布と立地—農業の立地論</p> <p>第13回 都市の分布と立地—農業の立地論の応用</p> <p>第14回 都市や地域の結びつき—結びつきの型</p> <p>第15回 都市や地域の結びつき—伝播・拡散</p> <p>第16回 都市や地域の結びつき—結びつきの強さ</p> <p>第17回 人口変動と分布・人口移動—人口変動と分布の特徴とその変化</p> <p>第18回 人口変動と分布・人口移動—人口変動と人口分布の関係</p> <p>第19回 人口変動と分布・人口移動—人口移動と都市の形成</p> <p>第20回 都市の居住構造の形成過程—社会経済的特徴からみた場合 (1)</p> <p>第21回 都市の居住構造の形成過程—社会経済的特徴からみた場合 (2)</p> <p>第22回 都市の居住構造の形成過程—家族の特徴からみた場合 (1)</p> <p>第23回 都市の居住構造の形成過程—家族の特徴からみた場合 (2)</p> <p>第24回 都市の居住構造の形成過程—民族の特徴からみた場合 (1)</p> <p>第25回 都市の居住構造の形成過程—民族の特徴からみた場合 (2)</p> <p>第26回 都市と余暇活動—余暇活動の特徴と変化</p> <p>第27回 都市と余暇活動—大都市住民の余暇活動の特徴とその要因</p> <p>第28回 都市空間における認知と行動—認知空間の広がりの特徴</p> <p>第29回 都市空間における認知と行動—認知空間の広がり</p> <p>第30回 全体のまとめと確認</p>
----------	---

準備学習	授業では簡単な数式を用いることがある。具体的には、一次方程式や対数といった高校の数学Iや数学IIの内容に相当する。不安がある者は、それらの数式の特徴や意味することについてよく復習をしておくこと。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	講義期間中に実施される試験得点(80%)と平常点(20%)から評価する。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	高校などで利用した地図帳を準備することが望ましい。
----------	---------------------------

参考書	<p>さしあたり、以下の本を紹介する。</p> <p>坂本英夫・浜谷正人編著『最近の地理学』大明堂、2625円、ISBN 978-4-4704-0038-6</p> <p>富田和暁・藤井 正編『新版 図説 大都市圏』古今書院、3150円、ISBN 978-4-7722-4140-3</p>
-----	---

その他	講義ではプリントを随時配布する。資料のバックナンバーの閲覧や急な連絡などはYeStudyを通じて行うので、履修者は開講後早めに登録を済ませること。
-----	---

履修コード	211801
科目名	人文地理学〔空間と行動〕
担当者名	伊藤 慎悟

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、地理学およびそれに関連する社会的問題における基礎的知識の習得を目的とし、地域的差異の発生と、その要因について議論する。今年度は、学問としての地理学の解説、そして各種分布図、資料の読み取りを行い、なぜそこに立地するのか、なぜ地域差が生じたのかを考えていく。
---------------------	--

授業スケジュール	今年度の授業は以下の内容で行う予定である。 予定は変更になる場合がある。 次回授業内容は授業時に予告する。
----------	---

1. 本講義の概要と受講に関する諸注意
2. 地理学の歴史と研究目的
3. 地理学の研究領域
4. 地理学における表現方法
5. 気候条件と居住形態
6. 立地の理論 (1)
7. 立地の理論 (2)
8. 都市の発達と構造 (1)
9. 都市の発達と構造 (2)
10. 都市の発達と構造 (3)
11. 地形と土地利用
12. 村落形態
13. 過疎問題
14. 過疎対策
15. 前期講義内容の総括
16. 前期講義内容の確認
17. 現代文化と地理学 (1)
18. 現代文化と地理学 (2)
19. 都市における移動の発生
20. 日本の通勤移動 (1)
21. 日本の通勤移動 (2)
22. 都市交通の発達と問題 (1)
23. 都市交通の発達と問題 (2)
24. 人口問題 (1)
25. 人口問題 (2)
26. 少子高齢化問題 (1)
27. 少子高齢化問題 (2)
28. 住宅団地の立地
29. 後期講義内容の総括
30. 後期講義内容の確認

準備学習	とくに予習する必要はないが、普段から新聞やニュースに目を通すようにし、昨今の社会問題に関心を持つようになっておくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	地理学の専門知識は必ずしも必要としない。ただし、地理という分野に多少の興味を持っておくことが履修するうえで不可欠である。普段より授業で取り上げた事例、地域について自分なりに調べておくことが求められる。また、板書形式の授業なので、ノートを必ず持参すること。ほぼ毎回、A4サイズの資料を配付するので、それを綴じられるバインダー等があると便利である。授業は講義形式であり、受講者に発言、討論は求めない。したがって、私語は厳禁である。遅刻常習の者は成績にかかわらず単位認定しない。
---------	--

成績評価の方法	2010年度の成績配分 (目安) S・A・・・24% B・・・31% C・・・26% 単位認定せず・・・19%
---------	--

前期授業内容が範囲となる中間試験と、年度末の期末試験 (追試なし)、そしてほぼ毎回出される課題の内容や授業態度によって評価する。また、遅刻も評価対象とする。

教科書/テキスト	とくに使用しない。高校などで使用した地図帳があると便利である。
----------	---------------------------------

参考書	とくになし。
-----	--------

履修コード	211701
科目名	人文地理学〔風土と文化〕
担当者名	櫻井 明久

授業概要/ 到達目標(ねらい)	主に地理学科以外の一般の学生向けに、作業を通じて、風土と文化に関する人文地理学の見方や考え方を学ぶ。作業は、地形図の着色・読図、地図帳の利活用、ルポルタージュ作品の活用など。授業中の作業と取り組み・訓練が重要である。取り扱う地域については、日本とヨーロッパ(ドイツ農村、パリ大都市圏周辺農村)など桜井が直接経験・調査した地域の事例を取り上げる。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>まず前期に、個人と地域との関係レベルの人文地理学をまず考えたい。2.5万分の1の旧版地形図などを利用して基本的な地図の見方を練習し、着色作業しながら地形と土地利用の関係を学び、集落から都市レベルの地理を考える。夏休みには、前期で学んだ作業方法を活用し、各自の身近な地域について着色作業し、レポートを作成する。この夏休みのレポートの配点が高い。後期は、北西ヨーロッパを扱い、より大きなスケールで、農業と食を手がかりに国、超国家スケールまでの人文地理学を考える。また、後期の後半には、何人かに夏休みのレポートを簡単に発表してもらおう予定である。</p> <p>1. オリエンテーション、地図の基礎知識、2. 人を通じてその土地を知る、3. 地図で伝える、4. 地形図(1) 地図記号を使って追跡、5. 地形図(2) 等高線でみる地形、6. 地形図(3) 地形図読図練習、7. 着色作業(1) 自然堤防と後背湿地の土地利用、8. 着色作業(2) 台地と低地の土地利用、9. 着色作業(3) 丘陵と山地の土地利用、10. 伝統的生業を読む、11. 伝統的集落景観を読む、12. 外国の地形図と地図記号、13. 外国旅行と野外観察、14. 外国の都市地図と街歩き計画、15. 地図帳利用(1) 基本、16. 地図帳利用(2) 時差と旅行計画、17. ヨーロッパの農業文化(1) 肉、18. ヨーロッパの農業文化(2) 小麦、19. ヨーロッパの農業文化(3) 乳製品、20. 混合農業、21. 混合農業の発展史、22. 北西ヨーロッパの景観史、23. 三圃制の村・内畑外畑の村、24. ジャガイモ生産と円村、25. ソバとクレープとポカージュ景観、26. ワイン栽培北限地域、27. ヨーロッパの田舎町、28. ヨーロッパにおける地方都市と都市圏、29. パリ大都市圏、30. ヨーロッパの構造</p>
----------	---

準備学習	準備よりも、ワークを練習をしたり、遅れた作業の回復に努め、期限までに作業結果を提出できるようにすることが求められるので注意すること。
------	--

履修上の留意点	ほぼ毎授業、その時間内で作成した作品や地図、ミニレポートを提出する。次時にはそれらを反省したり、皆さんの疑問や質問を取り上げて、考察を深めたい。こうした作業活動型の授業を行うので、作業が滞る欠席・遅刻は厳しくチェックする。積極的な授業参加を望みたい。なお、着色作業のために、6色程度の色鉛筆を使ったり、中・高校時代に利用した地図帳を利用するので、指示する時間に持参すること。また、配付した資料も忘れずに持参する必要がある、こうした準備がないと授業に参加できないので十分に注意すること。
---------	--

成績評価の方法	毎時のミニレポートないしは作品提出：50点(出席し、授業内で作業を行うことが重要である)、夏休みレポート：30点、試験(前・後期)：計20点といったバランスで評価したい。
---------	---

教科書/テキスト	なし。
----------	-----

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	211601
科目名	人文地理学〔風土と文化〕
担当者名	山口 太郎
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 本講義では、都市、とりわけ東京を通じて地理的想像力を磨くこと、そして都市を批判的にみつめる力を養うことを目的とする。教室で学習した知識と、地理的想像力や批判精神といった感覚を、日常生活の場（所）や空間で活かすことができれば理想的である。</p> <p>（到達目標） 「都市空間」を数量的データを活用して分析し、理解し、表現する「数量的スキル」、「都市空間」の問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を確実に解決できる「問題解決力」、「都市空間」の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる「論理的思考力」という汎用的技能3点と、東京論の基本的な知識の体得を到達目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>次の項目を予定している。</p> <p>(1)～(3)東京の自然史（都市と緑、坂の町・東京、水の都・東京）、(4)～(8)東京の歴史地理（明治以降の通史、同潤会アパートの歴史、都市の観察法）、(9)～(10)東京の社会・経済地理（社会地図、産業集積）、(11)～(15)都市の文化・社会地理（シカゴ学派、大阪の事例、都市の表象、情報と都市空間）、(16)～(17)都市計画、(18)～(21)東京の文化地理（渋谷、秋葉原、代官山、下北沢、大久保、新宿など）、(22)～(26)東京郊外の文化・社会地理（世田谷区内各所、田園調布、「多摩田園都市」、多摩ニュータウンなど）、(27)～(30)都市の社会地理（都市空間と権力、時間地理学、都市空間とジェンダー、都市空間と故郷）</p>
準備学習	主に東京23区を舞台として講義を進めるので、23区名や鉄道路線、駅名が分かる地図が手元にあると理解の助けとなるはずである。普段から積極的に東京の街歩きをしてほしい。
履修上の留意点	YeStudyを活用した小テストや、不定期に教場での小レポートを課すことがある。
成績評価の方法	夏のレポート40%、後期試験40%、平常点20%
教科書／テキスト	特に定めない。プリントを配布する。
参考書	授業の中で紹介していく。
その他	<p>講義形式を基本とするが、皆さんに質問を投げかけることもあるので、主体的に参加してほしい。</p> <p>講義は、東京を舞台として人文地理学的思考のトレーニングを行うことに力点を置くため、人文地理学を体系的に学習したい学生には、あまり向いていない。</p>

履修コード	208901
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	河谷 淳

授業概要/ 到達目標（ねらい）	この授業では、西洋思想の二大源流であるギリシア哲学（古代哲学）とキリスト教哲学（中世哲学）とを主要なテーマとして取り上げる。これらの二大源流は不連続性と連続性の両面を併せ持ちながら、複雑に分岐・合流を繰り返して近現代の思想へと流れ込んでいる。この意味では現代の私たちが古代・中世哲学について考えることは現代哲学の一形態であると言ってもよいであろう。授業では、できるだけ身近で具体的な事例をあげながら、基本的な哲学用語について理解を深めてもらえるよう配慮したい。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 2. ソクラテス以前の哲学（1） 3. ソクラテス以前の哲学（2） 4. ソクラテス以前の哲学（3） 5. ソクラテス以前の哲学（4） 6. ソクラテス以前の哲学（5） 7. ソクラテスの哲学（1） 8. ソクラテスの哲学（2） 9. プラトンの哲学（1） 10. プラトンの哲学（2） 11. プラトンの哲学（3） 12. アリストテレスの哲学（1） 13. アリストテレスの哲学（2） 14. ヘレニズムの哲学 15. 前期授業内容の理解度の確認 16. アウグスティヌスの時間論 17. 神の存在証明（1） 18. 神の存在証明（2） 19. 普遍論争（1） 20. 普遍論争（2） 21. デカルトの哲学（1） 22. デカルトの哲学（2） 23. 大陸合理論の展開 24. ロックの哲学（1） 25. ロックの哲学（2） 26. イギリス経験論の展開 27. カントの哲学（1） 28. カントの哲学（2） 29. 30. まとめと理解度の確認
----------	---

準備学習	教科書の対応箇所に目を通しておくことが望ましい。
------	--------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	中間試験（前期最終授業日に実施）と期末試験（それぞれ40点満点）ならびに夏休みレポートと平常点との総合点で評価する。
---------	--

教科書／テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社3200円
----------	--------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	209501
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	久保 陽一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代文明と人間の関係について反省し、われわれが現実に対していかに対処すべきかを考える。現代の哲学では、一方で近代の科学技術では把握しきれない世界の真相を捉えようとする傾向や、他方で逆に科学的見方を尊重しつつも、「意識」による世界の根拠づけから「言語分析」へ転換しようとする傾向、また実践を重んじ社会のあり方を批判しようとする傾向がある。授業では、まず近代哲学が提起した諸問題を踏まえた後で、それらの問題が19世紀後半以降においていかに批判的に展開されたかを見る。それによって、現代における人間のあるべき姿について考えることを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 近代における自然観の問題 (1) 2 近代における自然観の問題 (2) 3 近代における認識の問題 (1) 4 近代における認識の問題 (2) 5 近代における実践哲学の問題 (1) 6 近代における実践哲学の問題 (2) 7 近代における実践哲学の問題 (3) 8 近代における歴史観の問題 9 マルクス (1) 10 マルクス (2)、フランクフルト学派 11 新カント派 12 ウェーバー 13 ショーペンハウアー 14 ニーチェ 15 理解度の確認 16 ベルクソン 17 デイルタイ 18 キルケゴール 19 ハイデッガー (1) 20 ハイデッガー (2) 21 ガダマー 22 ムーア 23 フレーゲ、ラッセル (1) 24 ラッセル (2) 25 論理実証主義、ポパー 26 クワイン 27 プラグマティズム 28 言語行為論 29 物語の哲学 30 理解度の確認
----------	---

準備学習	授業内容をよく復習すること。不明な点は授業の際に質問すること。次回に扱う個所について、あらかじめ、教科書に目を通しておくこと。
履修上の留意点	私語、途中退席をつつしむこと。ノートをよく取ること。分からないところは遠慮なく尋ねること。
成績評価の方法	成績は、前・後期試験(8割) およびレポート(2割) によって評価する。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』、公論社、3200円、ISBN 4-7714-2002-5
参考書	久保陽一『ドイツ観念論への招待』(放送大学教育振興会) 久保陽一『生と認識』(知泉書館) 渡辺二郎『現代の哲学』(放送大学教育振興会)
その他	哲学は、既に確定した知識があって、それを暗記すれば良いものではない。一人一人が主体的に自分の問題に取り組む姿勢が大事である。カントが言ったように、哲学の内容は—例えば、法律の条文とか物理学の法則を教えられるように、—教えることができず、各自が主体的に「哲学する」ことの大切さを教えることができるのみである。とはいえ、素人がまったくゼロから自己流で始めることは困難であり、得策ではない。やはり、既に存在する過去の優れた哲学者の知識を「学ぶこと」は大切なことである。むしろ「学ぶこと」を通して初めて自主的に「哲学する」ことが少しずつ形成されるだろう。この点を肝に銘じて、くりかえし学習しつつ、思索や作文を試みてもらいたい。

履修コード	209301
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	黒崎 剛

授業概要/ 到達目標（ねらい）	近代社会（近代とは現代も含む）のなかで人間のあり方と、社会構造（近代市民社会＝資本主義社会）について、近現代哲学を総括した上で、テーマ別に人間論と社会論について入門的な講義を行う。個々の哲学者の学説史ではないので、哲学史の知識を求める人には向かない。
--------------------	---

授業スケジュール	以下のテーマを取り上げる予定 1. はじめに：われわれはどんな社会に生きているか 2. 「知識」は何のためにあるのか 3. 近代的自我：「自分である」とはどういうことか 4. 近代的自由の類型：自己決定と自律 5. 人間と自然：人はなぜ自然に生きることができないのか 6. 近代資本主義社会の構造：われわれはなぜモノとカネに支配されるか 7. 歴史哲学
----------	---

準備学習	プリントを事前に配布されたときは、読んでくること。
------	---------------------------

履修上の留意点	近代哲学の主要テーマ別にかなり抽象的な形で取り上げるので、単位獲得のためだと割切っている人は退屈するはず。自分で考える姿勢を持つことを要求したい。
---------	---

成績評価の方法	学年末試験を中心とし、受講態度および出席を加えて総合評価する。
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	教科書の代わりにプリントを配布。
----------	------------------

参考書	教場で紹介する。
-----	----------

履修コード	209201
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	小島 優子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	近代における「人間中心主義」をテーマとする。現代における環境問題を考えるとき、われわれはすぐに人間中心主義の思想のもとに自然破壊が行われてきたことに思い至る。近代における科学技術の発展はわれわれの生活をたいへん便利なものとしてきた。しかし、人間中心主義がわれわれにもたらしたものはいったい何であろうか。このことを考察するために、まず自然と人間との関係は古代ギリシア以来、どのように考えられてきたか、そして近代人の特色とは何であるについて押さえる。
--------------------	---

	近代において人間中心主義が標榜されるようになったのは、中世のように神が人々にとって中心的な問題ではなくなったことに由来する。そもそもなぜ古来人間は神を信じてきたのか、さらに近代人にとって神とはどのような存在であるのかについて考えたい。近代においてはむしろ人間とは何であるかということが、歴史的状況、社会的状況のなかで問われるようになった。そして人間はいかに生きるべきか、人間とは何かということが問題とされる。講義を通して、人間とは何か、また人間が生きることの意味について学生諸君に考えてもらいたい。
--	---

授業スケジュール	1 哲学とは何か 2 近代以前の哲学 ① 古代ギリシア哲学の世界観-人間と自然・人間と国家との関係- ② 中世哲学とキリスト教神学 3 近代哲学の特徴 ① キリスト教神学からの解放-近代人にとって神とは何か- ② 自然科学の哲学への影響 ③ 人間中心主義の世界観
----------	--

準備学習	教科書を読んで予習しておくこと。
------	------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	1回の定期試験（中間試験）と、1回の学期末試験と平常点（出席状況）で評価する。
---------	---

教科書／テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社
----------	---------------------------

参考書	小島優子著『最新哲学がよ〜くわかる本』秀和システム 小島優子著『ヘーゲル 精神の深さ』知泉書館
-----	--

履修コード	208801
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	佐藤 暁
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	哲学という営みが世界史上初めて行われた古代ギリシャ及びその強い影響下にあった中世ヨーロッパで活躍した哲学者たちの議論に、なるべく具体的かつ丁寧に触れることによって、哲学的な問題とはどのようなものであり、哲学的に何かを論じるとは一般にどのようなことであるか、の理解を得ることを目的とします。また、一見現代の我々のものと異なって見えることもあるそれらの問題設定を知ることによって、我々が何かを考える際に自明と見なしている枠組みの相対性と普遍性を、結果的に吟味することにもなります。
授業スケジュール	(1) 概論：哲学とはどのような学問か (2~9) ソクラテス以前の哲学 (10~15) ソクラテス・プラトン (16) ~ (20) アリストテレス (18~23) ヘレニズム期の哲学・教父思想とアラビア哲学 (23, 24) カロリング・ルネサンスと前期スコラ学 (25) ~ (28) 盛期スコラ学 (29, 30) 後期スコラ学
準備学習	その回の授業で扱う予定の哲学者について、教科書の該当箇所に目を通しておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学期末にレポートを提出してもらいます。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社3200円 ISBN978-4-7714-2002-1
参考書	

履修コード	209101
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	佐藤 暁
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	科学が世界の基礎的な真相を記述している、という現代においても支配的な信念が初めて一般に共有されるようになった近代という時代の哲学は、それゆえ、現代の我々が普段何をしていることになるのか、あるいはどのような世界に住んでいるのか、といった哲学的な問いを考えるうえで必要となる道具立てのうち、最も基本的なものを作り上げた哲学と言えます。この授業では、近代の哲学者たちの議論に具体的に触れることによって、我々自身が哲学的に考えるうえで必要な思考方法にどのようなものがあるかを実際に知り、できればそれらある程度使いこなせるようになることを目標とします。
授業スケジュール	以下の哲学者を中心に、各項目ごとの解説を行います。(1) 概論：人間と人間観、世界と世界観 (2) ~ (18) イギリス経験論 (ホッブズ・ベーコン・ロック・ヒューム) (19~25) 大陸合理論 (デカルト、スピノザ) (26~30) カントとドイツ観念論 (カント・ヘーゲル)
準備学習	その回の授業で扱う予定の哲学者について、教科書の該当箇所に目を通しておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学期末にレポートを提出してもらいます。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社 3200円 ISBN978-4-7714-2002-1
参考書	

履修コード	343201
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	佐藤 暁
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	科学が世界の基礎的な真相を記述している、という現代においても支配的な信念が初めて一般に共有されるようになった近代という時代の哲学は、それゆえ、現代の我々が普段何をしていることになるのか、あるいはどのような世界に住んでいるのか、といった哲学的な問いを考えるうえで必要となる道具立てのうち、最も基本的なものを作り上げた哲学と言えます。この授業では、近代の哲学者たちの議論に具体的に触れることによって、我々自身が哲学的に考えるうえで必要な思考方法にどのようなものがあるかを実際に知り、できればそれらある程度使いこなせるようになることを目標とします。
授業スケジュール	以下の哲学者を中心に、各項目ごとの解説を行います。(1) 概論：人間と人間観、世界と世界観 (2) ~ (18) イギリス経験論 (ホッブズ・ベーコン・ロック・ヒューム) (19~25) 大陸合理論 (デカルト、スピノザ) (26~30) カントとドイツ観念論 (カント・ヘーゲル)
準備学習	その回の授業で扱う予定の哲学者について、教科書の該当箇所に目を通しておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学期末にレポートを提出してもらいます。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社 3200円 ISBN978-4-7714-2002-1
参考書	

履修コード	343301
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	鈴木 聡
授業概要/ 到達目標(ねらい)	本講義のねらいは、現代哲学の重要問題を扱った素材を叩き台として、1つの問題について徹底的に考え抜くという態度を受講者に身につけさせることである。
授業スケジュール	(1) プロローグ・(2) 問いの構造・(3・4) 懐疑論・(5・6) 意識・(7) 誤謬推理・(8・9) 他人の心・(10) ロボットと人間・(11) 意味・(12) 生命倫理・(13) 性・(14・15) 道徳と宗教・(16・17) 道徳に関する2つの見方・(18) 芸術の定義・(19) 知識・(20) 帰納法・(21・22) 時間・(23・24) 自由意志と決定論・(25・26) 功利主義・(27・28) 人格の同一性・(29・30) パラドクス
準備学習	必ず予習をして講義に出席すること。
履修上の留意点	欠席・遅刻は一切認めない。 講義中に居眠り等の注意を受けた者は速やかに退室すること。
成績評価の方法	成績は、出席状況・講義中の発表によって評価する。
教科書/テキスト	開講時に指定する。
参考書	

履修コード	208701
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	滝口 清栄
授業概要/ 到達目標(ねらい)	西洋思想は古代ギリシアで哲学的思索が始まってからすでに二千数百年の歴史をもっている。とかく現代では、目新しさを求める風潮が強くなる。そしてさまざまな流行が私たちを囲んでおり、思想の世界もこの風潮を免れていない。しかし、この二千数百年の歴史は、けっして遺物の山なのではない。そうではなく、この歴史のなかでさまざまなテーマが多くの思想家たちによって提出されて、さまざまな応答がなされてきた。それらは、今日のさまざまな思想的論点の底流を形作っていると言っても、言い過ぎではないだろう。
授業スケジュール	西洋思想の源流として、古代ギリシア・ローマの諸思想、そして中世の思想を取り上げる。講義にあたっては、それぞれの思想の検討だけでなく、その思想の背景にある歴史的な事情や当時の文化のあり方にも目配りをおこなう。講義スケジュールは次のようにする。 前期 1 万物のはじめをもとめて(ソクラテス以前の哲学者たちの思索を検討する) ① 古代ギリシアの歴史 ② タレス ③ アナクシマンデロス、アナクシメネス ④ デュオニューソス信仰 ⑤ ピタゴラス ⑥ ヘラクレイトス、パルメニデス ⑦ デモクリトス 2 ポリスの思想家たち(ソクラテス、プラトン、アリストテレスなど) ⑧ ポリスの生活 ⑨ ソクラテス ⑩ プラトン アイデア論 ⑪ プラトン 国家論 ⑫ アリストテレス 世界観 ⑬ アリストテレス 道徳論 ⑭ アリストテレス ポリス論 後期 1 ヘレニズム時代のコスモポリートたち(エピクロス、初期ストア派の思想家たち) ① ヘレニズムの文化と時代 ② 原子論の哲学 エピクロス ③ 自然にしたがって生きる エピクロス ④ ストア派の世界観 ⑤ 自然にしたがって生きる ストア派 ⑥ 判断中止 懐疑論の哲学 ⑦ 新プラトン主義 プロティノス 2 中世の思想(アウグスティヌス、トマス・アクィナスなど) ⑧ 中世の社会と文化 ⑨ 内心の不安 アウグスティヌス ⑩ 神とは アウグスティヌス ⑪ アリストテレス哲学の受容 トマス・アクィナス ⑫ 存在の類比 トマス・アクィナス ⑬ 普遍論争 3 近代の幕開け、ルネサンス ⑭ ルネサンスの歴史的背景 ⑮ ルネサンスの精神
準備学習	授業内容の理解のうえで、あらかじめ明らかな入門書を通して、ある程度イメージをもっておいでほしい。ここでは、小島優子『最新 哲学がよ〜わかる本』(秀和システム、2006年)をあげておく。 テキストの難解な原典抜粋を解説するとき、理解しやすくなるであろう。
履修上の留意点	講義は平明を心がける。ノートをよくとってほしい。ときどき質問用紙を配るので、不明な点について質問を出してほしい。
成績評価の方法	中間テスト(前期の最終授業時)と学年末試験により成績を評価する。試験を80% 出席を20%とする。追試験は実施する。
教科書/テキスト	久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』、公論社、3200円
参考書	

履修コード	209401
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	滝沢 正之
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>《授業概要》 現代哲学における重要な哲学者たちのうちから何人かをとりあげ、本人が書いたテキストの一部を（翻訳ではあるが）実際に読みつつ、その志向の道行きを紹介していく。歴史を振り返れば、人間はよりよい世界を求めて努力してきたと言えるだろう。しかし、我々が生きる現代社会においても、いまだなおさまざまな問題が残っているし、さらにまた、現代ならではの新しい問題さえ生じてきてしまっている。哲学者たちの思考をたどることで、それらの問題を根本にまで立ち戻って考え直すことを試みたい。</p> <p>《到達目標》 現代哲学上の有力な立場について、基本的な知識を得ること。さらに、その立場に基づいて、さまざまな問題について思考する力を身につけること。</p>
授業スケジュール	<p>下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典引用部分を丁寧に読み、解説していく。基本的にドイツ系の哲学が中心となる。スケジュールの予定は以下のとおりである。</p> <p>第一回 イン트로ダクション：現代哲学の流れ 第二回～第五回 現代哲学の出発点（1）：ヘーゲル 第六回～第九回 現代哲学の出発点（2）：ショーペンハウアー 第十回～第十三回 現代哲学の諸展開（1）：マルクス 第十四回～第十七回 現代哲学の諸展開（2）：フランクフルト学派 第十八回～第二十一回 現代哲学の諸展開（3）：ニーチェ 第二十二回～第二十五回 現代哲学の諸展開（4）：キルケゴール 第二十六回～第三十回 総括</p> <p>時間が余れば、受講者からの希望に応じた哲学者を扱うこともしたいと考えている。</p>
準備学習	教科書の該当箇所に前もって目を通しておくことが望ましい。
履修上の留意点	教科書を必ず入手しておくこと。
成績評価の方法	中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する。中間試験はレポートとする予定。期末試験は筆記試験とする。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。
教科書／テキスト	久保陽一、河谷淳編著『原典による哲学の歴史』、公論社、2002年、3,200円。また、授業中に適宜プリントを配布する予定。
参考書	講義中に適宜指示する。

履修コード	343101
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	滝沢 正之

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>《授業概要》 西洋哲学史を古代から中世にかけてを中心に紹介する。時間があれば、続けて近世から現代へと時代順に進んでいく。ただし、書店で手に入る哲学史の入門書のように、哲学者たちの思想をダイジェスト版で紹介することはしない。哲学者本人が書いたテキストそのもの（翻訳ではあるが）を実際に読んでいくことにしたい。もちろんすべてを精読するわけにはいかないので、諸著作の一部を抜き出して検討することになる。本物の哲学者の本物の哲学書から、哲学的な思考とはどのようなものかを実感することを目標とする。それと同時に、はるか昔の頭のよい？人たちがどんな変なことを考えていたのかを楽しんでいきたい。</p> <p>《到達目標》 古代中世西洋哲学史について、基本的な知識を得ること。また、それをつうじて哲学的な思考に親しむこと。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典の引用部分を丁寧に読み、解説していく。適宜プリントで補足を行う。進行は教科書の目次にしたがう。
----------	---

- 第一回 インTRODクシヨン：西洋哲学史を概観する
- 第二回～第四回 ソクラテス以前の哲学（1）
- 第五回～第七回 ソクラテス以前の哲学（2）
- 第八回～第十回 ソクラテス、プラトン、アリストテレス
- 第十一回～第十三回 ヘレニズム期の哲学
- 第十四回～第十六回 教父思想とアラビア哲学
- 第十七回～第十九回 カロリング・ルネサンスと前期スコラ学
- 第二十回～第二十二回 盛期スコラ学
- 第二十三回～第二十五回 後期スコラ学
- 第二十六回～第二十七回 近代への曙光
- 第二十八回～第三十回 全体の総括

準備学習	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	教科書を必ず入手しておくこと。
成績評価の方法	中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する。中間試験はレポートとする予定。期末試験は筆記試験とする。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。
教科書／テキスト	久保陽一、河谷淳編著『原典による哲学の歴史』、公論社、2002年、3,200円。また、授業中に適宜プリントを配布する予定。
参考書	講義中に適宜指示する。

履修コード	209001
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	古田 知章

授業概要/ 到達目標（ねらい）	現代において我々は、様々な場面で西洋的なものに直面し、また、我々自身、知らず知らずのうちには西洋的な人間観・世界観に基づいて判断あるいは行動していることも多い。この我々の日常にも深く係わる西洋的なものは、古代ギリシア以来の伝統のもと多岐にわたる曲折を経て、近代ヨーロッパにおいて現れた人間観・世界観に強く影響を受けている。したがって、西洋的なものの理解のためにも、また、現代に生きる我々の自己理解のためにも、近代ヨーロッパの人間観・世界観がどのような伝統と時代意識のもとに形成され、いかなる形で現代社会へと流れ込んでいるのかを学ぶことは有意義であると考えられる。
--------------------	---

授業スケジュール	教科書を利用し、以下の内容を取り上げる。 【前期】 近代の人間観・世界観の源流 第1回：ガイダンス 第2～4回：哲学における基礎的な問題の整理 -人間と世界について問うこと- 第5～7回：古代ギリシアの思想（1） -哲学的探究の始まり- 第8～10回：古代ギリシアの思想（2） -哲学の基盤の成立- 第11～13回：キリスト教思想と中世の哲学 -思索の新たな展開- 第14～15回：中世から近世への連続と変動 -様々なルネサンス- 【後期】 近世・近代の人間観・世界観 第16回：前期のまとめ 第17～19回：ルネサンスから近世の思想-人間観・世界観の変革- 第20～22回：科学の発展と世界観の変化との関係 -法則的世界と人間- 第23～26回：《コギト（思惟する私）》としての人間存在 -思考の働きの能動性- 第27～30回：現代の存在論 -見えるものを支える見えない枠組み-
----------	---

準備学習	前回の授業ノートの復習と、教科書の当日に扱う内容に対応する部分を読んでおく。
履修上の留意点	
成績評価の方法	二回の定期試験（中間試験、年度末試験、各4割）と平常点（出席状況、夏期レポート、合計で2割）で評価する。
教科書／テキスト	『原典による哲学の歴史』（公論社）
参考書	講義の際にその都度紹介する。

履修コード	358901
科目名	日本語文化基礎
担当者名	萩原 義雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「東アジア漢文文化圏」の東端海上に位置する日本国は、独特な言語文化を生み出してきました。その素養を知る手がかりをこの講義を通じて理を深めていただき、海外の国際文化交流のうへで基礎となる素養を多くの方が育み、この日本文化の手触り・肌触りを実感できる講座となればと考えています。日本の書記文字文化は西欧の音楽文化に通じています。逆に西欧の文字文化は、日本の邦楽文化(仏教聲明・平曲・謡曲)と連動しているといった図式がよく取り沙汰される所以をこの時間で具現できればと思います。
---------------------	---

授業スケジュール	01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続について担当責任者説明—しつらい— 02の講義内容 年中行事・お月見—日本語文化を学ぶ一般基礎資料の蒐集方法とその取り扱い— 03の講義内容 寺子屋に学ぶ—日本語文化を学ぶ字書・辞書・参考専門書の利用とその実際— 04の講義内容 「東アジア漢文文化圏」における現在の学術研究レベルと成果 その研究領域の一般活用と手続き (中国・韓国・北朝鮮・モンゴル・ベトナム・タイ・インドネシアなど) 05の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その1(中国と日本) 06の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その2(朝鮮半島と日本) 07の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その3(モンゴルと日本) 08の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その4(ベトナムと日本) 09の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その5(タイと日本) 10の講義内容 言語文化「東アジア漢文文化圏」その6(インドネシアと日本) 11の講義内容 「西欧言語文化圏」と日本語文化(ドイツ・フランス・スイス・イタリアを中心) 12の講義内容 言語文化「西欧言語文化圏」その1(ギリシャ&トルコと日本) 13の講義内容 言語文化「西欧言語文化圏」その2(イタリアと日本) 14の講義内容 言語文化「西欧言語文化圏」その3(イスラエルと日本) 15の講義内容 日本庭園の文化—世界最古の庭園学書『作庭記』— 16の講義内容 期末課題リポートの提出
----------	--

準備学習	日本語文化のキーワード…「しつらい」「年中行事」「往來物」「寺子屋」「世界地図」「風土」といったことばの重みを学んでおこう。
------	--

履修上の留意点	※情報機器利用の為、許容の人数制限を実施します。出席も、教場IT管理に依拠しています。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう！また、IDチェックを忘れたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。特に、4週連続して理由なき欠席された受講者については、履修名簿から自動的に抹消します。 ※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可とします。
---------	---

成績評価の方法	期末にリポート課題を用意します。これを紙出し&データ記録(ネットへの添付資料)にして、最終締め切り日迄に提出します。 提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。 ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。 また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させていただきますのでご承知願います。
---------	--

教科書/テキスト	随時、講義の前後にて報知します。
----------	------------------

参考書	随時、講義の前後にて報知します。
-----	------------------

その他	“YeStudy”による講義実習活動を実施！ 情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。 (http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/)
-----	--

関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi
-------	---

履修コード	358911
科目名	日本語文化基礎
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、近い将来、社会人になって企業などに就職して働くことを目指す大学生のために、仕事の場で必要とされるコミュニケーション能力と基本的な文書作成における日本語表現を、PCを道具としてわかりやすく学び、「ITC=情報コミュニケーション力」「文書作成力」「表現力」を身につけることを目的としている。
---------------------	--

授業スケジュール	I コミュニケーション 1 自己紹介 2 依頼・質問 3 敬語・電話応対 4 説明・説得 II 社内文書 5 ビジネス文書の形式・報告書 6 連絡書・確認書 7 議事録 8 企画書 9 稟議書・始末書 III 社外文書 10 案内状 11 回答書 12 依頼状 13 詫言状 14 督促状・抗議状 15 理解度確認
----------	--

準備学習	PC操作の基本はタッチタイピング(手元を見ないで打つこと)である。これはPCに最初に触れたときに適切な指導を受けていないと習得できない。本講義ではこれを完全マスターすることを全員に課し、成果に応じて加点するので、できるだけ早くからPC入力練習ソフトで練習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	PC利活用力向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので、常にYeStudyを見る習慣をつけてほしい。
---------	--

成績評価の方法	出席点(20%)、課題点(30%)、KT2000点(30%)、および理解度確認点(20%)の合計
---------	--

教科書/テキスト	『大学生のための社会人入門トレーニング』コミュニケーション編 三省堂 1,900円+税 ISBN978-4-385-36543-5C1081
----------	--

参考書	
-----	--

その他	タッチタイピング(手元を見ないで入力する方法)をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。この授業では、時折実施するタッチタイピングレベル測定結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする/しないは、大きな点差となって顕れる。
-----	---

履修コード	170901
科目名	日本語文化研究I
担当者名	萩原 義雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	音韻・文字・文法・語彙・敬語・文体・言語生活といった分野を常に掘えた形態で、古代から現代までの“ことばの歴史”を現代人の鳥瞰・虫瞰の眼で、しかと見据えていくことを目的としています。そのなかで、現存する紙面である日本語資料の実態についての保管現況の把握が第一義となります。これをどう時代区分し、ことばの特徴づけがなされてきているのかを精確に知りましょう。将来、日本語文化研究として、どのような重要性を有しているのか、どのように発展研究していくのかを受講者お一人おひとりに確実に認識していただきます。
---------------------	--

授業スケジュール	01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続き担当責任者説明 日本文化の未来と古代をつなぐ
	02の講義内容 五十音圖のはなしと音訓について 文字資料(漢字・ひらがな・カタカナ・ローマ字)から日本語学資料へ
	03の講義内容 「いろはうた」と「あめつちのうた」そして「たみにのうた」
	04の講義内容 『伊勢物語』第九段 「東下り」を読む
	05の講義内容 『野馬臺詩』をめぐる説話譚 —『古備大臣入唐絵巻』— PDF版
	06の講義内容 「落書」 PDF版
	07の講義内容 「手紙」失われた文字 PDF版
	08の講義内容 文字の修得と習学 PDF版 かなについて 貴族階級とことば教育 佛教界とことば教育
	09の講義内容 文字の運びと流れ PDF版 カタカナ文献資料について — 『古今和歌集』(旧伏見宮家藏)一〇〇六年寫 — 漢字・カタカナの混淆文を読む その1 PDF版
	10の講義内容 漢字・カタカナの混淆文を読む その1 PDF版
	11の講義内容 漢字・カタカナの混淆文を読む その2 PDF版 — 鈴鹿本『今昔物語集』から古辞書利用へ —
	12の講義内容 連綿連続にみる日本語の抑揚階調表現 PDF版 — 徳川本・五島本『源氏物語繪巻』のかな書き「ひ」文字 — 夏季課題提出(後期講義に向けてその方向性と準備を説明)
	13の講義内容 『作庭記』について PDF版
	14の講義内容 梅沢本『古本説話集』にみる置字踊り字「／＼」 PDF版
	15の講義内容 延慶本『平家物語』について PDF版
	16の講義内容 鴨長明自筆『方丈記』について PDF版
	17の講義内容 細川三斎忠興筆『徒然草』について PDF版
	18の講義内容 『蒙古襲来絵詞』について PDF版
	19の講義内容 『太平記』について PDF版
	20の講義内容 中世藝術論〔謡曲・能・狂言〕の言語文化についてPDF版
	21の講義内容 天草版(キリンタン)資料 PDF版
	22の講義内容 往来物『庭訓往来』について PDF版
	23の講義内容 松尾芭蕉『奥の細道』PDF版
	24の講義内容 『仮名手本忠臣蔵』 PDF版
	25の講義内容 十返舎一九編『東海道中膝栗毛』 PDF版
	26の講義内容 樋口一葉『たけくらべ』—雑誌「文學界」と「文藝倶楽部」所載直筆原稿— 冬季課題の提出

準備学習	手書きの文章に目を向けておこう。活字文字の文章とは異なった自筆原稿の有効性をあなた自身で確かめておきたい。「感じる漢字」があなたの言語文化の歴史意識を引き出していく。
------	---

履修上の留意点	※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう！また、IDチェックを忘れたりした場合は、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。特に、4週連続して理由なき欠席された受講者については、履修名簿から自動的抹消します。 ※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可とします。
---------	---

成績評価の方法	前期と後期それぞれにレポート課題を用意します。これを紙出し&FD(ネットへの添付資料)にして、最終締め切り日に提出します。 提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。 ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。 また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させていきますのでご承知願います。
---------	---

教科書/テキスト	インターネット公開型テキスト「国語史」 [URL http://www.komazawa.-u.ac.jp/~hagi/]
----------	--

参考書	今野真二『日本語の歴史』文献から読み解く【鳥瞰虫瞰】(笠間書院)3,800円(税別) ISBN4-305-70307-6
-----	---

その他	“YeStudy”による講義実習活動を実施！ 情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。 情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。
-----	--

関連リンク	http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
履修コード	215721
科目名	日本語文化研究I
担当者名	湯浅 陽子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Wordは文書を作成するためのアプリケーションソフトであることは周知のとおりである。高校までの情報教育の中で、ある程度のことは経験してきていると思う。「使えますか」と問われれば「ええ…まあ」と誰でもが答えるだろう。しかしながら、Wordを「フルに活用していますか」という問いかけには自信を持って「はい」とは答えられないと思う。今の時代、「ええ…まあ」では済まされないほど、Wordの存在は大きく、上手に使いこなせるかどうかで個人の仕事の進み方や活動全体の生産性が大きく変わってくるほどである。 この授業のねらいは、Wordをある程度使うことができている人を対象に、ビジネス文書やビジュアルな文書、更には論文形式の文書など、さまざまな文書を作成するための機能をマスターすることにより、情報コミュニケーション力(書く力)を更に高めることにある。
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション(授業の進め方、KT2000) 第2～3回 文書の作成と管理 第4～5回 一般的なビジネス文書の作成 第6～7回 記録や報告のためのシンプルな文書の作成 第8～9回 複数の宛先に送付する文書の作成 第10～11回 表で項目や数値を整理した文書の作成 第12～13回 イラストや図形を使ったビジュアルな文書の作成 第14～15回 前期理解度の確認、KT2000 第16～17回 図表やグラフで情報を伝える文書の作成 第18～19回 既存のデータを利用した文書の作成 第20～21回 読みやすいレイアウトの長文の作成 第22～23回 効率のよい長文の作成 第24～25回 長文の編集と加工 第26～27回 共同作業と文書の保護 第28～29回 後期理解度の確認、KT2000 第30回 まとめ
準備学習	たくさん文書作成をし、課題を完成させての提出物が多いので、高いレベルのタッチタイピング(キーボードを見ないで入力する)技能が求められる。第1回目の授業で実施するレベル測定テスト(KT2000)対策として、総合情報センター自習室の一部のPCにインストールされている「Typequick Professional」などでタッチタイピングの猛練習をしておくことよ。
履修上の留意点	受講可能な人数に限りがあるため、希望する全員を受け入れることができない場合がある。その場合には第1回目の授業時に行うKT2000テストのスコアが1000文字以上の中から高い順に、受講許可者が選出され、KOMAnet Gmailに「履修登録可能」メールが届けられる。受講許可を得た者にはその証として第2回目の授業時にYeStudy「登録キー」が与えられる。教務部の履修登録はこの正式ルートを経た人のみ許可されるものとする。
成績評価の方法	授業参加点(10%)、KT2000点(30%)、提出された課題点(30%)、前後期理解度確認平均点(30%)の合計
教科書/テキスト	『情報活用 ワープロ Word-2007 対応』 日経BPソフトプレス 1,200円+税 ISBN978-4-89100-786-7
参考書	
その他	PC利活用力の向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、全てYeStudy上で重要なやり取りを行うので常時見ること。 欠席する場合は、事前に担当者へメール連絡すること : yuasa@komazawa-u.ac.jp

履修コード	360601
科目名	日本語文化研究II
担当者名	萩原 義雄

授業概要/到達目標 (ねらい)
 日本語文化研究における国語資料としての位置づけを皆さんと一緒に精確に探っていく眼を養うことをめざします。本年第4次「グローバル・ジャパン・プログラム」に順って、現代日本漫画の巨匠と云われる手塚治虫全作品集を基本に諸注釈を試みます。「どのような観点からの注釈が必要なのか？」をテーマにこの講義及びフォーラムを進めていきます。

— 現代篇その4 — の概要
 3年前、手塚治虫生誕 80 周年に伴う多くの企画運営の催しが実施されました。これに伴い、手塚の全集を含めての制作アニメーションや漫画作品が世に広く公開されました。このなかで、江戸博物館で催された「手塚治虫作品展示会」、2011年の上野国立博物館「ブツダ展」での自筆原稿などは目を見張るものがありました。
 今回は、全集には未収録であった初期手塚治虫作品について考察をしていくことを第一に試みます。手塚治虫作品に興味有る方々は、私と一緒に取り組んでみようではありませんか。世界が注目する、上記の手塚治虫という日本が生んだ日本語文化の巨匠とその作品を焦点に据えながら、何がその魅力を支えているのか？人々が何をこの先に期待しているのか？「言語注釈学」という観点からこれらを見ていきたいと思います。

授業スケジュール	01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続について担当責任者説明 古典作品資料に於ける「古注釈」研究の領域と現代漫画の接度【PDF版】
	02の講義内容 『冒険狂時代』手塚治虫その人と作品集【PDF版】 手塚治虫の作品—『透明人間』—【PDF版】
	03の講義内容 手塚治虫の作品—『ビビちゃん』—【PDF版】
	04の講義内容 手塚治虫の作品—『ブツダ』—その1導入部【PDF版】
	05の講義内容 手塚治虫の作品—『ブツダ』—その2展開部【PDF版】
	06の講義内容 手塚治虫の作品—『銀河少年』—【PDF版】
	07の講義内容 手塚治虫の作品—『ワンダーくん』—【PDF版】
	08の講義内容 手塚治虫の作品—『ケン1探偵長』—【PDF版】 『ケン1探偵長』のこぼれ語彙分析—エクセル語彙表作成—
	09の講義内容 手塚治虫の作品—『風之進がんばる』—
	10の講義内容 手塚治虫の作品—『怪傑シラノ』—【PDF版】
	11の講義内容 手塚治虫の作品—『サボテン君』—【PDF版】
	12の講義内容 手塚治虫の作品—『サボテン！銃をとれ』別冊—【PDF版】
	13の講義内容 手塚治虫の作品—『旋風Z・ハリケーンZ』—【PDF版】
	14の講義内容 手塚治虫の作品—『ナスビ女王』—【PDF版】
	15の講義内容 手塚治虫の作品—『鉄腕アトム』電光人間の巻—【PDF版】
	16の講義内容 手塚治虫の作品—『鉄腕アトム』アトム赤道を行くの巻—【PDF版】
	17の講義内容 手塚治虫の作品—『少年』版「アトム」について—
	18の講義内容 手塚治虫の作品—その9『ネオ・ファウスト』—【PDF版】
	19の講義内容 手塚治虫作品集—その10『地球を呑む』1・2—【SWF版】
	20の講義内容 手塚治虫の作品—『リボンの騎士』—【PDF版】
	21の講義内容 手塚治虫作品集—『魔法屋敷』—【PDF版】
	22の講義内容 手塚治虫作品集—『罪と罰』—【PDF版】
	23の講義内容 手塚治虫作品集—『陽だまりの樹』—【PDF版】
	24の講義内容 手塚治虫作品集—『ブラック・ジャック』—【PDF版】
	25の講義内容 手塚治虫作品集—『MW』—【PDF版】
	26の講義内容 手塚治虫作品集—『火の鳥』—【PDF版】
	27の講義内容 手塚治虫作品集—『極めつき—〇〇〇ページ』—【PDF版】
	28の講義内容 手塚治虫作品集—『ザ・クレーター』—【PDF版】
	29の講義内容 手塚治虫作品集—『メトロポリス』—【PDF版】
	30の講義内容 資料公開とその注釈語の分析結果報告

準備学習
 「講義の事前事後の取り組み」→「駒澤大学 e-Education : YeStudy」をご利用願います。ここに、関連する事柄を学習する場を用意しました。取り組み取り組まないは貴方自身が決めることです。決めたらにはとことんやり抜く強い意志を持ちましょう。覚えるのではなく身につけていくことこそ言語文化修得の王道です。この掲載資料に関する質疑応答は確実に行っていきます。是非ご参加ください。そして、参加される方は必ず受信送信の確実なご自分の携帯メールを登録しておきましょう。夏休み・春休み学校の登録アドレスだけでは見落とししたり、早急な取り組みがしにくいことが現実としてあります。

履修上の留意点
 ※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう！また、IDチェックを忘れたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。
 ※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可とします。

成績評価の方法
 月毎に注釈書掲載のこぼれ語から説明語彙を選択し、上記項目を常にふまえた上で、報告書を提出し発表してもらいます。個人が年間分析する上記報告書における私からの質問を受けて、各自それぞれ提出してもらいます。解答の数を最低20としてこの一問一答ずつの提出物を高く評価していきます。
 提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。
 ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。
 また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させて行きますのでご承知願います。

ます。

教科書／テキスト	URL http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi を使用する。
参考書	手塚治虫全作品集
その他	“YeStudy”による講義実習活動を実施！情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。 情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。
関連リンク	http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	360701
科目名	日本語文化研究II
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Excelは、主に表計算を行うためのアプリケーションソフトである。Wordと比べExcelはあまり使う場面无く、使い方を知らないまま社会に出ることが多い。しかしながら、ビジネス文書の中にはExcelの特性を生かして作成されているものが意外に多いことに気づくだろう。学生のうちにもっとExcelを使い慣れておくことが肝要である。 この授業のねらいは、Excel初心者を対象に、Excelを使うことによって何ができるのかを系統立てて学び、情報コミュニケーション力を更に高めることにある。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション (授業の進め方、KT2000) 第2～3回 表作成の基本操作 第4～5回 表を見やすく使いやすくする編集操作 第6～7回 数式・関数を活用した集計表の作成 第8～9回 表示形式や関数を活用した表の作成 第10～11回 定型の表を作成する操作 第12～13回 グラフの基本 第14～15回 前期理解度の確認、KT2000 第16～17回 目的に応じたグラフの作成と編集 第18～19回 データベース機能の利用 第20～21回 データの抽出 第22～23回 条件を指定した集計・分析 第24～25回 ワークシート間の集計 第26～30回 集計作業の自動化 第28～29回 後期理解度の確認、KT2000 第30回 まとめ
----------	---

準備学習	たくさんの文書作成をし、課題を完成させての提出物が多いので、高いレベルのタッチタイピング(キーボードを見ないで入力する)技能が求められる。第1回目の授業で実施するレベル測定テスト(KT2000)対策として、総合情報センター自習室の一部のPCにインストールされている「Typequick Professional」などでタッチタイピングの猛練習をしておくとい。
------	---

履修上の留意点	教務部のネット履修登録は第1回目の授業後に許可された人のみ可能である。したがって、予め登録してあっても許可が得られなければ、所定の期間内に「取消」が必要となる。
---------	--

成績評価の方法	授業参加点(10%)、KT2000点(30%)、提出された課題点(30%)および前後期の理解度確認平均点(30%)の合計
---------	--

教科書／テキスト	『情報利活用 表計算 Excel-2007対応』 日経BPソフトプレス 1,200円＋税 ISBN978-4-89100-781-2
----------	--

参考書

その他	PC利活用力の向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので常にYeStudyを見ること。 授業を欠席する場合は、事前に担当者へメール連絡すること： yuasa@komazawa-u.ac.jp
-----	--

履修コード	358401
科目名	日本文化基礎
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宮澤賢治の童話を精読する。賢治作品はこれまで、そこに溢れるイメージの絢爛さが、言葉だけの世界におけるデザインの卓抜さということに囲い込まれ、消費されるという不幸にしばしばみまわれてきた経緯があり、それゆえに賢治を遊民と錯視する見解も生まれてきた。しかし、その詩においても童話においても、注意深くそれらを読むならば、賢治の比類なき想像力の飛翔によって夢見られたイメージや虚構は、その飛翔に相当した深い喪失感と内省を生み出していることに気づくはずである。そこに表現者としての賢治の修羅があるのであり、ムードに流された生半可な鑑賞などはねつけてくるのである。
---------------------	--

授業スケジュール	上記の賢治作品の実相を、生前発表作品である『シグナルとシグナレス』、『水河鼠の毛皮』およびその生前に唯一出版された童話集『注文の多い料理店』所収の作品などにみていく予定。 (1~3) 宮澤賢治の軌跡 (4~6) 『シグナルとシグナレス』の分析と読解 (7~9) 『水河鼠の毛皮』の分析と読解 (10~12) 『どんぐりと山猫』の分析と読解 (13~15) 『水仙月の四日』の分析と読解
----------	---

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席のこと。
------	--

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きいなる迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	宮澤賢治『宮澤賢治全集第8巻』(ちくま文庫)1,000円 その他、適宜プリントも配布する。
----------	--

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	358101
科目名	日本文化基礎
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本文化を伝統的な日本人の美的精神・美意識というものから考察する。即ち、日本人はかつてどのようなことに感動し、またその感動をどのように表現してきたかを考える。各時代の古典文学の作品に表された美的感動表現を概観して、その歴史的展開を考察する。 (到達目標) 美的感動表現やその理念は、時代や社会の環境に応じて隆替の相を示しているが、決して過去のものとしてもはや消滅したものではない。日本文化の諸相に対する関心を深める機会となれば幸いである。
---------------------	---

授業スケジュール	1、ガイダンス・日本文学のジャンル発生 2~4、古代前期の文学とその美意識 5~8、古代後期の文学とその美意識 9~11、中世の文学とその美意識 12~15、近世の文学とその美意識。
----------	---

準備学習	半期の授業の限られた時間の中で古典文学に見る美的精神について網羅的に概観することは難しいので、美意識成立の背景となるそれぞれの時代の歴史を事前に確認していただければ幸いです。
------	---

履修上の留意点	日本文学における美的精神を理解する上では、それぞれの時代背景の理解が大切であり、また古典文学史の理解が必要です。高校で使用した文学史のテキストなどを目にしてほしい。
---------	--

成績評価の方法	最終日に提出してもらってレポート評価 (80%) に平常点 (20%) を加えて評価する。
---------	---

教科書/テキスト	必要に応じて適宜プリントを配布する。
----------	--------------------

参考書	授業内で紹介する。
-----	-----------

履修コード	358001
科目名	日本文化基礎
担当者名	鈴木 裕子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) テーマ：日本の神話・伝説を読む 明治維新以降に為された所謂「神話教育」によって、日本の神話が歪んだ「民族意識」の形成に利用されたことを理解した上で、「物語」として読む楽しさを味わえるようにしたい。講義では古文(原文)を読むが、現代語訳を用意する。 (到達目標) この講義の到達目標は、日本の神話・伝説についての基礎知識を持つこと。神話・伝説を「物語」として読む楽しさを味わいつつ、批判的精神をもって読み解くこと。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~2) ガイダンス、神話・伝説とは何か (3~8) 『古事記』の神話……神々の誕生、出雲神話、天つ神の御子たち (9~12) 『古事記』神話の世界構造 (13~14) 『風土記』の伝説 (15) 総括
----------	--

準備学習	予め配布するプリントに目を通しておくとい。
------	-----------------------

履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、毎回コメントの提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
---------	--

成績評価の方法	期末に課するレポート(日時・論題等は授業時に提示)60%、平常点(出席状況と毎回のコメントの内容)40%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する(平常点を0点とすることもある)。
---------	--

教科書/テキスト	プリント教材。
----------	---------

参考書	授業中に必要に応じて指示する。
-----	-----------------

履修コード	357901
科目名	日本文化基礎
担当者名	蘭部 幹生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	真の国際人とは自国の文化をしっかりと認識している人物である。これからの国際社会を生き抜いていくためには、自国についての認識と意見を持ち、それを表現できる必要がある。本講座は、そうした文化の認識に関する導入的講座である。したがって、単に知識を得るのではなく、文化的事象をどのように自分の中で体系化して認識し、そこから何を考えるかを問題にしたい。日本文化の諸相を理解して、自分なりの考えを持てたり、自分の言葉で説明できたりすることを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	1ガイダンス。 2婚姻史。 3婉曲表現の文化。 4自己認識の文化。 5食文化。 6服飾文化。 7住まいの文化。 8宗教文化。 9スポーツ文化。 10原宿文化。 11ゲーム文化。 12自然との共生の文化。 13教場テスト。 14伝承文芸。 15まとめ。
----------	---

準備学習	文化的事象は日常生活の中にあふれている。それらを意識して見つめなおすことによって、文化に対する理解は著しく向上する。書物等によるのではなく、毎時間の意見文に反映できそうな事象を自分の目で探そうとする姿勢を継続することを期待する。
------	--

履修上の留意点	毎時間の最後に、その日の講義内容に関する意見文の提出を求めするので、必ず原稿用紙を持参すること。
---------	--

成績評価の方法	出席点30点、意見文30点、教場テスト40点の割合で評価する(試験は、ノート・参考書等の持込可)。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達(該当者・テーマ・提出期限等)を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
---------	--

教科書/テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
----------	------------------

参考書	必要に応じてそのつど紹介する。
-----	-----------------

履修コード	358201
科目名	日本文化基礎
担当者名	藺部 幹生
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>真の国際人とは自国の文化をしっかりと認識している人物である。これからの国際社会を生き抜いていくためには、自国についての認識と意見を持ち、それを表現できる必要がある。本講座は、そうした文化の認識に関する導入的講座である。したがって、単に知識を得るのではなく、文化的事象をどのように自分の中で体系化して認識し、そこから何を考えるかを問題にしたい。日本文化の諸相を理解して、自分なりの考えを持てたり、自分の言葉で説明できたりすることを目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>1ガイダンス。 2婚姻史。 3婉曲表現の文化。 4自己認識の文化。 5食文化。 6服飾文化。 7住まいの文化。 8宗教文化。 9スポーツ文化。 10原宿文化。 11ゲーム文化。 12自然との共生の文化。 13教場テスト。 14伝承文芸。 15まとめ。</p>
準備学習	<p>文化的事象は日常生活の中にあふれている。それらを意識して見つめなおすことによって、文化に対する理解は著しく向上する。書物等によるのではなく、毎時間の意見文に反映できそうな事象を自分の目で探そうとする姿勢を持ち続けることを期待する。</p>
履修上の留意点	<p>毎時間の最後に、その日の講義内容に関する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。</p>
成績評価の方法	<p>出席点30点、意見文30点、教場テスト40点の割合で評価する（試験は、ノート・参考書等の持込可）。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達（該当者・テーマ・提出期限等）を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。</p>
教科書／テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考書	<p>必要があればそのつど紹介する。</p>

履修コード	358501
科目名	日本文化基礎
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 講義タイトルは「流行歌の近代史～J-POPへの道程」。明治維新から現代までの流行歌を通して、①世相風俗とメディア史を中心とした日本近現代史、②伝統音楽・西洋音楽・ジャズの3要素の交錯と融合という観点から見た近現代音楽史、③西洋音楽に日本語をのせる歌詞の問題、の3つを並行して考える。</p> <p>(到達目標) 歌は本来、それぞれの言語に固有な音感とリズムに基づいて生まれる。しかし明治の唱歌教育以降、日本人は、西洋の音楽に西洋の言語とは異質の響きを持つ日本語をあてはめて歌ってきた。伝統音楽・西洋音楽・ジャズのそれぞれについて、楽理をきちんと把握した上で、日本人にとつての歌が、どのような経緯で現在のようになつたのか分析できるようになることを目標とする。またよく知られた英語の歌に、日本語の歌詞をつける課題を出し、最後に定期試験で提出していただく。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本の楽理 3. 日本の伝統音楽 4. 西洋音楽の受容 5. 唱歌と童謡 6. 流行歌の誕生 7. ジャズの登場 8. 日本語で歌うということ 9. 戦後の流行歌 10. ビートルズとその時代 11. 歌謡曲の行方 12. フォークソングからニューミュージックへ 13. ROCKする歌詞に向かって 14. J-POPへの道程 15. まとめ
----------	---

準備学習	音楽に関しては、中学校の音楽の授業で学ぶ程度の基礎知識と楽譜の理解力が必要となる。また日本の近代史についても、高校で履修する程度の知識はあるものとして話を進めるので、自信がない場合は、高校の教科書等で復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	授業時間の約半分は、数名ずつのグループを編成し、各自の音楽体験に基づく感じ方の違いなどを比較する意見交換をした上で、自らの考えを深める「ワークショップ形式」で進める。教場で講義を聴いているだけの授業ではない。自分の考えを述べ、他の意見と比較し、グループでの作業に積極的に参加する姿勢がなければ履修は難しい。また2/3以上の出席がなければ単位を取得できない。遅刻の場合は出席と認めない。
---------	--

成績評価の方法	定期試験期間中に筆記試験を行う。定期試験の点数を60%、授業での提出物による評価を40%として採点する。
---------	--

教科書／テキスト	指定しない。授業でプリントを配布し、配布したプリントは定期試験に持ち込み可とする。
----------	---

参考書	佐藤良明『J-pop進化論』平凡社新書(税別690円) ISBN 978-4582850086。ただし古書でなければ入手が難しいので、必要な部分はプリントして配布する。
-----	--

履修コード	358301
科目名	日本文化基礎
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義は、口頭発表のためのプレゼンテーション資料の作成を通じてPC表現力を養い、受講生各自がテーマで扱う日本文化に関する基礎的な情報を共有し、共に今後活かすことを目的としている。</p> <p>具体的には、授業は次のような展開になる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 視覚情報 (ビジュアル) プレゼンテーションの習得を図るため、PowerPointの効果的なプレゼン資料の作成技法を学ぶ。 2) プレゼンのテーマを「私の日本文化」とし、Webや図書館等を利用して情報収集を行う。 3) 学んだPowerPointの技法を取り入れ、日本文化に関するプレゼン資料としてまとめたものを使用して口頭発表をする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1~2) タッチタイピングの重要性 (TQ・KT2000について) 3~4) プレゼンテーションの企画・設計、「日本文化」に関する情報探索/収集開始 5~6) プレゼンテーション資料作成のためのノウハウ実習 センスアップするレイアウトデザイン/視覚に訴えるチャート化 訴求力を上げるカラー化/数値をアピールする表・グラフ活用 イメージを伝えるイラスト・写真活用 7~8) プレゼンテーション準備・実施に関する注意事項 発表で魅せるアニメーション/自信を高める万全な準備 メッセージが伝わる発表スキル/信頼を得る質疑応答 9~10) プレゼン資料「日本の文化について」完成 11~13) プレゼン発表会 14~15) 理解度確認、まとめ
----------	--

準備学習	タッチタイピング【キーボードを見ないで入力】(目標1500字/10分) 練習をしておくこと。
------	--

履修上の留意点	<p>当科目は、もし自分が外国に行ってホームステイ先で「日本文化」について説明するとしたら何を紹介するか…というシチュエーションを意識して展開する授業である。受講希望者は、早い時期からNHKの語学番組「トラッドジャパン」や「にっぽんの芸能」「COOL JAPAN 発掘! かつこいいニッポン」、テレビ大阪の「和風総本家」などTVで取り上げている「日本文化」に関する番組や書籍などを通して、モチベーションを高めておいてほしい。</p>
---------	--

成績評価の方法	出席点 (10%)、KT2000点 (30%)、課題点 (30%)、発表点 (30%) の合計
---------	---

教科書/テキスト	『情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint-2007対応』日経BPソフトプレス 1,200円+税 ISBN978-4-89100-787-4
----------	--

参考書	
-----	--

その他	<p>PC利活用力の向上を図るため、YeStudyを利用して授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので常にYeStudyを見ること。</p> <p>また、タッチタイピング(手元を見ないで入力する方法)をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。この授業では、タッチタイピングレベル測定結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする/しないは、大きな点差となって顕れる。</p>
-----	---

履修コード	358601
科目名	日本文化基礎
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義は、口頭発表のためのプレゼンテーション資料の作成を通じてPC表現力を養い、受講生各自がテーマで扱う日本文化に関する基礎的な情報を共有し、共に今後活かすことを目的としている。</p> <p>具体的には、授業は次のような展開になる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 視覚情報 (ビジュアル) プレゼンテーションの習得を図るため、PowerPointの効果的なプレゼン資料の作成技法を学ぶ。 2) プレゼンのテーマを「私の日本文化」としWebや図書館等を利用して情報収集を行う。 3) 学んだPowerPointの技法を取り入れ、日本文化に関するプレゼン資料としてまとめたものを使用して口頭発表をする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1~2) タッチタイピングの重要性 (TQ・KT2000について) 3~4) プレゼンテーションの企画・設計、「日本文化」に関する情報探索/収集開始 5~6) プレゼンテーション資料作成のためのノウハウ実習 センスアップするレイアウトデザイン/視覚に訴えるチャート化 訴求力を上げるカラー化/数値をアピールする表・グラフ活用 イメージを伝えるイラスト・写真活用 7~8) プレゼンテーション準備・実施に関する注意事項 発表で魅せるアニメーション/自信を高める万全な準備 メッセージが伝わる発表スキル/信頼を得る質疑応答 9~10) プレゼン資料「私の日本の文化」完成 11~13) プレゼン発表会 14~15) 到達度確認、まとめ
----------	---

準備学習	タッチタイピング【キーボードを見ないで入力】(目標1200字/10分) 練習をしておくこと。
履修上の留意点	<p>当科目は、もし自分が外国に行ってホームステイ先で「日本文化」について説明するとしたら何を紹介するか…というシチュエーションを意識して展開する授業である。受講希望者は、早い時期からNHKの語学番組「トラッドジャパン」や「にっぽんの芸能」「COOL JAPAN 発掘! かつこいいニッポン」、テレビ大阪の「和風総本家」などTVで取り上げている「日本文化」に関する番組や書籍などを通して、モチベーションを高めておいてほしい。</p>

成績評価の方法	出席点 (10%)、KT2000点 (30%)、課題点 (30%)、発表点 (30%) の合計
教科書/テキスト	『情報利活用 プレゼンテーション PowerPoint2007対応』 日経BPソフトプレス 1,200円+税 ISBN978-4-89100-787-4

参考書	
その他	

PC利活用の向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので常にYeStudyを見ること。

また、タッチタイピング(手元を見ないで入力する方法)をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。

この授業では、タッチタイピングレベル測定結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする/しないは、大きな点差となって顕れる。

履修コード	169701
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 平安末期から鎌倉時代にかけて生きた一女性の和歌集をもとに、当時の女性の人生観である「契り(＝前世からの約束事)」という認識を考察してもらう。平家全盛の時代、平清盛の娘建礼門院徳子に仕えた「右京大夫」と呼ばれた女房の個人歌集を通して、作品中に語られた二人の男性との恋愛交渉を中心に、作品を講読する。</p> <p>(到達目標) 平安時代の一夫多妻の不安定な女性の生き方を通して、「契り」という宿命観を考察してもらう。一般に平安期の女性の「契り」の認識は一種の諦観たる宿世観(前世からの因縁)と受け止めることが出来るが、作者の場合単に宿世観にとどまらない、自らの意志としての選択された「契り」の認識が示されているといえよう。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1～2、女性の手になる自照文学の流れを概観し、女性の自己観照のあり方を考察 3～5、作者の関歴や周辺人物の紹介 6～15、高倉天皇中宮徳子の宮廷での女房生活や、平資盛との出会いと交渉 16～20、似絵(肖像画)の名手で歌人の藤原隆信との稔らぬ恋 21～25、資盛との愛の再燃、平家一門都落ち・西海流浪の果ての壇の浦で入水死 26～28、大原に徳子を訪問、後に後鳥羽天皇の宮廷に再出仕する後半生 29～30、「契り」の認識</p>
----------	---

準備学習	通年で作品の内容を紹介するために古文読解をしてゆくので、授業の事前・事後いずれかにおいて、注釈書により口語訳を目にするなど作品内容の確認をしてほしい。
------	---

履修上の留意点	生涯結婚することなく平資盛の菩提を弔う生活を選択した作者の、「契り(＝前世からの約束事)」という宿命に殉じて行く生き方を通して、この時代の女性の人生観を考察してほしい。なお、日本古典文学の作品を読解する授業であるので、古文の授業に関心のある諸君の積極的な受講を期待する。
---------	---

成績評価の方法	授業の最終日に提出してもらうレポートの評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象にする。
---------	--

教科書/テキスト	本位田重美編『校注建礼門院右京大夫集』(武蔵野書院)735円
参考書	授業時に適宜紹介する。

履修コード	171101
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 平安末期から鎌倉時代にかけて生きた一女性の和歌集をもとに、当時の女性の人生観である「契り(＝前世からの約束事)」という認識を考察してもらう。平家全盛の時代、平清盛の娘建礼門院徳子に仕えた「右京大夫」と呼ばれた女房の個人歌集を通して、作品中に語られた二人の男性との恋愛交渉を中心に、作品を講読する。</p> <p>(到達目標) 平安時代の一夫多妻の不安定な女性の生き方を通して、「契り」という宿命観を考察してもらう。一般に平安期の女性の「契り」の認識は一種の諦観たる宿世観(前世からの因縁)と受け止めることが出来るが、作者の場合単に宿世観にとどまらない、自らの意志としての選択された「契り」の認識が示されているといえよう。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1～2、女性の手になる自照文学の流れを概観し、女性の自己観照のあり方を考察 3～5、作者の関歴や周辺人物の紹介 6～15、高倉天皇中宮徳子の宮廷での女房生活や、平資盛との出会いと交渉 16～20、似絵(肖像画)の名手で歌人の藤原隆信との稔らぬ恋 21～25、資盛との愛の再燃、平家一門都落ち・西海流浪の果ての壇の浦で入水死 26～28、大原に徳子を訪問、後に後鳥羽天皇の宮廷に再出仕する後半生 29～30、「契り」の認識</p>
----------	---

準備学習	通年で作品の内容を紹介するために古文読解をしてゆくので、授業の事前・事後いずれかにおいて、注釈書により口語訳を目にするなど作品内容の確認をしてほしい。
------	---

履修上の留意点	生涯結婚することなく平資盛の菩提を弔う生活を選択した作者の、「契り(＝前世からの約束事)」という宿命に殉じて行く生き方を通して、この時代の女性の人生観を考察してほしい。なお、日本古典文学の作品を読解する授業であるので、古文の授業に関心のある諸君の積極的な受講を期待する。
---------	---

成績評価の方法	授業の最終日に提出してもらうレポートの評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象にする。
---------	--

教科書/テキスト	本位田重美編『校注建礼門院右京大夫集』(武蔵野書院)735円
参考書	授業時に適宜紹介する。

履修コード	171201
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	鈴木 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) テーマ：歌物語を楽しむ 代表的な歌物語である『伊勢物語』と『大和物語』を読む。『伊勢物語絵巻』など絵画資料についても触れ、古典作品がどのように享受されてきたかを理解する。 (到達目標) この講義の到達目標は、日本の歌物語の本質について理解すること。代表的な古典文学に触れて、日本文化の伝統と創造について理解を深めること。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (『伊勢物語』について) (2~3) 「一代記」の始まり・伊勢初段 (4~6) 伊勢2、3、76段と大和161段 (7~11) 伊勢4、5段、123段と大和157、158段、伊勢23段と大和149段 (12~14) 伊勢6段・12段と大和155段 (15) 前期総括 (16~19) 伊勢24段と大和148段、伊勢60、62段 (20~21) 伊勢63段と大和156段 (22~24) 伊勢40段と大和64段 (25~27) 伊勢65段、69段と源氏物語 (28~29) 業平の終焉・伊勢124、125段と大和165段 (30) 総括
準備学習	授業では古文(原文)を読むが、予習用に現代語訳等のプリントを用意するので、予め目を通しておくこと。
履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、毎回コメントの提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
成績評価の方法	前期末および後期末に課するレポート(論題等は授業時に提示)80%、平常点(出席状況と毎回のコメントの内容)20%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する(平常点を0点とすることもある)。
教科書/テキスト	徳原茂実・青木賜鶴子編『王朝歌物語選』(和泉書院) ISBN 4-87088-588-3 C3095、その他プリント教材。
参考書	授業中に必要に応じて指示する。

履修コード	172001
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	藺部 幹生
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	伝承文芸は上代から近世まで、あらゆるジャンルの文芸と関わって、大きな意味を持っていた。その伝承文芸を代表する説話文学のなかから、特に有名な作品の一つである『宇治拾遺物語』をとりあげる。説話集は、伝承された話を編纂したものであるから、同じ話や類似した話が、他のさまざまな作品にも載せられているので、そうした作品も合わせ読むことになる。『宇治拾遺物語』は長く編者未詳の作品として扱われてきたが、その謎を解き明かしてみたい。合わせて、説話の本質を考え、また、『宇治拾遺物語』の秘められた特質も浮き彫りにしてみたい。それらの考察を通して、日本文化の一端を掘り下げて理解することを目標とする。
授業スケジュール	1 ガイダンス。 2 説話とは。 3・4 説話文学史。 5 序文講読。 6~15 宇治拾遺物語の特徴と問題。 16~23 編者論。 24~28 作品論。 29 教場テスト。 30 まとめ。
準備学習	前期は予告された説話をあらかじめ読んでから授業に臨むようにすると理解しやすい。後期の内容は毎週の関連が深くなるので、前週までの内容の復習をしっかりとしたうえで授業に臨むようにすること。
履修上の留意点	毎時間の最後に、その時間の講義内容に対する意見文を書いて提出するので、必ず原稿用紙を持参すること。
成績評価の方法	毎時間提出する意見文で50点分を評価し、授業時間内に50点満点の教場テストを行なう(教場テストには、ノート・テキスト・辞書・参考書など、何でも持ち込み参照可)。また、最後の授業時間内に、追・再試験に相当するレポートについての連絡を行なうので、必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
教科書/テキスト	中島悦次校注『宇治拾遺物語』角川文庫。(ただし、宇治拾遺物語の全文が載っているものであれば、これ以外でも可)
参考書	『駒澤国文』26号。その他は必要に応じてそのつど紹介する。

履修コード	170201
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代文学の作家と映画の関わりは、その作家及び作品の方向性を決定してしまうほど深いケースが多くなっていると言えるだろう。その関わり方は、大きく分けて二種類あると思われる。一つは、作家が観た映画に触発された、あるいは影響を受けた場合であり、もう一つは作家が実際に監督として映画を作った、もしくは脚本などを担当して映画作りに参加した場合である。これまで、映画と文学というテーマが掲げられると、前者の関わりから語られることが多かったが、ここでは具体的に後者の場合を安部公房について取り上げ、どのように関わっているか考えてみたい。また、前者についても、ネオリアリズム、シュールリアリズムなどの視点から取り上げる。
---------------------	---

授業スケジュール	代表作『砂の女』など昭和30年代から40年代にかけて先駆的に自作の映画化に数多く関わった安部公房について順次みていく予定である。 (1~3) 安部公房・作家活動の軌跡 (4~6) 安部公房の映画製作について (7~9) ネオリアリズムとの関わり (10~12) シュールリアリズムとの関わり (13~15) 映画『おとし穴』について (16~18) 映画『砂の女』について (19~21) 映画『他人の顔』について (22~24) SF的方法と小説『第四間水期』について (25~26) SFの歴史 (27~30) SF文学と映画の比較
----------	---

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席のこと。
------	--

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きい迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	安部公房『他人の顔』(新潮文庫) 476円 その他、適宜プリントを配布する。
----------	---

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	175501
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代文学の作家と映画の関わりは、その作家及び作品の方向性を決定してしまうほど深いケースが多くなっていると言えるだろう。その関わり方は、大きく分けて二種類あると思われる。一つは、作家が観た映画に触発された、あるいは影響を受けた場合であり、もう一つは作家が実際に監督として映画を作った、もしくは脚本などを担当して映画作りに参加した場合である。これまで、映画と文学というテーマが掲げられると、前者の関わりから語られることが多かったが、ここでは具体的に後者の場合を安部公房について取り上げ、どのように関わっているか考えてみたい。また、前者についても、ネオリアリズム、シュールリアリズムなどの視点から取り上げる。
---------------------	---

授業スケジュール	代表作『砂の女』など昭和30年代から40年代にかけて先駆的に自作の映画化に数多く関わった安部公房について順次みていく予定である。 (1~3) 安部公房・作家活動の軌跡 (4~6) 安部公房の映画製作について (7~9) ネオリアリズムとの関わり (10~12) シュールリアリズムとの関わり (13~15) 映画『おとし穴』について (16~18) 映画『砂の女』について (19~21) 映画『他人の顔』について (22~24) SF的方法と小説『第四間水期』について (25~26) SFの歴史 (27~30) SF文学と映画の比較
----------	---

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席のこと。
------	--

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きい迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	安部公房『他人の顔』(新潮文庫) 476円 その他、適宜プリントを配布する。
----------	---

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	215731
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ「日本の絵本文化入門」 日本の絵本文化を取り巻く現状は複雑です。子どもの活字離れはつねに問題とされていますが、その一方で、「ぐりとぐらシリーズ」はじめ、不動の人気をほころぶ絵本も存在しています。また、「読みきかせ」がコミュニケーションの一手段として注目されるなど、現在、絵本を「読む」という行為は多様化しています。講義では、「現在」を意識しながら歴史をふりかえり、日本社会における絵本文化の位置を考えていきます。 到達目標は、日本の絵本文化の特徴を分析し、それを言語化できるようになることです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	日本の絵本文化について、具体的に作品を分析しながら学び、個々の作品の意義を考えていきます。
----------	---

- (1) オリエンテーション
- (2) 日本における絵本文化の特徴 その1 (「岩波の子どもの本」ほか)
- (3) 日本における絵本文化の特徴 その2
- (4) 日本における絵本文化の特徴 その3
- (5) 日本における絵本文化の特徴 その4
- (6) 日本における絵本文化の歴史 その1 (こぐま社ほか)
- (7) 日本における絵本文化の歴史 その2
- (8) 日本における絵本文化の歴史 その3
- (9) 日本における絵本文化の歴史 その4
- (10) 物質としての絵本の特徴 その1 (『はらぺこあおむし』ほか)
- (11) 物質としての絵本の特徴 その2
- (12) 物質としての絵本の特徴 その3
- (13) 物質としての絵本の特徴 その4
- (14) 物質としての絵本の特徴 その5
- (15) 絵本の分類について考える その1 (『かさ』ほか)
- (16) 絵本の分類について考える その2
- (17) 絵本の分類について考える その3
- (18) 絵本の分類について考える その4
- (19) 絵本の分類について考える その5
- (20) 専門出版社の役割について考える その1 (福音館書店ほか)
- (21) 専門出版社の役割について考える その2
- (22) 専門出版社の役割について考える その3
- (23) 専門出版社の役割について考える その4
- (24) 専門出版社の役割について考える その5
- (25) 絵本の「命運」について考える その1 (日本語訳の功罪ほか)
- (26) 絵本の「命運」について考える その2
- (27) 絵本の「命運」について考える その3
- (28) 絵本の「命運」について考える その4
- (29) 絵本の「命運」について考える その5
- (30) まとめ

なお、履修者の教や志向によって、内容(時事問題なども授業に取り入れるため)やスケジュールを調整する可能性があります。その際は、授業時間内に連絡をします。

準備学習	課題作成のためのメモ作りや絵本の選択などに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします。
------	--

履修上の留意点	前期末課題及び学年末課題のほか、授業内課題をおこないます。授業内課題の分量は、通年で8000字程度(400字づつめ原稿用紙換算、20枚程度、手書き)になります。継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。また、担当者の一方的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。
---------	--

成績評価の方法	適宜、授業中に課題をおこないます。A: 授業への参加度・授業内課題(50%)、B: 前期末のレポート(25%)、C: 学年末の教場試験(25%)を合わせて、総合的に評価をします。
---------	---

教科書/テキスト	指定なし。適宜プリントを配布します。
----------	--------------------

参考書	鳥越信編『はじめて学ぶ日本児童文学史』(ミネルヴァ書房 2001年) 鳥越信編『はじめて学ぶ日本の絵本史 1~3』(ミネルヴァ書房 2002年) このほか、授業中にも指示します。
-----	---

その他	「日本文化研究ⅠB」と「日本文化研究ⅡB」では、それぞれ異なる作品・題材を取りあげます。「日本文化研究ⅠB」を履修せずに、「日本文化研究ⅡB」だけを履修しても問題ありません。ただし、「日本文化研究ⅠB」を先に履修した方が、知識や理解が深まります。
-----	---

履修コード	215711
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要)</p> <p>日本の伝統芸能についての理解を深め、その上で近代の芸能や現代演劇についても考察する。日本では古代・中世・近世に起源をもつ芸能が、現在でも引き続き行われている。できる限り映像資料を用いてそれらの芸能に触れながら、現代に至るまでの日本演劇史を概観する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>ジャンルを越えた発想から、始原から現代に至るまでの日本の芸能の全体像を理解し、さらに西洋演劇との比較の視点から、文化事象に対する見識を広げることを目指す。単なる知識として芸能史を理解するのではなく、芸能とは何か、現代社会において芸能はどのような意味を持つのか、といった根本的な問いに対して、受講者がそれぞれ考えを持つことができるようになることを目指している。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 芸能とは何かー娯楽と芸術 3. 芸能の起源譚 4. 神事と芸能 5. 舞楽と雅楽 6. 民俗芸能の世界 7. 岩手県早池峰山山伏神楽 8. 相撲の歴史 9. 散楽・猿楽と能の成立 10. 世阿弥「風姿花伝」を読む 11. 異界との交流 12. 狂言の世界 13. 歌舞伎の成立 14. 「義経千本桜」を見る 15. 「勧進帳」を見る 16. 人形浄瑠璃の世界 17. 忠臣蔵とは何か 18. 歌舞伎と文楽の忠臣蔵 19. 放浪の芸能 20. 大道芸と見世物 21. ものを売る芸能 22. 近代と芸能 23. 比較演劇の視点 24. ゴーリキー「どん底」と歌舞伎「三人吉三」 25. 資本と芸能ーレビューと宝塚 26. 歌舞伎俳優祭「仏国宮殿薔薇譚」を見る 27. 現代演劇の視点 28. 野田秀樹「赤鬼」を見る 29. 歌舞伎「野田版鼠小僧」を見る 30. まとめ
----------	--

準備学習	<p>古典芸能を扱うため、高校で履修する範囲の古典の理解力が必要となる。また日本史に関しても、高校の授業で履修する程度の理解があるものとして話を進めるので、それらに自信がない場合は、高校の教科書を復習するなどして準備しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>授業はPC教場ではない一般教場で行うが、YeStudy（e-Learningシステム）を使用するので、授業時間以外に各自でPCからYeStudyにアクセスする必要がある。予習・復習に役立てるほか、レポート課題の提出をこのシステムでのみ受け付ける場合がある。レポート課題を1度でも提出できなければ、その時点で単位取得はできなくなる。YeStudyのコース登録に必要な「登録キー」は、授業で伝達する。また受講人数にもよるが、数名ずつのグループを編成して意見を交換するワークショップ形式で進める場合もある。基本的に毎回きちんと出席することを前提とし、2/3以上の出席がなければ単位は取得できない。遅刻の場合は出席とみなさない。教場に来て講義を聴くだけの授業ではないので、興味関心と意欲のない学生は履修しないでいただきたい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>定期試験期間中に行う筆記試験（資料等持ち込み不可）の点数が40%、YeStudyで提出するレポート課題と、ほぼ毎回の授業で提出していただく小レポートによる点数が60%として配分し評価する。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>指定しない。</p>
----------	---------------

参考書	
-----	--

その他	<p>この授業で扱う内容の専門性を深め、少人数によるワークショップ形式を取り入れた「日本文化研究ⅠB（松田）」も開講している。希望者はまずⅠBを先に履修してから、翌年度以降にさらに興味があればⅠBを履修していただきたい。</p>
-----	--

履修コード	359201
科目名	日本文化研究ⅡA
担当者名	坂口 博規
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 古代の『古事記』『日本書紀』『風土記』等に登場する歌謡について考察する。古代の「ウタ」の発生の問題や、「ウタ」の役割(=古代的意義)を考えるとともに、作品中に登場する歌謡が、その物語の中でどのような役割(=文学性)を担っているか、その二つの役を理解してもらいたい。</p> <p>(到達目標) 古代の歌謡には、明るく大らかで素朴な感情表現が認められ、それは当時の民衆の精神が反映していると考えられる。その純粋で率直な感動表現は、神の存在を信じる古代人の真率な心情に由来するものである。その浪漫的な香を感じ取っていただければ幸いである。また『古事記』と『日本書紀』のヤマトタケル物語を通して、歌謡がそれぞれの物語にどのような効果を与えているか考えてほしい。特に二書の歴史書としての性格ないしは政治的自己主張につながっていることを理解してほしい。</p>
授業スケジュール	<p>1～3、「ウタ・韻文文学」の発生について 4～6、古代歌謡の種類 7・8、古代歌謡の表現様式・歌体 9・10、古代歌謡の文学性 11・12、『古事記』『日本書紀』編集前史、修史事業の流れ 13～15、『古事記』について 16～18、『日本書紀』について 19～26、『古事記』の倭建命物語 27～30、『日本書紀』の日本武尊物語</p>
準備学習	古代史への関心は旺盛でも『古事記』や『日本書紀』や『風土記』の内容を知る者は少ない。本授業では歌謡の考察を通して古代の文学作品へ関心を持ってほしいと考えている。努めてこれらの作品を目にする機会をもってほしい。
履修上の留意点	特に後期において、記紀のヤマトタケル物語の比較を通して物語における歌謡の役割(=文学性)を考察するとともに、記紀の政治的主張の差異というものを確認してほしい。
成績評価の方法	授業の最終日に提出してもらったレポートの評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象とする。
教科書/テキスト	授業時において配布するプリントを教材とする。
参考書	授業時に適宜紹介する。

履修コード	359101
科目名	日本文化研究ⅡA
担当者名	鈴木 裕子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) テーマ：和歌で読む『源氏物語』 『源氏物語』の名場面を、特に和歌に着目して鑑賞する。『源氏物語』についての理解を深めつつ古典和歌のおもしろさについて学ぶ。授業では原文を読むが、現代語訳も用意する。 (到達目標) この講義の到達目標は、古典の物語における和歌の役割について理解すること。代表的な古典文学に触れて、日本文化の伝統と創造について理解を深めること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) ガイダンス (2~4) 光源氏の父母の物語 (5~7) 光源氏の青春の物語・空蝉物語 (8~11) 光源氏の青春の物語・夕顔物語 (12~14) 光源氏の青春の物語・さまざまな女性の歌 (15) 前期の総括 (16) 和歌で読む紫の上の人生史・紫の上の登場 (17~19) 和歌で読む紫の上の人生史・紫の上の成長 (20~25) 和歌で読む紫の上の人生史・夫婦のゆくえ (26~28) 和歌で読む紫の上の人生史・紫の上の最後 (29) 光源氏の物語の終焉・死の準備 (30) 総括 ※受講生の興味・要望や進捗状況により多少変更するかもしれない。</p>
----------	---

準備学習	予め配布するプリントに（現代語訳の部分だけでも）目を通しておくとよい。
------	-------------------------------------

履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、毎回コメントの提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
---------	--

成績評価の方法	前期末および後期末に課するレポート（論題等は授業時に提示）80%、平常点（出席状況と毎回のコメントの内容）20%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する（平常点を0点とすることもある）。
---------	--

教科書/テキスト	プリント教材。
----------	---------

参考書	依万智『愛する源氏物語』（文藝春秋社）、鈴木裕子『『源氏物語』を〈母と子〉から読み解く』（角川叢書・角川書店）、『源氏物語入門』（角川選書・角川書店）その他、授業中に指示する。
-----	--

履修コード	359301
科目名	日本文化研究ⅠA
担当者名	蘭部 幹生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	『宇治拾遺物語』の編者が文章博士・藤原経範であるという前提に立てば、『宇治拾遺物語』をどのように読むことができるか、という点を最大のテーマとする。恣意的な読み方によらずに、どのように読むべきかという作品研究の立場に立った方法を実践したい。 日本文化研究方法の理解とともに、日本文化の一端を深く掘り下げて探究するおもしろさを理解することを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	1 ガイダンス。 2 説話文学の盛衰。 3~4 編者論。 5~8 作中人物論 (藤原実頼と藤原師輔)。 9~11 作中人物論 (藤原兼家と藤原兼通)。 12~15 作中人物論 (藤原頼通と藤原教通)。 16~19 作中人物論 (藤原忠通と藤原頼長)。 20~23 作中人物論 (相撲人)。 24~28 作品論。 29 教場テスト。 30 まとめ。
----------	---

準備学習	毎時間の授業内容がどのように関連しているのか、現在の授業内容が全体の中でどのように位置づけられるのか、といった点を見失うことのないように、しっかりと復習をして次の授業に臨むことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	日本文化研究ⅠAを履修済みであることが望ましい。できれば同一担当(蘭部幹生)者の日本文化研究ⅠAを単位修得してから履修することが望ましいが、そうでない場合は、必ず最初の授業時にその旨を授業担当者に相談すること。 また、毎時間の最後に、その時間の講義内容に対する意見文を書いて提出するので、必ず原稿用紙を持参すること。
---------	---

成績評価の方法	毎時間提出する意見文で50点分を評価し、授業時間内に50点満点の教場テストを行なう(試験には、ノート・テキスト・辞書・参考書など、何でも持ち込み参照可)。また、最後の授業時間内に、追・再試験に相当するレポートについての連絡を行なうので、必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
---------	--

教科書/テキスト	中島悦次校注『宇治拾遺物語』角川文庫(ただし、宇治拾遺物語の全文が載っているものであれば、これ以外でも可)
----------	---

参考書	必要に応じてそのつど紹介する。
-----	-----------------

履修コード	359801
科目名	日本文化研究ⅠB
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	戦後における文学の第一声ともされる同人誌『近代文学』に依る本多秋五や荒正人の評論から始めて、野間宏、椎名麟三などの第一次戦後派から、第二次戦後派の安部公房、島尾敏雄を経て、小島信夫、庄野潤三などの第三の新人に至るまでの戦後日本文学の軌跡を、それぞれの作家の作品を読むという形で辿ってみたい。そうすることで、敗戦までの日本近代文学の陥穽に対峙することから、その表現の独自性を確立しようとした戦後日本文学の可能性と限界を探りたい。 同時に受講生において、個々に自分にとって文学を読むこと、もしくは文学として作品を読むという行為がどのような意義を持つのかということをおぼろげに意識して考えていくことを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	第二次大戦直後の戦後文学の出発期から昭和三十年代に至るまでの戦後派文学の軌跡がいかなるものであったのか、その概論を講義形式でおこなうと同時に、個々の作家の重要な作品については、逐次たどって具体的にテキストを用意してじっくりと講読する。なお、今年度は主に同人誌『近代文学』掲載の評論ならびに安部公房と島尾敏雄の短編小説を取り上げる予定。 (1~3) 戦後文学の特色について (4~6) 同人誌『近代文学』の役割 (7~9) 安部公房の軌跡 (10~11) 『デンドロカカリヤ』の分析と読解 (12~13) 『飢えた皮膚』の分析と読解 (14~15) 『闖入者』の分析と読解 (16~17) 『R62号の発明』の分析と読解 (18~19) 『死んだ娘が歌った』の分析と読解 (20~21) 『棒』の分析と読解 (22~24) 島尾敏雄の軌跡 (25~27) 『鳥の果て』の分析と読解 (28~30) 『出発は遂に訪れず』の分析と読解
----------	---

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席すること。
------	---

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きい迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	安部公房『水中都市、デンドロカカリヤ』(新潮文庫) 514円 安部公房『R62号の発明、鉛の卵』(新潮文庫) 552円 島尾敏雄『出発は遂に訪れず』(新潮文庫) 590円 その他、適宜プリントを配布する。
----------	---

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	359951
科目名	日本文化研究ⅡB
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ「日本の絵本文化探究」</p> <p>文学作品には、作者の思想だけではなく、作品が生みだされた社会や時代の様相がはっきりと描きこまれています。それはもちろん、絵本においてもあてはまることです。義務教育などをおとして、絵本や児童文学にふれる機会は誰しもが持っているはずですが、自分が出会ってきた作品を直視し、その背景や意義について考察する機会は、あまりなかったのではないのでしょうか。講義では、絵本を中心に日本の児童文化が描いてきたテーマについて考えていきます。到達目標は、日本の子ども文化の歴史をふまえたうえで、現状について分析できるようになることです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>絵本などを題材として日本の子ども文化について学び、知識や理解を深めます。</p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>(2) 絵本において描かれてきたテーマ その1 (『ラチとらいおん』ほか)</p> <p>(3) 絵本において描かれてきたテーマ その2</p> <p>(4) 絵本において描かれてきたテーマ その3</p> <p>(5) 絵本において描かれてきたテーマ その4</p> <p>(6) 絵本において描かれてきたテーマ その5</p> <p>(7) 「食にかかわる絵本」とは何か? その1 (『しろくまちゃんのホットケーキ』ほか)</p> <p>(8) 「食にかかわる絵本」とは何か? その2</p> <p>(9) 「食にかかわる絵本」とは何か? その3</p> <p>(10) 「食にかかわる絵本」とは何か? その4</p> <p>(11) 「食にかかわる絵本」とは何か? その5</p> <p>(12) 「科学絵本」とは何か? その1 (『ははのはなし』ほか)</p> <p>(13) 「科学絵本」とは何か? その2</p> <p>(14) 「科学絵本」とは何か? その3</p> <p>(15) 「科学絵本」とは何か? その4</p> <p>(16) 「科学絵本」とは何か? その5</p> <p>(17) 「生と死の教育にかかわる絵本」とは何か? その1 (『こいぬがうまれるよ』ほか)</p> <p>(18) 「生と死の教育にかかわる絵本」とは何か? その2</p> <p>(19) 「生と死の教育にかかわる絵本」とは何か? その3</p> <p>(20) 「生と死の教育にかかわる絵本」とは何か? その4</p> <p>(21) 「生と死の教育にかかわる絵本」とは何か? その5</p> <p>(22) 日本の児童文化の歴史と現状 その1 (点訳絵本ほか)</p> <p>(23) 日本の児童文化の歴史と現状 その2</p> <p>(24) 日本の児童文化の歴史と現状 その3</p> <p>(25) 日本の児童文化の歴史と現状 その4</p> <p>(26) 日本の児童文化の歴史と現状 その5</p> <p>(27) 映像から考える日本の子ども文化 その1 (『W3』ほか)</p> <p>(28) 映像から考える日本の子ども文化 その2 (『W3』ほか)</p> <p>(29) 映像から考える日本の子ども文化 その3 (『W3』ほか)</p> <p>(30) まとめ</p> <p>なお、履修者の数や志向によって、内容(時事問題なども授業に取り入れるため)やスケジュールを調整する可能性があります。その際は、授業時間内に連絡をします。</p>
----------	---

準備学習	<p>課題作成のためのメモ作りや絵本の選択などに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>前期末課題及び学年末課題のほか、授業内課題をおこないます。授業内課題の分量は、通年で8000字程度(400字つめ原稿用紙換算、20枚程度、手書き)になります。継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。また、担当者の一方的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>適宜、授業中に課題をおこないます。A: 授業への参加度・授業内課題(50%)、B: 前期末のレポート(25%)、C: 学年末の教場試験(25%)をあわせて、総合的に評価をします。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>指定なし。適宜プリントを配布します。</p>
----------	---------------------------

参考書	<p>鳥越信編『はじめて学ぶ日本児童文学史』(ミネルヴァ書房 2001年)</p> <p>鳥越信編『はじめて学ぶ日本の絵本史 1~3』(ミネルヴァ書房 2002年)</p> <p>このほか、授業中にも指示します。</p>
-----	--

その他	<p>「日本文化研究ⅡB」と「日本文化研究ⅡB」では、それぞれ異なる作品・題材を取りあげます。「日本文化研究ⅡB」を履修せずに、「日本文化研究ⅡB」だけを履修しても問題ありません。ただし、「日本文化研究ⅡB」を先に履修した方が、知識や理解が深まります。</p>
-----	--

履修コード	359701
科目名	日本文化研究ⅡB
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 原則として「日本文化研究ⅡB (松田)」(または国文学科の専門科目である「国文学史ⅡB」)を履修した学生を対象とし、日本と西洋のさまざまな舞台芸能を比較しながら、ⅡBの授業で扱った内容をさらに深く掘り下げて考えるための少人数によるワークショップ。</p> <p>(到達目標) 毎回全員が発言することを基本とする少人数のワークショップ形式により、意見交換をしながら授業を進め、広い視野から文化事象に対して自らの見識を持つことができるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 演劇におけるリアルとは何か 3. メディアとパフォーマンス 4. インプロの基本 5. シアター・ゲームの実際 6. 言語ゲームとアナグラム 7. 民俗芸能の世界 8. 能と狂言 9. 歌舞伎と人形浄瑠璃 10. 忠臣蔵の世界 11. 近代と芸能 12. 比較演劇の視点 13. 戯曲の構成 14. 諷刺とパロディの演劇 15. 笑いとパフォーマンス 16. 映画と演劇 17. 話芸の世界 18. 『ベガーズ・オペラ』を見る 19. 現代演劇が指し示すもの 20. ミュージカル『RENT』の場合 21. 受講生によるテーマ発表1 22. 受講生によるテーマ発表2 23. 受講生によるテーマ発表3 24. 受講生によるテーマ発表4 25. 受講生によるテーマ発表5 26. 受講生によるテーマ発表6 27. 受講生によるテーマ発表7 28. 受講生によるテーマ発表8 29. 表現して生きる 30. まとめ
----------	--

準備学習	「日本文化研究ⅡB (松田)」(または国文学科の専門科目である「国文学史ⅡB」)の内容を理解していることが前提なので、必要に応じて復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	「日本文化研究ⅡB (松田)」(または国文学科の専門科目である「国文学史ⅡB」)を受講したことがない場合は、まずそちらを先に履修していただきたい。初回の授業でガイダンスを行うので、必ず出席すること。講義内容を把握せずに科目登録をしても、履修は認められない。基本的には毎回休まず出席する姿勢が必要となる。
---------	---

成績評価の方法	授業時間のワークショップへの参加状況による評価を6割、授業の中で適宜提出を求めたレポートや発表等による評価を4割として判定する。
---------	--

教科書/テキスト	指定しない。
----------	--------

参考書	
-----	--

履修コード	359901
科目名	日本文化研究ⅡB
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>原則として「日本文化研究ⅡB (松田)」(または国文学科の専門科目である「国文学史ⅡB」)を履修した学生を対象とし、日本と西洋のさまざまな舞台芸能を比較しながら、「ⅡB」の授業で扱った内容をさらに深く掘り下げて考えるための少人数によるワークショップ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>毎回全員が発言することを基本とする少人数のワークショップ形式により、意見交換をしながら授業を進め、広い視野から文化事象に対して自らの見識を持つことができるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 演劇におけるリアルとは何か 3. メディアとパフォーマンス 4. インプロの基本 5. シアター・ゲームの実際 6. 言語ゲームとアナグラム 7. 民俗芸能の世界 8. 能と狂言 9. 歌舞伎と人形浄瑠璃 10. 忠臣蔵の世界 11. 近代と芸能 12. 比較演劇の視点 13. 戯曲の構成 14. 諷刺とパロディの演劇 15. 笑いとパフォーマンス 16. 映画と演劇 17. 話芸の世界 18. 『ベガーズ・オペラ』を見る 19. 現代演劇が指し示すもの 20. ミュージカル『RENT』の場合 21. 受講生によるテーマ発表1 22. 受講生によるテーマ発表2 23. 受講生によるテーマ発表3 24. 受講生によるテーマ発表4 25. 受講生によるテーマ発表5 26. 受講生によるテーマ発表6 27. 受講生によるテーマ発表7 28. 受講生によるテーマ発表8 29. 表現して生きる 30. まとめ
----------	--

準備学習	「日本文化研究ⅡB (松田)」(または国文学科の専門科目である「国文学史ⅡB」)の内容を理解していることが前提なので、必要に応じて復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	「日本文化研究ⅡB (松田)」(または国文学科の専門科目である「国文学史ⅡB」)を受講したことがない場合は、まずそちらを先に履修していただきたい。初回の授業でガイダンスを行うので、必ず出席すること。講義内容を把握せずに科目登録をしても、履修は認められない。基本的には毎回休まず出席する姿勢が必要となる。
---------	---

成績評価の方法	授業時間のワークショップへの参加状況による評価を6割、授業の中で適宜提出を求めるレポートや発表等による評価を4割として判定する。
---------	--

教科書/テキスト	指定しない。
----------	--------

参考書	
-----	--

履修コード	168911
科目名	日本文化テーマ研究A
担当者名	鈴木 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) テーマ：平安後期物語を読む 短編物語集『堤中納言物語』を読みながら、いわゆる王朝物語の型や技法を理解することによって、平安後期物語のおもしろさを味わう。 (到達目標) この講義の到達目標は、『堤中納言物語』の独自性を理解することによって古典作品に親しみを感ずること。そして、問題意識をもって古典を読み、自分の意見を、自分の言葉で表現できるようになること。日本文化の伝統と創造について理解を深めること。</p>
授業スケジュール	<p>(1) ガイダンス (『堤中納言物語』について) (2~4) 「花桜折る少将」を読む・垣間見の文学 (5~8) 「虫めづる姫君」を読む・〈女/男〉らしさ (9~11) 「逢坂超えぬ権中納言」を読む・サロン文学 (12~14) 「はいずみ」を読む・物語の典拠 (15) 総括 ※受講生の興味・要望や進捗状況により多少変更するかもしれない。</p>
準備学習	あらかじめテキストの現代語訳の部分だけでも通読し、あらすじを理解しておくこと。
履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、コメントや課題の提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
成績評価の方法	期末に課するレポート(日時・論題等は授業時に提示)60%、平常点(出席状況と毎回のコメントの内容)40%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する(平常点を0点とすることもある)。
教科書/テキスト	ビギナーズ・クラシックス日本の古典『堤中納言物語』角川ソフィア文庫(角川学芸出版)743頁, ISBN978-4-04-357425-4 C0193 及びプリント教材。
参考書	授業中に必要に応じて指示する。

履修コード	168901
科目名	日本文化テーマ研究A
担当者名	萩原 義雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本で最も最古の神話である『古事記』(和銅五年=西暦712年)が編纂一千三百年を迎える。「国土の創生」「神々の仕業」「和歌のはじまり」「すめらみことの経緯継承」と語り継がれてきたその神話エピソードの言語表現としての魅力を考えて見よう。①神話②伝説③歌謡④祭祀⑤信仰⑥藝能⑦道教⑧儒教をもふまえて、江戸の国学者本居宣長が『うひ山ぶみ』で「上代の巻巻を、くりかえし見るべし」と説き、その著『古事記伝』で実践したことがらをふまえて、この「ふることふみ」を日本語という言語活動の礎に据えてみることは、歴史上に知られる太安万侶という書記者の並々ならぬ言語力量を知ることにもなる。
授業スケジュール	講義演習としては、最古写本である国宝真福寺本『古事記』三巻をたよりに、江戸時代の注釈書『古事記伝』全四十四巻を照らし合わせながら読んでいくことにする。きっと、日本語文化を構成する大切な要素の結晶を知ることにもなる。上巻の神代の物語、中巻の人代の物語、下巻の人代の物語を日本語とはいえ、中国伝来の漢字を用いて稗田阿礼が講習した内容を太安万侶が記録した、漢字表記文とはいえ、日本語的な「万葉仮名」表記が混在していることも受講者の興味をかき立ててくれよう。そして、何をおいても歌謡が宝玉のようにちりばめられているのも見逃せない。この神話から日本人の奥底に流れる精神とは如何なるものであり、異国の知識人はどう見続けてきたのかを知ること、日本観から世界観へと指標をおいていきたい。そのためには、書かれていることがらを楽しみながら読み解いていくことをモットーとしたい。
準備学習	日本列島の地に『古事記』神話の伝承足跡を追ってみる。このとき四つのマップポイントの地点があることを知って欲しい。①に出雲地方、②に神々降臨の地南九州地方、③に「すめらみ」との君臨する奈良大和地方、④に天孫の祖神「天照大神」を祀る伊勢地方となる。この四点を知るうえで、「日本武尊」という人物の足跡をもって、神々を見ていくことが考えられる。そして、今日この『古事記』を解き明かす①原典・②現代語訳・抄訳・③研究書・入門書・④小説・⑤漫画・⑥紀行写真集・⑦演劇・⑧映画(実写・アニメーション)を眺め尽くしていく心持がきっと必要となろう。
履修上の留意点	出発点はゼロであっても、一緒に目指し辿り着く終着点こそは燦然と光り輝く宝玉のように広大な広がりを持ち合わせていて欲しい。きっとこの『古事記』があなたがたのこころの支えとなる教養・実用の書であるように、必要な情報を相互に共有し、己が目指す視座を見据え続けていく強い感性をとことん働いてもらいたい。問題提起・ディスカッション・朗読・発表をまじえながら、一千三百年の時の重さを共に汲み取っていかうではないか。
成績評価の方法	資料づくり50%。資料の報告口頭発表10%。質疑応答10%。報告文書の公開30%をそのつどそのつど設定する。その均等値をもって評価基準とする。当然、このどれにも出席証明が必要となることは云うを俟たない。
教科書/テキスト	駒澤大学YeStudyをその基盤素材として使用する。
参考書	駒澤大学YeStudyをその基盤素材として使用する。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi

履修コード	169011
科目名	日本文化テーマ研究B
担当者名	鈴木 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) テーマ：古典文学で考える〈男〉の生き方・〈女〉の生き方 平安時代末期に成立した物語『とりかへばや物語』とそれ以外のいろいろな作品の一節を読みながら、提起する問題について考察する。テキストは抄出なので省略部分を適宜プリントする。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、まず『とりかへばや物語』などの古典作品に触れることによって、そこに描かれる〈男〉らしさ、〈女〉らしさの表現についての認識を深めること。そして、問題意識をもって古典を読み、自分の意見を、自分の言葉で表現できるようになること。日本文化の伝統と創造について理解を深めること。</p>
授業スケジュール	<p>(1) ガイダンス (『とりかへばや物語』について) (2~4) 〈異性装〉の主人公たち、 (5~8) 物語の結婚、出産、親子 (9~10) 物語世界における〈異境〉 (11~12) 「待つ女」というテーマ (13~14) 〈男〉／〈女〉らしさを考える (15) 総括</p> <p>※受講生の興味・要望や進捗状況により多少変更するかもしれない。</p>
準備学習	後期半期科目なので、必ず夏休み中に教科書の現代語訳の部分だけでも通読し、あらすじを理解しておくこと。
履修上の留意点	『とりかへばや物語』だけを講読する授業ではなく、多様な作品を読み、考えることが要求されるので、欠席すると授業内容を理解できなくなる可能性があるので注意すること。授業は主として講義形式であるが、コメントや課題の提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
成績評価の方法	期末に課するレポート(日時・論題等は授業時に提示) 60%、平常点(出席状況と毎回のコメントの内容) 40%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する(平常点を0点とすることもある)。
教科書/テキスト	ビギナーズ・クラシックス日本の古典『とりかへばや物語』角川ソフィア文庫(角川学芸出版)、743円、ISBN978-4-04-407205-6 C0193 及びプリント教材。
参考書	授業中に必要に応じて指示する。

履修コード	169001
科目名	日本文化テーマ研究B
担当者名	萩原 義雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>教養学習を進めて行くうえで欠くことのできない、初等教科書と国語辞典の関連を上世・中世の学業資料である「古往来」と「古字書」を通じて見ていく。此度は、次の五分括にして分析していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平安後期編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 2. 鎌倉時代編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 3. 吉野時代編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 4. 室町時代編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 5. 江戸時代編纂の古往来と古字書・古辞書 (3)
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平安後期編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 『明衡往来』『季綱往来』『東山往来』『高山寺古往来』『和泉往来』『菅丞相往来』『釋氏往来』と『新撰字鏡』『倭名類聚鈔』『色葉字類抄』『類聚名義抄』 2. 鎌倉時代編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 『貴嶺問答』『十二月往来』『新十二月往来』『山密往来』『消息詞』『垂髪往来』『雑筆往来』『常途往来』『御慶往来』『手習覚往来』と『名語記』『塵袋』 3. 吉野時代編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 『拾要抄』『大乘院雑筆抄』『異制庭訓往来』『新撰遊覧往来』『新札往来』『顯密往来』『南都往来』と『伊呂波字類抄』 4. 室町時代編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 『十二月消息』『庭訓往来』『富士野往来』『消息往来』『喫茶往来』『尺素往来』『教兒往来』『風情往来』『快言抄』『新撰類聚往来』『鎌倉往来』『手習往来』『賢才往来』『蒙求臂鷹往来』『會席往来』と『下學集』『節用集』『温故知新書』『運歩色葉集』 5. 江戸時代編纂の古往来と古字書・古辞書 (3) 『十三往来』『越州往来』『化城笑草』『要用往来』『磔字往来』と『書言字考節用集』 <p>この1から5の資料を時代そして文化事象に照らし合わせながら詳細に解析していく。</p>
----------	---

準備学習	<p>『古往来』と『古字書』『古辞書』という研究領域を知らない人が多いように、日本語表現のなかで、こうした初期学習教材と高度なことばの集とがどう関わってきているのかを知ることは、日本語語文化の底力を見極めることにもなる。途方もないことばの集積がなにを意図とし、何を創りだしてきたのか実際に一義一語を丹念に見てみることでその深奥に分け入ることもつながる。</p> <p>だれもが見て知って利用出来る今日とは異なり、或る特定の限られた人材育成への関与であっても、その目標到達度は却って高い水準値に達していたことを実感できればと考える。今日、これらを知る多くの資料がデジタル公開や影印書物として刊行され続けてきた。これら多くの貴重な資料を見定めるときがいま此のときと云ってよからう。整いつつある過程でも有るが、その到達度は加速し続けてきているようだ。これらの多くの往来物資料と古字書、古辞書を本学図書館・公共図書館を有効利用し、その特徴を具さに報告していくことを目指そう。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>説話は短く内容も単純であり、類話も多い。従って、教材だけでなく自主的に対象を広げていく努力が求められる。説話が発するメッセージを見逃さぬためにも、労を惜しまず丹念に読むという態度を養ってほしい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>担当分野を五つのグループに分化する。このグループ別組み合わせを行うために、第一希望と第二希望、ときには第三希望を各自事前提出してもらい、一グループ二ヶ月単位に区切り、報告発表(70%)いただき、かつ担当外他グループからは質疑文章を提示(30%)してもらうことで評価規準を設定していく。70%の報告発表はさらに40%は報告文書構成評価とし、30%は発表姿勢評価としたい。相互のディスカッションを最大限に評価の基準として決定する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>駒澤大学YeStudyを用いて、活動軸を見極めていく。</p>
----------	------------------------------------

参考書	<p>駒澤大学YeStudyを用いて、活動軸を見極めていく。</p>
-----	------------------------------------

関連リンク	<p>http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi</p>
-------	--

履修コード	169101
科目名	日本文化テーマ研究C
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日本文化には昔話・民譚と称される民間伝承がある。その伝承の中から「異類怪婚譚」をとりあげる。異類とは人間と類を異にする鳥獣・魚虫・草木のことで、この異類が人間の男や女に変身して人間と結婚するという不思議な物語である。特に古代の異類女房譚を取り上げ、伝承の思想的背景を考察する。</p> <p>(到達目標) こうした異類怪婚譚は原始の時代から現代まで、それぞれの時代の思想や観念を反映してさまざまな伝承の型を示す。その諸相を学ぶことで、日本文化の一つである民間伝承への関心を持ってほしい。また異類怪婚譚は世界大物語として世界各地に共通の伝承が認められる。ワールドワイドな視野を持ってほしい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 異類怪婚譚および異類女房譚の3系統についての解説 2. 「空」を郷土とする羽衣伝説(天人女房譚)の古伝承、「伊香の小江伝説」 3. 「奈具社伝説」その他の風土記伝承 4. 『竹取物語』について、1 5. 『竹取物語』について、2 6. 竹取伝承について 7. 「海」を郷土とする竜宮女房伝説の古伝承、「海幸彦山幸彦物語」1 8. 「海幸彦山幸彦物語」2 9. 「浦島伝説の古伝承」1 10. 「浦島伝説の古伝承」2 11. 『万葉集』高橋虫麻呂歌 12. 「陸地(森林・山野)」を郷土とする狐女房伝説、『日本霊異記』の例 13. 狐女房伝承について 14. 異類婚譚について、「蛇婿入り古伝承」 15. 異類怪婚譚まとめ
----------	---

準備学習	講義の事前・事後において昔話など口承文学への関心を高めるため、郷土の昔話あるいは伝説などを、どのようなものがあるか調査することは大切である。必ずしも地域に伝承がなくとも、日本や世界各地の伝説などを事典類で調査しておくことは関心も高まる。
------	--

履修上の留意点	「風土記」逸文における古伝承や、平安時代の伝奇物語『竹取物語』などの物語の内容を理解する上で古文で作品を読解することが多いので、注釈書類で口語訳を確認して下されば幸いです。また異類怪婚譚は室町時代物語草子(御伽草子)の中に多く登場し、その考察は「日本文化テーマ研究D」で行うので、併せて履修して下さい。
---------	---

成績評価の方法	授業の最終日に提出してもらってレポートの評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象にする。
---------	---

教科書/テキスト	授業において配布するプリントを教材とする。
----------	-----------------------

参考書	授業において適宜紹介する。
-----	---------------

履修コード	169111
科目名	日本文化テーマ研究C
担当者名	菌部 幹生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>日本文化における事項のうちから、「失われた文化」をテーマとする。日本文学の中で現存しない作品は多いが、そのうち、説話文学史上に多大の影響を与えた(散佚)『宇治大納言物語』をとりあげる。</p> <p>諸書に紹介される記事や引用されて残る逸文を読み、その実態を探る試みを通して、失われた文化の持っていた意味や役割について理解することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス。 2 宇治大納言物語の文学史的意義。 3~6 他の文献における宇治大納言物語に関する記事とその真偽。 7~10 他の文献における宇治大納言物語の受容とその真偽。 11~13宇治大納言物語の実態と散佚に関する推定。 14 教場テスト。 15 まとめ。
----------	--

準備学習	毎回の授業は関連しているので、しっかり復習して次回の授業に臨めるように準備することが望ましい。
------	---

履修上の留意点	毎時間の最後に、その日の講義内容に関する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。
---------	---

成績評価の方法	出席点20点、毎時間の意見文30点、教場テスト50点の割合で評価する(教場テストには、テキスト・ノート・辞書・参考書等の持込可)。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達(該当者・テーマ・提出期限等)を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。
---------	--

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	必要があればそのつど紹介する。
-----	-----------------

履修コード	169201
科目名	日本文化テーマ研究D
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>室町時代物語草子(御伽草子)群には「異類怪婚物語(人間と人間以外の鳥獣・魚虫・植物等の変身した者との不思議な結婚の物語)」が多く存在する。古代の『風土記』等に登場する古伝承とは自ずから違った室町時代の思想的背景をもとに成立したものである。こうした中世期の怪婚譚の文学的特質を考察してもらいたい。</p> <p>(到達目標)</p> <p>上記の如き古代的な思想背景と中世的思想背景の違いを理解すると共に、怪婚譚は近世期封建社会の民衆、特に女性の語りを通して現代に伝えられることが考えられ、そうした伝承の歴史が怪婚譚という不思議な物語の形成にいかなる影響を示しているかを考察してもらいたい。受講生には室町時代物語草子の異類怪婚譚の作品から希望する作品を選んでもらい、研究レポートを作成してもらおう。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1・2、室町時代物語草子の怪婚譚の中世的特質や文学的意義を解説</p> <p>3～5、『浦島太郎』の読解と考察</p> <p>6～8、『本幡狐』の読解と考察</p> <p>9、『鶴の恩返し』(鶴女房譚)の考察</p> <p>10・11、流布本『鶴の草子』の読解と考察</p> <p>12・13、別本『鶴の草子』の読解と考察</p> <p>14・15、『雁の草子』の創作性</p>
----------	--

準備学習	<p>「日本文化テーマ研究C」で考察した、「空」を郷土とする天人女房伝説(羽衣伝説)、「海」を郷土とする竜宮女房伝説、「陸地」を郷土とする狐女房伝説等々の古伝承と中世期の異類女房譚の比較検討をするので、是非前期開講の「テーマ研究C」を併せて受講していただけると幸いである。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>室町時代物語草子のうち『浦島太郎』『本幡狐』『鶴の草子』『雁の草子』の4作品を読んで解説するが、古典作品であるから、あらかじめ注釈書で口語訳を目にいただければ幸いである。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>授業の最終日に提出してもらったレポートの評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象とする。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>授業時にプリント教材を配布する。</p>
----------	-------------------------

参考書	<p>授業において適宜紹介する。</p>
-----	----------------------

履修コード	169211
科目名	日本文化テーマ研究D
担当者名	藪部 幹生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>日本文化における事項のうちから、「歌徳説話」をテーマとする。「徳」は「得」を意味し、「歌徳説話」とは歌を詠むことによって得をした話であるが、そのような話がなぜもてはやされるようになったのか、どのように受け継がれていったのかを頭からにしたい。</p> <p>歌徳説話という概念がどのようにして形成されていったのかということについての、直接的な原因や精神的背景を理解し、日本文化の一端を受容することを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1 講座説明。</p> <p>2 「歌の徳」の意味と歌徳説話の説明。</p> <p>3～5 典型的な歌徳説話について。</p> <p>6～7 歌徳説話の概念形成。</p> <p>8～9 歌徳説話の精神的背景。</p> <p>10～12 並流の歌徳説話。</p> <p>13 教場テスト。</p> <p>14 歌徳説話からの展開。</p> <p>15 まとめ。</p>
----------	--

準備学習	<p>毎時間の内容は関連しているので、前回までの内容理解を確認したうえで授業に臨むことが望ましい。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>毎時間の最後に、その日の講義内容に関する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席点20点、毎時間の意見文30点、教場テスト50点の割合で評価する(教場テストは、テキスト・ノート・辞書・参考書等の持込可)。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達(該当者・テーマ・提出日時等)を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>プリントを配布する。</p>
----------	-------------------

参考書	<p>必要があればそのつど紹介する。</p>
-----	------------------------

履修コード	169311
科目名	日本文化テーマ研究E
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宮澤賢治の生前未発表童話を読む。賢治が書いた散文作品は、童話としては難解すぎ、またその法華経文学としての宗教性からも、児童文学としては適当ではないのではないかなど様々な議論がこれまであった。しかし賢治童話は、たとえ難解ではあったとしても、「純真な心意の所有者たち」(『注文の多い料理店』 広告文)へ与えられるべき「すぎとほつたほんたうのたべもの」(『注文の多い料理店』序)であることを願って書かれていることに異を唱える者はないだろう。「卑怯な成人たちに畢竟不可解な」(『注文の多い料理店』 広告文)「純真な心意」とは何かを賢治作品の読解を通じて考え、そのような物語を求める賢治の精神のありようについて考えてみたい。
---------------------	---

授業スケジュール	具体的には上記のテーマ等の考察を、『なめとこ山の熊』、『ポラーノの広場』、『風の又三郎』など生前未発表作品の初期形から最終形までの生成の過程の中にみていく予定。 (1~3) 宮澤賢治の軌跡 (4~7) 『なめとこ山の熊』の分析と読解 (8~11) 『ポラーノの広場』の分析と読解 (12~15) 『風の又三郎』の分析と読解
----------	--

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席のこと。
------	--

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きな迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	宮澤賢治『宮澤賢治全集第7巻』(ちくま文庫) 1,000円 その他、適宜プリントも配布する。
----------	---

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	169301
科目名	日本文化テーマ研究E
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ「活字メディアと映像メディアの接点」 昨今、ベストセラーとなった作品は、かならずと言ってよいほど映像化されます。また、文芸書を担当する編集者たちの意識もかわりつつあり、「文学賞よりロードショー」という合い言葉が口にされるほどです。こうした文学と映像の不可分な関係は、どのように形成されてきたのでしょうか。講義では、活字メディアと映像メディアの関係を多角的に考えていきます。 到達目標は、活字メディアや映像メディアを具体的に分析できるようになることと、その分析を言語化できるようになることです。
---------------------	---

授業スケジュール	文学作品の映像化などを題材に、活字メディアと映像メディアの接点について具体的に学びます。
----------	--

- (1) オリエンテーション
- (2) 映像の見方のレッスン その1 (『裏窓』ほか)
- (3) 映像の見方のレッスン その2
- (4) 映像の見方のレッスン その3
- (5) 近代日本文学の映像化の特徴 その1 (角川映画ほか)
- (6) 近代日本文学の映像化の特徴 その2
- (7) 近代日本文学の映像化の特徴 その3
- (8) 原作の特徴 その1 (『葉桜と魔笛』ほか)
- (9) 原作の特徴 その2
- (10) 原作の特徴 その3
- (11) 文学作品の映像化の功罪 その1 (『夢十夜』ほか)
- (12) 文学作品の映像化の功罪 その2
- (13) 文学作品の映像化の功罪 その3
- (14) 文学作品の映像化の功罪 その4
- (15) まとめ

なお、履修者の数や志向によって、内容(時事問題なども授業に取り入れるため)やスケジュールを調整する可能性があります。その際は、授業時間内に連絡をします。

準備学習	映像分析のためのメモ作りや原作の検討などに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします。
------	--

履修上の留意点	授業中に、映像などを見ながら、分析をしていきます。ほぼ毎回、授業内課題をおこないます。授業内課題の分量は、4000字程度(400字づつ原稿用紙換算、10枚程度、手書き)になります。継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。また、担当者の一方向的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。
---------	---

成績評価の方法	授業中に課題をおこないます。A: 授業への参加度・授業内課題(50%)、B: 学期末試験(50%)をあわせて、総合的に評価をします。
---------	--

教科書/テキスト	指定なし。適宜プリントを配布します。
----------	--------------------

参考書	適宜授業中に指示します。
-----	--------------

履修コード	169411
科目名	日本文化テーマ研究F
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	異貌の作家・深沢七郎の小説を精読する。深沢は、昭和三十一年（1956年）、四十二歳で総合誌「中央公論」に創設されたばかりの「中央公論新人賞」に応募し、第一回の入賞者となって作家デビューを果たしている。それ以前は、戦前からギターのリサイタルを継続的に開いたり、旅まわりのバンドにいたり、日劇ミュージックホールにスカウトされて出演したりなど一風変わった風采坊的な生活を送っていた。このような書齋で思考する知識人作家的なタイプとは無縁の、文学同人やサークルからも孤立したその来歴からもうかがえるように、その作品においては、およそ日本の近代文学の正統からはずれて、ヒューマンイズムの規範による人間中心主義的な価値観を徹底して排除したすぶる実存的な土着の庶民的世界が展開している。既成の価値観をあざ笑うかの如きその突出したアンチヒューマンイズムぶりをその作品世界において、検証してみたい。
---------------------	---

授業スケジュール	具体的には上記の深沢の作家としての特質を、『檀山節考』、『笛吹川』等の代表的作品の読解などによって明らかにしていきたい。 (1～3) 深沢七郎の軌跡 (4～8) 小説『檀山節考』の分析と読解 (9～13) 『檀山節考』原作と映画 (二度の映画化) の比較考察 (14～15) 小説『笛吹川』の分析と読解
----------	--

準備学習	上記の作品はむろんだが、開講時にも他に関連して取り上げる作品や文章を指示するので、文庫や全集などで事前に読んで授業に出席のこと。
------	--

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きいなる迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書/テキスト	深沢七郎『檀山節考』（新潮文庫）420円 その他、適宜プリントも配布する。
----------	--

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	169401
科目名	日本文化テーマ研究F
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマ「絵本文化と現代社会の接点」 講義では、絵本をはじめ、「読者としての子ども」を意識して生みだされたメディアを題材に、現代の日本社会の諸問題について考えていきます。たとえば、森田ゆり氏は、「子ども虐待防止」に精力的に取り組んでいる人物ですが、その著作の中でも、「読者としての子ども」を意識して書かれた『あなたが守る あなたの心・あなたのからだ』などの絵本、新聞記事やニュースとは異なった形で現代の日本社会に生きる子どもたちの姿を教えてください。 講義の目標は、さまざまなメディアの分析をとおして、受講者みなさんが、「現代日本における子ども」について自分の意見をまとめられるようになることです。
---------------------	--

授業スケジュール	絵本などのメディアを読み解きながら、作り手側の意識や読者・視聴者への影響について、具体的に分析していきます。 (1) オリエンテーション (2) 絵本文化と子どもの権利 その1 (CAPの取り組みほか) (3) 絵本文化と子どもの権利 その2 (4) 絵本文化と子どもの権利 その3 (5) 防犯絵本とは何か? その1 (『とにかくさげんでにげるんだ』ほか) (6) 防犯絵本とは何か? その2 (7) 防犯絵本とは何か? その3 (8) 絵本文化と歴史記述 その1 (『かわいそうなぞう』ほか) (9) 絵本文化と歴史記述 その2 (10) 絵本文化と歴史記述 その3 (11) 絵本の映像化について考える その1 (映画『風が吹くとき』ほか) (12) 絵本の映像化について考える その2 (13) 絵本の映像化について考える その3 (14) 絵本の映像化について考える その4 (15) まとめ
----------	--

なお、履修者の数や志向によって、内容(時事問題なども授業に取り入れるため)やスケジュールを調整する可能性があります。その際は、授業時間内に連絡をします。

準備学習	映像分析のためのメモ作りや原作の検討などに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします。
------	--

履修上の留意点	授業中に、映像などを見ながら、分析をしていきます。ほぼ毎回、授業内課題をおこないます。授業内課題の分量は、4000字程度(400字づつ原稿用紙換算、10枚程度、手書き)になります。継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。また、担当者の一方的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。
---------	--

成績評価の方法	適宜、授業中に課題をおこないます。A: 授業への参加度・授業内課題 (50%)、B: 学期末試験 (50%) をあわせて、総合的に評価をします。
---------	--

教科書/テキスト	指定なし。適宜プリントを配布します。
----------	--------------------

参考書	適宜授業中に指示します。
-----	--------------

履修コード	169501
科目名	日本文化テーマ研究G
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 「演劇ワークショップ」の実技体験を行う夏季集中授業。台本を使って演技をする演劇の訓練とは異なり、誰にでも簡単にできる「シアターゲーム」と呼ばれる体を動かすゲームをグループごとに繰り返しながら、最後に台本のない即興でストーリーを生み出すグループ発表を行う。</p> <p>(到達目標) 「シアターゲーム」は即興演技の訓練法から生まれたもので、コミュニケーションに関する様々な要素(表情と体の動き、話し方、感情表現、グループの人間関係など)を体験的に学ぶとともに、状況に応じて即座に、臨機応変に対処する「インプロ」の技術を身につけることを目的とする。コミュニケーション技術を学ぶとともに、本番で実力を発揮できる能力を身につけるものとして、企業の社員研修などでも取り入れられているものである。また「5年後の自分を演じる」インプロを通して、いわゆるキャリア・ガイダンスとはまったく別の形で、自分の将来の生き方を考えてみる機会にしてほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 基本講義：ワークショップとは何か? 3. 基本のキャッチボールとイエス・アンド 4. 名前をおぼえる 5. 身体への意識 6. 意識の分散とリズムの共感 7. このセリフを言わせたい 8. 講義：心と体はつながっている 9. 丸太の橋を渡るエチュード 10. シェアード・ストーリー：物語を共有する 11. ステータス：社会的地位を演じる分ける 12. 5年後の自分を演じる 13. インプロのグループ発表 14. 最終レポートの作成 15. まとめ
----------	---

準備学習	特に必要としない。
履修上の留意点	集中授業なので4日間すべてに出席しなければ単位を取得できない。軽い運動をすることがができる服装(靴はスニーカーなど)で出席すること。演劇の実習ではないので、演技の経験はまったく必要としない。むしろ人前で自分を表現することが苦手な方にこそ受講していただきたい。ただしグループでの練習に積極的に参加する協力的な姿勢は必要となる。
成績評価の方法	ワークショップへの参加状況による評価が60%、「インプロ」のグループ発表の結果が20%、最終日に教場で書いていただくレポート試験の結果が20%として算出する。
教科書/テキスト	指定しない。
参考書	絹川友梨 『インプロゲーム-身体表現の即興ワークショップ』、晩成書房、3,150円
その他	授業日程：7月31日の3～5限と、8月1日～8月3日のそれぞれ2～5限、合計4日間の15時限授業。予備日は8月6日の2～5限(台風による休講措置等があれば、予備日に発表・レポート試験を行うことになる)。

履修コード	169601
科目名	日本文化テーマ研究H
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 講義タイトルは「映画の近代史」。教科書を使って、映画とはどのようなメディアであり、どのような歴史的過程を経て現在の映像表現に至っているのかを概説しながら、いくつかの映像作品を例としてそれを検証する。 (到達目標) 19世紀末の発明である映画は、20世紀を「映像の世紀」と言わしめるほど、近代という時代の「もの見かた」と深くかかわってきた。映画というメディアが近代において果たした役割を歴史的に振り返り、映画とはどのような表現なのかをあらためて考えながら、同時に映像作品によって語られた近代とはどのような時代なのかを考える。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 映画論の全体像 3. 映画を理解するとは何か 4. 映画の技術と歴史 5. 映画の文法 6. 映画の記号論 7. サイレント映画の時代 8. 「国民の創生」の話法 9. 「カリガリ博士」と前衛芸術 10. 「戦艦ポチョムキン」とモンタージュ 11. シナリオの構造 12. 映画の中の日本 13. 「東京物語」と戦後の日本 14. 「カルメン故郷に帰る」 15. まとめ
----------	---

準備学習	中学・高校で履修する程度の基本的な近代史（日本史および世界史）の知識はあるものとして話を進めるので、自信がない場合は自分で復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	実際に映像作品を授業で見させていただくことになるので、欠席すると内容がわからなくなる。上映予定の作品は、マック・セネットの無声映画、「戦艦ポチョムキン」、「市民ケーン」、「東京物語」など。現代のいわゆる娯楽映画作品とは異なるので、その点は承知しておくように。
---------	---

成績評価の方法	授業で適宜提出を求める小レポートによる評価が50%、定期試験期間中に行う筆記試験が50%として算出する。
---------	--

教科書／テキスト	ジェイムズ・モナコ 『映画の教科書一どのように映画を読むか』、フィルムアート社、3,675円。各自あらかじめ購入して、初回の授業に持ってくる。定期試験は教科書持込可とするので、全員教科書を購入する必要がある。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	357701
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	小林 治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	山田洋次が『男はつらいよ』シリーズ（第一作は1969年公開）とは別に、しかし並行して1970年から1980年にかけて松竹で撮った5本の映画がある。三部作シリーズとしての『家族』、『故郷』、『同胞』ならびに『幸福の黄色いハンカチ』、『遙かなる山の呼び声』である。それらの作品は、戦後30年を経て高度経済成長の真ただ中において、喪われつつある日本人および日本の風土の特質を、例えばタイトルの如く、家族、故郷、同胞などの視点から凝視しつつ、その新たな現代における再生の可能性を探っている。これらの営為を眺める中で、戦後の日本が歩んだ道を決定的に方向づけた高度経済成長によって喪ったものを計り、その廃墟からの再生と復活を願う希望について考えてみたい。そのことはきつと、同時にフレッシュマンとして大学に入学したばかりの君たちが、今後、高度経済成長後の現代という時代に生きていく上で、どこにそのスタートラインを置くべきかを考える契機になることだろう。
---------------------	---

授業スケジュール	上記の映画作品を随時、見ながら、また資料等によって時代背景を考察しながら、上記のテーマに迫ってみたい。 (1~2) 山田洋次へ連なるところの時代と人間を凝視する松竹出身映画監督の系譜 (3~5) 戦後高度経済成長の概要・その光と影 (6~7) 『家族』の分析 (8~9) 『故郷』の分析 (10~11) 『同胞』の分析 (12~13) 『幸福の黄色いハンカチ』の分析 (14~15) 『遙かなる山の呼び声』の分析
----------	---

準備学習	開講時に、あらかじめ上記した映画作品以外に取り上げる文学作品や映画作品を指示するので、できるだけ事前に読み、かつ見て授業に出席のこと。
------	---

履修上の留意点	授業時、毎回出席を取る。他の学生の大きいなる迷惑になるので講義途中の退室は厳禁する。
---------	--

成績評価の方法	出題するレポートの内容 (60%) と、出席などに基づく平常点 (40%) とによって、成績評価を算出する。
---------	--

教科書／テキスト	適宜プリントを配布する。
----------	--------------

参考書	授業時に指示する。
-----	-----------

履修コード	357401
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	坂口 博規
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 殆どの学生諸君は最終学校たる本学において、将来の人生設計の途に立ちます。その貴重な4年間を、自覚的に過ごしていただき、充実した学生生活を送っていただくために手助けする科目です。それぞれの専門分野の学問の理解は、実は日本語の理解能力の与かるところ大です。また学習したことを適切にまとめたレポートや論文が要求されることがありますので、適切な日本語表現が必要となります。 (到達目標) 学生生活においても、また卒業して社会に出ても、自己をより正確に且つ効果的に他人に認定されるために、適切な言葉の伝達(日本語表現)を求められることがある。自己の責任の表明、あるいは自己存在の価値を主張する必要がある。例えば就職活動における面接や作文などもそうした状況に当たる。本授業で日本語表現と自己表明が一体のものとなるということを知覚する機会にしてほしいものです。
授業スケジュール	1、授業のガイダンス 2・3、感想文について 4・5、小論文について 6・7、「変身譚」をめぐる①『山月記』 8・9、「変身譚」をめぐる②『夕鶴』 10~12、レポートや小論文の書き方 13~15、作文に必要な技術や知識等
準備学習	日常的にさまざまな種類の文章を読み要約する習慣や、自分の言葉で文章を書く習慣を身に付け、言葉による伝達の意義を自覚的に実践するように努めてほしい。
履修上の留意点	「日本語表現」の知的理解をしてほしい。また言葉による伝達の意義を正しく自覚してほしい。日常目にする新聞などででてる四字熟語や同音異義語や慣用表現などに関心をもってチェックする習慣を持ってほしい。
成績評価の方法	授業の最終日に提出してもらったレポートの成績評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象にする。
教科書/テキスト	授業で配布するプリントを教材とする。
参考書	授業において必要に応じて紹介する。

履修コード	357301
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	鈴木 裕子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) テーマ：自己表現のためのレッスン いろいろな文章を読み、理解する力、自分の意見を筋道立てて説明する力、限られた時間にまとまりある文章を書く力を、実際の作業を通して養う。教材は、今日的な問題を提起しているものを用意するが、受講生のニーズに柔軟に応じたい。 (到達目標) 到達目標は、この講座を通して、自分の言葉で積極的に表現するきっかけをつかむこと。クラス内の多様な学部学科の新生と積極的にコミュニケーションをとること。 なお、この講座のねらいは、自分の考えをわかりやすく発言する力が不足していると思っている人、言葉で表現する力を磨いて今の自分を少しでも変えたいと思っている人、そういう人たちのために、大学での学びに必要な文章力、表現力を養う手助けをするものである。
授業スケジュール	(1) ガイダンス (2~3) アイス・ブレイク、プレゼンテーションその1 (4~6) 身近な材料を読む・要約する・書く (7~8) ディスカッションの方法と実践 (9~11) 調べて書く、プレゼンテーションその2 (12~14) 実用的な文章を書く (15) 総括
準備学習	返却した前回の課題は、そのままにしないでもう一度自分で確認しておくこと。なお、課題は、授業時間内に書き終わらない場合には自宅での作業となる。
履修上の留意点	受講生は、文章を次々と読み、課題を書き、報告することを要求されるので、履修の際にその点を留意すること。 また、この授業の性格上少人数が望ましいので、人数制限をする場合もある。第1回目の授業時に履修許可証を渡すので、受講希望者は必ず最初から出席すること。 なお、履修許可をもらわなかった場合は、WEB登録をしても単位を修得できないので注意すること。
成績評価の方法	毎回の授業時に課する課題で100%評価する。三分の一以上欠席すると単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する(平常点を0点とすることもある)。
教科書/テキスト	プリント教材。
参考書	授業中に必要に応じて指示する。

履修コード	357501
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	園部 幹生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学のおかれた状況は年々変化し、大学生に対する社会的要請も重みを増したものが増えてきている。大学生生活は高等学校までとは異なる点が多いので、充実した学生生活を送るために、また、将来社会に巣立って行くために、心得ておくべきことを体験的・実習的に修得する。自分を知り、社会を知り、将来を見据えて、充実した大学生活を送るために、どのような取り組みをすればよいかを理解し、そのための方法を身に付けることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1 ガイダンス。 2~3大学と大学生生活。 4~7キャリアデザインとライフスタイル。 (自己分析入門・企業分析入門・エントリーシート作成に向けて・面接に向けてetc) 8~11表現法。 (原稿用紙の使い方・漢字と仮名の使い分け・書き言葉と話し言葉・意見文の構成法etc) 12~13レポートの書き方。 14 履歴書の書き方。レポート提出。 15 まとめ。 ただし、受講生の数や志向によって内容やスケジュールを変更することもある。その際は授業時間内に連絡する。</p>
----------	--

準備学習	<p>立派な社会人となるためには、社会を知り、どのように対応していけばよいかを考えられるようになる必要がある。そのために、毎回の授業で、気になる新聞記事をコピーして来て提出することを求める。表現法に関する授業では、合わせて意見文や説明文の提出も求めることがある。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>受講希望者が100名を超える場合は抽選によって履修制限をするので、必ず初回の授業で担当教員の履修許可を受けること。履修許可を受けずにweb登録しても単位を修得することはできないので注意すること。また、50名を超える場合は、表現法に関する添削指導はできないので、その旨を承知のうえで履修すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席点30点、授業時間内提出物30点、時間内提出のレポート40点の割合で評価する。定期試験期間中の試験は行わない。前期最後の授業時間内に追・再試験に相当するレポートに関する伝達を行うので必ず出席すること。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考書	<p>必要があればそのつど紹介する。</p>

履修コード	357001
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	内藤 寿子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ「他者に通じる文章について学ぶ」 文章を書くことに対して、苦手意識や不安を抱えている人のための科目です。到達目標は、大学生活をおくるうえで基本となる、文章力や表現力を身につけ、磨くことです。</p>
授業スケジュール	<p>自分の中に書く内容を探す方法を身につければ、簡単な言葉や知っている知識で、他者に通じる文章を書くことができるようになります。この授業では、書く内容を自分で見つけるトレーニングをし、みなさんが今持っている日本語力で、他者に通じる文章を書くことを目指します。</p> <p>(1) オリエンテーション (2) 読みやすい文章を書くための注意点 その1 (3) 読みやすい文章を書くための注意点 その2 (4) 読みやすい文章を書くための注意点 その3 (5) 自己アピールの方法を学ぶ その1 (6) 自己アピールの方法を学ぶ その2 (7) 自己アピールの方法を学ぶ その3 (8) テーマの選択について学ぶ その1 (9) テーマの選択について学ぶ その2 (10) テーマの選択について学ぶ その3 (11) 内容の展開の方法について学ぶ その1 (12) 内容の展開の方法について学ぶ その2 (13) 内容の展開の方法について学ぶ その3 (14) 内容の展開の方法について学ぶ その4 (15) まとめ</p> <p>なお、履修者の数や志向によって、内容(時事問題なども授業に取り入れるため)やスケジュールを調整する可能性があります。その際は、授業時間内に連絡をします。</p>
準備学習	<p>課題作成のためのメモ作りなどに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします。</p>
履修上の留意点	<p>ほぼ毎回、授業中に課題に取り組んでもらいます。授業内課題の分量は、10000字程度(400字づつめ原稿用紙換算、25枚程度、手書き)になります。基礎力を真剣に身につけたい人、継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。講義と演習を組み合わせた授業形態になりますので、人数制限をする場合があります。第1回目の授業時に履修許可証を渡しますので、受講希望者は必ず出席してください。なお、履修許可証がない場合は、WEB登録をしても、授業を受けられないので注意してください。</p>
成績評価の方法	<p>適宜、授業中に課題をおこないます。A：授業への参加度・授業内課題(50%)、B：学期末の教場試験(50%)をあわせて、総合的に評価をします。</p>
教科書/テキスト	<p>指定なし。適宜プリントを配布します。</p>
参考書	<p>適宜授業中に指示します。</p>

履修コード	357101
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	萩原 義雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>嘗て「国語学基礎」という科目が存在した。逆に「基礎国語学」と呼称してもいた。今横文字化して「フレッシュマン・セミナー」ということになった。日本人である私にとってこのカタカナ文字は刺りにもなじまない。故に何を教え、何を学ぶのかその教育展望が今少し見えていない試行錯誤の状況にあることを茲に前置きする。いわば、何をどう教え何をどう見出すかの相互に確認しながら進めていく授業と云うことになる。換言すればこの科目の一教員である私と複数の学生との共同(=嚮導)授業になる。私なりにその堂塔の心柱(しんぱしら)ともいえる骨格を意味する科目と構えて日本国の大学人にふさわしい「東アジア圏日本語文化交流」に尤も大切な教養を育む時間になればと思う。</p> <p>そこで、高等教育で「何を学んだのか」、まずは教える側と学ぶ側相互に確かめねば成るまい。今の大学教育の第一歩として本学の入学試験に国語・英語・社会(専門科目に細分類)といった三科目が指定され、この試験科目の評価点で合否が決定され、受講なさる方々は大学人として本学の門をくぐってきている。その査定実態の分析は総合的に委員会を通じて実施されているが、この高度な分析結果がどういふものとなっているのか、組織だって教員に伝達されているからこそこの科目の成立に結びついていると信じたい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続き担当責任者説明 日本語の基礎について [PDF版]</p> <p>02の講義内容 日本語文献一般基礎資料の蒐集方法とその取り扱い [PDF版]</p> <p>03の講義内容 日本語字書・辞書、そして参考とすべき専門書の利用とその実際 [PDF版]</p> <p>04の講義内容 「東アジア漢文文化圏」における現在の学術研究レベルと成果 その研究領域の一般活用と手続き [PDF版]</p> <p>05の講義内容 日本語表現の多様さ、美しさを生かす—その1 (手書きそして縦書き) [PDF版]</p> <p>06の講義内容 日本語表現の多様さ、美しさを生かす—その2 (手書きそして横書き) [PDF版]</p> <p>07の講義内容 日本語表現の多様さ、美しさを生かす—その3 (四種類の文字と融合) [PDF版]</p> <p>08の講義内容 日本語表現の多様さ、美しさを生かすその4 (漢語と和語) [PDF版]</p> <p>09の講義内容 日本語表現の多様さ、美しさを生かすその5 (洋語と日本語) [PDF版]</p> <p>10の講義内容 日本語表現の多様さ、美しさを生かすその6 (東アジア漢文文化圏のことば)</p> <p>11の講義内容 日本語表現文章と国際政治社会における文章</p> <p>12の講義内容 文章作成能力開発その1</p> <p>13の講義内容 文章作成能力開発その2</p> <p>14の講義内容 文章作成能力開発その3</p> <p>15の講義内容 期末課題リポートの提出</p>
----------	--

準備学習	<p>「講義の事前事後の取り組み」→「駒澤大学 e-Education : YeStudy」をご利用願います。ここに、関連する事柄を学習する場を用意しました。取り組む取り組みはないは、貴方自身が決めることです。決めたならとことんやり抜く強い意志を持ちましょう。覚えるのではなく身につけていくことにこそ言語文化修得の道が開けています。この資料に関する質疑応答は確実に行っていきます。是非ご参加ください。そして、参加される方は、必ず受信・送信の確実なご自分の携帯メールを登録しておきましょう。休みに学校の登録アドレスだけでは見落とししたり、早急な取り組みがしにくいことがあります。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>※情報機器利用の為、許容の人数制限を実施します。出席も、教場IT管理に依拠しています。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう!また、IDチェックを忘れたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。特に、4週連続して理由なき欠席された受講者については、履修名簿から自動的に抹消します。</p> <p>※講義内容及び連絡事項については、HP (情報言語学研究室) 上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可とします。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>リポート課題を用意します。これを紙出し&FD (ネットへの添付資料) にして、最終締め切り日に提出します。</p> <p>提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。</p> <p>ご自分が調査した関連語句 (書名・人名・用語など) の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。</p> <p>また、総合教育研究学部 (日本文化部門) 掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営していきます。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させていきますのでご承知願います。</p>
---------	---

教科書/テキスト	随時、講義の前後に報知します。
参考書	随時、講義の前後に報知します。
その他	"YeStudy" による講義実習活動を実施!

情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP (情報言語学研究室) 上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

関連リンク	http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
-------	---

履修コード	357801
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	松田 直行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 大学の授業から最大限のものを得たいと真剣に考えている新入生を対象として、大学での学びの基本を確認しながら、〈読む／書く〉、〈話す／聞く〉の日本語によるコミュニケーション能力向上のためのトレーニングを行う。また数名ずつのグループを編成して作業を行い、「共に学ぶ」ためのワークショップを体験する。</p> <p>(到達目標) 大学で何をするのか。卒業後に社会に出て働くための準備として何が必要なのか。こうした問いに対する答えを考える機会を提供することが、この授業の目的である。必要な情報は提供するが、考えるのは受講生自身であり、正解は用意されていない。グループワークで自分の意見を述べ、他人の意見を聞くことを通して、それぞれが自分だけの答えを見つけ出していただきたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 大学で何をするのか 3. コミュニケーションとは何か 4. 言語表現と身体技法 5. キャリア意識と自己表現 6. 教養とは何か 7. 大学の歴史 8. 演劇を通して「社会と人間」を考える 9. リーダーシップとファシリテーター 10. ディスカッションとディベート 11. ケータイ世代のコミュニケーション 12. 情報とメディア・リテラシー 13. 論理的な思考と表現 14. リポートの書き方 15. まとめ
----------	---

準備学習	特に必要としない。
履修上の留意点	大学生活を始めるにあたって、授業にしっかり出席する習慣を身につけていただくためにも、毎回休まずに出席することを前提とする。遅刻の場合は出席と認めない。
成績評価の方法	前期定期試験期間中に論述式の筆記試験を行う。その点数が60%、授業中の提出物による評価が40%として算出する。出席が2/3に満たない場合は単位を取得できない。
教科書／テキスト	指定しない。
参考書	
その他	初回の授業でガイダンスを行うので、必ず出席すること。抽選科目ではないが、少人数制の指導を基本としているので、受講希望者が多い場合は初回の授業で「受講許可証」を発行して履修人数の制限を行う。この「受講許可証」を所持していない場合は、自分で履修登録をしても単位を取得することはできない。

履修コード	357201
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学は、卒業までに一般的に大きく分けて3つのことをするところである。1つは学業に励み、学生生活の集大成として卒業論文作成や国家試験などに合格すること、もう1つは就職をはじめとした卒業後の進路を決定すること、そして最後の1つは学生生活を通してコミュニケーションの取り方を学び人間関係を構築することである。</p> <p>本講義では、さまざまな演習・イベントを通じてこの3つを成就するために必要な基礎知識・一般常識の習得を目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 「相談」する場所 第3回 「課外活動」について 第4回 「受講」と「講義ノート」 第5-6回 「理解と表現」演習 第7-9回 「リサーチ」と「レポート作成」方法 第10-12回 「社会意識」マナーと文書作成 第13-14回 「社会人への一歩」履歴書の作成 第15回 理解度確認・まとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>本講義ではPCを活用する。PC操作の基本はタッチタイピング（手元を見ないで打つこと）である。これはPCに最初に触れたときに適切な指導を受けていないと習得できない。本講義ではこれを完全マスターすることを全員に課し、成果に応じて加点するので、できるだけ早くからPC入力練習ソフトで練習しておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>PC利活用力向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので、常にYeStudyを見る習慣をつけてほしい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席点（20%）、課題点（30%）、KT2000点（30%）、および理解度確認点（20%）の合計</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>担当者が用意する。教材はYeStudy上にアップロードされているので、必要に応じてそれをダウンロードし、使用する。</p>
----------	--

参考書

その他	<p>タッチタイピング（手元を見ないで入力する方法）をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。この授業では、時折実施するタッチタイピングレベル測定（KT2000）結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする／しないは、大きな点差となって顕れる。</p>
-----	--

履修コード	357601
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	湯浅 陽子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>大学は、卒業までに一般的に大きく分けて3つのことをするところである。1つは学業に励み、学生生活の集大成として卒業論文作成や国家試験などに合格すること、もう1つは就職をはじめとした卒業後の進路を決定すること、そして最後の1つは学生生活を通してコミュニケーションの取り方を学び人間関係を構築することである。</p> <p>本講義では、さまざまな演習・イベントを通じてこの3つを成就するために必要な基礎知識・一般常識の習得を目指す。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス 第2回 「相談」する場所 第3回 「課外活動」について 第4回 「受講」と「講義ノート」 第5-6回 「理解と表現」演習 第7-9回 「リサーチ」と「レポート作成」方法 第10-12回 「社会意識」マナーと文書作成 第13-14回 「社会人への一歩」履歴書の作成 第15回 理解度確認・まとめ</p>
準備学習	<p>本講義ではPCを活用する。PC操作の基本はタッチタイピング（手元を見ないで打つこと）である。これはPCに最初に触れたときに適切な指導を受けていないと習得できない。本講義ではこれを完全マスターすることを全員に課し、成果に応じて加点するので、できるだけ早くからPC入力練習ソフトで練習しておくこと。</p>
履修上の留意点	<p>PC利活用力向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので、常にYeStudyを見る習慣をつけてほしい。</p>
成績評価の方法	<p>出席点（20%）、課題点（30%）、KT2000点（30%）、および理解度確認点（20%）の合計</p>
教科書／テキスト	<p>担当者が用意する。教材はYeStudy上にアップロードされているので、必要に応じてそれをダウンロードし、使用する。</p>
参考書	
その他	<p>タッチタイピング（手元を見ないで入力する方法）をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。この授業では、時折実施するタッチタイピングレベル測定結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする／しないは、大きな点差となって顕れる。</p>

履修コード	357811
科目名	フレッシュマンセミナー
担当者名	湯浅 陽子

授業概要/
到達目標（ねらい）

大学は、卒業まで一般的に大きく分けて3つのことをするところである。1つは学業に励み、学生生活の集大成として卒業論文作成や国家試験などに合格すること、もう1つは就職をはじめとした卒業後の進路を決定すること、そして最後の1つは学生生活を通してコミュニケーションの取り方を学び人間関係を構築することである。
本講義では、さまざまな演習・イベントを通じてこの3つを成就するために必要な基礎知識・一般常識の習得を目指す。

授業スケジュール

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「相談」する場所
- 第3回 「課外活動」について
- 第4回 「受講」と「講義ノート」
- 第5-6回 「理解と表現」演習
- 第7-9回 「リサーチ」と「レポート作成」方法
- 第10-12回 「社会意識」マナーと文書作成
- 第13-14回 「社会人への一歩」履歴書の作成
- 第15回 理解度確認・まとめ

準備学習

本講義ではPCを活用する。PC操作の基本はタッチタイピング（手元を見ないで打つこと）である。これはPCに最初に触れたときに適切な指導を受けていないと習得できない。本講義ではこれを完全マスターすることを全員に課し、成果に応じて加点するので、できるだけ早くからPC入力練習ソフトで練習しておくこと。

履修上の留意点

PC利活用力向上を図るため、YeStudyを利用し授業を進める。授業に関する担当者からの連絡や出席管理、受講者の教材のダウンロードおよび課題提出等、重要なやり取りを全てYeStudy上で行うので、常にYeStudyを見る習慣をつけてほしい。

成績評価の方法

出席点（20%）、課題点（30%）、KT2000点（30%）、および理解度確認点（20%）の合計

教科書／テキスト

担当者が用意する。教材はYeStudy上にアップロードされているので、必要に応じてそれをダウンロードし、使用する。

参考書

その他

タッチタイピング（手元を見ないで入力する方法）をマスターするための授業外練習を課す。総合情報センター自習室PCに入っている入力練習ソフトTypequick Professionalで各自練習を進めること。この授業では、時折実施するタッチタイピングレベル測定(KT2000)結果が評価に直結するので、TQの授業外練習をする／しないは、大きな点差となって顕れる。

履修コード	342601
科目名	文学〔日本文学〕
担当者名	阿部 昌子

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>国文学の歴史上、女性が書いた物語・随筆・日記等はいくつかに読まれてきた。この授業では女性が作者の古典作品をいくつか取り上げ、その感性や人物像を交え、本文を読解していく。又、女性が描かれている物語にも目を向け、どのような女性像が描かれているのかを考える。</p> <p>(到達目標)</p> <p>到達目標は、古典を読み、その本文の内容を正確に解釈することができるようになることである。更に作者の感性や人物像を本文のどこから読み取ることができるのか判断する力を習得し、描かれている女性像から、女性に対してどのような意識が持たれていたのかを考えてもらいたい。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: ガイダンス 2: 文字の発達—仮名文ができるまで 3: 文学史の総復習—上代から近世まで 4: 清少納言と紫式部(1)—その生涯を知る 5: 清少納言と紫式部(2)—『紫式部日記』を読む 6: 清少納言と紫式部(3)—『枕草子』を読む 7: 清少納言と紫式部(4)—続き 8: 日記を読む(1)『土佐日記』—「女性が語る」という設定の効果 9: 日記を読む(2)『蜻蛉日記』—事実を綴った藤原道綱母 10: 日記を読む(3)『更級日記』—『源氏物語』への憧れと現実 11: 日記を読む(4)—まとめ 12: 『伊勢物語』を読む(1)—「女」の人物像を考える 13: 『伊勢物語』を読む(2)—続き 14: 『伊勢物語』を読む(3)—「女」に対する意識を考える 15: 『伊勢物語』と『大和物語』—傾向の違いを知る 16: 『平家物語』を読む(1)—「祇王」女性の出家について 17: 『平家物語』を読む(2)—「灌頂巻」女性の出家について 18: 『平家物語』を読む(3)—「小宰相」女性の自害について 19: 『平家物語』を読む(4)—乱世の女性たちの生き方を知る 20: 『平家物語』を読む(5)—続き 21: 『建礼門院右京大夫集』を読む(1)—恋人への思いを読み取る 22: 『建礼門院右京大夫集』を読む(2)—続き 23: 怪異と女性(1)—『伽婢子』 「牡丹灯籠」を読む 24: 怪異と女性(2)—続き 25: 怪異と女性(3)—『雨月物語』 「吉備津の釜」を読む 26: 怪異と女性(4)—続き 27: 古典作品と芸能—芸能における女性像 28: 古典作品と芸能—続き 29: 古典文学と現代文学—古典作品からの影響を見る 30: 古典文学と現代文学—続き
----------	---

準備学習	講義で扱う作品はプリントで事前に配布するので、必ず一度は読んでおくこと。又、読み方や意味がわからない語句を古語辞書等で調べておくこと。余裕があれば国語便覧等で作品や作者について確認しておくとなお良い。
------	--

履修上の留意点	一作品に複数の時間を割く場合が多いので、欠席はしないようにすること。
成績評価の方法	定期試験の成績60%、レポート20%、小テスト10%、授業への参加意欲10%
教科書/テキスト	講義の際、プリントで配布する。
参考書	講義の際、口頭で指示する。

履修コード	342501
科目名	文学〔日本文学〕
担当者名	池田 大輔
授業概要/ 到達目標（ねらい）	平安時代を代表する作り物語の『源氏物語』を扱う。講義の主眼は、『源氏物語』の流れと作品世界、物語世界の土壌となった平安時代の文化や風習を学ぶことである。物語の流れだけではなく、作中人物の相関関係や巻名の由来、作中に詠まれた和歌など原文を鑑賞し、1000年もの間読み継がれてきた「ことば」によって紡ぎ出される豊かな世界観を味わう講義である。取り扱う巻は、最初からではなく、晩年の光源氏を語る巻から読んでいく。 また、『源氏物語』を通して、日本人らしさの追求・発見を目的とし、豊かな社会人となるための知識・考える力を身に付けてもらいたい。更には、物語世界の中心となる京都への関心も高めてもらいたい。 扱う文章には、現代語訳を付けるので、古文単語が分からなくても大丈夫です。
授業スケジュール	1) ガイダンス 2) 源氏物語が作られた時代（平安時代）について 3) 紫式部と源氏物語 4) 「桐壺」～「少女」巻までの概要 5) 「玉鬘」巻（第22の巻、光源氏とその娘） 6) 「初音」巻（第23の巻、光源氏ともう一人の娘） 7) 「胡蝶」巻（第24の巻、父としての光源氏） … 「幻」巻（光源氏の死） ※以降、順次巻順に数場面ずつ取り上げて読み進める。 5/4帖全ては扱わない。光源氏の老いから死まで衰えゆく光源氏の姿を追う。
準備学習	どのようなものでも構わないので『源氏物語』がどのような作品なのか、自分なりの作品理解をしておくこと。大学入試程度の知識で構わない。 講義を通して、自分の作品理解との一致、相違を感じてもらいたい。
履修上の留意点	現代語訳や漫画（『あさきゆめみし』）などでよいので、事前に読んで内容を知っておくと原文の楽しさ豊かさをより深く知識として身に付けられる。また、学期末には試験を行うので、配布プリントを整理しておくこと。出席重視なので、授業中に私語をしている者は退出してもらう（出席扱いとして認めない）。
成績評価の方法	出席状況（60%）と試験（40%）などにより評価します。
教科書／テキスト	毎時間、プリントを配布します。
参考書	『源氏物語』（新編日本古典文学全集、小学館）（新日本古典文学大系、岩波書店） （新潮日本古典集成、新潮社）など 三田村雅子『源氏物語 物語空間を読む』（ちくま新書） 秋山虔『源氏物語』（岩波新書）

履修コード	342701
科目名	文学〔日本文学〕
担当者名	伊藤 達氏
授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要） この授業では松尾芭蕉の紀行文『おくのほそ道』を読む。『おくのほそ道』を一年間精読することで、この作品の文章・俳句（発句）の表現性に迫り、芭蕉の創造した世界へ踏み込む。また芭蕉にとって『おくのほそ道』の旅はどのような意義を持っていたのか、ということについても考察の対象にする。 （到達目標） 芭蕉は旅の詩人と言われるが、この紀行文は実際の旅をそのまま記したものではない。この講義では文学作品としての『おくのほそ道』を読み解くため、芭蕉が経験した旅と芭蕉が創造した旅との差異を読み取り、その上で多角的に本作品を鑑賞する。また『おくのほそ道』には記載されていない旅行中に作られた文章・発句なども読むことにより、総合的に本作品への理解を深める。
授業スケジュール	第1回：本授業のガイダンスと松尾芭蕉の生い立ち、第2回：芭蕉の江戸行きと江戸時代初期の俳諧、第3回：芭蕉の転換期（深川隠棲）、第4回：芭蕉の紀行文について、第5回：『おくのほそ道』を読む（序章について）、第6回～第29回『おくのほそ道』を順次読み進めていく。第30回：今年度の授業のまとめ。
準備学習	講義で取り上げる部分を事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	欠席が三分の一に達した者は単位を認定しない。疑問に思った事があれば積極的に質問して下さい。
成績評価の方法	学期末のレポート（8割）を主とし、授業内で提出を求めるレポート（2割）を基本的に評価する。出席状況も加味する。
教科書／テキスト	萩原恭男校注『芭蕉おくのほそ道』岩波文庫、735円、ISBN4-00-302062-6
参考書	使用しない。適宜プリントと資料を配布する。
その他	なし

履修コード	206701
科目名	文学〔日本文学〕
担当者名	川島 淳史
授業概要/ 到達目標（ねらい）	日本の近代文学はどのような変遷を経て成立していったのか。明治という時代の世界史的背景と国内外の状況を見据えつつ、近代文学の成立過程を辿るとともに、文学にあらわれた社会の諸問題について講ずる。
授業スケジュール	<p>今年度は明治十年代から三十年代にかけての文学作品を通して、明治という時代をとらえ直してみたい。特に日清戦争前後の有名な作品を読み進めながら、日本の近代化における諸問題を明らかにしていきたいと考えている。また、近代国家の成立が国民の意識をどのように変えていったのかも、当時の社会的・文化的コンテクストの中から浮かび上がらせていきたい。したがって、小説だけではなく、当時の新聞や雑誌の記事なども随時読み進めていく予定である。なお、講義の大まかな流れは次の通り。</p> <p>(1) ガイダンス、(2)～(3) 啓蒙思想と戯作文学、(4)～(5) 翻訳小説・政治小説、(6)～(7) 坪内逍遙『小説神髓』、(8)～(9) 森鴎外『舞姫』、(10)～(12) 樋口一葉の小説、(13)～(16) 観念小説・悲慘小説、(17)～(19) 国木田独歩の小説、(20)～(24) 田山花袋・島崎藤村の小説、(25)～(29) 初期夏目漱石の小説、(30) まとめ</p>
準備学習	講義で予告された作品は、必ず読んでおく。文庫本で入手できるものは各自購入してもらう。入手困難なものについては、授業時にプリントを配布する。授業の中で作品を読んだ感想を書いてもらうこともあるので、出席する以上は必ず通読しておくこと。
履修上の留意点	この講義では、可能な限り多くの作品を取り上げたいと考えている。当然のことながら、予告された作品や配布されたプリントは事前に読んでおき、受講する際は必ず携帯しておくこと。（プリントが多いので、ファイルなどを用意しておいた方がよい。）また、受講後は各自紹介された文献にあたり、レポート作成の準備をしておくことが必要。 欠席が三分の一に達した者は単位を認定しない。授業中の私語は慎むこと。態度の悪い学生には退室してもらう。なお、授業中の無断退席は堅く禁ずる。
成績評価の方法	講義で問題提起した事柄を各自考察し、レポートを作成する。前期・後期のレポート提出と授業時に実施する小テスト、出席状況および感想文等によって評価する。レポートは提出期日を過ぎてしまった場合は受け取らないので注意すること。なお、授業態度の不真面目な者や私語の多い者は、レポートや出席状況がよくても単位不認定となることがある。
教科書／テキスト	詳しくは最初の時間に指示する。文庫本・プリントを用いる予定。
参考書	その都度、講義の中で指示する。

履修コード	206901
科目名	文学〔日本文学〕
担当者名	坂口 博規

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 日本の古典文学の中でも「旅・旅人の文学」を取り上げる。特に「漂泊・漂泊者」の文学性を考察する。漂泊者たちとは疎外されて中央・都あるいは体制から脱落したり、あるいは自ら求めて中央・体制を脱出してゆく者あるいは自己存在の追求者たちであり、謂わば日本人好みの「さすらいの旅・旅人像」を考察したい。</p> <p>(到達目標) 各時代の代表的な旅人の考察を通して、その歴史的背景とか思想的背景とか旅人の意識の深層を理解してほしい。一方「さすらいの旅・旅人像」に寄せる日本人の共感精神の深層には「人生＝旅」といった思想が認められる。しかし決してこれは日本独自の精神でないことは、外国のヘルマン・ヘッセやボードレールやカール・ブッセの詩の存在からも知るところである。「さすらい人」への共感・愛好の精神の深層を理解してほしい。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1、古典文学における「旅・漂泊」の例を紀行文学の歴史を通して概観 2～5、「さすらい人・さすらい」の文学、その精神の深層世界 6～9、漂泊者としてのヤマトタケル像 10～12、昔男（在原業平）の東下り 13～17、西行の旅 18～20、阿仏尼の鎌倉下向 21～24、後深草院二条の旅 25～28、芭蕉の旅 29～30、近代の放浪者等々</p>
----------	--

準備学習	<p>特に事前に準備することはないが、漂泊・彷徨・流浪など「さすらい」あるいは「さすらい人」への憧憬は洋の東西や時代の新古を問わず根強い伝統を形成しており、こうした漂泊者への関心も高い。ある者は異邦人として、ある者は求道者として漂泊生活に自己追求の方法を求めている。そうした自己追求の在り方なども理解するよう努めてほしい。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>授業は適宜配布するプリント教材によって講義形式で行う。プリントはレポート作成の資料となるものであるから、出席に努めてほしい。古文作品をもとに授業をするので、注釈書で口語訳などを確認してほしい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>授業の最終日に提出してもらってレポート評価80%に、平常点を20%に換算して加算対象とする。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>授業時に配布するプリントを教材とする。</p>
----------	----------------------------

参考書	<p>授業時に適宜紹介する。</p>
-----	--------------------

履修コード	206601
科目名	文学〔日本文学〕
担当者名	塩崎 真理子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>中古文学を他の時代の様々な作品と比較しながら読む。「話型」をテーマとして、『大和物語』をはじめ『伊勢物語』『今昔物語集』『源氏物語』などの作品を、その後の時代の文学作品などと比較しながら講義を進めていく。「話型」という観点で幅広い時代の作品を読み、古典作品から見えてくるものとは何かを考えていく。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1) ガイダンス 2) 文学史 3) 生田川伝説 4) 蘆刈伝説 5) 采女入水譚 6) 龍田山伝説 7) 安積山伝説 8) 娘捨山説話 9) 三輪山伝説 10) 二人妻説話 11) 二人夫説話</p>
----------	--

準備学習	<p>単元毎の小レポートとして課題となった話の概要を理解し話型をまとめ、様々な作品と比較検討していく。考察する比較作品は各自の用意となるので、身の回りにあふれている作品に対する関心を継続することが必要である。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>古典文学の知識は必要ないが、各話型が現代の様々なジャンルの作品にどのように影響しているのか問題意識をもって授業にのぞんでほしい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席状況と授業時の小レポート、課題レポートによって評価する。</p>
---------	---------------------------------------

教科書／テキスト	<p>授業時に、プリントを配布する。</p>
----------	------------------------

参考書	<p>適宜、教場で指示する。</p>
-----	--------------------

履修コード	207001
科目名	文学〔日本文学〕
担当者名	鈴木 裕子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) テーマ：日本版シンデレラ物語を読む 『落窪物語』（抄出）と『住吉物語』（抄出）を読みながら、長く読み継がれてきた古典の意義や、現代につながる生き方の問題を考える。 (到達目標) この講義の到達目標は、古典文学のおもしろさを味わい、現代の私たちが古典を読み継いでゆくことの意味を確認すること。代表的な古典文学に触れて、日本文化の伝統と創造について理解を深めること。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) ガイダンス・『落窪物語』について (2~3) 落窪の姫君の生い立ち (4~7) 継子いじめの展開 (8~11) 「報復」の意味 (12~14) 『源氏物語』と『落窪物語』 (15) 前期の総括 (16) ガイダンス・『住吉物語』について (17~18) 住吉の姫君の生い立ち (19~22) 継子いじめの展開 (23~26) 姫君の試練・男君の試練 (27~29) 観音靈験譚について (30) 後期の総括</p>
----------	--

準備学習	予め配布するプリントに（現代語訳の部分だけでも）目を通しておくとよい。
------	-------------------------------------

履修上の留意点	授業は主として講義形式であるが、毎回コメントの提出を課する。なお、コメントの内容によっては出席点としてカウントしないこともある。
---------	--

成績評価の方法	前期末および後期末に課するレポート（論題等は授業時に提示）80%、平常点（出席状況と毎回のコメントの内容）20%。なお、三分の一以上欠席するとレポート提出資格を失い、単位修得は認められない。授業中の私語や途中退室、「代返」等には厳しく対処する（平常点を0点とすることもある）。
---------	--

教科書／テキスト	プリント教材。
----------	---------

参考書	<p>新日本古典文学大系『落窪物語・住吉物語』（1989 岩波書店） 新編日本古典文学全集『落窪物語・堤中納言物語』（2000 小学館） 新編日本古典文学全集『住吉物語・とりかへばや物語』（2002 小学館） 角川ソフィア文庫『新版 落窪物語 上・下』（2004 角川書店） その他、授業時に指示する。</p>
-----	---

履修コード	207301
科目名	文学〔英語文学〕
担当者名	高野 秀夫

授業概要/ 到達目標（ねらい）	イギリス自然主義女流作家、ジョージ・エリオットの作品『サイラス・マーナー』を詳細に読んで、キリスト教社会に生きる主人公の様々な問題、孤独、神、金、慈愛、偶然等を取り上げ、人生と文学について考察します。また英語読解力の増強にも努めます。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>主人公のサイラス・マーナーは親友、恋人、そして仲間にも裏切られ、さらに神をも信じられなくなる。そして長年住み慣れた故郷の町からラヴィロウ村に移る。金を貯めることが唯一の楽しみになり、ついに天涯孤独な守銭奴になる。16年後その金も盗まれ、絶望の淵をさ迷う。その時たまたま迷い児が家に転がり込んでくる。サイラスはその児をエビーと名付けて豊かな自然の大地の中で暮らす。一生懸命子供を育てることで村人たちの温かな心に触れ、生きることの素晴らしさを知る。そして素直で可愛い娘に成長したエビーと幸せな人生を送る。この物語を読みながら文学と人生について考察します。</p>
----------	--

前期は主人公を中心に登場人物たちの様々な生き方を考えながらの作品講読。
 後期はさらに作品を読み進め、最後にテーマごとのグループに分かれての口頭発表。

準備学習	Natural Speed の英文の読みと聞き取り、平易な英文作成さらに英語による質疑応答があるので、予習はしっかりしておくこと。
------	---

履修上の留意点	ロンドンを中心とした現代イギリスの諸事情さらに英文の読み物に眼を向けて、より広い視野で社会の中で生きることの意義を問う機会を多く持つこと。
---------	---

成績評価の方法	レポート、口頭発表、平常点（出席、授業への取り組み等）による総合評価
---------	------------------------------------

教科書／テキスト	『サイラス・マーナー』岩波文庫 ISBN4-00-322361-6
----------	-----------------------------------

参考書	授業時に適宜紹介します。
-----	--------------

その他	出席には、特に注意すること。
-----	----------------

履修コード	207701
科目名	文学〔日本文学〕
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ「近現代日本文学入門」</p> <p>文学作品を読み解いていくことで、近現代日本におけるさまざまな問題について考えていきます。文学作品を読むことの難しさと楽しさを味わいながら、既知の言葉であるはずの日本語との新鮮な出会いを体験してもらえればと考えています。</p> <p>到達目標は、「文学作品の魅力」を言語化し、いまだその作品と出会っていない読者に「文学作品の魅力」をプロデュースできる能力を身につけることです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>作品を具体的に分析しながら、近現代日本文学の特徴について学びます。</p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>(2) 近現代日本文学と語り手 その1 (『吾輩は猫である』ほか)</p> <p>(3) 近現代日本文学と語り手 その2</p> <p>(4) 近現代日本文学と語り手 その3</p> <p>(5) 近現代日本文学と「場」 その1 (『坊ちゃん』ほか)</p> <p>(6) 近現代日本文学と「場」 その2</p> <p>(7) 近現代日本文学と「場」 その3</p> <p>(8) 近現代日本文学と主体の表現方法 その1 (『十二人の手紙』ほか)</p> <p>(9) 近現代日本文学と主体の表現方法 その2</p> <p>(10) 近現代日本文学と主体の表現方法 その3</p> <p>(11) 近現代日本文学と発表媒体 その1 (『オール読物』ほか)</p> <p>(12) 近現代日本文学と発表媒体 その2</p> <p>(13) 近現代日本文学と発表媒体 その3</p> <p>(14) 近現代日本文学と流通 その1 (書店の歴史ほか)</p> <p>(15) 近現代日本文学と流通 その2</p> <p>(16) 近現代日本文学と流通 その3</p> <p>(17) 近現代日本文学と流通 その4</p> <p>(18) 近現代日本文学の物質的要素 その1 (装丁家の役割ほか)</p> <p>(19) 近現代日本文学の物質的要素 その2</p> <p>(20) 近現代日本文学の物質的要素 その3</p> <p>(21) 近現代日本文学の物質的要素 その4</p> <p>(22) 近現代日本文学におけるテーマの諸問題 その1 (池井戸潤ほか)</p> <p>(23) 近現代日本文学におけるテーマの諸問題 その2</p> <p>(24) 近現代日本文学におけるテーマの諸問題 その3</p> <p>(25) 近現代日本文学における作家の系譜 その1 (有吉佐和子ほか)</p> <p>(26) 近現代日本文学における作家の系譜 その2</p> <p>(27) 近現代日本文学における作家の系譜 その3</p> <p>(28) 世界の中の日本文学 その1 (星新一ほか)</p> <p>(29) 世界の中の日本文学 その2</p> <p>(30) まとめ</p> <p>なお、履修者の数や志向によって、内容(時事問題なども授業に取り入れるため)やスケジュールを調整する可能性があります。その際は、授業時間内に連絡をします。</p>
----------	--

準備学習	課題作成のためのメモ作りや書籍の選択などに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします。
------	--

履修上の留意点	前期末課題及び学年末課題のほか、授業内課題をおこないます。授業内課題の分量は、通年で10000字程度(400字づつめ原稿用紙換算、25枚程度、手書き)になります。継続して課題をおこなう意志のある人のみ、登録してください。また、担当者の一方的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。抽選登録科目ですので、注意して登録してください。
---------	---

成績評価の方法	授業中に課題をおこないます。A：授業への参加度・授業内課題(50%)、B：前期末のレポート(25%)、C：学年末の教場試験(25%)をあわせて、総合的に評価をします。
---------	---

教科書／テキスト	指定なし。適宜プリントを配布します。
----------	--------------------

参考書	適宜授業中に指示します。
-----	--------------

履修コード	207201
科目名	文学〔日本のことば〕
担当者名	萩原 義雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	広く日本語の特徴についてを学ぶことで、学習者自身が修得してきた国語全般に渉る教養を再度この講義を通して確認していくことにより、自分が気づいていたこと、気づかずにいたことを含めて、自身の有する教養をより高めていくことを目標に授業を進めていく。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続について担当責任者説明 国語・国文学作品に於ける研究とその展開</p> <p>02の講義内容 和語と漢語</p> <p>03の講義内容 漢字教育にみる日本語(「常用漢字表」の行方)</p> <p>04の講義内容 国語辞書(近代国語辞書、大槻文彦編『大言海』)</p> <p>05の講義内容 漢和辞書(近代漢和辞書、諸橋轍次編『大漢和辞典』)</p> <p>06の講義内容 地名辞書(近代地名辞書、吉田東伍編『大日本地名辞書』)</p> <p>07の講義内容 植物辞書(近代植物辞書、牧野富太郎編『日本植物大辞典』)</p> <p>08の講義内容 和英辞書(近代英和辞書、齋藤秀三郎編『齋藤和英大辞典』)</p> <p>09の講義内容 明治近代語の研究、雑誌『太陽』を読む</p> <p>10の講義内容 大正近代語の研究、芥川龍之介著作集を読む—自筆原稿作品と活字TXT</p> <p>11の講義内容 昭和現代語の研究、宮澤賢治著作集を読む—自筆原稿作品と活字TXT</p> <p>12の講義内容 昭和現代語の研究、井上靖著作集を読む—自筆原稿作品と活字TXT</p> <p>13の講義内容 昭和現代語の研究、開高健著作集を読む—自筆原稿作品と活字TXT</p> <p>14の講義内容 平成現代語の研究、村上春樹著作集を読む</p> <p>15の講義内容 絵本と言語《楠山正雄著『牛若島めぐり』》</p> <p>16の講義内容 漫画・アニメにみることばの言語表現—日本漫画と外国文化世界—</p> <p>17の講義内容 書と活字言語—井上ひさし『東京セブンローズ』を中心に—</p> <p>18の講義内容 近現代語の研究—色彩感覚表現—</p> <p>19の講義内容 音韻を響きと弾み—『伴大納言絵巻』から聞こえる音の世界再現—</p> <p>20の講義内容 日本語の名言諺慣用語—ことわざ集—</p> <p>21の講義内容 文字の不思議さ(漢字、かな・カナ、ローマ字)—「景観文字」に見る日本—</p> <p>22の講義内容 豊富な語彙を学ぼう(『分類語彙表』)</p> <p>23の講義内容 言語遊戯「パロディ」化の作品とは</p> <p>24の講義内容 文字遊び(回文・逆さことば・しりとり等)</p> <p>25の講義内容 身近な生活のことばから文法を知る</p> <p>26の講義内容 文章体の特徴を知ろう—翻訳語文(『西遊記』)—</p> <p>27の講義内容 日本語の系統とその成立</p> <p>28の講義内容 言語生活からみた新聞記事・雑誌—「クリスマス・イブ」—</p> <p>29の講義内容 共通語と方言語はどうか変容していくのか—『日本言語地図』を読む—</p> <p>30の講義内容 日本語の文章 愈々、独り立ち</p>
----------	--

準備学習	まず本を読もう！そして、知りたい聞きたい見たいものを見つけ出そう。
履修上の留意点	<p>※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう！また、IDチェックを忘れていたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。</p> <p>※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても対応可とします。</p>

成績評価の方法	<p>成績評価方法</p> <p>月毎に上記項目を常にふまえた上で、報告書を提出し内容を発表してもらいます。個人が年間分析する上記報告書における私からの質問を受けて、各自それぞれ提出してもらいます。提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号、氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。</p> <p>ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。</p> <p>また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させて行きますのでご承知願います。</p>
---------	---

教科書/テキスト	URL http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi を使用する。
参考書	『紀田順一郎著作集』第6巻-知の職人たち/生涯を賭けた一冊-【三一書房1997刊】
その他	<p>“YeStudy”による講義実習活動を実施！情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。</p> <p>情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。</p>

関連リンク	http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
-------	---

履修コード	207401
科目名	文学 [ラテンアメリカ文学]
担当者名	真下 祐一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 20世紀イスペインアメリカの二大詩人、メキシコのオクタビオ・パスとアルゼンチンのホルヘ・ルイス・ボルヘスの詩論を追いながら、両詩人および他の代表的な詩人たちの作品を読む。背景としてのラテンアメリカという地域の特色の理解を促す。</p> <p>(到達目標) 近・現代ラテンアメリカ文学における詩の重要性を理解する。文学史的な知識の提示にとどまらず、とくに詩論が孕む、言語と人間、社会と人間、歴史と人間といった大きなテーマに関する、広い人間論にとっての提議を浮き彫りにしていきたい。詩について語るということは、曖昧な感想を述べるということではない。この地域の歴史的な特色が文学作品の読解にどう関わってくるのかを考えながら、読者と読者が生きる時代の関係についての考察を促す。スペイン語詩にかぎらず、詩作品を読むための準備にこの授業が役立つことを期待する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入-イスペインアメリカ文学とは？ 2. モデルニスモI 3. モデルニスモII 4. モデルニスモIII 5. モデルニスモIV 6. モデルニスモV 7. 前衛詩の時代I 8. 前衛詩の時代II 9. 前衛詩の時代III 10. 前衛詩の時代IV 11. 前衛詩の時代V 12. オクタビオ・パスについて 13. パスの詩論I 14. パスの詩論II 15. 前期理解度の確認 16. パスの詩論III 17. パスの詩論IV 18. パスの詩論V 19. パスの詩論VI 20. パスの詩論(まとめ) 21. ホルヘ・ルイス・ボルヘスについて 22. ボルヘスの詩論I 23. ボルヘスの詩論II 24. ボルヘスの詩論III 25. ボルヘスの詩論IV 26. ボルヘスの詩論V 27. ボルヘスの詩論VI 28. ボルヘスの詩論(まとめ) 29. イスペインアメリカとその詩 30. 後期理解度の確認
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に指示されるテキストを読んでおく。 ・積極的な発言が求められるので、意欲的に授業に取り組む。 ・自分が知的関心をいだいていることと、この授業で扱うテーマを結びつけられるよう努める。 ・スペイン語圏のニュースに注意している。 ・毎回、授業内容について各自が考えることや質問・感想を書いてもらう。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中扱っているテーマについての積極的な発言を求めます。 ・毎回資料を配布しますのでしっかりとっておいてください。 ・遅刻、欠席をしない。
---------	--

成績評価の方法	授業参加40%、試験60%。
---------	----------------

教科書／テキスト	<p>オクタビオ・パス『弓と壺琴』岩波文庫 ISBN 978-4-00-327971-7 1140円＋税 ホルヘ・ルイス・ボルヘス『詩という仕事について』岩波文庫 ISBN 978-4-00-327925-0 660円＋税</p>
----------	--

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

履修コード	210801
科目名	倫理学〔価値観〕
担当者名	麻生 享志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間の生き方と密着する、また、学問としての「本当の倫理学、本物の倫理学」に近づくための案内をする。 自己の人生の問題を考えるきっかけを得る。そして、その追い求め方のヒントもさがす。 倫理学や、人生を考える上で有益な書物を読む、読み方を説明する、など。
---------------------	---

授業スケジュール	(1)倫理学とは何か(2-3) 非実害非露見行為・不倫の「問題」(4-7) 東洋哲学という謎・更なる謎 儒教・道教と仏教へ・西洋哲学の化けの皮(カントの光と闇)(8-12) サバイバルロッターリー・ 脳死文化論・山のパラドックス・医療諸行為の語り方・自己の死(13-18) 大学生としての自覚・ 囚人のジレンマ(合理的思考)・旅の思想・娯楽と快楽・住所「不定」の反対・結婚(性と恋愛) (19-23) もうけと労働(経済思想)・コンピュータ社会・神の存在証明・保守思想の可能性・ 民主主義社会の政治参加(24-27)「ピュリダンのロバ」から・倫理のリアルさ(交通の倫理)・ 都市(江戸期の「分」)・縁故存在を問う(28-30) 虚無と絶望・生きがい論・基本2徳を「決める」 (一年の講義のまとめ)
----------	---

準備学習	講義に対する、その都度の準備学習は特にありません。
履修上の留意点	最低限の常識的なルールを守ってもらい、あとは、興味に応じて講義を聞く事を“楽しんで” もらいたいと思っています。

成績評価の方法	成績は、出席等による平常点(約3分の1)、前・後期試験および5月連休明け提出レポート および夏休み明け提出のレポート(約3分の2)によって評価します。特に、2度の試験と2度 のレポート提出の4条件を満たさない場合、単位は出ません。
---------	---

教科書/テキスト	久保・河谷編、麻生ほか著『原典による哲学の歴史』(公論社刊)3200円
参考書	麻生著『ジョン・デューイにおけるプラグマティズムの真理観の研究』(コンテンツ・ワーク ス社「ブック・パーク」によるインターネットのオン・デマンド出版)は、講義の内容に直接に 関係するものとして紹介します。その他講義に直接必要なものは、原則としてコピーを配布し ます。他に読むべきものは、講義中において詳細に紹介するので、自己の興味に合せて読み進め られたい(下欄「その他」の説明も参照)、と思います。

その他	大学という学問の場においては、講義内容を聞いて理解し、内容を記憶するだけでは、十分で はありません。自分で検討し、疑い、考えることが絶対必要であると考えます。そのために、 自分で本を読んだり、調べたりという作業が加わるでしょう。意欲ある取り組みと、徹底的に自 分の頭で考える姿勢を求めます。 初日はガイダンスとし、定時に開始し、5分間程度、資料を配布して質問を受け付けます。 (その後は、雑談的内容にあてる予定で、退出自由。)この時配布する資料は、履修に必要なです ので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。このガイダンス資料配布および質問受付 は、支障の生じない限り、初回授業終了時5分程度にも行う予定です。
-----	--

履修コード	210701
科目名	倫理学〔応用倫理学〕
担当者名	黒崎 剛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「倫理」というのは、人間が世界の中で、世界に対して振る舞う上にさいして基準とする「規 範」-「価値」や「義務」、「習慣」といったの正当性を問うものである。だから「倫理学」と いうのは、自分が行動するに際して自覚的・無自覚的にとっている規範が半端なものではない か、みずから検証するという課題を持っている。ところで、科学技術、そして最近の生命科学の 驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものとなっていた多くの「価値」 「規範」がその地位を失おうとしている。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ 二、三十年の間に起った変動にともなって提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫 理」をテーマとする。
---------------------	---

授業スケジュール	「生命倫理」の諸問題のうち、以下のテーマを取り上げる予定 1. 生命の倫理—講義の課題概説 2. 「インフォームド・コンセント」：自己決定の思想 3. 人工妊娠中絶 4. 安楽死と尊厳死 5. 脳死と臓器移植 6. 「生殖革命」—人工生殖の現状と問題点 7. 遺伝子操作論
----------	---

準備学習	紹介される参考書を一章につき一冊は読んでみる。
履修上の留意点	課題はすべて現在進行形のものばかりなので、受講生にも起りつつある問題に絶えず嗅覚を働 かせる態度を望む。
成績評価の方法	レポートおよび学年末試験を中心に、受講態度、出席を加えを総合評価。
教科書/テキスト	教科書『生命倫理への招待』(仮題)は2011年9月に刊行予定。それまではプリントを配布す る。
参考書	プリント、教科書に記載。

履修コード	211111
科目名	倫理学〔応用倫理学〕
担当者名	黒崎 剛

授業概要/ 到達目標（ねらい）	「倫理」というのは、人間が世界の中で、世界に対して振る舞う上にさいして基準とする「規範」-「価値」や「義務」、「習慣」といったの正当性を問うものである。だから「倫理学」というのは、自分が行動するに際して自覚的・無自覚的にとっている規範が半端なものではないか、みずから検証するという課題を持っている。ところで、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものとなっていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしている。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動にもなつて提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。
--------------------	--

授業スケジュール	「生命倫理」の諸問題のうち、以下のテーマを取り上げる予定 1. 生命の倫理—講義の課題概説 2. 「インフォームド・コンセント」：自己決定の思想 3. 人工妊娠中絶 4. 安楽死と尊厳死 5. 脳死と臓器移植 6. 「生殖革命」—人工生殖の現状と問題点 7. 遺伝子操作論
----------	---

準備学習	紹介する参考書を一章につき一冊は読んでみる。
------	------------------------

履修上の留意点	課題はすべて現在進行形のものばかりなので、受講生にも起りつつある問題に絶えず嗅覚を働かせる態度を望む。
---------	---

成績評価の方法	レポートおよび学年末試験を中心に、受講態度、出席を加えを総合評価。
---------	-----------------------------------

教科書／テキスト	教科書『生命倫理への招待』（仮題）は2011年9月に刊行予定。それまではプリントを配布する。
----------	--

参考書	プリントおよび教科書に記載。
-----	----------------

履修コード	211101
科目名	倫理学〔東洋倫理〕
担当者名	末木 恭彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 倫理学は、人の行為の規範を考える学問である。主として西洋の哲学の一部門として発達した。それに相当する思索は東洋の伝統的思想の中に生まれていた。近代に至って、西洋の学問の影響下、東洋の伝統を生かそうとする試みが行われた。そのような東西のはざままで苦心して考えられた、東洋の倫理思想を紹介する。 (到達目標) 我々自身の倫理思想を反省し、獲得することを目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>今年、近代日本の哲学者・倫理学者である和辻哲郎の倫理学を紹介する。和辻倫理学の中でも『人間の学としての倫理学』を取り挙げて、一年かけてじっくりと読みたい。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回 倫理学の眺望＝アリストテレス倫理学から 第三回 和辻哲郎について 第四回 「倫理」という言葉の意義を読む (問題の出発点) 第五回 「倫理」という言葉の意義を読む (人倫五常を考える) 第六回 「倫理」という言葉の意義を読む (倫理の概念) 第七回 「人間」という言葉の意義を読む (問題の出発点) 第八回 「人間」という言葉の意義を読む (人間と人) 第九回 「人間」という言葉の意義を読む (人間の二重性) 第十回 「世間」或いは「世の中」の意義を読む (「世」の遷流性から) 第十一回 「世間」或いは「世の中」の意義を読む (「世間」の概念) 第十二回 「存在」という言葉の意味を読む (「有」論) 第十三回 「存在」という言葉の意味を読む (存と在) 第十四回 質疑応答 第十五回 前期の理解度調査 第十六回 「人間の学としての倫理学の構想」を読む 第十七回 第6節から11節までの概観 第十八回 「人間の問い」を読む 第十九回 「問われている人間」を読む 第二十回 「学としての目標」を読む 第二十一回 「人間存在への通路」を読む (問題の所在) 第二十二回 「人間存在への通路」を読む (我々の抱えようとする問題) 第二十三回 「人間存在への通路」を読む (ハイデッカーに学ぶ) 第二十四回 「人間存在への通路」を読む (続けてハイデッカーに学ぶ) 第二十五回 「人間存在への通路」を読む (事実即すること) 第二十六回 「人間存在への通路」を読む (人間存在への通路) 第二十七回 「解釈学的方法」を読む 第二十八回 「人間の学としての倫理学の方法」まとめ 第二十九回 質疑応答 第三十回 後期理解度調査</p>
----------	--

準備学習	教科書をしっかり読んでおく。
履修上の留意点	ノートをしっかり取る。
成績評価の方法	各学期末の試験と夏期休暇のレポートによって成績をつける。
教科書/テキスト	和辻哲郎『人間の学としての倫理学』(岩波文庫)
参考書	和辻哲郎『倫理学』(一)～(四)(岩波文庫) 湯浅泰雄『和辻哲郎—近代日本哲学の運命』(ちくま学芸文庫) 坂部恵『和辻哲郎—異文化共生の形』(岩波現代文庫) 苅部直『光の領国 和辻哲郎』(岩波現代文庫)

履修コード	343701
科目名	倫理学〔人生と倫理〕
担当者名	末木 恭彦

授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要）倫理学は、人の行為の規範を考える学問である。人が生きる上に指針を提供する。本科目を通じて、倫理学の基礎的理解を獲得し、自分の生き方を考える手がかり獲得する。 （到達目標）倫理学の基礎的理解を獲得し、自分の生き方を考える。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>今年度は、近代日本の哲学者・倫理学者である和辻哲郎を取り上げ、その倫理学を紹介する。彼が「倫理学の意義と方法」を述べたとする『人間の学としての倫理学』をテキストとして、和辻の描く倫理学の見取図を描き出す。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回 和辻哲郎について 第三回 「倫理」という言葉の意味（前半） 第四回 「倫理」という言葉の意味（後半） 第五回 「人間」という言葉の意味（前半） 第六回 「人間」という言葉の意味（続き） 第七回 「人間」という言葉の意味（続き） 第八回 「世間」あるいは「世の中」の意義（前半） 第九回 「世間」あるいは「世の中」の意義（後半） 第十回 「存在」という言葉の意味（前半） 第十一回 「存在」という言葉の意味（後半） 第十二回 人間の学としての倫理学の構想 第十三回 第六節から十一節の概略 第十四回 質疑応答 第十五回 理解度の調査 第十六回 カントのAnthropologie 第十七回 カントのAnthropologie（続き） 第十八回 カントのAnthropologie（続き） 第十九回 カントのAnthropologie（続き） 第二十回 コーヘンにおける人間の概念の学 第二十一回 コーヘンにおける人間の概念の学（続き） 第二十二回 コーヘンにおける人間の概念の学（続き） 第二十三回 コーヘンにおける人間の概念の学（続き） 第二十四回 コーヘンにおける人間の概念の学（続き） 第二十五回 コーヘンにおける人間の概念の学（続き） 第二十六回 質疑応答 第二十七回 人間の問い 第二十八回 人間の問い（続き） 第二十九回 人間の問い（続き） 第三十回 まとめと理解度調査</p>
----------	--

準備学習	教科書を善く読む。
履修上の留意点	ノートをしっかり取る。
成績評価の方法	各学期末の試験と夏期休暇のリポートによって成績をつける。追試あり。
教科書／テキスト	和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）
参考書	和辻哲郎『倫理学』（一）～（四）（岩波文庫） 湯浅泰雄『和辻哲郎—近代日本哲学の運命』（ちくま学芸文庫） 坂部憲『和辻哲郎—異文化共生の形』（岩波現代文庫） 苅部直『光の領国 和辻哲郎』（岩波現代文庫）

履修コード	211001
科目名	倫理学〔制度とモラル〕
担当者名	滝口 清栄

授業概要/ 到達目標（ねらい）	人間は古くから共同体を作り、さまざまな社会的・政治的制度を生みだしてきた。そこには時代により、地域により違いが見られる。そこにはまた人間のよりよいあり方とよりよい社会的・政治的制度のあり方をめぐり、絶えることのない思想的営みがあった。どのような時代でも人間はこの営みをやめることはなかった。私たちの社会は今日のような方向に進んでいくのか。いろいろと考えざるをえない。以上の思想的営みを歴史的視野の中で振り返る。それは、今日の問題を考えていく上でも大切な土台となるであろう。
--------------------	--

授業スケジュール	本講義では、西洋倫理思想史のなかで近代、現代から主要な思想をピックアップし、人間観の特徴と、人間のよりよき生活を可能にするよりよき制度をめぐる思索のあとを検討する。制度はもちろんそれを担う人間を必要とする。ここにモラルの問題が関わる。時代的な違いを背景において以上の問題を検討していく。 前期 1、ホッブズ、2、J.ロック、3、マンデヴィル、4、ヒューム、5、A.スミス 後期 6、ベンサム、7、J.S.ミル、8、J.J.ルソー、9、カント、10、ヘーゲル、11、フォイエルバッハ、12、K.マルクス これらの哲学的思索を、それぞれ2回から3回の授業時間をかけて検討していく。
----------	---

準備学習	テキストの該当箇所、とくに取り扱う哲学者の生涯と思索の概説にかかわるところを下読みしておいてほしい。
------	--

履修上の留意点	講義は平明を心がける。ノートをよくとってほしい。ときどき質問用紙を配るので、不明な点について質問を出してほしい。
---------	--

成績評価の方法	中間テスト（前期の最終授業時）と学年末試験により成績を評価する。試験80%、出席20%とする。追試験は実施する。
---------	--

教科書／テキスト	久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』（公論社）3,200円
----------	----------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	210901
科目名	倫理学〔応用倫理学〕
担当者名	滝沢 正之

授業概要/ 到達目標（ねらい）	《授業概要》 倫理学の一部門、応用倫理について、その基本的な構成、重要な成果を紹介し、さらには限界を探っていく。我々の人間的な生にとって、なにが善いこととなにが悪いことなのか、といった道徳的な価値判断は本質的な契機をなしている。しかし、社会が複雑化し科学技術が極度に発展した現代においては、そのような価値判断のよりどころが判明でないような場面が多々出現するようになっている。物事の根本に立ち戻って哲学的に思考することによって、そのような場面に一定の見通しを与えることを試みる。 《到達目標》 倫理学上の有力な立場について、基本的な知識を得ること。さらに、その立場に基づいて、さまざまな問題について思考する力を身につけること。
--------------------	---

授業スケジュール	第一部「倫理学の基本概念」では、倫理学における代表的な考え方のいくつかを解説する。第二部「現代倫理学の展開」では、もう一歩進んで、そのような考え方は捉えきれない問題にどのようなものがあるのかを考える。第三部「応用倫理の諸問題」では、これまでの考察を踏まえたうえで、現代社会の具体的な諸問題の整理を試みる。
----------	--

準備学習	教科書の該当箇所にももって目を通しておくことが望ましい。
------	------------------------------

履修上の留意点	教科書を必ず入手しておくこと。また、講義が中心になるので、きちんと出席してノートをとらないと理解が深まらない。適宜プリント等で復習を行うが、この点について注意されたい。
---------	--

成績評価の方法	中間試験（40%）および期末試験（60%）により評価する。中間試験はレポートとする予定。期末試験は筆記試験とする。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味されたい。
---------	---

教科書／テキスト	久保陽一、河谷淳編著『原典による哲学の歴史』、公論社、2002年、3,200円。その他の文献については講義中に適宜指定する。
----------	--

参考書	講義中に適宜指定する。
-----	-------------

履修コード	210601
科目名	倫理学〔人間観〕
担当者名	古田 知章

授業概要/ 到達目標（ねらい）	われわれは、社会の中で、一人の人間として、さまざまなものを「よい」あるいは「悪い」と判断しながら生活している。逆に言うと、この判断なしにわれわれは生きていくことができない。では、このような倫理的生活を送っているわれわれ人間とは何者であろうか。日常、われわれは「人間」という言葉、あるいは、「自分が人間である」という事態を自明なものとして扱っている。しかし「人間とは何か」と問われたとき、さまざまな問題が浮かび上がり、簡単には解答に到達できない。 西洋の思想的領域では、この問いに対して、その時代の社会的状況や思想的背景との関連のもとで、さまざまな解答、そして、われわれ自身の生きる目標としての人間観や自己像が提示されてきた。現代に生きるわれわれが、自らが人間であることの意味を問い直すとき、これらの諸説を一度、検討することは有意義であると考えられる。
--------------------	--

授業スケジュール	教科書を利用し、以下の内容を取り上げる。 〔前期〕 人間観の形成の歴史とその伝統 第1回：ガイダンス 第2～4回：人間と倫理 -人間であるために- 第5～8回：古代ギリシア思想における人間観の諸相 第9～11回：中世キリスト教思想における人間観 第12～15回：人間観の転換 -ルネサンスと宗教改革- 〔後期〕 新しい時代の人間観 第16回：前期のまとめ 第17～20回：出発点としてのデカルト《コギト（思惟する私）》と パスカル「考える葦」 第21～24回：自己の内面性と他者の問題 -自由と責任- 第25～27回：人格 -ロックを手がかりに- 第28～30回：人間存在と倫理
----------	--

準備学習	前回の授業ノートの復習と、教科書の当日に扱う内容に対応する部分を読んでおく。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	二回の定期試験（中間試験、年度末試験、各4割）と平常点（出席状況、夏期レポート、合計2割）で評価する。
---------	---

教科書／テキスト	『原典による哲学の歴史』（公論社）
----------	-------------------

参考書	講義の際にその都度紹介する。
-----	----------------

履修コード	343601
科目名	倫理学〔現代と倫理〕
担当者名	古田 知章

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>今日、多くの領域で、倫理の確立、再構築が求められている。これは、言い換えると、様々な技術や科学が発達した現代において、それらに向きあう我々自身の方向性や価値基準がわからなくなっていることの現れである。そして、このような状況のもと、我々は、ひとつの人格をもつ個人として、自らの倫理観を模索していかなければならない。</p> <p>しかし、倫理とは何かを考えると、個々の領域、場面での基準としての「正しさ」の中身を検討すると同時に、その際の倫理的基準を規定する主体となるべき「自己」のあり方が知られなければならない。逆に言う、「倫理的であること」の内実、すなわち、この生きている自分が外的世界や他者と結んでいる関係、あるいは、自分が自分自身について考えることの意味などを明確にすることで、現代社会に生きる我々の向かうべき方向も見えてくる。この見通しのもと、現代に生きる我々の倫理的なあり方を検討していく。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>教科書を利用し、以下の内容を取り上げる。</p> <p>〔前期〕 倫理的原理についての検討 第1回：ガイダンス 第2～5回：倫理学における問題の所在 -倫理的であること- 第6～9回：古代ギリシアにおける様々な倫理思想 第10～12回：中世における宗教的倫理観 第13～15回：ルネサンスと宗教改革 -個としての人間- 〔後期〕 前期からの続きと応用倫理学の諸問題への基礎的な検討 第16回：前期のまとめ 第17～20回：近世の転換期における倫理思想 -主体性と自由の問題- 第21～23回：現代に生きる我々と倫理 -他者との共存- 第24～26回：生命の尊厳と人生の質 第27～28回：人間と環境との関係 第29～30回：情報と倫理</p>
----------	---

準備学習	前回の授業ノートの復習と、教科書の当日に扱う内容に対応する部分を読んでおく。
履修上の留意点	
成績評価の方法	二回の定期試験（中間試験、年度末試験、各4割）と平常点（出席状況、夏期レポート、合計2割）で評価する。
教科書／テキスト	『原典による哲学の歴史』（公論社）
参考書	講義の際にその都度紹介する。

履修コード	208201
科目名	歴史学〔日本近世史〕
担当者名	小高 昭一

授業概要/ 到達目標（ねらい）	日本史のなかで江戸時代とはいかなる時代であったのか。また、世界史のなかで「近世」と呼ばれる時代もある。そして江戸時代と近世とはどんな関係があるのかも考えていきたい。特に、日本史上まれにみる「平和」な時代であったといわれる江戸時代、それがどのように成立し、どのような構造・内容、特徴を備えていたのか、それがどうして「近代」へと変わっていくのか、わかりやすく解説を加えていきたい。140年ほど前に終えんを迎えたとはいえ、江戸時代の社会のあり方は、近代以降にも影響を及ぼしたため、その点を念頭に置きつつ、話を進めていく。この授業が、歴史と向き合う貴重な「時間」になることを期待する。
--------------------	--

授業スケジュール	（講義の内容） 江戸時代の中央政権、江戸幕府は「公儀」と呼ばれる。なぜ公儀として江戸幕府が成立したのか。その公儀による支配の持続力は、260年あまりも続いたのだが、どのようにしてそのような持続力を保持することができたのだろうか。公儀支配のあり方、民間社会の成長と発展、経済・文化の密度などをみれば、歴史上に出現した世界的な文明社会のひとつと言えよう。しかし、それも東アジアにおける日本という当時の世界情勢の中で考える必要がある。こうした日本の近世社会について考える。 (1・2) 授業のガイダンス、(3～5) プロローグ、(6～12) 江戸幕府の成立と新しい国際関係、(13～18) 幕藩体制の社会と文化、(19～23) 十八世紀の改革政治と社会、(24～28) 江戸時代後半の文化、(29) 内憂外患の時代と復興意欲、(30) エピローグ。 *テキストの全部は講義できないと思われる。
----------	---

準備学習	授業の際に次回の学習範囲を指示するので、必ずテキストの該当部分を熟読して授業に臨むこと。もちろん授業後の復習も行ってもらいたい。
------	--

履修上の留意点	積極的に講義に取り組むことで、近世という社会を理解すること。ただ、記憶するのではなく、授業を通して社会のしくみやその時代を生きた人々について考え、この時代から何かを得る機会としてほしい。そして日本の近世が現代にどのような規定を与えているのか、今と日本近世の関係性を考える。*なお、授業中に他人に迷惑をかける学生は退出させる。授業のルールを厳守して、落ち着き集中して講義を聴講できる環境を整えるので、留意してほしい。
---------	---

成績評価の方法	基本的には、年度末の定期試験を成績評価の対象とする。この試験では設問に対して論述形式で回答してもらうので、論理的な文章表現をしなければならない。なお、前期終了時に夏休みの課題レポートを出題する。後期開始時にレポートを提出すること。このレポートも評価の対象とする。従ってレポート未提出の者は、定期試験で高得点でも大幅減点するので、注意されたい。講義への出欠は評価の対象とはならない。
---------	--

教科書／テキスト	深谷克己著『江戸時代』（岩波ジュニア新書・日本の歴史6）岩波書店、740円（＋税）、ISBN4-00-500336-2
----------	---

参考書	適宜、必要なプリントを配布する。時には参考文献も提示する。
-----	-------------------------------

履修コード	208301
科目名	歴史学〔日本史〕
担当者名	小松 寿治

授業概要/ 到達目標（ねらい）	武士の活動が認められる時代から戦国時代までの概説とその歴史事象を伝える古書について考えていきたいと思います。
--------------------	--

授業スケジュール	講義形式を基本とし、以下のような時間配分で授業を進めたいと考えます。 第1回ガイダンス、第2回～4回武士のおこり、第5回～8回平安時代末期、第9回～15回鎌倉時代、第16回～22回南北朝・室町時代、第23回～29回戦国時代、第30回まとめ
----------	--

準備学習	理解度を増すために各種通史、あるいは日本史の教科書を一読することを勧めます。
------	--

履修上の留意点	板書することが多いので、しっかりノートを作ることを勧めます。
---------	--------------------------------

成績評価の方法	定期試験に平常点を加味して評価します。
---------	---------------------

教科書／テキスト	なし 適宜プリント配布します。
----------	--------------------

参考書	開講時に指示します。
-----	------------

履修コード	207801
科目名	歴史学〔日本中世史〕
担当者名	鈴木 将典
授業概要/ 到達目標（ねらい）	戦後歴史学における日本の中世（鎌倉・室町・戦国時代）は、「世界史の基本法則」の中で、古代（平安時代）や近世（安土桃山・江戸時代）との「断絶」が強調されてきた。しかし、近年では「中世」の範囲自体が見直されており、平安時代末期から江戸時代初期までを「中世」と評価する動きが見られる。また「東アジアにおける日本」「中世社会と民衆」などの新たな視点が提示され、地域権力（戦国大名）の成立から統一政権の誕生に至る、いわゆる「中近世移行期」をめぐる議論も盛んに行われている。 この授業では、日本の中世がどのような時代であったのかという点について、最新の研究動向を紹介しながら進めていく。
授業スケジュール	前期：平安時代末期（武士の登場・平氏政権）～鎌倉・室町時代、戦国時代前期 後期：戦国時代後期～織田・豊臣政権、江戸時代初期（地域権力から天下統一へ） 上記の範囲で時代を追って講義を進めていくが、毎回ごとに重要と思われるテーマを設定した上で、最近の知見を紹介する。
準備学習	授業やE-Learningシステム（YeStudy）で、次回までに読んでほしい本を提示する。 授業の参考資料（プリント）は、前日までにE-Learningシステム（YeStudy）にPDFのデータをアップするので、印刷して持参すること。 履修生の人数が多いため、原則として授業中のプリント配布は行わない。
履修上の留意点	予習・復習や連絡にE-Learningシステム（YeStudy）を利用するので、受講生は登録を済ませておくこと。 専門的な内容にも言及するため、高校で日本史を履修していることが望ましい。 遅刻・途中退席は原則として認めない。私語や携帯電話など、他の受講生の迷惑になる行為は慎むこと。プリント配布と板書を併用するので、各自工夫してノートを作成すること。 授業終了後やメールでの質問は歓迎する。
成績評価の方法	出席はとらないが、月に1回程度、授業時間中に小テストを行う。 授業の内容に対する理解度を重視し、小テストと期末試験で総合的に評価をする。
教科書／テキスト	特に定めない。随時プリントを配布する。
参考書	授業中に随時紹介する。

履修コード	342901
科目名	歴史学〔中国史概観〕
担当者名	高橋 康浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 矛盾をはらみつつも目覚ましい経済発展を遂げる中国は、古くから日本と深い関係にあった。しかし、今日両国が複雑な関係にあることは否めず、故に我々は正しく歴史を学ぶ必要がある。本講義は中国の古代から近世までを概観していく。その際には、単なる事項の羅列ではなく、時代ごとに問題を設定し、その解決の中から、それぞれの時代相を把握するようにしていく。</p> <p>【到達目標】 中国前近代の歴史を、支配体制や文化政策などから多面的に理解する。かかる歴史の営為や継続性を知った上で、正しい中国理解へと繋げるものである。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>おおよそ以下のスケジュールで講述する。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：新石器時代（仰韶・龍山文化） 第3回：殷（祭政一致） 第4回：周（封建制度） 第5～6回：春秋戦国（氏族共同体とその解体） 第7回：秦（中央集権体制と法治） 第8～9回：前漢（郡国制と武帝の功罪） 第10回：新～後漢1（王莽と儒教） 第11回：後漢2（外戚・宦官・党錮） 第12～14回：三国志（三国政権の構造） 第15回：前期まとめ 第16回：西晋（儒教の限界） 第17～18回：南北朝（貴族制と律令体制） 第19回：隋（仏教の利用） 第20～21回：唐（古典国家の完成） 第22～23回：宋（文治主義と経済国家） 第24回：元（暴力の限界） 第25～26回：明（復古への努力） 第27～29回：清（中華帝国の完成） 第30回：総まとめ</p>
----------	---

準備学習	予習・復習は必ず行うこと。
履修上の留意点	漠然と講義を聴いているだけでは単位修得は難しい。積極的な授業参加を希望する。
成績評価の方法	期末レポート40%、授業への参加度30%、課題30%（不定期に数回行う）の割合で評価する。全授業数の3分の1以上を欠席した場合は、単位修得を認めない。
教科書／テキスト	野口鐵郎編『資料中国史 -前近代編-』（白帝社、1999年）、2800円（税別） ISBN4-89174-340-9
参考書	特に指定はしない。各自で合ったものを探すこと。

履修コード	207901
科目名	歴史学〔東アジア考古学〕
担当者名	千葉 基次

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の考古学史を加えて、中国東北地方(遼寧省、吉林省、黒龍江省、内蒙古自治区)と朝鮮・韓半島を中心とする東北アジア地域の先史、原始時代の考古学的研究を主要とする授業。東北アジア地域での特定文物から、一年間で考古学的研究方法をとおして地域の歴史の概略を知ることが目標。
---------------------	---

授業スケジュール	当科目は、通年で広範囲な学部・学科・学年を授業対象としている。そこで、授業内容は前期と後期に二分する。 前期は、1～2回で内容とする、日本考古学を中心とした文献史を含む学史・時代など広い範囲の事柄の授業とする。 後期は、一特定研究課題を選び、考古学的研究方法による専科・専門内容の事柄の授業とする。
----------	---

準備学習	中国東北地方と朝鮮・韓半島地域の主要都市名と位置を、一つでも多く知っておくことは、これからの時代に雑事としても有用と思う。事前に、地域の概略を確認しておくことは、重要である。 複写でも充分であり、当科目にかかわらず考古学の研究・授業に、当該地域の地図は必携の文具である。地図の縮尺は、小さい程好ましい。
------	--

履修上の留意点	板書事項が多くあり、B5判でも充分、専用の筆記帳を用意すること。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	平常授業が重要であり、評価の対象とする。 試験は、前期末と後期末の各期末に実施する。 配分は、平常授業を50点、試験(各25点、2回分)を50点とする。
---------	--

教科書/テキスト	教科書的書籍は出版されていないので、必要資料を随時配布する。
----------	--------------------------------

参考書	授業の中で、関連する書籍を逐次紹介する。
-----	----------------------

その他	長城地帯から東北アジア地域で、考古学的研究方法に限って見たとしても、たどれる歴史の形成は、多種・多様の地域社会・文化の相互交流の積み重ねから成り立っていると知れば、自国の歴史を見る目ともなる。 隣接する東アジア世界・地域の歴史についてだけではなく、そこにまつわるより多くの知識を得ることに努め、理解を深めることを望む。
-----	--

履修コード	343001
科目名	歴史学〔アジア史概観〕
担当者名	奈良 修一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「歴史」とは何か。大学における学問として学ぶために、まず、「歴史」と言われるものの成立から考察し、それがどのように展開していったのか。また、その「歴史」を「歴史」たらしめた諸条件を具体的に考察していきたい。 この講義では、高等学校までに習った単に知識を取り入れるだけの授業は行わない。副題として「アジア史概観」とあるが、では、「アジア」とは何か、という言葉の定義を行い、それを論理的に思考していく過程を重視していく予定である。 そのために、授業中に、「小テスト」の様に自分の意見を記述することを何回か行う予定である。これは、どれだけ論理的に思考するかを訓練するために行う。 本講義を通じ、過去の事象が、単なる事象でなく、複雑に絡み合った大きな歴史の流れにどのような意味を持つのかを考えて頂きたい。
---------------------	---

授業スケジュール	以下のスケジュールで講述する予定である。なお、受講生の状態に合わせて、適宜変更することもありえる。 第1回:「歴史」とは何か:ヘロドトスと司馬遷 第2回:文明と文化 第3回:時代区分 第4回:「近代」 第5～8回:古代 第9～11回:中世 第12～15回:近世 第16～20回:近代 第21～25回:東西の関係 第26回-第29回:改めて「近代」とは 第30回:総まとめ
----------	--

準備学習	「思考」する意味を考えておいて欲しい。
------	---------------------

履修上の留意点	出席不良者の単位修得は認めない。
---------	------------------

成績評価の方法	夏休みと冬休みの2回レポートを提出してもらい、それにより評価する。 なお、出席率も参照する。
---------	---

教科書/テキスト	授業中、適宜指示する。 歴史学の分野は広いので、自分の関心領域の本は、積極的に読むように。
----------	--

参考書	授業中手引き指示する。
-----	-------------

履修コード	342801
科目名	歴史学〔日本史〕
担当者名	林 彰
授業概要/ 到達目標（ねらい）	幕末のペリー来航後の通商条約により、世界資本主義体制の一環に組み込まれていく我が国は、明治維新期を経て確立する明治憲法体制・教育勅語体制により、ほぼ近代国民国家の成り立ちが整備されていく。この体制は、アジア太平洋戦争の敗戦により幕を閉じることになるが、講義では近代を通じて支配する体制側の動向と民衆側の歩みを中心にとどめてみていきたい。そのさい、体制側の思想動向や体制側に抵抗しないしは同調しようとする民衆側の思想動向の把握、国内における衛生や病気などにより「隔離」される民衆の問題、アジア民衆への蔑視・差別の問題にも言及していくつもりである。
授業スケジュール	最初に、オリエンテーション、次に現在の日本に残存する過去の歴史の問題（在日朝鮮人問題など）を取り上げ、その要因が日本の近代にあることを検討する。次に、近代史の概説を体制側と民衆の動向をふまえて、幕末から敗戦までたどっていく。次に時間に余裕があれば、個人の人物（ある程度著名な人物の女性・男性）を取り上げて、近代史のなかで果たした役割をみていきたい。
準備学習	幕末や近代についての学習として、歴史小説を読むことで1つの学習になると思われる。歴史小説については、各自探して欲しい。
履修上の留意点	幕末から多くの人物が登場し、それを講義においても紹介していく。歴史上のいろいろな「人物」の登場は、受講生にとっても、ためになり、将来の人生を歩んでいくための豊かな知識や経験となるであろう。そういう「人物」を、自ら調べて深めることは重要である。
成績評価の方法	前期は試験の代わりに、レポート提出（夏休みの課題レポート）。後期は定期試験。レポートを提出しない学生には、単位は上げない。定期試験は、追試験も実施する。
教科書／テキスト	大日方純夫『はじめて学ぶ日本近代史（上）』、大月書店、2002年。1800円＋税 ISBN4-272-52068-7C0021
参考書	講義中に適宜紹介する。『はじめて学ぶ日本近代史』（下巻）を、余裕があれば購入して欲しい。

履修コード	208101
科目名	歴史学〔西洋近代史〕
担当者名	土方 史織
授業概要/ 到達目標（ねらい）	近代ヨーロッパ史についての理解を深めることを目的とします。まずはその概観をつかみ、現代社会の「かたち」を形成した「近代」という時代がどのようなものであったのかを考察していきます。
授業スケジュール	以下の内容を講義形式で進めます。 前期：18世紀～19世紀 国民国家の建設（フランス革命～アメリカ独立～産業革命） 後期：19世紀～20世紀 帝国主義の展開（植民地主義～第二次大戦） 適宜プリントを配布し、プロジェクタを使用して理解が深められるようにします。
準備学習	予備知識としてルネサンス期以降のヨーロッパ史を理解しておくことが必要です。
履修上の留意点	地図帳や資料集などが手許にあると理解の助けになります。なお遅刻、途中退席、私語は厳禁。守れない人は履修しないで下さい。
成績評価の方法	前期・後期試験（論述）：60%、夏期課題：30%、授業への貢献度：10%で総合的に判断します。
教科書／テキスト	
参考書	大下尚一他編『西洋の歴史[近現代編]増補版』ミネルヴァ書房1998年。 近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社1999年。 井野瀬久美恵著『大英帝国という経緯』（興亡の世界史 第16巻）講談社2007年。 『ヨーロッパ史入門』（全10冊）岩波書店
その他	授業初回に詳細なガイダンスをおこなうので履修予定者は必ず出席して下さい。出席しないと履修できません。

履修コード	208001
科目名	歴史学〔禅の歴史と地域社会〕
担当者名	廣瀬 良弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日本の文化に大きな影響を与えた禅宗とその歴史、そして禅宗の展開と地域社会とのかかわりということを中心にテーマを考えてみたいと思います。</p> <p>(到達目標) 禅宗と地域社会のかかわりから日本の歴史・文化に関する理解を深める。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>日本の禅宗受容と禅宗の地方伝播(1~2) 禅の展開の時期と地域(3) 山岳信仰・地域神と禅僧(4~6) 禅僧と温泉(7~9) 在地武士と禅僧(10~11) 禅僧の法要と地域社会(12~13) 禅寺と地域社会の秩序(14~15) 禅と葬祭と人々の戒名(16~18) 授戒会の活動(18~21) 禅僧と戦国社会(22~24) 禅寺とアジール(避難所)(25~27) 禅と日本文化・生活文化(28) 江戸時代の葬祭と禅僧(29~30)</p>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	お互いの信頼関係のため講義中の携帯電話および遅刻・退室は禁じる。配布したプリントはファイルし、毎回講義に持参すること。
成績評価の方法	学年末試験、出席率、受講態度により総合的に評価する。
教科書/テキスト	講義の際には講義内容に則したプリントを配布する。
参考書	廣瀬良弘著 『禅宗地方展開史の研究』 吉川弘文館 廣瀬良弘編著 『禅と地域社会』 吉川弘文館

履修コード	343501
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	麻生 享志

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>西洋哲学の中で、論理学は常に大きな役割を果たしてきた。「論理とは何か」「正しさをどう説明すべきか」「真理をどのようなものと考えるか」といった諸問題の考察に、「論理学」は欠かせない。このような「論理の本性への考察」には、古代ギリシャの哲学者、アリストテレスの論理学を知る必要がある。その論理学は、当時の諸学問がおかれた状況に影響を受けていたと考えられる。その後、自然科学の発達によって学問状況は変化した。その変化に対応する形で論理学の変革も試みられた。さらに、二十世紀に入って、数学研究と論理学研究の交流・接触が考えられるようになる。これが現代論理学である。</p> <p>このような論理学の歴史をふまえ、(1)論理とは何かを考え、(2)「進化」する論理学の各内容についての知識を持ち、(3)日常生活における論理の活用について、自分で考えることの手引きを与えることをねらいとします。</p> <p>論理の本性、真理論、論理パズルとパラドックス、アリストテレス論理、帰納法論理、実験主義論理、論理学方法論、記号論理学概観、日常生活における正しい推論、学問と論理などを主な話題とします。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	(1-5)論理学とは何か・文献・古代の論理学・ゼノン・論理学史(6-8)「推理」小説・日常生活・逆説(9-12)数理・パズル(および論理クイズ)・記号操作・真理函数(13-16)原理・充足理由・矛盾・排中(17-21)演繹・背理法と仮言的三段論法・推論と形式・偽というものの位置づけ・対偶と消去法(22-30)後件肯定・科学・帰納・実験・方法・諸学・真理・対応説と二元論・まとめ、軽信の時代に
----------	--

準備学習	特定の回に出題する「宿題」は、誠実にチャレンジしてきて下さい。
履修上の留意点	大学という学問の場においては、講義内容を聞いて理解し、練習問題をこなす、内容を記憶するだけでは、十分ではありません。自分で検討し、疑い、考えることが絶対に必要であると考えます。そのために、自分で本を読んだり、調べたりという作業が加わるでしょう。意欲ある取り組みと、徹底的に自分の頭で考える姿勢を求めます。
成績評価の方法	平常点として、出席と、講義中に行う問題や論述を主な評価材料(約60%)にし、前期・後期試験・夏休みのレポート成績(提出日、締切は絶対厳守)を加味します。
教科書/テキスト	特になし。講義に直接必要なものは、原則としてコピーを配布します。
参考書	多数。講義内にて詳細に説明します。
その他	講義と問題演習(ないし論述筆記)。早退は、許可のない限り認めません。主体的な質問を大いに歓迎し、期待します。 初日はガイダンスとし、定時に開始し、5分間程度、資料を配布して質問を受け付けます。(その後は、雑談的内容にあてる予定で、退出自由。)この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。このガイダンス資料配布および質問受付は、支障の生じない限り、初回授業終了時5分程度にも行う予定です。

履修コード	210001
科目名	論理学 [知の技法]
担当者名	伊古田 理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、文科系の文章技術について解説し、かつトレーニングを試みる。すなわち、あるテーマについて、文献を集め、読み、考え、そのうえで自分の考えを文章としてまとめるといった一連のプロセスについての実際的なノウハウの習得を目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	(1)(2)「論理的」とはどういうことか (3)主張文の基本構成 (4)～(6)問題設定のしかた (7)～(9)根拠づけの考えかた (10)～(13)結論のつけかた (14)～(16)論証の基本原則 (17)(18)文献を使って文章を書く(1)～その意義 (19)～(22)文献を使って文章を書く(2)～文献を読む (23)～(28)文献を使って文章を書く(3)～文章を書く (29)(30)文章作成の倫理
----------	---

準備学習	各授業回ごとに、前回の講義の復習(および、やり残しの練習問題がある場合や、課題が課されている場合には、その問題演習ないし課題演習)が必要となる。
------	--

履修上の留意点	以下の「成績評価の方法」でも触れてあるが、この授業は基本的に講義スタイルですすめてゆくが、それと平行して、数回のレポート課題を出す。そして、この提出したレポートを材料に授業を進めるケースも少なくない。したがって、レポート課題がこなせないという意識をもつ諸君には受講をすすめたくない。
---------	---

成績評価の方法	最終的に本講義で扱ったテーマに対する諸君の考えをまとめた原稿用紙20枚程度のレポート試験(1月定期試験時提出)によって判定。このほか、随時課する小レポート(内容要約、など:期日厳守)をプラス材料として考慮する。定期試験はいつさい実施しない。
---------	--

教科書/テキスト	本年度は、テーマとして「道徳の理由(なぜ道徳なんものに從って行動しなければならないのか)」をとりあげる。 教科書:大庭他著『なぜ悪いことをしてはいけないのか』(ナカニシヤ出版) 副読本:野矢茂樹『論理トレーニング』(産業図書)
----------	---

参考書	そのつど指示する。
-----	-----------

その他	上記教科書のテーマに対する関心を予めそなえていることは、必ずしも前提しない。しかし無関心でいつづけることはできない。自分で興味をみつけてゆくつもりで授業に臨んでほしい。
-----	--

履修コード	343401
科目名	論理学 [科学方法論と現代論理学]
担当者名	伊古田 理

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代論理学の内容を、「ことばの正しさ」のうちで「推論の正しさ」のかたちづくる領域がどのようなものかを考えることにより、紹介してゆく。 具体的には、「推論の正しさ」の領域がどのようなメカニズムで機能しているかを習得することを第一の目標として、そのうえで(時間の許すかぎり)こうした領域の位置づけについて論ずることにしたい。 本講義の狙いとして、コンピュータの「論理計算」のメカニズムへの理解の基礎が得られるはずである。こちらの方面の勉強を考えている諸君におすすめしたい。
---------------------	--

授業スケジュール	(1)論理とはなにか (2)～(6)三段論法 (7)～(12)命題論理(1)～命題論理の意味論 (13)夏期中間試験 (14)～(19)命題論理の「証明」 (20)～(25)述語論理(1)～述語論理の記号表記 (26)～(30)述語論理(2)～述語論理の「推論」
----------	---

準備学習	各授業回ごとに、前回の復習と、課題が出ているときにはその課題演習が求められる。
------	---

履修上の留意点	この授業で扱う「論理」とは、コンピュータ技術に関連した「論理計算」のメカニズムであり、レポートや論文を「論理的」に構成する技法としてのそれではない。本授業担当者は、後者の「論理」についても「論理学(知の技法)」として開講している。どちらか一方しか履修できないので、履修にあたってはよく検討すること。
---------	---

成績評価の方法	年2回の試験(夏期中間試験+年度末定期試験)を実施し、それとは別に各学期にそれぞれレポート課題(年間通して計3回)を出す。これらによって総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	野矢茂樹著『論理学』(東京大学出版会)
----------	---------------------

参考書	
-----	--

履修コード	210101
科目名	論理学 [科学方法論と現代論理学]
担当者名	河谷 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	論理学とは推論の正しさについて考える学である。この授業の目的は、三段論法、帰納、虚偽論、命題論理、述語論理についての講義を通じて「論理的である」とは一体どういうことなのかを考え、さらに、練習問題を解くことで様々なタイプの推論の妥当・非妥当性を判定するトレーニングをつんでもらうところにある。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 2. 論理学の基本概念 (1) 3. 論理学の基本概念 (2) 4. 定言三段論法 (1) 5. 定言三段論法 (2) 6. 定言三段論法 (3) 7. 仮言三段論法 (1) 8. 仮言三段論法 (2) 9. 帰納推理 (1) 10. 帰納推理 (2) 11. 仮説形成の方法 (1) 12. 仮説形成の方法 (2) 13. 虚偽論 (1) 14. 虚偽論 (2) 15. 前期授業内容の理解度の確認 16. 命題論理における記号化 (1) 17. 命題論理における記号化 (2) 18. 命題論理における証明 (1) 19. 命題論理における証明 (2) 20. 命題論理における証明 (3) 21. 命題論理についての理解度の確認 22. 述語論理における記号化 (1) 23. 述語論理における記号化 (2) 24. 述語論理における証明 (1) 25. 述語論理における証明 (2) 26. 述語論理における証明 (3) 27. 述語論理についての理解度の確認 28. 記号論理の応用 29. 30. まとめ
----------	--

準備学習	毎回の授業内容を練習問題などによって復習しておくことが望ましい。
履修上の留意点	授業に連続して出席することは言うまでもないが、授業中あるいは授業後に各自が練習問題に積極的に取り組むことが望ましい。
成績評価の方法	中間試験 (前期最終授業日に実施) と期末試験 (それぞれ40点満点) ならびに平常点との総合点によって評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	210201
科目名	論理学 [知の技法]
担当者名	小島 優子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	論理力は、自分の考えていることを他人に納得のゆくように筋道立てて説明するさいに、必要となる。そして論理的に文章を書くためには、論理学の構造を学ぶだけではなく、論理学の問題練習を行う必要がある。そのために講義では毎回、問題演習を行う。いわゆる悪文と良文とはどこが異なるのか。わかりやすい文章、論理的につじつまの合う文章を書くために必要な事柄は何であるのか。講義では毎回、参考となる文章を取り上げて、論理的な文章を書き、論理的な構造を把握し身につけるためのトレーニングを行う。最終的には、論理的な力を身につけ、レポートや、論文を書くための力を身につけることを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 論理学とは何か 2 さまざまな接続関係 3 接続の構造 4 議論の組み立て 5 論証の構造と評価 6 演繹と推測 7 価値評価 8 否定 9 条件構造 10 推論の技術 11 批判への視点 12 論文を書く
----------	--

準備学習	教科書を読んで予習しておくこと。
------	------------------

履修上の留意点	論理力を身につけるためには、論理力トレーニングが必要となるので、講義に出席することが大事である。このために出席を重視する。
---------	---

成績評価の方法	一回の定期試験（中間試験）と、一回の学期末試験、および平常点（授業時に適宜与える課題）で評価する。
---------	---

教科書／テキスト	野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書）
----------	----------------------

参考書	そのつど指示する。
-----	-----------

履修コード	209601
科目名	論理学 [科学方法論と現代論理学]
担当者名	鈴木 聡

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	論理学の初歩の講義を、できるだけ丁寧にわかりやすく行う。論理学とは、妥当な論証と非妥当な論証との差異についての研究である。妥当な論証とは、前提から結論が帰結する論証である。前提から結論が帰結することを意味論的ならびに統語論的に表現することが論理学の主要課題である。妥当な論証を行う能力を身につけることは、いかなる分野を専攻する学生にとっても重要なことである。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) プロローグ・(2) 文論理における文の記号化・(3) 文論理の言語・(4~7) 文論理の意味論・(8~14) 文論理の統語論・(15) 中間試験・(16・17) 第一階量化論理の基本概念・(18・19) 第一階量化論理の言語など・(20・21) 多重量化・(22・23) 第一階量化論理の意味論・(24) 第一階量化論理のメタ論理・(25~29) 第一階量化論理の統語論・(30) 期末試験
----------	---

準備学習	必ず予習をして講義に出席すること。
------	-------------------

履修上の留意点	数学が不得意な者は単位取得が「相当困難」なので、履修をすすめない。講義中に居眠り等の注意を受けた者は速やかに退室すること。
---------	---

成績評価の方法	成績は、中間試験・期末試験で評価する。
---------	---------------------

教科書／テキスト	鈴木 聡、『記号論理学入門講義』、DTP出版、1575円、ISBN: 978-4-86211-210-1
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	209801
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	鈴木 聡
授業概要/ 到達目標（ねらい）	論理学の初歩の講義を、できるだけ丁寧にわかりやすく行う。論理学とは、妥当な論証と非妥当な論証との差異についての研究である。妥当な論証とは、前提から結論が帰結する論証である。前提から結論が帰結することを意味論的ならびに統語論的に表現することが論理学の主要課題である。妥当な論証を行う能力を身につけることは、いかなる分野を専攻する学生にとっても重要なことである。
授業スケジュール	(1) プロローグ・(2) 文論理における文の記号化・(3) 文論理の言語・(4~7) 文論理の意味論・(8~14) 文論理の統語論・(15) 中間試験・(16・17) 第一階量化論理の基本概念・(18・19) 第一階量化論理の言語など・(20・21) 多重量化・(22・23) 第一階量化論理の意味論・(24) 第一階量化論理のメタ論理・(25~29) 第一階量化論理の統語論・(30) 期末試験
準備学習	必ず予習をして講義に出席すること。
履修上の留意点	数学が不得意な者は単位取得が「相当困難」なので、履修をすすめない。講義中に居眠り等の注意を受けた者は速やかに退室すること。
成績評価の方法	成績は、中間試験・期末試験で評価する。
教科書／テキスト	鈴木 聡、『記号論理学入門講義』、DTP出版、1575円、ISBN: 978-4-86211-210-1
参考書	

履修コード	209901
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	滝口 清栄
授業概要/ 到達目標（ねらい）	私たちはさまざまな情報のうずのなかで生活している。これら多岐に及ぶ情報の伝達と表現は言葉によって行なわれている。また送り手も受け手も思考を通して情報に関わっている。この渦の中で私たちは納得したり、あるいは納得しなかったりする。こう見るならば、私たちは言葉と思考のあり方に敏感になるのではなからうか。ひとたびこの点に注意を払うようになると、日常生活をしてさまざまな学問的な営みの基礎として、論理学が大切なものと思えるであろう。本講義では、思考の基礎をしっかりとしたものとし、思考の諸法則が身につくよう心がける。
授業スケジュール	教科書はおもにそれぞれのテーマの理解を得るために使い、練習問題をそのつど配布する。形式論理学に重点をおいて授業を進めていく。 前期 1 論理学の原理、2 概念 内包と外延、3 概念 概念の分類、4 概念の分類 練習問題を解く、5 概念 定義、練習問題を解く、6 概念 区分と分類、7 概念 区分と分類 練習問題を解く、8 判断 判断の分類、9 判断 定言判断、10 判断 練習問題を解く、11 対当推理、12 対当推理 練習問題を解く、13 変形推理 練習問題を解く、14 虚偽論、15 虚偽論 練習問題を解く 後期 三段論法 1 定言三段論法の形式、2 定言三段論法 練習問題を解く、3 定言三段論法 ヴェン図による妥当性の判定、4 仮言三段論法、5 仮言三段論法 練習問題を解く、6 選言三段論法、7 選言三段論法 練習問題を解く、8 両刀論法（ジレンマ）、9 両刀論法 練習問題を解く 帰納推理 10 帰納推理とは何か、11 ミルの帰納法、12 帰納法 練習問題を解く、 記号論理学 11 命題論理学 命題の記号化、12 命題の記号化 練習問題を解く、13 真理表を作る、14 真理表による判定
準備学習	テキストの該当箇所を下読みしておいてほしい。
履修上の留意点	理解を深めるために練習問題をできるだけ多く解いて、論理的な思考回路が身につくように工夫する。出席を重視する。
成績評価の方法	年間4回の小テストをおこなって、成績を出す。試験90%、出席10%とする。したがって、追試験はおこなわない。
教科書／テキスト	山下太郎他著『新しい認識の論理』（公論社）3,200円
参考書	

履修コード	209701
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	山口 祐弘

授業概要/ 到達目標（ねらい）	論理学の基本思想を学ぶことによって、正しく思考し語る態度を身につける。
--------------------	-------------------------------------

授業スケジュール	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> ①論理学の課題と目標 ②思考の基本原則、同一律・矛盾律・排中律・理由律 ③伝統的論理学と弁証法 ④論理的思考の要素、概念・判断・推理 ⑤推理の方法、直接推理 ⑥推理の方法、間接推理 ⑦蓋然的推理、帰納と類推 ⑧誤謬論 ⑨パラドックス ⑩論理と科学 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> ①記号論理学の起源 ②命題論理学 ③命題関数と真理表 ④標準形 ⑤命題論理の公理体系 ⑥体系の無矛盾性と完全性 ⑦命題の内部構造 ⑧述語論理学の基本概念 ⑨定理の演繹 ⑩伝統的論理学の記号化
----------	---

準備学習	<p>前期：伝統的論理学の予習。 後期：現代記号論理学の基本概念を学習しておくこと。</p>
------	--

履修上の留意点	日常の思考と言語表現における論理性に注意をむけること。
---------	-----------------------------

成績評価の方法	中間および期末試験による。
---------	---------------

教科書／テキスト	山下太郎「新しい認識への論理」（公論社）
----------	----------------------

参考書	
-----	--

(2) 社会分野

履修コード	219501
科目名	教育学 [デス・エデュケーション]
担当者名	柳堀 素雅子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>「人間の死」の問題を、さまざまな方向から分析していく。大きな柱としては、「戦争と人間の死の問題」「病氣と人間の死の問題」を中心に考察していく。取り扱う時代は「現代」を中心とし、第二次世界大戦前後から1960年代を通過して、今現在に至るまでを扱う。地理的範囲は、アメリカと日本を中心にヨーロッパの状況も見ていく。分析手法としては学際的に、哲学的、宗教的、文化的、民族学的、心理学的、科学的視点などのさまざまな方向から分析していく。</p> <p>戦争の問題を取り扱う学問は膨大な量にのぼると思われるが、この授業で取り扱う場合は、デス・エデュケーションないしはデス・スタディという形で、「戦争とトラウマ」の問題などを中心に考えていく。病氣と人間の死の問題を取り扱う場合には、バイオエシックスという「患者の権利」を中心に据えた学問的視点を媒介にして考えていく。</p> <p>(到達目標)</p> <p>人間の死の問題を真剣に考えることによって、自らの死生観をきちんと確立できるようにしてもらいたい。一年間の授業によって、死の問題がいかに複雑かを認識できれば目標のある程度は達成できたと言えるでしょう。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 1960年代におけるアメリカの社会状況 2 アメリカと戦争の問題 3 冷戦下におけるアメリカの国内状況 4 キリスト教国アメリカ 5 新しい権利を求めるアメリカ国内の動き 6 1960年代における世界の動き (1) 7 1960年代における世界の動き (2) 8 1960年代における日本の国内状況 (1) 9 1960年代における日本の国内状況 (2) 10 戦争と人間の死をめぐる問題 11 戦争とトラウマの問題 12 戦争とデス・エデュケーション 13 日本人は戦争の問題をどのように受け止めればよいのか 14 前期のまとめ (1) 15 前期のまとめ (2) 16 アメリカにおけるバイオエシックス成立の背景 17 学問としてのバイオエシックス 18 バイオエシックスの基礎理論 19 生命誕生に関わるバイオエシックスの問題 (1) 20 生命誕生に関わるバイオエシックスの問題 (2) 21 遺伝子操作の問題 (1) 22 遺伝子操作の問題 (2) 23 終末期医療をめぐる諸問題 (1) 24 終末期医療をめぐる諸問題 (2) 25 脳死と臓器移植 (1) 26 脳死と臓器移植 (2) 27 バイオエシックスの意味を問い直す 28 日本とアメリカのバイオエシックスの違いを分析する 29 日本とヨーロッパのバイオエシックスの違いを分析する 30 後期のまとめ
----------	---

準備学習	授業の中で配布された資料は、自分でよく読み、理解を深める努力をすること。自宅学習をする努力を怠ると授業についていけなくなります。
履修上の留意点	レポート課題や討論のために何冊も本を読んでもらうので、本を読みこなす気力と能力のない人は、受講しても意味がありません。
成績評価の方法	出席、レポート課題の内容、リアクションペーパーの内容、討論の状況など多角的な視点から総合的に評価する。欠席した場合は授業についていけなくなるので、自動的に不可になる。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	授業中に必要に応じて紹介する。

履修コード	219601
科目名	教育心理〔大学生の心理〕
担当者名	石橋 達也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本授業では、大学生を中心とした青年期の心の在り方の特徴や問題点およびその発達上の課題について、主として教育心理学や教育臨床の観点から、個人の要因、家族や友人関係、社会や文化との関係など、さまざまなテーマを取り上げて講義を進めていきます。</p> <p>(到達目標) 通年の授業の前期では、主に生涯発達の観点から青年期の位置づけやその発達課題を取り上げ、現代社会における青年期の延長やアイデンティティの確立の問題などについて学びます。続いて後期では、青年期を形成するさまざまな要因および青年期の心の問題点について具体的に学びながら、今日の社会における青年期の問題の特徴およびその要因について理解を深め、それを説明できるための知識を習得します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要説明、 2. 教育心理学と青年の問題 3. 青年期の出現と変遷 4. 生涯発達における青年期の位置づけ 5. 生涯発達における青年期の特徴と意義 6. 青年期の心理発達の要因 7. 青年期の心理発達の過程 8. 青年期をめぐる心理学理論 (1) 認知発達理論 9. 青年期をめぐる心理学理論 (2) 学習理論 10. 青年期をめぐる心理学理論 (3) 精神分析理論 11. 日本の青年の戦後史と今後 12. 青年期における自我 (1) 自我への関心 13. 青年期における自我 (2) 自己概念とアイデンティティ 14. 青年期から成人期への移行 15. 前期授業の理解度の確認 16. 青年期とジェンダー (1) ジェンダーの理論 17. 青年期とジェンダー (2) ジェンダーの確立 18. 青年期における家族 (1) 青年と家族 19. 青年期における家族 (2) 青年期の親子関係 20. 青年期における家族 (3) 青年の家族の問題 21. 青年期における友人 (1) 青年と友人関係 22. 青年期における友人 (2) 友人関係をめぐる問題 23. 青年期における恋愛 (1) 性的成熟と恋愛 24. 青年期における恋愛 (2) 性的成熟と心の問題 25. 青年期における学校 26. 青年期における社会 27. 青年期における文化 28. 青年期における心理的な問題 29. 青年期における行動面の問題 30. 後期授業の理解度の確認
----------	---

準備学習	日頃から、教育や青年に関する話題について関心を持つように努め、新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのマスメディアのニュース報道に、できるだけ目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	履修学生には、「学ぶ意欲」をしっかりと持った上で、授業に毎回まじめに出席して、主体的に取り組むことを期待します。 毎回の授業後には、良く復讐をして内容の理解を深めておくこと。また、次回の予定範囲を知らせてしますので、教科書の該当箇所をよく読んで、テーマへの問題意識を高めておくことが望ましいです。
---------	---

成績評価の方法	成績の評価は、前期末と後期末の計2回の筆記試験の成績を中心(70%)にして、毎回の授業における平常点(30%)を加味して総合的に行ないます。
---------	--

教科書／テキスト	中里至正・松井洋・中村真「自己理解のための青年心理学」(八千代出版)2,100円。
----------	---

参考書	授業中に必要に応じて、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していきます。
-----	--

履修コード	219101
科目名	経済学〔現代経済と人間〕
担当者名	貝塚 亨

授業概要/ 到達目標（ねらい）	経済学とは、モノと金を対象とした学問であると思われるが、モノと金を媒介とした人間と人間との社会的な関係を明らかにするものである。そこで、本講義では、経済学の理論とともに、経済社会における人間のあり方を理解し、今後の経済社会を展望することを目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	以下を予定している。 1回 講義概要 2回 経済学とは何か 3～4回 経済学の歴史（1）古典派経済学 5～8回 経済学の歴史（2）2つの流れと現代経済学 9～11回 商品・貨幣 12～15回 資本主義的生産 16～19回 金融と商業 20～23回 財政と政策 24～26回 貿易 27～29回 現代経済の課題 30回 まとめと展望
----------	--

準備学習	日常的に、新聞を読むこと。
履修上の留意点	本講義では、毎回リアクションペーパーの提出を求めるので、受身ではなく積極的に講義に参加することを望む。
成績評価の方法	以下を合算して評価する。 リアクションペーパーの提出を含めた受講状況 夏期レポート 学年末テスト
教科書／テキスト	指定しない。
参考書	講義中に、適宜指示する。

履修コード	345001
科目名	経済学〔現代経済と人間〕
担当者名	貝塚 亨

授業概要/ 到達目標（ねらい）	経済学とは、モノと金を対象とした学問であると思われるが、モノと金を媒介とした人間と人間との社会的な関係を明らかにするものである。そこで、本講義では、経済学の理論とともに、経済社会における人間のあり方を理解し、今後の経済社会を展望することを目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	以下を予定している。 1回 講義概要 2回 経済学とは何か 3～4回 経済学の歴史（1）古典派経済学 5～8回 経済学の歴史（2）2つの流れと現代経済学 9～11回 商品・貨幣 12～15回 資本主義的生産 16～19回 金融と商業 20～23回 財政と政策 24～26回 貿易 27～29回 現代経済の課題 30回 まとめと展望
----------	--

準備学習	日常的に、新聞を読むこと。
履修上の留意点	本講義では、毎回リアクションペーパーの提出を求めるので、受身ではなく積極的に講義に参加することを望む。
成績評価の方法	以下を合算して評価する。 リアクションペーパーの提出を含めた受講状況 夏期レポート 学年末テスト
教科書／テキスト	指定しない。
参考書	講義中に、適宜指示する。

履修コード	219001
科目名	経済学〔現代社会と市場経済〕
担当者名	島中 貴
授業概要/ 到達目標（ねらい）	諸々の経済現象をよりよく理解するための理論（ミクロ経済学・マクロ経済学）について概説する。経済についての体系的な理解を得ることがこの講義の目標である。
授業スケジュール	<p>経済は家計、企業、政府の三種類の主体が行っている経済活動によって成り立っている。前期は家計が行っている経済活動、企業が行っている経済活動、そして家計と企業が互いに影響を及ぼし合う場である市場について説明する。</p> <p>後期は市場メカニズムが果たしている役割、市場メカニズムがうまく機能しないケース（市場の失敗）、政府が行っている経済活動、国内総生産（GDP）、不況と失業、物価の変動、国際貿易について説明する。</p>
準備学習	講義の内容は抽象的な議論が多く、理解するにはそれなりの労力と時間を必要とする。世界一頭のいい人であっても、テキストを一度読んだだけ、講義を一回聴いただけで、経済学を習得することは不可能である。受講者は、テキストを何度も読み返し、自分が理解できているのがどこまで、理解できていないのがどの部分なのかを確認するという地道な作業を、一年を通じて行わなければならない。分からない部分については分かるようになるまで説明するので、どんどん質問にいくこと。
履修上の留意点	授業には毎回、過去に配布されたすべてのプリントを忘れずに持ってくること。
成績評価の方法	基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていない人には単位を与えないので注意すること。追試験は実施する。
教科書／テキスト	授業時に配布するプリントをテキストとする。
参考書	

履修コード	219201
科目名	経済学〔現代経済理解へのガイド〕
担当者名	福田 慎

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>現在社会は、経済と共に大きく動き続けている。経済学を理解することは社会科学の分野において非常に有意義なことであり、社会に出てからも役立つことが多いと考えられる。本講義は、基本的な経済理論を学び、実社会との対比を行うことで、経済学の役割を理解してもらうことを目的としている。特に、マクロ経済を扱う際には、日本経済を例に挙げ、これまでとこれからの日本経済について考えてもらえる講義を目指す。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと成績評価 2. 消費者理論 (1) 3. 消費者理論 (2) 4. 企業の行動 (1) 5. 企業の行動 (2) 6. 完全な労働市場 7. 資本市場 8. 競争市場の効率性 (1) 9. 競争市場の効率性 (2) 10. 独占、寡占、独占的競争 (1) 11. 独占、寡占、独占的競争 (2) 12. 競争の促進 (1) 13. 競争の促進 (2) 14. 不完全情報 (1) 15. 不完全情報 (2) <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学とは 2. マクロ経済学の基礎 (1) 3. マクロ経済学の基礎 (2) 4. 金融政策と財政政策 (1) 5. 金融政策と財政政策 (2) 6. 金融政策と財政政策 (3) 7. 物価の動きと失業 (1) 8. 物価の動きと失業 (2) 9. 経済政策の波及メカニズム (1) 10. 経済政策の波及メカニズム (2) 11. マクロ経済学と日本経済 (1) 12. マクロ経済学と日本経済 (2) 13. マクロ経済学と日本経済 (3) 14. マクロ経済学と日本経済 (4) 15. 後期の復習
----------	--

準備学習	教科書に目を通しておいください。
履修上の留意点	数学の知識は特に必要としません。
成績評価の方法	試験60%、レポート40%で評価します。
教科書／テキスト	<p>伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』 日本評論社 伊藤元重(2002)『マクロ経済学』 日本評論社</p>
参考書	<p>ミクロ経済学：J. スティグリッツ、G. ウォルシュ『ミクロ経済学第3版』東洋経済新報社 マクロ経済学：N. グレゴリー・マンキュー『マンキューマクロ経済学 I 入門編』、東洋経済新報社</p>
その他	事前に配布する資料と板書による講義形式です。

履修コード	345101
科目名	社会科学論 [社会認識の思想]
担当者名	枝松 正行

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
社会科学論とは、社会科学の方法についての学である。この講義では、まず社会科学史を学び、社会科学の方法を代表する二つの立場を統一的に理解する複眼思考の方法を提示する。さらに100年に一度といわれる世界金融危機の深刻化と1000年に一度ともいわれた大震災・原発事故にあえぐ現代社会の分析に対してこの方法を適用し、現代資本主義の構造と変動の全体的把握を試みると同時に、社会科学としての未来社会論についても構想を試みる。
(到達目標)
必然性の科学と合理性の科学という二つの方法視角の複眼思考を試み、これを現代資本主義分析の方法として具体的に適用し、2012年現代世界の人類史的な位置と課題について理解すること。

授業スケジュール

社会科学論は個々の個別社会科学の成果と方法を分析・総合し、一つの総体としての生きた現実社会の運動・発展法則を解明する。この法則は、取り除くことも法令で禁止することもできないが、それを認識することによって、未来社会への分岐の苦痛を緩和することはできるからである。
前期までは、社会発展の法則としての必然性の社会科学成立史について講義し、その成果として自然史的な社会発展が資本主義社会をもたらした人類社会の前身までを概説する。後期は、資本主義発達史や革命史のなかで合理性の社会科学成立史を分析する。すなわち諸資本の集積・集中・独占が進むなか、各国中央銀行を軸とした世界全体の金融システムも、各国の軍事力を含む国家権力そのものも、世界の通信社やマスメディアを中心とする情報通信ネットワークも、世界中の食糧・資源・エネルギーの巨大市場も、ほんの一握りの巨大金融資本家によって支配され、独占されることによって、その後の歴史は事実上彼らの思惑通りに展開してきた。なぜならば、歴史の必然的な過程においてもリスク極小化を実現しうる合理性の社会科学は、世界中の機密情報を独占し利潤極大化に活用する巨大金融資本家の手によってのみ成立しえたからである。だが、彼らの資本独占そのものが合理性の科学本来の発展とは真向から矛盾する極端となる。こうして、“世界金融危機”や“アラブの春”や日本のTPP参加によって現代グローバル金融資本主義が目指している「新世界秩序」とは、人類社会が本史に至るまでどうしても通過せざるをえない最後の敵対的形態となる。それゆえ、21世紀の国際社会が担うべき人類史的課題と科学的な未来社会論もまた講義最終段階の学生諸君にとってはもはや明らかであろう。

- (1) ガイダンス
- (2) 社会とは何か、社会科学論とはどういう学問か
- (3~4) 形式論理学の三大法則と矛盾
- (5~7) 弁証法論理学の基本法則
- (8~10) 生産力・生産関係の弁証法と唯物史観
- (11) 必然性の社会科学と土台・上部構造の社会理論
- (12) 経済的社会構成体の歴史理論と経済学批判
- (13) 諸収入の源泉と諸階級への分配法則および階級闘争
- (14) 資本主義的蓄積の一般的法則と歴史的傾向
- (15) 中間試験とまとめ
- (16) 独占資本主義段階以後の宗教社会学と理解社会学の生成
- (17~18) 理念と利害状況の歴史転換視座と宗教社会学の有効性
- (19) 世界戦略の動機理解というもう一つの分析視座と合理性の社会科学
- (20) 必然性の社会科学と合理性の社会科学の総合としての複眼思考
- (21~25) 現代資本主義分析の発展段階論と20世紀革命史・虚構の検証
- (26~28) 「新世界秩序」に向かう現代資本主義の“世界金融危機”と自然大災害
- (29) アソシエーション社会への転換と「収奪者の収奪」
- (30) 期末試験

準備学習

教科書や参考書は各自読み進めておくこと。社会科学論の真の教科書は常に生成しつつある全体としての現実社会そのものであるから、現実社会の最新状況についてメディア等を通じて日頃から自分自身の意見や考えをまとめておくことも本講義に不可欠の予習となる。また毎回のノートは必ず読み返して復習し、とくに専門用語は早期にマスターしておくこと。

履修上の留意点

本講義は、理論編と検証・応用編とからなる。精励出席が前提であり、毎回出席を取る。講義は常に現実社会の動向を分析の俎上にのせながら進めるので質問や意見・要望があればカード等で積極的に提出すること。次回授業の冒頭に匿名で紹介・応答し、可能な限り講義内容にも反映させていく。必ずノートを取り、復習すること。専門用語については確認テストも随時行う。

成績評価の方法

出席・平常点(20%)と前・後期末(計2回)の授業内試験(80%)等により総合的に評価する。

教科書/テキスト

大塚久雄著『社会科学の方法』岩波新書

参考書

1. 副島隆彦著『「金・ドル体制」の終わり』祥伝社、2011年
2. 関岡英之著『国家の存亡』PHP新書、2011年
3. 古賀茂明著『日本中枢の崩壊』講談社、2011年
4. 本山美彦著『金融危機後の世界経済を見通すための経済学』作品社、2009年

履修コード	219401
科目名	社会科学論〔社会認識の思想〕
担当者名	大石 雄爾

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>私たちをとりまく社会はめまぐるしく変化しています。アメリカに端を発した経済危機のなかで、経済格差と貧困の問題は深刻化しています。世界中の国々が協力して地球環境破壊を防止しようとしているとき、他方、中東などの地域では戦闘の火だねが拡大しています。こうした問題を私たちはどのように捉えればよいのでしょうか。</p> <p>人々は、人種や信条のちがいを問わず、より豊かに、より自由に、より安全に生活できることを願っています。社会科学は、社会の仕組みと法則性を明らかにすることを通して、こうした人類の願いに応える道を探ることを課題としています。この講義では、資本主義の経済とそこにおける法や国家の仕組みに焦点を当て、社会的諸関係を把握する方法について講義します。特に、社会科学の発展にとって重要な意味をもった社会学者・思想家の社会観および理論をとり上げ、現代的な意味について考えます。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1 社会科学を始めるにあたって</p> <p>2～3 思考する楽しみ</p> <p>4～5 社会科学とは何か</p> <p>6～15 社会の歴史的発展</p> <p>16～18 社会科学の生誕：ホブスとロック</p> <p>19～21 資本主義経済の把握：スミスとリスト</p> <p>22～25 資本主義の経済と国家：マルクスとウェーバー</p> <p>26～28 現代資本主義の捉え方：レーニン・ケインズ</p> <p>29～30 現代社会の思想的諸潮流</p>
----------	--

なお、現代社会の時事的諸問題については、折に触れてとり上げ解説する予定です。

準備学習	あらかじめ、何のために社会科学論を履修するのか、各自よく考えた上で毎回の授業に臨んでほしい。
------	--

履修上の留意点	1年間講義に出席し理解しようと努めることによって、皆さんの思考力、書写能力は高まります。毎回出席し、丁寧にノートを取ることを勧めます。
---------	---

成績評価の方法	授業中に小レポートを作成していただくことがあります。成績は、小レポートと後期に行なわれる定期試験の成績で評価します。
---------	--

教科書／テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	<p>高嶋善哉『社会科学入門』（岩波新書）</p> <p>平野壹一郎『社会科学の生誕』（大月書店）</p> <p>大石雄爾『ヘーゲル論理学の真相』（白桃書房）</p>
-----	---

履修コード	215901
科目名	社会学〔現代社会を考える〕
担当者名	呉 炳三
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。
授業スケジュール	<p>(前期) 社会学の基礎概念： (1)はじめに、(2)社会学とは、行為論として(3~4)社会学における行為、(5)行為者としての個人、(6)社会化と人間形成、(7~8)国民性についてグループ討議、(9)日本の行為論、集団論として(10)集団の概念、(11)集団の種類、(12)官僚制理論、(13)小集団論、(14)日本の集団論、(15)前期テスト</p> <p>(後期) 現代社会の特徴的な諸相： (1)前期テストの解説、(2)家族とは、(3~4)家族の機能、(5)アダルトチルドレン・摂食障害についてビデオをみる、(6)現代における恋愛、(7)結婚、(8)自殺について班ごとのディベート、(9)少年犯罪についてビデオをみる、(10)少子・高齢、(11)フリーター・ニート・引きこもり、(12)格差社会に関する班ごとのディベート、(13)就職・転職・リストラ、(14)ジェンダーとフェミニズム(男らしさ・女らしさ)、(15)後期テスト 以上、講義を予定しているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。</p>
準備学習	(1)前期ではグループ討議を、後期ではディベートを行うので、グループ討議とは何か、ディベートとは何かを事前に学習しておくことを勧める。
履修上の留意点	<p>本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みや積極的にノートをとることが望まれる。</p> <p>なお、国語辞書を使用するため必ず毎回持参することと、数回の宿題があるので、きちんと宿題が出来る学生の受講を勧める。</p> <p>本講義は、初回に重要な説明を行うため、必ず出席した方が望ましい。</p>
成績評価の方法	(1)出席状況(遅刻厳禁)、(2)前・後末に行う筆記試験、(3)宿題、(4)グループ討議やディベートの結果などより総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。
教科書/テキスト	教科書については、開講時に説明する。
参考書	講義中に、その都度紹介する。

履修コード	216001
科目名	社会学〔現代文化を考える〕
担当者名	呉 炳三
授業概要/ 到達目標(ねらい)	社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。
授業スケジュール	(前期)社会学の基礎概念： (1)はじめに、(2)社会学とは、行為論として(3~4)社会学における行為、(5)行為者としての個人、(6)社会化と人間形成、(7~8)国民性についてグループ討議、(9)日本の行為論、集団論として(10)集団の概念、(11)集団の類型、(12)官僚制理論、(13)小集団論、(14)日本の集団論、(15)前期テスト (後期)現代社会の特徴的な諸相： (1)前期テストの解説、(2)家族とは、(3~4)家族の機能、(5)アダルトチルドレン・摂食障害についてビデオをみる、(6)現代における恋愛、(7)結婚、(8)自殺について班ごとのディベート、(9)少年犯罪についてビデオをみる、(10)少子・高齢、(11)フリーター・ニート・引きこもり、(12)格差社会に関する班ごとのディベート、(13)就職・転職・リストラ、(14)ジェンダーとフェミニズム(男らしさ・女らしさ)、(15)後期テスト 以上、講義を予定しているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。
準備学習	(1)前期ではグループ討議を、後期ではディベートを行うので、グループ討議とは何か、ディベートとは何かを事前に学習しておくことを勧める。
履修上の留意点	本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みや積極的にノートをとることが望まれる。 なお、国語辞書を使用するため必ず毎回持参すること、数回の宿題があるので、きちんと宿題が出来る学生の受講を勧める。 本講義は、初回に重要な説明を行うため、必ず出席した方が望ましい。
成績評価の方法	(1)出席状況(遅刻厳禁)、(2)前・後末に行う筆記試験、(3)宿題、(4)グループ討議やディベートの結果などより総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。
教科書／テキスト	教科書については、開講時に説明する。
参考書	講義中に、その都度紹介する。

履修コード	216301
科目名	社会学 [社会生活を考える]
担当者名	呉 炳三
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。
授業スケジュール	(前期) 社会学の基礎概念： (1)はじめに、(2)社会学とは、行為論として(3~4)社会学における行為、(5)行為者としての個人、(6)社会化と人間形成、(7~8)国民性についてグループ討議、(9)日本の行為論、集団論として(10)集団の概念、(11)集団の種類、(12)官僚制理論、(13)小集団論、(14)日本の集団論、(15)前期テスト (後期) 現代社会の特徴的な諸相： (1)前期テストの解説、(2)家族とは、(3~4)家族の機能、(5)アダルトチルドレン・摂食障害についてビデオをみる、(6)現代における恋愛、(7)結婚、(8)自殺について班ごとのディベート、(9)少年犯罪についてビデオをみる、(10)少子・高齢、(11)フリーター・ニート・引きこもり、(12)格差社会に関する班ごとのディベート、(13)就職・転職・リストラ、(14)ジェンダーとフェミニズム(男らしさ・女らしさ)、(15)後期テスト 以上、講義を予定しているが、受講生の要望も取り入れながら講義を進めているため講義内容を変更することもある。
準備学習	(1)前期ではグループ討議を、後期ではディベートを行うので、グループ討議とは何か、ディベートとは何かを事前に学習しておくことを勧める。
履修上の留意点	本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みや積極的にノートをとることが望まれる。 なお、国語辞書を使用するため必ず毎回持参することと、数回の宿題があるので、きちんと宿題が出来る学生の受講を勧める。 本講義は、初回に重要な説明を行うため、必ず出席した方が望ましい。
成績評価の方法	(1)出席状況(遅刻厳禁)、(2)前・後末に行う筆記試験、(3)宿題、(4)グループ討議やディベートの結果などより総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。
教科書/テキスト	教科書については、開講時に説明する。
参考書	講義中に、その都度紹介する。

履修コード	216101
科目名	社会学〔現代文化を考える〕
担当者名	武山 梅乗

授業概要/ 到達目標（ねらい）	「文化を語ることに社会学に何ができるのか？」という問いに対して答えることは、これまでも社会学にとって最も重要な使命の一つであったし、世界が「文明の衝突」や環境破壊、グローバル経済の矛盾といった危機的状況を迎えている現在、社会学において文化をきちんと位置づけることは喫緊の課題であるといえるでしょう。本講義は、文化を射程におさめた社会学理論を学ぶことを通じて、人と人とが共生する意義を把握すると同時に、それを援用して受講生一人ひとりが身近なく文化について理解を深めることを目的としています。
--------------------	--

授業スケジュール	第1～3回：文化とアイデンティティの問題（私とは何か、自我の社会性、アイデンティティと脱アイデンティティ）、第4～7回：国家とエスニシティ（国民国家とは何か、人類館事件と方言論争、エスニシティとく沖縄）、大城立裕の小説作品にみる沖縄）、第8～11回：ジェンダーと家族（ジェンダーとフェミニズム、女性美とダイエット、恋愛における男らしさ、ジェンダーと家族）、第12～15回：文化と逸脱（逸脱をめぐる諸理論、ラベリング理論、少年法とソーシャルインクルージョン、自殺をめぐる諸問題）、第16～19回：消費社会という文化（『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、産業社会と消費社会、記号消費、消費社会における広告の意義、ブランドとGI）、第20～24回：組織における文化（組織と官僚制、官僚制の逆機能、世界のマクドナルド化）、第25～27回：文化的再生産（文化資本とハビトゥス、社会階層、格差の問題）、第28～30回：く文化くをみる目－社会学における古典的な文化の理論－（文化の型、社会規範、知識社会学）
----------	--

準備学習	講義に入る前の事前学習としては教科書を一読しておくことを期待します。また、講義に入ってから、事前にYeStudy上にアップしておく資料等に目を通しておくこと、講義の各回終了時には教科書の課題等を用いて復習しておくこと希望します。
------	--

履修上の留意点	講義内容に興味関心があり、主体的に講義の臨む覚悟と気力のある学生だけが履修してほしいと思います。
---------	--

成績評価の方法	出席状況を勘案した上で、毎回提出してもらうリアクションペーパーの内容（1割）、講義期間中に4回提出してもらう課題（4割）、学期末の定期試験（5割）などから総合的に評価します。
---------	---

教科書／テキスト	武山梅乗・呉炳三『社会学の扉をノックする』学文社 ISBN 978-4-7620-1969-2
----------	---

参考書	坪井健編著『新しい社会学を学ぶ』学文社、その他の参考書は講義期間中に随時紹介します。
-----	--

履修コード	216201
科目名	社会学〔社会生活を考える〕
担当者名	武山 梅乗

授業概要/ 到達目標（ねらい）	一般的に社会学は難しい学問だと思われがちですが、必ずしもそうではありません。自分というものの、自分の家族というもの、自分が暮らしているこの国やこの地球に起こっていることを身近に引き寄せて考察の対象とする力が社会学にはあると思います。本講義は、社会学の方法や理論を学ぶことを通じて、人と人とがどうすれば共生できるのかを模索すると同時に、それを援用して受講生一人ひとりに、自分、人間、そして社会なるものについての理解を深めてもらうことを目的としています。
--------------------	---

授業スケジュール	第1回：社会とは何か、第2～5回：わたしをめぐる現象（自我、アイとミー、アイデンティティとアイデンティティ・クライシス、脱アイデンティティ）、第6～8回：私とみんなをつなぐもの（社会的行為とダブルコンティンジェンシー、役割とドラマトウルギー）、第9～12回：集団と組織（社会集団とそのタイプ、官僚制の逆機能）、第13～15回：合理化する世界（テイラーシステムとフォーティズム、マクドナルド化する世界）、第16～20回：消費社会と社会的性格（資本主義と産業社会、消費社会と社会的性格、記号消費と広告）、第21～24回：家族とジェンダー（核家族化、家族機能の変化、ジェンダーと家族、子どもと教育する家族）、第25～27回：地域社会の現在（コミュニティとは何か、国土計画と過疎過密、コミュニティとネットワーク）、第28～30回：国民国家とエスニシティ（日本における国民国家の形成、エスニシティとく沖縄くをめぐる問題）
----------	---

準備学習	講義に入る前の事前学習としては教科書を一読しておくことを期待します。また、講義に入ってから、事前にYeStudy上にアップしておく資料等に目を通しておくこと、講義の各回終了時には教科書の課題等を用いて復習しておくこと希望します。
------	--

履修上の留意点	講義内容に興味関心があり、主体的に講義の臨む覚悟と気力のある学生だけが履修してほしいと思います。
---------	--

成績評価の方法	出席状況を勘案した上で、毎回の提出してもらうリアクションペーパーの内容（1割）、講義期間中に4回提出してもらう課題（4割）、学期末の定期試験（5割）などから総合的に評価します。
---------	--

教科書／テキスト	武山梅乗・呉炳三『社会学の扉をノックする』学文社 ISBN 978-4-7620-1969-2
----------	---

参考書	坪井健編著『新しい社会学を学ぶ』学文社、その他の参考書は講義期間中に随時紹介します。
-----	--

履修コード	344301
科目名	社会学〔現代文化を考える〕
担当者名	橋爪 敏

授業概要/ 到達目標(ねらい)	この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供し、あわせて、「現代社会」についての若干の問題を論ずることを目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	「講義のねらい」で述べたように、この講義は「社会学」の知識と、「社会学」的見方を通してみた「現代社会」の問題を扱うことになる。しかし、ほとんどの学生諸君は「社会学」についての予備知識は無いものと思われる。「社会学」は高等学校までの社会科とはかなり異なっている。 前期1)～8)社会学とは何か、社会学の対象と方法、社会科学としての社会学9)～15)歴史から見る社会学、総合社会学、百科全書的 sociology、マルクス主義の影響。 後期は16)～20)フランスにおける現代社会学への歩み21)～25)ドイツにおける現代社会学への歩み26)～30)現代社会学の展開を概観する事により、社会現象に対する科学的取り組みを理解し身に付ける事にしたい。
----------	---

準備学習	指定のテキストを事前に、読み内容を理解しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	成績の評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。
教科書/テキスト	安藤喜久雄ほか編『社会学概論』(学文社)
参考書	高尾・橋爪編『社会学の基礎』(犀書房) R.ニスペット『現代社会学入門1～4』(講談社学術文庫) その他授業中に適宜指示したい。

履修コード	215801
科目名	社会学〔現代社会を考える〕
担当者名	藤本 隆史

授業概要/ 到達目標(ねらい)	社会は人と人が様々な形で関わりあうことの結果として成り立っており、またわれわれ一人一人も他者や社会と関わりあうことによって自己を形成し、社会の一員となっていく。様々な生活環境において、人々の関わり方に表面上の違いはあるが、そこには一定のメカニズムが働いている。この講義では、様々な日常の生活場面での身近な話題から社会現象や社会問題といわれる事柄も取り上げ、自分と他者、そして社会との関わりについて理解を深めることを目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	(1)前期イントロダクション(2～3)社会的行為(4～6)社会的自己(7～9)対人コミュニケーション(10～12)対人関係(13～14)小集団(15)前期試験 (16)後期イントロダクション(17)社会変動と産業社会(18～19)資本主義社会(20～21)企業社会と組織構造(22)職場と働き方(23)ストレス社会(24)消費社会(25)情報化社会とマス・メディア(26～27)少子高齢化社会(28～29)医療と社会(30)後期試験 授業の進度によって、多少内容に変更の可能性はある。
----------	--

準備学習	新聞やテレビなどのメディアで取り上げられる様々な事柄に触れる。その際に、できるだけ複数の情報源を活用するようにすること。メディアで流される情報を鵜呑みにしないで、自分なりに整理して考えることを心掛けてほしい。
履修上の留意点	具体的なトピックを紹介しながら講義を進める。授業で紹介された内容について、自分自身の経験などを照らし合わせて具体的に考えてみてほしい。
成績評価の方法	毎回の授業時に提出してもらおうリアクションペーパー、前・後期末に行う筆記試験、講義期間中に随時提出してもらおう課題(小レポート)により総合的に評価する。
教科書/テキスト	特定のテキストは用いない。
参考書	講義時に適宜紹介する。

履修コード	344201
科目名	社会学 [現代社会を考える]
担当者名	藤本 隆史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会は人と人とが様々な形で関わりあうことの結果として成り立っており、またわれわれ一人一人も他者や社会と関わりあうことによって自己を形成し、社会の一員となっていく。様々な生活環境において、人々の関わり方に表面上の違いはあるが、そこには一定のメカニズムが働いている。この講義では、様々な日常の生活場面での身近な話題から社会現象や社会問題といわれる事柄も取り上げ、自分と他者、そして社会との関わりについて理解を深めることを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	(1) 前期イントロダクション (2~3) 社会的行為 (4~6) 社会的自己 (7~9) 対人コミュニケーション (10~12) 対人関係 (13~14) 小集団 (15) 前期試験 (16) 後期イントロダクション (17) 社会変動と産業社会 (18~19) 資本主義社会 (20~21) 企業社会と組織構造 (22) 職場と働き方 (23) ストレス社会 (24) 消費社会 (25) 情報化社会とマス・メディア (26~27) 少子高齢化社会 (28~29) 医療と社会 (30) 後期試験 授業の進度によって、多少内容に変更の可能性がある。
----------	--

準備学習	新聞やテレビなどのメディアで取り上げられる様々な事柄に触れる。その際に、できるだけ複数の情報源を活用するようにすること。メディアで流される情報を鵜呑みにしないで、自分なりに整理して考えることを心掛けてほしい。
------	--

履修上の留意点	具体的なトピックを紹介しながら講義を進める。授業で紹介された内容について、自分自身の経験などを照らし合わせて具体的に考えてみてほしい。
---------	---

成績評価の方法	毎回の授業時に提出してもらうリアクションペーパー、前・後期末に行う筆記試験、講義期間中に随時提出してもらった課題 (小レポート) により総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	特定のテキストは用いない。
----------	---------------

参考書	講義時に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	218701
科目名	政治学 [社会生活とデモクラシー]
担当者名	白鳥 浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「政治」とは何でしょうか。この講義においては、「政治」とは、「未来の選択である」とする視座に立ち、政治学の全体像を学んでもらいます。これは、しばしば「可能性のアート」であるといわれるゆえんでもあります。そうした「未来の選択」、「可能性のアート」を扱う学問である「政治学」とは何か、どのように発展してきたのかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
---------------------	---

授業スケジュール	以下の内容を初めてのひとにもわかるように講義します。 I、序論 政治学の基礎概念 (1~4) II、古代の政治理論 (5~8) III、中世の政治理論 (9~11) IV、近代政治理論の形成 (12~15) V、近代批判の政治理論 (16~18) VI、現代の政治理論 (19~22) VII、国際政治の理論 (23) VIII、現代の政治過程理論 (24~26) IX、ワールド・ポリティカル・サイエンスの形成 (27) X、現代日本の政治分析 (28~30)
----------	---

準備学習	前の週の復習をできるだけ行うこと。ニュースに敏感になること。
------	--------------------------------

履修上の留意点	関心を持って、講義に出席してください。
---------	---------------------

成績評価の方法	試験を中心とするが、総合的に判断する。
---------	---------------------

教科書/テキスト	白鳥『都市対地方の日本政治：現代政治の構造変動』(芦書房)2009年
----------	------------------------------------

参考書	藤原『西洋政治理論史』(早瀬田大学出版部)1985年 授業内で適宜、指示します。
-----	---

履修コード	218801
科目名	政治学〔政治システムと政治参加〕
担当者名	富崎 隆

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>「2001年9月11日、世界が変わった」と表現されることがあります。そして、米同時多発テロを境に、「ポスト冷戦」が終了し、「新しい時代」に入ったと議論されています。しかし、世界政治の方向性ははっきりとした訳ではありません。一方、世界の急速なグローバル化と情報化を背景に、膨大な情報が、テレビ、ラジオ、新聞、コンピュータ・ネットワークを通じ流通するようになってきました。しかし、これらの情報を単に漫然と受け取っているだけでは、毎日起こる事件の本当の意味は理解できません。事件や出来事を整理する「体系的視点」がどうしても必要となります。政治学を学ぶ基本的な意義もここにあります。</p> <p>本講義では、政治学が蓄積してきた視点を、最新の成果を含めた形で、かなり網羅的に、かつ現実政治との連関を失わないように検討し、受講生が日々の政治的事件に対し自分の見解をもつための土台を提供したいと思います。講義全体としては、現代における「国家」と「民主主義」の意義と役割、その動態について明らかにし、考えてもらうことを中心テーマとします。さらに、今日の対テロ問題とグローバル化・情報化の意味についても検討します。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>(1～2) 講義のねらいと政治を学ぶ意義 (3～14) マクロ政治学-国家と自由民主主義体制の枠組み； 政治・権力・国家の意味 望ましい国家のあり方(国家の仕事の範囲・国家の運営方法) 民主制・自由民主主義体制の意味 国家の歴史的展開 民主化と体制変動 自由民主主義体制の比較枠組み (15～26) ミクロ政治学-自由民主主義体制の作動メカニズム； 政権形態・執政部 政党と政党制 有権者の投票行動と選挙 官僚制と議会 利益集団とマスメディア 日本の民主政治 (27～30) 国際政治学； 国際政治の意味 国際政治の主要理論潮流 日本の外交政策 冷戦後の世界政治をみる視点</p>
----------	--

準備学習	テキストや関連文献の予習が望まれます
履修上の留意点	
成績評価の方法	テスト及びレポート・出席などを総合的に評価します
教科書／テキスト	堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識編』一藝社 2625円 ISBN-10 : 4901253913
参考書	講義時、適時指示

履修コード	344801
科目名	政治学〔政治システムと政治参加〕
担当者名	真下 英二

授業概要/ 到達目標（ねらい）	そもそも政治とは何か、何のために存在しているのか？政治学の基本的な知識を身につけることにより、社会における政治の役割とわれわれの生活との関わり合いについて考察していく。とりわけ、現代民主主義における参加の問題についても検討を加えていく。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>春学期：政治学の基本的な概念を中心に検討していく。特に、民主主義に関する問題は、時間をかけて行っていく。</p> <p>(1) 政治の本質について考える (2~3) 権力とは何か (4~5) 近代国家と現代国家 (6) 政治思想とイデオロギー (7) 「自由」の持つ意味 (8~9) 民主主義について考える (10~11) 近代政治の基本原理 (12) 議院内閣制と大統領制 (13) 各国の政治制度 (14~15) 現代国家と官僚制</p> <p>秋学期：より現代的な問題を取り上げながら、現代社会の民主主義の問題について検討を行う。特に、政治システムと政治参加について、より詳細に検討していく予定である。</p> <p>(16) 現代政治と政党システム (17) 圧力団体 (18) 現代の政治過程 (19) 選挙 (20) 投票行動と政治意識 (21) 現代の大衆社会 (22) 政治的コミュニケーション (23~24) 現代社会における住民運動と政治参加 (25) 地方自治と市民の政治参加 (26~27) 日本の政治 (28) 国際政治 (29~30) 政治学の理論</p>
----------	---

準備学習	普段から、新聞や雑誌などに目を通し、時事問題に対する関心を持つことを期待したい。
履修上の留意点	この講義では、政治学や社会科学に関する専門的知識は特に要しないが、最低限、社会的な諸問題についての最低限の知識を持っていることが期待される。
成績評価の方法	成績評価は、原則的に期末試験の得点のみによって行う。詳細については、講義中に指示する。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	加藤秀治郎『政治学 第2版』（芦書房）2006年 加藤秀治郎・中村昭雄『新版スタンダード政治学』（芦書房）1999年 他は追って指示する。

履修コード	218901
科目名	政治学〔国際社会と日本〕
担当者名	山崎 望

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】本講義の副題である「国際社会と日本」について、身近なレベルからグローバルなレベルまで、世界の変化を理解するべく政治学の観点から講義を行います。</p> <p>【到達目標】様々な社会問題や経済問題を、政治の観点から考え、国内政治のみならず、世界レベルでの政治についての考えを確立するための基礎的な考えを学ぶことが本講義の目標です。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 国内政治と国際政治 第2回 政治と経済、政治と家族 第3回 政治と権力 第4回 国際政治の成立（ウェストファリア秩序） 第5回 世界大戦と植民地主義 第6回 冷戦 第7回 冷戦の終焉とポスト冷戦（1990年代） 第8回 政治体制論 第9回 自由民主主義 第10回 政党論 第11回 福祉国家論 第12回 格差社会論 第13回 共産主義 第14回 フェミニズム（男女平等と家族の変容） 第15回 理解度確認 第16回 グローバル経済 第17回 世界経済危機（リーマンショック） 第18回 世界経済危機（欧州経済危機） 第19回 国民国家 第20回 ナショナリズム 第21回 多文化主義 第22回 移民と難民 第23回 「9・11」対米同時多発テロ以後のアメリカ、グローバルテロリズム 第24回 「イスラーム原理主義」 第25回 アラブの春 第26回 人道的介入論 第27回 地域主義（EUとアジア共同体構想） 第28回 新しい民主主義 第29回 国境を越える民主主義論 第30回 理解度確認</p>
----------	--

準備学習	<p>講義と並行する形で、新聞を必ず読むようにしてください。 新聞は図書館に完備してあるので、基礎知識を得るためにも、 新聞を毎日読む習慣を身につけてください。 加えて、インターネットなどで情報を集め、問題意識をもって出席してください。 余裕があれば、講義に関連する本などを、新書レベルから読むように努力してください。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>自分が生きてく上で直面せざるを得ないであろう問題について、考える習慣を身につけることが目的なので、毎回出席して下さい。講義の最後の時間に書いてもらうレスポンスカードには、講義の感想や時事問題についての自分の考え、質問などを積極的に書いて下さい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>試験 70パーセント 平常点 30パーセント</p>
---------	------------------------------------

教科書／テキスト	<p>加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦1998『現代政治学』有斐閣アルマ ISBN 4-641-12168</p>
----------	---

参考書	<p>講義中に適宜指摘します。</p>
-----	---------------------

その他	<p>講義形式。講義時に簡易なレジュメを配布する予定です。 講義の後半10分にレスポンスカードを配るので、質問や感想を書いてください。 翌週の講義の冒頭に簡易な応答を行います。</p>
-----	--

履修コード	344901
科目名	政治学〔国際社会と日本〕
担当者名	山村 恒雄
授業概要/ 到達目標（ねらい）	「法学」や「経済学」とは違い、「政治学」に対して抱くイメージは、人によってかなり異なるようである。この授業は副題にある通り「国際社会」のなかで日本が直面するさまざまな課題を取り上げ、それを素材として「政治を見る眼」を養うことを目的とする。具体的には、近代国際社会成立以降第二次世界大戦終了後に至るまでの国際政治の主な出来事を解説し、それを基にして現在生じている時事問題を考える素材を提供しようとするものである。したがって、授業は時事問題の解説が目的ではなく、受講生のひとりひとりが、政治問題に対して自分の意見を形成できるよう、「分析の道具」を提供しようとするものである。
授業スケジュール	第1回：政治とは何か、第2～4回：政治社会、国際政治と国内政治の違い、第5～7回：ウェストファリア・システムの成立と崩壊、現代の国際政治の特質、第8～10回：東西冷戦の形成と崩壊、その後の世界秩序、第11～13回：地球的問題群、第14～15回：地球環境破壊について、第16回：国際連合設立者の意図、第17～20回：国連改革の必要性和国際社会の対応について、第21～23回：国連改革に対する日本の対応、第24回：ハイレベルパネル報告書について、第25回：日本の国連中心主義について、第26～28回：国連が直面している問題について、第29～30回：21世紀の国連のあり方について
準備学習	現在、国際社会でどのようなことが起きているのかについて、新聞や雑誌、テレビなどのニュースに気を配り、把握しておくこと。
履修上の留意点	受け身ではなく、積極的に授業に参加できる意欲のある人を歓迎します。
成績評価の方法	受講生の数にもよるが、人数が少ない場合は年2回のレポートで評価する。前期のレポートを提出した者だけが、後期レポートを提出することができるので、評価を必要とする人は、2回のレポートをそれぞれの期日までに提出すること。人数が多い場合は、前期レポート、後期筆記試験で評価する。その場合の割合は、等分とする。
教科書／テキスト	特定の教科書は使用しない。
参考書	授業中、随時指定。

履修コード	216501
科目名	統計学 [社会現象の統計的決定]
担当者名	新行内 康慈

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>[授業概要] 統計学は観測値から有用な情報を引き出す方法であり、経営、経済をはじめとする社会現象の解析や意思決定など幅広い分野で活用されている。本講義では、統計学の入門としてその基本的な考え方と諸手法を現実の問題を引用しながら解説する。</p> <p>[到達目標] この講義の到達目標は、統計学の基礎を理解し、目的に応じて適切な手法で解析し、得られた結果を正しく解釈する力を身につけることとする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の概要 2. 度数分布表・ヒストグラム 3. 基本統計量 4. 問題演習 5. 確率の定義 6. 場合の数 7. 和事象・積事象の確率 8. 小テスト1 9. 確率変数と確率分布 10. いろいろな確率分布 11. 平均・分散と期待値 12. 標準化 13. 正規分布表 14. 小テスト2 15. 前期のまとめ・補足 16. 母集団と標本 17. 統計量と標本分布 18. 点推定と区間推定 (母平均・母分散) 19. 仮説検定 (母平均・母分散) 20. 問題演習 21. 母平均の差の推定・検定 22. 母比率の推定・検定 23. 問題演習 24. 小テスト3 25. 散布図と相関係数 26. 回帰分析 27. クロス集計表と独立性の検定 28. 問題演習 29. 理解度の確認 30. 全体のまとめ・補足
----------	--

準備学習	配布資料・説明資料はYeStudyで公開するので、予習復習に役立てること。
------	---------------------------------------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・積み重ねが要求される分野なので、毎回の内容を確実に理解していくことが大切。 ・講義で取り上げる例題・練習問題は必ず自力で解いてみる。
---------	--

成績評価の方法	<p>以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を評価とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小テスト1～3：45% (各15%) + 期末試験55% ②期末試験：100%
---------	--

教科書/テキスト	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
----------	-----------------------

参考書	<p>石村貞夫『すぐわかる統計解析』東京図書 2,000円 ISBN4-489-00407-9 前野昌弘・三國彰『図解でわかる統計解析』日本実業出版 1,800円 ISBN4-534-03036-3 永田靖『入門 統計解析法』日科技連出版 2,900円 ISBN4-8171-0266-7 東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』東京大学出版 2,800円 ISBN4-13-042065-8</p>
-----	---

その他	配布資料・説明資料等はYeStudyで公開する。
-----	--------------------------

履修コード	345201
科目名	統計学〔社会現象の統計的決定〕
担当者名	新行内 康慈

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>[授業概要] 統計学は観測値から有用な情報を引き出す方法であり、経営、経済をはじめとする社会現象の解析や意思決定など幅広い分野で活用されている。本講義では、統計学の入門としてその基本的な考え方と諸手法を現実の問題を引用しながら解説する。</p> <p>[到達目標] この講義の到達目標は、統計学の基礎を理解し、目的に応じて適切な手法で解析し、得られた結果を正しく解釈する力を身につけることとする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の概要 2. 度数分布表・ヒストグラム 3. 基本統計量 4. 問題演習 5. 確率の定義 6. 場合の数 7. 和事象・積事象の確率 8. 小テスト1 9. 確率変数と確率分布 10. いろいろな確率分布 11. 平均・分散と期待値 12. 標準化 13. 正規分布表 14. 小テスト2 15. 前期のまとめ・補足 16. 母集団と標本 17. 統計量と標本分布 18. 点推定と区間推定（母平均・母分散） 19. 仮説検定（母平均・母分散） 20. 問題演習 21. 母平均の差の推定・検定 22. 母比率の推定・検定 23. 問題演習 24. 小テスト3 25. 散布図と相関係数 26. 回帰分析 27. クロス集計表と独立性の検定 28. 問題演習 29. 理解度の確認 30. 全体のまとめ・補足
----------	--

準備学習	配布資料・説明資料はYeStudyで公開するので、予習復習に役立てること。
------	---------------------------------------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・積み重ねが要求される分野なので、毎回の内容を確実に理解していくことが大切。 ・講義で取り上げる例題・練習問題は必ず自力で解いてみる。
---------	--

成績評価の方法	<p>以下のふたつの評価方法のうち、高得点の方を評価とする。</p> <p>①小テスト1～3：45%（各15%）＋期末試験55%</p> <p>②期末試験：100%</p>
---------	--

教科書／テキスト	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
----------	-----------------------

参考書	<p>石村貞夫『すぐわかる統計解析』東京図書 2,000円 ISBN4-489-00407-9</p> <p>前野昌弘・三國彰『図解でわかる統計解析』日本実業出版 1,800円 ISBN4-534-03036-3</p> <p>永田靖『入門 統計解析法』日科技連出版 2,900円 ISBN4-8171-0266-7</p> <p>東京大学教養学部統計学教室『統計学入門』東京大学出版 2,800円 ISBN4-13-042065-8</p>
-----	---

その他	配布資料・説明資料等はYeStudyで公開する。
-----	--------------------------

履修コード	216401
科目名	統計学〔社会現象の統計的分析〕
担当者名	松田 慎一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義では、はじめて統計学を学ぶ学生を対象にして講義を行う。また本講の統計学では、経済学に用いるデータの要約や解釈を行う上での根拠を主に解説する。講義では、エクセルなどの計算ソフトを使い例題を解くことで、各自が実際のデータを用いて、データの整理や、表・グラフの作成、および基本的な統計量の理解ができるようにすることを目標とします。
授業スケジュール	<p>1回 ガイダンス 2、3回 平均と中央値 4、5回 分散、標準偏差、変動係数 6、7回 グラフのつくり方 (折れ線、散布図、ヒストグラム、度数分布) 8、9回 相関と相関係数 10、11回 分布と正規分布 12、13回 標準化 14、15回 まとめ</p> <p>16回 ガイダンス 17回 母集団と標本 18回 確率 19回～21回 点推定と区間推定 22回～24回 仮説検定と有意水準 25、26回 単純回帰分析 27、28回 重回帰分析 29、30回 まとめ</p>
準備学習	初回の授業において、講義予定および教科書などの詳細を説明します。受講者は必ず出席すること。
履修上の留意点	統計学では、段階的かつ継続的な学習が必要です。主にパソコンを使い演習をするため、各自授業後の復習が必須となります。また数式を使った説明を行うこともあるが、可能な限りわかりやすく授業内で説明する。
成績評価の方法	課題、定期試験に基づいて評価する。評価方法は、課題を50%、定期試験を50%とする予定です。
教科書/テキスト	鳥居泰彦『はじめての統計学』日本経済新聞社
参考書	授業内において、適宜指示する。

履修コード	217301
科目名	文化人類学〔社会変化と価値観〕
担当者名	内山 明子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバル化により、近年、日本でも様々な文化をもつ人々との日常生活空間の共有化が進展する一方、排外的なナショナリズムの動きも拡大している。このような時代に自分たちと異なる人々とうまく関係を築いていくのかを考え実践していくうえで、文化人類学は一つの指針になりうる。本講義では、これからますます加速化する多文化状況を様々な局面から柔軟に捉えていくための一助として文化人類学の基礎知識を提供していきたい。
授業スケジュール	(1)文化人類学とは(2~6)文化人類学の基本的枠組み:「未開」と「文明」、文化相対主義、フィールドワークと民族誌、オリエンタリズム、近代世界システム(7~11)人類の進化と環境問題:人類の歩み、自然を大切にす未開人?今日の取り組み(12~15)民族と人種:様々な民族概念、民族と国家、人種主義と優生学(16~20)結婚と家族:インセスタブーと女性の交換、生殖医療の発展と家族研究、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ(21~25)儀礼と分類:分類と分類からはずれるもの、通過儀礼、コミュニタス(26~30)国家と宗教:人類学による宗教研究概略、政教分離と信教の自由、宗教復興
準備学習	授業で紹介する参考文献等に事前に目を通しておいください。
履修上の留意点	授業に関連するテーマを日々の生活の中で探し出し具体的に考えていくことで、授業の内容をより身近なものとして反芻していったほしい。
成績評価の方法	最終後に行う期末試験(筆記試験)が80パーセント、レポート(年一回)が15パーセント、平常点が5パーセント
教科書/テキスト	指定しません。参考文献は授業内で随時紹介します。
参考書	

履修コード	217401
科目名	文化人類学〔社会変化と価値観〕
担当者名	内山 明子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバル化により、近年、日本でも様々な文化をもつ人々との日常生活空間の共有化が進展する一方、排外的なナショナリズムの動きも拡大している。このような時代に自分たちと異なる人々どう関係を築いていくのかを考え実践していくうえで、文化人類学は一つの指針になりうる。本講義では、これからますます加速化する多文化状況を様々な局面から柔軟に捉えていくための一助として文化人類学の基礎知識を提供していきたい。
授業スケジュール	(1)文化人類学とは (2~6)文化人類学の基本的枠組み：「未開」と「文明」、文化相対主義、フィールドワークと民族誌、オリエンタリズム、近代世界システム (7~11)人類の進化と環境問題：人類の歩み、自然を大切にす未開人？今日の取り組み (12~15)民族と人種：様々な民族概念、民族と国家、人種主義と優生学 (16~20)結婚と家族：インセスタブーと女性の交換、生殖医療の発展と家族研究、セックス、ジェンダー、セクシュアリティ (21~25)儀礼と分類：分類と分類からはずれるもの、通過儀礼、コミュニタス (26~30)国家と宗教：人類学による宗教研究概略、政教分離と信教の自由、宗教再興
準備学習	授業で紹介する参考文献等に事前に目を通しておいください。
履修上の留意点	授業に関連するテーマを日々の生活の中で探し出し具体的に考えていくことで、授業の内容をより身近なものとして反芻していったほしい。
成績評価の方法	終講後に行う期末試験（筆記試験）が80パーセント、レポート（年一回）が15パーセント、平常点が5パーセント
教科書／テキスト	指定しません。参考文献は授業内で随時紹介します。
参考書	

履修コード	217201
科目名	文化人類学〔社会変化と価値観〕
担当者名	小川 順敬

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>(授業概要) 文化人類学(以下、人類学)とは様々な民族の社会や文化を対象とし、「文化」をトータルに考察しようとする学問です。人類に多様な文化を対象とする人類学の方法の特徴は比較研究にあります。単に文化の違いを明らかにしようとするだけではなく、比較を通してその差異と共通性について考え、文化とは何か、人間とは何かを考えようとしています。授業では人類学の歴史を紹介しながら、「文化」理解の試みを紹介し、</p> <p>(到達目標) 人類学の調査対象である「異文化社会」は、非西欧世界の伝統社会を意味しています。それらの社会は15-6世紀の大航海時代以降「発見」され、以降はげしい近代化、社会変化・文化変化の波に洗われてきました。人類学は「西欧文化」との接触によって変容しつつある社会を調査し続けてきたのです。この講義では、変化し続ける異文化社会を、文化人類学はどの様に理解しようとしてきたのか、文化人類学の学説の歴史をおって考えてみることにしたいと思います。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> この授業の目標・進め方・約束事について 人間の文化とは何か 文化人類学の歴史と異文化を見る目 社会進化論の考え方 社会進化論を産み出した時代 社会進化論における異文化 文化の定義 社会進化論からみた親族の繋がりに 親族理論と親族用語 母系制の島の親族 文化人類学における機能主義の考え方 機能主義人類学とその時代 機能主義人類学の理論家たち 機能主義人類学からみた社会制度 機能主義人類学からみた異文化 前期のまとめ 文化相対主義の考え方 文化相対主義とその時代 文化相対主義の理論家たち ポアズ、ベネディクト 文化相対主義の理論家たち ミードとサモア社会 文化人類学と進化論 文化決定論と生物学的決定論 文化相対主義の理論 言語相対論 文化相対主義の理論 文化の型 文化相対主義批判 フィールドワークの方法論 民族誌がえがく世界 文化人類学が見た「未開社会」 文化の創造と文化と人類学 観光の文化人類学 後期のまとめ
----------	--

準備学習	授業準備として次回授業で取り上げる内容について教科書の該当箇所、もしくは事前に関連資料のコピーに眼を通しておくこと。また、小テストの内容は必ず復習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	原則として、年8回の「小テスト」(平常点)が2割、夏期レポート(前期試験に相当)が4割、年度末の筆記試験が4割として評価します。成績評価の具体的な方法、レポート課題の内容、年度末試験の方針、小テストの評価の仕方などは最初の授業で詳しく説明します。
---------	---

教科書/テキスト	祖父江孝男『文化人類学入門』(中公新書560番 中央公論社 ISBN978-4121905604)。授業内容に関連する資料のコピーは適宜配布します。
----------	--

参考書	講義の内容に関連する参考文献は適宜紹介します。
-----	-------------------------

履修コード	216801
科目名	文化人類学〔文化と人間〕
担当者名	加藤 之晴

授業概要/ 到達目標（ねらい）	文化人類学という学問では、人びとが集い、生活をしていくなかで生まれる様々な生活習慣・思考・言語などに注目します。そして「フィールドワーク」と呼ばれる経験的な調査法から得られたデータに基づいて「人びとはどうしてこのような行動をとるのか、考え方をするのか？」といった問いを立て、その答えを探し求めていくなかで、人間存在についての理解を深めることを目指します。
--------------------	---

本講義では、はじめに文化人類学の基本的な立場・目的・方法・歴史について概略的な解説をおこないます。つぎに言語・身体・宗教・病い・食などのキーワードを挙げ、世界各地の具体的な事例をもとに、文化人類学の世界ではそれらをどのように捉えるのか、それによって何が見えてくるのかということをお話していきます。

授業スケジュール	第1回： ガイダンス 第2回： 「文化」とは何か 第3-4回： 「驚異の部屋」：文化人類学前夜 第5-6回： 「フィールドワーク」：文化人類学の手法 第7-8回： 「文化相対主義」の功罪 第9-16回： 「食」と「病」の文化人類学 第17-18回： 「ことば」と人間と「境界」 第19-20回： 文化人類学からみた「宗教」1「呪術」と「宗教」 第21-22回： 文化人類学からみた「宗教」2「呪術」「邪術」「妖術」 第23-25回： 文化人類学からみた「宗教」3「妖術」と現代 第26-27回： 文化人類学からみた「宗教」4「アニミズム」 第28-29回： 文化人類学からみた「宗教」5「シャーマニズム」 第30回： まとめ
----------	--

準備学習	授業時に紹介する参考文献など、授業に関連した内容の書籍を何冊か読んでおくと、より興味深く講義を聴くことができます。
------	---

履修上の留意点	・授業中・授業後の質問は大歓迎です。積極的な授業態度で臨んでくれると、こちらも張り合います。 ・原則的に板書はしません。パソコンのプレゼンソフトを用いて授業を進めていきます。
---------	--

成績評価の方法	基本的には年度末の筆記試験で評価しますが、出席点や課題レポートなどを評価の際の補足材料とするかもしれません。
---------	--

教科書／テキスト	特定の教科書は使いません。毎回講義のトピックを記したプリント（レジュメ）を配布します。
----------	---

参考書	授業時に必要に応じて紹介します。
-----	------------------

履修コード	344401
科目名	文化人類学〔文化と人間〕
担当者名	川上 新二

授業概要/ 到達目標（ねらい）	世界のさまざまな民族や社会を理解するために、さらには人間を理解するために文化人類学が提出してきた見方、考え方を学びながら、文化人類学による文化への接近方法を理解します。続いて、文化人類学の見方、考え方を通じて東アジアの各社会（日本、中国、韓国）を比較考察しながら、それら各社会に対する理解を目指します。
--------------------	---

授業スケジュール	以下の内容を実際の授業日数に配分して講義します。 1. 文化人類学による文化への接近： (1) 文化人類学について、(2) 文化について、(3) 婚姻、(4) 「父」と「母」、 (5) 家族、(6) 出自、(7) 呪術と宗教、(8) 妖術と邪術、(9) 憑依と脱魂、など。 2. 文化人類学による東アジア各社会への接近： (1) 婚姻、(2) 姓氏、(3) 家族、(4) 親族、(5) 相続と養子、 (6) 出自集団、(7) 祖先祭祀、など。
----------	---

準備学習	講義内容の整理を目的としたレポートを成績評価に加えますので、日頃から講義の内容を十分に整理し、まとめておいてください。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	学期末試験（50%、持ち込み不可、講義内容を踏まえての記述式試験）と数回のレポート（50%、4～6回を考えています。講義内容を課題に応じて1200字以上でまとめる。字数および提出期限厳守。氏名、題名は字数に含めない。一行20字もしくは30字もしくは40字のワープロで作成するか、手書きの場合には原稿用紙で作成のこと。レポート用紙への手書きのものは受理しない）で評価します。課されたレポートをすべて提出した場合が成績評価の対象になります。レポートの課題や提出期限は授業の中で指示します。また自主レポートも随時、受け付けます（講義の内容を1200字以上でまとめる。様式等は上記のレポートと同じ）。

教科書／テキスト	プリントを配布します。
----------	-------------

参考書	授業で紹介します。
-----	-----------

履修コード	216901
科目名	文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕
担当者名	杉井 純一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>さまざまな民族が絶えず各地を移動する現代世界では、私たちは「異質な他者」との出会いを日常的に経験します。こうした多民族社会に生きる私たちは以前にもましてコミュニケーションの困難に直面します。お互いが先入観や偏見にとらわれず、十分な意志疎通を図るためには、相互の民族的、文化的背景への理解が前提となります。</p> <p>文化人類学は民族や文化の多様性を比較することで、それぞれの文化的相違についての認識を深める学問です。具体的に言えば、人々の生活様式や儀礼、習慣などを通して「人間を取りまく世界、宇宙の成りたちやしくみ」についての多様な観念体系を理解していきます。</p> <p>本講義では、前期に文化人類学の基礎、後期に民族とコスモロジーを学びます。まず、「異文化を理解する」ことの面白さ、そして、むずかしさを味わいながら、「異質なものとの共存」「他者との共生」の可能性について考えていくことが本講義の目的です。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>I 文化人類学の基礎</p> <p>1. 文化人類学とは何か、2. 文化人類学の歩み(1)、3. 文化人類学の歩み(2)、4. 文化とコミュニケーション、5. 環境と人間(1) 狩猟採集民、6. 環境と人間(2) 牧畜民、7. 環境と人間(3) 農耕民、8. ジェンダー、9. セクシュアリティ、10. 婚姻の形態、11. 家族の多様性、12. 親族と社会</p> <p>II 民族とコスモロジー</p> <p>1. 呪術と宗教、2. アニミズム、3. シャーマニズム、4. シンクレティズム、5. 儀礼の構造、6. コスモロジー、7. 神話、8. 政治組織、9. 民族とエスニシティ、10. 民族紛争と戦争、11. 開発と文化、12. 移動の民族誌</p>
----------	--

準備学習	学習内容に関連する参考書を読んでおくこと。参考書は授業時に指示します。
履修上の留意点	ビデオを見た感想を問うことがあります。
成績評価の方法	夏期レポート(20%)、期末試験(60%)、平常点(20%)で評価します。
教科書/テキスト	特に指定しません。適宜、プリントを配布します。
参考書	祖父江孝男『文化人類学入門』(中公新書)800円 山下晋司ほか『文化人類学キーワード』(有斐閣)1,700円 佐々木宏幹・村武精一編『宗教人類学』(新曜社)2,200円
その他	できるだけ、ビデオを利用します(年に4~5回程度)。

履修コード	344501
科目名	文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕
担当者名	杉井 純一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>さまざまな民族が絶えず各地を移動する現代世界では、私たちは「異質な他者」との出会いを日常的に経験します。こうした多民族社会に生きる私たちは以前にもましてコミュニケーションの困難に直面します。お互いが先入観や偏見にとらわれず、十分な意志疎通を図るためには、相互の民族的、文化的背景への理解が前提となります。</p> <p>文化人類学は民族や文化の多様性を比較することで、それぞれの文化的相違についての認識を深める学問です。具体的に言えば、人々の生活様式や儀礼、習慣などを通して「人間を取りまく世界、宇宙の成りたちやしくみ」についての多様な観念体系を理解していきます。</p> <p>本講義では、前期に文化人類学の基礎、後期に民族とコスモロジーを学びます。まず、「異文化を理解する」ことの面白さ、そして、むずかしさを味わいながら、「異質なものとの共存」「他者との共生」の可能性について考えていくことが本講義の目的です。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>I 文化人類学の基礎</p> <p>1. 文化人類学とは何か、2. 文化人類学の歩み(1)、3. 文化人類学の歩み(2)、4. 文化とコミュニケーション、5. 環境と人間(1) 狩猟採集民、6. 環境と人間(2) 牧畜民、7. 環境と人間(3) 農耕民、8. ジェンダー、9. セクシュアリティ、10. 婚姻の形態、11. 家族の多様性、12. 親族と社会</p> <p>II 民族とコスモロジー</p> <p>1. 呪術と宗教、2. アニミズム、3. シャーマニズム、4. シンクレティズム、5. 儀礼の構造、6. コスモロジー、7. 神話、8. 政治組織、9. 民族とエスニシティ、10. 民族紛争と戦争、11. 開発と文化、12. 移動の民族誌</p>
----------	--

準備学習	学習内容に関連した参考書を読んでおくこと。参考書は授業時に指示します。
履修上の留意点	ビデオを見た感想を問うことがあります。
成績評価の方法	夏期レポート(20%)、期末試験(60%)、平常点(20%)で評価します。
教科書/テキスト	特に指定しません。適宜、プリントを配布します。
参考書	祖父江孝男『文化人類学入門』(中公新書)800円 山下晋司ほか『文化人類学キーワード』(有斐閣)1,700円 佐々木宏幹・村武精一編『宗教人類学』(新曜社)2,200円
その他	できるだけ、ビデオを利用します(年に4~5回程度)。

履修コード	217101
科目名	文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕
担当者名	鈴木 一馨

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 文化人類学は、人類の特徴的な活動とその表現である「文化」を通して「人類とはなにか」を問う学問である。この講義では、文化、文化人類学、民族、コスモロジーの基礎的な知識と、コスモロジーの具体例として中国的宇宙論について学ぶ。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、文化人類学が主題とする人類にとっての文化の意味の理解、文化人類学の修得によって養われる多様な文化の理解の方法、人類の自己規定の方法として生み出されたコスモロジーのあり方の理解、そしてこれらを通しての文化人類学のもの考え方をそれぞれ習得するところにある。すなわち前期に文化人類学の位置、文化の捉え方、人種や民族の捉え方、コスモロジーの概要を学び、後期にコスモロジーの具体例として東アジアに共有される中国的宇宙論を検討し、コスモロジーと現実世界との関係、また人類社会がそれを持つことの意味を学ぶ。これらの習得は単に文化人類学という学問の修得ではなく、自己の人類としての存在証明の方法と存在意義の説明手段の習得でもある。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義方針の説明 2. 「文化人類学(cultural anthropology)」とはなにか 3. 「文化 (culture)」とはなにか 4. 「人種 (race)」の考え方 5. 「民族 (ethnos, ethnic group)」の考え方 6. 「民族」と「国民」 7. 「コスモロジー (cosmology)」とはなにか 8. ひとつを取巻く世界の想像 9. 占いのコスモロジー 10. 占星術のコスモロジー 11. 黄道十二星座の世界 12. 生と死の世界 13. お盆のコスモロジー 14. 日常と非日常 15. 「ひとつ」の世界の断絶と連続 16. 東アジアと中国的宇宙論 17. 「気」の宇宙論 18. 「陰陽」の宇宙論 19. 「易」の宇宙論 (1) 20. 「易」の宇宙論 (2) 21. 「五行」の宇宙論 (1) 22. 「五行」の宇宙論 (2) 23. 「干支」の宇宙論 24. 中国的宇宙論の現実世界への応用 25. 風水の空間論 26. 風水の地形観 27. 風水の方位観 28. 実践される風水 29. 風水の人間社会における意味 30. 講義のまとめ
----------	--

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化人類学を修得するためには、世界の様子がイメージされることが大事である。したがって世界の国々とその首都を地図的に頭に入れておくこと。なお、世界地図が頭に入っているかどうかは小テストで確認する。 2. 時宜に応じた話題により説明をすることがあるので、特に政治や社会・文化に関するニュースをよく拾っておくこと。 3. 文化人類学に限らず、会話力や文章力は説明には不可欠である。したがって会話力や文章力を高めておくこと。
------	---

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に対する積極的な姿勢と、社会人予備軍としての常識性を重視する。 2. すでに学んだ内容を反復的に使いながら講義を進めていくので、復習をしないとついていけない。 3. 成績処理用にオリジナルの「受講者カード」を準備するので、初回の出席時に必ず記入すること。同カードの記入や提出がない場合には単位の認定をしない。
---------	---

成績評価の方法	<p>期末試験 (70%) と小テスト (30%) を主たる材料とする。ただし、講義中の質問に対する返答や任意レポートなどによる点数の加算も行なう。なお所定の出席数を満たさない場合や受講態度が不良な者の単位は認定しない。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>プリントを使用する。</p>
----------	-------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・祖父江孝男『文化人類学入門 (増補改訂版)』 (中公新書560、1990年) 840円、ISBN : 4121905601 ・鈴木一馨『陰陽道-呪術と鬼神の世界-』 (講談社選書メチエ244、2002年) 1,575円、ISBN : 4062582449 ・国立歴史民俗博物館編『異界談義』 (光文社知恵の森文庫、2008年) 724円、ISBN : 9784334785116 ・渡邊欣雄『風水思想と東アジア』 (人文書院、1990年) 1,995円、ISBN : 4409410482
-----	--

履修コード	216701
科目名	文化人類学〔文化と人間〕
担当者名	森 雅文

授業概要/
到達目標 (ねらい)

文化人類学は、多様な人間性の表現への妥当な理解を探り、そのまなざしを自己にも向けながら、人々に担われ創造される文化の姿を多面的に比較し考察します。この講義では、人間とは何かに関心をもちながら、異文化のアイデンティティに寄り添う他者理解の枠組みを学習します。前期は進化的理解を含めた環境への適応と人々の連帯について、後期は異文化理解の代表的なテーマを回遊した後に、人間の存在様式をめぐる文化論と人間理解の枠組みを考察します。既存の境界は曖昧になり、人間の在り方や文化のリアリティは刻々と変貌しています。多元化する実存に真摯に向き合いながら、各所に立ち現れる「人間」という文化を見つめることを可能とする、自己変容をいとわない柔軟な姿勢と力強い洞察力の養成を目指します。

授業スケジュール

- 1 ガイダンス 異文化へのまなざし
- 2 世界史と人類学 人類と文化の発見
- 3 19世紀の異文化理解 (進化パラダイム)
- 4 地理的領域の類型と文化の拡散 (伝播パラダイム)
- 5 ホミニゼーション (霊長類の進化と人類の拡散)
- 6 ホミニゼーション (ヒト化のシナリオ)
- 7 生業と文化: 自然と暮らす (採集狩猟の戦略)
- 8 生業と文化: 自然に介する (牧畜と移動農耕の戦略)
- 9 生業と文化: 自然を変える (定着農耕の戦略)
- 10 文明の生態とネットワーク
- 11 共同性の原理 (親子と家族)
- 12 共同性の原理 (婚姻と親族)
- 13 共同性の原理 (死者祭祀)
- 14 共同性の原理 (民族と文化)
- 15 互酬性と連帯

- 1 文化とパーソナリティ
- 2 文化の構造 (言語とコミュニケーション)
- 3 文化の構造 (秩序と境界)
- 4 カテゴリーを生きる (人生と儀礼)
- 5 カテゴリーを生きる (性差と身体)
- 6 異文化へのコミットメント
- 7 対峙する文化 (科学と呪術のリアリティ)
- 8 対峙する文化 (病いと憑依のコスモロジー)
- 9 立ち上がる主体 (シャーマニズム)
- 10 立ち上がる主体 (個人という作法)
- 11 身体技法 (近代の身体と精神)
- 12 身体技法 (伝統医療と生命観)
- 13 環境と人間 (公衆衛生と宗教文化)
- 14 トランスモダンの人間観 (越境する精神)
- 15 トランスモダンの人間観 (融合する身体とメディア)
- 16 文化を越える (翻訳と和解)

準備学習

毎回の授業時に参考文献を提示するので、積極的に閲覧して下さい。

履修上の留意点

授業は講義形式で、適宜に映像資料も利用します。
受講者の関心に応じて講義予定を部分的に変更する場合があります。
小テストの実施日はYeStudyで告知します。
そのほかの注意事項は、初回ガイダンスで確認して下さい。

成績評価の方法

授業の進行に合わせた小テストの成績100% (各20~25%を4~5回・小テストには課題が付随する場合があります)、平常点 (コメントペーパー等の内容) は加算点 (最大で10%まで) とします。

教科書/テキスト

使いません

参考書

授業時に紹介します

履修コード	217001
科目名	文化人類学〔諸民族とコスモロジー〕
担当者名	森 雅文

授業概要/ 到達目標(ねらい)	文化人類学は、多様な人間性の表現への妥当な理解を探り、そのまなざしを自己にも向けながら、人々に担われ創造される文化の姿を多面的に比較し考察します。この講義では、世界観とアイデンティティに焦点をあてながら、異文化(他者)理解の枠組みを学習します。前期は文化理解の基本的な枠組みを学の歴史潮流とともに学び、後期は講義テーマに関わる文化実践の事例理解を通じて、現代そして未来の異文化理解に期待されるまなざしを考えます。時代とともに変貌する異文化と繋がるには、柔軟な自己変容も必要でしょう。他者を規定する学問的営為への批判を内省しつつ、自己や他者に真摯に向き合う洞察力の養成を目指します。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 異文化へのまなざし 2 世界史と人類学 人類と文化の発見 3 19世紀の異文化理解(進化パラダイム) 4 地理的領域の類型と文化の拡散(伝播パラダイム) 5 フィールドワークと文化の相対性 6 文化とパーソナリティ 7 文化の機能(呪術と妖術の合理性) 8 文化の機能と社会構造(文化としての家族と親族) 9 言語とコミュニケーション(文化の構造) 10 文明と野生(科学技術と呪術宗教) 11 秩序と境界(儀礼の構造) 12 理解の実践(交換と経済) 13 理解の実践(人の一生) 14 理解の実践(性差と身体) 15 異文化へのコミットメント <ol style="list-style-type: none"> 1 現代のフィールドワーク論 2 コスモロジー(神話と儀礼) 3 コスモロジー(司祭とシャーマン) 4 エコロジーのエスノサイエンス 5 文化の動態(接触と変容) 6 近現代の空間評価と風景 7 人間観(個人の存在様式) 8 伝統と現代 9 エスニシティ(部族と民族) 10 近代のアイデンティティ(国家と国民) 11 異文化へのまなざし(植民地と観光) 12 多元化する社会(エスニック・リバイバル) 13 グローバル社会の文化人類学(越境・流転・混淆) 14 グローバル社会の文化人類学(開発と援助) 15 21世紀の異文化理解(翻訳と和解)
----------	--

準備学習 毎回の授業時に参考文献を提示するので、積極的に閲覧して下さい。

履修上の留意点 授業は講義形式で、適宜に映像資料も利用します。受講者の関心に応じて講義予定を部分的に変更する場合があります。小テストの実施日はYeStudyで告知します。そのほかの注意事項は、初回ガイダンスで確認して下さい。

成績評価の方法 授業の進行に合わせた小テストの成績100%(各20~25%を4~5回・小テストには課題が付随する場合があります)、平常点(コメントペーパー等の内容)は加算点(最大で10%まで)とします。

教科書/テキスト 使いません

参考書 授業時に紹介します

履修コード	218501
科目名	法学・憲法〔法と権利〕
担当者名	天野 聖悦
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法学の基礎理論および憲法の重要事項を理解してもらう。 法学を含む社会科学においては「ことばの定義」が重要である。この定義に基づいて論理的に結論を導き出す思考力を身につけてもらう。
授業スケジュール	【法学】1: 存在の法則と当為の法則、2-4: 法の本質に関する学説 (特に社会契約説)、5-9: 法の淵源 (憲法・法律・命令・条例・条約・慣習法・判例法・条理)、10-12: 法の種類、13-14: 法の効力 (時・人・所)、15-16: 法の解釈および適用、17-18: 法律関係 (権利および義務) 【憲法】19: 日本憲法概史、20: 天皇、21: 戦争の放棄、22-23: 国民の権利および義務、24-25: 国会、26: 内閣、27-28: 司法、29: 財政・地方自治・憲法改正・最高法規、30: 講義の不
準備学習	時事問題を扱うことがあるので、ニュース・新聞等に注目しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	原則として学年末試験による。但し、法学検定等の各種資格試験合格者 (履修時、既に合格している者を除く) およびレポート提出者 (任意提出) には別途加点する。
教科書/テキスト	青山武憲『法学・憲法講義』八千代出版、本体1748円 ISBN4-8429-0975-8
参考書	適宜紹介する。

履修コード	218601
科目名	法学・憲法〔法と権利〕
担当者名	池田 実
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	家庭生活、社会生活、政治参加、経済活動など、私たちの日常が「法」とどのようにかわり、規制されているかを考察し、それが最終的に日本国憲法に定めるとどのような原理・精神に結びついているかを明らかにします。
授業スケジュール	(1) 授業案内・導入 (2) 法とは何か (その1) (3) 法とは何か (その2) (4) 法とは何か (その3) (5) 法とは何か (その4) (6) 憲法の基本概念 (7) 日本国憲法の沿革 (8) 国会 (その1) (9) 国会 (その2) (10) 選挙・政党 (11) 内閣 (その1) (12) 内閣 (その2) (13) 天皇 (14) 地方自治 (15) 財政 (16) 戦争の放棄 (その1) (17) 戦争の放棄 (その2) (18) 人権総論 (その1) (19) 人権総論 (その2) (20) 精神的自由権 (その1) (21) 精神的自由権 (その2) (22) 経済的自由権 (23) 身体的自由権 (24) 受益権 (25) 社会権 (その1) (26) 社会権 (その2) (27) 包括的人権 (28) 裁判所 (その1) (29) 裁判所 (その2) (30) 憲法改正
準備学習	授業は教科書に完全に準拠して行われます。教科書は年度のはじめに入手し、シラバスを参考に、講義予定の項目にあらかじめ目を通していただくことが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況、受講態度その他の平常点、および授業時間内に行われる小テスト類により、総合的に評価します。
教科書/テキスト	池田実『憲法』(嵯峨野書院) 3,300円+税 ISBN978-4-7823-0517-1 *集中講義期間中、紀伊国屋書店駒澤大学ブックセンターは営業していません。教科書は年度のはじめに必ず入手しておくこと。 *授業に教科書を持参していない人は、欠席とみなします。
参考書	授業時に適宜指示します。
その他	授業日程: 7月31日 (火)・8月1日 (水)~3日 (金)・6日 (月)・7日 (火) (土・日曜日除く) の1~5時限。 *初回 (7月31日9:00) の授業では、履修に際しての重要事項を伝達するので、遅刻なく必ず出席すること。

履修コード	217701
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	鶏徳 啓登

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学であり、根本的理念、法の目的などを研究する。また、憲法は国家の基本法として他の法令の根幹をなすものであり非常に重要な法である。そして、憲法制定後60年経過した現代に至って国内的、国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。本講義は、これら諸問題を法的に把握し、結論を出し得るようになることをねらいとする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>法学の講義は次の内容を中心として行う。</p> <p>(1) 社会生活と法 (2) 法の意義・効力 (3) 法規範と他の社会規範との差異 (4) 法の分類と解釈の方法 (5) 市民法の概論 (6) 刑事法の概論 (7) 法と裁判</p> <p>憲法の講義は、次の内容を中心として行う。</p> <p>(1) 憲法の意義 (2) 憲法の種類 (3) 明治憲法の原則と特質 (4) 現憲法の原則 基本的人権の主体 (5) 基本的人権の分類 (6) 各種基本的人権の内容 (7) 国会の仕組みとその作用 行政機関の仕組みとその作用 (8) 裁判所の仕組みとその作用 (9) 地方自治</p>
----------	---

準備学習	授業に関連した事件を紹介することがあるので、新聞等に目を通したうえで、六法にも目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	出席状況と試験による。

教科書/テキスト	小林弘人・松村格編著『法学・憲法』（八千代出版）3,500円
----------	--------------------------------

参考書	『小六法』または『ポケット型小六法』（出版社・定価各種）及び参考書は教場にて説明致します。
-----	---

履修コード	218101
科目名	法学・憲法〔法と国家〕
担当者名	新田 浩司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>法は社会のルールであり、憲法は政府と我々国民の関係という国家生活の基本的ルールを決めたものといえる。我々の生活にとって法や憲法を無視することは不可能である。法や憲法を良く知ることは、我々日本国民がより幸福に生きるために不可欠な作業である。</p> <p>この講義では、法学及び国家の根本法である憲法について、現実には発生する様々な問題にも言及しながら理解を深め、我々が国民として住民として生活する上で必要な法的思考（リーガル・マインド）を養うことを目的としている。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回目</td> <td>ガイダンス</td> <td>第14回目</td> <td>国家の安全保障</td> </tr> <tr> <td>第2回目</td> <td>法学の基礎知識①</td> <td>第15回目</td> <td>精神的自由権①</td> </tr> <tr> <td>第3回目</td> <td>法学の基礎知識②</td> <td>第16回目</td> <td>精神的自由権②</td> </tr> <tr> <td>第4回目</td> <td>法学の基礎知識③</td> <td>第17回目</td> <td>経済的自由権</td> </tr> <tr> <td>第5回目</td> <td>法学の基礎知識④</td> <td>第18回目</td> <td>社会権</td> </tr> <tr> <td>第6回目</td> <td>法学の基礎知識⑤</td> <td>第19回目</td> <td>参政権</td> </tr> <tr> <td>第7回目</td> <td>法学の基礎知識⑥</td> <td>第20回目</td> <td>国務請求権</td> </tr> <tr> <td>第8回目</td> <td>憲法の基礎知識①</td> <td>第21回目</td> <td>統治機構①</td> </tr> <tr> <td>第9回目</td> <td>憲法の基礎知識②</td> <td>第22回目</td> <td>統治機構②</td> </tr> <tr> <td>第10回目</td> <td>日本国憲法の制定過程</td> <td>第23回目</td> <td>統治機構③</td> </tr> <tr> <td>第11回目</td> <td>日本国憲法の基本原理①</td> <td>第24回目</td> <td>統治機構④</td> </tr> <tr> <td>第12回目</td> <td>日本国憲法の基本原理②</td> <td>第25回目</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>第13回目</td> <td>象徴天皇</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	第1回目	ガイダンス	第14回目	国家の安全保障	第2回目	法学の基礎知識①	第15回目	精神的自由権①	第3回目	法学の基礎知識②	第16回目	精神的自由権②	第4回目	法学の基礎知識③	第17回目	経済的自由権	第5回目	法学の基礎知識④	第18回目	社会権	第6回目	法学の基礎知識⑤	第19回目	参政権	第7回目	法学の基礎知識⑥	第20回目	国務請求権	第8回目	憲法の基礎知識①	第21回目	統治機構①	第9回目	憲法の基礎知識②	第22回目	統治機構②	第10回目	日本国憲法の制定過程	第23回目	統治機構③	第11回目	日本国憲法の基本原理①	第24回目	統治機構④	第12回目	日本国憲法の基本原理②	第25回目	まとめ	第13回目	象徴天皇		
第1回目	ガイダンス	第14回目	国家の安全保障																																																		
第2回目	法学の基礎知識①	第15回目	精神的自由権①																																																		
第3回目	法学の基礎知識②	第16回目	精神的自由権②																																																		
第4回目	法学の基礎知識③	第17回目	経済的自由権																																																		
第5回目	法学の基礎知識④	第18回目	社会権																																																		
第6回目	法学の基礎知識⑤	第19回目	参政権																																																		
第7回目	法学の基礎知識⑥	第20回目	国務請求権																																																		
第8回目	憲法の基礎知識①	第21回目	統治機構①																																																		
第9回目	憲法の基礎知識②	第22回目	統治機構②																																																		
第10回目	日本国憲法の制定過程	第23回目	統治機構③																																																		
第11回目	日本国憲法の基本原理①	第24回目	統治機構④																																																		
第12回目	日本国憲法の基本原理②	第25回目	まとめ																																																		
第13回目	象徴天皇																																																				

準備学習	新聞記事等に留意する。
------	-------------

履修上の留意点	社会で起こる様々な問題は、憲法をはじめとする法律問題も多く、この講義を履修して法的思考を養い、それらの問題を考える知識を身につけてもらいたい。
---------	---

成績評価の方法	夏期レポート及び学年末試験の成績により評価する。 なお、適宜、小テスト及び授業の出席確認を予定している。
---------	---

教科書/テキスト	名雪健二『公法基礎入門』八千代出版 定価(2,400円+税) (ISBN978-4-8429-1430-5)
----------	---

参考書	小六法(何でも可)があれば持参することが望ましい。
-----	---------------------------

履修コード	218201
科目名	法学・憲法〔法と国家〕
担当者名	新田 浩司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	法は社会のルールであり、憲法は政府と我々国民の関係という国家生活の基本的ルールを決めたものといえる。我々の生活にとって法や憲法を無視することは不可能である。法や憲法を良く知ることは、我々日本国民がより幸福に生きるために不可欠な作業である。 この講義では、法学及び国家の根本法である憲法について、現実には発生する様々な問題にも言及しながら理解を深め、我々が国民として住民として生活する上で必要な法的思考（リーガル・マインド）を養うことを目的としている。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回目 ガイダンス 第2回目 法学の基礎知識① 第3回目 法学の基礎知識② 第4回目 法学の基礎知識③ 第5回目 法学の基礎知識④ 第6回目 法学の基礎知識⑤ 第7回目 法学の基礎知識⑥ 第8回目 憲法の基礎知識① 第9回目 憲法の基礎知識② 第10回目 日本国憲法の制定過程 第11回目 日本国憲法の基本原理① 第12回目 日本国憲法の基本原理② 第13回目 象徴天皇 第14回目 国家の安全保障 第15回目 精神的自由権① 第16回目 精神的自由権② 第17回目 経済的自由権 第18回目 社会権 第19回目 参政権 第20回目 国務請求権 第21回目 統治機構① 第22回目 統治機構② 第23回目 統治機構③ 第24回目 統治機構④ 第25回目 まとめ
----------	---

準備学習	新聞記事等に留意する。
履修上の留意点	社会で起こる様々な問題は、憲法をはじめとする法律問題も多く、この講義を履修して法的思考を養い、それらの問題を考える知識を身につけてもらいたい。
成績評価の方法	夏期レポート及び学年末試験の成績により評価する。 なお、適宜、小テスト及び授業の出席確認を予定している。
教科書／テキスト	名雪健二『公法基礎入門』八千代出版 定価 (2,400円＋税) (ISBN978-4-8429-1430-5)
参考書	小六法 (何でも可) があれば持参することが望ましい。

履修コード	217501
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	長谷川 日出世

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日常生活において生ずる様々な法律問題を解決するための法の基礎知識の習得と、我々の社会生活の基本となる日本国憲法の理解を目的とする。 到達目標としては、日本国憲法をめぐる生ずる具体的問題に対し、学生諸君が憲法学的視点から理解し、自分自身の見解を確立し、主張可能な能力の育成を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 講義に関するガイダンス (2) 社会秩序と法 (3) 法概念の本質 (4) 規範としての法 (5) 法の効力 (妥当性と実効性) (6) 法と強制 (国内法と国際法) (7) 法と道徳 (両者の独立と相互関連性) (8) 法の目的と正義 (9) 社会技術としての法 (10) 自然法と実定法 (11) 法の解釈 (理論) (12) 法の解釈 (実践) (13) 裁判と法 (14) 裁判と具体的訴訟事件 (15) まとめ (16) 憲法とは何か (17) 憲法の基礎概念 (18) 日本国憲法の成立過程 (19) 日本国憲法の基本原理 (20) 天皇の地位と権能 (21) 憲法9条と平和主義 (22) 時事問題の解説 (23) 法の下の平等 (24) 自由権 (1) (25) 自由権 (2) (26) 社会権 (27) 国会 (28) 内閣 (29) 司法制度 (30) まとめ
----------	--

準備学習	授業の最後に次回の内容を大まかに指定する。その範囲について、教科書にあらかじめ目を通しておくこと。また新聞、テレビのニュースなどの時事問題について日頃から関心をもつこと。特に重大な事件 (訴訟) については、出来るだけ知識を深めるようにすることが望ましい。
履修上の留意点	日頃から、新聞、テレビニュースで報道される法律問題に関心を持つこと。講義の前に、教科書を必ず読んでおくこと。 講義中の私語については、厳しく注意することがあります。他の学生に対する不利益を与えることは、厳に慎んでいただきます。
成績評価の方法	年度末定期試験の成績と平常点で評価します。評価の割合は、定期試験が8割、平常点が2割です。
教科書／テキスト	長谷川日出世、『法の基礎概念と憲法』、成文堂、2500＋税、ISBN4-7923-0399-0
参考書	

履修コード	217901
科目名	法学・憲法〔法と権利〕
担当者名	長谷川 日出世

授業概要/ 到達目標(ねらい)	日常生活において生ずる様々な法律問題を解決するための法の基礎知識の習得と、我々の社会生活の基本となる日本国憲法の理解を目的とする。 到達目標としては、日本国憲法をめぐる生ずる具体的問題に対し、学生諸君が憲法学的視点から理解し、自分自身の見解を確立し、主張可能な能力の育成を目指す。
--------------------	---

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>(1) 講義に関するガイダンス</td> <td>(16) 憲法とは何か</td> </tr> <tr> <td>(2) 社会秩序と法</td> <td>(17) 憲法の基礎概念</td> </tr> <tr> <td>(3) 法概念の本質</td> <td>(18) 日本国憲法の成立過程</td> </tr> <tr> <td>(4) 規範としての法</td> <td>(19) 日本国憲法の基本原理</td> </tr> <tr> <td>(5) 法の効力(妥当性と実効性)</td> <td>(20) 天皇の地位と権能</td> </tr> <tr> <td>(6) 法と強制(国内法と国際法)</td> <td>(21) 憲法9条と平和主義</td> </tr> <tr> <td>(7) 法と道徳(両者の独立と相互関連性)</td> <td>(22) 時事問題の解説</td> </tr> <tr> <td>(8) 法の目的と正義</td> <td>(23) 法の下の平等</td> </tr> <tr> <td>(9) 社会技術としての法</td> <td>(24) 自由権(1)</td> </tr> <tr> <td>(10) 自然法と実定法</td> <td>(25) 自由権(2)</td> </tr> <tr> <td>(11) 法の解釈(理論)</td> <td>(26) 社会権</td> </tr> <tr> <td>(12) 法の解釈(実践)</td> <td>(27) 国会</td> </tr> <tr> <td>(13) 法と裁判</td> <td>(28) 内閣</td> </tr> <tr> <td>(14) 裁判と具体的訴訟事件</td> <td>(29) 司法制度</td> </tr> <tr> <td>(15) まとめ</td> <td>(30) まとめ</td> </tr> </table>	(1) 講義に関するガイダンス	(16) 憲法とは何か	(2) 社会秩序と法	(17) 憲法の基礎概念	(3) 法概念の本質	(18) 日本国憲法の成立過程	(4) 規範としての法	(19) 日本国憲法の基本原理	(5) 法の効力(妥当性と実効性)	(20) 天皇の地位と権能	(6) 法と強制(国内法と国際法)	(21) 憲法9条と平和主義	(7) 法と道徳(両者の独立と相互関連性)	(22) 時事問題の解説	(8) 法の目的と正義	(23) 法の下の平等	(9) 社会技術としての法	(24) 自由権(1)	(10) 自然法と実定法	(25) 自由権(2)	(11) 法の解釈(理論)	(26) 社会権	(12) 法の解釈(実践)	(27) 国会	(13) 法と裁判	(28) 内閣	(14) 裁判と具体的訴訟事件	(29) 司法制度	(15) まとめ	(30) まとめ
(1) 講義に関するガイダンス	(16) 憲法とは何か																														
(2) 社会秩序と法	(17) 憲法の基礎概念																														
(3) 法概念の本質	(18) 日本国憲法の成立過程																														
(4) 規範としての法	(19) 日本国憲法の基本原理																														
(5) 法の効力(妥当性と実効性)	(20) 天皇の地位と権能																														
(6) 法と強制(国内法と国際法)	(21) 憲法9条と平和主義																														
(7) 法と道徳(両者の独立と相互関連性)	(22) 時事問題の解説																														
(8) 法の目的と正義	(23) 法の下の平等																														
(9) 社会技術としての法	(24) 自由権(1)																														
(10) 自然法と実定法	(25) 自由権(2)																														
(11) 法の解釈(理論)	(26) 社会権																														
(12) 法の解釈(実践)	(27) 国会																														
(13) 法と裁判	(28) 内閣																														
(14) 裁判と具体的訴訟事件	(29) 司法制度																														
(15) まとめ	(30) まとめ																														

準備学習	授業の最後に次回の内容を大まかに指定する。その範囲について、教科書にあらかじめ目を通しておくこと。また新聞、テレビのニュースなどの時事問題について日頃から関心をもつこと。特に、重大な事件(訴訟)については、出来るだけ知識を深めるようにすることが望ましい。
------	---

履修上の留意点	日頃から、新聞、テレビニュースで報道される法律問題に関心を持つこと。講義の前に、教科書を必ず読んでおくこと。 講義中の私語については、厳しく注意することがあります。他の学生に不利益を与えることは、厳に慎んでいただきます。
---------	---

成績評価の方法	学年度末の試験の成績と平常点で評価します。評価の割合は、定期試験が8割、平常点が2割です。
---------	---

教科書/テキスト	長谷川日出世、『法の基礎概念と憲法』、成文堂、2500+税、ISBN4-7923-0399-0
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	344701
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	長谷川 日出世

授業概要/ 到達目標(ねらい)	日常生活において生ずる様々な法律問題を解決するための法の基礎知識の習得と、我々の社会生活の基本となる日本国憲法の理解を目的とする。 到達目標としては、日本国憲法をめぐる生ずる具体的問題に対し、学生諸君が憲法学的視点から理解し、自分自身の見解を確立し、主張可能な能力の育成を目指す。
--------------------	---

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>(1) 講義に関するガイダンス</td> <td>(16) 憲法とは何か</td> </tr> <tr> <td>(2) 社会秩序と法</td> <td>(17) 憲法の基礎概念</td> </tr> <tr> <td>(3) 法概念の本質</td> <td>(18) 日本国憲法の成立過程</td> </tr> <tr> <td>(4) 規範としての法</td> <td>(19) 日本国憲法の基本原理</td> </tr> <tr> <td>(5) 法の効力(妥当性と実行性)</td> <td>(20) 天皇の地位と権能</td> </tr> <tr> <td>(6) 法と強制(国内法と国際法)</td> <td>(21) 憲法9条と平和主義</td> </tr> <tr> <td>(7) 法と道徳(両者の独立と相互関連性)</td> <td>(22) 時事問題の解説</td> </tr> <tr> <td>(8) 法の目的と正義</td> <td>(23) 法の下の平等</td> </tr> <tr> <td>(9) 社会技術としての法</td> <td>(24) 自由権(1)</td> </tr> <tr> <td>(10) 自然法と実定法</td> <td>(25) 自由権(2)</td> </tr> <tr> <td>(11) 法の解釈(理論)</td> <td>(26) 社会権</td> </tr> <tr> <td>(12) 法の解釈(実践)</td> <td>(27) 国会</td> </tr> <tr> <td>(13) 法と裁判</td> <td>(28) 内閣</td> </tr> <tr> <td>(14) 裁判と具体的訴訟</td> <td>(29) 司法制度</td> </tr> <tr> <td>(15) まとめ</td> <td>(30) まとめ</td> </tr> </table>	(1) 講義に関するガイダンス	(16) 憲法とは何か	(2) 社会秩序と法	(17) 憲法の基礎概念	(3) 法概念の本質	(18) 日本国憲法の成立過程	(4) 規範としての法	(19) 日本国憲法の基本原理	(5) 法の効力(妥当性と実行性)	(20) 天皇の地位と権能	(6) 法と強制(国内法と国際法)	(21) 憲法9条と平和主義	(7) 法と道徳(両者の独立と相互関連性)	(22) 時事問題の解説	(8) 法の目的と正義	(23) 法の下の平等	(9) 社会技術としての法	(24) 自由権(1)	(10) 自然法と実定法	(25) 自由権(2)	(11) 法の解釈(理論)	(26) 社会権	(12) 法の解釈(実践)	(27) 国会	(13) 法と裁判	(28) 内閣	(14) 裁判と具体的訴訟	(29) 司法制度	(15) まとめ	(30) まとめ
(1) 講義に関するガイダンス	(16) 憲法とは何か																														
(2) 社会秩序と法	(17) 憲法の基礎概念																														
(3) 法概念の本質	(18) 日本国憲法の成立過程																														
(4) 規範としての法	(19) 日本国憲法の基本原理																														
(5) 法の効力(妥当性と実行性)	(20) 天皇の地位と権能																														
(6) 法と強制(国内法と国際法)	(21) 憲法9条と平和主義																														
(7) 法と道徳(両者の独立と相互関連性)	(22) 時事問題の解説																														
(8) 法の目的と正義	(23) 法の下の平等																														
(9) 社会技術としての法	(24) 自由権(1)																														
(10) 自然法と実定法	(25) 自由権(2)																														
(11) 法の解釈(理論)	(26) 社会権																														
(12) 法の解釈(実践)	(27) 国会																														
(13) 法と裁判	(28) 内閣																														
(14) 裁判と具体的訴訟	(29) 司法制度																														
(15) まとめ	(30) まとめ																														

準備学習	授業の最後に次回の内容を大まかに指定する。その範囲について、教科書にあらかじめ目を通しておくこと。また新聞、テレビのニュースなどの時事問題について日頃から関心をもつこと。特に重大な事件(訴訟)については、出来るだけ知識を深めるようにすることが望ましい。
------	--

履修上の留意点	日頃から、新聞、テレビニュースで報道される法律問題に関心を持つこと。講義の前に、教科書を必ず読んでおくこと。 講義中の私語については、厳しく注意することがあります。他の学生に不利益を与えることは、厳に慎んでいただきます。
---------	---

成績評価の方法	学年度末の定期試験の成績と平常点で評価します。評価の割合は、定期試験が8割、平常点が2割です。
---------	---

教科書/テキスト	長谷川日出世、『法の基礎概念と憲法』、成文堂、2500+税、ISBN4-7923-0399-0
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	217801
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	山下 愛仁
授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>本講義のねらいは、「なぜ法（憲法）は必要なのか」「なぜ国家権力は必要なのか」という問いを踏まえ、法（憲法）に関する基礎的概念及び重要学説を学ぶことを通じ、「社会（国家）認識」を深めることにある。</p> <p>また、「知ること」よりも「考えること」を重視するため、履修者には、消極的に学ぶのではなく、自ら問題意識をもって積極的に「問う」姿勢が求められる。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の全般説明（1） 2 学問（認識）と政策（価値判断）の区別及びその哲学的基礎（2～4） 3 法学学習のあり方と法学の多様性（5～6） 4 法の特徴（法と道徳）（7～8） 5 法の構造（組織規範と行為規範）（9～10） 6 法の分類と体系（11～13） 7 法の効力（概念、根拠）（14～15） 8 憲法概念（16） 9 憲法規範の種類と特質（17～18） 10 明治憲法の概要（天皇機関説）（19） 11 日本国憲法成立の法理（八月革命説）（20） 12 日本国憲法の基本原理（尾高・宮沢論争、佐々木・和辻論争）（21～24） 13 民主主義（25） 14 天皇（26） 15 国会（27） 16 内閣（28） 17 司法（29） 18 まとめ（30）
準備学習	都度指示する。
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1 履修希望者は、1回目の「講義の全般説明」を受講すること。 2 指示された文献を読破する意欲、毎回丁寧にノートを取ることが求められる。
成績評価の方法	平常点、レポート、小テスト等により総合的に評価する。なお、期末試験を実施するか否かは、履修者の受講状況に応じ別途判断する。
教科書／テキスト	<p>前期：指定しない。</p> <p>後期：指定予定（指定する場合には、7月に指示する）</p>
参考書	講義中、適宜指示する。

履修コード	218401
科目名	法学・憲法〔法と国家〕
担当者名	山中 倫太郎

授業概要/ 到達目標(ねらい)	この授業では、法律学の基礎科目の基本的な知識および考え方を習得する。具体的には、憲法、民法、刑法の基礎について学んでゆく中で、法律解釈の方法、法令・判例の調査法なども紹介してゆく予定である。 本講義では、各分野のごく基礎的な部分にしか触れることができない。しかし、法律学への興味を養い、さらに深く学ぶきっかけとして頂ければ幸いである。
--------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ◎第1回～第15回 <ul style="list-style-type: none"> 憲法の基礎 統治機構の基礎 基本的人権の基礎 ◎第16回～第20回 <ul style="list-style-type: none"> 民法の基礎 契約法の基礎(民法総則を含む) 不法行為法の基礎 物権法の基礎 ◎第21回～第25回 <ul style="list-style-type: none"> 刑法の基礎 刑法総論の基礎 刑法各論の基礎 ◎第26回～第30回 <ul style="list-style-type: none"> 現代社会における法的諸問題
----------	---

準備学習	適宜、各法分野の基礎を学ぶのに適した本を紹介する予定である。それを一読して、自習した後に、講義に臨んで頂ければ幸いである。
------	---

履修上の留意点	六法は必ず持参すること。
---------	--------------

成績評価の方法	期末試験の成績による。
---------	-------------

教科書/テキスト	松浦一夫(編著)『憲法入門』(三和書籍・2012年)(4月刊行予定)
----------	------------------------------------

参考書	大石真・大沢秀介編『判例憲法』(有斐閣・2009年) 西修編著『エレメンタリ憲法』(成文堂・2007年)
-----	---

その他	プリントを配布する。
-----	------------

履修コード	217601
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	和知 恵一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会は、高密度に人が集まり、高度に発展した複雑な社会を構成している。その構成員である我々は、社会にとって必要不可欠である多くの法によって、取り囲まれている。たとえば、法的な側面を持っている。自分は法と無縁であるか、あるいは、そのことを知らずにいるだけなのである。講座名は、「法学・憲法」であるが、サブタイトルに(法と社会生活)とあるように、本講義においては、「良き社会人として生活していくために、社会にある『法』とは何であるかの理解をすること、またその『法』を社会生活の上で活かしていく能力を身につけること」を主眼とする。六法を使いこなせるようになることも目的の一つとする。
---------------------	---

授業スケジュール	講義形式で進める。が、講義はどうしても一方通行になりがちなので、授業中に多数の質問を行い、挙手により解答してもらおう。つまり、全員が参加する授業を目指す。授業では、数多くの事例を挙げ、具体的に話を進める。たとえば「今朝の新聞に、裁判員裁判の判決が掲載されていたが、どんな事件であるのか、またどんな問題があるのか」など、よりup to dateな話題を提供したい。また毎回理解確認のための小テストを行う。 講義は、おおよそ以下のスケジュールで、各項目に2～3時間を割り振ることで進めていく。場合によって順番が変更することがある。また、憲法については、特別にテーマを定めることをせず、関連するテーマが出てきたときに、随時、該当条文に当たり、年間を通して多くの条文に触れられるよう配慮する。
----------	---

1. 法学を学ぶにあたって
2. 法とは何か
 - 1 社会に存在する各種の規範
 - 2 法と道德
 - 3 法とは何か
3. 法の体系と分類
 - 1 法の分類 1
 - 2 法の分類 2
 - 3 法の分類 3
4. 法の目的
 - 1 法的安定性
 - 2 正義の実現
5. 裁判の基準 (法源)
 - 1 成文法
 - 2 不文法
6. 法と裁判
 - 1 三審制度
 - 2 民事裁判の進行と原則
 - 3 刑事裁判の進行と原則
7. 法の解釈
 - 1 有権解釈
 - 2 学理解釈
8. 法と道德をめぐる問題
9. 犯罪と刑罰

準備学習	毎回、全回の復習をかねて小テストを行いながら、その日の新しい単元を勉強していきます。授業に出席するに当たって、全回の授業を復習しておいてください。また、授業終了時に次回勉強する予定の内容を伝えますので、該当する項目について、テキストを見て予習しておくことをお願いします。
------	---

履修上の留意点	楽しい授業・わかる授業・全員参加型の授業を行う必要からも私語はいっさい認めない。また出席は重視する(全回出席をとります)。原則的に、欠席・早退を認めない。理由があるときは、その旨届けてくれれば出席扱いとすることがある。授業開始時間は若干余裕を持たせるので遅刻しないように。また教科書・特に六法は毎回準備すること。できるだけ授業内容は板書したいと思うが、その単なる写し作業で終わらないでほしい。つまり、授業の中で十分考察し、理解することを要求する。したがって単に教場にいるだけでは出席とは認めない。真剣に授業を受けようという意識のある者だけに履修してほしい。板書を記録しやすいようになるべく前から着席すること。万一遅刻したときは、最前列に着席すること。
---------	---

成績評価の方法	出席を重視し、きちんと出席したものに、期末試験の受験資格を与える。理由なく欠席した者は、受験資格を失う。その試験の得点に、小テストなどの平常点を加味して評価する。
---------	---

教科書/テキスト	○小林弘人・松村格編著『法学・憲法(新版)』(八千代出版) ○六法(『ポケット六法(平成24年版)』(有斐閣)) ※すでに持っている六法があれば、それで構わない。ただし、特殊な六法(教育六法・医事六法など)や、古いものは授業で参照する条文が載っていないことがあるので、一般的なもの、なるべく新しいものを準備してほしい。試験の際は、六法を参照する出題をする予定。
----------	--

参考書	●茂野隆晴編『プライマリー法学～日本法のシステム～』(声書房) ●大久保治男監修『トピックスくらしの法』(声書房) その他授業の中で、随時紹介する。
-----	--

その他	最初の講義日(2週目になることがある)に受講票を提出してもらおう。特別の事情のない限り、最初の講義の回から出席のこと。
-----	---

(3) 自然分野

履修コード	223201
科目名	宇宙科学〔星と銀河〕
担当者名	篠原 正雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代の天文学が描く宇宙の姿を研究の手法と併せて紹介する。 (到達目標) 宇宙が不生不滅の静かな広がりではなく、むしろ荒々しく進化していく世界であること、我々人類もまたそうした宇宙史の所産であることを知っていただきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	宇宙の科学：(1)春の星空 (2)宇宙 (3)観測：電磁波 (4)観測：望遠鏡 (5)天体 宇宙観の歴史：(6)古代の宇宙観 (7)天動説と地動説 (8)ニュートンとアインシュタイン (9)宇宙の階層構造 太陽系：(10)太陽 (11)惑星 (12)小天体 (13)太陽系の起源 (14)夏の星空 (15)南半球の星座 恒星：(16)秋の星空 (17)恒星 (18)恒星の進化 (19)恒星の終末 (20)宇宙の元素組成 宇宙：(21)銀河系 (22)星雲と星団 (23)銀河 (24)宇宙の大規模構造 (25)宇宙の起源 (26)暗黒物質 宇宙と人類：(27)系外惑星 (28)SETI (29)地球システム (30)まとめ
----------	--

準備学習	宇宙科学はさまざまな分野とかかわっているの、科学や宇宙関連の新聞記事等には積極的に目を通すこと。
------	--

履修上の留意点	YeStudyに登録すること。 レポートその他の課題について授業内およびYeStudyで伝えるので見落とさないように注意すること。
---------	--

成績評価の方法	レポート形式の中間試験と学年末に行う筆記試験との平均点により評価する。S、Aについては教務部のガイドラインを考慮するので、この平均点と成績とは一致しない。平常点は20点までの範囲で考慮する。
---------	---

教科書/テキスト	福江純著『そこが知りたい天文学』（日本評論社）1,900円+税
----------	---------------------------------

参考書	講義の中で適宜紹介する。
-----	--------------

その他	講義を中心とするが、天体の映像などを多用する。YeStudyを活用する。
-----	--------------------------------------

履修コード	223301
科目名	宇宙科学〔星と銀河〕
担当者名	篠原 正雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代の天文学が描く宇宙の姿を研究の手法と併せて紹介する。 (到達目標) 宇宙が不生不滅の静かな広がりではなく、むしろ荒々しく進化していく世界であること、我々人類もまたそうした宇宙史の所産であることを知っていただきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	宇宙の科学：(1)春の星空 (2)宇宙 (3)観測：電磁波 (4)観測：望遠鏡 (5)天体 宇宙観の歴史：(6)古代の宇宙観 (7)天動説と地動説 (8)ニュートンとアインシュタイン (9)宇宙の階層構造 太陽系：(10)太陽 (11)惑星 (12)小天体 (13)太陽系の起源 (14)夏の星空 (15)南半球の星座 恒星：(16)秋の星空 (17)恒星 (18)恒星の進化 (19)恒星の終末 (20)宇宙の元素組成 宇宙：(21)銀河系 (22)星雲と星団 (23)銀河 (24)宇宙の大規模構造 (25)宇宙の起源 (26)暗黒物質 宇宙と人類：(27)系外惑星 (28)SETI (29)地球システム (30)まとめ
----------	--

準備学習	宇宙科学はさまざまな分野とかかわっているの、科学や宇宙関連の新聞記事等には積極的に目を通すこと。
------	--

履修上の留意点	YeStudyに登録すること。 レポートその他の課題について授業内およびYeStudyで伝えるので見落とさないように注意すること。
---------	--

成績評価の方法	レポート形式の中間試験と学年末に行う筆記試験との平均点により評価する。S、Aについては教務部のガイドラインを考慮するので、この平均点と成績とは一致しない。平常点は20点までの範囲で考慮する。
---------	---

教科書/テキスト	福江純著『そこが知りたい天文学』（日本評論社）1,900円+税
----------	---------------------------------

参考書	講義の中で適宜紹介する。
-----	--------------

その他	講義を中心とするが、天体の映像などを多用する。YeStudyを活用する。
-----	--------------------------------------

履修コード	223001
科目名	化学 [衣食住の化学]
担当者名	持丸 真里

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 現代の日常生活にあふれる化学物質について広く取り上げ、その利便性と問題点を理解するための基礎知識を解説してゆく。</p> <p>(到達目標) 前期には、生体への化学物質の作用を理解するために必要な有機化学・生化学の基礎について説明する。その後、後期を通して衣食住の化学として、各論の説明を行う予定である。講義を通して、各受講生が、化学に関連する報道記事を読みこなす基礎知識をつけ、化学物質・技術の社会での適用について、意見を持てるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化学・生化学の導入 2. 原子の構造 3. 周期表と化学結合 4. イオンと分子 5. 水の性質 6. 有機化学の基礎 7. 炭素骨格の多様性 8. 官能基 9. 酸と塩基 10. 繊維の構造とポリマー 11. 天然繊維と合成繊維 12. 界面活性剤 13. 洗濯の仕組み 14. セッケンと合成洗剤 15. 前期内容の理解度確認と最近の話題から 16. 栄養の化学 17. タンパク質とは何か 18. タンパク質の分子構造 19. 酵素や免疫の働き 20. 遺伝子とは何か 21. 遺伝子の働き 22. ゲノム 23. ゲノム情報の社会への影響 24. 遺伝子技術の社会への応用 25. 遺伝子組み換え実験とは何か 26. 遺伝子組み換え作物の栽培状況と作成法 27. 遺伝子組み換え作物の課題 28. 食品の安全性 29. 化学物質の安全性評価 30. 後期内容の理解度確認と最近の話題から
----------	---

準備学習	毎回の講義の後に、YeStudyで講義内容のキーワードを掲載する。キーワードの意味を復習・理解して次の講義に参加すること。
------	---

履修上の留意点	「化学」の中には様々な分野があるが、本講義は生化学を中心とする（＝生命科学との接点が多い）。上記のようなスケジュールを基本とするが、学生の理解度に合わせて進度を調整したり、途中でニューストピックスを取り上げるなど、柔軟に進めてゆく。講義は、化学の基礎的内容から順次、発展的・先端的事項へと進むので、欠席すると理解が困難になることを留意して履修すること。
---------	--

成績評価の方法	筆記試験（年二回）の成績80%、平常点20%とする。
---------	----------------------------

教科書／テキスト	なし。
----------	-----

参考書	講義内で随時紹介する。
-----	-------------

その他	YeStudyを補助的に利用するので、コース登録すること。
-----	-------------------------------

履修コード	223101
科目名	化学 [衣食住の化学]
担当者名	持丸 真里

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 現代の日常生活にあふれる化学物質について広く取り上げ、その利便性と問題点を理解するための基礎知識を解説してゆく。</p> <p>(到達目標) 前期には、生体への化学物質の作用を理解するために必要な有機化学・生化学の基礎について説明する。その後、後期を通して衣食住の化学として、各論の説明を行う予定である。講義を通して、各受講生が、化学に関連する報道記事を読みこなす基礎知識をつけ、化学物質・技術の社会での適用について、意見を持てるようになることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有機化学・生化学の導入 2. 原子の構造 3. 周期表と化学結合 4. イオンと分子 5. 水の性質 6. 有機化学の基礎 7. 炭素骨格の多様性 8. 官能基 9. 酸と塩基 10. 繊維の構造とポリマー 11. 天然繊維と合成繊維 12. 界面活性剤 13. 洗濯の仕組み 14. セッケンと合成洗剤 15. 前期内容の理解度確認と最近の話題から 16. 栄養の化学 17. タンパク質とは何か 18. タンパク質の分子構造 19. 酵素や免疫の働き 20. 遺伝子とは何か 21. 遺伝子の働き 22. ゲノム 23. ゲノム情報の社会への影響 24. 遺伝子技術の社会への応用 25. 遺伝子組み換え実験とは何か 26. 遺伝子組み換え作物の栽培状況と作成法 27. 遺伝子組み換え作物の課題 28. 食品の安全性 29. 化学物質の安全性評価 30. 後期内容の理解度確認と最近の話題から
----------	---

準備学習	毎回の講義の後に、YeStudyで講義内容のキーワードを掲載する。キーワードの意味を復習・理解して次の講義に参加すること。
------	---

履修上の留意点	「化学」の中には様々な分野があるが、本講義は生化学を中心とする(=生命科学との接点が多い)。上記のようなスケジュールを基本とするが、学生の理解度に合わせて進度を調整したり、途中でニューストピックスを取り上げるなど、柔軟に進めてゆく。講義は、化学の基礎的内容から順次、発展的・先端的事項へと進むので、欠席すると理解が困難になることを留意して履修すること。
---------	--

成績評価の方法	筆記試験(年二回)の成績80%、平常点20%とする。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	なし。
----------	-----

参考書	講義内で随時紹介する。
-----	-------------

その他	YeStudyを補助的に利用するので、コース登録すること。
-----	-------------------------------

履修コード	220111
科目名	科学基礎論
担当者名	奥山 康男
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 医療現場において、治療や検査行為に対する価値判断を下すのは患者や家族である。医療人は常に科学的根拠に基づいた納得のいく説明を要求される。それらの前提としてエビデンス (evidence: 科学的根拠) が必要となり、そのエビデンスに基づいた医療の成り立ちなどの基礎学問を習得する。</p> <p>(到達目標) 科学に「好き、嫌い」の問題が含まれると科学は合理的な根拠として使えなくなり、学問ではなくなる。科学の真ただ中におかれている医療界は、職種には関係なく全てがエビデンスの下に良質な医療を追求している。このような背景のもと、診療放射線技術科学科で学ぶにあたって必要となる学習への意欲・姿勢、学習方法を身につけることを基礎とし、同時に医療人としての人格形成を習得することも本科目の到達目標とする。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療職と医療人 2. 日本の医療制度 3. 医療教育と診療放射線技師教育 4. 医療人を旨指す大学生としての心構え 5. 大学での授業の受け方とレポートの書き方 6. 大学図書館の利用法と文献検索法 7. わが国の医療システム 8. 診療放射線技師教育の質の変化 9. 医療の安全と評価 10. チーム医療 11. EBM (Evidence-Based-Medicine) の基礎 12. NBM (Narrative-Based-Medicine) の基礎 13. 死亡時画像病理診断 (Ai) 14. ネットからの健康情報と医療情報の読み取り方 15. リスクマネジメント
準備学習	<p>中学・高校時代に学習した理科の生物や化学、社会倫理などの基礎知識が重要なので必ず復習しておくこと。また、授業内容に関連したテレビの報道番組や新聞記事などに目を通しておくことが医療の現状を知る予習でもある。</p>
履修上の留意点	<p>大学4年間で学習していく上での大切な基本内容であることを留意して授業に臨むこと。また、少人数制による班分け授業なので、分からない箇所は積極的に質問すること。</p>
成績評価の方法	<p>夏季休み前に実施する前期定期試験 (筆記) の成績80%、平常点 (受講態度や口頭試問など) 20%とする。</p>
教科書/テキスト	<p>プリントを配布する。</p>
参考書	<p>特になし</p>
その他	<p>特になし</p>

履修コード	219701
科目名	科学基礎論
担当者名	熊坂 さつき

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この授業では大学生になったばかりの新入生に対する初年度教育の一環としての教育を行う。なお、科学的な問題解決法では科学的発想や医療の取り組み方に関連した内容を学習しながら大学生、医療人としての考え方を学ぶ。 (到達目標) この講義の到達目標は、大学で必要となるスタディスキル、スチューデントスキルを養う他、診療放射線技術科学科で学ぶにあたって必要となる、学習への意識・姿勢、また学習方法を身につけることである。さらには医療人としての心構えを習得する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションの取り方 2 診療放射線技師とは 3 大学生としての心構え 4 医療人としての心構え 5 図書館の利用法、文献の調べ方 6 授業の受け方 7 ノートの取り方 8 レポートの書き方 9 授業の受け方 (白衣を着る意味) 10 科学的な問題解決法 患者さんとの関係 11 科学的な問題解決法 医師との関係 12 科学的な問題解決法 科学技術との関係 13 科学的な問題解決法 病院での診療放射線技師の役割 14 科学的な問題解決法 医療人としての行生き方 15 理解度の確認 (作文)
----------	---

準備学習	大学とは、大学生とは、病院とは、医療とは等、自分の考え方、将来像などを良く考えまとめて置くこと。
------	--

履修上の留意点	図書館の使い方等、合同授業もある。
---------	-------------------

成績評価の方法	理解度の確認および課題に対するレポートの評価50%、平常点50%で評価する。
---------	--

教科書/テキスト	プリント等を配布する。また、科学や医療のあり方を考察できるような視聴覚資料 (DVD、ビデオ等) を用いて問題提起をしながら討論授業を行って行く。
----------	---

参考書	
-----	--

履修コード	219801
科目名	科学基礎論
担当者名	佐藤 昌憲

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	診療放射線技術科学科で学ぶにあたって必要となる、学習への意識・姿勢、また学習方法を身につけること、さらには医療人として的人格形成をも目的とした導入教育である。なお、科学的な問題解決法では「放射線とは」、「放射線の測定」、「パソコンの活用方法」などについて学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1~3) 診療放射線技師とは? 大学生、医療人としての心構え (4~8) 授業の受け方、レポートの書き方 (9~10) 図書館の利用法、文献の調べ方 (11~15) 科学的な問題解決法
----------	--

準備学習	コンピュータによるレポートの書き方を予習しておいてください。
------	--------------------------------

履修上の留意点	積極的に参加してください。
---------	---------------

成績評価の方法	平常点60%、実習30% レポート20%で評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	必要によりプリントを配布する。
----------	-----------------

参考書	
-----	--

履修コード	220101
科目名	科学基礎論
担当者名	名古 安伸

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業では大学生になったばかりの新入生に対する初年度教育の一環としての教育を行う。なお、科学的な問題解決法では科学的発想や医療の取り組み方に関連した内容を学習しながら大学人、医療人としての考え方を学ぶ。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、大学で必要となるスタディスキル、チューデントスキルを養う他、診療放射線技術科学科で学ぶにあたって必要となる、学習への意識・姿勢、また学習方法を身につけることである。さらには医療人としての心構えを習得する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの取り方 2. 診療放射線技師とは 3. 大学生としての心構え 4. 医療人としての心構え 5. 図書館の利用法、文献の調べ方 6. 授業の受け方 7. ノートの取り方 8. レポートの書き方 9. 授業の受け方 (白衣を着る意味) 10. 科学的な問題解決法: 患者心理と家族心理 11. 科学的な問題解決法: 思いやりとことばと身だしなみ 12. 科学的な問題解決法: 現代医療とチーム医療 13. 科学的な問題解決法: 放射線と放射能 14. 科学的な問題解決法: 診療放射線技術学 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	大学とは、大学生とは、病院とは、医療とは等、自分の考え方、将来像などを良く考えまとめておくこと。
------	--

履修上の留意点	図書館の使い方等、合同授業もある。
---------	-------------------

成績評価の方法	理解度の確認および課題に対するレポートの評価50%、平常点50%で評価する。
---------	--

教科書/テキスト	必要によりプリント配布する。
----------	----------------

参考書	
-----	--

履修コード	220001
科目名	科学基礎論
担当者名	原田 和正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業では大学生になったばかりの新入生に対する初年度教育の一環としての教育を行う。なお、科学的な問題解決法では科学的発想や医療の取り組み方に関連した内容を学習しながら大学院、医療人としての考え方を学ぶ。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、大学で必要となるスタデイスキル、スチューデントスキルを養う他、診療放射線技術科学科で学ぶにあたって必要となる、学習への意識・姿勢、また学習方法を身につけることである。さらには医療人としての心構えを習得する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 コミュニケーションの取り方 2 診療放射線技師とは 3 大学生としての心構え 4 医療人としての心構え 5 図書館の利用法、文献の調べ方 6 授業の受け方 7 ノートの取り方 8 レポートの書き方 9 授業の受け方 10 科学的な問題解決法 1 11 科学的な問題解決法 2 12 科学的な問題解決法 3 13 科学的な問題解決法 4 14 科学的な問題解決法 5 15 理解度の確認
----------	--

準備学習	大学とは、大学生とは、病院とは、医療とは等、自分の考え方、将来像などを良く考えまとめて置くこと。
履修上の留意点	図書館の使い方等、合同授業もある。
成績評価の方法	理解度の確認および課題に対するレポートの評価50%、平常点50%で評価する。
教科書/テキスト	必要によりプリントを配布する。
参考書	授業の中で指示する。
その他	「科学的な問題解決法」では、X線を利用した機器分析実習などを含む。

履修コード	219901
科目名	科学基礎論
担当者名	森口 央基

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	診療放射線技術科学科で学ぶにあたって必要となる、学習への意識・姿勢、また学習方法を身につけること、さらには医療人として的人格形成をも目的とした導入教育である。なお、科学的な問題解決法ではMRIやCTなどの画像の成り立ちや画像の作り方の仕組み、また画像処理の方法などについて学習します。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1~3) 診療放射線技師とは？ 大学生、医療人としての心構え (4~8) 授業の受け方、レポートの書き方 (9~10) 図書館の利用法、文献の調べ方 (11~15) 科学的な問題解決法
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	積極的に受講すること。
成績評価の方法	レポートと授業への取り組み方で評価する。
教科書/テキスト	必要によりプリントを配布する。
参考書	

履修コード	228001
科目名	化学序論
担当者名	山本 裕右

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 高校で「化学」を履修していない学生、履修していてもきちんと理解できていない学生には、1年次の必修科目である「基礎化学」、および2年次の「放射化学」の講義を十分理解できないケースが多く見受けられる。ここでは、高校までの化学の学力が十分身につけていない学生のために、今後必要となる化学の基礎的事項、計算法について演習を行いながら平易に解説する。</p> <p>(到達目標) この授業の到達目標は、①原子の電子配置について量子数と関係付けて理解すること、及び、②物質の概念を理解し、化学における基礎的計算ができるようになることの2点である。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 物質・元素・単体・化合物、(2) 原子・分子・イオン、(3~6) 電子配置・周期表、(7,8) 物質の量・モル質量、(9) 化学式・化合物の名前、(10,11) 化学反応式と化学量論、(12~15) 溶液の濃度計算
----------	---

準備学習	毎回、前回の授業に関する小テストを行うので、授業内容を復習し不明な点を解決しておくこと。
------	--

履修上の留意点	高校で化学を履修しなかった学生、履修していても理解が不十分だと思っている学生、そして化学が苦手な学生、嫌いな学生を対象としています。高校までのただひたすら暗記する化学はここにはありません。不明なこと、理解できないことはどしどし質問してください。理解しようとする努力、知ろうとする意欲をもって臨んでいただければ、きっと新しい化学の世界が開けてくることでしょう。
---------	---

成績評価の方法	平常の小テスト (30%)、定期試験 (70%) で評価する。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	使用しない
----------	-------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・乾 他著、『改訂 化学-物質の構造、性質および反応-』(化学同人)2,520円 ・A. Sherman他著、石倉洋子 他訳、『化学-基本の考え方を中心に-』(東京化学同人) 2,993円 ・A. Sherman他著、石倉洋子 他訳、『化学-基本の考え方を中心に-問題と解答』(東京化学同人) 1,785円
-----	---

その他	演習問題を行うので、電卓を持参のこと。
-----	---------------------

履修コード	227501
科目名	基礎化学
担当者名	原田 和正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本講義では「放射化学」、「生化学」、「画像工学概論Ⅰ」、「核医学」などを学ぶ上で必要となる化学の基本事項について理解することを目的とする。 取り上げる項目は高等学校で履修する化学とほぼ同様であるが、内容については各項目に関してより深く学ぶ。</p>
---------------------	--

(到達目標)
単なる暗記ではなく、解を導く上で論理的な思考ができるようにする。また物理量・次元と単位について理解し、有効数字を考慮した定量的取扱いにも習熟する。

授業スケジュール	(1~2) 序 (3~6) 原子・分子・モル (7~10) 電子配置と周期表 (11~15) 化学結合 (16) 化学平衡 (17~19) 酸・塩基 (20~22) 酸化・還元 (23) 溶解度と溶解度積 (24) 気体の状態方程式 (25~27) 反応速度論 (28~30) 化学熱力学
----------	--

準備学習	高等学校で化学を履修していない学生、化学が苦手な学生でもついて行けるような授業進行を心掛けているが、前記の学生は「化学序論」を履修することを強く勧める。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用しないため、ノートをしっかり取ること。 ・指名して問題を解かせることもある。 ・授業中に理解できなかったことはその日のうちにノートを見直したり、早めに質問に来ること。 ・授業には配布したプリント、関数電卓を持ってくること。
---------	---

成績評価の方法	定期試験35%と平常点75% (うち、理解度の確認35%) で評価する。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。
----------	------------------------

参考書	A. Sherman他著、石倉洋子・石倉久之訳、『化学 基本の考え方を中心に』(東京化学同人) 2,850円 A. Sherman他著、石倉洋子・石倉久之訳、『化学 基本の考え方を中心に-問題と解答-』(東京化学同人) 1,700円
-----	---

履修コード	227701
科目名	基礎数学
担当者名	森口 央基

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本学部・学科の専門科目で必要となる基本的な数学(微分, 積分)を学習する。またその際必要となるより基本的な数学知識(三角関数, 指数・対数関数等)についても臨機に復習する。これにより, 高校数学を完全に習得した上で, 理系の大学数学への第一歩を踏み出すことを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	理系の大学生にとって数学の基本である微分・積分を徹底的に学ぶ。必要に応じて高校数学の復習も行う。 (1) 整式の微分・積分 (2~9) 微分, 微分的应用 関数の極限・連続関数, 微分の基本公式, 三角関数, 逆三角関数, 指数関数・対数関数, 関数の増減, 極値・凹凸, 高次導関数 等 (10~17) 不定積分, 定積分 基本的な不定積分, 置換積分・部分積分, 三角関数の積分, 有理関数・無理関数の積分, 定積分の計算, 異常積分・無限積分, 面積・体積の計算 等 (18~20) 微分・積分的应用 関数の展開, 不定形の極限, 定積分的应用 等 (21~23) 偏微分 偏微分, 基本公式, 偏微分的应用 等 (24~26) 重積分 2重積分とその应用, 3重積分とその应用 等 (27~30) 微分方程式 1階微分方程式, 定数係数線形微分方程式 等
----------	--

準備学習	スケジュール表により, きょう勉強することは何か, をしっかり意識して授業に臨んで欲しい。
------	---

履修上の留意点	数学は基礎の積み重ねが重要である。したがって毎回行う演習に真剣に取り組み, 今日学んだことは今日習得してしまう, という姿勢で臨むこと。ためておいて後でまとめてやろう, というやり方では身につかないことに注意すること。
---------	---

成績評価の方法	2~3回の理解度確認テスト, および学習態度の総合点による。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	矢野・石原 『微分積分 改訂版』(裳華房), 2,100円+税, ISBN978-4-7853-1071-4
----------	--

参考書	必要に応じて資料を配付する。
-----	----------------

その他	「解を暗記するのではなく, 考え方を理解する」ということが数学力向上のポイントである。この意識をしっかり持とう!
-----	--

履修コード	227401
科目名	基礎物理学
担当者名	佐藤 昌憲 小川 雅生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	われわれを取り巻く自然環境の中で, いろいろな物体の運動や波動現象, 熱現象, および電磁気現象に遭遇する。本講義では, これらの現象が物理学の基礎理論によってどのように理解されるかを学び, 日々の生活の中で科学的にものを考える習慣を身につけることに重点をおく。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 物体の運動とエネルギー (速度, 加速度, 運動量, 力, 物体の運動, 仕事, 運動のエネルギー, 保存量) (2) 温度と熱 (熱の正体, 温度, 圧力, 物質の集合状態, 仕事と熱量, 熱の伝導, 熱的過程) (3) 波動 (波のいろいろ, 波の伝播, 音波と光波の性質) (4) 電磁気学 電界(真空中の静電界, 導体系による電界, 静電界におけるエネルギーと力) 磁界(静磁界, 電流による磁界, 電流に及ぼす作用と電磁誘導) (5) 電磁波 (自由空間における電磁波)
----------	---

準備学習	授業内容についての予習と復習をすること。
------	----------------------

履修上の留意点	この科目は前期での集中授業である。基礎物理学Aでは, 力学, 波動性および熱力学を, 基礎物理学Bでは, 電磁気学と電磁波を中心に講義する。知識の単純記憶ではなく理論に基づいた思考過程を身につけてほしい。
---------	--

成績評価の方法	基礎物理学A・Bの平常点20%, 小テスト30%, 定期試験50%により評価する。
---------	---

教科書/テキスト	基礎物理学B: 『基礎物理学』(学術図書出版社)
----------	--------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	225801
科目名	コンピュータ応用 [コンピュータの原理]
担当者名	坂野井 和代
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	主に実習を通して、コンピュータの動くしくみとプログラミングについて基礎知識・技術を学ぶ。また、マクロのプログラミングを通して、コンピュータを使用する際に、どのようにプログラミングが利用されているかを知る。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (1回) 2. KOMAnetの使い方、タイピングについて (1回) 3. 公用電子メールの書き方 (1回) 4. コンピュータの動作原理とプログラミングについて (4回) 5. Visual Basicによるプログラミング実習 (8回) 6. Excelのマクロについて Visual Basic for Application (2回) 7. Excel VBAの実習 (13回)
準備学習	講義を休んだ場合などは、遅れた分の作業を自主的に行っておくこと。
履修上の留意点	<p>プログラミングに対する予備知識は必要としません。しかし必要最低限のコンピュータの操作 (ファイル、ウィンドウ操作、電子メール、ウェブの利用など) はマスターしていること。これらの操作ができないと実習についてくることは難しいです。またプログラミングの際に、数学や英語に関する知識が多少必要となります。</p> <p>実習形式で逐次作業を行いながら進むので、講義は必ず毎回出席すること。長期に休んだ場合の復活は難しいので、留学、就職活動や教育実習などで3回以上休むことが当初から予想される学生は、その年の授業は履修申請しないでください。</p> <p>プログラミングを全く知らない人を対象にしていますが、だからといって内容が簡単なわけではないので、やる気がないと単位取得は難しいです。</p>
成績評価の方法	評価は授業時間中に出題する3回程度の課題によって行う。
教科書/テキスト	<p>立山秀利、「ExcelVBAのプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本」、秀和システム、2310円、ISBN 978-4798017976</p> <p><注意事項 必ず読んでください！></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の購入は必須です。教科書内にあるデータを使用しますので、著作権保護のため未購入者には単位認定しません。 ・ 書籍タイトルの最初に「続」のついた、続編もありますので、購入時に注意して購入してください。使用するのは「続」のついていない方です。
参考書	・ Michael Halvorson著・(株)日本ユニテック訳、「VisualBasic.NET実践講座 Vol.1基礎編」、日経BPソフトプレス、2480円、ISBN4-89100-257-3
その他	<p>実習のために、計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、基本的に受講者数が制限される。</p> <p>講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。 [http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html]</p>

履修コード	225901
科目名	コンピュータ応用 [コンピュータの原理]
担当者名	坂野井 和代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	主に実習を通して、コンピュータの動くしくみとプログラミングについて基礎知識・技術を学ぶ。また、マクロのプログラミングを通して、コンピュータを使用する際に、どのようにプログラミングが利用されているかを知る。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (1回) 2. KOMAnetの使い方、タイピングについて (1回) 3. 公用電子メールの書き方 (1回) 4. コンピュータの動作原理とプログラミングについて (4回) 5. Visual Basicによるプログラミング実習 (8回) 6. Excelのマクロについて Visual Basic for Application (2回) 7. Excel VBAの実習 (13回)
----------	---

準備学習	講義を休んだ場合などは、遅れた分の作業を自主的に行っておくこと。
------	----------------------------------

履修上の留意点	<p>プログラミングに対する予備知識は必要としません。しかし必要最低限のコンピュータの操作 (ファイル、ウィンドウ操作、電子メール、ウェブの利用など) はマスターしていること。これらの操作ができないと実習についてくることは難しいです。またプログラミングの際に、数学や英語に関する知識が多少必要となります。</p> <p>実習形式で逐次作業を行いながら進むので、講義は必ず毎回出席すること。長期に休んだ場合の復活は難しいので、留学、就職活動や教育実習などで3回以上休むことが当初から予想される学生は、その年の授業は履修申請しないでください。</p> <p>プログラミングを全く知らない人を対象にしていますが、だからといって内容が簡単なわけではないので、やる気がないと単位取得は難しいです。</p>
---------	---

成績評価の方法	評価は授業時間中に出席する3回程度の課題によって行う。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	立山秀利、「ExcelVBAのプログラミングのツボとコツがゼッタイにわかる本」、秀和システム、2310円、ISBN 978-4798017976
----------	--

<注意事項 必ず読んでください！>

- ・教科書の購入は必須です。教科書内にあるデータを使用しますので、著作権保護のため未購入者には単位認定しません。

- ・書籍タイトルの最初に「続」のついた、続編もありますので、購入時に注意して購入してください。使用するのは「続」のついていない方です。

参考書	・Michael Halvorson著・(株)日本ユニテック訳、「VisualBasic.NET実践講座 Vol.1基礎編」、日経BPソフトプレス、2480円、ISBN4-89100-257-3
-----	---

その他	実習のために、計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、基本的に受講者数が制限される。
-----	--

講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。
{<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html>}

履修コード	223601
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	小川 健次郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターネットの原理や原則を学ぶ。その上で実現されているさまざまなサービスを、実習を通じて理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1~3) ガイダンス、PCの基本操作 (4~6) インターネット上のサービス、E-mailの利用・マナー (7~15) HTML文書の作成
----------	--

準備学習	予備知識は必要としない。
------	--------------

履修上の留意点	講義は必ず毎回出席すること。復習を丹念に行い、既習事項がスムーズに行えるようにしておくこと。就職活動や教育実習などで休むことが当初から予定されている学生は、その時期の授業は履修申請しないこと。
---------	--

成績評価の方法	評価は授業時間中に出席する課題によって行う。
---------	------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	実習のために、計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、受講者数を制限することもある。
-----	--

履修コード	224101
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	小川 健次郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターネットの原理や原則を学ぶ。その上で実現されているさまざまなサービスを、実習を通じて理解する。
授業スケジュール	(1~3) ガイダンス、PCの基本操作 (4~6) インターネット上のサービス、E-mailの利用・マナー (7~15) HTML文書の作成
準備学習	予備知識は必要としない。
履修上の留意点	講義は必ず毎回出席すること。復習を丹念に行い、既習事項がスムーズに行えるようにしておくこと。就職活動や教育実習などで休むことが当初から予定されている学生は、その時期の授業は履修申請しないこと。
成績評価の方法	評価は授業時間中に出題する課題によって行う。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	実習のために、計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、受講者数を制限することもある。

履修コード	224801
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	小川 健次郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターネットの原理や原則を学ぶ。その上で実現されているさまざまなサービスを、実習を通じて理解する。
授業スケジュール	(1~3) ガイダンス、PCの基本操作 (4~6) インターネット上のサービス、E-mailの利用・マナー (7~15) HTML文書の作成
準備学習	予備知識は必要としない。
履修上の留意点	講義は必ず毎回出席すること。復習を丹念に行い、既習事項がスムーズに行えるようにしておくこと。就職活動や教育実習などで休むことが当初から予定されている学生は、その時期の授業は履修申請しないこと。
成績評価の方法	評価は授業時間中に出題する課題によって行う。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	実習のために、計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、受講者数を制限することもある。

履修コード	224901
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	小川 健次郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インターネットの原理や原則を学ぶ。その上で実現されているさまざまなサービスを、実習を通じて理解する。
授業スケジュール	(1~3) ガイダンス、PCの基本操作 (4~6) インターネット上のサービス、E-mailの利用・マナー (7~15) HTML文書の作成
準備学習	予備知識は必要としない。
履修上の留意点	講義は必ず毎回出席すること。復習を丹念に行い、既習事項がスムーズに行えるようにしておくこと。就職活動や教育実習などで休むことが当初から予定されている学生は、その時期の授業は履修申請しないこと。
成績評価の方法	評価は授業時間中に出題する課題によって行う。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	実習のために、計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、受講者数を制限することもある。

履修コード	223701
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	小沢 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ホームページの作り方を説明します。文書の構造を記述する言語であるHTML (Hypertext Markup Language)、その表示方法を指定する仕組みのCSS (Cascading Style Sheet)、作成したHTML・CSSファイル等をウェブサーバーに送信する際の通信規約FTP (File Transfer Protocol) を学びます。これらを学ぶ過程で、コンピュータの基本的な知識や操作方法等も習得できるようになります。最終的に、自分のホームページを公開することが目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回から第7回にHTMLを、第9回から第15回にCSSを学びます。HTMLでは基本構造・テキスト・リスト・テーブル・リンクを、CSSではフォント・テキスト・色と背景・ボックス・配置方法・リストを扱います。HTMLが一通り終わった段階で、第8回に無料ホームページの登録をし、FTPのやり方を説明します。
----------	---

準備学習	この講義では内容については触れないので、予めテーマを決めて、どのような内容にするか考えておいて下さい。
------	---

履修上の留意点	パソコンにログインするには、KOMAnetの「ユーザID」と「パスワード」が必要です。ユーザIDとパスワードの無い学生は教場のパソコンを利用できないので、講義が始まる前に取得しておいて下さい。
---------	--

成績評価の方法	レポートで評価します。HTML・CSS・内容の3点で採点をします。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	講義ノート [http://www.komazawa-u. ac. jp/~w3c/lecture/computer. html#note] を教科書として使用します。
----------	--

参考書	リンク [http://www.komazawa-u. ac. jp/~w3c/lecture/link. html] を参照して下さい。
-----	---

その他	Yahoo! JAPAN [http://www.yahoo. co. jp/]、Google [http://www.google. co. jp/] 等で自分の興味があるホームページを検索して、どのような情報が公開されているか見ておくことも重要です。
-----	---

関連リンク	http://www.komazawa-u. ac. jp/~w3c/lecture/computer. html
-------	---

履修コード	224201
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	小沢 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ホームページの作り方を説明します。文書の構造を記述する言語であるHTML (Hypertext Markup Language)、その表示方法を指定する仕組みのCSS (Cascading Style Sheet)、作成したHTML・CSSファイル等をウェブサーバーに送信する際の通信規約FTP (File Transfer Protocol) を学びます。これらを学ぶ過程で、コンピュータの基本的な知識や操作方法等も習得できるようになります。最終的に、自分のホームページを公開することが目標です。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回から第7回にHTMLを、第9回から第15回にCSSを学びます。HTMLでは基本構造・テキスト・リスト・テーブル・リンクを、CSSではフォント・テキスト・色と背景・ボックス・配置方法・リストを扱います。HTMLが一通り終わった段階で、第8回に無料ホームページの登録をし、FTPのやり方を説明します。
----------	---

準備学習	この講義では内容については触れないので、予めテーマを決めて、どのような内容にするか考えておいて下さい。
------	---

履修上の留意点	パソコンにログインするには、KOMAnetの「ユーザID」と「パスワード」が必要です。ユーザIDとパスワードの無い学生は教場のパソコンを利用できないので、講義が始まる前に取得しておいて下さい。
---------	--

成績評価の方法	レポートで評価します。HTML・CSS・内容の3点で採点をします。
---------	-----------------------------------

教科書/テキスト	講義ノート [http://www.komazawa-u. ac. jp/~w3c/lecture/computer. html#note] を教科書として使用します。
----------	--

参考書	リンク [http://www.komazawa-u. ac. jp/~w3c/lecture/link. html] を参照して下さい。
-----	---

その他	Yahoo! JAPAN [http://www.yahoo. co. jp/]、Google [http://www.google. co. jp/] 等で自分の興味があるホームページを検索して、どのような情報が公開されているか見ておくことも重要です。
-----	---

関連リンク	http://www.komazawa-u. ac. jp/~w3c/lecture/computer. html
-------	---

履修コード	225001
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	小沢 誠
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ホームページの作り方を説明します。文書の構造を記述する言語であるHTML (Hypertext Markup Language)、その表示方法を指定する仕組みのCSS (Cascading Style Sheet)、作成したHTML・CSSファイル等をウェブサーバーに送信する際の通信規約FTP (File Transfer Protocol) を学びます。これらを学ぶ過程で、コンピュータの基本的な知識や操作方法等も習得できるようになります。最終的に、自分のホームページを公開することが目標です。
授業スケジュール	第1回から第7回にHTMLを、第9回から第15回にCSSを学びます。HTMLでは基本構造・テキスト・リスト・テーブル・リンクを、CSSではフォント・テキスト・色と背景・ボックス・配置方法・リストを扱います。HTMLが一通り終わった段階で、第8回に無料ホームページの登録をし、FTPのやり方を説明します。
準備学習	この講義では内容については触れないので、予めテーマを決めて、どのような内容にするか考えておいて下さい。
履修上の留意点	パソコンにログインするには、KOMAnetの「ユーザID」と「パスワード」が必要です。ユーザIDとパスワードの無い学生は教場のパソコンを利用できないので、講義が始まる前に取得しておいて下さい。
成績評価の方法	レポートで評価します。HTML・CSS・内容の3点で採点をします。
教科書/テキスト	講義ノート (http://www.komazawa-u.ac.jp/~w3c/lecture/computer.html#note) を教科書として使用します。
参考書	リンク (http://www.komazawa-u.ac.jp/~w3c/lecture/link.html) を参照して下さい。
その他	Yahoo! JAPAN (http://www.yahoo.co.jp/)、Google (http://www.google.co.jp/) 等で自分の興味があるホームページを検索して、どのような情報が公開されているか見ておくことも重要です。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~w3c/lecture/computer.html

履修コード	223801
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	金尾 美穂
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においては、全ての人が多様な場・状況で情報処理システムと関わり合っている。正しく適切な対応をするためには情報およびその扱いに関する基礎的な素養が必要である。本講義では、文理系を問わず大学生に必要な科目として、講義と演習を通してコンピューターシステムとデータの枠組みに関する基礎的な知識を理解し、さらにコンピューターシステムを用いた資料作成などの基本的なスキルを習得し楽しむことを目的とする。機器の操作やソフトウェアの利用についての学習もこの目的に沿う形で行う。
授業スケジュール	<p>主な学習項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 計算機システムの概要—計算機の基本構成、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク ● コンピューターにおけるデータの扱いと操作 ● コンピューターリテラシー—著作権・セキュリティ・ネットワークと社会 ● 応用ソフトウェア—ネットワーク情報ブラウザ、描画システム、表計算システム等 <p>実習用の操作システムとしてはwindowsを用いる。計算機の仕組みや電子メールやインターネットを扱う際の基本的な事項と留意点について講義を行い、発達したコンピューター社会について紹介する。また、テキストエディタの使用やofficeを用いた簡単な計算や表・グラフ、レポートやプレゼンテーション資料の作成等の演習を行う。講義の後半では、簡単なプログラミングの例としてHTMLを用いたウェブサイトの作成に取り組む。</p> <p>スケジュール</p> <p>1回: ガイダンス 2回: コンピューターとファイル操作 3回: テキストエディタの使用法 4回: インターネット社会の落とし穴 5~7回: 文系にも必要なエクセル計算と表・グラフの書き方 8回: オフィスワードを用いたレポート (文書書類) 作成法 9回: 描画システムの利用 10回: プレゼンテーション資料の作成 11~15回: HTMLを用いたウェブサイト作成</p>
準備学習	特に必要としない。
履修上の留意点	受講に際して総合情報センターにおいてコンピューターの利用を申請し、KOMAnet ID を取得することが必要です。IDやパスワードを忘れて再申請した場合には翌開講日からしか大学のコンピューターを使えませんので、講義の前日17時までに申請してください。
成績評価の方法	数回のレポートと出席等と併せて成績評価を行う。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	224301
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	金尾 美穂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においては、全ての人が多様な場・状況で情報処理システムと関わり合っている。正しく適切な対応をするためには情報およびその扱いに関する基礎的な素養が必要である。本講義では、文理系を問わず大学生に必要な科目として、講義と演習を通しコンピュータシステムとデータの枠組みに関する基礎的な知識を理解し、さらにコンピュータシステムを用いた資料作成などの基本的なスキルを習得し楽しむことを目的とする。機器の操作やソフトウェアの利用についての学習もこの目的に沿う形で行う。
---------------------	---

授業スケジュール	主な学習項目は以下のとおりである。
----------	-------------------

- 計算機システムの概要ー計算機の基本構成、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク
- コンピューターにおけるデータの扱いと操作
- コンピューターリテラシーー著作権・セキュリティ・ネットワークと社会
- 応用ソフトウェアーネットワーク情報ブラウザ、描画システム、表計算システム等

実習用の操作システムとしてはwindowsを用いる。計算機の仕組みや電子メールやインターネットを扱う際の基本的な事項と留意点について講義を行い、発達したコンピューター社会について紹介する。また、テキストエディタの使用やofficeを用いた簡単な計算や表・グラフ、レポートやプレゼンテーション資料の作成等の演習を行う。講義の後半では、簡単なプログラミングの例としてHTMLを用いたウェブサイトの作成に取り組む。

- スケジュール
- 1回: ガイダンス
 - 2回: コンピューターとファイル操作
 - 3回: テキストエディタの使用法
 - 4回: インターネット社会の落とし穴
 - 5~7回: 文系にも必要なエクセル計算と表・グラフの書き方
 - 8回: オフィスワードを用いたレポート (文書書類) 作成法
 - 9回: 描画システムの利用
 - 10回: プレゼンテーション資料の作成
 - 11~15回: HTMLを用いたウェブサイト作成

準備学習	特に必要としない。
------	-----------

履修上の留意点	受講に際して総合情報センターにおいてコンピューターの利用を申請し、KOMAnet ID を取得することが必要です。IDやパスワードを忘れて再申請した場合には翌開講日からしか大学のコンピューターを使えませんので、講義の前日17時までに申請してください。
---------	---

成績評価の方法	数回のレポートと出席等と併せて成績評価を行う。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	345701
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータと情報]
担当者名	金尾 美穂
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代社会においては、全ての人が多様な場・状況で情報処理システムと関わり合っている。正しく適切な対応をするためには情報およびその扱いに関する基礎的な素養が必要である。本講義では、文理系を問わず大学生に必要な科目として、講義と演習を通しコンピューターシステムとデータの枠組みに関する基礎的な知識を理解し、さらにコンピューターシステムを用いた資料作成などの基本的なスキルを習得し楽しむことを目的とする。機器の操作やソフトウェアの利用についての学習もこの目的に沿う形で行う。
授業スケジュール	<p>主な学習項目は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●計算機システムの概要ー計算機の基本構成、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク ●コンピューターにおけるデータの扱いと操作 ●コンピューターリテラシーー著作権・セキュリティ・ネットワークと社会 ●応用ソフトウェアーネットワーク情報ブラウザ、描画システム、表計算システム等 <p>実習用の操作システムとしてはwindowsを用いる。計算機の仕組みや電子メールやインターネットを扱う際の基本的な事項と留意点について講義を行い、発達したコンピューター社会について紹介する。また、テキストエディタの使用やofficeを用いた簡単な計算や表・グラフ、レポートやプレゼンテーション資料の作成等の演習を行う。講義の後半では、簡単なプログラミングの例としてHTMLを用いたウェブサイトの作成に取り組む。</p> <p>スケジュール</p> <p>1回: ガイダンス 2回: コンピューターとファイル操作 3回: テキストエディタの使用法 4回: インターネット社会の落とし穴 5~7回: 文系にも必要なエクセル計算と表・グラフの書き方 8回: オフィスワードを用いたレポート(文書類)作成法 9回: 描画システムの利用 10回: プレゼンテーション資料の作成 11~15回: HTMLを用いたウェブサイト作成</p>
準備学習	特に必要としない。
履修上の留意点	受講に際して総合情報センターにおいてコンピューターの利用を申請し、KOMAnet ID を取得することが必要です。IDやパスワードを忘れて再申請した場合には翌開講日からしか大学のコンピューターを使えませんので、講義の前日17時まで申請してください。
成績評価の方法	数回のレポートと出席等と併せて成績評価を行う。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	345901
科目名	コンピュータ基礎〔コンピュータと情報〕
担当者名	金尾 美穂

授業概要/ 到達目標(ねらい)	現代社会においては、全ての人が多様な場・状況で情報処理システムと関わり合っている。正しく適切な対応をするためには情報およびその扱いに関する基礎的な素養が必要である。本講義では、文理系を問わず大学生に必要な科目として、講義と演習を通しコンピュータシステムとデータの枠組みに関する基礎的な知識を理解し、さらにコンピュータシステムを用いた資料作成などの基本的なスキルを習得し楽しむことを目的とする。機器の操作やソフトウェアの利用についての学習もこの目的に沿う形で行う。
--------------------	---

授業スケジュール	主な学習項目は以下のとおりである。
----------	-------------------

- 計算機システムの概要－計算機の基本構成、ハードウェア・ソフトウェア・ネットワーク
- コンピューターにおけるデータの扱いと操作
- コンピューターリテラシー－著作権・セキュリティ・ネットワークと社会
- 応用ソフトウェア－ネットワーク情報ブラウザ、描画システム、表計算システム等

実習用の操作システムとしてはwindowsを用いる。計算機の仕組みや電子メールやインターネットを扱う際の基本的な事項と留意点について講義を行い、発達したコンピューター社会について紹介する。また、テキストエディタの使用やofficeを用いた簡単な計算や表・グラフ、レポートやプレゼンテーション資料の作成等の演習を行う。講義の後半では、簡単なプログラミングの例としてHTMLを用いたウェブサイトの作成に取り組む。

スケジュール

- 1回: ガイダンス
- 2回: コンピューターとファイル操作
- 3回: テキストエディタの使用法
- 4回: インターネット社会の落とし穴
- 5～7回: 文系にも必要なエクセル計算と表・グラフの書き方
- 8回: オフィスワードを用いたレポート(文書書類)作成法
- 9回: 描画システムの利用
- 10回: プレゼンテーション資料の作成
- 11～15回: HTMLを用いたウェブサイトの作成

準備学習	特に必要としない。
------	-----------

履修上の留意点	受講に際して総合情報センターにおいてコンピューターの利用を申請し、KOMAnet ID を取得することが必要です。IDやパスワードを忘れて再申請した場合には翌開講日からしか大学のコンピューターを使えませんので、講義の前日17時までに申請してください。
---------	---

成績評価の方法	数回のレポートと出席等と併せて成績評価を行う。
---------	-------------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	225201
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	坂野井 和代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	集中的にコンピュータに触れることで、コンピュータに慣れることを目的とする。初日は、コンピュータの基礎的な操作方法 (タイピング、電子メール) や用語について基礎を学ぶ。2日目以降は、Excelの基礎的な使い方を中心して学び、これらの作業を通してコンピュータの操作に慣れる。
---------------------	--

授業スケジュール	1. ガイダンス (KOMAnet ID、パスワードに関する注意事項、ホームディレクトリ) (1回) 2. タイプ練習&日本語入力 (1回) 3. 電子メール (Active!mailの使い方、公用メールの書き方) (1回) 4. Excelの基本的な使い方 (12回)
----------	--

準備学習	ブラインドタッチは継続して練習することで身につきます。できるかぎり毎日、少しでもよいので練習を続けること。
------	---

履修上の留意点	予備知識は必要としないが、集中講義形式および実習で逐次作業を行いながら進むので、講義は必ず毎回出席すること。2回以上休むことが当初から予想される学生は、履修申請しないこと。KOMAnet IDの取得は必須です。
---------	---

成績評価の方法	評価は授業時間中に出題する2~3回程度の課題によって行う。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	500円程度で購入できるテキストを使います。具体的なテキスト名などは、6月に入ってからKONECOでアナウンスしますので、集中講義の初日までに購入しておくこと。テキストの購入は必須です (著作権保護のため、未購入者には単位認定しません)。
----------	---

参考書	必要に応じて適宜紹介します。
-----	----------------

その他	授業日程: 7月31日(火)・8月1日(水)~3日(金)・6日(月)の1~3時限 予備日: 8月7日(火)1~3時限
-----	---

実習のために計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、基本的に受講者数が制限される。

講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。
{<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html>}

履修コード	225601
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	坂野井 和代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	実習を通してコンピュータに触れることで、コンピュータに慣れることを目的とする。具体的には、コンピュータの基礎的な操作方法や用語およびインターネットについて基礎を学ぶ。特に、タイピング、電子メールやウェブといったサービスの使用方法を実習を通じて身につける。セキュリティやITの法的側面についても学ぶ。後半は、広く普及しているアプリケーション (Word、Excel) の基礎的な使用方法を学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	1. ガイダンス (KOMAnet ID、パスワードに関する注意事項) (0.5回) 2. 総合情報センターの利用方法 (1.5回) (ホームディレクトリ、パソコン使用上の心得、WindowsPCの基本操作) 3. タイプ練習&日本語入力 (3回) 4. 電子メール (Active!mailの使い方、公用メールの書き方) (2回) 5. コンピュータ&インターネットの基礎 (1回) 6. Word または Excel の使い方 (7回)
----------	--

* Word、Excel のどちらかを選んで講義します。どちらをやるかは、受講生全員の希望を考慮して、開講後に決定してアナウンスします。

準備学習	ブラインドタッチは継続して練習することで身につきます。できるかぎり毎日、少しでもよいので練習を続けること。
------	---

履修上の留意点	予備知識は必要としないが、実習形式で逐次作業を行いながら進むので、講義は必ず毎回出席すること。半期の授業なので、就職活動や教育実習などで2回以上休むことが当初から予想される学生は、その時期の授業は履修申請しないこと。KOMAnet IDの取得は必須です。
---------	---

成績評価の方法	評価は授業時間中に出題する2~3回程度の課題およびタイピングテストによって行う。
---------	--

教科書/テキスト	講義の後半に、500円程度で購入できるテキストを使います。具体的なテキスト名などは、開講後に講義時間やKONECOでアナウンスしますので、アナウンス時に指定する日までに購入すること。テキストの購入は必須です (著作権保護のため、未購入者には単位認定しません)。
----------	--

参考書	必要に応じて適宜紹介します。
-----	----------------

その他	実習のために計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、基本的に受講者数が制限される。
-----	---

講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。
{<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html>}

履修コード	225701
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	坂野井 和代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	実習を通してコンピュータに触れることで、コンピュータに慣れることを目的とする。具体的には、コンピュータの基礎的な操作方法や用語およびインターネットについて基礎を学ぶ。特に、タイピング、電子メールやウェブといったサービスの使用方法を実習を通じて身につける。セキュリティやITの法的側面についても学ぶ。後半は、広く普及しているアプリケーション (Word、Excel) の基礎的な使用方法を学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (KOMAnet ID、パスワードに関する注意事項) (0.5回) 2. 総合情報センターの利用方法 (1.5回) (ホームディレクトリ、パソコン使用上の心得、WindowsPCの基本操作) 3. タイプ練習&日本語入力 (3回) 4. 電子メール (Active!mail)の使い方、公用メールの書き方 (2回) 5. コンピュータ&インターネットの基礎 (1回) 6. Word または Excel の使い方 (7回)
----------	---

* Word、Excel のどちらかを選んで講義します。どちらをやるかは、受講生全員の希望を考慮して、開講後に決定してアナウンスします。

準備学習	ブラインドタッチは継続して練習することで身につきます。できるかぎり毎日、少しでもよいので練習を続けること。
------	---

履修上の留意点	予備知識は必要としないが、実習形式で逐次作業を行いながら進むので、講義は必ず毎回出席すること。半期の授業なので、就職活動や教育実習などで2回以上休むことが当初から予想される学生は、その時期の授業は履修申請しないこと。KOMAnet IDの取得は必須です。
---------	---

成績評価の方法	評価は授業時間中に出席する2~3回程度の課題およびタイピングテストによって行う。
---------	--

教科書/テキスト	講義の後半に、500円程度で購入できるテキストを使います。具体的なテキスト名などは、開講後に講義時間やKONECOでアナウンスしますので、アナウンス時に指定する日までに購入すること。テキストの購入は必須です (著作権保護のため、未購入者には単位認定しません)。
----------	--

参考書	必要に応じて適宜紹介します。
-----	----------------

その他	実習のために計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、基本的に受講者数が制限される。
-----	---

講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html>

履修コード	345801
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータと情報]
担当者名	坂野井 和代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	実習を通してコンピュータに触れることで、コンピュータに慣れることを目的とする。具体的には、コンピュータの基礎的な操作方法や用語およびインターネットについて基礎を学ぶ。特に、タイピング、電子メールやウェブといったサービスの使用方法を実習を通じて身につける。セキュリティやITの法的側面についても学ぶ。後半は、広く普及しているアプリケーション (Word、Excel) の基礎的な使用方法を学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (KOMAnet ID、パスワードに関する注意事項) (0.5回) 2. 総合情報センターの利用方法 (1.5回) (ホームディレクトリ、パソコン使用上の心得、WindowsPCの基本操作) 3. タイプ練習&日本語入力 (3回) 4. 電子メール (Active!mail)の使い方、公用メールの書き方 (2回) 5. コンピュータ&インターネットの基礎 (1回) 6. Word または Excel の使い方 (7回)
----------	---

* Word、Excel のどちらかを選んで講義します。どちらをやるかは、受講生全員の希望を考慮して、開講後に決定してアナウンスします。

準備学習	ブラインドタッチは継続して練習することで身につきます。できるかぎり毎日、少しでもよいので練習を続けること。
------	---

履修上の留意点	予備知識は必要としないが、実習形式で逐次作業を行いながら進むので、講義は必ず毎回出席すること。半期の授業なので、就職活動や教育実習などで2回以上休むことが当初から予想される学生は、その時期の授業は履修申請しないこと。KOMAnet IDの取得は必須です。
---------	---

成績評価の方法	評価は授業時間中に出席する2~3回程度の課題およびタイピングテストによって行う。
---------	--

教科書/テキスト	講義の後半に、500円程度で購入できるテキストを使います。具体的なテキスト名などは、開講後に講義時間やKONECOでアナウンスしますので、アナウンス時に指定する日までに購入すること。テキストの購入は必須です (著作権保護のため、未購入者には単位認定しません)。
----------	--

参考書	必要に応じて適宜紹介します。
-----	----------------

その他	実習のために計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、基本的に受講者数が制限される。
-----	---

講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html>

履修コード	346001
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータと情報]
担当者名	坂野井 和代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	実習を通してコンピュータに触れることで、コンピュータに慣れることを目的とする。具体的には、コンピュータの基礎的な操作方法や用語およびインターネットについて基礎を学ぶ。特に、タイピング、電子メールやウェブといったサービスの使用方法を実習を通じて身につける。セキュリティやITの法的側面についても学ぶ。後半は、広く普及しているアプリケーション (Word、Excel) の基礎的な使用方法を学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (KOMAnet ID、パスワードに関する注意事項) (0.5回) 2. 総合情報センターの利用方法 (1.5回) (ホームディレクトリ、パソコン使用上の心得、WindowsPCの基本操作) 3. タイピング練習&日本語入力 (3回) 4. 電子メール (Active!mailの使い方、公用メールの書き方) (2回) 5. コンピュータ&インターネットの基礎 (1回) 6. Word または Excel の使い方 (7回)
----------	---

* Word、Excel のどちらかを選んで講義します。どちらをやるかは、受講生全員の希望を考慮して、開講後に決定してアナウンスします。

準備学習	ブラインドタッチは継続して練習することで身につきます。できるかぎり毎日、少しでもよいので練習を続けること。
------	---

履修上の留意点	予備知識は必要としないが、実習形式で逐次作業を行いながら進むので、講義は必ず毎回出席すること。半期の授業なので、就職活動や教育実習などで2回以上休むことが当初から予想される学生は、その時期の授業は履修申請しないこと。KOMAnet IDの取得は必須です。
---------	---

成績評価の方法	評価は授業時間中に出题する2~3回程度の課題およびタイピングテストによって行う。
---------	--

教科書/テキスト	講義の後半に、500円程度で購入できるテキストを使います。具体的なテキスト名などは、開講後に講義時間やKONECOでアナウンスしますので、アナウンス時に指定する日までに購入すること。テキストの購入は必須です (著作権保護のため、未購入者には単位認定しません)。
----------	--

参考書	必要に応じて適宜紹介します。
-----	----------------

その他	実習のために計算機室で講義を行う。コンピュータの数に限りがあるので、基本的に受講者数が制限される。
-----	---

講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。
{<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html>}

履修コード	223401
科目名	コンピュータ基礎〔コンピュータの実際〕
担当者名	谷本 玲大

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>たくさんの情報が溢れかえっている時代である。だが、その中から必要な情報のみを抽出するには技術が要る。のみならず、それら諸要素を組み合わせ、再構築し、活用する力も求められる。学生諸君が、如上の活動を実体験として血肉化することを目標とする。生活全般の中で、問題意識や企画力を養いたい。ニュースや広告、街角の風景などから時代の潮流を嗅ぎ取る視点も提示する。はじめの一歩からのパソコン技術を扱い、一気に実力養成を図る。興味・方向を多様化して行くことが「学士力」の養成には必須である。味読・味わいを得るには膨大な量のバックヤードが必要だからである。無から有は生まれないのである。しっかりと、人間力・生きる力としての実力を身につけたい。</p>
--------------------	---

■知識・理解・関心・意欲・態度

○情報と法や倫理との関わりについて「情報リテラシー」の専門的側面から「基本的な知識を体系的に理解」し、説明できる。

■思考・判断・技能・表現

○電子メールの文章として「知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能（コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）」を実践として表現できる。
○レポートの文章として、情報の収集・整理・活用を「多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」並びに「統合的な学習経験と創造的思考力」として実践できる。
○表計算ソフトを活用する作業を通して「数量的スキル、論理的思考力方法」の体得を実践表現できる。

授業スケジュール	<p>01:【ガイダンス】講義・演習内容の説明、次回実施する情報リテラシー小テストの出題問題の提示/パスワードの扱い/パスワードの作り方/USBメモリの紹介 02:【情報リテラシー小テスト】/【パソコンの初歩(1)】起動～ログオン～終了/Windowsリファレンス(ウィンドウサイズの操作)/日本語入力/URLの仕組み/Web閲覧・検索/クリップボードの利用とテキスト・画像の貼り付け/ファイルの保存と提出 03:【パソコンの初歩(2)】スクリーンショットの活用/電子メールの送受信(学内からアクセス/学外からアクセス)/電子メールのマナー(CC、BCC、引用など) 04:【パソコンの初歩(3)】日本語入力とWord実習/ショートカットキー/書式のコピー/添付ファイル付きメールの送信/ファイルの種類と名前の変更/拡張子について 05:【Word実習(1)】中央揃え/右揃え/段組み/段区切り/改ページ/ページ設定/ヘッダーとフッター/印刷プレビュー 06:【パソコンの初歩(4)】フォルダの管理/圧縮ファイルの扱い/タイピング練習/USBメモリの使用方法 07:【情報倫理】ウイルス対策/迷惑メール対策/スパイウェア対策/不正侵入対策/暗号化など。 【Word実習(2)】ワードアート/オートシェイプ/図形の調整/順序/グループ化/クリップアート/Wordでの挨拶状作成 08:【Word実習(3)】文書設定/原稿用紙設定/縦書きの設定/ルビ/行間設定/章立て/引用とインデントの設定/脚注と引用文献/割注/引用と著作権について 09:【Word実習(4)】文字種の変換/繰り返し符号、難しい漢字や発音記号の入力方法(記号と特殊文字)/表と行や列の挿入と削除/セルの大きさの設定/罫線の種類/表と行や列の挿入と削除/網掛け、印刷プレビュー 10:【Excelの基礎(1)】画面の各部分の説明/ブックとワークシート/ブックの作成と保存/文字列や数値の入力/セルの編集・コピー・切り取り・貼り付け/書式設定/書式のコピーと貼り付け/オートフィル/コメントの挿入/行の高さや幅の調整/表示と非表示/行・列・セルの挿入と削除/罫線/セルへの網掛け/ウィンドウ枠の固定/シートの挿入/削除/シート見出しの色変更 11:【Excelの基礎(3)】オートフィルタ/数式の基本/並べ替え/関数の利用/オートSUM/相対参照と絶対参照/グラフ作成/Wordへの貼り付け 12:【Excelの応用(1)】オートフィル/式の作成/関数の挿入/小数点桁位置の調節/シートの挿入とシート見出しの色変更//行列を入れ替えた貼り付け/グラフ作成 13:【Excelの応用(2)】ウィンドウ枠の固定/コメントの挿入/条件付き書式/関数の利用と式の作成 14:【Excelの応用(3)】式の自作 15:【半期のまとめ】</p>
----------	--

※進行に余裕があれば、PowerPointにも触れる。

※但し、進度により、多少の調整を行う場合がある。

※初回講義以降の予定については下記「関連リンク」にて指示する。

準備学習	各回の復習、並びに課題を自身のスキルアップを目指して着実にこなすこと。
履修上の留意点	<p>初心者～中級向け。履修当初は全くパソコンを使えなくても構わないが、実習主体であるので、継続的な出席と主体的な取り組みが必要である。課題は総合情報センターの自習室なども積極的に利用して取り組んで欲しい。学生諸君の積極的参加を希望する。 教室に備付のパソコンを使用するのでKOMAnetの「ユーザID」と「パスワード」が必要。各自、駒澤大学総合情報センターに学生証持参の上、講義開始一週間以上前に申請し、【履修前に取得完了】のこと。</p>

成績評価の方法	<p>予めシラバスを閲覧してから履修登録を行っている前提で講義を進める。 <b style="color:red">第2回講義開始時に、情報リテラシー小テストを行う。この小テストは成績中で18点分に充当し、その問題についての事前予告は、第1回講義時に行う。 受講態度・授業内作業点・出席状況等の平常点(約40%)、課題・レポート等(約60%)。総</p>
---------	---

講義時間数の3分の1以上の欠席は評価対象外。
遅刻は30分まで。その遅刻も3回で1欠席とする。
パスワード失念・紛失などにより、自分自身のパスワードでログインできない場合は欠席扱いとする。

公欠の扱いは、大学設置基準、中央教育審議会答申、文部科学省令、同施行規則並びに学則等による。但し、実習主体の科目特性上、★就職活動は公欠認定に一切含まれない★点に注意。

このことについては、文部科学省、平成23年10月7日付「平成24年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業予定者の就職・採用活動について（通知）」（23文科高第612号）や、就職問題懇談会、平成23年10月7日付「平成24年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」、並びに社団法人日本経済団体連合会、2011年3月15日改定にかかる「採用選考に関する企業の倫理憲章」及び「採用選考に関する企業の倫理憲章の理解を深めるための参考資料」など（http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/gakuseishien/1290843.htm）を参照のこと。

講義中に他学生の学習権を侵害するような行為があった場合、教員の指示に従わない場合には履修許可を取り消すことがある。

他人のパスワードでログインして受講した場合は、情報リテラシーの基礎を理解できていないものと見なし、事情の如何に関わらず、その場で成績を不可と決定する。

教科書／テキスト

Web上に教材を用意する。
その他書籍などについては随時指示する。

参考書

小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』
（講談社現代新書1603） 2002/04刊、714円、ISBN-13:978-4061496033
※「インターネット活用編」や「新版」では【ない】点に注意。

その他

※現代は、現実問題として「生きづらい時代」である。その中で生きて行けるよう、厳しく指導する。
※履修当初は全くパソコンを使えなくても構わないが、真に実力を付けたい者だけに履修登録を勧める。

関連リンク

<http://www.tanimoto.to>

履修コード	223901
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	谷本 玲大

授業概要/到達目標 (ねらい)

たくさんの方が溢れかえっている時代である。だが、その中から必要な情報のみを抽出するには技術が要る。のみならず、それら諸要素を組み合わせ、再構築し、活用する力も求められる。学生諸君が、如上の活動を体験として血肉化することを目標とする。生活全般の中で、問題意識や企画力を養いたい。ニュースや広告、街角の風景などから時代の潮流を嗅ぎ取る視点も提示する。はじめの一歩からのパソコン技術を扱い、一気に実力養成を図る。興味・方向性を多様化して行くことが「学士力」の養成には必須である。味読・味わいを得るには膨大な量のバックヤードが必要だからである。無から有は生まれないのである。しっかりと、人間力・生きる力としての実力を身につけたい。

■知識・理解・関心・意欲・態度
○情報と法や倫理との関わりについて「情報リテラシー」の専門的側面から「基本的な知識を体系的に理解」し、説明できる。

■思考・判断・技能・表現
○電子メールの文章として「知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能（コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）」を実践として表現できる。
○レポートの文章として、情報の収集・整理・活用を「多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」並びに「統合的な学習経験と創造的思考力」として実践できる。
○表計算ソフトを活用する作業を通して「数量的スキル、論理的思考力方法」の体得を実践表現できる。

- 授業スケジュール**
- 01: 【ガイダンス】 講義・演習内容の説明、次回実施する情報リテラシー小テストの出題問題の提示/パスワードの扱い/パスワードの作り方/USBメモリの紹介
 - 02: 【情報リテラシー小テスト】 / 【パソコンの初歩(1)】 起動～ログオン～終了/Windowsリファレンス (ウィンドウサイズの操作) / 日本語入力/URLの仕組み/Web閲覧・検索/クリップボードの利用とテキスト・画像の貼り付け/ファイルの保存と提出
 - 03: 【パソコンの初歩(2)】 スクリーンショットの活用/電子メールの送受信 (学内からアクセス/学外からアクセス) / 電子メールのマナー (CC、BCC、引用など)
 - 04: 【パソコンの初歩(3)】 日本語入力とWord実習/ショートカットキー/書式のコピー/添付ファイル付きメールの送信/ファイルの種類と名前の変更/拡張子について
 - 05: 【Word実習(1)】 中央揃え/右揃え/段組み/段区切り/改ページ/ページ設定/ヘッダーとフッター/印刷プレビュー
 - 06: 【パソコンの初歩(4)】 フォルダの管理/圧縮ファイルの扱い/タイピング練習/USBメモリの使用方法
 - 07: 【情報倫理】 ウイルス対策/迷惑メール対策/スパイウェア対策/不正侵入対策/暗号化など。【Word実習(2)】 ワードアート/オートシェイプ/図形の調整/順序/グループ化/クリップアート/Wordでの挨拶状作成
 - 08: 【Word実習(3)】 文書設定/原稿用紙設定/縦書きの設定/ルビ/行間設定/章立て/引用とインデントの設定/脚注と引用文献/割注/引用と著作権について
 - 09: 【Word実習(4)】 文字種の変換/繰り返し符号、難しい漢字や発音記号の入力方法 (記号と特殊文字) / 表と行や列の挿入と削除/セルの大きさの設定/罫線の種類/表と行や列の挿入と削除/網掛け、印刷プレビュー
 - 10: 【Excelの基礎(1)】 画面の各部分の説明/ブックとワークシート/ブックの作成と保存/文字列や数値の入力/セルの編集・コピー・切り取り・貼り付け/書式設定/書式のコピーと貼り付け/オートフィル/コメントの挿入/行の高さや幅の調整/表示と非表示/行・列・セルの挿入と削除/罫線/セルへの網掛け/ウィンドウ枠の固定/シートの挿入/削除/シート見出しの色変更
 - 11: 【Excelの基礎(3)】 オートフィルタ/数式の基本/並べ替え/関数の利用/オートSUM/相対参照と絶対参照/グラフ作成/Wordへの貼り付け
 - 12: 【Excelの応用(1)】 オートフィル/式の作成/関数の挿入/小数点桁位置の調節/シートの挿入とシート見出しの色変更//行列を入れ替えた貼り付け/グラフ作成
 - 13: 【Excelの応用(2)】 ウィンドウ枠の固定/コメントの挿入/条件付き書式/関数の利用と式の作成
 - 14: 【Excelの応用(3)】 式の自作
 - 15: 【半期のまとめ】

※進行に余裕があれば、PowerPointにも触れる。
※但し、進度により、多少の調整を行う場合がある。
※初回講義以降の予定については下記「関連リンク」にて指示する。

準備学習 各回の復習、並びに課題を自身のスキルアップを目指して着実にこなすこと。

履修上の留意点 初心者～中級向け。履修当初は全くパソコンを使えなくても構わないが、実習主体であるので、継続的な出席と主体的な取り組みが必要である。課題は総合情報センターの自習室なども積極的に利用して取り組んで欲しい。学生諸君の積極的参加を希望する。教室に備付のパソコンを使用するのでKOMAnetの「ユーザID」と「パスワード」が必要。各自、駒澤大学総合情報センターに学生証持参の上、講義開始一週間以上前に申請し、【履修前に取得完了】のこと。

成績評価の方法 予めシラバスを閲覧してから履修登録を行っている前提で講義を進める。
第2回講義開始時に、情報リテラシー小テストを行う。この小テストは成績中で18点分に充当し、その問題については事前予告は、第1回講義時に行う。
受講態度・授業内作業点・出席状況等の平常点 (約40%)、課題・レポート等 (約60%)。総

講義時間数の3分の1以上の欠席は評価対象外。

遅刻は30分まで。その遅刻も3回で1欠席とする。

パスワード失念・紛失などにより、自分自身のパスワードでログインできない場合は欠席扱いとする。

公欠の扱いは、大学設置基準、中央教育審議会答申、文部科学省令、同施行規則並びに学則等による。但し、実習主体の科目特性上、**★就職活動は公欠認定に一切含まれない★**点に注意。

このことについては、文部科学省、平成23年10月7日付「平成24年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業予定者の就職・採用活動について（通知）」（23文科高第612号）や、就職問題懇談会、平成23年10月7日付「平成24年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」、並びに社団法人日本経済団体連合会、2011年3月15日改定にかかる「採用選考に関する企業の倫理憲章」及び「採用選考に関する企業の倫理憲章の理解を深めるための参考資料」など（http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/gakuseishien/1290843.htm）を参照のこと。

講義中に他学生の学習権を侵害するような行為のあった場合、教員の指示に従わない場合には履修許可を取り消すことがある。

他人のパスワードでログインして受講した場合は、情報リテラシーの基礎を理解できていないものと見なし、事情の如何に関わらず、その場で成績を不可と決定する。

教科書／テキスト

Web上に教材を用意する。

その他書籍などについては随時指示する。

参考書

小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』

（講談社現代新書1603） 2002/04刊、714円、ISBN-13:978-4061496033

※「インターネット活用編」や「新版」では【ない】点に注意。

その他

※現代は、現実問題として「生きづらい時代」である。その中で生きて行けるよう、厳しく指導する。

※履修当初は全くパソコンを使えなくても構わないが、真に実力を付けたい者だけに履修登録を勧める。

関連リンク

<http://www.tanimoto.to>

履修コード	224401
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	谷本 玲大

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>たくさんの情報が溢れかえっている時代である。だが、その中から必要な情報のみ抽出するには技術が要る。のみならず、それら諸要素を組み合せ、再構築し、活用する力も求められる。学生諸君が、如上の活動を体験として血肉化することを目標とする。生活全般の中で、問題意識や企画力を養いたい。ニュースや広告、街角の風景などから時代の潮流を嗅ぎ取る視点も提示する。はじめの一歩からのパソコン技術を扱い、一気に実力養成を図る。興味の方向を多様化して行くことが「学士力」の養成には必須である。味読・味わいを得るには膨大な智のバックヤードが必要だからである。無から有は生まれないのである。しっかりと、人間力・生きる力としての実力を身につけたい。</p>
---------------------	--

■知識・理解・関心・意欲・態度
○情報と法や倫理との関わりについて「情報リテラシー」の専門的側面から「基本的な知識を体系的に理解」し、説明できる。

■思考・判断・技能・表現
○電子メールの文章として「知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能（コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）」を実践として表現できる。
○レポートの文章として、情報の収集・整理・活用を「多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」並びに「統合的な学習経験と創造的思考力」として実践できる。
○表計算ソフトを活用する作業を通して「数量的スキル、論理的思考力方法」の体得を実践表現できる。

授業スケジュール	<p>【第1日目】 01:【ガイダンス】講義・演習内容の説明、2限目で実施する情報リテラシー小テストの出題問題の提示/パスワードの扱い/パスワードの作り方/USBメモリの紹介 02:【情報リテラシー小テスト】/【パソコンの初歩(1)】起動～ログオン～終了/Windowsリファレンス（ウィンドウサイズの操作）/日本語入力/URLの仕組み/Web閲覧・検索/クリップボードの利用とテキスト・画像の貼り付け/ファイルの保存と提出 03:【パソコンの初歩(2)】スクリーンショットの活用/電子メールの送受信（学内からアクセス/学外からアクセス）/電子メールのマナー（CC、BCC、引用など）</p> <p>【第2日目】 04:【パソコンの初歩(3)】日本語入力とWord実習/ショートカットキー/書式のコピー/添付ファイル付きメールの送信/ファイルの種類と名前の変更/拡張子について 05:【Word実習(1)】中央揃え/右揃え/段組み/段区切り/改ページ/ページ設定/ヘッダーとフッター/印刷プレビュー 06:【パソコンの初歩(4)】フォルダの管理/圧縮ファイルの扱い/タイピング練習/USBメモリの使用方法</p> <p>【第3日目】 07:【情報倫理】ウイルス対策/迷惑メール対策/スパイウェア対策/不正侵入対策/暗号化など。 【Word実習(2)】ワードアート/オートシェイプ/図形の調整/順序/グループ化/クリップアート/Wordでの接ぎ状態作成 08:【Word実習(3)】文書設定/原稿用紙設定/縦書きの設定/ルビ/行間設定/章立て/引用とインデントの設定/脚注と引用文献/割注/引用と著作権について 09:【Word実習(4)】文字種の変換/繰り返し符号、難しい漢字や発音記号の入力方法（記号と特殊文字）/表と行や列の挿入と削除/セルの大きさの設定/罫線の種類/表と行や列の挿入と削除/網掛け、印刷プレビュー</p> <p>【第4日目】 10:【Excelの基礎(1)】画面の各部分の説明/ブックとワークシート/ブックの作成と保存/文字列や数値の入力/セルの編集・コピー・切り取り・貼り付け/書式設定/書式のコピーと貼り付け/オートフィル/コメントの挿入/行の高さや幅の調整/表示と非表示/行・列・セルの挿入と削除/罫線/セルへの網掛け/ウィンドウ枠の固定/シートの挿入/削除/シート見出しの色変更 11:【Excelの基礎(3)】オートフィルタ/数式の基本/並べ替え/関数の利用/オートSUM/相対参照と絶対参照/グラフ作成/Wordへの貼り付け 12:【Excelの応用(1)】オートフィル/式の作成/関数の挿入/小数点桁位置の調節/シートの挿入とシート見出しの色変更//行列を入れ替えた貼り付け/グラフ作成</p> <p>【第5日目】 13:【Excelの応用(2)】ウィンドウ枠の固定/コメントの挿入/条件付き書式/関数の利用と式の作成 14:【Excelの応用(3)】式の自作 15:【半期のまとめ】</p>
----------	--

※進行に余裕があれば、PowerPointにも触れる。
※但し、進度により、多少の調整を行う場合がある。
※初回講義以降の予定については下記「関連リンク」にて指示する。

各回の復習、並びに課題を自身のスキルアップを目指して着実にこなすこと。

初心者～中級向け。履修当初は全くパソコンを使えなくても構わないが、実習主体であるので、継続的な出席と主体的な取り組みが必要である。

集中講義であるので、1日でも欠席すると結果的に実力養成ができず、

単位認定は困難となる点に注意。

また、自身の受講クラスが1~3限のクラスなのか、4~6限のクラスなのか、各自で注意深く確認すること。割当外のクラスで受講しても出席扱いにはならない点にも留意のこと。

課題は総合情報センターの自習室なども積極的に利用して取り組んで欲しい。学生諸君の積極的参加を希望する。

教室に備付のパソコンを使用するのでKOMAnetの「ユーザID」と「パスワード」が必要。

各自、駒澤大学総合情報センターに学生証持参の上、講義開始一週間以上前に申請し、【履修前に取得完了】のこと。

成績評価の方法

予めシラバスを閲覧してから履修登録を行っている前提で講義を進める。

第2回講義開始時に、情報リテラシー小テストを行う。この小テストは成績中で18点分に充当し、その問題についてはの事前予告は、第1回講義時に行う。

受講態度・授業内作業点・出席状況等の平常点(約40%)、課題・レポート等(約60%)。総講義時間数の3分の1以上の欠席は評価対象外。

遅刻は30分まで。その遅刻も3回で1欠席とする。

パスワード失念・紛失などにより、自分自身のパスワードでログインできない場合は欠席扱いとする。

公欠の扱いは、大学設置基準、中央教育審議会答申、文部科学省令、同施行規則並びに学則等による。但し、実習主体の科目特性上、★就職活動は公欠認定は一切含まれない★点に注意。

このことについては、文部科学省、平成23年10月7日付「平成24年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業予定者の就職・採用活動について(通知)」(23文科高第612号)や、就職問題懇談会、平成23年10月7日付「平成24年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について(申合せ)」、並びに社団法人日本経済団体連合会、2011年3月15日改定にかかる「採用選考に関する企業の倫理憲章」及び「採用選考に関する企業の倫理憲章の理解を深めるための参考資料」など(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/gakuseishien/1290843.htm)を参照のこと。

講義中に他学生の学習権を侵害するような行為のあった場合、教員の指示に従わない場合には履修許可を取り消すことがある。

他人のパスワードでログインして受講した場合は、情報リテラシーの基礎を理解できていないものと見なし、事情の如何に関わらず、その場で成績を不可と決定する。

教科書/テキスト

Web上に教材を用意する。

その他書籍などについては随時指示する。

参考書

小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』

(講談社現代新書1603) 2002/04刊、714円、ISBN-13:978-4061496033

※「インターネット活用編」や「新版」では【ない】点に注意。

その他

※現代は、現実問題として「生きづらい時代」である。その中で生きて行けるよう、厳しく指導する。

※履修当初は全くパソコンを使えなくても構わないが、真に実力を付けたい者だけに履修登録を勧める。

授業日程：7月31日(火)~8月3日(金)、8月6日(月) 4~6時限

予備日：8月7日(火) 4~6時限

関連リンク

<http://www.tanimoto.to>

履修コード	224601
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	谷本 玲大

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>たくさんの方が溢れかえっている時代である。だが、その中から必要な情報のみを抽出するには技術が要る。のみならず、それら諸要素を組み合わせ、再構築し、活用する力も求められる。学生諸君が、如上の活動を実体験として血肉化することを目標とする。生活全般の中で、問題意識や企画力を養いたい。ニュースや広告、街角の風景などから時代の潮流を嗅ぎ取る視点も提示する。はじめの一歩からのパソコン技術を扱い、一気に実力養成を図る。興味・方向性を多様化して行くことが「学士力」の養成には必須である。味読・味わいを得るには膨大な量のバックヤードが必要だからである。無から有は生まれないのである。しっかりと、人間力・生きる力としての実力を身につけたい。</p>
---------------------	---

- 知識・理解・関心・意欲・態度
○情報と法や倫理との関わりについて「情報リテラシー」の専門的側面から「基本的な知識を体系的に理解」し、説明できる。
- 思考・判断・技能・表現
○電子メールの文章として「知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能（コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力）」を実践として表現できる。
○レポートの文章として、情報の収集・整理・活用を「多文化の異文化に関する知識の理解、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解」並びに「統合的な学習経験と創造的思考力」として実践できる。
○表計算ソフトを活用する作業を通して「数量的スキル、論理的思考力方法」の体得を実践表現できる。

授業スケジュール	<p>【第1日目】 01:【ガイダンス】講義・演習内容の説明、2限目で実施する情報リテラシー小テストの出題問題の提示/パスワードの扱い/パスワードの作り方/USBメモリの紹介 02:【情報リテラシー小テスト】/【パソコンの初歩(1)】起動～ログオン～終了/Windowsリファレンス(ウィンドウサイズの操作)/日本語入力/URLの仕組み/Web閲覧・検索/クリップボードの利用とテキスト・画像の貼り付け/ファイルの保存と提出 03:【パソコンの初歩(2)】スクリーンショットの活用/電子メールの送受信(学内からアクセス/学外からアクセス)/電子メールのマナー(CC、BCC、引用など)</p> <p>【第2日目】 04:【パソコンの初歩(3)】日本語入力とWord実習/ショートカットキー/書式のコピー/添付ファイル付きメールの送信/ファイルの種類と名前の変更/拡張子について 05:【Word実習(1)】中央揃え/右揃え/段組み/段区切り/改ページ/ページ設定/ヘッダーとフッター/印刷プレビュー 06:【パソコンの初歩(4)】フォルダの管理/圧縮ファイルの扱い/タイピング練習/USBメモリの使用方法</p> <p>【第3日目】 07:【情報倫理】ウイルス対策/迷惑メール対策/スパイウェア対策/不正侵入対策/暗号化など。 【Word実習(2)】ワードアート/オートシェイプ/図形の調整/順序/グループ化/クリップアート/Wordでの挨拶状作成 08:【Word実習(3)】文書設定/原稿用紙設定/縦書きの設定/ルビ/行間設定/章立て/引用とインデントの設定/脚注と引用文献/割注/引用と著作権について 09:【Word実習(4)】文字種の変換/繰り返し符号、難しい漢字や発音記号の入力方法(記号と特殊文字)/表と行や列の挿入と削除/セルの大きさの設定/罫線の種類/表と行や列の挿入と削除/網掛け、印刷プレビュー</p> <p>【第4日目】 10:【Excelの基礎(1)】画面の各部分の説明/ブックとワークシート/ブックの作成と保存/文字列や数値の入力/セルの編集・コピー・切り取り・貼り付け/書式設定/書式のコピーと貼り付け/オートフィル/コメントの挿入/行の高さや幅の調整/表示と非表示/行・列・セルの挿入と削除/罫線/セルへの網掛け/ウィンドウ枠の固定/シートの挿入/削除/シート見出しの色変更 11:【Excelの基礎(3)】オートフィルタ/数式の基本/並べ替え/関数の利用/オートSUM/相対参照と絶対参照/グラフ作成/Wordへの貼り付け 12:【Excelの応用(1)】オートフィル/式の作成/関数の挿入/小数点桁位置の調節/シートの挿入とシート見出しの色変更//行列を入れ替えた貼り付け/グラフ作成</p> <p>【第5日目】 13:【Excelの応用(2)】ウィンドウ枠の固定/コメントの挿入/条件付き書式/関数の利用と式の作成 14:【Excelの応用(3)】式の自作 15:【半期のまとめ】</p>
----------	---

※進行に余裕があれば、PowerPointにも触れる。
※但し、進度により、多少の調整を行う場合がある。
※初回講義以降の予定については下記「関連リンク」にて指示する。

準備学習	各回の復習、並びに課題を自身のスキルアップを目指して着実にこなすこと。
履修上の留意点	<p>初心者～中級向け。履修当初は全くパソコンを使えなくても構わないが、実習主体であるので、継続的な出席と主体的な取り組みが必要である。 <b color="red">集中講義であるので、1日でも欠席すると結果的に実力養成ができず、</p>

単位認定は困難となる点に注意。

また、自身の受講クラスが1~3限のクラスなのか、4~6限のクラスなのか、各自で注意深く確認すること。割当外のクラスで受講しても出席扱いにはならない点にも留意のこと。

課題は総合情報センターの自習室なども積極的に利用して取り組んで欲しい。学生諸君の積極的参加を希望する。

教室に備付のパソコンを使用するのでKOMAnetの「ユーザID」と「パスワード」が必要。

各自、駒澤大学総合情報センターに学生証持参の上、講義開始一週間以上前に申請し、【履修前に取得完了】のこと。

成績評価の方法

予めシラバスを閲覧してから履修登録を行っている前提で講義を進める。

第2回講義開始時に、情報リテラシー小テストを行う。この小テストは成績中で18点分に充当し、その問題についての事前予告は、第1回講義時に行う。

受講態度・授業内作業点・出席状況等の平常点（約40%）、課題・レポート等（約60%）。総講義時間数の3分の1以上の欠席は評価対象外。

遅刻は30分まで。その遅刻も3回で1欠席とする。

パスワード失念・紛失などにより、自分自身のパスワードでログインできない場合は欠席扱いとする。

公欠の扱いは、大学設置基準、中央教育審議会答申、文部科学省令、同施行規則並びに学則等による。但し、実習主体の科目特性上、★就職活動は公欠認定に一切含まれない★点に注意。

このことについては、文部科学省、平成23年10月7日付「平成24年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業予定者の就職・採用活動について（通知）」（23文科高第612号）や、就職問題懇談会、平成23年10月7日付「平成24年度大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者に係る就職について（申合せ）」、並びに社団法人日本経済団体連合会、2011年3月15日改定にかかる「採用選考に関する企業の倫理憲章」及び「採用選考に関する企業の倫理憲章の理解を深めるための参考資料」など（http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/gakuseishien/1290843.htm）を参照のこと。

講義中に他学生の学習権を侵害するような行為のあった場合、教員の指示に従わない場合には履修許可を取り消すことがある。

他人のパスワードでログインして受講した場合は、情報リテラシーの基礎を理解できていないものと見なし、事情の如何に関わらず、その場で成績を不可と決定する。

教科書／テキスト

Web上に教材を用意する。

その他書籍などについては随時指示する。

参考書

小笠原喜康著『大学生のためのレポート・論文術』

（講談社現代新書1603）2002/04刊、714円、ISBN-13:978-4061496033

※「インターネット活用編」や「新版」では【ない】点に注意。

その他

※現代は、現実問題として「生きづらい時代」である。その中で生きて行けるよう、厳しく指導する。

※履修当初は全くパソコンを使えなくても構わないが、真に実力を付けたい者だけに履修登録を勧める。

授業日程：7月31日（火）～8月3日（金）、8月6日（月） 1~3時限

予備日：8月7日（火） 1~3時限

関連リンク

<http://www.tanimoto.to>

履修コード	224701
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	長坂 浩史
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	Webページ作成 (HTML/XHTML、CSS入門) と、表計算ソフトを用いた基本的な統計処理 (統計量についての入門) の2つを中心に学ぶ。
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ● 基本的なファイル操作 (課題の提出方法も含む) の説明 … (第1回) ● 最終提出課題 (Webページ) の説明 … (第1回) ● Excelの基本操作 … (第2, 3回) ● Excelを用いた簡単な統計処理 (1, 2次元データのさまざまな特性値の計算、相関・回帰分析、グラフ作成、曲面片の描画) … (第4, 5, 6回) ● HTML/XHTML、CSS入門 … (第7, 8, 9回) ● 自由課題 (Webページ) 作成 … (第10~15回)
準備学習	初心者を対象にした講義なのでとくに準備学習を要求しませんが、Windowsの基本操作 (ファイルの基本操作) やキーボード入力にはある程度慣れていることが望ましい。
履修上の留意点	初心者を対象にしていますが、Windowsの基本操作 (ファイルの基本操作) や、テキストファイルの扱いなどについては軽く触れる程度です。新規ファイルの作成、ファイルの更新・移動といったごく基本的な操作には慣れておいてください。 また実習形式の授業なので、教場のパソコンにログインできるようにユーザーID、パスワードの取得は済ませておいてください。
成績評価の方法	提出課題 (自由テーマによるWebページ&指定された様式のファイル・・・実習報告ファイル) を見て評価します。 ただし、欠席が1日でもあると 課題を全部こなすのは困難になるといいますので、特別な事情がない限り5日間の全時限に出席すること。
教科書/テキスト	指定しません。教場で課題ごとに簡単な説明ファイルを配布します。
参考書	同上
その他	授業日程: 7/31(火)~8/3(金)、8/6(月) の 1~3時限 予備日: 8/7(火) 1~3時限

履修コード	223501
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	山本 博信

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代では、日常の学習や仕事の中でPCやネットワークを活用することは必須になりました。この科目では演習を行いながら情報リテラシー技術を学びます。その具体的方法は、高度なスキル(訓練によって身につけることができる、技術上の能力)やコンセプト(全体を貫く「基本的な概念」のこと)・ケーパビリティ(能力、才能、可能性、将来性)を交差させながら情報を科学的に活用してゆきます。PCやネットワークの基本操作、電子メール、ウェブ閲覧、文書作成、表計算、文献検索、プレゼンテーション資料作成、Webページ作成、データベースの活用などの基本項目を、習熟度合いに応じて学びます。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>パソコンの活用・文書の編集・表計算ソフトの活用・ネットワークの活用・画像情報の処理と編集・Webページ作成を実習を通して実施します。 アプリケーションソフトウェア (OFFICE2007) を使用した課題制作を通して、基本的な情報の処理能力を養う。</p> <p>第1回 端末の利用方法と履修登録 第2回 ネットワークの歴史と仕組み 第3回 ネットワークの利用と電子メール 第4回 ネットワーク倫理と著作権 第5回 情報検索入門(1) 特許情報の検索 第6回 情報検索入門(2) 図書や雑誌の検索 第7回 情報検索入門(3) データベースの利用と学術論文の検索 第8回 課題1: ワードプロセッサソフトウェア (MS-WORD2007) を用いた実習 第9回 課題1: ワードプロセッサソフトウェア (MS-WORD2007) を用いた実習 第10回 課題1: ワードプロセッサソフトウェア (MS-WORD2007) を用いた実習 第11回 課題2: 表計算ソフトウェア (MS-EXCEL2007) を用いた実習 第12回 課題2: 表計算ソフトウェア (MS-EXCEL2007) を用いた実習 第13回 課題2: DATABASE SOFTWARE (ACCESS2007) を用いた実習 第14回 課題2: DATABASE SOFTWARE (ACCESS2007) を用いた実習 第15回 講評・授業評価 ※なお、実際の授業進行は適宜調整を行う。</p>
----------	---

準備学習	タッチタイピングの練習を行っておいください。
履修上の留意点	本講座は講義を中心に授業運営します。しかし、事前課題・事後課題など授業中に行う演習も含まれます。講義は必ず毎回出席し、基本課題を必ず解いているものとします。

成績評価の方法	<p>以下の比率で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題 40% ・授業最終日に実施する確認試験 30% ・出席状況 30%
---------	---

教科書/テキスト	授業の中で適宜紹介します。
----------	---------------

参考書	<p>『XP 対応 新基礎コンピュータ演習』山本誠次郎・井内善臣 (実教出版) 151P、¥1890 (ISBN4407301147) 『ITリテラシーへの招待』大田幸雄 (パーソナルユーザ利用出版社) 237P、¥1680 (ISBN4894717220)</p>
-----	---

その他	パソコン教場で講義を行うので、パソコン台数には制限があります。よって、受講生数を何らかの方法で制限することもあります。本学総合情報センターのコンピュータの利用申請と電子メールアカウントの取得が必須です。いつどうやって登録するか1回目の授業で補足説明します。授業の中で質疑応答のサイトを活用します。必要に応じてプリントを配布します。YeStudyを活用します。
-----	---

履修コード	224001
科目名	コンピュータ基礎 [コンピュータの実際]
担当者名	山本 博信

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代では、日常の学習や仕事の中でPCやネットワークを活用することは必須になりました。この科目では演習を行いながら情報リテラシー技術を学びます。その具体的方法は、高度なスキル(訓練によって身につけることができる、技術上の能力)やコンセプト(全体を貫く「基本的な概念」のこと)・ケーパビリティ(能力、才能、可能性、将来性)を交差させながら情報を科学的に活用してゆきます。PCやネットワークの基本操作、電子メール、ウェブ閲覧、文書作成、表計算、文献検索、プレゼンテーション資料作成、Webページ作成、データベースの活用などの基本項目を、習熟度合いに応じて学びます。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>パソコンの活用・文書の編集・表計算ソフトの活用・ネットワークの活用・画像情報の処理と編集・Webページ作成を実習を通して行います。 アプリケーションソフトウェア (OFFICE2007) を使用した課題制作を通して、基本的な情報の処理能力を養う。</p> <p>第1回 端末の利用方法と履修登録 第2回 ネットワークの歴史と仕組み 第3回 ネットワークの利用と電子メール 第4回 ネットワーク倫理と著作権 第5回 情報検索入門(1) 特許情報の検索 第6回 情報検索入門(2) 図書や雑誌の検索 第7回 情報検索入門(3) データベース (ACCESS 2007) の利用と学術論文の検索 第8回 課題1: ワードプロセッサソフトウェア (MS-WORD2007) を用いた実習 第9回 課題1: ワードプロセッサソフトウェア (MS-WORD2007) を用いた実習 第10回 課題1: ワードプロセッサソフトウェアを用いた実習 第11回 課題2: 表計算ソフトウェア (MS-EXCEL2007) を用いた実習 第12回 課題2: 表計算ソフトウェアを用いた実習 第13回 課題2: DATABASE SOFTWARE (ACCESS2007) を用いた実習 第14回 課題2: DATABASE SOFTWARE (ACCESS2007) を用いた実習 第15回 講評・授業評価 ※なお、実際の授業進行は適宜調整を行う。</p>
----------	--

準備学習	タッチタイピングの練習を行っておください。
------	-----------------------

履修上の留意点	本講座は講義を中心に授業運営します。しかし、事前課題・事後課題など授業中に行う演習も含みます。講義は必ず毎回出席し、基本課題を必ず解いているものとします。
---------	---

成績評価の方法	<p>以下の比率で総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題 40% ・授業最終日に実施する確認試験 30% ・出席状況 30%
---------	---

教科書/テキスト	授業の中で適宜紹介します。
----------	---------------

参考書	『ITリテラシーへの招待』大田幸雄 (パーソナルユーザ利用出版社) 237P、¥1680 (ISBN4894717220)
-----	---

その他	パソコン教場で講義を行うので、パソコン台数には制限があります。よって、受講生数を何らかの方法で制限することもあります。本学総合情報センターのコンピュータの利用申請と電子メールアドレスの取得が必須です。いつでもやって登録するか1回目の授業で補足説明します。授業の中で質疑応答のサイトを活用します。必要に応じてプリントを配布します。YeStudyを活用します。
-----	--

履修コード	221501
科目名	自然環境論 [地球・太陽系環境]
担当者名	坂野井 和代

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間が普段活動している地球環境 (陸地、大気、海洋) の基礎的な構造やしくみを学ぶと共に、現在話題になっている自然災害 (地震・津波) や地球温暖化等の環境問題について知る。また、近年人類が活動するようになった地球近傍の宇宙環境 (地球磁気圏、太陽系の惑星など) についても触れ、地球環境システムを総合的に理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	主に地球温暖化についての諸問題と地球・太陽系環境の基礎について触れる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (1回) 2. 地球温暖化について 基礎編 (5回) 3. 地球環境システムの構造と原理 (個体地球、大気・海洋、地球磁気圏) (9回) 4. 前期の確認・復習 (1回) 5. 地球と太陽系惑星との比較 (太陽、太陽系) (4回) 6. 地球大気の観測・オーロラについて (2回) 7. 地球温暖化について 応用編 (5回) 8. トピックス (自然災害などについて 3回)
----------	--

準備学習	日頃から自然災害や地球温暖化などの環境問題について新聞・雑誌などで情報を収集するように努めることを推奨します。講義後は、適宜講義ノートを見直すこと。
------	--

履修上の留意点	なるべく1つ、1つ説明しますが、中学の基礎的な数学・理科を理解する程度の知識や能力は必要です。講義の進度や話題は、受講人数やその時期の状況に応じて適宜調節します。人数によっては発表形式の講義も検討します。発表形式の場合、詳細は講義で説明します。レポートやテストの内容は決して簡単ではありませんので、興味およびやる気のある学生を求めます。
---------	--

成績評価の方法	出席確認を兼ねた小テスト (不定期実施)、授業時間中に出席するレポート (口頭発表の場合も有り)、および授業時間内に行う内容確認テストによって行う。
---------	--

教科書/テキスト	使用しない。適宜資料を配付する。
----------	------------------

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住明正、「さらに進む地球温暖化」、ウェッジ、¥1470、ISBN 978-4863100015 ・ 江守正多、「地球温暖化の予測は正しいか?」、化学同人、¥1700、ISBN 978-4759813203 ・ 赤祖父俊一、「正しく知る地球温暖化-誤った地球温暖化論に惑わされないために」、誠文堂新光社、¥1470、ISBN 978-4416208182 ・ 丸山茂徳、「地球温暖化論に騙されるな!」、講談社、¥1470、ISBN 978-4062147217
-----	--

その他	特に地球温暖化について考える講義をしています。 講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。 { http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html }
-----	---

履修コード	221801
科目名	自然環境論 [生物の集団と環境]
担当者名	坂巻 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による擾乱などについて取り上げる。これらの知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを自ら考えられるようにしたい。
---------------------	---

授業スケジュール	前期 (1) ガイダンス (2) 地球 (3) 気圏と水圏 (4) 環境とは何か (5) 生物とは何か (6) 生物界のなりたち (7) 地球生物の歴史と環境① (8) 地球生物の歴史と環境② (9) 地球生物の歴史と環境③ (10) 生物の進化 (11) 進化説 (12) 環境への適応① (13) 環境への適応② (14) 生物の分布 (15) 前期のまとめと試験 後期 (16) 食物連鎖 (17) エネルギー流 (18) 生態ピラミッド (19) 個体群 (20) 出生と死亡 (21) 競争と住み分け (22) 捕食 (23) 共生と寄生 (24) 土壌と分解者 (25) 物質循環 (26) 里山の生態系 (27) 人口問題と環境問題① (28) 環境問題② (29) 環境問題③ (30) まとめと試験
----------	---

準備学習	生物や環境に関する本や新聞記事など科学一般の知識に興味を持っていて欲しい。生物学的な分野が中心になるが高校などでの生物の知識は特に無くても困らないように説明する。
------	---

履修上の留意点	スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。
---------	---

成績評価の方法	筆記試験 (前、後期の最終回を予定) を中心に出席点と合わせて行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。ただし、出席については登録人数がおおむね200人を超えた場合、時間的制約や信頼度の関係で取らないものとする。この場合は出席点がなくなるので最初の講義時にその変更を告知する。
---------	--

教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
----------	------------------

参考書	指定しない。関連する本などを広く読んで欲しい。
-----	-------------------------

その他	講義形式の授業とする。
-----	-------------

履修コード	221901
科目名	自然環境論〔生物の集団と環境〕
担当者名	坂巻 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による攪乱などについて取り上げる。これらの知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを自ら考えられるようにしたい。
---------------------	---

授業スケジュール	前期 (1) ガイダンス (2) 地球 (3) 気圏と水圏 (4) 環境とは何か (5) 生物とは何か (6) 生物界のなりたち (7) 地球生物の歴史と環境① (8) 地球生物の歴史と環境② (9) 地球生物の歴史と環境③ (10) 生物の進化 (11) 進化説 (12) 環境への適応① (13) 環境への適応② (14) 生物の分布 (15) 前期のまとめと試験 後期 (16) 食物連鎖 (17) エネルギー流 (18) 生態ピラミッド (19) 個体群 (20) 出生と死亡 (21) 競争と住み分け (22) 捕食 (23) 共生と寄生 (24) 土壌と分解者 (25) 物質循環 (26) 里山の生態系 (27) 人口問題と環境問題① (28) 環境問題② (29) 環境問題③ (30) まとめと試験
----------	---

準備学習	生物や環境に関する本や新聞記事など科学一般の知識に興味を持って欲しい。生物学的な分野が中心になるが高校などでの生物の知識は特に無くても困らないように説明する。
------	---

履修上の留意点	スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。
---------	---

成績評価の方法	筆記試験(前、後期の最終回を予定)を中心に出席点と合わせて行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。ただし、出席については登録人数がおおむね200人を超えた場合、時間的制約や信頼度の関係で取らないものとする。この場合は出席点なくなるので最初の講義時にその変更を告知する。
---------	---

教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
----------	------------------

参考書	指定しない。関連する本などを広く読んで欲しい。
-----	-------------------------

その他	講義形式の授業とする。
-----	-------------

履修コード	222001
科目名	自然環境論〔生物の集団と環境〕
担当者名	坂巻 義章

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による攪乱などについて取り上げる。これらの知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを自ら考えられるようにしたい。
---------------------	---

授業スケジュール	前期 (1) ガイダンス (2) 地球 (3) 気圏と水圏 (4) 環境とは何か (5) 生物とは何か (6) 生物界のなりたち (7) 地球生物の歴史と環境① (8) 地球生物の歴史と環境② (9) 地球生物の歴史と環境③ (10) 生物の進化 (11) 進化説 (12) 環境への適応① (13) 環境への適応② (14) 生物の分布 (15) 前期のまとめと試験 後期 (16) 食物連鎖 (17) エネルギー流 (18) 生態ピラミッド (19) 個体群 (20) 出生と死亡 (21) 競争と住み分け (22) 捕食 (23) 共生と寄生 (24) 土壌と分解者 (25) 物質循環 (26) 里山の生態系 (27) 人口問題と環境問題① (28) 環境問題② (29) 環境問題③ (30) まとめと試験
----------	---

準備学習	生物や環境に関する本や新聞記事など科学一般の知識に興味を持って欲しい。生物学的な分野が中心になるが高校などでの生物の知識は特に無くても困らないように説明する。
------	---

履修上の留意点	スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。
---------	---

成績評価の方法	筆記試験(前、後期の最終回を予定)を中心に出席点と合わせて行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。ただし、出席については登録人数がおおむね200人を超えた場合、時間的制約や信頼度の関係で取らないものとする。この場合は出席点なくなるので最初の講義時にその変更を告知する。
---------	---

教科書/テキスト	使用しない。プリントを配布する。
----------	------------------

参考書	指定しない。関連する本などを広く読んで欲しい。
-----	-------------------------

その他	講義形式の授業とする。
-----	-------------

履修コード	346301
科目名	自然環境論 [宇宙から見た地球環境]
担当者名	篠原 正雄
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代の天文学と惑星科学の成果の上に立ち、宇宙を視点に地球の自然環境について講義する。 (到達目標) 個別の環境問題の背後にある地球システムについて理解し、より深いところから地球環境を考えられるようになる。
授業スケジュール	宇宙と地球環境: (1)自然の階層構造 (2)宇宙の起源 (3)太陽系の環境としての銀河系 (4)太陽系の起源 (5)太陽 (6)地球・月系 (7)地球システム (8)大気・海の起源と進化 (9)太陽の進化と大地の進化 (10)地球の放射線環境 (11)生命の起源と進化 (12)生物大絶滅 (13)宇宙と大絶滅 (14)地球システムと大絶滅 (15)人間活動と大絶滅 地球環境問題: (16)オゾン層破壊 (17)惑星の表面温度 (18)地球温暖化 (19)炭素の固定 (20)省エネルギー (21)リサイクル (22)温暖化対策と原子力 (23)原子と放射線 (24)放射性物質による汚染 (25)再生可能エネルギー (26)太陽エネルギー (27)温暖化異論 (28)酸性雨と化学物質による汚染 (29)砂漠化と森林破壊 (30)地球外文明探査
準備学習	地球環境の問題はさまざまな分野とかがわっているため、科学や環境関連の新聞記事等には積極的に目を通すこと。
履修上の留意点	YeStudyに登録すること。 授業の中およびYeStudyで随時課題を出す。見落とさないように注意すること。
成績評価の方法	中間試験(筆記試験かレポートか未定。講義の中で知らせる。)および学年末に行う筆記試験の平均点により評価する。S、Aについては教務部のガイドラインを考慮するので、この平均点と成績とは一致しない。平常点は20点までの範囲で考慮する。
教科書/テキスト	木下紀正・八田明夫著『地球と環境の科学』(東京教学社)2,300円+税
参考書	小宮山宏「地球持続の技術」岩波新書 660円+税 その他講義の中で適宜紹介する。
その他	「宇宙」に関する映像を使うことがある。教科書外の事項については適宜プリント等を配布する。YeStudyを活用する。

履修コード	221701
科目名	自然環境論〔生命と環境〕
担当者名	中村 敏枝

授業概要/ 到達目標(ねらい)	私たちは今後ますます環境に配慮した行動をとることを要求されるだろう。そのためには、生態系におけるヒトの位置と、生物としての限界を正しく認識して、生活活動、経済活動、経済利益と効率などを長期的な視野で考えることが肝要である。これを本講義のねらいとする。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 植物群系の分布(1) 植物の生活史 3. 植物群系の分布(2) 森-草原-砂漠 4. 植物群落の更新 5. 植物群落の遷移 6. 野生生物の管理と保全 7. イエローストーン公園に見る自然の保全(1) 8. イエローストーン公園に見る自然の保全(2) 9. イエローストーン公園に見る自然の保全(3) 10. 生態系(1) 生態系とは 11. 生態系(2) めぐる生命の輪 12. 環境の改変 湖と養殖魚 13. 干潟の消失 14. ダム-河川の分断 15. まとめ
----------	--

	<p>(後期)人間の活動と地球環境-食をめぐる問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. はじめに 「生きる」ために「食べる」 17. 消化・吸収・排泄 18. I 農業 農業は自然破壊である 19. 土が作物を育てる 20. 化学肥料と農業 21. 近代農業と伝統的農業 22. 水が作物を育てる 23. WATER CRISIS 24. 遺伝子組み換え-現代の品種改良 25. 放射性物質汚染と農業 26. II 畜産業 肉食とは何か 27. BSE病原体と感染経路 28. BSE問題が問うこと 29. III 漁業 乱獲と枯渇 30. まとめ 自然とともに生きる-自然に生かされている
--	---

準備学習	義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。
履修上の留意点	意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。
成績評価の方法	学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内的小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。
教科書/テキスト	使用しません。
参考書	赤堀他著『生物学-地球に生きるいのちを考える』(宣協社)2,700円 その他については授業時間内に随時紹介します。
その他	授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

履修コード	221301
科目名	自然環境論 [生命と環境]
担当者名	持丸 真里

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
生物を中心とした自然環境の仕組みを理解した上で、現代の人間活動が生態系へもたらしている諸問題について考える。
(到達目標)
講義では、基礎知識として、生物の基本構造と多様性、物質及びエネルギー代謝、生態系の成り立ちなどについて解説した上で、生化学・生態学的な視点を要求される現代の諸問題について各論的に取り上げていく。また、これらの事例を通して、生態系の保全や持続可能な人間社会のためにどのような姿勢が要求されるか考察する。環境問題に関する報道記事を正しく読みこなす基礎知識をつけ、持続的社会的あり方を考えられるようにする。

授業スケジュール

1. 生化学・生態学の導入
2. 生態系の成り立ち
3. 生物とは何か
4. 生命の誕生
5. 化学進化
6. 生物の進化と地球環境
7. 地球温暖化のメカニズム
8. 地球表層の炭素循環
9. 温暖化問題の現状
10. 物質代謝
11. 生態系内の物質循環
12. 生産者の働き
13. 生態系のピラミッド構造
14. 生態系の遷移
15. 前期内容の理解度確認と最近の話題から
16. 森林破壊の現状
17. 森林破壊の原因
18. 森林破壊の防止策
19. 生態系の浄化作用
20. 大気・水の浄化
21. 土壌の形成と浄化
22. 化学物質による生態系汚染の歴史
23. POPs (残留性有機汚染物質)
24. ダイオキシン問題
25. 日本人のダイオキシン汚染の現状
26. 環境ホルモンとは何か
27. 環境ホルモンの問題点
28. オゾン層破壊のメカニズム
29. オゾン層破壊への対策
30. 後期内容の理解度確認と最近の話題から

準備学習

毎回の講義の後に、YeStudyで講義内容のキーワードを掲載する。キーワードの意味を復習・理解して次の講義に参加すること。

履修上の留意点

上記のようなスケジュールを基本とするが、学生の理解度に合わせて進度を調整したり、途中でニューストピックスを取り上げるなど、柔軟に進めてゆく。

成績評価の方法

筆記試験(年二回)の成績80%、平常点20%とする。

教科書/テキスト

なし

参考書

講義内で随時紹介する。

その他

YeStudyを補助的に利用するので、コース登録を行うこと。

履修コード	221401
科目名	自然環境論 [生命と環境]
担当者名	持丸 真里

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 生物を中心とした自然環境の仕組みを理解した上で、現代の人間活動が生態系へもたらしている諸問題について考える。</p> <p>(到達目標) 講義では、基礎知識として、生物の基本構造と多様性、物質及びエネルギー代謝、生態系の成り立ちなどについて解説した上で、生化学・生態学的な視点を要求される現代の諸問題について各論的に取り上げていく。また、これらの事例を通して、生態系の保全や持続可能な人間社会のためにどのような姿勢が要求されるか考察する。環境問題に関する報道記事を正しく読みこなし基礎知識をつけ、持続的社会的あり方を考えられるようにする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学・生態学の導入 2. 生態系の成り立ち 3. 生物とは何か 4. 生命の誕生 5. 化学進化 6. 生物の進化と地球環境 7. 地球温暖化のメカニズム 8. 地球表層の炭素循環 9. 温暖化問題の現状 10. 物質代謝 11. 生態系内の物質循環 12. 生産者の働き 13. 生態系のピラミッド構造 14. 生態系の遷移 15. 前期内容の理解度確認と最近の話題から 16. 森林破壊の現状 17. 森林破壊の原因 18. 森林破壊の防止策 19. 生態系の浄化作用 20. 大気・水の浄化 21. 土壌の形成と浄化 22. 化学物質による生態系汚染の歴史 23. POPs (残留性有機汚染物質) 24. ダイオキシン問題 25. 日本人のダイオキシン汚染の現状 26. 環境ホルモンとは何か 27. 環境ホルモンの問題点 28. オゾン層破壊のメカニズム 29. オゾン層破壊への対策 30. 後期内容の理解度確認と最近の話題から
----------	---

準備学習	毎回の講義の後に、YeStudyで講義内容のキーワードを掲載する。キーワードの意味を復習・理解して次の講義に参加すること。
履修上の留意点	上記のようなスケジュールを基本とするが、学生の理解度に合わせて進度を調整したり、途中でニューストピックスを取り上げるなど、柔軟に進めてゆく。
成績評価の方法	筆記試験 (年二回) の成績80%、平常点20%とする。
教科書/テキスト	なし
参考書	講義内で随時紹介する。
その他	YeStudyを補助的に利用するので、コース登録を行うこと。

履修コード	221601
科目名	自然環境論〔生命と環境〕
担当者名	持丸 真里

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 生物を中心とした自然環境の仕組みを理解した上で、現代の人間活動が生態系へもたらしている諸問題について考える。</p> <p>(到達目標) 講義では、基礎知識として、生物の基本構造と多様性、物質及びエネルギー代謝、生態系の成り立ちなどについて解説した上で、生化学・生態学的な視点を要求される現代の諸問題について各論的に取り上げていく。また、これらの事例を通して、生態系の保全や持続可能な人間社会のためにどのような姿勢が要求されるか考察する。環境問題に関する報道記事を正しく読みこなす基礎知識をつけ、持続的社会のあり方を考えられるようにする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生化学・生態学の導入 2. 生態系の成り立ち 3. 生物とは何か 4. 生命の誕生 5. 化学進化 6. 生物の進化と地球環境 7. 地球温暖化のメカニズム 8. 地球表層の炭素循環 9. 温暖化問題の現状 10. 物質代謝 11. 生態系内の物質循環 12. 生産者の働き 13. 生態系のピラミッド構造 14. 生態系の遷移 15. 前期内容の理解度確認と最近の話題から 16. 森林破壊の現状 17. 森林破壊の原因 18. 森林破壊の防止策 19. 生態系の浄化作用 20. 大気・水の浄化 21. 土壌の形成と浄化 22. 化学物質による生態系汚染の歴史 23. POPs (残留性有機汚染物質) 24. ダイオキシン問題 25. 日本人のダイオキシン汚染の現状 26. 環境ホルモンとは何か 27. 環境ホルモンの問題点 28. オゾン層破壊のメカニズム 29. オゾン層破壊への対策 30. 後期内容の理解度確認と最近の話題から
----------	---

準備学習	毎回の講義の後に、YeStudyで講義内容のキーワードを掲載する。キーワードの意味を復習・理解して次の講義に参加すること。
履修上の留意点	上記のようなスケジュールを基本とするが、学生の理解度に合わせて進度を調整したり、途中でニューストピックスを取り上げるなど、柔軟に進めてゆく。
成績評価の方法	筆記試験（年二回）の成績80%、平常点20%とする。
教科書／テキスト	なし
参考書	講義内で随時紹介する。
その他	YeStudyを補助的に利用するので、コース登録を行うこと。

履修コード	221101
科目名	自然環境論 [生命と環境]
担当者名	山縣 毅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>18世紀後半から始まった産業革命以降、産業文明の発展により、地球規模の環境変化が自然の復元能力を超えて急激に進んでいます。その変化は、人類の生存自体にも深刻な影響を及ぼすようになってきました。本授業では、地球科学的立場から、地球環境の諸問題を解説し、人間活動が地球環境に与える影響、自然と人間の関わりについて学びます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業の到達目的は、一般市民として必要な“自然環境のシステム”、“環境問題”、“自然災害”についての知識を習得することです。20世紀末から顕在化した地球規模の環境問題は、原因・原因源・発生メカニズムが複雑あるいは広範で、しかも一般市民の活動が大きく影響しているのが特徴です。そのため、その解決には、私たち自身の環境問題に対する意識の高さが必要であり、それには環境問題を深く理解することが重要です。また一方、地震・火山などの自然災害が多い日本では、自然災害に対する各個人の知識が、災害の被害の軽減に大きく影響します。本授業では、以上の様な高い意識・知識を培っていきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球表層の環境 2. 大気構造とオゾン層 3. 地球の平均気温 4. 地球の平均気温を決めるメカニズム 5. 大気の仕組み 6. 大気による熱循環 7. 海洋水による熱循環 8. 生物生存条件としての地球磁場 9. 公害問題の変遷 10. 水俣病 <ol style="list-style-type: none"> 11. 水俣病被害拡大の構図 12. 大気汚染物質 13. 酸性雨 14. 光化学スモッグ 15. 関東地方の光化学スモッグの発生過程 16. オゾン層の破壊 17. 地球温暖化の影響 18. 地球の過去の気温変動を推定する方法 その1 19. 地球の過去の気温変動を推定する方法 その2 20. 地球の平均気温を変動させる要因：太陽放射 21. 地球の平均気温を変動させる要因：地球アルbedo、エアロゾル、雲 22. 地球の平均気温を変動させる要因：温室効果ガス 23. 地球温暖化問題の技術的対策 23. 東京湾の海洋汚染 24. 地球規模の海洋汚染 25. 廃棄物問題 26. 資源とエネルギー 27. 異常気象：エルニョ・イベント 28. 地震の発生メカニズム 29. 地震災害 30. 火山災害
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、板書と併せ、プロジェクターを使いながら進めていきます。 ・7月に、インターネットを利用した大気汚染に関する実習を行います。 <p>学内でインターネットにアクセスするためのIDを持たない方は、総合情報センターで取得してください。</p>
成績評価の方法	成績は、前期の授業内容については前期レポート（全体の成績の50%）で、後期の授業内容については期末試験（全体の成績の50%）で評価します。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	授業で紹介します。
その他	資料はプリントにして、授業で配布します。

履修コード	221201
科目名	自然環境論 [生命と環境]
担当者名	山縣 毅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>18世紀後半から始まった産業革命以降、産業文明の発展により、地球規模の環境変化が自然の復元能力を超えて急激に進んでいます。その変化は、人類の生存自体にも深刻な影響を及ぼすようになってきました。本授業では、地球科学的立場から、地球環境の諸問題を解説し、人間活動が地球環境に与える影響、自然と人間の関わりについて学びます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業の到達目的は、一般市民として必要な“自然環境のシステム”、“環境問題”、“自然災害”についての知識を習得することです。20世紀末から顕在化した地球規模の環境問題は、原因・原因源・発生メカニズムが複雑あるいは広範で、しかも一般市民の活動が大きく影響しているのが特徴です。そのため、その解決には、私たち自身の環境問題に対する意識の高さが必要であり、それには環境問題を深く理解することが重要です。また一方、地震・火山などの自然災害が多い日本では、自然災害に対する各個人の知識が、災害の被害の軽減に大きく影響します。本授業では、以上の様な高い意識・知識を培っていきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球表層の環境 2. 大気構造とオゾン層 3. 地球の平均気温 4. 地球の平均気温を決めるメカニズム 5. 大気の仕組み 6. 大気による熱循環 7. 海洋水による熱循環 8. 生物生存条件としての地球磁場 9. 公害問題の変遷 10. 水俣病 11. 水俣病被害拡大の構図 12. 大気汚染物質 13. 酸性雨 14. 光化学スモッグ 15. 関東地方の光化学スモッグの発生過程 16. オゾン層の破壊 17. 地球温暖化の影響 18. 地球の過去の気温変動を推定する方法 その1 19. 地球の過去の気温変動を推定する方法 その2 20. 地球の平均気温を変動させる要因：太陽放射 21. 地球の平均気温を変動させる要因：地球アルベド、エアロゾル、雲 22. 地球の平均気温を変動させる要因：温室効果ガス 23. 地球温暖化問題の技術的対策 23. 東京湾の海洋汚染 24. 地球規模の海洋汚染 25. 廃棄物問題 26. 資源とエネルギー 27. 異常気象：エンソ・イベント 28. 地震の発生メカニズム 29. 地震災害 30. 火山災害
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、板書と併せ、プロジェクターを使いながら進めていきます。 ・7月に、インターネットを利用した大気汚染に関する実習を行います。 <p>学内でインターネットにアクセスするためのIDを持たない方は、総合情報センターで取得してください。</p>
成績評価の方法	成績は、前期の授業内容については前期レポート（全体の成績の50%）で、後期の授業内容については期末試験（全体の成績の50%）で評価します。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	授業で紹介します。
その他	資料はプリントにして、授業で配布します。

履修コード	346401
科目名	自然環境論 [生命と環境]
担当者名	山縣 毅

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
18世紀後半から始まった産業革命以降、産業文明の発展により、地球規模の環境変化が自然の復元能力を超えて急激に進んでいます。その変化は、人類の生存自体にも深刻な影響を及ぼすようになってきました。本授業では、地球科学的立場から、地球環境の諸問題を解説し、人間活動が地球環境に与える影響、自然と人間の関わりについて学びます。

(到達目標)
この授業の到達目的は、一般市民として必要な“自然環境のシステム”、“環境問題”、“自然災害”についての知識を習得することです。20世紀末から顕在化した地球規模の環境問題は、原因・原因源・発生メカニズムが複雑あるいは広範で、しかも一般市民の活動が大きく影響しているのが特徴です。そのため、その解決には、私たち自身の環境問題に対する意識の高さが必要であり、それには環境問題を深く理解することが重要です。また一方、地震・火山などの自然災害が多い日本では、自然災害に対する各個人の知識が、災害の被害の軽減に大きく影響します。本授業では、以上の様な高い意識・知識を培っていきます。

授業スケジュール

1. 地球表層の環境
2. 大気構造とオゾン層
3. 地球の平均気温
4. 地球の平均気温を決めるメカニズム
5. 大気の仕組み
6. 大気による熱循環
7. 海洋水による熱循環
8. 生物生存条件としての地球磁場
9. 公害問題の変遷
10. 水俣病
11. 水俣病被害拡大の構図
12. 大気汚染物質
13. 酸性雨
14. 光化学スモッグ
15. 関東地方の光化学スモッグの発生過程
16. オゾン層の破壊
17. 地球温暖化の影響
18. 地球の過去の気温変動を推定する方法 その1
19. 地球の過去の気温変動を推定する方法 その2
20. 地球の平均気温を変動させる要因：太陽放射
21. 地球の平均気温を変動させる要因：地球アルベド、エアロゾル、雲
22. 地球の平均気温を変動させる要因：温室効果ガス
23. 地球温暖化問題の技術的対策
23. 東京湾の海洋汚染
24. 地球規模の海洋汚染
25. 廃棄物問題
26. 資源とエネルギー
27. 異常気象：エルニョ・イベント
28. 地震の発生メカニズム
29. 地震災害
30. 火山災害

準備学習

特になし

履修上の留意点

- ・講義は、板書と併せ、プロジェクターを使いながら進めていきます。
- ・7月に、インターネットを利用した大気汚染に関する実習を行います。
学内でインターネットにアクセスするためのIDを持たない方は、総合情報センターで取得してください。

成績評価の方法

成績は、前期の授業内容については前期レポート（全体の成績の50%）で、後期の授業内容については期末試験（全体の成績の50%）で評価します。

教科書／テキスト

特になし。

参考書

授業で紹介します。

その他

資料はプリントにして、授業で配布します。

履修コード	222201
科目名	自然誌〔現代の自然像〕
担当者名	篠原 正雄 山縣 毅 持丸 真里

授業概要/ 到達目標(ねらい)	(授業概要) 本講義では自然科学部門の3人の教員(化学、天文学、地質学)がそれぞれの専門分野の知識を持ち寄って、人類と地球環境のかかわりについて紹介し、宇宙の始まりから地球の形成、生命の起源、進化を経て人類の時代に至るまでの自然の歴史をたどり、私達にとっての自然環境がどのようにして今日の姿をとるようになったかを学ぶ。 (到達目標) 総合的、統一的、現代的な自然像を養う。
--------------------	---

授業スケジュール	第1講 人類と自然のつながり(持丸真里) (1)生物の共通性1(細胞・物質代謝)、(2)生物の共通性2(遺伝子)、(3)生物の多様性とヒトの特殊性、(4)人口増加とエネルギー消費の歴史、(5)エネルギー消費と「豊かさ」、(6)化石燃料の化学1(石炭)、(7)化石燃料の化学2(石油・天然ガス)、(8)大気環境の変化1(大気汚染の歴史)、(9)大気環境の変化2(化石燃料との関連性)、(10)未来のエネルギー 第2講 宇宙の中の私たち(篠原正雄) (11)自然の階層構造、(12)宇宙の誕生と物質の起源、(13)暗黒物質と銀河の起源、(14)星の進化と炭素の起源、(15)暗黒星雲と有機分子、(16)太陽系の起源、(17)太陽系外惑星、(18)宇宙に生命を探る、(19)生命に宇宙を探る、(20)暗黒エネルギーと宇宙の未来 第3講 地球と生命の物語(山縣毅) (21)地球と生命の共進化、(22)地球の誕生、(23)海洋と大陸の形成、(24)生命の誕生、(25)生物の浅海への進出、(26)生物の上陸、(27)温暖な時代と恐竜の繁栄、(28)生物の大量絶滅、(29)氷河時代の到来、(30)人類の登場
----------	---

準備学習	自然に関連する内容を広く取り扱うので、科学や環境関連の新聞記事等には積極的に目を通すこと。
------	---

履修上の留意点	本科目は1年間の講義を通して統一的・総合的な自然像を養うことを目的とするので、毎回の出席が困難な学生は履修を控えてほしい。教員ごとに計3回の評価(テストやレポート等)を受けねばならないことの自覚をもって履修してほしい。
---------	---

成績評価の方法	各担当者毎に小テストやレポート等の方法で評価し、最終的に3人の採点を合算して成績評価とする。定期試験・追試験は行わないので、各教員の指示に従って必ずそのつど評価を受けること。
---------	---

教科書/テキスト	特になし。必要に応じて各教員がプリント等を配布する。
----------	----------------------------

参考書	各教員がそれぞれの講義の中で適宜紹介する。
-----	-----------------------

その他	教員によりYeStudyを用いる。
-----	-------------------

履修コード	222301
科目名	自然誌〔現代の自然像〕
担当者名	篠原 正雄 山縣 毅 持丸 真里

授業概要/ 到達目標(ねらい)	(授業概要) 本講義では自然科学部門の3人の教員(化学、天文学、地質学)がそれぞれの専門分野の知識を持ち寄って、人類と地球環境のかかわりについて紹介し、宇宙の始まりから地球の形成、生命の起源、進化を経て人類の時代に至るまでの自然の歴史をたどり、私達にとっての自然環境がどのようにして今日の姿をとるようになったかを学ぶ。 (到達目標) 総合的、統一的、現代的な自然像を養う。
--------------------	---

授業スケジュール	第1講 人類と自然のつながり(持丸真里) (1)生物の共通性1(細胞・物質代謝)、(2)生物の共通性2(遺伝子)、(3)生物の多様性とヒトの特殊性、(4)人口増加とエネルギー消費の歴史、(5)エネルギー消費と「豊かさ」、(6)化石燃料の化学1(石炭)、(7)化石燃料の化学2(石油・天然ガス)、(8)大気環境の変化1(大気汚染の歴史)、(9)大気環境の変化2(化石燃料との関連性)、(10)未来のエネルギー 第2講 宇宙の中の私たち(篠原正雄) (11)自然の階層構造、(12)宇宙の誕生と物質の起源、(13)暗黒物質と銀河の起源、(14)星の進化と炭素の起源、(15)暗黒星雲と有機分子、(16)太陽系の起源、(17)太陽系外惑星、(18)宇宙に生命を探る、(19)生命に宇宙を探る、(20)暗黒エネルギーと宇宙の未来 第3講 地球と生命の物語(山縣毅) (21)地球と生命の共進化、(22)地球の誕生、(23)海洋と大陸の形成、(24)生命の誕生、(25)生物の浅海への進出、(26)生物の上陸、(27)温暖な時代と恐竜の繁栄、(28)生物の大量絶滅、(29)氷河時代の到来、(30)人類の登場
----------	---

準備学習	自然に関連する内容を広く取り扱うので、科学や環境関連の新聞記事等には積極的に目を通すこと。
------	---

履修上の留意点	本科目は1年間の講義を通して統一的・総合的な自然像を養うことを目的とするので、毎回の出席が困難な学生は履修を控えてほしい。教員ごとに計3回の評価(テストやレポート等)を受けねばならないことの自覚をもって履修してほしい。
---------	---

成績評価の方法	各担当者毎に小テストやレポート等の方法で評価し、最終的に3人の採点を合算して成績評価とする。定期試験・追試験は行わないので、各教員の指示に従って必ずそのつど評価を受けること。
---------	---

教科書/テキスト	特になし。必要に応じて各教員がプリント等を配布する。
----------	----------------------------

参考書	各教員がそれぞれの講義の中で適宜紹介する。
-----	-----------------------

その他	教員によりYeStudyを用いる。
-----	-------------------

履修コード	227601
科目名	情報処理技術
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>情報化社会において、コンピュータによる情報処理技術の習得は大変重要である。医療現場においても情報化が進みコンピュータの操作技術は必要不可欠なものとなっている。この授業では、コンピュータの基本的操作とインターネットの利用方法から、将来の卒業論文を書くにあたって必要な文章作成・編集・数式作成、表計算やグラフ作成が行えるように演習形式で授業を進める。</p> <p>また、国家試験においてコンピュータやIT関連の問題が出題されるようになってきているので、情報処理関連の基礎知識も合わせて習得を目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 情報倫理 (2) インターネットと電子メールの利用 (3～4) 論文・レポートの作成方法 (5～8) MS-Wordによる文書作成・編集・数式作成・図の作成 (9～10) 表やグラフの書き方 (11～12) MS-Excelによる表計算・関数の利用・グラフの作成 (13～15) 通信技術とセキュリティ</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>医療健康科学部で将来必要となる、コンピュータスキルを学びます。多少異なる使い方を学習しますので、全員の受講することが望ましい科目です。 また、演習形式で行うので、積極的に受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	レポート(3割)と試験(7割)によって評価する。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

履修コード	227621
科目名	情報処理技術
担当者名	近藤 啓介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>情報化社会において、コンピュータによる情報処理技術の習得は大変重要である。医療現場においても情報化が進みコンピュータの操作技術は必要不可欠なものとなっている。この授業では、コンピュータの基本的操作とインターネットの利用方法から、将来の卒業論文を書くにあたって必要な文章作成・編集・数式作成、表計算やグラフ作成が行えるように演習形式で授業を進める。</p> <p>また、国家試験においてコンピュータやIT関連の問題が出題されるようになってきているので、情報処理関連の基礎知識も合わせて習得を目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 情報倫理 (2) インターネットと電子メールの利用 (3～4) 論文・レポートの作成方法 (5～8) MS-Wordによる文書作成・編集・数式作成・図の作成 (9～10) 表やグラフの書き方 (11～12) MS-Excelによる表計算・関数の利用・グラフの作成 (13～15) 通信技術とセキュリティ</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>医療健康科学部で将来必要となる、コンピュータスキルを学びます。多少異なる使い方を学習しますので、全員の受講することが望ましい科目です。 また、演習形式で行うので、積極的に受講すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	レポート(3割)と試験(7割)によって評価する。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

履修コード	222701
科目名	情報数学〔情報と論理〕
担当者名	小沢 誠

授業概要/ 到達目標（ねらい）	数学の応用分野の一つである離散数学の入門事項を学ぶ。将来必要になった時に困らないよう、例題を丁寧に解説し、練習問題を解けるようにする。また、単に問題が解けるだけでなく、その過程において、論理的な思想を身に付けることを目標とする。
--------------------	--

授業スケジュール	教科書に従って以下の項目を解説する。各節を2～3回かけて授業を行う。 第1章 集合と論理 §1 集合 §2 論理 第2章 関係と写像 §1 関係 §2 写像 第3章 代数系 §1 代数系 §2 半群と群 §3 環と体 第4章 順序集合と束 §1 順序 §2 束とブール代数 第5章 グラフ §1 グラフ §2 平面グラフ §3 有限オートマトン
----------	---

準備学習	講義の前に、予め教科書を読んでおくことをお勧めする。
履修上の留意点	毎回必ず出席すること。数学は一つ一つの積み重ねであるので、欠席した場合には補習が必要である。
成績評価の方法	前期と後期の授業期間内に行う確認テストの結果で評価する。
教科書／テキスト	石村園子著『やさしく学べる離散数学』共立出版 2,100円（税込）ISBN978-4-320-01846-4
参考書	適宜紹介する。
その他	講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~w3c/lecture/jyoho.html

履修コード	346501
科目名	情報数学 [情報と論理]
担当者名	小沢 誠
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	数学の応用分野の一つである離散数学の入門事項を学ぶ。将来必要になった時に困らないよう、例題を丁寧に解説し、練習問題を解けるようにする。また、単に問題が解けるだけでなく、その過程において、論理的な思想を身に付けることを目標とする。
授業スケジュール	教科書に従って以下の項目を解説する。各節を2～3回かけて授業を行う。 第1章 集合と論理 §1 集合 §2 論理 第2章 関係と写像 §1 関係 §2 写像 第3章 代数系 §1 代数系 §2 半群と群 §3 環と体 第4章 順序集合と束 §1 順序 §2 束とブール代数 第5章 グラフ §1 グラフ §2 平面グラフ §3 有限オートマトン
準備学習	講義の前に、予め教科書を読んでおくことをお勧めする。
履修上の留意点	毎回必ず出席すること。数学は一つ一つの積み重ねであるので、欠席した場合には補習が必要である。
成績評価の方法	前期と後期の授業期間内に行う確認テストの結果で評価する。
教科書/テキスト	石村園子著『やさしく学べる離散数学』共立出版 2,100円(税込) ISBN978-4-320-01846-4
参考書	適宜紹介する。
その他	講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~w3c/lecture/jyoho.html

履修コード	226401
科目名	心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕
担当者名	加藤 博己

授業概要/ 到達目標（ねらい）	今年度は、人間観察に重点を置きつつ、哲学から独立し、132年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、心理学論（語源、定義、分野、研究法、歴史）を概観し、仏教と比較することで、「心理学」とはどのような学問であるのかを理解し、心理学の基礎知識（代表的な理論、事項、人名など）を習得することを目指す。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>前期：</p> <p>【オリエンテーション】 講義の目標、内容、進め方、評価方法、注意事項等の確認</p> <p>【記憶】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記憶の過程（記録-保持-想起） 2. 記憶の分類（感覚・短期・長期、意味・エピソード、手続き記憶） 3. 記憶の仕方（集中・分散、リハーサル） 4. 忘却の仕方（忘却曲線、系列位置効果）と理由（自然崩壊説、干渉説、検索失敗説、抑圧説） <p>【感覚・知覚・認知】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感覚（感覚のモダリティ、閾値、順応） 2. 知覚（図と地、群化、恒常性） 3. 認知（心的回転）、対人認知（ビグマリオン効果） <p>【学習・思考】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レスポネント条件づけ（強化・消去・般化・分化） 2. オペラント条件づけ 3. その他の学習理論（試行錯誤学習、洞察学習、観察学習） 4. 初期学習（刷り込み） <p>【動機づけ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動機づけの分類（欲求、要求、動因、マズローの欲求五段階説） 2. 葛藤 3. コンプレックス <p>【情動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感情の生起（末梢起源説、中枢起源説、認知説） 2. 感情の測定（SD法、一対比較法、生理的変化の測定） <p>後期：</p> <p>【発達】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達段階（フロイトの精神性発達理論、ピアジェの認知発達、エリクソンのライフサイクル） 2. 発達要因（遺伝と環境） 3. 愛着（母性的養育の欠如） 4. 知覚の発達（視覚的断崖） 5. 発達の研究法（横断、縦断、コホート） <p>【パーソナリティ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. パーソナリティの分類（類型論・特性論・力動論） 2. パーソナリティの測定（信頼性、妥当性、標準化） 3. パーソナリティ検査（質問紙法、投影法、作業検査法） 4. 知能、5. 知能の測定（ビネー式、ウェクスラー式） <p>【社会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 他者や社会が個人の態度に及ぼす影響（印象形成、同調実験、態度変容、バランス理論、責任分散実験、認知的不協和理論、アイヒマン実験） 2. 集団内の行動・リーダーシップ論 <p>【心理学論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「心理学」の語源 2. 定義 3. 分野 4. 研究法 5. 心理学の歴史（構成主義、機能主義、ゲシュタルト学派、精神分析学、動主義、認知心理学、人間性心理学等）
----------	--

準備学習	毎週実施される「ワーク」（前回の授業内容理解度を確かめる小テスト）に備えて、毎授業後に復習を怠らないこと。
------	---

履修上の留意点	この講義で、読心術や性格占い、心理ゲームといった「心理学」に属さないものや、犯罪心理学、カウンセリングなどの応用心理学に該当するものは学ぶことができない。 履修希望者は、初回「オリエンテーション」授業に必ず出席し、講義の目標、内容、進め方、評価方法、注意事項等をよく理解した上で受講すること。初回授業から心理学の講義を行うので、遅刻・欠席をしないこと。また、毎週欠かさず復習を行う必要があり、単に授業に出席しているだけでは、単位の取得は望めない。
---------	--

成績評価の方法	前期授業の最終日より1回前の授業（7月）に授業内前期試験を、定期試験期間内に定期試験を行う。いずれかが未受験の場合は単位は取得できない。詳細は初回のオリエンテーションで述べる。
---------	--

教科書／テキスト	授業内で紹介する。
----------	-----------

参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃（編）2011年『心理学 第4版』東京大学出版会 2,520円（本体2,400円＋税）ISBN 978-4-13-012105-7 橋本泰子（編）2010年『ありがとう療法 入門編 幸せになる自己カウンセリング』おうふう 1,680円（本体1,600円＋税）ISBN978-4-273-03627-0 実践編、体験談編（1,260円）あり。 その他、必要に応じて授業で紹介する。
-----	--

その他	主に板書を用い、必要に応じて教科書を用い、数回の簡単な実験や心理検査、調査を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方向の講義とならないよう、授業内において、挙手や指名による積極的な発言を促したり、場合により、アンケートを行ったり、学生同士が2人ペアやグループになり討論を行ったりすることで、授業内容の理解度を確認する。
-----	--

履修コード	226801
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	加藤 博己

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今年度は、人間関係に重点を置きつつ、哲学から独立し、132年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、心理学論(語源、定義、分野、研究法、歴史)を概観し、仏教と比較することで、「心理学」とはどのような学問であるのかを理解し、心理学の基礎知識(代表的な理論、事項、人名など)を習得することを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期：</p> <p>【オリエンテーション】 講義の目標、内容、進め方、評価方法、注意事項等の確認</p> <p>【記憶】 1. 記憶の過程(記銘-保持-想起)、 2. 記憶の分類(感覚・短期・長期、意味・エピソード、手続き記憶)、 3. 記憶の仕方(集中・分散、リハーサル)、 4. 忘却の仕方 (忘却曲線、系列位置効果)と理由(自然崩壊説、干渉説、検索失敗説、抑圧説)</p> <p>【感覚・知覚・認知】 1. 感覚(感覚のモダリティ、閾値、順応) 2. 知覚(図と地、群化、恒常性)、 3. 認知(心的回転)、対人認知(ピグマリオン効果)</p> <p>【学習・思考】 1. レスポンデント条件づけ(強化・消去・般化・分化)、2. オペラント条件づけ、 3. その他の学習理論(試行錯誤学習、洞察学習、観察学習)、4. 初期学習(刷り込み)</p> <p>【動機づけ】 1. 動機づけの分類(欲求、要求、動因、マズローの欲求五段階説)、2. 葛藤、 3. コンプレックス</p> <p>【情動】 1. 感情の生起(末梢起源説、中枢起源説、認知説)、 2. 感情の測定(SD法、一対比較法、生理的変化の測定)</p> <p>後期：</p> <p>【発達】 1. 発達段階 (フロイトの精神性発達理論、ピアジェの認知発達、エリクソンのライフサイクル)、 2. 発達要因(遺伝と環境)、3. 愛着(母性的養育の欠如)、 4. 知覚の発達(視覚的断崖)、5. 発達の研究法(横断、縦断、コホート)</p> <p>【パーソナリティ】 1. パーソナリティの分類(類型論・特性論・力動論)、 2. パーソナリティの測定(信頼性、妥当性、標準化)、 3. パーソナリティ検査(質問紙法、投影法、作業検査法)、 4. 知能、5. 知能の測定(ビネー式、ウェクスラー式)</p> <p>【社会】 1. 他者や社会が個人の態度に及ぼす影響 (印象形成、同調実験、態度変容、バランス理論、 責任分散実験、認知的不協和理論、アイヒマン実験)、 2. 集団内の行動やリーダーシップ論</p> <p>【心理学論】 1. 「心理学」の語源、2. 定義、3. 分野、4. 研究法、 5. 心理学の歴史 (構成主義、機能主義、ゲシュタルト学派、 精神分析学、行動主義、認知心理学、人間性心理学等)</p>
準備学習	毎週実施される「ワーク」(前回の授業内容理解度を確かめる小テスト)に備えて、毎授業後に復習を怠らないこと。
履修上の留意点	この講義で、読心術や性格占い、心理ゲームといった「心理学」に属さないものや、犯罪心理学、カウンセリングなどの応用心理学に該当するものは学ぶことができない。 履修希望者は、初回授業の「オリエンテーション」に必ず出席し、講義の目標、内容、進め方、評価方法、注意事項等をよく理解した上で受講すること。初回授業から心理学の講義を行うので、遅刻・欠席をしないこと。また、毎週欠かさず復習を行う必要があり、単に授業に出席しているだけでは、単位の取得は望めない。
成績評価の方法	前期授業の最終日より1回前の授業(7月)に授業内前期試験を、定期試験期間内に定期試験を行う。いずれかが未受験の場合は単位は取得できない。詳細は初回のオリエンテーションで述べる。
教科書/テキスト	授業内で紹介する。
参考書	鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃(編) 2011年『心理学 第4版』 東京大学出版会 2,520円(本体2,400円+税) ISBN 978-4-13-012105-7 橋本泰子(編)2010年『ありがとう療法 入門編 幸せになる自己カウンセリング』 おうふう 1,680円(本体1,600円+税) ISBN978-4-273-03627-0 実践編、体験談編(1,260円)あり。 その他、必要に応じて授業で紹介する。
その他	主に板書を用い、必要に応じて教科書を用い、数回の簡単な実験や心理検査、調査を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方向の講義とならないよう、授業内において、挙手や指名による積極的な発言を促したり、場合により、アンケートを行ったり、学生同士が2人ペアやグループになり討論を行ったりすることで、授業内容の理解度を確認する。

履修コード	226601
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	小室 央允
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日常的に、自分や他人の行動に関心を持ち、その理由や原因を考える心理学的な興味は、誰もが持っているであろう。また、様々なメディアでも人の心理に関することが多く取り上げられ、心理学という言葉を身近に感じるようになってきているのではないだろうか。しかし、学問的に心理学といった場合には、十分な理解はなされていないと思われる。 学問としての心理学とは、心を科学的方法で解明しようとするものである。本講義では、その学問としての心理学を概観し、理解することを目的とする。
授業スケジュール	オリエンテーション(1)、心理学の歴史・研究法(2~3)、感覚・知覚(4~6)、動機づけ(7~9)、感情・情動(10~12)、学習(13~15)、記憶(16~18)、思考(19~21)、発達(22~24)、パーソナリティ(25~27)、社会(28~30) 進捗状況により変更あり。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	私語は慎むこと。
成績評価の方法	定期試験の成績90%、平常点10%
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	226901
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	小室 央允
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日常的に、自分や他人の行動に関心を持ち、その理由や原因を考える心理学的な興味は、誰もが持っているであろう。また、様々なメディアでも人の心理に関することが多く取り上げられ、心理学という言葉を身近に感じるようになってきているのではないだろうか。しかし、学問的に心理学といった場合には、十分な理解はなされていないと思われる。 学問としての心理学とは、心を科学的方法で解明しようとするものである。本講義では、その学問としての心理学を概観し、理解することを目的とする。
授業スケジュール	オリエンテーション(1)、心理学の歴史・研究法(2~3)、感覚・知覚(4~6)、動機づけ(7~9)、感情・情動(10~12)、学習(13~15)、記憶(16~18)、思考(19~21)、発達(22~24)、パーソナリティ(25~27)、社会(28~30) 進捗状況により変更あり。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	私語は慎むこと。
成績評価の方法	定期試験の成績90%、平常点10%
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	227301
科目名	心理学〔心を科学する〕
担当者名	小室 央允
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日常的に、自分や他人の行動に関心を持ち、その理由や原因を考える心理学的な興味は、誰もが持っているであろう。また、様々なメディアでも人の心理に関することが多く取り上げられ、心理学という言葉を身近に感じるようになってきているのではないだろうか。しかし、学問的に心理学といった場合には、十分な理解はなされていないと思われる。 学問としての心理学とは、心を科学的方法で解明しようとするものである。本講義では、その学問としての心理学を概観し、理解することを目的とする。
授業スケジュール	オリエンテーション(1)、心理学の歴史・研究法(2~3)、感覚・知覚(4~6)、動機づけ(7~9)、感情・情動(10~12)、学習(13~15)、記憶(16~18)、思考(19~21)、発達(22~24)、パーソナリティ(25~27)、社会(28~30) 授業時間中に適宜小テストを行なう。 進捗状況により変更あり。
準備学習	特になし
履修上の留意点	私語は慎むこと。 小テストは評価対象となります。不正行為をせずに真摯な態度で臨むこと。
成績評価の方法	小テスト60%、平常点40%
教科書/テキスト	
参考書	
その他	7月31日(火)・8月1日(水)・2日(木)3日(金)・6日(月)・7日(火)の1~5限。計6日間で30時限授業。日程をよく確認してから履修すること。

履修コード	226501
科目名	心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕
担当者名	杉山 雅美
授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要）人間の心理に関しては、心理テストやカウンセリング、犯罪心理といった側面を中心に、メディアへの登場の機会が多く、その対象の身近さゆえに比較的興味をもたれやすい。一方、こうした情報の一部には科学的裏づけの希薄なものもあり、学問としての「心理学」とのズレも少なくない。本講義では、学問としての「心理学」の概論的内容について、身近な具体例を通して学ぶ。 （到達目標）自分や他者、ひいては人間の心・行動にまつわる諸現象に対する、科学的視点からの理解を目標とする。
授業スケジュール	年間スケジュールや進捗状況による変更もあるが、概ね以下のように進める予定である。 第1回：ガイダンス・心理学とは何か、第2・3回：感覚・知覚、第4～6回：学習、第7・8回：記憶、第9・10回：思考・言語、第11・12回：情動・動機づけ、第13～15回：パーソナリティ、第16・17回：知能、第18・19回：発達、第20～25回：臨床、第26～29回：社会、第30回：心理学の歴史・研究法
準備学習	各学習内容について、その現象・法則等が該当しそうな具体例を自分なりに考えながら授業に臨んだり、日常生活を送ることで、心理学が単なる知識ではない、より実感のともなった理解や応用へとつながり、自分自身や周囲の他者の行動や動機等に対する客観的な捉え方のトレーニングにもなるであろう。
履修上の留意点	・履修するうえで予習は求めないが、その分、講義中は私語を慎しみ、集中して臨むこと。 ・原則、講義内容の提示は板書でなくパワーポイントを用い、その資料を配布して進める。したがって、書き取る労力が少なくなる分、内容の理解に努めてほしい。
成績評価の方法	定期試験の成績80%、平常点20%とする。
教科書／テキスト	教科書はとくに指定しない。講義内で資料を配布して進める。
参考書	講義中に適宜紹介する。

履修コード	226701
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	鈴木 順一
授業概要/ 到達目標（ねらい）	心理学に、読心術とか通俗本のおもしろさを期待しないで下さい。学問としての心理学は、人の一般的な行動を客観的・実証的に解明しようとする科学として発展しています。この講義の目標は、心理学の基礎知識を習得することです。
授業スケジュール	テキストの章タイトルに沿って進めますが、授業だけではなく、自宅で自学自習をする必要があります。 【前期】1. 授業方針・オリエンテーション 2. 心理学とは 3. 行動の基礎 4. 感覚・知覚のしくみ 5. 知覚の諸相 6. 新しく学ぶ 7. 覚えるしくみ 8. 日常的な記憶 9. やる気と行動 10. 迷うところ 11. 喜怒哀楽 12. 個性があらわれる 13. パーソナリティを調べる 14. 精神的健康（メンタルヘルス） 15. 理解度の確認（小テスト） 【後期】16. 自分を知る 17. 知の働き 18. 知の障害 19. 育つ道筋 20. 思考・ことばの発達 21. 社会性の発達 22. 思いやること 23. 自我の発達 24. 人を知る 25. 魅力ある人 26. 態度が変わる 27. 人と集う 28. 役割を担う 29. 大衆のころころ 30. 理解度の確認（小テスト）
準備学習	受動的に聴講しているだけでは、心理学の膨大な基礎知識を習得できません。テキストをあらかじめ読んだり、自分でインターネットを検索して調べたり、課題を実施したり、心理学用語を覚えるなど、かなり能動的な自学自習をする必要があります。復習として、参考書の問題集に回答することで、知識の習得度を確認して下さい。
履修上の留意点	私語等、授業の秩序を乱す行為は、減点します。 授業を受動的に聴講しているだけでは、単位を取得できません。課題が課せられ、自宅でかなり積極的な自学自習をする必要があります。 学年末定期試験の他に、授業内で知識の習得度を確認する小テストを実施します。
成績評価の方法	学年末定期試験60点満点、レポートや授業内での小テストと学習態度・発表・発言などの平常点40点満点で総合的に評価します。
教科書／テキスト	宮沢秀次・二宮克美・大野木裕明 編「ガイドライン自分でできる心理学」ナカニシヤ出版 1500円＋税 ISBN4-88848-872-X
参考書	二宮克美・宮沢秀次・大野木裕明 編著「自分でできる心理学問題集」ナカニシヤ出版 1000円＋税 SBN4-88848-406-6 大野木裕明・宮沢秀次・二宮克美 著「ガイドライン心理学問題集」ナカニシヤ出版 税込定価 1995円 ISBN978-4-7795-0277-4 その他必要に応じて、授業内で指示します。
その他	この授業だけではなく、すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

履修コード	345301
科目名	心理学【ヒューマン・ウォッチング】
担当者名	鈴木 順一
授業概要/ 到達目標（ねらい）	心理学に、読心術とか通俗本のおもしろさを期待しないで下さい。学問としての心理学は、人の一般的行動を客観的・実証的に解明しようとする科学として発展しています。この講義の目標は、心理学の基礎知識を習得することです。
授業スケジュール	テキストの章タイトルに沿って進めますが、授業だけではなく、自宅で自学自習をする必要があります。 【前期】1. 授業方針・オリエンテーション 2. 心理学とは 3. 行動の基礎 4. 感覚・知覚のしくみ 5. 知覚の諸相 6. 新しく学ぶ 7. 覚えるしくみ 8. 日常的な記憶 9. やる気と行動 10. 迷うところ 11. 喜怒哀楽 12. 個性があらわれる 13. パーソナリティを調べる 14. 精神的健康（メンタルヘルス） 15. 理解度の確認（小テスト） 【後期】16. 自分を知る 17. 知の働き 18. 知の障害 19. 育つ道筋 20. 思考・ことばの発達 21. 社会性の発達 22. 思いやること 23. 自我の発達 24. 人を知る 25. 魅力ある人 26. 態度が変わる 27. 人と集う 28. 役割を担う 29. 大衆のこころ 30. 理解度の確認（小テスト）
準備学習	受動的に聴講しているだけでは、心理学の膨大な基礎知識を習得できません。テキストをあらかじめ読んだり、自分でインターネットを検索して調べたり、課題を実施したり、心理学用語を覚えるなど、かなり能動的な自学自習をする必要があります。復習として、参考書の問題集に回答することで、知識の習得度を確認して下さい。
履修上の留意点	私語等、授業の秩序を乱す行為は、減点します。 授業を受動的に聴講しているだけでは、単位を取得できません。課題が課せられ、自宅でかなり積極的な自学自習をする必要があります。 学年末定期試験の他に、授業内で知識の習得度を確認する小テストを実施します。
成績評価の方法	学年末定期試験60点満点、レポートや授業内での小テストと学習態度・発表・発言などの平常点40点満点で総合的に評価します。
教科書／テキスト	宮沢秀次・二宮克美・大野木裕明 編「ガイドライン自分でできる心理学」ナカニシヤ出版 1500円＋税 ISBN4-88848-872-X
参考書	二宮克美・宮沢秀次・大野木裕明 編著「自分でできる心理学問題集」ナカニシヤ出版 1000円＋税 SBN4-88848-406-6 大野木裕明・宮沢秀次・二宮克美 著「ガイドライン心理学問題集」ナカニシヤ出版 税込定価 1995円 ISBN978-4-7795-0277-4 その他必要に応じて、授業内で指示します。
その他	この授業だけではなく、すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

履修コード	345401
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	鈴木 順一
授業概要/ 到達目標(ねらい)	心理学に、読心術とか通俗的のおもしろさを期待しないで下さい。学問としての心理学は、人の一般的行動を客観的・実証的に解明しようとする科学として発展しています。この講義の目標は、心理学の基礎知識を習得することです。
授業スケジュール	テキストの章タイトルに沿って進めますが、授業だけではなく、自宅で自学自習をする必要があります。 【前期】1. 授業方針・オリエンテーション 2. 心理学とは 3. 行動の基礎 4. 感覚・知覚のしくみ 5. 知覚の諸相 6. 新しく学ぶ 7. 覚えるしくみ 8. 日常的な記憶 9. やる気と行動 10. 迷うところ 11. 喜怒哀楽 12. 個性があらわれる 13. パーソナリティを調べる 14. 精神的健康(メンタルヘルス) 15. 理解度の確認(小テスト) 【後期】16. 自分を知る 17. 知の働き 18. 知の障害 19. 育つ道筋 20. 思考・ことばの発達 21. 社会性の発達 22. 思いやること 23. 自我の発達 24. 人を知る 25. 魅力ある人 26. 態度が変わる 27. 人と集う 28. 役割を担う 29. 大衆のこころ 30. 理解度の確認(小テスト)
準備学習	受動的に聴講しているだけでは、心理学の膨大な基礎知識を習得できません。テキストをあらかじめ読んだり、自分でインターネットを検索して調べたり、課題を実施したり、心理学用語を覚えるなど、かなり能動的な自学自習をする必要があります。復習として、参考書の問題集に回答することで、知識の習得度を確認して下さい。
履修上の留意点	私語等、授業の秩序を乱す行為は、減点します。 授業を受動的に聴講しているだけでは、単位を取得できません。課題が課せられ、自宅でかなり積極的な自学自習をする必要があります。 学年末定期試験の他に、授業内で知識の習得度を確認する小テストを実施します。
成績評価の方法	学年末定期試験60点満点、レポートや授業内での小テストと学習態度・発表・発言などの平常点40点満点で総合的に評価します。
教科書/テキスト	宮沢秀次・二宮克美・大野木裕明 編「ガイドライン自分でできる心理学」ナカニシヤ出版 1500円＋税 ISBN4-88848-872-X
参考書	二宮克美・宮沢秀次・大野木裕明 編著「自分でできる心理学問題集」ナカニシヤ出版 1000円＋税 ISBN4-88848-406-6 大野木裕明・宮沢秀次・二宮克美 著「ガイドライン心理学問題集」ナカニシヤ出版 税込定価 1995円 ISBN978-4-7795-0277-4 その他必要に応じて、授業内で指示します。
その他	この授業だけではなく、すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

履修コード	227201
科目名	心理学 [心を科学する]
担当者名	堀内 正彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間を理解するための1つの視点として心理学を学ぶことを本講義のねらいとする。ここでいう人間理解とは一個人の性格や人格の理解も含むが、それ以外にも、人間が一般的にもつ特性を知ることを含む。例えば、物事の捉え方や判断の仕方など、様々な場面で何気なく行なっている活動全般について理解するということである。
---------------------	---

授業スケジュール	心理学の様々な分野を概観できるように、下記の内容、スケジュールで講義を進行する予定である。 第1回 オリエンテーション 第2～3回 心理学の視点 第4～6回 発達 環境と遺伝 第7～10回 学習 第11～13回 記憶 第14回 前期末試験 第15～17回 感覚・知覚 第18～21回 思考・言語 第22～24回 動機づけ・情動 第25～27回 個人差 第28～30回 社会行動
----------	---

準備学習	特に必要なし。
履修上の留意点	この講義に限らず何かを学ぶということの根底には、普段の生活の中での「当たり前」のこととして捉えているようなことに対して、素朴な疑問とでもいうべき問題意識を抱くことが大切であると考えている。このような問題意識をもって授業に臨むことを希望する。
成績評価の方法	試験の結果 (前期の講義内と定期試験の計2回) による。
教科書/テキスト	鹿取廣人・杉本敏夫 (編) 『心理学 第4版』 (東京大学出版会)
参考書	
その他	私語については、厳格に対応します。授業の初回に行うオリエンテーションで詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。また、年間を通して数回の実験や調査に参加していただく場合があります。

履修コード	226001
科目名	人類学 [人類の進化]
担当者名	馬場 悠男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ヒトとチンパンジーの共通祖先だった最初期の人類が、いつ、なぜ、どこで、どのような要因で現在の私たちになったかを知り、人間自身の本性を理解し、人類の将来を考える一助とする。楽しく考え、ためになる授業を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	1-3回: ヒトはどこまで動物か、ヒトはなぜゾウに似ているかなど。4-9回: 立ち上がった猿人たち、豊かな森林から厳しい草原へなど。10-14回: 道具を作った原人と旧人、フロレス島のホビットなど。15-19回: サビエンスの世界戦略、5万年前の革命はあったかなど。20-24回: 日本人はどこから来たか、縄文VS弥生など。25-27回: 病いの起源、給食を正課にせよなど。28-30回: 国立科学博物館見学 (実際は随時に行う。休日による補講の分を当てる)。その他のトピックを扱うこともある。
----------	---

準備学習	人間や動物の形態・機能・行動・心理を観察し、考える習慣を付ける。
履修上の留意点	3回分は、まとめて、随時、上野の国立科学博物館に関連展示の見学に行く。見学レポートを提出すること。私が企画・監修・出演したテレビ番組を活用する。
成績評価の方法	学期末の試験とともに授業中の小テストさらに出席点も加味して総合的に判断する。授業中、良い質問をすると、プラスアルファ。
教科書/テキスト	馬場悠男監修『学研まんが ヒトの進化の秘密』学習研究社880円 ISBN978-4-05-202931-8
参考書	馬場悠男編著『季刊考古学2011年12月号古人類学特集』ISBN: 978-4-639-02206-0、馬場悠男編著『人間の進化700万年の軌跡をたどる』日経サイエンス社1,900円 ISBN4-532-51151-8、馬場悠男解説『ホモ・フロレシエンシス上下』NHKブックス・日本放送出版協会 上下各970円 ISBN978-4-14-091112-9C1345、馬場悠男・道方しのぶ訳『人類進化大全』悠書館12,000円 ISBN978-4-903487-18-2、中橋孝博著『日本人の起源』講談社選書メチエ 1,700円 ISBN4-06-258318-6 その他の参考書: 馬場悠男著『顔って何だろう』NHK「知るを楽しむ」テキスト、ジャレット・ダイヤモンド著『人間はどこまでチンパンジーか?』新曜社、『銃・病原菌・鉄上下』草思社、『文明崩壊上下』草思社、石弘遊之・安田喜憲・湯浅越男共著『環境と文明の世界史』洋泉社、月尾嘉男著『縮小文明の展望 千年の彼方を目指して』東京大学出版。

履修コード	226101
科目名	人類学〔人類の進化〕
担当者名	馬場 悠男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ヒトとチンパンジーの共通祖先だった最初期の人類が、いつ、なぜ、どこで、どのような要因で現在の私たちになったかを知り、人間自身の本性を理解し、人類の将来を考える一助とする。楽しく考え、ためになる授業を目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	1-3回：ヒトはどこまで動物か、ヒトはなぜゾウに似ているかなど。4-9回：立ち上がった猿人たちが、豊かな森林から厳しい草原へなど。10-14回：道具を作った原人と旧人、フロレス島のホビットなど。15-19回：サビエンスの世界戦略、5万年前の革命はあったかなど。20-24回：日本人はどこから来たか、縄文VS弥生など。25-27回：病いの起源、給食を正課にせよなど。28-30回：国立科学博物館見学（実際は随時に行う。休日による補講の分を当てる）。その他のトピックを扱うこともある。
----------	--

準備学習	人間や動物の形態・機能・行動・心理を観察し、考える習慣を付ける。
------	----------------------------------

履修上の留意点	3回分は、まとめて、随時、上野の国立科学博物館に関連展示の見学に行く。見学レポートを提出すること。私が企画・監修・出演したテレビ番組を活用する。
---------	--

成績評価の方法	学期末の試験とともに授業中の小テストさらには出席点も加味して総合的に判断する。授業中、良い質問をすると、プラスアルファ。
---------	--

教科書／テキスト	馬場悠男監修『学研まんが ヒトの進化の秘密』学習研究社880円 ISBN978-4-05-202931-8
----------	---

参考書	馬場悠男編著『季刊考古学2011年12月号古人類学特集』ISBN: 978-4-639-02206-0、馬場悠男編著訳『人間性の進化700万年の軌跡をたどる』日経サイエンス社1,900円 ISBN4-532-51151-8、馬場悠男解説『ホモ・フロレシエンシス上下』NHKブックス・日本放送出版協会 上下各970円 ISBN978-4-14-091112-9C1345、馬場悠男・道方しのぶ訳『人類進化大全』悠書館12,000円 ISBN978-4-903487-18-2、中橋孝博著『日本人の起源』講談社選書メテエ 1,700円 ISBN4-06-258318-6
-----	---

その他の参考書：馬場悠男著『顔って何だろう』NHK「知るを楽しむ」テキスト、ジャレット・ダイヤモンド著『人間はどこまでチンパンジーか?』新曜社、『銃・病原菌・鉄上下』草思社、『文明崩壊上下』草思社、石弘遊之・安田喜憲・湯浅赳男共著『環境と文明の世界史』洋泉社、月尾嘉男著『縮小文明の展望 千年の彼方を目指して』東京大学出版。

履修コード	345501
科目名	生物学 [生態と進化]
担当者名	大槻 涼

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 生物学のなかから、多くの分野で共通する事項と、進化多様性に関わる理論や研究例を紹介する。 本講義では、前半に基礎生物学のなかから「細胞」、「分子生物学」、「遺伝学」を、後半に「進化学」、「系統分類学」、「生物多様性」について取り上げる。 (到達目標) 生物学の基礎となる部分と、進化多様性についての理解することを目標とする。また、生物学に関する最近の話題や先端研究について自ら考えるための基礎知識を修得する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第一章生物のすがた</p> <ol style="list-style-type: none"> ①なぜ生物学を学ぶのか ②生物学の歴史 ③細胞 ④細胞で働く分子 ⑤生命活動を支える化学反応 ⑥タンパク質の合成 ⑦細胞分裂 ⑧個体の再生産 ⑨遺伝の仕組み ⑩突然変異と分子進化 ⑪バイオテクノロジー
----------	---

- 第二章生物の進化・多様性
- ①進化とは?
 - ②生物界の3ドメインの誕生と進化
 - ③真核生物の誕生と進化
 - ④動物の進化と進化
 - ⑤植物の上陸と進化
 - ⑥魚類の進化と動物の上陸
 - ⑦昆虫類の適応放散
 - ⑧分子レベルの進化と分子で探る系統関係
 - ⑨種の進化
 - ⑩多様性とは?
 - ⑪生物多様性と保全

準備学習	「生物学」、「進化」、「生物多様性」をキーワードに普段から関連したニュースや情報を集めておくこと。
------	---

履修上の留意点	高校で生物を履修していない学生を想定して、高校レベルの基礎から講義する。 必ず出席し、遅刻はしないようにすること。 長期にわたって欠席する場合は事前に申し出ること。
---------	--

成績評価の方法	定期試験 60% レポート 30% 平常点 10%
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	数研出版編集部 (著, 編集) 『視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録 改訂版』 数研出版 ¥ 924 ISBN-13: 978-4410281631
----------	--

この他に講義内容に即した参考書を適宜紹介する。

参考書	Bruce Alberts ら (著), 中村 桂子ら (翻訳), 『細胞の分子生物学第5版』 ニュートンプレス ¥ 23,415 ISBN-13: 978-4315518672
-----	---

岩槻 邦男 (編集), 馬渡 峻輔 (編集) 『生物の種多様性』 裳華房 ¥ 4,725
ISBN-13: 978-4785358242

石川 統 (編さん) 『生物学辞典』 東京化学同人 ¥ 12,600 ISBN-13: 978-4807907359

その他	なし
-----	----

履修コード	220201
科目名	生物学 [生態と進化]
担当者名	中村 敏枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地球上の生き物はすべて40億年の歴史を背負っている。その中でヒトだけが自然のおきてに逆らい、自分の歴史をつくらうとした。しかし、「ヒトも生物である」という現実から逃れることはできない。「生物とは何か」を考え、「自然との共生」について考えてみよう。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期)
----------	------

- (1) はじめに 今、ここにいる奇跡
- (2) I 原子核エネルギーの利用と生命
 - 原子核エネルギー利用の問題点 (1)
 - (3) 原子核エネルギー利用の問題点 (2)
 - (4) 放射線障害
 - (5) 内部被曝
 - (6) 放射性物質汚染
- (7) II 地球の歴史と生命の起源
 - 生命の歴史40億年
 - (8) 宇宙の奇跡
 - (9) 地球史と生命
 - (10) 極限環境と生命
 - (11) 生命を守る多重バリア
- (12) III 生命の維持 (1)
 - 遺伝情報の伝達
 - (13) 細胞の生と死
 - (14) バイオテクノロジー
- (15) まとめ

(後期)

- (1) IV 生命の維持 (2)
 - 呼吸と光合成
 - (2) 消化と吸収
 - (3) 腸内細菌
 - (4) 微生物のはたらき
- (5) V 生態系
 - 生態系とは
 - (6) 食物連鎖
 - (7) 物質の循環とエネルギーの流れ
- (8) VI 化学物質と生命
 - ゴミ処理とリサイクル
 - (9) 化学物質汚染
 - (10) ダイオキシン汚染 (1)
 - (11) ダイオキシン汚染 (2)
 - (12) 水俣病 (1)
 - (13) 水俣病 (2)
 - (14) 水俣病 (3)
- (15) まとめ

準備学習	義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。
履修上の留意点	意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。
成績評価の方法	学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	授業時間内に随時紹介します。
その他	授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

履修コード	220401
科目名	生物学 [生物と環境]
担当者名	中村 敏枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地球上の生き物はすべて40億年の歴史を背負っている。その中でヒトだけが自然のおきてに逆らい、自分の歴史をつくろうとした。しかし、「ヒトも生物である」という現実から逃れることはできない。「生物とは何か」を考え、「自然との共生」について考えてみよう。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期)
----------	------

- (1) はじめに 今、ここにいる奇跡
- (2) I 原子核エネルギーの利用と生命
 - (3) 原子核エネルギー利用の問題点 (1)
 - (4) 原子核エネルギー利用の問題点 (2)
 - (5) 放射線障害
 - (6) 内部被曝
 - (7) 放射性物質汚染
- (8) II 地球の歴史と生命の起源
 - (9) 生命の歴史40億年
 - (10) 宇宙の奇跡
 - (11) 地球史と生命
 - (12) 極限環境と生命
 - (13) 生命を守る多重バリア
- (14) III 生命の維持 (1)
 - (15) 遺伝情報の伝達
 - (16) 細胞の生と死
 - (17) バイオテクノロジー
- (18) まとめ

(後期)

- (1) IV 生命の維持 (2)
 - (2) 呼吸と光合成
 - (3) 消化と吸収
 - (4) 腸内細菌
 - (5) 微生物のはたらき
- (6) V 生態系
 - (7) 生態系とは
 - (8) 食物連鎖
 - (9) 物質の循環とエネルギーの流れ
- (10) VI 化学物質と生命
 - (11) ゴミ処理とリサイクル
 - (12) 化学物質汚染
 - (13) ダイオキシン汚染 (1)
 - (14) ダイオキシン汚染 (2)
 - (15) 水俣病 (1)
 - (16) 水俣病 (2)
 - (17) 水俣病 (3)
- (18) まとめ

準備学習	義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。
履修上の留意点	意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。
成績評価の方法	学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	授業時間内に随時紹介します。
その他	授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

履修コード	345601
科目名	生物学 [生物と環境]
担当者名	中村 敏枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地球上の生き物はすべて40億年の歴史を背負っている。その中でヒトだけが自然のおきてに逆らい、自分の歴史をつくろうとした。しかし、「ヒトも生物である」という現実から逃れることはできない。「生物とは何か」を考え、「自然との共生」について考えてみよう。
---------------------	---

授業スケジュール	(前期)
	(1) はじめに 今、ここにいる奇跡
	(2) I 原子核エネルギーの利用と生命
	原子核エネルギー利用の問題点 (1)
	(3) 原子核エネルギー利用の問題点 (2)
	(4) 放射線障害
	(5) 内部被曝
	(6) 放射性物質汚染
	(7) II 地球の歴史と生命の起源
	生命の歴史40億年
	(8) 宇宙の奇跡
	(9) 地球史と生命
	(10) 極限環境と生命
	(11) 生命を守る多重バリア
	(12) III 生命の維持 (1)
	遺伝情報の伝達
	(13) 細胞の生と死
	(14) バイオテクノロジー
	(15) まとめ

	(後期)
	(1) IV 生命の維持 (2)
	呼吸と光合成
	(2) 消化と吸収
	(3) 腸内細菌
	(4) 微生物のはたらき
	(5) V 生態系
	生態系とは
	(6) 食物連鎖
	(7) 物質の循環とエネルギーの流れ
	(8) VI 化学物質と生命
	ゴミ処理とリサイクル
	(9) 化学物質汚染
	(10) ダイオキシン汚染 (1)
	(11) ダイオキシン汚染 (2)
	(12) 水俣病 (1)
	(13) 水俣病 (2)
	(14) 水俣病 (3)
	(15) まとめ

準備学習	義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。
履修上の留意点	意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。
成績評価の方法	学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。
教科書/テキスト	
参考書	授業時間内に随時紹介します。
その他	授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

履修コード	227901
科目名	生命科学
担当者名	持丸 真里

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代の生命科学の基礎を解説し、自然界の生命現象についての理解を深める。 (到達目標) 広く生物全般を講義の対象とすることにより、生物の共通性と多様性を理解する。医療人として、現代の生命科学を勉強する上での基礎知識を習得することを目標とする。
授業スケジュール	1. 生物とは何か 2. 細胞の構造と生物の分類 3. 生体内物質 4. タンパク質とは何か 5. 酵素や免疫の働き 6. 遺伝子とは何か 7. 遺伝子の働き 8. ゲノム 9. ゲノム情報の社会への影響 10. 遺伝子技術の社会への応用 11. 遺伝子組み換え実験とは何か 12. 性と生殖 13. 同化 14. 異化 15. 物質循環と生物多様性
準備学習	毎回の講義の後に、YeStudyで講義内容のキーワードを掲載する。キーワードの意味を復習・理解して次の講義に参加すること。
履修上の留意点	上記のようなスケジュールを基本とするが、学生の理解度に合わせて進度を調整したり、途中でニューストピックスを取り上げるなど、柔軟に進めてゆく。講義は、基礎的内容から順次、発展的・先端的事項へと進むので、欠席すると理解が困難になることを留意して履修すること。
成績評価の方法	筆記試験の成績60%、平常点40%とする。
教科書/テキスト	なし。
参考書	講義内で随時紹介する。
その他	YeStudyを補助的に利用するので、コース登録すること。

履修コード	220901
科目名	地球科学 [自然景観の成り立ち]
担当者名	市川 清士

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地球が誕生して46億年といわれています。この間、地球はたえず表情を変化させつづけてきました。では、私たちの生活している周辺の自然景観、たとえば山や川、平野や海洋などはいつどのようにしてできたのでしょうか？ 本講義では、この問いに答えるために地形、気候、水文などの地球表面の現象を対象として、その成り立ちについて探っていきます。
授業スケジュール	(1) 地球科学とはどんな学問か？ (2~5) 地球の成り立ちと構造について (6~10) 大陸の成り立ちや造山運動【プレートテクトニクス】 (11~15) 地震および活断層について (16~19) 氷期と間氷期【気候変動】 (20~24) 地球温暖化と我々の生活 (25~30) 南関東を中心とした「身近な自然景観」の成り立ちについて
準備学習	新聞などで自然科学に関する記事に目を通してから授業に参加してください。
履修上の留意点	日頃から新聞・雑誌・TVなどで地球環境について目を光らせていてください。また、高校で使用した地図帳を用意すること（できれば最新のものが望ましい）。
成績評価の方法	授業への積極性・レポート・学年末の試験を総合して評価を行います。
教科書/テキスト	『地球学入門 一惑星地球と大気・海洋のシステム-』（東海大学出版会）2,940円
参考書	参考書はその都度紹介します。
その他	一般的な講義を主とし、スライド・OHP・ビデオ・DVDによる説明を入れて皆さんが興味を持てるような講義を行おうと考えています。

履修コード	221001
科目名	地球科学〔自然景観の成り立ち〕
担当者名	市川 清士

授業概要/ 到達目標(ねらい)	地球が誕生して46億年といわれています。この間、地球はたえず表情を変化させつづけてきました。では、私たちの生活している周辺の自然景観、たとえば山や川、平野や海洋などはいつどのようにしてできたのでしょうか？本講義では、この問いに答えるために地形、気候、水文などの地球表面の現象を対象として、その成り立ちについて探っていきます。
授業スケジュール	(1)地球科学とはどんな学問か？ (2~5)地球の成り立ちと構造について (6~10)大陸の成り立ちや造山運動【プレートテクトニクス】 (11~15)地震および活断層について (16~19)氷期と間氷期【気候変動】 (20~24)地球温暖化と我々の生活 (25~30)南関東を中心とした「身近な自然景観」の成り立ちについて
準備学習	新聞などで自然科学に関する記事に目を通してから授業に参加してください。
履修上の留意点	日頃から新聞・雑誌・TVなどで地球環境について目を光らせていてください。また、高校で使用した地図帳を用意すること(できれば最新のものが望ましい)。
成績評価の方法	授業への積極性・レポート・学年末の試験を総合して評価を行います。
教科書/テキスト	『地球学入門 -惑星地球と大気・海洋のシステム-』(東海大学出版会)2,940円
参考書	参考書はその都度紹介します。
その他	一般的な講義を主とし、スライド・OHP・ビデオ・DVDによる説明を入れて皆さんが興味を持てるような講義を行おうと考えています。

履修コード	220501
科目名	地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕
担当者名	加藤 潔

授業概要/ 到達目標(ねらい)	最近、地球史にロマンを感じて博物館へ足を運ぶ人や化石や鉱物に興味を持つ人が増えていきます。自然災害や環境問題に関心を持つ人も増えていきます。災害から家族を守るためにはある程度の知識が必要です。今後の生活をより豊かにかつ安全に過ごすために、地球科学を学ぶのも一法ではないでしょうか。 本講義の目標は、受講者が地球科学の基礎的な概念を再確認しつつ、新聞やTVによる災害などの報道に対して所見を持てるようにすることです。また、グローバルな視点から諸現象を捉えることができるように教養を養ってもらうことにあります。これまで地学を学ぶ機会があまり無かった受講者にも理解できるように心がけます。いつでも質問して下さい。
授業スケジュール	前期第1~2回:宇宙と地球の誕生、第3~4回:地球の内部構造、第5~6回:プレートテクトニクス・プルームテクトニクス、第7~10回:地震、第11~15回:火山(地震と火山については、災害・予知も含む)、後期第16~17回:地殻の物質、第18~19回:造山運動、アジア大陸や日本列島の形成環境、第20~24回:生命の歴史、第25~30回:環境問題(地球温暖化問題など)について触れます。
準備学習	雑誌や新聞記事などから、予定される内容に関連した最新情報(災害を含む)を集めて、整理してみましょう。
履修上の留意点	地球科学は自然現象を総合的に説明する科学であり、実生活に根ざした科学でもあります。日頃から、ある自然現象に関して、時間軸を含めた因果関係及びその範囲を考えてみてください。
成績評価の方法	主に期末試験で評価されます。また、授業中に前・後期に3回ぐらいずつ、ビデオや映画鑑賞時のレポートや実習小テストを提出してもらいます(各5点程度)。
教科書/テキスト	特に定めません。適宜プリントを配布。
参考書	『ニューステージ地学図表 新訂』(浜島書店)
その他	プロジェクター、ビデオ等を使用します。

履修コード	346101
科目名	地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕
担当者名	加藤 潔
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	最近、地球史にロマンを感じて博物館へ足を運ぶ人や化石や鉱物に興味を持つ人が増えていきます。自然災害や環境問題に関心を持つ人も増えていきます。災害から家族を守るためにはある程度の知識が必要です。今後の生活をより豊かにかつ安全に過ごすために、地球科学を学ぶのも一法ではないでしょうか。 本講義の目標は、受講者が地球科学の基礎的な概念を再確認しつつ、新聞やTVによる災害などの報道に対して所見を持てるようにすることです。また、グローバルな視点から諸現象を捉えることができるように教養を養ってもらうことにあります。これまで地学を学ぶ機会があまり無かった受講者にも理解できるように心がけます。いつでも質問して下さい。
授業スケジュール	前期第1～2回：宇宙と地球の誕生、第3～4回：地球の内部構造、第5～6回：プレートテクトニクス・ブルームテクトニクス、第7～10回：地震、第11～15回：火山（地震と火山については、災害・予知も含む）、後期第16～17回：地殻の物質、第18～19回：造山運動、アジア大陸や日本列島の形成環境、第20～24回：生命の歴史、第25～30回：環境問題（地球温暖化問題など）について触れます。
準備学習	雑誌や新聞記事などから、予定される内容に関連した最新情報（災害を含む）を集めて、整理してみましょう。
履修上の留意点	地球科学は自然現象を総合的に説明する科学であり、実生活に根ざした科学でもあります。日頃から、ある自然現象に関して、時間軸を含めた因果関係及びその範囲を考えてみてください。
成績評価の方法	主に期末試験で評価されます。また、授業中に前・後期に3回ぐらいずつ、ビデオや映画鑑賞時の簡単なレポートや実習小テストを提出してもらいます（各5点程度）。
教科書／テキスト	特に定めません。適宜プリントを配布。
参考書	『ニューステージ地学図表 新訂』（浜島書店）
その他	プロジェクター、ビデオ等を使用します。

履修コード	346201
科目名	地球科学〔地球の素顔と地球環境問題〕
担当者名	加藤 潔
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	最近、地球史にロマンを感じて博物館へ足を運ぶ人や化石や鉱物に興味を持つ人が増えていきます。自然災害や環境問題に関心を持つ人も増えていきます。災害から家族を守るためにはある程度の知識が必要です。今後の生活をより豊かにかつ安全に過ごすために、地球科学を学ぶのも一法ではないでしょうか。 本講義の目標は、受講者が地球科学の基礎的な概念を再確認しつつ、新聞やTVによる災害などの報道に対して所見を持てるようにすることです。また、グローバルな視点から諸現象を捉えることができるように教養を養ってもらうことにあります。これまで地学を学ぶ機会があまり無かった受講者にも理解できるように心がけます。いつでも質問して下さい。
授業スケジュール	前期第1～2回：宇宙と地球の誕生、第3～4回：地球の内部構造、第5～6回：プレートテクトニクス・ブルームテクトニクス、第7～10回：地震、第11～15回：火山（地震と火山については、災害・予知も含む）、後期第16～17回：地殻の物質、第18～19回：造山運動、アジア大陸や日本列島の形成環境、第20～24回：生命の歴史、第25～30回：環境問題（地球温暖化問題など）について触れます。
準備学習	雑誌や新聞記事などから、予定される内容に関連した最新情報（災害を含む）を集めて、整理してみましょう。
履修上の留意点	地球科学は自然現象を総合的に説明する科学であり、実生活に根ざした科学でもあります。日頃から、ある自然現象に関して、時間軸を含めた因果関係及びその範囲を考えてみてください。
成績評価の方法	主に期末試験で評価されます。また、授業中に前・後期に3回ぐらいずつ、ビデオや映画鑑賞時の簡単なレポートや実習小テストを提出してもらいます（各5点程度）。
教科書／テキスト	特に定めません。適宜プリントを配布。
参考書	『ニューステージ地学図表 新訂』（浜島書店）
その他	プロジェクター、ビデオ等を使用します。

履修コード	220701
科目名	地球科学〔地球システムと人間圏〕
担当者名	守屋 和佳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	地球科学の基礎を学び、私たちの生活と地球科学との関連、ならびに地球と生命の歴史を理解する。
---------------------	---

授業スケジュール	私たちが住む地球は、誕生以来約46億年の歴史を有し、今なおその進化を続けている。地球誕生初期には、地球の表面はマグマの海に覆われていたが、やがて大陸や海洋が形成され、海洋中では生命が誕生することとなった。前期には現在の地球のシステムや地球科学の基礎を学び、後期には地球と生命の歴史を学ぶ。
----------	--

(前期)

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 生きている地球システム
- 第3回 造岩鉱物と岩石
- 第4回 生物多様性-1
- 第5回 生物多様性-2
- 第6回 環境と生命
- 第7回 地質年代と地層の対比
- 第8回 進化と化石記録
- 第9回 プレートテクトニクス
- 第10回 火山と噴火
- 第11回 地震と断層
- 第12回 化学物質の循環
- 第13回 エネルギーと地球資源
- 第14回 日本列島の生い立ち
- 第15回 まとめ

(後期)

- 第1回 太陽系と地球の誕生
- 第2回 海と大陸の誕生
- 第3回 初期生命の誕生と酸素の発生
- 第4回 全球凍結事件
- 第5回 <古生代>カンブリア大爆発
- 第6回 <古生代>植物と動物の“上陸”
- 第7回 <古生代>海洋の遊泳生物と陸上は虫類の誕生
- 第8回 <中生代>新たな海洋生物と恐竜の出現
- 第9回 <中生代>被子植物の出現
- 第10回 <中生代>現代型生物への転換と大絶滅
- 第11回 <新生代>温室時代から氷室時代への転換
- 第12回 <新生代>氷期-間氷期サイクルのはじまり
- 第13回 <新生代>人類の誕生
- 第14回 <現在と未来>地球温暖化と地球環境
- 第15回 まとめ

準備学習	特に必要としない
履修上の留意点	授業の前にYeStudy上に授業で使用使用するプリントのPDFファイルを掲載するので、各自事前に印刷して持参すること
成績評価の方法	定期試験(後期)(80%)、出席(20%)
教科書/テキスト	毎回プリントを配布する。また、プリントはYeStudy上にも掲載する。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・酒井治孝著、地球学入門、惑星地球と大気・海洋のシステム、東海大学出版会(2003年) ・D. ディクソン、I. ジェンキンス、R. T. J. ムーディ、A. U. ジュラヴリョフ著(小島郁生監訳)、生命と地球の進化アトラス I, II, III、朝倉書店(2003年) ・S. Stanley著、Earth System History、W. H. Freeman(2009年) ・E. Tarbuck and F. Lutgens著、Earth an Introduction to Physical Geology 9th ed.、Pearson Education(2008年)
その他	オフィスアワー: 授業後随時、講師室

履修コード	220601
科目名	地球科学 [地球の変遷・生命の進化]
担当者名	山縣 毅

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)

地球科学は、“地球の形成過程やシステム”、“地球の自然環境やそれを支配する要因”、“人間を含めた生物の進化と地球との関わり”などを、地球自体から様々な方法で読み取ったデータを基に理解しようとする学問分野です。本授業では、地球の46億年の歴史を辿りながら、地球という惑星の成り立ちを考えていきます。

(到達目標)

この授業の到達目標は、一般社会人として必要な地球科学の知識を習得するとともに、地球での様々なイベント・現象の仕組みや摂理を理解することにより、地球科学的センスを身に付けていく事にあります。特に近年は、地球温暖化などの地球規模の環境問題の原因を明らかにする上で、過去の地球の環境変化やその原因の理解が重要になってきました。また、私たちが住む日本は、世界的にも自然災害、特に地震災害、火山災害が頻発する国の1つです。こうした環境問題の深い理解や防災・減災のために必要な、地球科学に関連した知識も併せて、学習していきます。

授業スケジュール

1. 地球科学概説
2. 地球の大きさ・形
3. 地球の内部構造
4. プルーム・テクトニクス
5. プレート・テクトニクス
6. 火山活動とそのメカニズム
7. 火山の噴火様式
8. 地震とそのメカニズム
9. 地震に関連する現象
10. 気圏の構造
11. 水圏の構造
12. 大気を動かす力
13. 地球表層の熱循環
14. 地球環境の変動要因
15. 地球の誕生 (46億年前)
16. 海洋と大陸の誕生 (40億年前)
17. 生命の誕生 (40億年前)
18. 強い地球磁場の発生と光合成の開始 (27億年前)
19. 真核生物の登場 (21億年前)
20. 全地球凍結 (7.5~6億年前頃)
21. カンブリア爆発 (5.4億年前)
22. オゾン層の形成と生物の上陸 (5億年前頃)
23. 古生代の生物進化 (5.4~2.45億年前)
24. P/T境界の生物大量絶滅 (2.45億年前)
25. 中生代の生物の進化 (2.45~0.65億年前)
26. K/T境界の生物大量絶滅 (0.65億年前)
27. 新生代の氷河時代 (0.3億年前~現在)
28. 人類の登場 (0.05億年前頃)
29. 人類の進化 (0.05億年前~現在)
30. 未来の地球 (現在~)

準備学習

特になし

履修上の留意点

授業は、板書と併せ、プロジェクターを使いながら進めていきます。

成績評価の方法

前期の授業内容については前期レポート (全体の成績の50%) で、後期の授業内容については期末試験 (全体の成績の50%) で評価します。

教科書/テキスト

特になし。

参考書

授業中に紹介します。

その他

授業に必要な資料は、プリントにして配布します。

履修コード	220801
科目名	地球科学 [地球の変遷・生命の進化]
担当者名	山縣 毅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>地球科学は、“地球の形成過程やシステム”、“地球の自然環境やそれを支配する要因”、“人間を含めた生物の進化と地球との関わり”などを、地球自体から様々な方法で読み取ったデータを基に理解しようとする学問分野です。本授業では、地球の46億年の歴史を辿りながら、地球という惑星の成り立ちを考えていきます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この授業の到達目標は、一般社会人として必要な地球科学の知識を習得するとともに、地球での様々なイベント・現象の仕組みや摂理を理解することにより、地球科学的センスを身に付けていく事にあります。特に近年は、地球温暖化などの地球規模の環境問題の原因を明らかにする上で、過去の地球の環境変化やその原因の理解が重要になってきました。また、私たちが住む日本は、世界的にも自然災害、特に地震災害、火山災害が頻発する国の1つです。こうした環境問題の深い理解や防災・減災のために必要な、地球科学に関連した知識も併せて、学習していきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地球科学概説 2. 地球の大きさ・形 3. 地球の内部構造 4. プルーム・テクトニクス 5. プレート・テクトニクス 6. 火山活動とそのメカニズム 7. 火山の噴火様式 8. 地震とそのメカニズム 9. 地震に関連する現象 10. 気圏の構造 11. 水圏の構造 12. 大気を動かす力 13. 地球表層の熱循環 14. 地球環境の変動要因 15. 地球の誕生 (46億年前) 16. 海洋と大陸の誕生 (40億年前) 17. 生命の誕生 (40億年前) 18. 強い地球磁場の発生と光合成の開始 (27億年前) 19. 真核生物の登場 (21億年前) 20. 全地球凍結 (7.5~6億年前頃) 21. カンブリア爆発 (5.4億年前) 22. オゾン層の形成と生物の上陸 (5億年前頃) 23. 古生代の生物進化 (5.4~2.45億年前) 24. P/T境界の生物大量絶滅 (2.45億年前) 25. 中生代の生物の進化 (2.45~0.65億年前) 26. K/T境界の生物大量絶滅 (0.65億年前) 27. 新生代の水河時代 (0.3億年前~現在) 28. 人類の登場 (0.05億年前頃) 29. 人類の進化 (0.05億年前~現在) 30. 未来の地球 (現在~)
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	講義は、板書と併せ、プロジェクターを使いながら進めていきます。
成績評価の方法	前期の授業内容については前期レポート(全体の成績の50%)で、後期の授業内容については期末試験(全体の成績の50%)で評価します。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	講義中に紹介します。
その他	授業に必要な資料は、プリントにして配布します。

履修コード	222801
科目名	物理学〔光と物質〕
担当者名	篠原 正雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「光とはどのようなものか、光と物質の関係は？」という問いをめぐるさまざまな事柄を取り上げる。「光学」に限定せず、力学、電磁気学、熱力学、量子力学、宇宙物理等に及ぶ。 (到達目標) 生活の中の事柄から大自然までさまざまな現象の物理的側面を理解できるようになること。
---------------------	---

授業スケジュール	「光を光線で表す」 (1)光線 (2)影 (3)鏡 (4)レンズ (5)プリズム (6)虹の七色と三原色 (7)透明人間 「光は波である」 (8)力と運動 (9)振動 (10)波動 (11)音波 (12)定常波 (13)地震波・水の波 (14)光波 (15)シャボン玉の色 「光は電磁波である」 (16)電気と磁気 (17)電場と磁場 (18)電流と磁場 (19)電磁波 (20)電波 (21)X線・ガンマ線 「光は光子である」 (22)熱と温度 (23)熱放射 (24)電磁波は光子 (25)原子と光 (26)原子核と放射線 (27)電子は波 (28)相対性理論 (29)ブラックホール (30)光と宇宙
----------	--

準備学習	毎回の講義内容について次の週の冒頭に小テストを行うので、よく復習しておくこと。 物理学は自然科学全般の基礎をなす科学なので、物理学に限らず、科学関連の新聞記事等には積極的に目を通すこと。 数学・物理の予備知識は知らない。
------	--

履修上の留意点	十分に出席する自信のない者は、履修しないように。
---------	--------------------------

成績評価の方法	期末試験を受けた人だけが成績評価の対象となる。期末試験を含む数回のテストの合計で8割、ほぼ毎回の問題による平常点が2割となる基準点により評価する。S、Aについては教務部のガイドラインを参考にするので、基準点と成績とは必ずしも一致しない。
---------	--

教科書/テキスト	阿部龍蔵著『はじめて学ぶ物理学』（サイエンス社）1,680円+税
----------	----------------------------------

参考書	講義の中で適宜紹介する。
-----	--------------

その他	理解を深めるためにほぼ毎回問題を考えてもらう。YeStudyを活用する。
-----	--------------------------------------

履修コード	222901
科目名	物理学〔光と物質〕
担当者名	篠原 正雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「光とはどのようなものか、光と物質の関係は？」という問いをめぐるさまざまな事柄を取り上げる。「光学」に限定せず、力学、電磁気学、熱力学、量子力学、宇宙物理等に及ぶ。 (到達目標) 生活の中の事柄から大自然までさまざまな現象の物理的側面を理解できるようになること。
---------------------	---

授業スケジュール	「光を光線で表す」 (1)光線 (2)影 (3)鏡 (4)レンズ (5)プリズム (6)虹の七色と三原色 (7)透明人間 「光は波である」 (8)力と運動 (9)振動 (10)波動 (11)音波 (12)定常波 (13)地震波・水の波 (14)光波 (15)シャボン玉の色 「光は電磁波である」 (16)電気と磁気 (17)電場と磁場 (18)電流と磁場 (19)電磁波 (20)電波 (21)X線・ガンマ線 「光は光子である」 (22)熱と温度 (23)熱放射 (24)電磁波は光子 (25)原子と光 (26)原子核と放射線 (27)電子は波 (28)相対性理論 (29)ブラックホール (30)光と宇宙
----------	--

準備学習	毎回の講義内容について次の週の冒頭に小テストを行うので、よく復習しておくこと。 物理学は自然科学全般の基礎をなす科学なので、物理学に限らず、科学関連の新聞記事等には積極的に目を通すこと。 数学・物理の予備知識は知らない。
------	--

履修上の留意点	十分に出席する自信のない者は、履修しないように。
---------	--------------------------

成績評価の方法	期末試験を受けた人だけが成績評価の対象となる。期末試験を含む数回のテストの合計で8割、ほぼ毎回の問題による平常点が2割となる基準点により評価する。S、Aについては教務部のガイドラインを参考にするので、基準点と成績とは必ずしも一致しない。
---------	--

教科書/テキスト	阿部龍蔵著『はじめて学ぶ物理学』（サイエンス社）1,680円+税
----------	----------------------------------

参考書	講義の中で適宜紹介する。
-----	--------------

その他	理解を深めるためにほぼ毎回問題を考えてもらう。YeStudyを活用する。
-----	--------------------------------------

履修コード	227801 227802
科目名	物理学序論I 物理学序論
担当者名	鳥山 保

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>高校で「物理」を履修していない学生や物理が苦手であった学生を対象とした補習的な科目である。本講義(物理学序論I)では放射線技術を利用した診断を行う当り必須とされる基礎物理学の中で、力学と波動についての物理の基本的な法則や基礎的事項について演習をまじえて学び、理解を深める。</p> <p>(到達目標)</p> <p>特に、力学では診断・治療に用いられるX線、γ線、粒子線等の人体へのエネルギー付与について、波動では超音波診断(US Echo)検査で用いられる音波、ならびに磁気共鳴画像(MRI)検査で用いられるラジオ波、コンピュータ断層診断(CT)検査で用いられるX線、ポジトロン断層診断(PET)検査で用いられるγ線等の電磁波についての物理的な説明ができるようになることを到達目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 物理学(1)//物理学とは・物理量の表し方・次元・小テスト1 2. 力学の基本(1)//力・運動の表し方・運動の法則・等速円運動・小テスト2 3. 力と運動(1)//放物運動・雨滴の落下・振動・仕事とエネルギー・運動量・小テスト3 4. 運動量とエネルギーの保存則(1)//保存力・弾性衝突と非弾性衝突・小テスト4 5. 波動(1)//波の種類と性質・小テスト5 6. 音波(1)//物質(気体・液体・固体)の音波・ドップラー効果・超音波・小テスト6 7. 電磁波(1)//ラジオ波・光波・X線・γ線・小テスト7 8. 到達度テスト 9. 物理学(2)//物理学とは・物理量の表し方・次元・小テスト1&8 10. 力学の基本(2)//力・運動の表し方・運動の法則・等速円運動・小テスト2&9 11. 力と運動(2)//放物運動・雨滴の落下・振動・仕事とエネルギー・運動量・小テスト3&10 12. 運動量とエネルギーの保存則(2)//保存力・弾性衝突と非弾性衝突・小テスト4&11 13. 波動(2)//波の種類と性質・小テスト5&12 14. 音波(1)//物質(気体・液体・固体)の音波・ドップラー効果・超音波・小テスト6&13 15. 電磁波(1)//ラジオ波・光波・X線・γ線・小テスト7&14
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・高校で物理を履修している学生は、使用した教科書・参考書を使って上記授業スケジュールの学習項目について復習しておくこと。 ・高校で物理を履修していない学生は、NHKの高校講座(物理)をインターネットで見るとして、上記授業スケジュールの学習項目について学習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	<p>高校で履修しなかった学生を主とした授業であるので、4月、5月、6月はじめの2ヶ月と1週までに各週小テストを行いながら、一週り力学・波動を終えて、6月中旬に到達度テストを行う。その成績を見て、再度復習するクラスと授業への出席はせず、新たな小テストを提出して自習をしていくクラスに分離し、期末テストは別々に行う。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席(20%)、小テスト(20%)、到達度テスト(30%)、期末テスト(30%)を標準得点比率として評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>原康夫著 第3版 基礎物理学 学習図書出版社</p>
----------	-------------------------------

参考書	
-----	--

その他	<p>ttoriyam@komazawa-u.ac.jp</p>
-----	----------------------------------

履修コード	227811
科目名	物理学序論II
担当者名	佐藤 昌憲
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	高校で「物理Ⅱ」を履修していない学生や物理が苦手な学生を対象とした補習的な科目である。電気工学で必要となる電気回路の基本的な法則や基礎的事項について、演習をまじえて理解を深める。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 電気とは 2. 電流・電圧・起電力 3. オームの法則 4. 直流回路の計算 5. キルヒホッフの法則 6. ホイートストンブリッジ 7. 電池の接続法 8. 電力・電力量・効率 9. 電流による発熱作用 10. 発生熱量と温度上昇 11. 電気抵抗と抵抗率・導電率 12. 抵抗の温度係数 13. 電気の各種作用
準備学習	前回の授業内容を復習し、当日の授業内容について予習すること。
履修上の留意点	この科目は、高校で物理を履修しなかった学生を対象とした選択科目であるが、基礎物理学や電気工学や放射線機器工学に継り基礎となる選択科目です。高校で物理を履修した学生も基礎知識の習得の為に履修してください。
成績評価の方法	小テスト40%と定期試験60%により評価する。
教科書／テキスト	「電気基礎上」 (東京電機大学)
参考書	

(4) 総合分野

履修コード	228201
科目名	総合I 〔仏教と社会〕
担当者名	熊本 英人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本の社会の諸問題を、仏教とのかかわりから考える。 社会とは、人間の言語、慣習、規範、制度などによって規定された世界であり、人間は、その社会のあり方を思索し、理想的な社会の実現に努力している。 仏教は、社会とどのようにかかわり、影響を与え、あるいは運動を起こしてきたか。仏教の立場、仏教の功罪、仏教への期待などをみていくことで、現代社会への問題提起を行いたい。 (ねらい) 仏教や宗教が社会に大きな影響を及ぼしていることを理解し、自分自身に直接関係ある問題として関心を持つことを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	1 はじめに 2～5 仏教と戦争 6～13 仏教と差別 14～17 仏教と女性 18～21 仏教と家族 22～29 仏教と生命倫理 30 おわりに
----------	---

準備学習	仏教について、一般常識程度の知識があることが望ましい。
------	-----------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	適宜レポートを課す。年度末の筆記試験またはレポートと合わせて評価する。(課題50%、テスト50%)
---------	---

教科書/テキスト	適宜プリントで配布する。
----------	--------------

参考書	末本文美士編『現代と仏教』(佼成出版社、2006年)2,625円 その他、講義の中で随時紹介する。
-----	--

履修コード	228301
科目名	総合I 〔仏教と芸術〕
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、仏教美術の誕生から伝播について、インド・西域・中国・朝鮮半島の仏像・仏画をスライドを写して概観する。同じモチーフが時代や地域によって変化してゆく過程を、歴史的な背景と照らし合わせながら考察してゆく。講義を通して、信仰が生み出した深遠なる美の表現を眼と心で会得してもらいたい。
---------------------	---

授業スケジュール	〔前期〕 仏教美術の世界 (1～2) インドの仏教美術 (3～5) 西域の仏教美術 (6～8) 初期の敦煌石窟 (9～11) 後期の敦煌石窟 (12～15)
----------	---

	〔後期〕 炳靈寺石窟 (16～17) 麦積山石窟 (18～20) 雲岡石窟 (21～23) 龍門石窟 (24～27) 朝鮮三国の仏教美術 (28～30) 以上は予定で、講義の合間に特定の意匠(仏像の胸飾・宝冠・袈裟など)についても考察する。
--	--

準備学習	『世界美術全集』東洋編(小学館)などを図書館等で読んでおくと、受講する際にスムーズに理解できる。
------	--

履修上の留意点	博物館・美術館で開催される仏教美術関係の展覧会には、積極的に足を運ぶこと。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	出席率・レポート・授業態度・定期試験などを総合的に評価する。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	プリントを配布する。
----------	------------

参考書	『かわいい、キレイ、かっこいい、たのしい仏像のみかた』(日本文芸社)、その他は講義中に適宜参考書を紹介する。
-----	--

履修コード	228401
科目名	総合II〔駒澤大学の歴史〕
担当者名	熊本 史雄 皆川 義孝 廣瀬 良弘 佐々木 真 中村 淳 大城 道則 小泉 雅弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義では、スライドや写真資料などを豊富に織り交ぜながら、駒澤大学および世田谷地域の歴史につき概述します。</p> <p>駒澤大学は、平成24年(2012)に「開学130周年」を迎えます。これは、駒澤大学の前身・曹洞宗大学林専門学本校が設置された、明治15年(1882)を起点としたものです。しかし、駒澤大学の起源は遠く戦国時代の終わり、文禄元年(1592)にまでさかのぼることができます。その年、曹洞禅の研究と漢学の振興を目的として、「学林」が開かれました。実に420年前の話になります。最近では、駅伝や空手などをはじめ、スポーツ部門でもその名を轟かせている駒澤大学ですが、こうした古くからの伝統と学風も、現在の駒澤大学に受け継がれている大事な要素です。</p> <p>さらには、「世界の大学との比較」というテーマでも後述します。時代や地域によって、それぞれに求められた「教養のあり方」の差異も学び取って欲しいと思います。</p> <p>本講義を通じて、駒澤大学の歴史を学ぶとともに「駒澤スピリット」を感じ取り、受講生それ</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業計画とガイダンス 2. 道元と曹洞宗 3. 永平寺と総持寺 4. 吉祥寺施檀林の誕生 5. 学寮での厳しい修行 6. 学寮から学校へ 7. 明治政府の宗教・教育政策 8. 曹洞宗大学の発足 9. 日ヶ窪から駒沢へ 10. 大学令と「駒澤大学」の誕生 11. 「大正教養主義」と駒大生 12. 「郊外」の誕生と駒大 ～玉電の開通と世田谷の発展～ 13. 戦時下の駒大① 14. 戦時下の駒大② 15. 「禅文化歴史博物館」の見学 16. ビデオ鑑賞 ～『シリーズ映像の世紀 第11集 Japan』～ 17. 世界の大学との比較① ～古代エジプトの教育～ 18. 世界の大学との比較② ～ヨーロッパの大学 宗教機関から世俗機関へ～ 19. 世界の大学との比較③ ～駒澤大学と東洋学(1)～ 20. 世界の大学との比較④ ～駒澤大学と東洋学(2)～ 21. 占領政策と新制大学の設立 22. 文系総合大学への道とマンモス校化 23. 東京オリンピックと駒大 24. スポーツにみる駒大の躍進 ～駅伝・野球・サッカー～ 25. 国際交流における駒澤大学 ～留学・学術交流～ 26. 駒大建築物語 27. 駒大の名物教授／駒大図書館所蔵の貴重書・稀覯本 28. 学生生活今昔物語 29. 駒澤大学のいまとこれから 30. まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	これから4年間を過ごすことになる駒澤大学のことを、広く、深く知って下さい。駒澤大学に対する理解と愛着が深まることを願っています。
成績評価の方法	学年末の期末試験(70%)と出席状況および授業への取り組み(30%)。
教科書／テキスト	特に指定しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	228901
科目名	総合III〔フランスとフランコフォニー〕
担当者名	東 辰之介

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要)</p> <p>前期はフランスの社会や文化について、後期はフランコフォニーについて学ぶ。フランコフォニーとは、フランス語圏あるいはフランコフォニー国際機関(OIF)加盟国のことであるが、両者は必ずしも一致しない。この授業では、その違いを理解した上で、それぞれについて基本的事項を学習する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>フランスとフランコフォニーについてのニュースを自分なりに理解し、それについて意見を述べられるようになることを到達目標とする。フランス語を公用語とする国は30近くあり、フランコフォニー国際機関の加盟国はオブザーバーを含めると70を超える。こうした規模を考えると、現代世界を広く理解する上で、フランスとフランコフォニーについての知識はきわめて重要であると考えられる。フランス語の知識は前提としないが、知っていたほうが学習効果は高まる。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. フランス総論 2. 社会 (1) 3. 社会 (2) 4. 社会 (3) 5. 文化・教育・スポーツ (1) 6. 文化・教育・スポーツ (2) 7. 文化・教育・スポーツ (3) 8. 文化・教育・スポーツ (4) 9. 経済・産業 (1) 10. 経済・産業 (2) 11. 法・法律 (1) 12. 法・法律 (2) 13. 政治と外交 (1) 14. 政治と外交 (2) 15. 前期学習内容の理解度の確認 16. フランコフォニー総論 17. ヨーロッパ (1) 18. ヨーロッパ (2) 19. ヨーロッパ (3) 20. ヨーロッパ (4) 21. アメリカ (1) 22. アメリカ (2) 23. アメリカ (3) 24. アフリカ (1) 25. アフリカ (2) 26. アフリカ (3) 27. アジア・オセアニア (1) 28. アジア・オセアニア (2) 29. アジア・オセアニア (3) 30. 後期学習内容の理解度の確認
----------	--

準備学習	<p>YeStudyの「フォーラム」機能や「課題」機能を使って、情報ソースの提示とそれについてのコメントを求めることがある（フランスに関するWeb上のニュースを提示し、それについて自分の意見を述べるなど）。コメントすべき情報ソースを、教員が指定する場合もある。授業を欠席した場合は、宿題についての連絡がないか、YeStudyを見て確認すること。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>単位修得には、YeStudyでの課題提出や授業内でのコメントペーパー提出が不可欠です。授業にはきちんと出席し、積極的な態度で学習に取り組んでください。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>学期中の課題提出 (50%)、前期末レポート (25%)、学年末試験 (25%) を基本に、出席状況・授業態度等を勘案し、総合的に評価します。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>プリント配布</p>
----------	---------------

参考書	<p>三浦信孝・西山教行編著『現代フランス社会を知るための62章』明石書店 (2010年)</p>
-----	---

その他	<p>YeStudyを活用します。</p>
-----	-----------------------

履修コード	228701
科目名	総合III [人権と社会問題]
担当者名	ピアス. D. M.

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	What does it feel like to attend a university-level course in a foreign country? This course prepares for study abroad. The course will have the form of a discussion-group. We will not study English; we will study academic topics in English. Lectures, compositions, and conversation practice will deal with social problems such as human rights, war, feminism, poverty, suicide, sex, racism, euthanasia, abortion, ecology, etc.
---------------------	--

There will be intensive practice in quotidian, controversial, and intellectual levels. Emphasis is upon communication of opinions in spoken English.

授業スケジュール	SCHEDULE OF TOPICS
	CLASS 1 Rights
	CLASS 2 Rights
	CLASS 3 Rights
	CLASS 4 Income
	CLASS 5 Income
	CLASS 6 Income
	CLASS 7 Income
	CLASS 8 Feminism
	CLASS 9 Feminism
	CLASS 10 Feminism
	CLASS 11 Feminism
	CLASS 12 Euthanasia
	CLASS 13 Euthanasia
	CLASS 14 Euthanasia
	CLASS 15 Euthanasia
	CLASS 16 Abortion
	CLASS 17 Abortion
	CLASS 18 Abortion
	CLASS 19 Racism
	CLASS 20 Racism
	CLASS 21 Racism
	CLASS 22 Racism
	CLASS 23 Suicide
	CLASS 24 Suicide
	CLASS 25 Suicide
	CLASS 26 Suicide
	CLASS 27 War
	CLASS 28 War
	CLASS 29 War
	CLASS 30 War

準備学習	Class preparation: The course proceeds exactly according to the series of topics in the textbook. You can prepare for the upcoming class by reading the first five pages, starting from the last exercise of the class.
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法	ATTENDANCE: We hope that participation will be perfect, although allowances will be made for sickness, wedding ceremonies, funerals, sporting events, etc.
---------	--

FINAL ASSESSMENT: Small essays on each of our main topics. Essay-writing will raise ability and confidence in writing English. There will be no in-class examinations.

教科書/テキスト	Textbook: We will probably use Sociological Investigation, Themis Research Group, as our textbook. In the first class meeting we will have a diagnostic test; do not buy the text until after the first class.
----------	--

参考書

履修コード	229101
科目名	総合IV〔新市民社会論〕
担当者名	西村 祐子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>前期予定 市民社会とNPO</p> <p>(1) 草の根NPOと自治体のかかわりかたを日本と米国などを比較して考える。</p> <p>(2) 日本における国際協力をJICAの事例をとおして考える。</p> <p>(3) アジアの市民社会と国際NGOの役割について考える。</p> <p>(4) 被差別マイノリティと草の根NPOについて日本とインド・フィリピンなどアジア社会を事例に考える。</p> <p>YeStudyをつかい、インターネットによる情報収集の仕方や情報の整理やまとめ方についても学ぶ。</p>
--------------------	---

後期予定 NGOと途上国援助

(1) インドとフィリピンにおける公衆衛生プロジェクトを中心に、環境、マイノリティ、被差別問題を考える。

(2) 現代インド社会についての知識を深める。現代インド映画鑑賞あり。

(3) 国際NGOやグローバル企業などでもつかわれているPRA (participant Research Appraisal) とPDM (Project Design Matrix) を学び応用できるようにする。

企業などでも役立つスキルとしてPRAやPDMでのプロジェクトの立て方などを学んでゆく。

授業スケジュール	<p>前期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民社会とはなにか。日米比較 2. NGO, NPOの役割 日米比較：まちづくり研究 3. シアトルのNPOと自治体の連携：まちづくり研究 4. NPOと自治体の連携：日米比較 5. グローバル化現象と国際協力 6. 日本の国際協力と市民社会：外部講師講義（1） 7. 国際協力の現状と日本：まとめ（1） 8. 移民とグローバル化、市民社会の変貌（1） 9. 移民とグローバル化、市民社会の変貌（2） 10. グローバル化と国際協力の実情 11. 草の根協力和開発途上国：インドとフィリピンの事例研究 12. 途上国社会と市民セクター：NGOの役割 インド（1） 13. 途上国社会と市民セクター：NGOの役割 フィリピン（2） 14. 途上国と市民セクター（1）フィリピン 15. 途上国と市民セクター（2）インド <p>後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PRAとはなにか（演習形式） 2. PRAの実践（演習形式） 3. PDAとはなにか（演習形式） 4. PDAの実践（演習形式） 5. インド事情研究：クラスとカースト：政治と宗教の側面から 6. インド事情研究：ジェンダー、宗教、マイノリティ集団 7. インドの市民社会とNGO 8. インド地縁組織とコミュニティ開発 9. 被差別カーストとコミュニティ開発 10. 行政とNPO, NGO：公衆衛生の実情 11. 公衆衛生とバイオトイレ：グローバルな環境問題の観点から 12. PCM とはなにか（演習形式）1 13. PCM とはなにか（演習形式）2 14. PCM とはなにか（演習形式）3 15. PCM とはなにか（演習形式）4
----------	---

準備学習	<p>参考文献を読んでおく。</p> <p>大学のオンライン学習コース（YeStudy）に登録し、使い方を学んでおく。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>インターネットによる資料調査をおこなうので学内で使用するコンピュータ用IDを必ず取得しておくこと。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席（25%）、毎回の小レポート内容（30%）、前期、後期それぞれのレポート（45%）。試験はない。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>草の根NPOのまちづくり：シアトルからの挑戦 勁草書房</p> <p>この他の補助テキストと資料はオンライン自習システムのYeStudyで配布する。</p>
----------	---

参考書	<p>JICAに関しては http://www.jica.go.jp/</p> <p>南インドにおけるバイオトイレ事業、エコサントイレについては以下をみておく。</p> <p>http://www.b1b2.org/EcoSan/index.htm</p> <p>http://jp.YouTube.com/watch?v=gPumNZRR2Cg, http://jp.YouTube.com/watch?v=6xPqyF9CVRE、 http://www.indiawaterportal.org/blog/category/ecosan/</p>
-----	--

その他	<p>本学でもちいているオンライン自習機能のYe-studyをつかって教材を配布し毎回コメントや授業のまとめを提出させる。またレポート提出もYeStudyをつかう。</p>
-----	--

履修コード	229001
科目名	総合Ⅳ〔現代アメリカ事情〕
担当者名	林 明人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代のアメリカが抱えている様々な問題を、具体的なキーワード(abortion, affirmative action, euthanasia, Brady Bill等)を説明しながら紹介します。 (到達目標) アメリカ人の持つ価値観を学び、アメリカで起こる様々な問題の本質を理解出来るようになること。
---------------------	--

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>世界史の中のアメリカ(1)</td> <td>16</td> <td>Brady Bill (1)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界史の中のアメリカ(2)</td> <td>17</td> <td>Brady Bill (2)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>世界史の中のアメリカ(3)</td> <td>18</td> <td>Brady Bill (3)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>世界史の中のアメリカ(4)</td> <td>19</td> <td>official English law (1)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>世界史の中のアメリカ(5)</td> <td>20</td> <td>official English law (2)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>世界史の中のアメリカ(6)</td> <td>21</td> <td>official English law (3)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>世界史の中のアメリカ小テスト</td> <td>22</td> <td>euthanasia (1)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>abortion(1)</td> <td>23</td> <td>euthanasia (2)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>abortion(2)</td> <td>24</td> <td>euthanasia (3)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>abortion(3)</td> <td>25</td> <td>hate crime (1)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>affirmative action(1)</td> <td>26</td> <td>hate crime (2)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>affirmative action(2)</td> <td>27</td> <td>hate crime (3)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>affirmative action(3)</td> <td>28</td> <td>multiculturalism (1)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>political correctness</td> <td>29</td> <td>multiculturalism (2)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>前期のまとめ</td> <td>30</td> <td>後期のまとめ</td> </tr> </table>	1	世界史の中のアメリカ(1)	16	Brady Bill (1)	2	世界史の中のアメリカ(2)	17	Brady Bill (2)	3	世界史の中のアメリカ(3)	18	Brady Bill (3)	4	世界史の中のアメリカ(4)	19	official English law (1)	5	世界史の中のアメリカ(5)	20	official English law (2)	6	世界史の中のアメリカ(6)	21	official English law (3)	7	世界史の中のアメリカ小テスト	22	euthanasia (1)	8	abortion(1)	23	euthanasia (2)	9	abortion(2)	24	euthanasia (3)	10	abortion(3)	25	hate crime (1)	11	affirmative action(1)	26	hate crime (2)	12	affirmative action(2)	27	hate crime (3)	13	affirmative action(3)	28	multiculturalism (1)	14	political correctness	29	multiculturalism (2)	15	前期のまとめ	30	後期のまとめ
1	世界史の中のアメリカ(1)	16	Brady Bill (1)																																																										
2	世界史の中のアメリカ(2)	17	Brady Bill (2)																																																										
3	世界史の中のアメリカ(3)	18	Brady Bill (3)																																																										
4	世界史の中のアメリカ(4)	19	official English law (1)																																																										
5	世界史の中のアメリカ(5)	20	official English law (2)																																																										
6	世界史の中のアメリカ(6)	21	official English law (3)																																																										
7	世界史の中のアメリカ小テスト	22	euthanasia (1)																																																										
8	abortion(1)	23	euthanasia (2)																																																										
9	abortion(2)	24	euthanasia (3)																																																										
10	abortion(3)	25	hate crime (1)																																																										
11	affirmative action(1)	26	hate crime (2)																																																										
12	affirmative action(2)	27	hate crime (3)																																																										
13	affirmative action(3)	28	multiculturalism (1)																																																										
14	political correctness	29	multiculturalism (2)																																																										
15	前期のまとめ	30	後期のまとめ																																																										

準備学習	普段からアメリカに関するニュースに関心を払うようにする。
履修上の留意点	遅刻(交通機関の遅延を除く)及び授業中の出入りは認めません。
成績評価の方法	①試験(40%)②レポート(30%)③平常点(30%)で総合評価するが、①~②のそれぞれの評価が一つでも3割に満たない場合、また③の平常点が3分の2以下の場合は評価の対象にしない。
教科書/テキスト	プリントを配布します。
参考書	

履修コード	229301
科目名	総合Ⅴ〔イギリスの歴史と文化〕
担当者名	石原 孝哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	イギリス史の流れのなかで、イギリス文化がいかに形成されてきたかを考察します。
授業スケジュール	日本と同じ島国でありながら、イギリスは異民族支配と異文化の同化を繰り返しながら独自の文化を形成してきました。プリント教材を中心に、映像、動画、ホームページなどを利用しながら、独自の文化の源泉をたどります。 前期授業計画：1、歴史の霧の彼方に 2、ローマ支配下のブリタニア 3、アングロ・サクソンの時代 4、キリスト教の布教 5、聖者伝説 6、アーサー王伝説 7、アーサー王伝説 2 8、ノルマン人の征服 9、国王対諸侯、イギリスの民主主義 10、ウェールズとスコットランド 11、スコットランド 12、目を見張る教会建築 13、近代英語の登場 14、ばら戦争と中世の終焉 15、伝説・神話・文学 後期授業計画：1、テューダー王朝の成立 2、テューダー史観と歴史ブーム 3、イギリスの宗教改革 4、イギリスのルネッサンス 5、テューダー史観とシェイクスピアの歴史劇 6、内戦への道 7、禁欲から享楽へ 8、パブリックハウスの誕生 9、君臨すれども統治せず 10、イングリッシュ・ガーデン 11、風景庭園 12、文学からみたイギリス文化 13、作家の故郷を訪ねて 14、幽霊と暮らす風流人 15、文化遺跡を訪ねて

準備学習	イギリスの歴史、文化、文学、芸術などに関する予備知識が多ければ多いほど理解が深まります。
履修上の留意点	毎回プリントを配布するので欠席しないように。ホームページなどを参考にすることでコンピューターが使えると便利です。
成績評価の方法	試験、前期レポート、夏休みレポート、後期レポートを総合的に評価します。
教科書/テキスト	プリントを配布します。
参考書	『イギリス検定』南雲堂フェニックス、1600円

履修コード	229601
科目名	総合VI [民族とは何か]
担当者名	大野 祐二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は、文化人類学的な視点から「民族」にまつわる様々な現象を、我々の日常生活において理解することを、主たるねらいとしています。世界各地で噴出する民族問題の百科事典的な紹介ではなく、問題を理解する際に必要なアプローチなり、方法や認識について考察することを通して、我々の日常との関連について、つまり「あちら／他者」の問題としてではなく、「あちらとこちら／自己と他者」との関係のあり方から検討することを目指します。
---------------------	--

授業スケジュール	具体的なスケジュールについては最初の講義の際に伝えますが、前期においては文化人類学的な方法論（文化の概念、異文化の記述・異文化へのまなざし、文化相対主義、他者表象など）に中心になります。 後期は、ビデオ教材も使いながら、日本・朝鮮半島・北米などにおける事例を検討しながら、「民族」現象について国家・ナショナリズム・植民地主義・歴史・伝統文化などとの関連から考察を進める予定です。
----------	--

準備学習	関心がある民族について前もって調べておくこと。
------	-------------------------

履修上の留意点	講義形式ですすめますが、一方的にならないため質問時間も可能な限りとります。大幅に遅刻する人はご遠慮ください。
---------	--

成績評価の方法	前後期の定期試験（またはレポート）、および小テストで評価します。
---------	----------------------------------

教科書／テキスト	詳細については授業中にプリントで伝える予定です。
----------	--------------------------

参考書	原尻英樹著『コリアンタウンの民族誌』（筑摩書房） 吉野耕作著『文化ナショナリズムの社会学』（名古屋大学出版会） 李孝徳著『表象空間の近代』（新曜社）
-----	--

履修コード	229801
科目名	総合VI [フェミニズム・ジェンダー]
担当者名	大橋 史恵

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業はジェンダーの視点から現代社会における様々な事象について再理解することを目指すものである。(1)ジェンダーという概念とその理論的射程について基礎から把握し、(2)「家族」「労働」「戦争」「開発」「グローバリゼーション」といった具体的サブテーマに引き付けながら、ジェンダーが私たちの生きる世界とどのように結びついているのかを議論する。
---------------------	--

授業スケジュール	前期の授業では、ジェンダーという概念を基礎的に把握し、それに関わるフェミニズムやセクシュアリティ研究の理論について理解する。とりわけ家族、恋人や友人との関係、学校、職場など、身近なところに介在する権力powerについて議論するところから、自分自身のかかわる問題としてジェンダーを考えることを目指す。 (1) ジェンダー概念の基礎的整理 (2) 権力powerについて考える (3) セクシュアリティとは何か (4) 「家族」の変化とその意味 (5) 労働とジェンダー
----------	--

準備学習	授業内で配布した資料はかならず精読すること。また関連する書籍（とりわけ授業内で参考書として指示するもの）、新聞記事や時事評論などを積極的に読み、日常的に勉強すること。
------	---

履修上の留意点	(1) 講義形式ですが、相互交流型の授業になるよう心掛けていきます。このため、レスポンスカードをしっかりと書いてもらうほか、課題を出して自らの意見をまとめてもらうことがあります（提出は成績に反映されます）。また授業の場で発言を求めることもあります。 (2) ディスカッションの場以外での私語や、携帯電話の使用など、他の出席者に迷惑になるような行為を厳しく禁止します。気になった場合には次回以降の出席を認めません。 (3) 課題を含め、資料をウェブ上にアップロードすることがあります。インターネット環境を整えておいてください。
---------	--

成績評価の方法	以下を総合的に判断して成績評価をおこないます。 (1) 出席状況（7割以上） (2) 毎回のレスポンスカードの内容 (3) 授業内で指示した課題の提出 (4) 学年末レポート 「履修上の留意点」に書いたように、授業において迷惑行為があった場合には次回以降の出席を認めません（つまり単位が付与されません）。
---------	--

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	講義中にその内容に応じて紹介する。
-----	-------------------

履修コード	230001
科目名	総合VII〔都市論〕
担当者名	内海 麻利 中西 正彦 早川 純貴 村上 暁信 真鍋 陸太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「都市」は多様な問題が集積する場である。過密化と空洞化、環境問題、犯罪、景観紛争など、これらは、国際化や人口動態などを背景として独自のダイナミズムを持つ一方で、人々の意思決定により変容を繰り返し、都市社会が示す多様な表象としてかたちづくれ、人々の生活に強く影響を及ぼす。都市の変化や現状を政治学あるいは都市計画・まちづくり等の多角的視点から概観し、その将来を考える。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>5名の講師により、各々3回又は6回の講義を担当する。講師、講義内容については以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 内海麻利『都市論』ガイダンス ■ 中西正彦「都市開発とその影響」 都市の大きな変容を促す都市開発事業は、機能性に優れた都市空間を目指す一方で、合理的な計画立案や合意形成、事業性の確保などに多くの困難があり、周辺地域に対しても良くも悪くも大きな影響を与える。このような都市開発を巡る制度・実際・課題を実例を交えて論じる。 ■ 村上暁信「都市のランドスケープ」 都市のランドスケープを読み解く基本的な視座について、概念・歴史・関連する諸制度などの観点から概説する。また、ヒートアイランド現象をはじめとする都市の環境問題解決に向けた都市ランドスケープ保全のあり方について考察する。 ■ 真鍋陸太郎「まちづくりと情報」 都市計画・まちづくりを考える際にまちに関する情報は欠かせない。情報の収集・蓄積・利活用自体がまちづくりの「活動」となることもある。都市計画・まちづくり分野に関わる「情報」の役割について最近の取り組みとその意義について論じる。 ■ 早川純貴「まちづくりと住民参加」 いわゆる迷惑施設や再開発をめぐる住民と行政の対立、地域による防災への取組み、老人・障害者支援など身近にあるまちづくり、そして古い家並みや建造物の保存運動などを通じ、住みやすく愛着のある「まちのかたち」を住民参加の観点で考える。 ■ 内海麻利「都市計画法とその動向」 都市計画法には、土地利用や道路・公園等の都市施設の整備、市街地開発など、都市をかたちづくるための様々なルールや仕組みが定められている。その課題や展望も含めて、社会情勢を踏まえ目指すべき法制度の変化と動向を考察することで、都市及びまちづくりのあり方を考える。
----------	--

準備学習	各教員の指示に応じて、予習、復習を行うこと。
履修上の留意点	日本や海外の都市問題に強い関心を持つ学生の受講を歓迎する。
成績評価の方法	成績は各講師がレポートないし小テスト等により判断し、それらを内海が総合して評価する。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	担当の各教員がその都度紹介する。

3. 保 健 体 育 科 目

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（ジョギング）
担当者名	内山 雅博

授業概要／ 到達目標（ねらい）	健康、体力の維持増進を目的として行なわれる走運動、それがジョギングである。普及し始めて約30年になろうとしている比較的新しい種目でもある。健康作りの運動はひとりひとりの体力に応じた運動処方が必要であり、指導者任せのトレーニングにすることなく、その処方を自分自身の手によって立案し、安全に実施することのできる能力を高めることを学習目的とする。実際の内容については、エクササイズ・ウォーキング（速歩）によってジョギングに必要な技術と体力を高めながら、30～60分程度のジョギングを実施することとする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：諸注意・心拍数測定・体重測定 2時限目：エクササイズ・ウォーキング（速歩、12分/kmで歩く） 3時限目：" 4時限目：ゆっくりとしたジョギング（時間走、距離走、12分/kmで走る） 5時限目：" 6時限目：" 7時限目：12分間走 8時限目：ジョギング（10分/kmでの時間走、距離走） 9時限目：" 10時限目：" 11時限目：" 12時限目：ジョギング（10分/km～6分/kmのペースで自由走） 13時限目：" 14時限目：12分間走 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：実技のできる服装とする。 シューズ：ランニングシューズ、トレーニングシューズに限る。陸上競技用のスパイクシューズはトラック保護の立場から不可とする。 事前にメディカルチェック（心電図、負荷心電図、その他）を受けることが望ましいが、体調を整えて受講とする。（食事をとること、睡眠時間の充分なこと。給水を怠らないことなど）ジョギングによって相当量の発汗を伴うための着替えの用意が必要である。
---------	--

成績評価の方法	出席を重視する。積極性、平常点（授業への参加度）を加味する。
---------	--------------------------------

その他	雨天時は歩行・走運動のための補助（技術を高める）・補強運動（筋力等を高める）を実施する。
-----	--

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（サッカー）
担当者名	大森 西三郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ボールを通じたコミュニケーションでの仲間作り、そして、その仲間と楽しみながらサッカーを実施することでの健康作りを目的に実施していきます。具体的な実施内容としては、世界でもっとも愛されているスポーツであるサッカーを楽しむための基本技術（ドリブル、ボールコントロール、キック）トレーニング、また、その習得の場としてミニゲーム（1V1～5V5）を実施し、段階的に11人制のゲームへと発展させて行きます。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、事業内容の説明 2時限目：基本技術トレーニング（インサイドキック、リフティング）、ゲーム 3時限目：基本技術トレーニング（1V1の攻防での技術・戦術）、ゲーム 4時限目：基本技術トレーニング（2V2の攻防での技術・戦術）、ゲーム 5時限目：基本技術トレーニング（3V3の攻防での技術・戦術）、ゲーム 6時限目：基本技術トレーニング（4V4の攻防での技術・戦術）、ゲーム 7時限目：基本技術トレーニング（5V5の攻防での技術・戦術）、ゲーム 8時限目：基本技術トレーニング（ゴールキーパーの基礎）、ゲーム 9時限目：基本技術トレーニング（8V8の攻防での技術・戦術）、ゲーム 10時限目：基本技術トレーニング（11V11の攻防での技術・戦術）、ゲーム 11時限目：リーグ戦1 12時限目：リーグ戦2 13時限目：リーグ戦3 14時限目：リーグ戦4 15時限目：リーグ戦5
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：サッカーができる一般的な運動服装とする。 シューズ：必ずアップシューズもしくは、固定式スパイクを用意すること （取替え式スパイクは使用不可）
---------	---

成績評価の方法	評価は、平常点70%、実技点30%、とする。
---------	------------------------

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	下谷内 勝利

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この授業は、卓球の基本技術を学習した後、シングルス、そしてダブルスの順にゲームを展開する。その過程で卓球というスポーツへの理解を深めてもらい、生涯スポーツの基礎を築いてもらうことを目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形、簡易ゲーム 3時限目：フォアハンドドライブ、簡易ゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方、シングルスリーグ戦 5時限目：バックハンドショートの打ち方、シングルスリーグ戦 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスリーグ戦 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスリーグ戦 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスリーグ戦 9時限目：ダブルスゲームの行い方、ダブルスゲームの練習、ダブルスリーグ戦 10時限目：ダブルスリーグ戦 11時限目：ダブルスリーグ戦 12時限目：ダブルスリーグ戦 13時限目：ダブルスリーグ戦 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
----------	---

準備学習	卓球のルールを予習しておいてほしい。
------	--------------------

履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）
---------	--

成績評価の方法	授業に出席して、積極的に実技に取り組む姿勢が重要である。したがって、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点はスキルテストにて判定する。
---------	---

教科書／テキスト	特になし。
----------	-------

参考書等	特になし。
------	-------

その他	グループ毎にリーグ戦を行うことが多いため、30分以上の遅刻は認めないものとする。
-----	--

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（ダブルダッチ）
担当者名	末次 美樹

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ダブルダッチとは、2本の長縄を使って行う、縄跳び運動である。誰もが手軽にでき、集中力・リズム感・バランス感覚が身につく、また、動きを自分達で工夫する事で想像力やチームワークも身に付く、優れた運動である。ダブルダッチを体得することにより、現在および将来の体力・健康の保持増進を目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ターナーの練習・ジャンプの練習 3時限目：短縄を使って練習・縄一本での練習 4時限目：ペアでリズム・バランス感覚の確認 5時限目：ターナーの練習、奇数と偶数の違い 6時限目：5回跳び・10回跳び 7時限目：ターナーの回転・スピード 8時限目：ビデオ学習 9時限目：連続跳び 10～15時限目：応用
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：上下とも動きやすいものが良い。シューズ（室内専用）を用意する。
---------	------------------------------------

成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。
---------	--

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	鈴木 淳平

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、バレーボール・バスケットボール・バトミントン等の室内競技種目を教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。毎時間ゲームを行い、種目特有の技術・戦術等を体得し、身体運動の楽しさを感じつつ、体力の維持・増進を図ることを主な目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目 オリエンテーション 種目選択 ガイダンス 2時限目 バトミントン、ならし運動、試合（ダブルス） 3時限目 バトミントン、基礎技術、試合（ダブルス、混合ダブルス） 4時限目 バトミントン、試合（ダブルス、混合ダブルス、シングルス） 5時限目 バトミントン、総合 6時限目 バスケットボール、基礎技術、試合 7時限目 バスケットボール、基礎技術、試合 8時限目 バスケットボール、応用技術、試合 9時限目 バスケットボール、チーム戦術、試合 10時限目 バレーボール、基礎技術、試合 11時限目 バレーボール、基礎技術、試合 12時限目 バレーボール、応用技術、試合 13時限目 バレーボール、チーム戦術、試合 14時限目 種目は学生の希望によって決定する。 15時限目 種目は学生の希望によって決定する。
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	運動に適したスポーツウェアと、凹凸の少ないフラットなソールの清潔な室内用シューズで受講すること。積極的に運動すること。
---------	---

成績評価の方法	授業に出席して実技を実践することが重要である。出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。平常点を80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加え総合的に評価する。
---------	--

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（空手道）
担当者名	高橋 俊介

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 空手道は、男子、女子を問わずに誰でもでき、空手道を通して礼節を重んずる精神を養成することを目的とする。</p> <p><到達目標> 空手道は、身体各部を均等に動かし呼吸運動を伴うことによって内臓諸器官の機能を向上させることができる優れた健康法でもある。さらに護身術としても楽しく特殊な技術を習得する授業である。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：空手道の歴史と技の説明</p> <p>2時限目：自然体での上段直突、中段直突、上段揚受、中段外受</p> <p>3時限目：閉足立ちによる前蹴り、前屈立ちによる逆突、下段払い</p> <p>4時限目：前屈立ちによる移動基本、追突、前蹴り</p> <p>5時限目：前屈立ちにて後方に下がって上段揚受、中段外受、下段払い、下段払い受</p> <p>6時限目：自然体から左右の猿臂、前屈立ちで身体を回転してから猿臂打</p> <p>7時限目：総合的に反復して練習</p> <p>8時限目：総合的に反復して練習</p> <p>9時限目：2人組で相対して攻撃技と防禦技をかけ合う約束組手に入る。</p> <p>10時限目：約束組手の中に猿臂打、手刀打を入れて護身術に入る。</p> <p>11時限目：総合的に反復して練習</p> <p>12時限目：総合的に反復して練習</p> <p>13時限目：総合的に反復して練習</p> <p>14時限目：総合的に反復して練習</p> <p>15時限目：理解度の確認</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、全員が授業用の空手着を着用する。
---------	----------------------

成績評価の方法	授業出席状況、授業の参加態度、実技テストにて総合的に評価する。
---------	---------------------------------

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）
担当者名	館岡 儀秋

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴルフゲームは、より豊かな余暇活動として最良の生涯スポーツである。 楽しく、安全にラウンドプレーをする為の基礎知識、技術、およびマナーを身につける。
--------------------	---

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション ②ゴルフスイングの基礎（グリップ、アドレス、スイング） ③～⑤打撃練習（ピッチングウエッジ・9アイアン） ⑥～⑧打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） ⑨～⑩打撃練習（アプローチショット） ⑪～⑫パッティング（ゴルフコースおよびゴルフクラブの解説） ⑬～⑭ラウンドプレー（模擬コース）（マナー、エチケットの解説） ⑮理解度の確認
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> 1. 服装は、一般的な運動服装とする。 2. シューズは、運動靴とする。 3. ゴルフ用グローブを各自用意すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点80%、総合評価（積極性・協調性・受講態度等）20%とする。 授業に出席して実技を实践することが重要である。遅刻、欠席は減点の対象とする。
---------	---

その他	雨天および強風時は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。
-----	---------------------------------------

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	光永 吉輝

授業概要／ 到達目標（ねらい）

<授業概要>

初めに体力測定を行い、各自の体力に応じたトレーニングメニューを作成し、毎時間、ストレッチ体操・エアロビクス（有酸素運動）・ウエイトトレーニングなど行う。
ウエイトトレーニングでは、米航空宇宙局（NASA）で宇宙飛行士のトレーニングマシンとして開発されたカイザーカムⅡという空気抵抗を利用したマシンを用いて行う、このマシンは、ダイヤル調整だけで負荷の調節が出来て簡単でかつ安全なトレーニングマシンである。

<到達目標（ねらい）>

トレーニングとは、運動刺激に対する、人体の適応性を利用して、人体の作業能力をできるだけ発達させる過程であると定義されている。骨、筋肉、靭帯、腱、心臓、肺臓、など身体の形態や機能を強化発達させる過程をいい、社会生活をするうえで必要な心身の力を向上させるために行う練習、訓練である。

近年、科学の著しい発展に伴う様々な社会環境の変化などから、日常の筋肉運動が少なくなり、かつまた進学競争を低年齢化させ、加えて、栄養の過剰によって肥満傾向となるなど、日常生活における身体運動の必要性が高まってきている。日常生活以外に運動を行わないでいると成長発育期では、体格の発達に体力が伴わない、いわゆる体力低下が見られ若年者でありながら成人病に罹り易い。したがって、これらに対する対抗策の一つとしてトレーニングが必要とされるのである。

授業スケジュール

- 1時限：オリエンテーション
 - 2時限：体力測定
 - 3時限：最大筋力測定
 - 4時限：トレーニング開始
毎時間、1/4～3/4の負荷を選び5～8種類のマシンを、2～3セット行う。
 - 5時限：有酸素運動と心拍数の関係を解説 トレーニング
 - 6時限：トレーニングの間隔と効果の解説と実行 トレーニング
 - 7時限：ストレッチ（立位）実行と解説 トレーニング
 - 8時限：ストレッチ（座位）実行と解説 トレーニング
 - 9時限：運動と平衡バランスの実行と解説 トレーニング
 - 10時限：トレーニング
 - 11時限：『せほね』に良いストレッチの解説と実行 トレーニング
 - 12時限：トレーニング
 - 13時限：トレーニング・最大筋力測定
 - 14時限：体力測定
 - 15時限：まとめ
- <授業の内容は前後する場合があります。>

準備学習

特になし。

履修上の留意点

服装、トレーニングウェア、体育館シューズ（室内用）を用意すること。

成績評価の方法

平常点60%、トレーニング内容30%、授業への取り組み10%。

その他

器具のいないトレーニング方法（一人で、対人で）などを講義する。

履修コード	194501
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	柳 浩二郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。健康体操については、ストレッチ体操を実践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるため、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。
成績評価の方法	成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はそこから自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。
その他	授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（ジョギング）
担当者名	内山 雅博

授業概要／ 到達目標（ねらい）	健康、体力の維持増進を目的として行なわれる走運動、それがジョギングである。普及し始めて約30年になるうとしている比較的新しい種目でもある。健康作りの運動はひとりひとりの体力に応じた運動処方が必要であり、指導者任せのトレーニングにすることなく、その処方を自分自身の手によって立案し、安全に実施することのできる能力を高めることを学習目的とする。実際の内容については、エクササイズ・ウォーキング（速歩）によってジョギングに必要な技術と体力を高めながら、30～60分程度のジョギングを実施することとする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：諸注意・心拍数測定・体重測定 2時限目：エクササイズ・ウォーキング（速歩、12分/kmで歩く） 3時限目：" 4時限目：ゆっくりとしたジョギング（時間走、距離走、12分/kmで走る） 5時限目：" 6時限目：" 7時限目：12分間走 8時限目：ジョギング（10分/kmでの時間走、距離走） 9時限目：" 10時限目：" 11時限目：" 12時限目：ジョギング（10分/km～6分/kmのペースで自由走） 13時限目：" 14時限目：12分間走 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：実技のできる服装とする。 シューズ：ランニングシューズ、トレーニングシューズに限る。陸上競技用のスパイクシューズはトラック保護の立場から不可とする。 事前にメディカルチェック（心電図、負荷心電図、その他）を受けることが望ましいが、体調を整えて受講とする。（食事をとること、睡眠時間の充分なこと。給水を怠らないことなど）ジョギングによって相当量の発汗を伴うための着替えの用意が必要である。
---------	--

成績評価の方法	出席を重視する。積極性、平常点（授業への参加度）を加味する。
---------	--------------------------------

その他	雨天時は歩行・走運動のための補助（技術を高める）・補強運動（筋力等を高める）を実施する。
-----	--

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	江口 淳一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要)</p> <p>生涯スポーツとして、定着したテニスの基本的打球技術を習得し、ルールやマナーを学ぶことによって、安全で楽しくテニスを実践する能力と態度を養う。また、授業を通して得られる様々な経験から、健康で活力のある生活の基礎となる身体運動への理解と、生涯スポーツとしての導入を図る。</p> <p>(到達目標)</p> <p>グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービスなどの基本的打球技術の習得と、ルールやマナーを理解する。また、スポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツの持つ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身につけ自立的にスポーツを生活化する態度を養う。</p> <p>さらに、共通の体験を通して、大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的人格の形成を目指す。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットイング、ボレー、ミニストローク 3: フォアハンドグラウンドストロークの基本技術 4: バックハンドグラウンドストロークの基本技術 5: フォアハンド・バックハンドボレーの基本技術 6: スマッシュ、サービスの基本技術 7: ラリーを通しての応用練習 8: 半面でのシングルスゲーム 9: 半面でのシングルスゲーム（リーグ戦） 10: 半面でのシングルスゲーム（トーナメント） 11: ダブルスのルールと戦術 12: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 13: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 14: ダブルスのゲーム（トーナメント） 15: 理解度の確認
----------	--

準備学習	<p>体育実技なので、体調を整えて、フルに動けるようにすること。</p> <p>授業内でも説明するが、あらかじめテニスのルールを理解すること。</p>
------	---

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない。 ② 服装は一般的な運動服装とする。 ③ ラケットは貸与する。
---------	--

成績評価の方法	<p>平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に判断する。</p>
---------	---

その他	<p>雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、映像による戦術の解説および分析などの講義を行うが、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。</p>
-----	--

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（サッカー）
担当者名	大森 西三郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ボールを通じたコミュニケーションでの仲間作り、そして、その仲間と楽しみながらサッカーを実施することでの健康作りを目的に実施していきます。具体的な実施内容としては、世界でもっとも愛されているスポーツであるサッカーを楽しむための基本技術（ドリブル、ボールコントロール、キック）トレーニング、また、その習得の場としてミニゲーム（1V1～5V5）を実施し、段階的に11人制のゲームへと発展させて行きます。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション、事業内容の説明</p> <p>2時限目：基本技術トレーニング（インサイドキック、リフティング）、ゲーム</p> <p>3時限目：基本技術トレーニング（1V1の攻防での技術・戦術）、ゲーム</p> <p>4時限目：基本技術トレーニング（2V2の攻防での技術・戦術）、ゲーム</p> <p>5時限目：基本技術トレーニング（3V3の攻防での技術・戦術）、ゲーム</p> <p>6時限目：基本技術トレーニング（4V4の攻防での技術・戦術）、ゲーム</p> <p>7時限目：基本技術トレーニング（5V5の攻防での技術・戦術）、ゲーム</p> <p>8時限目：基本技術トレーニング（ゴールキーパーの基礎）、ゲーム</p> <p>9時限目：基本技術トレーニング（8V8の攻防での技術・戦術）、ゲーム</p> <p>10時限目：基本技術トレーニング（11V11の攻防での技術・戦術）、ゲーム</p> <p>11時限目：リーグ戦1</p> <p>12時限目：リーグ戦2</p> <p>13時限目：リーグ戦3</p> <p>14時限目：リーグ戦4</p> <p>15時限目：リーグ戦5</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	<p>服装：サッカーができる一般的な運動服装とする。</p> <p>シューズ：必ずアップシューズもしくは、固定式スパイクを用意すること （取替え式スパイクは使用不可）</p>
---------	---

成績評価の方法	評価は、平常点70%、実技点30%、とする。
---------	------------------------

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（簡化太極拳）
担当者名	末次 美樹

授業概要／ 到達目標（ねらい）	太極拳は、中国古来の武術であるが、硬拳のように筋骨を鍛錬するものではなく、腰を軸に手足のバランスを取り、呼吸法にのっとって、一定の早さを保ち、ゆっくりとした柔軟な動作が要求される。このしなやかな動作は日本の能の所作に似ており、繰り返し稽古することによって内面の気、優美さ、心の静けさを養い、現在および将来の健康の保持増進を目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：重心の移動・腹式呼吸運動 3時限目：第一組 起勢・左右野馬分そう・白鶴亮翅 4時限目：第二組 左右膝拗歩・手揮琵琶・左右倒卷肱 5時限目：第三組 左攪雀尾・右攪雀尾 6時限目：第四組 単鞭・雲手・単鞭 7時限目：第五組 高探馬・右とう脚・双峰貫耳・轉身左とう脚 8時限目：第六組 左下勢独立・右下勢独立 9時限目：第七組 左右穿梭・海底針・閃通臂 10時限目：第八組 轉身搬らん捶・如封似閉・十字手・收勢 11～14時限目：総合 15時限目：テスト
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：上下とも身軽に動きやすいものがよい。基本的に裸足で行うが、シューズを用意しても構わない。
---------	---

成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。
---------	--

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	鈴木 淳平

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、バレーボール・バスケットボール・バトミントン等の室内競技種目を教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。毎時間ゲームを行い、種目特有の技術・戦術等を体得し、身体運動の愉しさを感じつつ、体力の維持・増進を図ることを主な目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目 オリエンテーション 種目選択 ガイダンス 2時限目 バトミントン、ならし運動、試合（ダブルス） 3時限目 バトミントン、基礎技術、試合（ダブルス、混合ダブルス） 4時限目 バトミントン、試合（ダブルス、混合ダブルス、シングルス） 5時限目 バトミントン、総合 6時限目 バスケットボール、基礎技術、試合 7時限目 バスケットボール、基礎技術、試合 8時限目 バスケットボール、応用技術、試合 9時限目 バスケットボール、チーム戦術、試合 10時限目 バレーボール、基礎技術、試合 11時限目 バレーボール、基礎技術、試合 12時限目 バレーボール、応用技術、試合 13時限目 バレーボール、チーム戦術、試合 14時限目 種目は学生の希望によって決定する。 15時限目 種目は学生の希望によって決定する。
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	運動に適したスポーツウェアと、凹凸の少ないフラットなソールの清潔な室内用シューズで受講すること。積極的に運動すること。
---------	---

成績評価の方法	授業に出席して実技を实践することが重要である。出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。平常点を80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加え総合的に評価する。
---------	--

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（空手道）
担当者名	高橋 俊介

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 空手道は、男子、女子を問わずに誰でもでき、空手道を通して礼節を重んずる精神を養成することを目的とする。</p> <p><到達目標> 空手道は、身体各部を均等に動かし呼吸運動を伴うことによって内臓諸器官の機能を向上させることができる優れた健康法でもある。さらに護身術としても楽しく特殊な技術を習得する授業である。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：空手道の歴史と技の説明</p> <p>2時限目：自然体での上段直突、中段直突、上段揚受、中段外受</p> <p>3時限目：閉足立ちによる前蹴り、前屈立ちによる逆突、下段払い</p> <p>4時限目：前屈立ちによる移動基本、追突、前蹴り</p> <p>5時限目：前屈立ちにて後方に下がって上段揚受、中段外受、下段払い、下段払い受</p> <p>6時限目：自然体から左右の猿臂、前屈立ちで身体を回転してから猿臂打</p> <p>7時限目：総合的に反復して練習</p> <p>8時限目：総合的に反復して練習</p> <p>9時限目：2人組で相対して攻撃技と防禦技をかけ合う約束組手に入る。</p> <p>10時限目：約束組手の中に猿臂打、手刀打を入れて護身術に入る。</p> <p>11時限目：総合的に反復して練習</p> <p>12時限目：総合的に反復して練習</p> <p>13時限目：総合的に反復して練習</p> <p>14時限目：総合的に反復して練習</p> <p>15時限目：理解度の確認</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、全員が授業用の空手着を着用する。
---------	----------------------

成績評価の方法	授業出席状況、授業の参加態度、実技テストにて総合的に評価する。
---------	---------------------------------

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）
担当者名	館岡 儀秋

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ゴルフゲームは、より豊かな余暇活動として最良の生涯スポーツである。 楽しく、安全にラウンドプレーをする為の基礎知識、技術、およびマナーを身につける。
--------------------	---

授業スケジュール	①オリエンテーション ②ゴルフスイングの基礎（グリップ、アドレス、スイング） ③～⑤打撃練習（ピッチングウエッジ・9アイアン） ⑥～⑧打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） ⑨～⑩打撃練習（アプローチショット） ⑪～⑫パッティング（ゴルフコースおよびゴルフクラブの解説） ⑬～⑭ラウンドプレー（模擬コース）（マナー、エチケットの解説） ⑮理解度の確認
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	1. 服装は、一般的な運動服装とする。 2. シューズは、運動靴とする。 3. ゴルフ用グローブを各自用意すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点80%、総合評価（積極性・協調性・受講態度等）20%とする。
---------	-----------------------------------

その他	授業に出席して実技を実践することが重要である。遅刻、欠席は減点の対象とする。 雨天および強風時は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。
-----	---

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	光永 吉輝

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 初めに体力測定を行い、各自の体力に応じたトレーニングメニューを作成し、毎時間、ストレッチ体操・エアロビクス（有酸素運動）・ウエイトトレーニングなど行う。 ウエイトトレーニングでは、米航空宇宙局（NASA）で宇宙飛行士のトレーニングマシンとして開発されたカイザーカムⅡという空気抵抗を利用したマシンを用いて行う、このマシンは、ダイヤル調整だけで負荷の調節が出来て簡単でかつ安全なトレーニングマシンである。 <到達目標（ねらい）> トレーニングとは、運動刺激に対する、人体の適応性を利用して、人体の作業能力をできるだけ発達させる過程であると定義されている。骨、筋肉、靭帯、腱、心臓、肺臓、など身体の形態や機能を強化発達させる過程をいい、社会生活をするうえで必要な心身の力を向上させるために行う練習、訓練である。 近年、科学の著しい発展に伴う様々な社会環境の変化などから、日常の筋肉運動が少なくなり、かつまた進学競争を低年齢化させ、加えて、栄養の過剰によって肥満傾向となるなど、日常生活における身体運動の必要性が高まってきている。日常生活以外に運動を行わないでいると成長発育期では、体格の発達に体力が伴わない、いわゆる体力低下が見られ若年者でありながら成人病に罹り易い。したがって、これらに対する対抗策の一つとしてトレーニングが必要とされるのである。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限：オリエンテーション 2時限：体力測定 3時限：最大筋力測定 4時限：トレーニング開始 毎時間、1/4～3/4の負荷を選び5～8種類のマシンを、2～3セット行う。 5時限：有酸素運動と心拍数の関係を解説 トレーニング 6時限：トレーニングの間隔と効果の解説と実行 トレーニング 7時限：ストレッチ（立位）実行と解説 トレーニング 8時限：ストレッチ（座位）実行と解説 トレーニング 9時限：運動と平衡バランスの実行と解説 トレーニング 10時限：トレーニング 11時限：『せぼね』に良いストレッチの解説と実行 トレーニング 12時限：トレーニング 13時限：トレーニング・最大筋力測定 14時限：体力測定 15時限：まとめ <授業の内容は前後する場合があります。></p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装、トレーニングウエア、体育館シューズ（室内用）を用意すること。
成績評価の方法	平常点60%、トレーニング内容30%、授業への取り組み10%。
その他	器具のいないトレーニング方法（一人で、対人で）などを講義する。

履修コード	194601
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	柳 浩二郎
授業概要／ 到達目標（ねらい）	「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。健康体操については、ストレッチ体操を实践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるので、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。
成績評価の方法	成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はそこから自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。
その他	授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（ソフトボール）
担当者名	内山 雅博

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ソフトボールは野球と同様1チーム9名で2組が得点を争うゲームである。また高等学校の体育実技の授業においては、3学年の選択授業の種目として取り上げられることが多い。野球が体育実技で取り上げづらいのは、ある種の経験を要するからであり、ソフトボールは、チームの中で1～2名の未経験者がいてもゲームはある程度成立する。野球は、9回の攻守に対してソフトボールは7回と、時間の区切られた実技に適している。また、「レクリエーションの延長として気軽に実施出来る種目」として実践するとともに、危険の予知・防止能力、安全管理能力を高めるよう努力したい。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：基本練習（キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、打撃練習：トス・ハーフ・フリーバッティング、走塁練習、その他） 2時限目：" 3時限目：試合（勝ち点制） 4時限目：" 5時限目：" 6時限目：" 7時限目：" 8時限目：審判の仕方（球審、1・3塁審） 9時限目：" 10時限目：試合（勝ち点制） 11時限目：" 12時限目：" 13時限目：" 14時限目：" 15時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	用具：貸与する。（各自の用具を持参することも許可する） 服装：ユニフォームの着用が必要はないが、実技のできる服装とする。 シューズ：ランニングシューズ、アップシューズは可。野球のスパイクシューズは人工芝保護の立場から不可。
---------	---

成績評価の方法	出席を重視する。積極性、平常点、試合毎の勝ち点も加えて評価する。
---------	----------------------------------

その他	雨天時は、視聴覚室において、ルールの解説とビデオ観戦とする。また、施設使用の条件によっては、他のスポーツ種目、トレーニング等を行う。
-----	--

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	江口 淳一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 生涯スポーツとして、定着したテニスの基本的打球技術を習得し、ルールやマナーを学ぶことによって、安全で楽しくテニスを実践する能力と態度を養う。また、授業を通して得られる様々な経験から、健康で活力のある生活の基礎となる身体運動への理解と、生涯スポーツとしての導入を図る。</p> <p>（到達目標） グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービスなどの基本的打球技術の習得と、ルールやマナーを理解する。また、スポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツの持つ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身につけ自立的にスポーツを生活化する態度を養う。</p> <p>さらに、共通の体験を通して、大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的人格の形成を目指す。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットイング、ボレー、ミニストローク 3: フォアハンドグラウンドストロークの基本技術 4: バックハンドグラウンドストロークの基本技術 5: フォアハンド・バックハンドボレーの基本技術 6: スマッシュ、サービスの基本技術 7: ラリーを通しての応用練習 8: 半面でのシングルスゲーム 9: 半面でのシングルスゲーム（リーグ戦） 10: 半面でのシングルスゲーム（トーナメント） 11: ダブルスのルールと戦術 12: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 13: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 14: ダブルスのゲーム（トーナメント） 15: 理解度の確認
----------	--

準備学習	<p>体育実技なので、体調を整えて、フルに動けるようにすること。 授業内でも説明するが、あらかじめテニスのルールを理解すること。体育実技なので、体調を整えて、フルに動けるようにすること。</p>
------	---

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない。 ② 服装は一般的な運動服装とする。 ③ ラケットは貸与する。
---------	--

成績評価の方法	平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に判断する。
---------	--------------------------------------

その他	雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、映像による戦術の解説および分析などの講義を行うか、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。
-----	---

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（サッカー）
担当者名	大森 西三郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ボールを通じたコミュニケーションでの仲間作り、そして、その仲間と楽しみながらサッカーを実施することでの健康作りを目的に実施していきます。具体的な実施内容としては、世界でもっとも愛されているスポーツであるサッカーを楽しむための基本技術（ドリブル、ボールコントロール、キック）トレーニング、また、その習得の場としてミニゲーム（1V1～5V5）を実施し、段階的に11人制のゲームへと発展させていきます。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、事業内容の説明 2時限目：基本技術トレーニング（インサイドキック、リフティング）、ゲーム 3時限目：基本技術トレーニング（1V1の攻防での技術・戦術）、ゲーム 4時限目：基本技術トレーニング（2V2の攻防での技術・戦術）、ゲーム 5時限目：基本技術トレーニング（3V3の攻防での技術・戦術）、ゲーム 6時限目：基本技術トレーニング（4V4の攻防での技術・戦術）、ゲーム 7時限目：基本技術トレーニング（5V5の攻防での技術・戦術）、ゲーム 8時限目：基本技術トレーニング（ゴールキーパーの基礎）、ゲーム 9時限目：基本技術トレーニング（8V8の攻防での技術・戦術）、ゲーム 10時限目：基本技術トレーニング（11V11の攻防での技術・戦術）、ゲーム 11時限目：リーグ戦1 12時限目：リーグ戦2 13時限目：リーグ戦3 14時限目：リーグ戦4 15時限目：リーグ戦5
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：サッカーができる一般的な運動服装とする。 シューズ：必ずアップシューズもしくは、固定式スパイクを用意すること （取替え式スパイクは使用不可）
---------	---

成績評価の方法	評価は、平常点70%、実技点30%、とする。
---------	------------------------

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	下谷内 勝利

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この授業は、卓球の基本技術を学習した後、シングルス、そしてダブルスの順にゲームを展開する。その過程で卓球というスポーツへの理解を深めてもらい、生涯スポーツの基礎を築いてもらうことを目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形、簡易ゲーム 3時限目：フォアハンドドライブ、簡易ゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方、シングルスリーグ戦 5時限目：バックハンドショートの打ち方、シングルスリーグ戦 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスリーグ戦 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスリーグ戦 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスリーグ戦 9時限目：ダブルスゲームの行い方、ダブルスゲームの練習、ダブルスリーグ戦 10時限目：ダブルスリーグ戦 11時限目：ダブルスリーグ戦 12時限目：ダブルスリーグ戦 13時限目：ダブルスリーグ戦 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
----------	---

準備学習	卓球のルールを予習しておいてほしい。
------	--------------------

履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。
---------	---

成績評価の方法	授業に出席して、積極的に実技に取り組む姿勢が重要である。したがって、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点はスキルテストにて判定する。
---------	---

教科書	特になし。
-----	-------

参考書等	特になし。
------	-------

その他	グループ毎にリーグ戦を行うことが多いため、30分以上の遅刻は認めないものとする。
-----	--

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（キックボクササイズ）
担当者名	末次 美樹

授業概要／ 到達目標（ねらい）	キックボクササイズとは、キックボクシング・ボクシング・空手道・ムエタイ・マーシャルアーツなどの動きを取り入れ、アップスピードな曲と動きを一体化する運動である。持久力強化・腹筋強化・シェイプアップなどに効果があり、現在および将来の健康の保持増進を目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：拳の握り方、基本姿勢の説明 3時限目：ストレート、フック、アッパーの練習 4時限目：キックの練習、フットワークの練習、コンビネーション 5～14時限目：コンビネーション（音楽に合わせる） 15時限目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装：上下とも動きやすいものが良い。裸足でも良いが、なるべくシューズ（室内専用）があったほうが良い。
成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	鈴木 淳平

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、バレーボール・バスケットボール・バトミントン等の室内競技種目を教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。毎時間ゲームを行い、種目特有の技術・戦術等を体得し、身体運動の楽しさを感じつつ、体力の維持・増進を図ることを主な目標とする。
授業スケジュール	1時限目 オリエンテーション 種目選択 ガイダンス 2時限目 バトミントン、ならし運動、試合（ダブルス） 3時限目 バトミントン、基礎技術、試合（ダブルス、混合ダブルス） 4時限目 バトミントン、試合（ダブルス、混合ダブルス、シングルス） 5時限目 バトミントン、総合 6時限目 バスケットボール、基礎技術、試合 7時限目 バスケットボール、基礎技術、試合 8時限目 バスケットボール、応用技術、試合 9時限目 バスケットボール、チーム戦術、試合 10時限目 バレーボール、基礎技術、試合 11時限目 バレーボール、基礎技術、試合 12時限目 バレーボール、応用技術、試合 13時限目 バレーボール、チーム戦術、試合 14時限目 種目は学生の希望によって決定する。 15時限目 種目は学生の希望によって決定する。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	運動に適したスポーツウェアと、凹凸の少ないフラットなソールの清潔な室内用シューズで受講すること。積極的に運動すること。
成績評価の方法	授業に出席して実技を实践することが重要である。出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。平常点を80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加え総合的に評価する。

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（空手道）
担当者名	高橋 俊介

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 空手道は、男子、女子を問わずに誰でもでき、空手道を通して礼節を重んずる精神を養成することを目的とする。</p> <p><到達目標> 空手道は、身体各部を均等に動かし呼吸運動を伴うことによって内臓諸器官の機能を向上させることができる優れた健康法でもある。さらに護身術としても楽しく特殊な技術を習得する授業である。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：空手道の歴史と技の説明</p> <p>2時限目：自然体での上段直突、中段直突、上段揚受、中段外受</p> <p>3時限目：閉足立ちによる前蹴り、前屈立ちによる逆突、下段払い</p> <p>4時限目：前屈立ちによる移動基本、追突、前蹴り</p> <p>5時限目：前屈立ちにて後方に下がって上段揚受、中段外受、下段払い、下段払い受</p> <p>6時限目：自然体から左右の猿臂、前屈立ちで身体を回転してから猿臂打</p> <p>7時限目：総合的に反復して練習</p> <p>8時限目：総合的に反復して練習</p> <p>9時限目：2人組で相対して攻撃技と防禦技をかけ合う約束組手に入る。</p> <p>10時限目：約束組手の中に猿臂打、手刀打を入れて護身術に入る。</p> <p>11時限目：総合的に反復して練習</p> <p>12時限目：総合的に反復して練習</p> <p>13時限目：総合的に反復して練習</p> <p>14時限目：総合的に反復して練習</p> <p>15時限目：理解度の確認</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服服装は、全員が授業用の空手着を着用する。
---------	-----------------------

成績評価の方法	授業出席状況、授業の参加態度、実技テストにて総合的に評価する。
---------	---------------------------------

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	光永 吉輝

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 初めに体力測定を行い、各自の体力に応じたトレーニングメニューを作成し、毎時間、ストレッチ体操・エアロビクス（有酸素運動）・ウエイトトレーニングなど行う。 ウエイトトレーニングでは、米航空宇宙局（NASA）で宇宙飛行士のトレーニングマシンとして開発されたカイザーカムⅡという空気抵抗を利用したマシンを用いて行う、このマシンは、ダイヤル調整だけで負荷の調節が出来て簡単でかつ安全なトレーニングマシンである。 <到達目標（ねらい）> トレーニングとは、運動刺激に対する、人体の適応性を利用して、人体の作業能力をできるだけ発達させる過程であると定義されている。骨、筋肉、靭帯、腱、心臓、肺臓、など身体の形態や機能を強化発達させる過程をいい、社会生活をするうえで必要な心身の力を向上させるために行う練習、訓練である。 近年、科学の著しい発展に伴う様々な社会環境の変化などから、日常の筋肉運動が少なくなり、かつまた進学競争を低年齢化させ、加えて、栄養の過剰によって肥満傾向となるなど、日常生活における身体運動の必要性が高まってきている。日常生活以外に運動を行わないでいると成長発育期では、体格の発達に体力が伴わない、いわゆる体力低下が見られ若年者でありながら成人病に罹り易い。したがって、これらに対する対抗策の一つとしてトレーニングが必要とされるのである。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限：オリエンテーション 2時限：体力測定 3時限：最大筋力測定 4時限：トレーニング開始 毎時間、1/4～3/4の負荷を選び5～8種類のマシンを、2～3セット行う。 5時限：有酸素運動と心拍数の関係を解説 トレーニング 6時限：トレーニングの間隔と効果の解説と実行 トレーニング 7時限：ストレッチ（立位）実行と解説 トレーニング 8時限：ストレッチ（座位）実行と解説 トレーニング 9時限：運動と平衡バランスの実行と解説 トレーニング 10時限：トレーニング 11時限：『せぼね』に良いストレッチの解説と実行 トレーニング 12時限：トレーニング 13時限：トレーニング・最大筋力測定 14時限：体力測定 15時限：まとめ <授業の内容は前後する場合があります。></p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装、トレーニングウェア、体育館シューズ（室内用）を用意すること。
成績評価の方法	平常点60%、トレーニング内容30%、授業への取り組み10%。
その他	器具のいないトレーニング方法（一人で、対人で）などを講義する。

履修コード	194701
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	柳 浩二郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。健康体操については、ストレッチ体操を実践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるため、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。
成績評価の方法	成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はそこから自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。
その他	授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。

履修コード	194801
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	秋田 浩一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の楽しさを知ってもらいたい。また、スポーツの中でも最も簡単と言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基礎を築くことを目的としたい。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形 3時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム 5時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム 9時限目：シングルスゲーム 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習 11～13時限目：ダブルスゲーム 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的な運動服とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。土足の場合は授業を受けることは出来ない。
成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%とする。実技点は実技テストにて判定する。

履修コード	194801
科目名	健康・スポーツ実習（ミニサッカー）
担当者名	岩本 哲也

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ミニ・サッカーのゲームは、ボールを蹴ること（キック）、止めること（トラッピング）、運ぶこと（ドリブル）から成り立っている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることによって数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間余暇感覚でゲームを行い、よき人間関係作りを目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：基礎技術、練習ゲーム 3時限目：基礎技術の応用、練習ゲーム 4～6時限目：ゲームの進め方、練習ゲーム 5～9時限目：ゲームの攻め方、守り方、練習ゲーム 10～14時限目：リーグ戦 15時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、一般的な運動服で良い。シューズについては、オリエンテーションの時に説明する。
---------	--

成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%とする。実技点はリーグ戦の結果と受講態度により採点する。個人の実技テストは行わない。
---------	--

履修コード	194801
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	江口 淳一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要)</p> <p>生涯スポーツとして、定着したテニスの基本的打球技術を習得し、ルールやマナーを学ぶことによって、安全で楽しくテニスを実践する能力と態度を養う。また、授業を通して得られる様々な経験から、健康で活力のある生活の基礎となる身体運動への理解と、生涯スポーツとしての導入を図る。</p> <p>(到達目標)</p> <p>グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービスなどの基本的打球技術の習得と、ルールやマナーを理解する。また、スポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツの持つ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身につけ自立的にスポーツを生活化する態度を養う。</p> <p>さらに、共通の体験を通して、大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的人格の形成を目指す。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットイング、ボレー、ミニストローク 3: フォアハンドグラウンドストロークの基本技術 4: バックハンドグラウンドストロークの基本技術 5: フォアハンド・バックハンドボレーの基本技術 6: スマッシュ、サービスの基本技術 7: ラリーを通しての応用練習 8: 半面でのシングルスゲーム 9: 半面でのシングルスゲーム（リーグ戦） 10: 半面でのシングルスゲーム（トーナメント） 11: ダブルスのルールと戦術 12: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 13: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 14: ダブルスのゲーム（トーナメント） 15: 理解度の確認
準備学習	<p>体育実技なので、体調を整えて、フルに動けるようにすること。</p> <p>授業内でも説明するが、あらかじめテニスのルールを理解すること。</p>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない。 ② 服装は一般的な運動服装とする。 ③ ラケットは貸与する。
成績評価の方法	<p>平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に判断する。</p>
その他	<p>雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、映像による戦術の解説および分析などの講義を行うか、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。</p>

履修コード	194801
科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）
担当者名	鈴木 淳平

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、より豊かな余暇活動として最良の生涯スポーツであるゴルフを教材とし、楽しく・安全に、ラウンドプレーをする為の基礎知識、技術、およびマナーを身につけることを主な目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目 オリエンテーション 種目選択 ガイダンス 2時限目 ゴルフスイングの基礎（グリップ、アドレス、スイング） 3時限目 基礎技術の習得、打撃練習（ピッチングウエッジ） 4時限目 基礎技術の習得、打撃練習（9アイアン） 5時限目 基礎技術の習得、打撃練習（7アイアン） 6時限目 打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） 7時限目 打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） 8時限目 打撃練習（アプローチショット） 9時限目 打撃練習（アプローチショット） 10時限目 パッティング（ゴルフクラブの解説） 11時限目 パッティング（ゴルフコースの解説） 12時限目 模擬コースのラウンドプレー（マナー、エチケットの解説） 13時限目 模擬コースのラウンドプレー（マナー、エチケットの解説） 14時限目 技術習得度・理解度の確認 15時限目 技術習得度・理解度の確認
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	1. 運動に適したスポーツウェア、シューズで受講すること。 2. ゴルフ用グローブを各自用意すること。 3. 積極的に運動すること。
---------	--

成績評価の方法	授業に出席して実技を实践することが重要である。出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。平常点を80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、技術習得度、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加え総合的に評価する。
---------	--

履修コード	194801
科目名	健康・スポーツ実習（空手道）
担当者名	高橋 俊介

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 空手道は、男子、女子を問わずに誰でもでき、空手道を通して礼節を重んずる精神を養成することを目的とする。</p> <p><到達目標> 空手道は、身体各部を均等に動かし呼吸運動を伴うことによって内臓諸器官の機能を向上させることができる優れた健康法でもある。さらに護身術としても楽しく特殊な技術を習得する授業である。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：空手道の歴史と技の説明</p> <p>2時限目：自然体での上段直突、中段直突、上段揚受、中段外受</p> <p>3時限目：閉足立ちによる前蹴り、前屈立ちによる逆突、下段払い</p> <p>4時限目：前屈立ちによる移動基本、追突、前蹴り</p> <p>5時限目：前屈立ちにて後方に下がって上段揚受、中段外受、下段払い、下段払い受</p> <p>6時限目：自然体から左右の猿臂、前屈立ちで身体を回転してから猿臂打</p> <p>7時限目：総合的に反復して練習</p> <p>8時限目：総合的に反復して練習</p> <p>9時限目：2人組で相対して攻撃技と防禦技をかけ合う約束組手に入る。</p> <p>10時限目：約束組手の中に猿臂打、手刀打を入れて護身術に入る。</p> <p>11時限目：総合的に反復して練習</p> <p>12時限目：総合的に反復して練習</p> <p>13時限目：総合的に反復して練習</p> <p>14時限目：総合的に反復して練習</p> <p>15時限目：理解度の確認</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、全員が授業用の空手着を着用する。
---------	----------------------

成績評価の方法	授業出席状況、授業の参加態度、実技テストにて総合的に評価する。
---------	---------------------------------

履修コード	194801
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	高畠 瑠依

授業概要／ 到達目標（ねらい）	バドミントン、バレーボール、バスケットボールを室内球技の種目とする。毎時間のゲームを通じて、種目特有の技術や戦術を理解する。また健康的な生活を維持増進する能力やコミュニケーション能力を身につけることを主なねらいとする。
--------------------	---

授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、授業の説明 【バドミントン】 第2回 ストロークの基本技術、ミニゲーム 第3回 スマッシュ、ドロップ、クリア、サービス、ミニゲーム 第4回 シングルスゲーム、ダブルスゲーム 第5回 ダブルスゲーム 【バレーボール】 第6回 パスの基本技術（アンダーハンド、オーバーハンド）、ミニゲーム 第7回 サーブ、アタック、ゲーム 第8回 リーグ戦 第9回 リーグ戦 【バスケットボール】 第10回 ハンドリング、シュート、ミニゲーム 第11回 シュート、パス、ゲーム 第12回 戦術練習、パス～シュート、ゲーム 第13回 リーグ戦 第14回 リーグ戦 【まとめ】 第15回 室内球技のまとめ
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	必ず運動に適した一般的なスポーツウェア、室内用(体育館)シューズを着用すること。
---------	--

成績評価の方法	授業に積極的に参加することが重要である。平常点は評点の70%、受講態度、積極性および協調性等を30%の割合とし、総合的に評価する。
---------	---

履修コード	194801
科目名	健康・スポーツ実習（ソフトボール）
担当者名	山口 良博

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) ソフトボールを行うための「投げる」「捕る」「打つ」といった基礎技術の習得を目指し、ゲームを中心とした実践練習においてルール等ゲームの進め方についても学ぶ。</p> <p>(到達目標) ソフトボールにおける基礎技術の習得はもとより、チームプレーを通して協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
授業スケジュール	<p>1. オリエンテーション、授業内容の説明 2～4. キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、ゲーム 5～7. シートノック、フリーバッティング、ゲーム 8～9. 総合練習、ゲーム 10～15. ゲーム（リーグ戦）</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	<p>スポーツウェア（上下）、スポーツシューズ（スパイクは不可）の着用を厳守すること。 雨天時でも、室内にて運動する場合がありますので、常に運動着は準備すること。</p>
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	194901
科目名	健康・スポーツ実習（サッカー）
担当者名	岩本 哲也

授業概要／ 到達目標（ねらい）	サッカーのゲームは、ボールを蹴る（キック）、止める（トラップ）、運ぶ（ドリブル）の基本技術を向上すると共に体力の向上、健康の維持・増進を図る。また、団体競技である「サッカー」を通じて、コミュニケーション能力の向上と豊かな人間関係づくりを目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明 2時限目：リフティング、インサイドキック、ゲーム 3時限目：インサイドキック、トラッピング、ゲーム 4時限目：浮き球のトラッピング、ゲーム 5時限目：インステップキック（グラウンダー・浮き球）、ゲーム 6時限目：インフロントキック、ゲーム 7時限目：オフサイドルールの理解、ゲーム 8～10時限目：基本技術の応用、ゲーム 11～14時限目：ゲーム（リーグ戦） 15時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、一般的な運動服で良い。シューズについては、オリエンテーションの時に説明する。
---------	--

成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%とする。実技点はリーグ戦の結果と受講態度により採点する。個人の実技テストは行わない。
---------	--

履修コード	194901
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	江口 淳一

授業概要/
到達目標（ねらい）

（授業概要）

生涯スポーツとして、定着したテニスの基本的打球技術を習得し、ルールやマナーを学ぶことによって、安全で楽しくテニスを実践する能力と態度を養う。また、授業を通して得られる様々な経験から、健康で活力のある生活の基礎となる身体運動への理解と、生涯スポーツとしての導入を図る。

（到達目標）

グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブなどの基本的打球技術の習得と、ルールやマナーを理解する。また、スポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツの持つ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身につけ自立的にスポーツを生活化する態度を養う。

さらに、共通の体験を通して、大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的人格の形成を目指す。

授業スケジュール

- 1: オリエンテーション、授業目標の説明
- 2: ラケットイング、ボレー、ミニストローク
- 3: フォアハンドグラウンドストロークの基本技術
- 4: バックハンドグラウンドストロークの基本技術
- 5: フォアハンド・バックハンドボレーの基本技術
- 6: スマッシュ、サーブの基本技術
- 7: ラリーを通しての応用練習
- 8: 半面でのシングルスゲーム
- 9: 半面でのシングルスゲーム（リーグ戦）
- 10: 半面でのシングルスゲーム（トーナメント）
- 11: ダブルスのルールと戦術
- 12: ダブルスのゲーム（リーグ戦）
- 13: ダブルスのゲーム（リーグ戦）
- 14: ダブルスのゲーム（トーナメント）
- 15: 理解度の確認

準備学習

体育実技なので、体調を整えて、フルに動けるようにすること。
授業内でも説明するが、あらかじめテニスのルールを理解すること。

履修上の留意点

- ① 履修者の技術レベルは問わない。
- ② 服装は一般的な運動服装とする。
- ③ ラケットは貸与する。

成績評価の方法

平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に判断する。

教科書／テキスト

雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、映像による戦術の解説および分析などの講義を行うか、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。

履修コード	194901
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	高島 瑠依

授業概要／ 到達目標（ねらい）	バドミントン、バレーボール、バスケットボールを室内球技の種目とする。毎時間のゲームを通じて、種目特有の技術や戦術を理解する。また健康的な生活を維持増進する能力やコミュニケーション能力を身につけることを主なねらいとする。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、授業の説明 【バドミントン】</p> <p>第2回 ストロークの基本技術、ミニゲーム 第3回 スマッシュ、ドロップ、クリア、サービス、ミニゲーム 第4回 シングルスゲーム、ダブルスゲーム 第5回 ダブルスゲーム 【バレーボール】</p> <p>第6回 バスの基本技術(アンダーハンド、オーバーハンド)、ミニゲーム 第7回 サーブ、アタック、ゲーム 第8回 リーグ戦 第9回 リーグ戦 【バスケットボール】</p> <p>第10回 ハンドリング、シュート、ミニゲーム 第11回 シュート、パス、ゲーム 第12回 戦術練習、パス～シュート、ゲーム 第13回 リーグ戦 第14回 リーグ戦 【まとめ】</p> <p>第15回 室内球技のまとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	必ず運動に適した一般的なスポーツウェア、室内用(体育館)シューズを着用すること。
---------	--

成績評価の方法	授業に積極的に参加することが重要である。平常点は評点の70%、受講態度、積極性および協調性等を30%の割合とし、総合的に評価する。
---------	---

履修コード	194901
科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）
担当者名	館岡 儀秋

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ゴルフゲームは、より豊かな余暇活動として最良の生涯スポーツである。 楽しく、安全にラウンドプレーをする為の基礎知識、技術、およびマナーを身につける。
--------------------	---

授業スケジュール	①オリエンテーション ②ゴルフスイングの基礎（グリップ、アドレス、スイング） ③～⑤打撃練習（ピッチングウェッジ・9アイアン） ⑥～⑧打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） ⑨～⑩打撃練習（アプローチショット） ⑪～⑫パッティング（ゴルフコースおよびゴルフクラブの解説） ⑬～⑭ラウンドプレー（模擬コース）（マナー、エチケットの解説） ⑮理解度の確認
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	1. 服装は、一般的な運動服装とする。 2. シューズは、運動靴とする。 3. ゴルフ用グローブを各自用意すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点80%、総合評価（積極性・協調性・受講態度等）20%とする。 授業に出席して実技を実践することが重要である。遅刻、欠席は減点の対象とする。
---------	---

その他	雨天および強風時は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。
-----	---------------------------------------

履修コード	194901
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	光永 吉輝

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 初めに体力測定を行い、各自の体力に応じたトレーニングメニューを作成し、毎時間、ストレッチ体操・エアロビクス（有酸素運動）・ウエイトトレーニングなど行う。 ウエイトトレーニングでは、米航空宇宙局（NASA）で宇宙飛行士のトレーニングマシンとして開発されたカイザーカムⅡという空気抵抗を利用したマシンを用いて行う、このマシンは、ダイヤル調整だけで負荷の調節が出来て簡単でかつ安全なトレーニングマシンである。 <到達目標（ねらい）> トレーニングとは、運動刺激に対する、人体の適応性を利用して、人体の作業能力をできるだけ発達させる過程であると定義されている。骨、筋肉、靭帯、腱、心臓、肺臓、など身体の形態や機能を強化発達させる過程をいい、社会生活をするうえで必要な心身の力を向上させるために行う練習、訓練である。 近年、科学の著しい発展に伴う様々な社会環境の変化などから、日常の筋肉運動が少なくなり、かつまた進学競争を低年齢化させ、加えて、栄養の過剰によって肥満傾向となるなど、日常生活における身体運動の必要性が高まってきている。日常生活以外に運動を行わないでいると成長発育期では、体格の発達に体力が伴わない、いわゆる体力低下が見られ若年者でありながら成人病に罹り易い。したがって、これらに対する対抗策の一つとしてトレーニングが必要とされるのである。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限：オリエンテーション 2時限：体力測定 3時限：最大筋力測定 4時限：トレーニング開始 毎時間、1/4～3/4の負荷を選び5～8種類のマシンを、2～3セット行う。 5時限：有酸素運動と心拍数の関係を解説 トレーニング 6時限：トレーニングの間隔と効果の解説と実行 トレーニング 7時限：ストレッチ（立位）実行と解説 トレーニング 8時限：ストレッチ（座位）実行と解説 トレーニング 9時限：運動と平衡バランスの実行と解説 トレーニング 10時限：トレーニング 11時限：『せぼね』に良いストレッチの解説と実行 トレーニング 12時限：トレーニング 13時限：トレーニング・最大筋力測定 14時限：体力測定 15時限：まとめ <授業の内容は前後する場合があります。></p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装、トレーニングウエア、体育館シューズ（室内用）を用意すること。
成績評価の方法	平常点60%、トレーニング内容30%、授業への取り組み10%。
その他	器具のいらないトレーニング方法（一人で、対人で）などを講義する。

履修コード	194901
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	柳 浩二郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。健康体操については、ストレッチ体操を実践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるため、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。
成績評価の方法	成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はの中から自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。
その他	授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。

履修コード	195001
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	秋田 浩一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の楽しさを知ってもらいたい。また、スポーツの中でも最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基礎を築くことを目的としたい。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形 3時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム 5時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム 9時限目：シングルスゲーム 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習 11～13時限目：ダブルスゲーム 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、一般的な運動服とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。土足の場合は授業を受けることは出来ない。
---------	---

成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%、とする。実技点は実技テストにて判定する。
---------	---------------------------------------

履修コード	195001
科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）
担当者名	鈴木 淳平

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、より豊かな余暇活動として最良の生涯スポーツであるゴルフを教材とし、楽しく・安全に、ラウンドプレーをする為の基礎知識、技術、およびマナーを身につけることを主な目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目 オリエンテーション 種目選択 ガイダンス 2時限目 ゴルフスイングの基礎（グリップ、アドレス、スイング） 3時限目 基礎技術の習得、打撃練習（ピッチングウェッジ） 4時限目 基礎技術の習得、打撃練習（9アイアン） 5時限目 基礎技術の習得、打撃練習（7アイアン） 6時限目 打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） 7時限目 打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） 8時限目 打撃練習（アプローチショット） 9時限目 打撃練習（アプローチショット） 10時限目 パッティング（ゴルフクラブの解説） 11時限目 パッティング（ゴルフコースの解説） 12時限目 模擬コースのラウンドプレー（マナー、エチケットの解説） 13時限目 模擬コースのラウンドプレー（マナー、エチケットの解説） 14時限目 技術習得度・理解度の確認 15時限目 技術習得度・理解度の確認
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	1. 運動に適したスポーツウェア、シューズで受講すること。 2. ゴルフ用グローブを各自用意すること。 3. 積極的に運動すること。
---------	--

成績評価の方法	授業に出席して実技を实践することが重要である。出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。平常点を80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、技術習得度、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加え総合的に評価する。
---------	--

履修コード	195001
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	高島 瑠依

授業概要／ 到達目標（ねらい）	バドミントン、バレーボール、バスケットボールを室内球技の種目とする。毎時間のゲームを通じて、種目特有の技術や戦術を理解する。また健康的な生活を維持増進する能力やコミュニケーション能力を身につけることを主なねらいとする。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、授業の説明</p> <p>【バドミントン】</p> <p>第2回 ストロークの基本技術、ミニゲーム</p> <p>第3回 スマッシュ、ドロップ、クリア、サービス、ミニゲーム</p> <p>第4回 シングルスゲーム、ダブルスゲーム</p> <p>第5回 ダブルスゲーム</p> <p>【バレーボール】</p> <p>第6回 パスの基本技術（アンダーハンド、オーバーハンド）、ミニゲーム</p> <p>第7回 サーブ、アタック、ゲーム</p> <p>第8回 リーグ戦</p> <p>第9回 リーグ戦</p> <p>【バスケットボール】</p> <p>第10回 ハンドリング、シュート、ミニゲーム</p> <p>第11回 シュート、パス、ゲーム</p> <p>第12回 戦術練習、パス～シュート、ゲーム</p> <p>第13回 リーグ戦</p> <p>第14回 リーグ戦</p> <p>【まとめ】</p> <p>第15回 室内球技のまとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	必ず運動に適した一般的なスポーツウェア、室内用（体育館）シューズを着用すること。
成績評価の方法	授業に積極的に参加することが重要である。平常点は評点の70%、受講態度、積極性および協調性等を30%の割合とし、総合的に評価する。

履修コード	195001
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	光永 吉輝

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 初めに体力測定を行い、各自の体力に応じたトレーニングメニューを作成し、毎時間、ストレッチ体操・エアロビクス（有酸素運動）・ウエイトトレーニングなど行う。 ウエイトトレーニングでは、米航空宇宙局（NASA）で宇宙飛行士のトレーニングマシンとして開発されたカイザーカムⅡという空気抵抗を利用したマシンを用いて行う、このマシンは、ダイヤル調整だけで負荷の調節が出来て簡単でかつ安全なトレーニングマシンである。 <到達目標（ねらい）> トレーニングとは、運動刺激に対する、人体の適応性を利用して、人体の作業能力をできるだけ発達させる過程であると定義されている。骨、筋肉、靭帯、腱、心臓、肺臓、など身体の形態や機能を強化発達させる過程をいい、社会生活をするうえで必要な心身の力を向上させるために行う練習、訓練である。 近年、科学の著しい発展に伴う様々な社会環境の変化などから、日常の筋肉運動が少なくなり、かつまた進学競争を低年齢化させ、加えて、栄養の過剰によって肥満傾向となるなど、日常生活における身体運動の必要性が高まってきている。日常生活以外に運動を行わないでいると成長発育期では、体格の発達に体力が伴わない、いわゆる体力低下が見られ若年者でありながら成人病に罹り易い。したがって、これらに対する対抗策の一つとしてトレーニングが必要とされるのである。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限：オリエンテーション 2時限：体力測定 3時限：最大筋力測定 4時限：トレーニング開始 毎時間、1/4～3/4の負荷を選び5～8種類のマシンを、2～3セット行う。 5時限：有酸素運動と心拍数の関係を解説 トレーニング 6時限：トレーニングの間隔と効果の解説と実行 トレーニング 7時限：ストレッチ（立位）実行と解説 トレーニング 8時限：ストレッチ（座位）実行と解説 トレーニング 9時限：運動と平衡バランスの実行と解説 トレーニング 10時限：トレーニング 11時限：『せぼね』に良いストレッチの解説と実行 トレーニング 12時限：トレーニング 13時限：トレーニング・最大筋力測定 14時限：体力測定 15時限：まとめ <授業の内容は前後する場合があります。></p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装、トレーニングウエア、体育館シューズ（室内用）を用意すること。
成績評価の方法	平常点60%、トレーニング内容30%、授業への取り組み10%。
その他	器具のいないトレーニング方法（一人で、対人で）などを講義する。

履修コード	195001
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	柳 浩二郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。健康体操については、ストレッチ体操を実践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるため、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。
成績評価の方法	成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はそこから自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。
教科書／テキスト	授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。

履修コード	195001
科目名	健康・スポーツ実習（ソフトボール）
担当者名	山口 良博

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) ソフトボールを行うための「投げる」「捕る」「打つ」といった基礎技術の習得を目指し、ゲームを中心とした実践練習においてルール等ゲームの進め方についても学ぶ。</p> <p>(到達目標) ソフトボールにおける基礎技術の習得はもとより、チームプレーを通して協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
授業スケジュール	<p>1. オリエンテーション、授業内容の説明 2～4. キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、ゲーム 5～7. シートノック、フリーバッティング、ゲーム 8～9. 総合練習、ゲーム 10～15. ゲーム（リーグ戦）</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	<p>スポーツウェア（上下）、スポーツシューズ（スパイクは不可）の着用を厳守すること。 雨天時でも、室内にて運動する場合がありますので、常に運動着は準備すること。</p>
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	195011
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	秋田 浩一

授業概要/ 到達目標（ねらい）	卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の楽しさを知ってもらいたい。また、スポーツの中でも最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基礎を築くことを目的としたい。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形 3時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム 5時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム 9時限目：シングルスゲーム 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習 11～13時限目：ダブルスゲーム 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、一般的な運動服とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。土足の場合は授業を受けることは出来ない。
---------	---

成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%、とする。実技点は実技テストにて判定する。
---------	---------------------------------------

履修コード	195011
科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）
担当者名	鈴木 淳平

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、より豊かな余暇活動として最良の生涯スポーツであるゴルフを教材とし、楽しく・安全に、ラウンドプレーをする為の基礎知識、技術、およびマナーを身につけることを主な目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目 オリエンテーション 種目選択 ガイダンス 2時限目 ゴルフスイングの基礎（グリップ、アドレス、スイング） 3時限目 基礎技術の習得、打撃練習（ピッチングウエッジ） 4時限目 基礎技術の習得、打撃練習（9アイアン） 5時限目 基礎技術の習得、打撃練習（7アイアン） 6時限目 打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） 7時限目 打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） 8時限目 打撃練習（アプローチショット） 9時限目 打撃練習（アプローチショット） 11時限目 パッティング（ゴルフクラブの解説） 12時限目 パッティング（ゴルフコースの解説） 13時限目 模擬コースのラウンドプレー（マナー、エチケットの解説） 14時限目 模擬コースのラウンドプレー（マナー、エチケットの解説） 15時限目 技術習得度・理解度の確認 16時限目 技術習得度・理解度の確認
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	1. 運動に適したスポーツウェア、シューズで受講すること。 2. ゴルフ用グローブを各自用意すること。 3. 積極的に運動すること。
---------	--

成績評価の方法	授業に出席して実技を实践することが重要である。出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。平常点を80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、技術習得度、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加え総合的に評価する。
---------	--

履修コード	195011
科目名	健康・スポーツ実習（空手道）
担当者名	高橋 俊介

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 空手道は、男子、女子を問わずに誰でもでき、空手道を通して礼節を重んずる精神を養成することを目的とする。</p> <p><到達目標> 空手道は、身体各部を均等に動かし呼吸運動を伴うことによって内臓諸器官の機能を向上させることができる優れた健康法でもある。さらに護身術としても楽しく特殊な技術を習得する授業である。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：空手道の歴史と技の説明</p> <p>2時限目：自然体での上段直突、中段直突、上段揚受、中段外受</p> <p>3時限目：閉足立ちによる前蹴り、前屈立ちによる逆突、下段払い</p> <p>4時限目：前屈立ちによる移動基本、追突、前蹴り</p> <p>5時限目：前屈立ちにて後方に下がって上段揚受、中段外受、下段払い、下段払い受</p> <p>6時限目：自然体から左右の猿臂、前屈立ちで身体を回転してから猿臂打</p> <p>7時限目：総合的に反復して練習</p> <p>8時限目：総合的に反復して練習</p> <p>9時限目：2人組で相対して攻撃技と防禦技を掛け合う約束組手に入る。</p> <p>10時限目：約束組手の中に猿臂打、手刀打を入れて護身術に入る。</p> <p>11時限目：総合的に反復して練習</p> <p>12時限目：総合的に反復して練習</p> <p>13時限目：総合的に反復して練習</p> <p>14時限目：総合的に反復して練習</p> <p>15時限目：理解度の確認</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、全員が授業用の空手着を着用する。
成績評価の方法	授業出席状況、授業の参加態度、実技テストにて総合的に評価する。

履修コード	195011
科目名	健康・スポーツ実習（ソフトボール）
担当者名	館岡 儀秋

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ソフトボールにおける「投げる」「捕る」「打つ」といった基本的な技術の修得および実践練習の中でルールを理解し、ゲームを中心とした内容で展開する。 ゲームとしての身体運動の実践により、健康的な社会生活を獲得する基盤を養成することを目的とする。
授業スケジュール	①オリエンテーション、授業内容の説明 ②～③キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、ゲーム ④～⑤シートノック、フリーバッティング、バント、ゲーム ⑥～⑭総合練習、ゲーム ⑮理解度の確認
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装：一般的な運動服装とする。 シューズ：スポーツ用シューズ。スパイクは不可とする。
成績評価の方法	平常点80%、総合評価（積極性・協調性・受講態度等）20%とする。 授業に出席して実技を実践することが重要である。遅刻、欠席は減点の対象とする。
その他	雨天および強風時は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。

履修コード	195011
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	山口 良博

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) バスケットボール、バレーボール、バドミントンを主な種目とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについて学ぶ。</p> <p>(到達目標) 各種目での技術上達はもとより、毎時間ゲームを行うことにより協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、授業内容の説明 2～5. バスケットボール（基礎練習、ゲーム） 6～9. バレーボール（基礎練習、ゲーム） 10～13. バドミントン（基礎練習、ゲーム） 14～15. 受講者と相談のうえ種目を決定（基礎練習、ゲーム）
準備学習	特になし。
履修上の留意点	スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	195101
科目名	健康・スポーツ実習(卓球)
担当者名	秋田 浩一

授業概要/ 到達目標(ねらい)	卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の楽しさを知ってもらいたい。また、スポーツの中でも最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基礎を築くことを目的としたい。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形 3時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム 5時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム 8時限目：スマッシュ(3球目)、シングルスゲーム 9時限目：シングルスゲーム 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習 11~13時限目：ダブルスゲーム 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的な運動服とするが、必ず体育館シューズを用意すること(土足厳禁)。土足の場合は授業を受けることは出来ない。
成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%、とする。実技点は実技テストにて判定する。

履修コード	195101
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	坂尾 知昭

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、バレーボール・バスケットボール・バトミントン等の室内で行なわれる種目を教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。基本的に毎時間ゲームを行い、各種目特有の技術・戦術の体得、体力の維持増進、身体運動の楽しさの体感を主なねらいとする。
授業スケジュール	1時限目はガイダンスを行う。 2～4時限目 バスケットボール 6～9時限目 バレーボール 10～13時限目 バトミントン 14時限目 学生の希望によって決定する。 15時限目 室内球技の研究論理・理解度の確認
準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業出席を重視します。遅刻や欠席をせず、且つ積極的に運動することを心がけてください。運動に適した一般的なスポーツウェアを着用し、凹凸の少ないフラットなソールの“清潔な”室内用シューズで受講してください。
成績評価の方法	出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。出席点は評点の80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加点点評価する。

履修コード	195101
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	柳 浩二郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	トレーニングは、特定の運動によって体の運動遂行能力を向上させることである。近年、科学の著しい発展に伴う社会環境の変化により、日常生活における筋肉運動量が減り、さらには栄養の過剰摂取による肥満傾向もみられ、日々の身体運動の必要性が盛んに論じられている。授業におけるトレーニングでは、その目的を明確にしながら、筋力や持久力、瞬発力の計画的な向上を図り、生涯にわたり自分の体力を維持・向上するための方法を知ることがねらいとされる。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業の説明、体力測定／ 2時限目～3時限目：カイザーカムⅡによる最大筋力の測定／ 4時限目～7時限目：トレーニング開始（毎時間、最大筋力の1／3～2／3の負荷を選定して5～8種類のマシンを利用したトレーニングを2～3セット行う）／ 8時限目～11時限目：負荷のアップ（男子は2kg、女子は1kgアップ）／ 12時限目～14時限目：負荷のアップ（男子は2kg、女子は1kgアップ）／ 15時限目：体力測定、まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的なトレーニングウェア、スポーツウェアとする。シューズは、室内用シューズを用意すること。
成績評価の方法	講義のねらいを達成するためには、毎回授業に出て実技を実践することが大切である。したがって、成績は平常点70%、実技点30%で評価を行う。実技点には、トレーニング内容や態度も含めて評価する。

履修コード	195201
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	秋田 浩一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の楽しさを知ってもらいたい。また、スポーツの中でも最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基礎を築くことを目的としたい。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形 3時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム 5時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム 9時限目：シングルスゲーム 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習 11～13時限目：ダブルスゲーム 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、一般的な運動服とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。土足の場合は授業を受けることは出来ない。
---------	---

成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%、とする。実技点は実技テストにて判定する。
---------	---------------------------------------

履修コード	195201
科目名	健康・スポーツ実習（ミニサッカー）
担当者名	岩本 哲也
授業概要／ 到達目標（ねらい）	ミニ・サッカーのゲームは、ボールを蹴ること（キック）、止めること（トラッピング）、運ぶこと（ドリブル）から成り立っている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることによって数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間余暇感覚でゲームを行い、よき人間関係作りを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：基礎技術、練習ゲーム 3時限目：基礎技術の応用、練習ゲーム 4～6時限目：ゲームの進め方、練習ゲーム 5～9時限目：ゲームの攻め方、守り方、練習ゲーム 10～14時限目：リーグ戦 15時限目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的な運動服で良い。シューズについては、オリエンテーションの時に説明する。
成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%とする。実技点はリーグ戦の結果と受講態度により採点する。個人の实技テストは行わない。

履修コード	195201
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	坂尾 知昭

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、バレーボール・バスケットボール・バトミントン等の室内で行なわれる種目を教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。基本的に毎時間ゲームを行い、各種目特有の技術・戦術の体得、体力の維持増進、身体運動の楽しさの体感を主なねらいとする。
授業スケジュール	1時限目はガイダンスを行う。 2～5時限目 バスケットボール 6～9時限目 バレーボール 10～13時限目 バトミントン 14時限目 学生の希望によって決定する。 15時限目 室内球技の研究論理・理解度の確認
準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業出席を重視します。遅刻や欠席をせず、且つ積極的に運動することを心がけること。運動に適した一般的なスポーツウェアを着用し、凹凸の少ないフラットなソールの“清潔な”室内用シューズで受講すること。
成績評価の方法	出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。出席点は評点の80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加点点評価する。

履修コード	195301
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	岩本 哲也

授業概要／ 到達目標（ねらい）	バスケットボール、バドミントンなどを教材とし、各種目を楽しむための基本技術やルールを学び、各種目の理解を深める。また、ゲームを通じて健康・体力を維持し、豊かな人間関係づくりを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明 (バスケットボール) 2時限目：ボールハンドリング、ドリブルシュート、ゲーム 3時限目：パス(チイスト、オーバー、アンダー、バウンドパス)、ゲーム 4時限目：ハーフコート3対3、ゲーム 5・6時限目：ゲーム(リーグ戦1・2) (バドミントン) 7時限目：グリップの理解、ストロークの基本技術、ゲーム 8時限目：サービス、スマッシュ、ゲーム 9時限目：基本技術の応用、ゲーム 10～12時限目：シングルスゲーム(リーグ戦) 12～14時限目：ダブルスゲーム(リーグ戦) 15時限目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装：一般的な運動服とする。 シューズ：必ず体育館シューズを用意すること。
成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%、とする。

履修コード	195301
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	坂尾 知昭

授業概要／ 到達目標（ねらい）	本講義では、身体運動学習の教材として卓球を用い、技術・戦術を体得し、同時に体力の維持増進を図ることを主なねらいとする。基本的に毎時間ゲームを行い、身体運動の楽しさを感じつつ、積極的な協力関係の構築を副次的なねらいとする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目はガイダンスを行う。 2～5時限目 基礎技術・戦術練習、基本的な戦略についての学習 6～9時限目 応用技術・戦術練習、リーグ戦、審判法の習得 10～13時限目 複合技術・戦術練習、リーグ戦、試合運営の習得 14時限目 総合練習、リーグ戦 15時限目 卓球の研究論理・理解度の確認
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	運動に適した一般的なスポーツウェアと、凹凸の少ないフラットなソールの室内用シューズで受講すること。遅刻や欠席をせず出席して、積極的に運動すること。
---------	---

成績評価の方法	出席を重視し、運動参加への積極性などを総合的に評価する。出席点は評点の80%とし、遅刻や欠席の減点法で計算する。その他、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加点評価する。
---------	--

履修コード	195301
科目名	健康・スポーツ実習（ゴルフ）
担当者名	館岡 儀秋

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ゴルフゲームは、より豊かな余暇活動として最良の生涯スポーツである。 楽しく、安全にラウンドプレーをする為の基礎知識、技術、およびマナーを身につける。
--------------------	---

授業スケジュール	①オリエンテーション ②ゴルフスイングの基礎（グリップ、アドレス、スイング） ③～⑤打撃練習（ピッチングウエッジ・9アイアン） ⑥～⑧打撃練習（9アイアン・7アイアン・1ウッド） ⑨～⑩打撃練習（アプローチショット） ⑪～⑫パッティング（ゴルフコースおよびゴルフクラブの解説） ⑬～⑭ラウンドプレー（模擬コース）（マナー、エチケットの解説） ⑮理解度の確認
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	1. 服装は、一般的な運動服装とする。 2. シューズは、運動靴とする。 3. ゴルフ用グローブを各自用意すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点80%、総合評価（積極性・協調性・受講態度等）20%とする。 授業に出席して実技を実践することが重要である。遅刻、欠席は減点の対象とする。
---------	---

その他	雨天および強風時は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。
-----	---------------------------------------

履修コード	195301
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	柳 浩二郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	トレーニングは、特定の運動によって体の運動遂行能力を向上させることである。近年、科学の著しい発展に伴う社会環境の変化により、日常生活における筋肉運動量が減り、さらには栄養の過剰摂取による肥満傾向もみられ、日々の身体運動の必要性が盛んに論じられている。授業におけるトレーニングでは、その目的を明確にしながら、筋力や持久力、瞬発力の計画的な向上を図り、生涯にわたり自分の体力を維持・向上するための方法を知ることがねらいとされる。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業の説明、体力測定／ 2時限目～3時限目：カイザーカムⅡによる最大筋力の測定／ 4時限目～7時限目：トレーニング開始（毎時間、最大筋力の1／3～2／3の負荷を選定して5～8種類のマシンを利用したトレーニングを2～3セット行う）／ 8時限目～11時限目：負荷のアップ（男子は2kg、女子は1kgアップ）／ 12時限目～14時限目：負荷のアップ（男子は2kg、女子は1kgアップ）／ 15時限目：体力測定、まとめ
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は、一般的なトレーニングウェア、スポーツウェアとする。シューズは、室内用シューズを用意すること。
---------	--

成績評価の方法	講義のねらいを達成するためには、毎回授業に出て実技を実践することが大切である。したがって、成績は平常点70%、実技点30%で評価を行う。実技点には、トレーニング内容や態度も含めて評価する。
---------	--

履修コード	195401
科目名	健康・スポーツ実習（サッカー）
担当者名	秋田 浩一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	サッカーのゲームは、ボールを蹴ること(キック)、止めること(トラッピング)、運ぶこと(ドリブル)から成り立っている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることによって数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間基本技術とゲームを行い、サッカーの楽しさを実感する。また、正しいルールを学び、ゲームに生かすことへの理解度を高める。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明 2時限目：班分け、インサイドキック、トラッピング(グランダー) 3時限目：インサイドキック、練習ゲーム 4時限目：浮き球のトラッピング1、リーグ戦1 5時限目：インステップキック、リーグ戦2 6時限目：インフロントキック、リーグ戦3 7時限目：オフサイドルールの理解、リーグ戦4 8時限目：浮き球のトラッピング2、リーグ戦5 9・12時限目：基礎技術の応用練習、リーグ戦6～9 13・14時限目：基礎技術の応用練習、優勝決定戦 15時限目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的な運動服が良いが必ずアップシューズもしくは、ゴム底のスパイクシューズを用意すること（6本ポイントのスパイクは不可）。靴下は厚手のものがよい。
成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%とする。実技点はチーム対抗リーグ戦の結果と受講態度により採点する。個人の実技テストは行わない。

履修コード	195401
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	江口 淳一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要)</p> <p>生涯スポーツとして、定着したテニスの基本的打球技術を習得し、ルールやマナーを学ぶことによって、安全で楽しくテニスを実践する能力と態度を養う。また、授業を通して得られる様々な経験から、健康で活力のある生活の基礎となる身体運動への理解と、生涯スポーツとしての導入を図る。</p> <p>(到達目標)</p> <p>グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービスなどの基本的打球技術の習得と、ルールやマナーを理解する。また、スポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツの持つ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身につけ自立的にスポーツを生活化する態度を養う。</p> <p>さらに、共通の体験を通して、大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的人格の形成を目指す。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットイング、ボレー、ミニストローク 3: フォアハンドグラウンドストロークの基本技術 4: バックハンドグラウンドストロークの基本技術 5: フォアハンド・バックハンドボレーの基本技術 6: スマッシュ、サービスの基本技術 7: ラリーを通しての応用練習 8: 半面でのシングルスゲーム 9: 半面でのシングルスゲーム（リーグ戦） 10: 半面でのシングルスゲーム（トーナメント） 11: ダブルスのルールと戦術 12: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 13: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 14: ダブルスのゲーム（トーナメント） 15: 理解度の確認
----------	--

準備学習	<p>体育実技なので、体調を整えて、フルに動けるようにすること。</p> <p>授業内でも説明するが、あらかじめテニスのルールを理解すること。</p>
------	---

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない。 ② 服装は一般的な運動服装とする。 ③ ラケットは貸与する。
---------	--

成績評価の方法	平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に判断する。
---------	--------------------------------------

その他	雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、映像による戦術の解説および分析などの講義を行うか、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。
-----	---

履修コード	195401
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	下谷内 勝利

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この授業は、卓球の基本技術を学習した後、シングルス、そしてダブルスの順にゲームを展開する。その過程で卓球というスポーツへの理解を深めてもらい、生涯スポーツの基礎を築いてもらうことを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形、簡易ゲーム 3時限目：フォアハンドドライブ、簡易ゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方、シングルスリーグ戦 5時限目：バックハンドショートの打ち方、シングルスリーグ戦 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスリーグ戦 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスリーグ戦 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスリーグ戦 9時限目：ダブルスゲームの行い方、ダブルスゲームの練習、ダブルスリーグ戦 10時限目：ダブルスリーグ戦 11時限目：ダブルスリーグ戦 12時限目：ダブルスリーグ戦 13時限目：ダブルスリーグ戦 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
準備学習	卓球のルールを予習しておいてほしい。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に実技に取り組む姿勢が重要である。したがって、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点はスキルテストにて判定する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	特になし。
その他	グループ毎にリーグ戦を行うことが多いため、30分以上の遅刻は認めないものとする。

履修コード	195401
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	竹田 幸夫

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。 （到達目標） 健康体操については、ストレッチ体操、体のバランスを矯正するための体操、セルフマッサージを実践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。</p>
授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目：セルフマッサージ法／ 5時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	<p>服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるため、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。</p>
成績評価の方法	<p>成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はそこから自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。</p>
その他	<p>授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。</p>

履修コード	195401
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	椿原 徹也

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) バドミントン、バスケットボールを主な種目とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについて学ぶ。</p> <p>(到達目標) 各種目での技術上達はもとより、毎時間ゲームを行うことにより協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
授業スケジュール	<p>1. オリエンテーション、授業内容の説明</p> <p>2～7. バドミントン（基礎練習、ゲーム）</p> <p>8～13. バスケットボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>14～15. 受講者と相談のうえ種目を決定（基礎練習、ゲーム）</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	195401
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	光永 吉輝

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 初めに体力測定を行い、各自の体力に応じたトレーニングメニューを作成し、毎時間、ストレッチ体操・エアロビクス（有酸素運動）・ウエイトトレーニングなど行う。 ウエイトトレーニングでは、米航空宇宙局（NASA）で宇宙飛行士のトレーニングマシンとして開発されたカイザーカムⅡという空気抵抗を利用したマシンを用いて行う、このマシンは、ダイヤル調整だけで負荷の調節が出来て簡単でかつ安全なトレーニングマシンである。 <到達目標（ねらい）> トレーニングとは、運動刺激に対する、人体の適応性を利用して、人体の作業能力をできるだけ発達させる過程であると定義されている。骨、筋肉、靭帯、腱、心臓、肺臓、など身体の形態や機能を強化発達させる過程をいい、社会生活をするうえで必要な心身の力を向上させるために行う練習、訓練である。 近年、科学の著しい発展に伴う様々な社会環境の変化などから、日常の筋肉運動が少なくなり、かつまた進学競争を低年齢化させ、加えて、栄養の過剰によって肥満傾向となるなど、日常生活における身体運動の必要性が高まってきている。日常生活以外に運動を行わないでいると成長発育期では、体格の発達に体力が伴わない、いわゆる体力低下が見られ若年者でありながら成人病に罹り易い。したがって、これらに対する対抗策の一つとしてトレーニングが必要とされるのである。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限：オリエンテーション 2時限：体力測定 3時限：最大筋力測定 4時限：トレーニング開始 毎時間、1／4～3／4の負荷を選び5～8種類のマシンを、2～3セット行う。 5時限：有酸素運動と心拍数の関係を解説 トレーニング 6時限：トレーニングの間隔と効果の解説と実行 トレーニング 7時限：ストレッチ（立位）実行と解説 トレーニング 8時限：ストレッチ（座位）実行と解説 トレーニング 9時限：運動と平衡バランスの実行と解説 トレーニング 10時限：トレーニング 11時限：『せぼね』に良いストレッチの解説と実行 トレーニング 12時限：トレーニング 13時限：トレーニング・最大筋力測定 14時限：体力測定 15時限：まとめ <授業の内容は前後する場合があります。></p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装、トレーニングウエア、体育館シューズ（室内用）を用意すること。
成績評価の方法	平常点60%、トレーニング内容30%、授業への取り組み10%。
その他	器具のいらないトレーニング方法（一人で、対人で）などを講義する。

履修コード	195501
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	江口 淳一

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要)</p> <p>生涯スポーツとして、定着したテニスの基本的打球技術を習得し、ルールやマナーを学ぶことによって、安全で楽しくテニスを実践する能力と態度を養う。また、授業を通して得られる様々な経験から、健康で活力のある生活の基礎となる身体運動への理解と、生涯スポーツとしての導入を図る。</p> <p>(到達目標)</p> <p>グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービスなどの基本的打球技術の習得と、ルールやマナーを理解する。また、スポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツの持つ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身につけ自立的にスポーツを生活化する態度を養う。</p> <p>さらに、共通の体験を通して、大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的人格の形成を目指す。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットイング、ボレー、ミニストローク 3: フォアハンドグラウンドストロークの基本技術 4: バックハンドグラウンドストロークの基本技術 5: フォアハンド・バックハンドボレーの基本技術 6: スマッシュ、サービスの基本技術 7: ラリーを通しての応用練習 8: 半面でのシングルスゲーム 9: 半面でのシングルスゲーム（リーグ戦） 10: 半面でのシングルスゲーム（トーナメント） 11: ダブルスのルールと戦術 12: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 13: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 14: ダブルスのゲーム（トーナメント） 15: 理解度の確認
----------	--

準備学習	<p>体育実技なので、体調を整えて、フルに動けるようにすること。</p> <p>授業内でも説明するが、あらかじめテニスのルールを理解すること。</p>
------	---

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない。 ② 服装は一般的な運動服装とする。 ③ ラケットは貸与する。
---------	--

成績評価の方法	平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に判断する。
---------	--------------------------------------

その他	雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、映像による戦術の解説および分析などの講義を行うか、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。
-----	---

履修コード	195501
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	末次 美樹

授業概要／ 到達目標（ねらい）	卓球の基本技術を学習した後、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の楽しさを知ってもらおう。卓球への理解を深めながら、生涯スポーツの基礎を楽しくすることを目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：フォアハンドのストローク、フォアハンドゲーム 3～5時限目：フォアハンド、バックハンドのストローク、スマッシュ、シングルスゲーム 6～9時限目：カットの打ち方と返球、シングルスゲーム（リーグ戦） 9～10時限目：ダブルスでの攻防、ダブルスゲームの練習 11～15時限目：ダブルゲーム（リーグ戦）
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること（土足厳禁）。
---------	---

成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。
---------	--

履修コード	195501
科目名	健康・スポーツ実習（空手道）
担当者名	高橋 俊介
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 空手道は、男子、女子を問わずに誰でもでき、空手道を通して礼節を重んずる精神を養成することを目的とする。</p> <p><到達目標> 空手道は、身体各部を均等に動かし呼吸運動を伴うことによって内臓諸器官の機能を向上させることができる優れた健康法でもある。さらに護身術としても楽しく特殊な技術を習得する授業である。</p>
授業スケジュール	<p>1時限目：空手道の歴史と技の説明</p> <p>2時限目：自然体での上段直突、中段直突、上段揚受、中段外受</p> <p>3時限目：閉足立ちによる前蹴り、前屈立ちによる逆突、下段払い</p> <p>4時限目：前屈立ちによる移動基本、追突、前蹴り</p> <p>5時限目：前屈立ちにて後方に下がって上段揚受、中段外受、下段払い、下段払い受</p> <p>6時限目：自然体から左右の猿臂、前屈立ちで身体を回転してから猿臂打</p> <p>7時限目：総合的に反復して練習</p> <p>8時限目：総合的に反復して練習</p> <p>9時限目：2人組で相対して攻撃技と防禦技をかけ合う約束組手に入る。</p> <p>10時限目：約束組手の中に猿臂打、手刀打を入れて護身術に入る。</p> <p>11時限目：総合的に反復して練習</p> <p>12時限目：総合的に反復して練習</p> <p>13時限目：総合的に反復して練習</p> <p>14時限目：総合的に反復して練習</p> <p>15時限目：実技試験</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、全員が授業用の空手着を着用する。
成績評価の方法	授業出席状況、授業の参加態度、実技テストにて総合的に評価する。

履修コード	195501
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	竹田 幸夫

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。</p> <p>(到達目標) 健康体操については、ストレッチ体操、体のバランスを矯正するための体操、セルフマッサージを実践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。</p>
授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目：セルフマッサージ法／ 5時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	<p>服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるため、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。</p>
成績評価の方法	<p>成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はそこから自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。</p>
その他	<p>授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。</p>

履修コード	195501
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	椿原 徹也

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) バドミントン、バスケットボールを主な種目とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについて学ぶ。</p> <p>(到達目標) 各種目での技術上達はもとより、毎時間ゲームを行うことにより協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
授業スケジュール	<p>1. オリエンテーション、授業内容の説明</p> <p>2～7. バドミントン（基礎練習、ゲーム）</p> <p>8～13. バスケットボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>14～15. 受講者と相談のうえ種目を決定（基礎練習、ゲーム）</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	195501
科目名	健康・スポーツ実習（トレーニング）
担当者名	光永 吉輝

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 初めに体力測定を行い、各自の体力に応じたトレーニングメニューを作成し、毎時間、ストレッチ体操・エアロビクス（有酸素運動）・ウエイトトレーニングなど行う。 ウエイトトレーニングでは、米航空宇宙局（NASA）で宇宙飛行士のトレーニングマシンとして開発されたカイザーカムⅡという空気抵抗を利用したマシンを用いて行う、このマシンは、ダイヤル調整だけで負荷の調節が出来て簡単でかつ安全なトレーニングマシンである。</p> <p><到達目標（ねらい）> トレーニングとは、運動刺激に対する、人体の適応性を利用して、人体の作業能力をできるだけ発達させる過程であると定義されている。骨、筋肉、靭帯、腱、心臓、肺臓、など身体の状態や機能を強化発達させる過程をいい、社会生活をするうえで必要な心身の力を向上させるために行う練習、訓練である。</p> <p>近年、科学の著しい発展に伴う様々な社会環境の変化などから、日常の筋肉運動が少なくなり、かつまた進学競争を低年齢化させ、加えて、栄養の過剰によって肥満傾向となるなど、日常生活における身体運動の必要性が高まってきている。日常生活以外に運動を行わないでいると成長発育期では、体格の発達に体力が伴わない、いわゆる体力低下が見られ若年者でありながら成人病に罹り易い。したがって、これらに対する対抗策の一つとしてトレーニングが必要とされるのである。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限：オリエンテーション 2時限：体力測定 3時限：最大筋力測定 4時限：トレーニング開始 毎時間、1/4～3/4の負荷を選び5～8種類のマシンを、2～3セット行う。 5時限：有酸素運動と心拍数の関係を解説 トレーニング 6時限：トレーニングの間隔と効果の解説と実行 トレーニング 7時限：ストレッチ（立位）実行と解説 トレーニング 8時限：ストレッチ（座位）実行と解説 トレーニング 9時限：運動と平衡バランスの実行と解説 トレーニング 10時限：トレーニング 11時限：『せぼね』に良いストレッチの解説と実行 トレーニング 12時限：トレーニング 13時限：トレーニング・最大筋力測定 14時限：体力測定 15時限：まとめ <授業の内容は前後する場合があります。></p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装、トレーニングウェア、体育館シューズ（室内用）を用意すること。
成績評価の方法	平常点60%、トレーニング内容30%、授業への取り組み10%。
その他	器具のいらないトレーニング方法（一人で、対人で）などを講義する。

履修コード	195511
科目名	健康・スポーツ実習（サッカー）
担当者名	秋田 浩一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	サッカーのゲームは、ボールを蹴ること（キック）、止めること（トラッピング）、運ぶこと（ドリブル）から成り立っている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることによって数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間基本技術とゲームを行い、サッカーの楽しさを実感する。また、正しいルールを学び、ゲームに生かすことへの理解度を高める。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明 2時限目：班分け、インサイドキック、トラッピング(グランダー) 3時限目：インサイドキック、練習ゲーム 4時限目：浮き球のトラッピング1、リーグ戦1 5時限目：インステップキック、リーグ戦2 6時限目：インフロントキック、リーグ戦3 7時限目：オフサイドルールの理解、リーグ戦4 8時限目：浮き球のトラッピング2、リーグ戦5 9・12時限目：基礎技術の応用練習、リーグ戦6～9 13・14時限目：基礎技術の応用練習、優勝決定戦 15時限目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的な運動服が良いが必ずアップシューズもしくは、ゴム底のスパイクシューズを用意すること（6本ポイントのスパイクは不可）。靴下は厚手のものがよい。
成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%とする。実技点はチーム対抗リーグ戦の結果と受講態度により採点する。個人の実技テストは行わない。

履修コード	195511
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	江口 淳一

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 生涯スポーツとして、定着したテニスの基本的打球技術を習得し、ルールやマナーを学ぶことによって、安全で楽しくテニスを実践する能力と態度を養う。また、授業を通して得られる様々な経験から、健康で活力のある生活の基礎となる身体運動への理解と、生涯スポーツとしての導入を図る。</p> <p>（到達目標） グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サービスなどの基本的打球技術の習得と、ルールやマナーを理解する。また、スポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツの持つ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身につけ自立的にスポーツを生活化する態度を養う。</p> <p>さらに、共通の体験を通して、大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的人格の形成を目指す。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットティング、ボレー、ミニストローク 3: フォアハンドグラウンドストロークの基本技術 4: バックハンドグラウンドストロークの基本技術 5: フォアハンド・バックハンドボレーの基本技術 6: スマッシュ、サービスの基本技術 7: ラリーを通しての応用練習 8: 半面でのシングルスゲーム 9: 半面でのシングルスゲーム（リーグ戦） 10: 半面でのシングルスゲーム（トーナメント） 11: ダブルスのルールと戦術 12: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 13: ダブルスのゲーム（リーグ戦） 14: ダブルスのゲーム（トーナメント） 15: 理解度の確認
----------	---

準備学習	<p>体育実技なので、体調を整えて、フルに動けるようにすること。 授業内でも説明するが、あらかじめテニスのルールを理解すること。</p>
------	--

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない。 ② 服装は一般的な運動服装とする。 ③ ラケットは貸与する。
---------	--

成績評価の方法	<p>平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に判断する。</p>
---------	---

その他	<p>雨天の場合は、テニスの歴史、技術の科学的な解説、映像による戦術の解説および分析などの講義を行うか、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。</p>
-----	--

履修コード	195511
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	下谷内 勝利

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この授業は、卓球の基本技術を学習した後、シングルス、そしてダブルスの順にゲームを展開する。その過程で卓球というスポーツへの理解を深めてもらい、生涯スポーツの基礎を築いてもらうことを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形、簡易ゲーム 3時限目：フォアハンドドライブ、簡易ゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショット、ロングの打ち方、シングルスリーグ戦 5時限目：バックハンドショットの打ち方、シングルスリーグ戦 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスリーグ戦 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスリーグ戦 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスリーグ戦 9時限目：ダブルスゲームの行い方、ダブルスゲームの練習、ダブルスリーグ戦 10時限目：ダブルスリーグ戦 11時限目：ダブルスリーグ戦 12時限目：ダブルスリーグ戦 13時限目：ダブルスリーグ戦 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
準備学習	卓球のルールを予習しておいてほしい。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に実技に取り組む姿勢が重要である。したがって、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点はスキルテストにて判定する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	特になし。
その他	グループ毎にリーグ戦を行うことが多いため、30分以上の遅刻は認めないものとする。

履修コード	195511
科目名	健康・スポーツ実習（ソフトボール）
担当者名	末次 美樹

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ソフトボールにおける「打つ」「捕る」「投げる」といった基本動作を習得し、ゲームを中心とした実践練習の中で、ルールやゲームの進め方を学習する。また、授業を通じて生涯スポーツの基盤を築き、豊かな人間関係づくりを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティングの練習 3～5時限目：キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、ゲーム 6～15時間目：ゲーム（リーグ戦）
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装：スポーツウェア（上下）、スポーツシューズ（金属製スパイクは不可）の着用を厳守すること。用具は貸与する。
成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。

履修コード	195511
科目名	健康・スポーツ実習（空手道）
担当者名	高橋 俊介

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p><授業概要> 空手道は、男子、女子を問わずに誰でもでき、空手道を通して礼節を重んずる精神を養成することを目的とする。</p> <p><到達目標> 空手道は、身体各部を均等に動かし呼吸運動を伴うことによって内臓諸器官の機能を向上させることができる優れた健康法でもある。さらに護身術としても楽しく特殊な技術を習得する授業である。</p>
授業スケジュール	<p>1時限目：空手道の歴史と技の説明</p> <p>2時限目：自然体での上段直突、中段直突、上段揚受、中段外受</p> <p>3時限目：閉足立ちによる前蹴り、前屈立ちによる逆突、下段払い</p> <p>4時限目：前屈立ちによる移動基本、追突、前蹴り</p> <p>5時限目：前屈立ちにて後方に下がって上段揚受、中段外受、下段払い、下段払い受</p> <p>6時限目：自然体から左右の猿臂、前屈立ちで身体を回転してから猿臂打</p> <p>7時限目：総合的に反復して練習</p> <p>8時限目：総合的に反復して練習</p> <p>9時限目：2人組で相対して攻撃技と防禦技をかけ合う約束組手に入る。</p> <p>10時限目：約束組手の中に猿臂打、手刀打を入れて護身術に入る。</p> <p>11時限目：総合的に反復して練習</p> <p>12時限目：総合的に反復して練習</p> <p>13時限目：総合的に反復して練習</p> <p>14時限目：総合的に反復して練習</p> <p>15時限目：理解度の確認</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、全員が授業用の空手着を着用する。
成績評価の方法	授業出席状況、授業の参加態度、実技テストにて総合的に評価する。

履修コード	195511
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	竹田 幸夫

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。 (到達目標) 健康体操については、ストレッチ体操、体のバランスを矯正するための体操、セルフマッサージを実践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。</p>
授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目：セルフマッサージ法／ 5時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	<p>服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるため、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。</p>
成績評価の方法	<p>成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はそこから自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。</p>
その他	<p>授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。</p>

履修コード	195511
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	椿原 徹也

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) バドミントン、バスケットボールを主な種目とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについて学ぶ。</p> <p>(到達目標) 各種目での技術上達はもとより、毎時間ゲームを行うことにより協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
授業スケジュール	<p>1. オリエンテーション、授業内容の説明</p> <p>2～7. バドミントン（基礎練習、ゲーム）</p> <p>8～13. バスケットボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>14～15. 受講者と相談のうえ種目を決定（基礎練習、ゲーム）</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	195601
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	猪越 悠介

授業概要／ 到達目標（ねらい）	バスケットボールやバドミントンなどの室内球技を教材とし、競技規則、役割、マナー等のスポーツルールを学び、主体的・継続的にスポーツと関わること。また自己の年齢、体力、環境に応じた運動を実施することにより生涯の健康管理につながる事を目的とする。同時に、身体運動の楽しさを感じつつ、積極的な協力関係を構築することを副次的なねらいとする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目はオリエンテーションを行う。 2～4時限目 バスケットボール 5～7時限目 バレーボール 8～10時限目 バドミントン 11～13時限目 ミニサッカー 14・15時限目 学生の希望によって決定する。
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は一般的なスポーツ服装を準備すること。また、室内用シューズで受講する。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。 全体の80%を平常点とし、その他授業態度等を20%で評価する。
---------	---

履修コード	195601
科目名	健康・スポーツ実習（サッカー）
担当者名	岩本 哲也
授業概要／ 到達目標（ねらい）	サッカーのゲームは、ボールを蹴る（キック）、止める（トラップ）、運ぶ（ドリブル）の基本技術を向上すると共に体力の向上、健康の維持・増進を図る。また、団体競技である「サッカー」を通じて、コミュニケーション能力の向上と豊かな人間関係づくりを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明 2時限目：リフティング、インサイドキック、ゲーム 3時限目：インサイドキック、トラッピング、ゲーム 4時限目：浮き球のトラッピング、ゲーム 5時限目：インステップキック（グラウンダー・浮き球）、ゲーム 6時限目：インフロントキック、ゲーム 7時限目：オフサイドルールの理解、ゲーム 8～10時限目：基本技術の応用、ゲーム 11～14時限目：ゲーム（リーグ戦） 15時限目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装：一般的な運動服とする。 シューズ：必ずアップシューズもしくは、固定式スパイクを用意すること （取替式スパイクは不可）
成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%とする。実技点はリーグ戦の結果と受講態度により採点する。個人の実技テストは行わない。

履修コード	195601
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	平田 大輔

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 生涯スポーツとして多くの人がプレーを楽しまれているテニスを通して体力の維持・増進を目指す。そのためテニスの基本技術を習得し、テニスの面白さやコミュニケーションを経験し、生涯スポーツとして楽しめるような技術を身につけられるようにする。</p> <p>(到達目標) テニスのグランドストローク、ボレー、サーブといった技術だけに留まらず、マナー、ルールを学び、コミュニケーション力を身につけられるようにする。また、今後の学生生活が有意義になるような仲間作りが出来ることを目指す。経験者は、いままでの技術をさらに向上させ、試合に生かせるようになってもらう。さらに未経験者に対してアドバイスができるようにもなってもらいたい。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットワーク、ラケット・ボールに慣れる 3: ストロークの基本技術Ⅰ 4: ストロークの基本技術Ⅱ 5: ボレーの基本技術 6: スマッシュ、サーブの基本技術 7: 応用技術Ⅰ（試合で使える技術をマスター） 8: 応用技術Ⅱ 9: シングルスゲーム 10: ダブルスのルール戦術 11: ダブルスゲームⅠ 12: ダブルスゲームⅡ 13: 団体戦Ⅰ（シングルス、ダブルス） 14: 団体戦Ⅱ（シングルス、ダブルス） 15: 理解度の確認
準備学習	<p>体育実技なので、体調をしっかりと整えて、授業を受講出来るようにすること。</p>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない ② 服装は運動着とする。できればテニスシューズを準備すること。 ③ ラケットは貸与する。
成績評価の方法	<p>平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に評価する。</p>
その他	<p>雨天の場合は、テニスに関する知識を深めるため、映像などを使用して講義を行う。もしくは、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。</p>

履修コード	195601
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	下谷内 勝利
授業概要／ 到達目標（ねらい）	この授業は、卓球の基本技術を学習した後、シングルス、そしてダブルスの順にゲームを展開する。その過程で卓球というスポーツへの理解を深めてもらい、生涯スポーツの基礎を築いてもらうことを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形、簡易ゲーム 3時限目：フォアハンドドライブ、簡易ゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショット、ロングの打ち方、シングルスリーグ戦 5時限目：バックハンドショットの打ち方、シングルスリーグ戦 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスリーグ戦 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスリーグ戦 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスリーグ戦 9時限目：ダブルスゲームの行い方、ダブルスゲームの練習、ダブルスリーグ戦 10時限目：ダブルスリーグ戦 11時限目：ダブルスリーグ戦 12時限目：ダブルスリーグ戦 13時限目：ダブルスリーグ戦 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
準備学習	卓球のルールを予習しておいてほしい。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に実技に取り組む姿勢が重要である。したがって、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点はスキルテストにて判定する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	特になし。
その他	グループ毎にリーグ戦を行うことが多いため、30分以上の遅刻は認めないものとする。

履修コード	195601
科目名	健康・スポーツ実習（空手道）
担当者名	末次 美樹

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この授業では、空手道の基本・形・組手を修得し、身体各部を有効かつ均等に使い、様々な技を身につけることを目的としている。突き・蹴り・受けなど技は、護身術としての力も発揮するため、自分の身体を自分で護る護身術にも繋がっていく。また、それらの技を反復し行うことで、自然と正しい姿勢、呼吸法などが身につくため、現在および将来の健康の保持増進が期待できる授業である。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション</p> <p>2時限目：拳の握り方・突きのコースを習得後、極めの確認、蹴りのコース確認後、ミット</p> <p>3時限目：自然体での上段直突、中段直突、前蹴り、上段揚受、中段外受、下段払い</p> <p>4時限目：対人→基本組手、自然体からの手刀受け、後屈立ち</p> <p>5時限目：移動の基本、基本組手、形（平安初段）</p> <p>6～8時限目：総合的に反復する</p> <p>9時限目：基本一本組手、形（平安初段・平安二段）</p> <p>10～14時限目：総合的に反復する</p> <p>15時限目：理解度の確認</p>
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：空手道衣を着用する。シューズは履かず、裸足で行う。
---------	------------------------------

成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。
---------	--

履修コード	195601
科目名	健康・スポーツ実習（ソフトボール）
担当者名	柳 浩二郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ソフトボールの基本技術や戦術、ルールを理解して、身体運動の実践を通して動くことの楽しさ、仲間と協調してゲームを楽しむことを知ることが大きなねらいである。また、ソフトボールは、手軽に実践できるスポーツであり、生涯スポーツにも適している。授業における実技を毎回実践することにより、生涯スポーツを実践する習慣の基盤をつくりたい。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業の説明／ 2時限目～3時限目：キャッチボール、捕球の基本技術、トスバッティング、ゲーム／ 4時限目～5時限目：ルール及びゲーム展開の仕方の説明、シートノック、フリーバッティング、バント、ゲーム／ 6時限目～9時限目：チームごとの総合練習、ゲーム／ 10時限目～15時限目：ゲーム（リーグ戦）
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。シューズは、ランニングシューズ等、運動に適したものを持参する。なお、スパイクは不可とする。
成績評価の方法	講義のねらいを達成するためには、毎回授業に出て実技を実践することが大切である。したがって、成績は平常点70%、実技点30%で評価を行う。
その他	雨天時は、室内において他の種目を行うか、あるいは教場においてルールの説明、ビデオ観戦とする。その際には、第2体育館入口付近に場所・教場を掲示する。

履修コード	195701
科目名	健康・スポーツ実習（屋外球技）
担当者名	猪越 悠介
授業概要／ 到達目標（ねらい）	屋外で行う、ソフトボールやサッカーなどの屋外球技を教材とし、競技規則、役割、マナー等のスポーツルールを学び、他の参加者と協力してゲーム運営ができることを目標とする。実施する種目等については、受講者の状況を見て決定する。
授業スケジュール	第1回目：オリエンテーション 第2回目～14回目：ルール説明 基本技術 ゲーム 第15回目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は一般的なスポーツ服装を準備すること。シューズはスポーツシューズを基本とする。裸足でのプレーは認めない。
成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。 全体の80%を平常点とし、その他授業態度等を20%で評価する。
その他	屋外で行うため、授業は天候に左右されるが、状況を見て掲示を出すので、天候が悪い場合は、掲示に注意すること。

履修コード	195701
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	平田 大輔

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要)</p> <p>生涯スポーツとして多くの人々がプレーを楽しまれているテニスを通して体力の維持・増進を目指す。そのためテニスの基本技術を習得し、テニスの面白さやコミュニケーションを経験し、生涯スポーツとして楽しめるような技術を身につけられるようにする。</p> <p>(到達目標)</p> <p>テニスのグラウンドストローク、ボレー、サーブといった技術だけに留まらず、マナー、ルールを学び、コミュニケーション力を身につけられるようにする。また、今後の学生生活が有意義になるような仲間作りが出来ることを目指す。経験者は、いままでの技術をさらに向上させ、試合に生かせるようになってもらう。さらに未経験者に対してアドバイスができるようにもなってもらいたい。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットワーク、ラケット・ボールに慣れる 3: ストロークの基本技術Ⅰ 4: ストロークの基本技術Ⅱ 5: ボレーの基本技術 6: スマッシュ、サーブの基本技術 7: 応用技術Ⅰ（試合で使える技術をマスター） 8: 応用技術Ⅱ 9: シングルスゲーム 10: ダブルスのルール戦術 11: ダブルスゲームⅠ 12: ダブルスゲームⅡ 13: 団体戦Ⅰ（シングルス、ダブルス） 14: 団体戦Ⅱ（シングルス、ダブルス） 15: 理解度の確認
準備学習	<p>体育実技なので、体調をしっかりと整えて、授業を受講出来るようにすること。</p>
履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない ② 服装は運動着とする。できればテニスシューズを準備すること。 ③ ラケットは貸与する。
成績評価の方法	<p>平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に評価する。</p>
その他	<p>雨天の場合は、テニスに関する知識を深めるため、映像などを使用して講義を行う。もしくは、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。</p>

履修コード	195701
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	下谷内 勝利

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この授業は、卓球の基本技術を学習した後、シングルス、そしてダブルスの順にゲームを展開する。その過程で卓球というスポーツへの理解を深めてもらい、生涯スポーツの基礎を築いてもらうことを目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形、簡易ゲーム 3時限目：フォアハンドドライブ、簡易ゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方、シングルスリーグ戦 5時限目：バックハンドショートの打ち方、シングルスリーグ戦 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスリーグ戦 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスリーグ戦 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスリーグ戦 9時限目：ダブルスゲームの行い方、ダブルスゲームの練習、ダブルスリーグ戦 10時限目：ダブルスリーグ戦 11時限目：ダブルスリーグ戦 12時限目：ダブルスリーグ戦 13時限目：ダブルスリーグ戦 14時限目：スキルテスト 15時限目：まとめ
----------	---

準備学習	卓球のルールを予習しておいてほしい。
------	--------------------

履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。
---------	---

成績評価の方法	授業に出席して、積極的に実技に取り組む姿勢が重要である。したがって、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点はスキルテストにて判定する。
---------	---

教科書／テキスト	特になし。
----------	-------

参考書	特になし。
-----	-------

その他	グループ毎にリーグ戦を行うことが多いため、30分以上の遅刻は認めないものとする。
-----	--

履修コード	195701
科目名	健康・スポーツ実習（体操・トランポリン）
担当者名	柳 浩二郎

授業概要／ 到達目標（ねらい）	「体操」という種目を広義に捉え、健康体操ならびに器械運動・トランポリンの実技を行う。健康体操については、ストレッチ体操を実践し、日々の生活においてできる健康法を理解する。器械運動では、マット・鉄棒・トランポリン等の種目において初心者を対象としたやさしい技から難しい技へと段階的に課題を習得する。受講者の希望があれば、能力に応じてマット上での後転とび（バック転）の習得をめざす。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明／ 2時限目～3時限目：健康体操とストレッチ体操／ 4時限目～6時限目：ストレッチ体操、マット、トランポリン／ 7時限目：男子あん馬、女子平均台、トランポリン／ 8時限目：男子つり輪、女子平均台、トランポリン／ 9時限目：男子平行棒、女子鉄棒、トランポリン／ 10時限目：鉄棒、トランポリン／ 11時限目～14時限目：発展技の練習、自主練習／ 15時限目：まとめと評価
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。底の薄い体操シューズを用意するのが望ましいが、ソックスでも良い。実技は、玉川第2体育館1階アリーナの体操場で行う。なお、体操場にセットされている鉄棒やトランポリンなどの器械は、扱い方を誤ると怪我や事故につながるため、勝手に使用せず、授業における教員の指示に従うこと。
成績評価の方法	成績は、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。男女それぞれ易しい技から難しい技まで40～50の課題を設定してあるので、受講生はそこから自分で習得したい技、能力に応じた技を選択する。課題の達成度の評価は、受講生同士で行い、その達成度を得点に換算して実技点とする。
教科書／テキスト	授業の進行状況に応じて、課題となっている技、ならびに体操競技の競技会のビデオ（DVD）を観る。

履修コード	195701
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	山口 良博

授業概要／ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) バスケットボール、バレーボール、バドミントンを主な種目とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについて学ぶ。</p> <p>(到達目標) 各種目での技術上達はもとより、毎時間ゲームを行うことにより協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、授業内容の説明 2～5. バスケットボール（基礎練習、ゲーム） 6～9. バレーボール（基礎練習、ゲーム） 10～13. バドミントン（基礎練習、ゲーム） 14～15. 受講者と相談のうえ種目を決定（基礎練習、ゲーム）
準備学習	特になし。
履修上の留意点	スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	195801
科目名	健康・スポーツ実習（屋外球技）
担当者名	岩本 哲也

授業概要／ 到達目標（ねらい）	球技スポーツを教材とし、各種目を楽しむための基本技術やルールを学び、各種目の理解を深める。また、ゲームを通じて健康・体力を維持し、豊かな人間関係づくりを目的とする。
授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明 （サッカー）</p> <p>2時限目：基本技術、ゲーム</p> <p>3時限目：基本技術の応用、ゲーム</p> <p>4時限目：ゲームの進め方、ゲーム</p> <p>5時限目：ゲームの攻め方・守り方、ゲーム</p> <p>6～8時限目：ゲーム（リーグ戦1・2・3） （ソフトボール）</p> <p>9時限目：キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、ゲーム</p> <p>10時限目：シートノック、フリーバッティング、バント、ゲーム</p> <p>11～12時限目：総合練習、ゲーム</p> <p>13～14時限目：ゲーム（リーム戦）</p> <p>15時限目：まとめ</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	<p>服装：一般的な運動服とする。</p> <p>シューズ：必ずアップシューズもしくは、固定式スパイクを用意すること （取替式スパイクは不可）。</p>
成績評価の方法	評価は平常点70%、実技点30%、とする。

履修コード	195801
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	平田 大輔

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要）</p> <p>生涯スポーツとして多くの人がプレーを楽しまれているテニスを通して体力の維持・増進を目指す。そのためテニスの基本技術を習得し、テニスの面白さやコミュニケーションを経験し、生涯スポーツとして楽しめるような技術を身につけられるようにする。</p> <p>（到達目標）</p> <p>テニスのグラウンドストローク、ボレー、サーブといった技術だけに留まらず、マナー、ルールを学び、コミュニケーション力を身につけられるようにする。また、今後の学生生活が有意義になるような仲間作りが出来ることを目指す。経験者は、いままでの技術をさらに向上させ、試合に生かせるようになってもらう。さらに未経験者に対してアドバイスができるようにもなってもらいたい。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、授業目標の説明 2: ラケットワーク、ラケット・ボールに慣れる 3: ストロークの基本技術Ⅰ 4: ストロークの基本技術Ⅱ 5: ボレーの基本技術 6: スマッシュ、サーブの基本技術 7: 応用技術Ⅰ（試合で使える技術をマスター） 8: 応用技術Ⅱ 9: シングルスゲーム 10: ダブルスのルール戦術 11: ダブルスゲームⅠ 12: ダブルスゲームⅡ 13: 団体戦Ⅰ（シングルス、ダブルス） 14: 団体戦Ⅱ（シングルス、ダブルス） 15: 理解度の確認
----------	---

準備学習	体育実技なので、体調をしっかりと整えて、授業を受講出来るようにすること。
------	--------------------------------------

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修者の技術レベルは問わない ② 服装は運動着とする。できればテニスシューズを準備すること。 ③ ラケットは貸与する。
---------	---

成績評価の方法	平常点（授業参加態度、運動参加状況）技術習熟度などから総合的に評価する。
---------	--------------------------------------

その他	雨天の場合は、テニスに関する知識を深めるため、映像などを使用して講義を行う。もしくは、テニスに必要なトレーニングを体育館などで行う予定である。
-----	---

履修コード	195801
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	下谷内 勝利

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この授業は、卓球の基本技術を学習した後、シングルス、そしてダブルスの順にゲームを展開する。その過程で卓球というスポーツへの理解を深めてもらい、生涯スポーツの基礎を築いてもらうことを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットティング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形、簡易ゲーム 3時限目：フォアハンドドライブ、簡易ゲーム 4時限目：フォアハンドドライブのショット、ロングの打ち方、シングルスリーグ戦 5時限目：バックハンドショットの打ち方、シングルスリーグ戦 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスリーグ戦 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスリーグ戦 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスリーグ戦 9時限目：ダブルスゲームの行い方、ダブルスゲームの練習、ダブルスリーグ戦 10時限目：ダブルスリーグ戦 11時限目：ダブルスリーグ戦 12時限目：ダブルスリーグ戦 13時限目：ダブルスリーグ戦 14時限目：スキルテスト 1時限目：まとめ
準備学習	卓球のルールを予習しておいてほしい。
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に実技に取り組む姿勢が重要である。したがって、平常点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点はスキルテストにて判定する。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	特になし。
その他	グループ毎にリーグ戦を行うことが多いため、30分以上の遅刻は認めないものとする。

履修コード	195801
科目名	健康・スポーツ実習（ダブルダッチ）
担当者名	末次 美樹

授業概要／ 到達目標（ねらい）	ダブルダッチとは、2本の長縄を使って行う、縄跳び運動である。誰もが手軽にでき、集中力・リズム感・バランス感覚が身につく、また、動きを自分で工夫する事で想像力やチームワークも身に付く、優れた運動である。ダブルダッチを体得することにより、現在および将来の体力・健康の保持増進を目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ターナーの練習・ジャンプの練習 3時限目：短縄を使って練習・縄一本での練習 4時限目：ペアでリズム・バランス感覚の確認 5時限目：ターナーの練習、奇数と偶数の違い 6時限目：5回跳び・10回跳び 7時限目：ターナーの回転・スピード 8時限目：ビデオ学習 9時限目：連続跳び 10～15時限目：応用
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装：上下とも動きやすいものが良い。シューズ（室内専用）を用意する。
---------	------------------------------------

成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。
---------	--

履修コード	195801
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	山口 良博

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） バスケットボール、バレーボール、バドミントンを主な種目とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについて学ぶ。</p> <p>（到達目標） 各種目での技術上達はもとより、毎時間ゲームを行うことにより協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
授業スケジュール	<p>1. オリエンテーション、授業内容の説明</p> <p>2～5. バスケットボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>6～9. バレーボール（基礎練習、ゲーム）</p> <p>10～13. バドミントン（基礎練習、ゲーム）</p> <p>14～15. 受講者と相談のうえ種目を決定（基礎練習、ゲーム）</p>
準備学習	特になし。
履修上の留意点	スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	195811
科目名	健康・スポーツ実習（屋外球技）
担当者名	猪越 悠介

授業概要／ 到達目標（ねらい）	サッカーやソフトボールなどの屋外球技を教材とし、競技規則、役割、マナー等のスポーツルールを学び、主体的・継続的にスポーツと関わること。また自己の年齢、体力、環境に応じた運動を実施することにより生涯の健康管理につながる事を目的とする。
授業スケジュール	第1回目：オリエンテーション 第2回目～14回目：ルール説明 基本技術 ゲーム 第15回目：まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は一般的なスポーツ服装を準備すること。シューズはスポーツシューズを基本とする。裸足でのプレーは認めない。
成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。 全体の80%を平常点とし、その他授業態度等を20%で評価する。
その他	屋外で行うため、授業は天候に左右されるが、状況を見て掲示を出すので、天候が悪い場合は、掲示に注意すること。

履修コード	195811
科目名	健康・スポーツ実習（屋内球技）
担当者名	山口 良博

授業概要／ 到達目標（ねらい）	(授業概要) バスケットボール、バレーボール、バドミントンを主な種目とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについて学ぶ。 (到達目標) 各種目での技術上達はもとより、毎時間ゲームを行うことにより協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。
授業スケジュール	1. オリエンテーション、授業内容の説明 2～5. バスケットボール（基礎練習、ゲーム） 6～9. バレーボール（基礎練習、ゲーム） 10～13. バドミントン（基礎練習、ゲーム） 14～15. 受講者と相談のうえ種目を決定（基礎練習、ゲーム）
準備学習	特になし。
履修上の留意点	スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること。
成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。

履修コード	340201
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕
担当者名	岩本 哲也

授業概要/ 到達目標(ねらい)	ミニサッカーのゲームは、ボールを蹴ること(キック)、止めること(トラッピング)、運ぶこと(ドリブル)から成り立っている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることによって数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間余暇感覚でゲームを行い、よき人間関係作りを目的とする。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目～5時限目：ゲームの進め方、練習ゲーム 6時限目～10時限目：ゲームの攻め方、守り方、ゲーム 11時限目～20時限目：基礎技術の応用練習、ゲーム 21時限目～29時限目：ゲーム、リーグ戦 30時限目：まとめ ※受講者数によっては卓球に変更する。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は一般的な運動服装で良い。シューズについては、オリエンテーションの時に説明する。
成績評価の方法	評価は平常点70%、総合評価30%で行う。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	340301
科目名	健康・スポーツ実習
担当者名	岩本 哲也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ミニサッカーのゲームは、ボールを蹴ること(キック)、止めること(トラッピング)、運ぶこと(ドリブル)から成りたっている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることによって数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間余暇感覚でゲームを行い、よき人間関係作りを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目～5時限目：ゲームの進め方、練習ゲーム 6時限目～10時限目：ゲームの攻め方、守り方、ゲーム 11時限目～20時限目：基礎技術の応用練習、ゲーム 21時限目～29時限目：ゲーム、リーグ戦 30時限目：まとめ ※受講者数によっては卓球に変更する。
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	服装は一般的な運動服装で良い。シューズについては、オリエンテーションの時に説明する。
---------	--

成績評価の方法	評価は平常点70%、総合評価30%で行う。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	340501
科目名	健康・スポーツ実習
担当者名	山口 良博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 室内で行う球技(バスケットボール・バレーボール・フットサル・バドミントン・卓球等)を教材とし、各種目ともゲームを中心とした授業を展開する。それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについても学ぶ。
---------------------	---

(到達目標)
各種目での技術上達はもとより、ゲームを通して協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。

授業スケジュール	1. オリエンテーション 2. <バスケットボール>パス、ドリブル等の基本技術・ゲーム 3～5. ゲーム 6. <バレーボール>サーブ、レシーブ等の基本技術・ゲーム 7～9. ゲーム 10. <フットサル>ドリブル、シュート等の基本技術・ゲーム 11～13. ゲーム 14. <バドミントン>基本的な説明・ラリー練習、ゲーム(シングルス) 15～16. ゲーム(シングルス) 17～19. ゲーム(ダブルス) 20. <卓球>基本的な説明・ラリー練習、ゲーム(シングルス) 21～22. ゲーム(シングルス) 23～25. ゲーム(ダブルス) 26～30. 学生の希望に応じて種目を決定する。
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	実技は本校第1体育館で行う。一般的なスポーツウェア、運動に適した体育館シューズを用意すること。受講者数・出席状況によっては、種目を変更する場合もある。
---------	---

成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	195901
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕
担当者名	竹田 幸夫

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 室内で行われるスポーツ、とくにバドミントンと卓球を中心にした実技を行う。</p> <p>(到達目標) 本講義では、各種目の基本技術や戦術、ルールを理解して、身体運動の実践を通して動くことの楽しさ、仲間と協調してゲームを楽しむことを知ることが大きなねらいである。また、バドミントンや卓球は、手軽に実践できるスポーツであるとともに運動量も多い種目である。生涯スポーツにも適しているので、授業における実技を毎回実践することにより、生涯スポーツを実践する習慣の基盤をつくりたい。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション、授業の説明／ 2時限目～3時限目：(バドミントン)サーブとスイングの基本技術、簡易ゲーム／ 4時限目：ルール及びゲーム展開の仕方の説明、ダブルスゲーム／ 5時限目～9時限目：ダブルスゲーム／ 10時限目：シングルスゲームの説明、ゲーム／ 11時限目～13時限目：シングルスゲーム／ 14時限目：トーナメント試合／ 15時限目：トーナメント試合／ 16～18時限目：(卓球)授業の説明・サーブの基本技術、簡易ゲーム／ 19時限目：ルール及びゲーム展開の仕方の説明、ダブルスゲーム／ 20時限目～23時限目：ダブルスゲーム／ 24時限目：シングルスゲームの説明、ゲーム／ 25時限目～28時限目：シングルスゲーム／ 29時限目：トーナメント試合／ 30時限目：トーナメント試合</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。室内用のシューズを用意すること。
成績評価の方法	講義のねらいを達成するためには、毎回授業に出て実技を実践することが大切である。したがって、成績は平常点70%、実技点30%で評価を行う。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	196001
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕
担当者名	竹田 幸夫

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 室内で行われるスポーツ、とくにバドミントンと卓球を中心にした実技を行う。</p> <p>(到達目標) 本講義では、各種目の基本技術や戦術、ルールを理解して、身体運動の実践を通して動くことの楽しさ、仲間と協調してゲームを楽しむことを知ることが大きなねらいである。また、バドミントンや卓球は、手軽に実践できるスポーツであるとともに運動量も多い種目である。生涯スポーツにも適しているので、授業における実技を毎回実践することにより、生涯スポーツを実践する習慣の基盤をつくりたい。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション、授業の説明／ 2時限目～3時限目：(バドミントン)サーブとスイングの基本技術、簡易ゲーム／ 4時限目：ルール及びゲーム展開の仕方の説明、ダブルスゲーム／ 5時限目～9時限目：ダブルスゲーム／ 10時限目：シングルスゲームの説明、ゲーム／ 11時限目～13時限目：シングルスゲーム／ 14時限目：トーナメント試合／ 15時限目：トーナメント試合／ 16～18時限目：(卓球)授業の説明・サーブの基本技術、簡易ゲーム／ 19時限目：ルール及びゲーム展開の仕方の説明、ダブルスゲーム／ 20時限目～23時限目：ダブルスゲーム／ 24時限目：シングルスゲームの説明、ゲーム／ 25時限目～28時限目：シングルスゲーム／ 29時限目：トーナメント試合／ 30時限目：トーナメント試合</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。室内用のシューズを用意すること。
成績評価の方法	講義のねらいを達成するためには、毎回授業に出て実技を実践することが大切である。したがって、成績は平常点70%、実技点30%で評価を行う。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	196101
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕
担当者名	岩本 哲也

授業概要/ 到達目標(ねらい)	ミニサッカーのゲームは、ボールを蹴ること(キック)、止めること(トラッピング)、運ぶこと(ドリブル)から成りたっている。週一回の授業で全てをマスターすることは難しいが、各々の技術の要領を知ることと数段ボール扱いがうまくなり、ゲームもまた楽しいものになる。本授業では、毎時間余暇感覚でゲームを行い、よき人間関係作りを目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目～5時限目：ゲームの進め方、練習ゲーム 6時限目～10時限目：ゲームの攻め方、守り方、ゲーム 11時限目～20時限目：基礎技術の応用練習、ゲーム 21時限目～29時限目：ゲーム、リーグ戦 30時限目：まとめ ※受講者数によっては卓球に変更する。
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	服装は一般的な運動服装で良い。シューズについては、オリエンテーションの時に説明する。
成績評価の方法	評価は平常点70%、総合評価30%で行う。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	196201
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕
担当者名	竹田 幸夫

授業概要/ 到達目標(ねらい)	(授業概要) 室内で行われるスポーツ、とくにバドミントンと卓球を中心にした実技を行う。 (到達目標) 本講義では、各種目の基本技術や戦術、ルールを理解して、身体運動の実践を通して動くことの楽しさ、仲間と協調してゲームを楽しむことを知ることが大きなねらいである。また、バドミントンや卓球は、手軽に実践できるスポーツであるとともに運動量も多い種目である。生涯スポーツにも適しているため、授業における実技を毎回実践することにより、生涯スポーツを実践する習慣の基盤をつくりたい。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション、授業の説明／ 2時限目～3時限目：(バドミントン)サーブとスイングの基本技術、簡易ゲーム／ 4時限目：ルール及びゲーム展開の仕方の説明、ダブルスゲーム／ 5時限目～9時限目：ダブルスゲーム／ 10時限目：シングルスゲームの説明、ゲーム／ 11時限目～13時限目：シングルスゲーム／ 14時限目：トーナメント試合／ 15時限目：トーナメント試合／ 16～18時限目：(卓球)授業の説明・サーブの基本技術、簡易ゲーム／ 19時限目：ルール及びゲーム展開の仕方の説明、ダブルスゲーム／ 20時限目～23時限目：ダブルスゲーム／ 24時限目：シングルスゲームの説明、ゲーム／ 25時限目～28時限目：シングルスゲーム／ 29時限目：トーナメント試合／ 30時限目：トーナメント試合
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。室内用のシューズを用意すること。
成績評価の方法	講義のねらいを達成するためには、毎回授業に出て実技を実践することが大切である。したがって、成績は平常点70%、実技点30%で評価を行う。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	196301
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕
担当者名	山口 良博

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 室内で行う球技（バスケットボール・バレーボール・フットサル・バドミントン・卓球等）を教材とし、各種目ともゲームを中心とした授業を展開する。それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールについても学ぶ。</p> <p>（到達目標） 各種目での技術上達はもとより、ゲームを通して協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、豊かな人間関係作りとともに生涯スポーツについても理解を深めることを目的とする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. <バスケットボール>パス、ドリブル等の基本技術・ゲーム 3～5. ゲーム 6. <バレーボール>サーブ、レシーブ等の基本技術・ゲーム 7～9. ゲーム 10. <フットサル>ドリブル、シュート等の基本技術・ゲーム 11～13. ゲーム 14. <バドミントン>基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 15～16. ゲーム（シングルス） 17～19. ゲーム（ダブルス） 20. <卓球>基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 21～22. ゲーム（シングルス） 23～25. ゲーム（ダブルス） 26～30. 学生の希望に応じて種目を決定する。
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	実技は本校第1体育館で行う。一般的なスポーツウェア、運動に適した体育館シューズを用意すること。受講者数・出席状況によっては、種目を変更する場合もある。
---------	---

成績評価の方法	授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、平常点70%、実技点30%とする。
---------	--

教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	196311
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕
担当者名	村松 誠

授業概要/ 到達目標（ねらい）	バスケットボール、バレーボールなどを主な教材とし、基礎的な技術、ルールを学習しながら、他の参加者と協力しつつ、ゲーム運営をすることを目標とする。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1時限目：オリエンテーション、2時限目：バスケットボールのボールハンドリングとシュート、3時限目：班分けとゲーム、4時限目：パスワークとゲーム、5時限目：対人技能とゲーム、6～10時限目：リーグ戦、11時限目：バレーボールの班分けと基礎技術練習、12時限目：スパイクとゲーム、13時限目：サーブとゲーム、14時限目：リーグ戦、15時限目：前期のまとめ、16～19時限目：リーグ戦（前期からの続き）20～29時限目：その他の球技、30時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	動きやすいスポーツウェア、室内用スポーツシューズを用意すること。特にボールを扱うため、手の爪を危険が無いように短く切っておくこと。
---------	---

成績評価の方法	実技科目のため、出席点を重視する。他の人達と協力して、ゲームを円滑に進行することが出来るようになることは、重要な評価項目とする。
---------	--

教科書／テキスト	
参考書	

その他	その他の球技は、バドミントン、卓球などの中から受講者の状況を見て決定する。
-----	---------------------------------------

履修コード	341201
科目名	健康・スポーツ論
担当者名	村松 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代は健康の時代の不健康な時代といわれる。健康に関する情報は、マスコミにあふれている。健康情報が商品になる時代である。また、民間療法による健康法も数多く存在している。このような状況の中で、しっかりと健康観を持つことは、適切な選択をするために大切なこととなる。そして、学生時代は人生の中で最も健康な時期といわれるが、現代の健康問題とされる生活習慣病は、この年代より始まると言われている。このような認識のもとに、現代における健康問題も話題に取り上げながら、生涯にわたっての健康を考えていく。 健康について、主体的に判断・行動出来る能力を培うことを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：健康観の変遷 3時限目：現代の健康観 4時限目：健康の成立要因 5時限目：健康の成立条件 6時限目：病気の原因 7時限目：疾病構造の変遷と病気の予防 8時限目：現代の感染症 9時限目：喫煙と健康 10時限目：飲酒と健康 11時限目：ストレスと健康 12時限目：食べ物と健康 13時限目：運動と健康 14時限目：環境と健康 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	YeStudyに授業内容レジュメを掲載するので、プリントアウトしてくること。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	受講者数の状況を見て決定するが、数回のレポート、小テストなどを加味し、総合的に評価をする。
---------	---

教科書／テキスト	特に指定はしない。参考図書についてはその都度提示する。
----------	-----------------------------

参考書	
-----	--

その他	学習の補助として、YeStudyを活用する。
-----	------------------------

履修コード	341301
科目名	健康・スポーツ論
担当者名	山口 良博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 現代社会では、生活様式の大幅な変容に伴い身体活動の機会が減少し、体力の低下、生活習慣病やストレスの増大、生活の質的充実の追求などを背景に、かつてないほど健康やスポーツに対する関心と欲求が高まっている。本講義では、「健康」と「スポーツ」に関する見識を、各テーマ毎に深めていく。 (到達目標) 学生生活および生涯にわたって、健康で豊かなライフスタイルを過ごしていくために必要な、自己の健康や体力に対する認識、さらにはスポーツに関する知識を理解することを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	1. 講義内容の説明 2. 健康とは 3. 生活習慣と健康 4. 運動の果たす役割 5. 栄養の果たす役割 6. 休養の果たす役割 7. ストレス 8. 感染症 9. 体力とは 10. スポーツトレーニング論① 11. スポーツトレーニング論② 12. スポーツ障害と救急法 13. スポーツの歴史・発展 14. 現代スポーツ 15. まとめ
----------	---

準備学習	授業内容に関連した時事問題を授業内で取り扱うことがあります。日頃から関連した内容については目を通しておくこと。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	定期試験あるいはレポート50%、数回の小テスト50%によって評価する。
---------	-------------------------------------

教科書／テキスト	特に指定はしない。必要に応じてプリントを配布する。
----------	---------------------------

参考書	
-----	--

その他	基本的に講義形式で行うが、必要に応じて、グループによるワークショップや発表等を行う。
-----	--

履修コード	199901
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	館岡 儀秋

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「健康」あるいは「スポーツ」をテーマに、科学的知識や問題を総合的にとりあげ基礎知識を理解することを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の説明 2. 体力と健康 3. 寿命と健康 4. 生活習慣病 5. 喫煙・飲酒・薬物の乱用 6. 健康管理法 7. 献血と血液製剤 8. 感染症 (エイズの現状と推移等) 9. 感染症の予防 10. スポーツと健康 11. トレーニングの方法 (運動処方) 12. 救命救急Ⅰ 13. 救命救急Ⅱ 14. スポーツ事故と応急処置 15. 理解度の確認
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	小テスト・レポート (50%) および平常点 (50%) を総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定はしない (授業において、プリントを配布する)
----------	-----------------------------

参考書	特になし
-----	------

履修コード	200101
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	江口 淳一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 現代文明は、経済性、利便性、効率性の名の下に人間を身体運動から遠ざけ、結果として運動不足症候群と呼ばれる様々な弊害を生んできた。本講義では、現代社会において、より良く、たくましく生きて行く為に人間生活の基本である健康、体力、身体運動に対する理解を科学的アプローチで深め、さらには身体運動を自律的に生活の中に位置づけていく態度と能力の育成を図ることを目的とする。また、運動・スポーツの文化的意義について学ぶことで、Quality of life を実践するための基礎を養うことを主眼に講義を進めるつもりである。</p>
---------------------	--

【到達目標】
人が生きて行くためには、自らの身体について知り、理解を深めていくことは重要なことであり、健康の増進や体力の向上のための基本的な知識や習慣を、生涯を通じて知的・身体的遺産として獲得することは、あらゆる人間活動を支える基盤である。スポーツを単に楽しみとしてではなく、健康や体力づくりの手段として、また身体を認識する手段としてとらえ、更に、スポーツを享受する能力とゆとりある人間社会の形成を実現する能力を学生自らが考え獲得することを本講義の目標とする。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: 講義の目標の説明、学生の学習目標設定 2: ゆとり時代のLIFE STYLE (To have or To be) 3: 生涯学習社会と大学保健体育科目の意義 4: 現代社会と健康・スポーツ (余暇社会、高齢化社会と健康阻害要因) 5: 健康と体力の概念 6: 人体 1) 骨格の構造 7: 2) 筋肉の構造 8: 3) 運動と呼吸循環器系 9: 4) 運動と代謝 10: 5) 運動エネルギー供給の仕組み 11: スポーツ・トレーニングの筋、骨格に及ぼす効果 12: スポーツ・トレーニングの呼吸循環器系に及ぼす効果 13: 運動処方計画のための基礎 (パワートレーニング、エアロビクストレーニング) 14: スポーツ科学分野におけるトピックス、21世紀に向けての健康づくり 15: まとめ—学生自身による授業評価—
----------	--

準備学習	高等学校で使用した『保健体育』の教科書を再度読み、基礎知識として復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	平常点60%、授業中に行うレポート、小テストの結果40%
---------	------------------------------

教科書/テキスト	授業で配布するプリントを使用する。
----------	-------------------

参考書	<p>配布プリントにより授業を進めるため教科書はないが、以下の文献は参考図書となる。 池上晴夫『運動処方』(朝倉書店)3,500円 勝田茂 他『運動生理学20講』(朝倉書店)2,884円 飽戸弘・松田義幸 編『「ゆとり」時代のライフスタイル』(日本経済新聞社)1,300円</p>
-----	--

履修コード	200201
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	高橋 俊介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要</p> <p>健康で楽しい社会生活を送るためにもスポーツを行うことは心身をリフレッシュさせ体力の維持、健康の増進には欠かせないことですが、体育とは何か、体育は何をめざして行うのか、また現在のスポーツがどのような変革の道を進んで今日に至ったのか、その歴史を知ることにより体育の意義を知る。</p>
---------------------	---

到達目標
体育の意義を知り、健康を考えることに役立てるものである。

授業スケジュール	<p>I</p> <p>1時限目：運動はなぜ必要か 2時限目：人類が生命を維持するのに必要な労働本能から生まれた運動 3時限目：一人の人間の健康が、国家、社会、団体に与える問題と運動 4時限目：体育によってどのような教育が考えられるか 5時限目：学校体育による教育 6時限目：社会体育による教育 7時限目：生涯体育による教育 8時限目：現在行なわれている運動がどのような経緯で生まれてきたか 9時限目：実用の面から生まれてきた運動 10時限目：健康の面から生まれてきた運動 11時限目：ホモルーデンスの面から生まれてきた運動</p> <p>II</p> <p>“レポート提出” 授業時間内に課題に対する独自の見解をレポートする。 12時限目：(例) スポーツの文化性、芸術性について 13時限目：(例) スポーツマン精神について 14時限目：(例) 大衆スポーツ論 15時限目：(例) スポーツと政治</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席を重視し、特にペーパーテストは行なわないが、レポート提出によって試験に代え評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	200401
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	江口 淳一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 現代文明は、経済性、利便性、効率性の名の下に人間を身体運動から遠ざけ、結果として運動不足症候群と呼ばれる様々な弊害を生んできた。本講義では、現代社会において、より良く、たくましく生きて行く為人間生活の基本である健康、体力、身体運動に対する理解を科学的アプローチで深め、さらには身体運動を自律的に生活の中に位置づけていく態度と能力の育成を図ることを目的とする。また、運動・スポーツの文化的意義について学ぶことで、Quality of life を実践するための基礎を養うことを主眼に講義を進めるつもりである。</p> <p>【到達目標】 人が生きて行くためには、自らの身体について知り、理解を深めていくことは重要なことであり、健康の増進や体力の向上のための基本的な知識や習慣を、生涯を通じて知的・身体的遺産として獲得することは、あらゆる人間活動を支える基盤である。スポーツを単に楽しみとしてではなく、健康や体力づくりの手段として、また身体を認識する手段としてとらえ、更に、スポーツを享受する能力とゆとりある人間社会の形成を実現する能力を学生自らが考え獲得することを本講義の目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1: 講義の目標の説明、学生の学習目標設定 2: ゆとり時代のLIFE STYLE (To have or To be) 3: 生涯学習社会と大学保健体育科目の意義 4: 現代社会と健康・スポーツ (余暇社会、高齢化社会と健康阻害要因) 5: 健康と体力の概念 6: 人体 1) 骨格の構造 7: 2) 筋肉の構造 8: 3) 運動と呼吸循環器系 9: 4) 運動と代謝 10: 5) 運動エネルギー供給の仕組み 11: スポーツ・トレーニングの筋、骨格に及ぼす効果 12: スポーツ・トレーニングの呼吸循環器系に及ぼす効果 13: 運動処方計画のための基礎 (パワートレーニング、エアロビクストレーニング) 14: スポーツ科学分野におけるトピックス、21世紀に向けての健康づくり 15: まとめ—学生自身による授業評価—
----------	--

準備学習	高等学校で使用した『保健体育』の教科書を再度読み、基礎知識として復習しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	平常点60%、授業中に行うレポート、小テストの結果40%
教科書/テキスト	授業で配布するプリントを使用する。
参考書	<p>配布プリントにより授業を進めるため教科書はないが、以下の文献は参考図書となる。</p> <p>池上晴夫『運動処方』(朝倉書店)3,500円 勝田茂 他『運動生理学20講』(朝倉書店)2,884円 飽戸弘・松田義幸 編『「ゆとり」時代のライフスタイル』(日本経済新聞社)1,300円</p>

履修コード	200501
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	秋田 浩一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 健康を保持することは、人間の願望である。健康は心と体の両面が大切である。現代社会において心の問題は深刻である。学生時代は、生涯の健康的な生活を築くチャンスである。 (到達目標) 心の悩みや体の悩みを解決する方法を考え、自己を確立し自立できる環境(人的、物的)を学習する。
---------------------	---

授業スケジュール	1時限目: オリエンテーション 2時限目: 健康の成立条件 3時限目: 人間の健康(心と体) 4時限目: 人間の健康(心の問題) 5時限目: 学生の健康(心の問題) 6時限目: 学生の健康(日常生活) 7時限目: 学生の健康(栄養と食事) 8時限目: 学生の健康(栄養と食事) 9時限目: 学生の健康(エイズと性の問題) 10時限目: 学生の健康(酒とたばこ) 11時限目: 学生の健康(酒とたばこ) 12時限目: 学生の健康(精神的自立) 13時限目: 学生の健康(自立について) 14時限目: 運動障害と救急法(突き指、捻挫、脱臼、骨折等) 15時限目: まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	①「小テスト、レポート」を3、4回講義中に実施提出する。 ②「レポート」提出
---------	---

成績評価の方法	「小テスト」70%、「レポート」30%で総合評価する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	
-----	--

その他	授業は主に講義形式で行うが、ビデオ等も活用する。
-----	--------------------------

履修コード	200601
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	岩本 哲也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	生涯にわたり、健康で充実した生活を送るためにどのような要因が必要であるかの理解を深める。さらにスポーツ活動時に発生する障害とその対策についての知識を深める事を目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	1時限目: オリエンテーション 2時限目: 健康とは 3時限目: 栄養と食生活 4時限目: 喫煙と健康 5時限目: 飲酒と健康 6時限目: 薬物と健康 7時限目: スポーツとは 8時限目: スポーツ外傷と障害 9時限目: スポーツ外傷と障害の予防 10時限目: 救急処置法 11時限目: スポーツと人間形成・心身の関係 12時限目: 体力とは 13時限目: トレーニング理論① 14時限目: トレーニング理論② 15時限目: まとめ
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	
成績評価の方法	毎時間、授業内に行う小テストの結果から総合的に評価する。

教科書/テキスト	特に指定しない。必要に応じてその都度提示する。
----------	-------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	200801
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	下谷内 勝利

授業概要/
到達目標 (ねらい) 「健康」あるいは「スポーツ」をテーマに掲げ、スポーツ学が教える基礎知識を理解することを目的とする。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容の説明 2. 健康とは 3. スポーツとは 4. 健康・スポーツを究明するスポーツ科学とは 5. からだと環境 1 適応について 6. からだと環境 2 生活習慣病について 7. からだと環境 3 日常生活と運動 (運動の必要性について) 8. 骨の構造と機能 (骨格、関節の種類・構造・機能など) 9. 身体構造に規制される動きについて 10. 筋肉 (骨格筋の種類、筋収縮の仕組みなど) 11. 筋収縮エネルギーについて 12. 有酸素トレーニングについて 13. 無酸素トレーニングについて 14. ワークショップ 15. まとめ
----------	---

準備学習	「健康」および「スポーツ」について自分の意見を構築しておいてもらいたい。
履修上の留意点	配布プリントに沿って板書することが多くあることから、ノート整理が重要である。
成績評価の方法	平常態度および数回の小テスト、あるいはレポートによって総合的に評価する。
教科書/テキスト	特に指定しない(プリントを配布する)。
参考書	配布プリントに記載されている文献を参考にしてほしい。
その他	授業は基本的には講義形式で行うが、必要に応じてワークショップを行う予定である。

履修コード	200901
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	光永 吉輝

授業概要/
到達目標 (ねらい) <授業概要>
健康と長寿を願う心は、人類普遍の願望であるが、日常生活においては自分が現在健康である事を意識して行動している人は少ないのではないだろうか？
病氣や怪我をしてはじめて健康の重要性を知るのではなく、日頃から健康を意識し健康に関心の目を向けることが必要である。
<到達目標 (ねらい)>
近年、科学の著しい発展に伴う様々な社会環境の変化から、日常での運動が少なくなり加えて栄養の過剰により肥満傾向となっている。日常生活以外に運動を行わないでいると、成長発育期では、体格の発育に体力が伴わない体力低下が見られ若年者でありながら成人病に罹ったりしている。
先進国においては、文明病と思われる疾病や様々な健康阻害が報告されている。これらの健康阻害について、スポーツ医学の面から、人間の骨格、靭帯、筋肉と解剖し、各部の特徴や欠点を見つけながらスポーツ障害や運動と健康について講義する。
自己や他人の生命そして健康は何物にもまして大切なものである事の理解を深めることを目的とするものである。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 時限 講義の概要説明 2. 時限 人体と障害 3. 時限 " 1) 頭部の外傷 4. 時限 " 2) 上肢の障害 5. 時限 " 3) 下肢の障害 6. 時限 " 4) " 7. 時限 " 5) 脊柱と障害 8. 時限 " 6) 脊柱の障害 9. 時限 身体運動と健康 10. 時限 運動不足の害 11. 時限 運動の効果・骨と健康 12. 時限 トレーニング論 (1) 13. 時限 トレーニング論 (2) 14. 時限 運動と栄養 15. 時限 健康管理 16. 時限 健康管理 17. 時限 まとめ <p><講義の内容は、前後したり変更する事もあります。></p>
----------	--

準備学習	特に必要なし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	筆記試験によって行います。また、出席、授業への取り組み態度も評価する。
教科書/テキスト	資料を配布する。
参考書	医学面での人体解剖図など必要な資料は配布する。

履修コード	201111
科目名	健康・スポーツ論 1
担当者名	柳 浩二郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「健康」あるいは「スポーツ」をテーマに、スポーツ科学が教える基礎知識を総合的に理解することを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内容の説明 2. 健康とは 3. スポーツとは 4. 競技スポーツと生涯スポーツについて 5. スポーツの心と体 6. 運動技能の構造 7. 運動技能向上の理論 8. トレーニング方法について 9. 実力を発揮するための条件について 10. メンタルトレーニング 11. 体カトレーニング 12. ライフマネジメント 13. スポーツ事故と応急処置 14. 心肺蘇生法 15. まとめ
----------	---

準備学習	健康、スポーツについての自分の意見を構築しておいて欲しい。
履修上の留意点	配布プリントに沿って板書することが多くあることから、ノート整理が重要である。
成績評価の方法	小テスト数回、期末テストあるいはレポートによって総合的に評価する。
教科書/テキスト	特に指定はしない(授業において、プリントを配布する)
参考書	配布プリントに記載されている参考文献参照のこと。
その他	基本的に講義形式で行うが、必要に応じてワークショップを行う。

履修コード	201201
科目名	健康・スポーツ論 2
担当者名	竹田 幸夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>健康・スポーツに関する基礎的な知識についての講義を行う。健康については、人間が本来もっている「免疫力」について考えていく。体力に関しては、基礎的な体力要素ならびに個人の特徴に応じたトレーニング法、またスポーツ運動学に関しては、人間のスポーツ運動のさまざまな特徴を具体例をあげて解説する。</p> <p>(到達目標)</p> <p>大学生の年代は、将来における自分のライフスタイルの基礎を確立する大切な時期である。講義の内容から自分の健康観や体力、さらにはスポーツに関する基礎的な知識と考え方について理解を深めてもらいたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1時限目：オリエンテーション 2時限目：人間と健康 (人間の免疫力について) 3時限目：人間と健康 (") 4時限目：人間と健康 (") 5時限目：体力とトレーニングの方法 (基礎的な体力要素) 6時限目：体力とトレーニングの方法 (") 7時限目：体力とトレーニングの方法 (個別のトレーニング法) 8時限目：スポーツ運動の理論 (スポーツ運動の特徴) 9時限目：スポーツ運動の理論 (動きの構造) 10時限目：スポーツ運動の理論 (動きのリズム、先取り) 11時限目：スポーツ運動の理論 (動きの学習) 12時限目：スポーツ運動の理論 (スポーツ運動の技術) 13時限目：スポーツ運動の理論 (") 14時限目：まとめ 15時限目：理解度の確認
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	授業において扱う内容を知識としてだけでなく、自分の身近な問題として考えながら講義を聞いてほしい。
成績評価の方法	授業内に実施する小テスト50%、平常点50%で評価を行う。
教科書/テキスト	特に指定はしない。
参考書	講義内容に関連して受講生に読んでほしい図書については、講義の中で随時紹介する。

履修コード	201301
科目名	健康・スポーツ論 2
担当者名	村松 誠

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現代は健康の時代の不健康な時代といわれる。健康に関する情報は、マスコミにあふれている。健康情報が商品になる時代である。また、民間療法による健康法も数多く存在している。このような状況の中で、しっかりとした健康観を持つことは、適切な選択をするために大切なこととなる。そして、学生時代は人生の中で最も健康な時期といわれるが、現代の健康問題とされる生活習慣病は、この年代より始まると言われている。このような認識のもとに、現代における健康問題も話題に取り上げながら、生涯にわたっての健康を考えていく。 健康について、主体的に、判断行動出来る能力を培うことを目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：健康観の変遷 3時限目：現代の健康観 4時限目：健康の成立要因 5時限目：健康の成立条件 6時限目：病気の原因 7時限目：疾病構造の変遷と病気の予防 8時限目：現代の感染症 9時限目：喫煙・飲酒と健康 10時限目：ストレスと健康（その1） 11時限目：ストレスと健康（その2） 12時限目：食べ物と健康 13時限目：運動と健康 14時限目：環境と健康 15時限目：まとめ
----------	---

準備学習	YeStudyにレジュメを掲載するので、プリントアウトしてくる。
------	----------------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学習内容をどれだけ理解したかを最重要視する。纏めのチェックテストの成果を見る。
---------	---

教科書／テキスト	特に指定はしないが、参考図書はその都度提示する。
----------	--------------------------

参考書	
-----	--

その他	学習の補助として、YeStudyを活用する。
-----	------------------------

履修コード	201401
科目名	健康・スポーツ論 2
担当者名	末次 美樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>「健康」であるとはどういう状態なのか？ また、どのようにして「健康」を維持していくのか？</p> <p>さまざまな情報が飛び交う現代社会において、自身の「健康観」を確立することは非常に重要なことである。本講義では、「スポーツと健康」をテーマにし「健康であるとはどのような状態なのか」について、考えていく。学生生活および生涯にわたって、健康で豊かなライフスタイルを過ごしていくために必要な基礎知識を理解することを目的とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>①オリエンテーション</p> <p>－スポーツと健康－ ②健康の概念 ③健康観の変遷・現代の健康観について ④文化としてのスポーツ ⑤スポーツの歴史Ⅰ<スポーツの定義や語源について> ⑥スポーツの歴史Ⅱ<近代オリンピック> ⑦<スポーツと健康>について自分の考えをまとめる</p> <p>－生活と健康－ ⑧食事と健康 ⑨喫煙・飲酒・薬物乱用について ⑩性のしくみⅠ ⑪性のしくみⅡ ⑫現代の感染症 ⑬心とからだの健康について ⑭自身の健康についての把握と確立 ⑮理解度の確認</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の60%を平常点とし、その他、総合評価（小レポートや発表、授業態度など）を40%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。
教科書／テキスト	特に指定はないが、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	
その他	基本的に講義形式で行うが、必要に応じて、グループによるワークショップや発表等を行う。

履修コード	201501
科目名	健康・スポーツ論 2
担当者名	鈴木 淳平

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	健康であるための諸条件の追求と、それに深くかかわる体育・スポーツの本質を見つめる。将来の社会生活に有用な、科学的・医学的知識を得ることを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション 2時限目：健康のための条件を再確認し、健康と身体運動の意義を認識する。 3時限目：スポーツの発生経緯、発案者、命名の様相、分類について 4時限目：スポーツと体力の関係について 5時限目：運動能力発達の原因 6時限目：運動能力の領域 7時限目：運動能力の構造 8時限目：運動能力とスポーツ技能の分析 9時限目：総合体力の定義と要素 10時限目：スポーツ実施上の功罪、その一つとしてのスポーツ障害について 11時限目：トレーニング理論全般 12時限目：" 13時限目：応急処置（テーピング、アイシング等）の実際 14時限目：" 15時限目：まとめ</p>
----------	---

準備学習	日常的に、健康やスポーツに関する情報を入手し関心を高めていく。
履修上の留意点	
成績評価の方法	小テストの成績、レポートの内容を総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	199301 199302
科目名	生涯スポーツ演習Ⅰ（シーズン基礎） 生涯スポーツ演習Ⅰ（シーズン応用）
担当者名	村松 誠 原田 沙織 光永 吉輝 館岡 儀秋 竹田 幸夫 下谷内 勝利 柳 浩二郎 末次 美樹

授業概要/ 到達目標（ねらい）	「健康スポーツ実習」で行われているゴルフ授業を一步進めて、ゴルフコースを使用してゴルフを基本からラウンドプレーまでを体験することをねらいとする。したがって、初めてゴルフを体験しようとする初心者から、経験者までを対象とするカリキュラムが組まれている。ゴルフの技術的向上を主たるねらいとするが、プレーヤーとしてのマナーやエチケット、更に同伴競技者とのコミュニケーションも本講義の重要なねらいとなる。 生涯スポーツとして、ゴルフの良さを十分に楽しみ、ゴルフを通して良き人間関係を作っていくための基礎を学んでほしい。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1. オリエンテーション： 1回目5月7日（土）12:10～12:40 1-202教場 2回目5月14日（土）12:10～12:40 1-202教場 ※本オリエンテーションにて、受講許可書を発行いたします。 1回目のオリエンテーションで定員に達しない場合、2回目を実施します。</p> <p>2. 事前授業：7月17日（火）13:00～16:10 2研-209教場「ゴルフの基礎知識」</p> <p>3. 実習内容および現地講義 1日目9月2日（日） 講義：9:00～12:10 ゴルフコースとゲーム、スイングの基礎 玉川校舎306教場 実技：13:00～17:30 打撃練習 ※注意：1日目は、玉川キャンパスで実施する。 2日目9月3日（月）実技・講義：13:00～17:00 打撃練習・ゴルフの規則1、その他 3日目9月4日（火）実技・講義：8:00～17:00 打撃練習・ラウンド・ゴルフの規則2 4日目9月5日（水）実技・講義：8:00～17:00 打撃練習・ラウンド・ラウンドの総括 5日目9月6日（木）実技・講義：8:30～13:30 打撃練習・ラウンド・閉講式</p>
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>生涯スポーツ演習Ⅰ（シーズン基礎・シーズン応用）を履修する場合は、上記オリエンテーションに出席し、担当者の受講許可を受けなければなりません。</p> <p>1. 実習日程：平成24年9月2日（玉川キャンパス）・9月3日～6日（現地：3泊4日）</p> <p>2. 場 所： 宿泊・コース：サンコー72カントリークラブ 〒370-2131 群馬県高崎市吉井町岩崎2179 電話 027-388-2800 FAX 027-388-2195 練習場：観音山ゴルフ倶楽部 〒370-0867 群馬県高崎市乗附町2670 電話 027-325-1901</p> <p>3. 定員：40名</p> <p>4. 集合解散： （1）集合 9月2日（日）午前9時 玉川校舎306教場 9月3日（月）午後12時30分 高崎駅 （2）解散 9月6日（木）午後13時30分（予定）サンコー72カントリークラブ</p> <p>5. 受講料：40,000円（左記金額には、交通費は含まれない。）</p> <p>6. 納入期間：平成24年4月16日（月）～4月28日（土） 証明書自動発行機（教務部ロビー設置）で受講料を納入後、納入書を第2研究館1階総合事務室に提出すること。期間内に納入しない場合は、受講することができないので注意して下さい。</p> <p>7. 服装・用具： （1）一般的なゴルフ服装（セーター・ウインドブレーカーも天候によって必要）。 （2）ゴルフシューズ（ソフトスパイクに限る）は、必ず用意すること。ただし、練習場においては運動靴でも可。 （3）グローブは、必ず各自で用意すること。 （4）ゴルフクラブ、キャディーバッグは大学で用意するが、自分の物を持参してもよい。</p> <p>成績は、出席状況、ゴルフの技術的向上、授業態度を総合的に判断して評価する。</p>
---------	--

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他

都合で参加できなくなった場合は、早急に第2研究館総合事務室に連絡すること。なお、その場合には受講料の一部は、返却されないことがあります。

履修コード	199401 199402
科目名	生涯スポーツ演習II (シーズン基礎) 生涯スポーツ演習II (シーズン応用)
担当者名	末次 美樹 秋田 浩一 竹田 幸夫 江口 淳一 鈴木 淳平 山口 良博 下谷内 勝利 岩本 哲也 柳 浩二郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現在わが国において、スキーやスノーボードに代表されるスノースポーツは、国民に広く普及し「生涯スポーツ」として定着している。本演習では、実習および講義による基礎技術の習得、ならびにゲレンデにおけるマナーなどについて理解を深めることを目標とする。 実習はそれぞれの技術レベルに応じて班分けして実施する。コースの内容は以下の通りである。 ○スキー・スノーボード基礎コース：雪面に慣れることから始まり、基礎的な滑走技術の習得を目指す。 ○スキー・スノーボード応用コース：基礎コースを更に発展させ、安全で楽しくゲレンデを滑る技術の習得を目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	1. 日程 1) オリエンテーション 2回目 4月7日(土) 12:10~12:40 1-202教場 2回目 4月14日(土) 12:10~12:40 1-202教場 ※ 種目決定と受講許可書発行を行います。 1回目で定員に達しない場合、2回目を実施します。 2) 事前授業 「スノースポーツの基礎知識」 平成25年1月15日(火) 13:00~16:00 2研-209教場 3) 現地実習 平成25年1月30日(水)~2月3日(月)の4泊5日 2. 現地実習および講義内容 1日目 午後：現地集合、班別実習 講義「スノースポーツの基礎技術解説および安全・マナー」 2日目 午前・午後：班別実習 講義「スノースポーツの応用技術解説」 3日目 午前・午後：班別実習 講義「スノースポーツと環境」 4日目 午前・午後：班別実習 講義「本実習の反省とまとめ」 5日目 午前：班別実習、午後、現地解散 3. 実習・宿泊場所 上越地区
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	1. 定員：スキー 20名 スノーボード 30名 2. 受講の手続き方法 1) オリエンテーション出席、受講許可証の受領 2) 履修登録 3) 受講料納付 受講料：6万円 ただし、その他の必要経費を徴収する場合がある。 現地へは全員バスで行くことを原則とする。 納入期間：平成24年4月16日(月)~4月28日(土) 証明書自動発行機(教務部ロビー設置)で受講料を納入後、納入書を第2研究館1階総合事務室に提出する。期間内に納入しない場合は、受講することができないので注意して下さい。
---------	---

成績評価の方法	オリエンテーション・事前授業および実習(5日間)に参加し、2単位が認められる。成績評価の方法は、事前授業参加状況、各班において実施する実技テストと実習参加態度、並びに技術や理解度も含めて総合的に成績評価がなされる。
---------	---

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	1) 本講座は、生涯スポーツ演習IIシーズン・基礎/応用ですが、履修する場合は、スキーまたはスノーボードのどちらかの種目とします。また、オリエンテーションに出席し、担当者の受講許可書を受けなければなりません。受講要項および本講義内容をよく確認して下さい。 2) 用具：用具は現地レンタル可能(有料)。 3) 特記事項：卒業年次生が履修する場合は日程などに注意すること。
-----	--

履修コード	196801	196802	196803	196804
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）			
担当者名	渡辺 一郎			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 半期間にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、フットサルの4種目を行う。（到達目標） 各々の種目を通して個人の基礎体力や運動技能を高めるとともに、集団の中での各個人の役割等を認識することにより社会的態度を養うことを目的とする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション 2時限目：バレーボールの基本スキル（パス、スパイク、サーブ等） 3時限目～5時限目：総合練習、ゲーム 6時限目：バスケットボールの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 7時限目～9時限目：総合練習、ゲーム 9時限目：バドミントンの基本スキル（ハイクリア、ドロップ、ヘアピン、スマッシュ、ドライブ、サーブ等） 10時限目～12時限目：ゲーム（シングルス、ダブルス） 13時限目：フットサルの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 14時限目～15時限目：総合練習、ゲーム</p>
----------	---

準備学習	なし
------	----

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本校第一体育館で行う。 2. 定員は40名とする。 3. 服装は一般的スポーツウエア、体育館シューズを用意すること。
---------	---

成績評価の方法	実技点20%、平常点80%
---------	---------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	197001	197002	197003	197004
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）			
担当者名	渡辺 一郎			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 半期間にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、フットサルの4種目を行う。（到達目標） 各々の種目を通して個人の基礎体力や運動技能を高めるとともに、集団の中での各個人の役割等を認識することにより社会的態度を養うことを目的とする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション 2時限目：バレーボールの基本スキル（パス、スパイク、サーブ等） 3時限目～5時限目：総合練習、ゲーム 6時限目：バスケットボールの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 7時限目～9時限目：総合練習、ゲーム 9時限目：バドミントンの基本スキル（ハイクリア、ドロップ、ヘアピン、スマッシュ、ドライブ、サーブ等） 10時限目～12時限目：ゲーム（シングルス、ダブルス） 13時限目：フットサルの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 14時限目～15時限目：総合練習、ゲーム</p>
----------	---

準備学習	なし
------	----

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本校第一体育館で行う。 2. 定員は40名とする。 3. 服装は一般的スポーツウエア、体育館シューズを用意すること。
---------	---

成績評価の方法	実技点20%、平常点80%
---------	---------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	197201	197202	197203	197204
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用）
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴール型ボールゲームを題材とし、ボールの扱い方などを学び、いろいろなタイプのボールゲームへと発展させる。さらに、基礎技術・戦術をゲームの中で活かせるようにする。また、審判、オフィシャルなど、他の受講者と協力してゲーム運営ができるようになることを目標とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1 時 限 目：オリエンテーション 2 時 限 目：ボールを使ったトレーニング 3 時 限 目：ボールを使った戦術トレーニング 4 時 限 目：シュートゲーム 5 時 限 目：基礎ゲーム 6 時 限 目：基礎ゲーム 7 時 限 目：ゲームⅠ 8 時 限 目：ゲームⅡ 9 時 限 目：ゲームⅢ 10 時 限 目：ゲームⅣ 11 時 限 目：ゲームⅤ 12 時 限 目：ゲームⅥ 13 時 限 目：ゲームⅦ 14 時 限 目：ゲームⅧ 15 時 限 目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。安全のため、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。ボールを手で扱うため、手の爪は必ず短く切っておくこと。
成績評価の方法	出席点と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	198001	198002	198003	198004
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用）
担当者名	鈴木 淳平			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本講義では、バレーボールを教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。毎時間ゲームを行い、種目特有の技術・戦術等を体得し、身体運動の愉しさを感じつつ、体力の維持・増進を図ることを主なねらいとする。
--------------------	--

授業スケジュール	1 時 限 目：ガイダンス 2 時 限 目：基礎技術、簡易ゲーム、基本的な戦略についての学習 3 時 限 目：基礎技術、簡易ゲーム、基本的な戦略についての学習 4 時 限 目：基礎技術、リーグ戦、試合運営の習得 5 時 限 目：基礎技術、リーグ戦 6 時 限 目：応用技術、リーグ戦 7 時 限 目：応用技術、リーグ戦、審判法の習得 8 時 限 目：応用技術、リーグ戦 9 時 限 目：応用技術、リーグ戦 10 時 限 目：複合技術、戦術練習、リーグ戦 11 時 限 目：複合技術、戦術練習、リーグ戦 12 時 限 目：複合技術、戦術練習、リーグ戦 13 時 限 目：総合練習、リーグ戦 14 時 限 目：総合練習、リーグ戦 15 時 限 目：総合練習、リーグ戦
----------	---

準備学習	バレーボールのルールを事前に自主学習する。
履修上の留意点	運動に適した一般的なスポーツウェアと、凹凸の少ないフラットなソールの清潔な室内用シューズで受講すること。積極的に運動すること。
成績評価の方法	運動の実践、積極性、技術の習熟度、課題の達成度を総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	198401	198402	198403	198404
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）	
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴール型ボールゲームを題材とし、ボールの扱い方などを学び、いろんなタイプのボールゲームへと発展させる。さらに、基礎技術・戦術をゲームの中で活かせるようにする。また、審判、オフィシャルなど、他の受講者と協力してゲーム運営ができるようになることを目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1 時限目：オリエンテーション 2 時限目：ボールを使ったトレーニング 3 時限目：ボールを使った戦術トレーニング 4 時限目：シュートゲーム 5 時限目：基礎ゲーム 6 時限目：基礎ゲーム 7 時限目：ゲームⅠ 8 時限目：ゲームⅡ 9 時限目：ゲームⅢ 10 時限目：ゲームⅣ 11 時限目：ゲームⅤ 12 時限目：ゲームⅥ 13 時限目：ゲームⅦ 14 時限目：ゲームⅧ 15 時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとする。安全のため、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。ボールを手で扱うため、手の爪は必ず短く切っておくこと。
---------	--

成績評価の方法	出席と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
---------	--

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	198801	198802	198803	198804
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・応用） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・応用）	
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴール型ボールゲームを題材とし、ボールの扱い方などを学び、いろんなタイプのボールゲームへと発展させる。さらに、基礎技術・戦術をゲームの中で活かせるようにする。また、審判、オフィシャルなど、他の受講者と協力してゲーム運営ができるようになることを目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1 時限目：オリエンテーション 2 時限目：ボールを使ったトレーニング 3 時限目：ボールを使った戦術トレーニング 4 時限目：シュートゲーム 5 時限目：基礎ゲーム 6 時限目：基礎ゲーム 7 時限目：ゲームⅠ 8 時限目：ゲームⅡ 9 時限目：ゲームⅢ 10 時限目：ゲームⅣ 11 時限目：ゲームⅤ 12 時限目：ゲームⅥ 13 時限目：ゲームⅦ 14 時限目：ゲームⅧ 15 時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとする。安全のため、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。ボールを手で扱うため、手の爪は必ず短く切っておくこと。
---------	--

成績評価の方法	出席と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
---------	--

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	196601	196602	196603	196604
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	
	生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）	
担当者名	渡辺 一郎			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 半期間にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、フットサルの4種目を行う。（到達目標） 各々の種目を通して個人の基礎体力や運動技能を高めるとともに、集団の中での各個人の役割等を認識することにより社会的態度を養うことを目的とする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション 2時限目：バレーボールの基本スキル（パス、スパイク、サーブ等） 3時限目～5時限目：総合練習、ゲーム 6時限目：バスケットボールの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 7時限目～9時限目：総合練習、ゲーム 9時限目：バドミントンの基本スキル（ハイクリア、ドロップ、ヘアピン、スマッシュ、ドライブ、サーブ等） 10時限目～12時限目：ゲーム（シングルス、ダブルス） 13時限目：フットサルの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 14時限目～15時限目：総合練習、ゲーム</p>
----------	---

準備学習	なし
履修上の留意点	<p>1. 本校第一体育館で行う。 2. 定員は40名とする。 3. 服装は一般的スポーツウエア、体育館シューズを用意すること。</p>
成績評価の方法	実技点20%、平常点80%
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	197401	197402	197403	197404
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	
	生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）	
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の面白さを知る。そして、審判、用具の準備、後片付けなど、他の受講者と協力し円滑なゲーム進行が出来るようにする。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基盤をつくる。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットイングと基礎技術 3時限目：シングルルールとリードアップゲーム 4時限目：リーグ戦1 5時限目：リーグ戦2 6時限目：リーグ戦3 7時限目：リーグ戦4 8時限目：リーグ戦5 9時限目：ダブルスルールとリードアップゲーム 10時限目：ダブルスゲーム1 11時限目：ダブルスゲーム2 12時限目：ダブルスゲーム3 13時限目：ダブルスゲーム4 14時限目：ダブルスゲーム5 15時限目：まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	<p>服装は、運動しやすいスポーツ服装とする。また、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。素足でのプレーは、安全のため認めない。競技用具は貸与するが、自分のものを使用しても良い。</p>
成績評価の方法	実技科目のため出席を重視する。ゲームへの参加態度、協力は重要な要素とする。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	197601	197602	197603	197604
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			
担当者名	末次 美樹			
授業概要/ 到達目標（ねらい）	室内で行う球技（バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ドッジボール・卓球等）を教材とし、各種目ともゲームを中心とした授業を展開する。各種目の身体運動を通して、生涯における健康・体力を維持するとともに、ゲームを通して、豊かな人間関係の構築を目的とする。			
授業スケジュール	1時間目：オリエンテーション 2時間目：＜バスケットボール＞パス、ドリブル等の基本技術・応用・ゲーム 3・4時間目：ゲーム 5時間目：＜バレーボール＞サーブ、レシーブ等の基本技術・応用・ゲーム 6時間目：ゲーム 7時間目：＜ドッジボール＞ルールの説明、キャッチボール等の基本技術・ゲーム 8時間目：ゲーム 9時間目：＜バドミントン＞基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 10時間目：ゲーム（シングルス） 11時間目：ゲーム（ダブルス） 12時間目：＜卓球＞基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 13時間目：ゲーム（シングルス） 14・15時間目：ゲーム（ダブルス）			
準備学習	特になし。			
履修上の留意点	実技は本校第1体育館で行う。一般的なスポーツウェア、運動に適した体育館シューズを用意する。受講者数・出席者人数によっては、種目を変更する場合もある。			
成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。			
教科書／テキスト				
参考書				

履修コード	197801	197802	197803	197804
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎） 生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			
担当者名	末次 美樹			
授業概要/ 到達目標（ねらい）	室内で行う球技（バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ドッジボール・卓球等）を教材とし、各種目ともゲームを中心とした授業を展開する。各種目の身体運動を通して、生涯における健康・体力を維持するとともに、ゲームを通して、豊かな人間関係の構築を目的とする。			
授業スケジュール	1時間目：オリエンテーション 2時間目：＜バスケットボール＞パス、ドリブル等の基本技術・応用・ゲーム 3・4時間目：ゲーム 5時間目：＜バレーボール＞サーブ、レシーブ等の基本技術・応用・ゲーム 6時間目：ゲーム 7時間目：＜ドッジボール＞ルールの説明、キャッチボール等の基本技術・ゲーム 8時間目：ゲーム 9時間目：＜バドミントン＞基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 10時間目：ゲーム（シングルス） 11時間目：ゲーム（ダブルス） 12時間目：＜卓球＞基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 13時間目：ゲーム（シングルス） 14・15時間目：ゲーム（ダブルス）			
準備学習	特になし。			
履修上の留意点	実技は本校第1体育館で行う。一般的なスポーツウェア、運動に適した体育館シューズを用意する。受講者数・出席者人数によっては、種目を変更する場合もある。			
成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。			
教科書／テキスト				
参考書				
その他				

履修コード	198201	198202	198203	198204
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	
担当者名	鈴木 実平		生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）	
	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本講義では、バドミントンを教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。毎時間ゲームを行い、種目特有の技術・戦術等を体得し、身体運動の楽しさを感じつつ、体力の維持・増進を図ることを主なねらいとする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目 ガイダンス 2時限目 基礎技術、ダブルスゲーム、基本的な戦略についての学習 3時限目 基礎技術、ダブルスゲーム、基本的な戦略についての学習 4時限目 基礎技術、シングルスゲーム、試合運営の習得 5時限目 基礎技術、シングルスゲーム 6時限目 応用技術、混合ダブルスゲーム 7時限目 応用技術、リーグ戦 8時限目 応用技術、リーグ戦 9時限目 応用技術、リーグ戦 10時限目 複合技術、リーグ戦 11時限目 複合技術、リーグ戦 12時限目 複合技術、リーグ戦 13時限目 総合練習、リーグ戦 14時限目 総合練習、リーグ戦 15時限目 総合練習、リーグ戦
----------	---

準備学習	バドミントンのルールを事前に自主学習する。
履修上の留意点	運動に適した一般的なスポーツウェアと、凹凸の少ないフラットなソールの清潔な室内用シューズで受講すること。積極的に運動すること。
成績評価の方法	運動の実践、積極性、技術の習熟度、課題の達成度を総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	199001	199002	199003	199004
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（後期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅱ（後期・基礎）	
担当者名	村松 誠		生涯スポーツ実習Ⅲ（後期・基礎）	
	生涯スポーツ実習Ⅳ（後期・基礎）			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴール型ボールゲームを題材とし、ボールの扱い方などを学び、いろんなタイプのボールゲームへと発展させる。さらに、基礎技術・戦術をゲームの中で活かせるようにする。また、審判、オフィシャルなど、他の受講者と協力してゲーム運営ができるようになることを目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ボールを使ったトレーニング 3時限目：ボールを使った戦術トレーニング 4時限目：シュートゲーム 5時限目：基礎ゲーム 6時限目：基礎ゲーム 7時限目：ゲームⅠ 8時限目：ゲームⅡ 9時限目：ゲームⅢ 10時限目：ゲームⅣ 11時限目：ゲームⅤ 12時限目：ゲームⅥ 13時限目：ゲームⅦ 14時限目：ゲームⅧ 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。安全のため、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。ボールを手で扱うため、手の爪は必ず短く切っておくこと。
成績評価の方法	出席と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	196701	196702	196703	196704
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	
	生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）	
担当者名	渡辺 一郎			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 半期間にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、フットサルの4種目を行う。 （到達目標） 各々の種目を通して個人の基礎体力や運動技能を高めるとともに、集団の中での各個人の役割等を認識することにより社会的態度を養うことを目的とする。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション 2時限目：バレーボールの基本スキル（パス、スパイク、サーブ等） 3時限目～5時限目：総合練習、ゲーム 6時限目：バスケットボールの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 7時限目～9時限目：総合練習、ゲーム 9時限目：バドミントンの基本スキル（ハイクリア、ドロップ、ヘアピン、スマッシュ、ドライブ、サーブ等） 10時限目～12時限目：ゲーム（シングルス、ダブルス） 13時限目：フットサルの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 14時限目～15時限目：総合練習、ゲーム</p>
----------	---

準備学習	なし
------	----

履修上の留意点	<p>1. 本校第一体育館で行う。 2. 定員は40名とする。 3. 服装は一般的スポーツウエア、体育館シューズを用意すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	実技点20%、平常点80%
---------	---------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	196901	196902	196903	196904
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	
	生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）	
担当者名	渡辺 一郎			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 半期間にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、フットサルの4種目を行う。（到達目標） 各々の種目を通して個人の基礎体力や運動技能を高めるとともに、集団の中での各個人の役割等を認識することにより社会的態度を養うことを目的とする。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション 2時限目：バレーボールの基本スキル（パス、スパイク、サーブ等） 3時限目～5時限目：総合練習、ゲーム 6時限目：バスケットボールの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 7時限目～9時限目：総合練習、ゲーム 9時限目：バドミントンの基本スキル（ハイクリア、ドロップ、ヘアピン、スマッシュ、ドライブ、サーブ等） 10時限目～12時限目：ゲーム（シングルス、ダブルス） 13時限目：フットサルの基本スキル（パス、ドリブル、シュート等） 14時限目～15時限目：総合練習、ゲーム</p>
----------	---

準備学習	なし
------	----

履修上の留意点	<p>1. 本校第一体育館で行う。 2. 定員は40名とする。 3. 服装は一般的スポーツウエア、体育館シューズを用意すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	実技点20%、平常点80%
---------	---------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	197101	197102	197103	197104
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	
	生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）	
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴール型ボールゲームを題材とし、ボールの扱い方などを学び、いろいろなタイプのボールゲームへと発展させる。さらに、基礎技術・戦術をゲームの中で活かせるようにする。また、審判、オフィシャルなど、他の受講者と協力してゲーム運営ができるようになることを目標とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ボールを使ったトレーニング 3時限目：ボールを使った戦術トレーニング 4時限目：シュートゲーム 5時限目：基礎ゲーム 6時限目：基礎ゲーム 7時限目：ゲームⅠ 8時限目：ゲームⅡ 9時限目：ゲームⅢ 10時限目：ゲームⅣ 11時限目：ゲームⅤ 12時限目：ゲームⅥ 13時限目：ゲームⅦ 14時限目：ゲームⅧ 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。安全のため、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。ボールを手で扱うため、手の爪は必ず短く切っておくこと。
成績評価の方法	出席点と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	197901	197902	197903	197904
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	
	生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・応用）	
担当者名	鈴木 淳平			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本講義では、バレーボールを教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。毎時間ゲームを行い、種目特有の技術・戦術等を体得し、身体運動の楽しさを感じつつ、体力の維持・増進を図ることを主なねらいとする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目 ガイダンス 2時限目 基礎技術、簡易ゲーム、基本的な戦略についての学習 3時限目 基礎技術、簡易ゲーム、基本的な戦略についての学習 4時限目 基礎技術、リーグ戦、試合運営の習得 5時限目 基礎技術、リーグ戦 6時限目 応用技術、リーグ戦 7時限目 応用技術、リーグ戦、審判法の習得 8時限目 応用技術、リーグ戦 9時限目 応用技術、リーグ戦 10時限目 複合技術、戦術練習、リーグ戦 11時限目 複合技術、戦術練習、リーグ戦 12時限目 複合技術、戦術練習、リーグ戦 13時限目 総合練習、リーグ戦 14時限目 総合練習、リーグ戦 15時限目 総合練習、リーグ戦
----------	--

準備学習	バレーボールのルールを事前に自主学習する。
履修上の留意点	運動に適した一般的なスポーツウェアと、凹凸の少ないフラットなソールの清潔な室内用シューズで受講すること。積極的に運動すること。
成績評価の方法	運動の実践、積極性、技術の習熟度、課題の達成度を総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	198301	198302	198303	198304
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴール型ボールゲームを題材とし、ボールの扱い方などを学び、いろんなタイプのボールゲームへと発展させる。さらに、基礎技術・戦術をゲームの中で活かせるようにする。また、審判、オフィシャルなど、他の受講者と協力してゲーム運営ができるようになることを目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1 時限目：オリエンテーション 2 時限目：ボールを使ったトレーニング 3 時限目：ボールを使った戦術トレーニング 4 時限目：シュートゲーム 5 時限目：基礎ゲーム 6 時限目：基礎ゲーム 7 時限目：ゲームⅠ 8 時限目：ゲームⅡ 9 時限目：ゲームⅢ 10 時限目：ゲームⅣ 11 時限目：ゲームⅤ 12 時限目：ゲームⅥ 13 時限目：ゲームⅦ 14 時限目：ゲームⅧ 15 時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとする。安全のため、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。ボールを手で扱うため、手の爪は必ず短く切っておくこと。
---------	--

成績評価の方法	出席と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
---------	--

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	198701	198702	198703	198704
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・応用）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・応用）	生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・応用）
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴール型ボールゲームを題材とし、ボールの扱い方などを学び、いろんなタイプのボールゲームへと発展させる。さらに、基礎技術・戦術をゲームの中で活かせるようにする。また、審判、オフィシャルなど、他の受講者と協力してゲーム運営ができるようになることを目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1 時限目：オリエンテーション 2 時限目：ボールを使ったトレーニング 3 時限目：ボールを使った戦術トレーニング 4 時限目：シュートゲーム 5 時限目：基礎ゲーム 6 時限目：基礎ゲーム 7 時限目：ゲームⅠ 8 時限目：ゲームⅡ 9 時限目：ゲームⅢ 10 時限目：ゲームⅣ 11 時限目：ゲームⅤ 12 時限目：ゲームⅥ 13 時限目：ゲームⅦ 14 時限目：ゲームⅧ 15 時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウエアとする。安全のため、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。ボールを手で扱うため、手の爪は必ず短く切っておくこと。
---------	--

成績評価の方法	出席点と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
---------	---

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	196501	196502	196503	196504
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ(前期・基礎)		生涯スポーツ実習Ⅱ(前期・基礎)	
	生涯スポーツ実習Ⅲ(前期・基礎)		生涯スポーツ実習Ⅳ(前期・基礎)	
担当者名	渡辺 一郎			

授業概要/ 到達目標(ねらい)	(授業概要) 半期間にバレーボール、バスケットボール、バドミントン、フットサルの4種目を行う。 (到達目標) 各々の種目を通して個人の基礎体力や運動技能を高めるとともに、集団の中での各個人の役割等を認識することにより社会的態度を養うことを目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：バレーボールの基本スキル(パス、スパイク、サーブ等) 3時限目～5時限目：総合練習、ゲーム 6時限目：バスケットボールの基本スキル(パス、ドリブル、シュート等) 7時限目～9時限目：総合練習、ゲーム 9時限目：バドミントンの基本スキル(ハイクリア、ドロップ、ヘアピン、スマッシュ、ドライブ、サーブ等) 10時限目～12時限目：ゲーム(シングルス、ダブルス) 13時限目：フットサルの基本スキル(パス、ドリブル、シュート等) 14時限目～15時限目：総合練習、ゲーム
----------	--

準備学習	なし
履修上の留意点	1. 本校第一体育館で行う。 2. 定員は40名とする。 3. 服装は一般的スポーツウエア、体育館シューズを用意すること。
成績評価の方法	実技点20%、平常点80%
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	197301	197302	197303	197304
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ(前期・基礎)		生涯スポーツ実習Ⅱ(前期・基礎)	
	生涯スポーツ実習Ⅲ(前期・基礎)		生涯スポーツ実習Ⅳ(前期・基礎)	
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標(ねらい)	卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の面白さを知る。そして、審判、用具の準備、後片付けなど、他の受講者と協力し円滑なゲーム進行が出来るようにしする。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基盤をつくる。
--------------------	--

授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：ラケットティングと基礎技術 3時限目：シングルスルールとリードアップゲーム 4時限目：リーグ戦1 5時限目：リーグ戦2 6時限目：リーグ戦3 7時限目：リーグ戦4 8時限目：リーグ戦5 9時限目：ダブルスルールとリードアップゲーム 10時限目：ダブルスゲーム1 11時限目：ダブルスゲーム2 12時限目：ダブルスゲーム3 13時限目：ダブルスゲーム4 14時限目：ダブルスゲーム5 15時限目：まとめ
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	服装は、運動しやすいスポーツ服装とする。また、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。素足でのプレーは、安全のため認めない。競技用具は貸与するが、自分のものを使用しても良い。
成績評価の方法	出席と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	197501	197502	197503	197504
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	
担当者名	末次 美樹		生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）	
			生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）	

授業概要/ 到達目標（ねらい）	室内で行う球技（バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ドッジボール・卓球等）を教材とし、各種目ともゲームを中心とした授業を展開する。各種目の身体運動を通して、生涯における健康・体力を維持するとともに、ゲームを通して、豊かな人間関係の構築を目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時間目：オリエンテーション 2時間目：＜バスケットボール＞パス、ドリブル等の基本技術・応用・ゲーム 3・4時間目：ゲーム 5時間目：＜バレーボール＞サーブ、レシーブ等の基本技術・応用・ゲーム 6時間目：ゲーム 7時間目：＜ドッジボール＞ルールの説明、キャッチボール等の基本技術・ゲーム 8時間目：ゲーム 9時間目：＜バドミントン＞基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 10時間目：ゲーム（シングルス） 11時間目：ゲーム（ダブルス） 12時間目：＜卓球＞基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 13時間目：ゲーム（シングルス） 14・15時間目：ゲーム（ダブルス）
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	実技は本校第1体育館で行う。一般的なスポーツウェア、運動に適した体育館シューズを用意する。受講者数・出席者人数によっては、種目を変更する場合もある。
---------	--

成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。
---------	--

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

その他	
-----	--

履修コード	197701	197702	197703	197704
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	
担当者名	末次 美樹		生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）	
			生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）	

授業概要/ 到達目標（ねらい）	室内で行う球技（バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ドッジボール・卓球等）を教材とし、各種目ともゲームを中心とした授業を展開する。各種目の身体運動を通して、生涯における健康・体力を維持するとともに、ゲームを通して、豊かな人間関係の構築を目的とする。
--------------------	---

授業スケジュール	1時間目：オリエンテーション 2時間目：＜バスケットボール＞パス、ドリブル等の基本技術・応用・ゲーム 3・4時間目：ゲーム 5時間目：＜バレーボール＞サーブ、レシーブ等の基本技術・応用・ゲーム 6時間目：ゲーム 7時間目：＜ドッジボール＞ルールの説明、キャッチボール等の基本技術・ゲーム 8時間目：ゲーム 9時間目：＜バドミントン＞基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 10時間目：ゲーム（シングルス） 11時間目：ゲーム（ダブルス） 12時間目：＜卓球＞基本的な説明・ラリー練習、ゲーム（シングルス） 13時間目：ゲーム（シングルス） 14・15時間目：ゲーム（ダブルス）
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	実技は本校第1体育館で行う。一般的なスポーツウェア、運動に適した体育館シューズを用意する。受講者数・出席者人数によっては、種目を変更する場合もある。
---------	--

成績評価の方法	授業への参加意欲を重視する。全体の80%を平常点とし、その他、総合評価（積極性・協調性・受講態度など）を20%で評価する。遅刻や欠席は減点法で計算する。
---------	--

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	198101	198102	198103	198104
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	
	生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）	
担当者名	鈴木 淳平			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本講義では、バドミントンを教材とし、そこで用いられる身体運動等を学習する。毎時間ゲームを行い、種目特有の技術・戦術等を体得し、身体運動の楽しさを感じつつ、体力の維持・増進を図ることを主なねらいとする。
--------------------	--

授業スケジュール	1 時限目 ガイダンス 2 時限目 基礎技術、ダブルスゲーム、基本的な戦略についての学習 3 時限目 基礎技術、ダブルスゲーム、基本的な戦略についての学習 4 時限目 基礎技術、シングルスゲーム、試合運営の習得 5 時限目 基礎技術、シングルスゲーム 6 時限目 応用技術、混合ダブルスゲーム 7 時限目 応用技術、リーグ戦 8 時限目 応用技術、リーグ戦 9 時限目 応用技術、リーグ戦 10 時限目 複合技術、リーグ戦 11 時限目 複合技術、リーグ戦 12 時限目 複合技術、リーグ戦 13 時限目 総合練習、リーグ戦 14 時限目 総合練習、リーグ戦 15 時限目 総合練習、リーグ戦
----------	--

準備学習	バドミントンのルールを事前に自主学習する。
履修上の留意点	運動に適した一般的なスポーツウェアと、凹凸の少ないフラットなソールの清潔な室内用シューズで受講すること。積極的に運動すること。
成績評価の方法	運動の実践、積極性、技術の習熟度、課題の達成度を総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	198901	198902	198903	198904
科目名	生涯スポーツ実習Ⅰ（前期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅱ（前期・基礎）	
	生涯スポーツ実習Ⅲ（前期・基礎）		生涯スポーツ実習Ⅳ（前期・基礎）	
担当者名	村松 誠			

授業概要/ 到達目標（ねらい）	ゴール型ボールゲームを題材とし、ボールの扱い方などを学び、いろいろなタイプのボールゲームへと発展させる。さらに、基礎技術・戦術をゲームの中で活かせるようにする。また、審判、オフィシャルなど、他の受講者と協力してゲーム運営ができるようになることを目標とする。
--------------------	--

授業スケジュール	1 時限目：オリエンテーション 2 時限目：ボールを使ったトレーニング 3 時限目：ボールを使った戦術トレーニング 4 時限目：シュートゲーム 5 時限目：基礎ゲーム 6 時限目：基礎ゲーム 7 時限目：ゲームⅠ 8 時限目：ゲームⅡ 9 時限目：ゲームⅢ 10 時限目：ゲームⅣ 11 時限目：ゲームⅤ 12 時限目：ゲームⅥ 13 時限目：ゲームⅦ 14 時限目：ゲームⅧ 15 時限目：まとめ
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	服装は、一般的なスポーツウェアとする。安全のため、室内履きスポーツシューズを必ず用意すること。ボールを手で扱うため、手の爪は必ず短く切っておくこと。
成績評価の方法	出席と共に、積極的にゲームに参加することを評価する。また、講義のねらいを達成できることを、重要な評価項目とする。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	202401
科目名	保健理論
担当者名	黒子 幸一
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	保健一般について医療の現場で行われているプライマリーケア、緩和ケアを理解することを目的とする。
授業スケジュール	医療に従事する上で必要な事項を理解するため、医療倫理については患者の人権・自己決定権、インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死、蘇生とDNR、体外受精、遺伝子医療を考える、このほか3大疾患、生活習慣病、禁煙活動、メンタルヘルスについて理解する。
準備学習	特になし
履修上の留意点	小テスト、レポート提出を実施する。
成績評価の方法	定期試験、小テスト、レポート、出席状況により評価する。
教科書/テキスト	『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂）2,400円
参考書	『臨床緩和ケア』（青海社）2,800円 『医療倫理』（勁草書房）3,000円
その他	授業方式は講義形式を主にビデオ学習、グループディスカッション、ロールプレイを行う。プリント配布、講義スライド資料配布予定

履修コード	202001
科目名	余暇学
担当者名	竹田 幸夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「余暇」に関する基礎的な知識と考え方についての講義を行う。授業の進行状況に応じて、「健康体操」や「ストレッチ」等の実技も行う。 (到達目標) 大学生の年代は、将来における自分のライフスタイルの基礎を確立する大切な時期である。この講義を聞いて、自分の「余暇」に関する考え方を確立してほしい。
授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション／ 2時限目：余暇のある生活 ／ 3時限目：余暇の意味／ 4時限目：新しい余暇概念／ 5時限目：余暇に関する考え方（日本と海外）／ 6時限目： 地域社会と余暇の関わり／ 7時限目～8時限目：余暇と健康／ 9時限目：健康体操・スト レッチの実践（実技）／ 10時限目～11時限目：余暇とスポーツ／ 12時限目～13時限目：自分 自身の余暇の設計／ 14時限目：まとめ／ 15時限目：理解度の確認
準備学習	特になし
履修上の留意点	講義は教場で行い、実技は体育館2階「競技フロアー」で行う。実技の場合は、運動着と体育館シューズを用意すること。
成績評価の方法	平常点40%、授業中に作成・提出してもらったレポート（自分自身の余暇の設計）の内容20%、 ならびに授業内に行う小テスト40%で評価する。
教科書/テキスト	とくに指定しない。講義内容に関する資料を毎回配布する。
参考書	とくになし。講義内容に関連して、受講生に読んでほしい図書については、講義の中で随時紹介する。

履修コード	202201
科目名	余暇学
担当者名	竹田 幸夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 「余暇」に関する基礎的な知識と考え方についての講義を行う。授業の進行状況に応じて、「健康体操」や「ストレッチ」等の実技も行う。</p> <p>(到達目標) 大学生の年代は、将来における自分のライフスタイルの基礎を確立する大切な時期である。この講義を聞いて、自分の「余暇」に関する考え方を確立してほしい。</p>
授業スケジュール	<p>1時限目：オリエンテーション／ 2時限目：余暇のある生活 / 3時限目：余暇の意味／ 4時限目：新しい余暇概念／ 5時限目：余暇に関する考え方（日本と海外）／ 6時限目： 地域社会と余暇の関わり／ 7時限目～8時限目：余暇と健康／ 9時限目：健康体操・スト レッチの実践（実技）／ 10時限目～11時限目：余暇とスポーツ／ 12時限目～13時限目：自分 自身の余暇の設計／ 14時限目：まとめ／ 15時限目：理解度の確認</p>
準備学習	特になし
履修上の留意点	講義は教場で行い、実技は体育館2階「競技フロア」で行う。実技の場合は、運動着と体育館シューズを用意すること。
成績評価の方法	平常点40%、授業中に作成・提出してもらうレポート（自分自身の余暇の設計）の内容20%、ならびに授業内に行う小テスト40%で評価する。
教科書／テキスト	とくに指定しない。講義内容に関する資料を毎回配布する。
参考書	とくになし。講義内容に関連して、受講生に読んでほしい図書については、講義の中で随時紹介する。

Ⅱ. 「日本語」・「日本事情」科目

履修コード	230511 230512
科目名	日本語入門Ⅰa
担当者名	鈴木 美希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本語学習歴が150時間～300時間程度の学生を対象として、初級文法の中で大切なポイントとなる文法と中級前半レベルの文法の練習をする。また、10～15行の読み物を読んで、ひとつのテーマについて話す力、書く力をのばす。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 レベルチェック 第2～3回 テーマ「地震」 自動詞・他動詞など 第4～5回 テーマ「インターネットの利用」 比較の表現など 第6～7回 テーマ「日本人の発明」 原因・理由の表現など 第8回 これまでの学習のまとめ 第9～10回 テーマ「あいづち」 部分否定の表現など 第11～12回 テーマ「ことばの使い方」 手段・方法の表現など 第13回 敬語 第14回 助詞、接続詞、副詞 第15回 総まとめ
----------	---

準備学習	毎回、その日に学習したことに關する宿題を出す。また、1つの課が終わったら、文法・漢字・ことばの小テストをするので、準備をして授業に参加してください。
------	--

履修上の留意点	◆非漢字圏の学生で、初級レベルの文法の学習を必要とする学生を対象としているため、漢字圏の学生および、ある程度の日本語力を持つ学生は受講できない。 ◆「日本語入門Ⅰa」と「日本語入門Ⅰa」は同時に受講することが望ましい。 ◆履修者数の制限をする場合があるので、必ず初回の授業に出席し、担当者の承認を得ること。 ◆5回以上欠席した場合、単位を認めないことがある。
---------	--

成績評価の方法	平常点（授業への参加度・小テスト・提出物）50%、テスト50%を基本に総合的に評価する。授業態度を重視する。
---------	--

教科書／テキスト	『中級へ行こう』スリーエーネットワーク その他、プリント教材を使用する。
----------	---

参考書	
-----	--

その他	辞書を持ってくること。
-----	-------------

履修コード	230521 230522
科目名	日本語入門Ⅰb
担当者名	鈴木 美希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本語学習歴が150～300時間程度の学生を対象として、初級文法の中で大切なポイントとなる文法の中級前半レベルの文法の練習をする。また、10～15行の読み物を読んで、ひとつのテーマについて話す力、書く力をのばす。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 レベルチェック 第2～3回 テーマ「ファストフード」 例を示す表現など 第4～5回 テーマ「最近の子ども」 たとえるとき表現など 第6～7回 テーマ「睡眠」 連用中止など 第8回 これまでのまとめ 第9～11回 テーマ「リサイクルとフリーマーケット」 条件表現など 第12～14回 テーマ「男の仕事・女の仕事」 使役、受身、使役受身など 第15回 総まとめ
----------	---

準備学習	毎回、その日に学習したことに關する宿題を出す。また、1つの課が終わったら、文法・漢字・ことばの小テストをするので、準備をして授業に参加してください。
------	--

履修上の留意点	◆非漢字圏の学生を対象としているため、漢字圏の学生は受講できない。 ◆「日本語入門Ⅰb」と「日本語入門Ⅰb」は同時に受講することが望ましい。 ◆履修者数の制限をする場合があるので、必ず初回の授業に出席し、担当者の承認を得ること。 ◆5回以上欠席した場合、単位を認めないことがある。
---------	---

成績評価の方法	平常点（授業への参加度・小テスト・提出物）60%、テスト40%を基本に総合的に評価する。授業態度を重視する。
---------	--

教科書／テキスト	『中級へ行こう』スリーエーネットワーク その他、プリント教材を使用する。
----------	---

参考書	
-----	--

その他	辞書を持ってきてください。
-----	---------------

履修コード	230531 230532
科目名	日本語入門II a
担当者名	鈴木 美希
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本語学習歴が150~300時間程度の学生を対象として、調査発表することを目標とする。情報収集、原稿作成、発表などの活動を通じて、日本語の総合力を高める。
授業スケジュール	第1~2回 トピック「贈り物」 読み物 第3回 発表① 第4~6回 トピック「マスメディア」 グラフ、読み物 第7回 アンケート調査計画 第8回 原稿の書き方、発表の仕方 第9回 調査発表準備 第10回 発表② 第11~13回 トピック「言葉」 慣用表現、擬音語・擬態語、グラフ 第14回 発表③ 第15回 まとめ
準備学習	授業でとりあげるトピックに関することばの学習と、発表の準備（調査活動・発表原稿・資料作成）。
履修上の留意点	◆非漢字圏の学生で、初級レベルの文法の学習を必要とする学生を対象としているため、漢字圏の学生および、ある程度の日本語力を持つ学生は受講できない。 ◆「日本語入門Ia」と「日本語入門IIa」は同時に受講することが望ましい。 ◆履修者数の制限をする場合があるので、必ず初回の授業に出席し、担当者の承認を得ること。 ◆5回以上欠席した場合、単位を認めないことがある。
成績評価の方法	平常点（授業への参加度・小テスト・提出物）40%、作文・発表60%を基本に総合的に評価します。授業態度を重視します。
教科書／テキスト	『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級前期』スリーエーネットワーク
参考書	
その他	辞書を持ってきてください。

履修コード	230541 230542
科目名	日本語入門II b
担当者名	鈴木 美希
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本語学習歴が150~300時間程度の学生を対象として、調査発表することを目標とする。情報収集、原稿作成、発表などの活動を通じて、日本語の総合力を高める。
授業スケジュール	第1~2回 トピック「旅行」 グラフ、読み物 第3回 発表① 第4~6回 トピック「いつ、どこで買う？」 グラフ、読み物 第7回 アンケート調査計画 第8回 原稿の書き方、発表の仕方 第9回 調査発表準備 第10回 発表② 第11~13回 トピック「祭り」 読み物 第14回 発表③ 第15回 まとめ
準備学習	授業でとりあげるトピックに関することばの学習と、発表の準備（調査活動・作文・資料作成）。
履修上の留意点	◆非漢字圏の学生を対象としているため、漢字圏の学生は受講できない。 ◆「日本語入門Ib」と「日本語入門IIb」は同時に受講することが望ましい。 ◆履修者数の制限をする場合があるので、必ず初回の授業に出席し、担当者の承認を得ること。 ◆5回以上欠席した場合、単位を認めないことがある。
成績評価の方法	平常点（授業への参加度・小テスト・提出物）と40%と、作文・発表60%を基本に総合的に評価する。授業態度を重視する。
教科書／テキスト	『トピックによる日本語総合演習 テーマ探しから発表へ 中級前期』スリーエーネットワーク
参考書	
その他	辞書を持ってきてください。

履修コード	230611 230612
科目名	日本語Ⅰa
担当者名	佐野 典子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、留学生を対象とし、日本語のみならず、広く日本文化の把握を目的とする。
授業スケジュール	授業は、日本の劇場用映画を主教材とし、日本語を勉強すると同時に、日本人のものの考え方 や行動パターン、日本文化の特質を探る。 15回の授業で4作品を取り上げる予定。 授業の初めに、語彙リストを配布する。新出語の説明後、映画の一部分(毎回30分くらい) を見る。その後、登場人物の会話を把握する。理解問題シートに、書き取り、提出する。 最終授業において、語彙と内容把握の試験を行う。
準備学習	準備は特に要らないが、前の週に配布した教材(語彙表など)は、忘れず持参すること。
履修上の留意点	教材は、担当者が用意する。 視聴覚教材を使用するので、途中入室をすると、他の学生の聞き取りのじゃまになる。従っ て、できる限り遅刻をしないよう気をつけてほしい。
成績評価の方法	成績は、提出物(毎週)、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	230631 230632
科目名	日本語Ⅰa
担当者名	長崎 清美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	より豊かな語彙・表現力を身につけることを目標とする。さまざまな文章(時事問題、季節の話題、 マンガ)に触れながら、語彙・表現とともに、日本文化についての理解も深める。
授業スケジュール	毎回、①ニュース、②季節の話題に関する文章を読み、語彙・表現を学習する。また、トピック に関連した日本文化、日本人の考え方にも触れ、ただ言葉を覚えるだけでなく、なぜこうした表 現を使うのか、自分の国ではどうなのかなど、クリティカルに考えながら学ぶ。授業の最初に は、学習した語彙・表現のミニクイズを行い、定着を確認する。
準備学習	毎回、前回学習した語彙・表現のミニクイズを行うので、復習をしてから授業に出席すること。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率・平常点(ミニクイズ・提出物・授業への参加度)と期末試験から総合的に評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。 辞書を持っていくこと。
参考書	『中上級のほんご』創作集団にほんご

履修コード	230621 230622
科目名	日本語Ⅰb
担当者名	佐野 典子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、留学生を対象とし、日本語のみならず、広く日本文化の把握を目的とする。
授業スケジュール	授業は、日本の劇場用映画を主教材とし、日本語を勉強すると同時に、日本人のものの考え方 や行動パターン、日本文化の特質を探る。 15回の授業で、4作品を取り上げる予定。 授業の初めに、語彙リストを配布する。新出語の説明後、映画の一部分(毎回30分くらい) を見る。その後、登場人物の会話を把握する。理解問題シートに書き取り、提出する。 最終授業において、語彙と内容把握の試験を行う。
準備学習	準備は特に要らないが、前の週に配布した教材(語彙表など)を忘れず持参すること。
履修上の留意点	教材は、担当者が用意する。
成績評価の方法	成績は、提出物(毎週)、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	230641 230642
科目名	日本語I b
担当者名	長崎 清美
授業概要/ 到達目標(ねらい)	より豊かな語彙・表現力を身につけることを目標とする。さまざまな文章(時事問題、季節の話題、マンガ)に触れながら、語彙・表現とともに、日本文化についての理解も深める。
授業スケジュール	日本語Iaに続き、毎回、①ニュース、②季節の話題に関する文章を読み、語彙・表現を学習する。また、トピックに関連した日本文化、日本人の考え方にも触れ、ただ言葉を覚えるだけでなく、なぜこうした表現を使うのか、自分の国ではどうなのかなど、クリエイティブに考えながら学ぶ。授業の最初には、前回学習した語彙・表現のミニクイズを行い、定着を確認する。
準備学習	毎回、前回学習した語彙・表現のミニクイズを行うので、復習をしてから授業に出席すること。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率・平常点(ミニクイズ・提出物・授業への参加度)と期末試験から総合的に評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。 辞書を持っていくこと。
参考書	『中上級のにほんご』創作集団にほんご

履修コード	230711 230712
科目名	日本語II a
担当者名	佐野 典子
授業概要/ 到達目標(ねらい)	本講義は、留学生を対象とし、日本語の聴解力、及び読解力の向上を目的とする。
授業スケジュール	授業では、テレビドラマのVTRを教材に、実際に話される日本語がどのようなものか学習し、同時に、書き言葉、話し言葉の違いを把握する。 15回の授業で、連続ドラマ2作品を取り上げる予定。 授業の始めに語彙リストで、新出語を確認し、その後ドラマを見ながら、登場人物の台詞を把握し、理解問題シートに書き取る。授業の終わりに理解問題シートを提出する。 最終授業において、語彙と内容把握の試験を行う。
準備学習	準備は特に要らない。
履修上の留意点	教材は、担当者が用意する。 語彙表にある語彙を確認するために、辞書を持参することが望ましい。
成績評価の方法	成績は、提出物(毎週)、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	230721 230722
科目名	日本語II a
担当者名	長崎 清美
授業概要/ 到達目標(ねらい)	円滑な人間関係が築ける話し方ができることを目標とする。
授業スケジュール	毎回、「誘う」「断る」のような状況、「合コン」「結婚式」などの場面をとりあげ、そこで、どんな表現が適切なのか、文法的に正しくても日本人にはどんな印象を与えてしまうのかを考えながら、よりよい表現を習得する。表現の裏にある日本人の考え方や文化についても、読み教材などを利用して理解を深める。
準備学習	必要に応じて指示をする。
履修上の留意点	「話す」授業なので、積極的に参加することが条件。
成績評価の方法	出席率・平常点(授業への参加度)と期末試験から総合的に評価するが、授業への参加度を重要視する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。
参考書	『マンガで学ぶ日本語会話術』アルク 『日本語生中継 中～上級編』くろしお出版 『日本語ノート』The Japan Times

履修コード	230811 230812
科目名	日本語II b
担当者名	佐野 典子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、留学生を対象とし、日本語の聴解力、及び読解力の向上を目的とする。
授業スケジュール	授業では、テレビドラマのVTRを教材に、実際に話される日本語がどのようなものが学習し、同時に、書き言葉、話し言葉の違いを把握する。 15回の授業で、連続ドラマ2作品を取り上げる予定。 授業の初めに語彙リストで、新出語彙を確認し、その後ドラマを見ながら、登場人物の台詞を把握し、理解問題シートに書き取る。授業の終わりに、理解問題シートを提出する。 最終授業において、語彙と内容把握の試験を行う。
準備学習	準備は特に要らない。
履修上の留意点	教材は、担当者が用意する。 語彙表の語彙を確認するために辞書を持参することが望ましい。
成績評価の方法	成績は、提出物（毎週）、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	

履修コード	230821 230822
科目名	日本語II b
担当者名	長崎 清美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	上級話者をめざして、より詳細に説明、描写、叙述できる力の習得を目標とする。
授業スケジュール	毎回、テーマに基づき、①テーマに関するウォーミングアップ、②語彙の導入、③タスク達成のための談話構成の検討、④発表を行う。発表後は、聞き手の立場であるクラスメートからのフィードバックを受け、どう改善すればいいのか振り返りの時間をしっかりとる。テーマは、「好きなシーンの紹介」「〇〇を始めたきっかけ」「何かをなくした体験」など、身近なものとする。
準備学習	必要に応じて指示をする。
履修上の留意点	「話す」授業なので、積極的に参加することが条件。
成績評価の方法	出席率・平常点（授業への参加度）と期末試験から総合的に評価するが、授業への参加度を重要視する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	『日本語上級話者への道』『日本語超級話者へのかけはし』スリーエーネットワーク

履修コード	230911 230912
科目名	日本語III a
担当者名	長崎 清美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ニュースや他人の意見のポイントを正しく聞き取り、それをもとに自分の意見が言える力の習得をめざす。
授業スケジュール	毎回、CDやDVDを使って、①ニュースや意見を聞き、②内容を確認、③テーマについての意見交換、④自分の意見を口頭、またはレポートにまとめる。テーマは、「就職」「結婚」「家族」など、社会性のあるトピックをとりあげる。
準備学習	必要に応じて指示をする。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率・平常点（提出物・授業への参加度）と期末試験から総合的に評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。 辞書を持ってこよう。
参考書	『Voices from Japan ありのままの日本を知る・語る』くろしお出版

履修コード	230921 230922
科目名	日本語III a
担当者名	湯村 礼子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〈授業概要〉 新聞・雑誌・専門書などから教材を選び、辞典や事典、他の資料を使って詳しく調べながら読み、理解を深める。その後意見を出し合い討論をし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出する。2コマで一つの文章・記事を読み進める予定。適宜小テストを行う。</p> <p>〈到達目標〉 これまでに修得してきた日本語能力をさらに高め、文献を自分で調べながら読み、理解できるようになること、さらに、文献を通して考え、自分の意見を持ち、発表、説明ができるようになることをめざす。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス 第2回 題材1 第3回 題材1、小レポート提出 第4回 題材2 第5回 題材2、小レポート提出 第6回 題材3 第7回 題材3、小レポート提出 第8回 題材4 第9回 題材4、小レポート提出 第10回 題材5 第11回 題材5、小レポート提出 第12回 題材6 第13回 題材6、小レポート提出 第14回 題材7 第15回 題材7、小レポート提出</p>
----------	--

準備学習	テキストを読んでおくこと
履修上の留意点	授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。調べてくる宿題が出る。なお、第1週・第2週の授業を続けて欠席した者は履修を許可しない場合があるので注意すること。
成績評価の方法	小レポート、小テスト、授業活動 50% 期末試験 50%
教科書／テキスト	最初の授業時に指定する。
参考書	

履修コード	231011 231012
科目名	日本語III b
担当者名	長崎 清美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	アカデミックな発表を聞くのに必要なテクニックの習得とともに、アカデミックプレゼンテーションの構成の基本的な習得を目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	毎回、発表のCDを聞き、①メモとり、②メモを見ながら発表を再構成、③発表でよく使われる表現の確認、④学習した表現を使ってCDのように発表する。キーワードを「聞く」力を養うために、発表CD以外の聴解練習も行う。
----------	--

準備学習	事前に配布する語彙表の言葉を調べておく。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率・平常点（授業への参加度）と期末試験から総合的に評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。 辞書を持ってくること。
参考書	『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク

履修コード	231021 231022
科目名	日本語III b
担当者名	湯村 礼子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〈授業概要〉 Ⅲaと同様に教材を読み進めるが、Ⅲbでは、担当を決め、発表してもらう。担当者は教材を事典や資料を調べて理解し、わかりやすく説明することが求められる。発表後には意見を出し合い討論をし、認識を深め、最後に小レポートを提出する。小テストを適宜行う。</p> <p>〈到達目標〉 日本語Ⅲ aの続きとして、文献を自分で調べながら読み、理解できるようになること、さらに、文献を通して考え、自分の意見を持ち、発表し、分かりやすい説明ができるようになることをめざす。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス 第2回 題材1 第3回 題材2 第4回 題材3 第5回 題材4 第6回 題材5 第7回 題材6 第8回 題材7 第9回 題材8 第10回 題材9 第11回 題材10 第12回 題材11 第13回 題材12 第14回 題材13 第15回 題材14</p>
準備学習	テキストを読んでおく。発表者は担当項目を読み、調査し、発表の準備をする。
履修上の留意点	授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。調べてきて発表することがある。なお、第1週・第2週の授業を続けて欠席した者は履修を許可しない場合があるので注意すること。
成績評価の方法	小レポート、小テスト、授業活動 50% 期末試験 50%
教科書/テキスト	最初の授業時に指定する。
参考書	

履修コード	231111 231112
科目名	日本語IV a
担当者名	鈴木 美希
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>中級レベルの日本語学習（日本語能力試験N2程度）を修了した学生を対象とし、日本語で書いて表現する力を伸ばす。</p> <p>(1) 日常生活の中で感じていることや考えていることを、読み手にわかりやすく伝える。 (2) 社会で起きている出来事に対する自分の意見を、資料を引用しながら論理的に書けるようになる。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 クラスメートの紹介文を書く 第2回 オノマトペや比喻を使って表現する 第3回 詩を書く 第4回 経験したことを書く 第5回 パターンを見つける 第6回 クラスメートが書いた作文を読む 第7回 パターンを使って文章を書く 第8～10回 自己PR文を書く 感想を書く 第11回 引用の仕方 第12～14回 マスコミの情報を使って文章を書く 第15回 まとめ</p>
準備学習	ワークシートに沿って、作文に書く内容を考える。
履修上の留意点	<p>◆履修者数の制限をする場合があるので、必ず初回の授業に出席し、担当者の承認を得ること。 ◆5回以上欠席した場合、単位を認めないことがある。 ◆ペアワークやグループワークを取り入れて進めるため、学生同士の活発な意見交換を望む。</p>
成績評価の方法	平常点（授業への参加度・提出物）80%、文章の書き方に関する小テスト20%を基本に、総合的に評価する。授業態度を重視する。
教科書/テキスト	プリント教材を配布する。
参考書	『TAEによる文章表現ワークブック』図書文化
その他	辞書を持ってくること。

履修コード	231121 231122
科目名	日本語IVa
担当者名	湯村 礼子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p><授業概要> 日本語の文章表現を学ぶ。IVaでは、大学で必要なレポート・論文の書き方について学ぶ。授業は講義の後、実践/小テストをし、理解を確認しながら進めていく。</p> <p><到達目標> 日本語の文章表現を学び、大学生として必要な表現力をさらに高めることを目的とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 主題を選ぶ</p> <p>第3回 材料を集める</p> <p>第4回 作文1</p> <p>第5回 構成を考え、アウトラインを書く</p> <p>第6回 序論を書く(1)</p> <p>第7回 序論を書く(2)</p> <p>第8回 結論を書く(1)</p> <p>第9回 結論を書く(2)</p> <p>第10回 作文2</p> <p>第11回 推敲する</p> <p>第12回 清書する</p> <p>第13回 引用する</p> <p>第14回 引用・参考文献を書く</p> <p>第15回 表紙を書く、まとめ</p>
----------	---

準備学習	復習をし次の授業に備えること
履修上の留意点	授業活動が重要となるので、毎時間の出席を原則とする。第1・第2週の授業を続けて欠席した者は、履修を許可しない場合があるので注意すること。
成績評価の方法	提出物・小テスト・授業活動(授業での発言、授業態度など) 50% 期末試験 50%
教科書/テキスト	教科書は授業時に指定する。
参考書	

履修コード	231211 231212
科目名	日本語IVb
担当者名	鈴木 美希

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>中級レベルの日本語学習(日本語能力試験N2程度)を修了した学生を対象とし、一人である程度まとまった内容の話をする力を伸ばす。</p> <p>(1)資料を基に、情報をわかりやすく説明できるようになる。</p> <p>(2)説得力のある意見が言えるようになる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 即興スピーチ</p> <p>第2回 発表の仕方 発表資料の作り方</p> <p>第3回 質疑応答の仕方</p> <p>第4回 意見の述べ方</p> <p>第5回 小プレゼンテーション</p> <p>第6回 これまでのまとめ</p> <p>第7回 発表の準備</p> <p>第8~14回 発表と相互評価</p> <p>第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	自分のプレゼンテーションのテーマを決めるために、日ごろから新聞やテレビのニュースを見て、情報を集めておく。
履修上の留意点	<p>◆履修者数の制限をする場合があるので、必ず初回の授業に出席し、担当者の承認を得ること。</p> <p>◆5回以上欠席した場合、単位を認めないことがある。</p> <p>◆プレゼンテーションの準備段階は、学生同士がお互いに評価し合う。また、プレゼンテーションのときは質疑応答を行うので、学生同士の活発な意見交換を望む。</p>
成績評価の方法	平常点(授業への参加度・提出物)50%、発表50%を基本に、総合的に評価する。授業態度を重視する。
教科書/テキスト	プリント教材を配布する。
参考書	

履修コード	231221 231222
科目名	日本語IVb
担当者名	湯村 礼子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〈授業概要〉 事実・情報を正確に伝える文章を書くための文章の基本から学び、意見文の書き方、小論文の書き方を学習する。授業は講義、そして、実践/小テストをし、理解したことを確認しながら進める。</p> <p>〈到達目標〉 日本語の文章表現を学び、日本語の知識を深め、大学生として必要な表現力をさらに高めることを目的とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 授業ガイダンス 第2回 文章の基本—文 第3回 文章の基本—段落 第4回 文章の基本—構成 第5回 事実と意見(1) 第6回 事実と意見(2) 第7回 意見文の書き方(1) 第8回 意見文の書き方(2) 第9回 意見文の書き方(3) 第10回 作文(意見文) 第11回 小論文の書き方(1) 第12回 小論文の書き方(2) 第13回 小論文の書き方(3) 第14回 作文(小論文) 第15回 まとめ
----------	---

準備学習	復習をし、次の授業に備えること
履修上の留意点	授業活動が重要となるので、毎時間の出席を原則とする。第1週・第2週の授業を続けて欠席した者は履修を許可しない場合があるので注意すること。
成績評価の方法	提出物・小テスト・授業活動(授業での発言、授業態度など) 50% 期末試験 50%
教科書/テキスト	教科書は授業時に指定する。
参考書	

履修コード	231311 231312
科目名	日本語Va
担当者名	湯村 礼子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〈授業概要〉 資料や文献を読んで要約をしまとめて発表する、ブックレポートのやり方を学ぶ。文献の内容を簡潔に分かりやすくまとめて、レジюмеをつくり、発表をする。さらに、発表に基づいて質疑応答や意見交換をする。</p> <p>〈到達目標〉 文献や資料を読み取る読解力をさらに高め、分かりやすく説明・発表ができるようになることをめざす。また、自分の意見を明確に述べられるようになることも目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 授業ガイダンス 第2回 ブックレポートのやり方 第3回 要約(1) 第4回 要約(2) 第5回 発表の構成(1) 第6回 発表の構成(2) 第7回 レジюмеの作り方(1) 第8回 レジюмеの作り方(2) 第9回 発表の練習 第10回 質問のしかたと答え方 第11回 発表 第12回 発表 第13回 発表 第14回 発表 第15回 発表
----------	---

準備学習	復習をし次の授業に備えること
履修上の留意点	授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。提出物は、必ず期限までに提出すること。適宜小テストを行う。なお、第一週・第二週の授業を続けて欠席した場合は履修を許可しない場合があるので注意すること。
成績評価の方法	毎時間の授業活動、提出物、クイズ、発表、期末試験を総合的に評価する。
教科書/テキスト	授業時に指定する。
参考書	
その他	受講態度を重視する。

履修コード	231321 231322
科目名	日本語Va
担当者名	長崎 清美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	新聞・雑誌などを読むことを通して、読解力・語彙力を高めることを目標とする。
授業スケジュール	毎回、新聞記事、雑誌記事を教材とし、①テーマに関するウォーミングアップ、②おおまかな内容の把握、③語彙確認、④社会背景を考えながら問題点を把握、⑤要約、⑥読んだ記事に関する意見交換を行う。テーマについては、最新的话题を取り上げ、教科書では学習できない語彙力のアップをめざす。速読力強化のための練習も適宜行う。
準備学習	必要に応じて指示をする。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率・平常点(授業の参加度)と期末試験から総合的に評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。 辞書を持ってこること。
参考書	

履修コード	231411 231412
科目名	日本語Vb
担当者名	湯村 礼子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〈授業概要〉 Vaと同様に、ブックレポートとディスカッションを行う。教材としての文献は第1回に学生と相談して決めたい。学生は順番に20~30ページを担当し、その内容を分かりやすくまとめて、レジュメをつくり、発表する。その後発表に基づいたディスカッションをする。</p> <p>〈到達目標〉 分かりやすい説明・発表をし自分の意見を述べること、また、発表を聞いて質問したり意見を述べたりすることが、自信を持ってできるようになることをめざす。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス</p> <p>第2回 ブックレポートとディスカッション(1)</p> <p>第3回 ブックレポートとディスカッション(2)</p> <p>第4回 ブックレポートとディスカッション(3)</p> <p>第5回 ブックレポートとディスカッション(4)</p> <p>第6回 ブックレポートとディスカッション(5)</p> <p>第7回 ブックレポートとディスカッション(6)</p> <p>第8回 小テスト/理解度の確認</p> <p>第9回 ブックレポートとディスカッション(7)</p> <p>第10回 ブックレポートとディスカッション(8)</p> <p>第11回 ブックレポートとディスカッション(9)</p> <p>第12回 ブックレポートとディスカッション(10)</p> <p>第13回 ブックレポートとディスカッション(11)</p> <p>第14回 ブックレポートとディスカッション(12)</p> <p>第15回 まとめ</p>
準備学習	準備として、文献を読むこと。また、自分の発表のために、文献を読みレジュメを作り発表の練習をすること。
履修上の留意点	授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。また、発表するために文献を読み、レジュメを作成して発表するまでは各自で準備することになる。授業では活発な発言、意見交換が望まれる。
成績評価の方法	発表(レジュメ・発表メモなどを含む)、授業活動(発言、授業態度など)、テスト(中間・期末)、提出物などを総合的に評価する。
教科書/テキスト	授業時に指定する。
参考書	
その他	受講態度を重視する。辞書を持ってこること。

履修コード	231421 231422
科目名	日本語Vb
担当者名	長崎 清美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	新聞・雑誌などを読むことを通して、読解力・語彙力を高めることを目標とする。
授業スケジュール	日本語Vaに続き、毎回、新聞記事、雑誌記事を教材とし、①テーマに関するウォーミングアップ、②おおまかな内容の把握、③語彙確認、④社会背景を考えながら問題点を把握、⑤要約、⑥読んだ記事に関する意見交換を行う。テーマについては、最新的话题を取り上げ、教科書では学習できない語彙力のアップもめざす。速力強化のための練習も適宜行う。
準備学習	必要に応じて指示をする。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率・平常点（授業への参加度）と期末試験から総合的に評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。 辞書を持ってくること。
参考書	

履修コード	231511 231512
科目名	日本語VI a
担当者名	鈴木 美希
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	あるテーマに関するさまざまな資料を読んで日本の現代社会に対する理解を深め、自分の意見を持つ。 (1) 文章中の表現と文章全体の内容を正確に理解する。 (2) 読んだ内容を自分の言葉で説明し、それに対する自分の意見を述べるができる。
授業スケジュール	第1回 「若者」 (1) 知っていることを話す 第2回 「若者」 (2) 資料1「いつの時代も若者は」(新聞記事) 第3回 「若者」 (3) 資料2「視線平気症候群」(新聞記事) 第4回 「若者」 (4) 資料3「療生600人 友人ゼロ」(新聞記事) 第5回 「若者」 (5) 資料4「若者の友人関係」(図表) 第6回 「若者」 (6) 資料5「若者と時代」(図表、新聞投書、新聞記事)、 第7回 「若者」 (7) スピーチ 第8回 「若者」 (8) まとめ 第9回 「日本の外国人」 (1) 知っていることを話す 第10回 「日本の外国人」 (2) 資料1「在日ブラジル人 脱・出稼ぎ」(新聞記事) 第11回 「日本の外国人」 (3) 資料2「外国人はめずらしい？」(新聞記事、新聞投書) 第12回 「日本の外国人」 (4) 資料3「外国人街、各地に続々と」(新聞記事、図表) 第13回 「日本の外国人」 (5) 資料4「さまざまな共生の試み」(新聞記事) 第14回 「日本の外国人」 (6) スピーチ 第15回 「日本の外国人」 (7) まとめ
準備学習	配布資料に関する宿題（漢字・ことば・文法・意見を書く等）を出す。
履修上の留意点	◆履修者数の制限をする場合があるので、必ず最初の授業に出席し、担当者の承認を得ること。 ◆5回以上欠席した場合、単位を認めないことがある。 ◆ペアワークやグループワークを多用するので、学生同士の活発な情報交換・意見交換を望む。
成績評価の方法	平常点（授業への参加度・提出物・スピーチ）60%、テスト40%を基本に総合的に評価する。授業態度を重視する。
教科書／テキスト	『中・上級日本語教科書 日本への招待 第2版』 東京大学出版会
参考書	辞書を持ってくること。

履修コード	231521 231522
科目名	日本語VI a
担当者名	長崎 清美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ビジネスの現場や社会で通用する人間関係を意識した日本語力の習得を目標とする。
授業スケジュール	卒業後の生活をイメージしながら、以下のテーマ(例)について学習する。①敬語はなぜ使うのか、②日本人に訴える自己PR、③訪問時の会話、④電話の会話、⑤ビジネス文書、ビジネスメールの基本、⑥ビジネスマナーの考え方
準備学習	必要に応じて指示をする。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率・平常点(提出物・授業への参加度)と期末試験から総合的に評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。 辞書を持ってくること。
参考書	ビジネス能力検定テキスト各種、BJTテキスト各種

履修コード	231611 231612
科目名	日本語VI b
担当者名	鈴木 美希
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	あるテーマに関するさまざまな資料を読んで日本の現代社会に対する理解を深め、自分の意見を持つ。 (1)文章中の表現と文章全体の内容を正確に理解する。 (2)読んだ内容を自分の言葉で説明し、それに対する自分の意見を述べるができる。
授業スケジュール	第1回 「教育」(1) 知っていることを話す 第2回 「教育」(2) 資料1「規律遵守の生徒指導」(新聞記事) 第3回 「教育」(3) 資料2「登校拒否」って何?」(教育書) 第4回 「教育」(4) 資料3「マリオネット・デイズ」(小説) 第5回 「教育」(5) 資料4「多様化する教育」(新聞記事ほか) 第6回 「教育」(6) スピーチ 第7回 「教育」(7) まとめ 第8回 「教育」(8) DVD視聴、ディスカッション 第9回 「仕事」(1) 知っていることを話す 第10回 「仕事」(2) 資料1「変わる職場の風景」(新聞記事) 第11回 「仕事」(3) 資料2「銀色の登り道」(小説) 第12回 「仕事」(4) 資料3「満員電車」(エッセイ) 第13回 「仕事」(5) 資料4「新しい時代の働き方」(新聞記事) 第14回 「仕事」(6) スピーチ 第15回 「仕事教育」(7) まとめ
準備学習	配布資料に関する宿題(漢字・ことば・文法・意見を書く等)を出す。
履修上の留意点	◆履修者数の制限をする場合があるので、必ず最初の授業に出席し、担当者の承認を得ること。 ◆5回以上欠席した場合、単位を認めないことがある。 ◆ペアワークやグループワークを多用するので、学生同士の活発な情報交換・意見交換を望む。
成績評価の方法	平常点(授業への参加度・提出物・スピーチ)60%、テスト40%を基本に、総合的に評価する。授業態度を重視する。
教科書/テキスト	『中・上級日本語教科書 日本への招待 第2版』 東京大学出版会
参考書	辞書を持ってくること。

履修コード	231621 231622
科目名	日本語VI b
担当者名	長崎 清美
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	ビジネスの現場や社会で通用する人間関係を意識した日本語力の習得を目標とする。
授業スケジュール	日本語VIaに続いて、卒業後の生活をイメージしながら、以下のテーマ(例)について学習する。①敬語はなぜ使うのか、②日本人に訴える自己PR、③訪問時の会話、④電話の会話、⑤ビジネス文書、ビジネスメールの基本、⑥ビジネスマナーの考え方
準備学習	必要に応じて指示をする。
履修上の留意点	
成績評価の方法	出席率・平常点(提出物・授業への参加度)と期末試験から総合的に評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。 辞書を持ってくること。
参考書	ビジネス能力検定テキスト各種、BJTテキスト各種

履修コード	231701 231702
科目名	日本事情I〔地理〕
担当者名	高橋 健太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>〔授業概要〕 留学生を対象として、日本の地理的特徴を学ぶ。地図や統計、写真などの資料を用いた実習も行う。また、東京の地理的特徴を学ぶために、校外見学も実施する。</p> <p>〔到達目標〕 人々の生活や地域社会の特徴と変化を、空間的側面と関連づけて考えるという地理学の視点から、日本の諸地域に対する理解を深める。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本地理への視座 2. 日本の行政区域と地域区分 3. 日本の自然環境の地域性 4. 日本の人口分布と産業 5. 日本の生活文化の地域性 6. 各都道府県の地理的特徴 (受講生の発表1) 7. 各都道府県の地理的特徴 (受講生の発表2) 8. 各都道府県の地理的特徴 (受講生の発表3) 9. 各都道府県の地理的特徴 (受講生の発表4) 10. 校外見学 (1) 11. 東京大都市圏の特徴 12. 東京大都市圏の変容 13. 校外見学 (2) 14. 農山村地域の特徴 15. 農山村地域の変容
----------	---

準備学習	すべての受講生が最低1回、各都道府県の地理的特徴について授業中に発表する。事前の資料収集と発表準備が必要である。また、校外見学の後にはレポートを作成し提出していただく。
------	--

履修上の留意点	校外見学の際の交通費や施設入場料は各自で負担していただく。
---------	-------------------------------

成績評価の方法	毎回教場で作成する小レポートと平常点 (30%)、研究発表の内容 (20%)、校外見学のレポート (20%)、および学期末レポート (30%) で評価する。なお、この授業は1年次から履修可能であることから、成績評価の際、就職活動等を理由とする長期欠席は考慮しない。
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	231801 231802
科目名	日本事情II〔自然〕
担当者名	山縣 毅

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 気候、地形・地質、生物相の変化に富む日本の自然について、北は北海道から南は沖縄まで俯瞰（ふかん）していきます。また、日本は世界的に見ても地質的に特異な地域で、地震・火山噴火が頻発します。授業では、防災を含めこれらの自然現象についても学びます。</p> <p>（到達目標） 本授業は、日本の多様な自然の概観、それぞれの地域の自然の特徴を理解するとともに、自然災害の減災のための知識を習得することを目標としています。日本は、アジア大陸の東端に位置する南北約3,000kmの細長い島国であるため、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り亜熱帯の沖縄まで、気候の変化に富んでいます。また、四季の季節変化が明瞭で、梅雨や台風、日本海の高雪のような独特な気象現象もみられ、そのため山脈、丘陵、河川、湖沼、平野、海岸が箱庭のように組み合わせ、多種多様な地形が形成されています。さらに、日本は複数のプレートの境界域にあたるため、世界でも有数の火山・地震地帯となっており、これらによる自然災害が多く発生します。この様な日本の自然のアウトラインを、理解します。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の地形 2. 地質 3. 気候 4. 動物と植生 5. 気象・水害 6. 火山 7. 火山災害 8. 地震 9. 地震災害 10. 首都圏の自然 11. 日本の国立公園： 知床、大雪山 12. 日本の国立公園： 日光、富士箱根伊豆 13. 日本の国立公園： 中部山岳、南アルプス 14. 日本の国立公園： 瀬戸内海、足摺宇和 15. 日本の国立公園： 阿蘇くじゅう、西表石垣
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	特になし。
成績評価の方法	毎回、授業内で実施する小テストで、成績を評価します。
教科書／テキスト	特になし。
参考書	授業で適宜紹介します。授業に必要な資料は、プリントにして配布します。

履修コード	231901 231902
科目名	日本事情III〔歴史〕
担当者名	井上 桂子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	本講義では、19世紀以降の日本と中国大陸の文化、人事交流を中心に、大きな歴史の流れの中で両国の人びとがどのように交流し、相互理解に努力したかを学ぶことを目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 19世紀－鎖国政策の中での日本の他国関係 2. 中国商人の「唐風説書」の役割 3. 江戸幕府貿易船で上海に行った明治維新のキーマン 4. 日米和親条約と中国 5. 明治維新と中国の反応 6. 駐華公使森有礼と清朝の李鴻章の会談から見えてくるもの 7. 清末の改革維新と日本との関係 8. 孫中山と日本 9. 民間交流と日中関係 10. 戦争中中国大陸で反戦活動 11. 日中国交正常化への道のり
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	第一回目にオリエンテーションを行い、全般的な講義内容を説明します。特別な予習、復習は必要ありません。
成績評価の方法	出席回数と課題リポートで評価します。
教科書／テキスト	必要に応じてプリントを配布します。
参考書	授業のなかで適宜紹介します。
その他	希望があれば、その日の要点を中国語でも話します。また、中国語で発言してもかまいません。

履修コード	232001 232002
科目名	日本事情Ⅳ〔思想〕
担当者名	佐藤 美奈子

授業概要/
到達目標(ねらい)

(授業概要)
明治維新によって江戸幕府は倒れ、日本は近代国家として歩み始めました。新時代を迎え、日本社会はどう変わったのでしょうか？その時、人々は何を考え、どうやって「新しい日本」を作ろうとしたのでしょうか？本授業では福沢諭吉を軸にしながら、この時期の社会と思想を学びます。
(到達目標)
この講義の到達目標は、第一に、近代日本の始まりについて理解を深めることです。現在の日本の制度や考え方の多くは、明治期に形作られました。明治維新を境にして何が変わり、何が新しく生まれたのかを知ること、現在の日本に対する理解も深まるでしょう。
第二に、常識レベルの日本史の知識を得ることです。ここでの「常識レベル」とは、日本の中学生が一般に学ぶ内容ということにします。日本人が「常識」として知っている知識を身につければ、日本で語られていることの意味をより良く理解できます。それは、今後、みなさんが日本と関わっていく上で、大きな助けとなるでしょう。

授業スケジュール

1. 本授業のねらいと進め方について
2. 江戸時代から明治時代への社会の変化
3. 江戸時代の社会制度
4. 福沢諭吉の生まれ育った社会
5. 幕末における政治体制の動揺
6. 西欧思想の影響力増大
7. 【特別企画】東京オリンピックと日本社会の変化
8. 【特別企画】駒沢オリンピック公園見学
9. 尊皇攘夷の思想
10. 幕末に生きた人々の西欧体験
11. 明治新体制の始まり
12. 啓蒙思想
13. 自由民権運動の思想
14. 大日本帝国憲法発布と新しい日本の形
15. クイズ大会：授業内容の総復習

準備学習

- ・授業冒頭で、前回の授業内容に基づいた小テストを行います。よって、事前に授業内容を復習してください。
- ・授業で扱う時代の日本史について、事前に概略を把握しておくようにしてください。

履修上の留意点

- ・毎回行う小テストの合計で成績を決定します。そのため欠席・遅刻が多い場合は、単位が取得できません。毎回のテストの点数が低い場合も不可となります。授業への積極的参加、及び毎回の授業の復習は必須と考えてください。もし授業を履修する場合は、4月中に必ず一度授業に出席して上記の点を確認してください。
- ・5月から6月に学外で授業を行います。詳細は授業でお知らせします。

成績評価の方法

毎回、授業中に行う小テスト90%、その他(授業中に行うクイズ大会の成績、任意のレポート課題)で与えるボーナス点10%とします。なお、小テストは毎回授業開始時に、前回の授業内容に基づいて行います。欠席・遅刻の場合、点数は与えられません。

教科書/テキスト

特に指定しません。

参考書

授業時に適宜、紹介します。

その他

講義形式。授業や小テストは日本語で行いますが、個別質問には英語でも対応します。

履修コード	232101 232102
科目名	日本事情V [社会]
担当者名	片岡 栄美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本事情Vは、日本の教育と教育を対象とした社会学(教育社会学)についての講義を行う。 (1)日本の教育の特徴とは何か(2)現代の教育と社会の関連を分析する基礎的な概念や考え方(3)現代の教育の諸問題をとりあげる。日本の教育の特徴を、さまざまな調査データや国際比較データによって説明し、留学生の皆さんの国の教育との違いについても考えてもらいたい。また社会と教育の関係を分析する上で、重要となる社会的な考え方についても理解を深めてもらう。資料や文献をグループにわかれて討論してもらう。教育と社会がいかに関連しているかを、さまざまな具体例から検討するだけでなく、自分の考えを日本語で発言できるようにすることも目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	1 ガイダンス 2 教育を社会学する(教育の社会的機能) 3 日本の教育の歴史(第3回~第5回) 4 第二次大戦後の日本の教育の諸問題(第6回~第8回) 5 大衆教育社会の成立と諸問題(第9回~第10回) 6 教育機会の不平等/教育による不平等再生産(第11回~第12回) 7 受験競争の低年齢化(第13回~第14回) 8 まとめ
準備学習	授業で用いる資料を必ず読んで、授業に参加すること。
履修上の留意点	受講生は、日本の教育についての興味や関心をもって授業に参加してほしい。教育や学校に関する多面的なものの見方を習得してほしい。
成績評価の方法	出席、授業中の発言、最終レポートから総合的に判断する。
教科書/テキスト	特になし。必要に応じて、資料を配付する。
参考書	適宜、紹介する。
その他	講義は、すべて日本語で行う。毎回の授業時にリアクション・ペーパーを配るので、その用紙に英語で質問することは可能である。授業時に、グループに分かれて、討論する時間を設ける。最終レポートは日本語で書くこと。

履修コード	232201 232202
科目名	日本事情VI [政治・法律]
担当者名	三竹 直哉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の政治について知り、みんなで意見交換します。 最新の情報はYeStudyで確認してください。
授業スケジュール	下記のようなトピックを考えていますが、参加者のみなさんの意見を聞いて決めます。 ◎議会制民主主義 ◎三権分立と二院制 ◎天皇 ◎選挙制度 ◎政党と派閥 ◎ナショナリズム ◎安全保障 ◎日本のマイノリティ ◎日本の移民政策
準備学習	特にありませんが、日本の政治についての新聞報道やニュースに触れておいたほうがよいです。
履修上の留意点	日本の政治について考える授業ですから、日本の政治に関心がなかったり、政治について学ぶ気がない学生は履修すべきではありません。 授業参加を重視します。参加人数によって授業のやり方は変わります。人数が少なければ討論中心になりますので、発言することが重要になります。
成績評価の方法	期末テストによります。
教科書/テキスト	指定する予定はありません。
参考書	
その他	I speak English, but students are encouraged to communicate in Japanese. Those of you who cannot read Japanese newspaper articles or cannot participate in discussions in Japanese should not register. Anyone, however, is welcome as an auditor. Students who chat in English during the sessions are not welcome. 最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	232301 232302
科目名	日本事情VII [文学]
担当者名	内藤 寿子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>テーマ「文学・文化から学ぶ日本社会の姿」 文学作品や映像などを題材に、近現代の日本社会に対する知識や理解を深めます。講義と演習を組み合わせ、日本語運用能力の向上を目指します。 到達目標は、日本文化や日本文学の魅力について、日本語で表現できるようになることです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義では、様々なメディアを具体的に分析しながら、近現代日本社会の様相について考えていきます。また、受講者のみなさんにも、日本語を使い、文章や口頭で意見を発表してもらいます。</p> <p>(1) オリエンテーション (2) 子ども向けメディアから考える日本社会 その1 (「日本昔話」ほか) (3) 子ども向けメディアから考える日本社会 その2 (4) 子ども向けメディアから考える日本社会 その3 (5) 子ども向けメディアから考える日本社会 その4 (6) 短編小説から考える日本社会 その1 (芥川龍之介ほか) (7) 短編小説から考える日本社会 その2 (8) 短編小説から考える日本社会 その3 (9) 短編小説から考える日本社会 その4 (10) 映像メディアから考える日本社会 その1 (テレビドラマほか) (11) 映像メディアから考える日本社会 その2 (12) 映像メディアから考える日本社会 その3 (13) 映像メディアから考える日本社会 その4 (14) 映像メディアから考える日本社会 その5 (15) まとめ</p>
----------	--

なお、履修者の数や志向によって、内容(時事問題なども授業に取り入れるため)やスケジュールを調整する可能性があります。その際は、授業時間内に連絡をします。

準備学習	<p>課題作成のためのメモ作りなどに取り組んでもらいます。準備学習の詳しい内容は、毎回、課題作成前に説明をします。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>第1回目の授業時に、みなさんの日本語運用能力を確認します。受講希望者は必ず出席してください。また、担当者の一方的な講義にならないよう、〈見る〉〈読む〉〈調べる〉〈発表する〉などの形で、みなさんに参加してもらいます。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>適宜、授業中に課題をおこないます。A：授業への参加度・授業内課題(50%)、B：学期末レポート(50%)をあわせて、総合的に評価をします。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>指定なし。適宜プリントを配布します。</p>
----------	---------------------------

参考書	<p>適宜授業中に指示します。</p>
-----	---------------------

その他	<p>授業では、日本語のみを使用します。随時、相談や質問を受けつけますが、日本語運用能力にとくに不安がある人は、オリエンテーション時に相談にきてください。</p>
-----	---

履修コード	232401 232402
科目名	日本事情VIII [文化・芸術]
担当者名	佐藤 美奈子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本授業は、「日本文化が何か」を教える授業ではありません。「日本文化とは何か」を、天皇・神社などを素材として考えてみる授業です。日本の歴史や社会の中で、何が「日本文化」とされてきたのか、様々な角度から、考えてみましょう。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、第一に、日本文化について考える手がかりを得ることです。日本文化は時代によって変化したり、作り変えられたりするので、何かを日本文化とすることに意味はありません。本授業では、天皇・神社という素材を通して、様々な角度から日本文化を論じます。そのことで、日本文化を語る手がかりをみなさんが獲得することを目標とします。</p> <p>第二に、常識レベルの日本史の知識を得ることです。ここでの「常識レベル」とは、日本の中学生が一般に学ぶ内容ということにします。日本人が「常識」として知っている知識を身につければ、日本で語られていることの意味をより良く理解できます。それは、今後、みなさんが日本と関わっていく上で、大きな助けとなるでしょう。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業のねらいと進め方について 2. 日本国憲法と天皇 3. 日本の家制度と戸籍 4. 国生み神話 5. アマテラス神話 6. 日本史の中の天皇 7. 日本文化についての自由発表1 8. 日本文化についての自由発表2 9. 日本文化についての自由発表3 10. 神道とは何か 11. 神社に関する基礎知識 12. 【特別企画】神社見学 13. 大日本帝国憲法と天皇 14. 現代社会における天皇 15. クイズ大会：授業内容の総復習
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭で、前回の授業内容に基づいた小テストを行います。事前に授業内容を復習してください。 ・授業で扱う時代の日本史について、事前に概略を把握しておくようにしてください。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回行う小テストの合計で成績を決定します。そのため欠席・遅刻が多い場合は、単位が取得できません。毎回のテストの点数が低い場合も不可となります。授業への積極的参加、及び毎回の授業の復習は必須と考えてください。 ・11月か12月に学外で授業を行います。詳細は授業でお知らせします。
---------	--

成績評価の方法	<p>毎回、授業中に行う小テスト90%、その他（授業中の発表、クイズ大会の成績、任意のレポート課題）で与えるボーナス点10%とする。なお、小テストは毎回授業開始時に、前回の授業内容に基づいて行います。欠席・遅刻の場合、点数は与えられません。</p>
---------	--

教科書／テキスト	特に指定しません。
----------	-----------

参考書	授業時に適宜、紹介します。
-----	---------------

その他	講義形式。授業や小テストは日本語で行いますが、個別質問には英語でも対応します。
-----	---

履修コード	232501 232502
科目名	日本事情IX [経済]
担当者名	瀬戸岡 紘
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本という国の特質について、その生成期から現代までのすべての歴史をふりかえることで、みなさんと考えます。受講者のみなさんが、おのおの自分の出身国と比較して、この国の特質がどんなところにあるか、語れるようになることを目標とします。
授業スケジュール	つぎの項目について、それぞれ1～2回の講義のなかでとりあげます。 日本の自然(日本の山/日本の海)/日本語の特質/日本における古代国家の形成/日本の封建制度/日本の近代国家の形成/現代日本の経済と経営/日本の文化と日本人の生活感覚/その他日本にかんすることがら
準備学習	日本についてよく考え、毎回の講義には質問を用意してきてください。講義の当日、みなさんの質問に答えます。
履修上の留意点	日本について知りたい人は、どしどし受講してください。質問には、日本語のほか、必要なら英語でもお答えします。
成績評価の方法	平常点により、評価します。平常点とは、毎回の授業において、どれくらい質問したか、自分の質問にたいして授業のなかでどれくらい理解したか、などを総合的に評価したものをいいます。
教科書/テキスト	みなさんのまわりにある日本についての情報のすべてが、いわば教科書です。日本にかんする新聞や雑誌の記事、ラジオやテレビの番組、書物や映画などに可能なかぎり注目するように心がけてください。
参考書	
その他	より進んで日本について学習したいみなさんのために、ピクニックや小旅行などを企画することもあります。また、いっそう多くの日本の学生と知り合いたい人たちのために、その希望がかなえるための機会を用意することもあります。すべて、受講生のみなさんの希望にしたがいま

履修コード	232601 232602
科目名	日本事情X [経営]
担当者名	中川 淳平
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本経済は、第二次大戦後に急速な発展を遂げ、自動車をはじめとするいくつかの産業で競争優位に立った。本講義では、高度経済成長期から現在までの日本企業の動向について解説を行う。 (到達目標) 日本の代表的な企業の活動を通して、今後の経済社会を展望してもらえることを目標とする。
授業スケジュール	1. 講義ガイダンス 2. 日本的経営の文化的特徴 3. 財閥解体と戦後復興 4. 高度経済成長と六大企業集団の形成 5. オイルショックと日本企業の躍進 6. バブル経済と多角経営 7. バブル崩壊とリストラ 8. 自動車産業の動向 9. 家電産業の動向 10. 流通産業の動向 11. 食品産業の動向 12. メディア産業の動向 13. 化学産業の動向 14. インフラ産業の動向 15. 講義のまとめ
準備学習	日頃から新聞や雑誌に目を通し、日本企業の動向に注目することで、講義の理解度を深めてほしい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート70%、平常点(講義の感想など)30%
教科書/テキスト	使用する文献は、講義のつど指示する。
参考書	

Ⅲ. 随意科目

履修コード	232901 232902
科目名	宗教学概説
担当者名	池上 良正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマは「生活のなかの宗教」とする。多くの現代人は、「宗教」を自分とは関係のない特殊な世界のように考えている。しかし、近代になって「宗教」と呼ぶようになった現象は、人間の歴史を通して、生活のあらゆる分野に深く根ざしている。この授業では、身近な生活のトピックを取り上げ、その具体的な姿を考えてみたい。
授業スケジュール	(1~3) 全体のオリエンテーション。(4~10)「祭り」とは何か。(11~15)癒しの文化。(16~23) 慰霊と供養の文化。(24~30) 異文化の理解。 ただし、具体的なテーマについては、受講者の関心に合わせて変更もありうる。
準備学習	とくに求めないが、前回の講義についてよく復習してから講義に臨むこと。
履修上の留意点	学生参加型の授業とする。講義中は積極的な発言を求める。受講者は最低1回は発表してもらふ。教職科目であることに配慮し、プレゼンテーションの方法についても工夫を求める。
成績評価の方法	課題の発表、授業への参加度、によって評価する。
教科書/テキスト	
参考書	講義中に適宜紹介する。

履修コード	233101 233102
科目名	宗教学概説
担当者名	川上 新二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宗教学による宗教への接近方法を理解するため、前期では、宗教学という学問の内容、および、世界の多くの人々によって受け伝えられているさまざまな宗教について学びます。後期では、人々に実践されている宗教の一例としてシャーマニズムについて学びます。
授業スケジュール	以下の内容を実際の授業日数に配分して講義します。 1. 宗教学の理解：(1)宗教学とは、(2)宗教とは、(3)宗教の分類、(4)宗教の原初形態、(5)呪術と宗教、など。 2. 世界のさまざまな宗教の理解：(1)ユダヤ教、(2)キリスト教、(3)イスラム教、(4)ヒンズー教、(5)仏教、(6)道教、など。 3. シャーマニズムの理解：(1)シャーマン、シャーマニズムとは、(2)日本のシャーマン、(3)韓国のシャーマン、(4)中国のシャーマン、など。
準備学習	講義内容の整理を目的としたレポートで成績を評価しますので、日頃から講義の内容を十分に整理し、まとめておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	数回(4~6回くらいを考えています)のレポート(講義内容を課題に応じて1200字以上でまとめる。字数および提出期限厳守。氏名、題名は字数に含めない。一行20字もしくは30字もしくは40字のワープロで作成するか、手書きの場合には原稿用紙で作成のこと。レポート用紙などへの手書きのものは受理しない)で評価します。課されたレポートのすべてを提出した場合が成績評価の対象になります。レポートの課題や提出期限は授業の中で指示します。
教科書/テキスト	プリントを配布します。
参考書	水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』世界書院 脇本平也『宗教学入門』講談社学術文庫

履修コード	233001 233002
科目名	宗教学概説
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 宗教学は、諸宗教の多様な歴史や特質を明らかにし、また諸宗教が共有する特質をも考察する学問である。これに即し前期は、世界の諸宗教に関する基礎知識の習得を中心とし、後期はそのような知識を用いて宗教の共通性を捉える宗教学的な見方を身につけることを中心とする。</p> <p>(到達目標) 宗教伝統や宗教的現象について、無批判に肯定するのではなく、闇雲に批判し遠ざけるのでもない、そういった多面的な視点から宗教を理解できるようになることを、本講義の目標とする。より具体的には、諸宗教の多様性を理解すること、宗教の共通性を捉えること、また宗教は歴史・地理・政治・経済・社会・芸術など多様な分野に影響を与える現象であること、さらに宗教的な感性や思考や行動は、人間の営みの様々な領域において(無信仰と自認する人にさえ)見られるということ、これらを理解することが到達目標となる。加えて、本講義は教職科目の1つでもあるので、人前で話すこと・伝えることについて経験を積むことも目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 宗教学とは 3. ユダヤ教 4. キリスト教1 歴史 5. キリスト教2 思想 6. イスラーム1 概要 7. イスラーム2 中東問題 8. 原始仏教 9. 上座仏教と大乘仏教 10. 儒教と道教 11. 神道 12. 新宗教 13. 個人化する宗教 14. 個人発表準備 15. まとめ 16. 世界観 17. 聖と俗 18. 聖なる時空 19. 儀礼 20. 呪術・まじない 21. 神秘体験 22. 信仰を持つとは1 23. 信仰を持つとは2 24. カルト問題 25. 宗教と心理的發展 26. 宗教とは、宗教学とは 27. 個人発表 1 28. 個人発表 2 29. 個人発表 3 30. まとめ
----------	---

準備学習	宗教学の入門書(以下の参考書欄を参照)などを読んでおくと、本講義がより分かりやすくなる。
履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。また、各人が課題を決めて個人発表を行う予定であるが、発表形式をどのようにするかは、登録人数の多少によって決める。
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点(授業時のコメントシートの内容・授業への参加意欲等)20%、 ・夏休みの課題(個人発表の準備)10%、 ・後期の個人発表30%、 ・後期の定期試験期間における筆記試験40%。
教科書/テキスト	なし
参考書	<p>宗教学の入門書(いずれも授業時に使用するものではない)。</p> <p>石井研士『プレステップ宗教学』弘文堂、1890円、2010年。</p> <p>井上順孝『フシギなくらい見えてくる! 本当にわかる宗教学』日本実業出版社、1575円、2011年。</p> <p>釈徹宗『ゼロからの宗教の授業』東京書籍、1575円、2009年。</p>
その他	なし

履修コード	075001 075002 075003
科目名	宗教学人類学
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) わが国には、イタコ、カミサマ、祈祷師、行者、ユタ、などの名で呼ばれている宗教的職能者が各地に数多く存在している。彼(彼女)らは、学術用語でシャーマン(巫者)と呼ばれるが、その特徴は、神霊と直接交流をしながら、予言、託宣、祭儀、治病行為などの役割を果たすところにある。これらのシャーマンを中心とする宗教形態は、シャーマニズムと呼ばれる。この講座では、日本及びアジアの諸地域で生起しているシャーマニズムを取り上げて考察し、宗教学人類学の考え方を習得することを目指す。</p> <p>(到達目標) 受講生は、シャーマニズムの中心であるシャーマンが、神霊と直接交流をする仕方は決して一様ではなく、すこぶる多様性に富んでいる状況を説明することができる。さらに、シャーマニズムの基本的構図及びシャーマニズムと諸宗教との諸関係について解説をすることができる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 宗教学人類学の成立史 3 宗教学人類学の構成内容 4 フィールド・ワーク 5 宗教学人類学の方法論的特色 6 シャーマニズム研究と憑きもの研究 7 シャーマニズム研究史 8 エクスタシーの文化と憑霊の文化 9 アニミズム 10 マナイズム 11 呪術・宗教的職能者の分類 12 プリーストの特質 13 シャーマンの特質 14 マジシャンの特質 15 前期の総括 16 プリースト的シャーマンとシャーマンのプリースト 17 シャーマンの憑霊と依頼者の憑霊 18 憑霊の概念 19 シャーマン化過程と聖性の獲得 20 諸儀礼と憑霊との関係 21 シャーマンと依頼者(信者) 22 都市シャーマニズムの特色 23 ネオ・シャーマニズム 24 シャーマニズムと新宗教 25 シャーマニズムと民俗仏教 26 シャーマンとプリーストとの相互補完関係 27 シャーマニズムと民俗仏教との互惠関係 28 エリートのシャーマニズムとマスのシャーマニズム 29 シャーマニズムから見た人間理解の可能性 30 総括
----------	--

準備学習	授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。
履修上の留意点	出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届(形式は任意)を提出することが望ましい。
成績評価の方法	レポート(2400字~2800字)試験の成績60%、平常点40%とする。なお、追試験は実施する。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。

履修コード	017301 017302
科目名	書道史
担当者名	那須 隆吉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東洋文化は今、世界の注目を集めている。中でも書道は文字を芸術にまで高めた特異な文化である。本講では、書道が古代よりいかなる変遷をたどってきたかを通覧し、東洋独自の文化への理解が深まるよう、出来るだけ分かりやすく講じたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>前期 (1) ガイダンス (文字と書体について) (2) 漢字の発生 (甲骨文字の発見) (3) (4) 甲骨文字の内容・解読・書風の変遷 (5) (6) (7) 青銅器の文字、金文について " の銘文の内容、解読、書風 (8) (9) 篆書の時代 (始皇帝の文字統一) (10) (11) (12) 隷書のはじまり (13) 最古の文字の解説書「説文解字」について (14) (15) 草書の完成</p> <p>後期 (16) (17) (18) 魏晋南北朝時代の文字について (19) (20) 隋の統一と楷書の発展 (21) (22) (23) 唐の書法 (24) 宋の書法 (25) (26) 元の書法 (27) (28) 明の書法 (29) (30) 清の書法</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。
成績評価の方法	出席及び随時レポートの提出、年度末に行なう筆記試験等を総合して評価する。
教科書/テキスト	伏見冲敬著『書の歴史』 (二玄社)
参考書	随時紹介する。

履修コード	233301 233302
科目名	哲学概説
担当者名	久保 陽一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	哲学は常識や科学と異なって、世界の全体を問う学問 (世界観) であると同時に、世界の中で人間がいかに生きるべきか (人生観) を究明しようとするものである。我々は日常たえず意識しているとは限らないが、人生のふしぶしでそのような根本的な問題につきあたらざるをえない。その問題に対して完璧な正解を見つけるのは困難だが、講義では、少なくとも、その問題を考える視野を今までよりも広げることがめざす。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>当初は、世界観と人生観の諸問題を近現代の哲学に即して概観する。その後、個別のテーマについて本を読みながら、ゼミ形式で進める。</p> <p>1 自然について (1) 2 自然について (2) 3 認識について (1) 4 認識について (2) 5 自由について 6 道徳について 7 社会について 8 歴史について 9～14 デカルト「方法叙説」を読む 15 理解度の確認 16～21 アラン「幸福論」を読む 22～29 カー「歴史とは何か」を読む 30 理解度の確認</p>
----------	---

準備学習	デカルト等の本を読んでいく際に、毎回の報告担当者を決めるので、担当箇所について予習しておくこと。
履修上の留意点	色々な本を読み、自分でものごとを考え、文章でまとめるようにすること。
成績評価の方法	試験 (前期と年度末) とレポート (8割)、平常点 (2割) によって評価する。
教科書/テキスト	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』 (公論社) ISBN4-7714-2002-5
参考書	久保陽一「生と認識」 (知泉書館)

履修コード	233201 233202
科目名	哲学概説
担当者名	末木 恭彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 哲学は西洋の独占物でない。西洋に啓発されてであるが、東洋にも独自の哲学の試みはなされている。本講義は、そのような東洋哲学を考察する。 (到達目的) 東洋哲学を媒介として、哲学とは何か理解を深める。
---------------------	--

授業スケジュール	近代中国の哲学の試みを、馮友蘭の新理学を取りあげ、そこから中国における近代哲学の試みを考察する。具体的には、馮友蘭の『新理学』を紹介する。
	第一回 ガイダンス
	第二回 中国の近現代哲学の概観 (前半)
	第三回 中国の近現代哲学の概観 (後半)
	第四回 馮友蘭の生涯 (誕生から留学まで)
	第五回 馮友蘭の生涯 (貞元六書の時代)
	第六回 馮友蘭の生涯 (其の晩年)
	第七回 『新理学』を読む (緒論前半)
	第八回 『新理学』を読む (緒論後半)
	第九回 『新理学』を読む (第一章前半)
	第十回 『新理学』を読む (第一章後半)
	第十一回 『新理学』を読む (第二章前半)
	第十二回 『新理学』を読む (第二章後半)
	第十三回 『新理学』を読む (第三章前半)
	第十四回 『新理学』を読む (第三章後半)
	第十五回 理解度の調査
	第十六回 『新理学』を読む (第四章前半)
	第十七回 『新理学』を読む (第四章後半)
	第十八回 『新理学』を読む (第五章前半)
	第十九回 『新理学』を読む (第五章後半)
	第二十回 『新理学』を読む (第六章前半)
	第二十一回 『新理学』を読む (第六章後半)
	第二十二回 『新理学』を読む (第七章前半)
	第二十三回 『新理学』を読む (第七章後半)
	第二十四回 『新理学』を読む (第八章前半)
	第二十五回 『新理学』を読む (第八章前半)
	第二十六回 『新理学』を読む (第八章後半)
	第二十七回 『新理学』を読む (第九章前半)
	第二十八回 『新理学』を読む (第九章後半)
	第二十九回 『新理学』を読む (第十章)
	第三十回 質疑応答・理解度の調査

準備学習	配付資料 (『新理学』の抄訳) を善く読み、疑問点を洗い出しておく。
履修上の留意点	ノートを確実にとる。
成績評価の方法	学年末の試験、もしくはレポートによる。
教科書/テキスト	『新理学』 (講師の作成した抄訳をコピーして配布する)
参考書	『馮友蘭自伝』 (吾妻重二訳) 全2冊、平凡社 中島隆博「ヒューマニティズ 哲学」、岩波書店

履修コード	016801 016802 016803
科目名	東洋思想史
担当者名	末木 恭彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中国の伝統思想、特に儒教の有り様を概説する。 (到達目標) 儒教のありように理解を深める。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>直線的に歴史把握を行うのではなく、儒学の根本文献(経)についての理解を深め、各経の歴史的展開を並行的に把握することとする。手掛りとしては、江戸時代の儒者荻生徂徠の『経史子要覧』を用いる。『経子史要覧』の言説を読み、それに現代の視点からの補説を行う。この作業を通じて、儒学の経とは何か理解を深めていく。</p> <p>第一回 ガイダンス 第二回 荻生徂徠について 第三回 『経子史要覧』について 第四回 総論 (儒学における漢代と宋代) 第五回 総論 (小学の変遷) 第六回 総論 (詩・書・古文辞) 第七回 総論 (緯、鄭玄) 第八回 毛詩 (毛詩の言われ) 第九回 毛詩 (詩大伝、二代三王と考古的实在) 第十回 毛詩 (周の封建、四詩・六義) 第十一回 毛詩 (微言と含蓄、宋儒の詩解) 第十二回 毛詩 (詩の歴史元代まで) 第十三回 毛詩 (詩の歴史元代以降) 第十四回 毛詩 (其他詩についての雑論) 第十五回 前期の理解度の調査 第十六回 尚書 (尚書の構成、近文古文) 第十七回 尚書 (六体、訳) 第十八回 尚書 (其他書についての雑論) 第十九回 禮記 (三禮について) 第二十回 禮記 (日本儒学が禮を欠くこと) 第二十一回 禮記 (禮についての雑論) 第二十二回 禮記 (楽について) 第二十三回 易 (古い書から理論書に) 第二十四回 易 (経子史要覧解説) 第二十五回 春秋 (漢書藝文志解説) 第二十六回 春秋 (三伝と春秋の注釈) 第二十七回 論語 第二十八回 孝経 第二十九回 経部のまとめ 第三十回 後期の理解度調査</p>
----------	--

準備学習	「経子史要覧」を善く読んでおく。
履修上の留意点	予習をして来て欲しい。テキストの疑問点を整理して授業に臨んで欲しい。その疑問点の解明を中心として、授業を展開する予定である。
成績評価の方法	平常の受講態度と学年末レポートによる。(受講人数によっては、試験にすることもある。) 追試はしない。
教科書/テキスト	『経子史要覧』 (コピーを配布する)
参考書	関口順『儒学のかたち』 (東大出版会) 竹内照夫『四書五経』 (平凡社<東洋文庫>)

履修コード	232701 232702
科目名	日本宗教文化史
担当者名	小川 順敬

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要) 日本の他界観、生死観の変遷を考える。多くの文化は自分たちが生きているこの世界の他に、もう一つ別の世界や空間を創り出してきました。それは私たちに、いかに生き、いかに死ぬかという問題を考えさせる文化装置として機能してきたと言えます。ここでは、日本の民俗宗教や仏教がもたらした他界のイメージが、生と死の文化装置として、どの様に具体化されてきたのか、すなわち他界という見えない世界がどのように表現され演出されてきたのかを考えてみることにしたいと思います。

(到達目標) 最初に他界観の前提としての日本人の靈魂観について述べ、日本人の生死観についてみておきたいとします。その上で、様々な「他界」について紹介・検討して行きます。山中他界や海上他界、あるいは浄土や地獄がどのように現出されているのか。様々な聖地や、民俗行事(祭礼や儀礼)、寺院行事、また物語、芸能などを題材(ビデオ等使用する予定)として、この世では見えないはずの世界が、この世でどのように表現されてきたのかを見て行きたいと思えます。

授業スケジュール

1. この授業の目標・進め方・約束事について
2. 日本人の靈魂観
3. 山岳宗教と他界観
4. 恐山と靈魂観
5. 立山信仰 その1
6. 立山信仰 その2
7. 他界をつなぐ装置
8. 地獄と極楽
9. 地藏信仰
10. 浄土世界の演出 その1
11. 浄土世界の演出 その2
12. 儀礼にみる浄土世界
13. 女人往生の思想
14. 女性と宗教
15. 前期のまとめ
16. 迎講と民俗
17. 当麻と二上山 その1
18. 当麻と二上山 その2
19. 臨終と往生の演出
20. 臨終行儀
21. 説話にみる往生 その1
22. 説話にみる往生 その2
23. 観音信仰
24. 観音浄土の聖地 その1
25. 観音浄土の聖地 その2
26. 補陀落渡海
27. 弥勒の浄土
28. 弥勒信仰とユートピア
29. 現代社会と他界
30. 後期のまとめ

準備学習

配布する関連資料に必ず眼を通してください。

履修上の留意点

成績評価の方法

年度末レポートおよび平常点で評価します。

教科書/テキスト

教科書は用いない。なお授業の内容にそって資料を配布します。

参考書

参考書はその都度紹介します。

履修コード	046601 046602
科目名	日本仏教史
担当者名	松本 信道

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講座は、「仏教の日本的受容」というテーマを中心として、日本の古代史を再検討してみようというのがねらいである。仏教が日本に受容された背景を、政治的・社会的・思想的・宗教的環境の中で有機的にとらえていくということを基本的姿勢として講義を進める。とくに、インド・中国・朝鮮半島などの動向も視野に入れた国際的視点と、日本古代社会の皇族・貴族・豪族のみでなく、一般民衆の「苦悩」と「祈り」と「救済」をも視野に入れた民衆史的視点からもアプローチしてみたい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) ガイダンス、(2)～(3) インド・中国・朝鮮仏教の成立、(4)～(7) 日本への仏教伝来と受容、(8)～(12) 飛鳥仏教の成立と展開、(13)～(20) 奈良仏教の成立と展開、(21)～(25) 平安仏教の成立と展開、(26)～(30) 鎌倉仏教の成立と展開
----------	---

準備学習	仏教に関する基礎知識を学習しておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	前期・後期2回のレポートと出席点を総合して評価する。
教科書/テキスト	随時、プリントにて配布します。
参考書	速水侑『日本仏教史 古代編』(吉川弘文館)

履修コード	017101 017102 017103
科目名	日本民俗学
担当者名	谷口 貢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して、日本社会に展開する生活文化を追究する学問である。地域社会に伝承されてきた民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1～2) 民俗学とは (3～5) 民俗学の流れと現在 (6～7) 家族生活と住まい (8～10) 食をめぐる民俗 (11～12) 村と町のなりたち (13～15) 若者と一人前 (16～18) 婚姻と出産・子育ての民俗 (19～21) 女性・子ども・老人の民俗 (22～24) 葬送儀礼と先祖祭祀 (25～27) 里と海・山のなりわい (28～29) 祭りと年中行事 (30) 民俗宗教の諸相
----------	---

準備学習	教科書の該当箇所を事前に目を通しておくことが望ましい。
履修上の留意点	夏期レポート及び小レポートを実施する予定。
成績評価の方法	学年末に実施する筆記試験、それに夏期レポートと小レポートの合計をもって評価を行う。出席を重視する。
教科書/テキスト	谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義-生活文化へのアプローチ-』2006年刊(八千代出版) 2,100円(税込)、ISBN 4-8429-1405-X
参考書	講義内容を発展させるための参考文献は講義の中で紹介していきたい。

履修コード	233501
科目名	比較思想特講
担当者名	末木 恭彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この講義では、東西の比較思想に関わる書籍を一冊選び、それを読み込む。 (到達目標) 東洋における哲学の持つ問題を理解してゆく。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>哲学は、古代ギリシアに生まれた。これに対して、中国・日本には生まれず、近代に西欧から輸入され、翻訳されて発生する。然し、中国や日本の哲学者は、単なる翻訳に止まらず、独自の哲学の形成に進んだ。この東アジアの哲学は、哲学の未来に問題を投げかけている。</p> <p>第一回 ガイダンス・テキストの選定 第二回 選定したテキストについて (撰者、書誌など) 第三回 テキストを読む 第四回 テキストを読む (続き) 第五回 テキストを読む (続き) 第六回 テキストを読む (続き) 第七回 テキストを読む (続き) 第八回 テキストを読む (続き) 第九回 テキストを読む (続き) 第十回 テキストを読む (続き) 第十一回 テキストを読む (続き) 第十二回 テキストを読む (続き) 第十三回 テキストを読む (続き) 第十四回 テキストを読む (続き) 第十五回 テキストを読む (続き) 第十六回 テキストを読む (続き) 第十七回 テキストを読む (続き) 第十八回 テキストを読む (続き) 第十九回 テキストを読む (続き) 第二十回 テキストを読む (続き) 第二十一回 テキストを読む (続き) 第二十二回 テキストを読む (続き) 第二十三回 テキストを読む (続き) 第二十四回 テキストを読む (続き) 第二十五回 テキストを読む (続き) 第二十六回 テキストを読む (続き) 第二十七回 テキストを読む (続き) 第二十八回 テキストを読む (続き) 第二十九回 テキストを読む (続き) 第三十回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	教科書をあらかじめ深く読み込んでくること。
履修上の留意点	積極的に授業における討論に参加する。
成績評価の方法	平常点とレポートにより判定する。
教科書/テキスト	授業計画に記したとおり、第一回授業時に相談して決める。
参考書	適宜授業中に指示する。

履修コード	017801 017802 017803
科目名	美術史概説
担当者名	北野 良枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 日本絵画の流れを主要なジャンルや流派ごとに概観する。絵画の歴史を理解するにあたって、作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。 (到達目標) 日頃接する機会の少ない日本の近世以前の絵画に対する理解を深めることを目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	前期 平安時代から室町時代の絵画 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識 (3) ~ (5) 仏教絵画 (6) ~ (8) 絵巻物 (9) ~ (10) 肖像画 (11) ~ (15) 室町時代の水墨画 後期 室町末から江戸時代の絵画 (16) ~ (20) 狩野派 (21) ~ (24) 琳派 (25) ~ (26) 浮世絵 (27) ~ (28) 南蘋派と洋風画 (29) ~ (30) 江戸から明治へ
----------	---

準備学習	授業で使用する資料をYeStudyに掲載するので、各自ダウンロードして持参すること。
履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。
成績評価の方法	学年末に試験を実施し、その得点によって評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	YeStudyを活用する。

履修コード	017201	017202
科目名	編集実務	
担当者名	小檜山 範男	

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 私たちが手にする雑誌や書籍がどのようにして作られているのか。「編集すること」とは何か、編集者の資質等々、日ごろ現場で編集に携わっている立場から具体的に解説する。編集現場の実情をリアルタイムで報告、雑誌や書籍についての関心、理解を深める。また、文章を書く能力、文章の良し悪しを判断できる能力を身につけることなど、実務的なスキルアップを図る。</p> <p>(到達目標) 文章を書く能力、文章の良し悪しを判断できる能力を身につけることは勿論、「編集する」ことの仕事の内容を理解し、対象出版物の読者は誰なのかを常に理解し、読者のニーズにマッチした内容の出版物を作る(編集する)力を身につける。</p> <p>出版の基本は、まず「企画ありき」である。企画の立て方、構成力を磨く訓練、執筆者の選び方、原稿の依頼の仕方等々、実務に合った内容を理解し、編集者としてのスキルを身につけること。出版の世界に身をおく立場からの講義が中心になるが、私たちが目にし、耳にするすべての「情報」は、なんらかの形で「編集」という手が加えられている。TV、新聞等のニュース、雑誌、単行本、機関誌、ソーシャルメディアからいま注目の電子出版物に至るまで編集されて完成し、私たちに届く。そうした現実を理解し、情報を送り、情報を受け入れる能力を高める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(授業スケジュール) <順不同> ○編集とは何か ○私たちが取り巻く「情報」について考える ○「編集者」の役割、立場、仕事の内容 ○最近の編集現場の実情 ○「本が売れない」「でも書店に行けば本や雑誌があふれている」その意味することは、○読者対象を細かくセグメント化して、多品種少量生産している出版業界の実態 ○講義者の持論とする「編集者はプロデューサーであれ」の意味するところ ○いい文章とは(いい文章を書ける力、いい文章を見分ける力) ○悪い文章とは(悪い文章を見分ける力) ○出版は「企画ありき」から始まる(企画の立て方、構成の作り方) ○具体的な雑誌(週刊誌、月刊誌)の作られ方 ○単行本の作られ方、システム。(例として「新書」の歴史、作られ方、新書ブームの背景) ○各出版社に新書編集長たちの現場からのナマの声を聞く授業も。 ○ヒットする企画とはどんなものか ○ヒットしなかった企画の数々、その理由は ○単行本・雑誌の基本的なサイズ、判型の基礎知識 ○紙のサイズの基礎知識 ○本のページ数の基礎知識 ○「校正」の基礎知識 ○印刷の基礎知識等々 ○理解度の確認のために随時、その週に読んだ雑誌や単行本の内容、感想、意見などを書いて提出 ○出版社や編集プロダクション等、編集現場の見学等も実施する予定。 ○自分の作りたい雑誌や単行本の企画を随時提出する。 ○電子書籍の現在おかれている状況、これからの課題等々にも触れる。</p>
----------	---

準備学習	<p>「編集」とか「編集者」に興味と関心を持つ人として、次のことは心がけてほしい。 ○本を読むこと(好きなジャンル、好きな作家について。(自分の言葉で話ができる程度でもよい) ○よく読んでいる好きな雑誌、その理由などが話せるように。その雑誌と同じジャンルの類誌との比較を話せるように(好きな点、嫌いな点、気に入っている企画等々)。 ○週に一度は書店に行く意欲を持つことと新刊本に関心を寄せること。 ○新聞を読んでいることは最低条件。○新聞の出版広告などに目を向けていること。 ○携帯電話やパソコンのメールで件は伝えられるが、なるべく自分の手で「手紙」を書く習慣を身につけておく。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>○特筆することはなし。 ○希望する人がいれば、実際に雑誌や単行本を作っている出版社や編集プロダクションを訪れて、編集現場を見せてもらう授業展開も可能。<学外での実習>ととらえた授業とする。希望者を、前期、後期に分けて実施することを考える。 ○見学先の出版社や編集プロダクションは、講義者のコネクションで数多くの会社が協力してくれることはいずれをまたない。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>(1) レポートとして、毎時間の講義の後には、その感想や意見、質問を短文にまとめて提出させ、次週まで講義者のコメントを添えて各自に返す。 (2) 通年の講義が終わるときは、「自分なりの新聞」「週刊誌の記事ふう」に4ページ程度の誌面をつくってみる。 (3) 授業中の質問や意欲をよく観察し、評価する。</p>
---------	--

以上(1)(2)(3)については、概ね(1)30%、(2)30%、(3)40%を目安に評価する。

教科書/テキスト	随時、講義に関連する新聞記事や雑誌、書籍の書評等、印刷物を配布します。
参考書	講義の進展、内容に合わせて、適宜タイムリーな参考書や資料を紹介します。

履修コード	017901 017902 017903
科目名	民間信仰論
担当者名	谷口 貢
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成す様々な世界には、どのような意味があるのかを追究していくことにしたい。そして、民俗学の視点から民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義について考察を加える。
授業スケジュール	(1～3) 民間信仰研究とフィールドワーク、(4～5) 民間信仰の性格、(6～10) 伊豆諸島青ヶ島の神祭りとシャーマニズム(巫俗)、(11～15) シャーマニズム(巫俗)の諸相、(16～18) 山岳信仰の性格、(19～23) 福島県会津地方の神社参拝の講集団、(24～25) 民間信仰の性格と既成宗教との関係、(26～28) 憑霊信仰の諸相、(29～30) 死霊結婚の習俗
準備学習	講義内容に基づくレポート試験で成績評価を行うので、ノートを各自まとめておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学年末の課題レポートに基づいて成績評価を行う。出席を重視する。
教科書/テキスト	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを用意して配付する。
参考書	授業で随時紹介する。

履修コード	232801 232802
科目名	民衆宗教成立史
担当者名	鈴木 一馨

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 民衆宗教は、世俗の中に生きるひとびとが既成宗教の体系にとらわれずに、そのさまざまな願望に応じたものごとを取り入れながら形成したものである。この講義では、陰陽道を視点としながら、日本の民衆宗教の形成について学ぶ。</p> <p>(到達目標) この講義の到達目標は、ひとびとにとって宗教とはなぜ必要とされるのかという問題と、世界宗教や既成宗教(宗派・教団)と民衆との関係、民衆宗教の形成、民衆宗教に関する現在の言説や一般的理解における知識と学問的な結論の違いなどをそれぞれ理解するところにある。すなわち前期に日本の宗教的環境や陰陽道の形成とそれを支える中国的宇宙論について基礎的な知識を講説し、後期はその基礎に立って陰陽道の実像と民衆宗教との関係について学ぶ。そして、両者を併せて民衆宗教の形成のされ方と、同時に自分達がどのように民衆宗教と関わっているのかについて説明できる能力を身に付けることを目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義方針の説明 2. 「民衆宗教」とはなにか 3. 日本宗教における陰陽道の位置 4. 陰陽寮の形成 5. 陰陽寮の仕組 6. 「陰陽」概念の伝来 7. 「陰陽の術」と陰陽道 8. 世界の根本としての「気」 9. 「気」のはたらきとしての「陰陽」 10. 世界の広がりとしての「五行」(1) 11. 世界の広がりとしての「五行」(2) 12. 現在の暦と昔の暦 13. 暦を成り立たせる世界観 14. 日本における暦の変遷 15. 「旧暦」の仕組 16. 「吉日」と「凶日」 17. 不安だらけの平安貴族 18. 「陰陽道占い」と陰陽道の占い 19. 式占のすがた 20. 易占のすがた 21. 暦占と天文占 22. 式神の出現 23. 式神と呪詛 24. 陰陽師のさまざまな活動 25. 中世の陰陽道 26. 近世の陰陽道 27. 「陰陽道」ではない術者たち 28. 「陰陽道」の拡大 29. 近代宗教概念としての「陰陽道」 30. 講義のまとめ
----------	--

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 民衆宗教は世界宗教や既成宗教またその教団・宗派との関係で見えていく必要がある。したがって日本の宗教の状況を知っておくこと。 2. 時宜に応じた話題により説明をすることがあるので、特に社会や文化に関するニュースをよく拾っておくこと。 3. 民衆宗教成立史に限らず、会話力や文章力は説明には不可欠である。したがって会話力や文章力を高めておくこと。
------	--

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義に対する積極的な姿勢と、社会人予備軍としての常識性を重視する。 2. すでに学んだ内容を反復的に使いながら講義を進めていくので、復習をしないとついていけない。 3. 成績処理用にオリジナルの「受講者カード」を準備するので、初回の出席時に必ず記入すること。同カードの記入や提出がない場合には単位の認定をしない。
---------	---

成績評価の方法	<p>期末試験(単位レポート)を主たる材料とする。ただし、講義中の質問に対する返答や任意レポートなどによる点数の加算も行う。なお所定の出席数を満たさない場合や受講態度が不良な者の単位は認定しない。</p>
---------	--

教科書/テキスト	鈴木一馨『陰陽道-呪術と鬼神の世界-』(講談社選書メチエ244、2002年)1,575円、ISBN: 4062582449
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・林淳・小池淳一編『陰陽道の講義』(嵯峨野書院、2002年)3,150円、ISBN: 4782303610 ・高埜利彦編『民間に生きる宗教者』(吉川弘文館、2000年)2,940円、ISBN: 4642065512
-----	--

履修コード	233401 233402
科目名	倫理学概説
担当者名	河谷 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「大人であれば他人に危害(迷惑)を及ぼさない限り何を自己決定してもよい」という主張がしばしばなされることがある。だが、このような「他者危害(迷惑)の原則」はあくまでひとつの倫理的立場であるにすぎない。この是非を考えるにあたっては他の倫理的立場と併せて検討する必要がある。そこで本講義は次のような二段構えの構成を採る。前期は(a)西洋思想史における様々な倫理観を取り上げ現代との関係を考え、後期は(b)応用倫理とりわけ生命倫理の諸問題とそのアプローチを取り上げ私たちに身近なことがらを「倫理的に考える」とはどういうことなのかを考えることにしたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学とは何か (1) 2. 倫理学とは何か (2) 3. 功利主義 (1) 4. 功利主義 (2) 5. 功利主義の問題点の検討 6. カント倫理学(義務論) (1) 7. カント倫理学(義務論) (2) 8. カント倫理学の問題点の検討 9. ギリシア倫理学: ソクラテス 10. ギリシア倫理学: プラトン (1) 11. ギリシア倫理学: プラトン (2) 12. ギリシア倫理学: アリストテレス (1) 13. ギリシア倫理学: アリストテレス (2) 14. 二重結果の原則 15. 前期授業内容の理解度の確認 16. 生命倫理とは何か 17. インフォームド・コンセントをめぐる問題 (1) 18. インフォームド・コンセントをめぐる問題 (2) 19. インフォームド・コンセントをめぐる問題 (3) 20. 安楽死・尊厳死をめぐる問題 (1) 21. 安楽死・尊厳死をめぐる問題 (2) 22. 安楽死・尊厳死をめぐる問題 (3) 23. 脳死と臓器移植をめぐる問題 (1) 24. 脳死と臓器移植をめぐる問題 (2) 25. クローン技術をめぐる問題 (1) 26. クローン技術をめぐる問題 (2) 27. クローン技術をめぐる問題 (3) 28. 自己決定をめぐる問題 (1) 29. 自己決定をめぐる問題 (2) 30. まとめ
----------	--

準備学習	授業で紹介した参考文献に目を通しておくことが望ましい。
------	-----------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	中間試験(前期最終授業日に実施)と期末試験(それぞれ40点満点)ならびに夏休みレポートと平常点との総合点で評価する。
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	233551
科目名	歴史哲学
担当者名	久保 陽一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	歴史を知ることとは、どういうことなのだろうか。確かに過去の出来事にかんする知識 (例えば「1789年にフランス革命が起こった」) は存在する。しかし、どのようにして我々は、自分では体験することも思い出すこともできない過去の出来事について「知っている」と言えるのだろうか。実は「出来事」は個々の事実と同じではない。「出来事」は、われわれが個々の事実を加工し、或る脈絡をもって「物語る」ことを通して初めて、存在する。そして「物語る」ことは、時々の状況や語り手の関心や意向によって制約される。そこで歴史認識において言わば客観的な面 (事実) と主観的な面 (語り手の関心) とがどのように関連しているのか、が問題になる。その問題をカーと野家の本を手がかりに考えることにしたい。
---------------------	---

授業スケジュール	1 授業オリエンテーション 2~14 (前期) E.H.カー「歴史とは何か」(岩波新書)を読む。 15 理解度の確認 16~29 (後期) 野家啓一「物語の哲学」(岩波書店)を読む。 30 理解度の確認
----------	---

準備学習	カーと野家の上記の本を読んでいく際に、毎回の報告担当者を1~2名決めておくと、報告担当者だけでなく、受講者はすべて次回に扱われる箇所について、あらかじめ読んで、予習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	予備知識は必要が無いが、歴史に対する関心を持つようにしてほしい。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	2回の試験(8割)と平常点(2割)によって評価する。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	E.H.カー「歴史とは何か」、岩波新書、780円、ISBN4-00-413001-8 野家啓一「物語の哲学」、岩波現代文庫、1300円、ISBN4-00-600139-8
----------	--

参考書	渡辺二郎『現代の思想的状況-歴史の哲学』(放送大学教育振興会) 真木悠介『時間の比較社会学』(岩波現代文庫) マルクス・エンゲルス『ドイツ・イデオロギー』(岩波文庫) ヘーゲル『歴史哲学』(岩波文庫)
-----	---

履修コード	—
科目名	英語（海外演習）
担当者名	—

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この科目は、本学の海外協定校であるクィーンズランド大学（オーストラリア）、プリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）、エクセター大学（イギリス）、カリフォルニア大学アーバイン校（アメリカ）における短期語学セミナーでの集中演習を中心として行われる英語随意科目である。なお、春季に実施されるクィーンズランド大学（オーストラリア）のセミナーに関しては、4年次生は受講できない。
授業スケジュール	—
準備学習	—
成績評価の方法	現地演習後に各大学より受講生の成績・評価等が出される。それに基づいて、受講生には本学としての単位が認定される。
その他	受講希望者は、国際センターの短期語学セミナーに参加申込みをすること。

履修コード	—
科目名	フランス語（海外演習）
担当者名	—

授業概要／ 到達目標（ねらい）	この科目は、本学の海外協定校であるプロヴァンス大学（フランス）における短期語学セミナーでの集中演習を中心として行われるフランス語随意科目である。受講対象学生は1年次生から3年次生までとする。
授業スケジュール	—
準備学習	—
成績評価の方法	現地演習後にプロヴァンス大学より受講生の成績・評価等が出される。それに基づいて、受講生には本学としての単位が認定される。
その他	受講希望者は、国際センターの短期語学セミナーに参加申込みをすること。

履修コード	—
科目名	中国語（海外演習）
担当者名	—
授業概要／ 到達目標（ねらい）	この科目は、本学の海外協定校である華東師範大学（中国）における短期語学セミナーでの集中演習を中心として行われる中国語随意科目である。
授業スケジュール	—
準備学習	—
成績評価の方法	現地演習後に華東師範大学より受講生の成績・評価等が出される。それに基づいて、受講生には本学としての単位の認定がなされる。
その他	受講希望者は、国際センターの短期語学セミナーに参加申込みをすること。

IV. 教職課程・資格講座科目

履修コード	065821 065822
科目名	医療福祉論
担当者名	宮本 博司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	保健医療サービスにおいて、生活相談・援助を行う社会福祉士を医療ソーシャルワーカーと定義している。医療福祉論では、医療ソーシャルワークの歴史、理論、技術について学び、医療ソーシャルワークのあり方について理解を深め、医療ソーシャルワーカーがどのような倫理観・価値観に基づいて、ソーシャルワーク実践を重ねているか。また、他専門職との連携・協働、保健医療サービスを支える制度・施設・資格、チームアプローチの理論と実践事例を学ぶことを目的としている。また、現場を目指す学生にとって、保健医療の現場における現実や課題を理解し、考察できるような授業を目指す。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ① 保健医療サービス体系と施策 保健医療サービスの構成要素と推移、医療法の改正 ② 保健医療サービス体系と施策 医療法・保健医療政策における医療施設の機能・類型 ③ 保健医療サービス体系と施策 診療報酬における医療施設の機能・類型 ④ 保健医療サービス体系と施策 医療保険制度と診療報酬体系 ⑤ 保健医療サービス体系と政策の課題 ⑥ 医療ソーシャルワーク 医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み ⑦ 医療ソーシャルワーク 医療ソーシャルワーカーの業務内容 ⑧ 医療ソーシャルワークの課題 ⑨ 医療ソーシャルワーク実践事例 「急性期・回復期・維持期リハビリテーション」 ⑩ 医療ソーシャルワーク実践事例 「慢性疾患」 ⑪ 医療ソーシャルワーク実践事例 「難病疾患」 ⑫ 医療ソーシャルワーク実践事例 「ターミナルケア」 ⑬ 保健医療サービスの連携の理論と実践 「チームアプローチ」 ⑭ 保健医療サービスの連携の理論と実践 「地域連携とクリティカルパス」 ⑮ 保健医療サービスの連携の理論と実践 「ケアマネジメント」
----------	--

準備学習	保健医療分野の課題をリサーチすることを目的として、ニュースや新聞記事から、保健医療分野に関連するテーマを見つけ出し、現状を分析し、課題について考察を深める。福祉の視点から、どのような支援や援助が考えられるか、レポートを作成する。
------	--

履修上の留意点	授業への主体的な参加を望む。
成績評価の方法	定期試験、課題レポート、授業出欠等により評価。
教科書／テキスト	新・社会福祉士養成講座 17 「保健医療サービス」 中央法規出版
参考書	開講時に指示する。

履修コード	003801 003802
科目名	インド仏教文化史
担当者名	金沢 篤

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インド生まれの仏教を、広範で多岐多彩なインド文化の史的展望の中でとらえてみたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>神や人間などが織りなす奇想天外なインドの物語世界の解説を皮切りに、仏教の出現と展開と衰頽にまつわる文化的トピックを論究する。</p> <p>◎インド仏教文化史とは？ (1～3) 日本人、日本文化と仏教</p> <p>◎文化的側面より見たインド仏教とその展開 (4～8) 他宗教と仏教の比較の視点から</p> <p>◎仏教の起源と仏教出現の背景 (9～15) 仏教哲学の成立</p> <p>ヒンドゥー教と仏教 仏教の独自性</p> <p>◎仏教の変容と展開 (16～22) 哲学から宗教へ 仏教哲学の革新と宗教理論の確立</p> <p>◎インド仏教文化史・むすび (23～)</p>
----------	---

準備学習	自分の生活の中に仏教的な要素を探り、その意味を自分なりに考えてみる。
履修上の留意点	仏教や古今のインド文化に熱い関心を持つ学生諸君の主体的取り組みを期待する。
成績評価の方法	年度末試験などで総合的に判断する。
教科書／テキスト	渡辺照宏著『仏教 (第二版)』 (岩波新書) 740円
参考書	教場で適宜紹介する。

履修コード	031311
科目名	英語科教育法I
担当者名	佐藤 真二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。英語科教育法Iでは、高校の内容を中心とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 英語教育と英語科教育 第2回 主な教授法 (1) 20世紀中旬まで 第3回 主な教授法 (2) 20世紀中旬以降 第4回 言語材料等とその指導 (1) 音声 第5回 言語材料等とその指導 (2) 文法、語彙、文字 第6回 言語活動 (1) 読む 第7回 言語活動 (2) 書く 第8回 言語活動 (3) 聞く、話す 第9回 授業の展開 学習指導案の作成 (1) 授業計画のあり方 第10回 授業の展開 学習指導案の作成 (2) 指導のあり方 第11回 英語Iの授業 第12回 英語IIの授業 第13回 オール・コミュニケーションの授業 第14回 リーディングの授業 第15回 ライティングの授業 第16回 指導形態 第17回 模擬授業 高校1年 中学復習 第18回 模擬授業 高校1年 基本文型 第19回 模擬授業 高校1年 時制 第20回 模擬授業 高校2年 受身を含む文中心 第21回 模擬授業 高校2年 関係代名詞を含む文中心 第22回 模擬授業 高校2年 分詞を含む文中心 第23回 模擬授業 高校2年 現在完了を含む文中心 第24回 模擬授業 高校2年 過去完了を含む文中心 第25回 模擬授業 高校2年 現在完了進行形を含む文中心 第26回 評価とテスト 評価の種類と方法 第27回 評価とテスト テスト作成の注意点 第28回 評価とテスト テスト作成 第29回 教育機器の利用 第30回 教師と学習者
----------	--

準備学習	前回までの内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭に置き、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。
成績評価の方法	前期末・後期末のレポートのほか、授業内の発表も評価に加える。
教科書/テキスト	『新英語科教育の展開』 (英潮社)
参考書	『学習指導要領』、『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』 (2008、岩波書店) その他教場にて指示する。
その他	授業の方法は、教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を多く取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し教えることに馴染んで欲しいと願う。

履修コード	438801
科目名	英語科教育法Ⅰa
担当者名	町田 尚子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	グローバル・メディア学科の専門英語教育で修得した実践的な英語力を生かし、高校生、中学生に英語で教えることができる教授法への導入を目標とします。さらに、日本語を母語とする中学生、高校生が、さまざまな言語を話す人たちと意思疎通し、理解しあうための「共通語としての英語」を教える英語教師という認識を持つことを狙いとしています。
---------------------	--

授業スケジュール	授業の概要 英語科教育法Ⅰaは中学校、高等学校英語免許状取得を目指す学生全員の必修科目であり、英語教師としての基礎知識として、まず、学習指導要領・外国語(英語)の歴史を概観した後、日本の英語教育の指導目標と指導の概要をつかみます。さらに、高等学校英語に特化して、新学習指導要領で求められている英語による授業力を修得するための教授法を第2言語教授法にも範囲を広げ、考察します。
----------	--

授業計画

- 第1回：世界の英語教育
 - 第2回：日本の中等教育における外国語・英語教育
 - 第3回：学習指導要領(外国語・英語)研究：1947年から1998年・1999年まで
 - 第4回：The Course of Study for Foreign Languages (改訂前学習指導要領中学・高校外国語学習指導要領英語版)と指導上の問題点
 - 第5回：新学習指導要領(外国語・英語)研究(1) 高校外国語(英語)の改訂指導要領研究
 - 第6回：現行指導要領(外国語・英語)と新(改訂)指導要領(外国語・英語)の比較研究
 - 第7回：How to teach English to Japanese High School students in the language
 - 第8回：Contemporary Standard English and Varieties of English
 - 第9回：General American and Received Pronunciation
 - 第10回：Introduction to Meta-language: linguistic terms
 - 第11回：Grammatical items that should be focused on
 - 第12回：Tense and Aspect in English
 - 第13回：English Teaching Methods
 - 第14回：e-learning
 - 第15回：教科書研究
- 定期試験

準備学習	講義概要はGMS学部授業支援システム { https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/ } の当該ページに掲載してあるので、事前に必ずダウンロードし、資料等に目を通しておくこと。
------	--

履修上の留意点	①Ⅰaの履修がⅠa, Ⅰb, ⅠⅡ履修の前提となります。 ②教場でInternet にアクセスし、資料等をリンク先から入手するのでPC等を持参すること。
---------	---

成績評価の方法	授業中の課題発表と小テスト50%、定期試験として課す小論文50%の割合で成績評価をしますが、e-学習を含め、グローバル・メディア学科で学んだ英語教師としてどのような創意工夫が可能かを研究し、積極的な提案がなされているかどうかを評価の基準とします。
---------	---

教科書/テキスト	GMS授業支援サイト(moodle)に掲載します。 学習指導要領(学部授業支援システムの科目ページに指示してある文科省サイトのリンク先からダウンロード)
----------	---

参考書	大谷泰照(他) 編著 『世界の外国語教育政策』 東信堂出版 2004年 大谷泰照 『日本人にとって英語とは何か』 大修館書店 2007年 白井恭弘 『外国語学習に成功する人、しない人：第二言語習得理論への招待』 岩波科学ライブラリー100 岩波書店 2004年 白井恭弘 『外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か』 岩波新書1150 岩波書店 2008年 小寺茂明・吉田晴世 編著 『英語教育の基礎知識：教科教育法の理論と実践』 大修館書店 2005年 高梨庸雄 編著 『英語の「授業力」を高めるために：授業分析からの提言』 三省堂 2005年 鷹家秀史・須賀廣 『実践コーパス言語学：英語教師のインターネット活用』 桐原ユニ/桐原書店 1998年 望月昭彦 編著 『改訂版新学習指導要領にもとづく英語科教育法』 大修館書店 2010年 米山朝二 『新編英語教育指導法事典』 研究社 2011年 Close, R.A. A Reference Grammar for Students of English. Longman. 1975. Close, R.A. A Teachers' Grammar: The Central Problems of English. Language Teaching Publications. 1992. Reprinted 1994, 1998. First published under the title of English as a Foreign Language (3rd edition) Longman. 1981 Crystal, David Rediscover Grammar. Pearson/ Longman 2004. Greenbaum, S & G. Nelson An Introduction to English Grammar. Pearson/ Longman 2002. デニス・キーン、松浪有 Problems in English: An Approach to the Real Life of the Language (『英文法の問題点：英語の感覚』) 研究社 1969年初版、2005年30刷発行 池上嘉彦『<英文法>を考える』ちくまライブラリー56(1991年)、ちくま学芸文庫(1995年) 筑摩書房 ISBN4-480-08230-1
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード	438911
科目名	英語科教育法I b
担当者名	町田 尚子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	高等学校で英語を教えるための準備と位置付け、50分の模擬授業を自ら行うとともに、級友の模擬授業を観察することによって、英語を教えるとはどういうことかを考察できる力をつけ、かつ英語で教えられる授業展開を目指します。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業の概要</p> <p>授業計画の作成指導、模擬授業を行うに当たっての留意点の指示、グループ分け等を行った後、各受講者は学期中に50分の模擬授業を2回行います。担当者は授業計画案 (teaching plan) を担当模擬授業の1週間前までに作成、提出し、修正等の指導を受けます。最終版の指導案はGMS 学部の授業支援システムの当該科目ページに掲載します。担当者が模擬授業実施中の50分は、他の受講者は生徒役であると同時に、授業の観察者の役割も果たします。模擬授業後、実施あるいは観察した授業について各自が評価等のコメントをまとめ、30分間議論し、講評しあいます。</p>
----------	--

授業計画

第1回

英語教授法と「英語で教える」という課題に取り組む。Iaで考察した、英語の教授法およびe-learning をプラスした英語教育の方法から、理想とする教授法を提起してみる。特に、「英語で教える」という課題に取り組むにはどのような工夫が必要かを考えてみる。

第2回

模擬授業 に向けて (1) 英語教科書の選定と教材研究: 模擬授業で使用使用する英語教科書の選定と教材研究。文科省website: 高等学校用教科書目録を参照する。また、教育実習先の高校で使用予定の教科書を調べ、教科書の「年間カリキュラム案」を教科書会社のサイトからダウンロードし、教科書全体の構成を調べる。

第3回

模擬授業に向けて (1) 授業の準備・組み立て方: 授業案、指導案の作成に取り掛かる。1時間 (50分) の授業をどのように行うかを示す授業案をあらかじめ準備し書いておく。必要な項目は①教材の提示、②授業の主な狙い、その教材で何を教えたいのか、その教材の内容を通して生徒に何を伝えるのか、言語材料で取り扱う文法項目の明示等の教材観 ③当該授業が単元のどの部分に相当するか ④担当する授業時の指導計画: 1時間の授業を「導入」→「展開」→「まとめ」に分けて、授業の流れを把握しておく。さらに、授業で教える生徒の英語学習意欲の度合、生徒が教師をどのようにみているか等も配慮し、授業計画案を作成する。

以下にあげる、担当する授業時の指導案の一般的な構成要素: 中心となる7要素と時間配分を参考とする。

- ① Warm-up (3 to 5 min)
- ② Review (5 to 10 min)
- ③ Introduction to new material (10 to 15 min)
- ④ Practice (10 to 15 min)
- ⑤ New Words (5 to 10 min)
- ⑥ Reading (10 to 15 min)
- ⑦ Consolidation (3 to 5 min)

(2) 模擬授業担当一覧表の作成。

第4回: 模擬授業	(1) グループAとその講評
第5回: 模擬授業	(2) グループBとその講評
第6回: 模擬授業	(3) グループCとその講評
第7回: 模擬授業	(4) グループDとその講評
第8回: 模擬授業	(5) グループEとその講評
第9回: 模擬授業	(6) グループFとその講評
第10回: 模擬授業	(7) グループGとその講評
第11回: 模擬授業	(8) グループHとその講評
第12回: 模擬授業	(9) グループIとその講評
第13回: 模擬授業	(10) グループJとその講評
第14回: 模擬授業	の総括
第15回: 教育実習	に向けての取り組みについて

定期試験

準備学習	前期Iaで修得した英語教授法のうち、理想とする教授法を実践のためにはどのような工夫が求められるかを研究しておくこと。
履修上の留意点	①英語科教育法Iaが履修済みであることを前提とします。 ②教場でInternet にアクセスするのでPC等を持参すること。 ③GMSの授業支援サイトの英語科教育法Ibのページを毎回必ず確認して授業に臨むこと。
成績評価の方法	授業中の模擬授業を70%、定期試験として課す小論文30%の割合で成績評価をします。模擬授業70%の内訳は①準備: 教材研究、授業計画案・指導案作成20%②模擬授業30%③模擬授業協力と授業講評20%とします。また、e-learningを含め、グローバル・メディア学科で学んだ英語教師として、どのような創意工夫が可能かを研究し、積極的な提案がなされているか、どうかも評価の基準とします。
教科書/テキスト	GMS学部授業支援システムの英語科教育法Ibのページに掲載します。
参考書	Ia、IIaで挙げたもののうち、特に以下の参照が役立ちます。 ・白井恭弘 『外国語学習に成功する人、しない人: 第二言語習得理論への招待』岩波科学ライブラリー100 岩波書店 2004年 ・白井恭弘 『外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か』岩波新書1150 岩波書店 2008

- 年
- ・望月昭彦 編著 『改訂版英語科教育法』大修館書店 2010年
 - ・米山朝二 他 『英語科教育実習ハンドブック(改訂版)』大修館書店 2002年
 - ・米山朝二 『新編英語教育指導法事典』研究社 2011年
 - ・小寺茂明・吉田晴世 編著 『英語教育の基礎知識：教科教育法の理論と実践』大修館書店 2005年
 - ・高梨庸雄 編著 『英語の「授業力」を高めるために：授業分析からの提言』三省堂 2005年
 - ・鷹家秀史・須賀廣 『実践コーパス言語学：英語教師のインターネット活用』桐原ユニ/桐原書店 1998年

使用教科書に関する情報については、以下のURLから検索できます。

<http://www.textbook.or.jp> (社団法人 教科書協会)
<http://www.textbook.mext.go.jp>

関連リンク <https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	031401
科目名	英語科教育法Ⅱ
担当者名	佐藤 真二

授業概要/
到達目標 (ねらい) 中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。英語科教育法Ⅱでは、中学の内容を中心とする。

授業スケジュール	
第1回	英語教育と英語科教育
第2回	主な教授法と経験した教え方 (中学)
第3回	主な教授法と経験した教え方 (高校)
第4回	言語材料等とその指導 中学校での注意点
第5回	言語活動と指導上の注意点 (1) 読む
第6回	言語活動と指導上の注意点 (2) 書く
第7回	言語活動と指導上の注意点 (3) 聞く、話す
第8回	授業の展開 学習指導案の作成 warm up
第9回	授業の展開 学習指導案の作成 復習
第10回	授業の展開 学習指導案の作成 導入
第11回	授業の展開 学習指導案の作成 展開
第12回	中学1年生の授業 入門期
第13回	中学1年生の授業 入門期以後
第14回	中学2年生の授業
第15回	中学3年生の授業
第16回	指導形態
第17回	模擬授業 中1 一般動詞
第18回	模擬授業 中1 一般動詞疑問文
第19回	模擬授業 中2 不定詞
第20回	模擬授業 中2 比較級
第21回	模擬授業 中2 最上級
第22回	模擬授業 中3 現在完了
第23回	模擬授業 中3 現在完了 疑問文
第24回	模擬授業 中3 関係代名詞 主格
第25回	模擬授業 中3 関係代名詞 所有格・目的格
第26回	評価とテスト 種類
第27回	評価とテスト 作成の注意点
第28回	評価とテスト 作成練習
第29回	教育機器の利用
第30回	教師と学習者

準備学習 前回までの内容をよく復習しておくこと。

履修上の留意点 自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。

成績評価の方法 前期・後期末のレポートおよび、授業内の発表で評価する。

教科書/テキスト 『新英語科教育の展開』(英潮社)

参考書 『学習指導要領』、『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』(2008、岩波書店) その他教壇にて指示する。

その他 教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し教えることに馴染んで欲しいと願う。

履修コード	439001
科目名	英語科教育法IIa
担当者名	町田 尚子

授業概要/ 到達目標(ねらい)	英語科教育法Iaと合わせて履修することを前提とし、IIaは中学校英語免許状取得を目指す学生全員の必修科目として、特に中学生の理解力を基準として、グローバル・メディア学科の専門英語教育で修得した実践的な英語力を生かして、英語によるコミュニケーションの機会を増やし、可能な限り英語を使用して教えることができる教授法への導入を目標とします。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>授業の概要</p> <p>英語科教育法Iaで学習・研究する学習指導要領・外国語(英語)の歴史および、日本の英語教育の指導目標と指導の概要の理解にたつて、中学生に英語を教えることの重要性・留意点の考察をします。2011年から全面実施の小学校の外国語活動を視野に入れ、中学校での導入方法の工夫を考えてみます。特に、英語特有の発音・リズム・イントネーションを自らマスターし生徒に指導できるようにすること、音と文字の対応関係の指導の工夫、教室での生徒の言語活動への関心を高める工夫、コミュニケーション力を伸ばすためのペアワーク、グループ作業等の指導方法も考えます。</p>
----------	---

授業計画

- 第1回: 新しい学習指導要領中学校外国語(英語)研究
- 第2回: 改訂前学習指導要領と新しい学習指導要領との比較研究
- 第3回: 初修外国語教育
- 第4回: 小学校5・6年からの外国語(原則として英語)活動について: 英語ノート
- 第5回: 中学校における英語教育
- 第6回: 発音・音声指導について(1) 母音・二重母音、子音
- 第7回: 発音・音声指導について(2) 弱強リズム、文のリズム、イントネーション
- 第8回: 発音・音声指導について(3) 音の連結・脱落、句切り
- 第9回: 音と文字の対応について
- 第10回: 中学生英語指導のための音韻、語彙、形態、文法の基礎知識
- 第11回: 初修・導入のための英語教授法研究(1) 英語を母語とする場合
- 第12回: 初修・導入のための英語教授法研究(2) 英語を第2言語とする場合
- 第13回: 初修・導入のための英語教授法研究(3) 英語を外国語とする場合
- 第14回: Team teaching研究
- 第15回: 教科教育法IIbでの模擬授業に向けての教科書研究

定期試験

準備学習	(1)Iaの講義内容を理解しておくこと。(2)GMS学部授業支援システムの当該ページを必ずチェックし、必要な資料等をダウンロードして授業に臨むこと。
------	--

履修上の留意点	<ol style="list-style-type: none"> ①Iaの履修を前提とする。 ②教場でインターネットにアクセスし、資料等をリンク先で閲覧し討論するので、PC等を持参すること。 ③GMSの授業支援サイトの当該ページにハンドアウト等必要な情報を掲載するので毎回必ず確認すること。
---------	--

成績評価の方法	授業中の課題発表と小テスト50%、定期試験として課す小論文50%の割合で成績評価をしますが、e-learningを含め、グローバル・メディア学科で学んだ英語教師として、どのような創意工夫が可能かを研究し、積極的な提案がなされているかどうかを評価の基準とします。
---------	--

教科書/テキスト	GMS学部授業支援サイト(moodle)の英語科教育法IIaのページに掲載します。学習指導要領(学部授業支援システムの科目ページに指示してある文科省サイトのリンク先からダウンロードする)
----------	---

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・大谷泰照(他)編著 『世界の外国語教育政策』東信堂出版 2004年 ・大谷泰照 『日本人にとって英語とは何か』大修館書店 2007年 ・白井恭弘 『外国語学習に成功する人、しない人: 第二言語習得理論への招待』岩波科学ライブラリー100 岩波書店 2004年 ・白井恭弘 『外国語学習の科学: 第二言語習得論とは何か』岩波新書1150 岩波書店 2008年 ・小寺茂明・吉田晴世 編著 『英語教育の基礎知識: 教科教育法の理論と実践』大修館書店 2005年 ・高梨庸雄 編著 『英語の「授業力」を高めるために: 授業分析からの提言』三省堂 2005年 ・鷹家秀史・須賀廣 『実践コーパス言語学: 英語教師のインターネット活用』桐原ユニ/桐原書店 1998年 ・土屋澄男・広野威志 『新英語科教育法入門』研究社 2000年 ・望月昭彦 編著 『英語科教育法(改訂版)』大修館書店 2010年 ・米山朝二 『新編英語教育指導法事典』研究社 2011年 ・ジョセフ・クラボッタ、ほか 『英語の発音 楽しい練習長』英光社 2007年 第7刷 ・伊藤雄二 『教科書の活用』金谷憲・谷口幸夫(編)『英語教師の四十八手』1 研究社 1995年、2009年 第6刷 ・『英語ノート 1』文部科学省 ・『英語ノート 2』教育出版 (文部科学省)平成21年
-----	--

関連リンク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/
-------	---

履修コード 439111

科目名 英語科教育法Ⅱb

担当者名 町田 尚子

授業概要/
到達目標 (ねらい)

中学校で英語を教えるための準備と位置付け、模擬授業によって、授業の実践を修得していきます。
小学校での「外国語活動」を体験している1年生を想定した指導方法も外国語導入教育のテーマとします。

授業スケジュール

授業の概要

授業計画の作成指導、模擬授業を行うに当たっての留意点の指示、グループ分け等を行った後、各受講者は学期中に50分の模擬授業を2回(各中学1年英語と中学2年英語)行います。担当者は授業計画案(teaching plan)を担当模擬授業の1週間前までに作成、提出し、修正等の指導を受けます。最終版の指導案はGMS 学部の授業支援システムの当該科目ページに掲載します。担当者が模擬授業実施中の50分は、他の受講者は生徒役であると同時に、授業の観察者の役割も果たします。模擬授業後、観察あるいは実施した授業について毎回各自が評価等のコメントを評価表に記入後、発表し、講評しあいます。

授業計画

第1回

英語教授法Ⅱaで考察した、英語の教授法およびe-learningをプラスした英語教育の方法から、理想とする教授法を提起してみる。特に、「英語で教える」という課題に取り組むにはどうするかを考える。

第2回

模擬授業に向けて(1)英語教科書の選定と教材研究: 模擬授業に使用する英語教科書の選定と教材研究。中学校英語教科書 6種類 (Sunshine English Course, New Horizon English Course, New Crown English Series, One World English Course, Columbus 21 English Course, Total English) 18冊を比較検討してみる。また、教育実習先の中学校で使用予定の教科書を調べ、教科書の「年間カリキュラム案」を教科書会社のサイトからダウンロードし、教科書全体の構成を調べてみる。

第3回

模擬授業に向けて(2)授業の準備・組み立て方: teaching plan, lesson plan (授業案、指導案)の作成に取り掛かる。1時限(50分)の授業をどのように行うかを示す授業案をあらかじめ準備し書いておく。

必要な項目は、①教材の提示、②授業の主な狙い、その教材で何を教えたいのか、その教材の内容を通して生徒に何を伝えるのか、言語材料で取り扱う文法項目の明示等の教材観、③当該授業が単元のどの部分に相当するか、④担当する授業時の指導計画: 1時間の授業を「導入」→「展開」→「まとめ」に分けて、授業の流れを把握しておく。さらに、授業で教える生徒の英語学習意欲の度合、生徒が教師をどのようにみているか等も配慮し、授業計画案を作成する。担当する授業時の指導案の一般的な構成要素: 中心となる7要素と時間配分を参考とする。

- ① Warm-up (3 to 5 min)
- ② Review (5 to 10 min)
- ③ Introduction to new material (10 to 15 min)
- ④ Practice (10 to 15 min)
- ⑤ New Words (5 to 10 min)
- ⑥ Reading, Dialog (10 to 15 min)
- ⑦ Consolidation (3 to 5 min)

模擬授業担当一覧表の作成。

- 第4回: 模擬授業 中学1年英語 (1) グループAとその講評
- 第5回: 模擬授業 中学1年英語 (2) グループBとその講評
- 第6回: 模擬授業 中学1年英語 (3) グループCとその講評
- 第7回: 模擬授業 中学1年英語 (4) グループDとその講評
- 第8回: 模擬授業 中学1年英語 (5) グループEとその講評
- 第9回: 模擬授業 中学2年英語 (1) グループAとその講評
- 第10回: 模擬授業 中学2年英語 (2) グループBとその講評
- 第11回: 模擬授業 中学2年英語 (3) グループCとその講評
- 第12回: 模擬授業 中学2年英語 (4) グループDとその講評
- 第13回: 模擬授業 中学2年英語 (5) グループEとその講評
- 第14回: 模擬授業の総括
- 第15回: 教育実習に向けての取り組みについて

定期試験

準備学習

前期Ⅱa, Ⅱaで修得した英語教授法のうち、理想とする教授法を中学校の英語授業に生かすにはどのような創意・工夫が必要かを考察しておくこと。

履修上の留意点

- ①英語科教育法Ⅱa, Ⅱaが履修済みで、Ⅱbを履修中であることを前提とします。
- ②教場でInternetにアクセスするのでPCを持参すること。
- ③GMSの授業支援サイトの英語科教育法Ⅱbのページを毎回必ず確認して授業に臨むこと。

成績評価の方法

授業中の模擬授業を70%、定期試験として課す小論文30%の割合で成績評価をします。模擬授業70%の内訳は①準備: 教材研究、授業計画案・指導案作成20%②模擬授業30%③模擬授業協力と授業講評20%とします。また、e-learningを含め、グローバル・メディア学科で学んだ英語教師として、どのような創意工夫が可能かを研究し、積極的な提案がなされているか、どうかも評価の基準とします。

教科書/テキスト

中学校英語検定教科書 (New Crown English Series, One World English Course, New Horizon English Course, Columbus21 English Course, Sunshine English Course, Total English 各Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) を利用します。詳細はGMS学部授業支援システムの英語科教育法Ⅱbのページに掲載します。

参考書

1a、11aで挙げた参考書のうち、特に以下の参照が役立ちます。

- ・白井恭弘 『外国語学習に成功する人、しない人：第二言語習得理論への招待』岩波科学ライブラリー100 岩波書店 2004年
- ・白井恭弘 『外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か』 岩波新書1150 岩波書店 2008年
- ・望月昭彦 編著 『英語科教育法（改訂版）』大修館書店 2010年
- ・米山朝二 他 『英語科教育実習ハンドブック（改訂版）』大修館書店 2002年
- ・米山朝二 『新編英語教育指導法事典』研究社 2011年
- ・小寺茂明・吉田晴世 編著 『英語教育の基礎知識：教科教育法の理論と実践』大修館書店 2005年
- ・高梨庸雄 編著 『英語の「授業力」を高めるために：授業分析からの提言』三省堂 2005年
- ・鷹家秀史・須賀廣 『実践コーパス言語学：英語教師のインターネット活用』桐原ユニ/桐原書店 1998年

使用教科書に関する情報については、以下のURLから検索できます。

<http://www.textbook.or.jp> (社団法人 教科書協会)
<http://www.textbook.mext.go.jp>

その他は教場で指示します。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	044401 044402
科目名	外国考古学概説
担当者名	飯島 武次

授業概要/
到達目標 (ねらい)

「中国の考古学」について講義をおこなう。考古学専攻生として中国考古学の常識的知識を身につけてもらう。
 これまでの中国考古学の学史的流れを把握し、各時代の様相を考古学の視点から見ていきたい。あつかう時代は、旧石器から新石器・青銅器時代、および秦・漢から隋・唐くらいまでを予定している。

授業スケジュール

前期は、考古学の研究法から開始する。外国考古学研究方法に関して（第1回）。その後中国考古学の歴史（第2,3回）、旧石器時代～青銅器時代（第4～10回）、夏・商・周（第11～15回）を予定している。
 後期は北方系青銅器文化（第16～20回）、秦・漢（第21～24回）、魏晉から隋唐（第25～30回）を予定している。
 必要に応じて、海外調査・学会動向などの情報にもにも触れる予定である。

準備学習

授業終了時に次回授業内容を紹介するので、予習をしてくること。授業終了後はノートをまとめること。

履修上の留意点

授業に積極的な姿勢で臨むことを希望する。

成績評価の方法

学年末試験の成績によって判断する。合格は60点以上。

教科書/テキスト

特になし。

参考書

飯島武次、2003、『中国考古学概論』（同成社）。

その他

授業は講義が中心となる。できるだけスライドや映像などを用い、内容の理解を深められるよう努めたい。

履修コード	089121
科目名	介護等体験
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 本年度中に「介護等体験」を行う学生を対象に、事前事後指導を行なう。</p>
---------------------	---

到達目標
介護等体験が充実すること、また、その体験を踏まえて、人間観や教育観がより豊かになること。

授業スケジュール	<p>事前指導においては、「介護等体験」の目的や意義、特殊教育諸学校および社会福祉施設の概要などを学び、「体験」への意識を高める。「体験」後は、「体験」で得たものを他の受講生と分かち合い、深めていく。</p>
----------	--

- スケジュールは概ね次の通りである。
- (1) 授業について
 - (2) 介護等体験入門
 - (3) 社会福祉施設での介護等体験（『マニュアルノート』を中心に）
 - (4) 特別支援学校での介護等体験（『フィリア』を中心に）(5～6) 特別支援学校の様子
 - (7) 障害者の可能性 (8) 視覚障害について (9) ユニバーサルデザインと点字
 - (10) 聴覚障害について (11) 異文化としての手話 (12) 車いす体験
 - (13) 老いることとその意味 (14) 老人介護について (15) 特別支援教育
 - (16～24) 介護等体験の報告・ディスカッション
 - (25～29) 体験を深める（福祉および教育に関する発展的研究） (30) まとめ

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	<p>初回到授業の進め方などの説明をするので、必ず出席すること。やむをえない理由で欠席する場合には事前に連絡すること。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>「介護等体験」への取り組み（40%）、体験日誌などの記録（20%）、平常点（実習の報告、学期末のレポートを含む）（40%）</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>全国特殊学校長会編 『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック フィリア』、 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』</p>
----------	---

参考書	
-----	--

その他	<p>授業の出席率が著しく低い場合（6月末までに4回以上欠席した場合、ただし、教育実習で欠席した場合を除く）、また、事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止になることもあるので、十分に注意すること。</p>
-----	---

履修コード	089131
科目名	介護等体験
担当者名	萩原 建次郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本授業は介護等体験を有意義なものとし、今後の教育実践に生かすため、教育の基底にある自己と他者とのかかわりの質(コミュニケーションの在りよう)を問い直すことを目的としている。他者(学習者)との関係性は教育に携わる人間として常に問われることであり、教育の質を規定する重要な要素となっている。そのため本授業では、さまざまなアクティビティを通じて、自己と他者とのかかわりの質を体感しつつ、考える機会をもちたい。 (到達目標) 介護等体験やアクティビティを通じて、教育の基底となる自己と他者とのかかわりについて見つめなおし、関係づくりの意味や方法を自ら考えられるようになること。
授業スケジュール	①介護等体験前には、事前指導として、教科書をもとに体験の目的や意義を学ぶ。また、体験先となる社会福祉施設や特別支援学校の実際についてビデオなどを交えて、体験する際の心構えを学ぶ。(第1回～第4回) ②事後指導においては、介護等体験をふりかえり、そこで学んだことや気づきをまとめ、受講生同士で共有しあう機会を持つ。他の受講生の体験と交流することを通じて、自らの体験をより深くふりかえる視点をつかむ。(随時) ③また年間を通して自己と他者、自然、物とのかかわりの質を問うための多様なアクティビティ(体験学習)を実施したり、障がい者青年学級生との交流会なども行なう予定。(第5回～第27回) ④後期の後半には次年度教育実習を見据え、教育実習生(4年生・科目等履修生)との体験交流や、教育実習に向けての事前学習を行なう。(第28回～第30回)
準備学習	狭く学校教育だけでなく、普段から社会福祉や社会教育といった対人援助にかかわる近接領域への関心を広げるよう、ボランティア活動や地域教育活動、学外での講座・ワークショップなどに参加することを勧めます。
履修上の留意点	介護等体験を中心とした体験学習、参加型の学習なので、受講生の意欲的な参加が求められる。軽度の身体運動が求められることが多いので、動きやすい服装で参加すること。教場が体験内容に応じて変更される場合があるので注意すること。
成績評価の方法	介護等体験に取り組む真剣さ、体験日誌などの記録、通年講義の授業への参加度、学期末のレポートの内容等を総合して評価する。
教科書/テキスト	全国特殊学校校長会編『盲・聾・養護学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』 なお、教科書は授業時間中に配布する。
参考書	
その他	授業の出席率が著しく低い場合、とくに6月末までに4回以上欠席した場合(ただし、教育実習で欠席した場合は除く)、また、事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止になることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	087951
科目名	介護等体験指導
担当者名	伊藤 茂樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 介護等体験の目的や意義、特別支援学校および社会福祉施設の概要等、体験に必要なことを学ぶ。 (到達目標) 介護等体験に向けて意識が高まり、体験をより有意義なものとする。
授業スケジュール	(1~3) 介護等体験の目的と意義、介護等体験の心がまえ等 (4~6) 社会福祉施設での介護等体験 (7~9) 特別支援学校での介護等体験 (10~13) 介護等体験を深めるための学び (14~15) 介護等体験の報告とディスカッション
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回に授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 体験を伴う授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	介護等体験への取り組み25%、体験日誌・レポート50%、平常点25%。 *成績評価は、介護等体験終了後の後期に行う。
教科書/テキスト	全国特殊学校校長会編『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』
参考書	
その他	授業の出席率が著しく低い場合、6月末までに4回以上欠席した場合、また、事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止になることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	087921
科目名	介護等体験指導
担当者名	遠藤 司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 介護等体験の目的や意義、特別支援学校および社会福祉施設の概要等、体験に必要なことを学ぶ。 (到達目標) 介護等体験に向けて意識が高まり、体験がより有意義なものとなる。
授業スケジュール	(1~3) 介護等体験の目的と意義、介護等体験の心がまえ等 (4~6) 社会福祉施設での介護等体験 (7~9) 特別支援学校での介護等体験 (10~13) 介護等体験を深めるための学び (14~15) 介護等体験の報告とディスカッション
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 体験を伴う授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	介護等体験への取り組み25%、体験日誌・レポート50%、平常点25%。 *成績評価は、介護等体験終了後の後期に行う。
教科書/テキスト	全国特殊学校校長会編『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』
参考書	
その他	授業の出席率が著しく低い場合：6月末までに4回以上欠席した場合、また、事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止になることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	087931
科目名	介護等体験指導
担当者名	大浜 幾久子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「介護等体験」の目的や意義、特別支援学校および社会福祉施設の概要等、体験に必要なことを学ぶ。実際の「体験」に向けて意識を高め、体験をより有意義なものとする。
授業スケジュール	(1~3) 介護等体験の目的と意義、介護等体験の心がまえ等について。 (4~6) 社会福祉施設での介護等体験について。 (7~9) 特別支援学校での介護等体験について。 (10~13) 介護等体験を深めるために学ぶ。 (14~15) 各人の体験の報告およびディスカッション。
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回到授業の概要を説明する。必ず出席のこと。やむを得ない理由で出席できない場合には、必ず事前に連絡をすること。学外での「体験」が中心となる科目であり、主体的かつ積極的な参加が必須である。
成績評価の方法	成績評価は、介護等体験終了後の後期に行う。(体験への取り組み 25%、体験日誌・レポート 50%、平常点 25%)
教科書/テキスト	全国特殊学校校長会『特別支援学校における介護等体験ガイドブック：フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート：社会福祉施設』
参考書	映像資料等も含め、適宜、紹介します。
その他	授業の出席率が著しく低い場合（6月末までに4回以上欠席した場合）、また、学内外の事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止の措置を取らざるをえなくなります。十分に注意してください。

履修コード	087941
科目名	介護等体験指導
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 介護等体験の目的や意義、特別支援学校および社会福祉施設の概要等、体験に必要なことを学ぶ。
---------------------	--

(到達目標)
介護等体験に向けて意識が高まり、体験がより有意義なものとなる。

授業スケジュール	(1~3) 介護等体験の目的と意義、介護等体験の心がまえ等 (4~6) 社会福祉施設での介護等体験 (7~9) 特別支援学校での介護等体験 (10~13) 介護等体験を深めるための学び (14~15) 介護等体験の報告とディスカッション
----------	--

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 体験を伴う授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
---------	--

成績評価の方法	介護等体験への取り組み25%、体験日誌・レポート50%、平常点25%。 *成績評価は、介護等体験終了後の後期に行う。
---------	---

教科書/テキスト	全国特殊学校長会編『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』
----------	--

参考書	
-----	--

その他	授業の出席率が著しく低い場合：6月末までに4回以上欠席した場合、また、事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止になることもあるので、十分に注意すること。
-----	--

履修コード	087911
科目名	介護等体験指導
担当者名	豊田 千代子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 介護等体験の目的や意義、特別支援学校および社会福祉施設の概要等、体験に必要なことを学ぶ。
---------------------	--

(到達目標)
介護等体験に向けて意識が高まり、体験がより有意義なものとなる。

授業スケジュール	(1~3) 介護等体験の目的と意義、介護等体験の心がまえ等 (4~6) 社会福祉施設での介護等体験 (7~9) 特別支援学校での介護等体験 (10~13) 介護等体験を深めるための学び (14~15) 介護等体験の報告とディスカッション
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 体験を伴う授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
---------	--

成績評価の方法	介護等体験への取り組み25%、体験日誌・レポート50%、平常点25%。 *成績評価は、介護等体験終了後の後期に行う。
---------	---

教科書/テキスト	全国特殊学校長会編『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』
----------	--

参考書	
-----	--

その他	授業の出席率が著しく低い場合：6月末までに4回以上欠席した場合、また、事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止になることもあるので、十分に注意すること。
-----	--

履修コード	087961
科目名	介護等体験指導
担当者名	萩原 建次郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 介護等体験の目的や意義、特別支援学校および社会福祉施設の概要等、体験に必要なことを学ぶ。 (到達目標) 介護等体験に向けて意識が高まり、体験がより有意義なものとなること。
授業スケジュール	(1~3) 介護等体験の目的と意義、介護等体験の心がまえ等 (4~6) 社会福祉施設での介護等体験 (7~9) 特別支援学校での介護等体験 (10~13) 介護等体験を深めるための学び (14~15) 介護等体験の報告とディスカッション
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。体験を伴う授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	介護等体験への取り組み25%、体験日誌・レポート50%、平常点25%。*成績評価は、介護等体験終了後の後期に行う。
教科書/テキスト	全国特殊学校長会編『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』
参考書	
その他	授業の出席率が著しく低い場合：6月末までに4回以上欠席した場合、また、事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止になることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	087971
科目名	介護等体験指導
担当者名	山本 敏子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 介護等体験の目的や意義、特別支援学校および社会福祉施設の概要等、体験に必要なことを学ぶ。 (到達目標) 介護等体験に向けて意識が高まり、体験がより有意義なものとなる。
授業スケジュール	(1~3) 介護等体験の目的と意義、介護等体験の心がまえ等 (4~6) 社会福祉施設での介護等体験 (7~9) 特別支援学校での介護等体験 (10~13) 介護等体験を深めるための学び (14~15) 介護等体験の報告とディスカッション
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 体験を伴う授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	介護等体験への取り組み25%、体験日誌・レポート50%、平常点25%。 *成績評価は、介護等体験終了後の後期に行う。
教科書/テキスト	全国特殊学校長会編『特別支援学校における介護等体験ガイドブックフィリア』 社会福祉法人東京都社会福祉協議会『介護等体験マニュアルノート-社会福祉施設-』
参考書	
その他	授業の出席率が著しく低い場合：6月末までに4回以上欠席した場合、また、事務手続きに関して著しく問題がある場合には、体験中止になることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	214201
科目名	学習・発達論
担当者名	飯田 都

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間は、親兄弟、友人、そして教師といった、多くの他者との多面的なかかわりの中で成長し、「自己」を見つけつくりあげていきます。教職を志す者は他者の成長発達に深く関わる立場にあります。人の発達・学習に関わる基本的な心理学的知識を学び、学校教育の意義をはじめ、教師や大人に求められる資質、“教える”“学ぶ”ということの意味についての考えを深め、自らの役割を問い直していくことを目指します。
---------------------	---

授業スケジュール	前半においては主に発達分野に焦点を当て、人間が生来的に有している他の動物とは異なる発達の意味合いと、周囲の者からの関わり合いのもたらす意義について解説します。 後半の学習分野においては、学習行動の仕組み及び学習観の移り変わりについて言及すると共に、私たちが一般に抱いている学習にまつわる誤った信念について、学習心理学的知見をもとに考察を行います。
----------	--

<授業スケジュール>

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 発達・教育・学習の関連性
- 第3回 乳児期の発達
- 第4回 幼児期の発達
- 第5回 児童期の発達
- 第6回 青年期の発達
- 第7回 青年期の問題行動と理解
- 第8回 学習の理論と学習観の歴史的変遷
- 第9回 学習論(1) 有意味学習と機械的学習
- 第10回 学習論(2) 学習者の認知構造
- 第11回 学習論(3) 知識の種類と構造
- 第12回 学習論(4) 技能と知識の獲得
- 第13回 動機づけ(1) 内発的動機づけと外発的動機づけ
- 第14回 動機づけ(2) 学習者の原因帰属スタイルとパフォーマンスの関連性
- 第15回 学習障害・発達障害の理解

準備学習	参考図書や参照資料に目を通した上で授業に臨むと、より理解が深まります。
------	-------------------------------------

履修上の留意点	聴いたことを受身的に自らの思想とするのではなく、講義の内容にヒントを得て、自分自身の自分らしい考えを創り出していくことを期待しています。
---------	--

成績評価の方法	中間試験、期末試験、および毎授業ごとの課題の成果(単純な出席点ではありません)を総合して評価します。ただし、出席が基準に満たない場合には、単位の取得はできないと考えてください。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用しません。授業時に資料を配布します。
----------	------------------------

参考書	西林克彦 『間違いだらけの学習論』 新曜社 川島一夫 『図でよむ心理学「発達」』 福村出版
-----	--

履修コード	214601
科目名	学習・発達論
担当者名	飯田 都

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	人間は、親兄弟、友人、そして教師といった、多くの他者との多面的なかかわりの中で成長し、「自己」を見つけてつくりあげていきます。教職を志す者は他者の成長発達に深く関わる立場にあります。人の発達・学習に関わる基本的な心理学的知識を学び、学校教育の意義をはじめ、教師や大人に求められる資質、「教える」「学ぶ」ということの意味についての考えを深め、自らの役割を問い直していくことを目指します。
---------------------	--

授業スケジュール	前半においては主に発達分野に焦点を当て、人間が生来的に有している他の動物とは異なる発達の意味合いと、周囲の者からの関わり合いのもたらす意義について解説します。 後半の学習分野においては、学習行動の仕組み及び学習観の移り変わりについて言及すると共に、私たちが一般に抱いている学習にまつわる誤った信念について、学習心理学的知見をもとに考察を行います。
----------	--

<授業スケジュール>

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 発達・教育・学習の関連性
- 第3回 乳児期の発達
- 第4回 幼児期の発達
- 第5回 児童期の発達
- 第6回 青年期の発達
- 第7回 青年期の問題行動と理解
- 第8回 学習の理論と学習観の歴史的変遷
- 第9回 学習論(1) 有意義学習と機械的学習
- 第10回 学習論(2) 学習者の認知構造
- 第11回 学習論(3) 知識の種類と構造
- 第12回 学習論(4) 技能と知識の獲得
- 第13回 動機づけ(1) 内発的動機づけと外発的動機づけ
- 第14回 動機づけ(2) 学習者の原因帰属スタイルとパフォーマンスの関連性
- 第15回 学習障害・発達障害の理解

準備学習	参考図書や参照資料に目を通した上で授業に臨むと、より理解が深まります。
履修上の留意点	聴いたことを受身的に自らの思想とするのではなく、講義の内容にヒントを得て、自分自身の自分らしい考えを創り出していくことを期待しています。
成績評価の方法	中間試験、期末試験、および毎授業ごとの課題の成果(単純な出席点ではありません)を総合して評価します。ただし、出席が基準に満たない場合には、単位の取得はできないと考えてください。
教科書/テキスト	特に使用しません。授業時に資料を配布します。
参考書	西林克彦 『間違いだらけの学習論』 新曜社 川島一夫 『図でよむ心理学「発達」』 福村出版

履修コード	213901
科目名	学習・発達論
担当者名	大浜 幾久子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のように基本的な問題をめぐる諸研究を学び、21世紀の新しい教育観を考えてみたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：導入「6歳から学校教育が始まるのは何故だと思いますか？」</p> <p>第2～7回：発達段階理論をめぐって</p> <ol style="list-style-type: none"> ① エリクソンの発達段階 ② 生涯発達 ③ アイデンティティの形成 ④ ピアジェの認知発達段階 ⑤ 感覚運動知能から表象的思考へ ⑥ 前操作から操作的思考へ <p>第8～10回：発達と学習の理論 (言語習得から考える)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スキナーの行動分析学 ② チョムスキーの生成文法 ③ ピアジェの発生的心理学 <p>第11～14回：初期環境の貧困による発達遅滞・障害と回復</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事例研究 ② 愛着の成立 ③ 感覚運動知能と言語習得 ④ 学校教育の役割 <p>第15回：発達と学習と学校教育 (知育と徳育)</p>
----------	---

準備学習	毎回、次回のテーマに関わるリアクションペーパーを提出すること。
履修上の留意点	後期に同一時間の「教育課程論」を履修することを原則とします。
成績評価の方法	学期末のレポートを中心にした評価の予定。
教科書/テキスト	指定なし。
参考書	藤永保 他 (著) 『人間発達と初期環境』有斐閣 1987 他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。

履修コード	214001
科目名	学習・発達論
担当者名	大浜 幾久子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のように基本的な問題をめぐる諸研究を学び、21世紀の新しい教育観を考えてみたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：導入「6歳から学校教育が始まるのは何故だと思いますか？」</p> <p>第2～7回：発達段階理論をめぐって</p> <ol style="list-style-type: none"> ① エリクソンの発達段階 ② 生涯発達 ③ アイデンティティの形成 ④ ピアジェの認知発達段階 ⑤ 感覚運動知能から表象的思考へ ⑥ 前操作から操作的思考へ <p>第8～10回：発達と学習の理論 (言語習得から考える)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① スキナーの行動分析学 ② チョムスキーの生成文法 ③ ピアジェの発生的心理学 <p>第11～14回：初期環境の貧困による発達遅滞・障害と回復</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事例研究 ② 愛着の成立 ③ 感覚運動知能と言語習得 ④ 学校教育の役割 <p>第15回：発達と学習と学校教育 (知育と徳育)</p>
----------	---

準備学習	毎回、次回のテーマに関わるリアクションペーパーを提出すること。
履修上の留意点	後期に、同一時間の「教育課程論」を履修することを原則とします。
成績評価の方法	学期末のレポートを中心にした評価の予定。
教科書/テキスト	指定なし。
参考書	藤永保 他 (著) 『人間発達と初期環境』有斐閣 1987 他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。

履修コード	213801
科目名	学習・発達論
担当者名	川原 誠司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	●教育心理学において、「発達」と「学習」の要素は生徒に向き合う際に非常に重要なものである。本授業では、発達心理学や学習心理学を中心とした教育心理学の基礎的な知識を習得し、学校教員として生徒に向き合う場合にどのような活用できるかを実感してもらうことを目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	●正式なスケジュールは、授業期間や受講生数が定まってから、下記のもの（予定）を調整していきますので、必ず授業時の指示に従ってください。 第1回 性格と性格検査 (1) 第2回 性格と性格検査 (2) 第3回 知能と知能検査 第4回 さまざまな学習理論と教授法 第5回 学習者の動機 第6回 学習者の記憶や認知 第7回 教育評価と正確な評価を歪める要因 第8回 ピアジェの認知発達理論 第9回 ピアジェの理論の展開 第10回 フロイトの心理-性的発達理論 第11回 エリクソンの心理-社会的発達理論 (1) 第12回 エリクソンの心理-社会的発達理論 (2) 第13回 発達に関する遺伝と環境 第14回 愛着理論、学級集団の理解 第15回 まとめ
----------	---

準備学習	●毎回復習課題等が出されますので、それを行うこととなります。授業に関しては、話を聴く姿勢と授業に参加する態度とを求めます。
------	---

履修上の留意点	●最初の授業で受講人数を把握して、できるだけ班編制を行う予定ですので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。2回目以降からの参加は原則認めません。講義形式だけにどまらないようにさまざまな形態で授業を進めていくことを考えています。 ●本授業はe-Learning (YeStudy) を用いて予習、復習を実施するので、その操作の意志があること。 ●授業に出席すること、授業をしっかりと聴くことのみならず、班作業をはじめとした活動に物理的にも意識的にも参加すること。なお、携帯電話の使用は禁止しますのでカバンなどにしまってください (机に出したり、机の下で隠れて操作しないこと)。 ●授業の最初に出席を兼ねた確認小課題を実施しますので、事前の指示に従ってください。
---------	---

成績評価の方法	●「試験 (持ち込みは一切不可) + 平常点等」を考えています。 ●平常点等についての考えなどの詳細は、初回の授業に述べます。また、配点の比率については正式には授業を進めていく中で決定しますが、「試験 : 平常点等 = 10 : 3~4」くらいを考えています。
---------	---

教科書/テキスト	●特定の本一冊を使用する形をとらない予定です。しかし、毎週必要な文献を読んだり、調べてくる課題等が出ます。
----------	---

参考書	●必要なものがあれば、授業中に呈示します。
-----	-----------------------

その他	●「授業に出さえすれば教職単位は何とかなる」と思っている学生には決して向きませんので、履修登録の際には十分にご注意ください。
-----	--

履修コード	214301
科目名	学習・発達論
担当者名	角野 善司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>教育心理学は、教育場面において、教師が生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどのようにしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものである。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てて講義を進めていく。講義を通じて学び、考えたことを、生徒と接する際のヒントにしてほしい。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達の基本原理および発達に影響を及ぼす諸要因の働きについて理解を深める。 2. 人間の学習、とりわけ動機づけ過程について理解を深める。 3. 障害児の発達・学習の過程について理解を深める。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：教育心理学とは</p> <p>第2回：発達観の変遷 (1) 生涯発達</p> <p>第3回：発達観の変遷 (2) 社会・文化と人間発達</p> <p>第4回：発達の規定因 (1) 遺伝-環境論争</p> <p>第5回：発達の規定因 (2) 遺伝-環境論争 その後</p> <p>第6回：教育の最適期</p> <p>第7回：発達段階と発達課題</p> <p>第8回：学習への動機づけ</p> <p>第9回：内発的動機づけ</p> <p>第10回：原因帰属</p> <p>第11回：学習性無力感</p> <p>第12回：知的障害児の発達と学習</p> <p>第13回：肢体不自由児の発達と学習</p> <p>第14回：発達障害児の発達と学習</p> <p>第15回：まとめ</p>
----------	---

準備学習	前回の授業内容を十分に理解していなければ、次の授業は理解できない。毎回の小テストに合格するためにも、授業外学習を欠かさないこと。
------	--

履修上の留意点	この科目は、教職課程の科目として開講される。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨むように。
---------	---

成績評価の方法	<p>免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいかない。</p> <p>成績評価は、(1)平常点20点(毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況) (2)学期末テスト50点 (3)学期末レポート30点 の3つに基づいて行う。小テストは、授業で取り上げた内容から出題し、全問正解した場合に限り合格とする。合格した回数が授業回数数の半分に満たなければ、単位を付与しない。また、学期末テスト・学期末レポートについても、それぞれの評点が配点の5割に満たなければ単位を付与しない。</p>
---------	--

教科書/テキスト	使用しない。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進める。
----------	-----------------------------------

参考書	<p>太田信夫(編著) 『教育心理学概論』 放送大学教育振興会 2,415円 ISBN: 978-4-595-30901-4</p> <p>その他、講義の進行に合わせ、適時紹介する。</p>
-----	---

その他	YeStudyを活用する。
-----	---------------

履修コード	214401
科目名	学習・発達論
担当者名	角野 善司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 教育心理学は、教育場面において、教師が生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどのようなしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものである。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てて講義を進めていく。講義を通じて学び、考えたことを、生徒と接する際のヒントにしてほしい。</p> <p>(到達目標) 1. 人間の発達の基本原理および発達に影響を及ぼす諸要因の働きについて理解を深める。 2. 人間の学習、とりわけ動機づけ過程について理解を深める。 3. 障害児の発達・学習の過程について理解を深める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：教育心理学とは 第2回：発達観の変遷 (1) 生涯発達 第3回：発達観の変遷 (2) 社会・文化と人間発達 第4回：発達の規定因 (1) 遺伝-環境論争 第5回：発達の規定因 (2) 遺伝-環境論争 その後 第6回：教育の最適期 第7回：発達段階と発達課題 第8回：学習への動機づけ 第9回：内発的動機づけ 第10回：原因帰属 第11回：学習性無力感 第12回：知的障害児の発達と学習 第13回：肢体不自由児の発達と学習 第14回：発達障害児の発達と学習 第15回：まとめ</p>
----------	---

準備学習	前回の授業内容を十分に理解していなければ、次の授業は理解できない。毎回の小テストに合格するためにも、授業外学習を欠かさないこと。
------	--

履修上の留意点	この科目は、教職課程の科目として開講される。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨むように。
---------	---

成績評価の方法	<p>免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいかない。 成績評価は、(1)平常点20点 (毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況) (2)学期末テスト50点 (3)学期末レポート30点 の3つに基づいて行う。小テストは、授業で取り上げた内容から出題し、全問正解した場合に限り合格とする。合格した回数が授業回数の半分に満たなければ、単位を付与しない。また、学期末テスト・学期末レポートについても、それぞれの評点が配点の5割に満たなければ単位を付与しない。</p>
---------	---

教科書/テキスト	使用しない。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進める。
----------	-----------------------------------

参考書	<p>太田信夫 (編著) 『教育心理学概論』 放送大学教育振興会 2,415円 ISBN: 978-4-595-30901-4 その他、講義の進行に合わせ、適時紹介する。</p>
-----	---

その他	YeStudyを活用する。
-----	---------------

履修コード	214501
科目名	学習・発達論
担当者名	角野 善司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>教育心理学は、教育場面において、教師が生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどのようにしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものである。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てて講義を進めていく。講義を通じて学び、考えたことを、生徒と接する際のヒントにしてほしい。</p> <p>(到達目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達の基本原理および発達に影響を及ぼす諸要因の働きについて理解を深める。 2. 人間の学習、とりわけ動機づけ過程について理解を深める。 3. 障害児の発達・学習の過程について理解を深める。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：教育心理学とは</p> <p>第2回：発達観の変遷 (1) 生涯発達</p> <p>第3回：発達観の変遷 (2) 社会・文化と人間発達</p> <p>第4回：発達の規定因 (1) 遺伝-環境論争</p> <p>第5回：発達の規定因 (2) 遺伝-環境論争 その後</p> <p>第6回：教育の最適期</p> <p>第7回：発達段階と発達課題</p> <p>第8回：学習への動機づけ</p> <p>第9回：内発的動機づけ</p> <p>第10回：原因帰属</p> <p>第11回：学習性無力感</p> <p>第12回：知的障害児の発達と学習</p> <p>第13回：肢体不自由児の発達と学習</p> <p>第14回：発達障害児の発達と学習</p> <p>第15回：まとめ</p>
----------	---

準備学習	前回の授業内容を十分に理解していなければ、次の授業は理解できない。毎回の小テストに合格するためにも、授業外学習を欠かさないこと。
------	--

履修上の留意点	この科目は、教職課程の科目として開講される。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨むように。
---------	---

成績評価の方法	<p>免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいかない。</p> <p>成績評価は、(1)平常点20点(毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況) (2)学期末テスト50点 (3)学期末レポート30点 の3つに基づいて行う。小テストは、授業で取り上げた内容から出題し、全問正解した場合に限り合格とする。合格した回数が授業回数で半分に満たなければ、単位を付与しない。また、学期末テスト・学期末レポートについても、それぞれの評点が配点の5割に満たなければ単位を付与しない。</p>
---------	---

教科書/テキスト	使用しない。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進める。
----------	-----------------------------------

参考書	<p>太田信夫(編著) 『教育心理学概論』 放送大学教育振興会 2,415円 ISBN: 978-4-595-30901-4</p> <p>その他、講義の進行に合わせ、適時紹介する。</p>
-----	---

その他	YeStudyを活用する。
-----	---------------

履修コード	214101
科目名	学習・発達論
担当者名	藤原 善美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、発達と学習の心理学を、体系的に学習します。「発達」とは、人がその誕生、あるいは受胎から死亡するまでの間に示す身体的、行動的、認知的な変化のことです。発達の諸理論におけるキーワードにふれながら、基礎的な知識の理解を目指します。また、経験による比較的永続的な行動変化のことをさす「学習」について、主な学習理論や動機づけ理論を学び、学校教育への応用を考えることを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション (本講義の目的、概要、構成)</p> <p>第2回：学習 (1) (古典的条件づけ)</p> <p>第3回：学習 (2) (道具的条件づけ)</p> <p>第4回：学習 (3) (観察学習)</p> <p>第5回：学習理論の応用 (行動療法、認知行動療法)</p> <p>第6回：動機づけ (1) (動機づけとは、統制感、原因帰属、学習性無力感)</p> <p>第7回：動機づけ (2) (内発的動機づけ、外発的動機づけ)</p> <p>第8回：動機づけ (3) (様々な動機づけ理論、欲求の階層説)</p> <p>第9回：情動の理論</p> <p>第10回：発達 (発達理論、言語の発達、認知の発達)</p> <p>第11回：発達 (社会的行動の発達、パーソナリティーの発達)</p> <p>第12回：胎生期・乳児期・幼児期</p> <p>第13回：児童期・青年期</p> <p>第14回：成人期から老年期を含む生涯発達</p> <p>第15回：特別支援教育 (学習障害、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群)</p> <p>定期試験</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	学習意欲の高い学生の受講を望みます。
成績評価の方法	成績は、学期末試験の結果により評価します。試験を受けない限り、評価の対象にはなりません。3分の1以上 (6回以上) 欠席した場合は、評価の対象外とします。
教科書/テキスト	特に指定しません。参考文献は、必要に応じて授業に応じて授業中に紹介します。
参考書	

履修コード	344001
科目名	学習・発達論
担当者名	藤原 善美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、発達と学習の心理学を、体系的に学習します。「発達」とは、人がその誕生、あるいは受胎から死亡するまでの間に示す身体的、行動的、認知的な変化のことです。発達の諸理論におけるキーワードにふれながら、基礎的な知識の理解を目指します。また、経験による比較的永続的な行動変化のことをさす「学習」について、主な学習理論や動機づけ理論を学び、学校教育への応用を考えることを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション (本講義の目的、概要、構成)</p> <p>第2回：学習 (1) (古典的条件づけ)</p> <p>第3回：学習 (2) (道具的条件づけ)</p> <p>第4回：学習 (3) (観察学習)</p> <p>第5回：学習理論の応用 (行動療法、認知行動療法)</p> <p>第6回：動機づけ (1) (動機づけとは、統制感、原因帰属、学習性無力感)</p> <p>第7回：動機づけ (2) (内発的動機づけ、外発的動機づけ)</p> <p>第8回：動機づけ (3) (様々な動機づけ理論、欲求の階層説)</p> <p>第9回：情動の理論</p> <p>第10回：発達 (発達理論、言語の発達、認知の発達)</p> <p>第11回：発達 (社会的行動の発達、パーソナリティーの発達)</p> <p>第12回：胎生期・乳児期・幼児期</p> <p>第13回：児童期・青年期</p> <p>第14回：成人期から老年期を含む生涯発達</p> <p>第15回：特別支援教育 (学習障害、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群)</p> <p>定期試験</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	学習意欲の高い学生の受講を望みます。
成績評価の方法	成績は、学期末試験の結果により評価します。試験を受けない限り、評価の対象にはなりません。3分の1以上 (6回以上) 欠席した場合は、評価の対象外とします。
教科書/テキスト	特に指定しません。参考文献は、必要に応じて授業に応じて授業中に紹介します。
参考書	

履修コード	088101
科目名	学習指導と学校図書館
担当者名	松尾 不二夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業の概要) 学校図書館は教育課程と深く結びついている。学校では知識や技能を習得する系統型学習と自らの課題を解決する課題探求型学習の両方が行なわれている。生涯学習の基礎となる自己教育力の育成のためには課題探求型学習は欠かせない。その学習を学校図書館はどう支援するのか、また教師に対するサービスや支援はどうあるべきか、その方法を学ぶ。
---------------------	--

	(到達目標) この科目の到達目標は、学校図書館と教育課程との関連、学校図書館の学習活動への日常的なかかわり方、学校図書館が保有している多様なメディアの提供の仕方や教師に対するサービス・支援のあり方についての基本的な知識・方法を学校図書館の現状を踏まえて習得する。いわゆる、児童生徒が主体的に学校図書館メディアを利用して学習するメディア活用能力の育成をするための具体的な方法の習得にある。
--	--

授業スケジュール	1 ガイダンス (1) 講義予定と評価等について説明する。 (2) 教育実習をする学生が提出する実習校の図書館見学レポートについて説明する。 2 I 教育課程の展開と学校図書館①～理念と目的～ 3 教育課程の展開と学校図書館②～法律・法規・施策等～ 4 II 教育課程の編成と学校図書館①～学習指導要領にみる学校図書館の記述の変遷～ 5 教育課程の編成と学校図書館②～新学習指導要領と学校図書館～ 6 III メディア活用能力の育成①～指導の意義と指導内容～ 7 メディア活用能力の育成②～指導方法と課題探求型学習～ 8 IV メディア活用能力の育成の実際①～テーマの決め方と情報のさがし方～ 9 メディア活用能力の育成の実際②～情報の集め方と情報の記録の仕方、まとめ方～ 10 メディア活用能力の育成の実際③～指導体系と著作権～ 11 メディア活用能力の育成の実際④～小学校・中学校・高等学校の実例～ 12 V 学校図書館における情報サービス 13 ビデオ 14 VI 教師への支援と働きかけ 15 全体のまとめ
----------	---

準備学習	前もって配られた資料は必ず読んでおくこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	講義回数の70%以上出席でき、積極的な姿勢で授業に臨める学生。 教育実習をする学生は教育実習校の図書館を見学しレポートを提出する。 (詳細はガイダンスで説明する。)
---------	--

成績評価の方法	【平常点・レポート・提出物(30%)】、【試験(70%)】を総合して評価する。 ただし、出席が不足する場合は評価の対象外となる。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。随時プリントを配布。
----------	--------------------

参考書	「シリーズ学校図書館学」編集委員会編『学習指導と学校図書館』 (全国学校図書館協議会 1,600円 ISBN978-4-7933-2244-0)
-----	---

その他	講義・ビデオ
-----	--------

履修コード	088201
科目名	学習指導と学校図書館
担当者名	松尾 不二夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業の概要) 学校図書館は教育課程と深く結びついている。学校では知識や技能を習得する系統型学習と自らの課題を解決する課題探求型学習の両方が行なわれている。生涯学習の基礎となる自己教育力の育成のためには課題探求型学習は欠かせない。その学習を学校図書館はどう支援するのか、また教師に対するサービスや支援はどうあるべきか、その方法を学ぶ。
---------------------	--

(到達目標)
この科目の到達目標は、学校図書館と教育課程との関連、学校図書館の学習活動への日常的なかかわり方、学校図書館が保有している多様なメディアの提供の仕方や教師に対するサービス・支援のあり方についての基本的な知識・方法を学校図書館の現状を踏まえて習得する。いわゆる、児童生徒が主体的に学校図書館メディアを利用して学習するメディア活用能力の育成をするための具体的な方法の習得にある。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義予定と評価等について説明する。 (2) 教育実習をする学生が提出する実習校の図書館見学レポートについて説明する。 2 I 教育課程の展開と学校図書館①～理念と目的～ 3 教育課程の展開と学校図書館②～法律・法規・施策等～ 4 II 教育課程の編成と学校図書館①～学習指導要領にみる学校図書館の記述の変遷～ 5 教育課程の編成と学校図書館②～新学習指導要領と学校図書館～ 6 III メディア活用能力の育成①～指導の意義と指導内容～ 7 メディア活用能力の育成②～指導方法と課題探求型学習～ 8 IV メディア活用能力の育成の実際①～テーマの決め方と情報のさがし方～ 9 メディア活用能力の育成の実際②～情報の集め方と情報の記録の仕方、まとめ方～ 10 メディア活用能力の育成の実際③～指導体系表と著作権～ 11 メディア活用能力の育成の実際④～小学校・中学校・高等学校の実例～ 12 V 学校図書館における情報サービス 13 ビデオ 14 VI 教師への支援と働きかけ 15 全体のまとめ
----------	--

準備学習	前もって配られた資料は必ず読んでおくこと。
------	-----------------------

履修上の留意点	講義回数の70%以上出席でき、積極的な姿勢で授業に臨める学生。 教育実習をする学生は教育実習校の図書館を見学しレポートを提出する。 (詳細はガイダンスで説明する。)
---------	--

成績評価の方法	【平常点・レポート・提出物(30%)】、【試験(70%)】を総合して評価する。 ただし、出席が不足する場合は評価の対象外となる。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。随時プリントを配布。
----------	--------------------

参考書	「シリーズ学校図書館学」編集委員会編『学習指導と学校図書館』 (全国学校図書館協議会 1,600円 ISBN978-4-7933-2244-0)
-----	---

その他	講義・ビデオ
-----	--------

履修コード	086901
科目名	学校経営と学校図書館
担当者名	松尾 不二夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この授業は、学校図書館の総論にあたる。学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学習・情報センター、読書センターとしての機能を併せ持つ学校図書館の運営方法・学校図書館の活動や司書教諭の職責等、学校図書館の活動の全般について学ぶ。
---------------------	---

(到達目標)
この授業の到達目標は、学校教育の中核となるべき学校図書館の理念や教育行政との関わりを理解し、学習・情報センター、読書センターとしての学校図書館の経営のあり方、司書教諭の職務、学校図書館のメディアの選択と収集の方法等、学校図書館全般にわたる活動の基本的な知識の習得にある。さらに、他の館種を含めた図書館ネットワーク、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性等司書教諭の研鑽なくして充実した学校図書館はありえないという基本的な知識の習得にある。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校経営と学校図書館の授業の前に (ガイダンス) <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義予定と評価等について説明する。 (2) 提出物の「読書郵便」の書き方と選書についての説明をする。 2 I 学校図書館の理念と教育的意義 3 II 教育行政と学校図書館①～明治・大正・昭和・戦前の図書館事情～ 4 教育行政と学校図書館②～戦後から学校図書館法の成立まで～ 5 III 学校図書館法の内容と学校図書館の役割 6 IV 学校図書館の経営 7 V 司書教諭の任務と職責と校内協力体制 8 VI 学校図書館メディアの構築①～学校図書館メディアについて～ 9 学校図書館メディアの構築②～学校図書館メディアの選択と収集～ 10 VII 学校図書館の現状と課題(学校図書館調査報告) 11 VIII 学校図書館の施設・設備と備品 12 IX 図書館の相互協力とネットワーク 13 ビデオ 14 X 学校図書館の評価 15 全体のまとめ
----------	---

準備学習	前もって配布された資料は読んでおくこと。
------	----------------------

履修上の留意点	講義回数の70%以上出席ができ、積極的な姿勢で授業に臨める学生。教育実習をする学生は、実習校の学校図書館を見学しレポートを提出することになる。(詳細はガイダンスで説明する。)
---------	---

成績評価の方法	【定期試験(70%)】、【平常点・レポート・提出物(30%)】を総合して評価する。ただし、講義回数の30%以上の欠席がある場合は評価の対象外となる。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない。随時プリントを配布。
----------	--------------------

参考書	シリーズ「学校図書館学」編集委員会編『学校経営と学校図書館』(全国学校図書館協議会 1,600円) ISBN978-4-7933-2242-6 全国学校図書館協議会編『司書教諭の任務と職務』(全国学校図書館協議会 2,800円) ISBN4-7933-0048-0
-----	---

その他	講義・ビデオ
-----	--------

履修コード	087001
科目名	学校経営と学校図書館
担当者名	松尾 不二夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>この授業は、学校図書館の総論にあたる。学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学習・情報センター、読書センターとしての機能を併せ持つ学校図書館の運営方法・学校図書館の活動や司書教諭の職責等、学校図書館の活動の全般について学ぶ。</p>
---------------------	--

到達目標	<p>(到達目標)</p> <p>この授業の到達目標は、学校教育の中核となるべき学校図書館の理念や教育行政との関わりを理解し、学習・情報センター、読書センターとしての学校図書館の経営のあり方、司書教諭の職務、学校図書館のメディアの選択と収集の方法等、学校図書館全般にわたる活動の基本的な知識の習得にある。さらに、他の館種を含めた図書館ネットワーク、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性等司書教諭の研鑽なくして充実した学校図書館はありえないという基本的な知識の習得にある。</p>
------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校経営と学校図書館の授業の前に (ガイダンス) <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義予定と評価等について説明する。 (2) 提出物の「読書郵便」の書き方と選書についての説明をする。 2 I 学校図書館の理念と教育的意義 3 II 教育行政と学校図書館①～明治・大正・昭和・戦前の図書館事情～ 4 教育行政と学校図書館②～戦後から学校図書館法の成立まで～ 5 III 学校図書館法の内容と学校図書館の役割 6 IV 学校図書館の経営 7 V 司書教諭の任務と職責と校内協力体制 8 VI 学校図書館メディアの構築①～学校図書館メディアについて～ 9 学校図書館メディアの構築②～学校図書館メディアの選択と収集～ 10 VII 学校図書館の現状と課題(学校図書館調査報告) 11 VIII 学校図書館の施設・設備と備品 12 IX 図書館の相互協力とネットワーク 13 ビデオ 14 X 学校図書館の評価 15 全体のまとめ
----------	---

準備学習	前もって配布された資料は読んでおくこと。
------	----------------------

履修上の留意点	<p>講義回数の70%以上出席ができ、積極的な姿勢で授業に臨める学生。 教育実習をする学生は、実習校の学校図書館を見学しレポートを提出することになる。 (詳細はガイダンスで説明する。)</p>
---------	--

成績評価の方法	【定期試験(70%)】、【平常点・レポート・提出物(30%)】を総合して評価する。ただし、講義回数の30%以上の欠席がある場合は評価の対象外となる。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない。随時プリントを配布。
----------	--------------------

参考書	<p>シリーズ「学校図書館学」編集委員会編『学校経営と学校図書館』(全国学校図書館協議会 1,600円) ISBN978-4-7933-2242-6 全国学校図書館協議会編『司書教諭の任務と職務』(全国学校図書館協議会 2,800円 ISBN4-7933-0048-0)</p>
-----	--

その他	講義・ビデオ
-----	--------

履修コード	087601
科目名	学校図書館メディアの構成
担当者名	笠川 昭治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を旨すとともに、司書教諭としての基本的な知識を獲得することを目的とする。</p> <p>(1) 高度情報社会における学習環境の変化にともなうメディアの教育的意義と役割、各種メディアの種類と特性を説明する。</p> <p>(2) 学校図書館メディアの構築のために、資料・情報の選択と収集・提供することの意義について学ぶ。</p> <p>(3) メディアの組織化に関しては、その目的・意義とプロセスを理解する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館メディアとは何か 2. メディアの構成と選択 (1) 3. メディアの構成と選択 (2) 4. 図書の選択 (1) 5. 図書の選択 (2) 6. 逐次刊行物の選択 7. 学校図書館とマンガ 8. 出版流通 9. 選択ツールと予約制度 10. メディアの分類 11. メディアの整理と装備 12. 目録の作成 13. メディアの配架 14. 学校図書館のレイアウト 15. コンピュータによる学校図書館の運営
----------	--

準備学習	・ベストセラーや話題の本について授業の中で取り扱うので、出版情報等について情報を収集すること。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	レポート (2回出題) 50%、平常点50%とする。
---------	----------------------------

教科書/テキスト	使用しない。毎回プリントを配布する。
----------	--------------------

参考書	
-----	--

履修コード	087501
科目名	学校図書館メディアの構成
担当者名	源 昌久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る事を目的としている。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本講義のオリエンテーション 2) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク 3) 分類法 (表) の解説 4) 『日本十進分類法』の使用法 (1) 5) 『日本十進分類法』の使用法 (2) 6) 同演習 (1) 7) 同演習 (2) 8) 『日本目録規則』の使用法 (1) 9) 『日本目録規則』の使用法 (2) 10) 同演習 (1) 11) 同演習 (2) 13) 資料組織の機械化 14) 多様な学習環境と学校図書館メディアの配置 15) まとめ、考査
----------	--

準備学習	普段の日常生活においても、分類・目録概念がいかになされているかを注意しておいて下さい。
------	---

履修上の留意点	予習・復習をしっかりと行ってほしい。特に、問題演習は、十二分に理解に努めて下さい。
---------	---

成績評価の方法	平常点および試験 (考査) の成績を併せて評価する。 学期内に2回程、小テストを実施予定。
---------	--

教科書/テキスト	『日本十進分類法 改訂9版』 (日本図書館協会) セット定価6,000円
----------	--------------------------------------

参考書	『日本目録規則 1987年版 改訂3版』 (日本図書館協会) 3,675円
-----	---------------------------------------

その他	必要に応じて、DVD, ビデオを活用する。
-----	-----------------------

履修コード	065101 065102
科目名	家庭福祉論
担当者名	武山 梅乗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本の現代家族が抱える諸問題を女性、子ども、高齢者という切り口から概観した上で、〈家庭福祉〉の限界を指摘し、〈家族〉という枠組みを超えて地域、行政、NPO、企業等を巻き込みながら展開される〈家庭福祉〉の可能性について受講生一人ひとりが模索できるようになることを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	I. 家庭福祉の視点 第1回：家庭福祉の視点、第2回：世帯構造と核家族化、第3～4回：家族制度とは、第5回：核家族の機能と構造、第6回：家族周期とライフコース、第7回：イエ制度、第8回：〈近代家族〉とは II. 女性と家庭福祉 第9～11回：フェミニズムからみた家族-母性、専業主婦、中絶、第12～13回：女性労働と育児、第14回：一人親家庭の諸問題、第15回：夫婦別姓と婚姻の意義 III. 子どもと家庭福祉 第16～17回：児童福祉の体系にみる〈子ども〉観、第18回：消費としての子育てと〈地域〉における子育て、第19～20回：児童虐待と家庭 IV. 高齢者と家庭福祉 第21回：ライフサイクルの変化にみる高齢者の諸問題、第22～23回：家族と高齢者介護、第24～25回：高齢者にとっての居住福祉、第26回：高齢者虐待 V. 国家・地域と家庭福祉 第27回：日本における家族政策と福祉国家論、第28回：在宅福祉と地域 VI. 民間社会福祉と家庭福祉 第29回：家庭福祉の市場性、第30回：非営利セクターと家庭福祉-配食サービスを事例として
----------	--

準備学習	講義に入る以前の学習としては、とにかく日本における現代家族に興味をもち、国勢調査や国民生活基礎調査といった統計で世帯構造等について調べておくことを望みます。講義開始以降は、配布する講義レジュメに掲載してある課題をできれば事前に学習しておくことを期待します。
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席状況を勘案した上で、講義期間中に数回提出を求める課題（2割）、夏休み明けに提出を求める小レポート（3割）、学年末の定期試験（5割）から総合的に評価します。
---------	---

教科書／テキスト	教科書は特に指定しません。随時配布するプリントに従って講義を進めます。
----------	-------------------------------------

参考書	参考書は講義期間中に随時紹介します。
-----	--------------------

履修コード	214901
科目名	教育課程論
担当者名	大浜 幾久子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	はじめに、学生自身が学んできた小学校、中学校、高等学校における教育課程がどのように編成されていたのかを、当該の学習指導要領により考える。次に、新しい教育課程を学び、その背景にある基本的考え方について考察していく。とくに教科・科目等の具体的内容の再編については、子どもの発達と学習の観点からの考察を深めたい。さらに、諸外国における学習課程の歴史や編成原理について、異文化間教育的な観点から検討を試みる。その際、潜在的カリキュラムにも注目することとする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：日本の学校制度と学校カリキュラムの歴史 第2回：「学習指導要領」の変遷 第3回：新しい「学習指導要領」 第4回：学生が学んだ小学校の「学習指導要領」と教科書 第5回：学生が学んだ中学校の「学習指導要領」と教科書 第6回：学生が学んだ高等学校の「学習指導要領」と教科書 第7回：小学校「算数」のカリキュラム（幼稚園・幼児教育との連携） 第8回：「国語」と「外国語」のカリキュラム（言語教育と文学教育） 第9回：小学校から「英語」を始めることの是非（小学校・中学校教育の連携） 第10回：「総合的な学習の時間」 第11回：総合学習を展開する学校 第12回：学校制度とカリキュラムの国際比較 ①フランスの学校制度とカリキュラム 第13回：学校制度とカリキュラムの国際比較 ②国際共通教科書作成の試み 第14回：学校制度とカリキュラムの国際比較 ③隠れたカリキュラムと教師文化 第15回：カリキュラム論（付：レポートの作成法）
----------	---

準備学習	毎回、次回のテーマに関わるリアクションペーパーを提出すること。
------	---------------------------------

履修上の留意点	前期に、同一時間の「学習・発達論」を履修することを原則とします。
---------	----------------------------------

成績評価の方法	期末のレポート提出を中心とした評価の予定。
---------	-----------------------

教科書／テキスト	指定なし。
----------	-------

参考書	『（小学校・中学校・高等学校）学習指導要領』（文部科学省） その他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。
-----	---

履修コード	215001
科目名	教育課程論
担当者名	大浜 幾久子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	はじめに、学生自身が学んできた小学校、中学校、高等学校における教育課程がどのように編成されていたのかを、当該の学習指導要領により考える。次に、新しい教育課程を学び、その背景にある基本的考え方について考察していく。とくに教科・科目等の具体的内容の再編については、子どもの発達と学習の観点からの考察を深めたい。さらに、諸外国における学習課程の歴史や編成原理について、異文化間教育学的な観点から検討を試みる。その際、潜在的カリキュラムにも注目することとする。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：日本の学校制度と学校カリキュラムの歴史</p> <p>第2回：「学習指導要領」の変遷</p> <p>第3回：新しい「学習指導要領」</p> <p>第4回：学生が学んだ小学校の「学習指導要領」と教科書</p> <p>第5回：学生が学んだ中学校の「学習指導要領」と教科書</p> <p>第6回：学生が学んだ高等学校の「学習指導要領」と教科書</p> <p>第7回：小学校「算数」のカリキュラム（幼稚園・幼児教育との連携）</p> <p>第8回：「国語」と「外国語」のカリキュラム（言語教育と文学教育）</p> <p>第9回：小学校から「英語」を始めることの是非（小学校・中学校教育の連携）</p> <p>第10回：「総合的な学習の時間」</p> <p>第11回：総合学習を展開する学校</p> <p>第12回：学校制度とカリキュラムの国際比較 ①フランスの学校制度とカリキュラム</p> <p>第13回：学校制度とカリキュラムの国際比較 ②国際共通教科書作成の試み</p> <p>第14回：学校制度とカリキュラムの国際比較 ③隠れたカリキュラムと教師文化</p> <p>第15回：カリキュラム論（付：レポートの作成法）</p>
----------	--

準備学習	毎回、次回のテーマに関わるリアクションペーパーを提出すること。
履修上の留意点	前期に、同一時間の「学習・発達論」を履修することを原則とします。
成績評価の方法	期末のレポート提出を中心とした評価の予定。
教科書／テキスト	指定なし。
参考書	『（小学校・中学校・高等学校）学習指導要領』（文部科学省） その他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。

履修コード	214801
科目名	教育課程論
担当者名	川原 誠司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ●カリキュラム (教育課程) というものは、学習にあたって陽に陰に必要なものと言え、その形式的な組み立てや整理は、効果的な学習においては欠かせないものと言える。しかし、その一方で「仏作って魂入れず」というような形骸化したものに終わってしまえば、無用の長物ともなる危険性ははらんでいる。カリキュラムとはどのような意味を持ち、どのような考えで行われ、今の日本ではどのように設定され、諸外国ではどのようになっているか、といったことを学ぶ。
---------------------	--

授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ●正式なスケジュールは、授業期間や受講生数が定まってから、下記のもの (予定) を調整していきますので、必ず授業時の指示に従ってください。 第1回 初回ガイダンス 第2回 カリキュラムの原理と類型 (1) 第3回 カリキュラムの原理と類型 (2) 第4回 目に見えないカリキュラムとカリキュラムに関連した教授方法 第5回 日本での教育課程 (主に学習指導要領) に関する歴史の変遷 (1) 第6回 日本での教育課程 (主に学習指導要領) に関する歴史の変遷 (2) 第7回 学習指導要領の精読 (1) 第8回 学習指導要領の精読 (2) 第9回 学習指導要領の精読 (3) 第10回 学習指導要領の精読 (4) 第11回 学習指導要領の精読 (5) 第12回 学習指導要領の精読 (6) 第13回 「私のカリキュラム」作成 第14回 他国の教育制度とカリキュラム 第15回 まとめ
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ●毎週復習課題が課されます。授業においては、話を聴く姿勢と授業に参加する態度が求められます。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●最初の授業で受講人数を把握して、できるだけ班編制を行う予定ですので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。2回目以降からの参加は原則認めません。講義形式だけにとどまらないようにさまざまな形態で授業を進めていくことを考えています。 ●本授業はe-Learning (YeStudy) を用いて予習、復習を実施するので、その操作の意志があること。 ●授業に出席すること、授業をしっかりと聴くことのみならず、班作業をはじめとした活動に物理的にも意識的にも参加すること。なお、携帯電話の使用は禁止しますのでカバンなどにしまってください (机に出したり、机の下で隠れて操作しないこと)。 ●授業の最初に出席を兼ねた確認小課題を実施しますので、事前の指示に従ってください。
---------	--

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ●「試験+平常点等」を考えています。 ●平常点等についての考えなどの詳細は、初回の授業に述べます。また、配点の比率については正式には授業を進めていく中で決定しますが、「試験：平常点等=10：3~4」くらいを考えています。
---------	---

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領の部分に関しては、中学校と高等学校の学習指導要領 (総則編) を教科書にします。 ●毎週必要な文献を読んだり、調べてくる課題等が出ます。
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ●必要なものがあれば、授業中に呈示します。
-----	---

その他	<ul style="list-style-type: none"> ●履修登録の際には、上記の説明を読んでください。「授業に出さえすれば教職単位は何かなる」と思っている学生には決して向きませんので、十分に注意してください。
-----	---

履修コード	215201
科目名	教育課程論
担当者名	杉山 二季
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本授業は、カリキュラムや子どもの学習をめぐる理論や知見を理解すること、授業実践を観察・検討するための多様な観点を身につけること、子どもの学びを豊かにするためのカリキュラムデザインについて考察することを目指すものである。これらの学習を通して、皆さんがこれまでに授業を受ける立場から築いてきた教育観・授業観・教師観を見直し、授業を組み立てる教師の立場から考えられるようになってほしい。
授業スケジュール	<p>講義は受講者の理解を踏まえながら、以下のスケジュールで進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) カリキュラムとは何か (2) カリキュラムの理論 1：子ども中心主義のカリキュラム (3) カリキュラムの理論 2：効率主義のカリキュラム (4) カリキュラムの理論 3：認知・学習科学にもとづくカリキュラム (5) 授業と学習 1：授業ビデオ視聴 (6) 授業と学習 2：授業の検討 (7) 日本の近現代カリキュラム史 1：明治期から戦前まで (8) 日本の近現代カリキュラム史 2：学習指導要領の変遷 (9) 日本の近現代カリキュラム史 3：新しい学習指導要領 (10) 学力と知識：「ゆとり」教育の再考 (11) かくれたカリキュラム 1：かくれたカリキュラムとは何か (12) かくれたカリキュラム 2：ジェンダー (13) かくれたカリキュラム 3：階級・階層・人種 (14) まとめ (15) 補論
準備学習	講義はワークシートを用いながら進めるので、講義中に理解できなかった部分や用語などがあつた場合には、配布プリント、参考資料などをもとに自分で調べておくことよ。
履修上の留意点	授業は講義形式で進めるが、受動的に聞くだけでなく能動的に考えながら参加してほしい。
成績評価の方法	<p>本授業は免許・資格取得に関わる科目であるため、評価は厳正に行う。</p> <p>授業への参加（出席カードと授業中の課題の提出状況）と期末のレポート試験の内容によって評価する。授業中の課題とは、その日の講義を聞いて考えたことや感じたことを書くものであり、全講義中に2～3回程度課す。期末レポート試験は講義内容を踏まえた記述式の課題であり、課題の意味の理解、事実の正確な把握、構成力、表現力等を総合的に評価する。</p> <p>なお、出席が全講義回数数の3分の2に満たない場合は不可とする。</p>
教科書／テキスト	教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	<p>文部科学省「（小学校・中学校・高等学校）学習指導要領」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm そのほかの参考資料については講義中に適宜紹介する。</p>

履修コード 215601

科目名 教育課程論

担当者名 杉山 二期

授業概要/
到達目標 (ねらい)

本授業は、カリキュラムや子どもの学習をめぐる理論や知見を理解すること、授業実践を観察・検討するための多様な観点を身につけること、子どもの学びを豊かにするためのカリキュラムデザインについて考察することを目指すものである。これらの学習を通して、皆さんがこれまでに授業を受ける立場から築いてきた教育観・授業観・教師観を見直し、授業を組み立てる教師の立場から考えられるようになってほしい。

授業スケジュール

講義は受講者の理解を踏まえながら、以下のスケジュールで進める予定である。

- (1) カリキュラムとは何か
- (2) カリキュラムの理論 1：子ども中心主義のカリキュラム
- (3) カリキュラムの理論 2：効率主義のカリキュラム
- (4) カリキュラムの理論 3：認知・学習科学にもとづくカリキュラム
- (5) 授業と学習 1：授業ビデオ視聴
- (6) 授業と学習 2：授業の検討
- (7) 日本の近現代カリキュラム史 1：明治期から戦前まで
- (8) 日本の近現代カリキュラム史 2：学習指導要領の変遷
- (9) 日本の近現代カリキュラム史 3：新しい学習指導要領
- (10) 学力と知識：「ゆとり」教育の再考
- (11) かくれたカリキュラム 1：かくれたカリキュラムとは何か
- (12) かくれたカリキュラム 2：ジェンダー
- (13) かくれたカリキュラム 3：階級・階層・人種
- (14) まとめ
- (15) 補論

準備学習

講義はワークシートを用いながら進めるので、講義中に理解できなかった部分や用語などがあった場合には、配布プリント、参考資料などをもとに自分で調べておくとよい。

履修上の留意点

授業は講義形式で進めるが、受動的に聞くだけでなく能動的に考えながら参加してほしい。

成績評価の方法

本授業は免許・資格取得に関わる科目であるため、評価は厳正に行う。
授業への参加（出席カードと授業中の課題の提出状況）と期末のレポート試験の内容によって評価する。授業中の課題とは、その日の講義を聞いて考えたことや感じたことを書くものであり、全講義中に2～3回程度課す。期末レポート試験は講義内容を踏まえた記述式の課題であり、課題の意味の理解、事実の正確な把握、構成力、表現力等を総合的に評価する。
なお、出席が全講義回数数の3分の2に満たない場合は不可とする。

教科書／テキスト

教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布する。

参考書

文部科学省「（小学校・中学校・高等学校）学習指導要領」
{http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm}
そのほかの参考資料については講義中に適宜紹介する。

履修コード	215301
科目名	教育課程論
担当者名	角野 善司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 教育課程(カリキュラム)の編成・実施を中心テーマとして取り上げ、それが生徒の学習をどのように規定し、導いていくかを検討していく。この科目での学習をもとに、これからの教育がどのような教育課程で行われていくべきかを、各自考えてほしい。</p> <p>(到達目標) 1. 教育課程に関する基本理論・概念について理解を深める。 2. 各学校で編成・実施される教育課程と、その基準となる学習指導要領について理解を深める。</p>
授業スケジュール	<p>第1回：教育課程の意義 第2回：教育課程に関する法制 第3回：教育課程編成の原則 第4回：学習指導要領改訂の歴史 第5回：平成10年学習指導要領改訂 (1) 中央教育審議会第一次答申(平成8年7月) 第6回：平成10年学習指導要領改訂 (2) 教育課程審議会答申(平成10年7月) 第7回：平成10年学習指導要領改訂 (3) 改訂の要点 第8回：平成15年学習指導要領一部改正 (1) 「学びのすすめ」、学力向上アクションプラン 第9回：平成15年学習指導要領一部改正 (2) 中央教育審議会答申(平成15年10月) 第10回：平成15年学習指導要領一部改正 (3) 一部改正の要点 第11回：平成20年学習指導要領改訂 (1) PISA, TIMSS / 教育基本法改正 第12回：平成20年学習指導要領改訂 (2) 中央教育審議会における審議経過と教育再生会議 第13回：平成20年学習指導要領改訂 (3) 改訂の要点 第14回：平成20年学習指導要領改訂 (4) 平成20年改訂学習指導要領の下での教科書および学習評価 第15回：まとめ</p>
準備学習	前回の授業内容を十分に理解していなければ、次の授業は理解できない。毎回の小テストに合格するためにも、授業外学習を欠かさないこと。
履修上の留意点	この科目は、教職課程の科目として開講される。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えという主体的な態度で臨むように。
成績評価の方法	<p>免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいかない。 成績評価は、(1)平常点20点(毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況) (2)学期末テスト50点 (3)学期末レポート30点 の3つに基づいて行う。小テストは、授業で取り上げた内容から出題し、全問正解した場合に限り合格とする。合格した回数が授業回数(15回)の半分に満たなければ、単位を付与しない。また、学期末テスト・学期末レポートについても、それぞれの評点が配点の5割に満たなければ単位を付与しない。</p>
教科書/テキスト	<p>日本教材システム編集部 『ひと目でわかる2色刷 中学校学習指導要領新旧対照表 平成10年版×平成20年版』 教育出版 1,260円 ISBN 978-4-316-80257-2 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編 平成20年9月』 ぎょうせい 137円 ISBN 978-4-324-90002-4</p>
参考書	講義の進行に合わせ、適時紹介する。
その他	YeStudyを活用する。

履修コード	215401
科目名	教育課程論
担当者名	角野 善司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 教育課程 (カリキュラム) の編成・実施を中心テーマとして取り上げ、それが生徒の学習をどのように規定し、導いていくかを検討していく。この科目での学習をもとに、これからの教育がどのような教育課程で行われていくべきかを、各自考えてほしい。</p> <p>(到達目標) 1. 教育課程に関する基本理論・概念について理解を深める。 2. 各学校で編成・実施される教育課程と、その基準となる学習指導要領について理解を深める。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：教育課程の意義 第2回：教育課程に関する法制 第3回：教育課程編成の原則 第4回：学習指導要領改訂の歴史 第5回：平成10年学習指導要領改訂 (1) 中央教育審議会第一次答申 (平成8年7月) 第6回：平成10年学習指導要領改訂 (2) 教育課程審議会答申 (平成10年7月) 第7回：平成10年学習指導要領改訂 (3) 改訂の要点 第8回：平成15年学習指導要領一部改正 (1) 「学びのすすめ」、学力向上アクションプラン 第9回：平成15年学習指導要領一部改正 (2) 中央教育審議会答申 (平成15年10月) 第10回：平成15年学習指導要領一部改正 (3) 一部改正の要点 第11回：平成20年学習指導要領改訂 (1) PISA, TIMSS / 教育基本法改正 第12回：平成20年学習指導要領改訂 (2) 中央教育審議会における審議経過と教育再生会議 第13回：平成20年学習指導要領改訂 (3) 改訂の要点 第14回：平成20年学習指導要領改訂 (4) 平成20年改訂学習指導要領の下での教科書および学習評価 第15回：まとめ</p>
----------	---

準備学習	前回の授業内容を十分に理解していなければ、次の授業は理解できない。毎回の小テストに合格するためにも、授業外学習を欠かさないこと。
------	--

履修上の留意点	この科目は、教職課程の科目として開講される。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨むように。
---------	---

成績評価の方法	<p>免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいかない。</p> <p>成績評価は、(1)平常点20点 (毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況) (2)学期末テスト50点 (3)学期末レポート30点 の3つに基づいて行う。小テストは、授業で取り上げた内容から出題し、全問正解した場合に限り合格とする。合格した回数が授業回数の半分に満たなければ、単位を付与しない。また、学期末テスト・学期末レポートについても、それぞれの評点が配点の5割に満たなければ単位を付与しない。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>日本教材システム編集部 『ひと目でわかる2色刷 中学校学習指導要領新旧対照表 平成10年版×平成20年版』 教育出版 1,260円 ISBN 978-4-316-80257-2 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編 平成20年9月』 ぎょうせい 137円 ISBN 978-4-324-90002-4</p>
----------	---

参考書	講義の進行に合わせて、適時紹介する。
-----	--------------------

その他	YeStudyを活用する。
-----	---------------

履修コード	215501
科目名	教育課程論
担当者名	角野 善司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 教育課程 (カリキュラム) の編成・実施を中心テーマとして取り上げ、それが生徒の学習をどのように規定し、導いていくかを検討していく。この科目での学習をもとに、これからの教育がどのような教育課程で行われていくべきかを、各自考えてほしい。</p> <p>(到達目標) 1. 教育課程に関する基本理論・概念について理解を深める。 2. 各学校で編成・実施される教育課程と、その基準となる学習指導要領について理解を深める。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：教育課程の意義 第2回：教育課程に関する法制 第3回：教育課程編成の原則 第4回：学習指導要領改訂の歴史 第5回：平成10年学習指導要領改訂 (1) 中央教育審議会第一次答申 (平成8年7月) 第6回：平成10年学習指導要領改訂 (2) 教育課程審議会答申 (平成10年7月) 第7回：平成10年学習指導要領改訂 (3) 改訂の要点 第8回：平成15年学習指導要領一部改正 (1) 「学びのすすめ」、学力向上アクションプラン 第9回：平成15年学習指導要領一部改正 (2) 中央教育審議会答申 (平成15年10月) 第10回：平成15年学習指導要領一部改正 (3) 一部改正の要点 第11回：平成20年学習指導要領改訂 (1) PISA, TIMSS / 教育基本法改正 第12回：平成20年学習指導要領改訂 (2) 中央教育審議会における審議経過と教育再生会議 第13回：平成20年学習指導要領改訂 (3) 改訂の要点 第14回：平成20年学習指導要領改訂 (4) 平成20年改訂学習指導要領の下での教科書および学習評価 第15回：まとめ</p>
----------	---

準備学習	前回の授業内容を十分に理解していなければ、次の授業は理解できない。毎回の小テストに合格するためにも、授業外学習を欠かさないこと。
------	--

履修上の留意点	この科目は、教職課程の科目として開講される。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのはもちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨むように。
---------	---

成績評価の方法	<p>免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいかない。 成績評価は、(1)平常点20点 (毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況) (2)学期末テスト50点 (3)学期末レポート30点 の3つに基づいて行う。小テストは、授業で取り上げた内容から出題し、全問正解した場合に限り合格とする。合格した回数が授業回数の半分に満たなければ、単位を付与しない。また、学期末テスト・学期末レポートについても、それぞれの評点が配点の5割に満たなければ単位を付与しない。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>日本教材システム編集部 『ひと目でわかる2色刷 中学校学習指導要領新旧対照表 平成10年版×平成20年版』 教育出版 1,260円 ISBN 978-4-316-80257-2 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 総則編 平成20年9月』 ぎょうせい 137円 ISBN 978-4-324-90002-4</p>
----------	---

参考書	講義の進行に合わせ、適時紹介する。
-----	-------------------

その他	YeStudyを活用する。
-----	---------------

履修コード 215101

科目名 教育課程論

担当者名 藤原 善美

授業概要/
到達目標 (ねらい)

教育内容の全体的計画である教育課程(カリキュラム)について、授業=学習過程のなかでの特徴や、教育目的・教育方法との関連性を、日本の教育制度に基づいて学ぶことを目的とします。また、学校教育の実際、および発達障害の特徴と特別支援教育についての理解を目指し、教育現場の諸問題について、どのような解釈、対処があるかを考えるきっかけとなれればと思います

授業スケジュール

授業計画

第1回：カリキュラムとは何か
第2回：日本の教育制度(1)明治前期における近代学校創設と教育課程の確立
第3回：日本の教育制度(2)明治後期から大正期にかけての教育課程の近代化
第4回：日本の教育制度(3)昭和戦時下の教育課程
第5回：日本の教育制度(4)戦後の民主主義社会の形成を目的とする経験主義的教育課程への転換
第6回：日本の教育制度(5)現代日本の教育課程の歩み
第7回：学習指導要領
第8回：教授法(1)発見学習・受容学習
第9回：教授法(2)プログラム学習・適正処遇相互作用
第10回：教育評価(1)評価の基準
第11回：教育評価(2)評価の方法、よいテストとは？
第12回：教育評価(3)知能を知るテスト、性格を知るテスト
第13回：学級(1)教師と生徒の関係
第14回：学級(2)生徒間の関係
第15回：学校教育の実際と今後の課題
定期試験

準備学習

特になし。

履修上の留意点

学習意欲の高い学生の受講を望みます。

成績評価の方法

成績は、学期末試験の結果により評価します。試験を受けない限り、評価の対象にはなりません。3分の1以上(6回以上)欠席した場合は、評価の対象外とします。

教科書/テキスト

特に指定しません。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。

参考書

履修コード 344101

科目名 教育課程論

担当者名 藤原 善美

授業概要/
到達目標 (ねらい)

教育内容の全体的計画である教育課程(カリキュラム)について、授業=学習過程のなかでの特徴や、教育目的・教育方法との関連性を、日本の教育制度に基づいて学ぶことを目的とします。また、学校教育の実際、および発達障害の特徴と特別支援教育についての理解を目指し、教育現場の諸問題について、どのような解釈、対処があるかを考えるきっかけとなれればと思います

授業スケジュール

授業計画

第1回：カリキュラムとは何か
第2回：日本の教育制度(1)明治前期における近代学校創設と教育課程の確立
第3回：日本の教育制度(2)明治後期から大正期にかけての教育課程の近代化
第4回：日本の教育制度(3)昭和戦時下の教育課程
第5回：日本の教育制度(4)戦後の民主主義社会の形成を目的とする経験主義的教育課程への転換
第6回：日本の教育制度(5)現代日本の教育課程の歩み
第7回：学習指導要領
第8回：教授法(1)発見学習・受容学習
第9回：教授法(2)プログラム学習・適正処遇相互作用
第10回：教育評価(1)評価の基準
第11回：教育評価(2)評価の方法、よいテストとは？
第12回：教育評価(3)知能を知るテスト、性格を知るテスト
第13回：学級(1)教師と生徒の関係
第14回：学級(2)生徒間の関係
第15回：学校教育の実際と今後の課題
定期試験

準備学習

特になし。

履修上の留意点

学習意欲の高い学生の受講を望みます。

成績評価の方法

成績は、学期末試験の結果により評価します。試験を受けない限り、評価の対象にはなりません。3分の1以上(6回以上)欠席した場合は、評価の対象外とします。

教科書/テキスト

特に指定しません。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。

参考書

履修コード	085101
科目名	教育関係法規
担当者名	村元 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この講義は主に以下の目的の下に行うこととします。</p> <p>一つは、皆さんが教職に就くにあたり、必要な法規の知識を身につけることです。日本の教育制度が法によって規定されている以上、「法律のことはよくわからないので」といって、違法な教育活動を行うわけにはいきません。教育に関する法を学ぶということは、法の重要条文をマスターすればいいということだけではなく、条文の解釈や裁判所の判断（判例）を学ぶことも必要となります。この講義ではこれらのうちで特に重要な事項について取り上げることとします。</p> <p>もう一つは、現行法規の概要を踏まえたことを前提として、それらの問題点や課題について考察することです。このことで、教育の在り方等について考え、それに照らして現行法規を知識として吸収するにとどまらず、その在り方について考察することにつなげていきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 教育関係法規を学ぶにあたっての法律の基礎 3. 教育関係法規の全体像 (1) 4. 教育関係法規の全体像 (2) 5. 日本の教育法制の歴史 (1) 6. 日本の教育法制の歴史 (2) 7. 憲法・教育基本法制 (1) 8. 憲法・教育基本法制 (2) 9. 学校教育法制 (1) 10. 学校教育法制 (2) 11. 教育行政 (1) 12. 教育行政 (2) 13. 教員の免許制度や人事制度 (1) 14. 教員の免許制度や人事制度 (2) 15. 前期のまとめ 16. 子どもの権利について 17. 校則 (1) 18. 校則 (2) 19. 懲戒 (1) 20. 懲戒 (2) 21. いじめ (1) 22. いじめ (2) 23. 学校災害 (1) 24. 学校災害 (2) 25. 保護者対応 (1) 26. 保護者対応 (2) 27. 教育情報公開 28. その他の現代的課題 (1) 29. その他の現代的課題 (2) 30. まとめ
----------	---

準備学習	<p>まず基本的な姿勢として、新聞等で教育をめぐる最新の動向を常に把握しておくことが重要です。</p> <p>こちらの方で、予習や復習を特に指示はしませんが、授業を理解し、さらに考察を深めるために、自発的な予習・復習が期待されていることはいうまでもありません。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>履修にあたっての重要事項は初回のガイダンスで説明するので、初回授業には必ず出席してください。万一出席できない場合、友人などに確認できるようにしておいてください。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>年度末の試験によって評価することを原則とします (100%)。</p> <p>また、授業ごとに小レポート (授業の感想、意見、質問など) を提出してもらいます。これは機械的に点数化しませんが、提出状況や内容によっては、評価の際に考慮する場合があります。</p>
---------	---

教科書/テキスト	『解説教育六法2012』三省堂 現時点での価格等不明
----------	----------------------------

参考書	姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法』三省堂、税別2800円、ISBN978-4-385-32312-1
-----	---

履修コード	085201
科目名	教育関係法規
担当者名	村元 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この講義は主に以下の目的の下に行うこととします。</p> <p>一つは、皆さんが教職に就くにあたり、必要な法規の知識を身につけることです。日本の教育制度が法によって規定されている以上、「法律のことはよくわからないので」といって、違法な教育活動を行うわけにはいきません。教育に関する法を学ぶということは、法の重要条文をマスターすればいいということだけではなく、条文の解釈や裁判所の判断（判例）を学ぶことも必要となります。この講義ではこれらのうちで特に重要な事項について取り上げることとします。</p> <p>もう一つは、現行法規の概要を踏まえたことを前提として、それらの問題点や課題について考察することです。このことで、教育の在り方等について考え、それに照らして現行法規を知識として吸収するにとどまらず、その在り方について考察することにつなげていきます。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 教育関係法規を学ぶにあたっての法律の基礎 3. 教育関係法規の全体像 (1) 4. 教育関係法規の全体像 (2) 5. 日本の教育法制の歴史 (1) 6. 日本の教育法制の歴史 (2) 7. 憲法・教育基本法制 (1) 8. 憲法・教育基本法制 (2) 9. 学校教育法制 (1) 10. 学校教育法制 (2) 11. 教育行政 (1) 12. 教育行政 (2) 13. 教員の免許制度や人事制度 (1) 14. 教員の免許制度や人事制度 (2) 15. 前期のまとめ 16. 子どもの権利について 17. 校則 (1) 18. 校則 (2) 19. 懲戒 (1) 20. 懲戒 (2) 21. いじめ (1) 22. いじめ (2) 23. 学校災害 (1) 24. 学校災害 (2) 25. 保護者対応 (1) 26. 保護者対応 (2) 27. 教育情報公開 28. その他の現代的課題 (1) 29. その他の現代的課題 (2) 30. まとめ
----------	---

準備学習	<p>まず基本的な姿勢として、新聞等で教育をめぐる最新の動向を常に把握しておくことが重要です。こちらの方で、予習や復習を特に指示はしませんが、授業を理解し、さらに考察を深めるために、自発的な予習・復習が期待されていることはいうまでもありません。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>履修にあたっての重要事項は初回のガイダンスで説明するので、初回授業には必ず出席してください。万一出席できない場合、友人などに確認できるようにしておいてください。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>年度末の試験によって評価することを原則とします (100%)。また、授業ごとに小レポート (授業の感想、意見、質問など) を提出してもらいます。これは機械的に点数化しませんが、提出状況や内容によっては、評価の際に考慮する場合があります。</p>
---------	---

教科書/テキスト	『解説教育六法2012』三省堂 現時点での価格等不明
----------	----------------------------

参考書	姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法』三省堂、税別2800円、ISBN978-4-385-32312-1
-----	---

履修コード	212301
科目名	教育基礎論
担当者名	伊藤 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・授業概要 私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。</p> <p>・到達目標 学校教育という制度全般と日本における学校教育について、その歴史的な来歴と機能を理解すること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 本講義の目的と内容説明 第2回 学校教育という制度 第3回 学校という空間 第4回 学校教育の機能(1) 社会化 第5回 学校教育の機能(2) 選抜と配分 第6回 学校教育の機能(3) 正当化 第7回 近代日本の学校教育-森有礼の構想 第8回 明治期における学校の誕生 第9回 学校教育への民衆の態度(1) 学校破壊と反発 第10回 学校教育への民衆の態度(2) 立身出世 第11回 学校教育への民衆の態度(3) 学歴主義の誕生 第12回 戦前から戦後へ(1) 複線型と単線型の学校系統 第13回 戦前から戦後へ(2) 進学率の上昇 第14回 戦前から戦後へ(3) 学校と家庭の関係 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業に積極的に参加すること。
成績評価の方法	学期末試験 (80%)、課題 (10%)、平常点 (10%)。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	212401
科目名	教育基礎論
担当者名	伊藤 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・授業概要 私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。</p> <p>・到達目標 学校教育という制度全般と日本における学校教育について、その歴史的な来歴と機能を理解すること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 本講義の目的と内容説明 第2回 学校教育という制度 第3回 学校という空間 第4回 学校教育の機能(1) 社会化 第5回 学校教育の機能(2) 選抜と配分 第6回 学校教育の機能(3) 正当化 第7回 近代日本の学校教育-森有礼の構想 第8回 明治期における学校の誕生 第9回 学校教育への民衆の態度(1) 学校破壊と反発 第10回 学校教育への民衆の態度(2) 立身出世 第11回 学校教育への民衆の態度(3) 学歴主義の誕生 第12回 戦前から戦後へ(1) 複線型と単線型の学校系統 第13回 戦前から戦後へ(2) 進学率の上昇 第14回 戦前から戦後へ(3) 学校と家庭の関係 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業に積極的に参加すること。
成績評価の方法	学期末試験 (80%)、課題 (10%)、平常点 (10%)。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	212701
科目名	教育基礎論
担当者名	伊藤 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・授業概要 私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。</p> <p>・到達目標 学校教育という制度全般と日本における学校教育について、その歴史的な来歴と機能を理解すること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 本講義の目的と内容説明 第2回 学校教育という制度 第3回 学校という空間 第4回 学校教育の機能(1) 社会化 第5回 学校教育の機能(2) 選抜と配分 第6回 学校教育の機能(3) 正当化 第7回 近代日本の学校教育-森有礼の構想 第8回 明治期における学校の誕生 第9回 学校教育への民衆の態度(1) 学校破壊と反発 第10回 学校教育への民衆の態度(2) 立身出世 第11回 学校教育への民衆の態度(3) 学歴主義の誕生 第12回 戦前から戦後へ(1) 複線型と単線型の学校系統 第13回 戦前から戦後へ(2) 進学率の上昇 第14回 戦前から戦後へ(3) 学校と家庭の関係 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業に積極的に参加すること。
成績評価の方法	学期末試験(80%)、課題(10%)、平常点(10%)。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	212101
科目名	教育基礎論
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 「教育」という営みへの理解を深めつつ、近代的な教育思想・理念の諸相とその特徴を理解する。</p> <p>到達目標 受講者が教育の歴史的な流れを踏まえ、教育観を深めるとともに、それをどのように教育実践に活かしていったらよいのかも考えられるようになることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>教育の理念と歴史を総論的に扱った後、生活の中に教育機能が埋め込まれていた近代以前の間人形成のあり方と比較しながら、西洋近代の自覚的な教育理念や思想について考察する。さらに、日本の学校教育に大きな影響を与えてきた教育思想や理念のいくつかを、時代背景や教育実践との関係にも注意を払いながら検討する。</p> <p>スケジュールは、概ね次のようになる。</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) 講義のねらい・概要</td> <td>(2) 教育の理念と歴史(西洋を中心に)</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育の理念と歴史(東洋を中心に)</td> <td>(4) 遊牧民の生活と人間形成</td> </tr> <tr> <td>(5) 日本の伝統的な農村生活と人間形成</td> <td>(6) 江戸時代の教育機関</td> </tr> <tr> <td>(7) イタリアルネサンスの教育思想</td> <td>(8) 北方ルネサンスの教育思想</td> </tr> <tr> <td>(9) 「子供の発見」(近代的孩子観の成立)</td> <td>(10) ルソーの教育経験と『エミール』</td> </tr> <tr> <td>(11) ペスタロッチの教育思想と教育方法</td> <td>(12) モントリオール・システムと現代の学校</td> </tr> <tr> <td>(13) 公教育の思想</td> <td>(14) デューイの教育思想と実験学校</td> </tr> <tr> <td>(15) デューイの教育思想と現代(まとめとして)</td> <td></td> </tr> </table>	(1) 講義のねらい・概要	(2) 教育の理念と歴史(西洋を中心に)	(3) 教育の理念と歴史(東洋を中心に)	(4) 遊牧民の生活と人間形成	(5) 日本の伝統的な農村生活と人間形成	(6) 江戸時代の教育機関	(7) イタリアルネサンスの教育思想	(8) 北方ルネサンスの教育思想	(9) 「子供の発見」(近代的孩子観の成立)	(10) ルソーの教育経験と『エミール』	(11) ペスタロッチの教育思想と教育方法	(12) モントリオール・システムと現代の学校	(13) 公教育の思想	(14) デューイの教育思想と実験学校	(15) デューイの教育思想と現代(まとめとして)	
(1) 講義のねらい・概要	(2) 教育の理念と歴史(西洋を中心に)																
(3) 教育の理念と歴史(東洋を中心に)	(4) 遊牧民の生活と人間形成																
(5) 日本の伝統的な農村生活と人間形成	(6) 江戸時代の教育機関																
(7) イタリアルネサンスの教育思想	(8) 北方ルネサンスの教育思想																
(9) 「子供の発見」(近代的孩子観の成立)	(10) ルソーの教育経験と『エミール』																
(11) ペスタロッチの教育思想と教育方法	(12) モントリオール・システムと現代の学校																
(13) 公教育の思想	(14) デューイの教育思想と実験学校																
(15) デューイの教育思想と現代(まとめとして)																	

準備学習	特になし
履修上の留意点	この科目は教職の専門科目なので、新聞を読むなどして、日頃から教育への関心を高めることが望ましい。
成績評価の方法	平常点(30%)と学期末レポート(70%)による。
教科書/テキスト	John Dewey, "My Pedagogic Creed" (School Journal LIV, January, 1897) (コピーを配布する。講義で取り上げるその他の文献資料についても同様。)
参考書	教場で指示。

履修コード	212201
科目名	教育基礎論
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 「教育」という営みへの理解を深めつつ、近代的な教育思想・理念の諸相とその特徴を理解する。</p> <p>到達目標 受講者が教育の歴史的な流れを踏まえ、教育観を深めるとともに、それをどのように教育実践に活かしていったらよいのかも考えられるようになることを目指す。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>教育の理念と歴史を総論的に扱った後、生活の中に教育機能が埋め込まれていた近代以前の人間形成のあり方と比較しながら、西洋近代の自覚的な教育理念や思想について考察する。さらに、日本の学校教育に大きな影響を与えてきた教育思想や理念のいくつかを、時代背景や教育実践との関係にも注意を払いながら検討する。</p>
----------	--

- スケジュールは、概ね次のようになる。
- | | |
|----------------------------|------------------------|
| (1) 講義のねらい・概要 | (2) 教育の理念と歴史 (西洋を中心に) |
| (3) 教育の理念と歴史 (東洋を中心に) | (4) 遊牧民の生活と人間形成 |
| (5) 日本の伝統的な農村生活と人間形成 | (6) 江戸時代の教育機関 |
| (7) イタリアルネサンスの教育思想 | (8) 北方ルネサンスの教育思想 |
| (9) 「子供の発見」(近代的孩子観の成立) | (10) ルソーの教育経験と『エミール』 |
| (11) ペスタロッチの教育思想と教育方法 | (12) モントリアル・システムと現代の学校 |
| (13) 公教育の思想 | (14) デューイの教育思想と実験学校 |
| (15) デューイの教育思想と現代 (まとめとして) | |

準備学習	特になし
履修上の留意点	この科目は教職の専門科目なので、新聞を読むなどして、日頃から教育への関心を高めることが望ましい。
成績評価の方法	平常点 (30%) と学期末レポート (70%) による。
教科書/テキスト	John Dewey, "My Pedagogic Creed" (School Journal LIV, January, 1897) (コピーを配布する。講義で取り上げるその他の文献資料についても同様。)
参考書	教場で指示。

履修コード	212001
科目名	教育基礎論
担当者名	豊田 千代子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業では、まず、西洋と東洋の教育の理念と歴史について概説する。次に、有名な教育思想のいくつかを取り上げ、手仕事と教育との関係について考察する。最後に、生活の中に教育機能が組み込まれている職人の人間形成について具体的に学びながら、学校教育の特性と課題について考察していく。</p> <p>(到達目標) 教育の理念や思想及びそれらの歴史の流れを把握する。また、近代学校教育における手仕事の意味を理解するとともに、職人の人間形成のあり方と対比しつつ、学校教育の特質について理解する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第 1 回: ガイダンス (講義のねらい、概要等)</p> <p>第 2 回: 教育の理念と歴史 (1) 西洋の教育</p> <p>第 3 回: 教育の理念と歴史 (2) 東洋の教育</p> <p>第 4 回: 学校教育と手仕事 (1) ルソーの教育思想</p> <p>第 5 回: 学校教育と手仕事 (2) デューイの教育思想</p> <p>第 6 回: 学校教育と手仕事 (3) シュタイナーの教育思想</p> <p>第 7 回: 学校教育と手仕事 (4) ガンジーの教育思想</p> <p>第 8 回: 職人の仕事と人間形成—学校教育と比較して (1) 職人たちの手仕事</p> <p>第 9 回: 職人の仕事と人間形成—学校教育と比較して (2) 野鍛冶、柿葺き</p> <p>第 10 回: 職人の仕事と人間形成—学校教育と比較して (3) 杞柳細工、葛布織り</p> <p>第 11 回: 宮大工の修業</p> <p>第 12 回: 宮大工による弟子の育成</p> <p>第 13 回: 修業方法としての徒弟制度</p> <p>第 14 回: 人間形成と徒弟制度</p> <p>第 15 回: まとめ</p>
----------	---

準備学習	日頃から、新聞などの教育に関する記事に目を通しておくこと。
履修上の留意点	資料をもとに話し合いを行ったりするため、授業への主体的、積極的な参加が望まれる。
成績評価の方法	レポート70%、平常点 (授業内での発表・発言等) 30%。
教科書/テキスト	初回の授業時に指示する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	212501
科目名	教育基礎論
担当者名	萩原 建次郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本授業では、近代教育への批判的思考力を養うことと教育の本質とは何かを考えることがねらいである。 (到達目標) 第一に自分自身の教育体験を言語化することを通して対象化できるようになること。 第二に自身の体験と他者の体験を交流させながら、多様なものの見方に触れると共に、教育に対する自分の視点や考え方の傾向がどこにあるのかを対象化できるようになること。 第三に各自の体験知だけにとどまらず、暗黙のうちに解してきた「学習」「子ども」「発達」といった近代教育(学)の基礎概念を人間形成の本質構造と結びつけながら、より深く理解できるようにすること。
---------------------	---

授業スケジュール	①自らの教育体験をふりかえる(第1回～第3回) ②学習の基底としての<経験>の意味を問う(第4回～第6回) ③経験における<他者>の意味を問う(第7回～第9回) ④教育関係における他者の喪失と<他者>としての子ども(第10回～第12回) ⑤人間形成の思想としての<発達>という概念装置(第12回～第13回) ⑥学びの母胎としての<身体>(第14回～第15回)
----------	--

準備学習	シラバスで紹介しているテキストを参考に、積極的に教育に関する文献を購読しておくこと。
------	--

履修上の留意点	この授業は講義だけではなく、受講者自身の作業が多く含まれる参加型学習になっている。よって授業の質は各自の積極的な参加姿勢に大きくかかっていることを留意してほしい。また、コメントを毎回提出してもらおう。
---------	--

成績評価の方法	作品作成と提出30%、学期末レポート40%、小レポート/平常点30%を総合して評価する。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用しない。
----------	----------

参考書	高橋勝・望月重信他編著『最新教育キーワード』(時事通信社) 高橋勝編著『子ども・若者の自己形成空間』(東信堂) 清真人『創造の生へー小さいけれど別な空間を創るー』(はるか書房)
-----	--

履修コード	212601
科目名	教育基礎論
担当者名	山本 敏子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 教育についての見方・考え方(教育理念への理解)を深め、成長していく生きた人間の全体像に対する豊かな洞察に支えられて子どもたちと関わり合うことのできる実践力の養成を目指して、近代教育思想とその歴史にヒントを得ながら、教育の基礎理論を学びます。 (到達目標) 人間形成史における多様な教育の思想を知り、各自の人間観・教育観を深めることができる。
---------------------	--

授業スケジュール	近代の教育思想と学校教育(公教育)の歴史を人間形成史という大きな流れの中で押さえる一方、特に何人かの教育思想家に焦点を絞り、その思想を深く掘り下げて考察する予定です。 (1) 序「教育基礎論」への招待 (2) 子ども・若者の現在と教育(学)の課題 (3) 「教育」という概念と人間形成の歴史 (4) 近代公教育成立以前の人間形成の諸相 (5) 近代公教育の登場・普及と人間形成の変容 (6) 近代教育思想に学ぶ① コメニウス (7) 近代教育思想に学ぶ② ルソー (8) 近代教育思想に学ぶ③ ペスタロッチ、フレーベル (9) 近代教育思想に学ぶ④ コンドルセ、マン (10) 近代教育思想に学ぶ⑤ ヘルバルト (11) 近代教育思想に学ぶ⑥ シュタイナー (12) 近代教育思想に学ぶ⑦ デューイ (13) 教育における実践と省察① 学校教育の現在 (14) 教育における実践と省察② 実践例から考える (15) 全体のまとめ
----------	---

準備学習	毎回、次週の資料を配付するので、事前によく読んだ上で授業に参加してください。
------	--

履修上の留意点	初回に受講者の皆さんと相談の上、演習の要素を取り入れた参加型の授業にする場合があります。授業への意欲的な取り組みを期待いたします。
---------	---

成績評価の方法	レポート50%、平常点(授業内の小レポート・発表等)50%とします。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	特に使用せず、必要に応じて資料を配布します。
----------	------------------------

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

履修コード	343801
科目名	教育基礎論
担当者名	山本 敏子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 教育についての見方・考え(教育理念への理解)を深め、成長していく生きた人間の全体像に対する豊かな洞察に支えられて子どもたちと関わり合うことのできる実践力の養成を目指して、近代教育思想とその歴史にヒントを得ながら、教育の基礎理論を学びます。 (到達目標) 人間形成史における多様な教育の思想を知り、各自の人間観・教育観を深めることができる。
---------------------	---

授業スケジュール	近代の教育思想と学校教育(公教育)の歴史を人間形成史という大きな流れの中で押さえる一方、特に何人かの教育思想家に焦点を絞り、その思想を深く掘り下げて考察する予定です。 (1) 序「教育基礎論」への招待 (2) 子ども・若者の現在と教育(学)の課題 (3) 「教育」という概念と人間形成の歴史 (4) 近代公教育成立以前の人間形成の諸相 (5) 近代公教育の登場・普及と人間形成の変容 (6) 近代教育思想に学ぶ① コメニウス (7) 近代教育思想に学ぶ② ルソー (8) 近代教育思想に学ぶ③ ペスタロッチ、フレーベル (9) 近代教育思想に学ぶ④ コンドルセ、マン (10) 近代教育思想に学ぶ⑤ ヘルバルト (11) 近代教育思想に学ぶ⑥ シュタイナー (12) 近代教育思想に学ぶ⑦ デューイ (13) 教育における実践と省察① 学校教育の現在 (14) 教育における実践と省察② 実践例から考える (15) 全体のまとめ
----------	---

準備学習	毎回、次週の資料を配付するので、事前によく読んで上で授業に参加してください。
履修上の留意点	初回に受講者の皆さんと相談の上、演習の要素を取り入れた参加型の授業にする場合があります。授業への意欲的な取り組みを期待いたします。
成績評価の方法	レポート50%、平常点(授業内の小レポート・発表等)50%とします。
教科書/テキスト	特に使用せず、必要に応じて資料を配布します。
参考書	適宜紹介します。

履修コード	085801
科目名	教育史
担当者名	山本 敏子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 明治初年に西洋の近代学校システムが移入される以前、この日本列島の各地には広く民衆文化に支えられた教育システムが何世紀にもわたって豊かに息づいていました。文明の敗北ともいうべき大きな時代の転換期を迎えた今日、私たちが当たり前のものと思っている学校教育を相対化して考えるために、原始・古代から近代までの歴史時間の中で、子どもは家族や共同体の中でどのように育ち学んできたのかを見ていきます。その上で、現代教育を再考します。</p> <p>(到達目標) 広く人類史の視点から人間形成と教育の歩みを振り返ることで、今日の学校教育のもつ弱点や欠陥を把握し、よりよい教育実践や教育改革の方向性を見定めることができる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期：「歴史のなかの子ども・家族・共同体」に焦点化した日本教育史特殊講義 後期：「大きな時代の転換期の中で教育について再考する」をテーマに文献購読演習</p> <p>(1) 序「教育史」への招待 (2) 教育基礎論としての教育史の方法と課題 (3) 縄文・弥生時代の子ども・家族・共同体 (4) 「家」成立以前の古代社会における家族と子ども—古代の学舎との関わりで (5) 14-15世紀の社会史的・文化史的次元での大転換 (6) 絵巻物に見る中世「番匠」社会の労働体系と子ども (7) 「家」社会の形成と子どもへの眼差しの変化—中世・近世の学舎との関わりで (8) 近世・在郷商人にみる家族生活と子育て意識の展開 (9) 近世の生育儀礼と子返し・墮胎・捨子・貰子 (10) 幼時の「しつけ」と年齢階梯制教育システム (11) 労働・芸能の場の「しつけ」と徒弟制教育システム (12) 自叙伝に描かれた幕末維新期の子どもの生活経験 (13) 近代国民国家「日本」の創出と近代家族の形成—近代学校システムとの関わりで (14) 「家庭教育」の創出と「しつけ」の変容—「学校教育」のために (15) 前期のまとめと後期の文献購読の相談 (16) 後期の演習テーマの提示と発表の分担決め (17~18) 文明史の視点からの時代区分論と現代社会論 (19~25) ジュリアン・ジェインズ『双脳精神の崩壊による意識の誕生』を読む (26~29) 現代教育を再考する (30) 全体のまとめ</p>
----------	--

準備学習	前期については、適宜紹介する参考書を読んで授業に参加すると理解が深まります。後期の演習は、毎回テキストを必ず読んでくることを前提に進めます。
------	--

履修上の留意点	受講される皆さんの主体的な参加を期待いたします。
---------	--------------------------

成績評価の方法	レポート50%、平常点（授業内の小レポート・発表等）50%とします。
---------	------------------------------------

教科書／テキスト	<p>前期：宮本常一『家郷の訓』岩波文庫、1980年、840円 その他、必要に応じて資料を配布します。 後期：受講者の皆さんと相談の上、前期末に下記の他、幾つかの候補の中から決めます。 ジュリアン・ジェインズ（北村和夫訳）『意識の起源、構造、制約—「双脳精神」の成立、崩壊、痕跡という視点から見た精神の歴史—』（私家版）、2005年</p>
----------	--

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

履修コード	083601 083602
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	伊藤 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・授業概要 中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。</p> <p>・到達目標 教育実習生としてふさわしい態度を身につけるとともに、実習後はその体験を総括すること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>(1) 教育実習とは (2) 教育実習にあたっての心構え (3) 教育実習の実際 (4~7) 模擬授業 (8~12) 個別指導 (13~15) 実習の報告 (16~29) 実習の経験と教育現場が抱える問題（口頭発表、討論） (30) まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	第一回の授業で概要を説明する。第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。
---------	--

成績評価の方法	実習校からの評価（25%）、平常点（25%）、レポート（50%）
---------	----------------------------------

教科書／テキスト	使用しない。
----------	--------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	306201 306202
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	伊藤 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・ 授業概要 中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。</p> <p>・ 到達目標 教育実習生としてふさわしい態度を身につけるとともに、実習後はその体験を総括すること。</p>
授業スケジュール	(1) 教育実習とは (2) 教育実習にあたっての心構え (3) 教育実習の実際 (4~7) 模擬授業 (8~12) 個別指導 (13~15) 実習の報告 (16~29) 実習の経験と教育現場が抱える問題 (口頭発表、討論) (30) まとめ
準備学習	特になし。
履修上の留意点	第一回の授業で概要を説明する。第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は、事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者は履修は認められないので注意すること。
成績評価の方法	実習校からの評価 (25%)、平常点 (25%)、レポート (50%)
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	083201 083202
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	遠藤 司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>教職課程での学びの総仕上げとしての「教育実習」を意義深いものとするための学びをすることがこの授業の目的である。実習前には、実習に向けての準備を万全なものとするために、実習することの意義を理解し、具体的な準備をするための学びを行う。実習後には実習の体験をより深めるために、自らの実習体験を振り返りながら、教育についての様々な問いを共有し、参加者とともに考えを深め合うための学びを行う。以上のことを通して、教育実習を自らの人生の中での意義深い体験とすることが、この授業を通して目指されることとなる。</p>
授業スケジュール	<p>前期 1. ガイダンス：教育実習の基礎を学ぶ (1~2) 2. 事前準備のための学び (3~5) 3. 模擬授業・学習指導案作成 (6~11) 4. 教育実習の報告・振り返り (12~14) 5. 前期のまとめ (15)</p> <p>後期 1. 実習体験から発生した問いについて考える (16~25) 2. 教職課程での学びを振り返る (26~29) 3. 全体のまとめ (30)</p>
準備学習	教育実習に向けて必要な準備をきちんとしておくこと (学習指導案作成、授業準備等)
履修上の留意点	第一回の授業で概要を説明する。受講希望者は第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者はこの授業の履修を認めない (成績評価の対象としない)。また、後期授業の内容については後期授業一回で説明するので、こちらも必ず出席すること。「教育実習」という実際の活動を中心とした授業であるため、後期の事後指導の部分も含めて、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	実習校からの評価、実習ノートなどの実習の記録、授業への出席・参加度 (出席回数がない場合は成績評価の対象としない)、授業内及び学期末のレポート等を総合して評価する。
教科書/テキスト	特定の教科書は用いない。参考書は適宜紹介する。
参考書	

履修コード	083901 083902
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	遠藤 司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	教職課程での学びの総仕上げとしての「教育実習」を意義深いものとするための学びをすることがこの授業の目的である。実習前には、実習に向けての準備を万全なものとするために、実習することの意義を理解し、具体的な準備をするための学びを行う。実習後には実習の体験をより深めるために、自らの実習体験を振り返りながら、教育についての様々な問いを共有し、参加者とともに考えを深め合うための学びを行う。以上のことを通して、教育実習を自らの人生の中での意義深い体験とすることが、この授業を通して目指されることとなる。
---------------------	---

授業スケジュール	前期 1. ガイダンス：教育実習の基礎を学ぶ（1～2） 2. 事前準備のための学び（3～5） 3. 模擬授業・学習指導案作成（6～11） 4. 教育実習の報告・振り返り（12～14） 5. 前期のまとめ（15） 後期 1. 実習体験から発生した問いについて考える（16～25） 2. 教職課程での学びを振り返る（26～29） 3. 全体のまとめ（30）
----------	---

準備学習	教育実習に向けて必要な準備をきちんとしておくこと（学習指導案作成、授業準備等）
------	---

履修上の留意点	第一回の授業で概要を説明する。受講希望者は第一回の授業は必ず出席すること。やむを得ない理由で出席できない者は事前に必ず連絡をすること。事前に連絡なく第一回の授業を欠席した者はこの授業の履修を認めない（成績評価の対象としない）。また、後期授業の内容については後期授業第一回で説明するので、こちらも必ず出席すること。「教育実習」という実際の活動を中心とした授業であるため、後期の事後指導の部分も含めて、主体的・積極的に参加すること。
---------	--

成績評価の方法	実習校からの評価、実習ノートなどの実習の記録、授業への出席・参加度（出席回数がない場合は成績評価の対象としない）、授業内及び学期末のレポート等を総合して評価する。
---------	---

教科書／テキスト	特定の教科書は用いない。参考書は適宜紹介する。
----------	-------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	084151 084152
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	大浜 幾久子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中学校・高等学校における教育実習では、学生でありながら教師としての仕事を要求される。この難しい課題に取り組むにあたって必要とされる諸側面の準備をする。さらに実習を終えた時点で各人の体験を発表しあい、学校教育を教師の側からとらえるための討論を積み重ねていきたい。
---------------------	--

授業スケジュール	前期：①実習の概要（1～3）、②学習指導案作成・模擬授業（4～6）、③個別またはグループ指導（7～10）、④実習の報告（11～15）。 後期：学校教育をめぐる様々な論文を読み、討論を重ねる。とりあげる論文は、受講者の関心、提案により決定したい。なお、英語力を高めるために、英語論文の提案を歓迎する。（1～14）。まとめ（15）。
----------	---

準備学習	前年度までに、教職課程の科目をきちんと履修してきていることが必要。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	実習前に必須なのは教材研究を充実させることである。さらに、実習後の授業にも積極的な参加が必要である。
---------	--

成績評価の方法	①実習校からの評価、『実習ノート』等の実習記録、②授業への参加度、③学年末のレポート、を総合した評価。
---------	---

教科書／テキスト	使用しない。必要に応じ参考書や他の文献を紹介する。
----------	---------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	083501 083502
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 中学・高校での教育実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。実習生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、実習のための準備と、実習体験を他の人々と共有し深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、突り多いものとなるように、以下に述べるような様々なことを試みたい。また実習後は、教える立場から新たに見えてきた学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を考え合いたい。</p>
---------------------	--

到達目標
 実習校での教育実習が充実したものになること、また、実習を踏まえて、教育観が豊かになること。

授業スケジュール	<p>内容・スケジュールはおおむね以下の通り。 (1) 本授業について (2~3) 実習の概要と注意(ビデオを含む) (4~6) 学習指導案作成・発表 (7~10) 個別指導 (11~15) 実習の報告とディスカッション (16~29) 実習体験を深めるために、教育関係の雑誌論文等を読みあい、考えあう (内容は参加者と相談の上決定)</p> <p>(30) まとめ</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。
成績評価の方法	教育実習への取り組み (20%) 実習ノート・評価表などの実習の記録 (40%)、平常点 (学年末の小論文を含む) (40%)
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	084101 084102
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 中学・高校での教育実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。実習生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、実習のための準備と、実習体験を他の人々と共有し深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、突り多いものとなるように、以下に述べるような様々なことを試みたい。また実習後は、教える立場から新たに見えてきた学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を考え合いたい。</p>
---------------------	--

到達目標
 実習校での教育実習が充実したものになること、また、実習を踏まえて、教育観が豊かになること。

授業スケジュール	<p>内容・スケジュールはおおむね以下の通り。 (1) 本授業について (2~3) 実習の概要と注意(ビデオを含む) (4~6) 学習指導案作成・発表 (7~10) 個別指導 (11~15) 実習の報告とディスカッション (16~29) 実習体験を深めるために、教育関係の雑誌論文等を読みあい、考えあう (内容は参加者と相談の上決定)</p> <p>(30) まとめ</p>
----------	--

準備学習	特になし
履修上の留意点	実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。
成績評価の方法	教育実習への取り組み (20%) 実習ノート・評価表などの実習の記録 (40%)、平常点 (学年末の小論文を含む) (40%) による。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	083101 083102
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	豊田 千代子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中学・高校での教育実習では、実習生とはいえ教師であることを求められる。そこで、この授業では、実習のための準備を行う。また、実習後は、実習を通して見えてきた教育の様々な課題について考え合う。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付く。また、実習体験を通して、教育の諸課題についての理解が深まる。
---------------------	---

授業スケジュール	【前期】 (1) ガイダンス、実習の目的と意義、実習の心がまえ (2) 生徒指導、教科指導について (3) 学習指導案作成について (4~6) 模擬授業 (7~10) 個別指導 (11~15) 実習の報告 【後期】 (16) 教育の現状 (17~29) 教育をめぐる諸問題についての検討 (30) まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	初回に授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。ともに考え合うことを大事にする授業のため、主体的、積極的な参加が望まれる。
成績評価の方法	実習校からの評価・実習ノートなどの実習の記録25%、学期末のレポート50%、平常点25%。
教科書/テキスト	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	083801 083802
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	豊田 千代子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中学・高校での教育実習では、実習生とはいえ教師であることを求められる。そこで、この授業では、実習のための準備を行う。また、実習後は、実習を通して見えてきた教育の様々な課題について考え合う。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付く。また、実習体験を通して、教育の諸課題についての理解が深まる。
---------------------	---

授業スケジュール	【前期】 (1) ガイダンス、実習の目的と意義、実習の心がまえ (2) 生徒指導、教科指導について (3) 学習指導案作成について (4~6) 模擬授業 (7~10) 個別指導 (11~15) 実習の報告 【後期】 (16) 教育の現状 (17~29) 教育をめぐる諸問題についての検討 (30) まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	初回に授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。ともに考え合うことを大事にする授業のため、主体的、積極的な参加が望まれる。
成績評価の方法	実習校からの評価・実習ノートなどの実習の記録25%、学期末のレポート50%、平常点25%。
教科書/テキスト	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	083401 083402
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	萩原 建次郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 「教育実習Ⅰ・Ⅱ」は、教職課程で学んできたことの集大成として位置づいている。したがって、他科目よりも一層の高い志が求められる科目であり、＜準備し、実習し、共同で実践をふりかえること＞がセットとなって成り立っていることをしっかりと心に留めておいてほしい。</p> <p>前期は実習に向けてのしっかりとした準備を、実習では教師として子どもたち・若者たちと出会い、「教える」という経験を通して、教育的な営みを直に感じ取ってもらいたい。後期は実習経験の省察から、「教えること」「生徒にかかわること」「学ぶこと」などの意味を共に探求し、教師としての力量を高める場としたい。</p> <p>(到達目標) 事前指導・教育実習・事後指導の三つの柱を通し、教育の意味を自ら探究し、深くつかんでいく感性と知性を磨くこと。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要・履修および実習に当たっての注意事項・実習期間・実習校・連絡先の確認 教職課程事務室・資料室・指導案綴りの紹介 授業を研究・デザインする1 中学チーム・高校チームに分かれ、学習指導案と教材作成 2. 授業を研究・デザインする2 中学チーム・高校チームに分かれ、学習指導案と教材作成 3. 授業を研究・デザインする3 前回到引き続き学習指導案と教材作成をおこなう 4. 授業を研究・デザインする4 前回到引き続き学習指導案と教材作成をおこなう 5. 授業を研究・デザインする5 どのような授業を構想したのか、各チームでプレゼンテーションと相互評価 6. 授業をデザインする6 どのような授業を構想したのか、各チームでプレゼンテーションと相互評価 7. 授業をリデザインする1 他のチームの指導案と比較し、自分たちの指導案の課題と改善点を話し合う 8. ～12. 教育実習派遣・指導期間 ※ 実習後には2週間以内に各自実習のふりかえりレポート提出する。 13. 授業をリデザインする2 実習を経て、あらためて最初に作成した指導案との違い、改善点を話し合う 14. 教育実習をふりかえる 実習をふりかえり、気づいたことや学んだことを互いに語り聴く 15. 前期のふりかえりと後期にむけて 前期ふりかえりレポート・後期にむけたガイダンス 16. ～29. 実践を語り共にふりかえる 各実習生の実習体験をベースに事例研究を行なう。受講者自身の実習体験から事例を持ち寄り、生徒へのかかわり方や学習指導の在り方、いじめ・不登校、退学や地域と学校の関係など、多岐にわたる教育問題への理解を深め合う。それらを通じて教師としての心構えと教育への理解をより一層深める時間とする。 30. 一年間のふりかえりとレポート作成
----------	---

準備学習	<p>実習の準備について各自、自主的に指導案の作り方を研究するように。</p> <p>①過去3年間の実習生が行った研究授業の学習指導案綴りがあります。コピー可能です。場所は第一研究館5F 教職課程事務室・資料室です。</p> <p>※コピーを取るときは、実習生氏名・実習校名・指導教員名を付箋で伏せてください。</p> <p>※コピーの際には事務室に備え付けてあるノート(萩原先生と書いてある)にコピーカードがはさんであります。使用後は、ノートに日付・名前・学生番号・枚数・残り度数を記入し、すぐに返却してください。</p> <p>②教科書・学習指導要領などは資料室に備え付けられています。閲覧は自由ですが、持ち出しと貸し出しは禁止なので、コピーを取るか、自分で購入してください。</p> <p>教科書入手先：神保町の三省堂書店(半蔵門線神保町下車3分)が便利。</p> <p>③英語教育関係資料・学習指導要領・その他教職・教育実習関係資料などは萩原研究室(1504)にもあります。教科書以外は貸し出しも可能です。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>本授業は＜事前指導＞＜教育実習＞＜事後指導＞の3つがセットとなって構成されている点を留意すること。実習は学習の通過点であることを厳に心得て臨むこと。年間を通しての参加型授業のため、受講者の自律的・主体的な参加が求められる。そのため事前指導・事後指導の無断欠席、3分の1以上の不参加は単位として認められない点に気をつけるように。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>実習ノート・実習校からの評価50%、指導案作成・口頭発表・レポート25%、平常点25%で評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>教科書・テキストは適宜指示する。</p>
----------	-------------------------

参考書	<p>参考書は適宜指示する。</p>
-----	--------------------

履修コード	083701 083702
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	山本 敏子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 教職課程での学びの総仕上げとしての「教育実習」をより豊かなものとするために、実習前には実習のための準備に取り組むこと、実習後には実習の体験を他の実習者と共有しながら省察し課題を深めることを目的とします。教師としての仕事に求められる人間理解を相互に深め合い、子どもたちとの生命的な応答関係とはどのようなものかを考えていきたいと思えます。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付く。さらに、実習体験を深く省察し、教育現場における様々な課題を明確化することができる。
---------------------	---

授業スケジュール	前期：教育実習の意義や目的を理解し、その準備を行う 後期：教育実習の体験を相互に共有し、課題を深める (1) 序一授業の概要説明と進め方についての相談 (2) 教育実習の概要と心構え① 中学校 (3) 教育実習の概要と心構え② 高等学校 (4) 事前準備のための学び① 学習指導を中心に (5) 事前準備のための学び② 生徒指導を中心に (6～11) 学習指導案作成(教材研究を含む)と模擬授業、個別指導 (12～14) 教育実習の報告と課題の共有 (15) 前期のまとめ (16) 教育実践の場を取り巻く社会の諸問題 (17～23) 実習体験を想起・省察し、浮かび上がった課題を深める (24～29) 優れた教育実践の記録に学ぶ(文献購読を含む) (30) 全体のまとめ
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	教育実習という教師としての本番の仕事・現場に関わる授業なので、一年間を通して、無遅刻・無欠席は当たり前のことで真摯かつ謙虚な姿勢で授業に参加することが必要最低限の条件となります。初回の授業で概要を説明しますので、必ず、出席してください。
---------	--

成績評価の方法	教育実習への取り組み(実習校からの評価を含む)25%、実習ノート・レポート50%、平常点25%とします。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用せず、必要に応じて資料を配布します。
----------	------------------------

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

履修コード	084001 084002
科目名	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ
担当者名	山本 敏子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 教職課程での学びの総仕上げとしての「教育実習」をより豊かなものとするために、実習前には実習のための準備に取り組むこと、実習後には実習の体験を他の実習者と共有しながら省察し課題を深めることを目的とします。教師としての仕事に求められる人間理解を相互に深め合い、子どもたちとの生命的な応答関係とはどのようなものかを考えていきたいと思えます。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付く。さらに、実習体験を深く省察し、教育現場における様々な課題を明確化することができる。
---------------------	---

授業スケジュール	前期：教育実習の意義や目的を理解し、その準備を行う 後期：教育実習の体験を相互に共有し、課題を深める (1) 序一授業の概要説明と進め方についての相談 (2) 教育実習の概要と心構え① 中学校 (3) 教育実習の概要と心構え② 高等学校 (4) 事前準備のための学び① 学習指導を中心に (5) 事前準備のための学び② 生徒指導を中心に (6～11) 指導案作成(教材研究を含む)と模擬授業、個別指導 (12～14) 教育実習の報告と課題の共有 (15) 前期のまとめ (16) 教育実践の場を取り巻く社会の諸問題 (17～23) 実習体験を想起・省察し、浮かび上がった課題を深める (24～29) 優れた教育実践の記録に学ぶ(文献購読を含む) (30) 全体のまとめ
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	教育実習という教師としての本番の仕事・現場に関わる授業なので、一年間を通して、無遅刻・無欠席は当たり前のことで真摯かつ謙虚な姿勢で授業に参加することが必要最低限の条件となります。初回の授業で概要を説明しますので、必ず、出席してください。
---------	--

成績評価の方法	教育実習への取り組み(実習校からの評価を含む)25%、実習ノート・レポート50%、平常点25%とします。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用せず、必要に応じて資料を配布します。
----------	------------------------

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

履修コード	088051
科目名	教育実習指導
担当者名	伊藤 茂樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中学・高校での教育実習では、実習生とはいえ教師であることを求められる。そこで、この授業では、次年度に教育実習を行う学生を対象とし、実習のための準備を行う。 (到達目標) 教育実習に向けて意識を高め、実習に必要なことがらを身に付けること。
授業スケジュール	(1~2) 教育実習の目的と意義、教育実習の心がまえ等 (3~14) 授業研究：学習指導案作成および模擬授業、生徒指導等 (15) まとめ
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回に授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 次年度の教育実習に向けた授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	レポート50%、平常点(学習指導案作成・模擬授業等)50%。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
その他	授業の出席率が著しく低い場合：5回以上欠席した場合には、次年度の実習ができなくなることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	088021
科目名	教育実習指導
担当者名	遠藤 司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中学・高校での教育実習では、実習生とはいえ教師であることを求められる。そこで、この授業では、次年度に教育実習を行う学生を対象とし、実習のための準備を行う。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付く。
授業スケジュール	(1~2) 教育実習の目的と意義、教育実習の心がまえ等 (3~14) 授業研究：学習指導案作成および模擬授業、生徒指導等 (15) まとめ
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回に授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 次年度の教育実習に向けた授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	レポート50%、平常点(学習指導案作成・模擬授業等)50%。
教科書/テキスト	使用しない
参考書	適宜紹介する
その他	授業の出席率が著しく低い場合：5回以上欠席した場合には、次年度の実習ができなくなることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	088031
科目名	教育実習指導
担当者名	大浜 幾久子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中学校・高等学校での教育実習では、実習生とはいえ、教師であることを求められる。次年度に、この「教育実習」を行う学生を対象とし、そのための諸準備を行う。 その中で、実習に必要なことがらに気付き、それらに対して、積極的にいかかわっていく態度を養う。
授業スケジュール	(1~2) 教育実習の目的と意義、および教育実習の心がまえ等について。 (3~14) 授業研究(「学習指導案」作成と模擬授業)および生徒指導。 (15) まとめ。
準備学習	特になし。
履修上の留意点	初回に授業の概要を説明する。必ず出席のこと。やむを得ない理由で欠席の場合は、事前に連絡をすること。 次年度の「教育実習」に向けて主体的な参加が不可欠である。
成績評価の方法	レポート50%、平常点(学習指導案作成・模擬授業等)50%
教科書/テキスト	使用しません。
参考書	適宜、紹介します。
その他	出席率が著しく低い場合(5回以上欠席)には、次年度の実習ができなくなることもあります。充分、注意してください。

履修コード	088041
科目名	教育実習指導
担当者名	北村 三子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中学・高校での教育実習では、実習生とはいえ教師であることを求められる。そこで、この授業では、次年度に教育実習を行う学生を対象とし、実習のための準備を行う。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付く。
授業スケジュール	(1~2) 教育実習の目的と意義、教育実習の心がまえ等 (3~14) 授業研究：学習指導案作成および模擬授業、生徒指導等 (15) まとめ
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 次年度の教育実習に向けた授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	レポート50%、平常点（学習指導案作成・模擬授業等）50%。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
その他	授業の出席率が著しく低い場合：5回以上欠席した場合には、次年度の実習ができなくなることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	088011
科目名	教育実習指導
担当者名	豊田 千代子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中学・高校での教育実習では、実習生とはいえ教師であることを求められる。そこで、この授業では、次年度に教育実習を行う学生を対象とし、実習のための準備を行う。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付く。
授業スケジュール	(1~2) 教育実習の目的と意義、教育実習の心がまえ等 (3~14) 授業研究：学習指導案作成および模擬授業、生徒指導等 (15) まとめ
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。 次年度の教育実習に向けた授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	レポート50%、平常点（学習指導案作成・模擬授業等）50%。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
その他	授業の出席率が著しく低い場合：5回以上欠席した場合には、次年度の実習ができなくなることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	088061
科目名	教育実習指導
担当者名	萩原 建次郎
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中学・高校での教育実習では、実習生とはいえ教師であることを求められる。そこで、この授業では、次年度に教育実習を行う学生を対象とし、実習のための準備を行う。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付くこと。
授業スケジュール	(1~2) 教育実習の目的と意義、教育実習の心がまえ等 (3~14) 授業研究：学習指導案作成および模擬授業、生徒指導等 (15) まとめ
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡をすること。次年度の教育実習に向けた授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	レポート50%、平常点（学習指導案作成・模擬授業等）50%。
教科書／テキスト	特になし
参考書	適宜紹介する。
その他	授業の出席率が著しく低い場合：5回以上欠席した場合には、次年度の実習ができなくなることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	088071
科目名	教育実習指導
担当者名	山本 敏子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中学・高校での教育実習では、実習生とはいえ教師であることを求められる。そこで、この授業では、次年度に教育実習を行う学生を対象とし、実習のための準備を行う。 (到達目標) 教育実習に向けて意識が高まり、実習に必要なことがらが身に付く。
授業スケジュール	(1~2) 教育実習の目的と意義、教育実習の心がまえ等 (3~14) 授業研究：学習指導案作成および模擬授業、生徒指導等 (15) まとめ
準備学習	特になし
履修上の留意点	初回到授業の概要を説明するため、必ず出席すること。やむを得ない理由で欠席する場合には、事前に連絡すること。 次年度の教育実習に向けた授業であるため、主体的・積極的に参加すること。
成績評価の方法	レポート50%、平常点（学習指導案作成・模擬授業等）50%。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
その他	授業の出席率が著しく低い場合：5回以上欠席した場合には、次年度の実習ができなくなることもあるので、十分に注意すること。

履修コード	085701 085702
科目名	教育社会学
担当者名	伊藤 茂樹
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	・授業概要 教育社会学は、教育を社会現象ととらえ、社会学の手法を用いてアプローチする学問であり、教育や学校、子ども、青少年などに関するあらゆる現象が対象となる。分析のレベルも国の教育政策といったマクロレベルから、教室内での人間関係や相互作用といったミクロレベルまで多岐にわたる。そして、私たちがともすれば自明視しがちな「常識」を相対化して批判的なまなざしを向けたうえで、実態の客観的な分析をふまえて実践や政策に寄与する知見を得る学問である。 ・到達目標 教育社会学について基礎知識を持ち、それを用いて現代社会の教育について考えられるようになること。
授業スケジュール	(1~5) 教育社会学の対象と方法、(6~9) 学校の歴史と機能、(10~13) 教育制度の類型と発展、(14~17) 学校における相互作用、(18~22) 情報化社会と子ども、(23~30) 現代の教育問題と教育改革
準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業への積極的な参加を求める。
成績評価の方法	レポート(80%)、課題(10%)、平常点(10%)
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	085501
科目名	教育情報学
担当者名	石橋 達也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 本授業は毎回パソコン教場で行ない、テーマについての講義とパソコン演習を合わせて進めます。前期は、情報科学の基礎、パソコン利用の基本、インターネットの利用、その教育的活用などについて学びます。後期は、インターネットの進化と新たな教授学習の形態、表計算ソフトによる情報の統計処理、社会的統計情報の活用、汎用プログラミングの基礎などについて学んでいきます。</p> <p>(到達目標) 今日の情報社会の状況における情報と情報メディアについて、その特質や活用について主に教育的観点から理解を深めていきます。とくに、コンピュータとインターネットの技術面の進歩を理解すると共に、それらの活用に対して応用レベルの実習を取り入れて、より進んだ情報活用に関する知識と実践的な情報活用スキルの習得を目指し、あわせて新たな教授学習法への応用を探ります。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期授業のガイダンス 2. 情報と情報メディア (1) アナログ情報とデジタル情報 3. 情報と情報メディア (2) マルチメディアと双方向性 4. パソコンの基本 (1) 文書ファイル処理 5. パソコンの基本 (2) 文書ファイル処理の応用 6. パソコンの基本 (3) 表計算ファイル処理 7. パソコンの基本 (4) 表計算ファイル処理の応用 8. パソコンの基本 (5) プレゼンファイル処理 9. パソコンの基本 (6) プレゼンファイル処理の応用 10. インターネット利用 (1) Web閲覧と検索 11. インターネット利用 (2) 情報の収集と加工 12. インターネット利用 (3) 情報のダウンロード 13. インターネット利用 (4) インターネット活用学習 14. インターネット利用 (5) 情報の発信と共有 15. 前期の理解度の確認 16. 後期授業ガイダンス 17. インターネットの新たな教育的活用 18. Web2.0の特徴とICT教育への活用 19. Excelによる統計処理 (1) 統計処理の基礎 20. Excelによる統計処理 (2) グラフによる表現 21. Excelによる統計処理 (3) データ分析 22. Excelによる統計処理 (4) さまざまな統計処理 23. Excelによる統計処理 (5) ネット上の統計情報の活用 24. 汎用的プログラミング (1) LOGOの概要 25. 汎用的プログラミング (2) LOGOによる描画の基礎 26. 汎用的プログラミング (3) LOGOによる描画の応用 27. 汎用的プログラミング (4) LOGOによる発展 28. 情報とデータベース (1) 文書情報のデータベース活用 29. 情報とデータベース (2) 映像情報のデータベース活用 30. 後期の理解度の確認
----------	---

準備学習	日頃から、教育関連のパソコンやインターネット活用に関する話題やマスメディアの報道に対して、広く関心を持っておくこと。
------	--

履修上の留意点	履修する学生は、パソコンの実習には継続と反復練習が大切であることを自覚した上で、授業に毎回まじめに出席して意欲的に取り組むこと。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、前期末と後期末における計2回の試験の得点を中心(60%)に、毎回の授業の平常点(40%)を加味して行ないます。
---------	---

教科書/テキスト	教科書は使用せず、必要に応じて資料プリントを配布して授業を進めていきます。
----------	---------------------------------------

参考書	授業中の中で、参考文献・関連資料・ビデオ映像などを紹介していきます。
-----	------------------------------------

その他	受講学生には、「学ぶ意欲」をもって主体的に授業に取り組むことを期待します。
-----	---------------------------------------

履修コード	213201
科目名	教育制度・環境論
担当者名	伊藤 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・授業概要 学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。</p> <p>・到達目標 現代日本の学校教育が直面する諸問題について基本的な知識を持ち、自分で考えられるようになること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 本講義の目的と内容説明 第2回 戦後日本の教育問題の変遷(1)進学率の推移 第3回 戦後日本の教育問題の変遷(2)少年非行とは何か 第4回 戦後日本の教育問題の変遷(3)少年非行の量的推移 第5回 戦後日本の教育問題の変遷(4)学校の意味の変化 第6回 現代日本の教育問題(1)児童生徒の暴力 第7回 現代日本の教育問題(2)いじめ 第8回 現代日本の教育問題(3)不登校 第9回 現代日本の教育問題(4)体罰 第10回 現代日本の教育問題(5)少年による凶悪犯罪 第11回 教育問題の社会的背景 第12回 近年の教育改革の経緯 第13回 教育改革の方向性 第14回 教育改革の問題点 第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業に積極的に参加すること。
成績評価の方法	学期末試験(80%)、課題(10%)、平常点(10%)。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	213301
科目名	教育制度・環境論
担当者名	伊藤 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・授業概要 学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。</p> <p>・到達目標 現代日本の学校教育が直面する諸問題について基本的な知識を持ち、自分で考えられるようになること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 本講義の目的と内容説明 第2回 戦後日本の教育問題の変遷(1)進学率の推移 第3回 戦後日本の教育問題の変遷(2)少年非行とは何か 第4回 戦後日本の教育問題の変遷(3)少年非行の量的推移 第5回 戦後日本の教育問題の変遷(4)学校の意味の変化 第6回 現代日本の教育問題(1)児童生徒の暴力 第7回 現代日本の教育問題(2)いじめ 第8回 現代日本の教育問題(3)不登校 第9回 現代日本の教育問題(4)体罰 第10回 現代日本の教育問題(5)少年による凶悪犯罪 第11回 教育問題の社会的背景 第12回 近年の教育改革の経緯 第13回 教育改革の方向性 第14回 教育改革の問題点 第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業に積極的に参加すること。
成績評価の方法	学期末試験(80%)、課題(10%)、平常点(10%)。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	213601
科目名	教育制度・環境論
担当者名	伊藤 茂樹

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>・授業概要 学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。</p> <p>・到達目標 現代日本の学校教育が直面する諸問題について基本的な知識を持ち、自分で考えられるようになること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 本講義の目的と内容説明 第2回 戦後日本の教育問題の変遷(1)進学率の推移 第3回 戦後日本の教育問題の変遷(2)少年非行とは何か 第4回 戦後日本の教育問題の変遷(3)少年非行の量的推移 第5回 戦後日本の教育問題の変遷(4)学校の意味の変化 第6回 現代日本の教育問題(1)児童生徒の暴力 第7回 現代日本の教育問題(2)いじめ 第8回 現代日本の教育問題(3)不登校 第9回 現代日本の教育問題(4)体罰 第10回 現代日本の教育問題(5)少年による凶悪犯罪 第11回 教育問題の社会的背景 第12回 近年の教育改革の経緯 第13回 教育改革の方向性 第14回 教育改革の問題点 第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	授業に積極的に参加すること。
成績評価の方法	学期末試験(80%)、課題(10%)、平常点(10%)。
教科書/テキスト	使用しない。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	213001
科目名	教育制度・環境論
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>授業概要 学校教育の社会的機能に関する原理的な理解を深める。あわせて、日本の学校制度の現状を知りその課題について考える。</p>
--------------------	---

到達目標

自分たちの受けてきた教育を広い視野から捉え直すとともに、日本の教育の未来に関心を持つことが出来るようになる。

授業スケジュール	<p>日本の学校制度の成立・発展に関する基本的な事実に触れた後、学校教育の社会的な機能について、その理念と現実を見ていく。次いで、近年の日本の教育改革の流れ、欧米諸国の教育改革、OECDの教育政策などについて理解を深めつつ、日本の教育制度の今後を考える。日本の学校現場の具体的な課題についても検討する。</p>
----------	---

授業スケジュールは、概ね次の通り。

- (1) 講義のねらい・概要
- (2) 日本における近代学校制度の発展（概観）
- (3) 学校の社会的機能（民主的な社会における学校教育の役割）
- (4) 日本の学校教育の現状と課題①（不登校とフリースクール）
- (5) 同②（社会統合をめぐる）
- (6) 同③（社会的選抜と格差の広がり）
- (7) 1980年代以降の世界の教育改革の動向①（米英型の教育制度改革）
- (8) 同②（北欧型の教育制度改革）
- (9) 同③（OECDの教育政策）
- (10) 同④（PIZAと日本の教育）
- (11) 現代日本の教育改革と教育現場①（1980年代以降の教育改革の流れ）
- (12) 同②（学校経営と評価）
- (13) 同③（教員の仕事と評価）
- (14) 同④（教員の労働状況・精神衛生）
- (15) まとめ

準備学習	特になし
履修上の留意点	この科目は教職課程の必修科目なので、日頃から教育への関心を高め、自覚的に学習に取り組むことが望まれる。
成績評価の方法	平常点（30%）と学期末レポート（70%）による。
教科書／テキスト	J・デューイ著『民主主義と社会』岩波文庫など （講義に必要な箇所はコピーを配布。その他のテキストも同様）
参考書	適宜紹介する。

履修コード	213101
科目名	教育制度・環境論
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 学校教育の社会的機能に関する原理的な理解を深める。あわせて、日本の学校制度の現状を知りその課題について考える。</p>
---------------------	---

到達目標

自分たちの受けてきた教育を広い視野から捉え直すとともに、日本の教育の未来に関心を持つことが出来るようになる。

授業スケジュール	<p>日本の学校制度の成立・発展に関する基本的な事実に触れた後、学校教育の社会的な機能について、その理念と現実を見ていく。次いで、近年の日本の教育改革の流れ、欧米諸国の教育改革、OECDの教育政策などについて理解を深めつつ、日本の教育制度の今後を考える。日本の学校現場の具体的な課題についても検討する。</p>
----------	---

授業スケジュールは、概ね次の通り。

- (1) 講義のねらい・概要
- (2) 日本における近代学校制度の発展 (概観)
- (3) 学校の社会的機能 (民主的な社会における学校教育の役割)
- (4) 日本の学校教育の現状と課題① (不登校とフリースクール)
- (5) 同② (社会統合をめぐる)
- (6) 同③ (社会的選抜と格差の広がり)
- (7) 1980年代以降の世界の教育改革の動向① (米英型の教育制度改革)
- (8) 同② (北欧型の教育制度改革)
- (9) 同③ (OECDの教育政策)
- (10) 同④ (PIZAと日本の教育)
- (11) 現代日本の教育改革と教育現場① (1980年代以降の教育改革の流れ)
- (12) 同② (学校経営と評価)
- (13) 同③ (教員の仕事と評価)
- (14) 同④ (教員の労働状況・精神衛生)
- (15) まとめ

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	この科目は教職課程の必修科目なので、日頃から教育への関心を高め、自覚的に学習に取り組むことが望まれる。
---------	---

成績評価の方法	平常点 (30%) と学期末レポート (70%) による。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	J・デューイ著『民主主義と社会』岩波文庫など (講義に必要な箇所はコピーを配布。その他のテキストも同様。)
----------	--

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	212901
科目名	教育制度・環境論
担当者名	豊田 千代子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この授業では、まず、日本の近代社会における学校教育制度について、「身体」の視点を取り入れながら概説する。次に、現代社会における子どもや教員の身体の現状を踏まえた上で、1980年代以降の教育改革の動向を見ていく。最後に、現代の学校教育の課題を、身体感覚とコミュニケーションという観点で取り上げる。 (到達目標) 日本の近代学校教育制度及び教育改革の動向を理解する。また、これらとの関連で現代の学校教育の課題について、「身体」を中心に理解する。併せて、今後の教育のあり方を「身体」を軸に考えていく。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回：ガイダンス (講義のねらい、概要等) 第2回：日本の近代社会と学校教育 第3回：近代学校教育制度と身体 (1) 規律・訓練 第4回：近代学校教育制度と身体 (2) 表現・創造 第5回：現代社会と子どもの身体 第6回：現代社会と教員の身体 第7回：1980年代以降の教育改革の動向 (1) フィンランドの教育政策 第8回：1980年代以降の教育改革の動向 (2) OECDの教育政策 第9回：1980年代以降の教育改革の動向 (3) 日本の教育政策 第10回：学校教育の課題—身体感覚とコミュニケーション (1) 他者との関係 第11回：学校教育の課題—身体感覚とコミュニケーション (2) 自然との関係 第12回：学校教育の課題—身体感覚とコミュニケーション (3) 自分の身体への気づき 第13回：学校教育の課題—身体感覚とコミュニケーション (4) 身体感覚と自己形成 第14回：子どもの身体をひらく教育に向けて 第15回：まとめ
----------	---

準備学習	日頃から、新聞などの教育に関する記事に目を通しておくこと。
履修上の留意点	資料をもとに話し合いを行ったりするため、授業への主体的、積極的な参加が望まれる。
成績評価の方法	レポート70%、平常点 (授業内での発表・発言等) 30%。
教科書/テキスト	初回の授業時に指示する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	213401
科目名	教育制度・環境論
担当者名	萩原 建次郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本授業では、「子ども・若者の居場所」を切り口とし、現代の子ども・若者の人間形成の在りよう、大人と子どもの関係性の変容、子ども・若者の成長環境としての地域コミュニティや社会構造の変容といった諸問題を、相互の関連において理解することをねらいとしている。その上で、広く子ども若者が大人と共に育つ包括的なコミュニティの創出に向けた「子ども・若者の居場所づくり」という視角から、近代教育制度の問題性と今後の方向性を探っていくことになる。 (到達目標) 本授業を通し、受講生が自らの教育体験をふりかえりながら、他者 (子ども・友人・親・先生など) とのかかわりの質を問い直し、さまざまな場面での他者との学びと交流の場づくりに貢献していく視点と感性を養うこと。
---------------------	---

授業スケジュール	①「子ども・若者の居場所」が語られる社会的背景 (第1回～第3回) ②子ども・若者の人間形成空間と社会構造の変容 (第4回～第6回) ③子ども・若者にとっての「居場所」の意味を読み解く (第7回～第9回) ④子ども・若者の人間形成空間をデザインする (第10回～第12回) ⑤子ども・若者の居場所に関わる支援者の力量 (第13回) ⑥子どもの居場所論と子どもの参加・参画論 (第14回～第15回)
準備学習	シラバスに紹介してある参考文献を中心に、教育と社会に関する本を積極的に読んで受講すること。
履修上の留意点	本授業は講義だけではなく参加型学習も取り入れているため、積極的な参加姿勢が求められる。またリアクションペーパーを通して、受講生と教員との相互コメントをできるかぎり実施したい。
成績評価の方法	小レポート/授業への参加度30%、作品作成と提出30%、学期末レポート40%を総合して判断する。
教科書/テキスト	特になし。
参考書	高橋勝編著『子ども・若者の自己形成空間—教育人間学の視線から—』 (東信堂) 高橋勝『文化変容の中の子ども』 (東信堂) 田中智司『他者の喪失から感受へ』 (勁草書房) 萩原元昭編著『子どもの参画—参画型地域活動支援の方法—』 (学文社) 清真人『創造の生へ—小さいけれど別な空間を創る—』 (はるか書房)

履修コード	213501
科目名	教育制度・環境論
担当者名	山本 敏子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日の学校教育が抱える様々な問題を解決していくための力量の養成を目指して、現行教育制度について、その成り立ちを前近代社会の多様な教育システムとの関わりで考察することにより、近代学校システムの特質や公教育原理を理解するとともに、よりよい改革の方向性を模索します。</p> <p>(到達目標) 現代日本の公教育制度のしくみと基本原理、教育諸問題の現状、日本および世界の教育改革動向を熟知し、各自が改革の大きな方向性とその実現のためのヒントを掴むことができる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前半は講義を中心に、後半は受講者がレポーターとなって全員で討議する等、演習の要素を取り入れたものにしたと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 序「教育制度・環境論」への招待 (2) 前近代社会における年齢階梯制教育システム (3) 前近代社会における徒弟制教育システム (4) 近代国民国家の成立と近代学校システムの特質・社会的機能 (5) 日本型近代学校システムの確立と展開―戦後教育改革を軸に (6) 国際的な「子どもの権利」論の潮流と現代日本の憲法・教育基本法制 (7) 公教育制度の基本原理① 公教育の概念と教育法 (8) 公教育制度の基本原理② 現代公教育制度と教育権 (9) 公教育制度の基本原理③ 義務性・無償性・中立性 (10) 現代の教育問題と教育改革① 1980年代以降の教育改革動向を概観する (11) 現代の教育問題と教育改革② 子どもの人間形成空間（身体を含む）の視点から (12) 現代の教育問題と教育改革③ イギリスの教育制度・環境に学ぶ (13) 現代の教育問題と教育改革④ 北欧の教育制度・環境に学ぶ (14) 現代の教育問題と教育改革⑤ よりよい学校経営を模索して (15) 全体のまとめ
----------	--

準備学習	新聞記事を読んだり、自分自身の教育体験を省察したり、子どもや若者の生活世界に起こっている様々な出来事に関心をもって調べたりしながら授業に臨むと、理解が深まります。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート50%、平常点（授業内の小レポート・発表等）50%とします。
教科書／テキスト	特に使用せず、必要に応じて資料を配付します。
参考書	適宜紹介します。

履修コード	343901
科目名	教育制度・環境論
担当者名	山本 敏子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日の学校教育が抱える様々な問題を解決していくための力量の養成を目指して、現行教育制度について、その成り立ちを前近代社会の多様な教育システムとの関わりで考察することにより、近代学校システムの特質や公教育原理を理解するとともに、よりよい改革の方向性を模索します。</p> <p>(到達目標) 現代日本の公教育制度のしくみと基本原理、教育諸問題の現状、日本および世界の教育改革動向を熟知し、各自が改革の大きな方向性とその実現のためのヒントを掴むことができる。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前半は講義を中心に、後半は受講者がレポーターとなって全員で討議する等、演習の要素を取り入れたものにしてと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 序「教育制度・環境論」への招待 (2) 前近代社会における年齢階梯制教育システム (3) 前近代社会における徒弟制教育システム (4) 近代国民国家の成立と近代学校システムの特質・社会的機能 (5) 日本型近代学校システムの確立と展開—戦後教育改革を軸に (6) 国際的な「子どもの権利」論の潮流と現代日本の憲法・教育基本法制 (7) 公教育制度の基本原理① 公教育の概念と教育法 (8) 公教育制度の基本原理② 現代公教育制度と教育権 (9) 公教育制度の基本原理③ 義務性・無償性・中立性 (10) 現代の教育問題と教育改革① 1980年代以降の教育改革動向を概観する (11) 現代の教育問題と教育改革② 子どもの人間形成空間(身体を含む)の視点から (12) 現代の教育問題と教育改革③ イギリスの教育制度・環境に学ぶ (13) 現代の教育問題と教育改革④ 北欧の教育制度・環境に学ぶ (14) 現代の教育問題と教育改革⑤ よりよい学校経営を模索して (15) 全体のまとめ
----------	--

準備学習	新聞記事を読んだり、自分自身の教育体験を省察したり、子どもや若者の生活世界に起こっている様々な出来事に関心をもって調べたりしながら授業に臨むと、理解が深まります。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	レポート50%、平常点(授業内の小レポート・発表等)50%とします。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	特に使用せず、必要に応じて資料を配付します。
----------	------------------------

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

履修コード	086001
科目名	教育調査
担当者名	須藤 康介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】 本講義では、量的な教育調査の実施の流れを学ぶとともに、調査によって得られたデータを分析するために必要な統計分析の基礎的な知識の習得を目指す。具体的には、統計ソフトSPSSを用いて、中学生約3000名を対象とした教育調査データの分析、およびレポートの作成を行い、教育現象をデータで描くという視点と技能を身につける。</p> <p>【到達目標】 小目標① 教育現象をデータで描くことの意義と限界を理解する 小目標② 統計分析に基づく教育研究を行うための技能を身につける 小目標③ 学校現場や教育委員会において必要に応じた統計分析を行う技能を身につける ※ 統計学を学ぶこと自体が目的ではない。数学的な説明は最低限に留めるので、数式展開に関心がある学生は他授業や参考書を併せて学習してほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 教育調査の意義 第3回 教育調査の流れ 第4回 サンプルングの論理 第5回 基礎統計量 第6回 カイ二乗検定 第7回 クロス集計の手順 (実習) 第8回 クロス集計の工夫 (実習) 第9回 論文の講読1 第10回 論文の講読2 第11回 中間レポートの検討1 第12回 中間レポートの検討2 第13回 分散分析の手順 (実習) 第14回 相関分析の手順 (実習) 第15回 まとめ</p> <p>【後期】</p> <p>第1回 オリエンテーション 第2回 教育調査の意義と流れ 第3回 基礎統計量とカイ二乗検定 第4回 クロス集計の手順と工夫 (実習) 第5回 分散分析と相関分析 (実習) 第6回 回帰分析の原理 第7回 重回帰分析の手順 (実習) 第8回 ロジスティック回帰分析の手順 (実習) 第9回 論文の講読1 第10回 論文の講読2 第11回 中間レポートの検討1 第12回 中間レポートの検討2 第13回 主成分分析の手順 (実習) 第14回 因子分析の手順 (実習) 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	中学校レベルの数学が必要になる。(高校レベルの数学は必須ではない)
成績評価の方法	毎回の小課題：30点 中間レポート：30点 定期試験：40点
教科書／テキスト	開講時に指示する。
参考書	開講時に指示する。

履修コード	085401
科目名	教育哲学
担当者名	北村 三子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 本授業の目的は、受講者が自分の教育観を鍛えてゆくための手助けをすることであるが、本年度は、国連の推奨する教育としても知られているシュタイナー教育とその思想的基礎を築いたルドルフ・シュタイナーについて取り上げる。シュタイナーは学校教育だけでなく、農業、医療、経済等、様々な分野で影響力を持っており、教育の考察はどのような広がりをもちうるかを考えることができるだろう。また、シュタイナー教育は芸術を基盤とした教育でもあるので、その教育実践に学びながら、自分達の感受性をどのように育てていけるかも探っていきたい。</p>
---------------------	---

到達目標
受講前よりも人間観が深まり、教育について自分の言葉で語る事が出来るようになる。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) オリエンテーション (2) 芸術としての教育 (3) 教育と社会 (4) 教育の原点としての障害児教育 (5) 農業共同体 (6) 医療と金融 (7~10) テキストを読む (『シュタイナー入門』第1章：シュタイナー教育の実際) (11~13) 同 (第2章：シュタイナーの生涯) (14~19) 同 (第3章：シュタイナーの基礎理論) (20~23) 同 (第4章：思想史のシュタイナー) (24~29) 感覚を育てる (色・形・数・音・動き・詩など) (30) まとめ
----------	---

準備学習	できれば、ミヒヤエル・エンデ『モモ』(岩波少年文庫)を読んでおくこと。
------	-------------------------------------

履修上の留意点	ゼミ形式で行う。毎回テキストを読んでくる必要がある。
---------	----------------------------

成績評価の方法	平常点(発表を含む)(40%)、レポート(60%)による。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	西平直『シュタイナー入門』1999年 700円(税別) ISBN-09-149458-9
----------	--

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	076801
科目名	教育とメディア
担当者名	石橋 達也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日の社会状況の大きな特徴は、情報化が著しく進展していることです。そこで本授業では、情報社会での学校教育における、パソコンとインターネットを中心とするデジタル情報メディアを活用した教育実践の現状および今後の課題について学び、基本的なパソコン作業の演習を行います。</p> <p>(到達目標) 毎回の授業の前半で、学校教育における情報メディアを活用した教育実践の現状を眺めて、今後の課題を探っていきます。また後半では、パソコンの演習を通じてインターネット活用の利点や注意点を理解します。その上で、将来の教員として必要な情報メディアの活用に関する知識、およびパソコンの基本スキルの習得を目指します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 / PC演習：デスクトップ画面からのスタート 2. デジタル情報社会と教育 / PC演習：文書処理①文書編集の基本 3. 教育の情報化推進の意義と実践 / PC演習：文書処理②文書編集の応用 4. 小学校の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：文書処理③Webとの連動 5. 小学校の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：インターネットの閲覧と検索 6. 情報ネットワーク社会のネチケット / PC演習：表計算①表作成とグラフ 7. 中学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：表計算②ワープロとの連動 8. 中学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：表計算③関数の利用 9. 高等学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：表計算④ネット上での表計算 10. 高等学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：プレゼン①スライド作成の基本 11. 教育の情報化と教師の役割 / PC演習：プレゼン②スライド作成の応用 12. 外国の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：プレゼン③教材作成への活用 13. 外国の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：ネット活用①検索の応用 14. 教育の情報化の新たな動向 / PC演習：ネット活用②オンライン学習 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	日頃から、教育に関わるパソコンやインターネットの活用に対して関心を持っておくこと。また、本授業に関連したマスメディアの報道内容に対して、できるだけ積極的に接しておくこと。
------	---

履修上の留意点	履修する学生は、この授業が「教職」を目指す上で必要な科目であることをしっかり自覚して、授業には真面目に出席すること。毎回の授業では、テーマの解説を良く聞いて内容の理解に努め、またパソコンの演習課題に意欲的に取り組むこと。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は理解度の確認テストの得点を中心にして(70%)、授業への出席状況や受講態度などの平常点(30%)を加味して行ないます。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じて、プリント資料を配布して授業を進めていきます。
----------	--

参考書	授業の中で、参考文献や関連資料、およびビデオ映像などを紹介します。
-----	-----------------------------------

その他	履修する学生には、「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組むことを期待します。
-----	--------------------------------------

履修コード	076901
科目名	教育とメディア
担当者名	石橋 達也

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 今日の社会状況の大きな特徴は、情報化が著しく進展していることです。そこで本授業では、情報社会での学校教育における、パソコンとインターネットを中心とするデジタル情報メディアを活用した教育実践の現状および今後の課題について学び、基本的なパソコン作業の演習を行います。</p> <p>(到達目標) 毎回の授業の前半で、学校教育における情報メディアを活用した教育実践の現状を眺めて、今後の課題を探っていきます。また後半では、パソコンの演習を通じてインターネット活用の利点や注意点を理解します。その上で、将来の教員として必要な情報メディアの活用に関する知識、およびパソコンの基本スキルの習得を目指します。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 / PC演習：デスクトップ画面からのスタート 2. デジタル情報社会と教育 / PC演習：文書処理①文書編集の基本 3. 教育の情報化推進の意義と実践 / PC演習：文書処理②文書編集の応用 4. 小学校の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：文書処理③Webとの連動 5. 小学校の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：インターネットの閲覧と検索 6. 情報ネットワーク社会のネチケット / PC演習：表計算①表作成とグラフ 7. 中学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：表計算②ワープロとの連動 8. 中学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：表計算③関数の利用 9. 高等学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：表計算④ネット上での表計算 10. 高等学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：プレゼン①スライド作成の基本 11. 教育の情報化と教師の役割 / PC演習：プレゼン②スライド作成の応用 12. 外国の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：プレゼン③教材作成への活用 13. 外国の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：ネット活用①検索の応用 14. 教育の情報化の新たな動向 / PC演習：ネット活用②オンライン学習 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	日頃から、教育に関わるパソコンやインターネットの活用に対して関心を持っておくこと。また、本授業に関連したマスメディアの報道内容に対して、できるだけ積極的に接しておくこと。
------	---

履修上の留意点	履修する学生は、この授業が「教職」を目指す上で必要な科目であることをしっかり自覚して、授業には真面目に出席すること。毎回の授業では、テーマの解説を良く聞いて内容の理解に努め、またパソコンの演習課題に意欲的に取り組むこと。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は理解度の確認テストの得点を中心にして（70%）、授業への出席状況や受講態度などの平常点（30%）を加味して行ないます。
---------	--

教科書／テキスト	教科書は使用しません。必要に応じて、プリント資料を配布して授業を進めていきます。
----------	--

参考書	授業の中で、参考文献や関連資料、およびビデオ映像などを紹介します。
-----	-----------------------------------

その他	履修する学生には、「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組むことを期待します。
-----	--------------------------------------

履修コード	077001
科目名	教育とメディア
担当者名	石橋 達也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日の社会状況の大きな特徴は、情報化が著しく進展していることです。そこで本授業では、情報社会での学校教育における、パソコンとインターネットを中心とするデジタル情報メディアを活用した教育実践の現状および今後の課題について学び、基本的なパソコン作業の演習を行います。</p> <p>(到達目標) 毎回の授業の前半で、学校教育における情報メディアを活用した教育実践の現状を眺めて、今後の課題を探っていきます。また後半では、パソコンの演習を通じてインターネット活用の利点や注意点を理解します。その上で、将来の教員として必要な情報メディアの活用に関する知識、およびパソコンの基本スキルの習得を目指します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 / PC演習: デスクトップ画面からのスタート 2. デジタル情報社会と教育 / PC演習: 文書処理①文書編集の基本 3. 教育の情報化推進の意義と実践 / PC演習: 文書処理②文書編集の応用 4. 小学校の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 文書処理③Webとの連動 5. 小学校の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: インターネットの閲覧と検索 6. 情報ネットワーク社会のネチケット / PC演習: 表計算①表作成とグラフ 7. 中学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 表計算②フープロとの連動 8. 中学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: 表計算③関数の利用 9. 高等学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 表計算④ネット上での表計算 10. 高等学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: プレゼン①スライド作成の基本 11. 教育の情報化と教師の役割 / PC演習: プレゼン②スライド作成の応用 12. 外国の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: プレゼン③教材作成への活用 13. 外国の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: ネット活用①検索の応用 14. 教育の情報化の新たな動向 / PC演習: ネット活用②オンライン学習 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	日頃から、教育に関わるパソコンやインターネットの活用に対して関心を持っておくこと。また、本授業に関連したマスメディアの報道内容に対して、できるだけ積極的に接しておくこと。
------	---

履修上の留意点	履修する学生は、この授業が「教職」を目指す上で必要な科目であることをしっかり自覚して、授業には真面目に出席すること。毎回の授業では、テーマの解説を良く聞いて内容の理解に努め、またパソコンの演習課題に意欲的に取り組むこと。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は理解度の確認テストの得点を中心にして(70%)、授業への出席状況や受講態度などの平常点(30%)を加味して行ないます。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じて、プリント資料を配布して授業を進めていきます。
----------	--

参考書	授業の中で、参考文献や関連資料、およびビデオ映像などを紹介します。
-----	-----------------------------------

その他	履修する学生には、「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組むことを期待します。
-----	--------------------------------------

履修コード	077101
科目名	教育とメディア
担当者名	石橋 達也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日の社会状況の大きな特徴は、情報化が著しく進展していることです。そこで本授業では、情報社会での学校教育における、パソコンとインターネットを中心とするデジタル情報メディアを活用した教育実践の現状および今後の課題について学び、基本的なパソコン作業の演習を行います。</p> <p>(到達目標) 毎回の授業の前半で、学校教育における情報メディアを活用した教育実践の現状を眺めて、今後の課題を探っていきます。また後半では、パソコンの演習を通じてインターネット活用の利点や注意点を理解します。その上で、将来の教員として必要な情報メディアの活用に関する知識、およびパソコンの基本スキルの習得を目指します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 / PC演習: デスクトップ画面からのスタート 2. デジタル情報社会と教育 / PC演習: 文書処理①文書編集の基本 3. 教育の情報化推進の意義と実践 / PC演習: 文書処理②文書編集の応用 4. 小学校の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 文書処理③Webとの連動 5. 小学校の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: インターネットの閲覧と検索 6. 情報ネットワーク社会のネチケット / PC演習: 表計算①表作成とグラフ 7. 中学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 表計算②ワープロとの連動 8. 中学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: 表計算③関数の利用 9. 高等学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 表計算④ネット上での表計算 10. 高等学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: プレゼン①スライド作成の基本 11. 教育の情報化と教師の役割 / PC演習: プレゼン②スライド作成の応用 12. 外国の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: プレゼン③教材作成への活用 13. 外国の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: ネット活用①検索の応用 14. 教育の情報化の新たな動向 / PC演習: ネット活用②オンライン学習 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	日頃から、教育に関わるパソコンやインターネットの活用に対して関心を持つておくこと。また、本授業に関連したマスメディアの報道内容に対して、できるだけ積極的に接しておくこと。
------	---

履修上の留意点	履修する学生は、この授業が「教職」を目指す上で必要な科目であることをしっかり自覚して、授業には真面目に出席すること。毎回の授業では、テーマの解説を良く聞いて内容の理解に努め、またパソコンの演習課題に意欲的に取り組むこと。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は理解度の確認テストの得点を中心にして(70%)、授業への出席状況や受講態度などの平常点(30%)を加味して行ないます。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じて、プリント資料を配布して授業を進めていきます。
----------	--

参考書	授業の中で、参考文献や関連資料、およびビデオ映像などを紹介します。
-----	-----------------------------------

その他	履修する学生には、「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組むことを期待します。
-----	--------------------------------------

履修コード	077201
科目名	教育とメディア
担当者名	石橋 達也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日の社会状況の大きな特徴は、情報化が著しく進展していることです。そこで本授業では、情報社会での学校教育における、パソコンとインターネットを中心とするデジタル情報メディアを活用した教育実践の現状および今後の課題について学び、基本的なパソコン作業の演習を行います。</p> <p>(到達目標) 毎回の授業の前半で、学校教育における情報メディアを活用した教育実践の現状を眺めて、今後の課題を探っていきます。また後半では、パソコンの演習を通じてインターネット活用の利点や注意点を理解します。その上で、将来の教員として必要な情報メディアの活用に関する知識、およびパソコンの基本スキルの習得を目指します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 / PC演習：デスクトップ画面からのスタート 2. デジタル情報社会と教育 / PC演習：文書処理①文書編集の基本 3. 教育の情報化推進の意義と実践 / PC演習：文書処理②文書編集の応用 4. 小学校の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：文書処理③Webとの連動 5. 小学校の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：インターネットの閲覧と検索 6. 情報ネットワーク社会のネチケット / PC演習：表計算①表作成とグラフ 7. 中学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：表計算②ワープロとの連動 8. 中学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：表計算③関数の利用 9. 高等学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：表計算④ネット上での表計算 10. 高等学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：プレゼン①スライド作成の基本 11. 教育の情報化と教師の役割 / PC演習：プレゼン②スライド作成の応用 12. 外国の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：プレゼン③教材作成への活用 13. 外国の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：ネット活用①検索の応用 14. 教育の情報化の新たな動向 / PC演習：ネット活用②オンライン学習 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	日頃から、教育に関わるパソコンやインターネットの活用に対して関心を持っておくこと。また、本授業に関連したマスメディアの報道内容に対して、できるだけ積極的に接しておくこと。
------	---

履修上の留意点	履修する学生は、この授業が「教職」を目指す上で必要な科目であることをしっかり自覚して、授業には真面目に出席すること。毎回の授業では、テーマの解説を良く聞いて内容の理解に努め、またパソコンの演習課題に意欲的に取り組むこと。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は理解度の確認テストの得点を中心にして(70%)、授業への出席状況や受講態度などの平常点(30%)を加味して行ないます。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じて、プリント資料を配布して授業を進めていきます。
----------	--

参考書	授業の中で、参考文献や関連資料、およびビデオ映像などを紹介します。
-----	-----------------------------------

その他	履修する学生には、「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組むことを期待します。
-----	--------------------------------------

履修コード	077301
科目名	教育とメディア
担当者名	石橋 達也
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日の社会状況の大きな特徴は、情報化が著しく進展していることです。そこで本授業では、情報社会での学校教育における、パソコンとインターネットを中心とするデジタル情報メディアを活用した教育実践の現状および今後の課題について学び、基本的なパソコン作業の演習を行います。</p> <p>(到達目標) 毎回の授業の前半で、学校教育における情報メディアを活用した教育実践の現状を眺めて、今後の課題を探っていきます。また後半では、パソコンの演習を通じてインターネット活用の利点や注意点を理解します。その上で、将来の教員として必要な情報メディアの活用に関する知識、およびパソコンの基本スキルの習得を目指します。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 / PC演習：デスクトップ画面からのスタート 2. デジタル情報社会と教育 / PC演習：文書処理①文書編集の基本 3. 教育の情報化推進の意義と実践 / PC演習：文書処理②文書編集の応用 4. 小学校の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：文書処理③Webとの連動 5. 小学校の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：インターネットの閲覧と検索 6. 情報ネットワーク社会のネチケット / PC演習：表計算①表作成とグラフ 7. 中学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：表計算②ワープロとの連動 8. 中学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：表計算③関数の利用 9. 高等学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：表計算④ネット上での表計算 10. 高等学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：プレゼン①スライド作成の基本 11. 教育の情報化と教師の役割 / PC演習：プレゼン②スライド作成の応用 12. 外国の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習：プレゼン③教材作成への活用 13. 外国の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習：ネット活用①検索の応用 14. 教育の情報化の新たな動向 / PC演習：ネット活用②オンライン学習 15. 理解度の確認
準備学習	日頃から、教育に関わるパソコンやインターネットの活用に対して関心を持っておくこと。また、本授業に関連したマスメディアの報道内容に対して、できるだけ積極的に接しておくこと。
履修上の留意点	履修する学生は、この授業が「教職」を目指す上で必要な科目であることをしっかり自覚して、授業には真面目に出席すること。毎回の授業では、テーマの解説を良く聞いて内容の理解に努め、またパソコンの演習課題に意欲的に取り組むこと。
成績評価の方法	成績評価は理解度の確認テストの得点を中心にして(70%)、授業への出席状況や受講態度などの平常点(30%)を加味して行ないます。
教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じて、プリント資料を配布して授業を進めていきます。
参考書	授業の中で、参考文献や関連資料、およびビデオ映像などを紹介します。
その他	履修する学生には、「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組むことを期待します。

履修コード	305501
科目名	教育とメディア
担当者名	石橋 達也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 今日の社会状況の大きな特徴は、情報化が著しく進展していることです。そこで本授業では、情報社会での学校教育における、パソコンとインターネットを中心とするデジタル情報メディアを活用した教育実践の現状および今後の課題について学び、基本的なパソコン作業の演習を行います。</p> <p>(到達目標) 毎回の授業の前半で、学校教育における情報メディアを活用した教育実践の現状を眺めて、今後の課題を探っていきます。また後半では、パソコンの演習を通じてインターネット活用メディアの利点や注意点を理解します。その上で、将来の教員として必要な情報メディアの活用に関する知識、およびパソコンの基本スキルの習得を目指します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要説明 / PC演習: デスクトップ画面からのスタート 2. デジタル情報社会と教育 / PC演習: 文書処理①文書編集の基本 3. 教育の情報化推進の意義と実践 / PC演習: 文書処理②文書編集の応用 4. 小学校の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 文書処理③Webとの連動 5. 小学校の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: インターネットの閲覧と検索 6. 情報ネットワーク社会のネチケット / PC演習: 表計算①表作成とグラフ 7. 中学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 表計算②ワープロとの連動 8. 中学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: 表計算③関数の利用 9. 高等学校教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: 表計算④ネット上での表計算 10. 高等学校教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: プレゼン①スライド作成の基本 11. 教育の情報化と教師の役割 / PC演習: プレゼン②スライド作成の応用 12. 外国の教育の情報化(1)従来の状況 / PC演習: プレゼン③教材作成への活用 13. 外国の教育の情報化(2)今後の課題 / PC演習: ネット活用①検索の応用 14. 教育の情報化の新たな動向 / PC演習: ネット活用②オンライン学習 15. 理解度の確認
----------	---

準備学習	日頃から、教育に関わるパソコンやインターネットの活用に対して関心を持っておくこと。また、本授業に関連したマスメディアの報道内容に対して、できるだけ積極的に接しておくこと。
------	---

履修上の留意点	履修する学生は、この授業が「教職」を目指す上で必要な科目であることをしっかり自覚して、授業には真面目に出席すること。毎回の授業では、テーマの解説を良く聞いて内容の理解に努め、またパソコンの演習課題に意欲的に取り組むこと。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は理解度の確認テストの得点を中心にして(70%)、授業への出席状況や受講態度などの平常点(30%)を加味して行ないます。
---------	--

教科書/テキスト	教科書は使用しません。必要に応じて、プリント資料を配布して授業を進めていきます。
----------	--

参考書	授業の中で、参考文献や関連資料、およびビデオ映像などを紹介します。
-----	-----------------------------------

その他	履修する学生には、「学ぶ意欲」をもって積極的に取り組むことを期待します。
-----	--------------------------------------

履修コード	077401
科目名	教育とメディア
担当者名	芝崎 順司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の到達目標は、1) 教育におけるメディアの役割の重要性について、提示機能とコミュニケーション機能の両面から、具体的事例に基づき、説明できるようになること、2) 教員としてメディアを活用する基礎的技能、教材作成技能を身につけること、である。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。 2. プレゼンテーションなどが必要な教育場面を設定し、基本的なアプリケーションを活用して、コンテンツを作成する。 3. 情報教育や情報システム、情報倫理など教員として必要な知識・技能を身につける。
----------	--

準備学習	特にないが、キーボードの操作等基礎的なコンピュータの技能は有していることを前提とする。
------	---

履修上の留意点	YeStudy他の学習システムを利用する。コンピュータ等を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起も多く含む。授業への積極的参加を期待する。必要に応じて宿題を課す。
---------	--

成績評価の方法	評価は授業中に行い毎回提出する課題と最終課題を総合的に評価しておくこと。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	授業中に紹介する。
----------	-----------

参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。
-----	------------------

履修コード	077501
科目名	教育とメディア
担当者名	芝崎 順司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の到達目標は、1) 教育におけるメディアの役割の重要性について、提示機能とコミュニケーション機能の両面から、具体的事例に基づき、説明できるようになること、2) 教員としてメディアを活用する基礎的技能、教材作成技能を身につけること、である。
授業スケジュール	1 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。 2 プレゼンテーションなどが必要な教育場面を設定し、基本的なアプリケーションを活用して、コンテンツを作成する。 3 情報教育や情報システム、情報倫理など教員として必要な知識・技能を身につける。
準備学習	特にないが、キーボードの操作等基礎的なコンピュータの技能は有していることを前提とする。
履修上の留意点	YeStudy他の学習システムを利用する。コンピュータ等を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起も多く含む。授業への積極的参加を期待する。必要に応じて宿題を課す。
成績評価の方法	評価は授業中に行い毎回提出する課題と最終課題を総合的に評価しておく。
教科書／テキスト	授業中に紹介する。
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。

履修コード	077601
科目名	教育とメディア
担当者名	芝崎 順司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の到達目標は、1) 教育におけるメディアの役割の重要性について、提示機能とコミュニケーション機能の両面から、具体的事例に基づき、説明できるようになること、2) 教員としてメディアを活用する基礎的技能、教材作成技能を身につけること、である。
授業スケジュール	1 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。 2 プレゼンテーションなどが必要な教育場面を設定し、基本的なアプリケーションを活用して、コンテンツを作成する。 3 情報教育や情報システム、情報倫理など教員として必要な知識・技能を身につける。
準備学習	特にないが、キーボードの操作等基礎的なコンピュータの技能は有していることを前提とする。
履修上の留意点	YeStudy他の学習システムを利用する。コンピュータ等を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起も多く含む。授業への積極的参加を期待する。必要に応じて宿題を課す。
成績評価の方法	評価は授業中に行い毎回提出する課題と最終課題を総合的に評価しておく。
教科書／テキスト	授業中に紹介する。
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。

履修コード	077701
科目名	教育とメディア
担当者名	芝崎 順司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の到達目標は、1) 教育におけるメディアの役割の重要性について、提示機能とコミュニケーション機能の両面から、具体的事例に基づき、説明できるようになること、2) 教員としてメディアを活用する基礎的技能、教材作成技能を身につけること、である。
授業スケジュール	1 学校教育・社会教育におけるマルチメディア・ネットワーク利用の目的・方法について具体的に検討する。 2 プレゼンテーションなどが必要な教育場面を設定し、基本的なアプリケーションを活用して、コンテンツを作成する。 3 情報教育や情報システム、情報倫理など教員として必要な知識・技能を身につける。
準備学習	特にないが、キーボードの操作等基礎的なコンピュータの技能は有していることを前提とする。
履修上の留意点	YeStudy他の学習システムを利用する。コンピュータ等を活用した講義や実習を多く取り入れる。現在進行中の内容を扱うため、問題提起も多く含む。授業への積極的参加を期待する。必要に応じて宿題を課す。
成績評価の方法	評価は授業中に行い毎回提出する課題と最終課題を総合的に評価しておく。
教科書／テキスト	授業中に紹介する。
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。

履修コード	085301
科目名	教育評価
担当者名	大浜 幾久子

授業概要/到達目標 (ねらい) 狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。さらに、教員になったときに「よいテスト」を作成し実施できるよう、実践力を身につける。

授業スケジュール はじめに、教育心理学の研究手法(実験・観察・調査・テスト)の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

前期 第1回:「教育評価」とは
 第2回:日常生活における測定
 第3～6回:心理学研究における測定法の展開
 第7回:性格テスト実習
 第8回:知能テスト実習
 第9～11回:統計学入門:パソコンソフトの活用方法

後期 第1～3回:前期の研究実習のプレゼンテーション
 第4～6回:学校とテスト
 第7～10回:よいテストとは:テスト理論入門
 第11～15回:テスト作成の研究実習

準備学習	実習に必要なデータを得ること。
履修上の留意点	ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。
成績評価の方法	2回の研究実習レポートを主に、ゼミ討論への参加状況などを加味した総合評価。
教科書/テキスト	指定なし。
参考書	資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

履修コード	080401
科目名	教育臨床
担当者名	遠藤 司

授業概要/到達目標 (ねらい) 心の教育が重視されている現在の教育現場において、カウンセリングの視点をもつ教師の育成が求められている。この授業では、将来教職に就くことを目指している人間がカウンセリングについて学ぶことの意味を考え、双方向の対話を基に教師-生徒関係を生きようとしつつ、なおかつ指導する人間としての教師をも生きようとするこの意味を考えることを通して、自らの教師観をより豊かに深めていくことを目的とする。

授業スケジュール

1. ガイダンス
2. 教育相談について学ぶ:理論について
3. 教育相談について学ぶ:方法について
4. カウンセリングについて学ぶ:概観
5. カウンセリングについて学ぶ:理論について(その1)
6. カウンセリングについて学ぶ:理論について(その2)
7. カウンセリングについて学ぶ:まとめ
8. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える:概観・問題提起
9. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える:カウンセリングの必要性について(その1)
10. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える:カウンセリングの必要性について(その2)
11. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える:まとめ
12. 対話について考える:概観
13. 対話について考える:授業での対話について(その1)
14. 対話について考える:授業での対話について(その2)
15. 全体のまとめ

準備学習	カウンセリング理論について事前に学習しておくこと。
履修上の留意点	主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に授業者により発せられる様々な問いに対して自分の言葉で考えようとする。ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書く機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の言葉で文章にすること。要するに、考えることを厭わない学生の参加を望む。
成績評価の方法	授業時間内の試験またはレポート(50点)、および学期末のレポート(50点)により成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、また、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。
教科書/テキスト	特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。
参考書	

履修コード	080901
科目名	教育臨床
担当者名	遠藤 司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	心の教育が重視されている現在の教育現場において、カウンセリング的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業では、将来教職に就くことを目指している人間がカウンセリングについて学ぶことの意味を考え、双方向の対話を基に教師-生徒関係を生きようとしつつ、なおかつ指導する人間としての教師をも生きようとすることの意味を考えることを通して、自らの教師観をより豊かに深めていくことを目的とする。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 教育相談について学ぶ：理論について 3. 教育相談について学ぶ：方法について 4. カウンセリングについて学ぶ：概観 5. カウンセリングについて学ぶ：理論について (その1) 6. カウンセリングについて学ぶ：理論について (その2) 7. カウンセリングについて学ぶ：まとめ 8. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える：概観・問題提起 9. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える：カウンセリングの必要性について (その1) 10. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える：カウンセリングの必要性について (その2) 11. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える：まとめ 12. 対話について考える：概観 13. 対話について考える：授業での対話について (その1) 14. 対話について考える：授業での対話について (その2) 15. 全体のまとめ
準備学習	カウンセリング理論について事前に学習しておくこと。
履修上の留意点	主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に授業者により発せられる様々な問いに対して自分の言葉で考えようとする。ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書く機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の言葉で文章にすること。要するに、考えることを厭わない学生の参加を望む。
成績評価の方法	授業時間内の試験またはレポート(50点)、および学期末のレポート(50点)により成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、また、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。
教科書/テキスト	特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。
参考書	

履修コード	081001
科目名	教育臨床
担当者名	遠藤 司

授業概要/ 到達目標（ねらい）	心の教育が重視されている現在の教育現場において、カウンセリング的視点をもつ教師の育成が求められている。この授業では、将来教職に就くことを目指している人間がカウンセリングについて学ぶことの意味を考え、双方向の対話を基に教師-生徒関係を生きようとしつつ、なおかつ指導する人間としての教師をも生きようとするという意味を考えることを通して、自らの教師観をより豊かに深めていくことを目的とする。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 教育相談について学ぶ：理論について 3. 教育相談について学ぶ：方法について 4. カウンセリングについて学ぶ：概観 5. カウンセリングについて学ぶ：理論について（その1） 6. カウンセリングについて学ぶ：理論について（その2） 7. カウンセリングについて学ぶ：まとめ 8. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える：概観・問題提起 9. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える：カウンセリングの必要性について（その1） 10. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える：カウンセリングの必要性について（その2） 11. 教師としてカウンセリングを学ぶことについて考える：まとめ 12. 対話について考える：概観 13. 対話について考える：授業での対話について（その1） 14. 対話について考える：授業での対話について（その2） 15. 全体のまとめ
----------	---

準備学習	カウンセリング理論について事前に学習しておくこと。
------	---------------------------

履修上の留意点	主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に授業者により発せられる様々な問いに対して自分の言葉で考えようとする。ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書く機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の言葉で文章にすること。要するに、考えることを厭わない学生の参加を望む。
---------	---

成績評価の方法	授業時間内の試験またはレポート（50点）、および学期末のレポート（50点）により成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、また、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。
---------	---

教科書／テキスト	特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。
----------	---------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	081101
科目名	教育臨床
担当者名	川原 誠司
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	● 4つの心理療法（精神分析的療法、行動療法、認知〔論理〕療法、クライアント中心療法）の概要を学び、その基本的な考え方や知識、治療方法を理解した上で、それらの観点が学校という場所で子どもに接する場合にどのような形で援用できるかということ学ぶ。これによって、教師として子どもの指導や相談に関わる際に、視点の広がりや深まりをもってもらうことを目的とする。
授業スケジュール	● 正式なスケジュールは、授業期間や受講生数が定まってから、下記のもの（予定）を調整していきますので、必ず授業時の指示に従ってください。 第1回 ガイダンス 第2回 学校現場に心理療法的観点を活かすことがなぜ必要なのか 第3回 精神分析的療法の概説 第4回 精神分析的療法の補足・詳説 第5回 精神分析的療法的観点の学校現場への適用 第6回 行動療法の概説 第7回 行動療法の補足・詳説 第8回 行動療法的観点の学校現場への適用 第9回 認知（論理）療法の概説 第10回 認知（論理）療法の補足・詳説 第11回 認知（論理）療法的観点の学校現場への適用 第12回 クライアント中心療法の概説 第13回 クライアント中心療法の補足・詳説 第14回 クライアント中心療法的観点の学校現場への適用 第15回 まとめ
準備学習	● 授業に関する予習・復習課題が課されます。また、授業については、話を聴く姿勢と授業に参加する態度とを求めます。
履修上の留意点	● 最初の授業で受講人数を把握して、できるだけ班編制を行う予定ですので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。2回目以降からの参加は原則認めません。講義形式だけにとどまらないようにさまざまな形態で授業を進めていくことを考えています。 ● 本授業はe-Learning (YeStudy) を用いて予習、復習を実施するので、その操作の意志があること。 ● 授業に出席すること、授業をしっかりと聴くことのみならず、班作業をはじめとした活動に物理的にも意識的にも参加すること。なお、携帯電話の使用は禁止しますのでカバンなどにしまってください（机に出したり、机の下で隠れて操作しないこと）。 ● 授業の最初に出席を兼ねた確認小課題を実施しますので、事前の指示に従ってください。
成績評価の方法	● 「試験（持ち込みは一切不可）＋平常点等」を考えています。 ● 平常点等についての考えなどの詳細は、初回の授業に述べます。また、配点の比率については正式には授業を進めていく中で決定しますが、「試験：平常点等＝10：3～4」くらいを考えています。
教科書／テキスト	● 特定の本一冊を使用する形はとらない予定です。しかし、毎週必要な文献を読んだり、調べてくる課題等が出ます。
参考書	● 必要なものがあれば、授業中に呈示します。
その他	● 履修登録の際には、上記の説明をしっかりと読んでください。「授業に出さえすれば教職単位は何とかなる」と思っている学生には決して向きませんので、十分にご注意ください。

履修コード	080301
科目名	教育臨床
担当者名	佐藤 尚人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 教師が、教育の現場で出会うであろうさまざまな問題について毎回取りあげていきます。それぞれの問題について、特に相談的あるいはカウンセリング的な理解や対応について、参加する学生一人ひとりが「自分が教師の立場に立った時どうするか」をできるだけ具体的に考えていくことを目標とします。受け身の姿勢で参加する講義ではなく「自分(たち)が材料を準備してきて、討論をとおして学ぶかたち」をめざします。①資料を探してまとめることを学びます。②自分の考えを自分の言葉で表現することを学びます。③自分の考えを他者に伝え他者の考えを聞き理解することを学びます。④さまざまな考えを材料に討論することを学びます。以上、体験をとおして教師に求められる資質を理解し、その力を養ってください。</p> <p>(到達目標) 単なる頭の中での知識としてではなく、自分が実際に教壇に立った時に使える(行動できる)具体的なアイデアを持つようになること。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：授業の進行や参加の条件、成績評価などについての説明 第2回～第14回 各回に次のような問題(テーマ)を取り上げていきます。「不登校」「非行・犯罪」「いじめ」「学力低下」「学級崩壊(不適応児童)」「体罰」「教師のストレス・精神衛生」「モンスターペアレント(保護者や地域との連携・協力)」「発達・学習の障害(特別支援教育)」など。各回のグループでの討論と発表だけでなく、全体でのディベートなどもおこない、カウンセリングマインドの活用方法を説明します。 第15回 まとめ</p>
----------	--

準備学習	履修上の留意点をよく確認してください。
------	---------------------

履修上の留意点	<p>授業は、「参加学生が毎回準備してくる課題をグループ内で互いに発表し・まとめ・全体に報告すること」「授業時間の最後にまとめとして、教員が解説・コメントする」形で進めます。参加学生は毎回必ず課題を作成してくる。その際、①インターネット上の情報だけに頼らず、本や資料など複数のものを比較検討しながらまとめること、②提言(結論)として、自分のことばで自分の考えをきちんと表現すること、を求めます。図書館を積極的に利用してください。課題をやつてこない場合は、出席には扱いません。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>毎回の出席を評価の前提とします(4回以上欠席した場合は、原則として評価の対象から除外します)。毎回、作成した課題を持って授業に出席すること。課題はグループ討議での材料とする一方、教員に提出し内容を評価されます。授業では、「課題をもってこること」「グループでの討論に参加すること」「発表すること」が評価を受ける条件です。筆記試験は行わず、提出された課題の内容・発表・討論への参加を総合して評価を行います。</p>
---------	--

教科書/テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	<p>毎回の課題の作成に際して、各自工夫してください。なお、どのような参考書(資料)を探しているかも、評価の際のポイントになります。</p>
-----	--

履修コード	080701
科目名	教育臨床
担当者名	佐藤 尚人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>教師が、教育の現場で出合うさまざまな問題について毎回取りあげていきます。それぞれの問題について、特に相談的あるいはカウンセリング的な理解や対応について、参加する学生一人ひとりが「自分が教師の立場に立った時どうするか」をできるだけ具体的に考えていくことを目標とします。受け身の姿勢で参加する講義ではなく「自分(たち)が材料を準備してきて、討論をとおして学ぶかたち」をめざします。①資料を探してまとめることを学びます。②自分の考えを自分の言葉で表現することを学びます。③自分の考えを他者に伝え他者の考えを聞き理解することを学びます。④さまざまな考えを材料に討論することを学びます。以上、体験をとおして教師に求められる資質を理解し、その力を養ってください。</p> <p>(到達目標)</p> <p>単なる頭の中の知識としてではなく、自分が実際に教壇に立った時に使える(行動できる)具体的なアイデアを持つようになること。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：授業の進行や参加の条件、成績評価などについての説明 第2回～第14回 各回に次のような問題(テーマ)を取り上げていきます。「不登校」「非行・犯罪」「いじめ」「学力低下」「学級崩壊(不適応児童)」「体罰」「教師のストレス・精神衛生」「モンスターペアレント(保護者や地域との連携・協力)」「発達・学習の障害(特別支援教育)」など。各回のグループでの討論と発表だけでなく、全体でのディベートなどもおこない、カウンセリングマインドの活用方法などを説明します。 第15回 まとめ</p>
準備学習	履修上の留意点をよく確認してください。
履修上の留意点	<p>授業は、「参加学生が毎回準備してくる課題をグループ内で互いに発表し・まとめ・全体に報告すること」「授業時間の最後にまとめとして、教員が解説・コメントする」形で進めます。参加学生は毎回必ず課題を作成してくる。その際、①インターネット上の情報だけに頼らず、本や資料など複数ものを比較検討しながらまとめること、②提言(結論)として、自分のことばで自分の考えをきちんと表現すること、を求めます。図書館を積極的に利用してください。課題をやつてこない場合は、出席には扱いません。</p>
成績評価の方法	<p>毎回の出席を評価の前提とします(4回以上欠席した場合は、原則として評価の対象から除外します)。毎回、作成した課題を持って授業に出席すること。課題はグループ討議での材料とする一方、教員に提出し内容を評価されます。授業では、「課題をもつてくること」「グループでの討論に参加すること」「発表すること」が評価を受ける条件です。筆記試験は行わず、提出された課題の内容・発表・討論への参加を総合して評価を行います。</p>
教科書/テキスト	使用しません。
参考書	毎回の課題の作成に際して、各自工夫してください。なお、どのような参考書(資料)を探し用いるかも、評価の際のポイントになります。

履修コード	080801
科目名	教育臨床
担当者名	佐藤 尚人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>教師が、教育の現場で出合うさまざまな問題について毎回取りあげていきます。それぞれの問題について、特に相談的あるいはカウンセリング的な理解や対応について、参加する学生一人ひとりが「自分が教師の立場に立った時どうするか」をできるだけ具体的に考えていくことを目標とします。受け身の姿勢で参加する講義ではなく「自分(たち)が材料を準備してきて、討論をとおして学ぶかたち」をめざします。①資料を探してまとめることを学びます。②自分の考えを自分の言葉で表現することを学びます。③自分の考えを他者に伝え他者の考えを聞き理解することを学びます。④さまざまな考えを材料に討論することを学びます。以上、体験をとおして教師に求められる資質を理解し、その力を養ってください。</p> <p>(到達目標)</p> <p>単なる頭の中での知識としてではなく、自分が実際に教壇に立った時に使える(行動できる)具体的なアイデアを持つようになること。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 はじめに：授業の進行や参加の条件、成績評価などについての説明 第2回～第14回 各回に次のような問題(テーマ)を取り上げていきます。「不登校」「非行・犯罪」「いじめ」「学力低下」「学級崩壊(不応児童)」「体罰」「教師のストレス・精神衛生」「モンスターペアレント(保護者や地域との連携・協力)」「発達・学習の障害(特別支援教育)」など。各回のグループでの討論と発表だけでなく、全体でのディベートなどもおこない、カウンセリングマインドの活用方法などを説明します。 第15回 まとめ</p>
----------	---

準備学習	履修上の留意点をよく確認してください。
------	---------------------

履修上の留意点	<p>授業は、「参加学生が毎回準備してくる課題をグループ内で互いに発表し・まとめ・全体に報告すること」「授業時間の最後にまとめとして、教員が解説・コメントする」形で進めます。参加学生は毎回必ず課題を作成してくること。その際、①インターネット上の情報だけに頼らず、本や資料など複数ものを比較検討しながらまとめること、②提言(結論)として、自分のことばで自分の考えをきちんと表現すること、を求めます。図書館を積極的に利用してください。課題をやつてこない場合は、出席には扱いません。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>毎回の出席を評価の前提とします(4回以上欠席した場合は、原則として評価の対象から除外します)。毎回、作成した課題を持って授業に出席すること。課題はグループ討議での材料とする一方、教員に提出し内容を評価されます。授業では、「課題をもつてくること」「グループでの討論に参加すること」「発表すること」が評価を受ける条件です。筆記試験は行わず、提出された課題の内容・発表・討論への参加を総合して評価を行います。</p>
---------	--

教科書/テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	毎回の課題の作成に際して、各自工夫してください。なお、どのような参考書(資料)を探し用いるかも、評価の際のポイントになります。
-----	---

履修コード	080501
科目名	教育臨床
担当者名	目良 秋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この授業では教育現場における臨床活動の現状と諸問題をスクールカウンセラーと教員の相互視点に立ち考察しながら、児童・生徒の臨床活動とその考え方について理解を深めていきます。主に不登校の事例を通してスクールカウンセラーと教師の具体的な子どもへの対応や、学校内および家庭との連携、子どもとの間で生じる葛藤や問題の扱い方などについてみていきます。また、近年増加傾向にあるといわれている軽度発達障害についての基本的な知識と、教育・臨床的配慮についても学びます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>1～2回目：ガイダンス及び教育臨床概説 子どもの問題と教育臨床の現状</p> <p>3～5回目：教育相談の理論と方法 理論、歴史(日本とアメリカ)、教育現場と病院臨床の比較から</p> <p>6～7回目：心理療法の実際</p> <p>8～11回目：学校における臨床活動 スクールカウンセラーと教師・カウンセリングと心理療法 事例研究—不登校生徒に対するスクールカウンセラーの対応—</p> <p>12～13回目：発達障害(主に広汎性発達障害・ADHD・LD等)</p> <p>14回目：児童期・青年期の心の問題 不登校・いじめ・その他の不応と発達障害との関連</p> <p>15回目：総括</p>
----------	---

準備学習	毎授業時間前に先週までの内容の振り返りを各自行うこと。日頃より新聞やニュースなどの報道のなかで学校教育関連の報道に関心を持ち、それに対する自分の考えを持つこと。
------	--

履修上の留意点	教職課程科目であるため出席は毎回取り、評価においても重視します。また、授業期間内に数回のレポート提出があります。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験(8割)と授業内レポート課題(2割)を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
---------	---

教科書/テキスト	必要に応じて資料を配布します。
----------	-----------------

参考書	必要に応じて紹介します。
-----	--------------

その他	授業は講義形式で行います。
-----	---------------

履修コード	080601
科目名	教育臨床
担当者名	目良 秋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では教育現場における臨床活動の現状と諸問題をスクールカウンセラーと教員の相互視点に立ち考察しながら、児童・生徒の臨床活動とその考え方について理解を深めていきます。主に不登校の事例を通してスクールカウンセラーと教師の具体的な子どもへの対応や、学校内および家庭との連携、子どもとの間で生じる葛藤や問題の扱い方などについてみていきます。また、近年増加傾向にあるといわれている軽度発達障害についての基本的な知識と、教育・臨床的配慮についても学びます。
---------------------	---

授業スケジュール	1~2回目：ガイダンス及び教育臨床概説 子どもの問題と教育臨床の現状 3~5回目：教育相談の理論と方法 理論、歴史（日本とアメリカ）、教育現場と病院臨床の比較から 6~7回目：心理療法の実際 8~11回目：学校における臨床活動 スクールカウンセラーと教師・カウンセリングと心理療法 事例研究－不登校生徒に対するスクールカウンセラーの対応－ 12~13回目：発達障害（主に広汎性発達障害・ADHD・LD等） 14回目：児童期・青年期の心の問題 不登校・いじめ・その他の不適応と発達障害との関連 15回目：総括
----------	--

準備学習	毎授業時間前に先週までの内容の振り返りを各自行うこと。日頃より新聞やニュースなどの報道のなかで学校教育関連の報道に関心を持ち、それに対する自分の考えを持つこと。
------	--

履修上の留意点	教職課程科目であるため出席は毎回取り、評価においても重視します。また、授業期間内に数回のレポート提出があります。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験（8割）と授業内レポート課題（2割）を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
---------	---

教科書／テキスト	必要に応じて資料を配布します。
----------	-----------------

参考書	必要に応じて紹介します。
-----	--------------

その他	授業は講義形式で行います。
-----	---------------

履修コード	305901
科目名	教育臨床
担当者名	目良 秋子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では教育現場における臨床活動の現状と諸問題をスクールカウンセラーと教員の相互視点に立ち考察しながら、児童・生徒の臨床活動とその考え方について理解を深めていきます。主に不登校の事例を通してスクールカウンセラーと教師の具体的な子どもへの対応や、学校内および家庭との連携、子どもとの間で生じる葛藤や問題の扱い方などについてみていきます。また、近年増加傾向にあるといわれている軽度発達障害についての基本的な知識と、教育・臨床的配慮についても学びます。
---------------------	---

授業スケジュール	1~2回目：ガイダンス及び教育臨床概説 子どもの問題と教育臨床の現状 3~5回目：教育相談の理論と方法 理論、歴史（日本とアメリカ）、教育現場と病院臨床の比較から 6~7回目：心理療法の実際 8~11回目：学校における臨床活動 スクールカウンセラーと教師・カウンセリングと心理療法 事例研究－不登校生徒に対するスクールカウンセラーの対応－ 12~13回目：発達障害（主に広汎性発達障害・ADHD・LD等） 14回目：児童期・青年期の心の問題 不登校・いじめ・その他の不適応と発達障害との関連 15回目：総括
----------	--

準備学習	毎授業時間前に先週までの内容の振り返りを各自行うこと。日頃より新聞やニュースなどの報道のなかで学校教育関連の報道に関心を持ち、それに対する自分の考えを持つこと。
------	--

履修上の留意点	教職課程科目であるため出席は毎回取り、評価においても重視します。また、授業期間内に数回のレポート提出があります。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験（8割）と授業内レポート課題（2割）を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
---------	---

教科書／テキスト	必要に応じて資料を配布します。
----------	-----------------

参考書	授業で適宜紹介します。
-----	-------------

その他	授業は基本的には講義形式ですが、テーマの内容によってはグループ討議等も取り入れながら行っています。
-----	---

履修コード	085601
科目名	教育臨床心理学
担当者名	牟田 隆郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>人間が人生で出会う諸経験が、その人の人生をどのように実り豊かなものにするのかしないのか。その過程を明らかにする。そのために、人間の認知世界、人間的人格形成、心の不調、集団と個の関係などを主要なテーマとして取り上げる。</p> <p>(到達目標)</p> <p>人間独自の認知特性を再発見し、人間独特の人生の紡ぎ方に目覚める。その上で、自らの成長過程、対人関係の形成過程をできるだけ肯定的に振り返り、「自分」というものを今後どのように安定的に作り上げていくかのヒントを得る。</p> <p>そのために、従来自らが無意識的に行ってきた物事の捉え方、感じ方の再確認を行う。これはいわば習慣的な生き方の見直しでもある。この作業を通して、自らをそして他者を肯定的に受け入れる素地を作る。そして今後の社会参加の過程において、「生きやすい社会」形成の良き働き手となるような自分作りをするための出発点とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期</p> <p>1 本講義のねらい</p> <p>2～3 人間における不思議なこと・謎</p> <p>4～5 完全な人間はいるか・本当の自分はあるか</p> <p>6～7 自分と他者の間</p> <p>8～10 心の成り立ち・意識の成り立ち</p> <p>11～14 人間や社会における光と影</p> <p>15 まとめ</p> <p>後期</p> <p>1～3 心の無意識の「やりくり」</p> <p>4～5 家族や集団における自分のあり方</p> <p>6～8 成長・発達の様相・課題と心の不調</p> <p>9～10 身体性と心の関連</p> <p>11～14 事例を通して人間形成を考える</p> <p>15 まとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>前回授業の内容を吟味し、そこで示された様々な捉え方や解釈を再考し、改めて従来の自らの考え方と一致するところ一致しないところを確認する。特に一致しないところについて、後の授業の関連部分に対し、質問なり意見なりを述べるための準備をしておく。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>「自ら考える」ということを大切にしたいので、問いかけを頻繁にいたします。自分の考えや思いを積極的に発言すること。また、よい意味で批判的に講義を聴き、これまた積極的に質問をすること。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>各回の小レポートと出席状況によって評価する。小レポートは70%、出席状況は30%の割合で総合評価する。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>プリントを配布する。</p>
----------	-------------------

参考書	<p>適宜紹介する。</p>
-----	----------------

履修コード	076711
科目名	教職入門
担当者名	天井 勝海

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日の生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等は極めて多様化している。また、生徒を取り巻く教育環境は、国際化・情報化・高齢化・少子化などの著しい進展や生涯学習社会への移行など急激に変化している。このことを踏まえ、これからの学校教育や教育職員としての在り方などについて具体的な課題を取り上げ考察し、教員に求められている基本的な資質や能力及び実践的な指導力等を育成する。
---------------------	---

授業スケジュール	今日の児童生徒の特性等は極めて多様化している。また、現在の児童生徒や学校を取り巻く教育環境も急速に変化している。このことなども深くかかわって、これまでの教員に求められる資質や能力、あるいは指導力や対応力なども見直しが必要である。講義の1～4においてはこのことに関する認識を明確にさせる。また、これからの教員には実践的な指導力が極めて重要であるので、5～13では、具体的な教育課題の把握や理解をさせるとともにそれらを通して実践的な指導力や対応力を特に育成する。14～15では、改めて教員に求められる資質や能力や、学校という組織の中で働く職責を含めて教員としての職責や自覚を高めさせる。生徒や保護者あるいは地域の方々から信頼され尊敬される教員の育成を目指す。また、進路選択に関して多様な機会について理解を深める。
----------	--

- 1 教職入門ガイダンス・講義のねらいとその内容及び評価方法について
- 2 学校組織と教職の内容・教員研修と服務及び身分保障等
(教育基本法等の法律を踏まえて)
- 3 学校を取り巻く環境の変化とその対応
- 4 新しい学習指導要領と教育課程の編成
- 5 「生きる力」と総合的な学習の時間
- 6 授業力の向上と指導内容・方法の改善
- 7 健全育成と生徒指導
- 8 生徒指導上の課題とその対応(1)―生徒指導のねらいと指導の在り方―
- 9 生徒指導上の課題とその対応(2)―いじめ問題や不登校問題とその対応の在り方―
- 10 キャリア教育と進路指導
- 11 学級経営やホームルーム経営の在り方
- 12 教育法規とその内容―教育基本法や学校教育法の改正―
- 13 学校における接遇の実際と地域に開かれた学校づくり
- 14 教員に求められる資質・能力及び進路選択の多様な機会
- 15 教職の意義及び教員の役割と責任・教職入門のまとめ

準備学習	シラバスを参照して教科書の該当テーマを一読しておくことが必要です。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	実践的な指導力を身につけることを念頭に置いて授業に参画することが必要です。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	後期末試験、授業中の提出物、レポート、小テストなどのほかに、授業への参加の状況(出席の状況)なども重視し、総合的に評価します。 なお、後期末試験結果の評価全体に占める割合は6割程度です。提出物・レポート・小テスト・出席状況などは評価全体の4割程度を占めます。
---------	--

教科書/テキスト	現代実践教職入門(学事出版) 著者名 天井勝海 価格2200円
----------	---------------------------------

参考書	教育小六法・学習指導要領及び解説(総則編)・その他必要なものは授業の際に紹介する。また、参考となる資料は、プリントして配付します。
-----	---

履修コード	305401
科目名	教職入門
担当者名	天井 勝海

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日の生徒の興味・関心、能力・適性、進路希望等は極めて多様化している。また、生徒を取り巻く教育環境は、国際化・情報化・高齢化・少子化などの著しい進展や生涯学習社会への移行など急激に変化している。このことを踏まえ、これからの学校教育や教育職員としての在り方などについて具体的な課題を取り上げ考察し、教員に求められている基本的な資質や能力及び実践的な指導力等を育成する。
---------------------	---

授業スケジュール	今日の児童生徒の特性等は極めて多様化している。また、現在の児童生徒や学校を取り巻く教育環境も急速に変化している。このことなども深くかかわって、これまでの教員に求められる資質や能力、あるいは指導力や対応力なども見直しが必要である。講義の1～4においてはこのことに関する認識を明確にさせる。また、これからの教員には実践的な指導力が極めて重要であるので、5～13では、具体的な教育課題の把握や理解をさせるとともにそれらを通して実践的な指導力や対応力を特に育成する。14～15では、改めて教員に求められる資質や能力や、学校という組織の中で働く職責を含めて教員としての職責や自覚を高めさせる。生徒や保護者あるいは地域の方々から信頼され尊敬される教員の育成を目指す。また、進路選択に関して多様な機会について理解を深める。
----------	--

- 1 教職入門ガイダンス・講義のねらいとその内容及び評価方法について
- 2 学校組織と教職の内容・教員研修とサービス及び身分保障等
(教育基本法等の法律を踏まえて)
- 3 学校を取り巻く環境の変化とその対応
- 4 新しい学習指導要領と教育課程の編成
- 5 「生きる力」と総合的な学習の時間
- 6 授業力の向上と指導内容・方法の改善
- 7 健全育成と生徒指導
- 8 生徒指導上の課題とその対応(1)―生徒指導のねらいと指導の在り方―
- 9 生徒指導上の課題とその対応(2)―いじめ問題や不登校問題とその対応の在り方―
- 10 キャリア教育と進路指導
- 11 学級経営やホームルーム経営の在り方
- 12 教育法規とその内容―教育基本法や学校教育法の改正―
- 13 学校における接遇の実際と地域に開かれた学校づくり
- 14 教員に求められる資質・能力及び進路選択の多様な機会
- 15 教職の意義及び教員の役割と責任・教職入門のまとめ

準備学習	シラバスを参照して教科書の該当テーマを一読しておくことが必要です。
------	-----------------------------------

履修上の留意点	実践的な指導力を身につけることを念頭に置いて授業に参画することが必要です。
---------	---------------------------------------

成績評価の方法	後期末試験、授業中の提出物、レポート、小テストなどのほかに、授業への参加の状況(出席の状況)なども重視し、総合的に評価します。 なお、後期末試験結果の評価全体に占める割合は6割程度です。提出物・レポート・小テスト・出席状況などは評価全体の4割程度を占めます。
---------	--

教科書/テキスト	現代実践教職入門(学事出版) 著者名 天井勝海 価格2200円
----------	---------------------------------

参考書	教育小六法・学習指導要領及び解説(総則編)・その他必要なものは授業の際に紹介する。また、参考となる資料は、プリントして配付します。
-----	---

履修コード	076701
科目名	教職入門
担当者名	藤木 篤典
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>高度消費社会のもと、国際化・情報化の進展、過密・過疎、少子化、近年の不況の中、多様化した生徒をどう教育するか。日本の教育界は、価値観の多様化、生徒間の「いじめ」や不登校等の多くの問題を抱えている。</p> <p>それらの問題を解決するための力量が教師に求められる。制度面でも多様な高校（通信制、昼夜間定時制、全・定単位制、総合学科）が設立されている。</p> <p>この講義では、教師になるための勉強の第一歩として、必要な知識を学びます。生徒は、教師の接し方、アドバイス等で大きく変化します。</p>
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・教育について ・教育機関・制度 ・法体系について ・教育法規 ・教師の身分（採試、常勤、期限付、非常勤） ・教育免許状 ・職務と身分（校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、実習助手、事務職、私学） ・特別活動 ・教育内容（学習指導要領の法的拘束） ・教育課程 ・『児童の権利条約』と学校の指導 ・校務分掌について ・中央教育審議会の動向と教育の変化について ・教育関係の時事問題について ・その他（学校評議員制度、関係諸団体、研修、国際交流、障害児教育、生徒指導等）
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ○学校教育法を読み ・学校の種類および教員の職名について理解しておく。 ・教員の職務の範囲について調べておく。 ○中・高の学習指導要領を読み、取得予定の教科および科目の目標を理解しておく。
履修上の留意点	採用試験に向けて、自己の進路として受けとめて学んでほしい。
成績評価の方法	出席状況、レポートの提出など総合的に評価する。
教科書／テキスト	教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	

履修コード	114001
科目名	経済原論
担当者名	浅野 克巳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞その他のメディアで日常的に使われる経済用語や基本的な考え方をしっかりマスターすることがこの授業の第1の目標。 ・公務員試験その他の国家試験で必須の経済学の受験対策としても通用するような経済学の基礎を習得することを目指したい。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業スケジュール</p> <p>PART 1 ミクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 需要と供給 <ol style="list-style-type: none"> (1) 需要・供給分析 (2) 需要供給分析の応用 2. 需要曲線と消費者行動 3. 費用の構造と供給行動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 供給曲線とは (2) 利潤最大化と供給行動 4. 市場取引と資源配分 <ol style="list-style-type: none"> (1) 市場と価格メカニズム (2) 余剰分析 5. 市場取引と資源配分 <ol style="list-style-type: none"> (3) 資源配分のゆがみ 6. ゲームの理論入門 7. ゲームの理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 囚人のジレンマ 8. 協調メカニズム <ol style="list-style-type: none"> (2) ゲームの理論 (3) 参入阻止行動 9. 独占と競争の理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 独占 10. 独占と競争の理論：その2 <ol style="list-style-type: none"> (2) 独占的競争と不完全競争 11. 市場の失敗 <ol style="list-style-type: none"> (1) 外部効果 (2) 公共財 12. 不確実性と不完全情報の世界 <ol style="list-style-type: none"> (1) 不確実性と経済現象 (2) 不完全情報の経済学 (3) 情報の不完全性への対応 13. 消費者の理論 <ol style="list-style-type: none"> (1) 無差別曲線と効用 (2) 予算制約と消費者行動 14. 消費者の理論 <ol style="list-style-type: none"> (3) 所得変化と需要 (4) 価格変化と需要 15. 消費者の理論 <ol style="list-style-type: none"> (5) 労働供給の理論 <p>PART 2 マクロ経済学</p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 経済をマクロからとらえる <ol style="list-style-type: none"> (1) GDPと国民所得 (2) マクロ経済における需要と供給 17. 有効需要と乗数メカニズム <ol style="list-style-type: none"> (1) 需要の決定とマクロ経済の均衡 18. 有効需要と乗数メカニズム <ol style="list-style-type: none"> (2) 景気波及のメカニズム 19. 貨幣とは <ol style="list-style-type: none"> (1) 貨幣の定義と機能 20. 貨幣とは <ol style="list-style-type: none"> (2) マネーサプライと信用乗数 (3) 貨幣供給と物価 21. マクロ経済政策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 財政政策 22. マクロ経済政策 <ol style="list-style-type: none"> (2) 金融政策 23. マクロ経済政策 <ol style="list-style-type: none"> (3) マクロ経済政策をめぐる論争 24. インフレとデフレと失業 <ol style="list-style-type: none"> (1) インフレーションとデフレーション 25. インフレとデフレと失業 <ol style="list-style-type: none"> (2) 失業 26. 財政政策のマクロ経済分析 <ol style="list-style-type: none"> (1) 財政政策の短期的側面 27. 財政政策のマクロ経済分析 <ol style="list-style-type: none"> (2) 財政政策のマクロ経済分析 28. 経済成長と経済発展 <ol style="list-style-type: none"> (1) 経済はなぜ成長するか 29. 経済成長理論 30. 国際経済学 <ol style="list-style-type: none"> (1) 為替レート
----------	---

(2) 比較優位

準備学習	新聞記事は現実の経済を学ぶのに最も優れた教材です。授業はできる限り実際の経済を念頭に置いて行います。毎日必ず新聞に目を通すことが必要です。
履修上の留意点	・新聞その他日常的に使われる経済用語や基本的な考え方をしっかりマスターすることがこの授業の第1の目標であるから、新聞は必ず読む習慣を守ること。
成績評価の方法	定期試験(年度末)と授業内試験(5~7回実施予定)、およびレポート(1~2回)の成績を総合評価する。
教科書/テキスト	テキストおよび参考書については最初の授業で詳しく説明します。
参考書	公務員試験の過去問などの国家試験の受験対策にも十分通用するようできる限り問題練習をすることも理解を確実にする近道だ。 練習問題と参考資料は必要に応じプリントを配布する。

履修コード	324401 324402
科目名	経済原論
担当者名	藤原 碩宣

授業概要/ 到達目標(ねらい)	授業概要：経済学の基礎概念と理論、および日本経済の現状と問題点について実例をふまえて説明します。 到達目標：経済学の基礎理論が理解できる。 日本経済の現状と問題点が理解できる。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none">1. 経済原論とはどのような学問か、前期授業のガイダンス、授業運営について2. 経済学の歴史：アダム・スミスの経済学3. 経済学の歴史：D.リカードと限界効用学派4. 経済学の歴史：J.M.ケインズの経済学5. 国民経済循環と産業連関表6. 国民経済計算体系7. 国内総生産の決定 18. 国内総生産の決定 29. ケインズによる不況克服策10. 経済政策の体系 111. 経済政策の体系 2. 財政政策12. 経済政策の体系 3. 金融政策13. わが国戦後の経済政策の特質14. 日本経済で今起こっている変化15. 前期授業のまとめと質疑応答16. 後期授業のガイダンス17. 今年度の『経済財政白書』について18. 経済主体の行動—ミクロ経済理論19. 消費者選択の理論 120. 消費者選択の理論 221. 生産者行動の理論 122. 生産者行動の理論 223. 寡占経済の理論 124. 寡占経済の理論 225. 寡占経済の理論 326. 日本経済の構造変化—総論27. 日本経済の構造変化—各論 128. 日本経済の構造変化—各論 229. 日本経済の構造変化—各論 330. 後期授業のまとめと質疑応答
----------	---

準備学習	授業でお話した事柄についてノートを取り、次回迄に不明な点等を調べて、質問するなりし、確実な理解をしてください。
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法

筆記試験で行います。前期授業範囲から1問、後期授業範囲から1問とします。
授業終了時迄に提出された自助努力の成果物(レポート、スクラップ等)は、採点の際、加算します(1点から20点)。

教科書/テキスト

使用しません。

参考書

適宜参考書等を紹介します。

履修コード	082901
科目名	現代社会の諸問題と教育I
担当者名	鈴木 朋実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>この講義は、現代社会の諸問題のなかでも、子どもの発達の基盤として重要な意味をもつ家族について、今日の諸問題を取り上げ、教育の観点から、その実態、背景、原因を解明し、有効な問題解決の方策をさぐることをねらいとしています。社会性の発達の遅れなど子どもの発達をめぐる問題、不登校・いじめ・校内暴力など学校における問題、その他の非行問題が社会的に憂慮されていますが、その背景には少子高齢化とともに大きく変容しつつある現代家族の在り方をめぐる問題があります。この点を十分に理解し、こうした問題にどのように対応すればよいかを考察するところに講義のポイントをおいています。</p> <p>(到達目標)</p> <p>この講義の到達目標は、子どもをめぐる諸問題に関心をもつとともに、その問題の背景を社会的視点から探求することです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>講義は、次の4セクションに分けて行う予定です。</p> <p>第1セクション：「家族集団と子どもの発達」(第1～4回)</p> <p>第2セクション：「産業の発展にともなう家族の変容と教育機能の衰退」(第5～8回)</p> <p>第3セクション：「現代の家族をめぐる問題の諸相と人間形成」(第9～12)</p> <p>第4セクション：グループによるプレゼンテーション(第13～15回)</p>
----------	---

準備学習	<p>◎家庭教育・学校教育に関する新聞記事をスクラップしておくといでしょう。</p> <p>◎授業内容に関連した新聞記事やHPを授業内で扱うことがあります。</p> <p>◎授業開始時には、前回の授業の復習を行ないますので、YeStudyを利用し既習事項を深めておいて下さい。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>◎新聞などで取り上げられている家族問題への関心を持つことが望まれます。</p> <p>◎講義においても、学生が主体的に取り組む参加型の授業方法をとります。</p>
---------	--

成績評価の方法	授業への積極性を重視した上で、出席状況・プレゼンテーション・試験により、総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	適宜、資料を配布します。
----------	--------------

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

その他	授業方法はディスカッションを中心に構成しています。また、7月にはテーマを設定し、グループあるいは個人でプレゼンテーションを行なっていただきます。
-----	--

履修コード	086201
科目名	現代社会の諸問題と教育II
担当者名	鈴木 朋実

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>現代の社会は急激な変化に伴って解決の難しい多くの問題を発生させていますが、これらの問題は、教育の在り方に直接的、間接的に重大な影響をおよぼしています。わが国の場合、社会的変化は、とりわけ、1960年代の経済成長政策以降、テンポを速め、激しさを増しています。この講義では、わが国の高度経済成長期以降の社会的変化の過程で生じた重要な問題と教育との関係を明らかにして、将来を展望し、問題解決の方策を探ることをねらいとしています。</p> <p>(到達目標)</p> <p>◎政治的・経済的・社会的変化により教育がどのように変容したか、その関係性を考察することができる。</p> <p>◎授業と関連する戦後の教育改革・教育政策に関心をもつテーマについて、各自、研究を深め、プレゼンテーションを行なう。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義は、次の4セクションに分けて行う予定です。</p> <p>第1セクション：「高度経済成長にともなう社会の諸問題と教育」(第1～4回)</p> <p>第2セクション：「情報化にともなう問題と生涯学習」(第5～8回)</p> <p>第3セクション：「自由化をめぐる問題と教育」(第9～12回)</p> <p>第4セクション：プレゼンテーション(第13～15回)</p>
----------	---

準備学習	<p>◎戦後、現在に至るまで、学習指導要領が7回改訂されました。学習指導要領の変遷、その社会的背景について調べてみてください。</p> <p>◎授業内容に関連した新聞記事やHPを授業内で扱うことがあります。</p> <p>◎授業開始時には、前回の授業の復習を行いますので、YeStudyを利用し既習事項を深めておいて下さい。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>新聞に目を通し、社会問題・教育問題への関心を高めるとよいでしょう。</p> <p>グループごと(あるいは個人)に、テーマを設定し、プレゼンテーションを行います。</p>
---------	---

成績評価の方法	授業への積極性を重視したうえで、出席状況・プレゼンテーション・試験により、総合的に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	プリントを配布します。
----------	-------------

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

その他	12月には、個人またはグループでプレゼンテーションを行っていただきます。
-----	--------------------------------------

履修コード	152651
科目名	現代商業論
担当者名	辰馬 信男

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、第2次世界大戦後に著しい変化を遂げたわが国の商業（小売業・卸売業）について、その変化の過程を各種資料に基づきながら、また商業機構の形成に大きな影響を及ぼしている流通政策をも視野に入れながら、明らかにすることを狙いとしています。なお、わが国の商業機構の特徴をより明らかにするために、諸外国のそれとの比較を取り入れたいと考えています。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回：はじめに一業種と業態一、第2回～4回：現代商業を理解するための統計資料の紹介と解題、第5回～7回：ここ1年間（2011年）の商業の動向、第8回～10回：第2次世界大戦後の経済復興と百貨店の復活、第11回～13回：高度経済成長期におけるGMS型スーパーの台頭と大規模小売店舗法の制定、第14回～16回：諸外国における商業機構の展開、第17回～20回：現代商業を学ぶためのいくつかの基礎理論の検討、第21回～23回：低経済成長期における業態の多様化—ディスカウントストア・コンビニエンスストア・食品スーパーの発展—、第24回～25回：バブル経済期における商業機構、第26回～28回：1990年代以降の商業機構(1)—新業態の展開・競争の激化・流通政策の新展開—、第29回～30回：1990年代以降の商業機構(2)—卸売業の再編—
----------	--

準備学習	一般紙の経済面のなかの商業にかかわる記事に日ごろから慣れておくようにしてください。さらにすすんで、『日経MJ(流通新聞)』(週3回発行)やビジネス誌などを読むと理解がますます深まります。
------	---

履修上の留意点	特にありません。
---------	----------

成績評価の方法	出席状況、授業中の質問や発言などを総合的に判断して評価します。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	特にありません。
----------	----------

参考書	授業内容に応じて適宜紹介します。
-----	------------------

履修コード	028601 028602
科目名	現代美術
担当者名	矢野 陽子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) この授業では20世紀以降の美術を「現代美術」として取り上げる。20世紀初頭から次々と展開された大胆で革新的な試みは、従来の美術、すなわち外界の再現を目的とした絵画や人体を主たる題材とした彫刻とは大きく異なる作品を生みだしてきた。こうした現代美術の主要な動きについて学ぶ。</p> <p>(到達目標) この授業の到達目標は、20世紀のさまざまな美術の動向と主要な人物について学び、代表的な作品を鑑賞して、現代美術の基礎知識を身につけることである。そのうえで美術が技術革新やメディアの発達、環境問題といった同時代の様相とどのように関わっているかを考察できるようにすることを旨とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 19世紀の美術 3. 世紀末から20世紀へ 4. フォーヴィスム 5. ドイツ表現主義 6. キュビスム 7. キュビスムの展開 8. 未来派 9. 抽象絵画 10. 構成主義 11. 新造形主義 12. エコール・ド・パリ 13. 素朴派 14. ダダ 15. デ・キリコと形而上絵画 16. シュルレアリスム 1 17. シュルレアリスム 2 18. 1920年代の美術 19. 第二次大戦までのアメリカ美術 1 20. 第二次大戦までのアメリカ美術 2 21. 抽象表現主義 22. ネオ・ダダ 23. ポップ・アート 1 24. ポップ・アート 2 25. 戦後のさまざまな動向 1 26. 戦後のさまざまな動向 2 27. 20世紀の建築 28. 20世紀の彫刻 1 29. 20世紀の彫刻 2 30. まとめ
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスをよく読んでおくこと。 ・前回の授業内容をよく復習して、次の授業に出席するようにすること。
------	---

履修上の留意点	画像をスクリーンに映してそれを見ながら講義を進めるので、授業にはなるべく遅刻欠席をせず、続けて出席すること。
---------	--

成績評価の方法	夏休みの課題レポート20%、学年末の定期試験60%、平常点20%とする。
---------	--------------------------------------

教科書／テキスト	教科書は使用しない。授業時にプリントを配布する。
----------	--------------------------

参考書	美術出版社編『現代美術入門』（美術出版社）2,000円 その他、授業中に適宜紹介する。
-----	--

その他	現代美術を扱った展覧会、美術館などを適宜紹介するので、積極的に現代美術に触れることを望む。
-----	---

履修コード	052711 052712
科目名	考古学特講I
担当者名	酒井 清治
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>日本列島には各時代にわたって大陸から多くの渡来人が訪れた。彼らは日本に多くの文化や技術を伝え、それは日本文化の形成に影響を与えた。渡来人が弥生時代・古墳時代・歴史時代に伝えた文化は、発掘調査によって多くの遺跡・遺物として確認できる。そのような遺跡・遺物を取り上げ、渡来人がどのような文化を残し、それがどのように受け入れられていったのかを探り、各時代の文化に与えた影響などについて考えてみる。</p> <p>日本文化の形成に影響を与えた渡来文化はどのようなものであり、どのように受け入れられていったのかを理解してもらいたい。</p>
授業スケジュール	<p>弥生・古墳・歴史時代を通史的に、それぞれの時代の渡来人と彼らが伝えた渡来文化について遺物・遺跡などの資料を紹介する。</p> <p>(1) 渡来人とは何か、(2~4) 海を渡ってきた渡来人、(5~9) 米作りと武器を伝えた渡来人、(10~14) 倭のクニグニと渡来人、(15~18) 大和政権と渡来人、(19~25) 渡来人の伝えた古墳時代の技術、(26~30) 飛鳥時代の渡来人と渡来文化</p>
準備学習	資料を配付するので事前に学習してほしい。また高校の教科書程度でよいので、時代ごとにとどのような渡来文化があるのか理解して授業に望んでほしい。
履修上の留意点	遅刻をしないこと
成績評価の方法	レポート2回 (70%)、平常点 (30%)
教科書/テキスト	特にないが授業中に資料を配付する
参考書	<p>大橋信弥・花田勝広編『ヤマト王権と渡来人』サンライズ出版株式会社 4500円 ISBN978-4-88325-274-9(4-88325-274-4) C3021</p> <p>加藤謙吉『大和の豪族と渡来人』吉川弘文館 1700円 ISBN9784642055444</p> <p>田中史生『倭国と渡来人—交錯する「内」と「外」—』吉川弘文館 1700円 ISBN9784642055994</p> <p>花田勝広『古代の鉄生産と渡来人』雄山閣 15750円 ISBN 4-639-01775-8</p>
その他	授業は写真や図を見せながら講義を行う。

履修コード	052911 052912
科目名	考古学特講III
担当者名	小林 謙一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	文字史料のない先史時代は当然だが、歴史時代以降も歴史を構築していくために、物質文化による再構成の手段である考古学的手法は重要である。考古学研究を目指す者はいずれまでもなく、歴史研究を目指す者にとっても必要不可欠である考古学的研究法を理解してもらう目的で、日本先史時代である縄紋時代研究の基礎理論から土器研究、集落研究におけるケーススタディまで「縄紋時代の考古学」を講義する。さらに炭素14年代測定法など、進展の著しい自然科学的研究法についても扱い、基礎的な理解から様々な視点を考古学的課題へ応用するための知見を身につけてもらうことを目標とする。なお、具体的なケーススタディは日本先史時代を中心とするが、必要に応じて近現代考古学まで紹介する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 先史考古学とはなにか、縄文と縄紋</p> <p>第2回 縄紋時代研究概略1 縄紋遺跡調査法・発掘</p> <p>第3回 縄紋時代研究概略2 縄紋遺跡と遺構 遺跡の種類</p> <p>第4回 縄紋時代研究概略3 縄紋遺物の種類</p> <p>第5回 縄紋時代研究法1 低湿地遺跡研究</p> <p>第6回 縄紋時代研究法2 貝塚遺跡・岩陰遺跡</p> <p>第7回 縄紋時代研究法3 層位学・型式学</p> <p>第8回 縄紋時代研究法4 型式論 (セリエーション)</p> <p>第9回 縄紋時代土器研究1 中期加曽利E式と曾利式</p> <p>第10回 縄紋時代土器研究2 阿玉台式土器文化と勝坂式土器文化</p> <p>第11回 縄紋時代土器研究3 縄紋土器属性分析</p> <p>第12回 集落論1 縄紋集落研究 (和島集落論・水野集落論)</p> <p>第13回 集落論2 縄紋集落研究 (集落規模・定住性)</p> <p>第14回 集落論3 遺構論 (ライフサイクル)</p> <p>第15回 前期講義の総括・確認</p> <p>第16回 自然科学的分析 (産地推定・年代測定など)</p> <p>第17回 炭素14年代測定方法の概要</p> <p>第18回 炭素14年代の縄紋土器編年研究への利用</p> <p>第19回 炭素14年代の縄紋集落研究への利用・住居</p> <p>第20回 炭素14年代の縄紋集落研究への利用・セツルメント</p> <p>第21回 炭素14年代の縄紋研究への利用・文化変化</p> <p>第22回 年代論1 旧石器から縄紋へ 縄紋はいつから?</p> <p>第23回 年代論2 縄紋の始まり 東アジアでの位置づけ</p> <p>第24回 年代論3 縄紋から弥生時代へ</p> <p>第25回 年代論4 弥生時代から古墳時代へ</p> <p>第26回 考古学史1 明治から大正 (大森貝塚と人種論争)</p> <p>第27回 考古学史2 昭和 (山内清男縄紋研究)</p> <p>第28回 特論1 現代考古学の問題点 (旧石器ねつ造事件)</p> <p>第29回 特論2 調査方法の進展、近世・近代考古学</p> <p>第30回 総括と確認</p>
----------	---

準備学習	博物館見学や概説書などによって、旧石器時代、縄紋時代、弥生時代について、予備的な知識を習得しておいて欲しい。
------	--

履修上の留意点	注意 博物館見学や、夏休休暇中に発掘見学をおこなう可能性があるが、実施するかどうかは講義の実施状況により、受講者とも相談の上決めたい。その場合には交通費等の実費負担がある。
---------	--

成績評価の方法	試験結果60%、平常点10%・レポート30%
---------	------------------------

教科書/テキスト	教科書1) 小林謙一『縄紋社会研究の新視点-炭素14年代測定の利用-普及版』六一書房、定価(税込)2625円、ISBN4-86445-012-6 C3021. 2) 小林謙一『125ライブラリー 発掘で探る縄文の暮らし』中央大学出版部、定価(税込)819円、ISBN978-4-8057-2702-7
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	053011 053012
科目名	考古学特講V
担当者名	寺前 直人
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本列島の弥生時代を中心に初期農耕社会における儀礼の特質について論じる。弥生時代前後の縄文・古墳時代および朝鮮半島をはじめとする他地域との比較を重視し、とくに縄文時代以来の在来的な儀礼の変容過程に注目することにより、弥生時代における葬制を含む儀礼の特質を伝統という観点から見直す。
授業スケジュール	第1回：授業のオリエンテーション、第2～6回：研究史(従来の弥生儀礼像と資料の乖離)、第7～12回：縄文儀礼と弥生儀礼、第13～14回：縄文の葬制と弥生の葬制、第15回：前期まとめ、第16～18回：縄文と弥生の儀礼空間、第19～22回：弥生儀礼と古墳儀礼、第23～29回：弥生葬制と古墳葬制、第30回：まとめ
準備学習	講義期間中以外の機会を利用して、地域の博物館・埋蔵文化財センターへの訪問し、できるかぎり実物資料に接すること。
履修上の留意点	
成績評価の方法	夏期レポートと年度末の試験、授業出欠状況に基づき評価する。
教科書／テキスト	とくになし。授業毎にレジュメ等を配布。
参考書	随時紹介。

履修コード	053031 053032
科目名	考古学特講VII
担当者名	矢野 和之
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	近年、文化財の保存だけでなく活用も重視されてきている。また、世界遺産登録を通じてグローバルな視点も大切である。また、地方自治体では、文化財部門が教育委員会から首長の部局に移り、事業の計画立案・実施の実務を担当する傾向にある。 このため、考古学・歴史学の学生は、発掘調査だけでなく文化財の保存活用理論及び実践知識を身につける必要が高まっている。 文化財の保存と活用についての広範囲の知識と計画力を身につけるための講義を行うものとする。
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財の保存と活用の理念 ・文化財保存の歴史 ・文化財建造物 ・史跡・名勝・天然記念物 ・文化的景観 ・伝統的建造物群 ・国際憲章 ・世界遺産と海外の動向 ・歴史を生かしたまちづくり ・保存計画概論 ・修復 ・史跡整備 ・歴史的建造物の復元 ・保存科学、保存工学概論 ・計画策定の実務 ・国内の事例 ・海外の事例 以上を一部演習を混じえながら講義する。
準備学習	常に新聞などの文化財に関する情報を取得しておくこと。配布したコピーはよく整理しておくこと。
履修上の留意点	特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。
成績評価の方法	レポート、試験、演習提出物
教科書／テキスト	コピー配布
参考書	適宜指示
その他	講義は、スライド、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

履修コード	065321 065322
科目名	公的扶助論
担当者名	伊藤 秀一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>わが国の憲法にみる生存権保障を根拠から支え、その具現化された制度が公的扶助(生活保護)であり、社会保険と並んで社会保障の主要部門を構成するものである。公的扶助は公的責任に基づき貧困者に対して行われる所得保障の制度であり、その財源は租税によって賄われる。今日、近年の経済・雇用環境下で公的扶助のもつ国民生活のナショナル・ミニマムとセーフティネットという重要な機能が改めて問われ出している。</p> <p>本講の中心的テーマは、わが国の社会保障制度体系における生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。このような問題意識のもとに、慈恵的救済から権利的保障へと歩んできた公的扶助の歴史をはじめ、現行法の目的、原理、原則等の仕組みや制度内容、行政運営等を体系的に講述する。また、近年の生活保護に関する新たな争訟動向として注目されている、基本的人権を擁護し社会正義を実現する弁護士らの権利擁護活動・運動も取り上げたい。さらに、地域社会の変貌により人々の「つながり」が希薄化したなかで「関係性の貧困」とも称される社会的排除という概念についても言及する。</p> <p>到達目標としては①低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。②相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。③自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：開講に当たって</p> <p>第2回：貧困概念の変遷</p> <p>第3回：公的扶助の概念と社会保障制度下の位置と役割</p> <p>第4回：公的扶助制度の歴史的展開(イギリス)</p> <p>第5回：同上</p> <p>第6回：同上(日本)</p> <p>第7回：同上</p> <p>第8回：生活保護法の目的(最低生活保障と对人的自立支援)</p> <p>第9回：生活保護法の原理と原則</p> <p>第10回：生活保護制度の仕組みと内容</p> <p>第11回：生活保護制度の行政運営と他職種連携</p> <p>第12回：生活保護制度の争訟制度と日英の権利擁護活動</p> <p>第13回：生活保護における相談援助活動</p> <p>第14回：低所得者対策</p> <p>第15回：生活保護制度の諸課題</p>
----------	--

準備学習	授業の最後に、次回の講義で扱うテーマ・問題を指示するので、事前にテキストの該当箇所を目配りしておく。できれば、疑問点や質問事項をまとめておく。
------	---

履修上の留意点	指定されたテキスト以外の参考文献や新聞記事等を活用しながら学習を深め、「学生参加」型の授業を心がけたいと考えているので、貧困問題に対する関心をもってほしい。
---------	--

成績評価の方法	評価は、期末試験(7割)と平常点(3割)による。
---------	--------------------------

教科書/テキスト	伊藤秀一編著『低所得者に対する支援と生活保護制度(社会福祉士シリーズ16)』、弘文堂、2011年、2500円+税、ISBN978-4-335-61086-8
----------	--

参考書	随時紹介する。
-----	---------

その他	視聴覚教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。
-----	------------------------------

履修コード	022811
科目名	国語科教育法I
担当者名	久保田 實

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中学校・高等学校の国語教育の成立・意義・目標・内容などについて学び、しっかりとした教員としての自覚を持つように指導する。国語の具体的な授業に関する指導法について学びながら、実際の教材によって、教材研究・指導事項・指導方法等についての基礎を学ぶ。模擬授業を通じて体験的具体的に指導法を深めながら、指導力を育成する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業の概要</p> <p>前期は、講義形式で、国語教育の意義や、内容などを考えながら、教員としてあるべき姿勢を身につける。また先人の国語教育の方法や考えを学びながら、国語の指導及び指導案のあり方や作り方などを考える。後期は、模擬授業をしながら、具体的な授業のポイントや、授業評価などを体験する。</p>
----------	--

授業計画

- (第1回) : 国語科教育法1の指導の目標・年間予定
- (第2回) : 小テスト(動詞活用表を思い出そう)教師の力・話す力
- (第3回) : 教科「国語」の全体イメージを探る・国語の成立について考える
- (第4回) : 国語=ことば・文学を学ぶことの意義
- (第5回) : 垣内松三・西尾實・安西迪夫の国語教育理論
- (第6回) : 国語の全体像・国語科教育の今日的課題
- (第7回) : 国語科教育の目標と内容
- (第8回) : 国語概念の混在性・国語科教育の内容・区分・方法など
- (第9回) : 国語科授業の教育課程と教材研究
- (第10回) : 学習指導計画について
- (第11回) : 学習指導案の定義・目的・意義
- (第12回) : 学習指導案の工夫
- (第13回) : 教材研究の意義
- (第14回) : 教材研究の方法
- (第15回) : 高等学校での指導事項の基本的復習と前期のまとめ
- (第16回) : 模擬授業班の決定
- (第17回) : 国語教師の心得と「わかる」授業について
- (第18回) : 実際の授業での話し方と机間巡視の重要性
- (第19回) : 模擬授業①と発声訓練
- (第20回) : 模擬授業②と授業評価
- (第21回) : 模擬授業③と机間巡視
- (第22回) : 模擬授業④と板書
- (第23回) : 模擬授業⑤と発問
- (第24回) : 模擬授業⑥とほめる指導
- (第25回) : 模擬授業⑦と見せる授業
- (第26回) : 模擬授業⑧と考えさせる授業
- (第27回) : 模擬授業⑨と作業する授業
- (第28回) : 模擬授業⑩と発展する授業
- (第29回) : 模擬授業⑪と全体評価
- (第30回) : 模擬授業の振り返りと教壇に立つ時の注意事項のまとめ

準備学習	古典の基礎的な文法や文学史などについて復習しておく。 高校時代に使った文法書や便覧などを見直しておく。
履修上の留意点	出席・課題提出・模擬授業の積極的参加を重視する。
成績評価の方法	定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加(出席)の状況等の観点も加えて総合的に評価する。
教科書/テキスト	全国大学国語教育学会編新訂中学校・高等学校『国語科教育研究』(学芸図書株式会社) 2,310円(税込み)
参考書	高校で使用した文法書と便覧を準備しておく。 その他、読んでほしいものは、その都度指示する。

履修コード	022911
科目名	国語科教育法Ⅱ
担当者名	久保田 實

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「国語科教育法Ⅰ」の講義を受けて、国語教育の過去・現在を見つめ、教材研究・教材分析を中心に、指導事項・指導方法・指導過程等の多様性や今後の可能性について考える。また情報化社会を見すえながら、国語の授業の構想力・教材開発力を育成する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>授業の概要</p> <p>前期は、①中学校(高等学校)の国語科の現状を確認し、国語教育のあり方を考察する。②江戸時代から現代に至る国語教育の豊かな過去に学びながら、授業のありようを考察する。後期は、③国語の指導技法の視点から、多様な過去の技法に学びながら、新しいコンピュータやインターネットの利用も視野に入れた教材開発力、授業展開力を考える。</p> <p>授業計画</p> <p>(第1回)：国語科教育法Ⅱの講義の概要 (第2回)：最近の教育問題について (第3回)：図書館のデータベースを使う。資料収集の方法を学ぶ。レポートの書き方 (第4回)：レポートを書く「最近の国語教育問題について」 (第5回)：国語という現実・現場 (第6回)：教育関連法と現実・現場 (第7回)：授業成立の3要素 (第8回)：国語教科書の歴史と教育権 (第9回)：ビデオ「明治の教育」を見る (第10回)：江戸の教育の中の国語に学ぶ (第11回)：江戸の教育の多様性を考える (第12回)：「日本を切り開く私塾1」の国語に学ぶ (第13回)：「日本を切り開く私塾2」の国語に学ぶ (第14回)：梅檀林の国語に学ぶ (第15回)：前期の検討事項の確認とまとめ。 (第16回)：明治学制の中の国語 (第17回)：コメニウス・ペスタロッチの教育法から学ぶ (第18回)：ヘルバルトの教育法から学ぶ (第19回)：教育技法を活かすPowerPoint教材開発[実習①]ページを作る (第20回)：PowerPointの教育的応用技術[実習②]画像を張り、動きをつける (第21回)：PowerPointの教育的応用技術[実習③]分岐コースを作る (第22回)：PowerPointによる教材開発[実習④]設問と発問形式の工夫 (第23回)：大正の教育から学ぶ (第24回)：昭和の国語教育技法①形象理論 (第25回)：昭和の国語教育技法②形象理論の発展 (第26回)：戦後の国語教育技法 (第27回)：現代の国語教育技法紹介 (第28回)：現代の国語教育研究会を紹介する (第29回)：現代の国語教育研究会についてレポートする (第30回)：国語科教育法の多様性のまとめと、これからの教育法について考察</p>
----------	--

準備学習	高校で使用した文学史や便覧を復習しておく。
履修上の留意点	授業に積極的に参加すること。なお、中学校・高等学校で使用した教科書・副読本を手元に置いて必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。
成績評価の方法	出席状況、授業の参加態度、提出物、随時の小テスト等により総合的に評価する。
教科書／テキスト	新訂中学校・高等学校『国語科教育研究』（「国語科教育法Ⅰ」で使用のものと同じ）
参考書	高校で使用した便覧を使って教材開発をするので、準備しておくこと。 その他、読んでほしいものは、その都度指示・紹介する。

履修コード	053101 053102
科目名	西域美術史
担当者名	松平 美和子

授業概要/ 到達目標(ねらい)	シルクロードの十字路アフガニスタンとペルシアを中心に東西美術工芸の交流を考えることを目的とします。古代から東西交流の要衝として栄えたアフガニスタンは、1979年の旧ソ連軍侵攻に続く内戦のため荒廃し、その貴重な遺跡や遺宝は破壊され、あるいは行方不明となりました。前期は失われたアフガニスタンの遺跡や遺宝を画像で再現し、その豊かな芸術の歴史と最新情報を検討します。後期は西アジア芸術をリードしてきた古代ペルシアの装飾性の強い美術を時代に沿って見ていきます。また、年間を通して美術館や美術展の情報を提供し、その美術展カタログ(図録)の魅力と活用法についても考えてみたいと思います。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>前期 (1)美術展とカタログ(図録)について (2)アフガニスタンの歴史と美術 (3)青い宝石ラピスラズリの交流 (4~5)失われたパーミヤンの大仏と壁画 (6~7)東西芸術の宝庫ベグラム (8)フォンドキスタンの華麗な仏教美術 (9~10)ハッタ 西方文化と仏教の出会い (11~12)ガンダーラの美術と文様 (13~14)アフガニスタン遺宝の最新情報 (15)まとめ、テスト</p> <p>後期 (1)ペルシアとその美術 (2~3)ペルシアの先史美術 (4)メディア王国からアケメネス朝ペルシアへ (5~6)アケメネス朝ペルシアの美術 (7)パルティアの美術 (8~10)ササン朝ペルシアの美術 (11)ソグドの美術 (12~13)イスラムの美術 (14)日本におけるペルシア美術研究 (15)まとめ、テスト</p>
----------	---

準備学習	中央アジアから西アジアにかけての先史時代からイスラム期までの歴史の流れを、年表・地図などで確認しておくこと。刻々と変わる現在のアフガニスタン、ペルシアの情勢を新聞・テレビなどで関心を持って見ておくこと。
------	---

履修上の留意点	レポートにも関係してくるので、各種の美術展やその美術展カタログ(図録)を見る機会を多く持って欲しい。
---------	--

成績評価の方法	前期のレポート(20%)とテスト(20%)、後期のレポート(20%)とテスト(20%)、授業内提出物(20%)で総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	松平美和子著『シルクロード美術鑑賞への誘い』(芙蓉書房出版、2007)2800円 (ISBN 978-4-8295-0401-7)
----------	---

参考書	松平美和子編『シルクロード美術展カタログ内容総覧』(芙蓉書房出版、2009)
-----	--

その他	レポートの提出期限は厳守すること。
-----	-------------------

履修コード	082511
科目名	ジェンダーと教育I
担当者名	高井 葉子

授業概要/ 到達目標(ねらい)	本コースは、社会教育主事の資格取得を目指す学生を対象に、広く教育に関する問題をジェンダーという観点から学ぶコースである。前期の授業では、「貧困」、「開発」、「ジェンダー」を中心テーマとし、広く国内外の課題と取り組みの現状について学ぶ。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>授業は、上記の3つのテーマを細分化し学生自らが与えられたトピックについて調べたことを発表する形で進められる。</p> <p>第1週~第3週:「貧困」の現状と取り組み;女性と貧困 第4週~第7週:「人間開発」;女性と教育 第8週~第11週:日本における貧困問題;具体的な事例から。 第12週~第14週:国内外における援助の現状 第15週 まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	このコースでは、社会教育活動を行っている施設の見学が授業の一環として含まれているので参加してほしい。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、出席状況、発表、レポートによって行います。試験は行いません。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	使用しません。必要に応じて授業で指示します。
----------	------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	082521
科目名	ジェンダーと教育Ⅱ
担当者名	高井 葉子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本コースでは、社会教育主事の資格取得を目指す学生を対象に、広く「子ども」、「家族」、「学校」に関する問題を取り上げる。
---------------------	---

授業スケジュール	授業は、上記3つのテーマを細分化し学生自らが与えられたトピックについて発表する形式で進められる。 第1週～第3週：「子ども」をとりまく現代的課題と取り組みの現状。 第4週～第8週：「家族」をとりまく諸現象、諸問題。 第9週～第12週：「学校」をとりまく諸問題と取り組みの現状。 第13週～第15週：「性」をめぐる諸問題と取り組みの動向。
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	このコースでは、社会教育活動を行っている施設の見学が授業の一環として含まれているので参加してほしい。
---------	--

成績評価の方法	成績評価は、出席状況、発表、レポートに基づいて行う。
---------	----------------------------

教科書／テキスト	使用しません。必要に応じて授業で指示します。
----------	------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	043101 043102
科目名	自然地理学概説 自然地理学概論
担当者名	鈴木 秀和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>自然地理学は、人間生活の舞台である自然環境を対象とし、地形・気候・水文・土壌・植生などの自然環境要素の生成・分布や地域的特性、時間的変化を明らかにする学問である。自然環境は我々の日常生活と密接な関連があり、日本あるいは世界各地の事例を通じてその成り立ちについて学びます。身近な自然環境の成り立ちだけでなく、人間活動との関わりにより発生する酸性雨や地球温暖化などの環境問題、地震・火山噴火や豪雨・洪水など自然の猛威が我々に牙をむく災害問題などについても概説する。</p> <p>以上の学習を通じて、日々の生活と密接に関連する自然環境について理解を深めるとともに、中・高社会科における地理学授業に対応する際に必要な知識を身につけることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>授業では、様々な自然環境要素の中でも、我々の生活環境との関連性がとくに強い地形と気候の成り立ちや地域的特性について概説するとともに、人間活動との関わりにより生じる環境問題や自然災害などについても説明を行う。</p>
----------	--

- 第1回：ガイダンス (授業の内容、進め方など)
- 第2回：地球のすがたと地形形成作用
- 第3回：プレート運動と大地形
- 第4回：変動帯としての日本列島 (地震・火山活動と地殻変動)
- 第5回：地殻変動と地形
- 第6回：火山活動と地形
- 第7回：火山の恵み (その景観と温泉・地熱)
- 第8回：岩石の生成と風化・浸食・運搬・堆積作用
- 第9回：山地と河川 (谷と斜面の発達)
- 第10回：平野と河川 (河川的作用と堆積地形)
- 第11回：海岸地形
- 第12回：平野の開発と治水・利水
- 第13回：寒冷地の地形
- 第14回：乾燥・半乾燥地域の地形
- 第15回：カルスト地形
- 第16回：大気鉛直構造と放射エネルギー収支
- 第17回：大気大循環
- 第18回：気象現象
- 第19回：日本の天候Ⅰ (季節的特徴)
- 第20回：日本の天候Ⅱ (地域的特徴)
- 第21回：都市の気候
- 第22回：大気汚染と酸性雨
- 第23回：世界の気候区分
- 第24回：大気-海洋システムとエルニーニョ/南方振動
- 第25回：地球温暖化
- 第26回：第四紀の気候と海水準変動
- 第27回：地球上の水循環と水資源
- 第28回：水資源の利用と問題
- 第29回：水環境の汚染とその対策
- 第30回：授業のまとめと補足

準備学習	予習の必要はないが、講義の概要について復習することで、理解度を深めてほしい。
履修上の留意点	身の回りの自然環境の成り立ちについて学習することを目的としており、高等学校における『地学』に近い内容の授業である。ただし、図や写真などを多用し実例を多く示すかたちで地形や気候の概観を説明するので、体系的な知識はとくに必要としない。
成績評価の方法	学期末に行う試験 (60~70%) と、出席やレポートなど平常点 (30~40%) の総合評価とする。
教科書/テキスト	特に指定しない。
参考書	松岡憲知・田中 博・杉田倫明 ほか編 『地球学シリーズ1 地球環境学』, 古今書院。 大山正雄・大矢雅彦著 『大学テキスト 自然地理学 上・下巻』, 古今書院。
その他	可能なら高等学校で使用する程度の地図帳を持参すること。また、地学の教科書なども本講義の参考資料となる。

履修コード	304501
科目名	自然地理学概説
担当者名	角田 清美

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・地理の基本的な知識を習得する。 ・教員採用試験に合格するための基礎学力を習得し、応用力を身につける。
---------------------	--

授業スケジュール	第1・2回 地震・震災・断層地形・立川断層 第3・4回 火山活動と火山地形・関東ローム層 第5・6回 世界の大地形とプレートテクトニクス説 第7・8回 地形図の読図と作業 第9・10回 地形を作る営力・乾燥地方の地形 第11・12回 山地の地形・寒冷地の地形 第13・14回 カルスト地形・教材研究・授業の展開事例 第15回 教員採用試験対策 第16・17回 世界の水文環境 第18・19回 地下水 第20・21回 河岸段丘・扇状地 第22・23回 氾濫低地の地形 第24・25回 海岸地形 第26・27回 海底地形・サンゴ礁 第28・29回 世界の土壌・教材研究 第30回 授業の展開事例・教員採用試験対策
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・予習は必要ないが、授業に関する図書を年間に8冊以上熟読し、そのレポートを作成・提出する。 ・授業で得た知識を定着させるため、作業図を7~8回作成し、提出する。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教員採用試験に合格することを前提に授業を行うため、授業に積極的参加する学生を希望する。 ・①出席状況を重視し、②レポートや課題等の提出状況を考慮して、授業を展開する。 ・高校で使用する地図帳を、必ず持参すること。新しく購入する場合、出版社は問わないが、東京書籍の『新高等地図』（1,300円程度）が見やすいので推薦する。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・出席・課題の提出状況・レポートの内容を総合的に評価し、学期末試験は実施する。
---------	---

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・なし。毎回、プリントを配布する。 ・授業の展開に合わせて、授業で参考図書を紹介する。
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容・研究内容・教員採用などに関する質問は、FAX (0428-31-8538) で受け付ける。
-----	---

履修コード	043201 043202
科目名	自然地理学概説 自然地理学概論
担当者名	高木 正博

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	自然地理学の分野である水文学を中心に、河川や地下水など水にかかわる地理学を学ぶ。水は重要な環境構成要素の一つであるが、系統立てて学ぶ機会が少ない。河川環境や地下水の汚染・保全などの身近なテーマについて、地域事例を示しながらその基礎となる河川や地下水の水文特性を考えさせる。
---------------------	--

授業スケジュール	年間の授業内容は次の通り予定している。 1. 自然地理学と水文学 2. 水文循環と水収支 (1) 3. 水文循環と水収支 (2) 4. 陸水としての河川 5. 河川の流域とは 6. 日本の河川と洪水 (1) 7. 日本の河川と洪水 (2) 8. 変化に富む日本の気候 (1) 9. 変化に富む日本の気候 (2) 10. 変化に富む日本の気候 (3) 11. 河川の侵食・運搬・堆積作用 (1) 12. 河川の侵食・運搬・堆積作用 (2) 13. 地形と災害 (1) 14. 地形と災害 (2) 15. 地形と災害 (3) 16. 都市の河川と水害 (1) 17. 都市の河川と水害 (2) 18. 地下水とは 19. 地下水と河川水 (1) 20. 地下水と河川水 (2) 21. 地下水と河川水 (3) 22. 地下水の利用 (1) 23. 地下水の利用 (2) 24. 地下水の汚染 (1) 25. 地下水の汚染 (2) 26. 地下水の汚染 (3) 27. 都市の水環境と地下水 (1) 28. 都市の水環境と地下水 (2) 29. 都市の健全な水循環 (1) 30. 都市の健全な水循環 (2) 地域事例を紹介する際、地形図や空中写真なども利用して説明する。
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ではプリントを用意するが、そこに記載されている参考文献を活用して授業内容を復習しておくこと。
------	---

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。地域概要を把握するために、地図帳や地形図を利用してほしい。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・試験 (40%) と夏休みの課題レポート (40%) に重点を置いて評価するが、授業中に随時実施する課題 (20%) なども加算する。
---------	--

教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間にプリントを配布する。
----------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・配布プリントをとおし随時紹介する。
-----	--

履修コード	084901
科目名	視聴覚教育
担当者名	佐野 博彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	視聴覚教育は、映像などの視聴覚メディアがもたらす教育効果を重要視する教育方法である。本講義では以下を目的とする。すなわち、視聴覚メディアを利用した教育の多様性とそれぞれの特性を認識することによって、教育現場におけるメディア利用に対処していくための基礎力を身につけること。具体的には、以下の知識と考え方を習得する。(1)視聴覚教育の思想的基礎、(2)映像と言語それぞれの特質、(3)テレビ利用教育の方法と意義、(4)メディア・リテラシーの重要性の認識、(5)コンピュータ利用教育の方法と意義、(6)インターネット利用教育の方法と考え方、(7)高度情報化社会に対応する教育の在り方、(8)デジタル時代の新しいメディアと教育利用の方法。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 視聴覚教育とは何か、第2回～4回 学校教育の成立とメディア、第5回～7回 映像教育の登場とその特質、第8回～9回 放送メディアの登場とその影響、第10回～15回 放送の教育利用とその思想、第16回～18回 メディア・リテラシーの重要性、第19回～20回 コンピュータの教育利用とその思想、第21回～22回 インターネットの教育利用とその思想、第23回～24回 高度情報化社会の現実、第25回～28回 学校における情報教育の在り方、第29回～30回 新しいメディアの登場と教育利用。
----------	--

準備学習	教科書の該当部分を予習しておくこと。
------	--------------------

履修上の留意点	「視聴覚教育」の学習は単に方法を学ぶものではなく、教育という人間の営みについての基本的な理解のうえに成り立つものであるから、「教育原理」または「教育方法論」に関する科目を学んだ上で履修してほしい。
---------	--

成績評価の方法	レスポンスシート記入内容 (50%)、レポート (50%) で評価する。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	佐賀啓男編著『視聴覚メディアと教育』（樹村房）2002年、¥1,890、ISBN 4-88367-095-3
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	085001
科目名	視聴覚教育
担当者名	佐野 博彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	視聴覚教育は、映像などの視聴覚メディアがもたらす教育効果を重要視する教育方法である。本講義では以下を目的とする。すなわち、視聴覚メディアを利用した教育の多様性とそれぞれの特性を認識することによって、教育現場におけるメディア利用に対処していくための基礎力を身につけること。具体的には、以下の知識と考え方を習得する。(1)視聴覚教育の思想的基礎、(2)映像と言語それぞれの特質、(3)テレビ利用教育の方法と意義、(4)メディア・リテラシーの重要性の認識、(5)コンピュータ利用教育の方法と意義、(6)インターネット利用教育の方法と考え方、(7)高度情報化社会に対応する教育の在り方、(8)デジタル時代の新しいメディアと教育利用の方法。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 視聴覚教育とは何か、第2回～4回 学校教育の成立とメディア、第5回～7回 映像教育の登場とその特質、第8回～9回 放送メディアの登場とその影響、第10回～15回 放送の教育利用とその思想、第16回～18回 メディア・リテラシーの重要性、第19回～20回 コンピュータの教育利用とその思想、第21回～22回 インターネットの教育利用とその思想、第23回～24回 高度情報化社会の現実、第25回～28回 学校における情報教育の在り方、第29回～30回 新しいメディアの登場と教育利用。
----------	--

準備学習	教科書の該当部分を予習しておくこと。
------	--------------------

履修上の留意点	「視聴覚教育」の学習は単に方法を学ぶものではなく、教育という人間の営みについての基本的な理解のうえに成り立つものであるから、「教育原理」または「教育方法論」に関する科目を学んだ上で履修してほしい。
---------	--

成績評価の方法	レスポンスシート記入内容 (50%)、レポート (50%) で評価する。
---------	--------------------------------------

教科書/テキスト	佐賀啓男編著『視聴覚メディアと教育』（樹村房）2002年、¥1,890、ISBN 4-88367-095-3
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	065621 065622
科目名	児童福祉論
担当者名	村田 一昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	1989年に国連で子どもの権利条約が採択されて以降、「子どもの最善の利益」の追求を基本とした子どもの権利擁護サービスが重視され、伝統的な児童福祉から新たな児童福祉へと制度や実践の改革が進められてきています。そこでこの授業では、子どもと家庭を取り巻く現状を踏まえながら、子どもと家庭のウェルビーイング(well-being)をめざす新たな児童福祉である子ども家庭福祉について、その基本的枠組とソーシャルワーク実践に関する理解を深めることを目標にしています。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭福祉の理念 <ol style="list-style-type: none"> ①ウエルフェアからウェルビーイングへ (第1回) ②子どもの権利条約 (第2回) ③児童福祉法の基本原理 (第3回) 2. 子どもと家庭をめぐる最近の動向 <ol style="list-style-type: none"> ①少子化、子どもの貧困 (第4回) ②子ども虐待、DV (第5回) ③少年非行・少年犯罪、不登校 (第6回) 3. 子ども家庭福祉の法体系 <ol style="list-style-type: none"> ①児童福祉法 (第7回) ②児童福祉六法 (第8回) ③関連法 (第9回) 4. 子ども家庭福祉の実施体制 <ol style="list-style-type: none"> ①子ども家庭福祉行政の仕組み (第10回) ②子ども家庭福祉の実施機関 (第11～12回) 5. 子ども家庭福祉への歩み (第13回) 6. 子ども家庭福祉施策の現状と課題 (第14回) 7. 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践の実際 (第15回)
----------	--

準備学習	<ol style="list-style-type: none"> ①各テーマ終了時に小テストを実施しますので、毎回の授業内容の復習を必ずしておいてください。 ②授業内容に関連した新聞記事、ネット記事を読んでください。
------	--

履修上の留意点	可能な限り、受講生とのコミュニケーションを図りながら授業を進めたいので、質問や感想などをリアクションペーパーに積極的にコメントしてください。
---------	--

成績評価の方法	小テストの累積点と課題レポートに平常点 (出席およびリアクションペーパー) を加味して評価します。
---------	---

教科書/テキスト	高橋重宏・山縣文治・才村 純編「子ども家庭福祉とソーシャルワーク (第3版)」(社会福祉基礎シリーズ⑥児童福祉論) 有斐閣 ¥2,000 ※授業内容により、プリントを配布します。
----------	--

参考書	随時、紹介します。
-----	-----------

その他	<ol style="list-style-type: none"> ①授業はパワーポイントを使用 ②各テーマ終了時に小テスト実施 ③YeStudy利用
-----	---

履修コード	088601
科目名	社会科教育法I
担当者名	小川 光夫
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>(授業概要) 『中学校学習指導要領解説・社会科編』を活用して、中学校学習指導要領の改訂の経緯、及び社会科の目標と内容、その取り扱い等について考察し、授業づくりについて追究する。</p> <p>(到達目標) 中学校社会科、「地理的分野」及び「歴史的分野」、「公民的分野」の学習の理解を深め、各分野の学習指導案作成及び授業方法の工夫、向上を図ることを目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 中学校学習指導要領改訂の経緯 (1) 知識基盤社会の到来と社会科教育</p> <p>第2回 中学校学習指導要領改訂の経緯 (2) PISA調査と我が国の教育的課題</p> <p>第3回 教育基本法の改正と教育目標</p> <p>第4回 中学校学習指導要領改正のポイント及び社会科改訂の趣旨</p> <p>第5回 中学校社会科の目標及び各分野の要点</p> <p>第6回 平成11年度及び平成20年度中学校学習指導要領社会科の目標と内容</p> <p>第7回 中学校社会科の各分野の目標及び内容</p> <p>第8回 地理的分野の目標及び内容：大項目及び中項目</p> <p>第9回 歴史的分野の目標及び内容：大項目及び中項目</p> <p>第10回 公民的分野の目標及び内容：大項目及び中項目</p> <p>第11回 社会科各分野の内容の取り扱い</p> <p>第12回 社会科各分野の指導計画の作成上の配慮事項</p> <p>第13回 社会科各分野の資料等の活用と作業的、体験的な学習</p> <p>第14回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い</p> <p>第15回 社会科各分野の学習指導案の作成及び社会科の授業づくり</p>
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には必要なことは授業時に随時指示をするが、[yestudy]にも事前に載せておくので、それを参考にして学習の準備をすること。 ・最初の授業で授業スケジュール及びそれに関するP100ページほどの資料を配布するので受講者は必ずそれを受け取ること。
履修上の留意点	<p>しばらくの間、プリント授業を行うが『中学校学習指導要領解説・社会科編』は必ず購入し学習しておくこと。また中学校の「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」の平成22年度以降の使用の教科書、及び資料集も準備すること。</p>
成績評価の方法	<p>定期試験(評価規準：知識・理解などを観点に評価 全体の約50%)、レポート(2回提出、表現力、判断力などを観点に評価 全体の約20%)、平常点(授業に対する姿勢及び参加意欲などを観点に評価 全体の約30%)等で総合的に評価する。</p>
教科書/テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説・社会科編』日本文教出版 175円 ・中学校社会科の「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」の教科書の基礎学力を身につけておくこと。
参考書	<p>プリントして纏めたものを参考書として最初の授業で配布する。</p>
その他	<p>レポート課題については授業時に説明する。授業内容及びレポート等については[yestudy]を活用し、質問があれば答える。</p>
関連リンク	<p>http://www.komazawa-u.ac.jp/</p>

履修コード	088801
科目名	社会科教育法I
担当者名	小川 光夫
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要）『中学校学習指導要領解説・社会科編』を活用して、中学校学習指導要領の改訂の経緯、及び社会科の目標と内容、その取り扱い等について考察し、授業づくりについて追究する。</p> <p>（到達目標）中学校社会科、「地理的分野」及び「歴史的分野」、「公民的分野」の学習の理解を深め、各分野の学習指導案作成及び授業方法の工夫、向上を図ることを目標とする。</p>
授業スケジュール	<p>第1回 中学校学習指導要領改訂の経緯（1）知識基盤社会の到来と社会科教育</p> <p>第2回 中学校学習指導要領改訂の経緯（2）PISA調査と我が国の教育的課題</p> <p>第3回 教育基本法の改正と教育目標</p> <p>第4回 中学校学習指導要領改正のポイント及び社会科改訂の趣旨</p> <p>第5回 中学校社会科の目標及び各分野の要点</p> <p>第6回 平成11年度及び平成20年度中学校学習指導要領社会科の目標と内容</p> <p>第7回 中学校社会科の各分野の目標及び内容</p> <p>第8回 地理的分野の目標及び内容：大項目及び中項目</p> <p>第9回 歴史的分野の目標及び内容：大項目及び中項目</p> <p>第10回 公民的分野の目標及び内容：大項目及び中項目</p> <p>第11回 社会科各分野の内容の取り扱い</p> <p>第12回 社会科各分野の指導計画の作成上の配慮事項</p> <p>第13回 社会科各分野の資料等の活用と作業的、体験的な学習</p> <p>第14回 政治及び宗教に関する事項の取り扱い</p> <p>第15回 社会科各分野の学習指導案の作成及び社会科の授業づくり</p>
準備学習	必要なことは授業時に随時指示をする。
履修上の留意点	しばらくの間、プリント授業を行うが『中学校学習指導要領解説・社会科編』は必ず購入し学習しておくこと。また中学校の「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」の平成22年度以降使用の教科書、及び資料集も準備すること。
成績評価の方法	定期試験（評価規準：知識・理解などを観点に評価 全体の約50%）、レポート（2回提出、評価規準：表現力、判断力などを観点に評価 全体の20%）、平常点（評価規準：授業に対する姿勢及び態度などを観点に評価 全体の約30%）等で総合的に評価する。
教科書／テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領解説・社会科編』日本文教出版 175円
参考書	プリントして纏めたものを参考書として、最初の授業で配布する。
その他	レポート課題については授業時に説明する。授業内容及びレポート等については[yesstudy]を活用し、質問があれば答える。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp

履修コード	306301
科目名	社会科教育法I
担当者名	天井 勝海

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中学校学習指導要領及びその解説書に示された「社会」の目標、地理的分野と歴史的分野の目標と内容、内容の取扱い、及び指導計画の作成と内容の取扱いを取り上げ、実際の指導目標や内容・方法などを考察し、実践的な指導を行う上で必要とされる資質や能力を育てる。
---------------------	---

授業スケジュール	教育基本法の改正や学習指導要領の改訂を踏まえ、中学校「社会」の新しい学習指導要領とその解説などを考察する。次に、地理的分野と歴史的分野の具体的な授業で取り上げる内容のあり方について、学習指導要領やその解説及びこれまでの授業の実践事例などをもとに調査・研究・考察する。これらの学習の成果をもとに、実際に中学校で実施される学習内容を検証し、各項目(単元)ごとに指導計画の作成を行い、模擬授業を実施する。
----------	---

- 第1回：社会科教育法のガイダンス・講義のねらいとその内容及び評価の方法について
- 第2回：学習指導要領と中学校社会の改訂の趣旨及びその要点
- 第3回：学習指導要領と地理的分野の目標及びその内容
- 第4回：世界の様々な地域とその指導計画 I
(世界の地域構成・世界各地の人々の生活と環境)
- 第5回：世界の様々な地域とその指導計画 II
(世界の諸地域・世界の様々な地域の調査)
- 第6回：日本の様々な地域とその指導計画 I
(日本の地域構成・世界と比べた日本の地域的特色)
- 第7回：日本の様々な地域とその指導計画 II (日本の諸地域・身近な地域調査)
- 第8回：模擬授業の実施 (1)
- 第9回：模擬授業の実施 (2)
- 第10回：学習指導要領と歴史的分野の目標及びその内容
- 第11回：歴史のとらえ方・古代までの日本とその指導計画
- 第12回：中世の日本・近世の日本とその指導計画
- 第13回：近代の日本と世界・現代の日本と世界とその指導計画
- 第14回：模擬授業の実施(3)
- 第15回：授業力向上を目指した授業の工夫と改善・社会科教育法Iのまとめ

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領及び中学校学習指導要領解説(社会編)を読んでおく必要があります。 ・中学校社会地理的分野及び歴史的分野の教科書を参照しておく必要があります。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・特に実践的な授業力を身につけることを常に念頭に置いて授業に参画することが必要です。
成績評価の方法	試験や指導計画の作成、発表、模擬授業の成果などのほかに、授業への参加の状況(出欠席の状況)なども重視し、総合的に評価します。なお、試験結果の評価全体に占める割合は約6割です。提出物・発表・模擬授業・出席の状況や授業への取り組みの評価は全体の約4割です。
教科書/テキスト	中学校学習指導要領(文部科学省)、中学校学習指導要領解説 社会編(文部科学省)
参考書	授業の際に、ワークシートや資料などのプリントを配布します。

履修コード	089001
科目名	社会科教育法Ⅰ
担当者名	二井 正浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会科教育法では、中学校「社会科」の原理（社会科とは何のために、何を、どのように教える教科なのか）と方法（一定の内容を教えるために、どのような授業を設計し、実践し、評価すればよいのか）について学ぶ。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期（社会科教育法Ⅰ）では、中学校社会科の学習指導要領、代表的な社会科論や授業実践などについて考察し、社会科教育の現状と課題を明らかにする。</p> <p>第1回：講義の概要説明 第2回：社会科教育法の意義 第3回：社会科の基本的性格 第4回：アメリカにおける社会科の成立 第5回：日本における社会科の成立 第6回：日本における社会科の変遷 第7回：問題解決を原理とした社会科（1）授業分析 第8回：問題解決を原理とした社会科（2）社会認識の質の特徴 第9回：系統学習を原理とした社会科（1）授業分析 第10回：系統学習を原理とした社会科（2）社会認識の質の特徴 第11回：探求を原理とした社会科の可能性 第12回：中学校社会科地理的分野のカリキュラムの特徴 第13回：中学校社会科歴史的分野のカリキュラムの特徴 第14回：中学校社会科公民的分野のカリキュラムの特徴 第15回：前期のまとめ</p> <p>定期試験</p>
----------	--

準備学習	できれば学習指導要領を読んでおくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート・出席等による総合評価とする。
教科書／テキスト	原田智仁編著『社会科教育のフロンティア』保育出版社
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書、2,620円＋税 森分孝治、片上宗二編『社会科 重要用語300の基礎知識』明治図書、2,660円＋税 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』

履修コード	088401
科目名	社会科教育法I
担当者名	藤木 正国

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 第1回から7回までは学習指導要領の解説や学習指導案の作成、教材研究の方法など講義中心に授業を進める。第8回から15回までは班を編制し、班ごとによる模擬授業を行い、授業班以外の各班による授業に対する講評等を踏まえ、授業の進め方や組み立て方に関する協議・研究を中心に授業を進める。</p> <p>（到達目標） 中学校社会科の教員として、自ら授業を組み立て、実践できる能力を養うことを目標とする。特に授業を行うための基礎・基本となる学習指導案の作成や教材研究の方法などを学習し、その上で模擬授業を重点的に行うことにより、次年度の教育実習に備える。また、中学校社会科教師として学習指導要領の総則や社会科の目標や内容についての認識をも深める。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、学習指導要領に見る中学校社会科の歴史的変遷 2、学習指導案の作成の仕方 3、社会科の評価の仕方・考え方（4つの観点） 4、教材研究の仕方と模擬授業の方法 5、学習指導要領地理的分野の目標と内容構成 6、学習指導要領歴史的分野の目標と内容構成 7、学習指導要領公民的分野の目標と内容構成 8、模擬授業① 地理的分野 9、模擬授業② 地理的分野 10、模擬授業③ 地理的分野 11、模擬授業④ 歴史的分野 12、模擬授業⑤ 歴史的分野 13、模擬授業⑥ 歴史的分野 14、模擬授業⑦ 公民的分野 15、模擬授業⑧ 公民的分野
----------	--

準備学習	<p>学習指導案の作成や教材研究及び模擬授業が重点的になりますので、その基本教材となる中学校社会科3分野（地理・歴史・公民）の教科書を用意し、教科書の体裁や内容を読んでおくことが、効果的な準備学習となります。また、各班の模擬授業に関しては事前に授業項目を提示しておきますので、その項目を勉強して授業に臨めばさらに効果的な準備学習となります。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>実践的指導力を高めることが主な目標であるので、教材の研究と開発を常に心懸ける。特に模擬授業を行うにあたっては事前の努力と創意工夫に努めること。尚、模擬授業を実施する計画、後期の社会科教育法Ⅱと連続して履修することが望ましい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席（4回以上欠席した場合は、評価の対象外とする）、提出物（自作の学習指導案・模擬授業の感想文等）、試験の3点を総合的に評価する。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』（日本文教出版）175円 中学校社会科各分野の教科書を用意すること。教科書については授業の際に指示する。 その他、適宜プリントと資料を配付する。</p>
----------	---

参考書	<p>授業には使用しないが、下記参考書は自ら学ぶことには役立つ。 長谷川・工藤監修『中学校社会科授業のリ・デザイン』（東洋館出版社） 佐伯・濠澤・堀井編著『生徒の心を揺さぶる社会科教材の開発』（三晃書房） 桑原敏典著『社会科の指導計画作成と授業づくり』（明治図書）</p>
-----	--

その他	<p>1～7回は講義中心、8～15回は模擬授業の発表と評価・研修を行う。 講義はプリントを配布して行う。</p>
-----	--

履修コード	088701
科目名	社会科教育法II
担当者名	小川 光夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	様々な授業実践事例を示しながら先進的・魅力的な授業方法について考察し、年間指導計画と観点別評価を踏まえたバランスの取れた学習指導案を作成する。また模擬授業を通してより実践的な指導力を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 学習指導案の作成及び模擬授業について</p> <p>第2回 各分野の先進的な学習指導案事例についての紹介及び検討</p> <p>第3回 各分野の先進的な授業実践報告事例の紹介及び検討</p> <p>第4回 各分野のシラバスの作成と観点別評価について</p> <p>第5回 教材研究と学習指導案の作成について</p> <p>第6回 学習指導案づくり (レポート提出)</p> <p>第7回 班別模擬授業づくり</p> <p>第8回 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 1 (A班) 各班による評価</p> <p>第9回 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 2 (B班) 各班による評価</p> <p>第10回 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 3 (C班) 各班による評価</p> <p>第11回 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 4 (D班) 各班による評価</p> <p>第12回 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 5 (E班) 各班による評価</p> <p>第13回 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 6 (F班) 各班による評価</p> <p>第14回 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 7 (G班) 各班による評価</p> <p>第15回 各班の学習指導案の再提出と模擬授業に関する意見交換</p> <p>※ ただし受講者が多数の場合は、第3回から第7回までの予定を変更し、模擬授業及び討議の回数を多くすることがある。</p>
----------	--

準備学習	必要なことは授業時に随時指示をする。
------	--------------------

履修上の留意点	実践的な力量形成を図ることが目的であり、意欲的・積極的な取り組みを行うこと。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (模擬授業を受ける際の姿勢及び態度、協調性などを観点到に評価)、模擬授業 (発表者の思考力及び判断力、表現力、技能などを観点到に評価)、学習指導案 (授業内容や作成基における知識、理解などを観点到に評価)、レポート (表現力及び洞察力、判断力、もの見方考え方などを観点到に評価) 等で総合的に評価する。
---------	---

教科書/テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領解説・社会科編』(日本文教出版 175円)及び平成22年度以降使用の公民科各科目の教科書。なお公民科各科目の教科書については別途受講時に指示する。
----------	--

参考書	プリントして纏めたものを参考書として最初の授業で配布する。
-----	-------------------------------

その他	受講者は学習指導案を作成し、模擬授業を行う。
-----	------------------------

履修コード	088901
科目名	社会科教育法II
担当者名	小川 光夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	様々な授業実践事例を示しながら先進的・魅力的な授業方法について考察し、年間指導計画と観点別評価を踏まえたバランスの取れた学習指導案を作成する。また模擬授業を通してより実践的な指導力を養う。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 : 学習指導案の作成及び模擬授業について</p> <p>第2回 : 各分野の先進的な学習指導案事例についての紹介及び検討</p> <p>第3回 : 各分野の先進的な授業実践報告事例の紹介及び検討</p> <p>第4回 : 各分野のシラバスの作成と観点別評価について</p> <p>第5回 : 教材研究と学習指導案の作成について</p> <p>第6回 : 学習指導案づくり (レポート提出)</p> <p>第7回 : 班別模擬授業づくり</p> <p>第8回 : 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 1 (A班) 各班による評価</p> <p>第9回 : 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 2 (B班) 各班による評価</p> <p>第10回 : 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 3 (C班) 各班による評価</p> <p>第11回 : 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 4 (D班) 各班による評価</p> <p>第12回 : 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 5 (E班) 各班による評価</p> <p>第13回 : 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 6 (F班) 各班による評価</p> <p>第14回 : 学習指導案にもとづく模擬授業及び討議 7 (G班) 各班による評価</p> <p>第15回 : 各班の学習指導案の再提出と模擬授業に関する意見交換</p> <p>※ ただし受講者が多数の場合は、第3回から第7回までの予定を変更し、模擬授業及び討議の回数を多くすることもある。</p>
----------	--

準備学習	必要なことは授業時に指示をする。
------	------------------

履修上の留意点	実践的な力量形成を図ることを目的としているので、意欲的・積極的な取り組みを行うこと。
---------	--

成績評価の方法	学習指導案、模擬授業、レポート、出席状況等で総合的に判断する。
---------	---------------------------------

教科書/テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領解説・社会科編』(日本文教出版 175円)及び平成23年度使用の公民科各科目の教科書。なお公民科各科目の教科書については別途受講時に指示する。
----------	--

参考書	プリントして纏めたものを参考書として最初の授業で配布する。
-----	-------------------------------

その他	受講者は学習指導案を作成し、模擬授業を行う。
-----	------------------------

履修コード	306401
科目名	社会科教育法Ⅱ
担当者名	天井 勝海
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中学校学習指導要領及びその解説書に示された「社会」の目標、公民的分野の目標と内容、内容の取扱い、及び指導計画の作成と内容の取扱いを取り上げ、実際の指導目標や内容・方法などを考察し、実践的な指導を行う上で必要とされる資質や能力を育てる。
授業スケジュール	<p>中学校「社会」の新しい学習指導要領とその解説などを考察する。次に、公民的分野の具体的に授業で取り上げる内容のあり方について学習指導要領やその解説及びこれまでの授業の実践事例などを調査・研究・考察する。これらの学習の成果をもとに、実際に中学校で実施される学習内容を検証し、各項目(単元)ごとに指導計画の作成を行い、模擬授業を実施する。</p> <p>第1回：中学校社会科(公民的分野)の学習指導要領改訂の趣旨とその要点 第2回：学習指導要領と公民的分野の目標及びその内容 第3回：私たちと現代社会とその指導計画 第4回：私たちと経済とその指導計画 第5回：私たちと政治とその指導計画 第6回：私たちと国際社会の諸課題とその指導計画 第7回：指導計画の作成と内容の取扱い 第8回：指導計画の作成とその配慮事項 第9回：資料等の活用と作業的、体験的な学習の実際と配慮事項 第10回：授業改善と指導内容・方法の工夫 第11回：模擬授業(1) 第12回：模擬授業(2) 第13回：模擬授業(3) 第14回：模擬授業を終えて―授業力向上を目指した授業の工夫と改善― 第15回：社会科教育法Ⅱのまとめ</p>
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領及び中学校学習指導要領解説(社会編)を読んでおくことが必要です ・中学校社会公民的分野の教科書を参照しておくことが必要です
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・特に実践的な授業力を身につけることを常に念頭に置いて授業に参画することが必要です
成績評価の方法	<p>試験や指導計画の作成、発表、模擬授業の成果などのほかに、授業への参加の状況(出欠席の状況)なども重視し、総合的に評価します。なお、試験結果の評価全体に占める割合は約6割です。提出物・発表・模擬授業・出席の状況や授業への取り組みの評価は全体の約4割です。</p>
教科書/テキスト	<p>中学校学習指導要領(文部科学省)、中学校学習指導要領解説 社会編(文部科学省)</p>
参考書	<p>授業の際に、ワークシートや資料などのプリントを配付します。</p>

履修コード	089101
科目名	社会科教育法II
担当者名	二井 正浩

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会科教育法では、中学校「社会科」の原理（社会科とは何のために、何を、どのように教える教科なのか）と方法（一定の内容を教えるために、どのような授業を設計し、実践し、評価すればよいのか）について学ぶ。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>後期（社会科教育法II）では、教材研究、授業設計、指導案作成および評価の実践的能力を身に付ける。</p> <p>第1回：講義の概要説明 第2回：教材研究とは何か 第3回：指導案とは何か、指導案の種類 第4回：教科書を使った授業作り 第5回：教科書をもとにした個別的知識を工夫した授業作り 第6回：教科書をもとにした概念・解釈・理論を工夫した授業作り 第7回：事実に基づく知識探求型授業の分析 第8回：概念・解釈・理論的知識探求型授業の分析 第9回：価値的・規範的知識探求型授業の分析 第10回：社会科授業の類型化とそれぞれの特徴 第11回：社会科学力論の検討 第12回：社会科における評価の変革 第13回：生徒観察による評価 第14回：ペーパーテストの工夫 第15回：後期のまとめ 定期試験</p>
----------	---

準備学習	できれば学習指導要領を読んでおくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	レポート・出席等による総合評価とする。
教科書/テキスト	原田智仁編著『社会科教育のフロンティア』保育出版社
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書、2,620円+税 森分孝治、片上宗二編『社会科 重要用語300の基礎知識』明治図書、2,660円+税 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』

履修コード	088501
科目名	社会科教育法Ⅱ
担当者名	藤木 正国

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 第1回から7回までは、年間指導計画の作成や単元別学習指導案の作成及び観点別評価など、講義を中心に授業を進める。第8回から15回までは単元別やテーマを設定した模擬授業を行い、学生による授業評価を踏まえた授業の進め方や在り方に関する研究・協議を中心に授業を進める。</p> <p>(到達目標) 中学校社会科の教師として、自ら授業を組み立て、実践できる能力を養うことを目標とし、直接的には次年度の教育実習に備える。特に、授業を行うための基礎・基本となる年間指導計画や単元別学習指導案の作成、及び観点別評価などを学習することにより、社会科の教師として備えべき指導方法や指導技術の習得を図る。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、中学校学習指導要領総則の解説 2、年間指導計画と配慮事項 3、地理的分野の単元指導計画の作成 4、歴史的分野の単元指導計画の作成 5、公民的分野の単元指導計画の作成 6、観点別評価の仕方 (地理的分野・歴史的分野) 7、観点別評価の仕方 (歴史的分野・公民的分野) 8、模擬授業① 地理的分野 9、模擬授業② 地理的分野 10、模擬授業③ 地理的分野 11、模擬授業④ 歴史的分野 12、模擬授業⑤ 歴史的分野 13、模擬授業⑥ 歴史的分野 14、模擬授業⑦ 公民的分野 15、模擬授業⑧ 公民的分野
----------	--

準備学習	<p>前期の社会科教育法Ⅰで行った模擬授業などの資料を検討し、事前に教材研究や学習指導案の作成などを勉強しておくことが、効果的な準備学習となります。また、模擬授業の授業項目は事前に提示しておきますので、予習をして授業に臨み、適切な意見 (アドバイス) が述べられるように心懸ける。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>実践的指導力を高めることが主な目標であるので、教材の研究と開発を常に心懸ける。特に模擬授業を行うにあたっては事前の努力と創意工夫に努めること。尚、授業計画上、前期の社会科教育法Ⅰと連続して履修することが望ましい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席 (4回以上欠席した場合は、評価の対象外とする)、提出物 (単元別学習指導案、模擬授業の感想文等)、試験の3点を総合的に評価する。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』(日本文教出版) 175円 中学校社会科各分野の教科書を用意すること。教科書については授業の際に指示する。 適宜、プリントと資料を配付する。</p>
----------	---

参考書	<p>授業には使用しないが、下記参考書は自ら学ぶことには役立つ。 長谷川・工藤監修『中学校社会科授業のり・デザイン』(東洋館出版社) 佐伯・澁澤・堀井編著『生徒の心を揺さぶる社会科教材の開発』(三晃書房) 桑原敏典著『社会科の指導計画作成と授業づくり』(明治図書)</p>
-----	--

その他	<p>1～7回は講義中心、8～15回は模擬授業の発表と評価・研修を行う。 講義はプリントを配布して行う。</p>
-----	--

履修コード	042701
科目名	社会科教育法III (地理歴史)
担当者名	生田 清人

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>地理と歴史の授業をつくるために、教師としてどのような力量(考え方・知識・技術など)を形成することが、私たちに、求められているのでしょうか。</p> <p>この授業では、この大きな課題を底流に、「教師として《地理と歴史の授業を創る》とはどういうことか」「《教授-学習活動》とはどのような活動か」「《授業を創る》にはどのような考え方があるか」「教材はどのようにつくるか」「学習の評価はどのように行うといいか」などについて、毎回、具体的な実践例を使って授業を展開する予定です。</p> <p>また、この授業(社会科教育法Ⅲ)では、教師が《授業を創る》プロセスをたどり、そのひとつひとつの作業を分析的に学習する形で展開し、あとに続く《社会科教育法Ⅳ》では、前期の学習を総合化する形で模擬授業や野外実習など演習を中心に展開します。</p> <p>この授業の到達目標は、まず、教育実習を成功させることですが、自らがつくった疑問文について、自ら調べ考え、第3者(生徒と限らない)にわかるように伝えることに向き合い、その考え方や技術を習得することを目標としています。それが、学校教育で必要とされるもつとも基本的な力量だからです。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>(1) 「中学生に地理と歴史を教える」とはどのようなことか。また、「中高生に教える地理と歴史はどのような科目かなどの学校教育の「地理」と「歴史」の教育目標や内容構成などについて、それぞれ具体的な事例をあげながら学習します。①②(*数字は授業の順番)</p> <p>(2) 「授業を創る」とはどのようなことか。この授業では、まず、コンセプトマップを使って、地理と歴史を学習するとはどういうことか、授業を創るということはどういうことか、考えてみます。つぎに、地理と歴史の教科書を分析的に読んだり、コンセプトマップを使って学習課題の全体像を表したりすることを演習によって学習します。このような学習をもとに、学習指導案(授業カリキュラム)・教材プリント・コンセプトマップによる学習課題の全体図・関係図をつくります。③④⑤⑥⑦</p> <p>(3) 地理と歴史の授業で使う「教材」「教具」について学習します。実際に教材プリントをつくりながら、授業で扱う学習課題を設定したり、効果的な教材をつくるスキルを習得することをめざします。また、「歴史新聞」「空想旅行記」などのロールプレイングゲームや「遊牧民ゲーム」などシミュレーションゲームなどを取り入れた授業などについて、実際にゲームをしながら学習します。⑧⑨⑩</p> <p>(4) 地理と歴史の学習評価について、評価の方法のひとつである「単元テスト」を実際につくりながら、学習を評価するさまざまな考え方や評価のスキルと関連づけて学習します。また、中高の学校教育の「地理」「歴史」の学力とは何かについても考えます。さらに、教師間で行う授業の評価(教育評価)の考え方や、授業の改善の方法についても学習します。⑪⑫⑬</p> <p>(5) 「総合的な学習の時間」に、地理と歴史はどのように向き合えばいいのか。具体的な実践例をもとに考えます。後期(社会科教育法Ⅳ)には、野外実習やカリキュラムプランニングの演習をする予定です。⑭⑮</p>
----------	---

準備学習	この授業は、事前に予習をする必要はありませんが、授業の中で受講者が実際に授業を創っていくので、自分が作る授業の準備、たとえば資料を集めることなどは、受講者それぞれで行います。自分が作る授業には責任をもって向き合うことが大切です。
------	--

履修上の留意点	
成績評価の方法	課題レポート(学習指導案・教材プリント・単元テストなどを作成する)の到達度評価と出席状況などを総合して評価します。定期試験期間での試験は実施しません。評価の詳細は、第1回の授業で説明します。

教科書/テキスト	授業で毎回教材(プリント)を配布する予定です。また、過年度の受講生が授業で課題レポートとしてつくった授業案・教材プリントなどをまとめた『地理と歴史の授業研究』を資料集として使います。資料集の購入・扱い方などについては第1回の授業で説明します。
----------	---

参考文献	<p>また、次の①を「指定図書」、②~④を「参考図書」とします。これ以外にも、参考になる図書や資料は授業の中で紹介します。</p> <p>① 臼井嘉一・柴田義松編『社会・地歴・公民科教育法』(学文社)</p> <p>② 社会認識教育学会編『改訂新版 中学校社会科教育』(学術図書出版)</p> <p>③ 社会認識教育学会編『改訂新版 地理歴史科教育』(学術図書出版)</p> <p>④ 加藤西郷・吉岡真左樹編『社会・地歴・公民科教育論』(高宮出版)</p>
------	--

参考書	
その他	受講者が高校で使用した世界史・日本史・地理いずれかの教科書および参考図書を準備してください。これらの図書を授業で使用しますが、その詳細については第1回の授業で説明します。

履修コード	042901
科目名	社会科学教育法III (地理歴史)
担当者名	櫻井 明久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	中学校社会科の地理的分野・歴史的分野と、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について学ぶことを主眼とする。その際、主に地理教材の取り扱いを通じて、マイクロティーチング(模擬授業)を行うなどして、実践的な授業方法の習得に努めたい。なお、この授業は後期に行われる桜井担当の社会科学教育法IVとセットで授業計画がなされているので、あわせて受講すること。 (マイクロティーチング) ・生徒の前で話す ・5分用の教材を作る
---------------------	---

後期受講できないものへ
(模擬授業) ・授業を計画する ・指導案という形式にまとめる ・教材の良さを吟味して授業を作る

授業スケジュール	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：講義「地理教育とは」、マイクロティーチングとは</p> <p>第3回：「地理教育とは」続き2 学問と教科</p> <p>第4回：「地理教育とは」続き3 地理的見方や考え方</p> <p>第5回：「地理教育とは」・第1章に関するレポート締め切り(質問・意見)</p> <p>第6回：マイクロティーチング1 一人5分間×学生11人程度(声を届ける)</p> <p>第7回：マイクロティーチング2 (視線を送る)</p> <p>第8回：マイクロティーチング3 (顔を向けさせる)</p> <p>第9回：マイクロティーチング4 (関心を引く教材・導入教材)</p> <p>第10回：第1章への質問や意見に対する回答</p> <p>第11回：指導案の作成と授業の基本的な形(導入、展開、終末)</p> <p>第12回：問答で成り立つ授業(朝倉授業ビデオ視聴)、様々な授業(教材と資料作り)、</p> <p>第13回：夏休みの宿題(指導案作成)説明・様々な授業2(地図帳を使って)</p> <p>第14回：様々な授業3(身近な文書教材を使って)</p> <p>第15回：第3章へのレポート(質問・意見)への回答</p>
----------	---

準備学習	一般的な事前準備はとくに必要がないが、課題については指示に従って準備する必要があるの で注意すること。
------	--

履修上の留意点	各自マイクロティーチングを試み、(前期のみの受講生は加えて模擬授業を行うことになるので事前に申し出る事)など、実際に授業を試みてもらうので、責任ある積極的な参加が必要である。まずは、学期最初3回の授業には必ず出席し、授業計画を確認するとともに担当日時を割り振りを受けること。特にこの間に教育実習で欠席することが確実な場合には、最初の授業で指示を行うので注意すること。学期はじめに休まざるを得ないときには、事前に連絡を取ること。また、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されないので、とくに注意すること。分担日に不都合が予想できるなどの場合は、事前(2週間以上前)に連絡し、相談すること。仲間の授業を観察し、反省に参加することが非常に重要であるので、出欠は厳しい。教科書を読み、それをもとにレポートを作成し、意見交換を行う。レポート提出期限は厳守すること。
---------	---

成績評価の方法	授業・討論への参加、模擬授業の成果など 50点 教科書読書レポート 20点 指導案作成20点 期末試験 10点
---------	--

教科書/テキスト	桜井明久『地理教育学入門』1999年(古今書院)全242頁
----------	-------------------------------

参考書	文科省『学習指導要領解説』、櫻井明久(2011)『社会科学教師のための地理教材の作り方』古今書院など
-----	--

履修コード	057301
科目名	社会科教育法III (地理歴史)
担当者名	藤木 正国

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>第1回から7回までは日本教育制度の変遷や学習指導要領の解説や学習指導案の作成、教材研究の方法などを講義中心に進める。第8回から15回までは班を編制し、班ごとによる模擬授業を行い、授業班以外の各班による授業に対する講評等を踏まえ、授業の進め方や組み立て方などに関する協議・研究を中心に授業を進める。</p> <p>(到達目標)</p> <p>高等学校地歴科 (特に日本史・世界史) の教師として、自ら授業を組み立て、実践できる能力を養う。特に授業を行うための基礎・基本となる学習指導案の作成や教材研究の方法などを学習し、その上で模擬授業を重点的に行うことにより、次年度の教育実習に備える。また、高等学校地歴科の教師として日本教育制度の変遷 (古代から明治) や高等学校学習指導要領の総則や地理歴史科の目標や内容についての認識をも深める。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、日本教育制度の変遷 ①古代の教育 2、日本教育制度の変遷 ②中世・近世の教育 3、日本教育制度の変遷 ③明治期の教育 4、学習指導案作成の仕方 5、教材研究の仕方、模擬授業の留意点 6、高等学校学習指導要領の内容と特徴の解説 7、高等学校地歴科の目標と日本史・世界史 (A・B) の内容解説 8、班別の模擬授業 ①古代 9、班別の模擬授業 ②中世 10、班別の模擬授業 ③中世 11、班別の模擬授業 ④近世 12、班別の模擬授業 ⑤近世 13、班別の模擬授業 ⑥近代 14、班別の模擬授業 ⑦近代 15、班別の模擬授業 ⑧世界史
----------	--

準備学習	<p>・模擬授業を行うための学習指導案の作成と模擬授業が重点となりますので、その教材となる高等学校『日本史B』・『世界史B』の教科書を用意し、常日頃から教科書を読むことにより、教科書の体裁や歴史の大まかな流れをつかんでおくことが、効果的な準備学習となります。</p> <p>・模擬授業に関しては、事前に授業項目を提示しておきますので予習をして授業に臨み、適切な意見 (アドバイスを) が述べられるように心がける。</p>
------	--

履修上の留意点	<p>受講する以上は、教員を目指し努力すること。安易な単位修得は考えない。教職を目指す故、出席状況と提出物は特に重視する。また、模擬授業を行うにあたっては常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。尚、模擬授業を実施する計画上、後期の社会科教育法IV (地理歴史) と連続して履修することが望ましい。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>出席 (4回以上欠席した場合は、評価の対象外とする)、提出物 (自作の学習指導案・模擬授業の感想等)、試験の3点を総合して評価する。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』 (教育出版) 410円 高等学校『詳説日本史B』『詳説世界史B』 (山川出版) の教科書を用意すること。</p>
----------	--

参考書	<p>授業で使用はしないが、下記参考書は自ら学ぶことには役立つ 堀松武一編『日本教育史』 (国土社) 天野正輝著『教育課程編成の基礎研究』 (文化書房博文社) 山住正己著『日本教育小史一近・現代一』 (岩波新書)</p>
-----	---

その他	<p>1～7回は講義中心、8回～15回は模擬授業と評価・研修を行う。 講義はプリントを配布して行う。</p>
-----	---

履修コード	042801
科目名	社会科教育法Ⅳ（地理歴史）
担当者名	生田 清人
授業概要/ 到達目標（ねらい）	地理と歴史の授業を作るために、教師としてどのような力量（考え方・知識・技術など）を形成することが、私たちに、求められているのでしょうか。この授業では、この大きな課題を底流に、前期（社会科教育法Ⅲ）に学習したことを総合化する形で、模擬授業や野外実習など演習を中心に展開する予定です。したがって、前期・社会科教育法Ⅲと後期・社会科教育法Ⅳは続けて履修することが望ましいです。この授業の到達目標は、自らプランニングした授業を生徒役の受講生に対して授業（模擬授業）を行い、そこで生徒役の受講生から寄せられた授業評価と前年度履修者で模擬授業をアシストしている学生（4年生もしくは大学院生）の授業評価をえて、自らの授業を振り返ることや他の学生の授業を評価することで、「《授業を創る》とはどういうことか」というはじめの問いかけに対する自分なりの答えを見つけ出すことです。
授業スケジュール	<p>(1) 高校生に地歴を教えることと中学生に社会科を教えることはどのようにちがうのか。まず、高校地歴と中学社会の学習指導要領を読みくらべたり、実際に行った教育実践の実践例を使って展開します。①（*数字は授業の順番）</p> <p>(2) これまでの授業の総合化の形として模擬授業を行います。自分で作った任意の学習課題についての授業を生徒役の他の受講生に対して授業を行います。またこの授業には、前年度の受講生のうち模擬授業をアシストする学生（4年生もしくは大学院生）も参加し、すでに教育実習を終えた目からの評価をします。それらの評価はすべて授業者にわかり、授業者はこれをもとにした「ふりかえり」のレポートを書くことで、模擬授業での経験を確かなものにします。②～④（*受講生の数により模擬授業の回数は変わることがあります）</p> <p>(3) 教室での授業とは異なる学習形態（調べ学習・野外実習など）での教科指導・学習指導および学習の評価について、具体的な実践を通して学習します。また、「総合的な学習の時間」の学習例として、「地域学習」のカリキュラムプランニングの演習を通して学習します。⑤～⑮（*このなかには野外実習をふくみます）</p> <p>(4) 模擬授業では、互いに評価しあって、授業を改善する方法について考えます。これは教師間で行う教育評価だけでなく、教育実習での研究授業にも応用できるものです。</p>
準備学習	この授業の性格から、自らの立案による授業をつくるために、学習課題を設定するために調べたり、教材となる資料を集めたり、授業で話したり黒板に書いたりすることが必要です。そういうことに積極的に取り組むことが大切です。
履修上の留意点	
成績評価の方法	課題レポート（学習指導案・教材プリント・単元テストなどを作成する）の到達度評価と出席状況のほか、模擬授業・野外実習などの演習の評価などを総合的に評価します。定期試験期間での試験は実施しません。評価の詳細は、前期・後期ともに第1回の授業において説明します。
教科書／テキスト	この授業では、前期の授業（社会科教育法Ⅲ）を踏まえて模擬授業を中心に展開します。毎回、授業者が作成する学習指導案と教材プリントを資料として配布します。前期（社会科教育法Ⅲ）同様に、①を「指定図書」②～④を「参考図書」とします。これ以外にも、参考になる図書・資料は授業の中で紹介します。 ① 臼井嘉一・柴田義松編『社会・地歴・公民科教育法』（学文社） ② 社会認識教育学会編『改訂新版 中学校社会科教育』（学術図書出版） ③ 社会認識教育学会編『改訂新版 地理歴史科教育』（学術図書出版） ④ 加藤西郷・吉岡真左樹編『社会・地歴・公民科教育論』（高学出版）
参考書	
その他	受講生が高校で使用した世界史・日本史・地理いずれかの教科書および参考図書を準備してください。これらの図書を授業で使用します。その詳細については第1回の授業で説明します。

履修コード	043001
科目名	社会科教育法Ⅳ（地理歴史）
担当者名	櫻井 明久

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>中学校社会科の地理的分野・歴史的分野と、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について学ぶことを主眼とする。その際、主に地理教材の取り扱いを通じて、模擬授業を行うなどして、実践的な授業方法の習得に努めたい。なお、この授業は前期開講の櫻井担当の社会科教育法Ⅲとセットになるように授業計画を組んでいる。前期から引き続き連続して授業をとるよう工夫すること。</p> <p>〈マイクロティーチング〉前期実施済み： ・生徒の前で話す</p> <p>〈模擬授業〉： ・いくつかの目標を設定する ・授業を計画する ・指導案という形式にまとめる ・目標に合わせて教材を作る</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：夏休みの宿題の提出・グループごとの指導案の情報交換と模擬授業計画</p> <p>第2回：様々な授業4（模擬授業意見交換）</p> <p>第3回：様々な授業5（授業の基本形：講義・問答やワーク）</p> <p>第4回：様々な授業6（応用：調べ活動や討論）</p> <p>第5回：模擬授業1：統計図表を利用して</p> <p>第6回：模擬授業2：地図帳を利用して</p> <p>第7回：模擬授業3：視聴覚教材を利用して</p> <p>第8回：模擬授業4：ニュースや新聞を使って</p> <p>第9回：模擬授業5：物語・文書資料を使って</p> <p>第10回：模擬授業6：地形図（身近な地域）を使って</p> <p>第11回：模擬授業7：シミュレーション学習</p> <p>第12回：模擬授業8：ディベート学習（討論型学習）</p> <p>第13回：様々な授業（追加説明1・模擬授業の反省から）</p> <p>第14回：様々な授業（追加説明2・新しい授業の提案）</p> <p>第15回：第4・5章への質問・意見、最終全体質問・意見に対する回答</p>
----------	---

準備学習	社会科教育法Ⅲを履修のこと。前期科目を履修していない場合には、夏休み前に連絡を取って課題の準備を行う必要がある。また、課題については指示に従うこと。
------	--

履修上の留意点	<p>前期からの継続受講が基本である。後期からだけ受講する際には、特に、最初の授業第1回目に必ず出席すること。それは、授業第1回目に分担・グループとしての担当授業と担当日時を決めるからである。出席が不可能な場合には事前に、前期のうちに連絡すること。</p> <p>グループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みてもらうので、授業への積極的な参加が求められる。また、担当日の欠席、担当の放棄等は仲間達へ迷惑を掛けるので、責任を持ってあたること。それが避けられないと予想される場合は、事前（2週間以上前）に連絡し、相談すること。また、仲間の授業を観察し、反省に参加することも非常に重要であるので、出欠は厳しく、授業の導入部への参加も重要なので遅刻についても厳しくチェックするので注意すること。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>授業・討論への参加、模擬授業の成果など 50点 教科書読書レポート 20点 指導案作成20点 期末試験 10点</p>
---------	--

教科書／テキスト	櫻井明久『地理教育学入門』1999年（古今書院）全242頁
----------	-------------------------------

参考書	文科省『学習指導要領解説』, 櫻井明久（2011）『社会科教師のための地理教材の作り方』古今書院など
-----	--

履修コード	057401
科目名	社会科教育法Ⅳ（地理歴史）
担当者名	藤木 正国

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 第1回から7回までは日本教育制度の変遷や学習指導要領の変遷など、教師としての必要な教養を講義中心に進める。第8回から15回までは班を編成し、班ごとによる模擬授業を行い、授業班以外の各班による授業に対する講評等を踏まえ、授業の進め方や組み立て方などに関する協議・研究を中心に授業を進める。</p> <p>（授業の到達） 高等学校地歴科（特に日本史・世界史）の教師として、自ら授業を組み立て、実践できる能力を養う。特に授業を行うための基礎・基本となる学習指導案の作成や教材研究の方法などを学習し、その上で模擬授業を重点的に行うことにより、次年度の教育実習に備える。また、高等学校地歴科の教師として、日本教育制度の変遷（大正期から終戦直後）や学習指導要領の変遷や内容等、教師としての教養を身につける。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1、日本教育制度の変遷 ①大正期の教育 2、日本教育制度の変遷 ②昭和前期（戦前）の教育 3、日本教育制度の変遷 ③終戦直後の教育 4、学習指導要領の内容と変遷 ①1947年度版、1951・52年度版 5、学習指導要領の内容と変遷 ②1955・56年度版、1958・60年度版 6、学習指導要領の内容と変遷 ③1968・70年度版、1977・78年度版 7、学習指導要領の内容と変遷 ④1989年度版、1999・2000年度版、2008・09年度版 8、班別の模擬授業 ①古代史 9、班別の模擬授業 ②中世史 10、班別の模擬授業 ③中世史 11、班別の模擬授業 ④近世史 12、班別の模擬授業 ⑤近世史 13、班別の模擬授業 ⑥近・現代史 14、班別の模擬授業 ⑦近・現代史 15、班別の模擬授業 ⑧世界史
----------	--

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の社会科教育法Ⅲで行った模擬授業などの資料を検討し、事前に教材研究や学習指導案の作成などを勉強しておくことが、効果的な準備学習となります。 ・模擬授業の発表班は事前に班での模擬授業を実施し授業内容を検討しておくことが、効果的な準備学習となります。 ・授業を受ける班は事前に授業項目を提示しておきますので予習をして授業に臨み、適切な意見（アドバイス）が述べられるように心がける。
------	---

履修上の留意点	<p>受講する以上は、教員を目指して努力をすること。安易な単位修得は考えない。実践的な指導力を高めることが主な目的であるので、教材の研究と開発を常に心懸ける。特に模擬授業を行うにあたっては事前の努力と創意工夫に努めること。教職を目指す者が、出席状況と提出物は特に重視する。尚、模擬授業を重視した講座ですので授業計画上、前期の社会科教育法Ⅲ（地理歴史）と連続して履修することが望ましい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>出席（4回以上欠席した場合は、評価の対象外とする）、提出物（課題レポート・模擬授業の感想等）、試験の3点を総合して評価する。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説・地理歴史編』（教育出版）410円 高等学校『詳説日本史B』『詳説世界史B』（山川出版）の教科書を用意すること。</p>
----------	---

参考書	<p>授業では使用しないが、下記の参考書は自ら学ぶことには役立つ。 堀松武一編『日本教育史』（国土社） 天野正輝著『教育課程編成の基礎研究』（文化書房博文社） 山住正己著『日本教育小史－近・現代－』（岩波新書）</p>
-----	---

その他	<p>1回～7回は講義中心、8回～15回は模擬授業と評価・研修を行う。 講義はプリントを配布して行う。</p>
-----	---

履修コード	134501
科目名	社会科教育法V (公民)
担当者名	小川 光夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会科・公民教育の変遷について考察するとともにその課題を主体的に追求し、人間としての在り方生き方について考える力を育成する。また『高等学校学習指導要領解説・公民編』の趣旨及び要点並びに各科目の目標、指導内容の要点並びに各科目の目標、指導内容の取り扱い等について考察する。
授業スケジュール	<p>第1回： 社会科・公民科教育の変遷 (1) 戦前の公民科教育</p> <p>第2回： 社会科・公民科教育の変遷 (2) 社会科の成立と意義</p> <p>第3回： 社会科・公民科教育の変遷 (3) 社会科の変遷と公民科教育</p> <p>第4回： 戦後の高等学校社会科の変遷と経緯</p> <p>第5回： 学習指導要領の改訂の経緯と趣旨</p> <p>第6回： 公民科の目標と科目編成</p> <p>第7回： 公民科各科目の基本的性格と目標</p> <p>第8回： 公民科各科目の構成</p> <p>第9回： 公民科各科目の内容の取り扱い</p> <p>第10回： 公民科各科目の指導計画の作成と指導上の配慮事項</p> <p>第11回： 各科目にわたる内容の取り扱い</p> <p>第12回： 公民科各科目の課題と内容</p> <p>第13回： 公民科各科目の教材研究と授業研究の方法</p> <p>第14回： 公民科各科目の学習指導案づくり (1) 「現代社会」</p> <p>第15回： 公民科各科目の学習指導案づくり (2) 「倫理」、「政治・経済」</p>
準備学習	必要なことは授業時に随時指示をする。
履修上の留意点	高等学校公民科の基礎知識が必要なので予め22年度以降使用の「現代社会」「政治・経済」及び「倫理」の教科書及び資料集を購入し、予習をしておくこと。
成績評価の方法	定期試験 (評価規準：知識・理解などを観点に評価 全体の約50%)、レポート (2回提出、評価規準：表現力、判断力などを観点に評価 全体の約20%)、平常点 (評価規準：授業に対する姿勢及び参加意欲等を観点に評価、全体の30%) 等で総合的に評価する。
教科書/テキスト	・文部科学省『高等学校学習指導要領解説・公民編』(教育出版)を購入する。336円 ・高等学校で使用している教科書を準備する。ただし高校の教科書は平成22年以降のものとする。
参考書	必要な参考書は授業時に随時指示をする。
その他	レポート課題については授業時に説明する。授業内容及びレポート等については[yestudy]を活用し、質問があれば答える。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	062401
科目名	社会科教育法V(公民)
担当者名	橋爪 敏

授業概要/ 到達目標(ねらい)	この授業は、高等学校公民科(現代社会、政治経済、倫理)教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、公民科とは何か、如何にやるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。</p> <p>第1回：「社会科教育法V(公民)」とはなにか。 第2回：課題レポートの決定、教科書の検討、参加学生の自己紹介。 第3回：20世紀社会科の脱構築—内容の報告と検討 第4回：21世紀社会科の実践課題—内容の報告と検討 第5回：21世紀社会科の挑戦—内容の報告と検討 第6回：市民社会科の構想—内容の報告と検討 第7回：社会問題科の内容編成原理—内容の報告と検討 第8回：社会形成科の内容編成原理—内容の報告と検討 第9回：多文化社会科の内容編成原理—内容の報告と検討 第10回：新しい社会科学科の構想—内容の報告と検討 第11回：社会科学科地理のカリキュラム—内容の報告と検討 第12回：社会科学科歴史のカリキュラム—内容の報告と検討 第13回：社会科学科社会のカリキュラム—内容の報告と検討 第14回：新しい問題解決学習の構想—内容の報告と検討 第15回：前回までの内容を総合的に検討して、後期の授業に続ける。</p>
----------	--

準備学習	指定の教科書を事前に、よく読み内容を理解しておくこと。
履修上の留意点	教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。
成績評価の方法	最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。
教科書/テキスト	社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書 他、適宜必要に応じて指示する。

履修コード	062601
科目名	社会科教育法V(公民)
担当者名	橋爪 敏

授業概要/ 到達目標(ねらい)	この授業は、高等学校公民科(現代社会、政治経済、倫理)教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。
--------------------	--

授業スケジュール	<p>授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、公民科とは何か、如何にやるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。</p> <p>第1回：「社会科教育法V(公民)」とはなにか。 第2回：課題レポートの決定、教科書の検討、参加学生の自己紹介。 第3回：20世紀社会科の脱構築—内容の報告と検討 第4回：21世紀社会科の実践課題—内容の報告と検討 第5回：21世紀社会科の挑戦—内容の報告と検討 第6回：市民社会科の構想—内容の報告と検討 第7回：社会問題科の内容編成原理—内容の報告と検討 第8回：社会形成科の内容編成原理—内容の報告と検討 第9回：多文化社会科の内容編成原理—内容の報告と検討 第10回：新しい社会科学科の構想—内容の報告と検討 第11回：社会科学科地理のカリキュラム—内容の報告と検討 第12回：社会科学科歴史のカリキュラム—内容の報告と検討 第13回：社会科学科社会のカリキュラム—内容の報告と検討 第14回：新しい問題解決学習の構想—内容の報告と検討 第15回：前回までの内容を総合的に検討して、後期の授業に続ける。</p>
----------	--

準備学習	指定の教科書を事前に、よく読み内容を理解しておくこと。
履修上の留意点	教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。
成績評価の方法	最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。
教科書/テキスト	社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書 他、適宜必要に応じて指示する。

履修コード	113401
科目名	社会科教育法V（公民）
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>本講は、高等学校社会科公民科で教育実習を行う学生や公民科教師を目指す学生に、第一には「教育とは」「社会科公民科教育とは何か」といった社会科公民科教育の基本理念について、第二には「学習指導要領」を中心に、初期社会科から今日（平成20年度版）にいたる社会科公民科の教科構造の特質と理念について詳細に考察します。第三には自分が実際に社会科公民科の授業を行うことを想定して、社会科公民科の「授業のねらいをどう設定するか」「授業をどう組み立てるか」「授業の教材をどう発掘するか」といった授業設計や教材研究・教材発掘法から学習指導案の作成まで詳細に検討します。</p> <p>本講は社会科公民科の学習指導案が書け、社会科公民科の授業ができることをねらいとしています。できれば、前後期の履修をのぞみます。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 公民科教育ガイダンス</p> <p>第2回 教育の意義</p> <p>第3回 社会科・公民科の意義と社会科の原点</p> <p>第4回 高等学校の教育課程と社会科・公民科</p> <p>第5回 社会科の成立 公民科・社会科委員会</p> <p>第6回 初期社会科の教科構造</p> <p>第7回 社会科の教科構造第3期 融合科目・系統科目 公民科の授業設計、学習指導案の意義と作成</p> <p>第8回 社会科の教科構造第4期 経験主義から系統主義へ 学習指導案単元の目標・本時の指導目標・指導計画の意義と作成</p> <p>第9回 社会科の教科構造第5期 教育内容の現代化と社会科 公民科授業の動機づけと「導入」の意義・作成</p> <p>第10回 社会科の教科構造第6期 融合科目「現代社会」「ゆとりカリキュラム」 公民科授業の展開過程「学習内容」の意義と作成</p> <p>第11回 社会科の教科構造第6期 公民科授業の展開過程「学習活動」の意義と作成</p> <p>第12回 社会科の教科構造第7期 新学力観と「地理歴史科」「公民科」「生活科」 公民科授業の展開過程「指導上の留意点」「資料」「時配」の意義と作成</p> <p>第13回 社会科の教科構造第8期 「生きる力」「総合的学習の時間」 公民科授業の「むすび」・評価・確認テストの意義と作成</p> <p>第14回 社会科の教科構造第9期 脱「ゆとり」と「問題解決的学習」の見直し 公民科授業の板書計画・教材研究の意義、教材の発掘</p> <p>第15回 公民科の教育評価と公民科学習指導案の完成・提出 公民科前期授業総括・小テスト 公民科教員採用試験の準備と心構え、「特別演習」「サブゼミ」について</p>
----------	--

準備学習	日頃よりTVニュースを見たり、新聞・雑誌に目を通し、学校教育や児童生徒の動向を把握するとともに、社会科の専門に関わる政治・経済・社会の動向にも関心を持つこと。
------	---

履修上の留意点	<p>(1) 教材としてプリントを配布します。必ずその時間に受け取って下さい。</p> <p>(2) ビデオ、DVD教材を使用します。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>(1) 各種の課題提出、学習指導案の作成、小テストなどで総合的に評価します。</p> <p>(2) 定期試験、追試は行いません。小テストは授業中に実施します。</p>
---------	--

教科書／テキスト	<p>(1) 毎時間、単元別に「プリント」を配布し、「教科書」の代わりとします。</p> <p>(2) 高等学校で使用している教科書 『改訂版 現代社会』実教出版、570円。 (教科書の検定番号は、「7実教 現社019」です)。</p> <p>(3) 『平成20年度版高等学校学習指導要領 公民編』教育出版、336円。</p>
----------	---

参考書	<p>以下の参考書は講義の参考にして下さい。</p> <p>(1) 『平成20年度版中学校学習指導要領』『平成20年度版高等学校学習指導要領』（文部科学省）は授業でも使用します。(2) 槐一男『社会科教材発掘の技術』（日本書籍）、(3) 谷川彰英『社会科の自由研究ヒント集』（黎明書房）、(4) 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』（明治図書）、(5) 谷敷正光他『社会科教育研究』（梓出版）、(6) 福山憲市『資料提示の技術』（明治図書）、(7) 高元厚憲『高校生と政治教育』（同成社）、(8) 木村博一『日本社会科の成立理念とカリキュラム構造』（風間書房）、(9) 小林洋一郎『学習指導体制の研究 授業と発問』（酒井書店）、(10) 広瀬敏雄『生きる力としての問題解決力を育む授業』（黎明書房）、(11) 井原政純『社会・地歴・公民科基礎論-教科指導の研究』（多賀出版）、(12) 授業技術研究会『指導細案の作成と実践』（学習研究社）、(13) 教育実習を考える会『教育実習のための学習指導案作成教本 社会、地歴、公民科』（蒼丘書林）、(14) 鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』（明治図書）、(15) 大演徹也『現在問われている世界 社会科』（同成社）。</p>
-----	---

履修コード	134601
科目名	社会科教育法VI (公民)
担当者名	小川 光夫

授業概要/
到達目標 (ねらい) 様々な授業実践事例を示しながら学習指導案の作成について考察する。また模擬授業を通して公民科の実践的な指導力を養う。

授業スケジュール	<p>第1回： 学習指導案の作成及び模擬授業について 第2回： 先進的な学習指導事例についての紹介及び検討 第3回： 先進的な授業実践報告事例の紹介及び検討 第4回： 各科目のシラバスの作成と観点別評価につて 第5回： 教材研究と学習指導案の作成について 第6回： 学習指導案づくり (レポート提出) 第7回： 班別模擬授業づくり 第8回： 学習指導案にもとづく模擬授業及び質疑1 (A班) 各班による評価 第9回： 学習指導案にもとづく模擬授業及び質疑2 (B班) 各班による評価 第10回： 学習指導案にもとづく模擬授業及び質疑3 (C班) 各班による評価 第11回： 学習指導案にもとづく模擬授業及び質疑4 (D班) 各班による評価 第12回： 学習指導案にもとづく模擬授業及び質疑5 (E班) 各班による評価 第13回： 学習指導案にもとづく模擬授業及び質疑6 (F班) 各班による評価 第14回： 学習指導案にもとづく模擬授業及び質疑7 (G班) 各班による評価 第15回： 各班の学習指導案の再提出と模擬授業に関する意見交換 ※正受講者が多数の場合は、模擬授業の回数を増やすなどの変更がある。</p>
----------	---

準備学習	必要なことは授業時に随時指示をする。
履修上の留意点	実践的な力量形成を図ることを目的としているので、意欲的・積極的な取り組みを行うこと。
成績評価の方法	平常点 (模擬授業を受ける際の姿勢及び態度、協調性などを観点到に評価)、模擬授業 (思考力及び判断力、表現力、技能などを観点到に評価)、学習指導案 (知識、理解などを観点到に評価)、レポート (表現力及び考察力、判断力、ものの見方・考え方などを観点到に評価) 等で総合的に評価する。
教科書/テキスト	文部科学省『高等学校学習指導要領解説・公民編』(教育出版336円)及び平成23年度使用の公民科各科目の教科書。なお高等学校で使用している「現代社会」「政治・経済」「倫理」の教科書については別途受講時に指示をする。
参考書	必要な参考書は授業時に随時指示をする。
その他	受講者は学習指導案を作成し、模擬授業を行う。

履修コード	062501
科目名	社会科教育法VI (公民)
担当者名	橋爪 敏

授業概要/
到達目標 (ねらい) この授業は、高等学校公民科(現代社会、政治・経済、倫理)教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

授業スケジュール	<p>本授業は、前期の社会科教育法V(公民)を受けて行うものである。 授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、社会科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。 第1回：後期の授業の方針。前期レポートについてのコメント並びに若干の質疑。 第2回：後期レポート課題の決定。前期レポートの相互批判検討の指示。 第3回：子どもが追求する社会科授業—内容の報告と検討 第4回：学びの共同体を育成する社会科の授業—内容の報告と検討 第5回：子どもの発達を促進する社会科の授業—内容の報告と検討 第6回：21世紀社会科の内容の変革—内容の報告と検討 第7回：社会科におけるゼンガ—学習—内容の報告と検討 第8回：社会科における環境学習—内容の報告と検討 第9回：社会科における多民族学習—内容の報告と検討 第10回：社会科における新時代の国家・社会学習—内容の報告と検討 第11回：21世紀社会科の方法の革新—内容の報告と検討 第12回：インターネットを活用した社会科授業—内容の報告と検討 第13回：シミュレーション—ゲームにもとづく社会科授業—内容の報告と検討 第14回：ディベートにもとづく社会科授業—内容の報告と検討 第15回：1年間の授業を振り返り、まとめとする。</p>
----------	---

準備学習	指定の教科書を事前に、よく読み内容を理解しておくこと。
履修上の留意点	教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。
成績評価の方法	最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。
教科書/テキスト	社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書 他、適宜必要に応じて指示する。

履修コード	062701
科目名	社会科教育法Ⅵ（公民）
担当者名	橋爪 敏

授業概要/ 到達目標（ねらい）	この授業は、高等学校公民科（現代社会、政治・経済・倫理）教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。
--------------------	---

授業スケジュール	<p>本授業は、前期の社会科教育法Ⅴ（公民）を受けて行うものである。授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能となる形式で行いたい。しかし半期科目であり、時間も限られている。受講学生数によっては、その方法を変えざるをえないが、原則として、公民科教育法に関する文献講読を主とした。学生諸君に分担してその内容を報告してもらい、それをもとにして、社会科とは何か、如何にあるべきか、如何に教えるべきかを、ともに気づき、考えることの出来る授業としたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。</p> <p>第1回：後期の授業の方針。前期レポートについてのコメント並びに若干の質疑。 第2回：後期レポート課題の決定。前期レポートの相互批判検討の指示。 第3回：子どもが追求する社会科授業—内容の報告と検討 第4回：学びの共同体を育成する社会科の授業—内容の報告と検討 第5回：子どもの発達を促進する社会科の授業—内容の報告と検討 第6回：21世紀社会科の内容の変革—内容の報告と検討 第7回：社会科におけるソング—学習—内容の報告と検討 第8回：社会科における環境学習—内容の報告と検討 第9回：社会科における多民族学習—内容の報告と検討 第10回：社会科における新時代の国家・社会学習—内容の報告と検討 第11回：21世紀社会科の方法の革新—内容の報告と検討 第12回：インターネットを活用した社会科授業—内容の報告と検討 第13回：シミュレーションゲームにもとづく社会科授業—内容の報告と検討 第14回：ディベートにもとづく社会科授業—内容の報告と検討 第15回：1年間の授業を振り返り、まとめとする。</p>
----------	--

準備学習	指定の教科書を事前に、よく読み内容を理解しておくこと。
履修上の留意点	教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。
成績評価の方法	最終レポート並びに普段の報告、質問、授業への参加状況、出席状況などを総合して決定する。
教科書／テキスト	社会認識教育学会編『社会科教育のニューパースペクティブ』明治図書
参考書	森分孝治『社会科授業構成の理論と方法』明治図書 他、適宜必要に応じて指示する。

履修コード	113501
科目名	社会科教育法VI (公民)
担当者名	谷敷 正光

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>後期は、授業実践に必要な授業展開の仕方、発問の仕方、板書法などの基本的指導技術や教材開発など実際の能力を身に付け、各自が立てた授業設計・学習指導案をもとに公民科の模擬授業を実践します。授業実践を通じて基本的な授業技術を学び、教育実習に備えるとともに社会科公民科教師としての資質・力量形成につとめます。</p> <p>本講は前期、後期の授業で公民科の学習指導案が書け、社会科公民科の授業ができることをねらいにしています。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 社会科公民科教育ガイダンス 高等学校公民科のねらい</p> <p>第2回 高等学校公民科「現代社会」の内容構成と授業の配慮事項</p> <p>第3回 高等学校公民科「政治経済」の内容構成と授業の配慮事項</p> <p>第4回 高等学校公民科「倫理」の内容構成と授業の配慮事項 公民科の学習形態</p> <p>第5回 公民科授業技術 机間巡視・机間指導法</p> <p>第6回 公民科授業技術 教材開発と教材の活用法</p> <p>第7回 公民科授業技術 板書計画と板書法</p> <p>第8回 公民科授業技術 発問の仕方と問答法</p> <p>第9回 模擬授業の意義と学習指導案の立案 (授業研究) 模擬授業の実施方法と諸注意・実施要領 (授業研究) 4年生の模範授業</p> <p>第10回 (授業研究) 模擬授業実践と感想意見の集約</p> <p>第11回 (授業研究) 模擬授業実践と感想意見の集約</p> <p>第12回 (授業研究) 模擬授業実践と感想意見の集約</p> <p>第13回 (授業研究) 模擬授業実践と感想意見の集約</p> <p>第14回 (授業研究) 公民科教師による模範授業 (予定)</p> <p>第15回 実践した模擬授業の評価、後期授業の総括と小テスト、教育実習と公民科の授業、高等学校公民科教師論、公民科の教員採用試験の準備、「特別演習」と「サブゼミ」について</p>
----------	--

準備学習	日頃よりTVニュースを見たり、新聞・雑誌に目を通し、学校教育や児童生徒の動向を把握するとともに、社会科の専門に関わる政治・経済・社会の動向にも関心を持つこと。
------	---

履修上の留意点	<p>(1) 教材としてプリントを配布します。必ずその時間に受け取って下さい。</p> <p>(2) ビデオ、DVD教材を使用します。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>(1) 各種課題の提出、模擬授業の実践、小テストなど総合的に評価します。</p> <p>(2) 定期試験、追試は行いません。小テストは授業中に実施。</p>
---------	---

教科書/テキスト	<p>(1) 毎時間、単元別に「プリント」を配布し、「教科書」の代わりにします。</p> <p>(2) 高等学校で使用している教科書『改訂版 現代社会』実教出版、570円。 (教科書の検定番号は、「7実教 現社019」です)。</p> <p>(3) 『平成20年度版高等学校学習指導要領 公民編』教育出版、336円。</p>
----------	--

参考書	<p>参考書以下の参考書は講義の参考にして下さい。</p> <p>(1) 『平成20年度版中学校学習指導要領』『平成20年度版高等学校学習指導要領』(文部科学省)は授業でも使用します。(2) 上条晴夫『図解・よくわかる授業上達法』(学陽書房)、(3) 加藤辰雄『板書のしかた・ノート指導』(学陽書房)、(4) 上条晴夫『教師の話術』(たんぼ出版)、(5) 梶一男『社会科教材発掘の技術』(日本書籍)、(6) 関根正明『教師のちよつとした口のきき方』(学陽書房)、(7) 大西忠治『発問上達法』(民衆社)、(明治図書)、(8) 浜上薫『発問づくりの技術』(明治図書)、(9) 小林洋一郎『学習指導体制の研究 授業と発問』(酒井書店)、(10) 谷川彰英『楽しく学べる授業づくりのヒント』(明治図書)、(11) 井原政純『社会・地歴・公民科基礎論-教科指導の研究』(多賀出版)、(12) 授業技術研究会『指導細案の作成と実践』(学習研究社)、(13) 教育実習を考える会『教育実習のための学習指導案作成教本 社会、地歴、公民科』(蒼丘書林)、(14) 鈴木健二『社会科指導案づくりの上達法』(明治図書)、(15) 大濱徹也『現在問われている世界 社会科』(同成社)。</p>
-----	---

履修コード	066151 066152
科目名	社会学 (福祉)
担当者名	武山 梅乗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会福祉士 (及び精神保健福祉士・社会福祉主事) を目指す学生を対象として、社会学の基礎的な知識 (社会理論) を提示し、現代社会における今日的な諸問題や生活、及び人と社会との関係について理解することを通じて、より広い視点から (社会福祉) を展望する視点を養ってもらうことを目的としています。
---------------------	---

授業スケジュール	I 社会学の基礎概念 (1~6回) 第1回: 自我の社会性、第2回: アイデンティティと脱アイデンティティ、第3回: 役割論、第4回: 印象操作とドラマトウルギー、第5回: 集団と組織、第6回: 官僚制の逆機能 II 現代社会論 (7~10回) 第7回: ジェンダーとフェミニズム、第8回: 女性らしさとダイエット、第9回: ラベリング理論とソーシャルインクルージョン、第10回: 医療化と差別論 III 地域社会論 (11~13回) 第11回: アーバンイズムとコミュニティ、第12回: 国土計画と過疎過密、第13回: コミュニティからネットワークへ—孤族を乗り越える途— IV 社会変動論 (14~15回) 第14回: 近代化とは何か、第15回: 消費社会と情報化社会
----------	---

準備学習	教科書は講義開始前に一読しておいてください。また、試験までには講義期間中に随時指示する参考書等にも目を通してあげばより理解が深まります。
------	--

履修上の留意点	講義に入る前の事前学習としては教科書を一読しておくことを期待します。また、講義に入ってから、事前に <i>Study</i> にアップしておく資料等に目を通していただくこと、講義の各回終了時には教科書の課題等を用いて復習しておくこと希望します。
---------	--

成績評価の方法	出席状況を勘案した上で、学期末の試験 (8割) と講義期間中に数回提出を求める課題 (2割) から総合的に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	武山梅乗・呉炳三『社会学の扉をノックする』学文社 ISBN 978-4-7620-1969-2
----------	---

参考書	参考書は講義期間中に随時紹介します。
-----	--------------------

履修コード	133901 133902
科目名	社会学原理 社会学原論
担当者名	呉 炳三

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす社会問題を分析する手法として、社会学の基礎的な概念や理論の使い方を学ぶこと。またはその身近な社会問題を認識、理解することを通じて、現代社会を展望する視点を養ってもらうことを本講義の目的とする。
---------------------	--

授業スケジュール	前期は以下の内容について、社会学の方法や理論を中心に講義を行う。 (1) ガイダンス、(2) 社会学原論とは、(3~4) 個人と社会 (社会的行為、社会化と人間形成、パーソナリティ・社会的自我)、(5~6) 現代家族論 (配偶者選択、結婚、家族の構造と機能、家族の現代的課題)、(7~8) 組織論、官僚制 (専門職)、(9~10) 職業、労働 (職場や人間関係、就職・転職・リストラ、フリーター・ニート)、(11~12) 若者の犯罪 (ラベリング理論、加害者と被害者の関係、犯罪の原因)、(13~14) 自殺と社会 (自殺の歴史、自殺の背景、自殺の最近の情報)、(15) 社会階層など
----------	---

準備学習	後期は、受講生の関心テーマについての発表や班ごとにディベートを行う。前年度や前々年度のディベートや発表の主な内容は以下である。
------	---

履修上の留意点	(1) 少年犯罪者の実名公表、(2) 若者文化、(3) 少年法改正、(4) 出会系サイト、(5) 自殺といじめ、(6) 死刑制度の廃止か存続か、(7) 高齢者や児童虐待、(8) 格差社会、ワーキングプア、(9) 成人年齢の引き上げ、(10) 安楽死、(11) 新聞や書籍の電子化、(12) 原発の維持か廃止か、(13) 小学生のインターネット利用、(14) 三才児神話、(15) ストリートチルドレンなど
---------	--

成績評価の方法	以上、講義を予定しているが、受講生の人数などによって、講義内容を変更することがある。
---------	--

準備学習	本講義は発表やグループ討議、ディベートを行う。よって、発表の方法やグループ討議とは何か、ディベートとは何かを事前に学習しておくことを勧める。
------	--

履修上の留意点	出席状況 (遅刻厳禁)、発表やディベートの内容と授業態度、簡単なレポートなどを総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。
---------	---

成績評価の方法	特に指定しない。
---------	----------

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	講義中に、その都度紹介する。
-----	----------------

履修コード	060001 060002
科目名	社会学原論
担当者名	橋爪 敏

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義の対象は社会学科の2・3・4年生、ならびに「中学校社会科、高等学校地・歴史科、公民科」にかかわる教職科目の受講者である。したがって、「社会学」とは何か、いかなる学問かにはじまり、さらに「中学校社会科、高等学校地・歴史科、公民科」の基礎をなす学問としての、<社会科学としての「社会学」>とは何かにかかわる問題を取り上げたい。いずれにせよ、社会学的なモノの見方、考え方を理解し、それを踏まえて、社会現象を理解し、説明する<社会科学>についての認識を深めたい。
---------------------	--

授業スケジュール	前期1)～8)社会科学とは何か、社会科学の対象と方法、社会科学としての社会学9)～15)歴史から見る社会学、総合社会学、百科全書的 sociology、マルクス主義の影響。後期は16)～20)フランスにおける現代社会学への歩み21)～25)ドイツにおける現代社会学への歩み26)～30)現代社会学の展開を概観する事により、社会現象に対する科学的取り組みを理解し身に付ける事にしたい。
----------	---

準備学習	指定のテキストを、適宜読んでおくこと。
------	---------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	学年末の定期試験で評価する。
---------	----------------

教科書/テキスト	安藤喜久雄ほか著『社会学概論』学文社
----------	--------------------

参考書	適宜指示する。
-----	---------

履修コード	086301
科目名	社会教育行政
担当者名	荒井 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	社会教育行政現場で長く経験を積んできた立場からの講義により、実践的な社会教育の見方の習得を目指します。市民生活に直結する基礎自治体を取り巻くさまざまな社会の動きと絡めて社会教育の諸側面を行政の立場からとらえ、多角的に解説していきます。理論的な課題とともに体験に基づくリアルティある話を織り交ぜ、社会教育行政に関する認識を深めます。
---------------------	---

授業スケジュール	第1～2回：私の社会教育行政の体験談、第3～6回：社会教育行政の法体系と仕組み（社会教育行政を規定する各種法体系、行政組織）、第7～14回：地方ごとの社会教育行政の多様性（法規定と地方ごとの施策）、第15～20回：東京の社会教育行政の特徴（公民館不在の地、青年館建設計画、社会教育委員設置率の低さ、障害者の社会教育の充実）、第21～25回：社会教育主事の職務（企画立案の仕事、「求めに講じた助言指導」とは？、社会教育行政の専門的リーダーシップ）、第26～30回：最近の社会教育行政の動向（行政改革との関連、首長部局移管問題、学校教育との連携、協働理念の具体化、市町村合併と社会教育）
----------	---

準備学習	興味ある市町村の訪問やホームページで社会教育関連内容を閲覧することを勧めます。そのことによって、授業内容が一層よく理解できます。
------	--

履修上の留意点	夏休み前に研究課題を出します。実際に市町村窓口を訪問して課題に挑戦する機会になります。後期開始後、その成果のプレゼンテーションを授業で行います。この授業は、少人数のメリットを生かし、対話形式を随時取り入れます。この方法により、積極的なコミュニケーション能力の向上が図れると思います。常に問題意識をもって講義に参加すれば、授業により興味が湧き、社会教育の世界に目が開かれると思います。社会教育は実践の世界ですから、この授業は社会教育の実践的な見方を習得するよい機会となります。授業では、夏季休業中に社会教育行政の実際に触れる機会を作ります。自分で見聞きしたことをプレゼンテーションすることで社会とのかかわりをもつチャンスとなりますので、就職を考えるきっかけにもなると思います。
---------	---

成績評価の方法	授業内試験、通年レポート、出席と授業態度（各3割）、夏季課題（1割）をもとに総合的に評価します。
---------	--

教科書/テキスト	「未定」
----------	------

参考書	講義に関係する参考書を随時紹介します。
-----	---------------------

その他	アットホームな雰囲気をもとに心が通いあう授業にしていきます。
-----	--------------------------------

履修コード	084401
科目名	社会教育計画
担当者名	萩原 建次郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>社会教育・生涯学習という営みは、個人の学びと成長と共に、あらゆる立場の人々の参加と共に、地域の社会づくりにむけた、学びの支援を目的としている。本授業ではそうした理念と共に、社会教育活動・事業計画の基礎的知識や参加型学習の方法を学ぶ。</p> <p>(到達目標)</p> <p>受講生達の力で社会教育・生涯学習活動計画を作成し、コンペを行なうことで、チームワーク・企画力・プレゼンテーション力・実践力を養うこと。社会教育職員に必要な力量としての多様な地域資源・社会資源をコーディネートする力や他者と協働していく力を養うことが目標である。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 「社会教育計画」とは 参加型学習の理念と方法を学ぶ1 チーム分けとアイスブレイキング 参加型学習の理念と方法を学ぶ2 コミュニケーション手段が制限された中で他者と協力しあうアクティビティ 参加型学習の理念と方法を学ぶ3 コミュニケーション手段が制限された中でいかに他者と協力しあうアクティビティ 参加型学習の理念と方法を学ぶ4 グループ理論、成長する個と集団の関係性についての講義 社会教育・生涯学習関連情報を見つける 各チームで「学びの情報」(チラシ50種類・施設20カ所)を見つけてくる。 社会教育・生涯学習情報をどのように整理するか1 各チーム(各人)どのように情報を探したか、どのような場所にあったか、学習情報にはどのようなものがあったか。チラシ・冊子のつくり方にはどのような要素が含まれているか。広報に必要なことは何か。以上の5点と考察を踏まえてプレゼンへの準備。 社会教育・生涯学習情報をどのように整理するか2 前回に引き続いてプレゼンへの準備 社会教育・生涯学習情報をどのように整理するか3 前回に引き続いてプレゼンへの準備 社会教育・生涯学習情報の内容分析結果からの考察1 各チームプレゼンテーションと相互評価をする。 社会教育・生涯学習情報の内容分析結果からの考察2 各チームプレゼンテーションと相互評価をする。 プレゼンテーションとチームワークへの自己評価 社会教育・生涯学習の内容編成・方法・評価について 社会教育・生涯学習の広報について 前期ふりかえりと夏休み課題レポート説明 ※夏休みレポート「自分が暮らす地域の特性と生涯学習計画・社会教育計画を調べる」自ら育った地域の特徴や社会教育計画を調べる。それぞれの地域性(人口特性・生活意識・学習資源など)に基づく、社会教育実践の課題や社会教育計画づくりの実際などを学ぶ。ための基礎資料づくりを行なう。作成したレポートは後期授業の基礎資料となる。 地域の特性と社会教育計画の特徴を考える1 メンバーそれぞれの地域の特性や生涯学習計画・社会教育計画などを比較検討し、社会教育計画づくりの方法や内容を考える。地域教育計画に必要な要素は何か、各地域の特性と生活課題、社会教育計画の特徴などをレポート内容から分析し、社会教育計画の発想法・成プロセスなどを学ぶ。これらをプレゼンテーションとしてまとめていく。 地域の特性と社会教育計画の特徴を考える2 前回に引き続き各自のレポートの内容分析とプレゼン準備。 地域の特性と社会教育計画の特徴を考える3 前回に引き続き各自のレポートの内容分析とプレゼン準備。 地域の特性と社会教育計画の特徴を発表する1 各チームプレゼンテーション。 社会教育実践をデザインする1 具体的な場面を設定し、各チームで実際に社会教育事業計画を作成する。 社会教育実践をデザインする2 これまで学んできたことを総動員して、社会教育事業計画を作成する。 社会教育実践をデザインする3 これまで学んできたことを総動員して、社会教育事業計画を作成する。 社会教育実践をデザインする4 これまで学んできたことを総動員して、社会教育事業計画を作成する。 社会教育実践をデザインする5 これまで学んできたことを総動員して、社会教育事業計画を作成する。 社会教育実践をデザインする6 これまで学んできたことを総動員して、社会教育事業計画を作成する。 社会教育実践をデザインする7-審査会①- 各チームプレゼンテーションと外部審査員による審査会 社会教育実践をデザインする8-審査会②- 各チームプレゼンテーションと外部審査員による審査会 社会教育実践をデザインする9 プレゼンテーションの審査結果発表と講評 社会教育実践をリデザインする 一年間のふりかえり <p>※26.27.においては、NPOや小学校、社会教育行政職員、地域の方々をお招きしての、コンペと審査会を実施する予定。</p>
----------	---

準備学習	本授業だけで社会教育全体をカバーできるわけではない。本授業履修と並行して、自ら社会教育や生涯学習にかかわるボランティア活動や地域活動、大学外での講座・ワークショップなどに積
------	--

極的に参加し、体験学習しておくこと。

履修上の留意点	本授業は次年度の「社会教育実習」を履修するための基礎科目であり、本授業とあわせて「生涯学習概論Ⅰ」「生涯学習概論Ⅱ」を履修し、単位取得していることが実習派遣の前提となっている。忘れずに「生涯学習概論Ⅰ」「生涯学習概論Ⅱ」もあわせて履修登録すること。
成績評価の方法	レポート30%、プレゼンテーション30%、チームワークへの貢献度40%で判断する。
教科書／テキスト	廣瀬隆人、澤田実、林義樹、小野美津子『生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方』（ぎょうせい）1,429円
参考書	田中雅文他編著『テキスト生涯学習—学びがつむぐ新しい社会』（学文社）、1500円＋税 萩原元昭編著『子どもの参画—参画型地域活動支援の方法—』（学文社）、1900円＋税

履修コード	085901
科目名	社会教育施設
担当者名	萩原 建次郎

授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要） 社会教育・生涯学習（関連）施設の歴史と理念、目的と機能を学びながら、現在多様に展開している社会教育・生涯学習（関連）施設の現状や取り組みを理解し、課題と展望を考察していく。適宜フィールドワークも行う予定。 （到達目標） 社会教育施設や社会教育事業・活動などの事例にできるだけ多く触れながら、社会教育・生涯学習の理念と実践内容・方法の多様さ・奥深さを感じ取ることで、社会教育職員として必要な幅広い教養と知的好奇心、行動力を養うこと。
--------------------	---

授業スケジュール	①社会教育・生涯学習（関連）施設の種類と概要（第1回～第5回） ②社会教育・生涯学習（関連）施設の現代的状況と課題（第6回～第10回） ③公民館の理念と歴史・仕組み（第11回～第13回） ④公民館の実践事例から社会教育・生涯学習の意義を学ぶ（第14回～第20回） ⑤社会教育・生涯学習（関連）施設・事業の新たな取り組み（第21回～第25回） ⑥地域に根ざす社会教育・生涯学習活動の実践（第26回～第30回）
----------	--

準備学習	社会教育は地域・施設によってさまざまな実践が展開されています。体系的に学ぶことが難しいジャンルですので、実際に社会教育・生涯学習の講座・事業に参加することを勧めます。
------	---

履修上の留意点	
成績評価の方法	発表30%、レポート30%、平常点40%により評価する。
教科書／テキスト	授業時に提示する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	084701
科目名	社会教育実習
担当者名	豊田 千代子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	（授業概要） 公民館をはじめとする様々な社会教育施設や教育委員会等での社会教育実習に向けて、準備を行う。また、実習後は、実習報告とディスカッションを行い、実習体験を他者と共有するとともに、実習を通して見えてきた社会教育の課題等について考え合う。 （到達目標） 社会教育実習に向けて意識が高まり、実習が有意義なものとなる。また、実習報告とディスカッションを通して、社会教育を実践的に深く理解する。
--------------------	--

授業スケジュール	【前期】（1）ガイダンス、実習の目的と意義（2）実習の心がまえ（3）社会教育の今日の動向（4～14）社会教育実践事例の検討（15）実習に向けての総括 【後期】（16）実習報告の方法等について（17～27）実習報告とディスカッション（28～29）実習からみる社会教育の現在（30）まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	グループでの学習を中心に授業を進めるため、積極的な参加が求められる。
成績評価の方法	実習ノート25%、実習報告・レポート50%、平常点25%。
教科書／テキスト	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	084801
科目名	社会教育実習
担当者名	萩原 建次郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 社会教育・生涯学習関連施設や教育委員会での実習をとおして、社会教育・生涯学習の実践に触れるとともに、社会教育・生涯学習への理解を深めることを目的としている。 (到達目標) 年間の授業と実習を通じて社会教育・生涯学習の学びのスタイルの柔軟さ・自在さ・深さを学び取る。実習を通して、社会教育の多様な生活課題と学習課題に気づき、自らの考察を深めること。
---------------------	---

授業スケジュール	①実習への事前指導として社会教育・生涯学習実践の事例を紹介し、社会教育・生涯学習の具体的なイメージをつかみつつ、実習の意義や心がまえについての理解を深める。(第1回～第5回) ②社会教育実践の手法を体験する機会を設ける。(第6回～第12回) ③実習中には可能な限り個別訪問指導をおこなう予定。 ④実習の事後指導として体験レポートをもちより、お互いの社会教育実践事例を共有し、社会教育への意味について丁寧に考えあう場をもつ。(第13回～第19回) ⑤以上の①～④を踏まえ、各自研究テーマを定め、研究レポート集づくりを行う。(第20回～第30回) 出来上がった研究レポート集は、お世話になった実習先にも配布予定。
----------	--

準備学習	本授業は社会教育主事講座の集大成として位置づけられるため、実習だけではなく社会教育・生涯学習の理論書や実践事例のテキスト購読など、文献学習も自主的に行なうこと。
------	--

履修上の留意点	5月中旬に社会教育実習事前ガイダンスが行われます。必ず出席すること。 やむをえず欠席・遅刻する場合は事前に教務教職係窓口に申し出ること。
---------	---

成績評価の方法	実習ノートの作成提出25%、実習報告内容25%、研究レポート25%、授業への参加度25%で判断する。
---------	--

教科書/テキスト	教科書・テキストは使用しない。
----------	-----------------

参考書	参考書は適宜提示する。
-----	-------------

履修コード	058331 058332
科目名	社会心理学 A
担当者名	坪井 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業は、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この社会心理学 A (前期) では、対人関係、集団的影響などの具体的なテーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて、身近な日常テーマの役立つ授業を展開したいと考えている。
---------------------	--

授業スケジュール	1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方 - 2. 対人認知と印象形成 - 未知の人をどう認知するか - 3. 対人関係と自己開示 - オタクと日本人の自己開示 - 4. 親密性の社会心理学 - 若者の友人関係 - 5. 日本人の対人関係戦略 - 安心社会から信頼社会へ① - 6. 日本人の対人関係戦略 - 安心社会から信頼社会へ② - 7. 自信の社会心理学 - あなたは自分に自信がありますか - 8. 対人関係と対人魅力 - 対人魅力の条件とは何か - 9. 恋愛の社会心理学 - 恋愛と友情は違うのか - 10. 援助行動抑制要因の研究 - 何故、人は見て見ぬふりをするのか - 11. 社会的な抜きと社会的促進の研究 - みんなと一緒なら食事はずむ - 12. 同調行動と集団的意志決定 - 集団の意志決定とその危険性 - 13. カウラ事件とその社会心理学的考察 - 集団脱走はなぜ起こったか - 14. 同調行動と頻度依存行動 - いじめの心理 - 15. まとめ
----------	---

準備学習	前の週に提示された文献・資料は事前に学習しておくこと。
------	-----------------------------

履修上の留意点	ビデオ視聴が追加されるので、上記予定は変更する場合がある。授業では資料を配布する。興味を持ったテーマは、紹介文献を参考に各自の関心を深めてもらいたい。リアクションペーパーを配布するので、しっかり記入すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点 (出席+リアクションペーパーの内容+参加度) 50%、課題レポート50%
---------	--

教科書/テキスト	授業中、プリントを配布する。
----------	----------------

参考書	その都度指示する。
-----	-----------

履修コード	058341 058342
科目名	社会心理学B
担当者名	坪井 健

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業は、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この社会心理学B(後期)では、集団と社会の領域の実際のテーマを中心に、身近な生活に役立つ授業を展開したいと考えている。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに -講義の方針と受講の仕方- 2. 社会的行動の基礎 -欲求理論- 3. 親和欲求の研究 -人はなぜ他者を求めるか- 4. 達成動機の研究 -やる気のある人はどんな人か- 5. 労働環境と仕事意欲の研究 -現代若者の労働観- 6. 社会的勢力と権威への服従 -何が人を鬼にさせるか- 7. リーダーシップの研究 -効果的リーダーシップとは- 8. 態度変容の実験 -説得的コミュニケーション- 9. 態度変容の理論 -セールスマンのテクニック- 10. 異文化コミュニケーションと異文化適応 -異文化に生きる戦略- 11. 学生文化の国際比較 -世界の中の日本の学生- 12. 国際化する大学と学生 -世界の留学交流と在日留学生- 13. 日本人とナショナリズム -文化ナショナリズムの心理- 14. 日常生活の中の社会心理学 -しろうと理論の陥穽- 15. まとめ
----------	--

準備学習	指示された資料・文献は事前に学習しておくこと。
------	-------------------------

履修上の留意点	ビデオ視聴が追加されるので、上記予定は変更する場合がある。授業では資料を配布する。興味を持ったテーマは、紹介文献を参考に各自の関心を深めてもらいたい。リアクションペーパーを配布するので、しっかり記入すること。
---------	--

成績評価の方法	平常点(出席+リアクションペーパーの内容+参加度)50%、課題レポート50%
---------	--

教科書/テキスト	授業中、プリントを配布する。
----------	----------------

参考書	その都度指示する。
-----	-----------

履修コード	086501
科目名	社会体育I
担当者名	吉田 実生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>横になる、座る、立つ、歩く、等の動きを通して、今、自分に起きている(生まれている)感覚に注意を向けて行きます。そして、そこからどんな可能性がひらかれるかを体験して行きます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>身体の動きを通して自分の身心の状態がどのようになっているのかに気づくことを目指します。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入 2~7 横になる、座る、歩くなどの動き(自分の身体と出会う) 8~14 横になる、座る、歩くなどの動き(身体への気づきを深める) 15 まとめ
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	実習が主となりますので、からだをしめつけない楽な服装で出席して下さい。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	平常点及びレポート
---------	-----------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	086601
科目名	社会体育II
担当者名	吉田 実生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>社会体育 I での経験を踏まえ、横になる、座る、立つ、歩く、等の動きを通して、今、自分に起きている (生まれている) 感覚に注意を向けて行きます。そして、そこからどんな可能性がひらかれるかを体験して行きます。</p> <p>(到達目標)</p> <p>自分の身体の動きから生まれる感覚を手がかりに、より自然な身心の状態を探っていけるようになることを目指します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>1~5 横になる、座る、歩くなどの動き (身体的感受性を深める)</p> <p>6~9 " (動きとイメージ)</p> <p>10~14 " (身体的気づきを関係へと開く)</p> <p>15 まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	実習が主となりますので、からだをしめつけない楽な服装で出席して下さい。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	平常点及びレポート
---------	-----------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	062801 062802
科目名	社会福祉原論
担当者名	伊藤 秀一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>社会福祉は、かつて、慈善事業、社会事業と呼ばれていたものが、今日では、社会を構成する「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日的貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。</p> <p>本講では、社会福祉の理念、概念、歴史、制度等広く概観する。また、社会福祉の基礎知識を整理するとともに、下記の到達目標についての内容と制度的改革の続く社会福祉の今日的な動向と課題についても把握する。</p> <p>本講における到達目標は下記のとおりである。①現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。②福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。③福祉政策におけるニーズと資源について理解する。④福祉政策の課題について理解する。⑤福祉政策の構成要素や関連施策について理解する。⑥相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>〔前期〕</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回：社会福祉の理念と概念 第3回：同上 第4回：同上 第5回：現代社会における社会福祉の意義と役割 第6回：同上 第7回：現代社会における福祉制度と福祉政策 第8回：同上 第9回：福祉の原理をめぐる理論と哲学 第10回：同上 第11回：福祉制度の発達条件(イギリスにおける福祉制度の発達過程) 第12回：同上 第13回：同上 第14回：福祉制度の発達条件(日本における福祉制度の発達過程) 第15回：同上 第16回：同上 第17回：福祉政策におけるニーズと資源(需要とニーズの概念) 第17回：同上(地域福祉と資源) 第18回：福祉政策の課題(貧困者の政策課題) 第19回：同上 第20回：同上(高齢者の政策課題) 第21回：同上(障害者の政策課題) 第22回：同上(児童関連の政策課題) 第23回：同上(福祉政策の国際比較) 第24回：福祉政策の構成要素 第25回：同上 第26回：福祉政策と関連政策 第27回：同上 第28回：相談援助活動と福祉政策の関係 第29回：同上 第30回：これからの社会福祉</p>
----------	---

準備学習	授業の最後に、次回の講義で取り上げるテーマ及びテキストでの該当箇所を指定するので、事前に目配りしておく。できれば疑問点や質問事項を用意されたい。
履修上の留意点	講義の内容は極めて広範囲にわたるので、指定されたテキスト以外の参考文献等を活用しながら各自学習を深めてほしい。
成績評価の方法	評価は前期及び後期に行う試験(7割)と平常点(3割)による。
教科書/テキスト	塩野敬祐・福田幸夫編著『現代社会と福祉(社会福祉士シリーズ4)』弘文堂、2011年、2500円＋税、ISBN978-4-335-61074-5
参考書	随時紹介する。
その他	ビデオ教材を活用したり、受講者による意見発表会等も行う。

履修コード	070701
科目名	社会福祉原論
担当者名	船水 浩行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>現代社会における「社会福祉」は、各国の文化、社会・経済状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるが、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の制度となってきた。</p> <p>従って、「社会福祉」という用語はとてもポピュラーなものとなっており、新聞やテレビ等のマスコミにもしばしば登場し、選挙があれば多くの候補者がその充実を公約に掲げる。</p> <p>しかし、改めて「社会福祉とは」と問いかげられたとき、上手く答えることができる人は少ないのではないだろうか。</p> <p>この授業では、こうしたことから、「社会福祉」とはなぜ人々の生活にとって不可欠な社会的な仕組みとなってきたのかを踏まえつつ、わが国社会福祉がどのように構築されてきたのかを概観し、主要ないくつかの制度を取りあげて現状と課題を考察していく（その際には、履修者の多くが「社会福祉主事」任用資格取得希望者であることを念頭におく）。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>社会福祉主事とは、現代社会における社会福祉の意義と役割（第1～2回）</p> <p>社会福祉の理念と制度の展開過程～欧米（第3～4回）</p> <p>社会福祉の理念と制度の展開過程～わが国（第5～6回）</p> <p>わが国社会福祉の戦後の枠組みの特徴と課題（第7～10回）</p> <p>社会保障構造改革、社会福祉基礎構造改革等の具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の創設と実施（第11～14回） ・社会福祉基礎構造改革と障害者自立支援法（第15～16回） <p>貧困層の拡大、地方分権の推進等と生活保護、福祉事務所（第17～24回）</p> <p>これからのわが国の社会福祉に求められるもの（第25～26回）</p> <p>今後の社会福祉主事（主に社会福祉行政）に求められるもの（第27～29回）</p> <p>定期試験（第30回）</p>
----------	---

準備学習	特に求めない。
履修上の留意点	授業で取りあげる内容は、一人一人の生活の問題でもあります。自身の問題として考察してください。
成績評価の方法	定期試験（筆記、持ち込み不可）80%、その他（出席、レポート等）20%
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	随時紹介する。

履修コード	063901 063902
科目名	社会福祉発達史
担当者名	堀 千鶴子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	我が国における、近代以降の社会事業・社会福祉の生成、発展について学ぶ。特に、社会事業・社会福祉事業に貢献した人物史の足跡をたどることから、社会福祉の歴史を理解する。
---------------------	--

授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>社会福祉の歴史と人物史</td> <td>16</td> <td>〃</td> <td>5</td> <td>野口幽香</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>慈善・救済の時代的背景</td> <td>17</td> <td>〃</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>18</td> <td>社会事業・社会福祉の時代的背景</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>19</td> <td>〃</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人物史</td> <td>20</td> <td>〃</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>21</td> <td>人物史</td> <td>6</td> <td>久布白落実</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>22</td> <td>〃</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>23</td> <td>〃</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>〃</td> <td>24</td> <td>〃</td> <td>7</td> <td>小河滋次郎</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>25</td> <td>〃</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>〃</td> <td>26</td> <td>〃</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>〃</td> <td>27</td> <td>〃</td> <td>8</td> <td>山田わか</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>人物史</td> <td>28</td> <td>〃</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>〃</td> <td>29</td> <td>〃</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>〃</td> <td>30</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	1	社会福祉の歴史と人物史	16	〃	5	野口幽香	2	慈善・救済の時代的背景	17	〃			3	〃	18	社会事業・社会福祉の時代的背景	1		4	〃	19	〃	2		5	人物史	20	〃	3		6	〃	21	人物史	6	久布白落実	7	〃	22	〃			8	〃	23	〃			9	〃	24	〃	7	小河滋次郎	10	〃	25	〃			11	〃	26	〃			12	〃	27	〃	8	山田わか	13	人物史	28	〃			14	〃	29	〃			15	〃	30	まとめ		
1	社会福祉の歴史と人物史	16	〃	5	野口幽香																																																																																						
2	慈善・救済の時代的背景	17	〃																																																																																								
3	〃	18	社会事業・社会福祉の時代的背景	1																																																																																							
4	〃	19	〃	2																																																																																							
5	人物史	20	〃	3																																																																																							
6	〃	21	人物史	6	久布白落実																																																																																						
7	〃	22	〃																																																																																								
8	〃	23	〃																																																																																								
9	〃	24	〃	7	小河滋次郎																																																																																						
10	〃	25	〃																																																																																								
11	〃	26	〃																																																																																								
12	〃	27	〃	8	山田わか																																																																																						
13	人物史	28	〃																																																																																								
14	〃	29	〃																																																																																								
15	〃	30	まとめ																																																																																								

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを準備し、指定された章について、あらかじめ目を通しておくこと。 ・文中内で、わからない項目・事象については、調べておくこと。
履修上の留意点	出席を重視する。テキスト必ず持参。
成績評価の方法	授業内レポート(10%)、授業内試験(30%)、夏期課題(20%)、学期末レポート(40%)にて総合的に評価を行う。
教科書／テキスト	室田保夫「人物で読む近代社会福祉のあゆみ」ミネルヴァ書房2800円 ISBN4-623-04519-6
参考書	授業内にて指示する。

履修コード	065001 065002
科目名	社会保障論
担当者名	長尾 譲治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本科目は、社会福祉学専攻における社会福祉士指定科目の1つであり、ソーシャルワーカーを目指す皆さんにとって必要で十分な社会保障制度に関する実践的知識を習得すること、及びソーシャルワークの現場においてその知識を生かす応用能力を身につけることを第一の目標としている。同時に、授業を通じ、少子高齢化社会における社会保障制度のあり方や、雇用・労働と社会保障の充実、男女共同参画、国民生活と福祉、国際化と各国の社会保障など、社会保障を取り巻くさまざまな問題の現状と課題について考察を深めていく。</p> <p>授業では、身近な家族の実例や、マンガ・ドラマに出てくるおなじみの登場人物とその生活場面などに当てはめながら、具体的に社会保障の内容についてイメージできるように授業を展開していく。社会保障を自分自身の問題として捉え、皆さんの今後の人生に役立てて頂きたい。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：社会保障とは（憲法第25条と社会保障、少子高齢化と日本の社会保障など）</p> <p>第2回：医療保険制度①（職業の種類ごとの医療保険の制度、保険料の支払い方）</p> <p>第3回：医療保険制度②（医療保険の給付その1）</p> <p>第4回：医療保険制度③（医療保険の給付その2）</p> <p>第5回：医療保険制度④（後期高齢者医療制度の概要、医療保険制度の今後の展望）</p> <p>第6回：年金保険制度①（年金保険制度の種類、保険料の支払い方）</p> <p>第7回：年金保険制度②（高齢者と年金）</p> <p>第8回：年金保険制度③（障害者と年金）</p> <p>第9回：年金保険制度④（遺族と年金）</p> <p>第10回：年金保険制度⑤（年金保険制度の今後の展望）</p> <p>第11回：雇用保険制度①（制度の概要と保険料の支払い方）</p> <p>第12回：雇用保険制度②（雇用保険の給付）</p> <p>第13回：労災保険制度①（制度の概要と保険料の支払い方）</p> <p>第14回：労災保険制度②（労災保険の給付）</p> <p>第15回：雇用保険・労災保険制度の今後の展望</p> <p>第16回：介護保険制度①（介護保険への加入と保険料の支払い方）</p> <p>第17回：介護保険制度②（介護保険の給付）</p> <p>第18回：介護保険制度③（介護保険制度の今後の展望）</p> <p>第19回：ライフサイクルと社会保障①就職したら（労働基準法の概要、加入する制度と税金・社会保険料の重要性）</p> <p>第20回：ライフサイクルと社会保障②女性と労働（男女雇用機会均等法とワークライフバランス）</p> <p>第21回：ライフサイクルと社会保障③結婚したら（妊娠・出産・育児とその支援）</p> <p>第22回：ライフサイクルと社会保障④子育て（少子化時代への対応を考える）</p> <p>第23回：ライフサイクルと社会保障⑤身体障害を受けたら（障害者自立支援制度の概要）</p> <p>第24回：ライフサイクルと社会保障⑥精神的不調に陥ったら（精神保健福祉制度と障害者自立支援制度）</p> <p>第25回：ライフサイクルと社会保障⑦離婚することになったら（ひとり親家庭への支援）</p> <p>第26回：ライフサイクルと社会保障⑧リストラされたら（労働経済の実情と再就職支援、生活保護制度）</p> <p>第27回：ライフサイクルと社会保障⑨親が寝たきりや認知症になったら（高齢者福祉と利用者・消費者の保護）</p> <p>第28回：ライフサイクルと社会保障⑩末期がんと告げられたら（ターミナル・ケアとQOL）</p> <p>第29回：国際化への対応と各国の社会保障制度</p> <p>第30回：社会保障制度の現状と課題</p> <p>定期試験：授業の全範囲から出題する。</p>
----------	---

準備学習	中学校の「社会」、高等学校の「公民」の教科書等で、社会保障・福祉や労働などに該当する部分を復習しておく、授業がより理解しやすくなると思われる。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学年末試験・出席状況による総合評価とする。
教科書／テキスト	特に指定しないが、必要に応じて参考書等を紹介する（授業は毎回の詳説プリントを通じて行う）。
参考書	週刊社会保障編集部編『社会保障便利事典』（法研） その他、随時紹介する。

履修コード	011911
科目名	宗教科教育法I
担当者名	小山 一乗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	いわゆる中等教育の、高等学校及び中学校の、教科「宗教」の教育職員を目指す学生が、宗教科教育及び宗教教育に関する、基礎的・基本的な知識・技能を学習するとともに、実際の宗教科の教育職員として心得ておくべき、法的思考と教育的思考、教科内容構造、教科指導計画作成方法、学習指導案作成の理論と実際、授業展開方法、授業展開技術、教材・教具の理論と活用方法を習得する。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回：いわゆる宗教教育の意義、宗教科教育の意義、及び、宗教教育の教授概念</p> <p>第2回：宗教の諸定義(「超自然性(超越性)」、「究極的関心」、「聖と俗」) 教育の定義(教育目的定義：人格一般の本質的理論的考察、時代・社会における社会的課題の考察、世界観や哲学的考察) 教育観—助成か伝達か、開発か注入か、自力か他力か 宗教は教えられるのか、否か。TellとTeach</p> <p>第3回：宗教教育・宗教科教育の法的考察 宗教教育と宗教科教育の草創と歴史的変遷、日本国憲法施行下における宗教科教育の草創 教職員免許法施行規則明示の免許教科「宗教」と学習指導要領上の位置づけ 対日米国占領政策 大日本帝国憲法73条と日本国憲法 日本国憲法立法制定と宗教教育 日本国憲法と教育基本法(昭和22年3月31日公布・施行。以下、旧教育基本法)と宗教教育 旧教育基本法と学校教育法改正変遷 教育職員免許法変遷と免許教科「宗教」設定までの経緯 教育基本法(改正：平成18年12月22日公布・施行。以下、新教育基本法)と宗教教育 新教育基本法と学校教育法(改正：平成19年6月27日公布・平成20年4月1日施行。)</p> <p>第4回：高等学校の目的(新学校教育法第50条)と中学校の目的(新学校教育法第45条) 中学校の目的と小学校の目的(新学校教育法第29条) 小学校教育の目標(新学校教育法30条)と中学校教育の目標(新学校教育法46条) 義務教育の教育目標(新学校教育法第21条) 規定一～十 高等学校教育の目標(新学校教育法51条)と中学校教育の目標 第4回：新学校教育法と学校教育法施行規則(改正：平成21年3月9日。以下、新学校教育法施行規則) 小学校の教育課程の編成(新学校教育法施行規則50条2) 中学校の教育課程編成への準用(学校教育法施行規則79条) 中学校の教育課程の編成(学校教育法施行規則第72条3) 中学校の教育課程の基準(新学校教育法74条)・・・中学校学習指導要領 高等学校の教育課程の編成(新学校教育法83条) 高等学校の教育課程の基準(新学校教育法84条)・・・高等学校学習指導要領 前回中学校学習指導要領の理解と「宗教科」の位置づけ 前回(現行)高等学校学習指導要領の理解と「宗教科」の位置づけ 改正中学校学習指導要領の理解と「宗教科」の位置づけ 改正高等学校学習指導要領の理解と「宗教科」の位置づけ 中学校及び高等学校の教員の「宗教」の教科についての普通免許状の効力 普通免許状の効力(教育職員免許法第9条)・・・「普通免許状は、(中略)すべての都道府県(中学校及び高等学校の教員の宗教の教科についての免許状)については、国立学校又は公立学校の場合を除く。次項及び第3項において同じ)において効力を有する。」について。</p> <p>第5回：私立の小学校・中学校の道徳と宗教との関係 中学校・高等学校の各学習指導要領と各学校学習指導要領解説各編から、「宗教科」指導方法案出</p> <p>第6回：平成21年度からの教育課程 平成21年度からの宗教科教育</p> <p>第7回：宗教科教育の学習指導目標と学習指導内容</p> <p>第8回：宗教科教育の学習指導方法と学習指導技術と評価・評価の観点 中学校3力年間及び高等学校3力年間の学習指導計画から年間学習指導計画案 学習指導案の作成の原理と教育観 学習指導案様式における基礎的・基本的項目、本時の学習指導展開と節目・評価の観点</p> <p>第9回：教科書及び教材研究—1(学習指導要領の各教科等と宗教の教科書、教材観)</p> <p>第10回：教科書及び教材研究—2(宗教の分類)</p> <p>第11回：教科書及び教材研究—3(キリスト教)</p> <p>第12回：教科書及び教材研究—4(イスラーム教)</p> <p>第13回：教科書及び教材研究—5(神道、そのほかの宗教)</p> <p>第14回：教科書及び教材研究—6(仏教：シッダールタ、ブッダ、仏教の流れ)</p> <p>第15回：教科書及び教材研究—7(日本仏教：聖徳太子、最澄、空海、法然、親鸞、栄西、道元、瑩山)</p> <p>第16回：模擬授業・授業分析・討議—世界の宗教</p> <p>第17回：模擬授業・授業分析・討議—イエスの教え</p> <p>第18回：模擬授業・授業分析・討議—イスラームの教え</p> <p>第19回：模擬授業・授業分析・討議—神道とアニミズム、神仏習合</p> <p>第20回：模擬授業・授業分析・討議—ブッダの苦悩</p> <p>第21回：模擬授業・授業分析・討議—ブッダの教え</p> <p>第22回：模擬授業・授業分析・討議—最澄、空海</p> <p>第23回：模擬授業・授業分析・討議—法然</p>
----------	--

- 第24回：模擬授業・授業分析・討議—道元の生い立ちと疑團
 第25回：模擬授業・授業分析・討議—道元の教えと只管打坐
 第26回：模擬授業・授業分析・討議—瑩山の生い立ちと出家修行
 第27回：模擬授業・授業分析・討議—瑩山の教えと教化救済・平常心是道
 第28回：模擬授業・授業分析・討議—「宗教に関する一般的教養」・「神仏習合事象」
 第29回：宗教科の教育実習
 第30回：宗教科の教員採用試験に向けて

準備学習	<p>(1) 教科書『仏教概論』の最新版を、必ず購入し、よく読み込んでおいてください。 諸宗教に関して、全く知識がない中学生・高校生が存在することを、念頭に置いて、人類史上に、宗教といわれる現象が生じた原初を、気づかせる手立てを、熟考しておいてください。 (2) 教祖、宗祖等の問題意識を、今の、生徒達に、わからせる、譬喩、方便等を、熟考しておいてください。 (3) 関西の落語、江戸の落語、講談等、浪曲、能、狂言等に触れてください。 間の取り方、演技の工夫、模写等を学んでください。 (4) 判断力—批判力、体験—経験、基礎—基本、目的—目標等について、類義語の異同点を考えておいてください。 (5) 脳科学の研究状況に注意しておくこと。 (6) その他(適宜指示します)</p>
履修上の留意点	<p>入学年度毎の履修上の指示に注意すること。幼小中高での、各教科・領域等及び総合的学習の時間等に連関する題材を広く深く視野に入れ、かつ、生涯学習の観点からも留意すること。</p>
成績評価の方法	<p>模擬授業及び学習指導案(細案)作成状況、出席状況、レポートなどによって、総合評価。</p>
教科書/テキスト	<p>『仏教概論 わかりやすい仏教』、曹洞宗宗務庁 現行『高等学校学習指導要領』。 改正『中学校学習指導要領』、改正『高等学校学習指導要領』。</p>
参考書	<p>『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』(大法輪閣、1,600円)、「常用漢字表」(平成22年11月30日、内閣告示第2号)その他は授業中適宜指示。</p>
その他	<p>資料整理用のA4版ファイル表紙を用意すること。詳細は授業。</p>

履修コード	012001
科目名	宗教科教育法II
担当者名	小山 一乗

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>いわゆる中等教育のなかの、「義務教育の目標」の規定をうける中学校の、教科「宗教」の教育職員を目指す学生が、宗教科教育及び宗教教育に関する、基礎的・基本的な知識・技能を学習するとともに、実際の宗教科の教育職員として心得ておくべき、法的思考と教育的思考、教科内容構造、教科指導計画作成方法、学習指導案作成の理論と実際、授業展開方法、授業展開技術、教材・教具の理論と活用方法を習得する。</p> <p>本授業は、これに先行しての履修が前提となる「宗教科教育法・宗教科教育法I」を承けて、授業を進める。学校教育法第21条に定める義務教育の目標に関して、中学校と小学校との接続 (articulation) 関係、及び、高等学校との接続関係とを、全体として俯瞰できる知識・技能を習得する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：中学校における、宗教教育の意義、宗教科教育の意義、宗教教育の教授概念 文献にみる宗教の諸定義(「超自然性(超越性)」、「究極的関心」、「聖と俗」)</p> <p>第2回：教育史における教育目的観、及び、教育名言 教育観—助成か伝達か、開発か注入か、自力か他力か</p> <p>第3回：宗教教育・宗教科教育の法的考察 宗教教育と宗教科教育の草創と歴史的変遷、日本国憲法施行下における宗教科教育の草創 教職員免許法施行規則明示の免許教科「宗教」と学習指導要領上の位置づけ 対日米国占領政策 大日本帝国憲法73条と日本国憲法 日本国憲法立法制定と宗教教育 日本国憲法と教育基本法 (昭和22年3月31日公布・施行。以下、旧教育基本法)と宗教教育 旧教育基本法と学校教育法改正変遷 教育職員免許法変遷と免許教科「宗教」設定までの経緯 教育基本法(改正：平成18年12月22日公布・施行。以下、新教育基本法)と宗教教育 新教育基本法と学校教育法(改正：平成19年6月27日公布・平成20年4月1日施行。)</p> <p>第4回：高等学校の目的(新学校教育法第50条)と中学校の目的(新学校教育法第45条) 中学校の目的と小学校の目的(新学校教育法第29条) 小学校教育の目標(新学校教育法30条)と中学校教育の目標(新学校教育法46条) 義務教育の教育目標(新学校教育法第21条) 規定一～十 高等学校教育の目標(新学校教育法51条)と中学校教育の目標</p> <p>第5回：新学校教育法と学校教育法施行規則(改正：平成21年3月9日。以下、新学校教育法施行規則) 小学校の教育課程の編成(新学校教育法施行規則50条2) 中学校の教育課程編成への準用(学校教育法施行規則79条) 中学校の教育課程の編成(学校教育法施行規則第72条3) 中学校の教育課程の基準(新学校教育法74条)・・・中学校学習指導要領 高等学校の教育課程の編成(新学校教育法83条) 高等学校の教育課程の基準(新学校教育法84条)・・・高等学校学習指導要領 前回中学校学習指導要領の理解と「宗教科」の位置づけ 前回高等学校学習指導要領の理解と「宗教科」の位置づけ 改正中学校学習指導要領の理解と「宗教科」の位置づけ 改正高等学校学習指導要領の理解と「宗教科」の位置づけ 中学校及び高等学校の教員の「宗教」の教科についての普通免許状の効力について 普通免許状の効力(教育職員免許法第9条)について 「普通免許状は、(中略)すべての都道府県(中学校及び高等学校の教員の宗教の教科についての免許状にあっては、国立学校又は公立学校の場合を除く。次項及び第3項において同じ)において効力を有する。」に関して</p> <p>第6回：私立の小学校・中学校の道徳と宗教との関係について ・義務教育の「小学校の教育課程の編成」(新学校教育法施行規則50条2)について、「私立の小学校の教育課程を編成する場合は、前項の規定にかかわらず、宗教を加えることができる。この場合においては、宗教をもって前項の道徳に代えることができる。」という規定について ・義務教育の「中学校の教育課程編成」への準用規定(学校教育法施行規則79条)により、新学校教育法施行規則50条2項は「中学校に準用する。」という規定に関して</p> <p>第7回：平成21年度からの教育課程 平成21年度からの宗教科教育 中学校学習指導要領と同学習指導要領解説各編から、「宗教科」学習指導の要領・指導方法案出</p> <p>第8回：宗教科教育の学習指導目標と学習指導内容 宗教科教育の学習指導方法と学習指導技術と評価・評価の観点 中学校3力年間及び高等学校3力年間の学習指導計画から年間学習指導計画案 学習指導案の作成の原理と教育観 学習指導案様式における基礎的・基本的項目、本時の学習指導展開と節目・評価の観点</p> <p>第9回：教科書及び教材研究—1 (学習指導要領の各教科等と宗教の教科書、教材観) Tell」と「Teach」とによる、教授概念検討</p> <p>第10回：教科書及び教材研究—1 (宗教の分類及び宗教の諸定義、他界観・来世観、宗教と世界史・日本史)</p> <p>第11回：教科書及び教材研究—2 (イエス・キリストの生涯、旧約聖書と新約聖書、</p>
----------	---

- キリスト教の行事・儀式、聖地・建築、ローマ帝国とキリスト教、十字軍の遠征、プロテスタントの誕生、フランシスコ・ザビエル、現代日本のキリスト教)
- 第12回：教科書及び教材研究—3 (ユダヤ教、アブラハムの契約、立法とタルムード、エルサレム、『ヴェニスの商人』、世界にひろがるユダヤ人)
- 第13回：教科書及び教材研究—4 (イスラーム教、ムハンマドの生涯、イスラーム教の行事・礼拝・聖地・建築、マッカ巡礼、イスラームの文化)
- 第14回：教科書及び教材研究—5 (シッダータ、ブッダ、ブッダの生涯、解脱と四法印、仏教の流れ、仏教の行事・聖地・建築、上座部仏教と大乘仏教、インド仏教、中国仏教と儒教・道教、出家、チベット仏教、三国伝来の仏教、現代の仏教)
- 第15回：教科書及び教材研究—6 (ヒンドゥー教の教義・神々、儒教の歴史・教義、道教の教義・神々)
- 第16回：教科書及び教材研究—7 (神道の歴史、古神道、アニミズム、本地垂迹説、反本地垂迹説、神仏習合、神宮寺、垂加神道、復古神道、教派神道、国家神道、神社神道、神道指令、神社の構造と様式、神道の行事)
- 第17回：教科書及び教材研究—8 (日本の仏教：飛鳥・奈良時代の仏教、最澄と空海、法然、鎌倉新仏教、室町時代の仏教、江戸時代の仏教、廃仏毀釈、明治時代の仏教、昭和20年以降の日本仏教)
- 第18回：模擬授業・授業分析・討議—(世界の宗教、分類の諸相)
- 第19回：模擬授業・授業分析・討議—(神道とアニミズム、神仏習合)
- 第20回：模擬授業・授業分析・討議—(ブッダの苦悩・教え)
- 第21回：模擬授業・授業分析・討議—(聖徳太子と17条の憲法)
- 第22回：模擬授業・授業分析・討議—(最澄、空海、唐風文化、国風文化)
- 第23回：模擬授業・授業分析・討議—(法然)
- 第24回：模擬授業・授業分析・討議—(道元の生い立ちと疑團)
- 第25回：模擬授業・授業分析・討議—(道元の教えと只管打坐)
- 第26回：模擬授業・授業分析・討議—(瑩山の生い立ちと出家修行)
- 第27回：模擬授業・授業分析・討議—(瑩山の教えと教化救済・平常心是道)
- 第28回：模擬授業・授業分析・討議—(日常用語になった仏教語、または、神仏習合事象)
- 第29回：宗教科の教育実習に向けて (質疑・討議)
- 第30回：これからの宗教科教育職員の意義について討議
教員採用試験に向けての心得

準備学習

- (1) 学校教育法第二条(義務教育の目標)を熟読し、小学校との、異同点を、注意しておくようにしてください。小・中学校を貫いたカリキュラデザインを想定することに資する。小学校のカリキュラムに通じている中学校教諭が期待されるであろう事を思量すれば、ことさらに、心がけたい。
- (2) 初等教育の、幼稚園教育要領・小学校学習指導要領を入手して、通読しておくこと。とくに、小学校の、国語、社会、理科、生活、道徳、英語等の領域で、宗教と連関する箇所を調べておきたい。中学校一年生を担当する場合、小学校課程の学習との接続を考慮しなければならないので、そのための、いわゆる教材研究とする。
- (3) 中学校の社会科での、とくに、地理的分野で取り扱われている、宗教の事項について、精通しておくこと。これは、新教育基本法第一五条関連として、念頭に置くように。四七都道府県の、宗教地理的関心を持続させること。鉄道唱歌等は興味深い。
- (4) 脳科学の研究状況に注意をすること。
- (5) 落語、講談、民謡、童歌、童謡、音楽教材等に注意し、BS放送、放送大学等での放送にも注意し、適宜、教材収集に努めること。→DVD、CD等に保存し、適宜、授業に反映させるようにしておくこと。
- (6) 宗教文化士の試験内容にも注意をしておくこと。
- (7) 新「常用漢字表」(平成二十二年一月三〇日、内閣告示第二号)に示す、二一三六文字のなかで、宗教用語、仏教用語になじみ深い字(挨、拶、刹、那、侶、畏、冥、人、他多数)について、調べておくように。

履修上の留意点

個々の宗教・宗派の独自性について、生徒たちが、客観的捕捉、主観的捕捉の両方が自在に出来るような指導が出来るかの自己点検をすること。教える題材は、各教科等の随所に既存していることに留意し、また、地域や学校の特色、生徒の興味・関心の特性、国際理解、情報、環境、福祉、健康にも留意すること。

成績評価の方法

模擬授業及び学習指導案(細案)作成状況を重視し、出席状況、中間レポートも含めて、総合評価する。

教科書/テキスト

仏教概論 わかりやすい仏教』、曹洞宗宗務庁
現行『高等学校学習指導要領』
改正『中学校学習指導要領』、改正『高等学校学習指導要領』、改正『小学校学習指導要領』

参考書

『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』(大法輪閣、1,600円)、「常用漢字表」(平成22年11月30日、内閣告示第2号)その他は授業中適宜指示、または、紹介する。

その他

資料整理用のA4版ファイル表紙を用意すること。詳細は授業。

履修コード	232901 232902
科目名	宗教学概説
担当者名	池上 良正
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	テーマは「生活のなかの宗教」とする。多くの現代人は、「宗教」を自分とは関係のない特殊な世界のように考えている。しかし、近代になって「宗教」と呼ぶようになった現象は、人間の歴史を通して、生活のあらゆる分野に深く根ざしている。この授業では、身近な生活のトピックを取り上げ、その具体的な姿を考えてみたい。
授業スケジュール	(1~3) 全体のオリエンテーション。(4~10)「祭り」とは何か。(11~15) 癒しの文化。(16~23) 慰霊と供養の文化。(24~30) 異文化の理解。 ただし、具体的なテーマについては、受講者の関心に合わせて変更もありうる。
準備学習	とくに求めないが、前回の講義についてよく復習してから講義に臨むこと。
履修上の留意点	学生参加型の授業とする。講義中は積極的な発言を求める。受講者は最低1回は発表してもらう。教職科目であることに配慮し、プレゼンテーションの方法についても工夫を求める。
成績評価の方法	課題の発表、授業への参加度、によって評価する。
教科書/テキスト	
参考書	講義中に適宜紹介する。

履修コード	233101 233102
科目名	宗教学概説
担当者名	川上 新二
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	宗教学による宗教への接近方法を理解するため、前期では、宗教学という学問の内容、および、世界の多くの人々によって受け伝えられているさまざまな宗教について学びます。後期では、人々に実践されている宗教の一例としてシャーマニズムについて学びます。
授業スケジュール	以下の内容を実際の授業日数に配分して講義します。 1. 宗教学の理解：(1)宗教学とは、(2)宗教とは、(3)宗教の分類、(4)宗教の原初形態、(5)呪術と宗教、など。 2. 世界のさまざまな宗教の理解：(1)ユダヤ教、(2)キリスト教、(3)イスラム教、(4)ヒンズー教、(5)仏教、(6)道教、など。 3. シャーマニズムの理解：(1)シャーマン、シャーマニズムとは、(2)日本のシャーマン、(3)韓国のシャーマン、(4)中国のシャーマン、など。
準備学習	講義内容の整理を目的としたレポートで成績を評価しますので、日頃から講義の内容を十分に整理し、まとめておいてください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	数回(4~6回くらいを考えています)のレポート(講義内容を課題に応じて1200字以上でまとめる。字数および提出期限厳守。氏名、題名は字数に含めない。一行20字もしくは30字もしくは40字のワープロで作成するか、手書きの場合には原稿用紙で作成のこと。レポート用紙などへの手書きのものは受理しない)で評価します。課されたレポートのすべてを提出した場合が成績評価の対象になります。レポートの課題や提出期限は授業の中で指示します。
教科書/テキスト	プリントを配布します。
参考書	水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』世界書院 脇本平也『宗教学入門』講談社学術文庫

履修コード	305101
科目名	宗教学概説
担当者名	須藤 寛人
授業概要/ 到達目標(ねらい)	宗教学的視座を養うことが本講義の目的です。多くの日本人にとって、宗教は、必ずしも明確な形を持ったものではありません。しかし、人間や文化を理解することの、すべてではないにしても、その一部は宗教を理解することによって可能となるものであると考えられます。特に、現在の世界情勢は、宗教との関わり無しには、理解しがたいものがあります。本講義では、現代の国際関係を理解するためにも、諸宗教についての知識が不可欠であると思われるので、現代につながるようなかたちで、宗教をとらえていきたいと思ひます。
授業スケジュール	(1) ガイダンス：成績評価について (2) 宗教と日本人 (3, 4) ユダヤ教：族長時代、ヘレニズム時代、ローマ時代以降 (5~8) キリスト教：イエス、初期教会、教会と王国、宗教改革から社会契約と資本主義へ (9, 10) イスラム教：ムハンマドの教え、クルアーンとイスラム法 (11~14) 仏教：釈迦の生涯、部派仏教の教え、大乘仏教の成立、大乘仏教の教え (15, 16) 儒教：孔子・孟子・朱子 (17, 18) 儒学と日本：江戸幕府と儒学、水戸学と明治維新 (19~29) 日本人と仏教：仏教以前、仏教伝来、古墳時代の終焉、御霊信仰、末法思想、僧兵、寺請制度、墓制の変遷、仏教的価値観の二元化と多様化、高度経済成長期の社会と仏教
準備学習	とくに必要ありません。
履修上の留意点	できるだけ遅刻はしないでください。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中には着信音がならないようにするか電源を切ってください。
成績評価の方法	学期末のレポート95%、出欠状況5%として評価します。
教科書/テキスト	教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。
参考書	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

履修コード	305201
科目名	宗教学概説
担当者名	須藤 寛人
授業概要/ 到達目標(ねらい)	宗教学的視座を養うことが本講義の目的です。多くの日本人にとって、宗教は、必ずしも明確な形を持ったものではありません。しかし、人間や文化を理解することの、すべてではないにしても、その一部は宗教を理解することによって可能となるものであると考えられます。特に、現在の世界情勢は、宗教との関わり無しには、理解しがたいものがあります。本講義では、現代の国際関係を理解するためにも、諸宗教についての知識が不可欠であると思われるので、現代につながるようなかたちで、宗教をとらえていきたいと思ひます。
授業スケジュール	(1) ガイダンス：成績評価について (2) 宗教と日本人 (3, 4) ユダヤ教：族長時代、ヘレニズム時代、ローマ時代以降 (5~8) キリスト教：イエス、初期教会、教会と王国、宗教改革から社会契約と資本主義へ (9, 10) イスラム教：ムハンマドの教え、クルアーンとイスラム法 (11~14) 仏教：釈迦の生涯、部派仏教の教え、大乘仏教の成立、大乘仏教の教え (15, 16) 儒教：孔子・孟子・朱子 (17, 18) 儒学と日本：江戸幕府と儒学、水戸学と明治維新 (19~29) 日本人と仏教：仏教以前、仏教伝来、古墳時代の終焉、御霊信仰、末法思想、僧兵、寺請制度、墓制の変遷、仏教的価値観の二元化と多様化、高度経済成長期の社会と仏教
準備学習	とくに必要ありません。
履修上の留意点	できるだけ遅刻はしないでください。私語は慎んでください。携帯電話・PHS等は授業中には着信音がならないようにするか電源を切ってください。
成績評価の方法	学期末のレポート95%、出欠状況5%として評価します。
教科書/テキスト	教科書は用いません。要点をまとめたプリントを配布します。
参考書	水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

履修コード	233001 233002
科目名	宗教学概説
担当者名	矢野 秀武

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 宗教学は、諸宗教の多様な歴史や特質を明らかにし、また諸宗教が共有する特質をも考察する学問である。これに即し前期は、世界の諸宗教に関する基礎知識の習得を中心とし、後期はそのような知識を用いて宗教の共通性を捉える宗教学的な見方を身につけることを中心とする。</p> <p>(到達目標) 宗教伝統や宗教的現象について、無批判に肯定するのでもなく、闇雲に批判し遠ざけるのでもない、そういった多面的な視点から宗教を理解できるようになることを、本講義の目標とする。より具体的には、諸宗教の多様性を理解すること、宗教の共通性を捉えること、また宗教は歴史・地理・政治・経済・社会・芸術など多様な分野に影響を与える現象であること、さらに宗教的な感性や思考や行動は、人間の営みの様々な領域において（無信仰と自認する人にさえ）見られるということ、これらを理解することが到達目標となる。加えて、本講義は教職科目の1つでもあるので、人前で話すこと・伝えることについて経験を積むことも目標とする。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業概要 2. 宗教学とは 3. ユダヤ教 4. キリスト教1 歴史 5. キリスト教2 思想 6. イスラーム1 概要 7. イスラーム2 中東問題 8. 原始仏教 9. 上座仏教と大乘仏教 10. 儒教と道教 11. 神道 12. 新宗教 13. 個人化する宗教 14. 個人発表準備 15. まとめ 16. 世界観 17. 聖と俗 18. 聖なる時空 19. 儀礼 20. 呪術・まじない 21. 神秘体験 22. 信仰を持つとは1 23. 信仰を持つとは2 24. カルト問題 25. 宗教と心理的發展 26. 宗教とは、宗教学とは 27. 個人発表 1 28. 個人発表 2 29. 個人発表 3 30. まとめ
----------	---

準備学習	宗教学の入門書（以下の参考書欄を参照）などを読んでおくと、本講義がより分かりやすくなる。
------	--

履修上の留意点	レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業でプリントを配布し、解説する。また、各人が課題を決めて個人発表を行う予定であるが、発表形式をどのようにするかは、登録人数の多少によって決める。
---------	---

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点（授業時のコメントシートの内容・授業への参加意欲等）20%、 ・夏休みの課題（個人発表の準備）10%、 ・後期の個人発表30%、 ・後期の定期試験期間における筆記試験40%。
---------	--

教科書／テキスト	なし
----------	----

参考書	<p>宗教学の入門書（いずれも授業時に使用するものではない）。</p> <p>石井研士 『プレステップ宗教学』 弘文堂、1890円、2010年。</p> <p>井上順孝 『フシギなくらい見えてくる！ 本当はわかる宗教学』 日本実業出版社、1575円、2011年。</p> <p>釈徹宗 『ゼロからの宗教の授業』 東京書籍、1575円、2009年。</p>
-----	---

その他	なし
-----	----

履修コード	007101 007102
科目名	宗教教育
担当者名	小山 一乘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>用語「宗教教育」の教授概念には現今、宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派信仰教育、対宗教安全教育、宗教的寛容教育の五があり、論者は、先入観的に、いずれか一の義で解釈し、他は棄却してしまっているという傾向が重大問題としてある。当事態を解説・講義する。当事態の史的背景にある宗教教育改革を企図する対日米国占領政策のねらいに、米国流の宗教教育施策があったこと、また、日本国憲法20条の規定不備や教育基本法9条の補完規定の不徹底に起因する事後の紆余曲折事態が宗教教育論を迷走させた終緯を解説し講義をする。さらに新「教育基本法」の改正点について講義をする。その上で、あらためて「宗教の定義」の諸相を概観する。関係法規は宗教の定義を他に委ねている。</p> <p>本講義は、決して、或る特定の宗教・宗派を価値ありとして判定して促進したり、または、価値なしと判定してそれを抑制したりするというそのような内容・方法を専らに考えるというように、とかくありがちないわゆる宗派信仰への導入をのみ考えるという狭義の宗教教育を構想する講義ではない。端的には自覚的寛容の態度育成の方途を構想する。種々の宗教と称されている現象事例を取り上げる。</p> <p>具体的には、身振り・音声・文字等の各教材、マルチメディア等を用いて、様々な題材を取りあげる。いわゆる神仏習合を彷彿とさせる広義の伊勢音頭、各地の民謡、歌謡曲、唱歌、教え歌、演歌、浪曲、説話、写真、古典音楽、詩、書など様々なジャンルの現象を観る。日常の實際生活の深層・表層面で、宗教的事柄が隠れたカリキュラム又は顕れたカリキュラムとして、人間形成に關与している諸相を考察する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>予定は、前期では、(1~2回)用語「宗教教育」の教授概念5類型、(3~4回)宗教的情操教育の成立をめぐる対立的2見解、(5~6回)学校教育法にみえる用語考「目的-目標」、「判断力-批判力」、「選択-決定」、(7~8回)教育観の分類:「開発-注入」「本党-始覚」、(9~10回)「宗教の様々な分類」、「宗教の定義集」、あなたの定義を考える端緒、(11回)日本国憲法・教育基本法・初期社会科学学習指導要領の相互補完関係(旧教育基本法第9条立法制定審議の推移の検証)、(12~13回)対日米国占領教育改革政策が胎した異文化理解問題の史実宗教教育と宗教科教育(教育職員免許法に規定)との差異検討(一だれでもの国語科教育と、誰でもではない国語科教育との比較からの援用論)</p> <p>後期は、(14回)命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)考、世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、(15回)比較法各国の宗教教育、(16回)これからの宗教教育の教授概念検討(不均衡是正)政策・法律論議「何を教えることができるのか」の禁止事項教授概念論議、「何を教えることができるのか」の肯定的事項、(17~18回)シェフラーの教授概念検討「意図的用法・成功的用法、行動的解釈・非-行動的解釈、事実に言明文・規範的言明文、(19~27回)宗教教育の指導計画(児童生徒の疑問態、国内外の種々の歌、種々の年中行事(節分、雛祭り、七夕など)、合格祈願、日常用語になった仏教用語(挨拶・会釈・我慢・玄閑・工夫・覚悟・油断・娑婆等)、医療現場のターミナル・ケア等、通過儀礼(入学式、卒業式、入社式、成人式、結婚式、等)等考察、(28~29回)自由討議(これからの宗教教育のあり方)、(30回)まとめ</p>
----------	---

準備学習	<p>次の事項に關連することを、各自なりに、考えておいてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)用語「宗教教育」に関して、最新版の六法全書で、日本国憲法二〇条での脈絡、旧教育基本法(昭和二年三月三十一日公布・施行)九条及び新教育基本法(平成一八年一月二二日公布・施行)一五条での脈絡のそれぞれにおいて、法的思考から、いかに、教育的思考を喚起するのか、について、可能な限り、考えておくように。 (2)宗教とは(定義)、教育とは(定義)、宗教教育とは(定義)を、考えてみてください。 (3)家庭教育、学校教育、地域社会における教育の特性を考えてみてください。 (4)童歌、童謡、歌、演歌、踊り、民謡、音頭、地域芸能、御詠歌、賛美歌、声明等に傾聴しておいてください。 (5)少子化と、祭詞相続問題・財産相続問題、少子化と寺院経営問題を考えてみてください。 (6)神社・寺院等の後継者問題(神社・寺院等における家庭教育の問題とこれからの課題) (7)人間として形が成るその種子が、先天的に潜在していると考えますか。それとも、先天的には潜在せず、後天的に、経験等によって、獲得されるものと考えますか。 (8)その他
------	--

履修上の留意点	宗教教育という用語への偏見・先入観をいったんは払拭して欲しい。教場の一時的移動指示掲示に注意すること。宗教学、宗教人類学等の関連授業科目を積極的に受講することを是非すすめたい。
---------	--

成績評価の方法	レポート(夏季休暇後及び学年末提出、その他中間で適宜にレポート提出を求める)を基本的に評価する。出席も尊重する。
---------	--

教科書/テキスト	教材は適宜プリントを配布する。
----------	-----------------

参考書	『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこがちがうか』(大法輪閣、¥1,600)
-----	---

その他	講義形式で実施する。資料整理用のA4版ファイル表紙を用意すること。詳細は授業にて。
-----	---

履修コード	075001 075002 075003
科目名	宗教人類学
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)
わが国には、イタコ、カミサマ、祈禱師、行者、ユタ、などの名で呼ばれている宗教的職能者が各地に数多く存在している。彼(彼女)らは、学術用語でシャーマン(巫者)と呼ばれるが、その特徴は、神霊と直接交流をしながら、予言、託宣、祭儀、治病行為などの役割を果たすところにある。これらのシャーマンを中心とする宗教形態は、シャーマニズムと呼ばれる。この講座では、日本及びアジアの諸地域で生起しているシャーマニズムを取り上げて考察し、宗教人類学の考え方を習得することを目指す。

(到達目標)
受講生は、シャーマニズムの中心であるシャーマンが、神霊と直接交流をする仕方は決して一様ではなく、すこぶる多様性に富んでいる状況を説明することができる。さらに、シャーマニズムの基本的構図及びシャーマニズムと諸宗教との諸関係について解説をすることができる。

授業スケジュール

- 1 はじめに
- 2 宗教人類学の成立史
- 3 宗教人類学の構成内容
- 4 フィールド・ワーク
- 5 宗教人類学的方法論的特色
- 6 シャーマニズム研究と憑きもの研究
- 7 シャーマニズム研究史
- 8 エクスタシーの文化と憑霊の文化
- 9 アニミズム
- 10 マナイズム
- 11 呪術・宗教的職能者の分類
- 12 プリーストの特質
- 13 シャーマンの特質
- 14 マジシャンの特質
- 15 前期の総括
- 16 プリースト的シャーマンとシャーマンのプリースト
- 17 シャーマンの憑霊と依頼者の憑霊
- 18 憑霊の概念
- 19 シャーマン化過程と聖性の獲得
- 20 諸儀礼と憑霊との関係
- 21 シャーマンと依頼者(信者)
- 22 都市シャーマニズムの特色
- 23 ネオ・シャーマニズム
- 24 シャーマニズムと新宗教
- 25 シャーマニズムと民俗仏教
- 26 シャーマンとプリーストとの相互補完関係
- 27 シャーマニズムと民俗仏教との互惠関係
- 28 エリートのシャーマニズムとマスのシャーマニズム
- 29 シャーマニズムから見た人間理解の可能性
- 30 総括

準備学習

授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。

履修上の留意点

出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届(形式は任意)を提出することが望ましい。

成績評価の方法

レポート(2400字~2800字)試験の成績60%、平常点40%とする。なお、追試験は実施する。

教科書/テキスト

使用しない。

参考書

授業中に適宜紹介する。

履修コード	084501
科目名	生涯学習概論I
担当者名	豊田 千代子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この授業では、ユネスコやOECDなどの国際機関や日本における生涯教育・生涯学習について、理念や思想、歴史、制度、政策、子どもやおとなの発達を支える学習といった様々な点から検討する。また、それを通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考える。 (到達目標) 生涯教育・生涯学習についての基礎的な知識を習得する。また、生涯教育・生涯学習の視点で教育のあり方を考えられるようになる。
授業スケジュール	(1) ガイダンス、生涯教育・生涯学習とは (2~4) 生涯教育・生涯学習の国際的動向 (5~8) 日本における生涯学習政策の展開 (9~11) 生涯学習と学校計画 (12~14) 生涯学習と社会教育 (15) まとめ
準備学習	日頃から、新聞や地域の広報誌などの社会教育・生涯学習に関する記事に目を通しておくこと。
履修上の留意点	資料を読んだりビデオを見た感想を話し合ったりするため、授業への主体的、積極的な参加が望まれる。
成績評価の方法	レポート70%、平常点(授業内での発表・発言等) 30%。
教科書/テキスト	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	084601
科目名	生涯学習概論II
担当者名	豊田 千代子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) この授業では、学校教育と社会教育について、それぞれ理念、思想、歴史、制度等を検討し、これらの教育における今日的課題を整理する。また、子どもや若者、おとなを対象とした学習活動を取り上げ、学習者の成長や発達につながる学習のあり方等について考察する。 (到達目標) 学校教育・社会教育についての基礎的な知識を習得し、両教育における今日的な課題を理解する。また、学習者の成長を支える学習のあり方について考えられるようになる。
授業スケジュール	(1) ガイダンス、生涯学習時代における学校教育・社会教育 (2~3) 学校教育の歴史と理念、制度の変遷 (4) 学校教育をめぐる今日的課題 (5) 子どもの成長・発達を支える学校教育実践 (6~8) 社会教育とは、社会教育の歴史、法、施設、形態・方法 (9) 社会教育をめぐる今日的課題 (10~14) 子ども、若者、おとなの成長・発達を支える社会教育実践 (15) まとめ
準備学習	日頃から、新聞などの教育(学校教育および社会教育・生涯学習)に関する記事に目を通しておくこと。
履修上の留意点	資料を読んだりビデオを見た感想を話し合ったりするため、授業への主体的、積極的な参加が望まれる。
成績評価の方法	レポート70%、平常点(授業内での発表・発言等) 30%。
教科書/テキスト	教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
参考書	適宜紹介する。

履修コード	065421 065422
科目名	障害者福祉論
担当者名	桐原 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本講義は、障害者福祉の現在に至る経過をたどりながら、障害に関する基本的な理解を基礎として、障害者の実態や生活ニーズ、権利、法律や諸制度などの事項に関する理解を深めるものである。</p> <p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の本質及び障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢について理解する ・ 障害者福祉制度の発達過程について理解する ・ 相談援助活動において必要となる障害者福祉に係る法制度について理解する ・ ノーマライゼーションの実現方法について考察する
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回：障害者福祉を学ぶこととは</p> <p>第2回：障害とは何か①（身体障害の理解）</p> <p>第3回：障害とは何か②（知的障害・発達障害の理解）</p> <p>第4回：障害者福祉の理念</p> <p>第5回：障害の概念と定義</p> <p>第6回：障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢</p> <p>第7回：障害者福祉制度の発達過程</p> <p>第8回：障害者基本法</p> <p>第9回：障害者自立支援法①（制度移行）</p> <p>第10回：障害者自立支援法②（制度解説1）</p> <p>第11回：障害者自立支援法③（制度解説2）</p> <p>第12回：障害者自立支援法④（制度解説3）</p> <p>第13回：障害者福祉関連法の概要①（身体障害者福祉法、知的障害者福祉法）</p> <p>第14回：障害者福祉関連法の概要②（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法）</p> <p>第15回：障害者福祉に関する諸知識の確認</p>
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分野論の学習になるため、1年次に「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」を履修しておく必要があり、その復習をしておくこと。 ・ 毎時の授業内容は、YeStudyでアップロードするため、その内容と教科書の該当部分を読んでおくことが望ましい。
------	--

履修上の留意点	<p>本科目は、社会福祉士法の改正により変更された科目である。平成21年度以降入学者（平成20年度以降の入学者で単位未修得者も含む）で社会福祉士受験資格取得予定者は履修しなければならない。なお、平成20年度以前の履修者で、同一名称科目「障害者福祉論（4単位科目）」をすでに履修し単位を取得した者は再履修できないが、法改正で科目内容が改正されており、本年度の社会福祉士国家試験から「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の科目で試験が実施されるため、その対策には十分注意する必要がある。</p> <p>履修者はできるだけ、「社会福祉原論」及び「社会福祉援助技術総論」の単位を取得していること。</p>
---------	--

成績評価の方法	授業内確認テスト又はレポートの提出70%、平常点30%
---------	-----------------------------

教科書／テキスト	福祉臨床シリーズ編集委員会編 日比野清、大熊信成、建部久美子責任編集、『社会福祉士シリーズ14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』、弘文堂、2,625円 ISBN978-4-335-61084-4 G3347
----------	---

参考書

その他	YeStudyを活用する。
-----	---------------

履修コード	113301
科目名	商業科教育法
担当者名	黒葛原 正展

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	高等学校商業科の教師を目指す学生が、商業教育に関する基礎的知識を学習すると共に、商業科の教師として備えておくべき指導方法・指導技術を習得する。「教育とは」「商業教育とは」から「社会における商業の役割」、「商業教育の役割」まで学習し、講義と演習により、商業教育の専門家の養成と資質の向上を図る。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 商業教育の意義 2. 商業の活動と商業教育 3. 商業教育の草創 4. 商業教育の変遷 (昭和20年まで) 5. 商業教育の変遷 (昭和20年以降) 6. 前回学習指導要領の理解 (総則) と学習指導要領の理解 (商業) 7. 教育基本法の改訂と商業教育 8. 教育三法の改定と商業教育 9. 新学習指導要領の理解 (総則) 10. 新学習指導要領の理解 (商業) 11. 中央教育審議会答申「生きる力」とは 12. 平成22年度からの教育課程 13. 平成22年度からの商業教育 14. 商業各科目の指導目標と指導内容 15. 商業各科目の指導法・指導技術と評価 16. 年間指導計画と年間授業計画 17. 学習指導案の作成について 18. 教科書研究-1 (必修科目、総合科目) 19. 教科書研究-2 (簿記・会計科目、情報科目) 20. 新学習指導要領改訂による新科目の指導目標と指導内容 21. 新しい学力観と評価 22. 模擬授業案の作成について 23. プレゼンテーションと授業 24. 模擬授業 25. 模擬授業 26. 模擬授業と評価 27. 商業教育の成果と課題 28. 商業教育の展望 29. 商業科の教育実習 30. 教員採用試験に向けて
----------	---

準備学習	新学習指導要領と教科書を毎時間用意し、次回分は、かならず予習してくる。教師になるとの心構えで、学習準備し、教材の選定、工夫を行うこと。模擬授業では、事前の準備、他の学生の授業も真剣に受け、適切な評価ができるようにする。
------	---

履修上の留意点	本講座は、商業科教師を目指す者が学ぶものである。単に単位を修得すれば良いものではなく、積極的に学習し、多くを吸収しようとする熱意が必要である。本講座では、パソコンを使用するので、履修する前にワード、パワーポイントは操作できるようにしておくこと。
---------	--

成績評価の方法	授業への参加意欲、態度、課題提出、模擬授業、授業内テストなどによって評価。定期試験、追試験はおこなわない。
---------	---

教科書/テキスト	黒葛原正展、他 共著、「教職必修 新商業科教育法(改訂版)」(実教出版)
----------	--------------------------------------

参考書	新簿記(実教出版)、ビジネス基礎(実教出版)、その他、必要に応じて紹介する。
-----	--

その他	授業は講義方式および演習方式、必要に応じてプリントを配布する。
-----	---------------------------------

履修コード	087901
科目名	情報メディアの活用
担当者名	笠川 昭治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>メディア・センターとしての機能を担う現代の学校図書館には、教員に対する情報や情報メディア活用の支援機能、情報活用能力育成のための教育を支援する機能が期待されている。このような機能・役割を果たすために、多様な情報メディアに関する知識やその運用に関する知識・技能を深めることが要求される。</p> <p>当科目では、他の司書教諭講習各科目で取り上げられる事項も補いつつ、学校や学校図書館で用いられる情報メディアのうち、とりわけ新しいメディアを中心に、教授＝学習という観点からそれらの種類と特性、実際の活用法や事例等について学ぶ。さらには、情報メディアを活用するにあたり、学校や児童生徒が留意しなければならない問題点とその対処に関する知識の習得を目指す。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報メディアとは何か 2. インターネットの活用 3. インターネットで検索する 検索エンジンの活用 4. インターネットで本の情報を検索する 5. OPACで本の情報を検索する 6. 雑誌・新聞記事の探し方 7. その他のお役立ちサイト 8. 学校で利用できる子ども向きサイト 9. ブックリストを作る (1) 日常業務とブックリスト 10. ブックリストを作る (2) ブックリストの活用 11. パスファインダーを作る パスファインダーの基本と活用 12. LibraryNAVIを作ろう (1) LibraryNAVIとは何か 13. LibraryNAVIを作ろう (2) 実習編 14. 図書館クイズ 15. 学校図書館と著作権
----------	---

準備学習	・授業の中で学校図書館で活用できるサイトを多数紹介するので、インターネットの検索方法について習熟しておくこと。
------	---

履修上の留意点

成績評価の方法 レポート (2回出題) 50%、平常点50%とする。

教科書/テキスト テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書 根本彰監修『インターネット時代の学校図書館 (司書・司書教諭のための「情報」入門)』東京電機大学出版局, 2,400円, ISBN978-4501619701

履修コード	087801
科目名	情報メディアの活用
担当者名	源 昌久

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る事を目的としている。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1) 本講義のオリエンテーション 2) 情報メディアの概念的フレーム・ワーク 3) 情報メディアの特性と選択 (1) 4) 情報メディアの特性と選択 (2) 5) 学校図書館におけるコンピュータの活用 6) 情報検索 (1) 7) 情報検索 (2) 8) 情報検索 (3) 9) 情報検索 (4) 10) 著作権の概念的フレーム・ワーク (1) 11) 著作権の概念的フレーム・ワーク (2) 12) 著作権と学校図書館 (1) 13) 著作権と学校図書館 (2) 14) 著作権と学校図書館 (3) 15) まとめ、考査
----------	---

準備学習	PCの操作は習得しておいて下さい。 授業内容に関連した新聞記事等に注目しておいて下さい。
------	---

履修上の留意点 予習・復習をしっかりと行ってほしい。

成績評価の方法 平常点および考査 (試験) の成績を併せて評価する。
学期内に2回程、小テストを実施。

教科書/テキスト 田中功 (ほか) 編著『CD-ROMで学ぶ情報検索の演習 新訂3版』(日外アソシエーツ) 2300円

参考書 講義中に指示する。

その他 必要に応じて、DVD、ビデオを活用する。

履修コード	086701
科目名	職業教育I
担当者名	久田 邦明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) これまで使用されてきた職業教育ということばでは捉えきれない、子ども・若者の社会的自立のための支援について、キャリア教育ということばを手がかりに考察する。具体的には、学校教育のキャリア教育、若者のボランティア活動、大学生の就職活動、若者の就労支援などの分野について、ケーススタディの方法によって検討していく。しめくくり、国や地方自治体の関連施策を検討して、全体のまとめとする。</p> <p>(到達目標) キャリア教育の主な分野について、その概略を理解すること。また、キャリア教育を自分に必要な課題として考えるようになること。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア教育への視点 2. 小学生とキャリア教育 3. 中学生の職場体験 4. 高校生の起業体験 5. 若者とボランティア活動 6. 若者の長期間ボランティア 7. 大学生の就職活動という問題 8. 大学生の就職活動の支援 9. 就労支援のための施設 10. ニート、フリーター、ひきこもりの支援 その1 11. ニート、フリーター、ひきこもりの支援 その2 12. 地方自治体の施策の動向 その1 13. 地方自治体の施策の動向 その2 14. 若者自立支援施策の動向 15. これからの社会と子ども・若者支援
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回のテーマとかかわる、各自の経験を思い出して、整理しておくこと。 ・ 受講生に報告を求められることがある。その場合には事前にレジュメをまとめて配布の用意をすること。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の分野のいずれかに関心をもつ受講生を前提に講義をすすめるので、各自の問題意識を明確にした上で受講すること。社会教育・生涯学習、学校教育、子ども・若者の支援、若者の自己形成、地域活動・市民活動。 ・ 少人数の場合は毎回、発言を求める。多人数の場合は毎回、感想文の提出を求める。
---------	--

成績評価の方法	レポートの評価60%と平常点40%による。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	久田邦明『生涯学習論—大人のための教育入門』現代書館 2,310円 ISBN978-4-7684-3503-8
-----	---

履修コード	086801
科目名	職業教育II
担当者名	久田 邦明

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 子ども・若者の社会的自立のための支援について考察する。そのなかでも、今日とりわけ切実に必要とされる、地域の担い手を育てるための教育の分野に焦点を当てた内容とする。具体的には、地域の青少年育成活動、障害者の支援、社会起業家などの各分野について、具体的な事例に即して検討していく。 (到達目標) 地域の担い手を育てるための教育の概略について理解すること。また、このテーマについて、各自が今後の人生を見通して、自分自身の課題として考えるようになること。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども・若者と地域社会 2. 生活共同体のなかの子ども 3. 成人儀礼と一人前 4. 地域の青少年育成活動 その1 5. 地域の青少年育成活動 その2 6. 地域の青少年育成活動 その3 7. 地域に仕事をつくる その1 8. 地域に仕事をつくる その2 9. 障害者の就労支援 その1 10. 障害者の就労支援 その2 11. 社会起業家の若者たち その1 12. 社会起業家の若者たち その2 13. 子ども・若者を育てる仕事 14. 行政施策と住民活動の課題 15. これからの地域社会
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業テーマとかかわる、各自の経験を思い出して、整理しておくこと。 ・受講生に報告を求められることがある。その場合には事前にレジュメをまとめて配布の用意をすること。
------	--

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の分野のいずれかに関心をもつ受講生を前提に講義をすすめるので、各自の問題意識を明確にした上で受講すること。社会教育・生涯学習、学校教育、子ども・若者の支援、若者の自己形成、地域活動・市民活動。 ・少人数の場合は毎回、発言を求める。多人数の場合は毎回、感想文の提出を求める。
---------	--

成績評価の方法	レポートの評価60%と平常点40%による。
---------	-----------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	久田邦明『生涯学習論—大人のための教育入門』現代書館 2,310円 ISBN978-4-7684-3503-8
-----	---

履修コード	113801
科目名	職業指導
担当者名	洪 利志生

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業指導と学校教育における進路指導についての考え方を確立する。 ・生徒が自己の生き方を自覚し、自己の能力を発揮し、職業（進路）選択を決定できるように指導方法を学習する。 <p>到達目標</p> <p>職業指導の定義、歴史を学ぶことで学校教育における進路指導の重要性、あり方を理解し、実際の現場での進路指導を把握することで、生徒自身が進路選択決定ができ、人生設計、生き方を理解し情報、知識を習得させるための指導、助言ができるよう学習する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>職業指導の意義 (1~15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業と社会 (1~5) ・職業指導の歴史 (6、7) ・職業指導と職業教育 (8、9) ・職業指導の定義 (10~12) ・職業適性について (13~15) <p>学校教育における進路指導 (16~30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の基本的な考え方 (16、17) ・進路指導における情報資料 (18) ・進路指導と学校組織 (19~22) ・進路適性について (23、24) ・進路指導の計画と評価 (25~30)
----------	---

準備学習	つねに、新聞記事等に目を通し、とくに変化のはげしい現代の職業、学校教育現場の情報を得る。授業内容に関するプリント、参考文献を学習し、教師の立場として、自分自身が、いかに生徒にたいして、進路指導を実践すべきかを模索するよう努力する。
------	---

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	出席状況・課題提出・レポート提出等で、総合的に評価する。
---------	------------------------------

教科書/テキスト	プリント配布
----------	--------

参考書	授業中に適宜紹介
-----	----------

履修コード	065701 065702
科目名	女性福祉論
担当者名	堀 千鶴子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 社会福祉学科目の一環として、看過されがちな女性の福祉ニーズや、女性たちが置かれている社会構造を理解し、社会福祉領域における女性支援の現状と課題を学ぶことから、女性福祉を考える。
---------------------	--

到達目標	(到達目標) 1 女性問題の背景に存在している性差別的な社会構造についての理解 2 婦人保護事業など女性を対象とした社会福祉施策の理科い 3 社会福祉分野をジェンダー視点から見直す力の養成
------	---

授業スケジュール	1 序 女性たちが置かれている状況について理解する 1 世界女性会議 2 // 2 3 女性福祉の視点を理解する 4 女性福祉の定義 5 対象理解 6 「女性に対する暴力」とは 1 7 // 2 8 ドメスティック・バイオレンス 1 9 // 2 10 // 3 11 // 4 12 // 5 13 婦人保護事業の歴史的展開 1 14 // 2 15 // 3 16 // 4 17 // 5 18 婦人保護事業の現状と課題 1 19 // 2 20 // 3 21 // 4 22 人身取引被害者支援 1 23 // 2 24 // 3 25 性暴力被害者支援 26 母子福祉事業 27 // 28 // 29 // 30 まとめ
----------	--

準備学習	・ 前回の授業内容を復習すること。 ・ 配布資料を整理し、テキストともに目を通すこと。
------	--

履修上の留意点	・ 出席を重視する。 ・ テキスト、配布資料を忘れず持参のこと。
---------	-------------------------------------

成績評価の方法	授業内レポート (10%)、授業内試験 (30%)、夏期課題 (20%)、期末レポート (40%) により総合的に評価を行う。
---------	---

教科書/テキスト	林千代編著『女性福祉とは何か』(ミネルヴァ書房) 2004年
----------	--------------------------------

参考書	講義内に紹介する。
-----	-----------

履修コード	023001
科目名	書道科教育法
担当者名	那須 隆吉

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講ではまず言語教育、書道教育の意義及び目標と内容について述べ、文字教育、芸術教育に当たる教師としての自覚を促したい。書写書道教育の一貫性の上に立って、書写書道教育に関するあらゆる基礎的基本的論理から始め、次第に高度なものへと学習する。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>書道教育の歴史と専門的知識及び学習指導要領について理解を深める。教材研究の方法や、指導目標と効果的な指導案の立て方、授業の実践（模擬授業）等を通して教師としての指導力を養成したい。</p> <p>授業計画</p> <p>◎文字とその成立</p> <p>第1回：言葉と文字</p> <p>第2回：漢字の歴史</p> <p>第3回：仮名の歴史</p> <p>第4回：字休、書休、書風について</p> <p>◎国語科における文字書写指導</p> <p>第5回：書写書道教育の意義</p> <p>第6回：文字指導の内容</p> <p>第7回：書写書道教育の構造</p> <p>第8回：書写書道教育の変遷 1. 書写教育</p> <p>第9回：書写書道教育の変遷 2. 書道教育</p> <p>◎書写書道指導の方法</p> <p>第10回：年間指導計画と授業計画の立て方</p> <p>第11回：年間指導過程について</p> <p>第12回：学習指導案の作成</p> <p>1. 漢字仮名交じりの書、楷書、行書、草書</p> <p>第13回：学習指導案の作成</p> <p>2. 仮名、篆書、隷書、篆刻</p> <p>第14回：示範・板書・批正の意義と方法</p> <p>第15回：教育機器の活用</p> <p>第16回：評価と作品処理の方法</p> <p>◎書写指導の基本</p> <p>第17回：姿勢・執筆法について</p> <p>第18回：用具用材とその取り扱い方</p> <p>第19回：用筆法・運筆法</p> <p>第20回：字形指導の方法</p> <p>第21回：筆順指導の意義と方法</p> <p>第22回：点画の省略・連続性</p> <p>◎芸術科書道の内容</p> <p>第23回：学習指導要領について</p> <p>第24回：芸術科書道各科目の目標と内容</p> <p>◎書写、書道の実践</p> <p>第25回：書の諸形式</p> <p>第26回：五書体を古典によって理解する</p> <p>第27回：臨書・創作について</p> <p>第28回：教職の実践に向けて1. 模擬授業</p> <p>第29回：教職の実践に向けて2. 模擬授業</p> <p>第30回：教育実習に向けて</p>
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	
成績評価の方法	授業への参加意欲、出席、課題提出、模擬授業、授業内テスト等により総合的に評価する。
教科書／テキスト	『大学書写書道教育』（第一法規出版）
参考書	『高等学校学習指導要領解説 芸術編』（教育芸術社）

履修コード	036901 036902 036903
科目名	人文地理学概説 人文地理学概論
担当者名	中村 剛

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 本講義では、広義の人文地理学について、理論やモデル、研究事例を用いて概説する。また「人文地理学」さらには「地理学」が、我々の実生活と深い関わりがあることを強く意識した講義としたい。
---------------------	--

	(到達目標) 本講義は、「教職教科」及び「歴史学科選択科目」として開講されている。「教職教科」として受講する学生には、将来、地理(的分野)を教える者として、人文地理学をどう考え、どう捉えるか、その方法論について学び、習得することを目標としたい。また「歴史学科選択科目」として受講する学生には、地理と歴史が縦糸と横糸に例えられるという観点において、本講義で学ぶ人文地理学とこれまでに自身が学んだ(学んできた)歴史学とを相互関連させ、知的深化を図ることを目標としたい。
--	---

授業スケジュール	1-2: 人文地理学とは? (イントロ, 自然地理学・地誌学との関係) 3-4: 地図 (地理学と地図, 地図の歴史, 地図の利用と今日的課題) 5-6: 地理教育と教養地理 (中学・高校における地理教育・地図教育, 地理的知識の効用) 7-8: 自然 (気候景観, 人文地理学と「自然」との関わり) 9-10: 農業 (農業立地論, 農業地域区分, 文化としての農業) 11-12: 鉱工業 (鉱業分布, 工業立地と工業地域) 13-14: 貿易 (食料・鉱産資源の輸出入, フェアトレード, 南北貿易) 15: これまでの講義の小括 16-17: 農村 (都市を支える農村, 過疎化, 高齢化) 18-19: 都市 (都市とは何か, 都市化, 都市構造) 20-21: 都市計画と土地利用 (都市計画は何をしてきたか, 都市計画法制度とその問題) 22-23: ツーリズム (ツーリズムの歴史, マスツーリズムとオルタナティブツーリズム) 24-25: 交通 (縮小する世界, 時間距離) 26-27: 文化・国際理解 (地理学と文化, 南北問題, 国際理解教育) 28-29: 環境問題と災害 (地球温暖化と環境問題, 自然災害と地域社会, 成長と破壊) 30: これまでの講義の総括及び1年間の総括 詳細については、第1回目の講義で説明する。
----------	---

準備学習	本講義の内容を理解する上で重要なことは、広く社会に興味・関心をもち、「なぜ?」「どうして?」と常日頃から考えることである。さらに講義内容を深めるためには、授業で紹介する関連書籍を読み進めるとよいであろう。予習より復習を重視したい。また、上記到達目標を実現するためには、なにより積極的に講義に“参加する”ことが重要である。その一環として授業中、いくつかの課題に取り組んで頂く。この課題は、平常点の一部として評価の対象となる。
------	---

履修上の留意点	本講義に強い興味・関心を持ち、自らが積極的に学ぶ姿勢をもった学生の受講を希望する。遅刻や途中退室、授業中の携帯電話やPCの利用は認めない。詳細は第1回目の講義で説明する。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績59%、平常点41%とする。試験の結果はもちろんであるが、学ぶ・取り組む姿勢としての「平常点」を特に重視したい。詳細は、第1回目の講義で説明する。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用しない。参考図書(文献)はその都度提示する。なお、「学校地図帳」を用意することが望ましい。
----------	---

参考書	高橋伸夫ほか 編(2005)『現代地理学入門—身近な地域から世界まで』古今書院, 1,890円 ISBN: 9784772230490 上野和彦ほか 編著(2007):『地理学概論』朝倉書店, 3,465円 ISBN: 9784254168167 高橋伸夫ほか 編(2008):『改訂新版 ジオグラフィー入門』古今書院, 2,625円 ISBN: 978-4-7722-3118-3 竹中克行ほか 編著(2009):『人文地理学』ミネルヴァ書房, 3,150円 ISBN: 9784623055395 これ以外にも、各講義ごとに受講生諸君が手に取りやすいものをより多く紹介する。
-----	---

その他	授業はパワーポイントを利用して進める。また、YeStudyを利用して教材の提示を行うので、登録することを推奨する。詳細は、第1回目の講義で説明する。
-----	--

履修コード	037001 037002 037003
科目名	人文地理学概説 人文地理学概論
担当者名	中村 剛

授業概要/ 到達目標(ねらい)	(授業概要) 本講義では、広義の人文地理学について、理論やモデル、研究事例を用いて概説する。また「人文地理学」さらには「地理学」が、我々の実生活と深い関わりがあることを強く意識した講義としたい。
--------------------	--

(到達目標)
本講義は、「教職教科」及び「歴史学科選択科目」として開講されている。「教職教科」として受講する学生には、将来、地理(的分野)を教える者として、人文地理学をどう考え、どう捉えるか、その方法論について学び、習得することを目標としたい。また「歴史学科選択科目」として受講する学生には、地理と歴史が縦系と横系に例えられるという観点において、本講義で学ぶ人文地理学とこれまでに自身が学んだ(学んできた)歴史学とを相互関連させ、知的深化を図ることを目標としたい。

授業スケジュール	1-2: 人文地理学とは?(イントロ、自然地理学・地誌学との関係) 3-4: 地図(地理学と地図、地図の歴史、地図の利用と今日的課題) 5-6: 地理教育と教養地理(中学・高校における地理教育・地図教育、地理的知識の効用) 7-8: 自然(気候景観、人文地理学と「自然」との関わり) 9-10: 農業(農業立地論、農業地域区分、文化としての農業) 11-12: 鉱工業(鉱業分布、工業立地と工業地域) 13-14: 貿易(食料・鉱産資源の輸出入、フェアトレード、南北貿易) 15: これまでの講義の小括 16-17: 農村(都市を支える農村、過疎化、高齢化) 18-19: 都市(都市とは何か、都市化、都市構造) 20-21: 都市計画と土地利用(都市計画は何をしてきたか、都市計画法制度とその問題) 22-23: ツーリズム(ツーリズムの歴史、マスツーリズムとオルタナティブツーリズム) 24-25: 交通(縮小する世界、時間距離) 26-27: 文化・国際理解(地理学と文化、南北問題、国際理解教育) 28-29: 環境問題と災害(地球温暖化と環境問題、自然災害と地域社会、成長と破壊) 30: これまでの講義の総括及び1年間の総括 詳細については、第1回目の講義で説明する。
----------	--

準備学習	本講義の内容を理解する上で重要なことは、広く社会に興味・関心を持ち、「なぜ?」「どうして?」と常日頃から考えることである。さらに講義内容を深めるためには、授業で紹介する関連書籍を読み進めるとよいであろう。予習より復習を重視したい。また、上記到達目標を実現するためには、なにより積極的に講義に“参加する”ことが重要である。その一環として授業中、いくつかの課題に取り組んで頂く。この課題は、平常点の一部として評価の対象となる。
------	---

履修上の留意点	本講義に強い興味・関心を持ち、自らが積極的に学ぶ姿勢をもった学生の受講を希望する。遅刻や途中退室、授業中の携帯電話やPCの利用は認めない。詳細は第1回目の講義で説明する。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績59%、平常点41%とする。試験の結果はもちろんであるが、学ぶ・取り組む姿勢としての「平常点」を特に重視したい。詳細は、第1回目の講義で説明する。
---------	--

教科書/テキスト	特に使用しない。参考図書(文献)はその都度提示する。なお、「学校地図帳」を用意することが望ましい。
----------	---

参考書	高橋伸夫ほか 編(2005)『現代地理学入門—身近な地域から世界まで』古今書院。1,890円 ISBN: 9784772230490 上野和彦ほか 編著(2007): 『地理学概論』朝倉書店。3,465円 ISBN: 9784254168167 高橋伸夫ほか 編(2008): 『改訂新版 ジオグラフィー入門』古今書院。2,625円 ISBN: 978-4-7722-3118-3 竹中克行ほか 編著(2009): 『人文地理学』ミネルヴァ書房。3,150円 ISBN: 9784623055395 これ以外にも、各講義ごとに受講生諸君が手に取りやすいものをより多く紹介する。
-----	--

その他	授業はパワーポイントを利用して進める。また、YeStudyを利用して教材の提示を行うので、登録することを推奨する。詳細は、第1回目の講義で説明する。
-----	--

履修コード	304401
科目名	人文地理学概説
担当者名	渡邊 盾夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講座は、教職科目である。受講者の皆さんが、教壇に立つ前に人文地理が何であるかを、自分自身で理解できるようにしておくことを目標として講義する。 この分野には、人文地理の取り組み方、農業、工業、人口、などさまざまな分野があるが、それぞれを説明し理解ができるようにすることを目標とする。
授業スケジュール	前期に人文地理の考え方、研究方法、地域調査方法そして具体的項目として農業（農業人口の変化、農業問題など）、後期に人口（人口構成、日本の人口問題など）工業（日本の工業地域の形成など）を具体的な例を上げ、それぞれプリントを配布しながら講義をする。 講義を欠席した者は、講義で配布したプリントがあるときは、後日必ずプリントを取りに来ること。
準備学習	具体的なものとして農業では、日本は食糧自給率が先進諸国の中で非常に低い、人口では日本は少子化、世界では人口増加、宗教ではイスラム世界ではテロが横行しているなど、これらの理由は何であるのかを受講生がネットや新聞などを読み、考えるようにすることである。
履修上の留意点	人文地理をはじめ地理は、それぞれの地域にみられる人間活動を比較する学問である。農業問題や人口問題は、日本だけでなく、世界各地域に見られるものである。それぞれの問題が起こっている地域を地図帳で確認し、その地域の気候や地形などと民族や宗教もあわせて関心をもつことである。
成績評価の方法	年度末に定期試験（80%）を実施します。これに出席の様子（20%）を加えて評価する。特に出席は総実施数の2/3を必須とする。この割合を下回る場合は採点の対象にはなりません。 答案は、自分が記した内容が読む相手（生徒）に理解できる様にして書いておくことが大切である。
教科書／テキスト	教科書・参考書については、特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布する。受講生は、講義中こちらから、簡単な文章を言うので学生諸君はそれをノートにとり、それを説明しながらすすむ。また、配布プリントの中に各自で必要のことから加えること。
参考書	浮田典良：人文地理学総論（朝倉書店）

履修コード	066521 066522
科目名	心理学（福祉）
担当者名	高橋 良博
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義のねらいとして以下の項目を目標としている。 1. 心理学の基本概念をふまえ、人間理解のための基本的知識の理解と習得、および日常生活と心の健康についての理解。 2. 乳幼児期・児童期・青年期・壮年期・高齢期など人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴についての理解。 3. 援助を要する人々とかかわって行くための心理的援助技術の概要の理解と習得をはかり、援助者としての資質を高めるための自己理解をもとめる。
授業スケジュール	1. 講義についてのオリエンテーション 2. 心理学の定義・心理学の領域・心理学研究法 3. 欲求・動機づけ 4. 感情・情動 5. 感覚・知覚・認知 6. 学習・記憶・思考 7. 知能・創造性 8. 人格 9. 適応と不適応 10. 発達段階と障害発達 11. 発達課題と高齢期 12. 発達の障害と発達援助 13. 心理的援助技術の概要 (1) 14. 心理的援助技術の概要 (2) 15. 心理的援助とは・まとめ (上記の講義スケジュールは、受講学生の理解度などを確認しながら、若干の調整を行う場合もある。)
準備学習	心理学概論に出てくるような基本的専門用語の理解を前提とする。とくに学習した章の重要語句（テキストで青字表示）については良く調べ理解しておくこと。
履修上の留意点	履修者は、講義中は私語をつつし静粛を保つこと。講義中、私語などの迷惑行為が目立つ場合、教場外への退出をもとめることもある。講義中、教室での携帯電話、パソコン、オーディオ・プレイヤーを使用する者は欠席扱いとする。事前の申し出や特別の許可がない限り、講義終了間際に教室に入室するもの、出席票配布時に席を離れているものは、出席と見なされない。
成績評価の方法	筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への参加状況）などを得点化して総合的に評価を行う。評価される講義への出席回数は全講義回数3分の2以上を前提とする（ただし、福祉実習等の公欠期間は届出により出席と同等のものとして扱う）。
教科書／テキスト	1) 社会福祉士養成講座編集委員会編 2) 新・社会福祉士養成講座2『心理学理論と心理学的支援—心理学』3) 中央法 4) ￥2,200 (税別) 5) ISBN978-4-8058-3102-1 C3036
参考書	講義中、適宜指示する。

履修コード	324301 324302
科目名	政治学原論
担当者名	大塚 桂

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>I 自己紹介 私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが、政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。</p> <p>II 講義の目的 政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門科目を研究する上で必要な知識を提供することです。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>III 講義のすすめかた 現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。</p> <p>IV 講義の内容 おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。 A 政治学の課題と対象、および方法(1) B 政治の原理的究明 (1) 政治的なるもの ～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従 (2) 共同体的なるもの ～国家、社会、主権、法 (3) イデオロギー的なるもの ～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2～15) C 政治の思想(史)的究明(16～18) D 政治の実体論的究明 (1) 制度論的究明 ～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制 (2) 機能論的究明 ～政党、圧力団体(19～30)</p>
----------	--

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	<p>試験による単位認定 中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。なお試験は通常の授業時間を利用して実施します。欠試者に対しては、レポートを課します。 ※追試験は実施しません。</p>
---------	--

教科書/テキスト	<p>大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂)3,000円 大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社)2,900円</p>
----------	---

参考書	上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。
-----	--------------------------

履修コード	134801
科目名	政治学原論
担当者名	真下 英二

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この講義は教職科目として、政治学の基礎的なことがらについて学んでいく。そもそも政治とは何か、何のために存在しているのか？政治学の基本的な知識を身につけることにより、社会における政治の役割とわれわれの生活との関わり合いについて考察していく。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期：政治学の基本的な概念を中心に検討していく。特に、民主主義に関する問題は、時間をかけて行っていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 政治の本質について考える (2～3) 権力とは何か (4～5) 近代国家と現代国家 (6) 政治思想とイデオロギー (7) 「自由」の持つ意味 (8～9) 民主主義について考える (10～11) 近代政治の基本原理 (12) 議院内閣制と大統領制 (13) 各国の政治制度 (14～15) 現代国家と官僚制
----------	---

後期：より現代的な問題を取り上げながら、現代社会の民主主義の問題について検討を行う。特に、政治システムと政治参加について、より詳細に検討していく予定である。

- (16) 現代政治と政党システム
- (17) 圧力団体
- (18) 現代の政治過程
- (19) 選挙
- (20) 投票行動と政治意識
- (21) 現代の大衆社会
- (22) 政治的コミュニケーション
- (23～24) 現代社会における住民運動と政治参加
- (25～27) 日本の政治
- (28) 国際政治
- (29～30) 政治学の理論

準備学習	普段から、新聞や雑誌などに目を通し、時事問題に対する関心を持つことを期待したい。
履修上の留意点	この講義では、政治学や社会科学に関する専門的知識は特に要しないが、最低限、社会的な諸問題についての最低限の知識を持っていることが期待される。
成績評価の方法	成績評価は、原則的に期末試験の得点のみによって行う。詳細については、講義中に指示する。
教科書／テキスト	特に指定しない
参考書	加藤秀治郎『政治学 第2版』（芦書房）2006年 加藤秀治郎・中村昭雄『新版スタンダード政治学』（芦書房）1999年 他は追って指示する。

履修コード	134701
科目名	政治学原論
担当者名	山崎 望

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>【授業概要】現代社会が直面している様々な問題について、政治がどのように対応することができるのか、について講義します。</p> <p>【到達目標】上記で学んだ事柄を活用して、持続可能な社会の在り方をいかに次世代に教育できるか、について各自学ぶことが目標です。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 現代世界の変容</p> <p>第2回 政治と権力</p> <p>第3回 教育と権力</p> <p>第4回 フェミニズム 1 (男女の平等)</p> <p>第5回 フェミニズム 2 (家族の変容)</p> <p>第6回 格差社会論</p> <p>第7回 教育と格差</p> <p>第8回 世界経済危機 (リーマンショック)</p> <p>第9回 世界経済危機 (欧州経済危機)</p> <p>第10回 グローバル化する経済</p> <p>第11回 自由主義 (福祉国家の変容)</p> <p>第12回 マルクス主義の再検討</p> <p>第13回 国民国家</p> <p>第14回 ナショナリズムと愛国心</p> <p>第15回 理解度の確認 1</p> <p>第16回 多文化主義と教育</p> <p>第17回 移民・難民をめぐって</p> <p>第18回 グローバル化する政治 (グローバル・ガバナンス)</p> <p>第19回 「9・11」対米同時多発テロ以後のアメリカ</p> <p>第20回 「イスラーム原理主義」の思想</p> <p>第21回 人道的介入論</p> <p>第22回 「アラブの春」 1</p> <p>第23回 「アラブの春」 2</p> <p>第24回 インターネット革命</p> <p>第25回 インターネットと教育</p> <p>第26回 自由民主主義の揺らぎ</p> <p>第27回 市民社会と教育</p> <p>第28回 新しい民主主義論</p> <p>第29回 国境を越える民主主義論</p> <p>第30回 理解度の確認 2</p>
----------	--

準備学習	<p>講義と並行する形で、新聞を必ず読むようにしてください。</p> <p>新聞は図書館に完備してあるので、基礎知識を得るためにも、新聞を毎日読む習慣を身につけてください。</p> <p>加えて、インターネットなどで情報を集め、問題意識をもって出席してください。</p> <p>余裕があれば、講義に関連する本などを、新書レベルから読むように努力してください。</p>
------	---

履修上の留意点	現代社会の変動を念頭に講義を行うので、日頃から新聞や雑誌を読む習慣を身につける事をお勧めします。
---------	--

成績評価の方法	成績評価の方法 試験 70% 平常点 30%
---------	---------------------------

教科書/テキスト	加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦1998『現代政治学』有斐閣アルマ ISBN4 - 641 - 12168
----------	--

参考書	特になし。
-----	-------

その他	<p>講義形式。講義時に簡易なレジュメを配布する予定。</p> <p>講義の後半10分にレスポンスカードを配るので、質問や感想を書いて下さい。</p> <p>翌週の講義の冒頭に簡単な応答を行います。</p>
-----	---

履修コード	006701 006702
科目名	青少年指導演習
担当者名	渡邊 浩司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 青少年とは概ね小学生から比較的若い成人まで(7、8歳から30歳前後)を指す。この時期は人の心理社会的発達上最も重要な期間であると言える。この授業では青少年への理解とその指導の実際について、おもに心理学的見地から理論と方法そして実践を学ぶ。</p> <p>(到達目標) この授業のねらいはコミュニケーションスキルの習得、向上にある。指導という行為はコミュニケーションの一形態である。効果的な指導を行うために必要とされるのはコミュニケーションスキルとなる。さらにスキルの習得、向上に不可欠なのが対人理解である。対する相手の状況状態を正しく理解することが良好なコミュニケーションへとつながる。 すなわち、理解を伴った技術の習得が到達目標となる。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>下記の内容それぞれについて2~3回かけて授業を行う。原則記載順に進めるが状況に応じて変更もある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 体験的学習の意義について 2. 対人援助・指導の実際について 3. 発達論から見た青少年期について 4. 人を理解することについて 5. 人とかかわることについて 6. 「ことば」の持つ力について 7. 話の聴き方と伝え方について 8. 個々人の特異性と一般性について 9. 事例研究 10. まとめ
----------	--

準備学習	参考図書あるいは他書を利用してライフサイクル論の概略について触れておくこと。毎回授業の最後に次回授業の予定をお知らせするので予習をしておくこと。
履修上の留意点	演習科目なので実習を含んだinteractiveな授業となる。遅刻や欠席のないよう心掛けること。主体的な参加態度を望む。
成績評価の方法	平常点40%、レポート60%(年2回30%づつ)とする。
教科書/テキスト	適宜指示します。
参考書	馬場礼子、永井徹 共著『ライフサイクルの臨床心理学』、培風館、2310円、ISBN-13: 978-4563056100

相川充著、『人づきあいの技術—ソーシャルスキルの心理学(セレクション社会心理学)』、サイエンス社、1890円、ISBN-13: 978-4781912332

履修コード	086101
科目名	青少年文化
担当者名	古関 すま子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>演劇や舞踊の持つ意味とはなんだろう。 いじめ、引きこもり、自殺など現代の青少年の事件が起こるたびに、コミュニケーションのなさ、孤独の問題などが指摘される。体を動かしお腹から声を出して、心と体の扉を開き深い感情を表現した時、自分は、人はどう変わるのだろうか。</p> <p>講義では古来、抑圧された集合的無意識の開放の場、祭、儀式として発展してきた演劇・舞踊の姿を学び、シェークスピア、歌舞伎、現代舞踊など古今東西の舞台芸術への知見を広げ、またその現代的意味を考える。講義は理論と実践の両面で進めます。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>通年の講義で</p> <ul style="list-style-type: none"> ●シェークスピア、歌舞伎などの演劇、舞踊を学ぶ。戯曲を読みセリフの心理的、歴史的意味を理解する。その一部の体験上演を行う。 ●ビデオ鑑賞を行い鑑賞眼を養う。 ●身体の感覚や表現力を高めるための、腹式呼吸・発声法・体を使った感情表現、ダンスの初歩などのレッスンを体験する。 <p>これらと平行して</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 心理学や脳科学の基礎に触れ、意識と無意識の仕組み、心と体の関係などについて学ぶ。 2) 「集合的無意識のカタルシス」という演劇・舞踊の起源について学ぶ 3) 現代の社会、教育と演劇・舞踊の関係について考察を深める。 <p>という作業を資料を用い、小レポートを書いてもらいながら進めます。</p>
----------	--

準備学習	特に無いが心理学の「意識と無意識」について調べておくことが望ましい。
履修上の留意点	動ける服装で。積極的に楽しんでください。
成績評価の方法	出席日数。授業中の発表・レポート・実技の三つの総合点。
教科書/テキスト	『マクベス』(シェークスピア著、福田恒存訳、新潮文庫)
参考書	授業中に指示するが多くはプリント。

履修コード	006601 006602
科目名	青少年問題研究
担当者名	讃岐 真佐子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 「青少年」つまり児童期から青年期(小学生～20代前半頃)に生じ得る諸問題について、実際の事例や講師の約20年余にわたる臨床心理士としての経験を基に、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ。 (到達目標) この時期の青少年に起こり得る諸問題を、発達や事例に則して生き生きと学ぶことを通し、具体的に理解する力を培うことを目標とする。現代は不適応状態や問題が長引く傾向にあり、またその質的側面も、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型へ、さらに言語で訴えるよりも身体症状として現す等、様々な変化が見られるように思う。このような諸変化の中、この授業では不登校、いじめ、非行、ひきこもり等々のテーマを取り上げ、複数の観点からこれらを詳細に学んでいく。また適宜視聴覚教材も用いて、現代の青少年を取り巻く家族や社会への理解も深めたいと思う。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> (1) 導入 : この一年間の講義の進め方、「問題」の二面性について (2) 現代の青少年が抱える「諸問題」の特徴について (3～5) カウンセリングの定義、及び「ことばの多義性」を巡って (6) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その①(孤立する高齢者を巡って) (7) 「不登校」の名称に関する歴史の変遷 (8～9) 「不登校」の事例 (10～11) 児童期から青年期の心理に関する講義 一特にいわゆる「いじめ」を中心として (12～13) 「いじめ」の事例 (14) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その②(家族間の「虐待」をめぐって) (15) 前期のまとめ、「夏休みレポート」について (16) 戦後日本における非行の歴史の変遷について (17) 非行における、いわゆる“切れる”ことを巡って(論文購読) (18～19) 「ひきこもり」について、ビデオ教材視聴も交えて学ぶ (20～21) 青少年期における、自身の心と身体への様々な違和感としての「対人恐怖」や「摂食障害」について事例を基に学ぶ (22) 青少年を取り巻く家族、社会を理解するためのビデオ教材視聴—その③ (23～26) 思春期以降に起こりうる様々な心の危機、その対応について(視聴覚的素材も用いる) (27～29) 思春期以前に起こりうる様々な心の危機(「発達障がい」も含む)、その対応について(視聴覚的素材も用いる) (30) 全体のまとめ、定期試験について <ul style="list-style-type: none"> ・ただし上記内容は、その時の授業の流れや重点の置き方によって臨機応変に若干変更や前後することもあり得る。
----------	---

準備学習	準備学習は特に必要ないが、下記の「履修上の留意点」でも記したように、毎回授業の最後には、その日の感想や質問などを書いて提出してもらう。これは次回授業への大切な“橋渡し”となる作業であり、“おさなりの”感想や白紙提出は、当授業参加への意欲なしとみなす。
------	---

履修上の留意点	授業は講義中心となるだろうが、その日の内容への感想や質問を毎回書いて提出してもらう。そして必ず次回授業の最初に、前回の感想等で受講生全員で共有したい内容や、講師の心に残ったものを読み上げ(氏名は読まず、匿名性を保持する)、また質問などに適宜答えていきたいと思う。この毎回の作業を通して、受講生同士のフィード・バックも(間接的ではあるが)自ずと進んでいくように思う。また授業態度や毎回の感想・質問などの平常点も重視する。
---------	---

成績評価の方法	定期試験の成績60%、夏休みレポート10%、平常点30% また定期試験において、この授業で学んだ内容をほとんど記さず、ネットで調べたような内容をただ単に暗記、記述したような場合は(毎年、複数の者が全く同じ文章を記述)、大幅な減点もしくはその箇所を評価対象外とする。
---------	---

教科書/テキスト	必要な資料は適宜配布する
----------	--------------

参考書	岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』岩波書店 現代文庫、840円 河合隼雄著『カウンセリングを語る(上下)』講談社+α文庫、890円 河合隼雄著『大人になることのむずかしさ』岩波書店、1785円 河合隼雄著『日本人の心のゆくえ』岩波書店、1700円 小川捷之・村山正治編『学校の心理臨床』心理臨床の実際2 金子書店、4200円
-----	--

履修コード	086401
科目名	成人学習論
担当者名	荒井 隆

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	生涯学習時代といわれる今日、私たちは成人学習の具体的な姿を身近に見られるようになりました。しかし、大学生の立場からは成人学習の実感は必ずしも十分にもてないのではないかと思います。講義では大人が学習する意義をはじめ成人学習の理論的な面と具体的な成人学習の実態にふれ、皆さんが実感を伴って成人学習を理解できるようサポートします。特に具体的な成人学習の実態編では、自分史、家庭教育論、識字という分野に焦点を当て、私の教育実践をふんだんに交えて臨場感ある成人学習の実際に触れていきます。
---------------------	---

授業スケジュール	第1～5回：子どもの学習と比較した成人の学習、成人学習の様々な姿、第6～15回：成人学習の諸形態（学習の提供主体—行政・大学等公開講座・民間事業者・市民団体・企業内教育、成人学習の奨励策—教育訓練給付・教育有給休暇・パウチャール制度）、第16～20回：成人の学習事例（1）～自分史、第21～24回：成人の学習事例（2）～家庭教育論の系譜、第25～29回：成人の学習事例（3）～文字を獲得する学習＝識字、第30回：成人の学習のあり方
----------	---

準備学習	本授業は、成人学習の理論を深めるとともに、受講生の皆さんが大人が学ぶ姿に触れることを目指しています。したがって、授業期間中は、ホームページの閲覧も良いですが、それだけでなく公民館の事業参加や見学等により、できるだけ仲間を誘って成人学習の実際に触れる機会を自分たちで作っていただければ、授業の効果は大きくなると思います。
------	---

履修上の留意点	実践に基づく授業です。本からの理解と若干異なり、成人学習の現実から学ぶ方法を重視します。そこで夏休みに研究課題を出します。受講生は自らの関心に沿って成人学習の実際を調べ、後期開始日にその成果を発表する機会を作ります。学校教育とは趣きの異なる大人の学習の世界を知ることは、自らの生涯学習を考える糸口ともなり、今後の人生にも役立ちます。少人数の授業の利点を生かし、プレゼンテーションや対話を取り入れるなどの工夫をします。コミュニケーション能力の向上が期待できます。受け身にならず、自分から積極的に準備学習をしたり授業で発言するなどにより、期待以上の手応えを感じる授業となります。
---------	---

成績評価の方法	授業内試験、通年レポート、出席と授業態度（各3割）、夏季課題（1割）をもとに総合的に評価します。
---------	--

教科書／テキスト	「未定」
----------	------

参考書	講義に関連する参考書を随時紹介します。
-----	---------------------

その他	卒業後に生きて働く力を身につけることを目指します。
-----	---------------------------

履修コード	079401
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	遠藤 司

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	生徒指導、ならびに進路指導の名のもとに、現在の学校で様々な教育的営みが行われている。生徒の成長を支える重要な関わりであるこれらの指導について、将来教職に就くことを目指している人間として、その意味を改めて問い直し、無意識のうちに既にもっているであろう自らの生徒指導観、および進路指導観をとらえ直した上で、より豊かに深めていくことがこの授業の目的である。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス1：生徒指導観を考えるための視点（その1） ガイダンス2：生徒指導観を考えるための視点（その2） 生徒指導の理論について学ぶ：概観 生徒指導の理論について学ぶ：生徒指導の方法について 生徒指導の理論について学ぶ：生徒理解について 生徒指導の理論について学ぶ：まとめ 問題行動について考える：概観 問題行動について考える：いじめについて 問題行動について考える：不登校について 問題行動について考える：まとめ 進路指導について考える：概観 進路指導について考える：進路指導の方法について 進路指導について考える：青年期について 進路指導について考える：まとめ 全体のまとめ
----------	--

準備学習	現在の教育問題に関心を持ち、ニュース等に注目しておくこと。
------	-------------------------------

履修上の留意点	主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に授業者により発せられる様々な問いに対して自分の言葉で考えようとする。ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書く機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の言葉で文章にすること。要するに、考えることを厭わない学生の参加を望む。
---------	---

成績評価の方法	授業期間内の試験またはレポート（50点）、および学期末のレポート（50点）により成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、また、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。
---------	---

教科書／テキスト	特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。
----------	---------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	079901
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	遠藤 司

授業概要/ 到達目標（ねらい）	生徒指導、ならびに進路指導の名のもとに、現在の学校で様々な教育的営みが行われている。生徒の成長を支える重要な関わりであるこれらの指導について、将来教職に就くことを目指している人間として、その意味を改めて問い直し、無意識のうちに既にもっているであろう自らの生徒指導観、および進路指導観をとらえ直した上で、より豊かに深めていくことがこの授業の目的である。
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス1：生徒指導観を考えるための視点（その1） 2. ガイダンス2：生徒指導観を考えるための視点（その2） 3. 生徒指導の理論について学ぶ：概観 4. 生徒指導の理論について学ぶ：生徒指導の方法について 5. 生徒指導の理論について学ぶ：生徒理解について 6. 生徒指導の理論について学ぶ：まとめ 7. 問題行動について考える：概観 8. 問題行動について考える：いじめについて 9. 問題行動について考える：不登校について 10. 問題行動について考える：まとめ 11. 進路指導について考える：概観 12. 進路指導について考える：進路指導の方法について 13. 進路指導について考える：青年期について 14. 進路指導について考える：まとめ 15. 全体のまとめ
----------	---

準備学習	現在の教育問題に関心を持ち、ニュース等に注目しておくこと。
------	-------------------------------

履修上の留意点	主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に授業者により発せられる様々な問いに対して自分の言葉で考えようとする。ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書く機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の言葉で文章にすること。要するに、考えることを厭わない学生の参加を望む。
---------	---

成績評価の方法	授業期間内の試験またはレポート（50点）、および学期末のレポート（50点）により成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、また、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。
---------	---

教科書／テキスト	特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。
----------	---------------------------------

参考書	
-----	--

履修コード	080001
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	遠藤 司
授業概要/ 到達目標（ねらい）	生徒指導、ならびに進路指導の名のもとに、現在の学校で様々な教育的営みが行われている。生徒の成長を支える重要な関わりであるこれらの指導について、将来教職に就くことを目指している人間として、その意味を改めて問い直し、無意識のうちに既にもっているであろう自らの生徒指導観、および進路指導観をとらえ直した上で、より豊かに深めていくことがこの授業の目的である。
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス1：生徒指導観を考えるための視点（その1） 2. ガイダンス2：生徒指導観を考えるための視点（その2） 3. 生徒指導の理論について学ぶ：概観 4. 生徒指導の理論について学ぶ：生徒指導の方法について 5. 生徒指導の理論について学ぶ：生徒理解について 6. 生徒指導の理論について学ぶ：まとめ 7. 問題行動について考える：概観 8. 問題行動について考える：いじめについて 9. 問題行動について考える：不登校について 10. 問題行動について考える：まとめ 11. 進路指導について考える：概観 12. 進路指導について考える：進路指導の方法について 13. 進路指導について考える：青年期について 14. 進路指導について考える：まとめ 15. 全体のまとめ
準備学習	現在の教育問題に関心を持ち、ニュース等に注目しておくこと。
履修上の留意点	主体的・積極的に授業に参加すること。授業時に授業者により発せられる様々な問いに対して自分の言葉で考えようとする。ほぼ毎回の授業で授業者の問いについて考えたことを書く機会を作るが、それに対しては誠実に真剣に考え、自分の言葉で文章にすること。要するに、考えることを厭わない学生の参加を望む。
成績評価の方法	授業期間内の試験またはレポート（50点）、および学期末のレポート（50点）により成績評価を行う。なお、授業への参加の仕方の積極度、また、授業時の提出物の内容等も成績評価に加味する場合もある。
教科書／テキスト	特定の教科書は用いない。参考書等については授業中適宜紹介する。
参考書	

履修コード	080101
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	川原 誠司

授業概要/ 到達目標（ねらい）	●生徒を指導するとはどういうことか、生徒指導を行っていく上で必要なことは何かを、様々なことの喩えを通して理解し、前提となる発達の知識を見通していく。その上で、多くの教員が困難を招く、指導の際のコミュニケーションのありよう（の問題）について理解する。
--------------------	--

授業スケジュール	●正式なスケジュールは、授業期間や受講生数が定まってから、下記のもの（予定）を調整していきますので、必ず授業時の指示に従ってください。 第1回 ガイダンス 第2回 生徒指導のイメージ〔喩え〕（1） 第3回 生徒指導のイメージ〔喩え〕（2） 第4回 生徒指導のイメージ〔喩え〕（3） 第5回 生徒指導に必要な発達の知識（1） 第6回 生徒指導に必要な発達の知識（2） 第7回 生徒指導に必要な発達の知識（3） 第8回 指導の際に生徒と対立するコミュニケーション上の問題（1） 第9回 指導の際に生徒と対立するコミュニケーション上の問題（2） 第10回 『教師学』からの教師－生徒コミュニケーションの検討（1） 第11回 『教師学』からの教師－生徒コミュニケーションの検討（2） 第12回 『教師学』からの教師－生徒コミュニケーションの検討（3） 第13回 『教師学』からの教師－生徒コミュニケーションの検討（4） 第14回 『教師学』からの教師－生徒コミュニケーションの検討（5） 第15回 まとめ
----------	---

準備学習	●授業に関する予習・復習課題が出されます。また、授業中は話を聴く姿勢と授業に参加する態度とを求めます。
------	---

履修上の留意点	●最初の授業で受講人数を把握して、できるだけ班編制を行う予定ですので、受講希望の学生は最初の授業に必ず出席してください。2回目以降からの参加は原則認めません。講義形式だけにとどまらないようにさまざまな形態で授業を進めていくことを考えています。 ●本授業はe-Learning（YeStudy）を用いて予習、復習を実施するので、その操作の意志があること。 ●授業に出席すること、授業をしっかりと聴くことのみならず、班作業をはじめとした活動に物理的にも意識的にも参加すること。なお、携帯電話の使用は禁止しますのでカバンなどにしまってください（机に出したり、机の下で隠れて操作しないこと）。 ●授業の最初に出席を兼ねた確認小課題を実施しますので、事前の指示に従ってください。
---------	---

成績評価の方法	●「試験（持ち込みは一切不可）＋平常点等」を考えています。 ●平常点等についての考えなどの詳細は、初回の授業に述べます。また、配点の比率については正式には授業を進めていく中で決定しますが、“試験：平常点等＝10：3～4”くらいを考えています。
---------	--

教科書／テキスト	●特定の本一冊を使用する形はとらない予定です。しかし、毎週必要な文献を読んだり、調べてくる課題等が出ますので、何も読まなくてもよいということではありませんので、十分に注意してください。
----------	--

参考書	●必要なものがあれば、授業中に呈示します。
-----	-----------------------

その他	●「授業に出さえすれば教職単位は何とかなる」と思っている学生には決して向きませんので、履修登録の際には十分にご注意ください。
-----	--

履修コード	079301
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	佐藤 尚人

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 教科の学習指導はもちろんのこと、教師には、生徒が抱える様々な問題への対応も求められます。生徒の理解やさまざまな問題における指導の方法、その際の注意点などについて講義していきます。中学校・高等学校での進路指導のポイントや具体的なやり取りについても見ていきます。</p> <p>（到達目標） 単なる頭の中での知識としてではなく、自分が実際に教壇に立った時に使える（行動できる）具</p>
--------------------	---

授業スケジュール	第1回はじめに：本講義の説明・参加の際の注意事項、成績評価など 第2回・第3回生徒指導の基本的考え方：教師の役割や子どもの問題行動の理解 第4回～第9回子どもの理解と指導の手がかり：エリクソンの発達段階・課題の考え方を参考に 第10回・第11回具体的な問題行動を考える：不登校・いじめ・非行などの理解と対応 第12回・第13回問題行動への対応・指導の方法 第14回進路指導について考える 第15回まとめ：生徒指導において大切なこと
----------	---

準備学習	次回の内容の説明と次回までの課題を、授業中に適宜指示します。
------	--------------------------------

履修上の留意点	毎回出欠を確認し、欠席や遅刻が一定以上になった場合は評価の対象から除外します。受け身での受講ではなく、次回の授業内容について事前に調べたり、講義の内容を事後に確認するなどしてください。
---------	--

成績評価の方法	出席状況が佳良（4回以上の欠席の場合は、原則として評価対象から除外します）で、評価対象となった受講者について、期末の筆記試験の点数をもとに評価します。ただし、発言や質問、事前学習など、授業への積極的な参加態度をプラスして最終的な評価を出します。
---------	--

教科書／テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	特に指定しません。必要に応じて、講義の中で適宜紹介します。
-----	-------------------------------

履修コード	079701
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	佐藤 尚人

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 教科の学習指導はもちろんのこと、教師には、生徒が抱える様々な問題への対応も求められます。生徒の理解やさまざまな問題における指導の方法、その際の注意点などについて講義していきます。中学校・高等学校での進路指導のポイントや具体的なやり取りについても見ていきます。</p> <p>（到達目標） 単なる頭の中での知識としてではなく、自分が実際に教壇に立った時に使える（行動できる）具</p>
--------------------	---

授業スケジュール	第1回はじめに：本講義の説明・参加の際の注意事項、成績評価など 第2回・第3回生徒指導の基本的考え方：教師の役割や子どもの問題行動の理解 第4回～第9回子どもの理解と指導の手がかり：エリクソンの発達段階・課題の考え方を参考に 第10回・第11回具体的な問題行動を考える：不登校・いじめ・非行などの理解と対応 第12回・第13回問題行動への対応・指導の方法 第14回進路指導について考える 第15回まとめ：生徒指導において大切なこと
----------	---

準備学習	次回の内容の説明と次回までの課題を、授業中に適宜指示します。
------	--------------------------------

履修上の留意点	毎回出欠を確認し、欠席や遅刻が一定以上になった場合は評価の対象から除外します。受け身での受講ではなく、次回の授業内容について事前に調べたり、講義の内容を事後に確認するなどしてください。
---------	--

成績評価の方法	出席状況が佳良（4回以上の欠席の場合は、原則として評価対象から除外します）で、評価対象となった受講者について、期末の筆記試験の点数をもとに評価します。ただし、発言や質問、事前学習など、授業への積極的な参加態度をプラスして最終的な評価を出します。
---------	--

教科書／テキスト	使用しません。
----------	---------

参考書	特に指定しません。必要に応じて、講義の中で適宜紹介します。
-----	-------------------------------

履修コード	079801
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	佐藤 尚人
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>（授業概要） 教科の学習指導はもちろんのこと、教師には、生徒が抱える様々な問題への対応も求められます。生徒の理解やさまざまな問題における指導の方法、その際の注意点などについて講義していきます。中学校・高等学校での進路指導のポイントや具体的なやり取りについても見ていきます。</p> <p>（到達目標） 単なる頭の中での知識としてではなく、自分が実際に教壇に立った時に使える（行動できる）具</p>
授業スケジュール	第1回はじめに：本講義の説明・参加の際の注意事項 成績評価など 第2回・第3回生徒指導の基本的考え方：教師の役割や子どもの問題行動の理解 第4回～第9回子どもの理解と指導の手がかり：エリクソンの発達段階・課題の考え方を参考に 第10回・第11回具体的な問題行動を考える：不登校・いじめ・非行などの理解と対応 第12回・第13回問題行動への対応・指導の方法 第14回進路指導について考える 第15回まとめ：生徒指導において大切なこと
準備学習	次回の内容の説明と次回までの課題を、授業中に適宜指示します。
履修上の留意点	毎回欠席を確認し、欠席や遅刻が一定以上になった場合は評価の対象から除外します。受け身での受講ではなく、回次の授業内容について事前に調べたり、講義の内容を事後に確認するなどしてください。
成績評価の方法	出席状況が佳良（4回以上の欠席の場合は、原則として評価対象から除外します）で、評価対象となった受講者について、期末の筆記試験の点数をもとに評価します。ただし、発言や質問、事前学習など、授業への積極的な参加態度をプラスして最終的な評価を出します。
教科書／テキスト	使用しません。
参考書	特に指定しません。必要に応じて、講義の中で適宜紹介します。

履修コード	079501
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	目良 秋子
授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>生徒指導は学業、社会性、道徳性、進路などの諸領域の指導を統合するものと考えられます。学校教育活動においてこうした統合的な生徒指導は生徒の個性を尊重・伸張しつつ、社会的資質・行動を高めると同時に、子どもたちの問題も複雑・個性性を伴っているため生徒指導に必要な生徒理解が困難な場合があります。そこで、この授業では児童期・青年期において重要と思われる自己意識の発達とアイデンティティの達成というテーマから生徒理解を深めながら、実際の生徒指導方法とその考え方について学びます。また、進路選択は青年期における重要な課題であるため、指導上留意すべき点について最近の職業選択に関わる諸問題と合わせて講義を行う予定です。</p>
授業スケジュール	<p>1回目：ガイダンス及び生徒指導論概説-生徒指導の意義について-</p> <p>2～3回目：生徒指導論概説-生徒指導の諸側面について・生徒指導の歴史-</p> <p>4回目：生徒理解の意義とその方法</p> <p>5～8回目：児童期・青年期の自己の発達と適応およびアイデンティティの発達と危機</p> <p>9～11回目：学校教育における生徒指導の現状と問題</p> <p>12～13回目：キャリア・進路指導概説-進路選択からみた青年期の問題と留意点-</p> <p>14回目：教師としての成長・発達とバーンアウト</p> <p>15回目：総括</p>
準備学習	毎授業時間前に先週までの内容の振り返りを各自行うこと。日頃より新聞やニュースなどの報道のなかで学校教育関連の報道に関心を持ち、それに対する自分の考えを持つこと。
履修上の留意点	教職課程科目であるため出席は毎回取り、評価においても重視します。また、授業期間内に数回のレポート提出があります。
成績評価の方法	学期末試験（8割）と授業内レポート課題（2割）を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
教科書／テキスト	必要に応じて資料を配布します。
参考書	授業で適宜紹介します。
その他	授業は講義形式で行います。

履修コード	079601
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	目良 秋子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	生徒指導は学業、社会性、道徳性、進路などの諸領域の指導を統合するものと考えられます。学校教育活動においてこうした統合的な生徒指導は生徒の個性性を尊重・伸張しつつ、社会的資質・行動を高めるという方向性を持って行われます。しかし、児童期・青年期は発達的に変化の大きい時期であると同時に、子どもたちの問題も複雑・個性性を伴っているため生徒指導に必要な生徒理解が困難な場合があります。そこで、この授業では児童期・青年期において重要と思われる自己意識の発達とアイデンティティの達成というテーマから生徒理解を深めながら、実際の生徒指導方法とその考え方について学びます。また、進路選択は青年期における重要な課題であるため、指導上留意すべき点について最近の職業選択に関わる諸問題と合わせて講義を行う予定です。
--------------------	--

授業スケジュール	1回目：ガイダンス及び生徒指導論概説-生徒指導の意義について- 2～3回目：生徒指導論概説-生徒指導の諸側面について・生徒指導の歴史- 4回目：生徒理解の意義とその方法 5～8回目：児童期・青年期の自己の発達と適応およびアイデンティティの発達と危機 9～11回目：学校教育における生徒指導の現状と問題 12～13回目：キャリア・進路指導概説-進路選択からみた青年期の問題と留意点- 14回目：教師としての成長・発達とバーンアウト 15回目：総括
----------	---

準備学習	毎授業時間前に先週までの内容の振り返りを各自行うこと。日頃より新聞やニュースなどの報道のなかで学校教育関連の報道に関心を持ち、それに対する自分の考えを持つこと。
------	--

履修上の留意点	教職課程科目であるため出席は毎回取り、評価においても重視します。また、授業期間内に数回のレポート提出があります。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験（8割）と授業内レポート課題（2割）を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
---------	---

教科書／テキスト	必要に応じて資料を配布します。
----------	-----------------

参考書	授業で適宜紹介します。
-----	-------------

その他	授業は講義形式で行います。
-----	---------------

履修コード	305801
科目名	生徒指導論（進路指導を含む）
担当者名	目良 秋子

授業概要/ 到達目標（ねらい）	生徒指導は学業、社会性、道徳性、進路などの諸領域の指導を統合するものと考えられます。学校教育活動においてこうした統合的な生徒指導は生徒の個性性を尊重・伸張しつつ、社会的資質・行動を高めるという方向性を持って行われます。しかし、児童期・青年期は発達的に変化の大きい時期であると同時に、子どもたちの問題も複雑・個性性を伴っているため生徒指導に必要な生徒理解が困難な場合があります。そこで、この授業では児童期・青年期において重要と思われる自己意識の発達とアイデンティティの達成というテーマから生徒理解を深めながら、実際の生徒指導方法とその考え方について学びます。また、進路選択は青年期における重要な課題であるため、指導上留意すべき点について最近の職業選択に関わる諸問題と合わせて講義を行う予定です。
--------------------	--

授業スケジュール	1回目：ガイダンス及び生徒指導論概説-生徒指導の意義について- 2～3回目：生徒指導論概説-生徒指導の諸側面について・生徒指導の歴史- 4回目：生徒理解の意義とその方法 5～8回目：児童期・青年期の自己の発達と適応およびアイデンティティの発達と危機 9～11回目：学校教育における生徒指導の現状と問題 12～13回目：キャリア・進路指導概説-進路選択からみた青年期の問題と留意点- 14回目：教師としての成長・発達とバーンアウト 15回目：総括
----------	---

準備学習	毎授業時間前に先週までの内容の振り返りを各自行うこと。日頃より新聞やニュースなどの報道のなかで学校教育関連の報道に関心を持ち、それに対する自分の考えを持つこと。
------	--

履修上の留意点	教職課程科目であるため出席は毎回取り、評価においても重視します。また、授業期間内に数回のレポート提出があります。
---------	--

成績評価の方法	学期末試験（8割）と授業内レポート課題（2割）を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。
---------	---

教科書／テキスト	必要に応じて資料を配布します。
----------	-----------------

参考書	授業で適宜紹介します。
-----	-------------

その他	授業は基本的には講義形式ですが、テーマによってはグループ討議等も取り入れながら行っています。
-----	--

履修コード	046911 046912
科目名	西洋文化史
担当者名	田中 佳
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、ヨーロッパの歴史の中で文化にかかわるテーマを取り上げ、近年の文化史、社会史の成果に依りながら考察を加える。今年度、集中して扱うのは、美術館を中心とする美術と社会の問題である。ヨーロッパ史への多角的な理解を深めるばかりでなく、今日の社会・文化現象についての歴史的関心を養い、既存の概念やシステムを批判的に再検討するきっかけを提供することを目的とする。
授業スケジュール	(前期) (1)イントロダクション (2~3) 文化史の課題と方法 (4~6) アンシアン・レジームの美術と社会 (7) コレクションの形成・発展 (8) 展覧会見学 (9) 市場の確立と流通—競売会の発展 (10) 展覧会の誕生 (11) 「美術書」の誕生と複製の制作 (12) 「美術史」の形成 (13~14) 鑑賞者の拡大と「公衆」の台頭 (15) 中間試験 (後期) (16~18) 美術館の起源 (19~20) パリ・ルーヴル美術館 (21) 美術館見学 (22~26) ヨーロッパの美術館の創設 (27) アメリカの美術館の創設 (28~29) 日本への美術館の「輸入」 (30) 総括
準備学習	受講前に、美術館・博物館を最低一つは訪問しておいてほしい。
履修上の留意点	講義内容をふまえたうえで、自ら問題意識を持ち、考察を深めてほしい。
成績評価の方法	平常点(展覧会レポート等を含む) : 20% 中間試験 : 40% 期末試験 : 40% により評価する。
教科書/テキスト	テキストはとくに指定しない。
参考書	授業内で随時紹介する。

履修コード	044201 044202
科目名	世界史概説
担当者名	井村 行子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>授業概要 古代から近現代までの世界史の概要を学ぶ。教員による講義形式ではなく、受講者全員による報告形式で授業を進める。</p> <p>到達目標 世界史全般について基本的な見方を身につけ、さらに将来、必要性が生じた場合に、その見方を深め、発展させることができるような能力を身につける。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. (10) 古代中国 (11) 諸子百家 (12) 秦・漢 3. (13) 内陸アジア (14) 東アジア (15) 隋・唐 4. (16) (17) 古代インド (18) 東南アジア 5. (19) (20) 古代オリエント (21) 古代ギリシア 6. (22) (23) 古代ローマ (24) イスラームの成立 7. (25) (26) イスラーム世界の発展 (27) ビザンツ帝国 8. (28) フランク王国 (29) 封建社会の都市と農村 (30) ヨーロッパ世界の拡大 9. (31) (32) 宋代 (33) モンゴル帝国 10. (34) 元代 (35) 明代 (36) 東南アジア 11. (37) (38) 清代 (39) ティムール帝国とムガル帝国 12. (40) 中央アジアとイラン (41) オスマン帝国の成立 (42) アフリカ 13. (43) イスラーム世界の文化 (44) 大航海時代 (45) 宗教改革 14. (46) 中・東欧 (47) 西ヨーロッパ (48) 近世ヨーロッパの文化 15. 前期試験 16. (49) アメリカ独立革命 (50) フランス革命 (51) 近代世界とは何か 17. (52) 産業革命 (53) ナポレオン帝国 (54) ウィーン体制下の抵抗運動 18. (55) 1848年革命 (56) ロシア・ドイツの近代化 (57) 産業社会の構造 19. (58) アメリカ合衆国の発展 (59) 帝国主義 (60) アヘン戦争 20. (61) 東アジアの近代化 (62) 辛亥革命 (63) 東南アジアの植民地化 21. (64) インドの植民地化 (65) オスマン帝国の動揺 (66) イスラーム世界の民族運動 22. (67) アジアの近代思想 (68) 中南米とオセアニア (69) 第1次世界大戦の原因 23. (70) 第1次世界大戦 (71) ロシア革命 (72) ヴェルサイユ体制 24. (73) 米ソの発展 (74) 大衆社会 (75) 中国・朝鮮の民族運動 25. (76) (77) 南・西アジアの民族運動 (78) 世界恐慌とファシズム 26. (79) 日本の戦争 (80) 第2次世界大戦 (81) 戦後世界の構築 27. (82) アジアの脱植民地化 (83) 冷戦の成立と拡大 (84) 冷戦下のアジア 28. (85) 冷戦下の西欧 (86) アジア・アフリカの独立 (87) ベトナム戦争 29. (88) 中東戦争 (89) アジアの新潮流 (90) 先進工業国の経済課題 30. (91) 社会主義国の危機 (92) 地域紛争 (93) ソ連・東欧の革命
----------	---

準備学習	毎回、報告者の報告のまとめと感想を書いてもらうので、最低限、教科書の該当箇所を読んでおくこと
------	--

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	前期・後期の筆記試験の成績50%、平常点30%、報告20%
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	鶴間和幸『世界史B 改訂版 100テーマで視る世界の歴史』改訂版、清水書院、ISBN978-4-389-60014-3
----------	---

参考書	
-----	--

関連リンク	http://www.d1.dion.ne.jp/~yimura
-------	---

履修コード	305001
科目名	世界史概説
担当者名	見城 光威

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	東アジア世界の歴史展開の概略を習得することを第一とする。が、その一方で教科書に見られる歴史叙述が必ずしも絶対なものではなく、多様な歴史観が存在することも会得する。そして、その延長として独自の史観を創出する素養を身につけることを最終の目標とする。
---------------------	--

授業スケジュール	第1回 : 歴史を学ぶにあたって 第2～3回 : 中華文明の発展—夏殷周・春秋戦国— 第4～7回 : 統一国家の樹立—秦漢・三国・魏晋南北朝— 第8～14回 : 多民族国家の発展—唐宋元明清— 第15回 : 前期試験 第16回 : 清代後期—沈淪と覚醒— 第17～20回 : 中華民国—戦乱と建設— 第21～23回 : 新中国—摸索と発展— 第24～26回 : 朝鮮半島の歴史 第27～29回 : 東南アジアの歴史 第30回 : 後期試験
----------	---

準備学習	特になし。
------	-------

履修上の留意点	積極的な質問、およびディスカッションを望む。
---------	------------------------

成績評価の方法	前期・後期2回の試験で評価 (出題は教科書を中心とする)
---------	------------------------------

教科書/テキスト	歩平・劉小萌・李長莉著、鈴木博訳『若者に伝えたい 中国の歴史』2008年刊、明石書店、1800円 978-4-7503-2840-9、および随時補充プリントを配布。
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	056501 056502
科目名	世界史概説
担当者名	小林 惣八

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	当該科目は、教職科目と必修科目の二面性を持っている関係上専門的知識を要求しながらも基礎基本的な歴史の見方や考え方にも主眼を置く科目である。 「中国王朝史の終焉」に目標を設定し、1912年清朝宣統帝溥儀が退位するまでを中国側とヨーロッパ側両面から解き明かすことを狙いとする。
---------------------	---

授業スケジュール	第1回 : 本講義の概要、第2回～3回 : 中国史概観、第4回～12回 : 中国王朝史の歩み、第13回～14回 : ヨーロッパ古代史概観、第15回～16回 : ヨーロッパ中世史概観、第17回～22回ヨーロッパ近代史概観、第23回～ヨーロッパ諸国のアジアへの進出。
----------	---

準備学習	講義終了後毎回レポート課題を課す。これは、課題処理によって歴史の歩みの前後関係をよりの確に把握するためのものです。
------	---

履修上の留意点	「継続は力なり」根気強く取り組む姿勢を求める。
---------	-------------------------

成績評価の方法	前期・後期のレポート提出と試験・出欠状況の総合評価とする。
---------	-------------------------------

教科書/テキスト	特別定めないが、世界史の概説書や図表を座右に置いて聞くことを勧める。
----------	------------------------------------

参考書	
-----	--

その他	出席を重視する。
-----	----------

履修コード	006101 006102
科目名	禅美術
担当者名	村松 哲文
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	禅宗では、はじめ偶像を崇拜せず、自己の内面に仏性を悟ることを旨としていた。そのため偶像や仏画などが制作されることはなかったが、宋代になると僧侶たちが余暇に水墨画を描くようになり、これが宮廷の庇護を受けるなどして職業画家まで出現するようになる。描かれた題材は、山水・花鳥・祖師などで、これらを総称して禅絵画という。日本では、留学僧によって鎌倉時代に禅絵画が伝わり、ついには日本独自の水墨画を完成させた。 本講義では、絵画を中心に話を進めるが、彫刻や墨蹟、庭園などについても触れてゆきたい。そして、作品に見え隠れする制作者の宗教性と美意識を考察したい。
授業スケジュール	講義ガイダンスと宋代の社会と仏教(1~3)、北宋の絵画(4~7)、南宋の絵画(8~11)、元の絵画(12~15)、鎌倉時代の絵画(16~19)、室町時代の絵画(20~23)、枯山水の庭園(24~25)、頂相彫刻(26~28)、禅宗の建築と美意識(29~30)
準備学習	図書館に行き、禅美術関連の書籍を何冊か読んでおくと、講義内容が理解しやすいと思うので、時間のあるときには是非通読しておいてほしい。
履修上の留意点	講義内容を留めるのみならず、講義の際に映すスライドなどもしっかり観察すること。また美術館・博物館に行き、実物を観察する機会を多くつくること。
成績評価の方法	定期試験、出席率、レポートなどで総合的に評価する。
教科書/テキスト	プリントを配布する。
参考書	参考書・参考論文などは講義中に紹介する。

履修コード	081501
科目名	総合演習Ⅰ(環境・地域)
担当者名	北村 和夫
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	授業概要 前半では環境問題をテーマとし、その現状と歴史を見ることを通して、人間と自然(環境)との関係はどのようであるべきかを考える。後半では、地域をテーマとし、今、なぜ地域が注目されているのかを考える。地域は人間と自然が一体となったもの、という視点を重視する。 到達目標 環境問題について様々な見方・考え方があることを学ぶことを通して、人間とは何か、自然(環境)とは何かということを考える。 現在学校で行われている環境教育について、その問題点と可能性について考える。 人間にとって共同体とはいかなる意味を持つのかということ、人と人とのつながりと人と自然とのつながりという、2つの視点から考える。 今なぜ地域の活性化ということが言われているのかということについて、各地の事例を参考にしながら、考える。 容易には結論が出ない問題について、自分とは違う考え方について学びながら考えを進める、という体験をする。
授業スケジュール	1. 環境問題の現状 2. 江戸の暮し 3. 近代化と環境問題 4. 高度経済成長と公害 5. 南方熊楠 6. 田中正造 7. レイチェル・カーソン 8. 環境教育 9. 人間と自然 10. 共同体の歴史 11. 現在の地域問題 12. 地元学 13. 地域の活性化 14. 子どもの生活 15. まとめ
準備学習	特になし
履修上の留意点	話の流れを全体として理解すること。
成績評価の方法	レポートのみ。扱ったテーマのうちのいくつかについて、その内容をまとめるとともに自分の考察を書く。前半の正確さと後半の独自性を評価する。
教科書/テキスト	
参考書	北村和夫『環境教育と学校の変革-ひとりの教師として何ができるか』 (農山漁村文化協会)2000年 2,900円(税込) ISBN-4-540-99291-0 その他に授業中にたくさん紹介する。

履修コード	306001
科目名	総合演習Ⅰ（環境・地域）
担当者名	北村 和夫

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>授業概要 前半では環境問題をテーマとし、その現状と歴史を見ることを通して、人間と自然（環境）との関係はどのようであるべきかを考える。後半では、地域をテーマとし、今、なぜ地域が注目されているのかを考える。地域は人間と自然が一体となったもの、という視点を重視する。</p>
--------------------	---

到達目標	<p>環境問題について様々な見方・考え方があることを学ぶことを通して、人間とは何か、自然（環境）とは何かということを考える。 現在学校で行われている環境教育について、その問題点と可能性について考える。 人間にとって共同体とはいかなる意味を持つのかということ、人と人とのつながりと人と自然とのつながりという、2つの視点から考える。 今なぜ地域の活性化ということが言われているのかということについて、各地の事例を参考にしながら、考える。 容易には結論が出ない問題について、自分とは違う考え方について学びながら考えを進める、という体験をする。</p>
------	--

授業スケジュール	<p>1. 環境問題の現状 2. 江戸の暮し 3. 近代化と環境問題 4. 高度経済成長と公害 5. 南方熊楠 6. 田中正造 7. レイチェル・カーソン 8. 環境教育 9. 人間と自然 10. 共同体の歴史 11. 現在の地域問題 12. 地元学 13. 地域の活性化 14. 子どもの生活 15. まとめ</p>
----------	---

準備学習	特になし
------	------

履修上の留意点	話の流れを全体として理解すること。
---------	-------------------

成績評価の方法	レポートのみ。扱ったテーマのうちのいくつかについて、その内容をまとめるとともに自分の考察を書く。前半の正確さと後半の独自性を評価する。
---------	---

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	<p>北村和夫『環境教育と学校の変革-ひとりの教師として何ができるか』 （農山漁村文化協会）2000年 2,900円（税込）ISBN-4-540-99291-0 その他に授業中にたくさん紹介する。</p>
-----	--

履修コード	081901
科目名	総合演習Ⅲ（福祉・ボランティア）
担当者名	野中 弘敏

授業概要/ 到達目標（ねらい）	<p>本演習では、心理的困難を抱える人々への臨床心理学的援助の事例を通じて、これら困難の様相、またそこに生じた症状や苦痛の意味を当事者の経験に即して理解していく、という試みを、参加者と共に重ねていきます。</p>
--------------------	--

授業スケジュール	<p>（1）本演習の内容と進め方に関するオリエンテーション（2）構成的グループエンカウンター体験／事例報告担当の決定（3）カウンセリング・心理療法の考え方（4）臨床心理学的アセスメントの体験的理解（5～15）概要・事例報告及びディスカッション（不登校・いじめ・軽度発達障害・非行・児童虐待・保護者への対応・不安障害・摂食障害・境界性人格・うつ・統合失調症）</p>
----------	--

準備学習	概要・事例報告準備のため、共同報告者との役割分担、資料収集、および配付用レジュメの作成を行ってまいります。
------	---

履修上の留意点	<p>初回は授業の進め方を詳しく説明します。各自の受講継続の判断のためにも必ず出席してください。 5回目以降は配布するテキストに即した事例報告及び話し合いを中心に進めます。報告は全参加者が最低1回担当します。参加者は各回終了までにコメントを書いて提出します。 参加者全員が各回のテキストを予め熟読した上で参加すること、そして授業の中では各自の経験も振り返りながら、真摯に読み、聴きいることを求めます。</p>
---------	--

成績評価の方法	事例報告の内容・各回の授業内課題・各回の討論への参加を基本に評価します。
---------	--------------------------------------

教科書／テキスト	授業内でプリントを配布します。
----------	-----------------

参考書	随時紹介します。
-----	----------

その他	参加人数にもよりますが、概ねいわゆる輪講形式となります。
-----	------------------------------

履修コード	082001
科目名	総合演習III (福祉・ボランティア)
担当者名	野中 弘敏
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本演習では、心理的困難を抱える人々への臨床心理学的援助の事例を通じて、これら困難の様相、またそこに生じた症状や苦痛の意味を当事者の経験に即して理解していく、という試みを、参加者と共に重ねていきます。
授業スケジュール	(1) 本演習の内容と進め方に関するオリエンテーション (2) 構成的グループエンカウンター体験/事例報告担当の決定 (3) カウンセリング・心理療法の考え方 (4) 臨床心理学的アセスメントの体験的理解 (5~15) 概要・事例報告及びディスカッション (不登校・いじめ・軽度発達障害・非行・児童虐待・保護者への対応・不安障害・摂食障害・境界性人格・うつ・統合失調症)
準備学習	概要・事例報告準備のため、共同報告者との役割分担、資料収集、および配付用レジュメの作成を行ってまいります。
履修上の留意点	初回は授業の進め方を詳しく説明します。各自の受講継続の判断のためにも必ず出席してください。 5回目以降は配布するテキストに即した事例報告及び話し合いを中心に進めます。報告は全参加者が最低1回担当します。参加者は各回終了までにコメントを書いて提出します。 参加者全員が各回のテキストを予め熟読した上で参加すること、そして授業の中では各自の経験も振り返りながら、真摯に読み、聴きいることを求めます。
成績評価の方法	事例報告の内容・各回の授業内課題・各回の討論への参加を基本に評価します。
教科書/テキスト	授業内でプリントを配布します。
参考書	随時紹介します。
その他	参加人数にもよりますが、概ねいわゆる輪講形式となります。

履修コード	082811
科目名	総合演習V (国際理解・情報)
担当者名	大浜 幾久子
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「平和のための教育は可能か」をめぐって、諸メディアからの情報を参考にしつつ、考えていく。そのことを通して、中学校・高等学校で「総合的な学習の時間」を担当する力量の形成をめざす。
授業スケジュール	はじめに、下記の2冊の参考書を読む。その後は、受講生自身が、「平和のための教育」につながる「総合的な学習」を個人または数人のグループで展開し、その成果を発表する。 第1回：インターネット上に公開されている「総合的な学習の時間」の実践記録を検索し、興味をひかれた実践記録のレジュメを作成。 第2・3回：『良心的兵役拒否の思想』を読む。①「平和」を考えるとときの「思想」の位置づけについて討論する。②総合学習における「思想」の位置づけを考える。 第4・5回：『15歳が受け継ぐ平和のバトン：祖父母に聞いた235の戦争体験』を読む。 ①自分の身の周りから総合学習を展開することについて討論する。②「情報」と「物語」の違いについて、討論する。 第6回：中学校または高等学校における「総合的な学習の時間」の指導実践を想定し、対象学年、期間、テーマ、学習の展開方法を選定する。 第7回：前回選んだテーマ等を発表し、必要、希望に応じ数人のグループをつくる。 第8~11回：個人またはグループで、「総合的な学習の時間」を展開する。①中学生・高校生のレベルを想定。②様々なメディアの特性に留意。③中間発表。感想、意見、情報交換。④プレゼンテーション準備。 第12~15回：各人またはグループによる「総合学習」の発表。パソコンのプレゼンテーションソフトを活用する。質疑応答、討論の時間もとる。
準備学習	プレゼンテーションに向け、毎回、参考文献・資料を探すことが必要である。
履修上の留意点	必要に応じて、英語をはじめとする外国語の文献も読んでいく。 履修にあたっては、英語の学習を(できれば他の外国語の学習も)積極的に続けていく意思が明確であることが求められる。
成績評価の方法	毎回のディスカッションへの参加、学期末の個人またはグループの研究発表、および各発表に対するコメントを、総合した評価とする。
教科書/テキスト	指定なし。
参考書	阿部知二著『良心的兵役拒否の思想』(岩波新書)1969年 女子学院中学校「祖父母の戦争体験」編集委員会編『15歳が受け継ぐ平和のバトン：祖父母に聞いた235の戦争体験』(高文研)2004年

履修コード	041101 041102
科目名	第四紀学
担当者名	鈴木 毅彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>第四紀とは最近約260万年間（2009年度に、それまでの約180万年前から260万年前へと、第四紀の開始を古くすることすることが正式に決定された）の地質時代をさす。この時代は、地形、気候、動植物、人類などが現在みられる姿となった時代でもある。このような最近の地質時代を理解することは、人類の動向も含めた地球の将来予測につながる。本講義のねらいはこのような問題意識のもとに、第四紀の概要を理解することである。とくに全地球的な規模での現象と日本列島特有な第四紀の諸現象についての理解を深めることに目的をおく。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>講義前半では第四紀の各種基礎的概念を解説、後半では日本列島の第四紀の主要な現象のうち、地形発達、火山活動、第四紀地殻変動などに焦点をあてる。(1-2) 第四紀の概要と学際科学としての第四紀学の特徴、(3) 氷期の認定に関する歴史、(4) 大陸氷床拡大の発達との証拠：ビデオを用いる、(5) 氷河期と氷期の区別：新生代氷河期と第四紀の開始、(6-7) 氷河性海面変化からわかる氷期・間氷期サイクル、第四紀海面変化の復元（日本列島および関東地方を例として、沖積層と更新世海成段丘）、(8-9) 海洋底堆積物、酸素同位体比変化から復元される氷期・間氷期サイクル、(10) 氷期・間氷期サイクルの原因とミランコビッチサイクル、(11) 100-1000年スケールの急激な気候変動：D/Oサイクルと氷床コア研究、(12) 地球上各域における第四紀の気候変化、(13-14) 第四紀の古地磁気編年とレス編年、(15) 数値年代と放射年代、(16-17) 第四紀の火山活動、(18-20) 火山噴火の多様性、(21-24) 第四紀のテフロクロノロジー：原理、日本列島および関東地方における応用例、(25-28) 第四紀地殻変動、活断層、山地形成、日本列島および関東地方における事例、(29-30) 第四紀における自然環境と人類の歴史</p>
----------	--

準備学習	<p>指定した教科書のうち「東京の自然史」は主に後期に使用するが、前期のうちに読んでおくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>講義中に高校等で使用する地図帳を用いることがあるので、常に持参してもらいたい。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>主には前期末のレポートと後期末の筆記試験で評価する。</p>
---------	-----------------------------------

教科書／テキスト	<p>貝塚爽平著 「東京の自然史」 講談社学術文庫 1050円 ISBN978-4-06-292082-7</p>
----------	---

参考書	<p>参考書として、酒井治孝著 「地球学入門－惑星地球と大気・海洋のシステム－」 東海大学出版会 2940円 ISBN-10 4486016157、日本第四紀学会編『デジタルブック 最新第四紀学』、町田ほか編『第四紀学』（朝倉書店）、日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）、成瀬『第四紀学』（岩波書店）をあげる。それ以外は講義中に紹介する。</p>
-----	---

その他	<p>授業の方法：講義、なお時間等が許せば日帰りの野外巡検を行う予定である。</p>
-----	--

履修コード	065901 065902
科目名	地域福祉論
担当者名	川上 富雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>本講義では、今日的な福祉理念の理解、およびそれを具現化した制度・事業・実践等に関する知識の獲得をはかり、地域福祉時代のソーシャルワーカーに求められるセンスの涵養をねらいとする。講義の到達目標は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 今日の福祉理念と地域福祉の考え方に関する理解を深める。 (2) 様々な地域福祉活動およびその推進方法に関する理解を深める。 (3) 地域自立生活を支える様々な制度に関する理解を深める。 (4) 地域福祉を推進する様々な機関・施設・団体に関する理解を深める。 <p>なお、講義は高度かつ実践的内容になるので、テキスト等の事前通読を必須とする。各自充分な予習をして講義に臨むこと。併せて、本科目は社会福祉士国家試験指定科目ということもあり、国家試験も考慮した水準の講義を行う。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国民生活と地域福祉 2. 地域福祉の理念・概念 3. 地域福祉の歴史 4. 地域社会の変容とコミュニティ 5. コミュニティ政策・対策 6. 住民・利用者参加の意義と課題 7. 住民・利用者参加活動の形態と組織①～コミュニティ型 8. 住民・利用者参加活動の形態と組織②～アソシエーション型 9. 住民・利用者参加活動の形態と組織③～NPO/コミュニティビジネス/社会的企業 10. 公私協働・分担と「新しい公共」 11. NPO・ボランティア活動とその支援（ボランティアセンターの役割） 12. 社会福祉協議会の歴史・使命・活動・経営① 13. 社会福祉協議会の歴史・使命・活動・経営② 14. 社会福祉協議会の実践～地域を基盤としたソーシャルワーク① 15. 社会福祉協議会の実践～地域を基盤としたソーシャルワーク② 16. 在宅福祉サービスの歴史と現状および地域包括支援センターの誕生 17. 福祉情報化と福祉教育の推進 18. 地域福祉推進における国・地方自治体の役割・関係 19. 地域自立生活を支える仕組みⅠ～成年後見制度① 20. 地域自立生活を支える仕組みⅠ～成年後見制度② 21. 地域自立生活を支える仕組みⅡ～日常生活自立支援事業① 22. 地域自立生活を支える仕組みⅡ～日常生活自立支援事業② 23. 苦情解決システムと第三者評価事業 24. 福祉計画の系譜と地域福祉計画・地域福祉活動計画 25. 民生委員制度と民生委員活動① 26. 民生委員制度と民生委員活動② 27. 地域福祉における社会福祉施設の役割（施設の社会化） 28. 地域福祉を支える財源～公費・財団・共同募金 29. 利用者主体・地域自立生活を支える供給システムのあり方（トータルケアシステム） 30. まとめ
----------	---

準備学習	テキストおよび参考図書の通読
------	----------------

履修上の留意点	<p>地域福祉論は、他の分野論・各論系科目の横断科目的な性格が強い。児童・障害・高齢者・社会保険・生活保護分野等の制度や対象者像、利用の仕組み、施設やサービス等についての知識を前提として講義を進めるので、少なくとも2年次以降の履修が望ましい（できれば3年次履修を勧める）。他学部・他学科生で履修する学生は、『国民の福祉の動向』（厚生統計協会）や『厚生白書』などを熟読し、今日の社会問題や社会保障の枠組みに関する一定の理解を持って臨むこと。</p>
---------	---

成績評価の方法	<p>前・後期末試験の成績に、研究発表・課題・レポート点を加味して判定する。講義への出席は期末試験受験の要件とするが、試験による知識・技術獲得など実質的な側面を強く評価する。期末試験の評価が成績評価の過半を占める。</p>
---------	---

教科書／テキスト	<p>●社会福祉士養成講座編集委員会編『〔改訂〕新・社会福祉士養成講座⑨地域福祉の理論と方法』中央法規出版 2010 ●山本主税・川上富雄『地域福祉新時代の社会福祉協議会』中央法規出版 2003</p>
----------	---

参考書	<p>岡村重夫『地域福祉論』光生館 1974/復刻版2009 日本社会福祉士会編『新・社会福祉援助の共通基盤(下)』中央法規出版 2009 井岡勉監修/牧里・山本編『住民主体の地域福祉論』法律文化社 2008 大橋謙策・原田正樹編『地域福祉計画と地域福祉実践』万葉舎 2000 小林雅彦編『社会福祉の新潮流⑤地域福祉論』学文社 2010 その他、講義中に紹介する。</p>
-----	--

その他	<p>基本的には講義形式で行うが、一部、グループ研究発表などを盛り込む。</p>
-----	--

履修コード	039901 039902
科目名	地形学
担当者名	大上 隆史

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	私たちが今生きている社会において、ある「地域」を理解し、そこでの様々な開発や環境問題、あるいは災害などを的確に理解し、さらに適切な対応策を講じるためには、その場所がもっている自然的諸条件の特質を明らかにしておくことが、まず重要である。この講義では、そのような自然的諸条件のなかで、「地域」の場の条件となっている様々な地形について、地形発達史的側面 (おもに前期) と地形環境誌的側面 (主に後期) の両方から理解し、様々な環境問題について学び、その解決策についても考えたい。
---------------------	---

授業スケジュール	前期は、主として地形発達のバックグラウンドについて学ぶ。 第1回 イントロダクション: 「日本三景」と地形学 第2回～第5回 気候変動 第6回～第9回 海水準変動 第10回～第12回 地殻変動 第13回～第15回 火山活動 後期は、前期で学んだことを踏まえて、関東平野の地形発達と地形誌について学ぶ。 第16回～第19回 利根川上流域の火山活動と地形発達 第20回～第23回 中流域の関東造盆地運動と平野の地形発達 第24回～第27回 下流沖積低地における海面変動と低地の地形発達 第28回～第30回 関東平野の環境問題とまとめ
----------	--

準備学習	次週の授業に関連した参考資料を適宜配布するので、よく読んで予習しておくこと。
履修上の留意点	現実の様々な環境問題に、広い視野から関心を持ち学ぼうとする意欲を期待したい。
成績評価の方法	出席とレポート及びその発表。受講生が多数の場合は試験を行う。
教科書/テキスト	とくに指定しない。
参考書	貝塚爽平ほか『日本の地形 4 関東・伊豆小笠原』(東大出版会) 2000年
その他	高校で使う程度の地図帳 (二宮書店や帝国書院発行のものなど) と12色の色鉛筆を用意することが望ましい。

履修コード	037101 037102
科目名	地誌学概説 地誌学
担当者名	川元 豊和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 今まで学んできた世界の諸地域に関する基礎的な知識を再確認するとともに、アジアを事例地域として、地誌的な見方・考え方を身につけることを目的とします。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定しています。 (到達目標) 地誌学の基本的な考え方を理解するとともに、ここで対象とした地域で見られる特色ある生活様式が生じた原因・理由を把握することを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	(1～3) 地誌的な見方・考え方について、(4～6) 世界の人口-発展途上国における「人口爆発」とその収束、(7～10) 農業の発展-稲作における「緑の革命」を中心として、(11～15) アジアの宗教-イスラームとヒンドゥー教を中心として、(16～20) バングラデシュ農村における近年の農業の変化、(21～22) バングラデシュ農村における土地所有と小作制度、(23～26) 半島マレーシアにおける多民族社会の形成、(27～28) 半島マレーシアにおける地方都市の発展、(29～30) サラワク州におけるイバンの生活
----------	---

準備学習	授業の最後に次回の内容を予告します。次回の内容にあたる部分を事前に配布プリント等で確認してほしい。
履修上の留意点	高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して授業に臨んでもらいたい。
成績評価の方法	平常点 (15%) 及び9月末のレポート提出 (15%) を前提とし、学年末の筆記試験 (70%) と併せて総合的に評価します。
教科書/テキスト	教科書は、特に定めずプリントを配布します。
参考書	授業内において、その都度紹介します。
その他	講義形式。

履修コード	304201
科目名	地誌学概説
担当者名	川元 豊和

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 今まで学んできた世界の諸地域に関する基礎的な知識を再確認するとともに、アジアを事例地域として、地誌的な見方・考え方を身につけることを目的とします。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定しています。 (到達目標) 地誌学の基本的な考え方を理解するとともに、ここで対象とした地域で見られる特色ある生活様式が生じた原因・理由を把握することを目的とします。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~3) 地誌的な見方・考え方について、(4~6) 世界の人口-発展途上国における「人口爆発」とその収束、(7~10) 農業の発展-稲作における「緑の革命」を中心として、(11~15) アジアの宗教-イスラームとヒンドゥー教を中心として、(16~20) バングラデシュ農村における近年の農業の変化、(21~22) バングラデシュ農村における土地所有と小作制度、(23~26) 半島マレーシアにおける多民族社会の形成、(27~28) 半島マレーシアにおける地方都市の発展、(29~30) サラワク州におけるイバンの生活 なお、受講者が少人数の場合には、後期(16~30)において、受講者による9月末に提出するレポートの内容発表も予定しています。
----------	---

準備学習	授業の最後に次回の内容を予告します。次回の内容にあたる部分を事前に配布プリント等で確認してほしい。
------	---

履修上の留意点	高校時代に使用したものでよから、地図帳を持参して授業に臨んでもらいたい。
---------	--------------------------------------

成績評価の方法	平常点(15%)および9月末のレポート提出(15%)を前提とし、学年末の筆記試験(または後期におけるレポート発表と12月末のレポート提出、70%)を併せて総合的に評価します。
---------	---

教科書/テキスト	教科書は、特に定めずプリントを配布します。
----------	-----------------------

参考書	授業内において、その都度紹介します。
-----	--------------------

その他	講義形式。
-----	-------

履修コード	037301 037302
科目名	地誌学概説 地誌学
担当者名	山口 太郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 地誌学は、「地域」を説明する地理学の一分野である。本講義では、日本国内を対象として、主に風土・景観論を軸に据えて「地域」を読んだり、書いたりする方法を学ぶ。前期は地誌の系譜、景観をはじめとする地域概念、日本地誌総論を展開する。後期は各論として、観光地を対象とした観光地誌と、その理解に必要な観光地理学の知識を中心に講義する。 (到達目標) 「地域」を数量的データを活用して分析し、理解し、表現する「数量的スキル」、「地域」の問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を確実に解決できる「問題解決力」、「地域」の情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる「論理的思考力」という汎用的技能3点と、地誌学の基本的な知識の体得を到達目標とする。
---------------------	---

授業スケジュール	次の項目を予定している。 〔前期〕 (1)(2)地誌学とは、(3)地域(等質地域、結節地域)、(4)スケール、(5)空間、(6)場所のイメージ、(7)~(9)景観、(10)地図表現、(11)~(15)日本の風土性(照葉樹林文化とフナ帯文化、日本の西と東、地域性など) 〔後期〕 (16)観光地理学の輪郭、(17)(18)社会現象としての観光、(19)~(21)観光地理学の視座、(22)~(30)観光地誌(温泉地、海水浴・マリリゾート、スキーリゾート、グリーンツーリズム、歴史的町並み、アーバンツーリズムなど)
----------	---

準備学習	日本各地の事例を紹介していくので、地図帳を用意するとよい(高校の時に利用したものでよい)。 YeStudyを活用するので、頻繁にアクセスすること。
------	--

履修上の留意点	毎回出席をとる。YeStudyを活用した課題や授業内の小レポートを科すことも多い。
---------	---

成績評価の方法	2/3以上の出席を前提とし、平常点60%、後期試験40%で採点する。
---------	------------------------------------

教科書/テキスト	特に定めない。
----------	---------

参考書	伊藤修一・鈴木晃志郎ほか編、2012『役に立つ地理学』古今書院。 そのほかの文献は各回の授業時に紹介する。
-----	--

その他	講義形式を基本とするが、皆さんに質問を投げかけることもあるので、主体的に参加してほしい。
-----	--

履修コード	037201 037202
科目名	地誌学概説 地誌学
担当者名	湯田 ミノリ

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インドネシア、特にジャカルタについて、様々な角度から理解を深めることを目指す。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期はインドネシアの地理的位置、自然環境、民族構成とジャカルタの成立を、後期は主にジャカルタの産業、人口、都市居住等の問題を取り上げる。</p> <p>(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的位置 (インドネシアの範囲、地理的位置と自然・人文環境との関係) ・自然環境 (地形、気候) ・多民族国家インドネシア成立の背景 ・植民地時代のジャカルタ ・インドネシア独立後ジャカルタの発展 <p>(後期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャカルタ首都圏における経済発展と産業 ・ジャカルタにおける人口動態と就業構造の変動 ・カンボンと都市居住政策
----------	---

準備学習	地図帳で、日本から見たインドネシアの位置や、インドネシアとその周辺国、インドネシア国内にどのような都市があるのかを確認しておいてください。
------	---

履修上の留意点	参加者には、何らかの具体的な現象に注目した上で、様々な視点からの理解や判断を編み出す努力を期待したい。さらには、休暇等を利用して自主的に海外などを旅行してほしい。
---------	---

成績評価の方法	試験と課題を実施します。また、この授業は出席が必須です。出席と試験・課題の配点の割合は50% 50%となります。
---------	--

教科書/テキスト	特に指定しない。
----------	----------

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修コード	304301
科目名	地誌学概説
担当者名	渡邊 盾夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>この講座は、教職科目である。受講する皆さんが教壇に立つ前に、自分自身で地誌学が何であるかを理解しておくことを目標として講義をする。</p> <p>世界の国々は、さまざまな風土を持ちその風土に適應してさまざまな人間活動が行われている。これらの人間活動が似た環境なのになぜ異なった人間活動をしているのかを、自然・社会環境を通して総合的に見て、比較することができるようにすることを目標として講義する。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	地誌は、ある場所を自然環境と社会環境の両面から見て考え比較する学問である。前期に自然環境の分野である地形や気候そして地形図などについて学習し、後期は、各大陸別に数ヶ国にわたって自然環境と社会環境を説明し、日本とそれぞれの国を比較する予定である。受講者は、必ず地図帳 (古くても可) を持参すること (地理や地誌では、地図帳は必須である)。
----------	---

準備学習	現在多くの日本人が世界各国で活動している。その活動している場所はどの様な場所なのか、その自然環境 (気候や地形など) や社会環境 (産業や宗教など) を考えるように心がけるようにすることである。
------	---

履修上の留意点	<p>現在、世界や日本では、どの様な自然現象 (気候変動による旱魃、洪水、砂漠化など) や社会現象 (環境問題、人口問題、領土問題など) が、どの国またはどの地域で起こっているのかをネット、新聞などをみて注目をしておくことである。</p> <p>講義は、こちらから口頭で内容を読み上げます。それを受講生がノートにとり、その内容の説明をしながらすすめます。休んだ時は、友達のノートを必ず参考にして、補充しておくこと。</p>
---------	---

成績評価の方法	年度末に定期試験 (80%) を実施する。これに出席の様子や課題提出 (20%) を加えて評価する。特に出席は実施数の2/3を必須とする。これ以下の出席の割合は採点の対象としません。答案は、受講生が記した内容を読んだ相手 (生徒) が理解できるかどうか、を判断の基準とする。
---------	---

教科書/テキスト	教科書・参考書については、特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布する。講義中はノートをとり、配布プリントの中に各自で必要項目を加えること、あわせて関連する本を案内する予定である。休んだ時のプリントは後で渡邊の処にとりに来ること。
----------	---

参考書	地理の完成 : 山川出版
-----	--------------

履修コード	003901 003902
科目名	中国仏教文化史
担当者名	程 正

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	インドで成立した仏教は中国においてどんな軌跡を描きながら受容され、そして自らのすがたを変えながら中国人の宗教として展開していったのか。こうした問題を意識しつつ、講義を進めていきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	ガイダンスを兼ねて、中国仏教文化のすがたとかたちについて考える(8~9回)。中国仏教史上における破仏、いわゆる「三武一宗」の法難について講義するとともに、『父母恩重経』をはじめとする中国で撰述された偽経も紹介し、これらの偽経の出現の文化史的意義を考える(12~13回)。仏典漢訳、写経、経典印刷、大蔵経の編纂など、いわゆる仏教經典の流布に促された仏教文化の発達について考える(8~9回)。
----------	--

準備学習	特になし。
履修上の留意点	資料を沢山配布するので、専用のノート、あるいはファイルを用意すること。配付資料とノートに基づいて復習すること。
成績評価の方法	夏休みの課題レポート(20%)、出席状況(20%)、期末試験(60%)を総合して評価する。
教科書/テキスト	プリント配布。
参考書	授業中適宜指示する。

履修コード	305301
科目名	哲学概説
担当者名	河谷 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業では哲学におけるいくつかの有名なパラドックス(逆説)やディレンマを取り上げて考えることで哲学の主要分野(存在論・認識論・倫理学)について概説することを目的とする。また、西洋哲学史の概略や基本的な哲学用語についても理解を深めてもらえるよう配慮したい。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論 2. 「ソクラテス以前の哲学」概説 3. ゼノンのパラドックス(1) 4. ゼノンのパラドックス(2) 5. ゼノンのパラドックス(3) 6. 「ソクラテスの哲学」概説 7. ソクラテスのパラドックス(1) 8. ソクラテスのパラドックス(2) 9. 「プラトンの哲学」概説 10. 探究のパラドックス(1) 11. 探究のパラドックス(2) 12. 「アリストテレス倫理学」概説 13. アリストテレスのアクラシア論(1) 14. アリストテレスのアクラシア論(2) 15. 前期授業内容の理解度の確認 16. 「中世哲学(キリスト教哲学)」概説 17. 悪の存在と神の存在(1) 18. 悪の存在と神の存在(2) 19. 自由意志と決定論(1) 20. 自由意志と決定論(2) 21. 現代倫理学概説(1) 22. 現代倫理学概説(2) 23. 囚人のディレンマ(1) 24. 囚人のディレンマ(2) 25. 囚人のディレンマ(3) 26. 論理学入門(1) 27. 論理学入門(2) 28. 嘘つきのパラドックス(1) 29. 嘘つきのパラドックス(2) 30. まとめ
----------	---

準備学習	授業で紹介した参考文献に目を通しておくことが望ましい。
履修上の留意点	
成績評価の方法	中間試験と期末試験(それぞれ40点満点)ならびに平常点との総合点で評価する。
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	233301 233302
科目名	哲学概説
担当者名	久保 陽一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	哲学は常識や科学と異なって、世界の全体を問う学問（世界観）であると同時に、世界の中で人間がいかに生きるべきか（人生観）を究明しようとするものである。我々は日常たえず意識しているとは限らないが、人生のふしぶしでそのような根本的な問題につきあたらざるをえない。その問題に対して完璧な正解を見つけるのは困難だが、講義では、少なくとも、その問題を考える視野を今までよりも広げることがめざす。
---------------------	---

授業スケジュール	当初は、世界観と人生観の諸問題を近現代の哲学に即して概観する。その後、個別のテーマについて本を読みながら、ゼミ形式で進める。 1 自然について (1) 2 自然について (2) 3 認識について (1) 4 認識について (2) 5 自由について 6 道徳について 7 社会について 8 歴史について 9～14 デカルト「方法叙説」を読む 15 理解度の確認 16～21 アラン「幸福論」を読む 22～29 カー「歴史とは何か」を読む 30 理解度の確認
----------	--

準備学習	デカルト等の本を読んでいく際に、毎回の報告担当者を決めるので、担当箇所について予習しておくこと。
------	--

履修上の留意点	色々な本を読み、自分でものごとを考え、文章でまとめるようにすること。
---------	------------------------------------

成績評価の方法	試験（前期と年度末）とレポート（8割）、平常点（2割）によって評価する。
---------	--------------------------------------

教科書／テキスト	
----------	--

参考書	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）ISBN4-7714-2002-5 久保陽一「生と認識」（知泉書館）
-----	--

履修コード	233201 233202
科目名	哲学概説
担当者名	末木 恭彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 哲学は西洋の独占物でない。西洋に啓発されてであるが、東洋にも独自の哲学の試みはなされている。本講義は、そのような東洋哲学を考察する。 (到達目的) 東洋哲学を媒介として、哲学とは何か理解を深める。
---------------------	--

授業スケジュール	近代中国の哲学の試みを、馮友蘭の新理学を取りあげ、そこから中国における近代哲学の試みを考察する。具体的には、馮友蘭の『新理学』を紹介する。
	第一回 ガイダンス
	第二回 中国の近現代哲学の概観 (前半)
	第三回 中国の近現代哲学の概観 (後半)
	第四回 馮友蘭の生涯 (誕生から留学まで)
	第五回 馮友蘭の生涯 (貞元六書の時代)
	第六回 馮友蘭の生涯 (其の晩年)
	第七回 『新理学』を読む (緒論前半)
	第八回 『新理学』を読む (緒論後半)
	第九回 『新理学』を読む (第一章前半)
	第十回 『新理学』を読む (第一章後半)
	第十一回 『新理学』を読む (第二章前半)
	第十二回 『新理学』を読む (第二章後半)
	第十三回 『新理学』を読む (第三章前半)
	第十四回 『新理学』を読む (第三章後半)
	第十五回 理解度の調査
	第十六回 『新理学』を読む (第四章前半)
	第十七回 『新理学』を読む (第四章後半)
	第十八回 『新理学』を読む (第五章前半)
	第十九回 『新理学』を読む (第五章後半)
	第二十回 『新理学』を読む (第六章前半)
	第二十一回 『新理学』を読む (第六章後半)
	第二十二回 『新理学』を読む (第七章前半)
	第二十三回 『新理学』を読む (第七章後半)
	第二十四回 『新理学』を読む (第八章前半)
	第二十五回 『新理学』を読む (第八章後半)
	第二十六回 『新理学』を読む (第九章前半)
	第二十七回 『新理学』を読む (第九章後半)
	第二十八回 『新理学』を読む (第十章)
	第二十九回 『新理学』を読む (第十章)
	第三十回 質疑応答・理解度の調査

準備学習	配付資料 (『新理学』の抄訳) を善く読み、疑問点を洗い出しておく。
履修上の留意点	ノートを確実にとる。
成績評価の方法	学年末の試験、もしくはレポートによる。
教科書/テキスト	『新理学』 (講師の作成した抄訳をコピーして配布する)
参考書	『馮友蘭自伝』 (吾妻重二訳) 全2冊、平凡社 中島隆博「ヒューマニティズ 哲学」、岩波書店

履修コード	078301
科目名	道徳教育の研究
担当者名	井上 勝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日の学校教育の課題は「生きる力」をもった生徒の育成であり、その要となるのが「心の教育」、道徳教育である。「道徳の時間」は学級担任が担当するものであり、道徳教育の指導理論・方法を習得することはすべての教員にとって不可欠のことである。 本講座では、学習指導要領に基づいて道徳教育の基本的な理論・方法について理解するとともに、「道徳の時間」の学習指導案の作成方法を習得し、道徳授業を担当できる実践的な指導力を習得することをねらいとする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の意義と課題 2. 道徳教育の基本構造 3. 戦前の道徳教育とその問題点 4. 戦後の道徳教育とその課題 5. 学習指導要領と道徳教育 6. 道徳資料の内容分析と学習指導案 (1) 内容分析と主題設定 7. 道徳資料の内容分析と学習指導案 (2) 内容分析と指導過程 8. 内容分析と学習指導案の作成 (1) 「主として自分自身に関すること」 9. 内容分析と学習指導案の作成 (2) 「主として他の人とのかかわりに関すること」 10. 内容分析と学習指導案の作成 (3) 「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」 11. 内容分析と学習指導案の作成 (4) 「主として集団や社会のかかわりに関すること」 12. 模擬授業 (1) 13. 模擬授業 (2) 14. 道徳授業の方法 15. 道徳教育の指導計画の作成、評価、他の教育活動との関連
----------	---

準備学習	第1回授業で資料を配付するので、配付された資料を熟読し、各資料毎に指示された課題について検討した上で、授業に出席すること。
------	---

履修上の留意点	道徳教育の基礎理論を学ぶと同時に、学習指導案の作成に重点を置き、直ちに「道徳の時間」の授業を担当できる指導力の養成をねらいとするので、授業への能動的な参加を望む。
---------	---

成績評価の方法	次の2つの観点から総合的に評価する。尚、レポートは必ず2回提出する。 ① 授業時の作業課題 (学習指導案等) ② レポート (2回)
---------	--

教科書／テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領解説—道徳編—』(日本文教出版)139円、ISBN978-4-536-59004-4
----------	---

参考書	金井肇『道徳授業の基本構造理論』(明治図書)2,100円、ISBN4-18-677501-X
-----	--

その他	授業中の飲食、携帯電話の使用、私語等の行為は厳禁するので、それに同意の上で受講すること。
-----	--

履修コード	078401
科目名	道徳教育の研究
担当者名	井上 勝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	今日の学校教育の課題は「生きる力」をもった生徒の育成であり、その要となるのが「心の教育」、道徳教育である。「道徳の時間」は学級担任が担当するものであり、道徳教育の指導理論・方法を習得することはすべての教員にとって不可欠のことである。 本講座では、学習指導要領に基づいて道徳教育の基本的な理論・方法について理解するとともに、「道徳の時間」の学習指導案の作成方法を習得し、道徳の授業を担当できる実践的な指導力を習得することをねらいとする。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の意義と課題 2. 道徳教育の基本構造 3. 戦前の道徳教育とその問題点 4. 戦後の道徳教育とその課題 5. 学習指導要領と道徳教育 6. 道徳資料の内容分析と学習指導案 (1) 内容分析と主題設定 7. 道徳資料の内容分析と学習指導案 (2) 内容分析と指導過程 8. 内容分析と学習指導案の作成 (1) 「主として自分自身に関すること」 9. 内容分析と学習指導案の作成 (2) 「主として他の人とのかかわりに関すること」 10. 内容分析と学習指導案の作成 (3) 「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」 11. 内容分析と学習指導案の作成 (4) 「主として集団や社会とのかかわりに関すること」 12. 模擬授業 (1) 13. 模擬授業 (2) 14. 道徳授業の方法 15. 道徳教育の指導計画の作成、評価、他の教育活動との関連
----------	--

準備学習	第1回授業で資料を配付するので、配付された資料を熟読し、各資料毎に指示された課題について検討した上で、授業に出席すること。
------	---

履修上の留意点	道徳教育の基礎理論を学ぶと同時に、学習指導案の作成に重点を置き、直ちに「道徳の時間」の授業を担当できる指導力の養成をねらいとするので、授業への能動的な参加を望む。
---------	---

成績評価の方法	次の2つの観点から総合的に評価する。尚、レポートは必ず2回提出する。 ① 授業時の作業課題 (学習指導案等) ② レポート (2回)
---------	--

教科書/テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領解説―道徳編―』(日本文教出版) 139円 ISBN978-4-536-59004-4
----------	---

参考書	金井肇『道徳授業の基本構造理論』(明治図書) 2,100円、ISBN4-18-677501-X
-----	---

その他	授業中の飲食、携帯電話の使用、私語等の行為は厳禁するので、それに同意の上で受講すること。
-----	--

履修コード	305601
科目名	道徳教育の研究
担当者名	井上 勝

授業概要/ 到達目標(ねらい)	今日の学校教育の課題は「生きる力」をもった生徒の育成であり、その要となるのが「心の教育」、道徳教育である。「道徳の時間」は学級担任が担当するものであり、道徳教育の指導理論・方法を習得することはすべての教員にとって不可欠のことである。 本講座では、学習指導要領に基づいて道徳教育の基本的な理論・方法について理解するとともに、「道徳の時間」の学習指導案の作成方法を習得し、道徳の授業を担当できる実践的な指導力を習得することをねらいとする。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 道徳教育の意義と課題 2. 道徳教育の基本構造 3. 戦前の道徳教育とその問題点 4. 戦後の道徳教育とその課題 5. 学習指導要領と道徳教育 6. 道徳資料の内容分析と学習指導案(1)内容分析と主題設定 7. 道徳資料の内容分析と学習指導案(2)内容分析と指導過程 8. 内容分析と学習指導案の作成(1)「主として自分自身に関すること」 9. 内容分析と学習指導案の作成(2)「主として他の人とのかかわりに関すること」 10. 内容分析と学習指導案の作成(3)「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」 11. 内容分析と学習指導案の作成(4)「主として集団や社会とのかかわりに関すること」 12. 模擬授業(1) 13. 模擬授業(2) 13. 道徳授業の方法 15. 道徳教育の指導計画の作成、評価、他の教育活動との関連
----------	--

準備学習	第1回授業で資料を配付するので、配付された資料を熟読し、各資料毎に指示された課題について検討した上で、授業に出席すること。
------	---

履修上の留意点	道徳教育の基礎理論を学ぶと同時に、学習指導案の作成に重点を置き、直ちに「道徳の時間」の授業を担当できる指導力の養成をねらいとするので、授業への能動的な参加を望む。
---------	---

成績評価の方法	次の2つの観点から総合的に評価する。尚、レポートは必ず2回提出する。 ① 授業時の作業課題(学習指導案等) ② レポート(2回)
---------	--

教科書/テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領解説―道徳編―』(日本文教出版)139円 ISBN978-4-536-59004-4
----------	--

参考書	金井肇『道徳授業の基本構造理論』(明治図書)2,100円、ISBN4-18-677501-X
-----	--

その他	授業中の飲食、携帯電話の使用、私語等の行為は厳禁するので、それに同意の上で受講すること。
-----	--

履修コード	078101
科目名	道徳教育の研究
担当者名	杉崎 洋一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	道徳教育は、学校教育全体を通して行われるものです。道徳教育は、学習指導要領を基にして、「道徳の時間」をはじめとし、各教科・総合的な学習の時間・特別活動のそれぞれの特質に応じて適切な指導が行われなければなりません。文献等に基づく理論的な研究だけでなく、VTRによる授業視聴、学習指導案の作成等を通して、学校教育における実践に役立つ指導力を身につけさせることをねらいとしています。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに、総則、道徳とは 2 道徳教育の基本的な在り方、道徳教育の目標 3 道徳教育の変遷 4 心の教育・道徳教育 5 「道徳の時間」の指導内容 内容項目 1・2 6 「道徳の時間」の指導内容 内容項目 3・4 7 「道徳の時間」の指導の実際 8 「道徳の時間」の学習指導案作成 9 「道徳の時間」の授業視聴 「偽りのバイオリン」 10 「道徳の時間」の授業視聴 「悲しみを越えて」 11 道徳教育と生活指導・特別活動 12 道徳教育の充実 (中央教育審議会 審議のまとめ) 13 自尊感情の育成 14 「道徳の時間」における情報モラルの指導 15 道徳教育の研究学習課題 定期試験
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	道徳教育における実践的指導力を身につけるために、授業後の感想の提出、学習指導案の作成等に積極的に取り組んでほしい。
成績評価の方法	出席状況、試験、学習指導案、授業における参加状況等を総合的に判断して評価します。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。
参考書	必要に応じて紹介します。

履修コード	078201
科目名	道徳教育の研究
担当者名	杉崎 洋一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	道徳教育は、学校教育全体を通して行われるものです。道徳教育は、学習指導要領を基にして、「道徳の時間」をはじめとし、各教科・総合的な学習の時間・特別活動のそれぞれの特質に応じて適切な指導が行われなければなりません。文献等に基づく理論的な研究だけでなく、VTRによる授業視聴、学習指導案の作成等を通して、学校教育における実践に役立つ指導力を身につけさせることをねらいとしています。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに、総則、道徳とは 2 道徳教育の基本的な在り方、道徳教育の目標 3 道徳教育の変遷 4 心の教育・道徳教育 5 「道徳の時間」の指導内容 内容項目 1・2 6 「道徳の時間」の指導内容 内容項目 3・4 7 「道徳の時間」の指導の実際 8 「道徳の時間」の学習指導案作成 9 「道徳の時間」の授業視聴 「偽りのバイオリン」 10 「道徳の時間」の授業視聴 「悲しみを越えて」 11 道徳教育と生活指導・特別活動 12 道徳教育の充実 (中央教育審議会 審議のまとめ) 13 自尊感情の育成 14 「道徳の時間」における情報モラルの指導 15 道徳教育の研究学習課題 定期試験
----------	---

準備学習	特になし。
履修上の留意点	道徳教育における実践的指導力を身につけるために、授業後の感想の提出、学習指導案の作成等に積極的に取り組んでほしい。
成績評価の方法	出席状況、試験、学習指導案、授業における参加状況等を総合的に判断して評価します。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。
参考書	必要に応じて紹介します。

履修コード	077901
科目名	道徳教育の研究
担当者名	藤木 篤典

授業概要/ 到達目標（ねらい）	21世紀は「心の世紀」といわれているが、教育現場をはじめ「いじめ」などの不適切な現象がみられ、社会問題となっている。 学校教育では、社会生活の中で、主体的に自己実現をはかる「生きる力」の育成が課せられている。 授業では、学習指導要領の「道徳」の趣旨にもとづき、道徳教育の内容・在り方や、指導力を身につけ、学習指導案の作成、指導方法などについて基本的課題を研究する。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 道徳教育の意義と歴史 2 道徳教育の変遷Ⅰ（戦前） 3 道徳教育の変遷Ⅱ（戦後） 4 道徳教員の復活と教育課程上の位置 5 道徳教育の目標Ⅰ（昭和33年～） 6 道徳教育の目標Ⅱ（昭和47年～） 7 道徳教育の目標Ⅲ（平成14年～） 8 道徳教育の目標Ⅳ（平成24年～） 9 「道徳」の指導案の作成Ⅰ（担任主導） 10 「道徳」の指導案の作成Ⅱ（生徒のアンケート等利用） 11 各教科と道徳 12 特別活動と道徳 13 総合的な学習の時間と道徳 14 道徳の評価 15 道徳教育の問題点と今後の課題
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領の「道徳」目標を読み理解する。 ・「道徳」とはということかも語源を調べておく。
履修上の留意点	指導案の作成をはじめ、積極的に広い視野を養い、指導力を身につけてほしい。
成績評価の方法	定期試験はしない。出席状況を重視し、学習指導案の作成等、総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説―道徳編―』（財務省印刷局）260円

履修コード	078001
科目名	道徳教育の研究
担当者名	藤木 篤典

授業概要/ 到達目標（ねらい）	21世紀は「心の世紀」といわれているが、教育現場をはじめ「いじめ」などの不適切な現象がみられ、社会問題となっている。 学校教育では、社会生活の中で、主体的に自己実現をはかる「生きる力」の育成が課せられている。 授業では、学習指導要領の「道徳」の趣旨にもとづき、道徳教育の内容・在り方や、指導力を身につけ、学習指導案の作成、指導方法などについて基本的課題を研究する。
--------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 道徳教育の意義と歴史 2 道徳教育の変遷Ⅰ（戦前） 3 道徳教育の変遷Ⅱ（戦後） 4 道徳教員の復活と教育課程上の位置 5 道徳教育の目標Ⅰ（昭和33年～） 6 道徳教育の目標Ⅱ（昭和47年～） 7 道徳教育の目標Ⅲ（平成14年～） 8 道徳教育の目標Ⅳ（平成24年～） 9 「道徳」の指導案の作成Ⅰ（担任主導） 10 「道徳」の指導案の作成Ⅱ（生徒のアンケート等利用） 11 各教科と道徳 12 特別活動と道徳 13 総合的な学習の時間と道徳 14 道徳の評価 15 道徳教育の問題点と今後の課題
----------	---

準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領の「道徳」目標を読み理解する。 ・「道徳」とはということかも語源を調べておく。
履修上の留意点	指導案の作成をはじめ、積極的に広い視野を養い、指導力を身につけてほしい。
成績評価の方法	定期試験はしない。出席状況を重視し、学習指導案の作成等、総合的に評価する。
教科書／テキスト	
参考書	文部科学省『中学校学習指導要領解説―道徳編―』（財務省印刷局）260円

履修コード	016801 016802 016803
科目名	東洋思想史
担当者名	末木 恭彦

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 中国の伝統思想、特に儒教の有り様を概説する。 (到達目標) 儒教のありように理解を深める。
---------------------	---

授業スケジュール	直線的に歴史把握を行うのではなく、儒学の根本文獻(経)についての理解を深め、各経の歴史的發展を並行的に把握することとする。手掛りとしては、江戸時代の儒者荻生徂徠の『經史子要覽』を用いる。『經史子要覽』の言説を読み、それに現代の視点からの補説を行う。この作業を通じて、儒学の経とは何か理解を深めていく。 第一回 ガイダンス 第二回 荻生徂徠について 第三回 『經史子要覽』について 第四回 総論 (儒学における漢代と宋代) 第五回 総論 (小学の変遷) 第六回 総論 (詩・書・古文辞) 第七回 総論 (緯、鄭玄) 第八回 毛詩 (毛詩の言われ) 第九回 毛詩 (詩大伝、二代三王と考古的実在) 第十回 毛詩 (周の封建、四詩・六義) 第十一回 毛詩 (微言と含蓄、宋儒の詩解) 第十二回 毛詩 (詩の歴史元代まで) 第十三回 毛詩 (詩の歴史元代以降) 第十四回 毛詩 (其他詩についての雑論) 第十五回 前期の理解度の調査 第十六回 尚書 (尚書の構成、近文古文) 第十七回 尚書 (六体、訳) 第十八回 尚書 (其他書についての雑論) 第十九回 禮記 (三禮について) 第二十回 禮記 (日本儒学が禮を欠くこと) 第二十一回 禮記 (禮についての雑論) 第二十二回 禮記 (楽について) 第二十三回 易 (占いの書から理論書に) 第二十四回 易 (經史子要覽解説) 第二十五回 春秋 (漢書藝文志解説) 第二十六回 春秋 (三伝と春秋の注釈) 第二十七回 論語 第二十八回 孝経 第二十九回 経部のまとめ 第三十回 後期の理解度調査
----------	--

準備学習	「經史子要覽」を善く読んでおく。
履修上の留意点	予習をして来て欲しい。テキストの疑問点を整理して授業に臨んで欲しい。その疑問点の解明を中心として、授業を展開する予定である。
成績評価の方法	平常の受講態度と学年末レポートによる。(受講人数によっては、試験にすることもある。) 追試はしない。
教科書/テキスト	『經史子要覽』 (コピーを配布する)
参考書	関口順『儒学のかたち』 (東大出版会) 竹内照夫『四書五経』 (平凡社<東洋文庫>)

履修コード	087201
科目名	読書と豊かな人間性
担当者名	松尾 不二夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 読書は豊かな人間性を育てることと深いかわりを持つことは自明のことである。また、読書は教育課程全般にかかわる重要な要素である。現代社会を生きる児童生徒の発達や、読書材が多様化している現状に即した読書教育の理念や意義を考え、読書活動の支援のあり方、子どもと本とを結びつけ読書の楽しめとともに読書の生活化を身につけさせる方法を学ぶ。
---------------------	---

(到達目標)
この科目の到達目標は、人間形成に大きくかかわる読書の意義を考え、読書が教育課程全般に関わる重要な要素であることについて理解し、児童生徒に読書習慣を身につけさせる基本的な知識や方法の習得にある。そして、児童生徒に対して現在行なわれている読書についてのさまざまな取り組みを知るとともに、子どもの本に興味を持って幅広く読む姿勢を身につけ、また、読書活動の一つである「読みきかせ」の技能を具体的に体得する。

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義予定や評価等について説明する。 (2) 提出物について説明する。 (3) 「読みきかせ」を行なう方法や選書について説明する。 2 I 読書の意義 3 II 子どもの読書の現状と課題 (学校読書調査報告より) 4 III 読書環境の整備～資料の種類・法律・法規・施策等～ 5 IV 子どもの発達段階と読書①～読書能力・読書興味の発達～ 6 子どもの発達段階と読書②～学年別読書の傾向～ 7 V 学校教育の中の読書①～学校教育の中での読書活動のあり方～ 8 学校教育の中の読書②～読書指導・読書教育について～ 9 VI 読書への誘い①～読書指導の概容と読書指導計画の作成～ 10 読書への誘い②～読書活動の諸方法～ 11 読書への誘い③～子どもと本を結ぶために～ 12 読書への誘い④～読書後の指導～ 13 VII 読書材の選択と提供～資料の選択方針と規準～ 14 VIII 家庭・学校・地域との連携 15 IX 全体のまとめ <p>※演習(学生による読みきかせ)</p>
----------	---

準備学習	子どもの本を多く読むこと。
履修上の留意点	講義回数の70%以上出席でき、積極的な姿勢で授業に臨める学生。「読みきかせ」の実技演習とその選書について説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。
成績評価の方法	【平常点・レポート・提出物(30%)】・【試験(70%)】を総合して評価する。ただし、出席が不足する場合は評価の対象外となる。
教科書/テキスト	特に指定しない。随時プリントを配布。
参考書	「シリーズ学校図書館学」編集委員会編『読書と豊かな人間性』(全国学校図書館協議会 1,500円) ISBN978-4-7933-2245-7
その他	実技演習「読みきかせ」がある。 この科目の受講は下記の1、2を修了してからが望ましい。 1、学校経営と学校図書館(前期) 2、学習指導と学校図書館(前期)

履修コード	087301
科目名	読書と豊かな人間性
担当者名	松尾 不二夫

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 読書は豊かな人間性を育てることと深いかわりを持つことは自明のことである。また、読書は教育課程全般にかかわる重要な要素である。現代社会を生きる児童生徒の発達や、読書材が多様化している現状に即した読書教育の理念や意義を考え、読書活動の支援のあり方、子どもと本とを結びつけ読書の楽しみとともに読書の生活化を身につけさせる方法を学ぶ。
---------------------	---

到達目標	(到達目標) この科目の到達目標は、人間形成に大きくかかわる読書の意義を考え、読書が教育課程全般に関わる重要な要素であることについて理解し、児童生徒に読書習慣を身につけさせる基本的な知識や方法の習得にある。そして、児童生徒に対して現在行なわれている読書についてのさまざまな取り組みを知るとともに、子どもの本に興味を持って幅広く読む姿勢を身につけ、また、読書活動の一つである「読みきかせ」の技能を具体的に体得する。
------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス <ol style="list-style-type: none"> (1) 講義予定や評価等について説明する。 (2) 提出物について説明する。 (3) 「読みきかせ」を行なう方法や選書について説明する。 2 I 読書の意義 3 II 子どもの読書の現状と課題 (学校読書調査報告より) 4 III 読書環境の整備～資料の種類・法律・法規・施策等～ 5 IV 子どもの発達段階と読書①～読書能力・読書興味の発達～ 6 V 子どもの発達段階と読書②～学年別読書の傾向～ 7 V 学校教育の中の読書①～学校教育の中での読書活動のあり方～ 8 V 学校教育の中の読書②～読書指導・読書教育について～ 9 VI 読書への誘い①～読書指導の概念と読書指導計画の作成～ 10 VI 読書への誘い②～読書活動の諸方法～ 11 VI 読書への誘い③～子どもと本を結ぶために～ 12 VI 読書への誘い④～読書後の指導～ 13 VII 読書材の選択と提供～資料の選択方針と規準～ 14 VIII 家庭・学校・地域との連携 15 IX 全体のまとめ <p>※演習(学生による読みきかせ)</p>
----------	--

準備学習	子どもの本を多く読むこと。
------	---------------

履修上の留意点	講義回数の70%以上出席でき、積極的な姿勢で授業に臨める学生。「読みきかせ」の実技演習とその選書について説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。
---------	---

成績評価の方法	【平常点・レポート・提出物(30%)】・【試験(70%)】を総合して評価する。ただし、出席が不足する場合は評価の対象外となる。
---------	---

教科書/テキスト	特に指定しない。随時プリントを配布。
----------	--------------------

参考書	「シリーズ学校図書館学」編集委員会編『読書と豊かな人間性』(全国学校図書館協議会 1,500円) ISBN978-4-7933-2245-7
-----	--

その他	<p>実技演習「読みきかせ」がある。</p> <p>この科目の受講は下記の1、2を修了してからが望ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、学校経営と学校図書館 (前期) 2、学習指導と学校図書館 (前期)
-----	--

履修コード	079011
科目名	特別活動論
担当者名	井上 勝

授業概要/
到達目標（ねらい）

特別活動とは、学校の集団活動を通して生徒の個性の伸長と社会的資質の育成をねらいとする活動であり、具体的には学級・ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動などである。特別活動の指導は教科指導以外のほとんどの領域・機能を含んでおり、このため、その指導は学級・ホームルーム担任の主要な職務と重なるものである。
本講座では、特別活動の基礎理論を理解するとともに、受講者の小中高校での学校生活のpositiveな体験を事例として取り上げ、事例研究を中心として具体的な指導の在り方や方法を理解し、学級・ホームルーム担任としての実践的指導力を習得することをねらいとする。

授業スケジュール

1. 特別活動の意義とその変遷
2. 特別活動の内容とその特質
3. 特別活動とエンカウンター、ソーシャル・スキル教育
4. 学級・ホームルーム活動の内容と指導
5. 学級・ホームルーム活動の指導の実際（事例研究）
6. 生徒会活動の内容と指導
7. 生徒会活動の指導の実際（事例研究）
8. 学校行事の内容と指導
9. 学校行事の指導の実際（事例研究）
10. クラブ・部活動の内容と指導
11. クラブ・部活動の指導の実際（事例研究）
12. 特別活動と生徒指導
13. 特別活動と教育相談、ガイダンス
14. 特別活動とボランティア活動
15. 特別活動の指導計画の作成、評価、まとめ

準備学習

中学、高校時代に生徒として体験した特別活動の内容についての記憶を整理し、事例発表ができるように準備しておくこと。

履修上の留意点

受講者の小中高校での特別活動のpositiveな体験を事例とする事例研究を中心にして授業を行うので、発表、討論等への積極的な参加を求める。

成績評価の方法

- 次の2つの観点から総合的に評価する。尚、レポートは2回必ず提出する。
1. 授業時の作業課題（事例研究等）
 2. レポート（2回）

教科書／テキスト

次のどちらかを用意する。
 文部科学省『中学校学習指導要領解説-特別活動編-』（ぎょうせい）114円
 ISBN: 9784324900031
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説-特別活動編-』（海文堂）210円
 ISBN: 9784303126308

参考書

国分康孝『エンカウンター』（誠信書房）2100円、ISBN-10: 441440309X

その他

1. 授業は事例研究、受講者による事例発表に基づく、討論形式の授業を中心に行う。
2. 授業中の飲食、携帯電話の使用、私語等の行為は厳禁するので、それに同意の上で受講すること。

履修コード	079111
科目名	特別活動論
担当者名	井上 勝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>特別活動とは、学校の集団活動を通して生徒の個性の伸長と社会的資質の育成をねらいとする活動であり、具体的には学級・ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動などである。特別活動の指導は教科指導以外のほとんどの領域・機能を含んでおり、このため、その指導は学級・ホームルーム担任の主要な職務と重なるものである。</p> <p>本講座では、特別活動の基礎理論を理解するとともに、受講者の小中高校での学校生活のpositiveな体験を事例として取り上げ、事例研究を中心として具体的な指導の在り方や方法を理解し、学級・ホームルーム担任としての実践的指導力を習得することをねらいとする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の意義とその変遷 2. 特別活動の内容とその特質 3. 特別活動とエンカウンター、ソーシャル・スキル教育 4. 学級・ホームルーム活動の内容と指導 5. 学級・ホームルーム活動の指導の実際 (事例研究) 6. 生徒会活動の内容と指導 7. 生徒会活動の指導の実際 (事例研究) 8. 学校行事の内容と指導 9. 学校行事の指導の実際 (事例研究) 10. クラブ・部活動の内容と指導 11. クラブ・部活動の指導の実際 (事例研究) 12. 特別活動と生徒指導 13. 特別活動と教育相談、ガイダンス 14. 特別活動とボランティア活動 15. 特別活動の指導計画の作成、評価、まとめ
----------	---

準備学習	<p>中学、高校時代に生徒として体験した特別活動の内容についての記憶を整理し、事例発表ができるように準備しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>受講者の小中高校での特別活動のpositiveな体験を事例とする事例研究を中心にして授業を行うので、発表、討論等への積極的な参加を求める。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>次の2つの観点から総合的に評価する。尚、レポートは2回必ず提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時の作業課題 (事例研究等) 2. レポート (2回)
---------	---

教科書/テキスト	<p>次のどちらかを用意する。</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説-特別活動編-』(ぎょうせい) 114円 ISBN:9784324900031</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説-特別活動編-』(海文堂) 210円 ISBN:9784303126308</p>
----------	--

参考書	<p>国分康孝『エンカウンター』(誠信書房) 2100円、ISBN-10:441440309X</p>
-----	---

その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は事例研究、受講者による事例発表に基づく、討論形式の授業を中心に行う。 2. 授業中の飲食、携帯電話の使用、私語等の行為は厳禁するので、それに同意の上で受講すること。
-----	---

履修コード	305711
科目名	特別活動論
担当者名	井上 勝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>特別活動とは、学校の集団活動を通して生徒の個性の伸長と社会的資質の育成をねらいとする活動であり、具体的には学級・ホームルーム活動、学校行事、生徒会活動などである。特別活動の指導は教科指導以外のほとんどの領域・機能を含んでおり、このため、その指導は学級・ホームルーム担任の主要な職務と重なるものである。</p> <p>本講座では、特別活動の基礎理論を理解するとともに、受講者の小中高校での学校生活のpositiveな体験を事例として取り上げ、事例研究を中心として具体的な指導の在り方や方法を理解し、学級・ホームルーム担任としての実践的指導力を習得することをねらいとする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 特別活動の意義とその変遷 2. 特別活動の内容とその特質 3. 特別活動とエンカウンター、ソーシャル・スキル教育 4. 学級・ホームルーム活動の内容と指導 5. 学級・ホームルーム活動の指導の実際 (事例研究) 6. 生徒会活動の内容と指導 7. 生徒会活動の指導の実際 (事例研究) 8. 学校行事の内容と指導 9. 学校行事の指導の実際 (事例研究) 10. クラブ・部活動の内容と指導 11. クラブ・部活動の指導の実際 (事例研究) 12. 特別活動と生徒指導 13. 特別活動と教育相談、ガイダンス 14. 特別活動とボランティア活動 15. 特別活動の指導計画の作成、評価、まとめ
----------	---

準備学習	<p>中学、高校時代に生徒として体験した特別活動の内容についての記憶を整理し、事例発表ができるように準備しておくこと。</p>
------	---

履修上の留意点	<p>受講者の小中高校での特別活動のpositiveな体験を事例とする事例研究を中心にして授業を行うので、発表、討論等への積極的な参加を求める。</p>
---------	--

成績評価の方法	<p>次の2つの観点から総合的に評価する。尚、レポートは2回必ず提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時の作業課題 (事例研究等) 2. レポート (2回)
---------	---

教科書/テキスト	<p>次のどちらかを用意する。</p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領解説-特別活動編-』 (ぎょうせい) 114円 ISBN:9784324900031</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説-特別活動編-』 (海文堂) 210円 ISBN:9784303126308</p>
----------	--

参考書	<p>国分康孝『エンカウンター』 (誠信書房) 2100円、ISBN-10:441440309X</p>
-----	--

その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は事例研究、受講者による事例発表に基づく、討論形式の授業を中心に行う。 2. 授業中の飲食、携帯電話の使用、私語等の行為は厳禁するので、それに同意の上で受講すること。
-----	---

履修コード	078811
科目名	特別活動論
担当者名	杉崎 洋一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「特別活動」は「為すことによって学ぶ」といわれています。「生きる力」を育むためには、塾や予備校では教えることのできない特別活動の果たす役割は重要です。 この授業では、学習指導要領を基にして、「特別活動」の特質や、教育的意義、目標、内容及び指導方法等について、理論と実践の両面から講義します。「特別活動」は、特に実践的な面が重要ですから、活動内容や指導方法等に具体的な資料を活用して、教師としての「特別活動」の実践的な指導力を身につけることをねらいとしています。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに、教育基本法、学習指導要領、特別活動とは 2 特別活動の目標、特別活動の歴史の変遷 3 特別活動の教育的意義、特別活動の内容、諸活動等の目標 4 学級（ホームルーム）活動の特質と内容、指導の実際 5 生徒会活動の特質と内容、部活動、ボランティア活動 6 学校行事の特質と内容 7 特別活動年間計画例、進路指導 8 横断的・総合的な学習 9 教育課題1 国際理解教育・帰国生徒教育 10 教育課題2 生徒指導上の諸問題1 (学級崩壊) 11 教育課題2 生徒指導上の諸問題2 (不登校、いじめ等) 12 教育課題3 食育 13 特別活動の評価・学校評価 14 今後の課題と展望1 15 今後の課題と展望2 <p>特別活動論学習課題 定期試験</p>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	特別活動における実践的な指導力を身につけるために、授業後の感想の提出、学習指導案の作成等に積極的に参加してほしい。
成績評価の方法	出席状況、試験、学習指導案、及び授業における参加状況等を総合的に判断して評価します。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。
参考書	必要に応じて紹介します。

履修コード	078911
科目名	特別活動論
担当者名	杉崎 洋一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「特別活動」は「為すことによって学ぶ」といわれています。「生きる力」を育むためには、塾や予備校では教えることのできない特別活動の果たす役割は重要です。 この授業では、学習指導要領を基にして、「特別活動」の特質や、教育的意義、目標、内容及び指導方法等について、理論と実践の両面から講義します。「特別活動」は、特に実践的な面が重要ですから、活動内容や指導方法等に具体的な資料を活用して、教師としての「特別活動」の実践的な指導力を身につけることをねらいとしています。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに、教育基本法、学習指導要領、特別活動とは 2 特別活動の目標、特別活動の歴史の変遷 3 特別活動の教育的意義、特別活動の内容、諸活動等の目標 4 学級（ホームルーム）活動の特質と内容、指導の実際 5 生徒会活動の特質と内容、部活動、ボランティア活動 6 学校行事の特質と内容 7 特別活動年間計画例、進路指導 8 横断的・総合的な学習 9 教育課題1 国際理解教育・帰国生徒教育 10 教育課題2 生徒指導上の諸問題1 (学級崩壊) 11 教育課題2 生徒指導上の諸問題2 (不登校、いじめ等) 12 教育課題3 食育 13 特別活動の評価・学校評価 14 今後の課題と展望1 15 今後の課題と展望2 <p>特別活動論学習課題 定期試験</p>
----------	---

準備学習	特になし
履修上の留意点	特別活動における実践的な指導力を身につけるために、授業後の感想の提出、学習指導案の作成等に積極的に参加してほしい。
成績評価の方法	出席状況、試験、学習指導案、及び授業における参加状況等を総合的に判断して評価します。
教科書／テキスト	教科書は特に指定しません。講義の進行に合わせてプリントを配布します。
参考書	必要に応じて紹介します。

履修コード	078611
科目名	特別活動論
担当者名	藤木 篤典
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>特別活動は、知育のみを重視せず、バランスのとれた豊かな人間性を育む徳育を目指している。「いじめ」や不登校の問題をはじめ、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、高齢化・少子化のもと、集団活動をとおして、好ましい人間関係を築き、個人の自覚と責任ある態度を身につけることを目的としている。</p> <p>特別活動の内容、指導原理、指導計画・方法について学び、実践的な指導力を養成することを目的とする。</p>
授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動の意義・目的、ガイダンスについて 2 特別教育活動の歴史の変遷 3 特別活動の歴史の変遷 4 特別活動の内容と他教科との関連 5 学級活動 6 ホームルーム活動 7 生徒会活動Ⅰ (文化部関係) 8 生徒会活動Ⅱ (体育部関係) 9 学校行事の意義と活用Ⅰ (文化部) 10 学校行事の意義と活用Ⅱ (体育部) 11 学校行事の意義と活用Ⅲ (修学旅行) 12 学校行事の意義と活用Ⅳ (防災・安全教育) 13 クラブ活動・部活動 14 ボランティア活動と地域との連携 15 特別活動の評価、課題と展望
準備学習	○中学校および高等学校の特別活動の構成および中・高におけるそれぞれの活動名称と指導内容の違いについて理解しておく。
履修上の留意点	特別活動の役割と内容を理解し、指導計画の作成や、指導内容・方法などについて、実践的な指導力を身につけてほしい。
成績評価の方法	出席状況、特に指導案作成に重点を置き総合的に判断し、評価する。
教科書／テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説—特別活動編—』(財務省印刷局) 70円</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説—特別活動編—』(東山書房) 126円</p>
参考書	教師養成研究会 教職課程講座 6『特別活動の理論と方法—改訂版—』江川ピン成編 (学芸図書株式会社) 1,260円

履修コード	078711
科目名	特別活動論
担当者名	藤木 篤典

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	特別活動は、知育のみを重視せず、バランスのとれた豊かな人間性を育む徳育を目指している。 「いじめ」や不登校の問題をはじめ、国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、高齢化・少子化のもと、集団活動をとおして、好ましい人間関係を築き、個人の自覚と責任ある態度を身につけることを目的としている。 特別活動の内容、指導原理、指導計画・方法について学び、実践的な指導力を養成することを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動の意義・目的、ガイダンスについて 2 特別教育活動の歴史的変遷 3 特別活動の歴史的変遷 4 特別活動の内容と他教科との関連 5 学級活動 6 ホームルーム活動 7 生徒会活動Ⅰ(文化関係) 8 生徒会活動Ⅱ(体育関係) 9 学校行事の意義と活用Ⅰ(文化) 10 学校行事の意義と活用Ⅱ(体育) 11 学校行事の意義と活用Ⅲ(修学旅行) 12 学校行事の意義と活用Ⅳ(防災・安全教育) 13 クラブ活動・部活動 14 ボランティア活動と地域との連携 15 特別活動の評価、課題と展望
----------	---

準備学習	○中学校および高等学校の特別活動の構成および中・高におけるそれぞれの活動名称と指導内容の違いについて理解しておく。
------	---

履修上の留意点	特別活動の役割と内容を理解し、指導計画の作成や、指導内容・方法などについて、実践的な指導力を身につけてほしい。
---------	---

成績評価の方法	出席状況、特に指導案作成に重点を置き総合的に判断し、評価する。
---------	---------------------------------

教科書／テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領解説―特別活動編―』(財務省印刷局)70円 文部科学省『高等学校学習指導要領解説―特別活動編―』(東山書房)126円
----------	--

参考書	教師養成研究会 教職課程講座6『特別活動の理論と方法―改訂版―』江川ビン成編(学芸図書株式会社)1,260円
-----	--

履修コード	044301 044302
科目名	日本考古学概説
担当者名	酒井 清治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	この授業は、考古学とは何かを理解してもらうため、前半は考古学の歴史とどのような学問かを講義し、後半は日本考古学の時代史として旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代について講義する。 日本の考古学は発掘も膨大にあり日々新しい資料も蓄積されている。その資料はどのような意味があるのか、資料からどのようなことが分かるのか、日本の考古学の中に位置づけ考古学とは何かを理解してもらう。
---------------------	---

授業スケジュール	考古学の研究史、研究法および、遺跡・遺物を時代を追って取り上げ、日本考古学を時代史的に概観する。(1~2) 考古学とは何か、(3~6) 考古学の研究史、(7~10) 資料解釈の研究法、(11~14) 年代論、(15~18) 旧石器時代、(19~22) 縄文時代、(23~26) 弥生時代、(27~30) 古墳時代。前期は授業の初めに最新発掘資料の写真・図を見ながら考古学の理解を深めてもらう。
----------	--

準備学習	博物館や図書館で考古学資料を見ることにより、考古学の時代的特色を把握することができ、講義の内容を理解しやすいので実施して欲しい。 授業時に資料を配付するので目を通してほしい。
------	--

履修上の留意点	遅刻厳禁、私語厳禁。特に私語について、授業を受けている学生の迷惑になるのでやめると。
---------	--

成績評価の方法	定期試験(80%)、レポート(10%)、平常点(10%)。
---------	-------------------------------

教科書／テキスト	教科書は特にないが、授業で逐次資料を配付する。
----------	-------------------------

参考書	安藤雅雄『考古学キーワード』(有斐閣)2100円 ISBN9784641058774 山岸良二『入門者のための考古学教室』(同成社)1900円 ISBN9784886213723C1021 鈴木公雄『考古学入門』(東大出版社)2940円 ISBN9784130230520 そのほか授業中に解説しながら紹介する。
-----	---

その他	講義の中でOHPを使用し、図や写真あるいは実物資料を利用し理解を深める。
-----	--------------------------------------

履修コード	304801
科目名	日本史概説
担当者名	菅野 洋介

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、社会科教員になる上で最低必要な日本史に関する知識や考え方について学ぶものである。主に、日本史の流れを多角的にとらえることを主眼とする。また史料を紹介しながら、歴史研究の基本的な立場を示す。
---------------------	---

授業スケジュール	主に戦国時代から明治時代までを対象として、様々なテーマを取り上げ講義する。前期は歴史学のおかれた状況や様々な学説にふれながら、主に戦国時代から江戸時代半ばまでを中心に講義する。後期は前期の内容をふまえ、江戸時代後半から明治初期までを講義する。なお古代史や近代史についても補足的に取り上げる。この他、地域研究のあり方についても紹介し、日本史研究のおかれた状況に言及する。
----------	--

・前期

- (1) 日本史研究の動向 (2) 時代区分をめぐる問題 (3) 自然環境の変遷
(4) 古代国家の形成と展開 (5) 鎌倉幕府の成立と展開 (6) 建武新政について
(7) 室町幕府の成立と展開 (8) 応仁の乱から戦国時代へ (9) 織田・豊臣政権の特徴
(10) 惣撫事をめぐる社会動向 (11) 関ヶ原の合戦と近世国家 (12) 大坂の陣の諸前提
(13) 寛永期の諸課題 (14) 地域史研究①

・後期

- (1) 家綱政権と幕政 (2) 綱吉政権の諸政策 (3) 享保改革の地域政策
(4) 田沼政権について (5) 寛政の改革について
(6) 化政文化の展開～江戸の成熟をめぐる～ (7) 海防問題の顕在化
(8) 天保改革の特徴 (9) 幕末政局の諸課題①～嘉永期から安政期まで～
(10) 幕末政局の諸課題②～文久期から慶応期まで～
(11) 戊辰戦争①～鳥羽伏見から会津戦争以前～
(12) 戊辰戦争②～会津戦争から箱館戦争まで～ (13) 近代国家の特徴
(14) 地域研究② (15) まとめ

準備学習	高等学校の日本史教科書の内容を確認しておくこと。
履修上の留意点	授業中の私語をつつしむ。
成績評価の方法	出席・レポートで評価する。
教科書／テキスト	講義内容にあわせて随時紹介する。
参考書	

履修コード	056401 056402
科目名	日本史概説
担当者名	小泉 雅弘

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	『高等学校学習指導要領解説』地理歴史編を念頭に置いて、近世から近代の日本の歴史について概説する。その際、政治・社会・文化・経済・外交などの関連性を重視したい。
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期は、近世国家の形成過程と解体について講義する。後期は、主に明治維新を契機とする近代国民国家の成立、展開過程を取り扱う。</p> <p>〔前期〕</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス (2) 時代区分の考え方、織田信長政権 (3) 豊臣秀吉による天下統一 (4) 江戸幕府の成立 (5) 幕藩体制 (6) 鎖国(海禁)政策① (7) 鎖国(海禁)政策② (8) 身分制社会と町・村① (9) 身分制社会と町・村② (10) 徳川の平和と秩序 (11) 元禄時代 (12) 享保の改革 (13) 田沼時代 (14) 寛政の改革 (15) 欧米列強の接近 <p>〔後期〕</p> <ol style="list-style-type: none"> (16) 天保の改革 (17) 諸藩の改革 (18) 開国と日米修好通商条約の調印 (19) 将軍継嗣問題と桜田門外の変 (20) 文久期の政治状況 (21) 倒幕運動の展開 (22) 新政府の発足 (23) 版籍奉還と廃藩置県 (24) 明治の3大改革 (25) 明治六年政変 (26) 国境の画定 (27) 士族反乱と自由民権運動 (28) 帝国憲法と初期議会 (29) 日清・日露戦争 (30) まとめ
----------	---

準備学習	高校のときに日本史Bを履修しなかった学生は、高校の教科書を熟読しておくこと。また、授業中に紹介する文献を読み、歴史的背景の把握につとめること。
------	---

履修上の留意点	歴史的事象を個別のものとして捉えるのではなく、広い視野で考える姿勢を身につけてほしい。
---------	---

成績評価の方法	定期試験で評価し、出席状況を加味する。
---------	---------------------

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	講義内容にあわせて随時紹介する。
-----	------------------

履修コード	304901
科目名	日本史概説
担当者名	鈴木 雅晴

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	歴史学の目的と意義について講義を行ったうえで、古代から近現代にいたる日本の歴史の大きな流れをとらえ、各時代における歴史的事象について、当該期における政治・社会・経済状況などと関連づけながら理解することを目的とする。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~3) 歴史学の目的と意義、(4~5) 日本文化の黎明と古代王権の成立、(6~8) 律令国家の成立と貴族政治の展開、(9~10) 武士の台頭と武家社会の形成、(11~12) 武家社会の展開と動乱、(13~15) 統一政権の樹立と幕藩制国家の確立、(16~18) 江戸時代の農村と人びとの暮らし、(19~21) 江戸時代の文化とその展開、(22~24) 幕藩体制の動揺と近代国家誕生への胎動、(25~26) 近代国家の成立と展開、(27~28) 立憲国家形成とその進展、(29~30) 資本主義の発展と世界大戦の勃発
----------	---

準備学習	事前の準備は必要ありませんが、講義を受けた後に理解を深めるように復習をすること。
------	--

履修上の留意点	日本史の知識の蓄積だけを目的とするのではなく、総合的な知識を動員して考究する姿勢を望む。
---------	--

成績評価の方法	年度末に行う定期試験によって評価する。
---------	---------------------

教科書/テキスト	教科書の指定はしない。適宜、必要な資料の配布をする。
----------	----------------------------

参考書	講義の内容に応じて随時紹介する。
-----	------------------

履修コード	056301 056302
科目名	日本史概説
担当者名	野尻 かおる

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義は、考古学を始めとする人文科学の研究を志す学生、または将来教職につくことを希望する学生に対し、下記の事項を通して、歴史を研究すること、または日本史を教授することの意義を理解することが目的であり、いわゆる高校の教科書のような通史の講義は実施しない。講義に当たっては、古文書・記録・編纂物・金石文等の史料を中心に考古資料、絵画資料、民俗資料等を使用して進める。また、近世・近代を研究するに当たって必須の課題である身分差別の歴史もあわせて指導する。なお、数回、課題を与え、講義の内容に関するアンケートを実施する予定。
---------------------	--

授業スケジュール	一、空間から見た近世近代〔江戸・東京という都市及びその近郊を事例とする〕（1～6）。二、モノから見た近世近代〔石造物等を事例とする〕（7～10）。三、人から見た近世近代〔人生儀礼、特に生と死にまつわる歴史を事例とする〕（11～15）。四、近世身分社会の基礎知識（16～19）。五、絵画資料に現れた近世近代〔景観や習俗等を例に〕（20～24）。六、社会組織から見た近世近代〔祭礼・講等を事例に〕（25～30）。
----------	--

準備学習	特別に要しないが、課題を与えた際は、期限までに準備し提出すること。
履修上の留意点	質問等の発言は歓迎するが私語は慎む事。
成績評価の方法	定期試験及び出席状況。
教科書／テキスト	講義資料を配布する。
参考書	地方史研究協議会編『江戸・東京近郊の史的空間』2003年（雄山閣）、5,985円、ISBN 4-639-01825-8、メタ・アーケオロジー研究会『考古学リーダー3 近現代考古学の射程～今なぜ近現代を語るのか～』、2005年（六一書房）、ISBN4-947743-25-5、都市史研究会『年報 都市史研究』1～、1993年～2011年、山川出版、3,880円、ISBN 4-634-61910-5他、斎藤洋一・大石慎三郎講談社現代新書『身分差別社会の真実―新書・江戸時代〈2〉』1995年、（講談社）、735円、ISBN978-4-06-149258-5 ※その他、講義ごとに紹介する。
その他	講義資料は原則として講義毎に配布する。無断欠席した講義の資料は原則として用意しないので注意の事。

履修コード	232701 232702
科目名	日本宗教文化史
担当者名	小川 順敬

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日本の他界観、生死観の変遷を考える。多くの文化は自分たちが生きているこの世界の他に、もう一つ別の世界や空間を創り出してきました。それは私たちに、いかに生き、いかに死ぬかという問題を考えさせる文化装置として機能してきたと言えます。ここでは、日本の民俗宗教や仏教がもたらした他界のイメージが、生と死の文化装置として、どの様に具体化されてきたのか、すなわち他界という見えない世界がどのように表現され演出されてきたのかを考えてみることにしたいと思います。</p> <p>(到達目標) 最初に他界観の前提としての日本人の靈魂観について述べ、日本人の生死観についてみておきたいと思います。その上で、様々な「他界」について紹介・検討して行きます。山中他界や海上他界、あるいは浄土や地獄がどのように現出されているのか。様々な聖地や、民俗行事(祭礼や儀礼)、寺院行事、また物語、芸能などを題材(ビデオ等使用する予定)として、この世では見えないはずの他界が、この世でどのように表現されてきたのかを見て行きたいと思います。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. この授業の目標・進め方・約束事について 2. 日本人の靈魂観 3. 山岳宗教と他界観 4. 恐山と靈魂観 5. 立山信仰 その1 6. 立山信仰 その2 7. 他界をつなぐ装置 8. 地獄と極楽 9. 地藏信仰 10. 浄土世界の演出 その1 11. 浄土世界の演出 その2 12. 儀礼にみる浄土世界 13. 女人往生の思想 14. 女性と宗教 15. 前期のまとめ 16. 迎講と民俗 17. 当麻と二上山 その1 18. 当麻と二上山 その2 19. 臨終と往生の演出 20. 臨終行儀 21. 説話にみる往生 その1 22. 説話にみる往生 その2 23. 観音信仰 24. 観音浄土の聖地 その1 25. 観音浄土の聖地 その2 26. 補陀落渡海 27. 弥勒の浄土 28. 弥勒信仰とユートピア 29. 現代社会と他界 30. 後期のまとめ
----------	---

準備学習	配布する関連資料に必ず眼を通してください。
履修上の留意点	
成績評価の方法	年度末レポートおよび平常点で評価します。
教科書／テキスト	教科書は用いない。なお授業の内容にそって資料を配布します。
参考書	参考書はその都度紹介します。

履修コード	004001 004002
科目名	日本仏教文化史
担当者名	藤井 淳

授業概要/到達目標 (ねらい) 日本における仏教の役割について、外国との関係および建築・美術や文学・風習など文化面に焦点を当てながら理解を深める。

授業スケジュール (前期)
 1 イントロダクション, 2 現代と日本仏教文化, 3 古墳時代・飛鳥時代, 4 白鳳時代, 5~6 奈良時代 (対外関係・東大寺と正倉院), 7~10 平安時代 (遣唐使と国風文化・源氏物語・平家納経・奥州平泉・総説), 11~14 鎌倉時代 (元寇と禅僧・総説), 15 前期総説
 (後期)
 16 視聴覚資料, 17 南北朝時代, 18~20 室町時代 (能・茶・建築), 21 神道と仏教
 22 戦国時代, 23 安土桃山時代, 24 キリスト教と仏教, 25~26 江戸時代, 27 明治, 28 大正・昭和, 29 現代, 30 総説
 以上は進行の目安であって、適宜前後することは了承されたい。なお日本史の授業ではなく、該当する時代の仏教文化に焦点を当てたものである。

準備学習 授業で該当する時代を、授業の前に参考書を含めて、ネットなどでも情報を積極的に集めることで知識を深めておくことで授業の内容がより血肉化するので予習を心がけること。

履修上の留意点 日本史に関する全般的な流れ (細かい知識は問わない) を前提として講義するので、日本史の知識が不十分なものは授業で該当する時代の『詳説日本史研究』 (佐藤信編、山川出版社、2500円、ISBN: 978-4634011014) もしくは高校時代の日本史の教科書を読んで予習しておくこと。Yesstudyを用いて資料の配布等を行うのでYesstudyを使えるようになっておくこと。課題の実行のためにコピー代・交通費・展覧会など費用が発生するので注意すること。

成績評価の方法 出席状況を考慮しつつ、基本的には学年末の定期試験によって評価する。その他に仏教文化を実際に見聞した体験をレポートとして提出してもらう。

教科書/テキスト 資料集として『詳説日本史図録』 (第4版 山川出版社、890円、ISBN: 978-4634025240) を用いる。教科書は指定しないが以下の参考書を読んでおくこと。

参考書 松尾剛次『仏教入門』 (岩波ジュニア新書、861円、ISBN: 978-4005003228)
 末木文美士『日本仏教史』 (新潮文庫、620円、ISBN: 978-4101489117)

その他 学生時代は能や文楽など日本の伝統芸能を約半額の料金で楽しめる時期である。公演などを授業中に適宜案内するが、受講者はそれらを積極的に鑑賞して伝統文化と現代の関わりについて考えてほしい。また急速に消え去りつつある地方の伝統文化についても時間に余裕のある大学生時代に大いに触れてほしい。

履修コード	047111 047112
科目名	日本文化史
担当者名	廣瀬 良弘

授業概要/到達目標 (ねらい) (授業概要)
 日本文化の歴史が、当時の社会の生産の仕組みや政治・経済・宗教などと深く関わりあったことに留意しながら、朝廷・公家・武家のみならず民衆が文化の創造に大きな役割を果たしていたことを明らかにしていきたいと思えます。そして、この日本文化は現代においても、多くは底流として、また、ときには、「日本の代表的な文化」として、存在しています。現代の文化と対比しながら、検討していきたいと思えます。
 (到達目標)
 日本の文化・歴史に関する知識を社会との関係から深めることを目標とします。

授業スケジュール 日本文化の流れを概観し、民衆の躍動やその文化が顕著になってくる中世の文化を中心にその前後の文化にも注目しながら、文化の様相と特色について見ていきます。
 ・日本文化史概観、・中世文化史研究の動向 (1, 2)、・鎌倉仏教と文化 (3~5)、・禅宗と五山文化 (6, 7)、・南北朝から室町期の文化 (8, 9)、・北山文化の展開 (10, 11)、・東山文化とその基盤 (12~15)、・中世の職能民 (16, 17)、・連歌師の旅 (18, 19)、・戦国社会と宗教 (18, 19)、・戦国社会の駆込寺 (20~22)、・大名領国の文化 (23, 24)、・統一政権とその文化 (25, 26)、・近世文化史研究の動向と寛永文化 (27~30)

準備学習 日頃から日本の芸能や工芸品等に強い関心を示し、博物館等によく出かけて下さい。

履修上の留意点 講義の中に出てきた事項について、図書館の蔵書や辞書などで調べ直してみたり、現地に行ってみたりすることが必要です。また、日本文化や歴史、宗教などをテーマとする博物館・美術館などの展示会を積極的に観覧し、できるかぎり「実物」に接する機会を持って下さい。受講する上では図書館所蔵の文化史・美術史に関する資料・ビデオ等を大いに活用することをすすめます。なお、本学の禅文化歴史博物館での文化史関連展示会の見学と学芸員による説明会を実施します。

成績評価の方法 定期試験の結果と授業の出欠を重視します。定期試験では一般論を回答しても正解とならないことが多いので注意して下さい。つまり授業に出席し、しっかりとしたノートができていないと合格点は取れません。

教科書/テキスト とくに指定しません。必要な資料は随時コピーを配布します。

参考書 講義内容に関する博物館・研究所などを随時提示して行きます。

履修コード	017101 017102 017103
科目名	日本民俗学
担当者名	谷口 貢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して、日本社会に展開する生活文化を追究する学問である。地域社会に伝承されてきた民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していきたい。
---------------------	---

授業スケジュール	(1~2) 民俗学とは (3~5) 民俗学の流れと現在 (6~7) 家族生活と住まい (8~10) 食をめぐる民俗 (11~12) 村と町のなりたち (13~15) 若者と一人前 (16~18) 婚姻と出産・子育ての民俗 (19~21) 女性・子ども・老人の民俗 (22~24) 葬送儀礼と先祖祭祀 (25~27) 里と海・山のなりわい (28~29) 祭りと年中行事 (30) 民俗宗教の諸相
----------	---

準備学習	教科書の該当箇所を事前に目を通しておくことが望ましい。
------	-----------------------------

履修上の留意点	夏期レポート及び小レポートを実施する予定。
---------	-----------------------

成績評価の方法	学年末に実施する筆記試験、それに夏期レポートと小レポートの合計をもって評価を行う。出席を重視する。
---------	---

教科書/テキスト	谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義-生活文化へのアプローチ-』2006年刊(八千代出版) 2,100円(税込)、ISBN 4-8429-1405-X
----------	---

参考書	講義内容を発展させるための参考文献は講義の中で紹介していきたい。
-----	----------------------------------

履修コード	056701 056702
科目名	博物館概論 博物館学I (概論)
担当者名	湯浅 隆 太田 喜美子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	現在の博物館を取り巻く諸事情・経緯を、大掴みできるようにする。 到達目標は、これからの博物館につき、自分自身の指針をもつためのスタートラインに立てるまでになる、こととする。
---------------------	---

授業スケジュール	(1) 学芸員課程設置科目の構成と変遷 (2) 博物館の定義 (3) 博物館の種類 (4) 博物館の館種 (1) 総合・人文社会系 (5) 博物館の館種 (2) 自然科学系 (6) 博物館の施設・設備 (7) 学芸員の職務 (8) 西欧博物館史 (1) 古代~啓蒙主義の時代 (9) 西欧博物館史 (2) 近代博物館 (10) 日本博物館史 (1) 明治維新~20世紀前半 (11) 文化財の概念 (1) 万博・古社寺保存法~20世紀前半の法体系 (12) 日本博物館史 (2) 20世紀後半 (13) 博物館の現状 (14) 文化財の概念 (2) 文化財保護法 (15) 類縁機関(図書館・文書館)
----------	--

準備学習	報道機関が発する博物館の動向にたえず注意をはらう習慣をつけることが必要です。
------	--

履修上の留意点	資格課程の授業であると自覚して出席すること。
---------	------------------------

成績評価の方法	レポート、および授業中に尋ねる質問への回答を合算する。
---------	-----------------------------

教科書/テキスト	授業中に、資料を配付する。
----------	---------------

参考書	
-----	--

その他	機会をつくり、博物館の参観に出かけること。
-----	-----------------------

履修コード	056801 056802
科目名	博物館学II(資料論) 博物館資料論
担当者名	岸上 興一郎

授業概要/ 到達目標(ねらい)	<p>(授業概要) 博物館園創設時の目標に沿って収集された人文・自然資料は、学芸員の手によって研究・展示公開・保存そして研究と循環する。学芸員は専門職として常に資料と向き合う環境にある。指定文化財を扱う法的な対処も大切である。国内法・国際法を加味させながら、博物館で扱う資料とは何であるかを問う。</p> <p>(到達目標) 学芸員は学んできた専門知識を中核に置き、広い視野で隣接研究分野を知る必要がある。それは特に資料の展示公開や講座、他館園との交流などの際に生かされる。人文・自然資料がもつ基礎的な特性を習得する機会としてほしい。</p>
--------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館学における資料論の位置づけ(1) 2. 博物館学における資料論の位置づけ(2) 3. 博物館の生い立ちと博物館法でいう資料とは 4. 公立博物館の設置及び運営上の望ましい基準 5. 文化財保護法(1) 6. 文化財保護法(2) 7. 公開承認施設に関する規程 8. 博物館をあらゆる人に解放する最も有効な方法に関する勧告(ユネスコの勧告) 9. 希少動植物の保護ーワシントン条約ー 10. 文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査について(1) 11. 文化財を支える用具・原材料の確保に関する調査について(2) 12. 博物館資料の分類 13. 資料台帳の作成ー資料からの情報をいかに整理し、記録表現するかー 14. 博物館資料の保存と修復 15. 博物館の展示室、収蔵庫における保存環境について
----------	---

準備学習	大学の「禪文化歴史博物館」を見学すること。回を重ねることによって資料の扱われ方、展示の方法などが理解できよう。日常報道される文化財ならびに関連記事に注意を払うこと。
------	--

履修上の留意点	学芸員の資格を取得するための科目です。真摯な心で臨んでください。遅刻は原則認めない。欠席届けは前もって提出すること。突発的な場合は後日提出すること。
---------	--

成績評価の方法	レポート(6回出題)75%、提出日厳守。平常点25%とする。
---------	--------------------------------

教科書/テキスト	(財)日本博物館協会『博物館関係法令集』
----------	----------------------

参考書	使用しない。必要に応じて関係資料を作成し配布する。
-----	---------------------------

履修コード	056901
科目名	博物館学III (経営論・情報論)
担当者名	岸上 興一郎

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 博物館の経営者は独立行政法人、地方公共団体、財団法人、公益財団法人、会社、NPO法人、個人などである。さらには指定管理者制度(地方自治法第244条2)下におかれている館園もあり、経営形態はさまざまであるが、共通するのは各館園は創設目標に沿い資料を収集し、研究展示し、来観者に知的満足を得ていただく方策を建てる点である。ただ経営評価に関しては観覧者数など数的評価が主流となり、質的評価は後退している。経営論は、このような今日的課題を絡めながら展開する。</p> <p>ペリーが江戸幕府へもたらした電信機。150年が過ぎ去った。今日では机上の機器操作により、たどるところに世界の情報が得られる。博物館では、学芸員は所蔵資料から秘めた情報を学術的に抽出し、そのデータを形式知化し、組織の共有財産とすると同時に館情報として開示する。著作権などを含め、情報に関する基礎論を展開する。</p> <p>(到達目標) 博物館における経営・情報に関する基礎知識を身につけると共に、その知識をより豊富にするため研鑽してほしい。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館経営と学芸員 2. 博物館経営と利用料金制度 3. 経営論の基礎一ひと一 4. 経営論の基礎一管理運営計画の策定一 5. 予算の構成 6. 教育普及活動 7. 指定管理者制度(1) 8. 指定管理者制度(2) 9. 博物館における情報の基礎 10. マルチメディア・著作権法 11. 博物館資料のデータベース化(1)一暗黙知と形式知化一 12. 博物館資料のデータベース化(2) 13. 報道機関の情報 14. 博物館人の倫理(イコム職業倫理規定1) 15. 博物館人の倫理(イコム職業倫理規定2)
----------	---

準備学習	各種報道機関が報じる博物館ならびに関連情報に注意を払うこと。
履修上の留意点	学芸員の資格を取得する科目です。真摯な心で臨んでください。遅刻は原則認めない。欠席届けは前もって提出すること。突発的な場合は後日提出すること。
成績評価の方法	レポート(4回提出)60%、提出日厳守。平常点40%とする。
教科書/テキスト	(財)日本博物館協会『博物館関係法令』
参考書	使用しない。必要に応じて関係資料を作成し配布する。

履修コード	057001
科目名	博物館実習I(館務)
担当者名	湯浅 隆 寺前 直人 太田 喜美子

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>博物館学講座の最終課程を担う科目です。</p> <p>現場において先任者との協働のもとで、博物館の将来像を見据えた提言・行動ができるようになるため、必須とされる実務能力の基礎を修得します。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>グループに分かれ、複数の担当教員のもと、さまざまな項目を同時並行して行ないます。</p> <p>前期:(1~15)実習館決定に伴う具体的な事前準備、学内における展示実習案の作成。 (8~13)資料の実測や真撮影、歴史資料の取扱い、など。</p> <p>夏期:館園における実習、学内催事におけるスタッフ経験。</p> <p>後期:(16~24)展示実習の準備・実施(11月後半~12月)。 (16~21、25~30)館園実習経験の共有をとおし、さまざまな種類の博物館のありようを把握します。</p>
----------	---

準備学習	博物館学I・II・III、博物館実習IIIの内容を正確に掴み、そのうえで当面する課題に自分なりの対峙の仕方をたえず考えてください。
履修上の留意点	<p>実習科目であるため、課された課題すべてに参加することが原則として必要です。課される課題とは、配当された授業時間における出席、1ないし2週間の館園実習、課題を達成するための授業時間以外における活動などです。</p> <p>事前のガイダンスに出席し履修を申し出たうえで所定の課題をこなした者、そして博物館学I・II・III、博物館実習IIIの単位取得者のみ、履修が可能です。</p>
成績評価の方法	学芸員として要求される資質・能力の習得程度を、あらゆる角度からみて評価します。
教科書/テキスト	特定のものはありません。
参考書	実習館が決ったら、その博物館の『要覧・年報』・ホームページを熟読してください。
その他	この科目では、社会人としての行動を求めます。

履修コード	057101
科目名	博物館実習II (収集)
担当者名	太田 喜美子 久保田 昌希 佐々木 真 中野 達哉 瀧音 能之 國見 徹 熊本 史雄

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	博物館活動の主たる3本柱のうち「博物館資料の収集」の方法を習得する。 人々が永い年月守り伝えてきた、有形無形の「物」が、実習を通して「物」から「博物館資料」へと変わっていく過程の一部分を学ぶ。 併せて、人々の思いを汲み取り、歴史を立体的にしていく。
---------------------	--

授業スケジュール	前期 ・実習先決定。各担当教員の専門分野別に講義と実習。 ・実習地の歴史・地名の由来、資料研究などの事前学習。 ・写真撮影・資料整理などの実技。 後期 (実習終了後) ・収集資料の整理・原稿作成などのまとめ。
----------	---

実習は、9月末～10月末の間、各班6泊7日で実施予定。
今年度予定している実習は
1、長野県佐久市望月町での近世文書調査と周辺市町村の石仏調査
2、長野県飯田市周辺での石仏収集調査

準備学習	周辺の文化に興味をもち、調べておくこと
履修上の留意点	第1回目の授業に必ず出席すること。
成績評価の方法	授業態度・実習評価・出席状況
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	057201
科目名	博物館実習III (見学)
担当者名	太田 喜美子 松本 信道 酒井 清治

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	博物館を、立地・建物・資料合せ、全体として捉える見学方法を学んでいく。 現役学芸員による解説と博物館関連科目で得た知識を深く理解し、自分なりの博物館観・学芸員観を常に更新していくこと。
---------------------	---

授業スケジュール	A～Dの4組の場合 (第1回目の授業で、組分け) 全組共通自由見学2回終了後 A・B組は、前期中の日曜日に4回、教員引率のもと、団体見学を行う。その後、自由見学を4回 行い、計10館の見学をする。 C・D組は、後期の水曜日に4回、教員引率のもと団体見学を行う。その後、自由見学を4回 行い、計10館の見学をする。
----------	---

準備学習	授業以外にも、博物館へ見学に行くこと
履修上の留意点	履修希望者は、第1回目の授業に必ず出席のこと
成績評価の方法	レポート点・実習・授業態度での評価
教科書/テキスト	
参考書	

履修コード	017801 017802 017803
科目名	美術史概説
担当者名	北野 良枝

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要) 日本絵画の流れを主要なジャンルや流派ごとに概観する。絵画の歴史を理解するにあたって、作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。 (到達目標) 日頃接する機会の少ない日本の近世以前の絵画に対する理解を深めることを目標とする。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>前期 平安時代から室町時代の絵画 (1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識 (3) ~ (5) 仏教絵画 (6) ~ (8) 絵巻物 (9) ~ (10) 肖像画 (11) ~ (15) 室町時代の水墨画 後期 室町末から江戸時代の絵画 (16) ~ (20) 狩野派 (21) ~ (24) 琳派 (25) ~ (26) 浮世絵 (27) ~ (28) 南蘋派と洋風画 (29) ~ (30) 江戸から明治へ</p>
----------	--

準備学習	授業で使用する資料をYeStudyに掲載するので、各自ダウンロードして持参すること。
履修上の留意点	授業中の私語は厳禁。
成績評価の方法	学年末に試験を実施し、その得点によって評価する。
教科書/テキスト	
参考書	
その他	YeStudyを活用する。

履修コード	070801
科目名	福祉科教育法
担当者名	桐原 宏行

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>(授業概要)</p> <p>本授業は、人権教育を含む福祉科教育の目的、福祉科の各科目の内容、授業計画、教材研究、授業の基本的指導技術等への理解を深め、福祉科教師としての資質の向上を目指すものである。</p> <p>(到達目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校福祉科の教育課程の編成について理解すること。 ・高校福祉科の各科目の教育内容を理解すること。 ・高校福祉科の教案が作成できるようになること。 ・授業の実践力を身につけること。
---------------------	--

授業スケジュール	<p>第1回 授業のすすめ方</p> <p>第2回 人権教育と福祉科教育の目標</p> <p>第3回 教育課程の編成</p> <p>第4回 学習指導要領の理解</p> <p>第5回 時間割の編成</p> <p>第6回 各科目の指導目標の理解</p> <p>第7回 教科「福祉」における教育評価の視点</p> <p>第8回 教科「福祉」における教育評価の方法</p> <p>第9回 授業の組み立て方の理解</p> <p>第10回 学習指導計画の構成</p> <p>第11回 教材研究と開発・学習指導案の作成1 (社会福祉基礎)</p> <p>第12回 教材研究と開発・学習指導案の作成2 (介護福祉基礎)</p> <p>第13回 教材研究と開発・学習指導案の作成3 (コミュニケーション技術)</p> <p>第14回 教材研究と開発・学習指導案の作成4 (生活支援技術)</p> <p>第15回 教材研究と開発・学習指導案の作成5 (介護過程)</p> <p>第16回 教材研究と開発・学習指導案の作成6 (介護総合演習)</p> <p>第17回 教材研究と開発・学習指導案の作成7 (介護実習)</p> <p>第18回 教材研究と開発・学習指導案の作成8 (こころとからだの理解)</p> <p>第19回 教材研究と開発・学習指導案の作成9 (福祉情報活用)</p> <p>第20回 模擬授業1 (社会福祉基礎)</p> <p>第21回 模擬授業2 (介護福祉基礎)</p> <p>第22回 模擬授業3 (コミュニケーション技術)</p> <p>第23回 模擬授業4 (生活支援技術)</p> <p>第24回 模擬授業5 (介護過程)</p> <p>第25回 模擬授業6 (介護総合演習)</p> <p>第26回 模擬授業7 (介護実習)</p> <p>第27回 模擬授業8 (こころとからだの理解)</p> <p>第28回 模擬授業9 (福祉情報活用)</p> <p>第29回 模擬授業検討会</p> <p>第30回 総括</p>
----------	--

準備学習	・模擬授業では、事前に作成した教案を配布するため、各自内容をよく読み込み、検討会の際に見解が示せるようにしておくこと。
------	---

履修上の留意点	この授業は福祉科教師を目指す上で不可欠な科目である。授業では、高校「福祉」の各科目について、各自が作成した授業指導案(教案)に沿って、ロールプレイによる模擬授業を実施し、それをもとに議論していくことを中心とするため、無断欠席は厳禁である。
---------	---

成績評価の方法	教案の提出(50%)、模擬授業の実施(30%)、平常点(20%)による総合評価とする。
---------	---

教科書/テキスト	桐原宏行編著、『福祉科教育法』、三和書籍、ISBN4-916037-63-4 C3036、2,400円+税
----------	---

参考書	高等学校学習指導要領解説 福祉編、文部科学省
-----	------------------------

履修コード	006201 006202
科目名	仏教美術
担当者名	村松 哲文

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>仏像の歴史について、信仰的な背景と照らし合わせながら概観する。本年度は、奈良と京都の寺院ごとに仏像を考察する。6世紀、我が国に伝来した仏教は瞬く間に日本に根付き、絢爛たる仏教文化を構築した。こうした中で、仏像の制作は時代を経るごとに発展していくが、様々な要因から仏像の表現は変化する。この変化の過程を各寺院で所蔵されている仏像を概観しながら、その特徴を把握していくことが本講義の目標である。</p> <p>古代寺院の代表である法隆寺の仏像は、中国や朝鮮半島の影響を大きく受けて制作されている、その後平安時代になると平等院に代表される仏像のように日本独自の表現が確立する。こうした仏像表現の相違点について、スライドやDVDなどを用いて講義する。</p> <p>また本講義では、仏像から制作者の心情に迫り、芸術という側面だけではなく、信仰という側面に留意して話を進める。なおインド・中国・朝鮮半島の仏教美術については「総合I(3) 仏教と芸術」で講義し、鎌倉時代以降の絵画については「禅美術」で講義する。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>【前期】 仏像鑑賞の基礎 (1~3) , 飛鳥時代 (4~8) , 白鳳時代 (9~11) , 天平時代 (12~15)</p> <p>【後期】 平安前期 (16~18) , 平安中期 (19~21) , 平安後期 (22~24) , 鎌倉時代 (25~27) , 仏像制作の技法 (28~30)</p> <p>以上は予定であり、関連する他の仏像について適時解説する。</p>
----------	---

準備学習	都内近郊の博物館・美術館に行き、多くの仏像を鑑賞すること。
履修上の留意点	美術館・博物館・寺院に行き、多くの仏像を観察するように努めてもらいたい。仏教美術関連の展覧会には、必ず足を運ぶこと。
成績評価の方法	定期試験と出席率、レポートなどで総合評価する。
教科書／テキスト	プリントを配布する。
参考書	『かわいい、キレイ、かっこいい、たのしい仏像のみかた』 (日本文芸社)、その他については講義中に紹介する。

履修コード	006301 006302
科目名	仏教民俗学
担当者名	佐藤 憲昭

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	(授業概要) 仏教文化には、縁起や空を中心とする教義仏教と、葬祭や祈祷を中心とする民俗仏教との異なる2つのレベルがある。この講座では、民俗仏教の意味と役割について、教義仏教との関連のものと考えてみたい。
---------------------	--

	(到達目標) 受講生は、宗教文化の捉え方を踏まえて、仏教文化に見られる異なる2つのレベルと、これら両レベルの関係について、それぞれ説明することができる。さらに、両レベルを媒介している仏僧の宗教的意味と役割および仏僧の宗教的威力の源泉について、解説をすることができる。
--	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 仏教学・民俗学・宗教人類学から見た仏教文化 3 いわゆる未開社会の宗教の特徴と文明化社会の宗教の特徴 4 宗教的エリートとマス 5 宗教集団における宗教的エリートとマス 6 原始宗教・民族宗教・世界宗教における宗教的エリートとマス 7 上座部仏教における宗教的エリートとマス 8 大乘仏教における宗教的エリートとマス 9 教義宗教と民俗宗教 10 教義仏教と民俗仏教 11 日本人の宗教的志向性 12 表の宗教と裏の宗教 13 アニミズム 14 プレ・アニミズム 15 前期の総括 16 呪術と宗教 17 呪術・宗教的職能者の分類 18 開眼式・点眼式・入魂式 19 仏僧の祈祷とシャーマンの祈祷 20 仏僧とシャーマンとの相互補完関係 21 仏僧の先祖供養と檀信徒の先祖供養 22 釈尊降誕会 23 涅槃会 24 盂蘭盆会 25 彼岸会 26 仏僧の宗教的威力の源泉 27 籠りの意味するもの 28 神の憑霊による聖なる人 29 仏の出現による聖なる人 30 後期の総括
----------	--

準備学習	授業内容に関連する「文献」を紹介するので、熟読しておくこと。ここで「文献」というのは、「教科書」「著書」「論文」「配布プリント」などを指しているが、具体的な指示は授業時に行う。
------	--

履修上の留意点	出席をとるので、欠席をする場合、または欠席をした場合には、欠席届（形式は任意）を提出することが望ましい。
---------	--

成績評価の方法	定期試験の成績70%、平常点30%とする。追試験は実施する。なお、4年生（希望者のみ）に関しては、レポートを提出してもらいが、それは次の通りである。〔課題〕仏教民俗学・宗教人類学に関する論文または教科書を含む図書を読み、その感想文を作成する。〔字数〕2000字。〔提出先と時期〕12月までの授業時に随時受けつける。〔その他〕ワープロ作成可。ただし、授業時以外は受理しない。
---------	--

教科書/テキスト	佐々木宏幹『仏教—生活仏教のダイナミズム—』春秋社、ISBN984-4-642-06368-5、定価（本体1900円＋税）。
----------	--

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------

履修コード	065201 065202
科目名	保健福祉論
担当者名	山本 哲也

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	本講義では、地域保健、地域福祉の実践に欠かすことのできない、保健・福祉の連携システムの概要と、同システムにおける保健・福祉従事者の役割を学び、そこでの福祉従事者の活動内容について理解することをねらいとする。
---------------------	---

授業スケジュール	本講義では、保健・福祉の連携システムの実際について、事例をとおして学習していく。具体的には、まず、保健・福祉が連携して関わる必要のある事例を呈示する。次に、その事例の中に登場する用語等について概説する。また、事例に登場する対象者を理解する事、事例に関わる制度について知る事を目的に講義を行う。最後に、その事例対象者を支える保健・福祉の連携システムについて概説する。
----------	--

- | | | | |
|------|---------------|------------|---------|
| 第1回 | オリエンテーション | 第2回 | 保健・福祉とは |
| 第3回 | 小児保健・福祉 (1) | 低出生体重児の誕生① | |
| 第4回 | 小児保健・福祉 (1) | 低出生体重児の誕生② | |
| 第5回 | 小児保健・福祉 (1) | 低出生体重児の誕生③ | |
| 第6回 | 小児保健・福祉 (1) | 低出生体重児の誕生④ | |
| 第7回 | 小児保健・福祉 (1) | 低出生体重児の誕生⑤ | |
| 第8回 | トピックス1 | 育児ストレス | |
| 第9回 | 小児保健・福祉 (2) | 障害児への支援① | |
| 第10回 | 小児保健・福祉 (2) | 障害児への支援② | |
| 第11回 | 小児保健・福祉 (2) | 障害児への支援③ | |
| 第12回 | 小児保健・福祉 (2) | 障害児への支援④ | |
| 第13回 | 小児保健・福祉 (2) | 障害児への支援⑤ | |
| 第14回 | トピックス2 | 子育て支援 | |
| 第15回 | まとめ | | |
| 第16回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防① | |
| 第17回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防② | |
| 第18回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防③ | |
| 第19回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防④ | |
| 第20回 | 老年期の保健・福祉 (1) | 介護予防⑤ | |
| 第21回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護① | |
| 第22回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護② | |
| 第23回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護③ | |
| 第24回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護④ | |
| 第25回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護⑤ | |
| 第26回 | 老年期の保健・福祉 (2) | 介護⑥ | |
| 第27回 | 終末期の保健・福祉 (3) | 緩和ケア① | |
| 第28回 | 終末期の保健・福祉 (1) | 緩和ケア② | |
| 第29回 | 終末期の保健・福祉 (1) | 緩和ケア③ | |
| 第30回 | まとめ | | |

準備学習	毎時間、次の時間の準備のための課題を課す。
履修上の留意点	講義のみでなく、各自が考え、学び、理解できるように、各自の意見を問う内容を含む授業を行うので、そのつもりで受講すること。
成績評価の方法	出席状況、授業中のミニレポート、課題レポート及び試験の結果により総合的に評価する。
教科書/テキスト	必要に応じ、授業時に指定する。
参考書	必要に応じ、その都度指示する。
その他	・30分以上の遅刻は入室を認めないので、そのつもりで受講すること。 ・4年次生で、就職活動により欠席する場合も、特別な配慮はしないので、そのつもりで受講すること。

履修コード	017901 017902 017903
科目名	民間信仰論
担当者名	谷口 貢

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成す様々な世界には、どのような意味があるのかを追究していくことにしたい。そして、民俗学の視点から民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義について考察を加える。
---------------------	--

授業スケジュール	(1~3) 民間信仰研究とフィールドワーク、(4~5) 民間信仰の性格、(6~10) 伊豆諸島青ヶ島の神祭りと言葉マニズム(巫俗)、(11~15) シャーマニズム(巫俗)の諸相、(16~18) 山岳信仰の性格、(19~23) 福島県会津地方の神社参拝の講義団、(24~25) 民間信仰の性格と既成宗教との関係、(26~28) 憑霊信仰の諸相、(29~30) 死霊結婚の習俗
----------	--

準備学習	講義内容に基づくレポート試験で成績評価を行うので、ノートを各自まとめておくこと。
履修上の留意点	
成績評価の方法	学年末の課題レポートに基づいて成績評価を行う。出席を重視する。
教科書/テキスト	教科書は使用しない。必要に応じてプリントを用意して配付する。
参考書	授業で随時紹介する。

履修コード 232801 232802

科目名 民衆宗教成立史

担当者名 鈴木 一馨

授業概要/
到達目標 (ねらい)

(授業概要)

民衆宗教は、世俗の中に生きるひとひとが既成宗教の体系にとらわれずに、そのさまざまな願望に応じたものごとを取り入れながら形成したものである。この講義では、陰陽道を視点としながら、日本の民衆宗教の形成について学ぶ。

(到達目標)

この講義の到達目標は、ひとびとにとって宗教とはなぜ必要とされるのかという問題と、世界宗教や既成宗教(宗派・教団)と民衆との関係、民衆宗教の形成、民衆宗教に関する現在の言説や一般的理解における知識と学問的な結論の違いなどをそれぞれ理解するところにある。すなわち前期に日本の宗教的環境や陰陽道の形成とそれを支える中国的宇宙論について基礎的な知識を講説し、後期はその基礎に立って陰陽道の実像と民衆宗教との関係について学ぶ。そして、両者を併せて民衆宗教の形成のされ方と、同時に自分達がどのように民衆宗教と関わっているのかについて説明できる能力を身に付けることを目標とする。

授業スケジュール

1. 講義方針の説明
2. 「民衆宗教」とはなにか
3. 日本宗教における陰陽道の位置
4. 陰陽寮の形成
5. 陰陽寮の仕組
6. 「陰陽」概念の伝来
7. 「陰陽の術」と陰陽道
8. 世界の根本としての「気」
9. 「気」のはたらきとしての「陰陽」
10. 世界の広がりとしての「五行」(1)
11. 世界の広がりとしての「五行」(2)
12. 現在の暦と昔の暦
13. 暦を成り立たせる世界観
14. 日本における暦の変遷
15. 「旧暦」の仕組
16. 「吉日」と「凶日」
17. 不安だらけの平安貴族
18. 「陰陽道占い」と陰陽道の占い
19. 式占のすがた
20. 易占のすがた
21. 暦占と天文占
22. 式神の出現
23. 式神と呪詛
24. 陰陽師のさまざまな活動
25. 中世の陰陽道
26. 近世の陰陽道
27. 「陰陽道」ではない術者たち
28. 「陰陽道」の拡大
29. 近代宗教概念としての「陰陽道」
30. 講義のまとめ

準備学習

1. 民衆宗教は世界宗教や既成宗教またその教団・宗派との関係で見ていく必要がある。したがって日本の宗教の状況を頭に入れておくこと。
2. 時宜に応じた話題により説明をすることがあるので、特に社会や文化に関するニュースをよく拾っておくこと。
3. 民衆宗教成立史に限らず、会話力や文章力は説明には不可欠である。したがって会話力や文章力を高めておくこと。

履修上の留意点

1. 講義に対する積極的な姿勢と、社会人予備軍としての常識性を重視する。
2. すでに学んだ内容を反復的に使いながら講義を進めていくので、復習をしないうちに行けない。
3. 成績処理用オリジナルの「受講者カード」を準備するので、初回の出席時に必ず記入すること。同カードの記入や提出がない場合には単位の認定をしない。

成績評価の方法

期末試験(単位レポート)を主たる材料とする。ただし、講義中の質問に対する返答や任意レポートなどによる点数の加算も行なう。なお所定の出席数を満たさない場合や受講態度が不良な者の単位は認定しない。

教科書/テキスト

鈴木一馨『陰陽道-呪術と鬼神の世界-』(講談社選書メチエ244、2002年)1,575円、ISBN:4062582449

参考書

- ・林淳・小池淳一編『陰陽道の講義』(嵯峨野書院、2002年)3,150円、ISBN:4782303610
- ・高埜利彦編『民間に生きる宗教者』(吉川弘文館、2000年)2,940円、ISBN:4642065512

履修コード	127801 127802 127803
科目名	民法（総則・物権法） 民法Ⅰ（総則・物権法） 民法Ⅱ
担当者名	熊谷 芝青
授業概要/ 到達目標（ねらい）	我々の日常生活は民法に支配されている。したがって、この社会で活動するには民法についてひととおりの知識がなければならない。市民の社会生活には財貨の生産、交換、消費、配分などを目的とする経済生活の面（これを規律する法が財産法）と種族保存を目的とする家族生活の面（これを規律する法が家族法）とがある。この財産法の領域の法が物権法と債権法である。これらの通則として総則がおかれている。本講義では民法第一編総則と第二編物権法について、基本となる知識を持てるようにしたい。その結果、資格試験等の基礎力が養成されることを願っている。
授業スケジュール	前期（民法総則） ①民法とは何か、民法の歴史 ②民法の基本原則 ③権利の主体（自然人） ④法人（社団法人、財団法人） ⑤権利の客体（物とは） ⑥法律行為（意思の欠缺、瑕疵ある意思表示） ⑦無効と取消 ⑧条件および期限・期間 ⑨時効（取得時効、消滅時効） 後期（物権法） ①物権の意義、種類 ②物権の効力 ③物権の変動 ④占有権 ⑤所有権 ⑥用益物権 ⑦担保物権（法定担保物権） ⑧約定担保物権 ⑨非典型担保（譲渡担保、仮登記担保）
準備学習	指定教科書の該当頁を予習してることが望ましいが、必要ではない。
履修上の留意点	法律学の修得で大切なことは、繰り返すことである。したがって復習回数を多くすることが諸君の実力上昇につながると信じている。 当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。 また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。
成績評価の方法	学年末の定期試験により評価する。
教科書／テキスト	我妻栄・有泉亨・川井健『民法』第三版①総則・物権（勁草書房）2200円
参考書	尾崎哲夫『はじめての民法総則』『はじめての物権法』『はじめての担保物権』（自由国民社）

履修コード	098301 098302
科目名	民法一部 民法I
担当者名	和知 恵一

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>一般市民の私的法的な法律関係を規律する法が民法である。この民法の中でもっとも広範囲かつ基本的な事項について規定しているのが民法である。この民法の規定内容は、おおまかに財産的な法律関係と家族的な法律関係に分けられる。このうち、財産的な法律関係について、学んでもらおうと開講するのが、民法一部である。この授業においては、民法全体のアウトラインを理解した上で、財産的な法律関係について、民法はどのように規定しているのか、またその意味・内容はどんなことなのかを理解してもらおう。民法典は、5編で構成されており、財産法はこのうち第1編「総則」と、第2編「物権」、第3編「債権」が該当する。具体的な事例を提示しながら説明をし、学生諸君の理解を図る。指定した教科書に沿って、前期では、第1編「総則」を中心に話を進め、民法の全体像を理解してもらおう。後期は、物を直接に排他的に支配する権利である「物権」と、特定の人から他の特定の人に対して請求することができる権利である「債権」を保護する働きを持つ「担保物権」について学んでもらう。到達目標として、この授業を通じて、民法という法律が、どういった内容について、どのように規定しているのかを理解すること、物権や担保物権の種類とその名称、またこれらの内容、その発生・変更・消滅についての要件や効果を理解することをあげておく。</p>
---------------------	--

授業スケジュール	<p>【前期】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス(履修上の注意等) (2) 民法の構成と成立の歴史 (3) 民法の基本原則 (4) 民法の基本原則の修正 (5) 権利や義務について、またその主体(人)について (6) 権利の客体(物)について (7) 人の持つ能力について (8) 制限行為能力者制度について (9) 法律行為(成立要件)について (10) 法律行為(有効要件)について (11) 意思表示について (12) 意思の欠缺と瑕疵ある意思表示について (13) 代理制度(全体)について (14) 無権代理と表見代理について (15) 前期のまとめ <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 時効制度(全体)について (2) 取得時効と消滅時効について (3) 条件・期限・期間について (4) 物権の意義および物権法定主義について (5) 占有権と所有権(全体)について (6) 物権変動について (7) 占有権について (8) 所有権の取得と相隣関係について (9) 用益物権について (10) 担保物権について (11) 法定担保物権について (12) 約定担保物権について (13) 抵当権について (14) 抵当権について (15) まとめ <p>以上は、講義が30回行われることを前提とした予定であり、学事日程・受講者の理解度その他の状況により、変更がある。</p>
----------	---

準備学習	履修者は、教科書を購入して、講義の前後に教科書を読むように心がけてほしい。できれば、この科目を履修する前に、法学、法学概論等の単位を修得していることを強く勧めたい。
履修上の留意点	最初の講義の時に、ガイダンスとして、履修上の注意をする。必ず履修届けを確定する前に話を聞いてほしい。また、授業には単に出席するだけでなく、自ら積極的に理解しようとする意欲を持って参加してもらいたい。また、板書を多用するので、ノート・筆記用具は必携である。
成績評価の方法	学年末の定期試験の他、出席状況などの平常点も加味する。
教科書/テキスト	以下を予定している。 和知恵一著『(仮題)よく分かる、民法』(芦書房) 六法(コンパクトな物:例ポケット六法(有斐閣)など)
参考書	授業の中で、適宜紹介する。

履修コード	064901 064902
科目名	リハビリテーション論
担当者名	佐藤 将朗
授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>リハビリテーション(rehabilitation)という言葉は「再び〇〇にふさわしい能力を身につける」という意味で用いられます。怪我や病気、障害などのために日常生活だけでなく、学習、スポーツ、職業生活が機能していない場合、また精神的安定が得られていない場合に、これらを回復していくことの総称と言えます。社会の中で生きる全ての人々の権利や名誉が自分の意志に反して侵害されている場合に、これらを回復していくことも考えられます。</p> <p>本講義では、まずリハビリテーションを医学的リハと社会的リハに大別して整理することからはじめ、リハビリの対象となる人々の個人的能力とこれらの人々を取り巻く環境との関連性について理解していきます。そして、最終的には本講義で学んだ知識を土台として、「リハビリテーションの哲学」というタイトルのもと、自分なりの考えをまとめていくことにします。</p>
授業スケジュール	<p>前期はリハビリテーションの定義(1)、障害及び加齢の概念(2-3)、医学的リハ(4)、社会的リハ(5-7)、障害の種類・程度別のリハビリテーション(8-12)、高齢者のリハビリテーション(13-14)、前期のまとめとしての課題作業(15)とする。</p> <p>後期はメディアの取り上げるリハビリテーション(1-3)、教育的リハの仕組みとその成功要因(4-5)、職業的リハの仕組みとその成功要因(6-7)、心理的リハの仕組みとその成功要因(8-9)、履修者の興味・関心に応じたリハビリテーションの今日的话题に関する討議(10-12)、「リハビリテーションの哲学」についての課題の整理(13-15)とする。</p>
準備学習	<p>障害者問題、高齢者問題、リハビリテーションがキーワードとなる各種メディア情報(新聞、書籍、テレビ番組や映画などの作品、インターネットで公表されているものなど)を自分なりに整理しておくことが望ましい。</p>
履修上の留意点	<p>リハビリテーションという言葉を自身の専攻に照らし合わせて、主体的に考えていきたい人に最適な授業だと考えます。</p>
成績評価の方法	<p>前期はまとめとして提出する課題(50%)、授業時の小課題(40%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。</p> <p>後期は最終的に提出する課題(80%)、授業時の小課題(10%)、授業への参加意欲及び出席(10%)とする。</p> <p>これらによって得られた前・後期の成績を総合的に判断したものを全体の成績とする。</p>
教科書／テキスト	<p>特に指定しない。</p>
参考書	<p>講義中に随時指定する。</p>
その他	<p>基本的に講義形式で進める。学習する内容によっては、履修者による発表や討論を行ってもらう。またビデオ、DVD等の視聴を随時行う。</p>

履修コード	233401 233402
科目名	倫理学概説
担当者名	河谷 淳

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	「大人であれば他人に危害 (迷惑) を及ぼさない限り何を自己決定してもよい」という主張がしばしばなされることがある。だが、このような「他者危害 (迷惑) の原則」はあくまでひとつの倫理的立場であるにすぎない。この是非を考えるにあたっては他の倫理的立場と併せて検討する必要がある。そこで本講義は次のような二段構えの構成を採る。前期は (a) 西洋思想史における様々な倫理観を取り上げ現代との関係を考え、後期は (b) 応用倫理とりわけ生命倫理の諸問題とそのアプローチを取り上げ私たちに身近なことがらを「倫理的に考える」とはどういうことなのかを考えることにしたい。
---------------------	--

授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学とは何か (1) 2. 倫理学とは何か (2) 3. 功利主義 (1) 4. 功利主義 (2) 5. 功利主義の問題点の検討 6. カント倫理学 (義務論) (1) 7. カント倫理学 (義務論) (2) 8. カント倫理学の問題点の検討 9. ギリシア倫理学: ソクラテス 10. ギリシア倫理学: プラトン (1) 11. ギリシア倫理学: プラトン (2) 12. ギリシア倫理学: アリストテレス (1) 13. ギリシア倫理学: アリストテレス (2) 14. 二重結果の原則 15. 前期授業内容の理解度の確認 16. 生命倫理とは何か 17. インフォームド・コンセントをめぐる問題 (1) 18. インフォームド・コンセントをめぐる問題 (2) 19. インフォームド・コンセントをめぐる問題 (3) 20. 安楽死・尊厳死をめぐる問題 (1) 21. 安楽死・尊厳死をめぐる問題 (2) 22. 安楽死・尊厳死をめぐる問題 (3) 23. 脳死と臓器移植をめぐる問題 (1) 24. 脳死と臓器移植をめぐる問題 (2) 25. クローン技術をめぐる問題 (1) 26. クローン技術をめぐる問題 (2) 27. クローン技術をめぐる問題 (3) 28. 自己決定をめぐる問題 (1) 29. 自己決定をめぐる問題 (2) 30. まとめ
----------	--

準備学習	授業で紹介した参考文献に目を通しておくことが望ましい。
------	-----------------------------

履修上の留意点	
---------	--

成績評価の方法	中間試験 (前期最終授業日に実施) と期末試験 (それぞれ40点満点) ならびに夏休みレポートと平常点との総合点で評価する。
---------	--

教科書/テキスト	
----------	--

参考書	
-----	--

履修コード	065521 065522
科目名	老人福祉論
担当者名	東條 光雅

授業概要/ 到達目標 (ねらい)	<p>少子高齢化社会の進展に伴い後期老年期人口が増加し、要介護高齢者の急増、家族介護の深刻化、高齢者虐待の多発など、高齢者やその家族に関わる様々な社会的問題が発生し、医療・年金・介護などの社会保険制度のあり方が大きな政治課題となっている。</p> <p>本講義では、わが国における高齢化の現状と動向、高齢者や家族を取り巻く状況、これまでの高齢者対策や高齢者福祉制度の変遷、現行の高齢者保健福祉制度等について理解を深めてもらうとともに、今後の高齢者支援のあり方について論じてゆく。</p>
---------------------	---

授業スケジュール	<p>第1回 高齢者の心理・精神的理解</p> <p>第2回 高齢者の身体的理解</p> <p>第3回 高齢者の社会的理解</p> <p>第4回 高齢化・高齢社会の定義とわが国における高齢化の現状</p> <p>第5回 諸外国における高齢化の状況と少子高齢化の要因</p> <p>第6回 高齢者を取り巻く諸問題</p> <p>第7回 高齢者保健福祉の発展過程</p> <p>第8回 高齢者保健福祉の現行法体系</p> <p>第9回 老人福祉法</p> <p>第10回 高齢者医療確保法</p> <p>第11回 高齢者虐待防止法</p> <p>第12回 高齢者を支援する組織と役割 (1)</p> <p>第13回 高齢者を支援する組織と役割 (2)</p> <p>第14回 高齢者を支援する組織と役割 (3)</p> <p>第15回 これからの高齢者支援</p>
----------	--

準備学習	特に準備学習する事柄は無く、授業時に集中すること。
履修上の留意点	この授業は講義形式で進めてゆくが、適宜受講生に対して講義内容に関する質問をしたり、意見発表をしてもらう。近年、受講生の私語や居眠りが目立つので、授業態度に問題がある場合には退室してもらう。履修学生は、気を引き締めて授業に臨んでもらいたい。
成績評価の方法	原則的には、3分の2以上の出席があれば定期試験を受けることができ、定期試験の成績によって評価する。
教科書/テキスト	『高齢者に対する支援と介護保険制度』、新社会福祉士養成講座第13巻、中央法規出版、最新版。
参考書	『社会福祉小六法』、『厚生労働白書』、『国民の福祉の動向』など
その他	講義はパワーポイントを使って行う